堀町遺跡（第６・７次）発掘調査報告

～松阪市朝田町～

２０１８（平成30）年３月

三重県埋蔵文化財センター

例　　言

1　本書は三重県松阪市朝田町に所在する堀町遺跡の第６・７次発掘調査にかかる報告書である。

2　本遺跡の調査は高度水利機能確保基盤整備事業（朝見上地区）に伴い、三重県教育委員会が三重県農林水産部から経費の執行委任を受けて実施した。

3　発掘調査期間は第６次調査が平成25年5月10日～平成26年2月12日、第７次調査が平成26年９月17日～平成27年１月20日である。

4　発掘調査面積は、第６次調査が5,463㎡、第７次調査が720㎡である。

5　発掘調査体制は次の通りである。

調査主体　三重県教育委員会

［現地調査　平成25年度］

調査担当　三重県埋蔵文化財センター　調査研究１課

主査　萩原義彦　　技師　小原雄也　　主幹　伊藤裕偉　　主幹　東清隆

主査　伊藤亘　　研修員　大倉敏敬　　研修員　萩野和洋

発掘調査作業委託　安西工業株式会社

［現地調査　平成26年度］

調査担当　三重県埋蔵文化財センター　調査研究１課

主幹　伊藤裕偉　　主査　萩原義彦　　技師　小原雄也

［整理作業　平成26～29年度］

整理担当　三重県埋蔵文化財センター　調査研究１課

主査　萩原義彦（平成26～28年度）　　主査　石井智大（平成29年度）

技師　小原雄也（平成26・27年度）

保存処理委託　財団法人元興寺文化財研究所、株式会社吉田生物研究所、一般社団法人文化財科学研究センター

自然科学分析　獣骨同定：株式会社パレオ・ラボ　　鉄滓分析：日鉄住金テクノロジー株式会社

樹種同定：パリノ・サーヴェイ株式会社、一般社団法人文化財科学研究センター

6　本書は、石井が第Ⅲ章第９節、第Ⅳ章第１・２・４節、第Ⅵ章第２・３節、それ以外を小原が執筆し、石井が全体の編集を行った。第Ⅴ章は各分析報告書をもとに小原が編集した。遺物写真の撮影は石井・小原が行った。

7　発掘調査および整理作業に際しては、地元である朝見上地区の方々をはじめ、下記の諸氏や機関に御指導・御協力を賜った。記して感謝したい（敬称略、組織名称は当時）。

石田由紀子、今西敏典、榎本義譲、大山幹成、奥義次、小田裕樹、金田明大、木野本和之、神野恵、鈴木伸哉、藤澤良祐、星野安治、山藤正敏、若杉智宏、朝見上地区土地改良区、松阪市立朝見小学校、松阪市教育委員会、松阪市文化財センター（敬称略、順不同）

8　調査図面・写真・出土遺物は三重県埋蔵文化財センターが保管している。

凡　　例

1　本書では、国土地理院発行の1:25,000数値地図（「松阪」相当、平成20年10月発行）、三重県共有デジタル地図の1:2,500地形図（06PF811番）を用いた。

三重県共有デジタル地図は、三重県市町総合事務組合の承認を得て使用した（三総合地第１号）。

2　標高は東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。

3　本書で用いた座標は世界測地系に基づくものである。方位は第Ⅵ座標系の座標北で示した。

4　本書で用いる遺構略号は以下のとおりである。

ＳＥ：井戸　ＳＫ：土坑　ＳＤ：溝・自然流路　ＳＨ：竪穴建物　ＳＸ：埋設土器

ＳＺ：落ち込み　Pit：柱穴

5　土色の表記は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社、1967年初版）に拠った。

6　遺物実測図の縮尺は縄文土器は1:3、その他土器・陶磁器類は1:4を基本とし、遺物によってはその他の縮尺を適宜用いた。縮尺は各図版にキャプション及びスケールにて示している。

7　木製品（井戸枠材・結物）の遺物実測図は、出土時の配列に従ってレイアウトした。

8　註は原則として各章の文末に付し、参考文献も註に記した。

9　遺構一覧表、遺物観察表は各章末に付した。

10　遺物観察表の凡例は以下のとおりである。

・報告№は、遺物図版及び写真図版中で各遺物に付した番号と対応している。

・実測番号は、当センター所蔵の遺物実測図番号である。

・色調は標準土色帖の色名に拠る。

・土器の残存率は口縁部の全周を12分割して示す（例：3/12）。口縁部が遺存していないものについては、底部等の残存率を示した。また、1/12以下のものは「小片」等としている。

・計測値は完存ないし復元の値である。口径・底径は実測時の接地面で計測した値とした。また、底部の境界が曖昧な土師器皿の底径は記していない。

11　写真図版中の遺物に付した番号は、各遺物の報告№と対応する。遺物写真は縮尺不同である。

12　古代・中世の時期区分は、明和町斎宮跡における土師器編年（斎宮歴史博物館2001）、南伊勢系土師器を中心とした中世土器の編年（伊藤2008）に即して示した（第Ⅲ章）。共伴陶磁器などでさらに年代の絞り込みが可能な場合は、各陶磁器編年や暦年代観を記している。

時期区分表

古代	平安時代	前期（斎宮Ⅱ期１～３段階）	８世紀末～９世紀
		中期（斎宮Ⅱ期４段階）	10世紀前半
		後期（斎宮Ⅲ期）	10世紀後半～11世紀前半
中世前期	中世	Ⅰ期（ａ・ｂ）	11世紀中葉～12世紀後半（平安時代末期）
		Ⅱ期（ａ・ｂ）	12世紀末～14世紀前葉（平安時代末期～鎌倉時代）
中世後期		Ⅲ期（ａ・ｂ）	14世紀中葉～15世紀前半（南北朝～室町時代）
		Ⅳ期（ａ・ｂ・ｃ）	15世紀後半～16世紀末（戦国期）

目　　次

例言・凡例 …… i ・ ii
目次 …… iii ～ x

Ⅰ　前　言 …… 1
1　調査の経緯と経過 …… 1
2　発掘調査の記録の方法 …… 3

Ⅱ　位置と環境 …… 6
1　地理的環境 …… 6
2　歴史的環境 …… 6

Ⅲ　遺　構 …… 11
1　基本層序と微地形 …… 11
2　検出遺構の概要 …… 11
3　６次１・２区 …… 13
4　６次３区 …… 13
5　６次４区、７次５区 …… 21
6　６次５区、７次３区 …… 39
7　６次６区上層、７次４区 …… 42
8　６次７区上層 …… 53
9　６次６区下層・７区下層 …… 59
10　６次８・９区、７次２区 …… 67
11　６次10区 …… 68
12　６次11区 …… 68
13　６次12区 …… 72
14　７次１区 …… 74
15　７次６区 …… 77

Ⅳ　遺　物 …… 86
1　土器・陶磁器等 …… 86
2　石製品 …… 194
3　木製品 …… 201
4　金属製品 …… 259

Ⅴ　自然科学分析 …… 346
1　分析の種類と対象 …… 346
2　堀町遺跡（第６次）から出土したウシ …… 346
3　堀町遺跡（第５・６次）出土鉄滓の分析調査 …… 347
4　堀町遺跡（第６次）出土木製品の樹種同定 …… 356
5　堀町遺跡第６次における樹種同定 …… 362
6　堀町遺跡第６次調査にかかる出土漆製品保存処理等 …… 370

Ⅵ　総　括 …… 380
1　各時代の様相 …… 380
2　縄文土器の分類 …… 383
3　「承平」墨書土器の評価 …… 386

巻末図版

挿 図 目 次

Ⅰ　前言

第１図　調査区位置図及びグリッド割付図 ……４
第２図　現地説明会風景 ……５

Ⅱ　位置と環境

第３図　地形分類図 ……７
第４図　遺跡分布図 ……８

Ⅲ　遺構

第５図　基本層序及び土層柱状図 ……12
第６図　６次１・２区遺構全体図 ……14
第７図　５次７区、６次３区遺構全体図 ……15
第８図　６次１・３区土層断面図 ……16
第９図　６次１・３区土坑・溝実測図 ……17
第10図　５次７区、６次４・５区、７次３・５区遺構全体図 ……19・20
第11図　６次４区土層断面図 ……22
第12図　６次５・６区土層断面図 ……23
第13図　６次４区井戸実測図① ……27
第14図　６次４区井戸実測図② ……28
第15図　６次４区井戸実測図③ ……29
第16図　６次４区井戸実測図④ ……30
第17図　６次４区井戸実測図⑤ ……31
第18図　６次４区土坑実測図① ……32
第19図　６次４区土坑実測図② ……33
第20図　６次４区土坑・溝実測図① ……34
第21図　６次４区土坑・溝実測図② ……35
第22図　６次４区土坑・溝実測図③ ……36
第23図　６次４区土坑・溝実測図④ ……39
第24図　６次５区井戸実測図 ……41
第25図　５次７区、６次６区、７次４区遺構全体図 ……43
第26図　６次５・６区土坑・溝実測図 ……44
第27図　６次６区土坑・溝実測図 ……45
第28図　６次６区井戸実測図① ……46
第29図　６次６区井戸実測図② ……47
第30図　６次６区井戸実測図③ ……48
第31図　６次６区縄文土器出土状況図① ……49
第32図　６次６区縄文土器出土状況図② ……50
第33図　６次７区遺構全体図 ……54
第34図　６次７・８・９区土層断面図 ……55
第35図　６次７区井戸実測図 ……57
第36図　６次７区井戸・土坑実測図 ……58
第37図　６次７区溝実測図 ……59
第38図　６次６・７区下層遺構全体図 ……60
第39図　６次７区下層落ち込み実測図 ……61
第40図　６次７区下層遺物出土状況図① ……62
第41図　６次７区下層遺物出土状況図② ……63
第42図　６次７区下層遺物出土状況図③ ……64
第43図　６次７区下層遺物出土状況図④ ……65
第44図　６次８・９・12区、７次２区遺構全体図 ……66
第45図　６次９・10区柱列・掘立柱建物・溝実測図 ……67
第46図　６次10区遺構全体図 ……69
第47図　６次11区遺構全体図 ……70
第48図　６次10・11区土層断面図 ……71
第49図　７次１区遺構全体図 ……72
第50図　７次１～３区土層断面図 ……73
第51図　７次１～３区井戸・土坑・溝実測図 ……74
第52図　７次６区遺構全体図① ……75
第53図　７次６区遺構全体図② ……76

Ⅳ　遺物

第54図　６次１区出土土器・陶磁器等実測図 ……87
第55図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図① ……88
第56図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図② ……90
第57図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図③ ……91
第58図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図④ ……92
第59図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図⑤ ……94
第60図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図⑥ ……95

第61図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図⑦……97
第62図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図⑧……98
第63図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図⑨……99
第64図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図⑩……100
第65図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図①……102
第66図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図②……103
第67図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図③……104
第68図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図④……106
第69図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑤……107
第70図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑥……109
第71図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑦……110
第72図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑧……112
第73図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑨……113
第74図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑩……114
第75図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑪……115
第76図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑫……116
第77図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑬……118
第78図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑭……120
第79図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑮……121
第80図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑯……122
第81図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑰……123
第82図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑱……125
第83図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑲……126
第84図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑳……127
第85図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉑……128
第86図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉒……130
第87図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉓……131
第88図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉔……132
第89図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉕……133
第90図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉖……134
第91図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉗……136
第92図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉘……137
第93図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉙……139
第94図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉚……141
第95図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉛……142
第96図　６次５区、７次３区出土土器・陶磁器等実測図①……144
第97図　６次５区、７次３区出土土器・陶磁器等実測図②……145
第98図　６次５区、７次３区出土土器・陶磁器等実測図③……146
第99図　６次５区、７次３区出土土器・陶磁器等実測図④……148
第100図　６次５区、７次３区出土土器・陶磁器等実測図⑤……149
第101図　６次５区、７次３区出土土器・陶磁器等実測図⑥……150

第102図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図①　……151
第103図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図②　……152
第104図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図③　……154
第105図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図④　……155
第106図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑤　……156
第107図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑥　……158
第108図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑦　……159
第109図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑧　……161
第110図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑨　……162
第111図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑩　……163
第112図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図①　……165
第113図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図②　……166
第114図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図③　……169
第115図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図④　……170
第116図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑤　……171
第117図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑥　……172
第118図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑦　……173
第119図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑧　……174
第120図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑨　……175
第121図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑩　……176
第122図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑪　……177
第123図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑫　……179
第124図　６次６区下層・７区下層出土土器・陶磁器等実測図①　……181
第125図　６次６区下層・７区下層出土土器・陶磁器等実測図②　……182
第126図　６次６区下層・７区下層出土土器・陶磁器等実測図③　……183
第127図　６次６区下層・７区下層出土土器・陶磁器等実測図④　……184
第128図　６次６区下層・７区下層出土土器・陶磁器等実測図⑤　……185
第129図　６次６区下層・７区下層出土土器・陶磁器等実測図⑥　……187
第130図　６次６区下層・７区下層出土土器・陶磁器等実測図⑦　……188
第131図　６次６区下層・７区下層出土土器・陶磁器等実測図⑧　……189
第132図　６次８・９区、７次２区出土土器・陶磁器等実測図　……191
第133図　６次10区出土土器・陶磁器等実測図　……191
第134図　６次11区出土土器・陶磁器等実測図　……192
第135図　７次１区出土土器・陶磁器等実測図　……192
第136図　７次６区出土土器・陶磁器等実測図　……193
第137図　６次３区出土石製品実測図　……195
第138図　６次４・５区出土石製品実測図　……196
第139図　６次６区上層・７区上層出土石製品実測図　……197
第140図　６次６区下層・７区下層出土石製品実測図①　……198
第141図　６次６区下層・７区下層出土石製品実測図②　……199
第142図　６次６区下層・７区下層出土石製品実測図③　……200
第143図　木製品　井戸枠材実測図①　……205
第144図　木製品　井戸枠材実測図②　……206

第145図　木製品　井戸枠材実測図③　……207
第146図　木製品　井戸枠材実測図④　……208
第147図　木製品　井戸枠材実測図⑤　……209
第148図　木製品　井戸枠材実測図⑥　……210
第149図　木製品　井戸枠材実測図⑦　……211
第150図　木製品　井戸枠材実測図⑧　……212
第151図　木製品　井戸枠材実測図⑨　……213
第152図　木製品　井戸枠材実測図⑩　……214
第153図　木製品　井戸枠材実測図⑪　……215
第154図　木製品　井戸枠材実測図⑫　……216
第155図　木製品　井戸枠材実測図⑬　……217
第156図　木製品　井戸枠材実測図⑭　……218
第157図　木製品　井戸枠材実測図⑮　……219
第158図　木製品　井戸枠材実測図⑯　……220
第159図　木製品　井戸枠材実測図⑰　……221
第160図　木製品　井戸枠材実測図⑱　……222
第161図　木製品　曲物水溜実測図①　……223
第162図　木製品　曲物水溜実測図②　……224
第163図　木製品　小型品等実測図①　……225
第164図　木製品　小型品等実測図②　……226
第165図　木製品　小型品等実測図③　……227
第166図　木製品　小型品等実測図④　……228
第167図　木製品　小型品等実測図⑤　……229
第168図　木製品　小型品等実測図⑥　……230
第169図　木製品　小型品等実測図⑦　……231
第170図　木製品　小型品等実測図⑧　……232
第171図　木製品　小型品等実測図⑨　……233
第172図　木製品　小型品等実測図⑩　……234
第173図　木製品　井戸枠材実測図⑲　……235
第174図　木製品　井戸枠材実測図⑳　……236
第175図　木製品　井戸枠材実測図㉑　……237
第176図　木製品　井戸枠材実測図㉒　……238
第177図　木製品　井戸枠材実測図㉓　……239
第178図　木製品　井戸枠材実測図㉔　……240
第179図　木製品　井戸枠材実測図㉕　……241
第180図　木製品　井戸枠材実測図㉖　……242
第181図　木製品　井戸枠材実測図㉗　……243
第182図　木製品　井戸枠材実測図㉘　……244
第183図　木製品　井戸枠材実測図㉙　……245
第184図　木製品　井戸枠材実測図㉚　……246
第185図　木製品　井戸枠材実測図㉛　……247
第186図　木製品　井戸枠材実測図㉜　……248
第187図　木製品　井戸枠材実測図㉝　……249
第188図　木製品　井戸枠材実測図㉞　……250
第189図　木製品　井戸枠材実測図㉟　……251
第190図　木製品　井戸枠材実測図㊱　……252
第191図　木製品　井戸枠材実測図㊲　……253
第192図　木製品　井戸枠材実測図㊳　……254
第193図　木製品　井戸枠材実測図㊴　……255
第194図　木製品　小型品等実測図⑪　……256
第195図　木製品　小型品等実測図⑫　……257
第196図　木製品　小型品等実測図⑬　……258
第197図　金属製品実測図①　……260
第198図　金属製品実測図②　……261

Ⅴ　自然科学分析

第199図　堀町遺跡（第６次）出土のウシ　……347
第200図　椀形鍛冶滓の顕微鏡組織・EPMA調査結果１　……352
第201図　椀形鍛冶滓の顕微鏡組織・EPMA調査結果２　……353
第202図　椀形鍛冶滓の顕微鏡組織・EPMA調査結果３　……354
第203図　椀形鍛冶滓の顕微鏡組織・EPMA調査結果４　……355
第204図　堀町遺跡（第６次）出土木材光学顕微鏡写真　……358
第205図　堀町遺跡第６次の木材１　……363
第206図　堀町遺跡第６次の木材２　……364
第207図　堀町遺跡第６次の木材３　……365
第208図　堀町遺跡第６次の木材（漆製品）１　……372
第209図　堀町遺跡第６次の木材（漆製品）２　……373
第210図　堀町遺跡（第６次）の漆膜分析写真１　……378
第211図　堀町遺跡（第６次）の漆膜分析写真２　……379

Ⅵ　総括

第212図　堀町遺跡概略図　……381

表　目　次

第１表　高度水利機能確保基盤整備事業（朝見上地区）に伴う調査一覧表 …… 1
第２表　堀町遺跡（第６次）遺構一覧表 ……78
第３表　堀町遺跡（第７次）遺構一覧表 ……85
第４表　遺物観察表（土器・陶磁器等） ……263
第５表　遺物観察表（石製品） ……327
第６表　遺物観察表（木製品） ……328
第７表　遺物観察表（金属製品） ……345
第８表　保存処理に伴う樹種同定結果一覧 …346
第９表　堀町遺跡（第６次）から出土したウシ ……347
第10表　供試材の履歴と調査項目 ……351
第11表　供試材の化学組成 ……351
第12表　出土遺物の調査結果のまとめ ……351
第13表　樹種同定結果一覧 ……359
第14表　木製品の樹種同定結果 ……361
第15表　井戸材の樹種同定結果 ……361
第16表　堀町遺跡第６次における樹種同定結果 ……368
第17表　堀町遺跡第６次における時代における樹種と器種の相関 ……369
第18表　堀町遺跡第６次における漆製品樹種同定結果 ……374
第19表　堀町遺跡出土平安時代墨書土器 ……387

写　真　図　版

・写真図版１（航空写真）
　調査地周辺航空写真
・写真図版２（調査前風景）
　６次１・２区調査前風景、６次３・４区調査前風景
・写真図版３（調査前風景）
　６次６・７区調査前風景、６次11区調査前風景
・写真図版４（６次１区全景）
　６次１区調査区全景
・写真図版５（６次２・３区全景）
　６次２区調査区全景、６次３区調査区全景
・写真図版６（６次３区全景）
　６次３区調査区全景
・写真図版７（６次４区全景）
　６次４区調査区西側全景
・写真図版８（６次４区全景）
　６次４区調査区中央全景
・写真図版９（６次４区全景）
　６次４区調査区東側全景
・写真図版10（６次４区全景）
　６次４区調査区東側全景
・写真図版11（６次４区全景）
　６次４区調査区東側全景
・写真図版12（６次１～４区土坑）
　ＳＫ6211、ＳＫ6231、ＳＫ6232、ＳＫ6235、ＳＫ6236、ＳＫ6243、ＳＫ6076、ＳＫ6102
・写真図版13（６次４区土坑・井戸）
　ＳＫ6142木製品出土状況、ＳＥ6081土居桁・曲物出土状況
・写真図版14（６次４区井戸）
　ＳＥ6164井戸枠出土状況
・写真図版15（６次４区井戸）
　ＳＥ6164上部井戸枠取り上げ後状況、ＳＥ6164曲物出土状況
・写真図版16（６次４区井戸）
　ＳＥ6116井戸枠出土状況、ＳＥ6108井戸枠出土状況
・写真図版17（６次４区井戸）
　ＳＥ6124井戸枠出土状況、ＳＥ6171井戸枠出土状況
・写真図版18（６次４区井戸）
　ＳＥ6184上部井戸枠出土状況、ＳＥ6184下部井戸枠出土状況
・写真図版19（６次４区井戸）
　ＳＥ6144-Ａ井戸枠出土状況、ＳＥ6144-Ａ・Ｂ井戸枠出土状況

・写真図版20（６次４区井戸）
ＳＥ6106完掘状況、ＳＥ6150曲物出土状況
・写真図版21（６次４区井戸）
ＳＥ6160曲物出土状況、ＳＥ6192曲物出土状況
・写真図版22（６次４区土坑）
ＳＫ6117土器出土状況
・写真図版23（６次４区溝）
ＳＤ6167遺物出土状況
・写真図版24（６次５区全景）
６次５区調査区全景
・写真図版25（６次６区全景）
６次６区調査区中央全景
・写真図版26（６次６区全景）
６次６区調査区中央全景
・写真図版27（６次６区全景）
６次６区調査区北側全景
・写真図版28（６次７区全景）
６次７区調査区全景
・写真図版29（６次７区全景）
６次７区調査区全景
・写真図版30（６次７区全景）
６次７区調査区全景
・写真図版31（６次５区井戸・６区土器出土状況）
ＳＥ6092井戸枠出土状況、ＳＸ6037土器出土状況
・写真図版32（６区土器出土状況）
ＳＸ6029土器出土状況
・写真図版33（６次６区井戸・土器出土状況）
ＳＥ6001-Ａ・Ｂ曲物出土状況、ＳＥ6001土器出土状況
・写真図版34（６次６区井戸・土器出土状況）
ＳＥ6005土器出土状況、ＳＥ6005土器出土詳細状況
・写真図版35（６次６・７区井戸・土坑）
ＳＥ6005、ＳＥ6009、ＳＥ6013、ＳＥ6198、ＳＥ6199、ＳＥ6202、ＳＫ6208、ＳＫ6016・6017
・写真図版36（６次７区井戸・土坑）
ＳＥ6035、ＳＥ6041、ＳＥ6042、ＳＥ6043、ＳＥ6044、ＳＫ6032、ＳＫ6033、ＳＫ6039
・写真図版37（６次７区斎串出土状況・土器出土状況）
ＳＤ6012斎串出土状況、ＳＤ6034土器出土状況
・写真図版38（６次７区下層全景）
６次７区下層調査区全景
・写真図版39（６次６・７区下層全景）
６次６区下層調査区全景、６次７区下層調査区全景
・写真図版40（６次７区下層土器・石器出土状況）
ＳＨ6197土器･石器出土状況
・写真図版41（６次７区下層土器・石器出土状況）
ＳＨ6197土器出土状況、ＳＨ6197石器出土状況
・写真図版42（６次８・９区全景）
６次８区調査区全景、６次９区調査区全景
・写真図版43（６次10区全景）
６次10区調査区全景
・写真図版44（６次10区全景）
６次10区調査区全景
・写真図版45（６次11区全景）
６次11区調査区全景
・写真図版46（６次11・12区全景）
６次11区調査区全景、６次12区調査区全景
・写真図版47（７次１区全景）
７次１区調査区全景
・写真図版48（７次２区全景）
７次２区調査区全景
・写真図版49（７次３区全景）
７次３区調査区全景
・写真図版50（７次１～３区井戸・土坑・溝）
ＳＤ7001完掘状況、ＳＥ7014半裁状況、ＳＫ7010完掘状況、ＳＫ7015完掘状況、ＳＫ7018掘削状況、ＳＫ7023掘削状況、ＳＤ7019掘削状況、ＳＤ7019土層断面状況
・写真図版51（遺物）
・写真図版52（遺物）
・写真図版53（遺物）
・写真図版54（遺物）
・写真図版55（遺物）
・写真図版56（遺物）
・写真図版57（遺物）
・写真図版58（遺物）
・写真図版59（遺物）
・写真図版60（遺物）

・写真図版61（遺物）
・写真図版62（遺物）
・写真図版63（遺物）
・写真図版64（遺物）
・写真図版65（遺物）
・写真図版66（遺物）
・写真図版67（遺物）
・写真図版68（遺物）
・写真図版69（遺物）
・写真図版70（遺物）
・写真図版71（遺物）
・写真図版72（遺物）
・写真図版73（遺物）
・写真図版74（遺物）
・写真図版75（遺物）
・写真図版76（遺物）
・写真図版77（遺物）
・写真図版78（遺物）
・写真図版79（遺物）
・写真図版80（遺物）
・写真図版81（遺物）
・写真図版82（遺物）
・写真図版83（遺物）
・写真図版84（遺物）
・写真図版85（遺物）
・写真図版86（遺物）
・写真図版87（遺物）
・写真図版88（遺物）
・写真図版89（遺物）
・写真図版90（遺物）
・写真図版91（遺物）
・写真図版92（遺物）
・写真図版93（遺物）
・写真図版94（遺物）
・写真図版95（遺物）
・写真図版96（遺物）
・写真図版97（遺物）
・写真図版98（遺物）
・写真図版99（遺物）
・写真図版100（遺物）
・写真図版101（遺物）

Ⅰ　前　　言

1　調査の経緯と経過

（1）調査に至る経緯

松阪市東部に位置する朝見上地区（朝田・立田・和屋・幸生・上七見・上川町）は広大な水田景観が広がっており、条里型地割の耕作地が一帯に見られる地域である。この地域を対象とした県営ほ場整備事業（高度水利機能確保基盤整備事業）が計画されたため、調査原因者の三重県松阪農林事務所と当該地域の遺跡に関する保護措置を協議した。事前協議の経過は、本事業を対象とした刊行済み発掘調査報告書を参照されたい[(1)]。

ほ場整備事業区域は159haに及ぶため、平成21年度に分布調査、平成22～25年度に渡り範囲確認調査を行った（第１表）。

（2）既往の調査

第１～４次調査は平成６～９年に国道42号線バイパス敷設に伴い調査が実施された。弥生時代の集落や銅鐸形土製品、流路からは平安時代の墨書土器や木製品が数多く出土している。

第５次調査は平成24年度に県営ほ場整備事業（高度水利機能確保基盤整備事業）に伴い実施されたもので、弥生時代後期から室町時代（戦国期）までの遺構が確認された。飛鳥時代の溝からは鉄滓等が数多く出土しており、鍛冶関連遺構の存在が指摘された。鎌倉時代から室町時代（戦国期）にかけての井戸が27基確認され、井戸枠材に建築部材からの転用材が多く含まれる状況が確認された。この他に「盛法寺」銘の墨書土器が出土し、近隣に逸名寺院の存在が推定された。

第１表　高度水利機能確保基盤整備事業（朝見上地区）に伴う調査一覧表

調査年度	範囲確認調査							発掘調査		
	遺跡名（所在地）	確認面積	範囲確認調査坑数	現状	調査期間	主な遺構	対応	遺跡名・次数	調査面積	形式
平成22年度	朝見遺跡（和屋町）	162,000㎡	160ヶ所(1,437㎡)	水田	20100914～20101006	溝	要調査	朝見遺跡(第1次)	205㎡	工事立会
平成23年度	堀町遺跡（朝田町）	123,020㎡	66ヶ所(396㎡)	水田	20111219～20111227	溝、土坑、井戸	要調査	朝見遺跡(第2次)	3,412㎡	本調査 工事立会
	四常遺跡（朝田町）	4,900㎡	3ヶ所(18㎡)	水田	20111214	なし	施工可			
	大角遺跡（朝田町）	1,060㎡	2ヶ所(12㎡)	水田	20111214	溝	要調査			
	朝見遺跡	40,080㎡	29ヶ所(248㎡)	水田	20111214～20111219	溝	要調査			
平成24年度	中坪遺跡（立田町）	131,000㎡	74ヶ所(444㎡)	水田	20121203～20121208	溝、土坑	要調査	堀町遺跡(第5次)	4,396㎡	本調査
								大角遺跡(第1次)	64㎡	工事立会
	朝見遺跡	150,000㎡	55ヶ所(330㎡)	水田	20121211～20121214	溝	要調査	朝見遺跡(第3次)	236㎡	工事立会
平成25年度	朝見遺跡	187,000㎡	64ヶ所（384㎡）	水田	20130904～20130913	溝、土坑	要調査	堀町遺跡（第6次）	5,463㎡	本調査
								中坪遺跡（第1次）	1,955㎡	本調査
								朝見遺跡（第4次）	452㎡	工事立会
平成26年度	無							中坪遺跡（第2次）	1,100㎡	本調査
								朝見遺跡（第5次）	9,996㎡	本調査
								堀町遺跡（第7次）	720㎡	工事立会
平成27年度	無							朝見遺跡（第6次）	8,446㎡	本調査
平成28年度	無							朝見遺跡（第7次）	5,742㎡	本調査
								朝見遺跡（第8次）	600㎡	工事立会
平成29年度	無							中坪遺跡（第3次）	3,885㎡	本調査
								朝見遺跡（第9次）	未定	工事立会

（３）調査の経過

第６次調査の調査期間は平成25年５月10日～平成26年２月12日である。対象地の東側にあたる６・７区から調査を進め、西側にあたる朝田寺周辺の調査区へと進めた。

第７次調査は第５・６次調査区に隣接する箇所であり、ほ場整備事業の工事に伴い立会調査を計６箇所で実施した。調査期間は平成26年９月17日～平成27年１月20日にかけて随時行った。

調査の経過に関しては以下の通りである。

第６次調査

平成25年（2013年）～平成26年（2014年）

７月２日　８区表土掘削完了。
７月３日　９区表土掘削完了。６区（南半部）表土掘削開始。
７月４日　６区表土掘削完了。
７月５日　７区表土掘削開始。
７月９日　６区遺構検出・掘削開始。
７月12日　７区表土掘削完了。
７月19日　７区遺構検出・掘削作業開始。井戸・大型土坑を多く検出。
７月26日　ＳＸ6029から縄文土器の深鉢が出土。埋設土器とみられる。
８月５日　ＳＤ6012掘削完了。土器・木製品が多く出土。
８月９日　８区遺構検出開始。
８月12日　６・７区遺構掘削。９区遺構検出・掘削。
８月13日　５区遺構検出開始。
８月20日　４区表土掘削開始。９区調査区全景写真。
８月21日　６・７区調査区全景写真。
８月23日　５区遺構掘削開始。
８月27日　４区遺構検出・掘削開始。井戸・大型土坑・溝を多く検出。
９月13日　４区ＳＤ6126の最下層から漆器や獣骨が出土。
９月17日　台風の影響で調査区が水没。
９月19日　作業再開。４区遺構掘削を進める。
10月１日　４区ＳＤ6167下層から木製品（犂）や漆器が出土。
10月４日　４区ＳＤ6012の掘削完了。墨書土器が多く、灰釉陶器硯が出土している。
10月７日　６・７区下層の重機掘削開始。７区で縄文土器が多く出土する。
10月８日　10区遺構検出開始。
10月11日　遺構掘削完了。調査区全景写真。
10月16日　台風影響で調査区が水没。
10月18日　５区調査区全景写真。
10月23日　台風接近のため25日まで休工。
10月30日　４区調査区全景写真。
11月２日　４区で現地説明会を開催。98名の参加者があった。
11月５日　７区下層で遺構検出開始。縄文土器が多く出土するも遺構検出に難航する。
11月６日　７区下層で竪穴建物とみられる遺構を確認。包含層から磨製石斧出土。
11月11日　１・２区表土掘削開始。
11月12日　６・７区下層の調査区全景写真。
11月21日　１・２区遺構検出・掘削開始。
11月22日　１・２区調査区全景写真。
11月25日　３・11区表土掘削開始。
11月28日　３区遺構掘削開始。
12月６日　３区調査区（西半分）全景写真。
12月17日　３区調査区（東半分）全景写真。
12月19日　11区遺構検出開始。
12月24日　11区調査区全景写真。12区遺構掘削と調査区全景写真。
12月25日　10区遺構掘削再開。
12月27日　10区調査区全景写真。
１月６日　１区から調査区埋戻し開始。
１月28日　全調査区埋戻し完了。

第７次調査

平成26年（2014年）～平成27年（2015年）

９月17日　６区の工事立会を実施。溝を検出。
11月５日　４・５区の工事立会を実施。ＳＤ6012より土器が多く出土。
11月11日　水路工及び田面調整に伴い１区で工事立会を実施。土坑・溝等を確認。
11月13日　１区の全景写真、遺構実測完了。工事業者へ調査区を引き渡し。
１月７日　水路工に伴い２区で工事立会を実施。井戸・土坑等を確認。

１月８日　２区調査区全景写真。
１月９日　２区遺構実測完了。工事業者へ調査区を引き渡し。
１月14日　水路工及び田面調整に伴い３区で工事立会を実施。土坑・溝等を確認。
１月19日　３区調査区全景写真。
１月20日　３区遺構実測完了。工事業者へ調査区を引き渡し。

（４）文化財保護法にかかる諸手続

①県埋蔵文化財保護条例第48条第１項「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知書」（県教育長あて三重県知事通知）
平成22年９月９日付　松農環第4236-1号
②文化財保護法第99条第１項（県教育委員会教育長あて埋蔵文化財センター所長通知）
平成25年５月24日付　教埋第85号
③文化財保護法第100号第２条「埋蔵文化財の発見・認定について」（松阪警察署長あて県教育委員会委員長通知）
平成26年３月７日付　教委第12-4420号（第６次調査）
平成27年２月16日付　教委第12-4433号（第７次調査）

（５）普及公開

発掘成果報告会や刊行物の作成等を行い、埋蔵文化財の普及公開に努めた。

①発掘成果報告会
「おもろいもんでましたんやわ@三重2013」展示解説、平成26年３月15日、於：三重県埋蔵文化財センター嬉野分室、72名参加
②出前講座
平成26年５月22日、於：松阪市朝見公民館、52名参加
③発掘成果報告会
「おもろいもんでましたんやわ@三重2014」展示解説、平成27年３月14日、於：三重県埋蔵文化財センター嬉野分室、141名参加
④刊行物（パンフレット）
三重県埋蔵文化財センター『水と大地といにしえの人びと～松阪市朝見上地区の発掘調査から～』2015年

２　発掘調査の記録の方法

（１）地区設定

調査地は用排水路・道路敷設箇所にあたり、第６次調査は5,463㎡、第７調査は約720㎡が対象となった。第６次調査は１～12区、第７次調査は１～６区の名称を付与した。第６次調査６・７区は下層に縄文時代の遺構面があり２面調査を実施したため、調査区名称に６区下層・７区下層を追加した。

調査区の地区割りは第５次調査で基準となった座標を採用している。平面直角座標系（世界測地系）のＸ＝-158,234.288m、Ｙ＝51,664.023mを原点とし、旧飯野郡条里（Ｎ15°Ｅ）が主軸となる大地区（100m四方）を設定しＡ～Ｚを付与した。大地区内は東西を１～25、南北をａ～ｙに25分割し小地区（４m四方）を設定した。大・小地区は北西隅を基点とした地区名（例：Ｔｑ24）を与えた。

（２）遺構検出・掘削

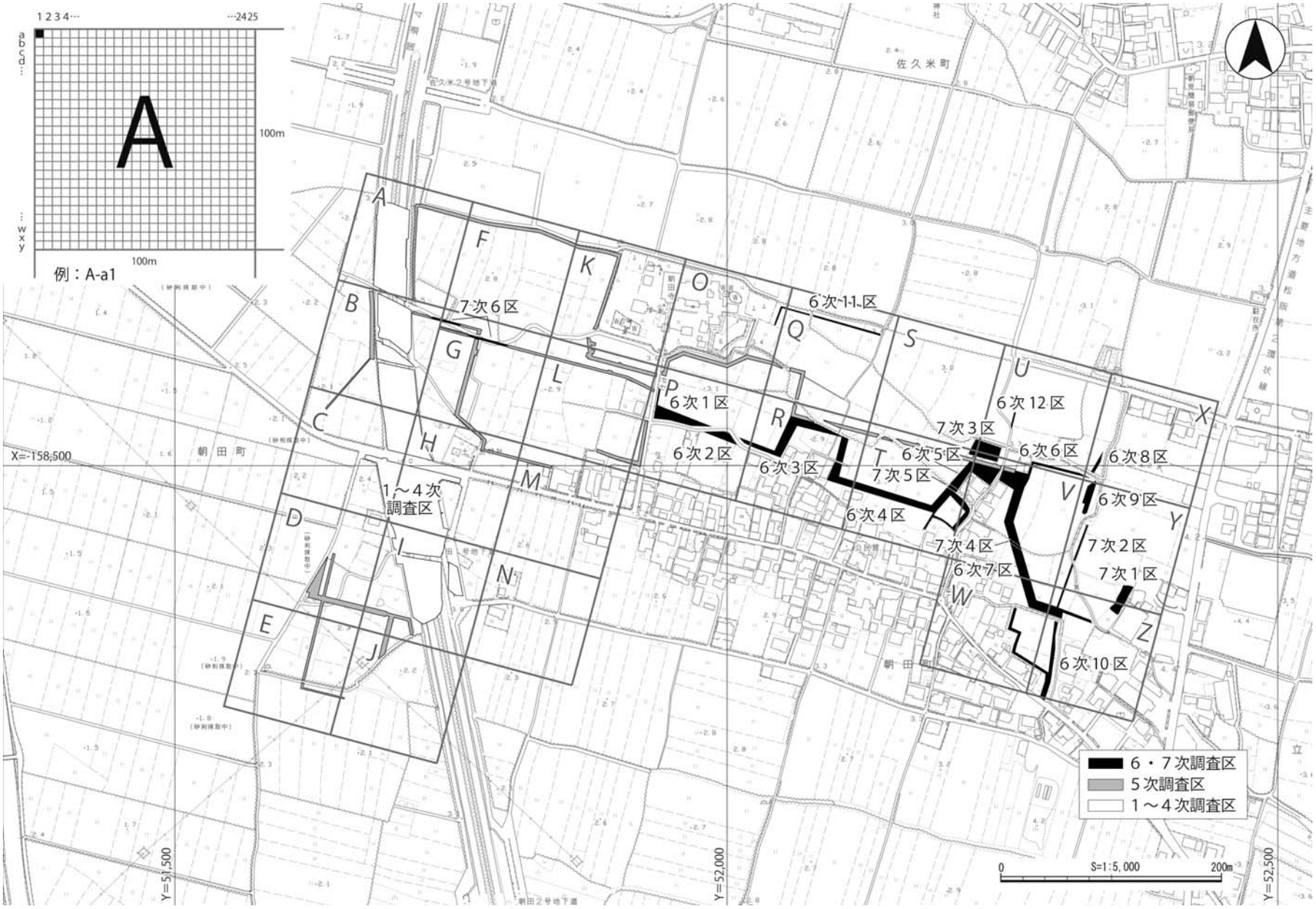
表土から遺構面までの堆積土は重機（バックホー）で除去し、遺構検出・掘削は人力で行った。なお、重機は井戸や溝、下層確認用サブトレンチの掘削において補助的に用いている。

（３）記録・図化

遺構検出段階でグリッド単位の１/40略測図（遺構カード）を作成し、これをもとに１/100の遺構略測図を作成することで、調査区全体の遺構の位置関係を把握した。遺構平面図・土層断面図については１/20の手書き実測で行った。

各遺構の詳細な平面図・断面図・立面図は基本的に１/10の手書き実測を行い、状況に応じて縮尺のより小さい図を作成した。

遺跡の調査写真については、調査全景や重要な個別遺構は４×５判（モノクロ、カラーリバーサル）で撮影した。また、調査前状況や遺構、土層断面などは35㎜判（モノクロ、カラーリバーサル）で撮影



第１図　調査区位置図及びグリッド割付図（1/5,000）

した。使用したカメラについて、４×５判はウィスタフィールド、35㎜判はニコンＦＭ２である。また、コンパクトデジタルカメラでの撮影も適宜行った。

なお、これらの図面・フィルム・作業日誌の記録類は当センターで保管している。

（４）出土遺物の管理

出土遺物は遺構別に層位、グリッド、出土年月日単位で区分して取り上げている。また、報告書掲載遺物及びその参考資料（A遺物）と未掲載資料（B遺物）に分けて整理を行い、保存している。

保存処理はA遺物の一部に限定している。金属製品はA遺物の全てを保存処理する予定である。木製品は特に残存状況が良いものを対象とした。この他は樹種同定・年輪年代測定法等の破壊・非破壊分析に供する予定である。

註

（１）朝見上地区県営ほ場整備事業（高度水利機能確保基盤整備事業）にかかる刊行済み発掘調査報告書は下記の通りである。

①三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第１・２次）発掘調査報告』2014年

②三重県埋蔵文化財センター『堀町遺跡（第５次）発掘調査報告』2016年

③三重県埋蔵文化財センター『中坪遺跡（第１次）発掘調査報告』2017年

第２図　現地説明会風景

Ⅱ　位置と環境

1　地理的環境（第３図）

堀町遺跡（１）は奈良時代から室町時代（戦国期）の遺跡で、隣接して中坪遺跡（２）や朝見遺跡（３）がある。当遺跡のある朝見上地区（朝田町・立田町・和屋町・幸生町・上七見町・上川町）は、古代・中世に由来する条里型地割の耕作地が一帯に見られ、田園風景が広がる地域である。朝見上地区の一帯は沖積平野（櫛田川低地）にあたり、伊勢湾に向けて北流する一級河川櫛田川や支流の氾濫により形成された旧河道や自然堤防といった地形が発達する。当地の西は松阪市街地（松阪低地）、南は丘陵、東は台地に囲まれている。北方は伊勢湾にあたるが、旧海岸線を示す砂堆が朝見上地区から北方1.5㎞程の郷津町や西黒部町、堀町遺跡から西方２㎞の幸生町に見られる。

朝見上地区の地形環境は、当地の南東に位置する朝見遺跡から北西の中坪遺跡に向かう旧河道、さらに中坪遺跡から西に位置する堀町遺跡へ向かう旧河道があり、この辺りは条里型地割の乱れが確認できる。堀町遺跡の発掘調査では旧河道のなごりと考えられる自然流路が確認されており、中世後期に埋没した状況が明らかとなった。また、堀町遺跡周辺のボーリング調査から沖積層（洪積層の可能性もある）は下部の砂礫層が大きく凹凸し、微高地上は比較的安定した地形であったことが推測され、縄文時代中・後期の遺構が見られる[1]。

櫛田川、祓川沿いの現集落の多くは自然堤防上に展開しており、朝見上地区では朝田町、立田町の集落も同様な立地である。こうした自然堤防に沿って中世伊勢道や集落が展開したと推定される。堀町遺跡の発掘調査では、朝田町集落の北側にあたる旧河道一帯の土地利用が明らかになった。朝田寺周辺や街道沿いの自然堤防上に古代から中世にかけての集落が展開し、旧河道とその周囲の低地を田畑とする景観が復元できる。旧河道の埋没後にあたる江戸時代に土地利用が変化し、街道沿いから北側へ居住域の広まりを見せる。

2　歴史的環境（第４図）

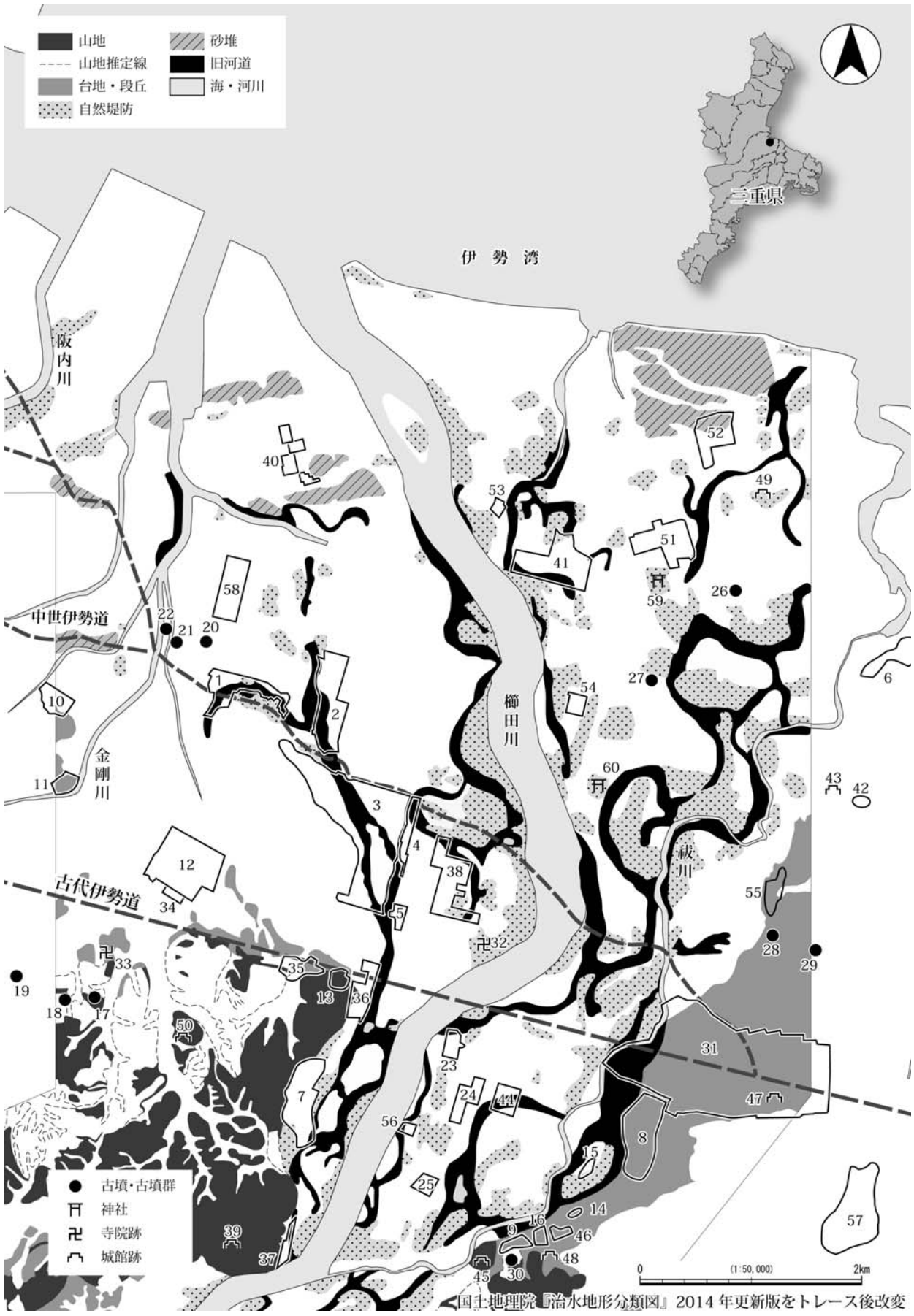
朝見上地区に関する縄文時代から近世の通史的なまとめ、縄文時代から中世までの周辺遺跡の詳細は、本事業を対象とした刊行済み発掘調査報告書を参照されたい[2]。ここでは上記の報告内容を概説する。

朝見上地区の遺跡　近年の朝見上地区の調査において縄文時代から江戸時代に至る各遺構が数多く発見された。堀町遺跡では縄文時代後期中葉の埋設土器、弥生時代の銅鐸形土製品、平安時代の木製祭祀具や墨書土器といった特徴的な遺物も多く出土している。平安時代末期の山茶椀に「盛法寺」の墨書があり、逸名寺院の存在が想定される。

中坪遺跡は奈良時代から室町時代（戦国期）の井戸が39基確認され、井戸の構造と変遷が明らかとなった。戦国期の区画溝を伴う屋敷地も確認された。

朝見遺跡では縄文時代中期中葉から後期中葉の石囲炉や埋設土器があり、遺物量も多い特徴がある。堀町遺跡の調査成果と合わせて、県内の臨海平野において定住を示す調査成果を得られたのは初事例である。平安時代前期には初期貿易陶磁や緑釉陶器、製塩土器、石帯、転用硯、木製祭祀具が出土しており、斎宮跡の遺物構成に近似した特徴が挙げられる。一帯の土地開発に斎宮寮の貴族や官人層が関与したことが想定された。平安時代中期の二面庇付大型建物を中心とした建物群や、平安時代後期の自然流路から複数の青銅鏡が出土していることも特筆される。鎌倉時代から室町時代には農耕用の条里溝で杭列や堰といった水利施設がある。条里溝の底部から石組と共に牛の頭蓋骨が出土しており、水口における雨乞い祭祀跡と想定された。朝見遺跡周辺の瀬干遺跡（４）では弥生時代終末期から古墳時代初頭の方形周溝墓群やパレススタイル壺、大蓮寺遺跡（５）では平安時代後期の集落跡が確認された[3]。

朝田寺　堀町遺跡の中央には朝田寺があり、本尊は木造地蔵菩薩立像（国重文）で、作風から10世紀初頭の作とされる[4]。現在は光福山延命院朝田寺と号し、江戸時代以降は天台宗延暦寺派に属するが、



第３図　地形分類図（1/50,000）

1. 堀町遺跡　2. 中坪遺跡　3. 朝見遺跡　4. 瀬干遺跡　5. 大蓮寺遺跡　6. 西浦遺跡　7. 山添遺跡　8. 金剛坂遺跡　9. コドノＡ遺跡
10. 涌早崎遺跡　11. 杉垣外遺跡　12. 村竹コノ遺跡　13. 天王山遺跡・天王山古墳群　14. 繊糸遺跡　15. 寺垣内遺跡　16. コドノＢ遺跡
17. 高田古墳群　18. 坊山古墳群　19. 権現山古墳群　20. 佐久米大塚山古墳　21. 丸山古墳　22. 糠塚古墳　23. 古轡通りＢ遺跡　24. 中の坊遺跡
25. 横地高畑遺跡　26. 北浦古墳　27. 狐楯古墳　28. 坂本古墳群　29. 東垣外古墳群　30. 神前山古墳群　31. 斎宮跡　32. 大雷寺廃寺
33. 貴田寺廃寺　34. 甘チ遺跡　35. 丸野遺跡・中谷遺跡　36. 琵琶垣内遺跡　37. 大川上遺跡　38. 奥ノ垣内遺跡　39. 神山城跡　40. 小狐遺跡
・西黒部塩釜跡・池ノ上遺跡・西黒部西山遺跡　41. 川島遺跡　42. 東村遺跡　43. 佐田城址　44. 古川遺跡　45. 岩内城址　46. 城堀遺跡
47. 斎宮城址　48. 上村城址　49. 下御糸中村城址　50. 浅堀木城跡　51. 服部遺跡　52. 南山遺跡　53. 東久保北浦遺跡　54. 魚見里前遺跡
55. 粟垣外遺跡　56. 西ノ垣内遺跡　57. 北野遺跡　58. 御堂山遺跡　59. 神服織機殿神社　60. 神麻績機殿神社

第４図　遺跡分布図（1/50,000）

真言宗・曹洞宗など数度の改宗を経ている。

朝田寺の縁起を記した「朝田地蔵菩薩堂之記」（光福山朝田寺旧記、江戸時代か）[5]によれば、平安時代前期、光福長者が七間檜皮葺の地蔵堂を建てたことに由来する。正応元年（1288）ごろに比叡山大乗院の僧都、尊重が中興開山したと伝える。「朝田寺地蔵菩薩記」では、尊重の往時は本堂や三間四方の千手堂などを有し、「壱町四方四至堺」とある。徳治３年（1308）、門前より出火して本堂・千手堂ほかを焼失し、仮の草屋堂を建てたとある。これら縁起には、「朝田村」の表記と正応２年（1289）の年号、僧都尊重の花押があることから13世紀末には朝田寺を中核とした「朝田村」が成立していたと指摘される[6]。他方では、元亀年間に寺域を現地に移したともあり、このころ曹洞宗に転宗、元和以降は紀州藩主徳川頼宜の帰依により寺領は増加、本瓦葺きの本堂・山門（県指定有形文化財）は慶安５年（1652）建立となり、以後天台宗となる[7]。

現状では、朝田寺の成立・画期は、大きく平安前期・中世前期・中世末～近世初頭の３時期が考えられ、これに現地成立説と移転説、発掘調査成果を踏まえて成立時期を検討していく必要がある。

縄文時代　低地における遺跡は先述した堀町遺跡、朝見遺跡のほか西浦遺跡（６）で里木Ⅱ式に相当する深鉢が出土している。丘陵よりには前期の山添遺跡（７）、中期末から後期の金剛坂遺跡（８）、後期のコドノＡ 遺跡（９）がある[8]。

弥生時代　櫛田川左岸から金剛川左岸にかけて涌早崎遺跡（10）、杉垣外遺跡（11）、村竹コノ遺跡（12）、天王山遺跡（13）などの中期・後期の集落跡がある。櫛田川右岸には金剛坂遺跡（８）、織糸遺跡（14）、寺垣内遺跡（15）で前期の集落跡、中・後期の方形周溝墓が多く見られる。コドノＢ遺跡（16）で前期・後期の集落跡、中期の方形周溝墓がある[9]。

古墳時代　古墳時代前期の首長墓には高田２号墳（17）や坊山１号墳（18）が丘陵上に見られる。古墳時代中期以降には低地にも展開し、佐久米大塚山古墳（20）では金銅装眉庇付冑が出土している。後期には、金銅装馬具や捩り環頭太刀が出土した山添２号墳（７）がある。横地高畑遺跡（25）では後期の方墳が検出された。この他に集落跡は古轡通りＢ遺跡（23）や中の坊遺跡（24）がある[10]。

奈良時代　櫛田川右岸には斎王の宮殿跡となる斎宮跡（31）があり、伊勢神宮と都を結ぶ古代伊勢道が通る。櫛田川左岸域は伊勢国飯野郡の領域で、一帯の条里型地割は古代伊勢道を基準線（Ｎ15° Ｅ）としている。寺院跡には奈良時代後期とされる大雷寺廃寺（32）、貴田寺廃寺（33）がある。集落跡には天王山遺跡（13）、廿チ遺跡（34）、丸野遺跡（35）、中谷遺跡（35）、琵琶垣内遺跡（36）がある[11]。琵琶垣内遺跡で「下厨前」「厨前」等の墨書土器が出土し、斎宮寮に貢納する供物の供給地と想定される。

平安時代　飯野郡・多気郡では東寺の荘園が成立し、延暦22年（803年）に川合荘、弘仁12年（821年）に大国荘ができる。両郡の櫛田川洪水被害の記録では、永保３年（1083年）に中流域で発生した洪水により飯野郡・多気郡の郡界が変わり、保安２年（1121年）には大国荘に甚大な被害があったと記されている[12]。櫛田川下流域においても同様な影響を受けたと想定できる。周辺の遺跡では、杉垣外遺跡（11）で平安時代前期の井戸から木製祭祀具（斎串・人形）が、大川上遺跡（37）では９世紀後半の「神宮寺」墨書土器が出土している[13]。

中世　周辺地域の集落遺跡[14]は、櫛田川左岸では山添遺跡（７）、琵琶垣内遺跡（36）、奥ノ垣内遺跡（38）、櫛田川右岸では、古轡通りＢ遺跡（23）、横地高畑遺跡（25）、川島遺跡（41）、東村遺跡（42）、古川遺跡（44）がある。中の坊遺跡（24）は室町時代の区画溝が３条確認され、その内１条には石組が伴う。区画溝より和鏡が出土していることから、有力階層の屋敷地が存在したと想定される。

生産遺跡[15]は、小狐遺跡・西黒部塩釜跡・池ノ上遺跡・西黒部西山遺跡（40）で鹹水槽といった製塩遺構があり、遺跡の一帯では中世後期に北畠氏の支配下で塩業を行っていた記録が残る。

城館跡[16]は、室町時代の神山城跡（39）があり、興国３年（1342年）に落城するまで北畠氏の拠点であった。佐田城址（43）は北畠教具の三男佐田具郷の居城と推定される。岩内城址（45）は独立丘陵上の中世城館で、北畠氏一族の岩内主膳正光安の居城とされる。城堀遺跡（46）は戦国期の土塁や区画溝があり、岩内城址との関係性も指摘される。周囲に

は斎宮城址（47）、上村城址（48）などもある。

中世墓[17]は、坊山１・３号墳（18）で古墳の墳丘裾部に15世紀代と考えられる火葬墓、土坑墓が計24箇所確認された。この他に服部遺跡（51）では鎌倉時代の青磁碗が副葬された土坑墓と、土坑に常滑産陶器甕を倒立させて据えた中世墓がある。常滑産陶器甕を用いた中世墓は寺垣内遺跡（15）においても確認できる。

註

（１）三重県埋蔵文化財センター『堀町遺跡（第５次）発掘調査報告』2016年

（２）註１前掲及び①三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第１・２次）発掘調査報告』2014年　②三重県埋蔵文化財センター『中坪遺跡（第１次）発掘調査報告』2017年
なお、本書内で報告書未刊行の近年の発掘調査成果について触れる際は、各年度の現地説明会資料及び次の文献による。三重県埋蔵文化財センター『水と大地といにしえの人びと～松阪市朝見地区の発掘調査から～』2015年

（３）①三重県埋蔵文化財センター『瀬干遺跡・綾垣内遺跡・大蓮寺遺跡・柳辻遺跡・北ノ垣内遺跡』1996年　②三重県埋蔵文化財センター『瀬干遺跡（第２次）発掘調査報告』2000年　③三重県埋蔵文化財センター『大蓮寺遺跡（第２次）発掘調査報告』2015年

（４）本地蔵菩薩立像を９世紀初頭の作とする見方（三重県『三重県史』別編美術工芸解説編　2014年など）もあるが、ここでは下記に従った。
松島健『日本の美術４　地蔵菩薩像』至文堂　1986年

（５）松阪市「朝田地蔵菩薩堂之記」（光福山朝田寺旧記上）及び「朝田寺地蔵菩薩記」（光福山朝田寺旧記　下）『松阪市史』第３巻　1980年

（６）平松令三編『三重県の地名』平凡社　1983年

（７）松阪市教育委員会『松阪の文化財案内』1990年

（８）①明和町教育委員会『明和町文化財解説シート　明和町の海と遺跡　№２』2017年　②三重県埋蔵文化財センター『山添遺跡（第４次）発掘調査報告』2007年　③三重県埋蔵文化財センター『コドノＡ遺跡・コドノＢ遺跡（第１次）発掘調査報告』1998年　④明和町教育委員会『金剛坂遺跡発掘調査報告』1971年

（９）註８②・③前掲及び①松阪市『松阪市史』第２巻　1978年　②松阪市教育委員会『涌早崎遺跡発掘調査報告』1992年　③三重県埋蔵文化財センター『コドノＢ遺跡（第２次・第３次）発掘調査報告』2000年　④三重県埋蔵文化財センター『織糸遺跡』2006年　⑤三重県埋蔵文化財センター『村竹コノ遺跡』2009年

(10) ①松阪市教育委員会『坊山１号墳発掘調査報告』1986年　②松阪市教育委員会『坊山２・３号墳、権現山２号墳発掘調査報告書』1999年　③松阪市教育委員会『山添２号墳発掘調査報告書』1998年　④三重県埋蔵文化財センター『中の坊遺跡』1997年　⑤三重県埋蔵文化財センター『横地高畑遺跡発掘調査報告』1998年　⑥三重県埋蔵文化財センター『轡通りＢ遺跡・古轡通り古墳群発掘調査報告』2000年

(11) 註９①前掲及び①三重県埋蔵文化財センター『山ノ花・廿チ・北上遺跡』1996年　②三重県埋蔵文化財センター『丸野・中谷遺跡発掘調査報告』2003年　③三重県埋蔵文化財センター『天王山遺跡・天王山古墳群発掘調査報告』2006年　④三重県埋蔵文化財センター『琵琶垣内遺跡（第１・４次）発掘調査報告』2006年

(12) 水野章二「大国・川合荘」『講座日本荘園史』６　吉川弘文館　1993年

(13) ①三重県教育委員会『昭和61年農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』1989年　②三重県埋蔵文化財センター『大川上遺跡発掘調査報告』1999年

(14) 註10・11④前掲及び①三重県埋蔵文化財センター『古川遺跡・山口遺跡発掘調査報告』1996年　②三重県埋蔵文化財センター『櫛田地区内遺跡群発掘調査報告』Ⅱ　池ノ端地区　かん志ゆう地区　1997年　③三重県埋蔵文化財センター『櫛田地区内遺跡群発掘調査報告』Ⅱ　奥ノ垣内地区　1997年　④三重県埋蔵文化財センター『川島遺跡群（第１次）発掘調査報告』2002年　⑤三重県埋蔵文化財センター『川島遺跡（第２次）ほか発掘調査報告』2004年　⑥三重県埋蔵文化財センター『琵琶垣内遺跡（第３次）発掘調査報告』2007年

(15) 松阪市「沢氏古文書」『松阪市史』第３巻 1980年

(16) ①三重県教育委員会『三重の中世城館』1978年　②三重県教育委員会『昭和54年県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』1980年　③三重県埋蔵文化財センター『城掘遺跡発掘調査報告』2003年

(17) 註10①・②前掲及び①三重県教育委員会『昭和57年農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』1983年　②三重県教育委員会『三重県埋蔵文化財年報』17　1987年

Ⅲ　遺　　構

1　基本層序と微地形

（1）基本層序

当地の基本層序は以下の通りである。基盤層を中心とする調査区間の層序の対比は、土層柱状図（第５図）に示した[(1)]。

Ⅰ：現代耕土・床土など（表土）

Ⅱ：マンガン粒を多く含む灰褐色シルト。中世以降の水田耕土に由来するものと推測される。弥生～中世の遺物を包含。

Ⅲ：弥生～江戸時代の遺構の基盤層。黄褐色系シルトや砂を主体とする沖積層。下層の砂礫が表出する層も観察できる。上～中層にかけて縄文時代中期末を主体とした土器群を検出したが、明確な遺構面を捉えることができなかった。

６・７次調査では、基本的にはⅢ層上面で遺構検出した。６次６区南側から６次７区中央にかけて、２面調査を実施し、Ⅲ層の中層で縄文時代中期末を主体とした土器群を確認した。なお、遺構面までの深度が非常に浅いため、古代・中世の水田畦畔などは削平されたとみられる。

（2）調査地の微地形・埋没地形

６・７次調査は北西から南東にかけて直線距離で約460ｍが調査対象地となり、現地表面は標高3.0ｍ前後で、概ね南東から北西にかけて緩やかに低くなる（第５図）。基盤層は５次調査の結果を踏まえると、５次調査地の北西端から中央の５次８－１区にかけて標高2.1～2.5ｍ、６次１・３区は標高2.2ｍ、６次４区は標高2.8ｍ、６次６・７区は標高約3.0ｍ、７次１区は標高3.7ｍで、５～７次調査対象地の両端で比高差が1.6ｍとなる。

埋没地形に関して、５次調査報告でボーリング調査の結果及び井戸などで確認した基盤層から埋没地形を検討しており、これを踏まえて６・７次調査区の状況を整理する。土木工事によるボーリング調査が遺跡周辺で実施されており、これによれば標高－10ｍ付近で「洪積層」に達しており、西側へ傾斜する状況が確認された。「沖積層」は上部が砂・シルトなどを主体とした層、下部が固い礫層に大別される。下部礫層には顕著な起伏が見られるが、上部砂・シルト層が厚さ２～３ｍにわたり堆積したことで、現況の平坦地を形成する。堀町遺跡の調査結果から上部沖積層は弥生時代後期以前の堆積と推定できる。

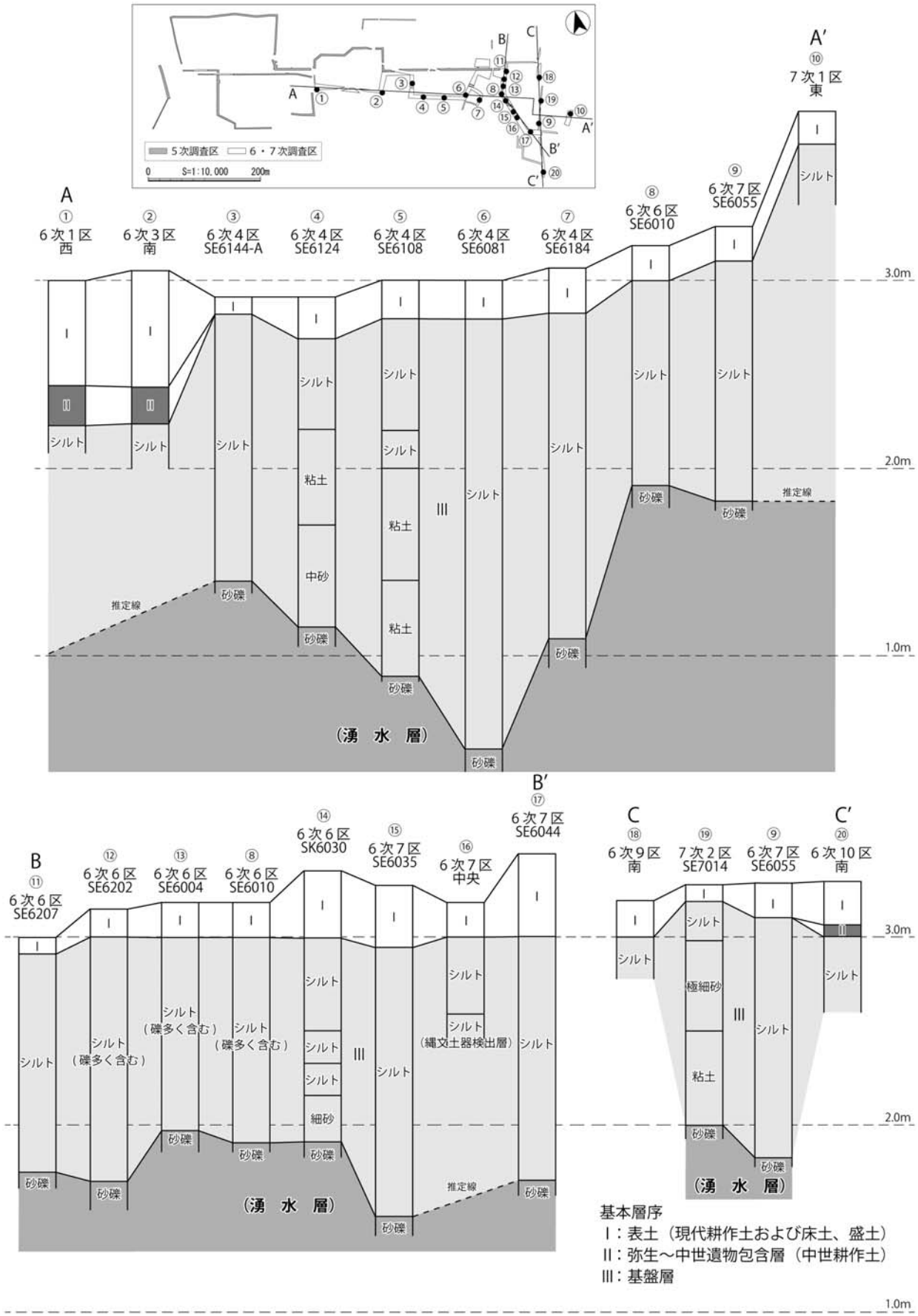
各調査区の井戸などから基盤層の状況がわかり、５次調査区の西側では砂礫・粗砂～細砂が卓越し、中央から東側にかけてシルト、６・７次調査区はいずれもシルトが主体となる。

井戸掘形は湧水を伴う固い砂礫層まで掘削され、この砂礫層が沖積層下部の砂礫層に対応するものとみられる。砂礫層には顕著な起伏があり、特に６次４区の東側では谷状の落ち込みが確認できる。また、６次６・７区では砂礫層が標高1.5～1.9ｍと周辺よりも高い位置で観察され、こうした微高地では上部沖積層のシルトに混じり砂礫が表出している。特に６次６・７区ではⅢ層上～中層にかけて縄文時代中期末を主体とした土器群がまとまって出土しており、当該期における沿岸部の沖積低地への進出と微地形の形成過程を評価するうえで重要な事例と言えよう。

2　検出遺構の概要

６・７次調査は５次調査東側の範囲に位置し、一部が５次調査区と隣接する。６次調査は１～12区、７次調査は１～６区に分かれており、基本的には各調査区に分けて遺構種別ごとに記述したが、調査区が隣接するものはまとめて報告している。

調査では縄文時代～江戸時代の遺構を検出しており、縄文時代・飛鳥時代～奈良時代・平安時代～室町時代（戦国期）・江戸時代の遺構ごとにまとめて示した。平安時代～室町時代（戦国期）の遺構は長期間存続する遺構もあり一括して扱った。遺構の詳細は、章末の遺構一覧表（第２・３表）を参照され



第５図　基本層序及び土層柱状図

たい。

溝の断面は調査区壁面の土層内で極力示し、壁面にかからないものは個別に断面図を示した。井戸・土坑の判別は註に示した通りである[2]。

なお、平安時代は斎宮跡の土器編年[3]に即し、前（Ⅱ－１～３段階）・中（Ⅱ－４段階）・後期（Ⅲ期）に区分する。また、平安時代末期以降は、南伊勢系土師器を中心とした中世土器の時期区分[4]に従い、中世Ⅰ～Ⅳ期と表記する。概ね中世Ⅰ＝平安時代末期、Ⅱ＝平安時代末期～鎌倉時代、中世Ⅲ＝南北朝～室町時代、中世Ⅳ＝戦国期に相当する。詳しい暦年代観などは、凡例に示したのであわせて参照されたい。

３　６次１・２区

調査区は朝田寺の南側に位置しており、１区は参道の東側に隣接する（第６・８図）。１区では江戸時代の土坑と溝を確認したが、２区では遺構は確認できなかった。

（１）江戸時代の遺構

①土坑

ＳＫ6211（第６図）　Ｐｋ・１７・８で検出した隅丸長方形土坑で、規模3.24×1.88m、深さ0.41mである。出土遺物には「○に田」字の焼印が施された連歯下駄がある。朝田寺の瓦や所有品にも同様な文様がみられ、関連資料と考えられる。陶器、磁器が出土し、遺構の時期は19世紀前半と考えられる。

②溝

ＳＤ6210（第６・９図）　Ｐｆ～１５で検出した溝で、長さ24.8m以上、幅0.92m、深さ0.25mである。溝の断面形は底部が平坦であり、側面は緩やかに立ち上がる。朝田寺参道と並行しており、側溝であることが想定される。

４　６次３区

調査区は事業地西側に位置する（第７・８図）。５次調査７－９－１区と隣接しており、鎌倉時代～江戸時代の土坑、溝などを確認した。調査区北側ではピットを多く検出しており、明確な建物跡は復元できなかったものの、近世の土師器や陶器、磁器が出土しており、当該期の建物が存在したであろう。中世にかけて参宮街道沿いに集落が展開し、江戸時代の段階でさらに北側の範囲まで居住域が広がったことが想定される。このような状況は６次４区西側の調査区でも確認できる。

（１）平安時代～室町時代の遺構

①土坑

ＳＫ6228（第７図）　Ｒｅ12で検出した不整方形土坑で、規模1.63×1.61m、深さ0.23mである。出土遺物には南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6230（第７図）　Ｒｅ・ｆ11・12で検出した不整方形土坑で、規模1.24×0.67m、深さ0.13mである。出土遺物にはロクロ土師器がある。

ＳＫ6231（第９図）　Ｒｆ・ｇ10・11で検出した不整円形土坑で、規模1.95×1.76m、深さ1.23mである。埋土にはブロック状の堆積は観察できなかった。周辺の井戸と同規模であるが、湧水が確認できないため土坑とした。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器、五輪塔を転用した砥石がある。

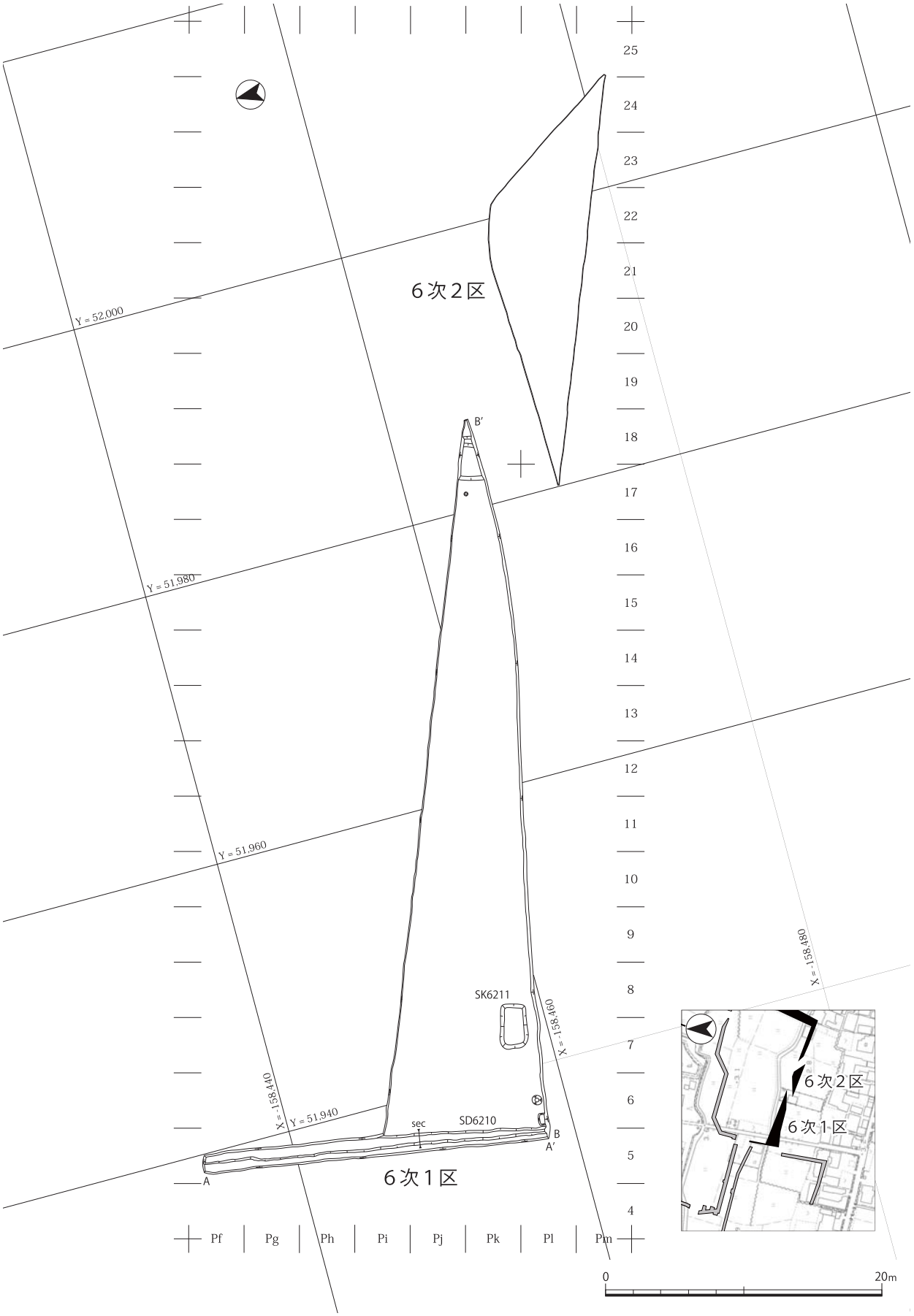
ＳＫ6232（第９図）　Ｒｄ15で検出した不整円形土坑で、規模1.8×1.7m以上、深さ1.04mである。掘り返しとみられる堆積状況が観察でき、周辺の井戸と同規模であるが、湧水が確認できないため土坑とした。平安時代末期～鎌倉時代の遺構である。

ＳＫ6233（第７図）　Ｒｄ15で検出した土坑でＳＥ6232に一部削平されており、規模1.2×0.78m、深さ0.16mである。出土遺物には鎌倉時代の南伊勢系土師器、山茶椀がある。

ＳＫ6234（第７図）　Ｒｄ13・14で検出した不整円形土坑で、規模2.91×1.16m、深さ0.4mである。５次調査ＳＤ5279と同一遺構で、ＳＤ6012の埋没後に形成されたものである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

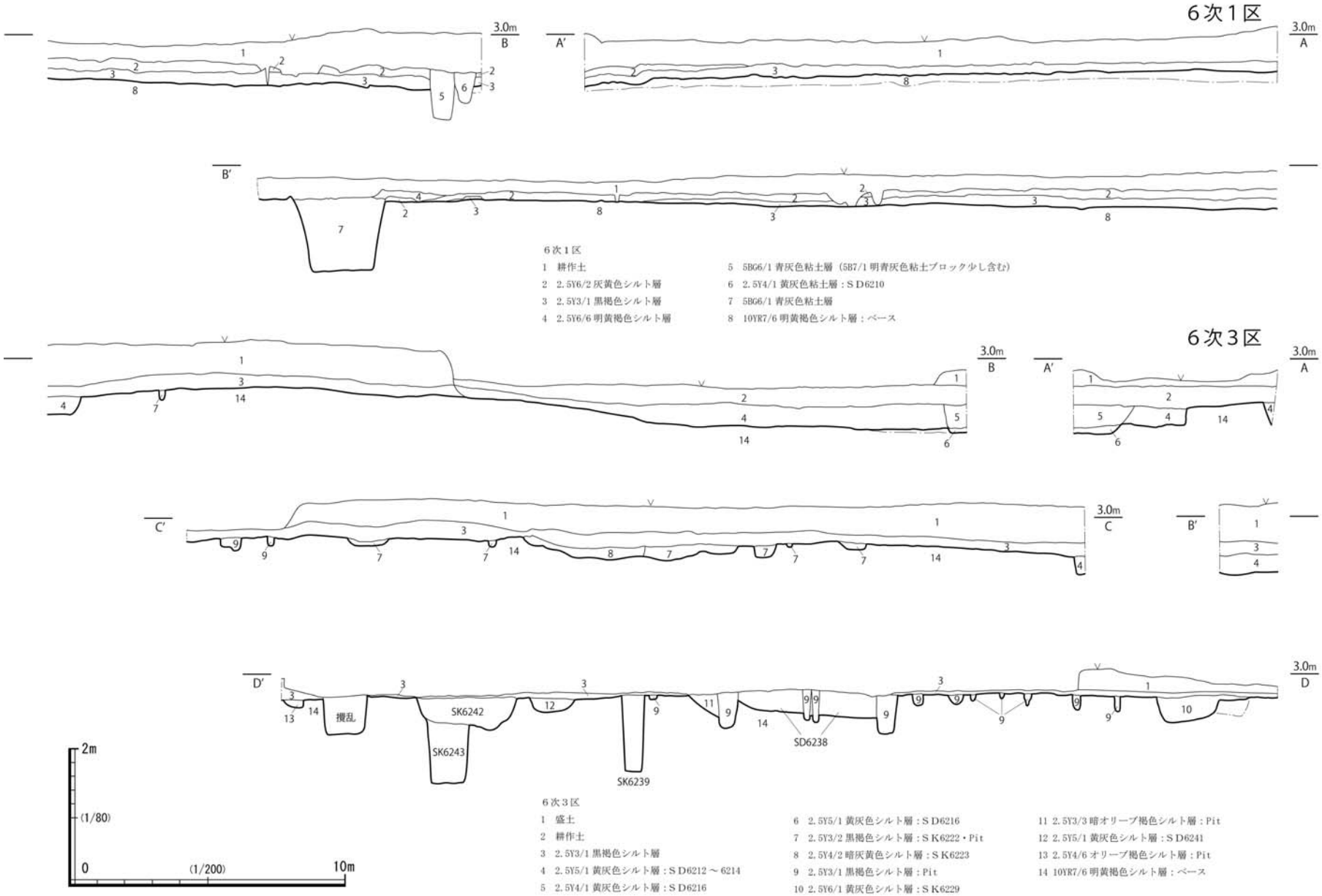
ＳＫ6235（第９図）　Ｒｅ15・16で検出した円形土坑で、規模1.11×0.98m、深さ1.24mである。埋土にはブロック状堆積は観察できなかった。周辺の井戸と同規模であるが、湧水が確認できないため土坑とした。遺構の時期は鎌倉時代である。

ＳＫ6236（第９図）　Ｒｅ15で検出した円形土坑で、規模0.99m×0.9m、深さ0.94mである。埋土には



第６図　６次１・２区遺構全体図(1/400)

第７図　５次７区、６次３区遺構全体図(1/400)



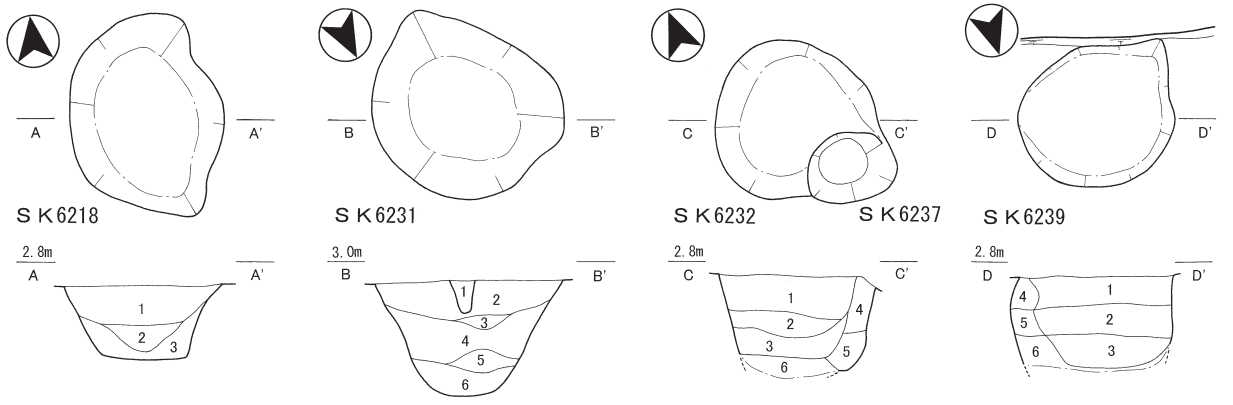
6次1区

1 耕作土
2 2.5Y6/2 灰黄色シルト層
3 2.5Y3/1 黒褐色シルト層
4 2.5Y6/6 明黄褐色シルト層
5 5BG6/1 青灰色粘土層（5B7/1 明青灰色粘土ブロック少し含む）
6 2.5Y4/1 黄灰色粘土層：SD6210
7 5BG6/1 青灰色粘土層
8 10YR7/6 明黄褐色シルト層：ベース

6次3区

1 盛土
2 耕作土
3 2.5Y3/1 黒褐色シルト層
4 2.5Y5/1 黄灰色シルト層：SD6212～6214
5 2.5Y4/1 黄灰色シルト層：SD6216
6 2.5Y5/1 黄灰色シルト層：SD6216
7 2.5Y3/2 黒褐色シルト層：SK6222・Pit
8 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト層：SK6223
9 2.5Y3/1 黒褐色シルト層：Pit
10 2.5Y6/1 黄灰色シルト層：SK6229
11 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト層：Pit
12 2.5Y5/1 黄灰色シルト層：SD6241
13 2.5Y4/6 オリーブ褐色シルト層：Pit
14 10YR7/6 明黄褐色シルト層：ベース

第８図　６次１・３区土層断面図(縦1/80、横1/200)

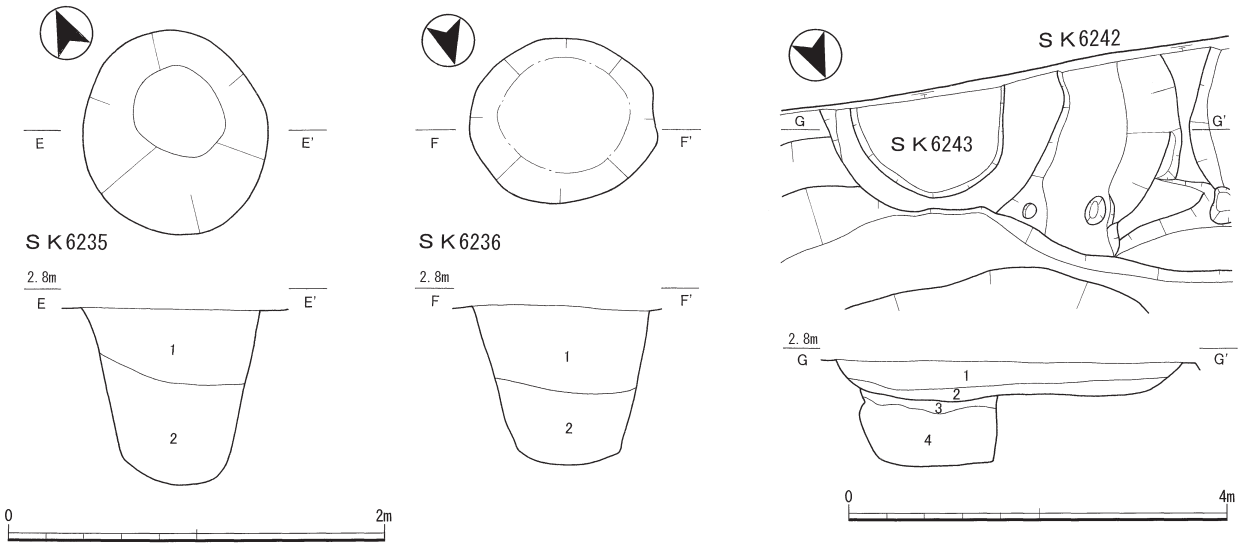


SK6218
1 2.5Y5/1 黄灰色シルト層
(2.5Y8/4 淡黄色粘土ブロック少し含む)
2 5Y5/1 灰色シルト層
3 10BG5/1 青灰色細砂層

SK6231
1 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト層：Pit
2 2.5Y4/1 黄灰色シルト層：SK6231
3 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト層：SK6231
4 7.5Y7/2 灰白色シルト層：SK6231
5 2.5Y4/1 黄灰色シルト層（粗砂多く含む）：SK6231
6 2.5Y3/1 黒褐色粘土層：SK6231

SK6232
1 2.5Y4/1 黄灰色シルト層
(2.5Y7/4 浅黄色粘土ブロック少し含む)
2 2.5Y6/2 灰黄色シルト層
3 2.5Y4/1 黄灰色粘土層
4 2.5Y4/1 黄灰色シルト層
(2.5Y7/4 浅黄色粘土ブロック少し含む)
5 5Y5/1 灰色粘土層
6 2.5Y5/1 黄灰色細砂層

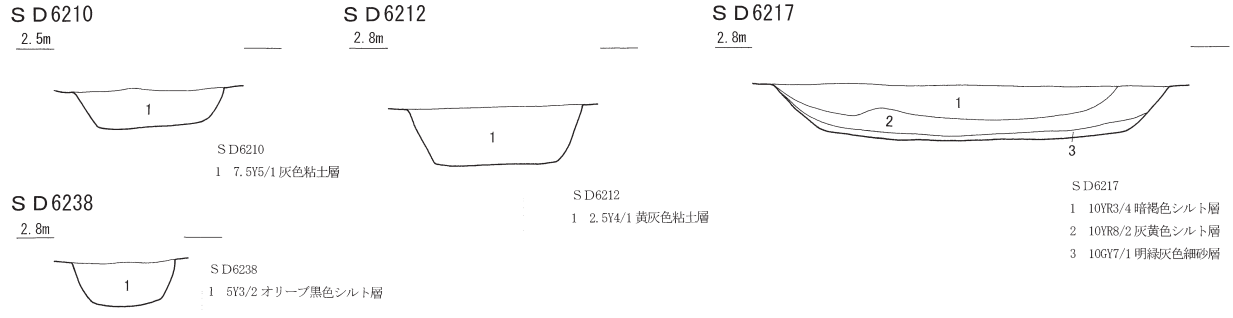
SK6239
1 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト層
2 2.5Y4/1 黄灰色シルト層
3 2.5Y4/1 黄灰色粘土層
4 2.5Y4/1 黄灰色シルト層
5 5Y5/1 灰色粘土層
6 2.5Y5/1 黄灰色細砂層



SK6235
1 2.5Y4/1 黄灰色シルト層
2 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土層

SK6236
1 2.5Y4/1 黄灰色シルト層
2 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土層

SK6242・6243
1 5Y5/1 灰色シルト層：SK6242
2 2.5Y4/1 黄灰色シルト層：SK6242
3 7.5Y6/2 灰オリーブ色粘土層：SK6243
4 10GY7/1 明緑灰色粘土層：SK6243



SD6210
1 7.5Y5/1 灰色粘土層

SD6212
1 2.5Y4/1 黄灰色粘土層

SD6217
1 10YR3/4 暗褐色シルト層
2 10YR8/2 灰黄色シルト層
3 10GY7/1 明緑灰色細砂層

SD6238
1 5Y3/2 オリーブ黒色シルト層

第９図　６次１・３区土坑・溝実測図（SK6218・6231・6232・6237・6239は1/80、他1/40）

ブロック状堆積は観察できなかった。周辺の井戸と同規模であるが、湧水が確認できないため土坑とした。出土遺物には平安時代末期～鎌倉時代の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6237（第９図）　Ｒｄ15で検出した不整円形土坑で、規模1.9×1.7ｍ、深さ1.2ｍである。出土遺物には鎌倉時代～室町時代の南伊勢系土師器、山茶椀がある。

ＳＫ6240（第７図）　Ｒｄ・ｅ16・17で検出した不整円形土坑で、規模4.02×2.0m以上、深さ0.62mである。湧水は確認できない。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器、青磁稜花皿がある。

ＳＫ6242・ＳＫ6243（第９図）　Ｒｅ19で検出した土坑で２基が重複しており、ＳＫ6243がＳＫ6242に削平されている。ＳＫ6242は楕円形土坑になるとみられ、規模3.6×1.33m以上、深さ0.4ｍである。土師器小片が出土しており、戦国期以降のものと考えられる。

ＳＫ6243は円形土坑で、規模1.8×1.1ｍ、深さ1.2ｍである。周辺の井戸と同規模であるが、湧水が確認できないため土坑とした。遺構の時期は戦国期である。

②溝

ＳＤ6012（第７図）　Ｒｃ13～Ｒｅ21で検出した自然流路で５次調査ＳＲ5080と同一遺構である。事業地西側にあたる２・４次調査区から事業地東側の６次７区までの約800ｍの区間で確認されており、朝田町一帯を東西に横断する。

５次調査７－９－１区及び６次３区にかけて、長さ32.5m、幅3.1ｍの範囲で確認でき、出土遺物は中世前～後期にかけての土器類が大半であり、古代の土器は他の調査区に比べて少ない印象を受ける。

ＳＤ6213（第７図）　Ｐｌ25～Ｒｍ６で検出した直線的な溝で、長さ13.5m以上、幅0.32m以上、深さ0.51ｍである。出土遺物には戦国期の土師器がある。ＳＤ6212・ＳＤ6214と並行しており、江戸時代まで時期が下る可能性もある。

ＳＤ6215（第７図）　Ｒｍ７・８で検出した直線的な溝で、長さ6.0m以上、幅0.52m、深さ0.14mである。ＳＤ6213と同方向を向くことから、一連の遺構であることが考えられる。

ＳＤ6216（第７図）　Ｒｌ１・２で検出した直線的な溝で、長さ3.5m以上、幅3.35m、深さ0.44ｍである。断面形は底部にやや凹凸が見られ、側面は急な立ち上がりとなる。周辺の地割との関連から区画溝に相当すると考えられる。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＤ6222（第７図）　Ｒｇ10～ｉ11で検出した蛇行する溝で、長さ11.0m以上、幅1.48m、深さ0.39mである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＤ6238（第７・９図）　Ｒｅ13～16で検出した直線的な溝で、長さ10.5m以上、幅0.69m、深さ0.34ｍである。断面形は底部がやや弓形で、側面が緩やかに立ち上がる。出土遺物には平安時代前期の土師器、製塩土器、灰釉陶器がある。

ＳＤ6241（第７図）　Ｒｅ18で検出した直線的な溝で、長さ2.0m以上、幅1.7m、深さ0.22ｍである。断面形は底部が弓形で、側面が緩やかに立ち上がる。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

（２）江戸時代の遺構

①土坑

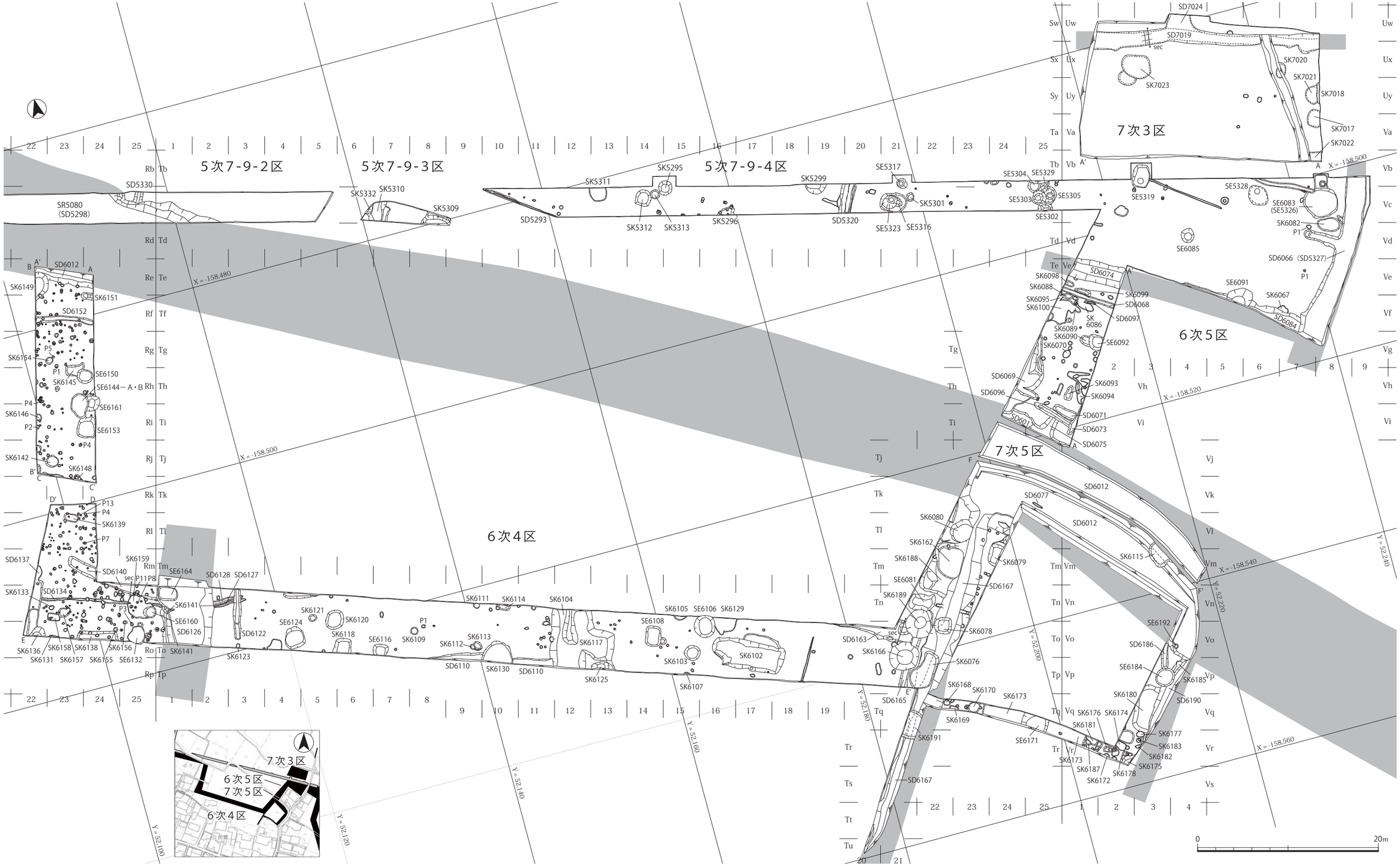
ＳＫ6218（第９図）　Ｒｌ・ｍ10で検出した不整楕円形土坑で、規模2.11×1.63m、深さ0.81ｍである。周辺の井戸と同規模であるが、湧水が確認できないため土坑とした。

ＳＫ6223（第７図）　Ｒｈ・ｉ10・11で検出した不整形土坑で、規模2.22×1.91m以上、深さ0.21ｍである。断面形は底部にやや凹凸があり、側面の立ち上がりは緩やかである。出土遺物には土師器、陶器、磁器がある。

ＳＫ6224（第７図）　Ｒｅ10で検出した円形土坑で、規模1.1×0.47m以上、深さ0.38ｍである。出土遺物には土師器や瀬戸・美濃産陶器がある。

ＳＫ6229（第７図）　Ｒｅ12・13で検出した不整楕円形土坑で、規模2.1×1.6ｍ、深さ0.8ｍである。断面形は底部が東側に向け緩やかに傾斜しており、側面は東側が緩やかに立ち上がり、西側は段を成している。出土遺物には土師器、陶器、磁器、石臼がある。

ＳＫ6239（第９図）　Ｒｅ17・18で検出した不整円



第10図　５次７区、６次４・５区、７次３・５区遺構全体図(1/400)

形土坑で、規模1.64×1.48m、深さ1.16mである。掘り返しとみられる堆積状況が観察でき、周辺の井戸と同規模であるが、湧水が確認できないため土坑とした。遺構の時期は19世紀前半以降である。

②溝

ＳＤ6212・ＳＤ6214（第７・９図）　Ｐｋ25～Ｒｋ１、Ｒｌ6～m10で検出した直線的な溝で、２条の溝は同一の遺構とみられる。断面形は底部が平坦で、側面が緩やかに立ち上がる。周辺の地割との関連から、近世の区画溝と考えられる。

ＳＤ6217・ＳＤ6220（第７・９図）　Ｒｊ10～ｍ９で検出した直線的な溝で、ＳＤ6217の北側で検出した、ＳＤ6220と同一遺構と考えられ、長さ14.6m以上、幅2.18m、深さ0.34mである。陶器、磁器、瓦が多く出土している。

ＳＤ6227（第７図）　Ｒｃ13～ｄ12で検出したＬ字形に屈曲する溝で、長さ9.5m以上、幅2.72m、深さ0.36mである。出土遺物には土師器、陶器、磁器、瓦がある。

５　６次４区、７次５区

調査区は事業地の中央に位置する（第10・11図）。７次５区は６次４・５区の間にあたり、工事立会による調査である。ＳＤ6012の埋土が残存することが想定されたものの、撹乱の影響で遺物の出土は確認できなかった。

６次４区では平安時代～江戸時代にかけての井戸、土坑、溝などを確認した。事業地全体の南東から北西にかけて流れる自然流路ＳＤ6012を検出し、平安時代の墨書土器や木製祭祀具が多く出土した。６次４区西側ではピットを多く検出したが、明確な建物跡を復元できなかった。出土遺物は江戸時代の土器、陶器、磁器などが大半であり、この時期に居住域が参宮街道沿いから北側へ広がったことが想定される。

（１）平安時代～室町時代の遺構

①井戸

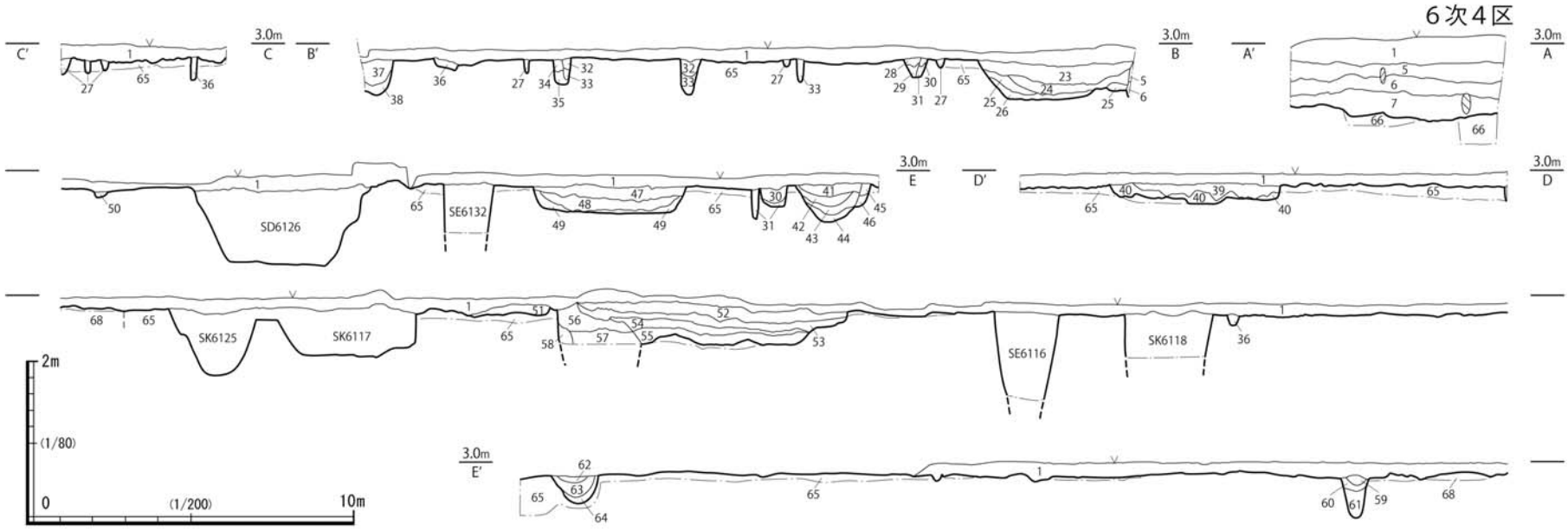
ＳＥ6081（第13図）　Ｔｎ21・22で検出した井戸で掘形平面は不整長方形となり、規模2.7×1.85m、深さ1.85mである。井戸枠は抜き取られており、三枚組接ぎの土居桁のみ確認できた。掘形底部には水溜として曲物１基を据えており、直径0.46m、高さ0.37mのものである。地下水位は標高0.5m程で湧水層に達し、周辺の井戸よりも深い位置となる。埋土は大きく３層に分けられ井戸枠抜き取り埋土、井戸枠内埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は平安時代末期である。

ＳＥ6106（第14図）　Ｔｎ・ｏ15・16で検出した井戸で、掘形平面は円形となり、直径2.31m、深さ1.18mである。井戸枠は抜き取られており、掘形底部から井戸枠の残材が出土した。地下水位は標高1.6m程で湧水層に達する。埋土は大きく３層に分けられ井戸枠抜き取り埋土、井戸枠内埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は戦国期と考えられる。

ＳＥ6108（第13図）　Ｔｏ14で検出した井戸で掘形平面は隅丸長方形となり、規模2.25×1.74m、深さ1.89mである。井戸枠は結物１段組みで、コウヤマキ製板材14点の外周に竹製タガを巡らせ楔で締める構造となり、直径0.47m、高さ1.73m以上である。曲物などの水溜施設は確認できない。地下水位は標高0.9m程で湧水層に達する。埋土は大きく２層に分けられ井戸枠内埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は戦国期と考えられる。

ＳＥ6116（第15図）　Ｔｏ７で検出した井戸で、南側は調査区外であるが、掘形平面は楕円形とみられ、規模1.65×1.23m以上、深さ1.65mである。井戸枠は縦板組横桟止めで、板材を縦方向で方形に配し、土居桁により支持する構造である。板材の樹種はスギ、ヒノキ、コウヤマキが混在する。縦板には壁板や床材、板葺き材とみられる転用材が含まれる。井戸枠内面の土居桁は仕口や木釘などの固定材は見られず、板材を「ロ」字型に重ねただけの構造となる。井戸枠外面にも横位に配した板材がみられるが、北西の２面のみ確認でき、縦板を据える際の補助材の役割が想定される。掘形底部には水溜として曲物を１基据えており、直径0.39m、高さ0.1mのものである。地下水位は標高1.2m程で湧水層に達する。埋土は大きく２層に分けられ井戸枠内埋土、掘形埋土である。遺構の時期は室町時代と考えられる。

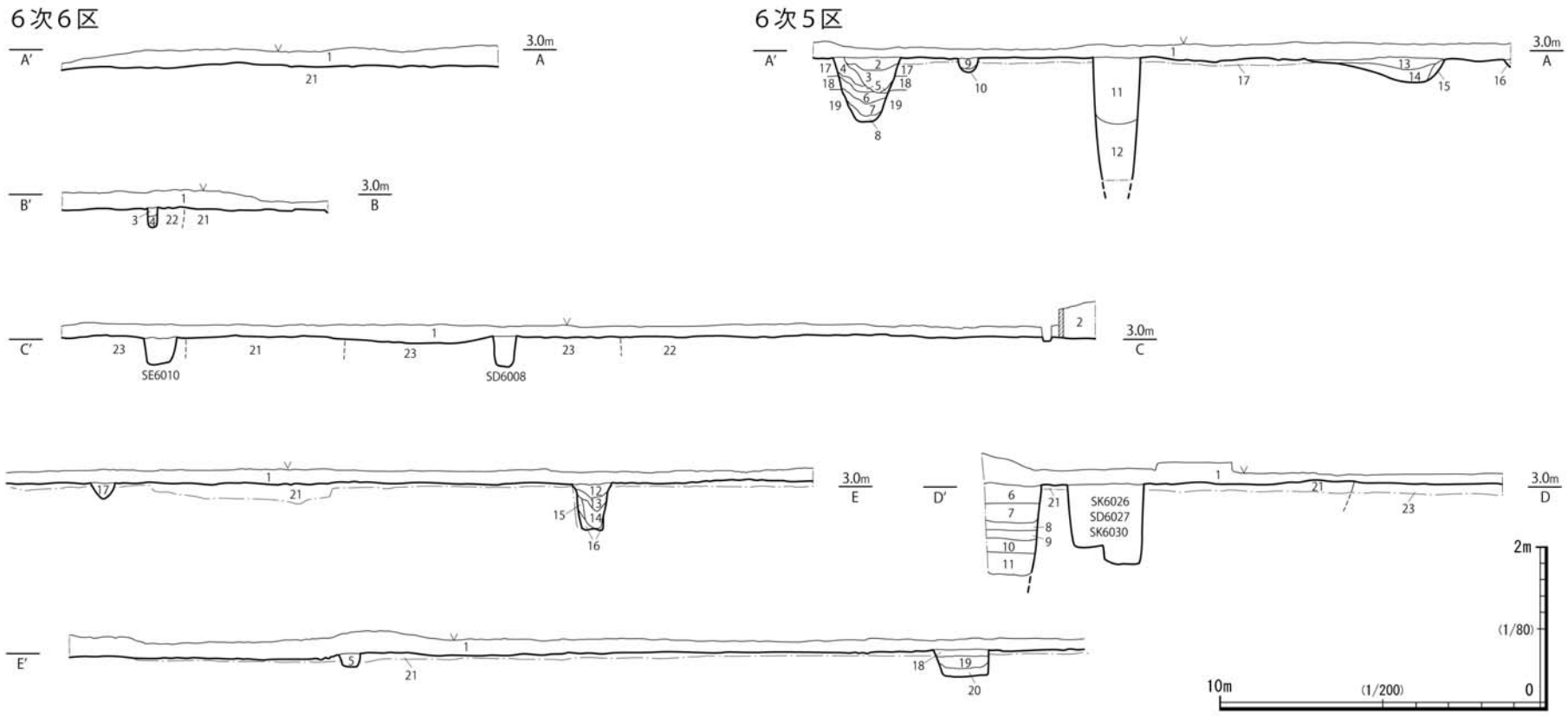
ＳＥ6132（第14図）　Ｒｏ25で検出した井戸で掘形平面は不整円形で、規模1.97×1.84m、深さ1.28m



6次4区

1 耕作土
2 床土
3 2.5Y7/3 浅黄色極細砂層
4 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト層
5 2.5Y6/1 黄灰色シルト層：S D6012
6 2.5Y5/1 黄灰色粘土層：S D6012
7 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土層（木製品多く含む）：S D6012
8 N4/ 灰色粘土層（木製品多く含む）：S D6012
9 N4/ 灰色細砂層（5mm の礫 1%含む）：S D6012
10 N5/ 灰色粘土層（5B7/1 明青灰色粘土ブロック 25%含む）：S D6012
11 5B7/1 明青灰色粘土層（木製品少し含む）：S D6012
12 N5/ 灰色細砂層（木製品少し含む）：S D6012
13 2.5Y6/1 黄灰色シルト層（2.5Y8/2 灰白色粘土ブロック 25%含む）：S K6185
14 2.5Y5/1 黄灰色細砂層（10 ～ 20 cmの礫 25%含む）：S K6185
15 2.5Y8/6 黄色シルト層（2.5Y6/1 黄灰色シルトブロック 5%含む）：S K6180
16 2.5Y5/1 黄灰色シルト層（1 ～ 3 cmの礫 1%含む）：S K6180
17 2.5Y8/6 黄色シルト層（2.5Y6/1 黄灰色シルトブロック 25%含む）：S K6180
18 5GY8/1 灰白色粘土層：S D6012
19 N7/ 灰白色粘土層（2.5Y6/1 黄灰色シルトブロック 25%含む）：S D6012
20 2.5Y5/1 黄灰色粘土層（5GY8/1 灰白色粘土ブロック 10%含む）：S K6175
21 2.5Y3/1 黒褐色粘土層：S K6175
22 N4/ 灰色細砂層：S D6012
23 2.5Y5/1 黄灰色シルト層（2.5Y8/2 灰白色シルトブロック多く含む）：S K6149
24 N6/ 灰色シルト層：S K6149
25 N5/ 灰色シルト層：S K6149
26 N6/ 灰色粘土層：S K6149
27 5Y6/1 灰色シルト層：Pit
28 2.5Y8/2 灰白色シルト層：Pit
29 5Y6/1 灰色シルト層：Pit
30 2.5Y7/2 灰黄色シルト層：Pit
31 5Y5/1 灰色シルト層
（2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック少し含む）：Pit
32 N4/ 灰色シルト層：Pit
33 N4/ 灰色シルト層（2.5Y8/2 灰白色シルトブロック少し含む）：Pit
34 N4/ 灰色シルト層（2.5Y8/2 灰白色シルトブロック多く含む）：Pit
35 2.5Y7/2 黄灰色シルト層（N4/ 灰色細砂ブロック多く含む）：Pit
36 2.5Y6/2 黄灰色シルト層：Pit
37 N6/ 灰色シルト層（2.5Y8/2 灰白色シルトブロック少し含む）：Pit
38 7.5Y7/1 灰白色粘土層（N6/ 灰色シルトブロック少し含む）：Pit
39 N5/ 灰色細砂層：S K6137
40 2.5Y8/3 淡黄色シルト層（N5/ 灰色細砂ブロック少し含む）：S K6137
41 2.5Y7/2 灰黄色シルト層：S K6136
42 2.5Y6/1 黄灰色シルト層（土器・炭片少し含む）：S K6136
43 7.5Y6/1 灰色粘土層（細砂少し含む）：S K6136
44 7.5Y7/1 灰白色粘土層（細砂少し含む）：S K6136
45 N5/ 灰色細砂層：土坑
46 2.5Y8/3 淡黄色シルト層（N5/ 灰色細砂ブロック少し含む）：土坑
47 2.5Y5/1 黄灰色シルト層（2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック多く含む）：S K6138
48 2.5Y5/1 黄灰色シルト層
（2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック少し含む）：S K6138
49 N5/ 灰色シルト層：S K6138
50 2.5Y6/2 灰黄色シルト層：Pit
51 2.5Y7/6 明黄褐色シルト層
52 2.5Y7/1 灰白色シルト層
（2.5Y8/4 淡黄色シルトブロック多く含む）：S D6110
53 5Y5/1 灰色シルト層（炭片少し含む）：S D6110
54 5Y5/2 灰オリーブ色シルト層（土器・炭片少し含む）：S D6110
55 N6/ 灰色粘土層：S D6110
56 7.5Y7/1 灰白色シルト層（1 ～ 3 cmの礫多く含む）：S K6130
57 N6/ 灰色シルト層（7.5Y7/1 灰白色シルトブロック多く含む）：S K6130
58 5B5/1 青灰色粘土層：S K6130
59 2.5Y6/1 黄灰色シルト層：S K6107
60 2.5Y5/1 黄灰色シルト層：S K6107
61 2.5Y4/1 黄灰色シルト層：S K6107
62 2.5Y7/3 浅黄色シルト層：S D6165
63 2.5Y6/1 黄灰色シルト層：S D6165
64 2.5Y6/2 灰黄色シルト層：S D6165
65 2.5Y7/4 浅黄色シルト層：ベース
66 2.5Y8/2 灰白色シルト層：ベース
67 2.5Y7/1 灰白色細砂層：ベース
68 10YR5/1 褐灰色シルト層：ベース

第11図　６次４区土層断面図（縦1/80、横1/200）



6次5区

1 耕作土
2 2.5Y6/1 黄灰色極細砂層：SD6074
3 2.5Y6/1 黄灰色極細砂層
(2.5Y8/3 淡黄色シルトブロック多く含む)：SD6074
4 2.5Y7/1 灰白色極細砂層
(2.5Y8/3 淡黄色シルトブロック少し含む)：SD6074
5 N7/ 灰白色極細砂層：SD6074
6 N6/ 灰色シルト層
(2.5Y8/2 灰白色シルトブロック少し含む)：SD6074
7 N6/ 灰色極細砂層：SD6074
8 5Y7/2 灰白色シルト層：SD6074
9 N7/ 灰白色極細砂層（2.5Y8/2 灰白色シルトブロック 1%含む)：SD6068
10 5Y7/1 灰白色極細砂層：SD6068
11 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト層
(10YR7/2 にぶい黄橙色シルトブロック 5%含む)：SE6092
12 5Y4/1 灰色シルト層
(10YR7/2 にぶい黄橙色シルトブロック 5%含む)：SE6092
13 N6/ 灰色極細砂層
(5Y8/2 灰白色シルトブロック 25%含む)：SD6071
14 5Y7/1 灰白色細砂層（炭片少し含む)：SD6071
15 炭層：SD6071
16 5Y6/1 灰色極細砂層：SD6012
17 2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト層：ベース
18 2.5Y7/2 灰黄色極細砂層：ベース
19 10GY7/1 明緑灰色極細砂層：ベース

6次6区

1 耕作土
2 盛土
3 7.5YR6/2 灰褐色シルト層：SD6201
4 7.5Y5/1 灰色極細砂層（2～5㎜の礫 5%含む)：SD6201
5 10YR5/2 灰黄褐色シルト層：Pit
6 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト層：SD6012
7 2.5Y6/1 黄灰色シルト層：SD6012
8 2.5Y5/1 黄灰色粘土層：SD6012
9 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土層（木製品多く含む)：SD6012
10 N4/ 灰色粘土層（木製品多く含む)：SD6012
11 N4/ 灰色細砂層：SD6012
12 2.5Y7/1 灰白色極細砂層（粗砂多く含む)：SD6064
13 2.5Y5/1 黄灰色シルト層：SD6064
14 N5/ 灰色シルト層：SD6064
15 7.5Y7/1 灰白色シルト層：SD6064
16 2.5Y7/2 灰黄色シルト層：SD6064
17 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト層：Pit
18 2.5Y8/1 灰白色極細砂層：SD6065
19 2.5Y7/2 灰黄色極細砂層：SD6065
20 N6/ 灰色シルト層（N5/ 灰色細砂ブロック 5%含む)：SD6065
21 2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト層：ベース
22 2.5Y7/2 灰黄色細砂層（5～10㎝の礫多く含む)：ベース
23 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト層（5～10㎝の礫多く含む)：ベース

第12図　６次５・６区土層断面図(縦1/80、横1/200)

である。井戸枠は抜き取られたとみられる。地下水位は標高1.5m程で湧水層に達する。埋土は大きく２層に分けられ井戸枠抜き取り埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は戦国期と考えられる。

ＳＥ6144－Ｂ（第16図）　Ｒｈ・ｉ23・24で検出した井戸で２基が重複しており、ＳＥ6144－Ｂが戦国期、ＳＥ6144－Ａが江戸時代のものである。地下水位は標高1.4m程で湧水層に達する。ＳＥ6144－Ｂは規模1.2m以上、深さ1.37mである。井戸枠は抜き取られているが、掘形底部には水溜として曲物１基を据えており、直径0.5m、高さ0.29mのものである。曲物の構造に特徴があり、曲物２基を綴皮で連結したものを使用している。

ＳＥ6150（第16図）　Ｒｈ23・24で検出した井戸で、掘形平面は不整円形で、規模1.72×1.57m、深さ1.3mであり、井戸枠は抜き取られているが掘形埋土から井戸枠材の残材や楔８点が出土したため結物井戸と考えられる。掘形底部には水溜として曲物１基が据えられており、直径0.41m、高さ0.3mのものである。地下水位は標高1.6m程で湧水層に達する。埋土は大きく３層に分けられ井戸枠抜き取り埋土、井戸枠内埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は室町時代と考えられる。

ＳＥ6153（第14図）　Ｒｉ23・24で検出した井戸で掘形平面は不整方形で、規模2.95×2.25m、深さ0.9mである。井戸枠は抜き取られているが、埋土から結物を締める楔４点が出土したため結物井戸と考えられる。地下水位は標高1.8m程で湧水層に達する。埋土は大きく２層に分けられ井戸枠抜き取り埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は戦国期である。

ＳＥ6160（第16図）　Ｒｎ25で検出した井戸で、上層は戦国期のＳＫ6159に削平される。掘形平面は円形で、規模1.4×1.29m、深さ1.3mであり、井戸枠は抜き取られている。掘形底部には水溜として曲物１基を据えており、直径0.4m、高さ0.22mのものである。地下水位は標高1.4m程で湧水層に達する。埋土は大きく３層に分けられ井戸枠抜き取り埋土、井戸枠内埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は室町時代と考えられる。

ＳＥ6161（第16図）　Ｒｈ・ｉ24で検出した井戸で、西側はＳＥ6144－Ａ・Ｂに削平される。掘形平面は不整円形になるとみられ、規模1.74×1.43m以上、深さ1.31mである。井戸枠、水溜施設は抜き取られており、掘形底部から井戸枠材の残材や楔２点が出土したため結物井戸と考えられる。地下水位は標高1.5m程で湧水層に達する。埋土は大きく２層に分けられ井戸枠抜き取り埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は戦国期と考えられる。

ＳＥ6164（第15図）　Ｔｎ１で検出した井戸で、掘形上部は戦国期のＳＤ6126により削平されているが、掘形平面は隅丸長方形となり、規模2.17×1.54m、深さ1.5mである。井戸枠の一部が抜き取られており、南北側の２面のみ板材が確認できた。井戸枠の形態は横板組又は縦板・横板組井戸とみられ、南北側は板材を横方向に配して数段重ねる構造となる。板材の樹種はスギが主体で、ヒノキが若干含まれる。形態の特徴では井戸枠に無関係のホゾ穴がある材や丸太半割材で樹皮が残る材があり、板材の規格に差がみられる。板材の構成は転用材が中心と考えられる。掘形底部には水溜として曲物を１基据えており、直径0.46m、高さ0.3mである。地下水位は標高1.3m程で湧水層に達する。埋土は大きく３層に分けられ井戸枠抜き取り埋土、井戸枠内埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は平安時代末期～鎌倉時代と考えられる。

②土坑

ＳＫ6080（第10図）　Ｔｌ23で検出した円形土坑で、規模2.5×2.3m、深さ1.24mである。周辺の井戸と同規模であるが、湧水が確認できないため土坑とした。南伊勢系土師器や山茶椀が出土し、遺構の時期は平安時代末期とみられる。

ＳＫ6102（第18図）　Ｔｏ・ｐ16～18で検出した不整長方形土坑で、規模8.03×3.95m、深さ0.53mである。埋土には炭片が含まれる。南伊勢系土師器や常滑産陶器が出土し、遺構の時期は戦国期～江戸時代初頭とみられる。

ＳＫ6104・ＳＫ6117（第19図）　Ｔｈ11～ｐ13で検出した土坑である。掘形の形態から溝の可能性があり、周辺地割との関連から条里坪境や区画溝に相当すると考えられる。土層断面からＳＫ6117が埋没後にＳＫ6104が形成されたと考えられるが、平面検出時に明瞭な重複関係を捉えることができなかった。

ＳＫ6117から完形の常滑産陶器壺（451）が出土しており、遺構の時期は戦国期と考えられる。ＳＫ6104からも同時期の遺物が出土しており、近い時期に形成されたとみられる。

ＳＫ6105（第18図）　Ｔｎ15で検出した土坑で北側は調査区外となり、規模1.52×0.45m以上、深さ0.9ｍである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6107（第10図）　Ｔｐ15で検出した土坑で、規模0.75×0.19m以上、深さ0.38ｍである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6109（第18図）　Ｔｏ８で検出した円形土坑で、規模0.84×0.82m、深さ0.89ｍである。断面形は立ち上がりの中位で膨らみを持つ。南伊勢系土師器が出土し、遺構の時期は室町時代～戦国期である。

ＳＫ6112（第10図）　Ｔｏ９で検出した円形土坑で、規模0.56×0.53m以上、深さ0.3ｍで、ＳＫ6113に一部削平される。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6113（第10図）　Ｔｏ９で検出した不整円形土坑で、規模1.01×0.8m、深さ0.38ｍである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6114（第10図）　Ｔｎ10で検出した土坑で、規模1.58×0.52m以上、深さ0.76ｍである。出土遺物には室町時代の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6118（第18図）　Ｔｏ５・６で検出した土坑で北側は調査区外であるが、隅丸方形になるとみられる。規模1.82×1.59m、深さ1.27m以上である。断面形は底部が平坦で、側面は直線的に立ち上がる。埋土にはブロック状の堆積が観察でき、周辺の井戸と同規模であるが、湧水が確認できないため土坑とした。遺構の時期は室町時代～戦国期である。

ＳＫ6120（第18図）　Ｔｎ・ｏ５・６で検出した楕円形土坑で、規模2.18×1.87m、深さ1.3ｍで、底部中央には径0.8m、深さ0.3ｍの掘り込みがある。掘形の形態から井戸の可能性があり、底部の掘り込みには曲物を据えていたことが考えられるが、湧水が確認できないため土坑とした。遺構の時期は室町時代である。

ＳＫ6121（第21図）　Ｔｎ５で検出した楕円形土坑で、規模0.91×0.79m、深さ0.9ｍである。南伊勢系土師器や山茶椀が出土しており、遺構の時期は室町時代である。

ＳＫ6123（第10図）　Ｔｏ３で検出した土坑で、規模0.45×0.4m以上、深さ0.08ｍである。出土遺物には土錘がある。

ＳＫ6129（第10図）　Ｔｏ16で検出した不整形土坑で、規模2.47×2.1m以上、深さ0.31ｍである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器、常滑産陶器、焼土塊がある。

ＳＫ6130（第21図）　Ｔｏ・ｐ10で検出した土坑で南側はＳＤ6110に削平されており、規模3.5×2.3m以上、深さ1.3ｍである。底部の中央付近には径0.38m、深さ0.3ｍの掘り込みがある。周辺の井戸と同規模であるが、湧水が確認できないため土坑とした。出土遺物には南伊勢系土師器、陶器、焼土塊があり、遺構の時期は戦国期である。

ＳＫ6136（第10図）　Ｒｏ22で検出した土坑で、規模1.77×0.98m以上、深さ0.31ｍである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6139（第21図）　Ｒｌ23で検出した隅丸長方形土坑で、規模1.56×0.86m、深さ0.31ｍである。土坑底部は平坦で１箇所に小穴が見られ、側面は立ち上がりが緩やかである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6141（第10図）　Ｔｎ１で検出した土坑でＳＤ6126に一部削平され、規模0.7×0.5m以上、深さ0.32ｍである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6142（第22図）　Ｒｊ23で検出した不整円形土坑で、規模1.39×1.34m、深さ0.7ｍである。断面形は底部が平坦で、側面は急な立ち上がりとなる。最下層から木球や板状製品が出土している。若干の湧水も確認できるが、周辺の井戸よりも小規模のため土坑とした。遺構の時期は室町時代である。

ＳＫ6143　Ｒｉ24で検出した土坑で、規模1.0×0.65m、深さ0.2ｍである。調査過程で図化できなかった。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6145（第10図）　Ｒｇ・ｈ23で検出した不整長方形土坑で、規模2.03×1.16m、深さ0.14ｍである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6147　Ｒｉ24で検出した不整形土坑で、規模1.25×0.85m、深さ0.2mである。調査過程で図化できなかった。出土遺物には白磁皿がある。

ＳＫ6149（第10図）　Ｒｅ・ｆ22で検出した土坑でＳＤ6012を削平しており、規模3.08×1.39m以上、深さ0.39m以上である。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器、常滑産陶器がある。

ＳＫ6151（第10図）　Ｒｅ・ｆ24で検出した土坑で、規模1.31×0.74m以上、深さ0.29mである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器、磁器染付皿がある。

ＳＫ6154（第21図）　Ｒｇ23で検出した円形土坑で、規模0.82m×0.75m、深さ0.96mである。断面形は底部から側面にかけて緩やかに立ち上がる。土坑底部で若干の湧水があり、竪杵や棒状製品が出土している。南伊勢系土師器小片が出土しており、遺構の時期は戦国期とみられる。

ＳＫ6155（第10図）　Ｒｏ24で検出した円形土坑で、規模0.53×0.48m、深さ0.28mである。出土遺物には室町時代の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6156（第10図）　Ｒｏ25で検出した円形土坑で、規模0.48×0.38m、深さ0.29mである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6157（第10図）　Ｒｎ23で検出した不整形土坑で、規模1.26×1.04m、深さ0.22mである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6158（第10図）　Ｒｎ23で検出した長方形土坑で、規模1.4×0.84m、深さ0.25mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＫ6159（第10図）　Ｒｎ25で検出した不整円形土坑で、規模2.61×2.05m、深さ0.07mである。ＳＥ6160の上層を削平している。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器、陶器がある。

ＳＫ6166（第10図）　Ｔｏ・ｐ21・22で検出した楕円形土坑で、規模3.12×2.73m、深さ1.3mである。周辺の井戸と同規模であるが、湧水が確認できないため土坑とした。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器、山茶椀がある。

ＳＫ6168（第10図）　Ｔｑ22で検出した楕円形土坑で、規模0.76×0.63m、深さ0.21mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＫ6169（第10図）　Ｔｑ22・23で検出した土坑で、規模1.04×0.31m以上、深さ0.18mである。出土遺物には土師器、陶器がある。

ＳＫ6174（第10図）　Ｖｒ２で検出した不整形土坑で、規模1.16×0.87m以上、深さ0.11mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＫ6177（第10図）　Ｖｒ３で検出した楕円形土坑で、規模0.89×0.69m、深さ0.26mである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6182（第10図）　Ｖｒ３で検出した不整形土坑で、規模0.58×0.36m、深さ0.1mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＫ6183（第10図）　Ｖｒ３で検出した円形土坑で、規模0.5×0.44m、深さ0.26mである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6187（第10図）　Ｖｒ１で検出した楕円形土坑で、規模0.7×0.45m以上、深さ0.24mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

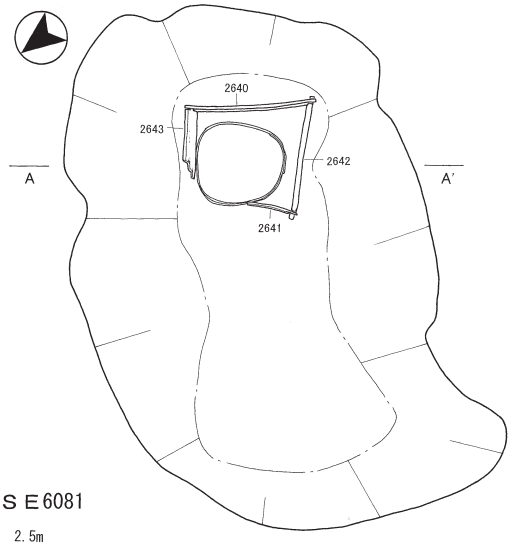
ＳＫ6189（第20・21図）　Ｔｎ・ｏ21・22で検出した楕円形土坑で、規模3.4×2.84m、深さ1.39mである。周辺の井戸と同規模であるが、湧水が確認できないため土坑とした。遺構の時期は平安時代末期～鎌倉時代とみられる。

ＳＫ6191（第10図）　Ｔｑ・ｒ21・22で検出した土坑で、規模3.1×1.4m以上、深さ0.2mである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器、常滑産陶器がある。

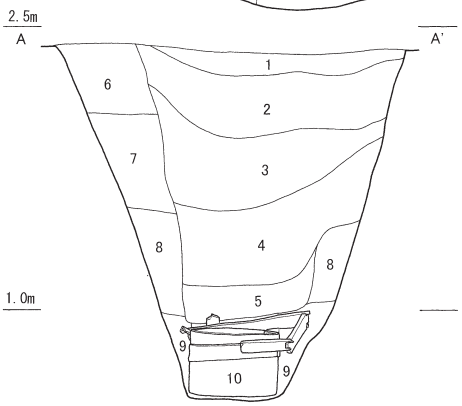
③溝

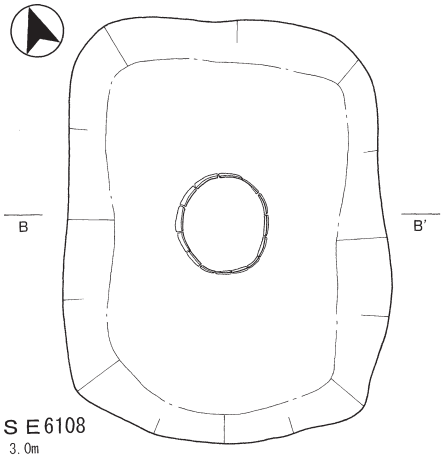
ＳＤ6012（第10図）　６次４区西側Ｒｅ22～24と東側Ｔｊ・ｋ23～Ｖｎ・ｏ４、７次５区で検出された自然流路で、南側の上端が検出され、幅は10～12m程と判明した。５次調査ＳＲ5080と同一遺構であり、上層からは中世前期～後期の土器類や木製品、下層からは平安時代前期～後期の土器類や木製品が多く出土している。特に墨書土器や風字硯、斎串が出土したことが特筆される。

流路の埋没時期は周辺遺構や出土遺物から戦国期と考えられ、埋没後に江戸時代の遺構が形成される状況が確認できた。Ｖｍ３のＳＫ6115やその周辺には江戸時代（18世紀中頃以降）の土坑が複数基確認できたが、ＳＤ6012上層の遺構掘削にバックホーを使用したため、ＳＤ6012と江戸時代の遺構を分けて

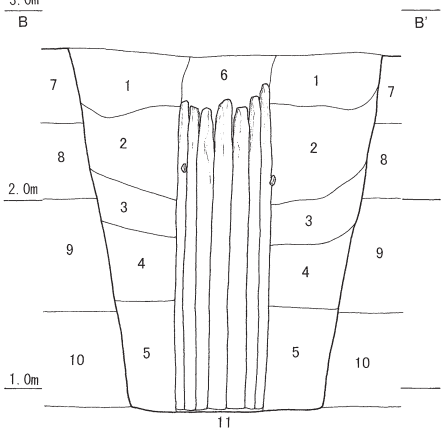


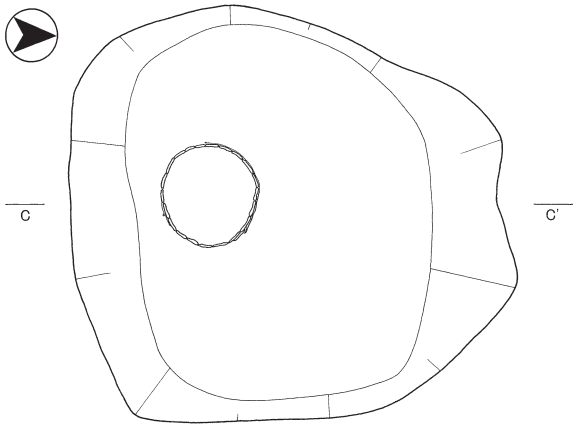
ＳＥ6081



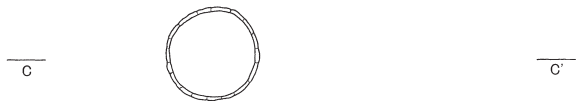


ＳＥ6108

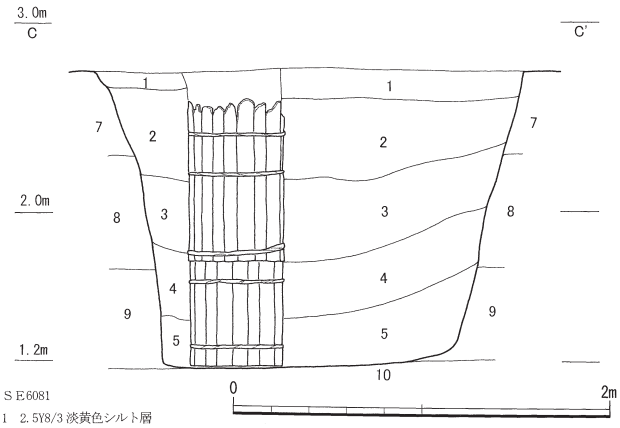




ＳＥ6124　　２段目結物



最下段結物



ＳＥ6081

1　2.5Y8/3 淡黄色シルト層
　(2.5Y7/1 灰白色シルトブロック 25%含む)　：井戸枠抜き取り埋土
2　2.5Y7/2 灰黄色シルト層
　(2.5Y7/1 灰白色シルトブロック 25%含む)　：井戸枠抜き取り埋土
3　7.5Y7/1 灰白色粘土層 (N6/灰色粘土ブロック 5%含む)　：井戸枠抜き取り埋土
4　7.5Y5/1 灰色粘土層 (N6/灰色粘土ブロック 5%含む)　：井戸枠抜き取り埋土
5　N4/灰色粘土層 (N6/灰色粘土ブロック 5%含む)　：井戸枠抜き取り埋土
6　2.5Y8/4 淡黄色シルト層 (2.5Y7/1 灰白色シルトブロック 5%含む)　：掘形埋土
7　7.5GY6/1 緑灰色粘土層 (2.5Y7/1 灰白色シルトブロック 5%含む)　：掘形埋土
8　N5/灰色粘土層 (2.5Y7/1 灰白色シルトブロック 5%含む)　：掘形埋土
9　5B4/1 暗青色細砂層：掘形埋土
10　5B4/1 暗青色粘土層：井戸枠内埋土

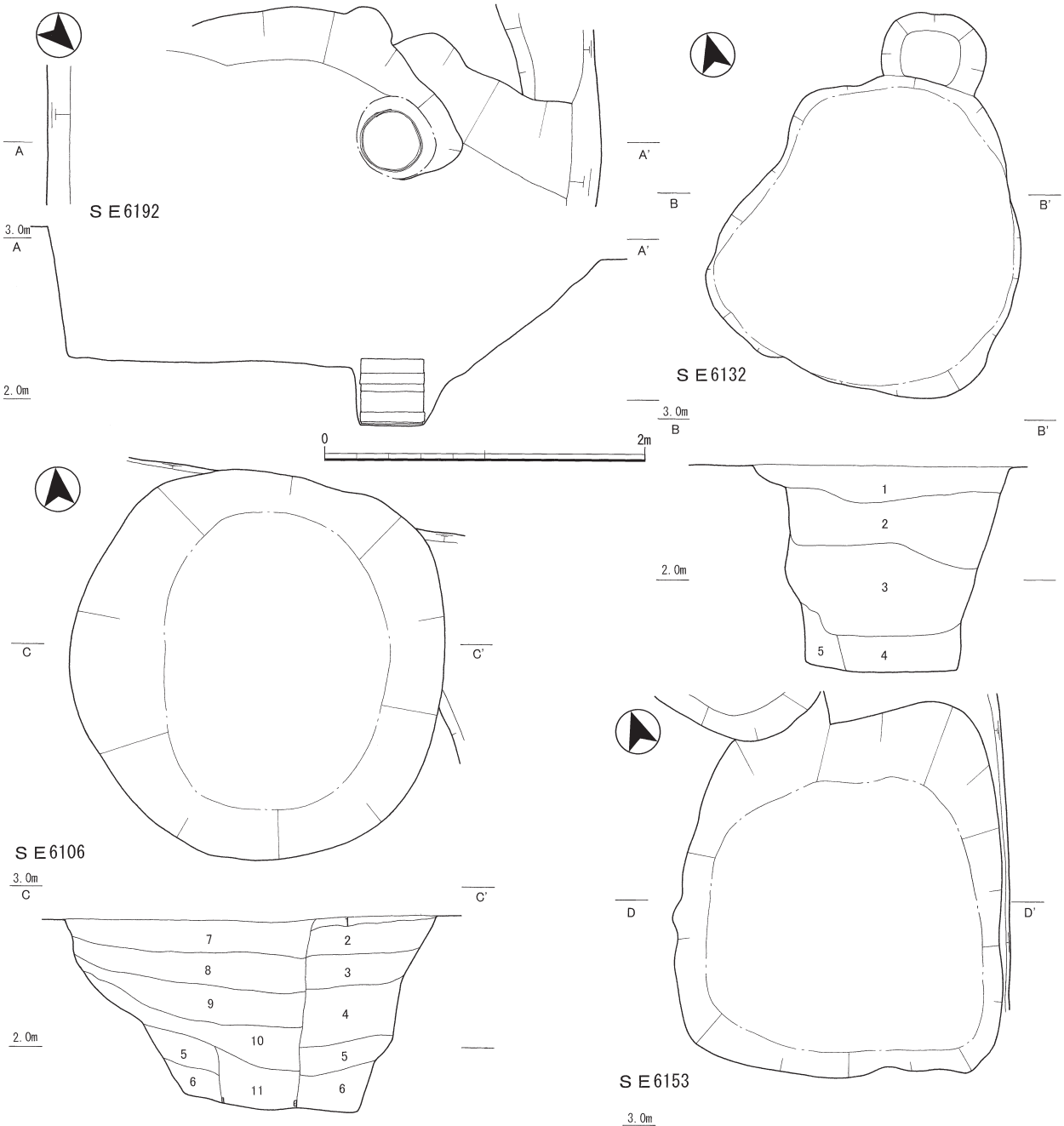
ＳＥ6108

1　10YR7/2 にぶい黄橙色シルト層
　(N6/灰色シルトブロック多く含む)
　：掘形埋土
2　N6/灰色シルト層
　(5Y7/1 灰白色シルトブロック多く含む)
　：掘形埋土
3　N6/灰色シルト層
　(5Y7/1 灰白色シルトブロック少し含む)
　：掘形埋土
4　N4/灰色粘土層
　(N7/灰白色シルトブロック少し含む)
　：掘形埋土
5　5B4/1 暗青色粘土層：掘形埋土
6　10YR6/1 褐灰色シルト層：井戸枠内埋土
7　10YR5/1 褐灰色シルト層：ベース
8　10YR3/1 黒褐色シルト層：ベース
9　N4/灰色粘土層：ベース
10　N3/暗灰色粘土層：ベース
11　N6/灰色砂礫層 (湧水層)　：ベース

ＳＥ6124

1　2.5Y7/4 浅黄色シルト層
　(2.5Y6/1 黄灰色シルトブロック多く含む)
　：掘形埋土
2　10YR8/3 浅黄橙色シルト層
　(2.5Y6/1 黄灰色シルトブロック多く含む)
　：掘形埋土
3　10BG7/1 明青灰色シルト層
　(10YR5/3 にぶい黄褐色粗砂多く含む)
　：掘形埋土
4　5Y6/2 灰オリーブ色中砂層
　(10BG7/1 明青灰色シルトブロック 5%含む)
　：掘形埋土
5　5Y4/1 灰色中砂層
　(10BG7/1 明青灰色シルトブロック 5%含む)
　：掘形埋土
6　2.5Y5/1 黄灰色シルト層
　(2.5Y7/3 浅黄色シルトブロック多く含む)
　：井戸枠内埋土
7　2.5Y7/4 浅黄色シルト層：ベース
8　N4/灰色粘土層：ベース
9　5Y7/2 灰白色中砂層：ベース
10　N6/灰色砂礫層 (湧水層)　：ベース

第13図　６次４区井戸実測図①(1/40)



ＳＥ6106

1　10YR6/3 にぶい黄橙色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
2　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
3　10YR5/2 灰黄褐色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
4　10YR5/1 褐灰色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
5　2.5Y5/1 黄灰色粘土層：井戸枠抜き取り埋土
6　10YR6/2 灰黄褐色シルト層（10YR4/1 褐灰色シルトブロック少し含む）：掘形埋土
7　10YR8/1 灰白色シルト層（10YR6/3 にぶい黄橙色シルトブロック少し含む）：掘形埋土
8　10YR4/1 褐灰色シルト層（細砂少し含む）：掘形埋土
9　10YR4/1 褐灰色シルト層（10YR6/1 褐灰色シルトブロック少し含む）：掘形埋土
10　10YR5/2 灰黄褐色シルト層（10YR4/1 褐灰色シルトブロック少し含む）：掘形埋土
11　10YR4/1 褐灰色シルト層（10YR4/2 灰黄褐色シルトブロック少し含む）：掘形埋土

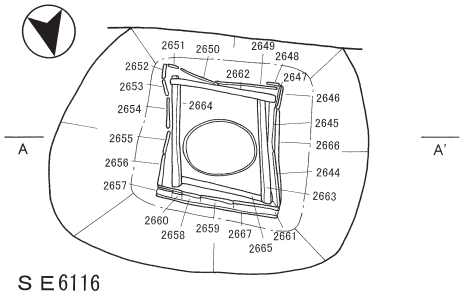
ＳＥ6132

1　10YR6/1 褐灰色シルト層
　（10YR8/2 灰黄色シルトブロック少し含む）：井戸枠抜き取り埋土
2　10YR5/1 褐灰色シルト層
　（10YR8/2 灰黄色シルトブロック多く含む）：井戸枠抜き取り埋土
3　10BG5/1 青灰色粘土層（10YR6/4 にぶい黄橙色粗砂多く含む）：井戸枠抜き取り埋土
4　2.5Y5/2 暗灰黄色粘土層：井戸枠抜き取り埋土
5　2.5Y6/2 灰黄色中砂層：掘形埋土

ＳＥ6153

1　2.5Y6/1 黄灰色シルト層
　（2.5Y8/1 灰白色シルトブロック少し含む）：井戸枠抜き取り埋土
2　5Y5/1 灰色シルト層（炭片少し含む）：井戸枠抜き取り埋土
3　5Y5/1 灰色シルト層（5mm の礫多く含む）：井戸枠抜き取り埋土
4　N5/灰色シルト層（2.5Y8/2 灰白色シルトブロック多く含む）：井戸枠抜き取り埋土
5　N4/灰色粘土層：井戸枠抜き取り埋土
6　2.5Y8/4 淡黄色シルト層（10YR6/1 褐灰色シルトブロック多く含む）：掘形埋土
7　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト層（10YR6/1 褐灰色シルトブロック多く含む）：掘形埋土
8　7.5Y7/1 灰白色粘土層：掘形埋土

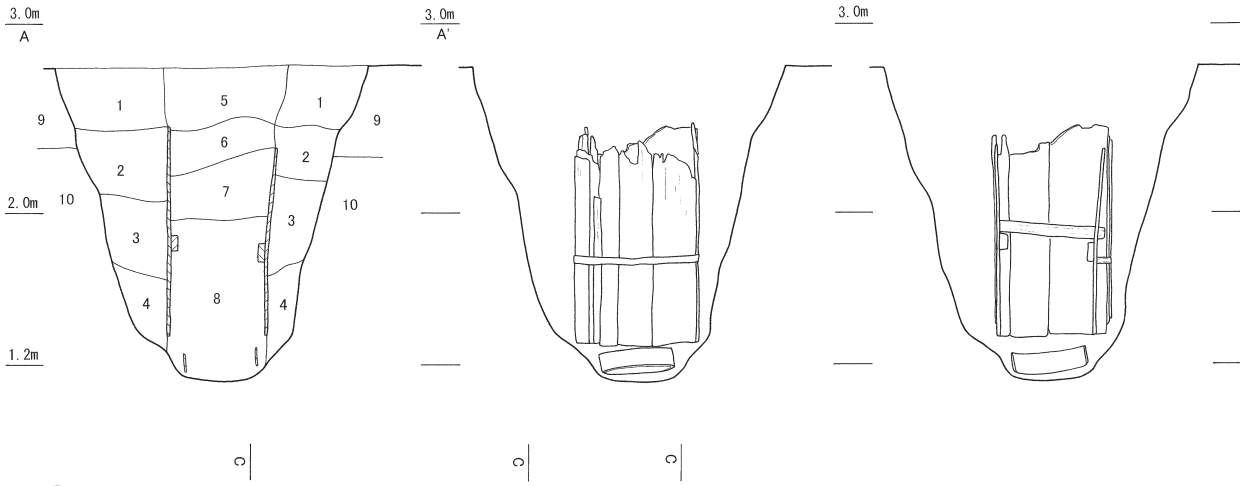
第14図　６次４区井戸実測図②(1/40)

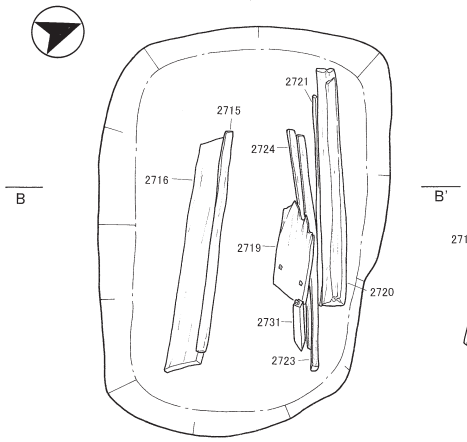


ＳＥ6116

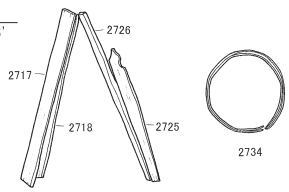
ＳＥ6116

1　7.5Y5/1 灰色シルト層
　(5Y8/2 灰白色シルトブロック多く含む) ：掘形埋土
2　N5/灰色シルト層
　(5Y8/1 灰白色シルトブロック多く含む) ：掘形埋土
3　N5/灰色粘土層：掘形埋土
4　N3/暗灰色粘土層：掘形埋土
5　5Y7/1 灰白色シルト層 (5㎜の礫多く含む) ：井戸枠内埋土
6　N7/灰白色シルト層 (細砂多く含む) ：井戸枠内埋土
7　N6/灰色シルト層：井戸枠内埋土
8　N5/灰色シルト層：井戸枠内埋土
9　2.5Y7/4 浅黄色シルト層：ベース
10　5Y6/1 灰色中砂層：ベース





ＳＥ6164
上部井戸枠

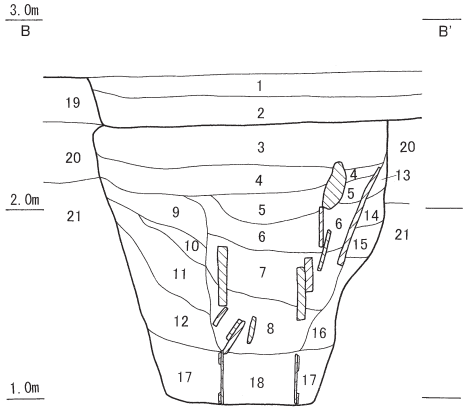


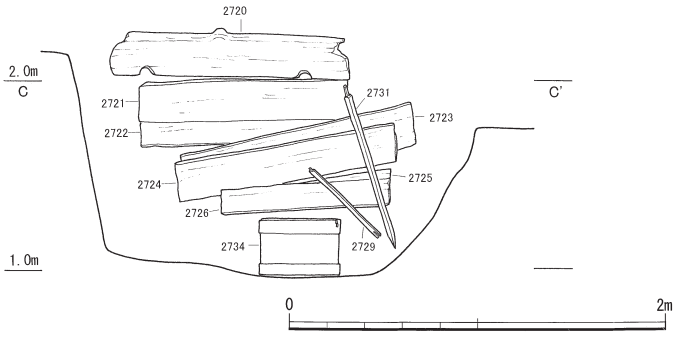
下部井戸枠

曲物

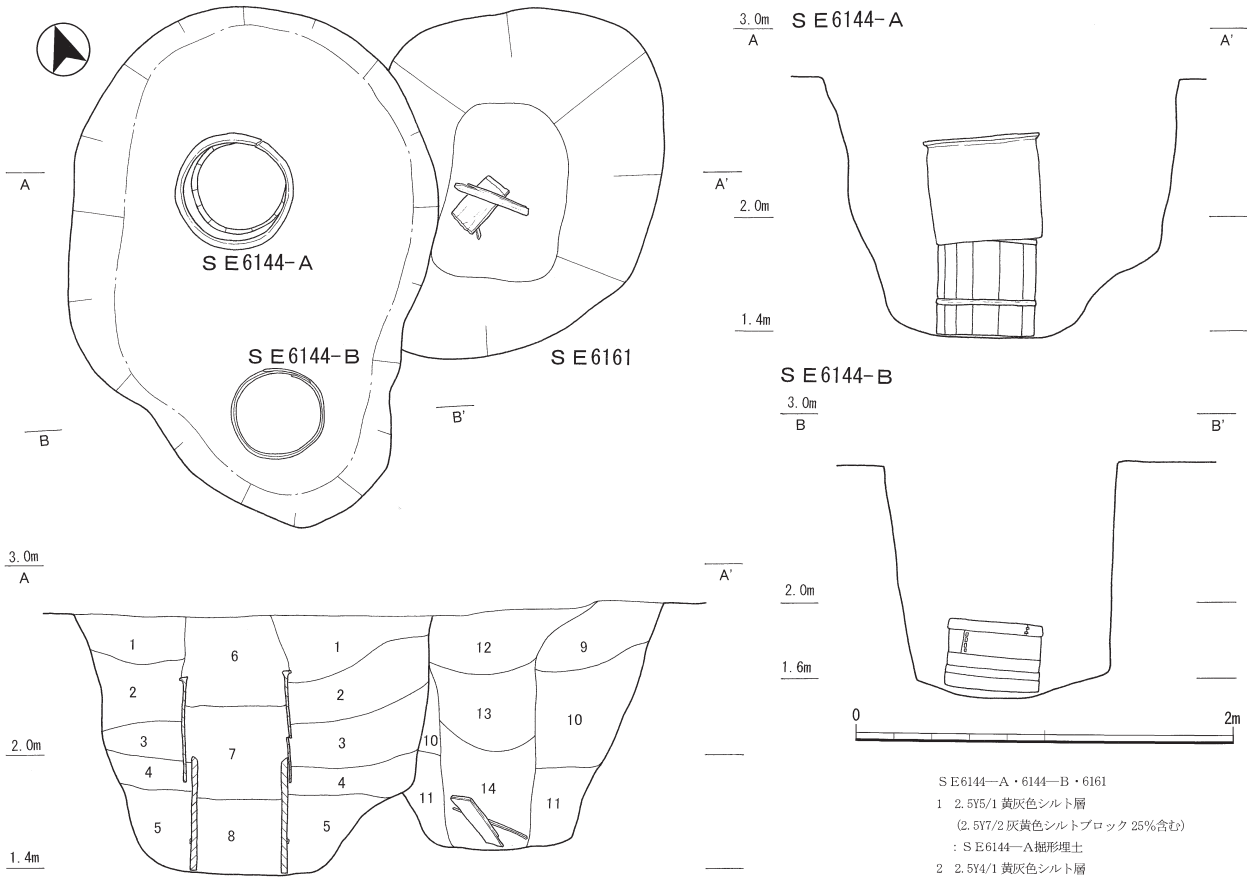
ＳＥ6164、ＳＤ6126

1　10YR6/2 灰黄褐色シルト層：ＳＤ6126
2　10YR7/2 にぶい黄橙色シルト層 (粗砂多く含む) ：ＳＤ6126
3　N5/灰色シルト層 (N7/灰白色シルトブロック多く含む) ：井戸枠抜き取り埋土
4　N5/灰色シルト層 (細砂多く含む) ：井戸枠抜き取り埋土
5　N4/灰色粘土層 (細砂多く含む) ：井戸枠抜き取り埋土
6　N4/灰色粘土層 (10BG7/1 明青灰色粘土ブロック少し含む) ：井戸枠抜き取り埋土
7　N3/暗灰色粘土層：井戸枠抜き取り埋土
8　10BG7/1 明青灰色粘土層 (N4/灰色粘土ブロック少し含む) ：井戸枠抜き取り埋土
9　10BG7/1 明青灰色粘土層 (N4/灰色粘土ブロック多く含む) ：掘形埋土
10　10BG7/1 明青灰色粘土層 (N4/灰色粘土ブロック少し含む) ：掘形埋土
11　10BG6/1 青灰色粘土層：掘形埋土
12　2.5Y7/1 灰白色中砂層：掘形埋土
13　N5/灰色粘土層 (10BG7/1 明青灰色粘土ブロック多く含む) ：掘形埋土
14　7.5Y8/1 灰白色粘土層 (10BG5/1 青灰色粘土ブロック多く含む) ：掘形埋土
15　10BG7/1 明青灰色粘土層 (10BG5/1 青灰色粗砂多く含む) ：掘形埋土
16　10BG7/1 明青灰色粘土層：掘形埋土
17　N5/灰色細砂層：掘形埋土
18　N5/灰色粘土層：掘形埋土
19　2.5Y7/4 浅黄色シルト層：ベース
20　2.5Y7/2 灰黄色シルト層：ベース
21　N6/灰色中砂層：ベース





第15図　６次４区井戸実測図③(1/40)



ＳＥ6144—Ａ・6144—Ｂ・6161

1　2.5Y5/1 黄灰色シルト層
(2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 25%含む)
：ＳＥ6144—Ａ掘形埋土

2　2.5Y4/1 黄灰色シルト層
(2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 25%含む)
：ＳＥ6144—Ａ掘形埋土

3　5Y5/2 灰オリーブ色シルト層
(2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック 25%含む)
：ＳＥ6144—Ａ掘形埋土

4　10YR5/2 灰黄褐色粗砂層：ＳＥ6144—Ａ掘形埋土

5　10YR5/2 灰黄褐色細砂層：ＳＥ6144—Ａ掘形埋土

6　2.5Y8/4 淡黄色シルト層（粗砂多く含む）
：ＳＥ6144—Ａ井戸枠内埋土

7　2.5Y8/4 淡黄色シルト層（10～20㎝の礫多く含む）
：ＳＥ6144—Ａ井戸枠内埋土

8　2.5Y5/1 黄灰色シルト層：ＳＥ6144—Ａ井戸枠内埋土

9　2.5Y7/2 灰黄色シルト層
(2.5Y5/1 黄灰色シルトブロック多く含む)
：ＳＥ6161 掘形埋土

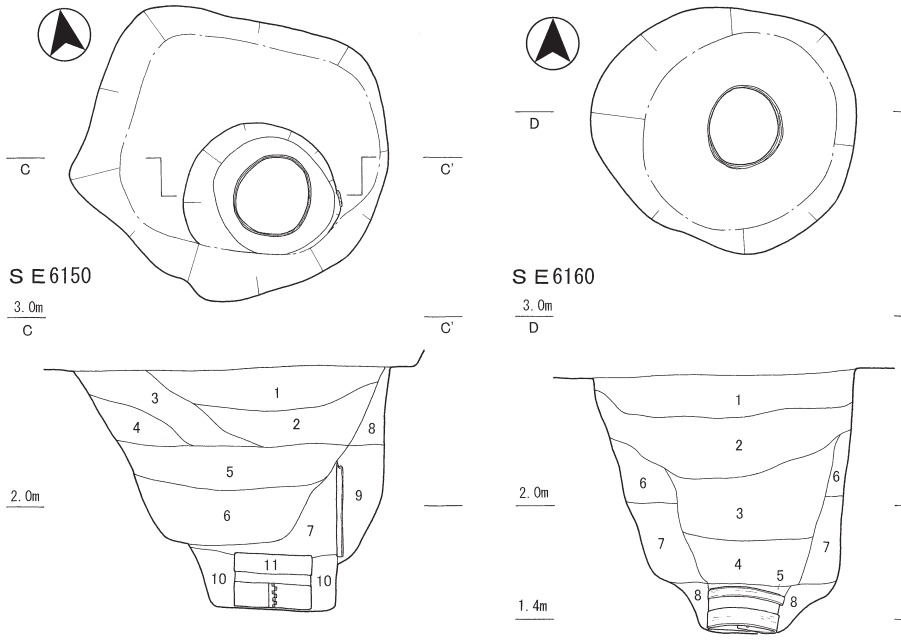
10　2.5Y5/1 黄灰色シルト層
(5Y7/1 灰白色シルトブロック多く含む)
：ＳＥ6161 掘形埋土

11　5Y7/1 灰白色中砂層
(10GY6/1 緑灰色粘土ブロック少し含む)
：ＳＥ6161 掘形埋土

12　10YR7/1 灰白色シルト層
(粗砂多く含む)　：ＳＥ6161 井戸枠内埋土

13　N5/灰色粘土層：ＳＥ6161 井戸枠内埋土

14　N4/灰色粘土層：ＳＥ6161 井戸枠内埋土



ＳＥ6160

1　2.5Y7/1 灰白色シルト層（粗砂多く含む）
：井戸枠抜き取り埋土

2　5Y5/1 灰色シルト層
(2.5Y8/2 灰白色シルトブロック 5%含む)
：井戸枠抜き取り埋土

3　10BG5/1 青灰色粘土層
(5～10㎝の礫多く含む)　：井戸枠抜き取り埋土

4　10BG3/1 暗青灰色粘土層：井戸枠抜き取り埋土

5　N3/暗灰色粘土層：井戸枠内埋土

6　10BG4/1 暗青灰色粘土層
(2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂多く含む)　：掘形埋土

7　10BG4/1 暗青灰色粘土層：掘形埋土

8　5Y6/1 灰色細砂層：掘形埋土

ＳＥ6150

1　10YR5/1 褐灰色シルト層
(5㎜の礫多く含む)　：井戸枠抜き取り埋土

2　10YR4/1 褐灰色シルト層：井戸枠抜き取り埋土

3　2.5Y8/1 灰白色シルト層
(N5/灰色シルトブロック 5%含む)　：井戸枠抜き取り埋土

4　2.5Y5/1 黄灰色シルト層：井戸枠抜き取り埋土

5　2.5Y5/1 黄灰色シルト層
(2.5Y8/1 灰白色シルトブロック少し含む)　：井戸枠抜き取り埋土

6　N5/灰色粘土層（5㎜の礫多く含む）：井戸枠抜き取り埋土

7　2.5Y7/1 灰白色シルト層（N5/灰色シルトブロック 5%含む）：掘形埋土

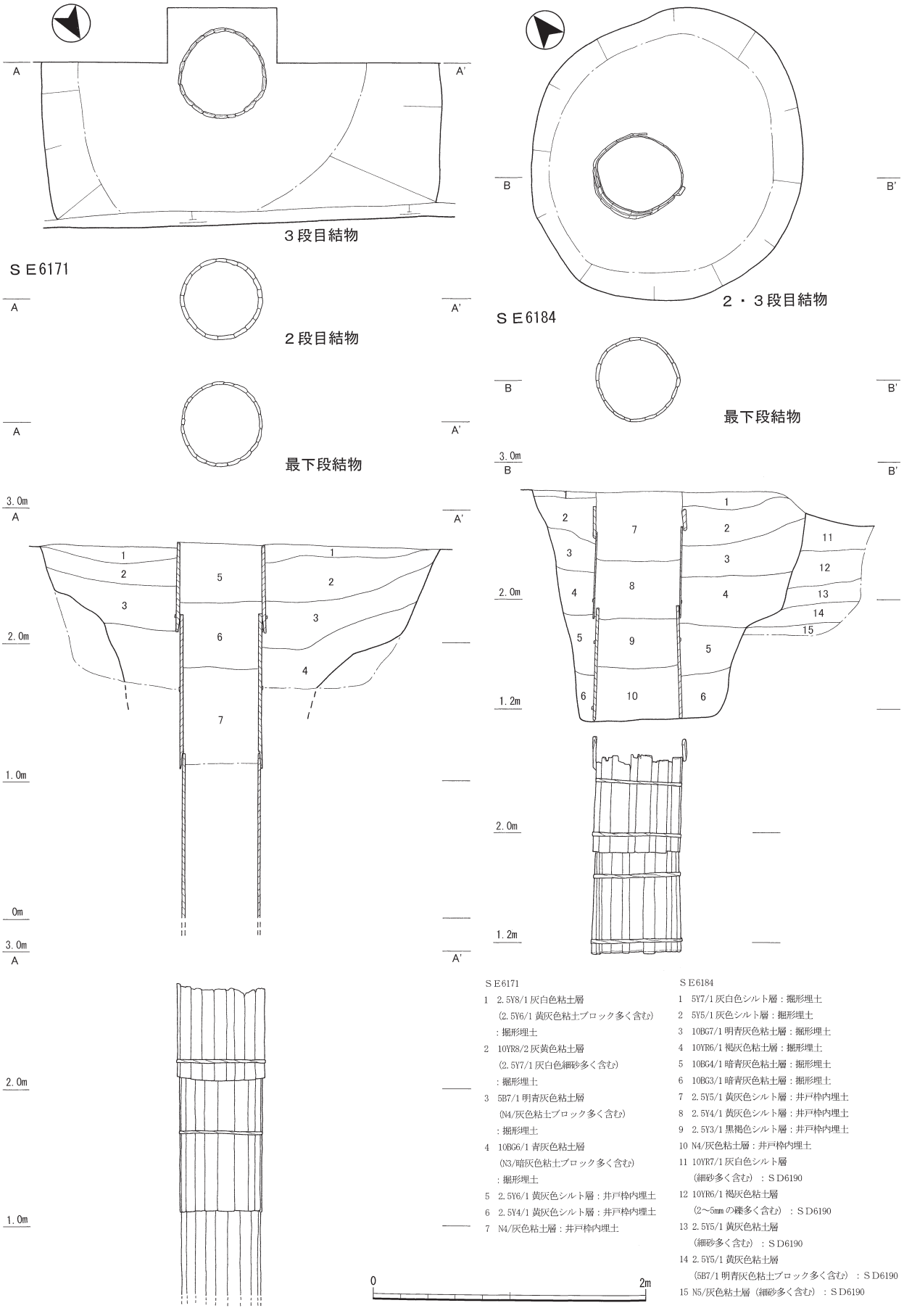
8　2.5Y5/1 黄灰色粘土層：掘形埋土

9　2.5Y7/1 灰白色細砂層：掘形埋土

10　N3/暗灰色粘土層（5㎜の礫多く含む）：井戸枠内埋土

11　N3/暗灰色粘土層：井戸枠内埋土

第16図　６次４区井戸実測図④(1/40)



ＳＥ6171

1　2.5Y8/1 灰白色粘土層
(2.5Y6/1 黄灰色粘土ブロック多く含む)
：掘形埋土

2　10YR8/2 灰黄色粘土層
(2.5Y7/1 灰白色細砂多く含む)
：掘形埋土

3　5B7/1 明青灰色粘土層
(N4/灰色粘土ブロック多く含む)
：掘形埋土

4　10BG6/1 青灰色粘土層
(N3/暗灰色粘土ブロック多く含む)
：掘形埋土

5　2.5Y6/1 黄灰色シルト層：井戸枠内埋土

6　2.5Y4/1 黄灰色シルト層：井戸枠内埋土

7　N4/灰色粘土層：井戸枠内埋土

ＳＥ6184

1　5Y7/1 灰白色シルト層：掘形埋土

2　5Y5/1 灰色シルト層：掘形埋土

3　10BG7/1 明青灰色粘土層：掘形埋土

4　10YR6/1 褐灰色粘土層：掘形埋土

5　10BG4/1 暗青灰色粘土層：掘形埋土

6　10BG3/1 暗青灰色粘土層：掘形埋土

7　2.5Y5/1 黄灰色シルト層：井戸枠内埋土

8　2.5Y4/1 黄灰色シルト層：井戸枠内埋土

9　2.5Y3/1 黒褐色シルト層：井戸枠内埋土

10　N4/灰色粘土層：井戸枠内埋土

11　10YR7/1 灰白色シルト層
(細砂多く含む)　：ＳＤ6190

12　10YR6/1 褐灰色粘土層
(2～5mm の礫多く含む)　：ＳＤ6190

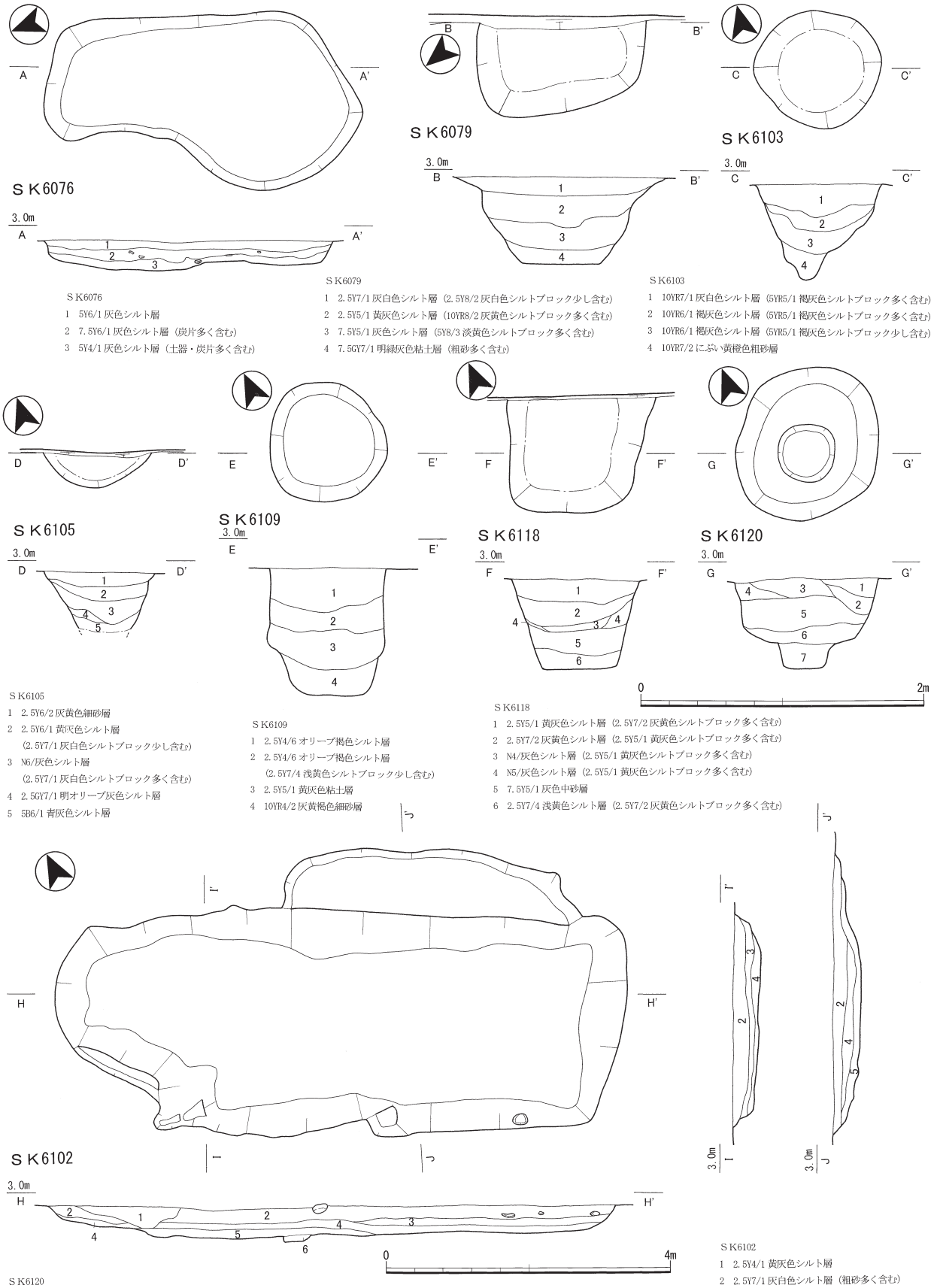
13　2.5Y5/1 黄灰色粘土層
(細砂多く含む)　：ＳＤ6190

14　2.5Y5/1 黄灰色粘土層
(5B7/1 明青灰色粘土ブロック多く含む)　：ＳＤ6190

15　N5/灰色粘土層（細砂多く含む）：ＳＤ6190

0　2m

第17図　６次４区井戸実測図⑤(1/40)



ＳＫ6076
1　5Y6/1 灰色シルト層
2　7.5Y6/1 灰色シルト層（炭片多く含む）
3　5Y4/1 灰色シルト層（土器・炭片多く含む）

ＳＫ6079
1　2.5Y7/1 灰白色シルト層（2.5Y8/2 灰白色シルトブロック少し含む）
2　2.5Y5/1 黄灰色シルト層（10YR8/2 灰黄色シルトブロック多く含む）
3　7.5Y5/1 灰色シルト層（5Y8/3 淡黄色シルトブロック多く含む）
4　7.5GY7/1 明緑灰色粘土層（粗砂多く含む）

ＳＫ6103
1　10YR7/1 灰白色シルト層（5YR5/1 褐灰色シルトブロック多く含む）
2　10YR6/1 褐灰色シルト層（5YR5/1 褐灰色シルトブロック多く含む）
3　10YR6/1 褐灰色シルト層（5YR5/1 褐灰色シルトブロック少し含む）
4　10YR7/2 にぶい黄橙色粗砂層

ＳＫ6105
1　2.5Y6/2 灰黄色細砂層
2　2.5Y6/1 黄灰色シルト層
　(2.5Y7/1 灰白色シルトブロック少し含む)
3　N6/灰色シルト層
　(2.5Y7/1 灰白色シルトブロック多く含む)
4　2.5GY7/1 明オリーブ灰色シルト層
5　5B6/1 青灰色シルト層

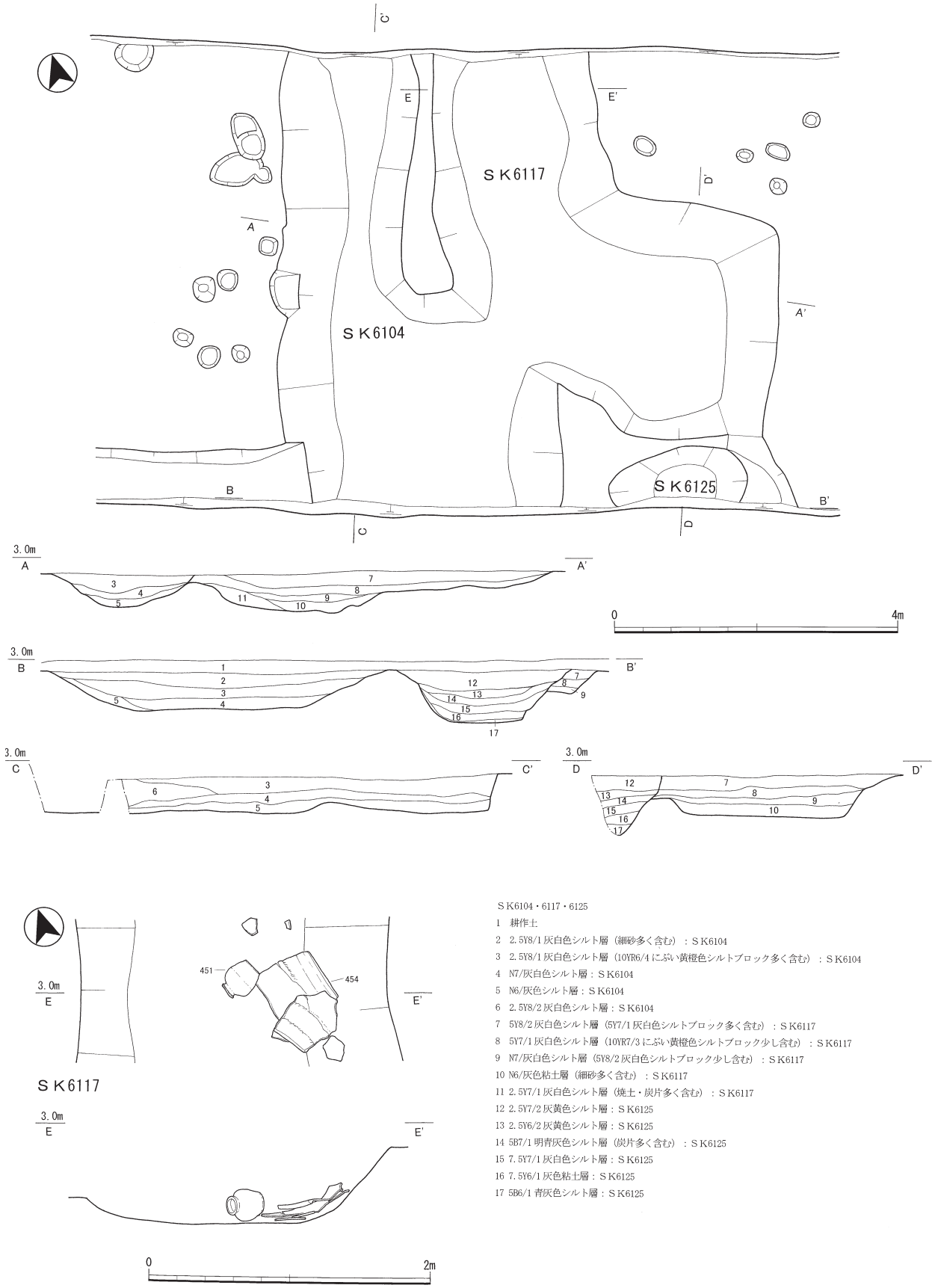
ＳＫ6109
1　2.5Y4/6 オリーブ褐色シルト層
2　2.5Y4/6 オリーブ褐色シルト層
　(2.5Y7/4 浅黄色シルトブロック少し含む)
3　2.5Y5/1 黄灰色粘土層
4　10YR4/2 灰黄褐色細砂層

ＳＫ6118
1　2.5Y5/1 黄灰色シルト層（2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック多く含む）
2　2.5Y7/2 灰黄色シルト層（2.5Y5/1 黄灰色シルトブロック多く含む）
3　N4/灰色シルト層（2.5Y5/1 黄灰色シルトブロック多く含む）
4　N5/灰色シルト層（2.5Y5/1 黄灰色シルトブロック多く含む）
5　7.5Y5/1 灰色中砂層
6　2.5Y7/4 浅黄色シルト層（2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック多く含む）

ＳＫ6120
1　2.5Y7/2 灰黄色シルト層
2　N5/灰色細砂層
3　7.5Y7/1 灰白色シルト層
4　2.5Y7/2 灰黄色シルト層（7.5Y7/1 灰白色シルトブロック多く含む）
5　5Y7/1 灰白色シルト層（2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック少し含む）
6　5B6/1 青灰色シルト層（5PB5/1 青灰色シルトブロック多く含む）
7　5B5/1 青灰色粘土層（細砂多く含む）

ＳＫ6102
1　2.5Y4/1 黄灰色シルト層
2　2.5Y7/1 灰白色シルト層（粗砂多く含む）
3　2.5Y6/1 黄灰色シルト層（炭片多く含む）
4　2.5Y6/1 黄灰色シルト層（炭片少し含む）
5　10BG5/1 青灰色シルト層
6　N5/灰色粘土層

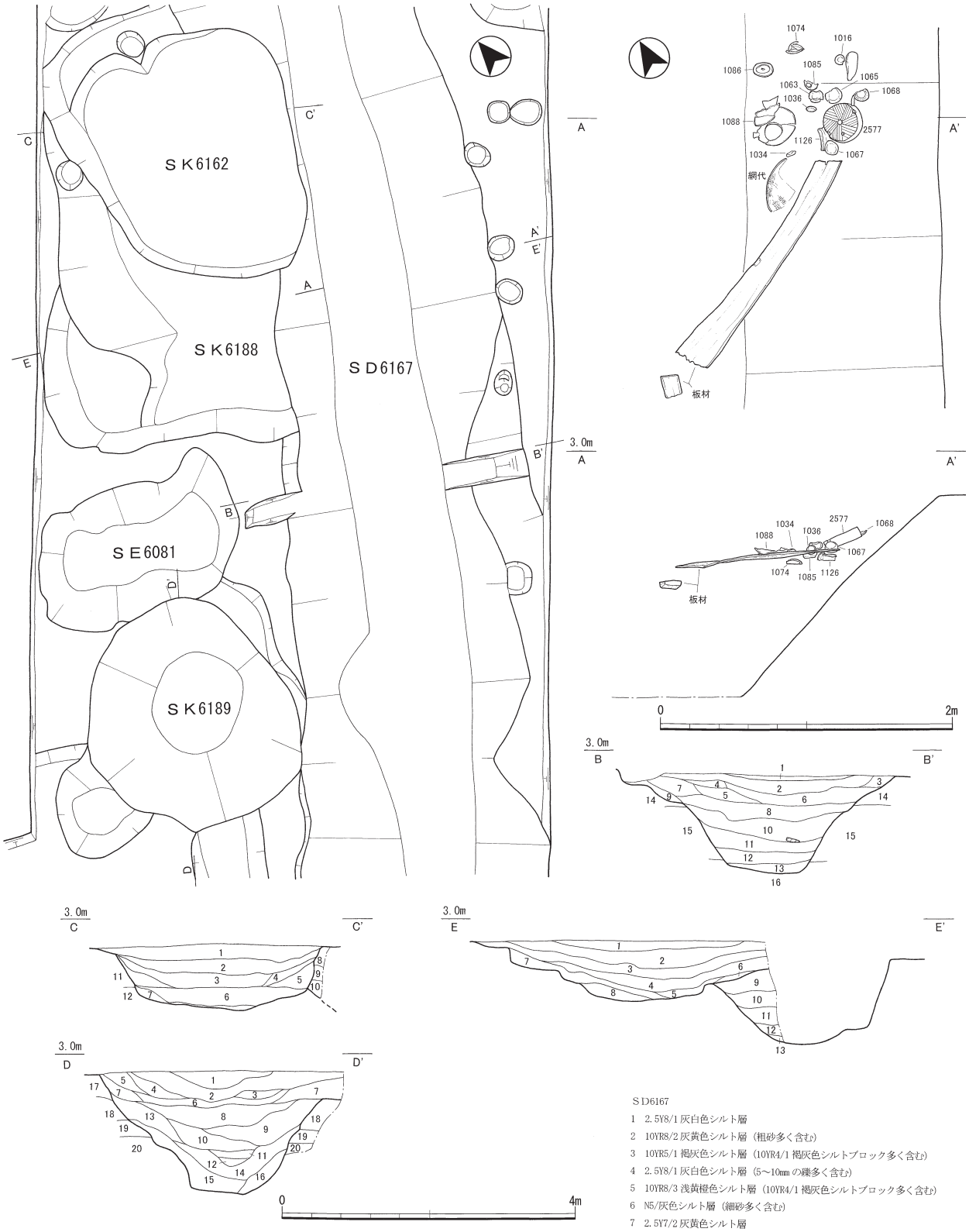
第18図　６次４区土坑実測図①（ＳＫ6109は1/40、他1/80）



SK6104・6117・6125

1　耕作土
2　2.5Y8/1 灰白色シルト層（細砂多く含む）：SK6104
3　2.5Y8/1 灰白色シルト層（10YR6/4 にぶい黄橙色シルトブロック多く含む）：SK6104
4　N7/灰白色シルト層：SK6104
5　N6/灰色シルト層：SK6104
6　2.5Y8/2 灰白色シルト層：SK6104
7　5Y8/2 灰白色シルト層（5Y7/1 灰白色シルトブロック多く含む）：SK6117
8　5Y7/1 灰白色シルト層（10YR7/3 にぶい黄橙色シルトブロック少し含む）：SK6117
9　N7/灰白色シルト層（5Y8/2 灰白色シルトブロック少し含む）：SK6117
10 N6/灰色粘土層（細砂多く含む）：SK6117
11 2.5Y7/1 灰白色シルト層（焼土・炭片多く含む）：SK6117
12 2.5Y7/2 灰黄色シルト層：SK6125
13 2.5Y6/2 灰黄色シルト層：SK6125
14 5B7/1 明青灰色シルト層（炭片多く含む）：SK6125
15 7.5Y7/1 灰白色シルト層：SK6125
16 7.5Y6/1 灰色粘土層：SK6125
17 5B6/1 青灰色シルト層：SK6125

第19図　６次４区土坑実測図②（平面・断面1/80、出土状況1/40）



ＳＫ6162、ＳＤ6167

1　2.5Y8/2 灰白色シルト層
　(2.5Y8/2 灰白色シルトブロック少し含む)　：ＳＫ6162
2　10YR7/3 にぶい黄橙色シルト層
　(5㎜の礫多く含む)　：ＳＫ6162
3　5Y8/2 灰白色粘土層
　(2.5Y5/1 黄灰色粘土ブロック少し含む)　：ＳＫ6162
4　2.5Y5/1 黄灰色粘土層（粗砂多く含む）：ＳＫ6162
5　7.5Y5/1 灰色粘土層：ＳＫ6162
6　N5/灰色粘土層：ＳＫ6162
7　10BG6/1 青灰色粘土層：ＳＫ6162
8　10YR4/1 褐灰色シルト層：ＳＤ6167
9　7.5Y4/1 灰色粘土層（木製品多く含む）：ＳＤ6167
10　7.5Y4/1 灰色粘土層：ＳＤ6167
11　2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト層：ベース
12　10BG7/1 明青灰色粘土層：ベース

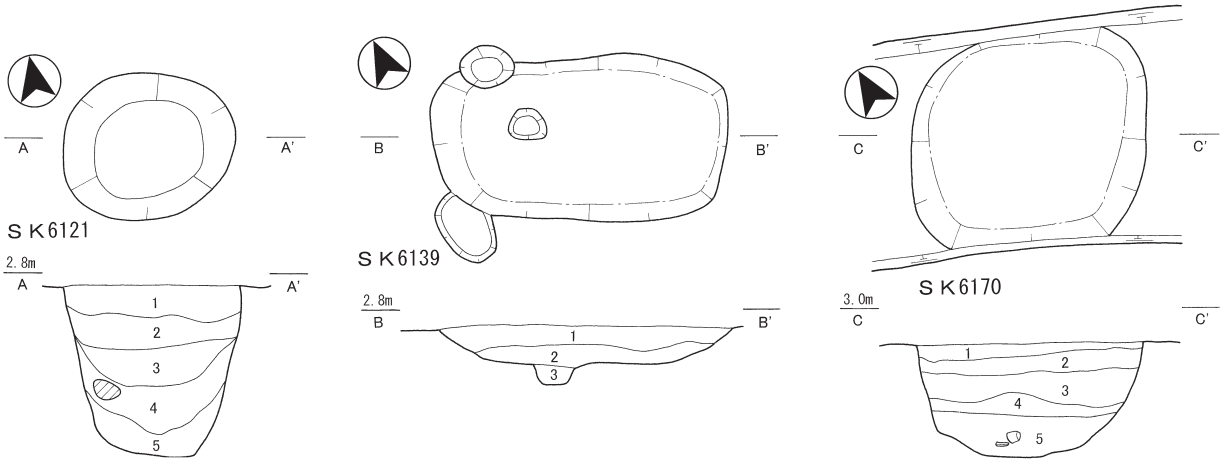
ＳＤ6167

1　2.5Y8/1 灰白色シルト層
2　10YR8/2 灰黄色シルト層（粗砂多く含む）
3　10YR5/1 褐灰色シルト層（10YR4/1 褐灰色シルトブロック多く含む）
4　2.5Y8/1 灰白色シルト層（5～10㎜の礫多く含む）
5　10YR8/3 浅黄橙色シルト層（10YR4/1 褐灰色シルトブロック多く含む）
6　N5/灰色シルト層（細砂多く含む）
7　2.5Y7/2 灰黄色シルト層
8　5Y5/1 灰色粘土層（木片多く含む）
9　10YR4/1 褐灰色シルト層
10　7.5Y4/1 灰色粘土層（木製品多く含む）
11　7.5Y4/1 灰色粘土層
12　2.5GY7/1 明オリーブ灰色粘土層（10GY7/1 明緑灰色粘土ブロック多く含む）
13　N6/灰色粘土層（木製品多く含む）
14　2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト層：ベース
15　10GY8/1 明緑色粘土層：ベース
16　N6/灰色粘土層：ベース

第20図　６次４区土坑・溝実測図①（ＳＤ6167は1/40、他1/80）

ＳＫ6189
1　10YR8/1 灰白色シルト層
2　2.5Y8/3 淡黄色シルト層
3　10YR5/1 褐灰色シルト層（2.5Y8/3 淡黄色シルトブロック少し含む）
4　10YR6/1 褐灰色シルト層（2.5Y8/3 淡黄色シルトブロック少し含む）
5　2.5Y8/3 淡黄色シルト層（10YR6/1 褐灰色シルトブロック多く含む）
6　10YR6/3 にぶい黄橙色シルト層（10YR7/4 にぶい黄橙色シルトブロック多く含む）
7　2.5Y5/1 黄灰色シルト層（2.5Y4/1 黄灰色シルトブロック少し含む）
8　N6/灰色粘土層（2.5Y5/2 暗灰黄色シルトブロック多く含む）
9　N5/灰色粘土層
10 N5/灰色粘土層（10GY8/1 明緑色粘土ブロック多く含む）
11 7.5Y5/1 灰色粘土層
12 N6/灰色細砂層
13 N6/灰色細砂層（2.5Y8/2 灰白色シルトブロック少し含む）
14 7.5Y5/1 灰色粘土層（10YR7/2 にぶい黄橙色粘土ブロック少し含む）
15 N6/灰色粘土層（10YR7/2 にぶい黄橙色粘土ブロック多く含む）
16 N6/灰色粘土層
17　2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト層：ベース
18 7.5Y8/1 灰白色シルト層：ベース
19 10GY8/1 明緑色シルト層：ベース
20 N6/灰色細砂層：ベース

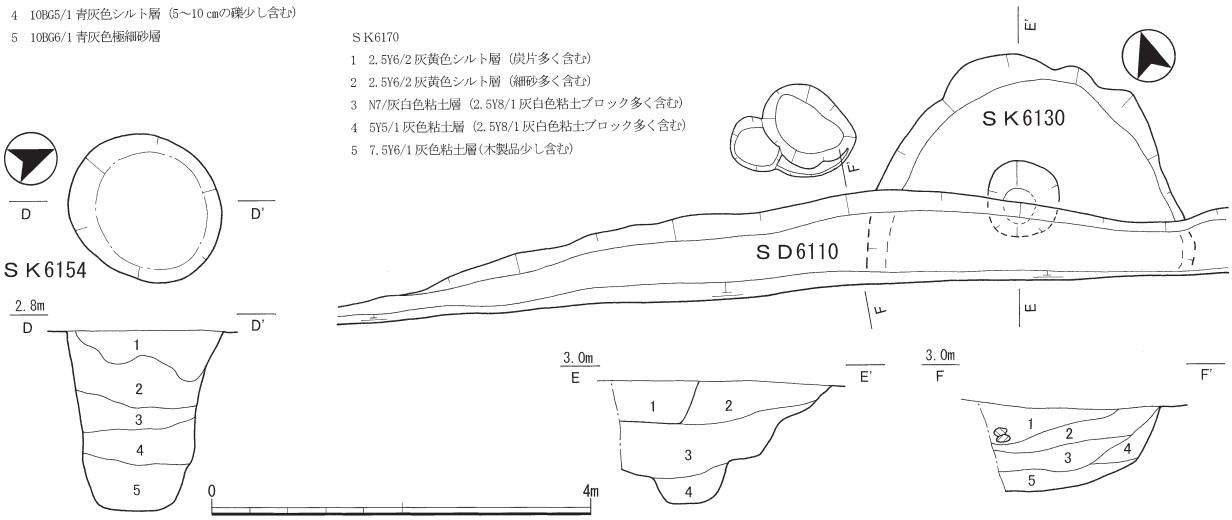
ＳＫ6188、ＳＤ6167
1　2.5Y7/1 灰白色シルト層（細砂多く含む）：ＳＫ6188
2　2.5Y7/1 灰白色シルト層（2.5Y8/2 灰白色シルトブロック多く含む）：ＳＫ6188
3　2.5Y6/1 黄灰色極細砂層（2.5Y8/2 灰白色シルトブロック多く含む）：ＳＫ6188
4　N6/灰色粘土層（2.5Y8/2 灰白色シルトブロック少し含む）：ＳＫ6188
5　N5/灰色粘土層：ＳＫ6188
6　7.5Y8/1 灰白色粘土層：ＳＫ6188
7　2.5Y6/2 灰黄色粘土層（木片多く含む）：ＳＫ6188
8　2.5Y5/1 黄灰色粘土層（炭片少し含む）：ＳＫ6188
9　10YR4/1 褐灰色シルト層：ＳＤ6167
10 7.5Y4/1 灰色粘土層（木製品多く含む）：ＳＤ6167
11 7.5Y4/1 灰色粘土層：ＳＤ6167
12 2.5GY7/1 明オリーブ灰色粘土層（10GY7/1 明緑灰色粘土ブロック多く含む）：ＳＤ6167
13 N6/灰色粘土層（木製品多く含む）：ＳＤ6167



ＳＫ6121
1　5Y5/1 灰色シルト層（炭片少し含む）
2　N5/灰色シルト層（細砂多く含む）
3　N5/灰色シルト層
4　10BG5/1 青灰色シルト層（5～10 cmの礫少し含む）
5　10BG6/1 青灰色極細砂層

ＳＫ6139
1　2.5Y7/1 灰白色シルト層
2　2.5Y6/2 灰黄色シルト層（5mmの礫多く含む）
3　2.5Y5/1 黄灰色シルト層

ＳＫ6170
1　2.5Y6/2 灰黄色シルト層（炭片多く含む）
2　2.5Y6/2 灰黄色シルト層（細砂多く含む）
3　N7/灰白色粘土層（2.5Y8/1 灰白色粘土ブロック多く含む）
4　5Y5/1 灰色粘土層（2.5Y8/1 灰白色粘土ブロック多く含む）
5　7.5Y6/1 灰色粘土層（木製品少し含む）



ＳＫ6154
1　10YR3/2 黒褐色シルト層（2～5mmの礫少し含む）
2　10YR3/2 黒褐色極細砂層（10YR4/4 褐色シルトブロック多く含む）
3　2.5Y4/2 暗灰黄色極細砂層
4　2.5Y4/1 黄灰色粘土層
5　10BG4/1 暗青灰色粘土層

ＳＫ6130
1　ＳＤ6110 埋土
2　N6/灰色シルト層
（7.5Y7/1 灰白色シルトブロック多く含む）
3　5B5/1 青灰色粘土層
4　7.5Y6/1 灰色中砂層

ＳＤ6110
1　2.5Y7/1 灰白色シルト層
（2.5Y8/4 淡黄色シルトブロック多く含む）
2　5Y5/1 灰色シルト層（炭片少し含む）
3　5Y5/2 灰オリーブ色シルト層（土器・炭片少し含む）
4　5Y7/2 灰白色シルト層
5　N6/灰色粘土層

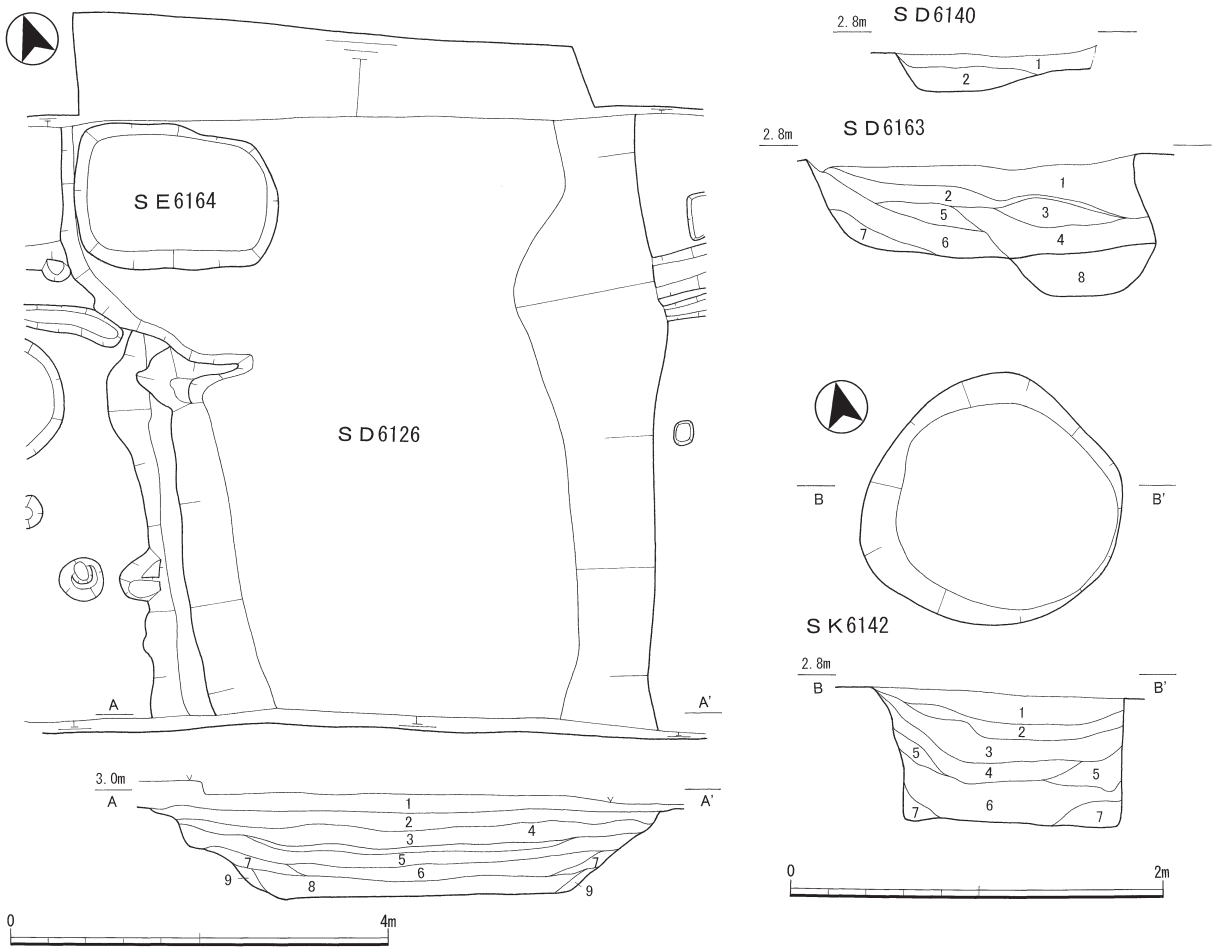
第21図　６次４区土坑・溝実測図②（ＳＤ6110は1/40、他1/80）

調査することができなかった。ＳＤ6012出土と報告した江戸時代の遺物は、調査時の混じり込み資料である。なお、３・５・６・７区で検出したＳＤ6012の出土資料についても、江戸時代のものは調査時の混じり込みと判断している。

ＳＤ6110（第21図）　Ｔｏ・ｐ８～11で検出した溝で、長さ14.0m以上、幅0.77m以上、深さ0.43mで、ＳＥ6130の一部を削平する。埋土中層に土器・炭片が含まれる。周辺地割との関連から区画溝に相当すると考えられる。出土遺物には南伊勢系土師器、亀形の合子がある。遺構の時期は戦国期以降である。

ＳＤ6122（第10図）　Ｔｎ・ｏ３で検出した溝で、長さ5.5m以上、幅0.21m、深さ0.89mである。ＳＤ6126と並行しており、地割溝や区画溝にあたると考えられる。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＤ6126（第22図）　Ｔｎ・ｏ１・２で検出した溝で、長さ6.2m以上、幅6.1m、深さ1.21mである。断面形は底部が平坦で、側面の立ち上がりは緩やかである。ＳＤ6167と同様に、北側はＳＤ6012に繋が



ＳＤ6126
1　耕作土
2　2.5Y7/3 浅黄色シルト層（2.5Y7/1 灰白色細砂多く含む）
3　2.5Y7/1 灰白色細砂層（2.5Y7/3 浅黄色シルトブロック多く含む）
4　2.5Y6/1 黄灰色極細砂層（2.5Y8/1 灰白色粘土ブロック多く含む）
5　N6/灰色細砂層
6　10BG7/1 明青灰色シルト層（2.5Y8/1 灰白色粘土ブロック多く含む）
7　N6/灰色粘土層（極細細砂を多く含む）
8　N6/灰色粘土層（木製品を多く含む）
9　5B7/1 明青灰色粘土層

ＳＤ6140
1　10YR5/1 褐灰色シルト層
2　10YR5/1 褐灰色シルト層（10YR8/2 灰黄色シルトブロック多く含む）

ＳＤ6163
1　2.5Y7/1 灰白色シルト層
（10YR6/2 灰黄褐色シルトブロック多く含む）：ＳＤ6163
2　N7/灰白色シルト層：ＳＤ6163
3　10YR5/2 灰黄褐色極粗砂層
（2.5Y8/2 灰白色シルトブロック多く含む）：ＳＤ6163
4　N7/灰白色粘土層（粗砂多く含む）：ＳＤ6163
5　N5/灰色粘土層：ＳＤ6163
6　2.5Y8/2 灰白色粘土層
（N5/灰色粘土ブロック少し含む）：ＳＤ6163
7　N7/灰白色粘土層：ＳＤ6163
8　2.5Y8/2 灰白色粘土層
（N7/灰白色粘土ブロック多く含む）：土坑

ＳＫ6142
1　2.5Y5/1 黄灰色シルト層
（粗砂多く含む）
2　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト層
（2.5Y7/4 浅黄色シルトブロック少し含む）
3　N6/灰色シルト層（粗砂多く含む）
4　10YR4/2 灰黄褐色シルト層（5mm の礫多く含む）
5　2.5Y7/4 浅黄色シルト層
6　N5/灰色粘土層
（5Y7/2 灰白色粘土ブロック・木製品少し含む）
7　10GY8/1 明緑色粘土層（木製品少し含む）

第22図　６次４区土坑・溝実測図③（ＳＫ6142は1/40、他1/80）

る可能性があり、周辺地割との関連から条里坪境や区画溝に相当すると考えられる。出土遺物には南伊勢系土師器、磁器染付小皿、瓦質土器、漆器椀、牛骨など多様な遺物がある。遺構の時期は戦国期である。

ＳＤ6127（第10図）　Ｔｎ・ｏ２・３で検出した溝で、長さ3.6m以上、幅0.32m、深さ0.07mである。ＳＤ6128と一連の遺構とみられる。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＤ6128（第10図）　Ｔｎ２・３で検出した溝で、長さ3.8m以上、幅0.46m、深さ0.06mである。ＳＤ6127と一連の遺構とみられる。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＤ6134（第10図）　Ｒｎ22～25で検出した溝で、長さ9.8m以上、幅0.49m、深さ0.12mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＤ6137（第10図）　Ｒｍ～ｏ22で検出した溝で、長さ8.0m以上、幅1.17m、深さ0.18mである。出土遺物には平安時代末期～鎌倉時代の南伊勢系土師器、山茶椀がある。

ＳＤ6140（第10・22図）　Ｒｍ23～Ｔｎ１で検出した溝で、長さ10.6m以上、幅1.21m、深さ0.3mである。南伊勢系土師器が出土し、遺構の時期は室町時代と考えられる。

ＳＤ6152（第10図）　Ｒｆ22～24で検出した溝で、長さ6.5m以上、幅0.65m、深さ0.11mである。出土遺物には平安時代前期の土師器杯がある。

ＳＤ6163（第10・22図）　Ｔｏ19～22で検出した溝で、長さ8.8m以上、幅1.83m、深さ0.72mである。断面形は底部から側面にかけて緩やかに立ち上がる。出土遺物には南伊勢系土師器、土錘があり、遺構の時期は戦国期である。

ＳＤ6165（第10図）　Ｔｏ・ｐ21・22で検出した溝で、長さ8.6m以上、幅0.95m、深さ0.32mである。断面形は底部から側面にかけて弓形を呈する。出土遺物には鎌倉時代の南伊勢系土師器、山茶椀がある。

ＳＤ6167（第20・21図）　Ｔｌ23～ｕ20で検出した溝で、長さ40.0m以上、幅3.0m、深さ1.3mである。断面形は底部が平坦で、側面は緩やかに立ち上がる。溝北側は平安時代前期～戦国期の自然流路ＳＤ6012に繋がり、周辺地割との関連から条里坪境や区画溝に相当すると考えられる。出土遺物としては埋土６・８層で南伊勢系土師器、石臼、網代、板材が一括で出土した。10層から挽身や漆器といった木製品が多く出土した。周辺地割との関連から条里坪境や区画溝に相当すると考えられる。遺構の時期は戦国期と考えられる。

ＳＤ6186（第10図）　Ｖｏ・ｐ３で検出した溝で、長さ2.8m以上、幅0.75m、深さ0.36mである。出土遺物には鎌倉時代の山茶椀がある。

ＳＤ6190（第23図）　Ｖｐ・ｑ３・４で検出した溝で、長さ10m以上、幅1.8m以上、深さ0.94mである。北側がＳＤ6012と繋がり、周辺地割との関連から条里区画溝に相当すると考えられる。遺構の時期は戦国期である。

（２）江戸時代の遺構

①井戸

ＳＥ6124（第13図）　Ｔｏ４・５で検出した井戸で、掘形平面は不整楕円形となり、規模2.34×2.19m、深さ1.6mである。井戸枠は結物を２段以上積み重ね、結物外周に竹製タガを巡らせ楔で締める構造である。最下段は直径0.48m、高さ0.63m、２段目は直径0.48m、高さ0.88m以上となり、最下段よりも２段目の方が高さのある結物が用いられる。掘形底部には曲物などの水溜施設は確認できない。地下水位は標高1.15m程で湧水層に達する。埋土は大きく２層に分けられ井戸枠内埋土、掘形埋土となる。井戸枠内から完形の瀬戸・美濃産陶器が出土し、遺構の時期は18世紀中頃と考えられる。

ＳＥ6144－Ａ（第16図）　Ｒｈ・ｉ23・24で検出した井戸で２基が重複しており、ＳＥ6144－Ｂが戦国期、ＳＥ6144－Ａが江戸時代のものである。地下水位は標高1.4m程で湧水層に達する。ＳＥ6144－Ａは規模2.8×1.94m以上、深さ1.37mである。結物と陶製井戸枠を組み合わせた構造で、最下段の結物は１段組みでスギ製板材13点の外周に竹製タガを巡らせ楔で締める構造である。陶製井戸枠は常滑産焼き締め陶器で、井戸枠専用として作成されたものである。掘形底部には曲物などの水溜施設は確認できない。埋土は大きく２層に分けられ井戸枠内埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は18世紀前半と考えら

れる。

ＳＥ6171（第17図）　Ｔｑ・ｒ24・25で検出した井戸で、南側半分と北側の一部が調査区外となるため、完掘できなかった。掘形平面は円形になるとみられ規模2.92×1.35m以上、深さ1.08m以上である。井戸枠は結物を３段積み重ね、結物外周に竹製タガを巡らせ楔で締める構造である。最下段は直径0.58m、高さ1.2m以上、２段目は直径0.6m、高さ1.14m、３段目は直径0.62m、高さ0.74m以上である。完掘できないため地下水位は不明である。埋土は大きく２層に分けられ井戸枠内埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は19世紀前半と考えられる。

ＳＥ6184（第17図）　Ｖｐ３・４で検出した井戸で、掘形平面は円形となり、規模2.12×1.97m、深さ1.71mである。井戸枠は結物を３段積み重ね、結物外周に竹製タガを巡らせ楔で締める構造である。最下段は直径0.6m、高さ0.83m、２段目は直径0.62m、高さ0.7m、３段目は残存状況が悪く直径は不明、高さ0.22m以上である。最下段と２段目の板材はヒノキ製のものである。地下水位は標高1.1m程で湧水層に達する。埋土は大きく２層に分けられ井戸枠内埋土、掘形埋土となる。井戸枠内埋土から陶製井戸枠が出土しており、本来は結物と陶製井戸枠を組み合わせた構造と考えられる。この他に完形の陶器、磁器や仏餉具と思われる真鍮製台付小鉢、横櫛が出土し、遺構の時期は18世紀後半と考えられる。

ＳＥ6192（第14図）　Ｖｏ４で検出した井戸である。ＳＤ6012と重複しているが、調査時に遺構を区別して検出できなかった。掘形底部には曲物１基を据えており直径0.38m、高さ0.42mである。出土遺物は土師器小片のみである。ＳＤ6012の埋没後に形成されたことから、遺構の時期は江戸時代と考える。

②土坑

ＳＫ6076（第18図）　Ｔｏ22・ｐ21・22で検出した不整形土坑で、ＳＤ6167を削平する。規模4.07×2.55m、深さ0.42mである。埋土からは二次的に火を受けた陶器、磁器や炭片、壁土とみられる焼土塊が出土した。火災により焼失した家財を廃棄した片付け土坑と考えられ、こうした土坑は４区や７区においても確認できることから、同時期に周辺家屋で火災があったことが想定される。遺構の時期は18世紀後半～19世紀前半である。

ＳＫ6078（第10図）　Ｔｎ・ｏ22で検出した隅丸方形土坑で、規模1.85×1.8m、深さ0.2mで、ＳＤ6167の一部を削平する。出土遺物には瀬戸・美濃産陶器がある。

ＳＫ6079（第18図）　Ｔｌ・ｍ24で検出した土坑で、東側は調査区外であるが、隅丸方形になるとみられる。調査区の制約で完掘できなかったが、規模2.34×1.26m以上、深さ1.21m以上となり、井戸の可能性もある。土師器や犬形土製品が出土し、遺構の時期は江戸時代のものとみられる。

ＳＫ6103（第18図）　Ｔｏ・ｐ15で検出した円形土坑で、規模1.78×1.67m、深さ1.35mである。埋土にはブロック状の堆積が観察でき、周辺の井戸と同規模であるが、湧水が確認できないため土坑とした。

ＳＫ6115（第10図）　Ｖｌ・ｍ３で検出した不整形土坑で、規模2.66×1.52m以上、深さ0.3mであり、ＳＤ6012の一部を削平している。出土遺物には瀬戸・美濃産陶器、京・信楽系陶器がある。

ＳＫ6125（第19図）　Ｔｐ13で検出した土坑でＳＫ6117を削平しており、規模1.98×0.7m以上、深さ0.56mであり、ＳＫ6117を削平している。出土遺物には江戸時代とみられる磁器片がある。

ＳＫ6138（第10図）　Ｒｏ23・24で検出した土坑で、規模4.6×0.94m以上、深さ0.26mである。出土遺物には土師器、瀬戸・美濃産陶器がある。

ＳＫ6148（第10図）　Ｒｋ23で検出した土坑で、規模0.76×0.61m以上、深さ0.18mである。出土遺物には土師器がある。

ＳＫ6162（第20図）　Ｔｌ・ｍ22・23で検出した不整形土坑で、規模3.4×2.8m、深さ0.92mである。遺構の時期は18世紀後半と考えられる。

ＳＫ6170（第21図）　Ｔｑ23で検出した土坑で南側は調査区外となるが、隅丸方形になるとみられる。規模1.2×1.2m以上、深さ0.6mである。断面形は底部から側面にかけて緩やかに立ち上がる。埋土最下層からや陶器、磁器や漆器椀が出土し、遺構の時期は18世紀中頃以降と考えられる。

ＳＫ6172（第10図）　Ｖｒ２で検出した土坑で、規模0.64×0.31m以上、深さ0.25mである。江戸時代の陶器片が出土している。

ＳＫ6175（第10図）　Ｖｒ２で検出した土坑で、規模1.38×0.79m以上、深さ0.53mである。出土遺物には土師器、瀬戸・美濃産陶器がある。

ＳＫ6180（第23図）　Ｖｐ～ｒ３で検出した土坑で、東側と西側の一部は調査区外となり、規模5.23×3.0m以上、深さ0.39mである。断面形は底部が平坦で、側面が緩やかに立ち上がる。出土遺物は土師器や陶器小片があり、戦国期のＳＤ6190を削平するため、遺構の時期は江戸時代と考えられる。

ＳＫ6181（第10図）　Ｖｒ１で検出した土坑で、規模1.4×0.81m以上、深さ0.21mである。江戸時代の陶器片が出土している。

ＳＫ6185（第10図）　Ｖｐ４で検出した土坑で、規模4.2×0.7m以上、深さ0.2mである。出土遺物には土師器、瀬戸・美濃産陶器がある。

ＳＫ6188（第20図）　Ｔｍ・ｎ22で検出した土坑で北側はＳＫ6162に削平され、規模5.9×2.95m以上、深さ0.82mである。土師器や陶器、磁器、平鍬が出土し、遺構の時期は18世紀後半～19世紀前半と考えられる。

③溝

ＳＤ6077（第10図）　Ｔｋ25で検出した溝で、長さ1.2m、幅0.2m、深さ0.2mでＳＤ6012の一部を削平する。出土遺物には土師器、磁器がある。

ＳＤ6173（第10図）　Ｔｑ23～Ｖｒ１で検出した溝で、長さ11.5m、幅1.2m以上、深さ0.31mである。出土遺物には土師器、瀬戸・美濃産陶器がある。

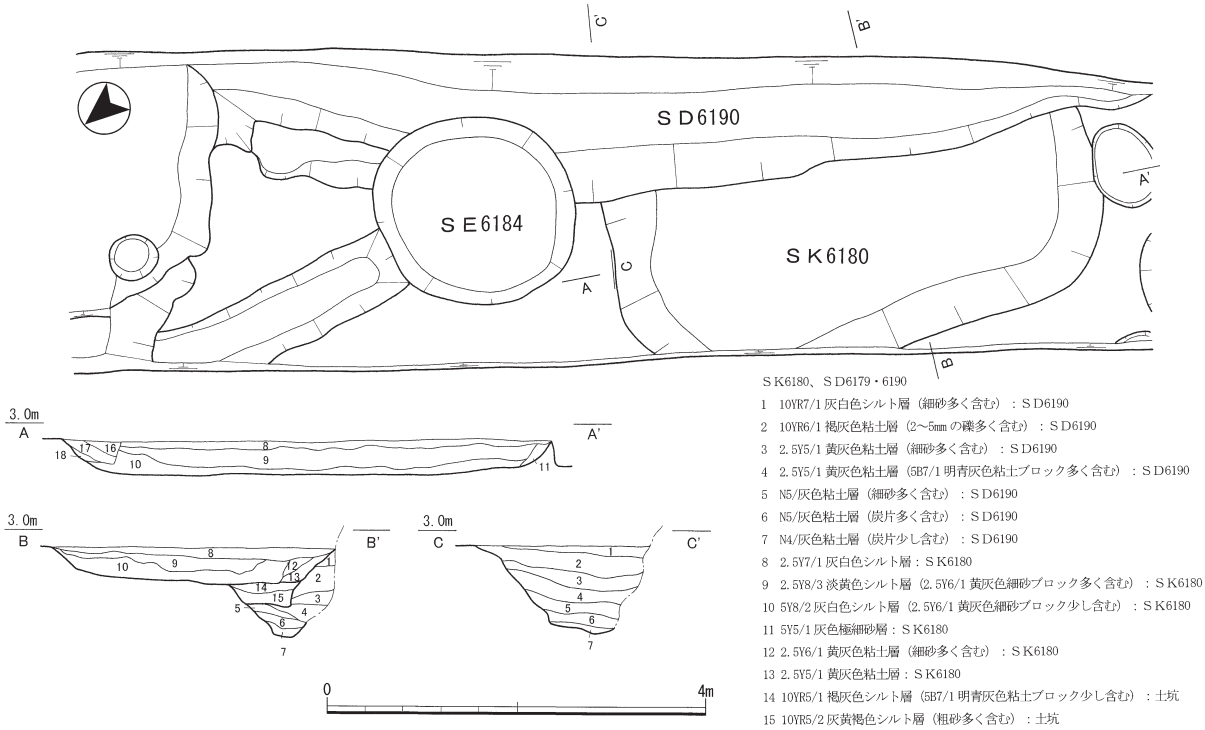
6　６次５区、７次３区

調査区は事業地中央に位置し、６次４区の北側となる（第10・12・50図）。５次７－９－４区東側と６次５区、７次３区は隣接している。調査では自然流路ＳＤ6012や平安時代～室町時代の井戸、土坑、溝を検出した。

（１）飛鳥時代～奈良時代の遺構

①土坑

ＳＫ6082（第10図）　Ｖｃ・ｄ８で検出した不整楕円形土坑で、規模2.55×1.55m、深さ0.15mである。出土遺物には土師器がある。



ＳＫ6180、ＳＤ6179・6190
1　10YR7/1 灰白色シルト層（細砂多く含む）：ＳＤ6190
2　10YR6/1 褐灰色粘土層（2～5mmの礫多く含む）：ＳＤ6190
3　2.5Y5/1 黄灰色粘土層（細砂多く含む）：ＳＤ6190
4　2.5Y5/1 黄灰色粘土層（5B7/1 明青灰色粘土ブロック多く含む）：ＳＤ6190
5　N5/灰色粘土層（細砂多く含む）：ＳＤ6190
6　N5/灰色粘土層（炭片多く含む）：ＳＤ6190
7　N4/灰色粘土層（炭片少し含む）：ＳＤ6190
8　2.5Y7/1 灰白色シルト層：ＳＫ6180
9　2.5Y8/3 淡黄色シルト層（2.5Y6/1 黄灰色細砂ブロック多く含む）：ＳＫ6180
10　5Y8/2 灰白色シルト層（2.5Y6/1 黄灰色細砂ブロック少し含む）：ＳＫ6180
11　5Y5/1 灰色極細砂層：ＳＫ6180
12　2.5Y6/1 黄灰色粘土層（細砂多く含む）：ＳＫ6180
13　2.5Y5/1 黄灰色粘土層：ＳＫ6180
14　10YR5/1 褐灰色シルト層（5B7/1 明青灰色粘土ブロック少し含む）：土坑
15　10YR5/2 灰黄褐色シルト層（粗砂多く含む）：土坑
16　5Y7/1 灰白色シルト層：ＳＤ6179
17　5Y7/1 灰白色シルト層（5B7/1 明青灰色粘土ブロック少し含む）：ＳＤ6179
18　2.5Y8/2 灰白色粘土層（粗砂多く含む）：ＳＤ6179

第23図　６次４区土坑・溝実測図④(1/80)

ＳＫ6098（第10図）　Ｖｅ１で検出した土坑で、規模0.95×0.57m以上、深さ0.16mである。出土遺物には土師器がある。

ＳＫ6099（第10図）　Ｖｅ１で検出した土坑で、規模1.89×0.54m以上、深さ0.2mである。出土遺物には土師器がある。

（２）平安時代～室町時代の遺構

①井戸

ＳＥ6083（第10図）　Ｖｃ７・８で検出した井戸で、５次調査ＳＥ5326と同一遺構である。掘形平面は円形で、規模3.53×3.25m、深さ1.44mである。５次調査において結物板材が１点出土しており、井戸枠は抜き取られたと考えられる。南伊勢系土師器、青磁碗が出土し、遺構の時期は戦国期と考えられる。

ＳＥ6085（第24図）　Ｖｄ４で検出した井戸で、掘形平面は円形で、規模1.59×1.4m、深さ1.1mである。井戸枠、水溜施設は確認できない。地下水位は標高1.7m程で湧水層に達する。南伊勢系土師器が出土し、遺構の時期は戦国期と考えられる。

ＳＥ6091（第24図）　Ｖｅ・ｆ５・６で検出した井戸で南側が調査区外となるが、掘形平面は円形とみられ、規模3.1×1.9m以上、深さ1.2mである。井戸枠、水溜施設は確認できない。地下水位は標高1.4m程で湧水層に達する。遺構の時期は戦国期と考えられる。

ＳＥ6092（第24図）　Ｖｇ１・２で検出した井戸で南側が調査区外となり、調査の制約から完掘できなかった。掘形平面は円形とみられ、規模1.75×1.47m、深さ2.2m以上である。井戸枠は結物を３段積み重ねているとみられ、結物外周に竹製タガを巡らせ楔で締める構造である。最下段は調査の制約から図化できなかった。２段目は直径0.54m、高さ0.9m、３段目は直径0.56m、高さ0.88mである。板材は両段とも全てスギ材を用いている。完掘しておらず、地下水位は不明である。埋土は大きく２層に分けられ井戸枠内埋土、掘形埋土となる。出土遺物には完形の南伊勢系土師器があり、遺構の時期は戦国期と考えられる。

②土坑

ＳＫ6067（第10図）　Ｖｆ７で検出した土坑で、規模1.26×0.65m以上、深さ0.09mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＫ6070（第10図）　Ｖｇ１で検出した楕円形土坑で、規模0.98×0.86m、深さ0.03mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＫ6086（第10図）　Ｖｆ１で検出した不整形土坑で、規模1.66×0.78m、深さ0.06mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＫ6088（第10図）　Ｖｅ１～ｆ２で検出した楕円形土坑で、規模1.11×0.64m、深さ0.17mである。出土遺物には鎌倉時代の土師器、山茶椀がある。

ＳＫ6089（第10図）　Ｖｅ・ｆ１で検出した楕円形土坑で、規模2.88×2.62m以上、深さ0.15mである。平安時代末期の南伊勢系土師器、山茶椀が出土した。

ＳＫ6090（第10図）　Ｖｇ１で検出した楕円形土坑で、規模1.35×1.1m以上、深さ0.23mである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6093（第10図）　Ｖｈ１で検出した不整楕円形土坑で、規模1.66×0.87m、深さ0.21mである。出土遺物には中世とみられる土師器・陶器片がある。

ＳＫ6094（第10図）　Ｖｈ１で検出した不整形土坑で、規模2.55×0.84m、深さ0.05mである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

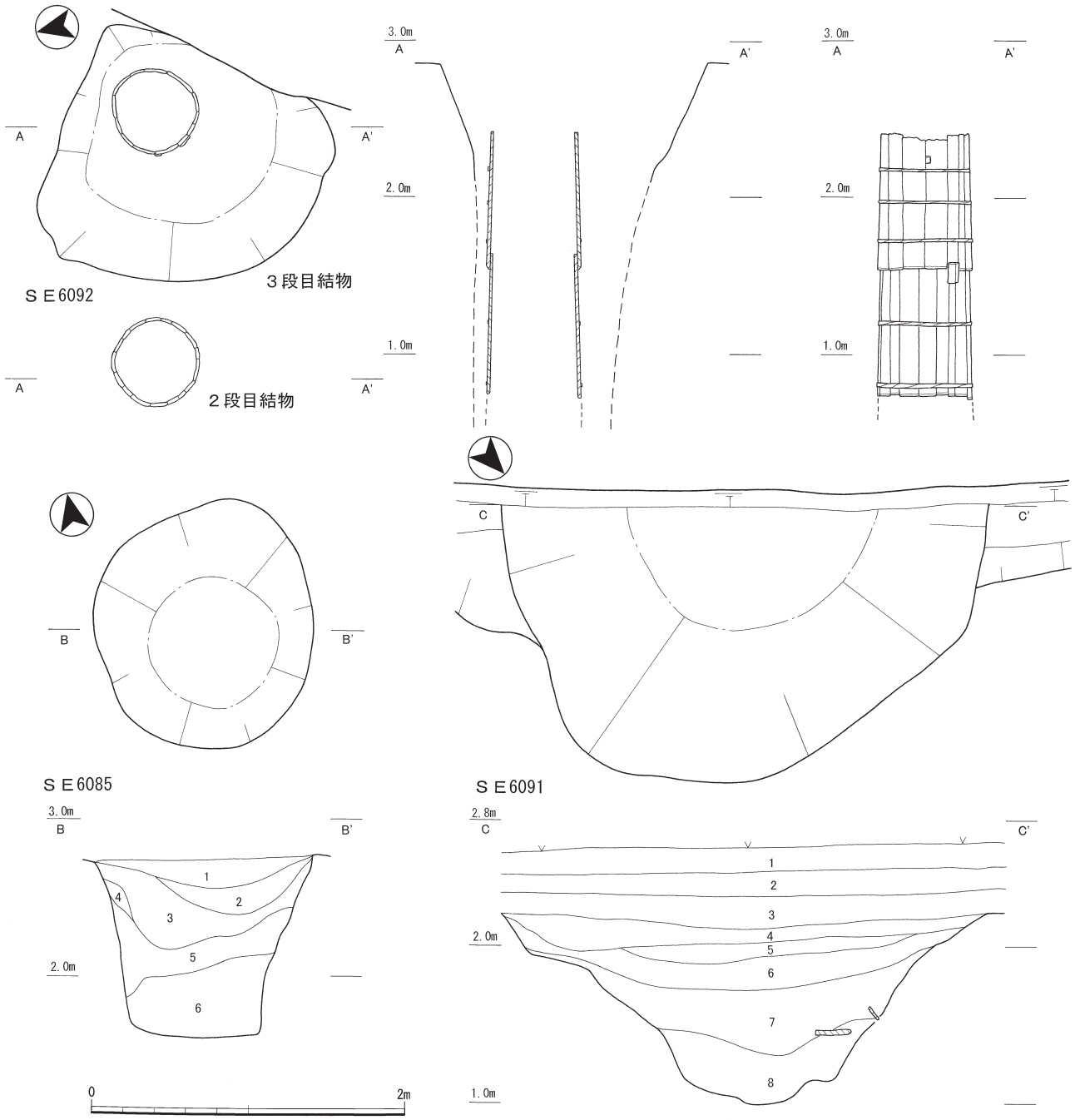
ＳＫ6100（第10図）　Ｔｆ25・Ｖｆ１で検出した不整形土坑で、規模2.88×2.62m以上、深さ0.15mである。出土遺物には鎌倉時代の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ7017（第10図）　Ｕｙ・Ｖａ７・８で検出した楕円形土坑で東側は調査区外となり、規模1.9×1.35m以上となる。調査の制約から深さ0.1mで掘削を止めている。遺構の時期は室町時代～戦国期である。

ＳＫ7018（第10図）　Ｕｙ８で検出した楕円形土坑で東側は調査区外となり、規模2.44×0.29m以上となる。調査の制約から深さ0.1mで掘削を止めている。遺構の時期は戦国期と考えられる。

ＳＫ7020（第10図）　Ｕｘ６・７で検出した土坑で攪乱による削平により形態は不明である。規模1.57×1.02m、深さ0.43mとなる。南伊勢系土師器が出土し、遺構の時期は室町時代と考えられる。

ＳＫ7021（第10図）　Ｕｙ７で検出した楕円形土坑で東側はＳＫ7018に削平され、規模1.99×1.23m以上となる。調査の制約から深さ0.1mで掘削を止め



ＳＥ6085
1　N6/灰色シルト層（2.5Y7/1 灰白色シルトブロック多く含む）
2　N7/灰白色シルト層（2.5Y7/2 灰白色シルトブロック多く含む）
3　2.5Y5/1 黄灰色シルト層
4　N7/灰白色極細砂層
5　5Y7/2 灰白色粘土層
6　5B6/1 青灰色粘土層（N6/灰色粘土ブロック少し含む）

ＳＥ6091
1　耕作土
2　2.5Y6/2 灰黄色シルト層
3　2.5Y6/3 にぶい黄色シルト層
4　N4/灰色シルト層：ＳＥ6091
5　10GY5/1 緑灰色シルト層：ＳＥ6091
6　10GY4/1 暗緑灰色シルト層：ＳＥ6091
7　N4/灰色粘土層：ＳＥ6091
8　N3/暗灰色粘土層：ＳＥ6091

第24図　６次５区井戸実測図(1/40)

ている。遺構の時期は室町時代～戦国期である。

ＳＫ7022（第10図）　Ｖｂ７・８で検出した土坑で東・南側は調査区外、西側は攪乱に削平され、規模1.4×0.9m以上である。調査の制約から深さ0.1mで掘削を止めている。遺構の時期は戦国期と考えられる。

ＳＫ7023（第10図）　Ｕｘ２・３で検出した楕円形土坑で、規模3.15×2.56mとなる。調査の制約から深さ0.1mで掘削を止めている。遺構の時期は戦国期と考えられる。

③溝

ＳＤ6012（第10図）　Ｔｉ24～Ｖｊ１で検出した自然流路で、北側上端が検出された。４区で検出された南側上端との位置関係から、幅は10～12mとなる。出土遺物は中世前期～後期の土器が中心である。

ＳＤ6066（第10図）　Ｖｂ８・９～ｇ７・８で検出した溝で５次調査ＳＤ5327と同一遺構で、南側はＳＤ6084と繋がる。長さ18.2m以上、幅2.41m、深さ0.8mで、ＳＤ6074・6084と同規模の溝である。周辺地割との関連から条里坪境や区画溝に相当すると考えられる。出土遺物には南伊勢系土師器があり、遺構の時期は戦国期である。

ＳＤ6068（第10図）　Ｖｅ１～ｆ２で検出した直線的な溝で、長さ6.0m以上、幅0.52m、深さ0.15mである。出土遺物には平安時代の土師器がある。

ＳＤ6069（第10図）　Ｔｇ25～ｉ24で検出した溝で、長さ9.5m以上、幅1.96m以上、深さ0.25mである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＤ6071（第10図）　Ｔｉ25・Ｖｉ１で検出した直線的な溝で、長さ2.7m以上、幅1.04m、深さ0.41mである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＤ6073（第10図）　Ｖｉ１で検出した直線的な溝で、長さ3.8m以上、幅0.75m、深さ0.33mである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＤ6074・6084（第26図）　Ｖｄ・ｅ１～Ｖｆ７で検出した溝で東側はＳＤ6066と繋がる。長さ25.5m以上、幅2.4m、深さ0.8mである。断面形は底部から側面にかけて緩やかに立ち上がり、弓形を呈する。周辺地形から条里坪境や区画溝に相当すると考えられる。遺構の時期は戦国期である。

ＳＤ6075（第10図）　Ｔｉ25で検出した直線的な溝で、長さ1.93m、幅1.6m以上、深さ0.32mである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器、常滑産陶器がある。

ＳＤ6096（第10図）　Ｔｉ25・Ｖｉ１で検出した直線的な溝で、長さ4.6m以上、幅0.79m、深さ0.35mである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器、常滑産陶器がある。

ＳＤ6097（第10図）　Ｖｆ１で検出した直線的な溝で、長さ0.48m以上、幅0.24m、深さ0.04mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＤ7019（第10・51図）　Ｕｗ・ｘ１～８で検出した溝で、調査の制約から深さ0.1mで掘削を止めているが、１箇所で土層観察用サブトレンチを設定した。長さ24.7m以上、幅1.97m、深さ0.8mで、断面は底部から側面にかけて緩やかに立ち上がる。ＳＤ6074・6084とは主軸の向きが異なるものの、ＳＤ7019の東端はＳＤ6066に繋がるものと想定できる。周辺地形から条里坪境や区画溝に相当すると考えられる。遺構の時期は戦国期である。

ＳＤ7024（第10図）　Ｕｗ４で検出した溝で長さ2.38m、幅1.6m以上である。調査の制約から深さ0.1mで掘削を止めている。南側はＳＤ7019と繋がることから一連の遺構と考えられる。遺構の時期は戦国期である。

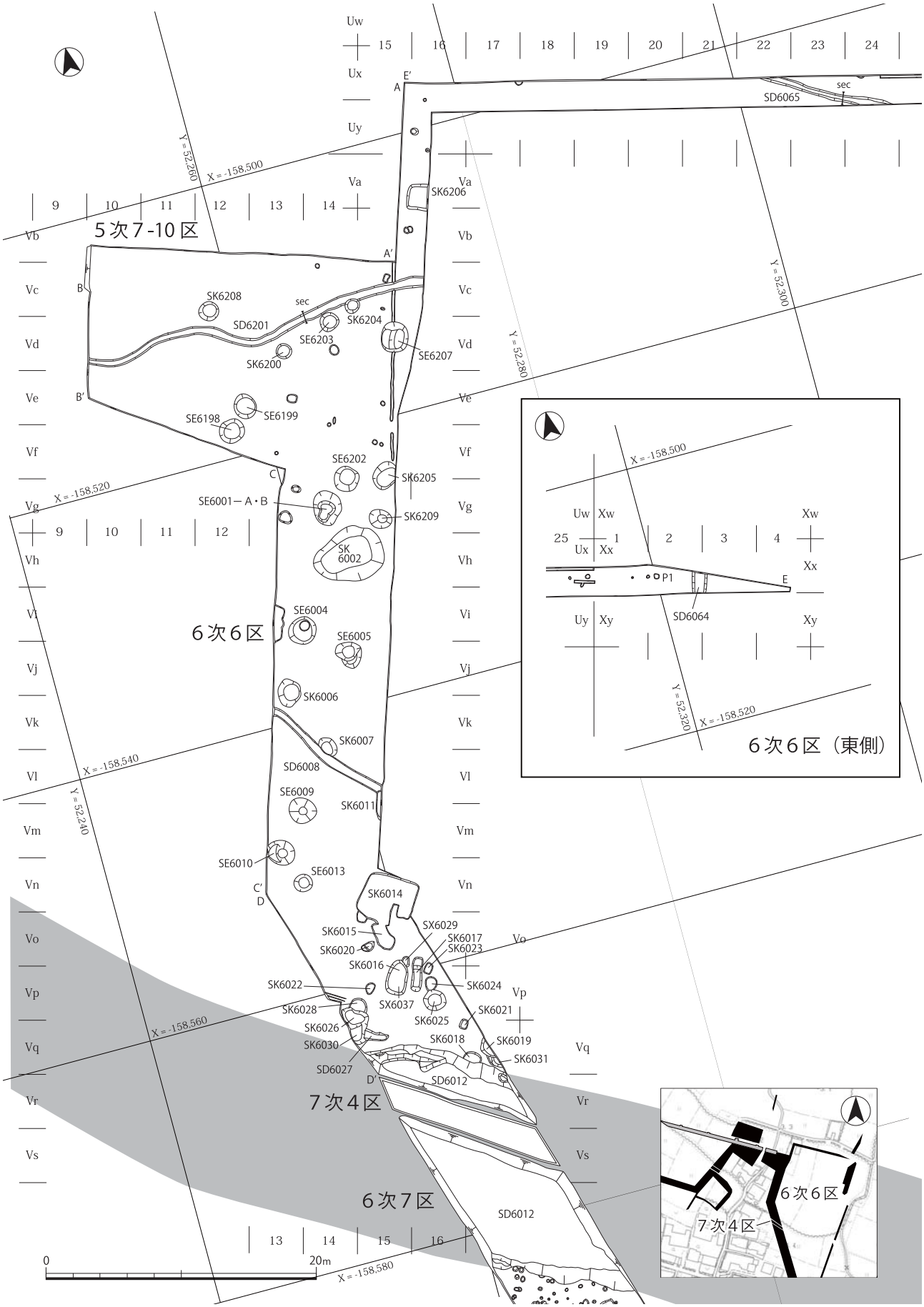
７　６次６区上層、７次４区

調査区は事業地の東側に位置する（第12・25図）。７次４区は６次６・７区の間にあたり、工事立会により調査を進めた。ＳＤ6012の埋土が残存しており古代～中世の土器類が出土した。縄文時代の埋設土器を確認できたことが特筆される。この他に、自然流路ＳＤ6012や平安時代～江戸時代の井戸、土坑、溝を確認した。

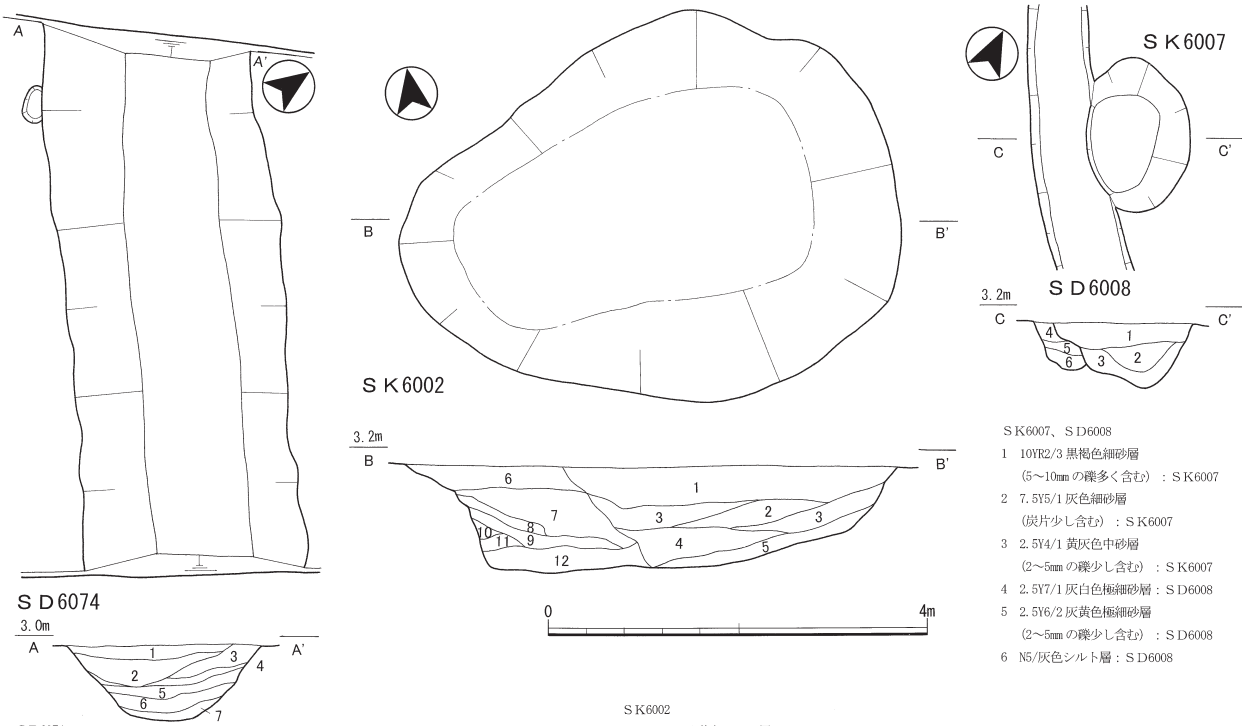
（１）縄文時代の遺構

①埋設土器

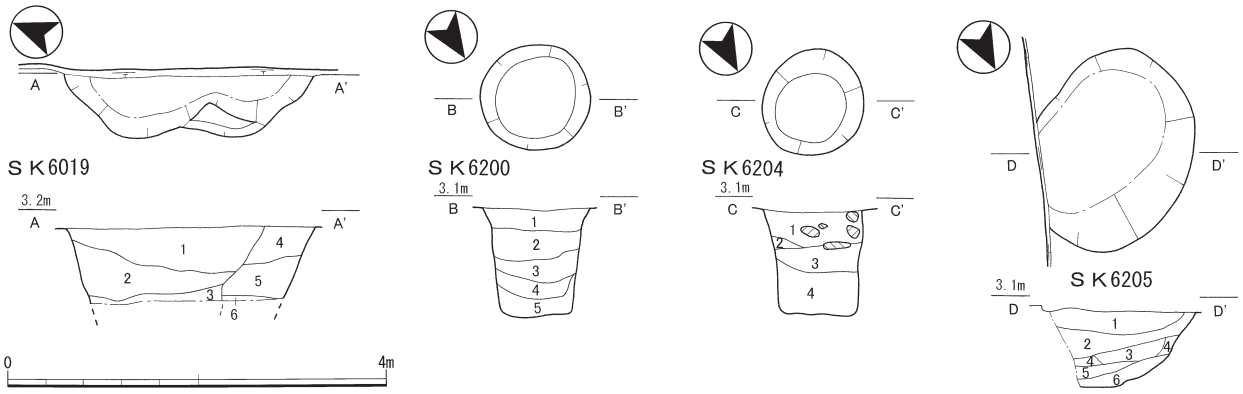
ＳＸ6029（第31図）　Ｖｏ15で検出した埋設土器で南側はＳＫ6016に削平されているが、平面は楕円形になるとみられ、長さ0.78m以上、幅0.61m、深さ0.29mである。埋土は灰黄色シルト層に灰色細砂ブロックを少し含んでいたが、基盤層と土質が近似し



第25図　５次７区、６次６区、７次４区遺構全体図(1/400)



第26図　６次５・６区土坑・溝実測図(1/80)

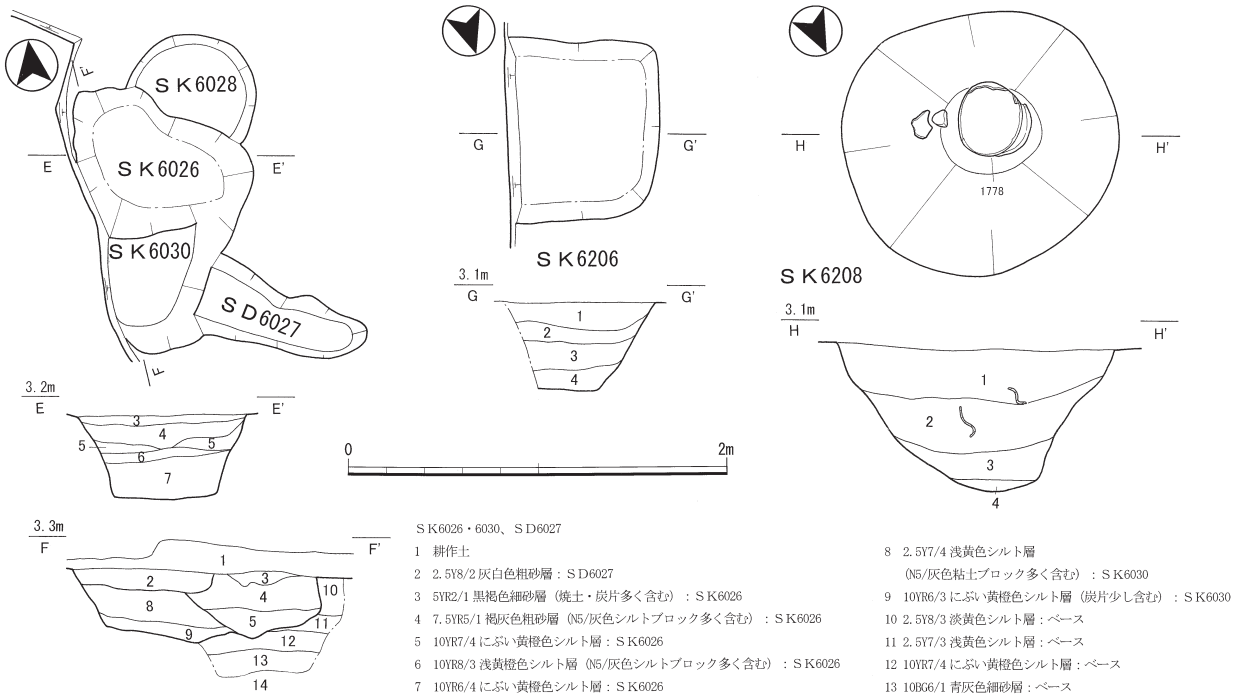


SK6019
1 2.5Y5/1 黄灰色粗砂層
(2.5Y7/3 浅黄色シルトブロック多く含む)
2 N5/灰色細砂層
(2.5GY7/1 明オリーブ灰色シルトブロック多く含む)
3 5PB4/1 暗青灰色粘土層
4 2.5Y7/3 浅黄色シルト層
(2.5Y5/1 黄灰色細砂ブロック多く含む)
5 5Y7/2 灰白色シルト層
(2.5GY7/1 明オリーブ灰色シルトブロック多く含む)
6 5B5/1 青灰色粘土層

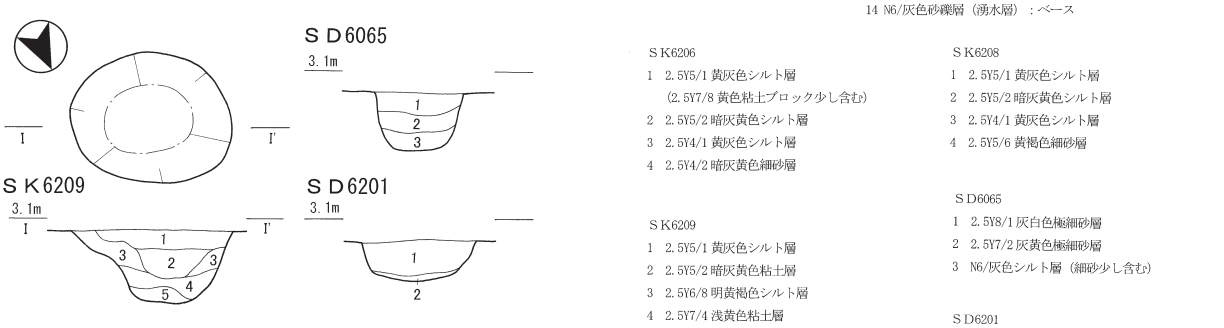
SK6200
1 2.5Y5/1 黄灰色シルト層
2 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト層
3 2.5Y4/1 黄灰色シルト層
4 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土層
5 2.5Y5/1 黄灰色細砂層

SK6204
1 2.5Y5/1 黄灰色シルト層 (礫を多く含む)
2 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト層
3 2.5Y4/1 黄灰色シルト層
4 2.5Y6/1 黄灰色細砂層
(2.5Y4/1 黄灰色粘土ブロック 5%含む)

SK6205
1 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト層
2 2.5Y5/1 黄灰色シルト層
3 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト層
4 2.5Y8/6 黄色粘土層
5 2.5Y4/1 黄灰色シルト層
6 2.5Y3/1 黒褐色シルト層



SK6026・6030、SD6027
1 耕作土
2 2.5Y8/2 灰白色粗砂層：SD6027
3 5YR2/1 黒褐色細砂層 (焼土・炭片多く含む) ：SK6026
4 7.5YR5/1 褐灰色粗砂層 (N5/灰色シルトブロック多く含む) ：SK6026
5 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト層：SK6026
6 10YR8/3 浅黄橙色シルト層 (N5/灰色シルトブロック多く含む) ：SK6026
7 10YR6/4 にぶい黄橙色シルト層：SK6026
8 2.5Y7/4 浅黄色シルト層
(N5/灰色粘土ブロック多く含む) ：SK6030
9 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト層 (炭片少し含む) ：SK6030
10 2.5Y8/3 淡黄色シルト層：ベース
11 2.5Y7/3 浅黄色シルト層：ベース
12 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト層：ベース
13 10BG6/1 青灰色細砂層：ベース
14 N6/灰色砂礫層 (湧水層) ：ベース



SK6206
1 2.5Y5/1 黄灰色シルト層
(2.5Y7/8 黄色粘土ブロック少し含む)
2 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト層
3 2.5Y4/1 黄灰色シルト層
4 2.5Y4/2 暗灰黄色細砂層

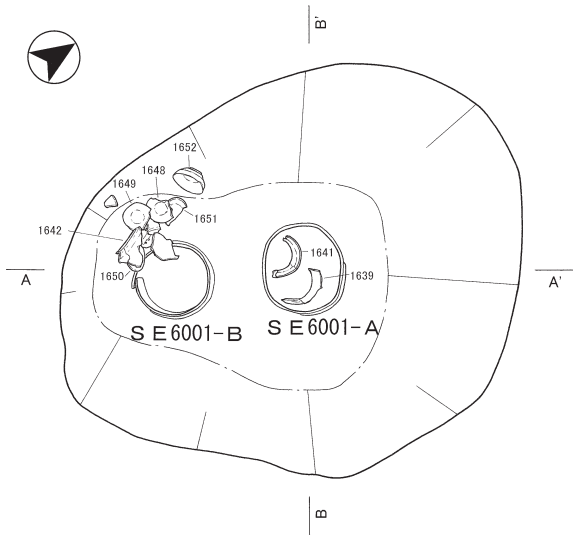
SK6209
1 2.5Y5/1 黄灰色シルト層
2 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土層
3 2.5Y6/8 明黄褐色シルト層
4 2.5Y7/4 浅黄色粘土層
5 2.5Y5/1 黄灰色極細砂層

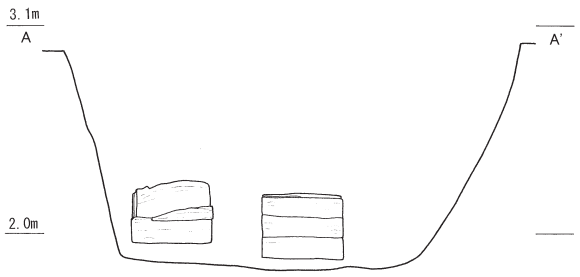
SK6208
1 2.5Y5/1 黄灰色シルト層
2 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト層
3 2.5Y4/1 黄灰色シルト層
4 2.5Y5/6 黄褐色細砂層

SD6065
1 2.5Y8/1 灰白色極細砂層
2 2.5Y7/2 灰黄色極細砂層
3 N6/灰色シルト層 (細砂少し含む)

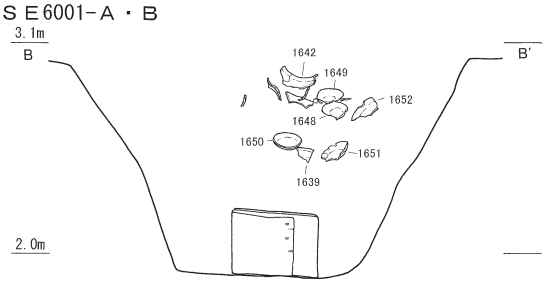
SD6201
1 5Y5/1 灰色シルト層
2 10YR4/6 褐色シルト層

第27図　６次６区土坑・溝実測図(SK6208は1/40、他1/80)





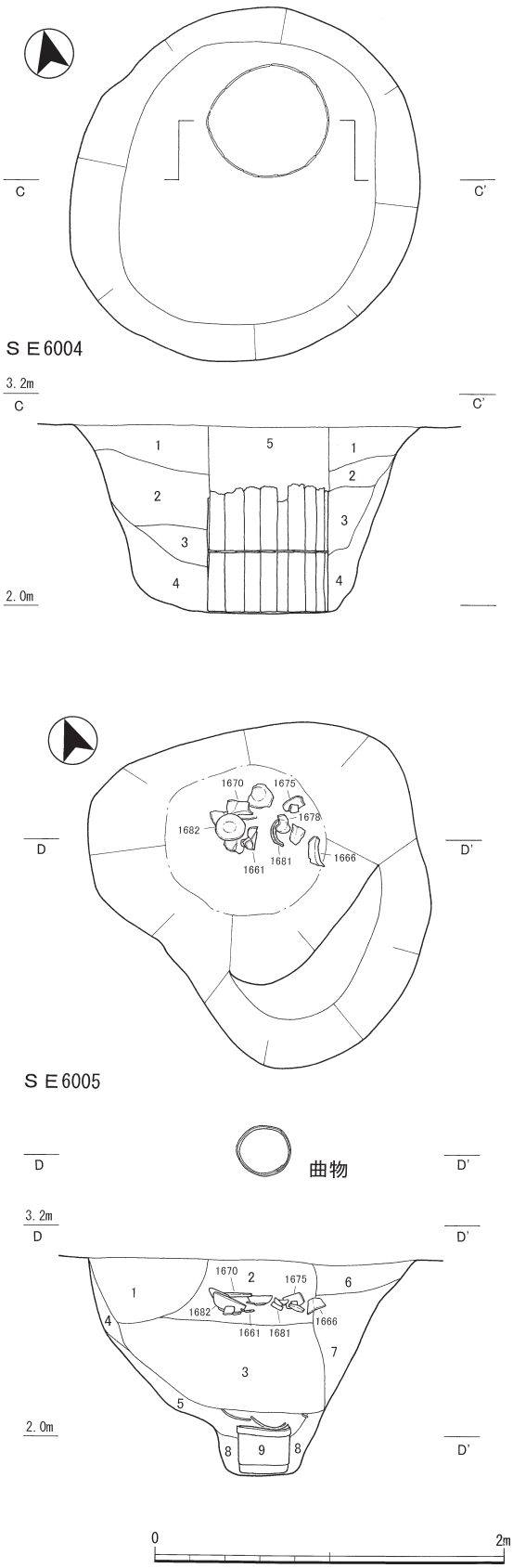
SE6001-A・B



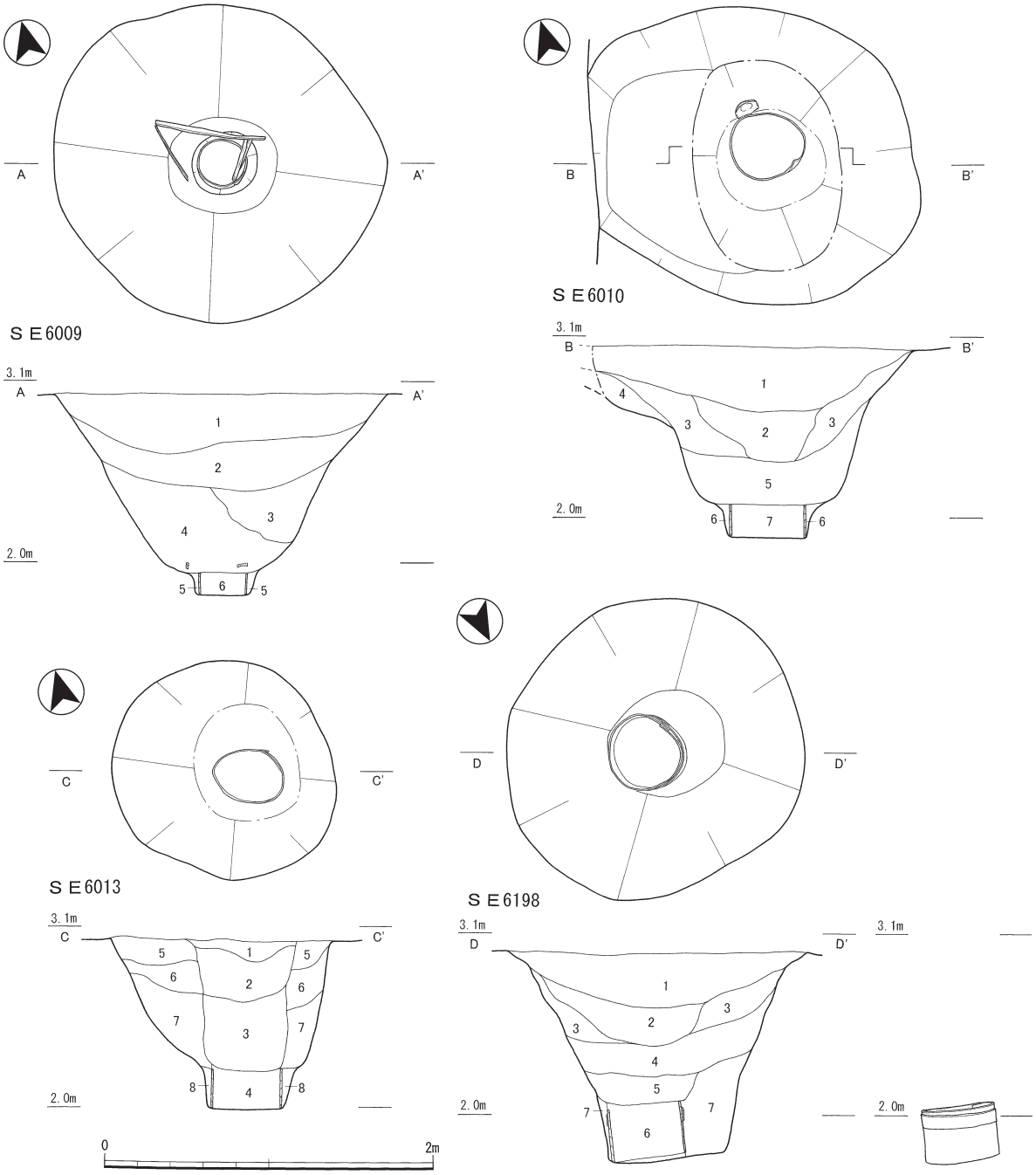
SE6001-A

SE6004
1 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト層：掘形埋土
2 10YR4/1 褐灰色シルト層：掘形埋土
3 7.5Y6/1 灰色シルト層：掘形埋土
4 7.5Y5/1 灰色細砂層：掘形埋土
5 5Y4/1 灰色粘土層：井戸枠内埋土

SE6005
1 2.5Y7/4 浅黄色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
2 2.5Y5/1 黄灰色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
3 2.5Y3/2 黒褐色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
4 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色細砂層（5～10mmの礫少し含む）：井戸枠抜き取り埋土
5 10YR5/1 褐灰色細砂層：井戸枠抜き取り埋土
6 2.5Y7/4 浅黄色シルト層：掘形埋土
7 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト層（5～10mmの礫少し含む）：掘形埋土
8 10YR7/1 灰白色細砂層：掘形埋土
9 5Y4/1 灰色粘土層：井戸枠内埋土



第28図　６次６区井戸実測図①(1/40)



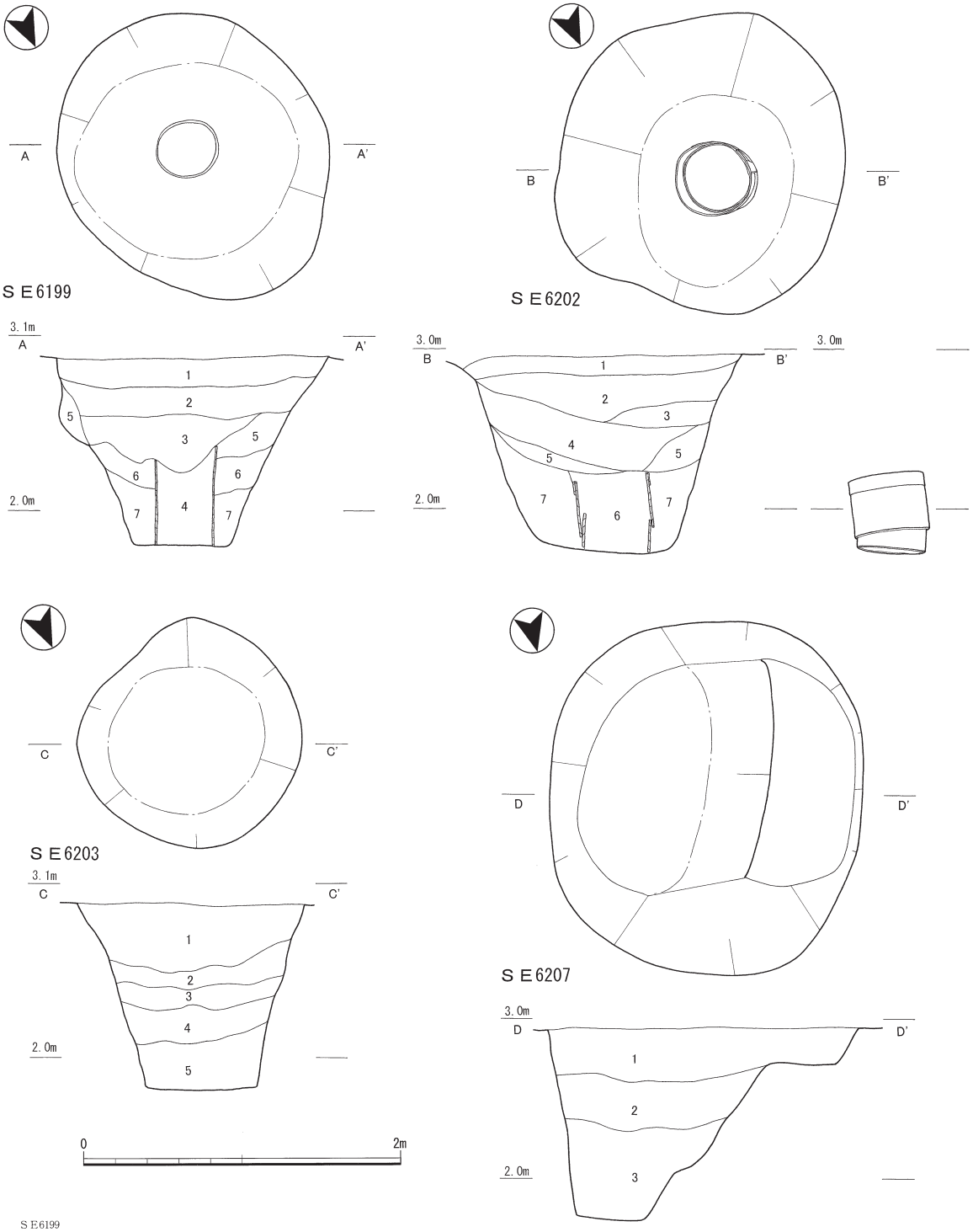
ＳＥ6009
1　2.5Y7/4 浅黄色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
2　2.5Y7/2 灰黄色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
3　2.5Y6/2 灰黄色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
4　2.5Y5/2 暗灰黄色シルト層（細砂多く含む）：井戸枠抜き取り埋土
5　2.5Y7/2 灰黄色細砂層：掘形埋土
6　2.5Y4/1 黄灰色粘土層：井戸枠内埋土

ＳＥ6010
1　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
2　2.5Y4/1 黄灰色シルト層（細砂多く含む）：井戸枠抜き取り埋土
3　2.5Y6/3 にぶい黄色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
4　10YR3/2 黒褐色細砂層：井戸枠抜き取り埋土
5　2.5Y4/1 黄灰色シルト層（細砂多く含む）：井戸枠抜き取り埋土
6　2.5Y6/1 黄灰色細砂層：掘形埋土
7　2.5Y3/1 黒褐色粘土層：井戸枠内埋土

ＳＥ6013
1　2.5Y6/6 明黄褐色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
2　2.5Y2/1 黒色シルト層（炭片多く含む）：井戸枠抜き取り埋土
3　2.5Y4/1 黄灰色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
4　2.5Y3/1 黒褐色粘土層：井戸枠内埋土
5　2.5Y6/1 黄灰色シルト層：掘形埋土
6　2.5Y6/2 灰黄色シルト層：掘形埋土
7　2.5Y6/2 灰黄色シルト層（2.5Y7/4 浅黄色シルトブロック 25%含む）：掘形埋土
8　2.5Y5/1 黄灰色細砂層：掘形埋土

ＳＥ6198
1　2.5Y5/1 黄灰色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
2　2.5Y4/1 黄灰色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
3　2.5Y4/6 オリーブ褐色シルト層
（2.5Y7/4 浅黄色粘土ブロック 25%含む）：井戸枠抜き取り埋土
4　2.5Y4/1 黄灰色粘土層：井戸枠抜き取り埋土
5　2.5Y3/1 黒褐色粘土層：井戸枠抜き取り埋土
6　2.5Y4/1 黄灰色粘土層：井戸枠内埋土
7　2.5Y5/1 黄灰色細砂層：掘形埋土

第29図　６次６区井戸実測図②(1/40)



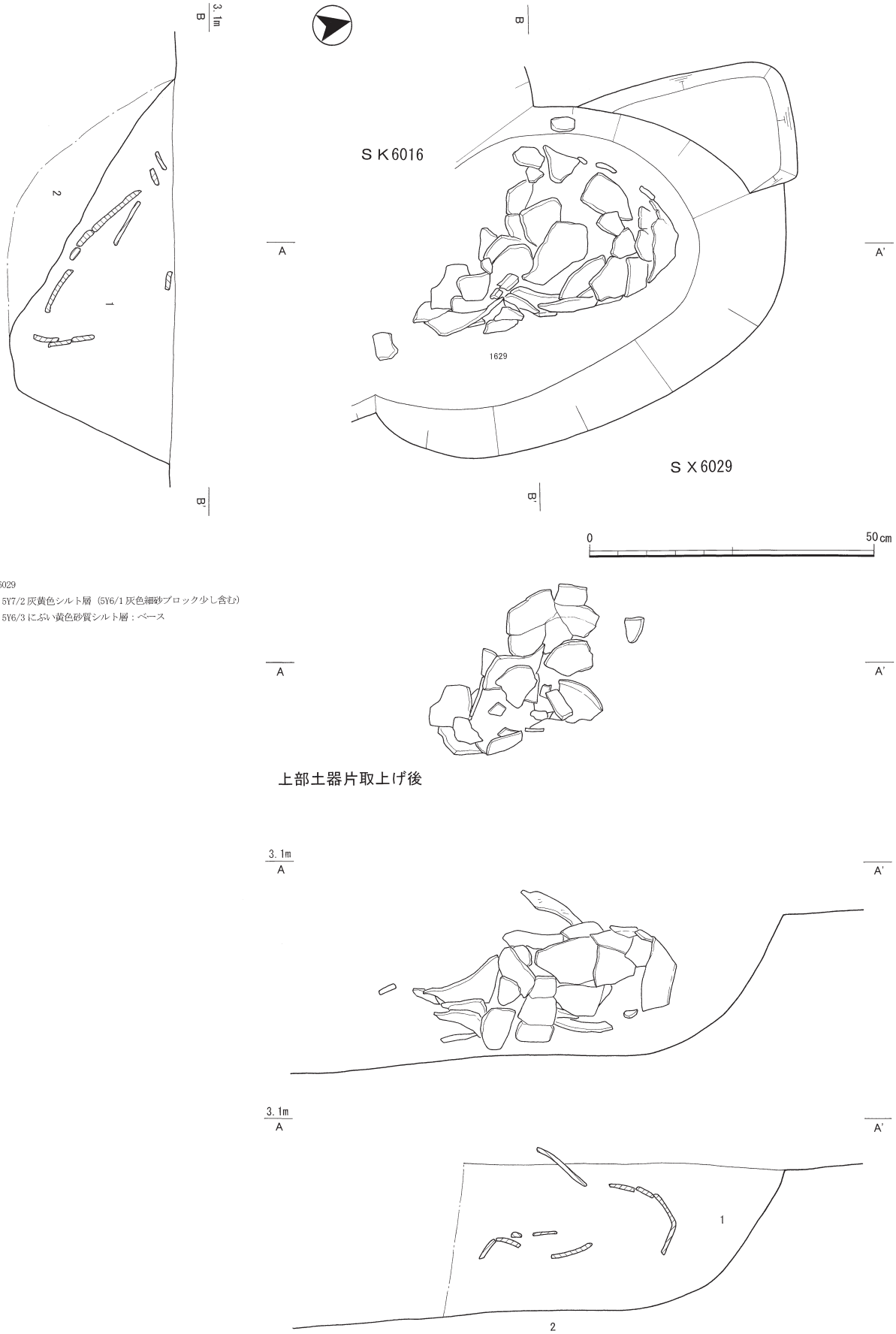
SE6199
1　2.5Y5/1 黄灰色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
2　2.5Y5/1 黄灰色粘土層：井戸枠抜き取り埋土
3　2.5Y4/1 黄灰色粘土層：井戸枠抜き取り埋土
4　2.5Y3/1 黒褐色粘土層：井戸枠内埋土
5　2.5Y4/1 黄灰色細砂層（2.5Y8/6 黄色シルトブロック 5%含む）：掘形埋土
6　2.5Y4/1 黄灰色細砂層：掘形埋土
7　2.5Y5/1 黄灰色粘土層：掘形埋土

SE6202
1　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
2　2.5Y5/1 黄灰色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
3　2.5Y5/1 黄灰色粘土層：井戸枠抜き取り埋土
4　2.5Y4/1 黄灰色粘土層（2.5Y8/6 黄色シルトブロック 5%含む）：井戸枠抜き取り埋土
5　2.5Y3/1 黒褐色粘土層：井戸枠抜き取り埋土
6　N3/暗灰色粘土層：井戸枠内埋土
7　2.5Y5/1 黄灰色細砂層（2.5Y8/6 黄色シルトブロック 5%含む）：掘形埋土

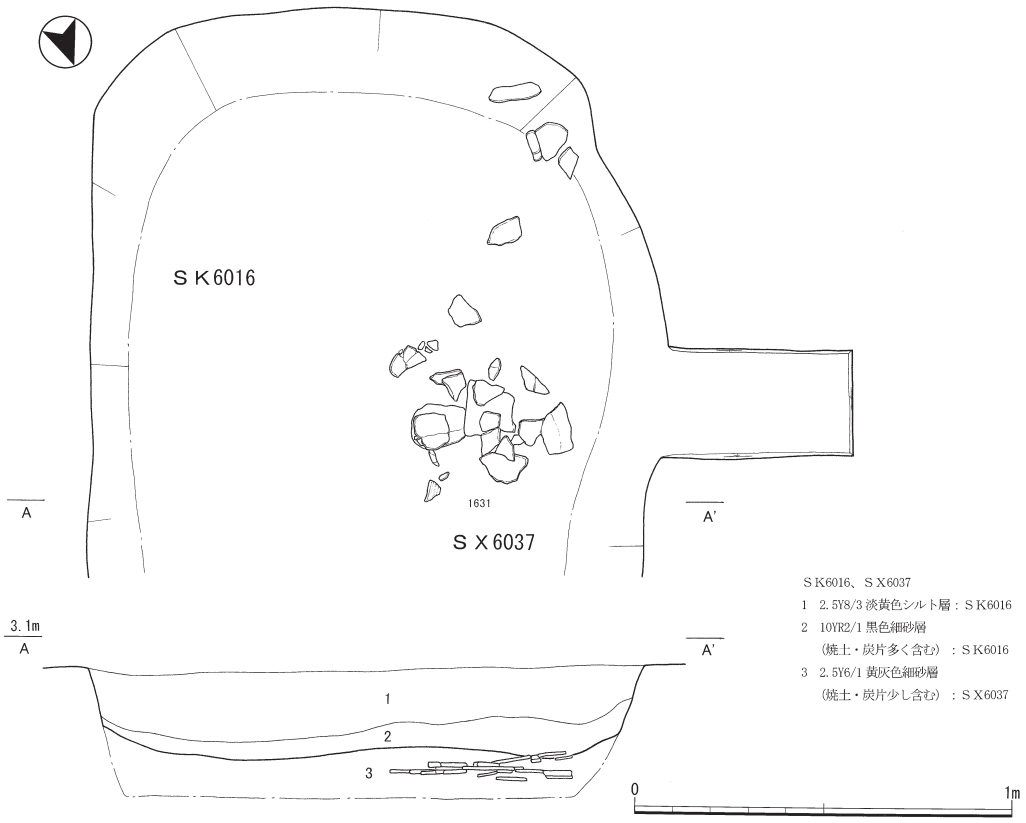
SE6203
1　2.5Y5/1 黄灰色シルト層
2　10YR3/3 暗褐色シルト層
3　2.5Y4/1 黄灰色粘土層
4　2.5Y4/1 黄灰色粘土層
5　2.5Y5/1 黄灰色細砂層（2.5Y4/1 黄灰色粘土ブロック 5%含む）

SE6207
1　2.5Y5/1 黄灰色シルト層
2　2.5Y5/3 黄褐色シルト層
3　2.5Y5/1 黄灰色シルト層（10GY5/1 緑灰色粘土ブロック 5%含む）

第30図　６次６区井戸実測図③(1/40)



第31図　６次６区縄文土器出土状況図①(1/10)



第32図　６次６区縄文土器出土状況図②(1/20)

ており、明確な掘り込みを判別することが困難であった。

埋設土器は深鉢（1629）であり、口縁部を南向きに横位で据えた状態が確認された。

ＳＸ6037（第32図）　Ｖｐ15で検出した埋設土器とみられる遺構であるが、ＳＫ6016に削平を受けており、埋土が基盤層と土質が近似していたため明確な遺構の掘り込みを判別できなかった。土器の検出レベルは標高2.75～2.8mの範囲にまとまりが見られ、深鉢（1631）が出土している。

（２）平安時代～室町時代の遺構

①井戸

ＳＥ6001－Ａ・Ｂ（第28図）　Ｖｇ14で検出した井戸で２基が重複しているが、検出時に遺構を区別して調査できなかった。規模2.42×2.17m、深さ1.2mである。地下水位は標高2.0m程で湧水層に達する。ＳＥ6001－Ａは井戸枠が抜き取られているが、掘形底部には水溜として曲物１基を据えており、直径0.42m、高さ0.34mのものである。曲物内から南伊勢系土師器が出土しており、遺構の時期は鎌倉時代～室町時代と考えられる。

ＳＥ6001－Ｂは井戸枠が抜き取られているが、掘形底部には水溜として曲物１基を据えており、直径0.45m、高さ0.34mのものである。井戸枠抜き取り後埋土上層から完形の山茶椀がまとまって出土しており、遺構の時期は鎌倉時代と考えられる。

ＳＥ6004（第28図）　Ｖｉ13・14で検出した井戸で掘形平面は円形となり、直径2.03m、深さ1.18mである。井戸枠は結物１段組みで、ヒノキ製板材16点の外周に竹製タガを巡らせ楔で締める構造となり、直径0.63m、高さ0.73m以上である。曲物などの水溜施設は確認できない。地下水位は標高1.95m程で湧水層に達する。埋土は大きく２層に分けられ井戸枠内埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は戦国期と考えられる。

ＳＥ6005（第28図）　Ｖｊ14で検出した井戸で掘形平面は不整円形で、規模1.99×1.92m、深さ1.24mである。井戸枠は抜き取られているが、掘形底部には水溜として曲物１基が据えられており、直径0.3

m、高さ0.28mのものである。地下水位は標高1.8m程で湧水層に達する。埋土は大きく３層に分けられ井戸枠抜き取り埋土、井戸枠内埋土、掘形埋土となる。井戸枠抜き取り埋土上層から完形の山茶椀がまとまって出土しており、遺構の時期は平安時代末期と考えられる。

ＳＥ6009（第29図）　Ｖｌ・m13・14で検出した井戸で掘形平面は円形となり直径2.05m、深さ1.23mである。井戸枠は抜き取られており、土居桁のみ確認できる。掘形底部には水溜として曲物１基を据えており、直径0.28m、高さ0.14mのものである。地下水位は標高1.8m程で湧水層に達する。埋土は大きく３層に分けられ井戸枠抜き取り埋土、井戸枠内埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は平安時代末期と考えられる。

ＳＥ6010（第29図）　Ｖm・ｎ13で検出した井戸で西側は調査区外となるが、掘形平面は楕円形とみられ、規模1.92×1.9m以上、深さ1.15mである。井戸枠は抜き取られているが、掘形底部には水溜として曲物１基を据えており、直径0.34m、高さ0.2mのものである。地下水位は標高1.9m程で湧水層に達する。埋土は大きく３層に分けられ井戸枠抜き取り埋土、井戸枠内埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は平安時代末期と考えられる。

ＳＥ6013（第29図）　Ｖｎ13・14で検出した井戸で掘形平面は円形とみられ、規模1.38×1.31m、深さ1.02mである。井戸枠は抜き取られているが、掘形底部には水溜として曲物１基を据えており、直径0.4m、高さ0.25mのものである。地下水位は標高2.0m程で湧水層に達する。埋土は大きく３層に分けられ井戸枠抜き取り埋土、井戸枠内埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は鎌倉時代と考えられる。

ＳＥ6198（第29図）　Ｖｅ・ｆ12で検出した井戸で掘形平面は円形とみられ、規模1.89×1.83m、深さ1.27mである。井戸枠は抜き取られているが、掘形底部には水溜として曲物１基を据えており、直径0.44m、高さ0.32mのものである。地下水位は標高2.0m程で湧水層に達する。埋土は大きく３層に分けられ井戸枠抜き取り埋土、井戸枠内埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は平安時代末期と考えられる。

ＳＥ6199（第30図）　Ｖｅ12・13で検出した井戸で掘形平面は円形とみられ、直径1.7m、深さ1.18mである。井戸枠は抜き取られているが、掘形底部には水溜として曲物２基を据えており上段は直径0.38m、高さ0.3m、下段は直径0.38m、高さ0.3mのものである。地下水位は標高2.0m程で湧水層に達する。埋土は大きく３層に分けられ井戸枠抜き取り埋土、井戸枠内埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は鎌倉時代と考えられる。

ＳＥ6202（第30図）　Ｖｆ・ｇ14・15で検出した井戸で掘形平面は円形とみられ、直径1.7m、深さ1.25mである。井戸枠は抜き取られているが、掘形底部には水溜として曲物２基を据えており上段は直径0.46m、高さ0.34m、下段は直径0.42m、高さ0.2mのものである。地下水位は標高1.7m程で湧水層に達する。埋土は大きく３層に分けられ井戸枠抜き取り埋土、井戸枠内埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は平安時代末期と考えられる。

ＳＥ6203（第30図）　Ｖｃ・ｄ14で検出した井戸で掘形平面は円形で、直径1.45m、深さ1.18mである。井戸枠、水溜施設は確認できない。地下水位は標高2.0m程で湧水層に達する。出土遺物には平安時代末期の土師器小片がある。

ＳＥ6207（第30図）　Ｖｄ15で検出した井戸で掘形平面は楕円形で、規模2.23×1.95m、深さ1.26mである。断面は底部が平坦で、立ち上がりが急となり、東側面は段を成している。井戸枠、水溜施設は確認できないが、楔19点が出土したことから結物井戸と考えられる。地下水位は標高1.75m程で湧水層に達する。遺構の時期は戦国期と考えられる。

②土坑

ＳＫ6002（第26図）　Ｖｇ・ｈ14・15で検出した不整形土坑で、規模5.26×4.12m、深さ1.14mである。２基の土坑が重複するが、平面での重複関係は不明瞭で遺構を分けて調査できなかった。井戸の可能性もあるが湧水は見られなかった。南伊勢系土師器の他に鋳型が出土している。遺構の時期は鎌倉時代である。

ＳＫ6006（第25図）　Ｖｊ・ｋ13で検出した不整形土坑で、規模2.12×1.66m、深さ0.82mである。周辺の井戸と同規模であるが、湧水が確認できないため土坑とした。出土遺物は鎌倉時代の南伊勢系土師器、山茶椀がある。

ＳＫ6007（第26図）　Ｖｋ・ｌ14で検出した楕円形土坑で、ＳＤ6008の一部を削平する。規模1.55×1.09m、深さ0.7mである。断面形は底部に凹凸があり、不整形である。遺構の時期は鎌倉時代と考えられる。

ＳＫ6011（第25図）　Ｖｌ・m15で検出した土坑で、規模2.0×0.35m以上、深さ0.43mである。出土遺物には平安時代の土師器、灰釉陶器がある。

ＳＫ6018（第25図）　Ｖｑ17で検出した土坑で、規模1.3×0.78m以上、深さ0.11mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＫ6020（第25図）　Ｖｏ15で検出した不整形土坑で、規模1.08×0.63m、深さ0.11mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＫ6021（第25図）　Ｖｑ16・17で検出した隅丸方形土坑で、規模0.74×0.6m、深さ0.37mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＫ6025（第26図）　Ｖｐ16で検出した円形土坑で、直径1.7m、深さ1.2mである。周辺の井戸と同規模であるが、湧水が確認できないため土坑とした。遺構の時期は鎌倉時代と考えられる。

ＳＫ6200（第27図）　Ｖｄ13で検出した円形土坑で、規模1.16×1.12m、深さ1.12mである。断面は底部が平坦で、側面は垂直気味に立ち上がる。周辺の井戸よりやや小型で、湧水が確認できないため土坑とした。遺構の時期は室町時代である。

ＳＫ6204（第27図）　Ｖｃ14で検出した円形土坑で、規模1.11×1.06m、深さ1.05mである。断面は底部が平坦で、側面は垂直気味に立ち上がる。周辺の井戸よりやや小型で、湧水が確認できないため土坑とした。遺構の時期は戦国期である。

ＳＫ6205（第27図）　Ｖｆ・ｇ15で検出した土坑で東側が調査区外となるが、平面は楕円形になるとみられる。規模2.06×1.67m、深さ0.84mで、断面は底部から側面にかけて緩やかに立ち上がる。周辺の井戸よりやや小型で、湧水が確認できないため土坑とした。遺構の時期は平安時代後期である。

ＳＫ6206（第27図）　Ｖａ・ｂ15・16で検出した土坑で東側が調査区外となるが、平面は隅丸方形になるとみられる。規模1.99×1.45m以上、深さ0.94mとなり、断面は底部が平坦で、側面は急な立ち上がりとなる。周辺の井戸よりやや小型で、湧水が確認できないため土坑とした。遺構の時期は室町時代と考えられる。

ＳＫ6208（第27図）　Ｖｃ・ｄ12で検出した円形土坑で、規模1.47×1.43m、深さ0.75mとなり、断面は擂鉢状を呈する。埋土中層からほぼ完形の南伊勢系土師器鍋（1778）が出土しており、遺構の時期は鎌倉時代と考えられる。

ＳＫ6209（第27図）　Ｖｇ15で検出した楕円形土坑で、規模1.71×1.31m、深さ1.0mである。断面は底部から側面にかけて緩やかに立ち上がるが、東側面は段を成す。周辺の井戸よりやや小型で、湧水が確認できないため土坑とした。遺構の時期は平安時代末期と考えられる。

③溝

ＳＤ6008（第26図）　Ｖｋ13～ｌ15で検出したやや蛇行する溝で、長さ9.8m以上、幅0.76m、深さ0.56mである。断面形は底部が弓形で、側面が直線的に立ち上がる。遺構の時期は平安時代前期である。

ＳＤ6012（第25図）　Ｖｑ・ｒ15～18で北側上端、７次４区においてもＳＤ6012を検出した。調査の制約から埋土上層の掘削が中心であったため、出土遺物は中世の土器類が多くを占める。

ＳＤ6064（第25図）　Ｘｘ２・３で検出した直線的な溝で長さ1.6m以上、幅1.12m、深さ0.46mである。出土遺物には古代の土師器がある。

ＳＤ6065（第25・27図）　Ｕｘ22～ｙ24で検出した直線的な溝で長さ7.0m以上、幅0.61m、深さ0.31mとなり、断面は底部が弓形で、側面は急な立ち上がりとなる。土師器、須恵器の小片が出土し、遺構の時期は平安時代であろう。

ＳＤ6201（第25・27図）　Ｖｃ16～ｄ10で検出した蛇行する溝で長さ24.0m以上、幅0.86m、深さ0.24mである。断面は底部が弓形で、側面は急な立ち上がりとなる。遺構の時期は平安時代中～後期と考えられる。

（３）江戸時代の遺構

①土坑

ＳＫ6014（第26図）　Ｖｎ・ｏ15・16で検出した不整方形の土坑で、規模3.96×3.6m、深さ0.18mで

あり、底部には細かな凹凸があり不整形となる。埋土は炭を多く含んでおり、二次的に火を受けた陶器、磁器や壁土とみられる焼土塊が出土した。ＳＫ6015～6017・6023・6024の埋土も同様な状況である。火災により焼失した家財を廃棄した片付け土坑であり、こうした土坑は４区ＳＫ6076においても確認でき、同時期に周辺家屋で火災があったことが想定される。遺構の時期は18世紀中頃～後半である。

ＳＫ6015（第26図）　Ｖｏ15で検出した不整長方形土坑で北側の一部がＳＫ6014と重複するが、前後関係は不明瞭であった。規模2.27×1.19m、深さ0.12mで、底部には細かな凹凸があり不整形となる。埋土は炭を多く含んでおり、二次被熱を受けた陶器、磁器、焼土塊が出土している。遺構の時期は18世紀中頃～後半と考えられる。

ＳＫ6016（第26図）　Ｖｏ・ｐ15で検出した不整長方形土坑で、規模2.6×1.48m、深さ0.3mである。埋土は炭を多く含んでおり、二次被熱を受けた陶器、焼土塊が出土している。遺構の時期は18世紀中頃～後半と考えられる。

ＳＫ6017（第26図）　Ｖｐ16で検出した不整長方形土坑で、規模2.55×0.74m、深さ0.32mである。埋土は炭を多く含んでおり、二次被熱を受けた陶器、焼土塊が出土している。遺構の時期は18世紀中頃～後半と考えられる。

ＳＫ6019（第27図）　Ｖｑ17で検出した土坑で東側は調査区外となり完掘できなかった。規模3.6×0.6m以上、深さ0.9m以上となり、井戸の可能性もある。出土した陶器片から遺構の時期は18世紀以降と考えられる。

ＳＫ6022（第25図）　Ｖｐ15で検出した不整形土坑で、規模0.91×0.67m、深さ0.07mである。埋土は炭を多く含んでいる。出土遺物には陶器がある。

ＳＫ6023（第26図）　Ｖｐ16で検出した不整長方形土坑で、規模0.85×0.58m、深さ0.16mである。埋土は炭を多く含んでおり、二次被熱を受けた陶器、焼土塊が出土している。遺構の時期は18世紀中頃～後半と考えられる。

ＳＫ6024（第26図）　Ｖｐ16で検出した楕円形土坑で、規模1.11×0.87m、深さ0.3mである。埋土は炭を多く含んでおり、二次被熱を受けた磁器、焼土塊が出土している。遺構の時期は18世紀中頃～後半と考えられる。

ＳＫ6026（第27図）　Ｖｐ・ｑ14・15で検出した不整形土坑で西側は調査区外となり、規模2.6×1.84m、深さ0.8mである。断面は底部が平坦で、側面は急な立ち上がりとなる。周辺の井戸と同規模であるが、湧水が確認できないため土坑とした。遺構の時期は18世紀である。

ＳＫ6028（第27図）　Ｖｐ14・15で検出した土坑で、規模1.7×0.95m以上、深さ0.32mである。出土遺物には磁器がある。

ＳＫ6030（第27図）　Ｖｑ14・15で検出した不整形土坑でＳＫ6026の一部を削平する。規模1.56×1.3m、深さ0.24mである。出土した磁器片から遺構の時期は18世紀以降と考えられる。

②溝

ＳＤ6027（第27図）　Ｖｑ15で検出した溝で、長さ1.8m以上、幅0.35m、深さ0.24mである。断面は底部が平坦で、側面は急な立ち上がりとなる。出土遺物には陶器がある。

８　６次７区上層

調査区は事業地の東側に位置する（第33・34図）。自然流路ＳＤ6012から平安時代の墨書土器、木製祭祀具が多く出土したことが特筆される。この他に平安時代～江戸時代の井戸、土坑、溝を確認した。

（１）縄文時代の遺構

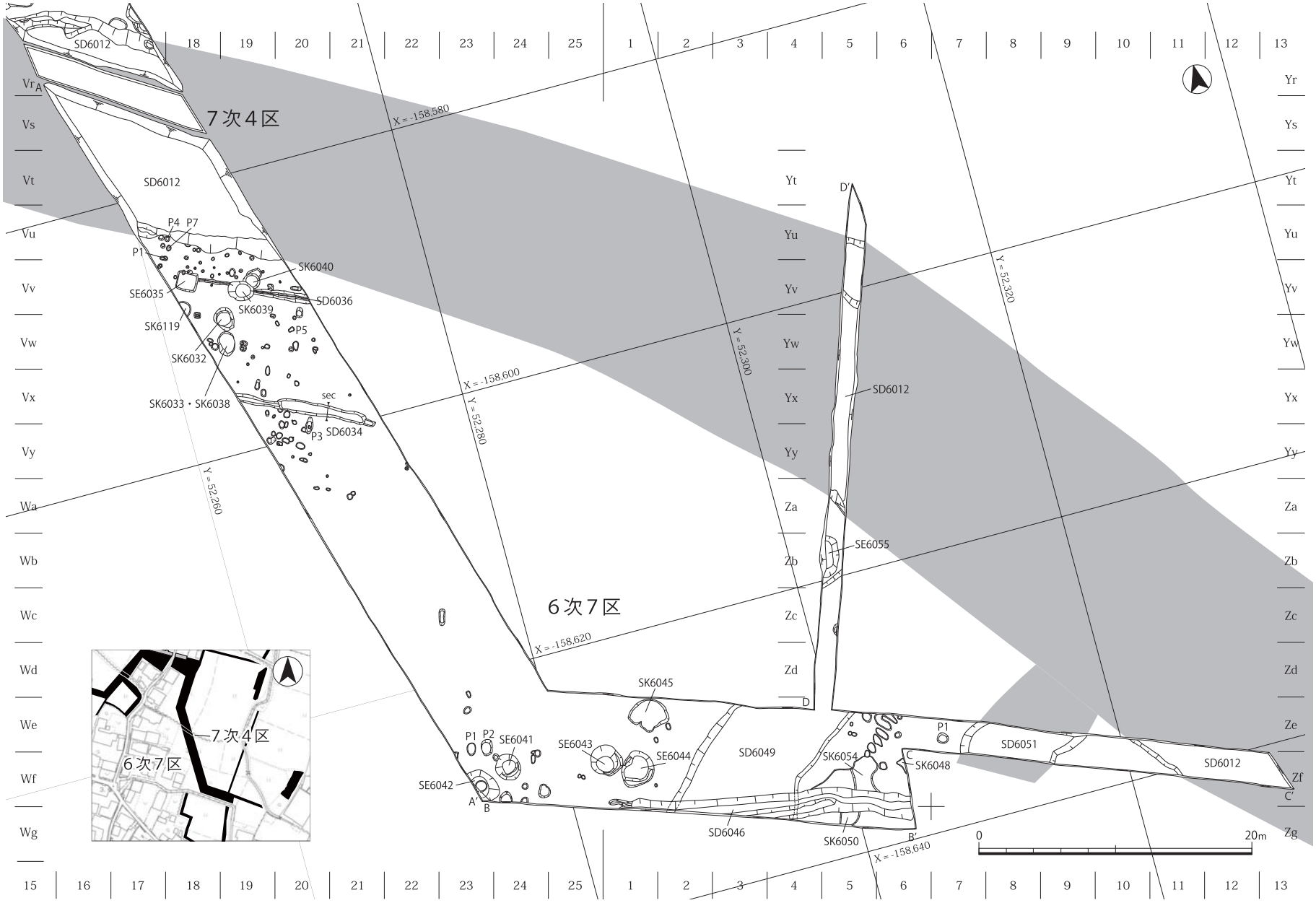
①溝

ＳＤ6049（第33図）　Ｚｂ５～ｇ４で検出した溝で、長さ21.8m以上、幅7.4m、深さ0.67mである。灰白色シルト層～極細細砂層を主体とした自然堆積層で、旧流路と考えられる。下層からは縄文土器が出土しており、他の時期の遺物は確認できないことから、縄文時代中期末～後期に属するものとみられる。

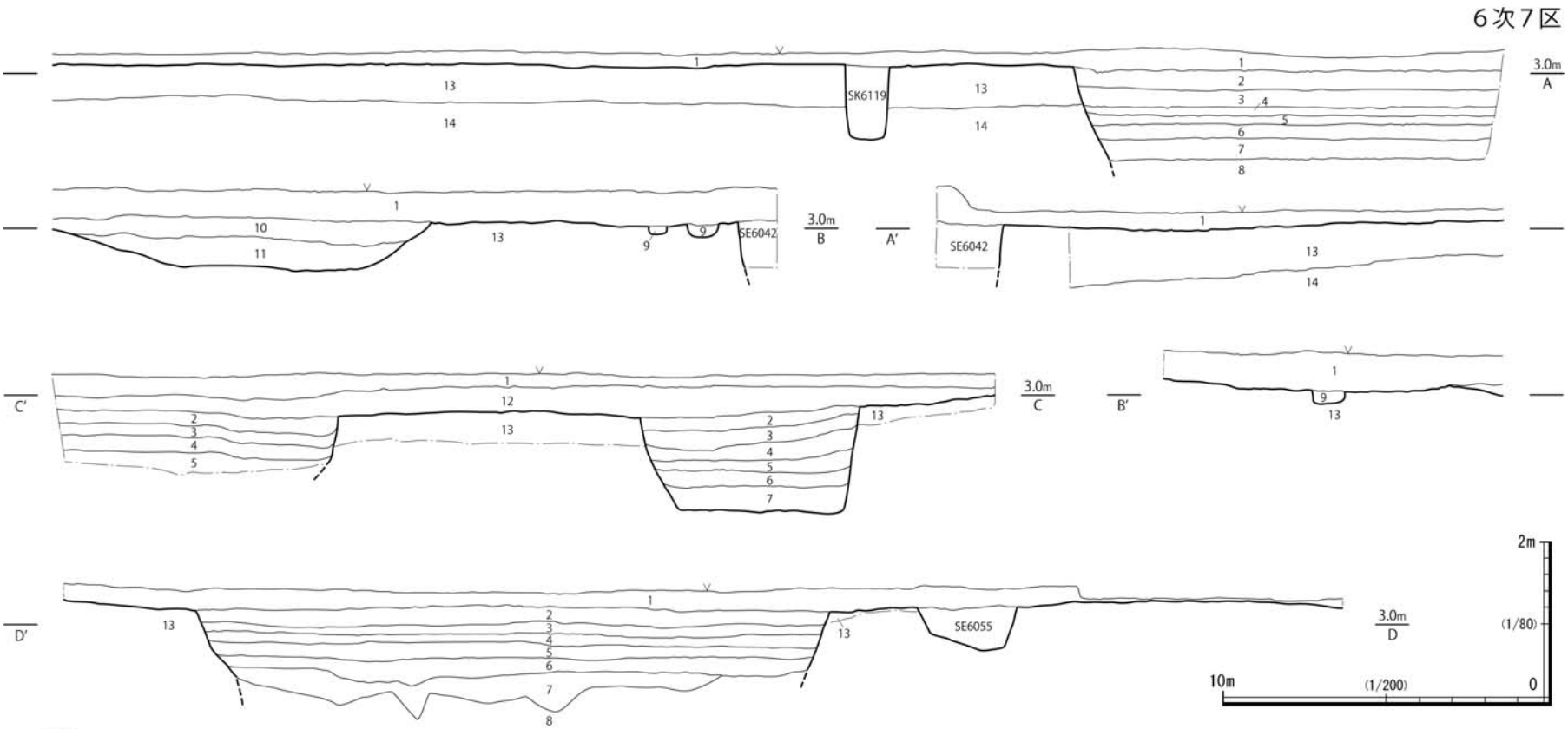
（２）平安時代～室町時代の遺構

①井戸

ＳＥ6035（第35図）　Ｖｖ18で検出した井戸で掘形平面は方形となり、規模1.5×1.4m、深さ1.43mである。井戸枠は抜き取られているが、掘形底部には

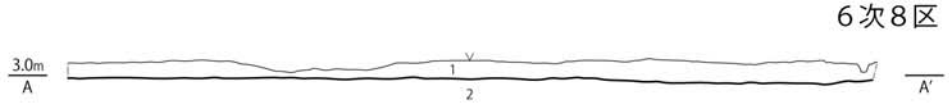


第33図　６次７区遺構全体図(1/400)



6次7区

1 耕作土
2 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト層：S D6012・6051
3 2.5Y6/1 黄灰色シルト層：S D6012・6051
4 2.5Y5/1 黄灰色粘土層：S D6012・6051
5 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土層（木製品多く含む）：S D6012・6051
6 N4/ 灰色粘土層（木製品多く含む）：S D6012・6051
7 N5/ 灰色粘土層
（5B7/1 明青灰色粘土ブロック 25%含む）：S D6012・6051
8 N4/ 灰色細砂層：S D6012・6051
9 2.5Y6/1 黄灰色シルト層：Pit
10 2.5Y7/1 灰白色シルト層：S D6050
11 2.5Y5/1 黄灰色シルト層：S D6050
12 2.5Y6/1 黄灰色シルト層
13 2.5Y7/8 黄色シルト層：ベース
14 2.5Y5/1 灰色細砂層：ベース



6次8区

1 耕作土
2 2.5Y8/3 淡黄色シルト層：ベース

6次9区

1 耕作土
2 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト層：S D6060
3 2.5Y5/3 黄褐色シルト層：S D6058
4 5Y7/1 灰白色シルト層（細砂少し含む）：S D6056
5 5Y6/1 灰色シルト層（N5/ 灰色シルトブロック少し含む）：S D6056
6 N5/ 灰色シルト層：S D6056
7 5Y7/2 灰白色シルト層（N5/ 灰色シルトブロック少し含む）：S D6056
8 2.5Y8/3 淡黄色シルト層：ベース

第34図　６次７・８・９区土層断面図(縦1/80、横1/200)

水溜として曲物１基を据えており、直径0.34m、高さ0.3mのものである。地下水位は標高1.5m程で湧水層に達する。埋土は大きく３層に分けられ井戸枠抜き取り埋土、井戸枠内埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は戦国期と考えられる。

ＳＥ6041（第35図）　Ｗｆ24で検出した井戸で掘形平面は円形となり、直径1.8m、深さ1.56mである。井戸枠は抜き取られたとみられる。地下水位は標高1.8m程で湧水層に達する。遺構の時期は鎌倉時代と考えられる。

ＳＥ6042（第35図）　Ｗｆ23・24で検出した井戸で西側は調査区外となるが、掘形は楕円形になるとみられる。規模2.66×1.3m以上、深さ1.52mである。井戸枠は抜き取られたとみられる。地下水位は標高1.8m程で湧水層に達する。遺構の時期は平安時代末期と考えられる。

ＳＥ6043（第36図）　Ｗｅ・ｆ25～Ｚｅ・ｆ１で検出した井戸で掘形平面は不整円形となり、規模2.4×2.18m、深さ1.3mである。井戸枠は抜き取られたとみられる。地下水位は標高1.8m程で湧水層に達する。遺構の時期は平安時代末期と考えられる。

ＳＥ6044（第35図）　Ｚｆ１で検出した井戸で掘形平面は不整円形となり、規模2.54×2.41m、深さ1.42mである。井戸枠は抜き取られているが、掘形底部には水溜として曲物１基を据えており、直径0.38m、高さ0.2mのものである。地下水位は標高1.7m程で湧水層に達する。埋土は大きく３層に分けられ井戸枠抜き取り埋土、井戸枠内埋土、掘形埋土となる。遺構の時期は平安時代末期と考えられる。

ＳＥ6055（第36図）　Ｚｂ５で検出した井戸で西側は調査区外となるが、掘形は楕円形になるとみられる。規模3.11×0.96m以上、深さ1.2mである。井戸枠は抜き取られたとみられる。地下水位は標高1.8m程で湧水層に達する。遺構の時期は鎌倉時代と考えられる。

②土坑

ＳＫ6032（第36図）　Ｖｗ18・19で検出した楕円形土坑で、規模1.72×1.45m、深さ1.31mである。遺構の時期は戦国期と考えられる。

ＳＫ6033（第36図）　Ｖｗ19で検出した楕円形土坑でＳＫ6038の一部を削平する。規模1.2×1.0m、深さ0.3mとなり、断面は不整形である。遺構の時期は戦国期である。

ＳＫ6038（第36図）　Ｖｗ19で検出した楕円形土坑で、規模1.5×1.26m、深さ1.1mである。断面は底部が平坦で、側面は急な立ち上がりとなる。周辺の井戸と同規模であるが、湧水が確認できないため土坑とした。遺構の時期は戦国期である。

ＳＫ6039（第36図）　Ｖｖ19で検出した楕円形土坑で、規模1.88×1.46m、深さ1.3mである。断面は底部が平坦で、側面は急な立ち上がりとなる。周辺の井戸と同規模であるが、湧水が確認できないため土坑とした。遺構の時期は戦国期と考えられる。

ＳＫ6040（第33図）　Ｖｖ19で検出した楕円形土坑で、規模1.22×0.89m以上、深さ0.29mである。出土遺物には戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＫ6045（第33図）　Ｚｅ１・２で検出した不整形土坑で、規模2.33×2.29m、深さ0.23mである。出土遺物には鎌倉時代の山茶椀がある。

ＳＫ6048（第33図）　Ｚｆ６で検出した土坑で、規模1.14×0.62m、深さ0.03mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＫ6050（第33図）　Ｚｇ５で検出した土坑で、規模1.4×0.9m、深さ0.17mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

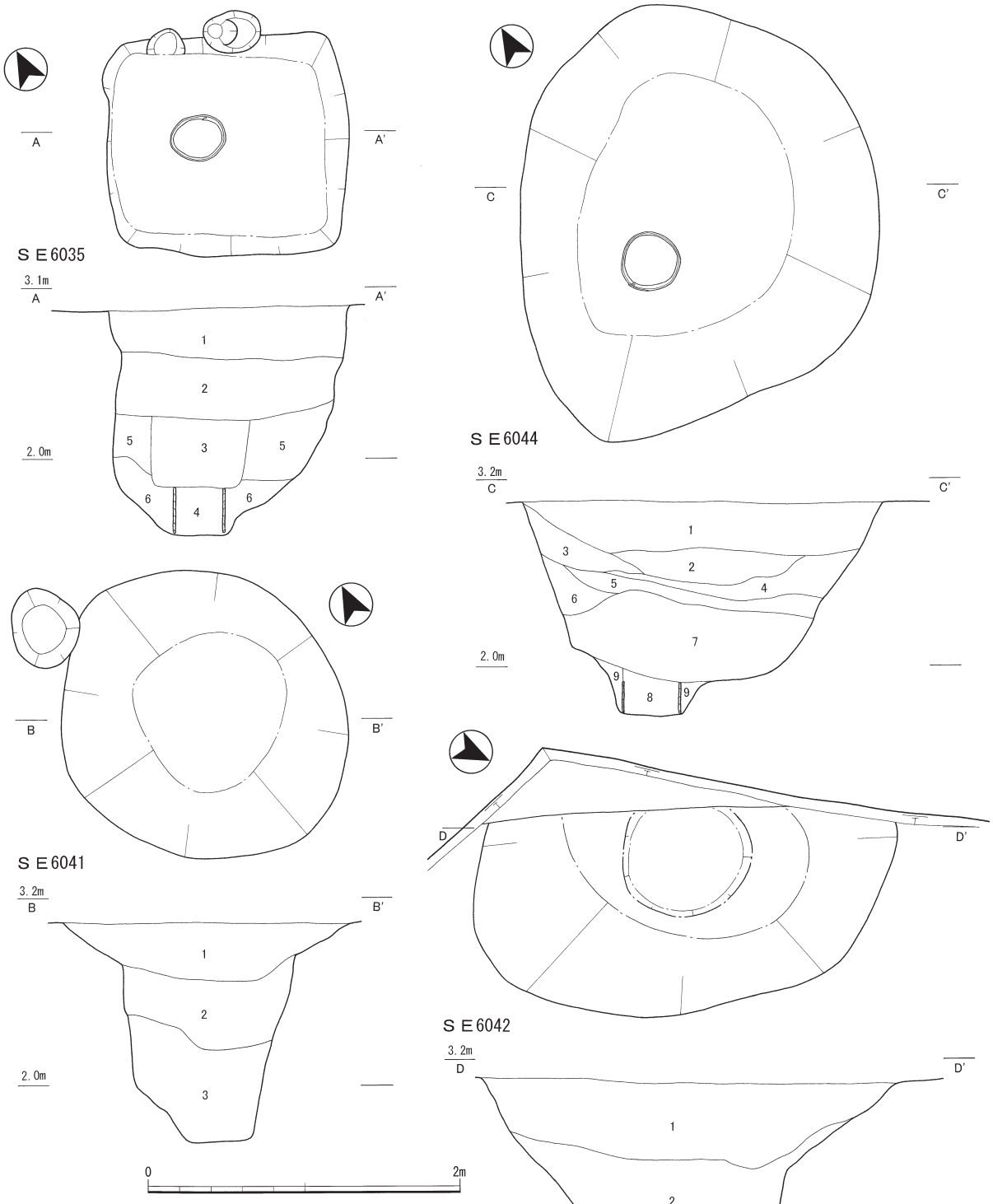
ＳＫ6054（第33図）　Ｚｆ５・６で検出した不整形土坑で、規模2.03×1.95m、深さ0.1mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＫ6119（第33図）　Ｖｖ・ｗ18で検出した土坑で、規模1.24×0.6m以上、深さ1.21mである。出土遺物には鎌倉時代の南伊勢系土師器、山茶椀がある。

③溝

ＳＤ6012（第33図）　調査区北西側Ｖｓ15～18から南東側Ｚｅ・ｆ13の広範囲にかけて南側上端が確認できた。６区で検出した北側上端から、幅は15m程になる。調査区北西側の調査では、埋土上層より中世前期～後期の土器類、下層からは平安時代前期～後期の墨書土器、斎串が出土した。遺物量は平安時代のものが多くを占める。調査区南東側Ｙｖ５～Ｚａ５、Ｚｆ10～13では平安時代の土器類が主となるが、遺物量は少ない傾向がみられた。

ＳＤ6034（第37図）　Ｖｘ19～21で検出した直線的



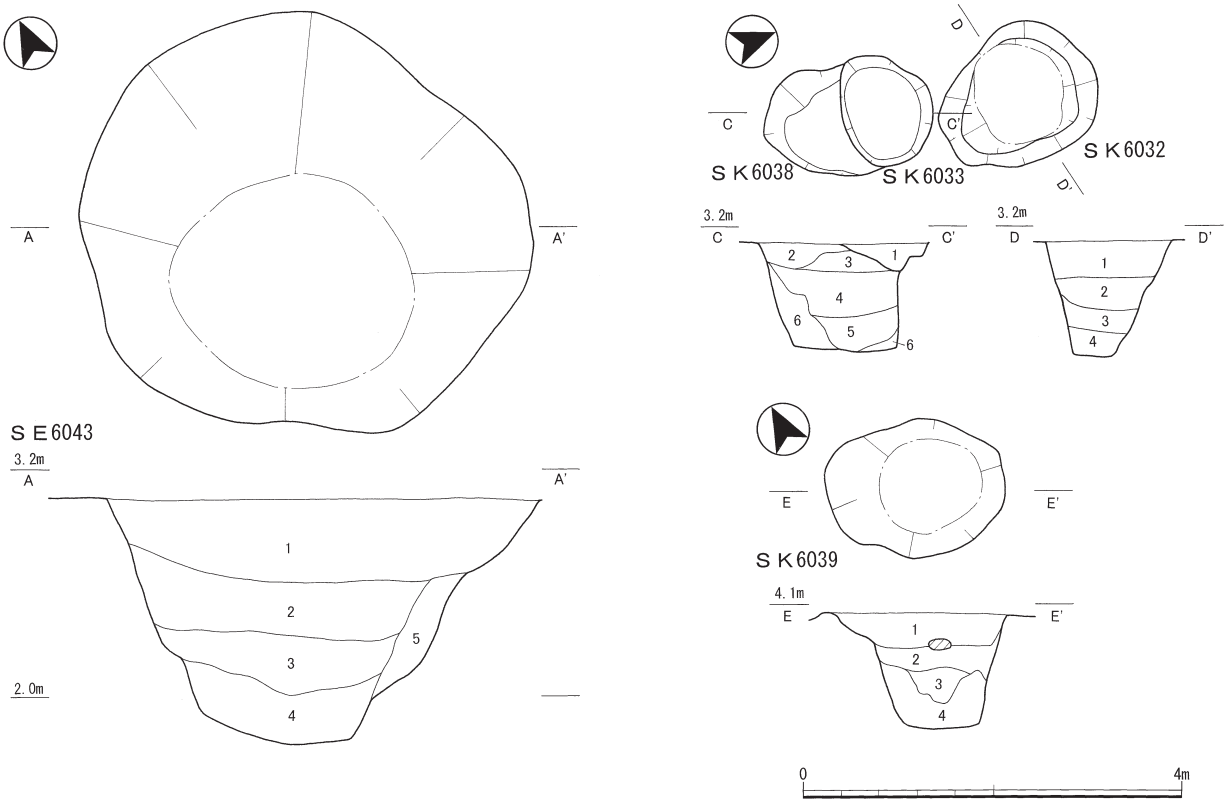
SE6035
1 2.5Y7/6 明黄褐色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
2 2.5Y6/1 黄灰色粘土層（細砂多く含む）：井戸枠抜き取り埋土
3 5YR4/4 にぶい赤褐色粘土層（2～5mmの礫多く含む）：井戸枠抜き取り埋土
4 N6/灰色粘土層：井戸枠内埋土
5 5B4/1 暗青色粘土層（細砂多く含む）：掘形埋土
6 5B4/1 暗青色細砂層：掘形埋土

SE6041
1 2.5Y8/4 淡黄色シルト層
2 2.5Y7/4 浅黄色シルト層
3 2.5Y4/1 黄灰色シルト層

SE6042
1 2.5Y6/8 明黄褐色シルト層
2 2.5Y4/1 黄灰色粘土層
3 7.5GY5/1 緑灰色粘土層（細砂多く含む）

SE6044
1 2.5Y7/3 浅黄色シルト層：井戸枠抜き取り埋土
2 5YR6/1 褐灰色粘土層：井戸枠抜き取り埋土
3 2.5Y7/8 黄色粘土層：井戸枠抜き取り埋土
4 2.5Y5/1 黄灰色細砂層：井戸枠抜き取り埋土
5 2.5Y6/2 灰黄色細砂層：井戸枠抜き取り埋土
6 2.5Y6/1 黄灰色粘土層：井戸枠抜き取り埋土
7 N4/灰色粘土層：井戸枠抜き取り埋土
8 N3/暗灰色粘土層：井戸枠内埋土
9 2.5Y3/1 黒褐色粘土層：掘形埋土

第35図　６次７区井戸実測図(1/40)



ＳＥ6043
1　2.5Y7/2 灰黄色シルト層
2　2.5Y6/2 灰黄色粘土層
3　N4/灰色粘土層
4　10GY5/1 緑灰色粘土層（細砂多く含む）
5　2.5Y6/3 にぶい黄色シルト層

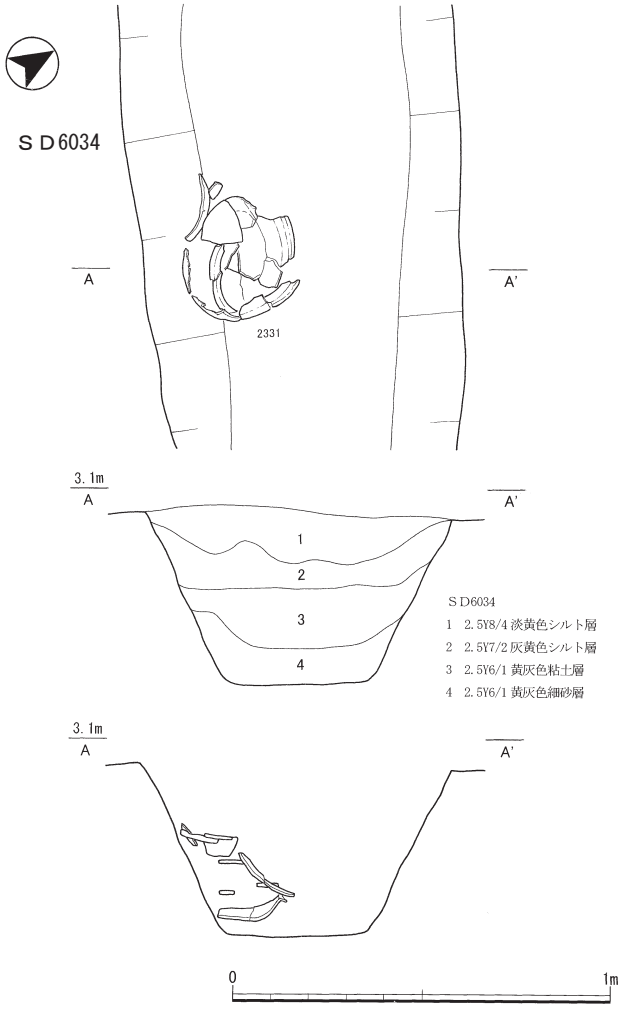
ＳＥ6055
1　耕作土
2　2.5Y6/2 灰黄色シルト層
3　2.5Y7/2 灰黄色シルト層
4　2.5Y6/3 にぶい黄色粘土層
5　2.5Y5/1 黄灰色粘土層
6　10GY7/1 明緑灰色粘土層
7　10GY6/1 緑灰色細砂層

ＳＫ6032
1　N5/灰色シルト層（5Y7/4 浅黄色シルトブロック 5%含む）
2　N4/灰色シルト層
3　10GY4/1 暗緑灰色粘土層
4　10GY4/1 暗緑灰色粘土層（細砂多く含む）

ＳＫ6033・6038
1　2.5Y7/1 灰白色シルト層：ＳＫ6033
2　2.5Y6/1 黄灰色シルト層：ＳＫ6038
3　2.5Y6/8 明黄褐色シルト層：ＳＫ6038
4　2.5Y6/6 明黄褐色シルト層：ＳＫ6038
5　2.5Y4/1 黄灰色粘土層：ＳＫ6038
6　2.5Y4/1 黄灰色細砂層：ＳＫ6038

ＳＫ6039
1　2.5Y6/1 黄灰色シルト層
2　2.5Y6/1 黄灰色粘土層
3　2.5Y5/1 黄灰色粘土層
4　5B4/1 暗青色粘土層

第36図　６次７区井戸・土坑実測図（ＳＥ6043・6055は1/40、他1/80）



第37図　６次７区溝実測図(1/20)

な溝で、長さ10.4m以上、幅0.92m、深さ0.45mである。断面は底部が平坦で、側面は急な立ち上がりとなる。３・４層からほぼ完形の南伊勢系土師器鍋（2331）が出土しており、遺構の時期は室町時代と考えられる。

ＳＤ6036（第33図）　Ｖｖ18～20で検出した直線的な溝で、長さ8.5m以上、幅0.69m、深さ0.24mである。出土遺物には鎌倉時代の山茶椀がある。

ＳＤ6046（第33図）　Ｚｆ・ｇ１～６で検出した溝で、長さ8.6m、幅1.9m、深さ0.76mであり、東端でＳＤ6051に繋がるとみられる。周辺地形から条里坪境や区画溝に相当すると考えられる。遺構の時期は室町時代～戦国期である。

ＳＤ6051（第33図）　Ｚｅ・ｆ７～９で検出した溝で、長さ2.5m以上、幅8.1m、深さ0.9mであり、北側はＳＤ6012と繋がると考えられる。周辺地形から条里坪境や区画溝に相当すると考えられる。遺構の時期は室町時代～戦国期である。

９　６次６区下層・７区下層

事業地東側に位置する６次６区・７区の調査中に縄文土器が複数出土したため、古代･中世の遺構面より下層における縄文時代の遺構の有無を確認するために、６区南側と７区で下層調査を行った（第34・38図）。６区下層では遺構は確認できなかったが、７区下層では落ち込みが１基検出されたほか、縄文時代の遺物群や焼土の存在が確認された。

（１）縄文時代の遺構

①落ち込み

ＳＨ6197（第39図）　７区の下層で検出した浅い落ち込み状の遺構である。現状では平面形は直径3.4mほどの不整形な円形を呈しているが、遺構の掘形はかなり不鮮明で、本来はさらに大きな遺構であった可能性がある。深さも検出面から0.1m以下と浅いが、掘形が不鮮明なため、上部では検出できなかった可能性があり、本来はさらに深い遺構であったとも考えられる[(5)]。竪穴建物の可能性もあるが、柱穴や炉などは検出できなかった[(6)]。

内部からは縄文土器や石器、礫などが多数検出された。遺物は底面からやや浮いた位置で検出されたものが多く、大きくいくつかの群に分かれて分布する。出土した縄文土器は、縄文時代中期末のものが主体である。

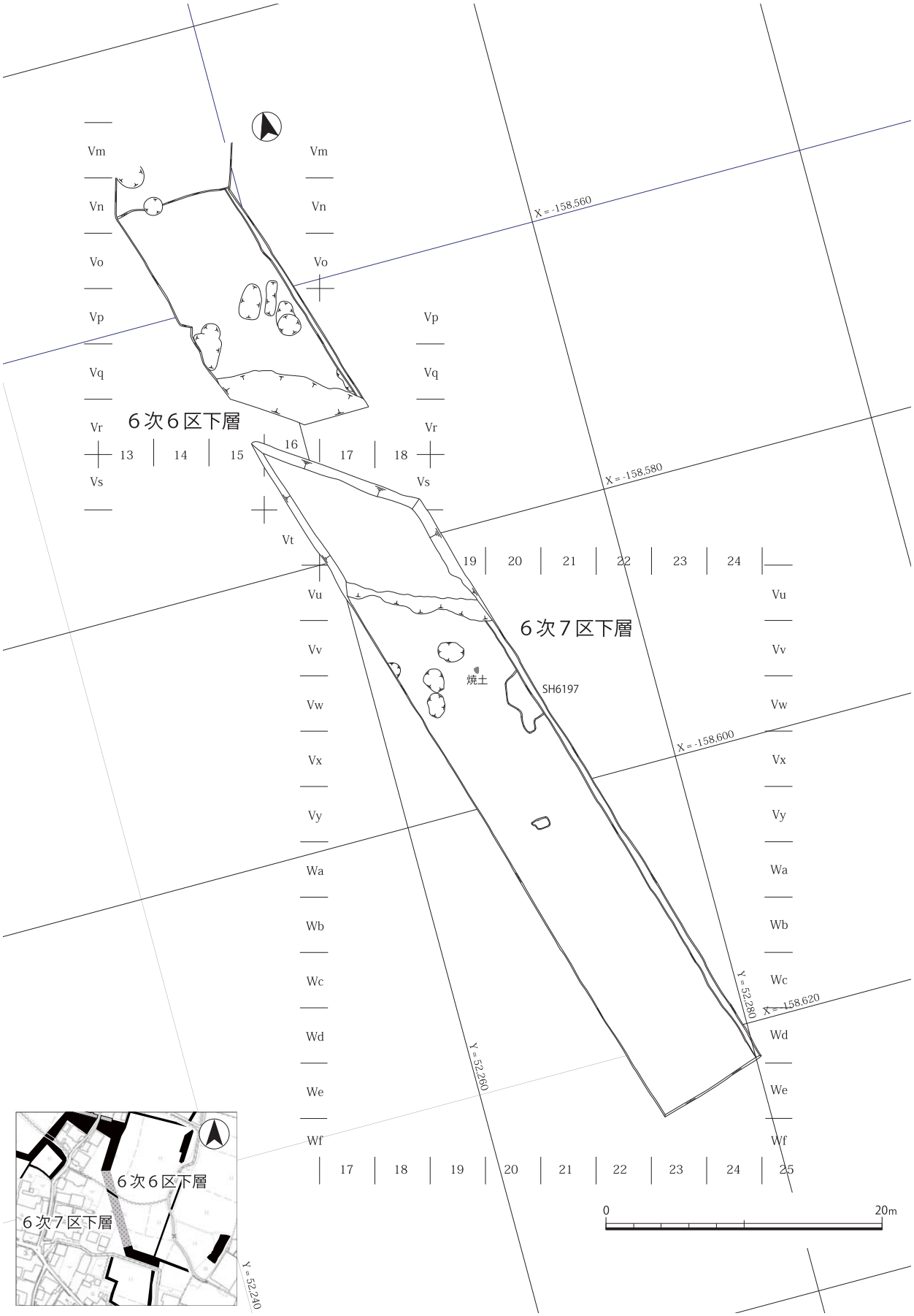
②遺物群

遺物群（第40～43図）　ＳＨ6197の周囲では、縄文土器や石器、礫が集中して分布する遺物群が複数検出された。ＳＨ6197の本来の範囲が不明確であるため、本来は全てＳＨ6197と同じ遺構内に包含されていた遺物の可能性がある[(7)]。

遺物群No.１では、縄文土器深鉢の底部（2405）及び、少数の土器片が出土している。

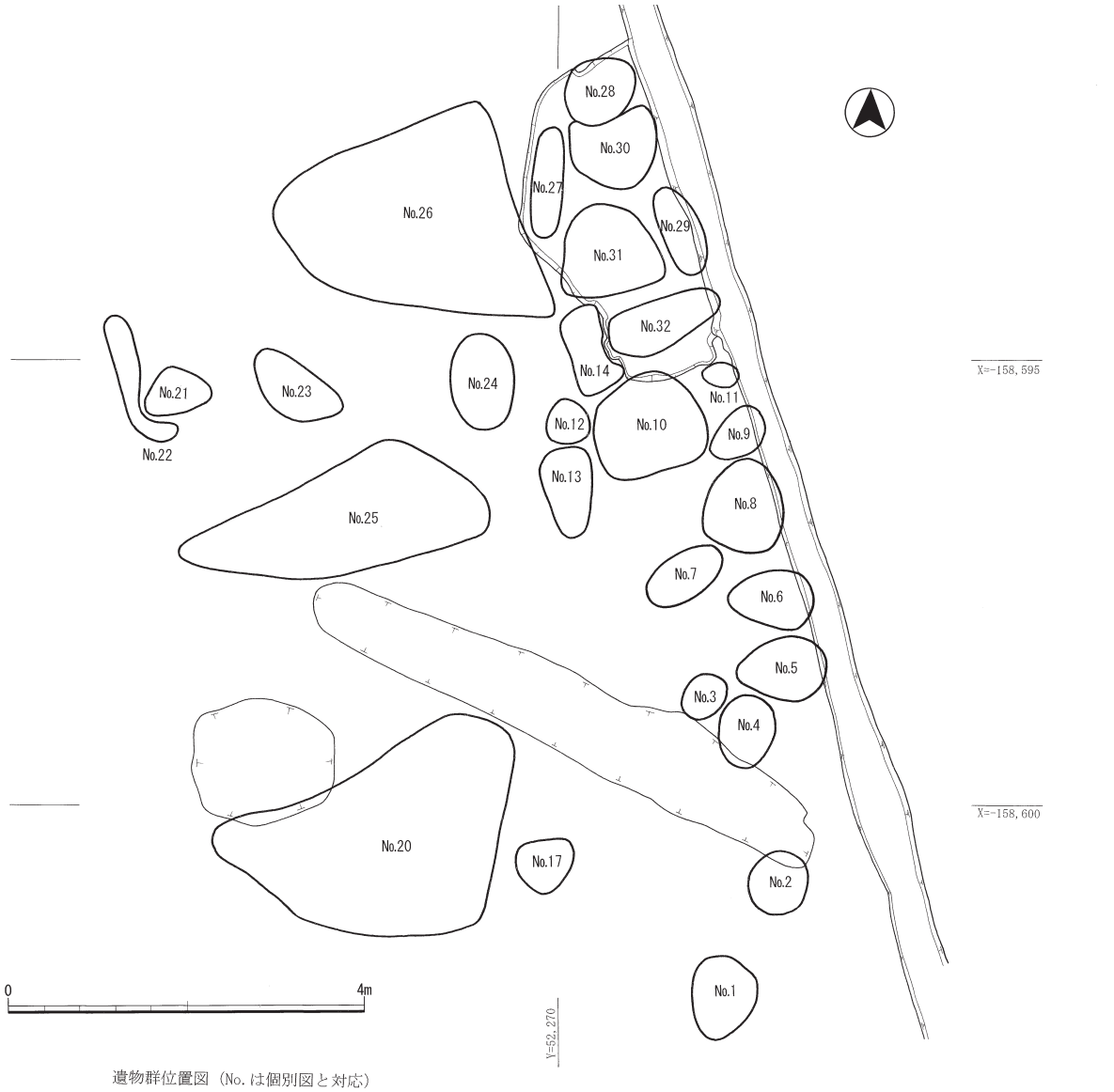
遺物群No.８は土器を中心に遺物の分布密度が高い。縄文土器深鉢（2356・2357・2363ほか）などが出土している。

遺物群No.10はＳＨ6197の南縁部に位置し、土器を中心に遺物の分布密度が高い。縄文土器深鉢（2364・

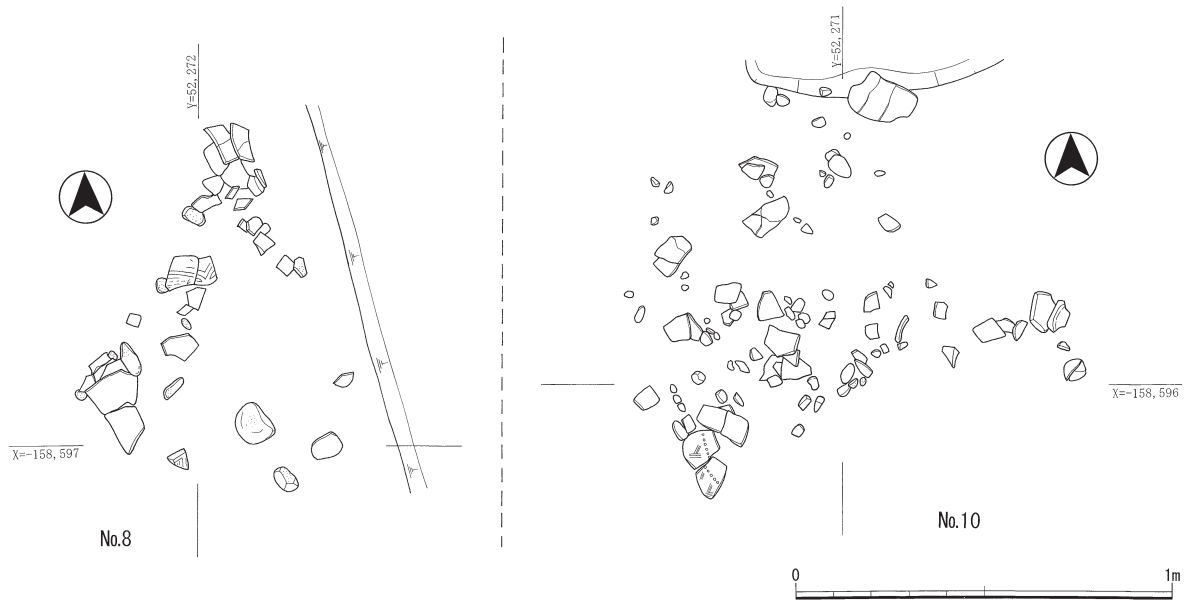


第38図　6次6・7区下層遺構全体図(1/400)

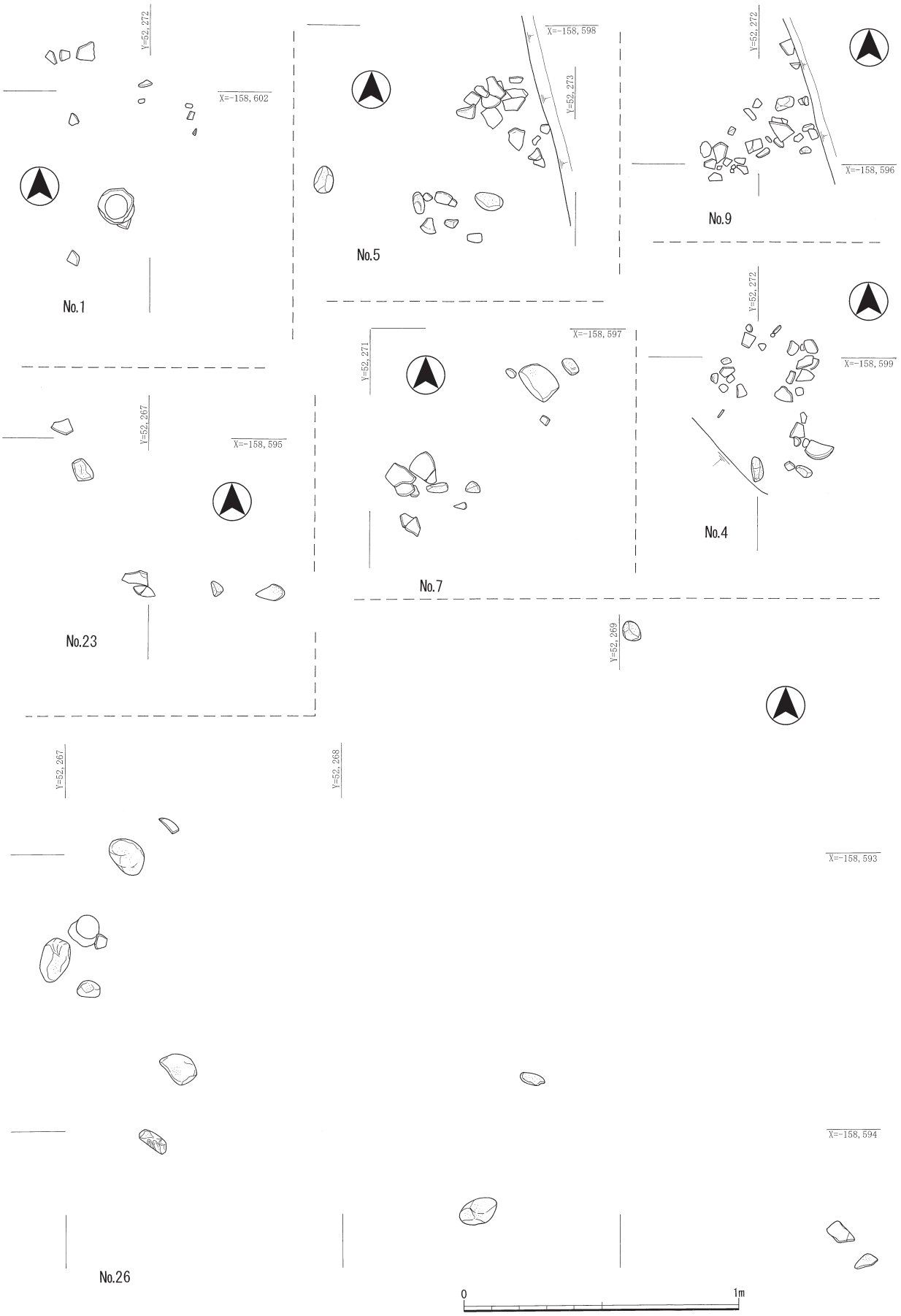
第39図　６次７区下層落ち込み実測図(1/20)



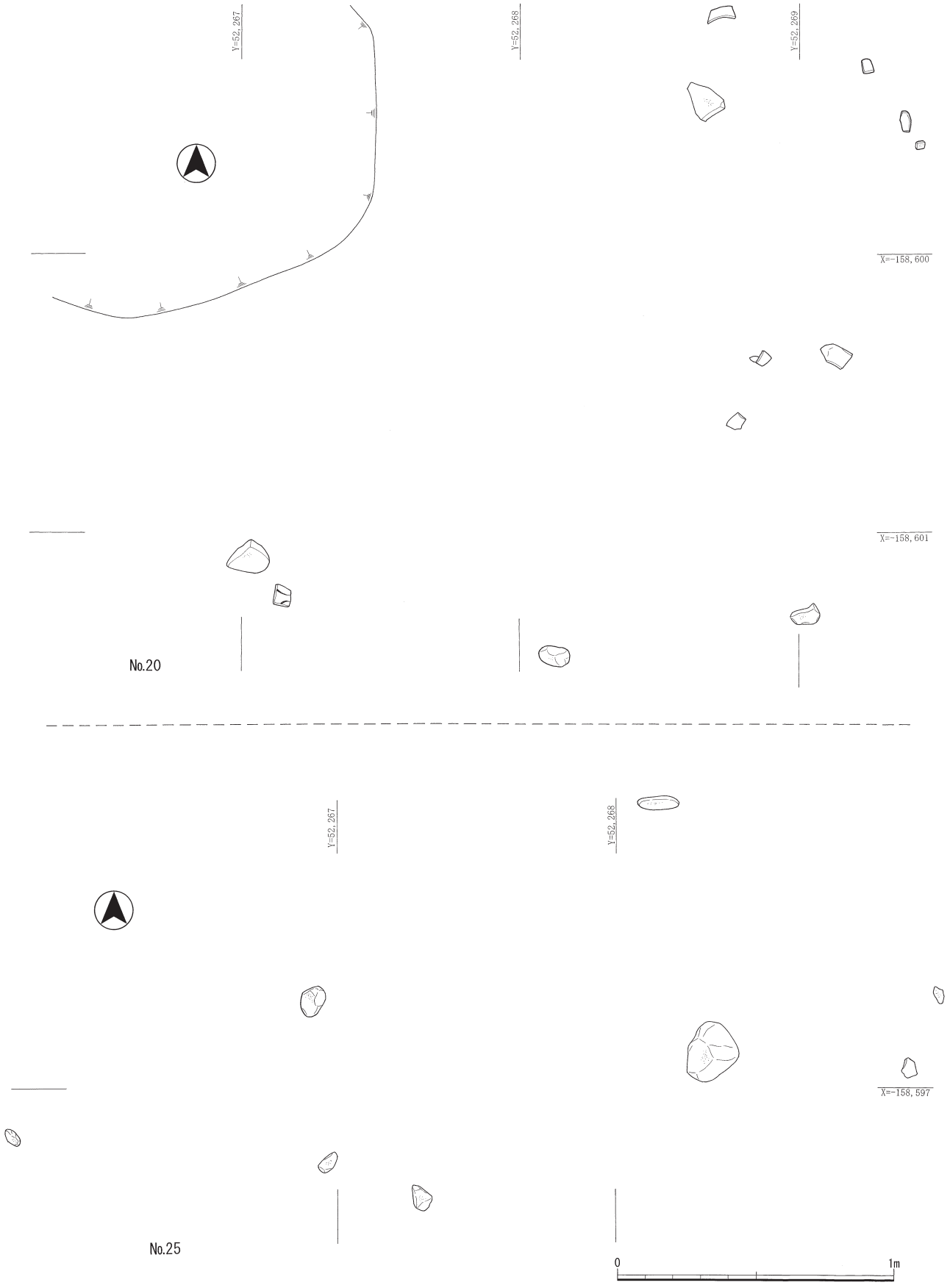
遺物群位置図（No. は個別図と対応）



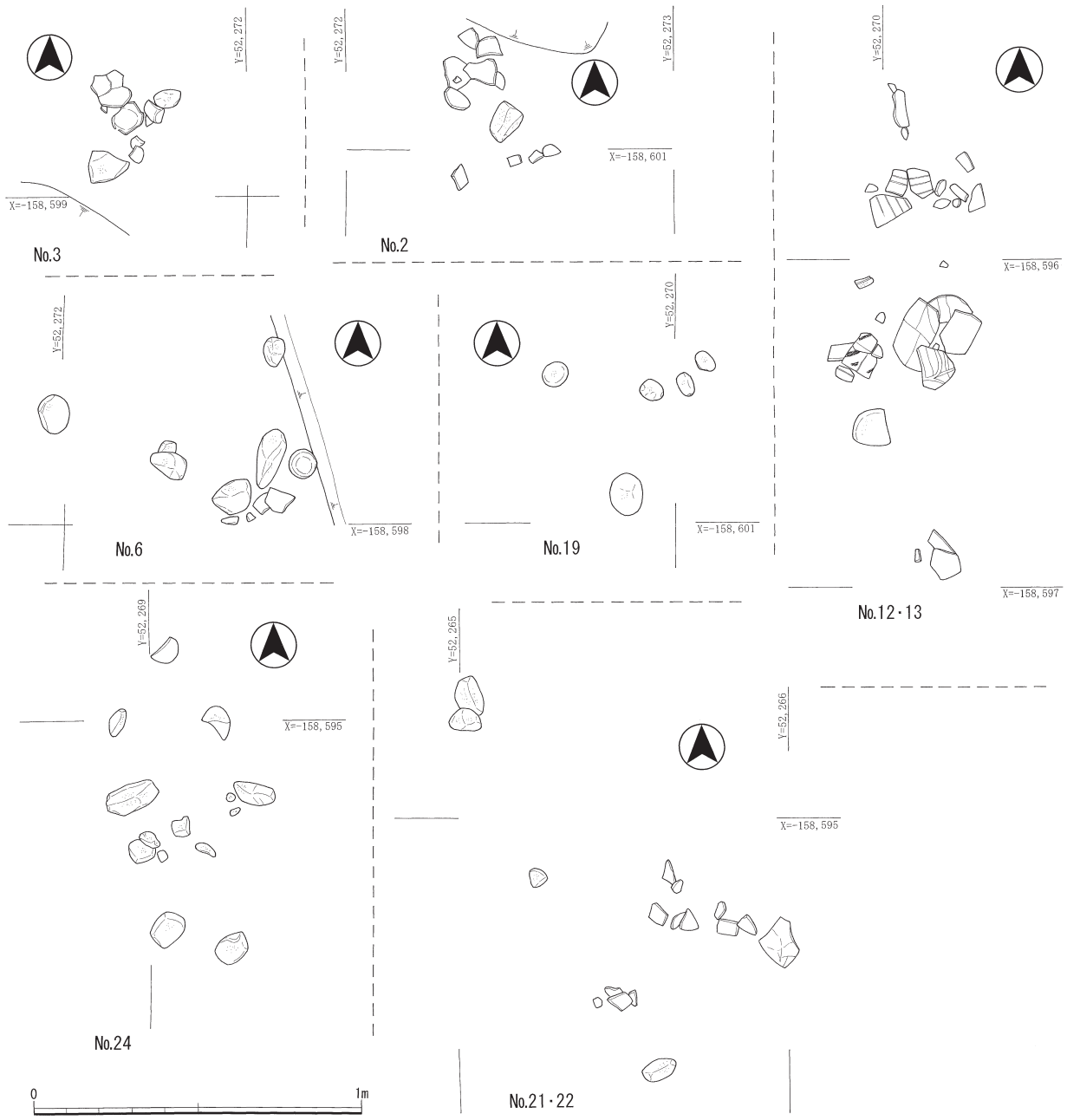
第40図　６次７区下層遺物出土状況図①（1/80、1/20）



第41図　６次７区下層遺物出土状況図②(1/20)



第42図　６次７区下層遺物出土状況図③(1/20)



第43図　６次７区下層遺物出土状況図④(1/20)

2396ほか）などが出土している。

遺物群No. 12・13はほぼ一連のまとまりで、やや大きな土器片が多い。No. 12では縄文土器深鉢（2380ほか）、No. 13では縄文土器深鉢（2367ほか）や、石皿（2604）などが出土している。

遺物群No. 19は礫や石製品が中心である。水銀朱が付着した磨石（2601）などが出土している。

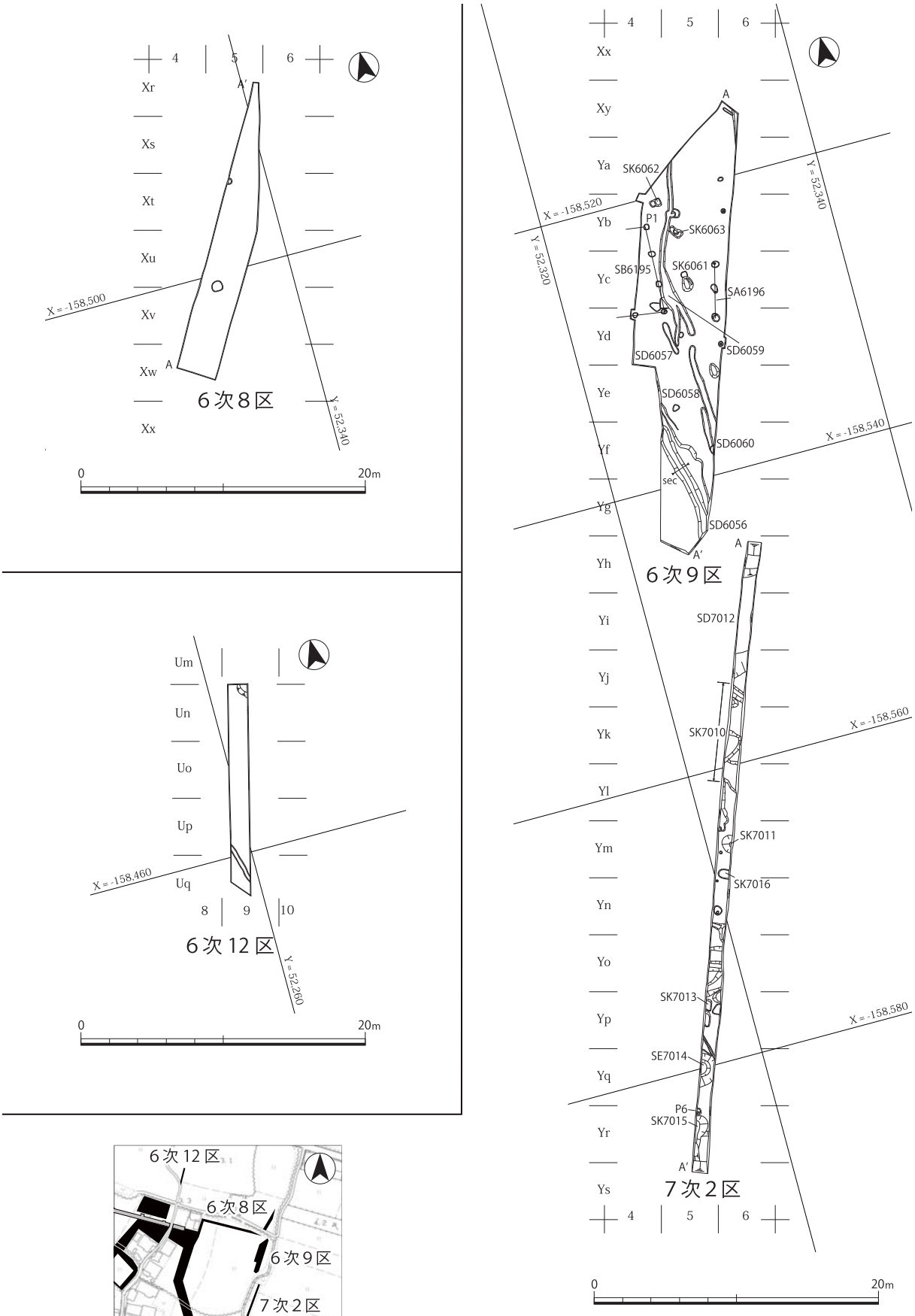
遺物群No. 20では、少数の遺物がやや広い範囲に散漫に分布している。縄文土器浅鉢（2390）や、台石（2606）などが出土している。

遺物群No. 24はＳＨ6197の南西側で検出され、縄文土器深鉢（2376・2385ほか）の破片がまとまって出土している。

遺物群No. 25では、礫を中心に少数の遺物が散漫に分布する。

遺物群No. 26では縄文土器深鉢（2377）の破片がまとまって出土している。

出土した縄文土器は、いずれの遺物群においても



第44図　６次８・９・12区、７次２区遺構全体図(1/400)

縄文時代中期末のものが主体である。

10　６次８・９区、７次２区

調査区は事業地北東側に位置する（第34・44・50図）。６次８区では土坑１基を検出したが、遺物は出土せず時期不明である。６次９区と７次２区では飛鳥時代の掘立柱建物、奈良時代の溝、平安時代～室町時代の井戸、土坑、溝を確認した。

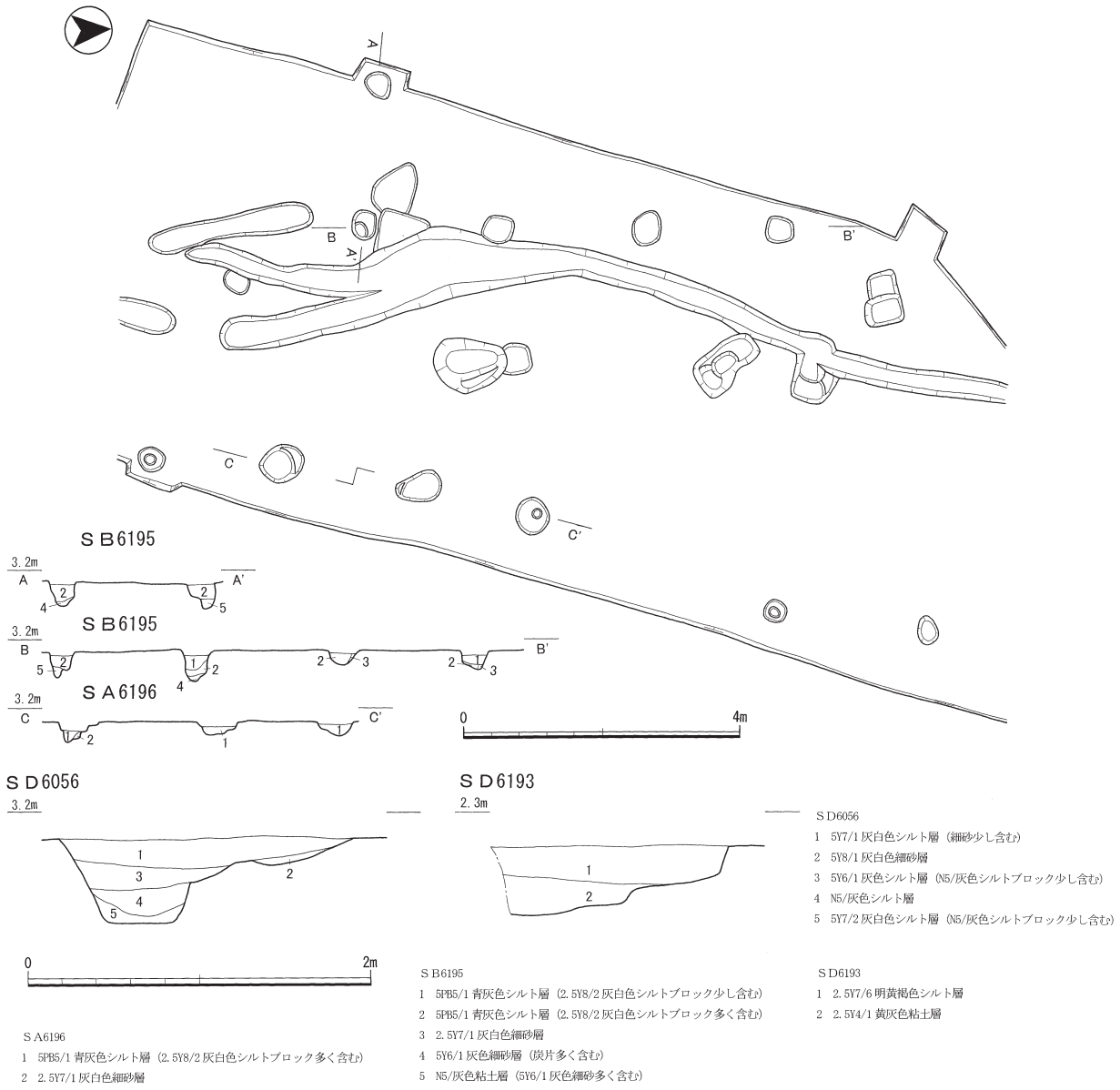
（１）飛鳥時代の遺構

①掘立柱建物

ＳＢ6195（第45図）　Ｙｂ～ｄ４で検出した掘立柱建物で３間×２間以上で、柱間は1.8m、主軸はＮ２°Ｅである。柱穴は平面形が円形や隅丸方形で幅0.3～0.4m、深さ0.2～0.4m程であり、柱痕は確認できず柱は抜き取られたと考えられる。時期は飛鳥時代と考えられる。

②柱列

ＳＡ6196（第45図）　Ｙｃ・ｄ５で検出した２間の柱列であり、東側に建物が展開する可能性がある。柱間は1.7～1.8m、主軸はＮ15°Ｅで、ＳＢ6195と方位が異なる。柱穴は平面形が円形や不整円形で幅0.5m、深さ0.2～0.3m程であり、柱痕は確認できず柱は抜き取られたと考えられる。遺構の時期は飛



第45図　６次９・10区柱列・掘立柱建物・溝実測図（ＳＡ6196・ＳＢ6195は1/100、他1/40）

鳥時代と考えられる。

③土坑

ＳＫ6061（第44図）　Ｙｃ５で検出した不整形土坑で、規模1.06×0.8m、深さ0.19mである。出土遺物には飛鳥時代の土師器片がある。

ＳＫ6062（第44図）　Ｙｂ４で検出した不整形土坑で、規模0.76×0.56m、深さ0.25mである。出土遺物には飛鳥時代の須恵器がある。

ＳＫ6063（第44図）　Ｙｂ５で検出した不整形土坑で、規模1.02×0.61m以上、深さ0.41mである。出土遺物には飛鳥時代の土師器片がある。

（２）奈良時代の遺構

①溝

ＳＤ6056（第44・45図）　Ｙｆ～ｈ５で検出した溝でやや蛇行しており、長さ8.0m以上、幅0.74m、深さ0.5mである。断面は底部が平坦で、西側面は急な立ち上がりであるが、東側面は段を成して緩やかに立ち上がる。遺構の時期は奈良時代中～後期と考えられる。

（３）平安時代～室町時代の遺構

①井戸

ＳＥ7014（第51図）　Ｙｑ５で検出した井戸で、規模2.68×0.9m以上、深さ1.1mである。井戸枠材や水溜施設は確認できなかった。地下水位は標高2.0m程で湧水層に達する。遺構の時期は戦国期である。

②土坑

ＳＫ7010（第44図）　Ｙｊ～ｌ６で検出した不整形土坑で、規模7.0×0.9m以上、深さ0.36mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＫ7011（第44図）　Ｙｍ６で検出した土坑で東側は調査区外であるが楕円形になるとみられ、規模1.19×0.69m以上、深さ0.39mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＫ7013（第44図）　Ｙｐ５で検出した土坑で西側は調査区外であるが方形になるとみられ、規模0.81×0.39m以上、深さ0.16mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＫ7015（第51図）　Ｙｒ５で検出した不整形土坑で西側は調査区外となり、規模2.3×0.8m以上、深さ0.39mである。遺構の時期は室町時代～戦国期である。

ＳＫ7016（第44図）　Ｙｍ・ｎ６で検出した土坑で東側は調査区外であるが楕円形になるとみられ、規模0.75×0.66m以上、深さ0.1mである。遺構の時期は室町時代～戦国期である。

③溝

ＳＤ6057（第44図）　Ｙｄ５で検出した溝で長さ2.5m、幅0.43m、深さ0.03mである。出土遺物には平安時代の土師器片がある。

ＳＤ6058・6059（第44図）　Ｙａ～ｆ５で検出した蛇行溝で一連の遺構と考えられ、長さ19.0m以上、幅0.53m、深さ0.13mである。出土遺物には土師器小片があり、遺構の時期は平安時代であろう。

ＳＤ6060（第44図）　Ｙｅ・ｆ５で検出した溝で長さ3.5m以上、幅0.5m、深さ0.65mである。出土遺物には平安時代の土師器片がある。

ＳＤ7012（第44図）　Ｙｈ～ｊ６で検出した溝で、長さ7.0m以上、幅0.9m以上、深さ0.56mである。南西側に向けて延び、ＳＤ6012に接続するとみられる。遺構の時期は戦国期である。

11　６次10区

調査区は事業地南東側に位置し、江戸時代の溝２条を確認した（第46・48図）。

（１）江戸時代の遺構

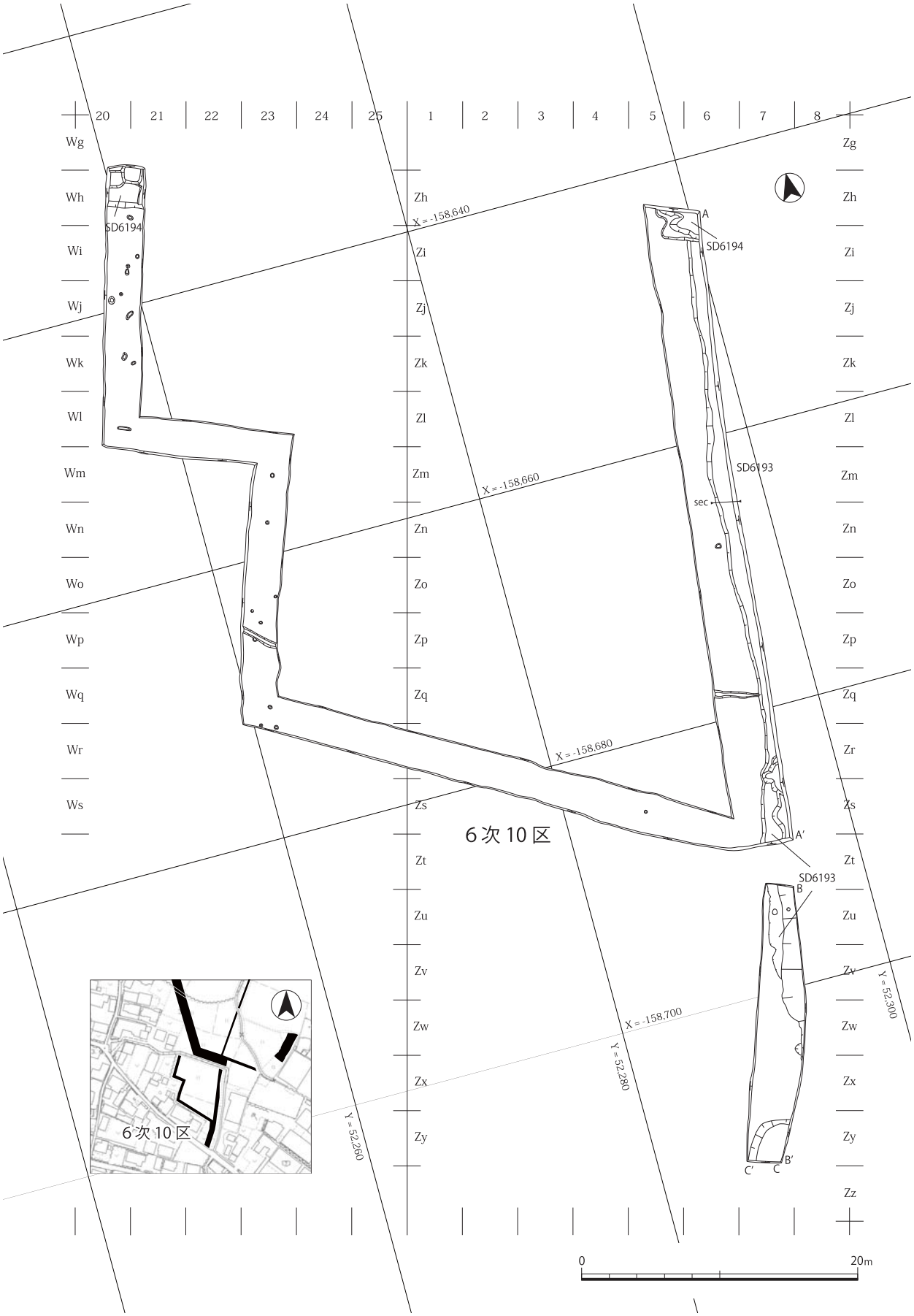
①溝

ＳＤ6193（第45・46図）　Ｚｉ６～ｗ８で検出した南北方向の溝で、長さ59.5m以上、幅2.17m以上、深さ0.6mである。北側はＳＤ6194と繋がり、周辺地形から区画溝に相当すると考えられる。出土遺物には瀬戸・美濃産陶器がある。

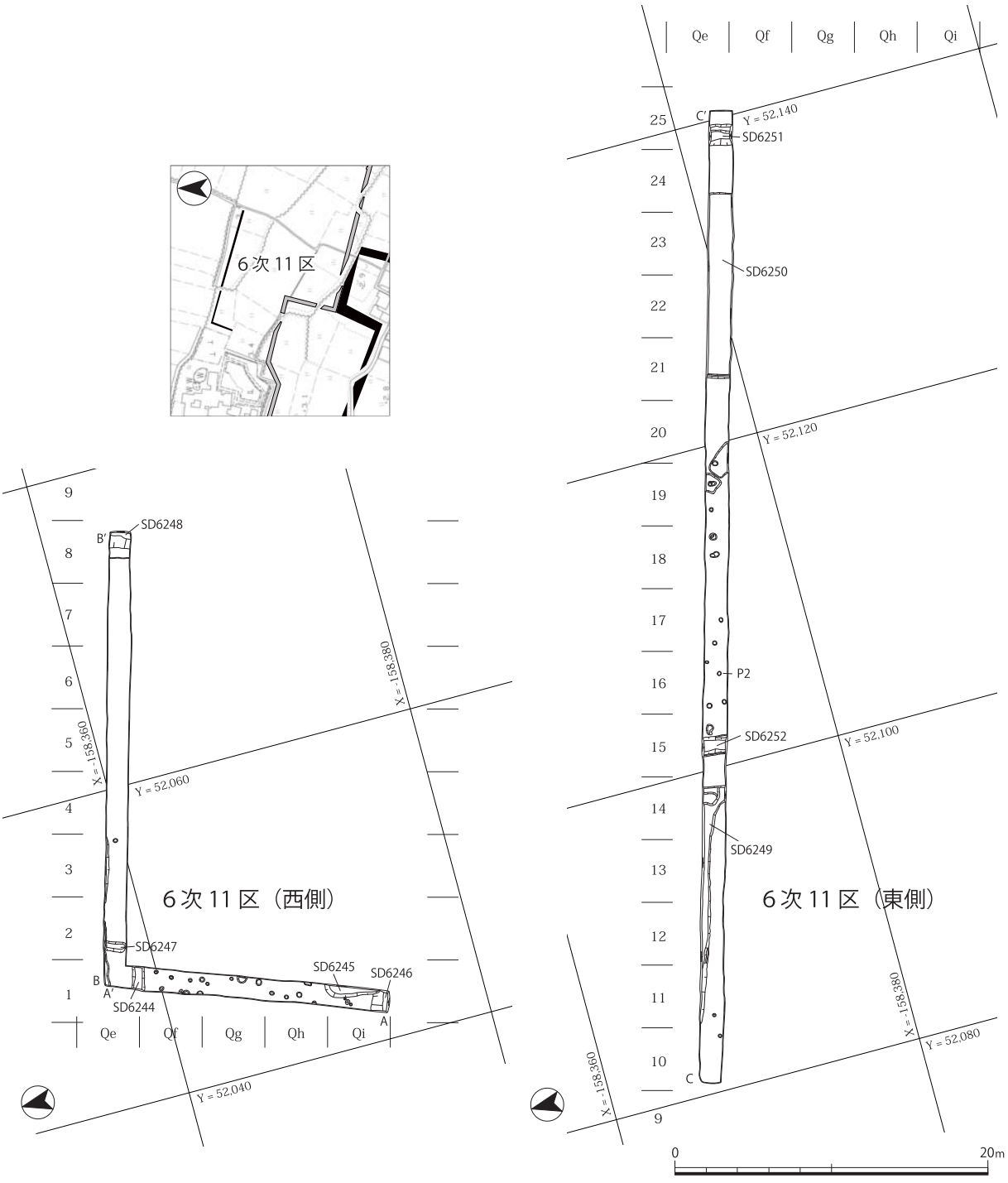
ＳＤ6194（第46図）　Ｗｇ・ｈ20～Ｚｈ・ｉ６で検出した東西方向の溝で、長さ43.0m以上、幅2.58m以上、深さ1.09mである。ＳＤ6193と同規模の溝で、区画溝に相当すると考えられる。出土遺物には18世紀後半の土師器、陶器がある。

12　６次11区

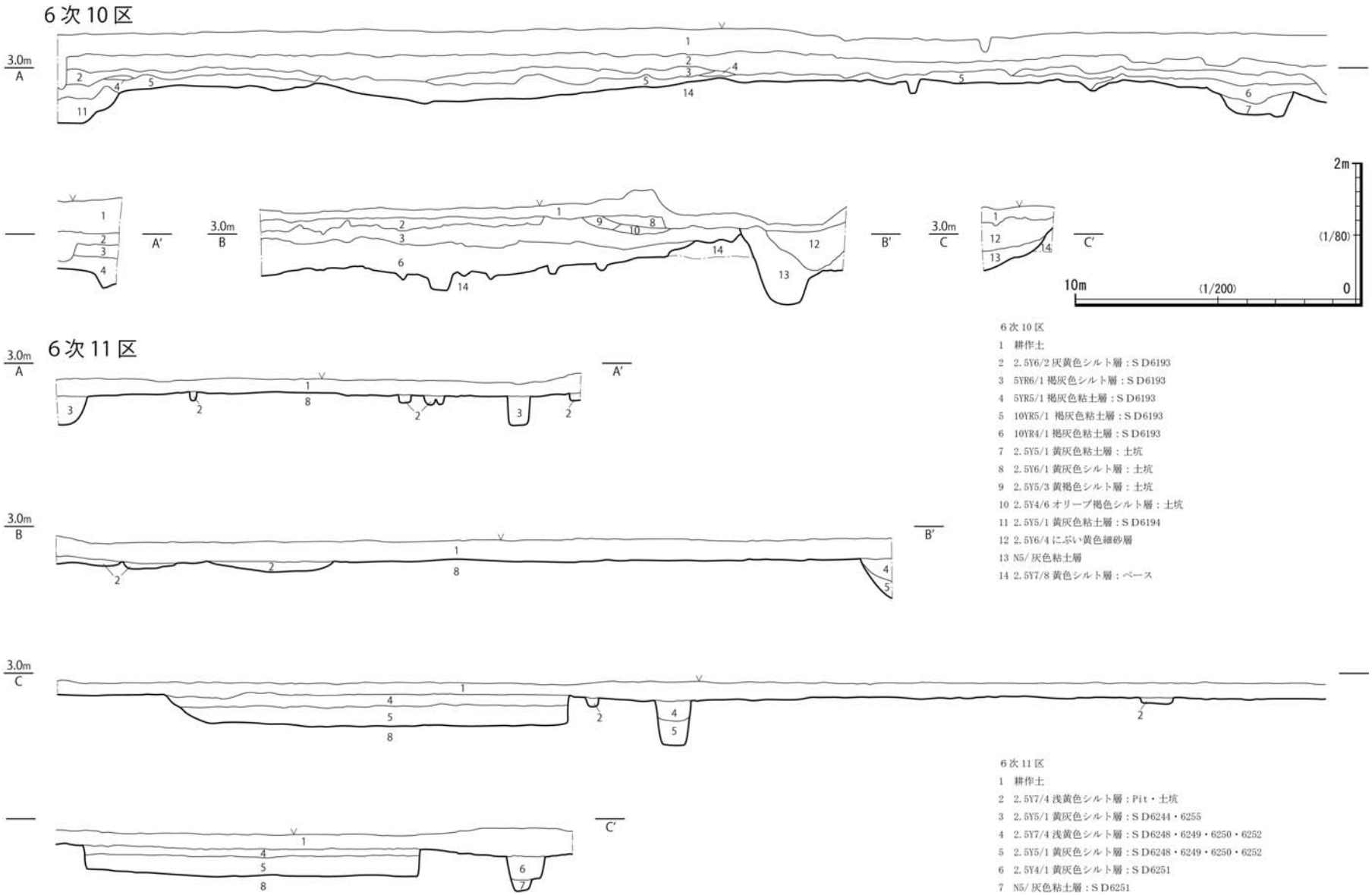
調査区は事業地北西側に位置し、朝田寺の東隣と



第46図　６次10区遺構全体図(1/400)



第47図　６次11区遺構全体図(1/400)



6次10区
1 耕作土
2 2.5Y6/2 灰黄色シルト層：SD6193
3 5YR6/1 褐灰色シルト層：SD6193
4 5YR5/1 褐灰色粘土層：SD6193
5 10YR5/1 褐灰色粘土層：SD6193
6 10YR4/1 褐灰色粘土層：SD6193
7 2.5Y5/1 黄灰色粘土層：土坑
8 2.5Y6/1 黄灰色シルト層：土坑
9 2.5Y5/3 黄褐色シルト層：土坑
10 2.5Y4/6 オリーブ褐色シルト層：土坑
11 2.5Y5/1 黄灰色粘土層：SD6194
12 2.5Y6/4 にぶい黄色細砂層
13 N5/ 灰色粘土層
14 2.5Y7/8 黄色シルト層：ベース

6次11区
1 耕作土
2 2.5Y7/4 浅黄色シルト層：Pit・土坑
3 2.5Y5/1 黄灰色シルト層：SD6244・6255
4 2.5Y7/4 浅黄色シルト層：SD6248・6249・6250・6252
5 2.5Y5/1 黄灰色シルト層：SD6248・6249・6250・6252
6 2.5Y4/1 黄灰色シルト層：SD6251
7 N5/ 灰色粘土層：SD6251
8 10YR7/6 明黄褐色シルト層：ベース

第48図　6次10・11区土層断面図(縦1/80、横1/200)

なる（第47・48図）。調査では中世～江戸時代の溝を確認した。

（１）平安時代～室町時代の遺構

①溝

ＳＤ6244（第47図）　Ｑｅ・ｆ１で検出した東西方向の溝で、長さ1.3m以上、幅0.41m、深さ0.81mである。出土遺物には室町時代～戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＤ6245（第47図）　Ｑｉ１で検出した南北方向の溝で、長さ3.5m以上、幅0.7m以上、深さ0.27mである。出土遺物には中世とみられる土師器がある。

ＳＤ6246（第47図）　Ｑｉ１で検出した東西方向の溝で、長さ1.2m以上、幅0.98m、深さ0.5mである。遺構の時期は室町時代～戦国期である。

ＳＤ6247（第47図）　Ｑｅ２で検出した南北方向の溝で、長さ1.4m以上、幅0.66m、深さ0.13mである。出土遺物には中世後期とみられる土師器がある。

ＳＤ6248（第47図）　Ｑｅ８で検出した南北方向の溝で、長さ1.66m以上、幅0.6m以上、深さ0.6mである。出土遺物には室町時代～戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＤ6249（第47図）　Ｑｅ11～14で検出した東西方向の溝で、長さ15.0m以上、幅0.82m、深さ0.49mである。出土遺物には室町時代～戦国期の南伊勢系土師器がある。

ＳＤ6251（第47図）　Ｑｅ・ｆ25で検出した南北方向の溝で、長さ1.2m以上、幅0.55m、深さ1.3mである。出土遺物には中世とみられる土師器がある。

ＳＤ6252（第47図）　Ｑｅ15で検出した南北方向の溝で、長さ1.24m以上、幅1.2m、深さ0.62mである。出土遺物には室町時代～戦国期の南伊勢系土師器がある。

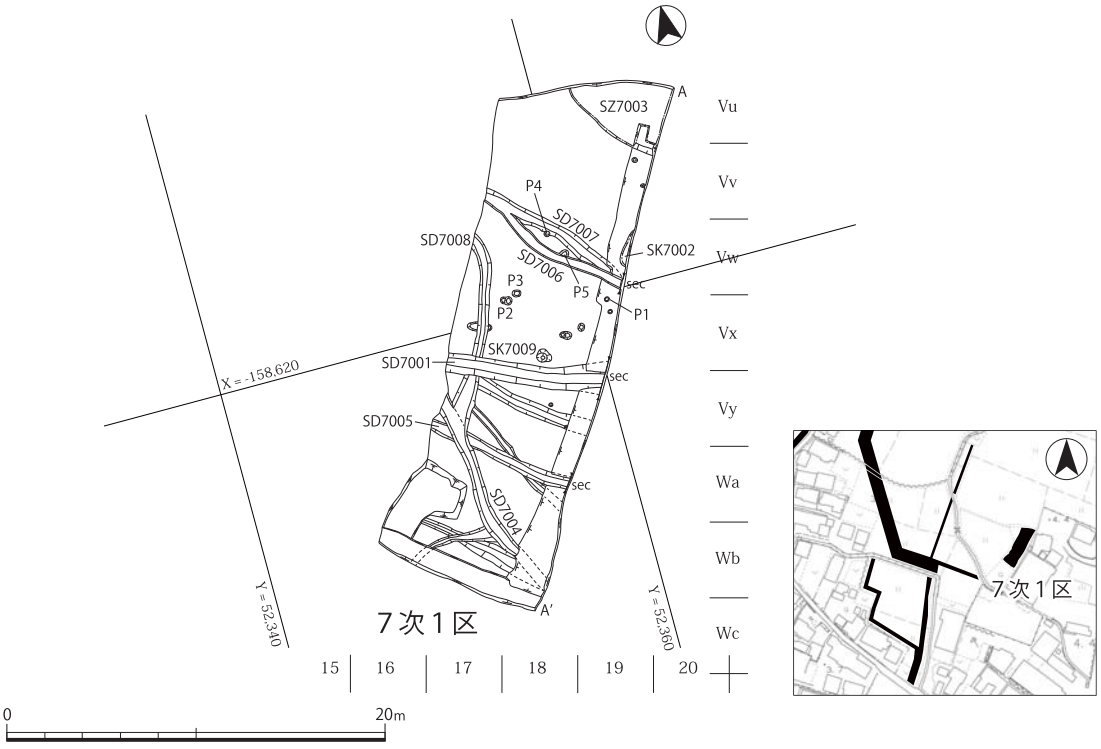
（２）江戸時代の遺構

①溝

ＳＤ6250（第47図）　Ｑｅ・ｆ21～24で検出した溝で、長さ11.8m、幅0.6m以上、深さ0.57mである。出土遺物には17世紀以降の土師器がある。

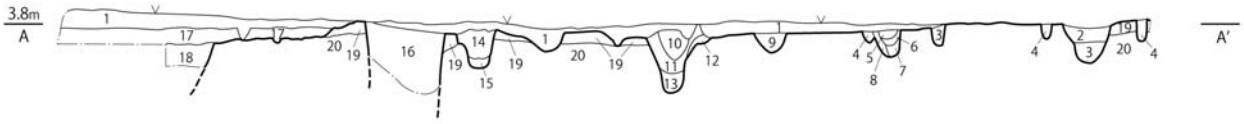
13　６次12区

調査区は事業地の北東に位置し、７次３区の北側にあたる（第44図）。溝を検出したが、遺物は確認できず時期は不明である。



第49図　７次１区遺構全体図(1/400)

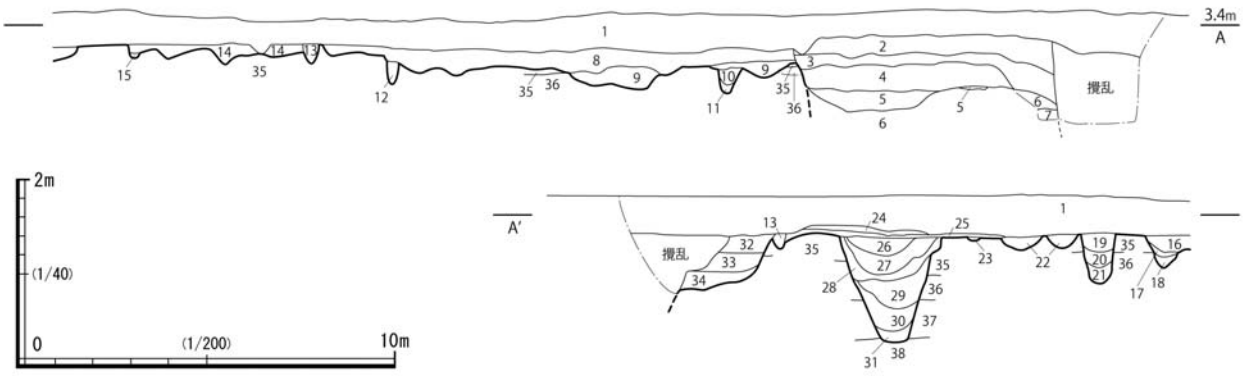
7次1区



7次1区

1 耕作土
2 2.5Y6/2 灰黄色細砂層：SD7004
3 2.5Y5/1 黄灰色細砂層：SD7004
4 10YR4/1 褐灰色シルト層：Pit
5 2.5Y6/2 灰黄色細砂層：SD7005
6 2.5Y7/1 灰白色細砂層：SD7005
7 2.5Y5/1 黄灰色粗砂層：SD7005
8 2.5Y6/1 黄灰色シルト層：SD7005
9 N6/ 灰色細砂層：溝
10 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト層：SD7001
11 2.5Y6/2 灰黄色シルト層：SD7001
12 10YR5/2 灰黄褐色シルト層：SD7001
13 2.5Y6/1 黄灰色シルト層：SD7001
14 2.5Y7/2 灰黄色シルト層：SD7007
15 N7/ 灰白色シルト層：SD7008
16 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト層：SK7002
17 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト層：SZ7003
18 2.5Y6/2 灰黄色シルト層：SZ7003
19 10YR5/1 褐灰色シルト層：ベース
20 2.5Y7/3 浅黄色シルト層：ベース

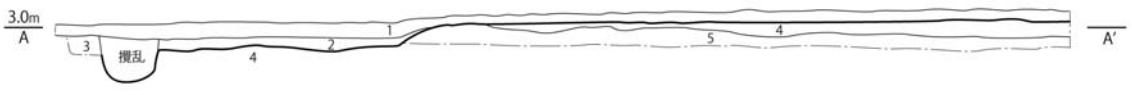
7次2区



7次2区

1 盛土
2 2.5Y6/2 灰黄色細砂層：SD7012
3 2.5Y7/2 灰黄色細砂層：SD7012
4 N7/ 灰白色シルト層：SD7012
5 N6/ 灰色粘土層：SD7012
6 5Y7/1 灰白色細砂層（1～3㎝の礫多く含む）：SD7012
7 N5/ 灰色粘土層：SD7012
8 2.5Y6/1 黄灰色シルト層：SD7010
9 N6/ 灰色シルト層
(2.5Y8/2 灰白色シルトブロック 10%含む)：SD7010
10 2.5Y6/1 黄灰色シルト層
(2.5Y8/2 灰白色シルトブロック 5%含む)：土坑
11 N7/ 灰白色シルト層：土坑
12 2.5Y4/1 黄灰色シルト層：Pit
13 5Y7/1 灰白色シルト層
14 7.5Y6/1 灰色シルト層：土坑
15 7.5Y7/1 灰白色シルト層：土坑
16 N7/ 灰白色極細砂層
(2.5Y8/2 灰白色シルトブロック 5%含む)：土坑
17 2.5Y7/1 灰白色極細砂層：土坑
18 N6/ 灰色シルト層：SZ7003
19 2.5Y7/2 灰黄色極細砂層：溝
20 2.5Y7/1 灰白色シルト層：溝
21 N6/ 灰色粘土層：溝
22 N7/ 灰白色極細砂層
(2.5Y8/2 灰白色シルトブロック 10%含む)：土坑
23 2.5Y6/1 黄灰色細砂層：溝
24 5Y6/1 灰色シルト層：耕作土
25 5Y7/1 灰白色シルト層：床土
26 2.5Y7/2 灰黄色シルト層（粗砂多く含む）：SE7014
27 2.5Y6/1 黄灰色シルト層：SE7014
28 2.5Y6/1 黄灰色シルト層
(2.5Y8/2 灰白色シルトブロック 25%含む)：SE7014
29 N6/ 灰色粘土層
(2.5GY8/1 灰白色シルトブロック 5%含む)：SE7014
30 2.5GY8/1 灰白色粘土層
(N7/ 灰白色シルトブロック 10%含む)：SE7014
31 5B6/1 青灰色細砂層：SE7014
32 2.5Y6/1 黄灰色シルト層：SK7015
33 5Y6/1 灰色シルト層：SK7015
34 N6/ 灰色粘土層：SK7015
35 2.5Y8/3 淡黄色シルト層：ベース
36 5B7/1 明青灰色極細砂層：ベース
37 5B7/1 明青灰色粘土層：ベース
38 2.5Y7/2 灰黄色砂礫層 （1～3㎝の礫多く含む）：ベース

7次3区



7次3区

1 盛土
2 耕作土
3 N5/ 灰色粘土層（2.5Y8/1 灰白色シルトブロック 5%含む）：SK7022
4 2.5Y8/3 淡黄色シルト層：ベース
5 2.5Y6/1 黄灰色極細砂層：ベース

第50図　7次1～3区土層断面図(縦1/80、横1/200)

14　７次１区

調査区は事業地東側に位置する（第49・50図）。調査では飛鳥時代の溝、平安時代～室町時代の土坑、溝を確認した。

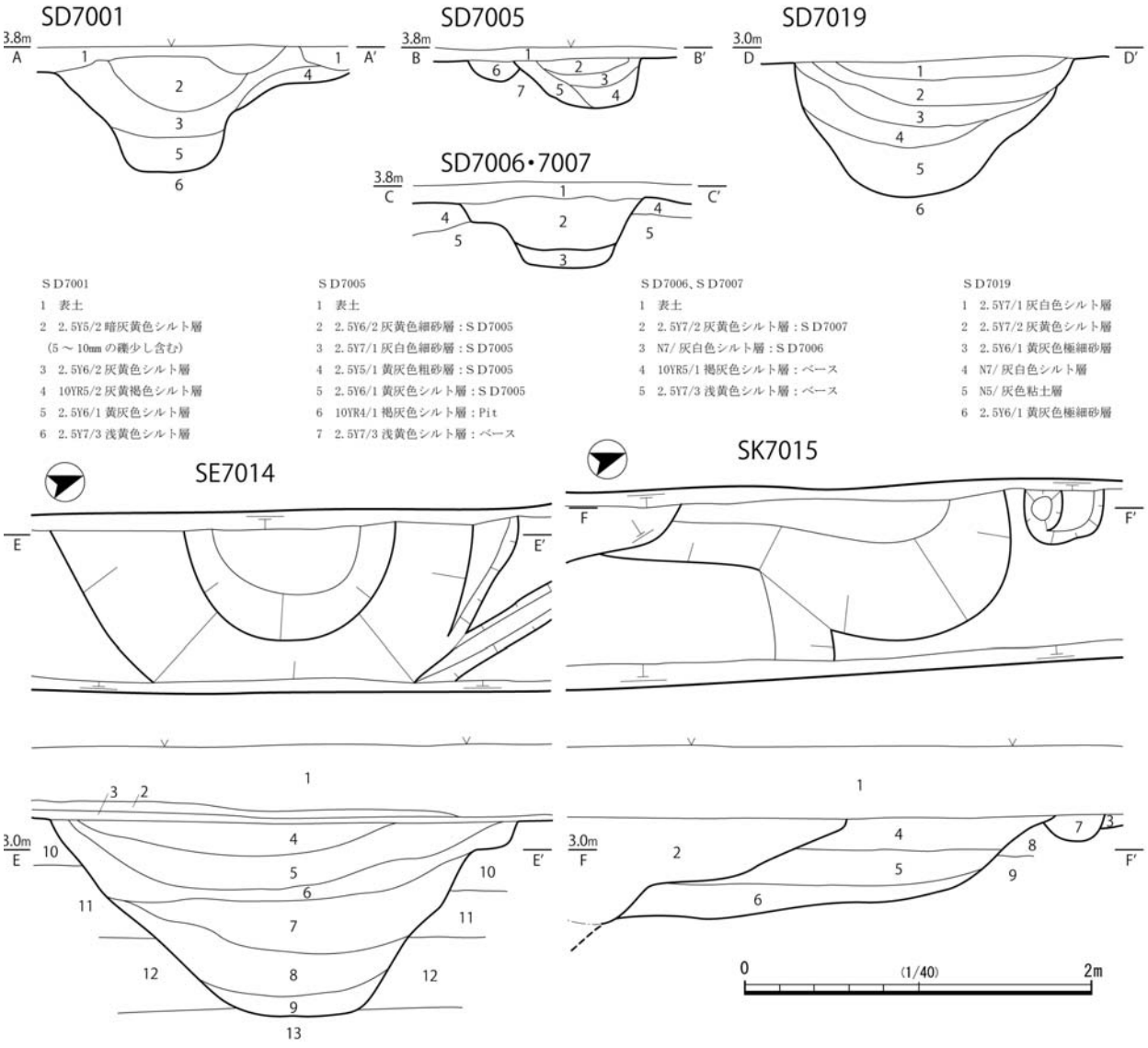
（１）飛鳥時代の遺構

①溝

ＳＤ7004（第49図）　Ｖｙ17～Ｗｂ18で検出した蛇行する溝で、長さ10.8m以上、幅0.83m、深さ0.31mである。出土遺物には飛鳥時代の土師器、須恵器がある。

ＳＤ7005（第49・51図）　Ｖｙ17～Ｗａ18で検出した直線的な溝で、長さ7.8m以上、幅0.69m、深さ0.25mである。遺構の時期は飛鳥時代の土師器片がある。

ＳＤ7006・7007（第49・51図）　Ｖｖ17～ｗ19で検



ＳＤ7001
1　表土
2　2.5Y5/2 暗灰黄色シルト層
（5～10㎜の礫少し含む）
3　2.5Y6/2 灰黄色シルト層
4　10YR5/2 灰黄褐色シルト層
5　2.5Y6/1 黄灰色シルト層
6　2.5Y7/3 浅黄色シルト層

ＳＤ7005
1　表土
2　2.5Y6/2 灰黄色細砂層：ＳＤ7005
3　2.5Y7/1 灰白色細砂層：ＳＤ7005
4　2.5Y5/1 黄灰色粗砂層：ＳＤ7005
5　2.5Y6/1 黄灰色シルト層：ＳＤ7005
6　10YR4/1 褐灰色シルト層：Pit
7　2.5Y7/3 浅黄色シルト層：ベース

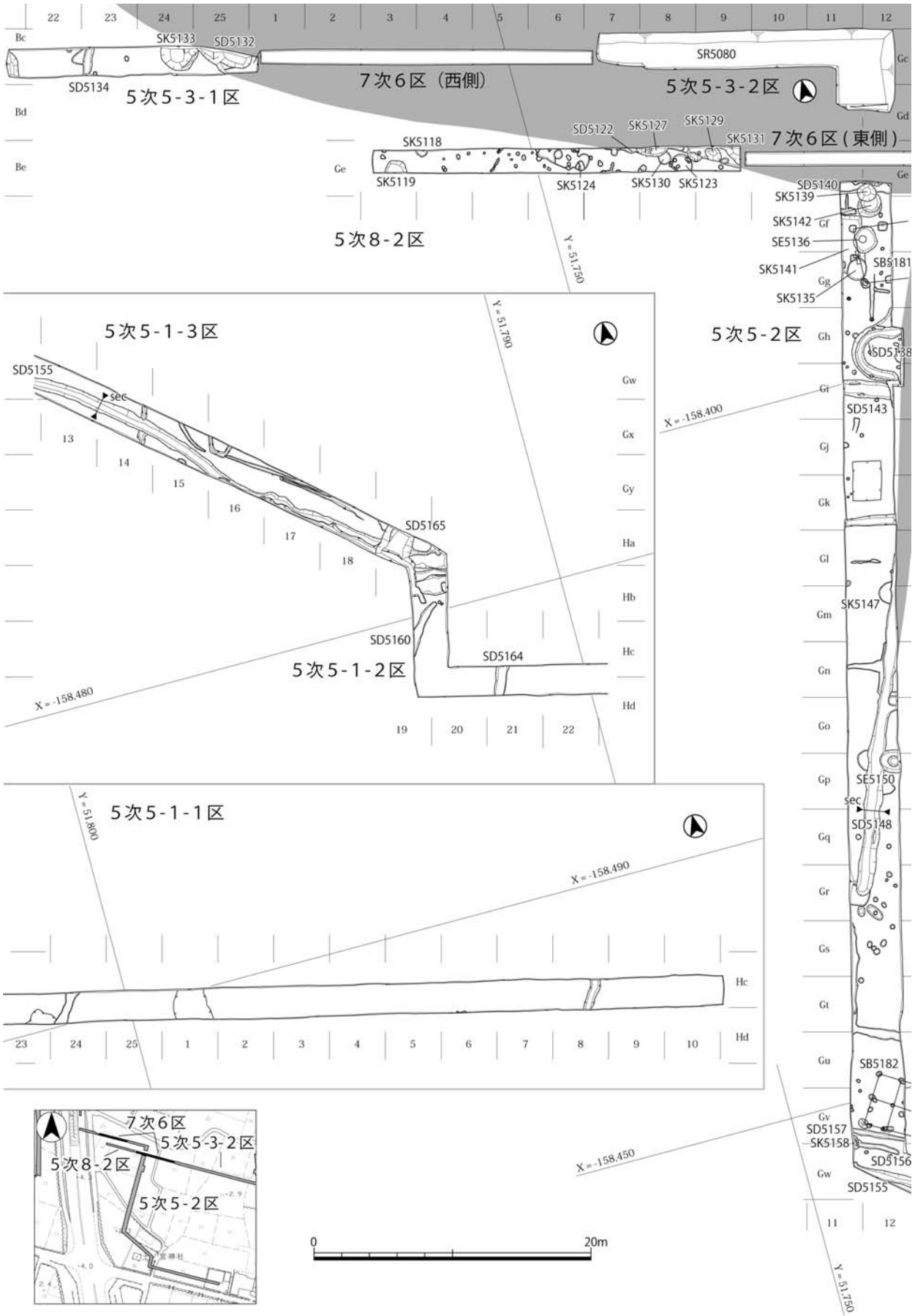
ＳＤ7006、ＳＤ7007
1　表土
2　2.5Y7/2 灰黄色シルト層：ＳＤ7007
3　N7/ 灰白色シルト層：ＳＤ7006
4　10YR5/1 褐灰色シルト層：ベース
5　2.5Y7/3 浅黄色シルト層：ベース

ＳＤ7019
1　2.5Y7/1 灰白色シルト層
2　2.5Y7/2 灰黄色シルト層
3　2.5Y6/1 黄灰色極細砂層
4　N7/ 灰白色シルト層
5　N5/ 灰色粘土層
6　2.5Y6/1 黄灰色極細砂層

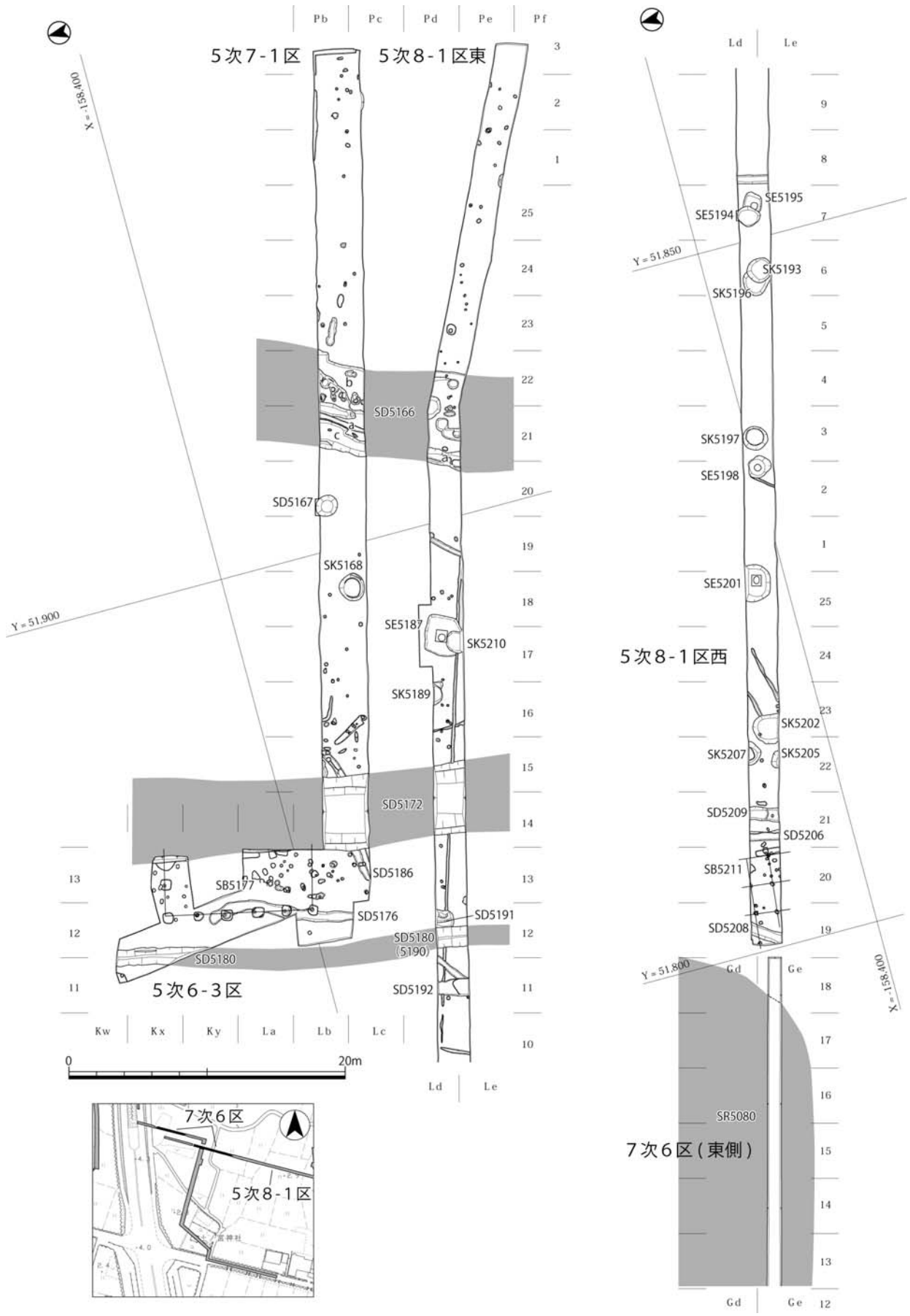
ＳＥ7014
1　表土
2　5Y6/1 灰色シルト層：耕土
3　5Y7/1 灰白色シルト層：床土
4　2.5Y7/2 灰黄色シルト層（粗砂多く含む）：ＳＥ7014
5　2.5Y6/1 黄灰色シルト層：ＳＥ7014
6　2.5Y6/1 黄灰色シルト層
（2.5Y8/2 灰白色シルトブロック 25%含む）：ＳＥ7014
7　N6/ 灰色粘土層
（2.5GY8/1 灰白色シルトブロック 5%含む）：ＳＥ7014
8　2.5GY8/1 灰白色粘土層
（N7/ 灰白色シルトブロック 10%含む）：ＳＥ7014
9　5B6/1 青灰色細砂層：ＳＥ7014
10　2.5Y8/3 淡黄色シルト層：ベース
11　5B7/1 明青灰色極細砂層：ベース
12　5B7/1 明青灰色粘土層：ベース
13　2.5Y7/2 灰黄色砂礫層
（1～3㎝の礫多く含む）：ベース

ＳＫ7015
1　表土
2　撹乱
3　5Y7/1 灰白色シルト層：床土
4　2.5Y6/1 黄灰色シルト層：ＳＫ7015
5　5Y7/1 灰白色シルト層：ＳＫ7015
6　N6/ 灰色粘土層：ＳＫ7015
7　5Y7/1 灰白色シルト層：Pit
8　2.5Y8/3 淡黄色シルト層：ベース
9　5B7/1 明青灰色極細砂層：ベース

第51図　７次１～３区井戸・土坑・溝実測図(1/40)



第52図　７次６区遺構全体図①(1/400)



第53図　７次６区遺構全体図②(1/400)

出したやや蛇行する溝で、ＳＤ7006は長さ8.5m以上、幅0.64m、深さ0.3m、ＳＤ7007は長さ8.4m以上、幅0.84m、深さ0.23mである。土層断面から前後関係はＳＤ7006がＳＤ7007よりも先行している。出土遺物には飛鳥時代の土師器片がある。

ＳＤ7008（第49図）　Ｖｗ～ｙ17で検出した屈曲する溝で、長さ10.6m以上、幅1.14m、深さ0.28mである。出土遺物には飛鳥時代の土師器、須恵器がある。

（２）平安時代～室町時代の遺構

①土坑

ＳＫ7002（第49図）　Ｖｗ19で検出した土坑で東側は調査区外となり、規模1.99×0.45m以上、深さ0.4m以上である。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

ＳＫ7009（第49図）　Ｖｘ18で検出した不整円形土坑で、規模0.82×0.7m、深さ0.14mである。出土遺物には中世とみられる土師器片がある。

②溝

ＳＤ7001（第49・51図）　Ｖｘ・ｙ17～19で検出した直線的な溝で、長さ8.3m以上、幅1.14m、深さ0.54mである。断面は底部が平坦で、側面の中位にかけて立ち上がりが外側へ開く。遺構の時期は平安時代後期である。

③落ち込み

ＳＺ7003（第49図）　Ｖｕ19・20で検出した落ち込みで、規模5.6×3.7m以上、深さは0.37m以上となる。古代以降の土師器が出土している。

15　７次６区

事業地西側にあたる５次調査５－３－２区東側と８－１区西側に隣接する箇所で工事立会を実施した（第52・53図）。調査区はＳＲ5080（ＳＤ6012）の内側にあたり、調査は工事の掘削深度までで終えており完掘していない。出土遺物には平安時代の土師器、須恵器、製塩土器がある。

註

（１）基盤層（Ⅲ層）でシルト単層のものについては、調査の制約などから基盤層の細分が行えなかったものである。土層柱状図では、湧水が伴う砂礫層が明確な遺構を優先的に示しているため、上記のような条件のものも示している。

（２）本書では、Ａ：井戸枠などの施設（残骸含む）を有する、Ｂ：底面が湧水層に達する、Ｃ：井戸に重複し再掘削の可能性が高い、といった基準を満たすものを井戸とした。しかし、井戸枠が抜き取られたもの、湧水を必要としない溜井の場合は土坑との分別が困難であり、実際にはさらに多くの井戸が存在したと考えられる。

（３）斎宮歴史博物館『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』2001年

（４）伊藤裕偉「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史』資料編考古２　三重県　2008年

（５）上部の包含層出土として取り上げた土器片にＳＨ6197出土の土器片と接合したものがあり、さらに上層から続く遺構であった可能性が高い。

（６）検出時には竪穴建物の可能性が高いと考え、竪穴建物を示す「ＳＨ」の遺構略称を付していた。本書では落ち込みとして報告したが、調査記録等との混乱を避けるため、遺構略称は変更していない。

（７）調査時には、ＳＨ6197の掘形が不明瞭で当初は遺構の範囲が不明であったため、ＳＨ6197周囲の遺物群の遺物も全てＳＨ6197と同じ遺構内に包含されると考え、ＳＨ6197出土として取り上げている。実際に、ＳＨ6197内部から出土した土器片に、周囲の遺物群出土の土器片と接合したものもある。こうした経緯を踏まえ、本書でもＳＨ6197出土遺物と一括して報告し、遺物観察表の備考欄に出土した土器群のNo.を記した。

第２表　堀町遺跡（第６次）遺構一覧表

略号	番号	調査区	グリッド	遺構規模（m）			時代	時期	主な出土遺物	重複関係（古→新）	備考
				長さ	幅	深さ					
SE	6001-A	T6	Vg14	2.42	2.17	1.2	鎌倉～室町	中世Ⅱb～Ⅲa期	土師器、山茶椀、青磁		
SE	6001-B	T6	Vg14	2.42	2.17	1.2	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	土師器、山茶椀、青磁		
SK	6002	T6	Vg・h14・15	5.26	4.12	1.14	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	土師器、製塩土器、山茶椀、鋳型		井戸の可能性あり
欠番	6003										SE6002と同一遺構
SE	6004	T6	Vi13・14	2.03	2.03	1.18	戦国	中世Ⅳb期	土師器、陶器		結物井戸
SE	6005	T6	Vj14	1.99	1.92	1.24	平安末	中世Ⅰb期	土師器、製塩土器、須恵器、山茶椀		
SK	6006	T6	Vj・k13	2.12	1.66	0.82	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	土師器、製塩土器、山茶椀		
SK	6007	T6	Vk・l14	1.55	1.09	0.7	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	土師器、製塩土器、須恵器		
SD	6008	T6	Vk13～l15	9.8～	0.76	0.56	平安	斎宮Ⅱ-1	土師器、須恵器、土錘		
SE	6009	T6	Vl・m13・14	2.05	2.05	1.23	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	土師器、山茶椀		
SE	6010	T6	Vm・n13	1.92～	1.9	1.15	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	土師器、山茶椀		
SK	6011	T6	Vl・m15	2.0	0.35～	0.43	平安	—	土師器、灰釉陶器		
SD	6012	T3～7	Vq15～Vr18他	—	15.0	1.48	平安～戦国	—	土師器、製塩土器、須恵器、灰釉陶器、山茶椀、陶器、木製品		SR5080と同一遺構
SE	6013	T6	Vn13・14	1.38	1.31	1.02	鎌倉	中世Ⅱb期	縄文土器、土師器、山茶椀		
SK	6014	T6	Vn・o15・16	3.96	3.6	0.18	江戸	18c中～18c後	土師器、陶器、磁器、瓦、石製品		火災後の廃棄物（被熱している）
SK	6015	T6	Vo15	2.27	1.19	0.12	江戸	18c中～18c後	土師器、陶器、磁器		
SK	6016	T6	Vo・p15	2.6	1.48	0.3	江戸	18c中～18c後	陶器、壁土？	SX6037→SK6016	火災後の廃棄物（被熱している）
SK	6017	T6	Vp16	2.55	0.74	0.32	江戸	18c中～18c後	土師器、陶器、瓦		
SK	6018	T6	Vq17	1.3	0.78～	0.11	中世？	—	土師器		
SK	6019	T6	Vq17	3.6	0.6～	0.9～	江戸	18c以降	土師器、陶器		
SK	6020	T6	Vo15	1.08	0.63	0.11	中世？	—	土師器		
SK	6021	T6	Vq16・17	0.74	0.6	0.37	中世？	—	土師器、須恵器		
SK	6022	T6	Vp15	0.91	0.67	0.07	江戸	19c前	陶器		
SK	6023	T6	Vp16	0.85	0.58	0.16	江戸	18c中～18c後	陶器、磁器		
SK	6024	T6	Vp16	1.11	0.87	0.3	江戸	18c中～18c後	磁器		
SK	6025	T6	Vp16	1.7	1.7	1.2	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	山茶椀		井戸の可能性あり
SK	6026	T6	Vp・q14・15	2.6	1.84	0.8	江戸	18c	縄文土器、土師器、陶器、磁器		
SD	6027	T6	Vq15	1.8～	0.35	0.24	江戸	—	陶器		
SK	6028	T6	Vp14・15	1.7	0.95～	0.32	江戸	—	土師器、山茶椀、磁器		
SX	6029	T6	Vo15	0.78～	0.61	0.29	縄文	中期末～後期	縄文土器		埋設土器
SK	6030	T6	Vq14・15	1.56	1.3	0.24	江戸	18c以降	縄文土器、磁器		
SK	6031	T6	Vq17	1.18～	0.48～	0.25	不明	—	—		SK6019と同一遺構
SK	6032	T7	Vw18・19	1.72	1.45	1.31	戦国	中世Ⅳb期	土師器、陶器		
SK	6033	T7	Vw19	1.2	1.0	0.3	戦国	中世Ⅳ期	土師器		SK6038と重複
SD	6034	T7	Vx19～21	10.4～	0.92	0.45	室町	中世Ⅲa期	土師器、陶器		
SE	6035	T7	Vv18	1.5	1.4	1.43	戦国	中世Ⅳa期	土師器、山茶椀		
SD	6036	T7	Vv18～20	8.5～	0.69	0.24	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	山茶椀		

略号	番号	調査区	グリッド	遺構規模（m）			時代	時期	主な出土遺物	重複関係（古→新）	備考
				長さ	幅	深さ					
SX	6037	T6	Vp15	1.5	1.1	1.1	縄文	中期	縄文土器	SX6037→SK6016	埋設土器？
SK	6038	T7	Vv19	1.5	1.26	1.1	戦国	中世Ⅳ期	土師器	SK6038→SK6033	井戸の可能性あり、SK6033と重複
SK	6039	T7	Vv19	1.88	1.46	1.3	戦国	中世Ⅳb期	縄文土器、土師器、陶器		井戸の可能性あり
SK	6040	T7	Vv19	1.22	0.89～	0.29	戦国	中世Ⅳa期	土師器		
SE	6041	T7	Wf24	1.8	1.8	1.56	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	縄文土器、山茶椀		
SE	6042	T7	Wf23・24	2.66	1.3～	1.52	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	土師器、山茶椀		
SE	6043	T7	We・f25 Ze・f1	2.4	2.18	1.3	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	山茶椀		
SE	6044	T7	Zf1	2.54	2.41	1.42	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	土師器、山茶椀		
SK	6045	T7	Ze1・2	2.33	2.29	0.23	鎌倉	—	山茶椀		
SD	6046	T7	Zf・g1～6	8.6～	1.9	0.76	室町～戦国	—	土師器、土錘		
欠番	6047										SD6049と同一遺構
SK	6048	T7	Zf6	1.14	0.62～	0.03	中世？	—	土師器		
SD	6049	T7	Zb5～g4	21.8～	7.4	0.67	縄文？	中期末～後期	縄文土器		
SK	6050	T7	Zg5	1.4	0.9	0.17	中世？	—	土師器		
SD	6051	T7	Ze・f7～9	8.1	2.5～	0.9	室町～戦国	—	土師器		
欠番	6052										SD6012と同一遺構
欠番	6053										
SK	6054	T7	Zf5・6	2.03	1.95	0.1	中世？	—	土師器		
SE	6055	T7	Zb5	3.11	0.96～	1.2	鎌倉	中世Ⅱb期	山茶椀		
SD	6056	T9	Yf～h5	8.0～	0.74	0.5	奈良	斎宮Ⅰ-3～Ⅰ-4	土師器		
SD	6057	T9	Yd5	2.5	0.43	0.03	平安？	—	土師器		
SD	6058	T9	Yd～f5	19.0～	0.53	0.13	平安？	—	土師器、須恵器		
SD	6059	T9	Ya～d5	19.0～	0.53	0.13	平安？	—	須恵器		
SD	6060	T9	Ye・f5	3.5～	0.5	0.65	平安？	—	土師器		
SK	6061	T9	Yc5	1.06	0.8	0.19	飛鳥	7c前～7c中	土師器		
SK	6062	T9	Yb4	0.76	0.56	0.25	飛鳥	7c前～7c中	土師器、須恵器		
SK	6063	T9	Yb5	1.02	0.61～	0.41	飛鳥	7c前～7c中	土師器		
SD	6064	T6	Xx2・3	1.6～	1.12	0.46	古代？	—	土師器		
SD	6065	T6	Ux22～y24	7.0～	0.61	0.31	平安？	—	土師器、須恵器		
SD	6066	T5	Vb8・9～g7・8	18.2～	2.41	0.8	戦国	中世Ⅳb～Ⅳc期	土師器、陶器		SD5327と同一遺構
SK	6067	T5	Vf7	1.26	0.65～	0.09	中世？	—	土師器		
SD	6068	T5	Ve1～f2	6.0～	0.52	0.15	平安？	—	土師器、須恵器		
SD	6069	T5	Tg25～i24	9.5～	1.96～	0.25	戦国	中世Ⅳc期	土師器、青磁、陶器		
SK	6070	T5	Vg1	0.98	0.86	0.03	中世？	—	土師器		
SD	6071	T5	Ti25・Vi1	2.7～	1.04	0.41	戦国	中世Ⅳa期	土師器、陶器		
欠番	6072										SD6012と同一遺構
SD	6073	T5	Vi1	3.8～	0.75	0.33	戦国	中世Ⅳb～Ⅳc期	土師器、陶器		

略号	番号	調査区	グリッド	遺構規模（m）			時代	時期	主な出土遺物	重複関係（古→新）	備考
				長さ	幅	深さ					
SD	6074	T5	Vd・e1・2	25.5～	2.4	0.8	戦国	中世Ⅳb～Ⅳc期	土師器、須恵器、陶器		SD6084と同一遺構
SD	6075	T5	Ti25	1.93	1.6～	0.32	戦国	中世Ⅳ期	土師器、陶器		
SK	6076	T4	To22･p21･22	4.07	2.55	0.42	江戸	18c後～19c前	土師器、陶器、磁器	SD6167→SK6076	
SD	6077	T4	Tk25	1.2	0.2	0.2	江戸	19c前	土師器、陶器、磁器	SD6012→SD6077	
SK	6078	T4	Tn・o22	1.85	1.8	0.2	江戸	18c後	土師器、陶器、磁器	SD6167→SK6078	
SK	6079	T4	Tl・m24	2.34	1.26～	1.21	江戸	—	土師器、山茶椀		
SK	6080	T4	Tl23	2.5	2.3	1.24	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	土師器、山茶椀、陶器		
SE	6081	T4	Tn21・22	2.7	1.85	1.85	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	土師器、山茶椀		板組井戸（土居桁のみ残る）
SK	6082	T5	Vc・d8	2.55	1.55	0.15	古代	—	土師器		
SE	6083	T5	Vc7・8	3.53	3.25	1.44	戦国	中世Ⅳ期	土師器		SE5326と同一遺構
SD	6084	T5	Ve4～Vf7	25.5～	1.61～	0.67	戦国	中世Ⅳb～Ⅳc期	土師器、陶器		SD6074と同一遺構
SE	6085	T5	Vd4	1.59	1.4	1.1	戦国	中世Ⅳb期	土師器		
SK	6086	T5	Vf1	1.66	0.78	0.06	中世？	—	土師器		
欠番	6087										
SK	6088	T5	Ve1～f2	1.11	0.64	0.17	鎌倉	中世Ⅱb期	土師器、山茶椀		SK6089と同一遺構
SK	6089	T5	Vf1	2.88	2.62～	0.15	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	土師器、須恵器、山茶椀		SK6100と同一遺構
SK	6090	T5	Vg1	1.35～	1.1	0.23	戦国	中世Ⅳb～Ⅳc期	土師器	SE6092→SK6090	SE6092と重複
SE	6091	T5	Ve・f5・6	3.1	1.9～	1.2	戦国	中世Ⅳ期	土師器	SE6091→SD6084	
SE	6092	T5	Vg1・2	1.75	1.47	2.2	戦国	中世Ⅳb期	土師器、木製品	SE6092→SK6090	結物井戸
SK	6093	T5	Vh1	1.66	0.87	0.21	中世？	—	土師器、陶器		
SK	6094	T5	Vh1	2.55	0.84	0.05	戦国	中世Ⅳb期	土師器		
SK	6095	T5	Tf25	0.9～	0.35～	0.08	不明	—	—		
SD	6096	T5	Ti25・Vi1	4.6～	0.79	0.35	戦国	中世Ⅳb期	土師器、陶器		
SD	6097	T5	Vf1	0.48～	0.24	0.04	中世？	—	土師器		
SK	6098	T5	Ve1	0.95	0.57～	0.16	古代	—	土師器		
SK	6099	T5	Ve1	1.89	0.54	0.2	古代	—	土師器		
SK	6100	T5	Tf25・Vf1	2.88	2.62～	0.15	鎌倉	—	土師器、須恵器、山茶椀		SK6089・6101と同一遺構
欠番	6101										
SK	6102	T4	To・p16～18	8.03	3.95	0.53	戦国～江戸	中世Ⅳc期以降	土師器、陶器		
SK	6103	T4	To・p15	1.78	1.67	1.35	江戸	—	陶器		
SK	6104	T4	Tn～p11・12	6.5～	4.77	0.54	戦国	中世Ⅳb期	土師器、陶器		SK6117と同一遺構、溝の可能性あり
SK	6105	T4	Tn15	1.52	0.45～	0.9	戦国	中世Ⅳ期	土師器		
SE	6106	T4	Tn・o15・16	2.31	2.31	1.18	戦国	中世Ⅳb期	土師器、陶器		
SK	6107	T4	Tp15	0.75	0.19～	0.38	戦国	中世Ⅳ期	土師器		
SE	6108	T4	To14	2.25	1.74	1.89	戦国	中世Ⅳb期	土師器		結物井戸
SK	6109	T4	To8	0.84	0.82	0.89	室町～戦国	—	土師器		
SD	6110	T4	To・p8～11	14.0～	0.77～	0.43	戦国	中世Ⅳb期以降	土師器、陶器		

略号	番号	調査区	グリッド	遺構規模（m）			時代	時期	主な出土遺物	重複関係（古→新）	備考
				長さ	幅	深さ					
SK	6111	T4	Tn9	0.69	0.61	0.92	不明	—	—		
SK	6112	T4	To9	0.56	0.53～	0.3	戦国	中世Ⅳ期	土師器		
SK	6113	T4	To9	1.01	0.8	0.38	戦国	中世Ⅳ期	土師器		
SK	6114	T4	Tn10	1.58	0.52～	0.76	室町	中世Ⅲ期	土師器		
SK	6115	T4	Vl・m3	2.66	1.52～	0.3	江戸	18c後～19c前	陶器、磁器	SD6012→SK6115	
SE	6116	T4	To7	1.65	1.23～	1.65	室町	中世Ⅲb期	土師器、山茶椀、陶器		縦板組横桟止め井戸
SK	6117	T4	Tn～p12・13	6.5～	2.47	0.78	戦国	中世Ⅳb期	土師器、陶器、磁器、取瓶？、焼土		SD6104と同一時期、溝の可能性あり
SK	6118	T4	To5・6	1.82～	1.59	1.27	室町～戦国	—	土師器		井戸の可能性あり
SK	6119	T7	Vv・w18	1.24	0.6	1.21	鎌倉	中世Ⅱb期	土師器、山茶椀		
SK	6120	T4	Tn・o5・6	2.18	1.87	1.3	室町	中世Ⅲ期	土師器、山茶椀		井戸の可能性あり
SK	6121	T4	Tn5	0.91	0.79	0.9	室町	中世Ⅲ期	土師器、山茶椀		
SD	6122	T4	Tn・o3	5.5～	0.21	0.89	戦国	中世Ⅳa期	土師器		
SK	6123	T4	To3	0.45～	0.4	0.08	中世？	—	土錘		
SE	6124	T4	To4・5	2.34	2.19	1.6	江戸	18c中	陶器、磁器		結物井戸
SK	6125	T4	Tp13	1.98	0.7～	0.56	江戸	—	磁器		
SD	6126	T4	Tn・o1・2	6.2～	6.1	1.21	戦国	中世Ⅳb～Ⅳc期	土師器、白磁、陶器、瓦質土器、磁器、木製品、牛骨		木製品が多く出土
SD	6127	T4	Tn・o2・3	3.6～	0.32	0.07	中世？	—	土師器		
SD	6128	T4	Tn2・3	3.8～	0.46	0.06	中世？	—	土師器		
SK	6129	T4	To16	2.47	2.1～	0.31	戦国	中世Ⅳc期	土師器、陶器、焼土		
SK	6130	T4	To・p10	3.5	2.3～	1.3	戦国	中世Ⅳb期	土師器、陶器、焼土		井戸の可能性あり
SK	6131	T4	Ro23	0.79	0.18～	0.17	不明	—	—		
SE	6132	T4	Ro25	1.97	1.84	1.28	戦国	中世Ⅳa期	土師器、青磁、瓦質土器		
SK	6133	T4	Rn23	0.67	0.49	0.23	不明	—	—		
SD	6134	T4	Rn22～25	9.8～	0.49	0.12	中世？	—	縄文土器、弥生土器、土師器		
欠番	6135										SD6134と同一遺構
SK	6136	T4	Ro22	1.77	0.98～	0.31	戦国	中世Ⅳ期	土師器		
SD	6137	T4	Rm～o22	8.0～	1.17	0.18	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	土師器、山茶椀		
SK	6138	T4	Ro23・24	4.6	0.94～	0.26	江戸	18c後～19c前	土師器、陶器、磁器		
SK	6139	T4	Rl23	1.56	0.86	0.31	戦国	中世Ⅳ期	土師器		
SD	6140	T4	Rm23～Tn1	10.6～	1.21	0.3	室町	中世Ⅲb期	土師器、山茶椀、陶器		
SK	6141	T4	Tn1	0.7	0.5	0.32	戦国	中世Ⅳb期	土師器	SD6126→SK6141	
SK	6142	T4	Rj23	1.39	1.34	0.7	室町	中世Ⅲb期	土師器、山茶椀		井戸の可能性あり
SK	6143	T4	Ri24	1.0	0.65	0.2	戦国	中世Ⅳ期	土師器	SE6153→SK6147→SK6143	
SE	6144-A	T4	Rh・i23・24	2.8	1.94	1.37	江戸	18c前	土師器、陶器、石製品		陶製・結桶井戸
SE	6144-B	T4	Rh・i23・24	1.2～	—	1.37	戦国	中世Ⅳ期	陶器		曲物水溜のみ出土
SK	6145	T4	Rg・h23	2.03	1.16	0.14	戦国	中世Ⅳ期	土師器		

略号	番号	調査区	グリッド	遺構規模（m）			時代	時期	主な出土遺物	重複関係（古→新）	備考
				長さ	幅	深さ					
SK	6146	T4	Ri22	0.71	0.55～	0.35	不明	—	—		
SK	6147	T4	Ri24	1.25	0.85	0.2	室町～戦国	—	陶器、磁器	SE6153→SK6147→SK6143	
SK	6148	T4	Rk23	0.76	0.61～	0.18	江戸	—	土師器		
SK	6149	T4	Re・f22	3.08	1.39～	0.39～	戦国	中世Ⅳa期	土師器		
SE	6150	T4	Rh23・24	1.72	1.57	1.3	室町	中世Ⅲb期	土師器、山茶椀、陶器、木製品		結物井戸、曲物水溜のみ出土
SK	6151	T4	Re・f24	1.31～	0.74	0.29	戦国	中世Ⅳb期	土師器		
SD	6152	T4	Rf22～24	6.5～	0.65	0.11	平安	斎宮Ⅱ-3	土師器		
SE	6153	T4	Ri23・24	2.95	2.25	0.9	戦国	中世Ⅳa期	木製品	SE6153→SK6147→SK6143	結物井戸
SK	6154	T4	Rg23	0.82	0.75	0.96	戦国	中世Ⅳ期	土師器、木製品		
SK	6155	T4	Ro24	0.53	0.48	0.28	室町	中世Ⅲ期	土師器		
SK	6156	T4	Ro25	0.48	0.38	0.29	戦国	中世Ⅳa期	土師器		
SK	6157	T4	Rn23	1.26	1.04	0.22	戦国	中世Ⅳ期	土師器		
SK	6158	T4	Rn23	1.4	0.84	0.25	中世？	—	土師器		
SK	6159	T4	Rn25	2.61	2.05	0.07	戦国	中世Ⅳ期	土師器、山茶椀、陶器		
SE	6160	T4	Rn25	1.4	1.29	1.3	室町	中世Ⅲb期	山茶椀、陶器、木製品		曲物水溜のみ出土
SE	6161	T4	Rh・i24	1.74	1.43～	1.31	戦国	中世Ⅳa期	陶器、木製品		結物井戸
SK	6162	T4	Tl・m22・23	3.4	2.8	0.92	江戸	18c後	土師器、陶器、磁器、瓦	SK6188→SK6162	
SD	6163	T4	To19～22	8.8～	1.83	0.72	戦国	中世Ⅳb期	縄文土器、土師器、土錘		
SE	6164	T4	Tn1	2.17	1.54	1.5	平安末～鎌倉	中世Ⅱ期	土師器		横板組井戸
SD	6165	T4	To・p21・22	8.6～	0.95	0.32	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	土師器、山茶椀、陶器		
SK	6166	T4	To・p21・22	3.12	2.73	1.3	戦国	中世Ⅳb期	土師器		
SD	6167	T4	Tl23～u20	40.0～	3.0	1.3	戦国	中世Ⅳb～Ⅳc期	土師器、陶器、磁器、石製品、焼土		
SK	6168	T4	Tq22	0.76	0.63	0.21	中世？	—	土師器		
SK	6169	T4	Tq22・23	1.04	0.31～	0.18	室町～戦国	—	土師器、陶器		
SK	6170	T4	Tq23	1.2～	1.2	0.6	江戸	18c中以降	陶器、磁器		
SE	6171	T4	Tq・r24・25	2.92	1.35～	1.08～	江戸	19c前	陶器、磁器		結物井戸、崩落の危険のため完掘せず
SK	6172	T4	Vr2	0.64	0.31～	0.25	江戸	—	陶器		
SD	6173	T4	Tq23～Vr1	11.5	1.2～	0.31	江戸	18c後～19c前	陶器、磁器		木製品の楔が出土
SK	6174	T4	Vr2	1.16～	0.87	0.11	中世？	—	土師器		
SK	6175	T4	Vr2	1.38～	0.79～	0.53	江戸	18c	土師器、陶器、磁器		
SK	6176	T4	Vr2	0.95	0.69	0.34	不明	—	—		
SK	6177	T4	Vr3	0.89	0.69	0.26	戦国	中世Ⅳ期	土師器		
SK	6178	T4	Vr2	1.07	1.06	0.42	不明	—	—		
欠番	6179										SK6180と同一遺構
SK	6180	T4	Vp～r3	5.23	3.0～	0.39	江戸	18c前～18c中	石器、土師器、陶器、磁器	SD6190→SK6180	
SK	6181	T4	Vr1	1.4	0.81～	0.21	江戸	—	陶器		

略号	番号	調査区	グリッド	遺構規模（m）			時代	時期	主な出土遺物	重複関係（古→新）	備考
				長さ	幅	深さ					
SK	6182	T4	Vr3	0.58	0.36	0.1	中世？	—	土師器		
SK	6183	T4	Vr3	0.5	0.44	0.26	戦国	中世Ⅳ期	土師器		
SE	6184	T4	Vp3・4	2.12	1.97	1.71	江戸	18c後	土師器、陶器、磁器		結物井戸、崩落の危険のため完掘せず
SK	6185	T4	Vp4	4.2	0.7～	0.2	江戸	18c	土師器、陶器、磁器	SK6190→SK6185	
SD	6186	T4	Vo・p3	2.8～	0.75	0.36	鎌倉	—	山茶椀		
SK	6187	T4	Vr1	0.7	0.45～	0.24	中世？	—	土師器		
SK	6188	T4	Tm・n22	5.9	2.95～	0.82	江戸	18c後～19c前	土師器、陶器、磁器、瓦	SK6162→SK6188	
SK	6189	T4	Tn・o21・22	3.4	2.84	1.39	平安末～鎌倉	—	—		井戸の可能性あり
SD	6190	T4	Vp・q3・4	10.0～	1.8～	0.94	戦国	中世Ⅳc期	土師器	SD6190→SK6180	
SK	6191	T4	Tq・r21・22	3.1	1.4～	0.2	戦国	中世Ⅳb期	土師器、陶器	SD6167→SK6191	
SE	6192	T4	Vo4	—	—	—	江戸	—	土師器、須恵器		曲物水溜のみ出土
SD	6193	T10	Zi6～w8	59.5～	2.17～	0.6	江戸	18c後	土師器、山茶椀、、陶器、磁器		
SD	6194	T10	Wg・h20～Zh・i6	43.0～	2.58～	1.09	江戸	18c後	陶器		
SB	6195	T9	Yb～d4	—	—	—	飛鳥	7c前～7c中	須恵器		３×２間、柱間1.8m
SA	6196	T9	Yc・d5	—	—	—	飛鳥	7c前～7c中	土師器		２間､柱間1.7～1.8m
SH	6197	T7下層	Vw・x20・21	3.76	1.73～	0.11	縄文	中期末	縄文土器、石器		落ち込み、住居の可能性あり
SE	6198	T6	Ve・f12	1.89	1.83	1.27	平安末	中世Ⅰb期	土師器、須恵器、山茶椀		
SE	6199	T6	Ve12・13	1.7	1.7	1.18	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	土師器、山茶椀		
SK	6200	T6	Vd13	1.16	1.12	1.12	室町	中世Ⅲa期	土師器、須恵器		井戸の可能性あり
SD	6201	T6	Vc16～d10	24.0～	0.86	0.24	平安	斎宮Ⅱ-4～Ⅲ-1	土師器、製塩土器、黒色土器		
SE	6202	T6	Vf・g14・15	1.7	1.7	1.25	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	土師器、山茶椀		
SE	6203	T6	Vc・d14	1.45	1.45	1.18	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	土師器、須恵器、山茶椀		
SK	6204	T6	Vc14	1.11	1.06	1.05	戦国	中世Ⅳa期	土師器		井戸の可能性あり
SK	6205	T6	Vf・g15	2.06	1.67	0.84	平安	斎宮Ⅲ	土師器		井戸の可能性あり
SK	6206	T6	Va・b15・16	1.99	1.45～	0.94	室町	中世Ⅲ期	土師器		井戸の可能性あり
SE	6207	T6	Vd15	2.23	1.95	1.26	戦国	中世Ⅳa期	土師器、陶器、青磁、木製品		結物井戸
SK	6208	T6	Vc・d12	1.47	1.43	0.75	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	土師器、陶器		井戸の可能性あり
SK	6209	T6	Vg15	1.71	1.31	1.0	平安末～鎌倉	中世Ⅱa期	土師器、製塩土器、山茶椀		
SD	6210	T1	Pf～l5	24.8～	0.92	0.25	江戸	—	陶器、磁器		
SK	6211	T1	Pk・l7・8	3.24	1.88	0.41	江戸	19c前	陶器、磁器、瓦		
SD	6212	T3	Pk25～Rk1	26.0～	1.03	0.51	江戸	—	弥生土器、土師器、瓦		SD6214と同一遺構？
SD	6213	T3	Pl25～Rm6	13.5～	0.32～	0.51	戦国	中世Ⅳb期	土師器、陶器		耕作溝か？
SD	6214	T3	Rl6～m10	14.0～	1.13	0.33	江戸	—	土師器		SD6212と同一遺構？
SD	6215	T3	Rm7・8	6.0～	0.52	0.14	室町～戦国	—	—		耕作溝か？
SD	6216	T3	Rl1・2	3.5～	3.35	0.44	戦国	中世Ⅳ期	土師器		区画溝か？
SD	6217	T3	Rj10～m9	14.6～	2.18	0.34	江戸	19c中以降	陶器、磁器		SD6220と同一遺構
SK	6218	T3	Rl・m10	2.11	1.63	0.81	江戸	—	—		井戸の可能性あり

略号	番号	調査区	グリッド	遺構規模（m）			時代	時期	主な出土遺物	重複関係（古→新）	備考
				長さ	幅	深さ					
SK	6219	T3	Rk10	1.44～	1.0	0.12	不明	—	—		
SD	6220	T3	Rj10	14.6～	2.18	0.34	江戸	19c中以降	土師器		SD6217と同一遺構
SK	6221	T3	Rk・l10	0.77	0.66	0.21	不明	—	土師器		
SD	6222	T3	Rg10～i11	11.0～	1.48	0.39	戦国	中世Ⅳa期	土師器、山茶椀、陶器		
SK	6223	T3	Rh・i10・11	2.22	1.91～	0.21	江戸	19c中	土師器、瓦質土器、陶器、磁器		
SK	6224	T3	Re10	1.1	0.47～	0.38	江戸	19c前	陶器、磁器		
欠番	6225										SK6231と同一遺構
SD	6226	T3	Rd11	2.6～	1.14	0.15	不明	—	—		
SD	6227	T3	Rc13～d12	9.5～	2.72	0.36	明治・大正	—	陶器、磁器、ガラス瓶	SD6238→SD6227	区画溝か？
SK	6228	T3	Re12	1.63	1.61	0.23	室町～戦国	—	土師器		
SK	6229	T3	Re12・13	2.1	1.6～	0.8	江戸	18c後	陶器、磁器、石製品		
SK	6230	T3	Re・f11・12	1.24	0.67	0.13	平安？	—	土師器		
SK	6231	T3	Rf・g10・11	1.95	1.76	1.23	戦国	中世Ⅳ期	土師器		井戸の可能性あり
SK	6232	T3	Rd15	1.8～	1.7	1.04	平安末～鎌倉	中世Ⅱ期	土師器、山茶椀		井戸の可能性あり
SK	6233	T3	Rd15	1.2～	0.78～	0.16	平安末～鎌倉	中世Ⅱ期	土師器、山茶椀		
SK	6234	T3	Rd13・14	2.91	1.16～	0.4	戦国	中世Ⅳb期	土師器		
SK	6235	T3	Re15・16	1.11	0.98	1.24	鎌倉	中世Ⅱb期	土師器、山茶椀、青磁		井戸の可能性あり
SK	6236	T3	Re15	0.99	0.9	0.94	平安末～鎌倉	中世Ⅱ期	土師器		
SK	6237	T3	Rd15	1.9	1.7	1.2	鎌倉～室町	中世Ⅱb～Ⅲa期	土師器、山茶椀		井戸の可能性あり
SD	6238	T3	Re13～16	10.5～	0.69	0.34	平安	斎宮Ⅱ-2	土師器、製塩土器、須恵器		
SK	6239	T3	Re17・18	1.64	1.48	1.16	江戸	19c前以降	土師器、陶器、磁器		井戸の可能性あり
SK	6240	T3	Rd・e16・17	4.02	2.0～	0.62	戦国	中世Ⅳb～Ⅳc期	土師器		
SD	6241	T3	Re18	2.0～	1.7	0.22	戦国	中世Ⅳb～Ⅳc期	土師器		
SK	6242	T3	Re19	3.6～	1.33	0.4	戦国	中世Ⅳb期	土師器	SK6243→SK6242	
SK	6243	T3	Re19	1.8	1.1	1.2	戦国	中世Ⅳb期	土師器、山茶椀、陶器	SK6243→SK6242	井戸の可能性あり
SD	6244	T11	Qe・f1	1.3～	0.41	0.81	室町～戦国	—	土師器		
SD	6245	T11	Qi1	3.5～	0.7～	0.27	中世？	—	土師器、須恵器		
SD	6246	T11	Qi1	1.2～	0.98～	0.5	室町～戦国	—	土師器		
SD	6247	T11	Qe2	1.4～	0.66	0.13	中世？	—	土師器		
SD	6248	T11	Qe8	1.66～	0.6～	0.6	室町～戦国	—	土師器		
SD	6249	T11	Qe11～14	15.0～	0.82～	0.49	室町～戦国	—	土師器、土製品		
SD	6250	T11	Qe・f21～24	11.8	0.6～	0.57	江戸	17c以降	土師器		土坑の可能性あり
SD	6251	T11	Qe・f25	1.2～	0.55	1.3	中世？	—	土師器		
SD	6252	T11	Qe15	1.24	1.2～	0.62	室町～戦国	—	土師器、山茶椀		

第３表　堀町遺跡（第７次）遺構一覧表

略号	番号	調査区	グリッド	遺構規模（m）			時代	時期	主な出土遺物	重複関係（古→新）	備考
				長さ	幅	深さ					
SD	7001	T1	Vx・y17～19	8.3～	1.14	0.54	平安	斎宮Ⅲ	土師器、須恵器		
SK	7002	T1	Vw19	1.99～	0.45	0.4～	中世	—	土師器		
SZ	7003	T1	Vu19・20	5.6～	3.7～	0.37～	古代以降	—	土師器		谷状落ち込み?
SD	7004	T1	Vy17～Wb18	10.8～	0.83	0.31	飛鳥	7c前	土師器、須恵器		
SD	7005	T1	Vy17～Wa18	7.8～	0.69	0.25	飛鳥	—	土師器		
SD	7006	T1	Vv17～w19	8.5～	0.64	0.3	飛鳥	—	土師器		
SD	7007	T1	Vv17～w19	8.4～	0.84	0.23	飛鳥	—	土師器		
SD	7008	T1	Vw～y17	10.6～	1.14	0.28	飛鳥	7c前	土師器、須恵器		
SK	7009	T1	Vx18	0.82	0.7	0.14	中世	—	土師器		
SK	7010	T2	Yj～16	7.0	0.9～	0.36	中世	—	土師器		
SK	7011	T2	Ym6	1.19	0.69～	0.39	中世	—	土師器		
SD	7012	T2	Yh～j6	7.0～	0.9～	0.56	戦国	中世Ⅳ期	土師器		自然流路
SK	7013	T2	Yp5	0.81	0.39～	0.16	中世	—	土師器		
SE	7014	T2	Yq5	2.68	0.9～	1.1	戦国	中世Ⅳa期	土師器、陶器		
SK	7015	T2	Yr5	2.3	0.8～	0.39	室町～戦国	—	土師器		
SK	7016	T2	Ym・n6	0.75～	0.66	0.1	室町～戦国	—	土師器		
SK	7017	T3	Uy・Va7・8	1.9	1.35～	—	室町～戦国	—	土師器		完掘せず、井戸の可能性あり
SK	7018	T3	Uy8	2.44	0.29	—	戦国	中世Ⅳ期	土師器		完掘せず
SD	7019	T3	Uw・x1～8	24.7	1.97	0.8	戦国	中世Ⅳb期	土師器、青磁、陶器		１箇所でサブトレンチ設置
SK	7020	T3	Ux6・7	1.57	1.02	0.43	室町	中世Ⅲa期	土師器		
SK	7021	T3	Uy7	1.99	1.23～	—	室町～戦国	—	土師器		完掘せず、井戸の可能性あり
SK	7022	T3	Vb7・8	1.4～	0.9～	—	戦国	中世Ⅳ期	土師器		完掘せず
SK	7023	T3	Ux2・3	3.15	2.56	—	戦国	中世Ⅳb期	土師器、陶器		完掘せず、井戸の可能性あり
SD	7024	T3	Uw4	2.38	1.6～	—	戦国	中世Ⅳb期	土師器		完掘せず

Ⅳ　遺　　物

1　土器・陶磁器等

（1）６次１区

①江戸時代の遺構出土遺物

ＳＫ6211（第54図１～15）　１は山茶椀である。底部外面に墨書がある。

２～10は陶器である。

２～５は碗である。２の底部外面には「田」字状の墨書がある。４は腰錆茶碗、５は陶胎染付の広東碗である。

６は鍋である。逆Ｕ字形の把手が付く両耳鍋と思われるが、把手は欠損している。

７・８は灯火具である。７は灯明皿と思われる。８はカンテラ形の秉燭で、把手を欠損している。

９は徳利である。側面の二箇所が大きく凹むもので、錆釉が施されており、備前写しとして瀬戸・美濃で生産されたものと思われる。

10は甕で、口縁部は水平に拡張される。体部から口縁部にかけてまっすぐ立ち上がっており、井戸枠の可能性もある。

11・12は磁器である。

11は皿である。見込中央に五弁花文を配する。12は小壺で、上半部を欠損するが油壺の可能性がある。

13～15は軒丸瓦である。いずれも瓦当中央に右回りの巴文を置き、その周囲に珠文を配するが、珠文の数は全て異なっている。瓦当の大きさも異なる。15は丸瓦部が遺存しており、凹面には布目が残る。また、凸面には〇内に「長」と思われる字を配した刻印が認められる。

包含層（第54図16・17）　16は土師器焙烙、17は山茶椀である。

（2）６次３区

①平安時代～室町時代の遺構出土遺物

ＳＫ6228（第55図18）　18は土師器茶釜である。体部中位に鍔が付く。

ＳＫ6230（第55図19）　19はロクロ土師器椀である。底部外面には糸切痕が残る。

ＳＫ6231（第55図20～22）　20・21は土師器鍋である。口縁端部は上方に短く摘まみ上げられる。22は陶器捏鉢である。

ＳＫ6232（第55図23～26）　23・24は土師器皿である。口縁端部外面にはナデが施される。25・26は山茶椀である。26の内面には炭化物が付着する。

ＳＫ6233（第55図27～30）　27は土師器皿である。器壁はかなり薄い。28は土師器鍋の口縁部片である。

29・30は山茶椀である。

ＳＫ6234（第55図31～39）　31～36は土師器の小皿ないし皿である。35・36はやや深く、体部が屈曲して口縁部が上方に立ち上がる。器壁はいずれもかなり薄い。

37はロクロ土師器椀である。底部外面には糸切痕が残る。

38は土師器羽釜の口縁部片である。39は土師器鍋である。体部は扁平で浅いと思われる。

ＳＫ6235（第55図40～48）　40は土師器甕である。口縁端部を折り返して肥厚させる。41は土師器鍋である。口縁端部は内側へ折り返した後にナデ付けられている。

42は山皿である。43～47は山茶椀で、いずれも高台は貧弱なものとなっている。

48は青磁碗である。内面には劃花文が陰刻されている。

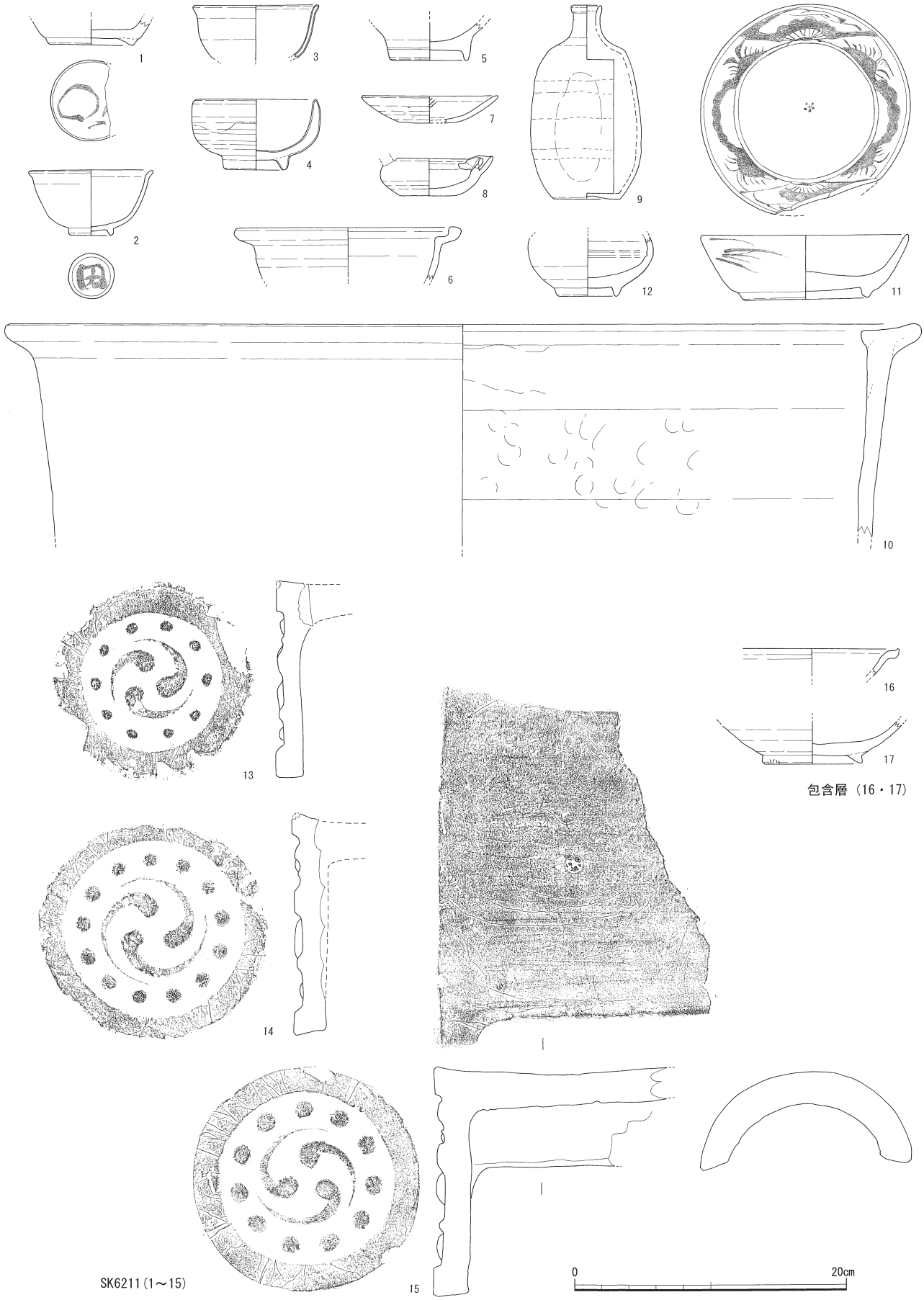
ＳＫ6236（第55図49）　49は土師器鍋の口縁部片である。

ＳＫ6237（第55図50～54）　50は土師器皿である。器壁は薄い。51は土師器鍋である。

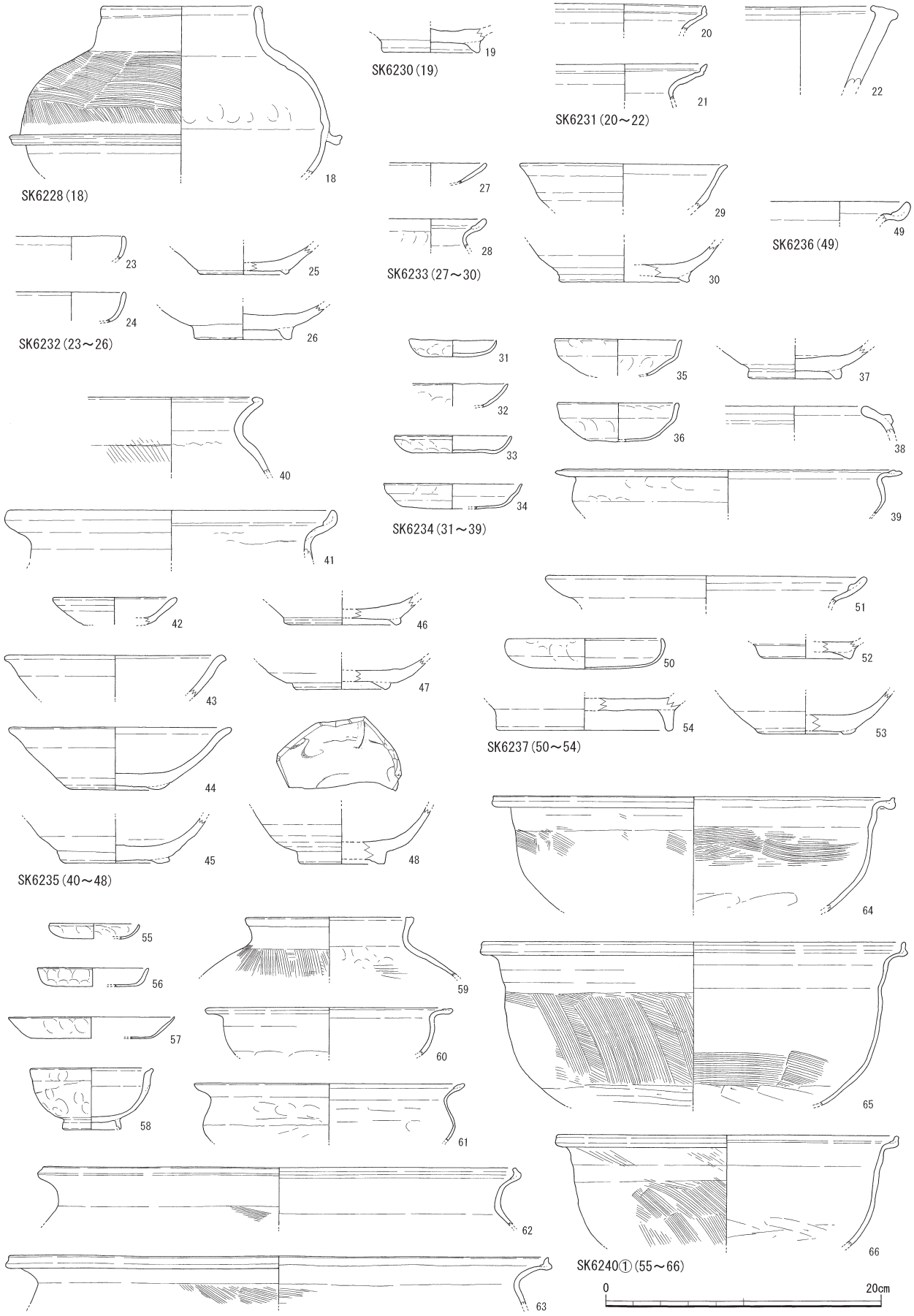
52・53は山茶椀である。53の内面には炭化物が付着する。54は陶器片口鉢と思われる。高台がかなり高い。

ＳＫ6240（第55・56図55～69）　55～66は土師器である。

55～57は小皿ないし皿である。58は土師器椀である。体部は半球形でやや深く、口縁端部には強いナデにより段状の面が作り出されている。



第54図　６次１区出土土器・陶磁器等実測図(1/4)



第55図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図①(1/4)

59は茶釜である。60～66は鍋である。60・61のように小型で浅いものと、62・63のように大型で頸部が括れるもの、64～66のように頸部が括れず半球形の器形を呈するものがある。

67は管状土錘である。ほぼ完形で、太身のものである。

68は陶器擂鉢である。摺目はやや間隔を開けて施されている。

69は青磁稜花皿である。口縁端部には連続した押圧が施されている。

ＳＫ6242（第56図70～73）　70は土師器小皿である。71～73は土師器鍋である。71は小型で浅いものである。73は頸部が括れず、半球形の器形を呈するものと思われる。

ＳＫ6243（第56図74～78）　74は土師器茶釜である。75は土師器鍋で、大型のものである。

76は山茶椀、77は陶器甕である。

78は陶器の甕の体部片を転用した加工円盤である。

ＳＤ6012（第56～58図79～139）　79は土師器台付甕である。体部成形後、脚部を付加している。古墳時代のものであり、混入と考えられる。

80は須恵器長頸壺である。口縁端部は丸く収められている。

81～122は土師器である。

81～84は小皿ないし皿である。82・84は器壁がかなり薄い。

85は茶釜蓋である。本来は上面中央に摘まみが付くと思われるが、欠損する。上面には煤が付着している。86～94は茶釜である。94は肩部に櫛状工具を用いて波状文のような文様を描く。

95～98は羽釜である。96はかなり内湾する口縁部である。97は口縁部直下に粘土帯を貼り付けて肥厚させている。

99～102は甕である。102は口縁端部を内側へ折り返して肥厚させる。

103～121は鍋である。103のような小型で浅いものと、104～109、111～115のような半球形の器形を呈するもの、そしてそれ以外の頸部が明瞭に括れるものがみられる。

122は十能である。把手部のみが遺存している。把手部は中空で筒状になっている。

123～125は山茶椀である。124は他のものより底部が分厚く、高台も貧弱である。

126～137は陶器である。

126は碗と思われる。127は丸皿、128は稜皿である。129は丸皿もしくは輪禿皿で、見込付近の釉を削り取っている。130は鉄絵皿で、見込に蘭竹文を描く。体部と高台の境にはケズリによりシャープな段が作り出されている。129・130は127・128よりもやや時期が下るものと考えられる。

131・132は鉢である。131は素焼きのもので、外面に煤が付着し、火鉢の可能性がある。外面はケズリによって整形されている。132はやや内湾する丸みを帯びた体部で口縁部は丸く収めており、大型の碗であるとも考えられる。

133・134は捏鉢である。133の内面には工具による粗いナデが残る。

135は火鉢である。底部と体部の屈曲部に突起状の脚を貼り付ける。脚は１箇所のみ遺存しているが、本来は３箇所に貼り付けられていたと考えられる。外面には煤が付着する。

136・137は壺ないし甕である。137は口縁部を外側に大きく折り返して肥厚させている。

138は陶器甕の体部片を転用した加工円盤である。

139は青磁碗である。外面に鎬蓮弁文が認められる。内面には陰刻による線がわずかに遺存しており、劃花文が施されていた可能性が高い。

ＳＤ6213（第58図140～142）　140は土師器鍋である。小型で浅いものと思われる。

141は陶器の底部であるが、器種は不明である。底部と体部の境の外面はケズリによって面をなす。鉄釉が施されており、内耳鍋等の可能性がある。

142は天目茶碗の底部を転用した加工円盤である。

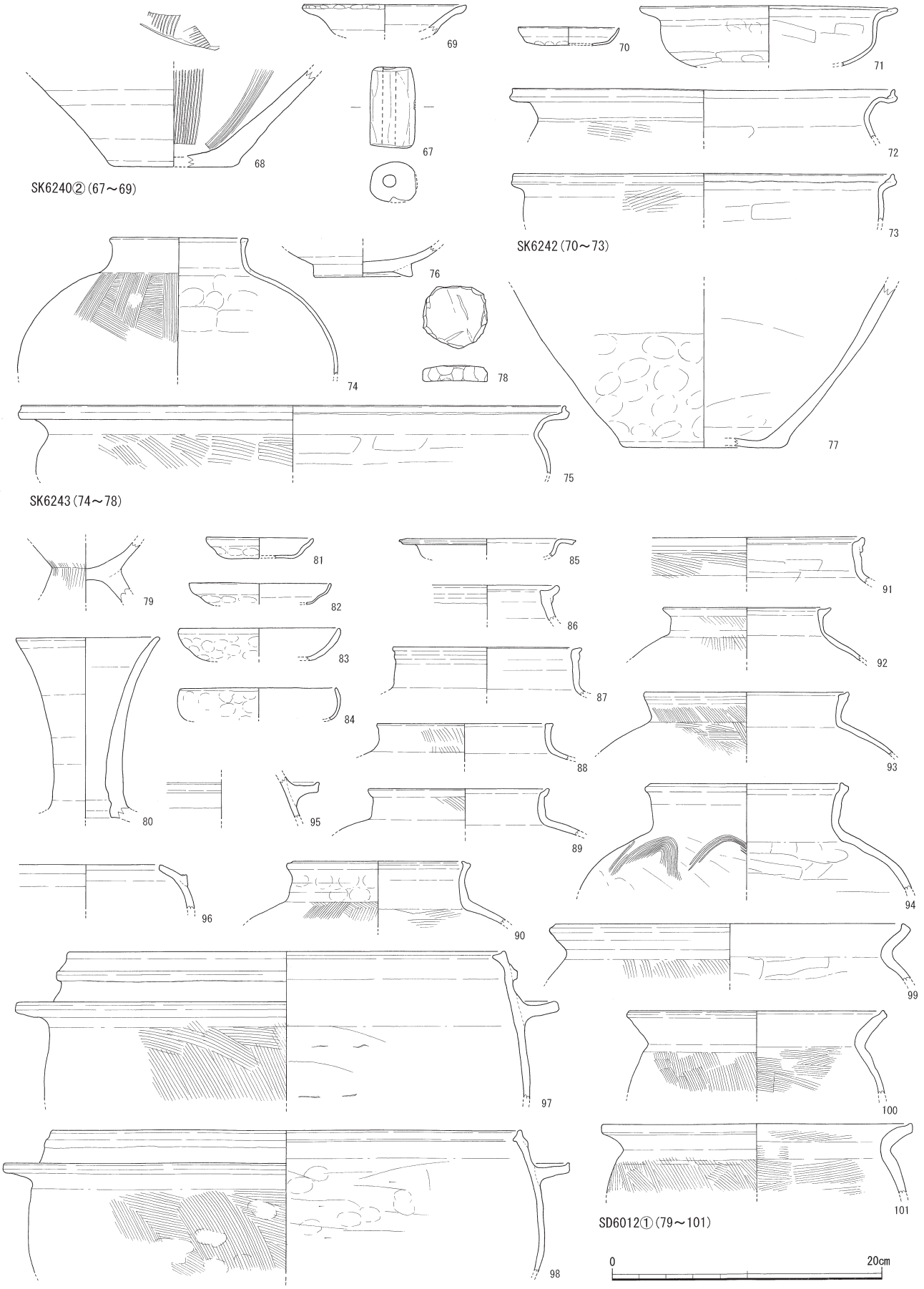
ＳＤ6216（第58図143･144）　143は土師器小皿、144は土師器鍋の口縁部片である。

ＳＤ6222（第58・59図145～162）　145～162は土師器である。

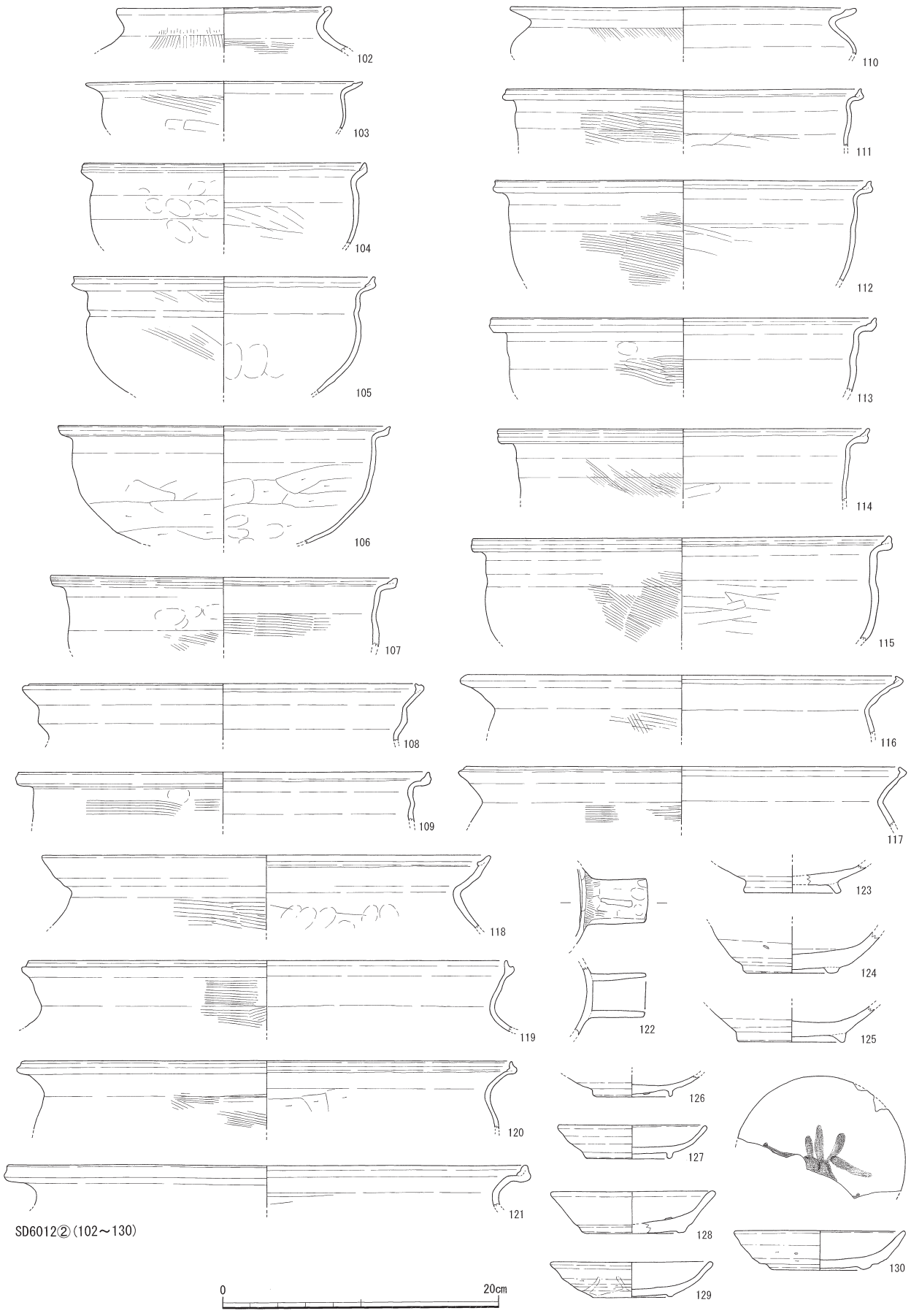
145～147は小皿である。いずれも同様の形態のものである。

148は茶釜である。口縁部は内傾する。

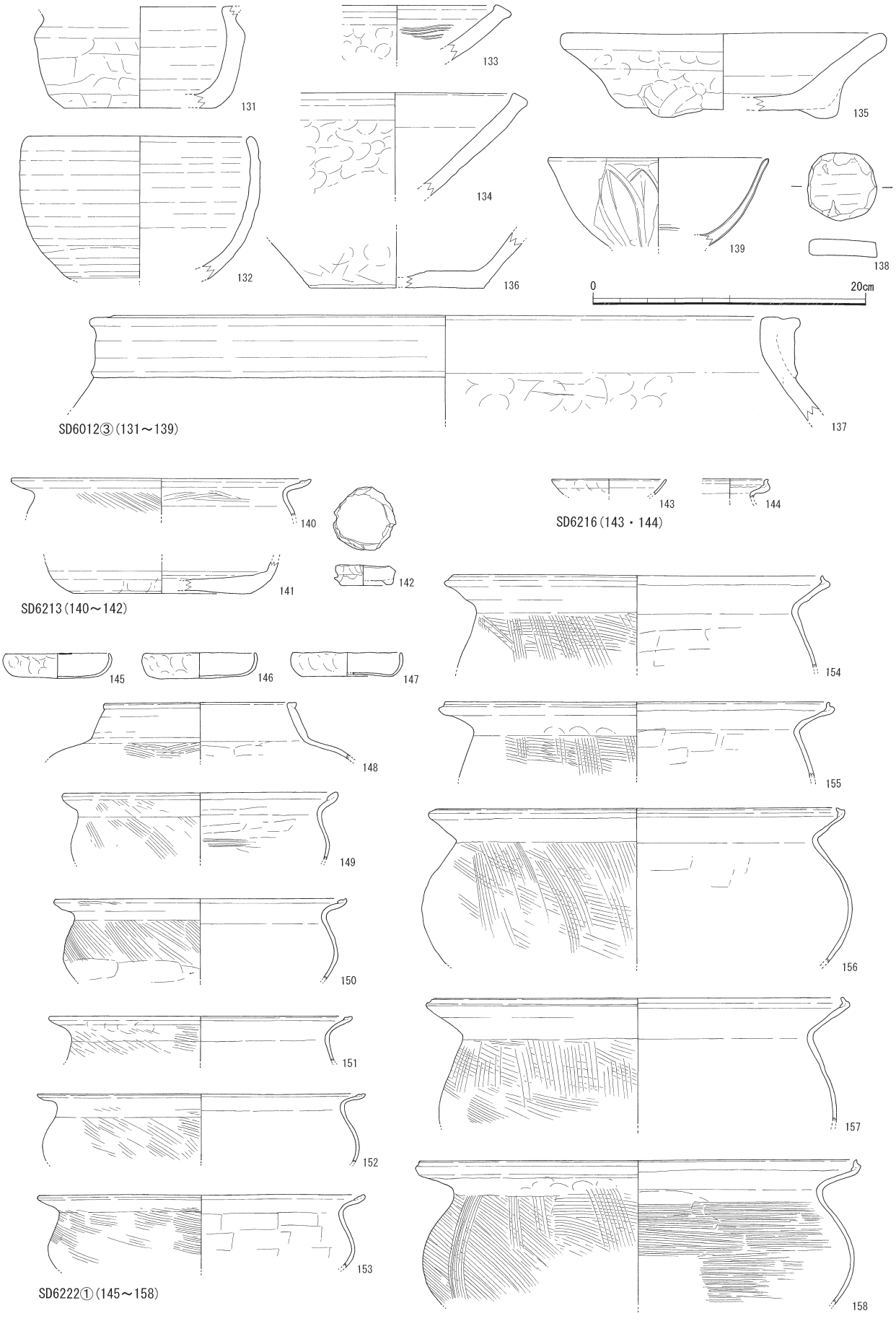
149～162は鍋である。149～153のような小型で浅



第56図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図②(1/4)



第57図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図③(1/4)



第58図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図④(1/4)

いものと、154～162のような頸部が括れる大型のものがある。小型のものは口縁端部を折り返して口縁部内面に圧着させるが、大型のものは口縁端部を上方に摘まみあげている。

ＳＤ6238（第59図163～177）　163～176は土師器である。

163～165は杯である。164・165は体部から口縁部にかけて若干外反し、口縁端部はやや内側に肥厚する。

166・167は皿である。167は平らな底部から体部が明瞭に屈曲して立ち上がる。

168は鉢である。体部上半を欠く。底部は平らで、体部は底部から明瞭に屈曲して立ち上がる。外面はケズリによって調整する。

169～175は甕である。いずれも口縁端部を若干内側に摘まみ出して肥厚させ、口縁端部は面をなす。体部内面は173のように工具ナデで調整するものと、175のようにヨコハケによって調整するものがある。

176は製塩土器である。志摩式製塩土器で、底部は遺存しない。

177は灰釉陶器の蓋である。天井部は平らで、口縁部との境は大きく屈曲する。本来は摘まみが付くと思われるが、遺存していない。

ＳＤ6241（第59図178～183）　178～180は土師器小皿である。178はかなり小型のもので、器壁も薄い。

181～183は土師器鍋である。182は頸部が括れない形態のものであるが、かなり浅く、焙烙に近い形態である。183は内面をヨコハケで調整する

ピット（第59図184～189）　184・186・188は土師器小皿である。186はやや深いもので、体部が屈曲して口縁部が上方に立ち上がる。

189は土師器杯、185は土師器鍋である。

187は陶器の稜皿である。鉄釉が施されている。瀬戸・美濃産と思われる。

②江戸時代の遺構出土遺物

ＳＫ6223（第60図190～206）　190～193は土師器である。190・191は小皿である。190はかなり浅く、扁平である。191は口縁部がやや外反する。

192・193は焙烙である。

194は瓦質土器の鍋である。口縁部は段をなす。内外面ともミガキで調整されており、外面には煤が付着している。

195～201は陶器である。

195～198は碗である。196は瀬戸・美濃産の鎧茶碗と思われる。197・198は陶胎染付の広東碗である。いずれも見込に崩れた五弁花文が配されている。

199は皿である。200は片口であるが、片口部は遺存していない。口縁部は肥厚する。

201は火鉢である。素焼きのもので、底部と体部の屈曲部に突起状の脚を貼り付ける。頸部で強く屈曲し、口縁部は大きく外方へ開く。脚は３箇所に貼り付けられていたと考えられる。頸部内面には煤が付着している。

202は陶器天目茶碗の底部を転用した加工円盤である。

203～206は磁器である。

203～205は染付丸碗である。203の見込にはコンニャク印判による五弁花文が施されている。205の外面には呉須と茶色顔料で宝珠文が描かれており、203・204よりもやや時期が下るものと思われる。

206は染付皿である。

ＳＫ6224（第60図207～210）　207は土師器小皿である。かなり小型で浅い。

208～210は陶器である。

208は碗である。灰釉が施される。

209は灯明受皿である。内側の突帯には方形の切り込みが入れられており、瀬戸・美濃産と考えられる。

210は水滴である。直方体を呈するもので、上面の中央に注水孔があり、上面の隅に注口となる孔が穿たれている。

ＳＫ6229（第60図211～218）　211・212は土師器小皿である。いずれも浅い。

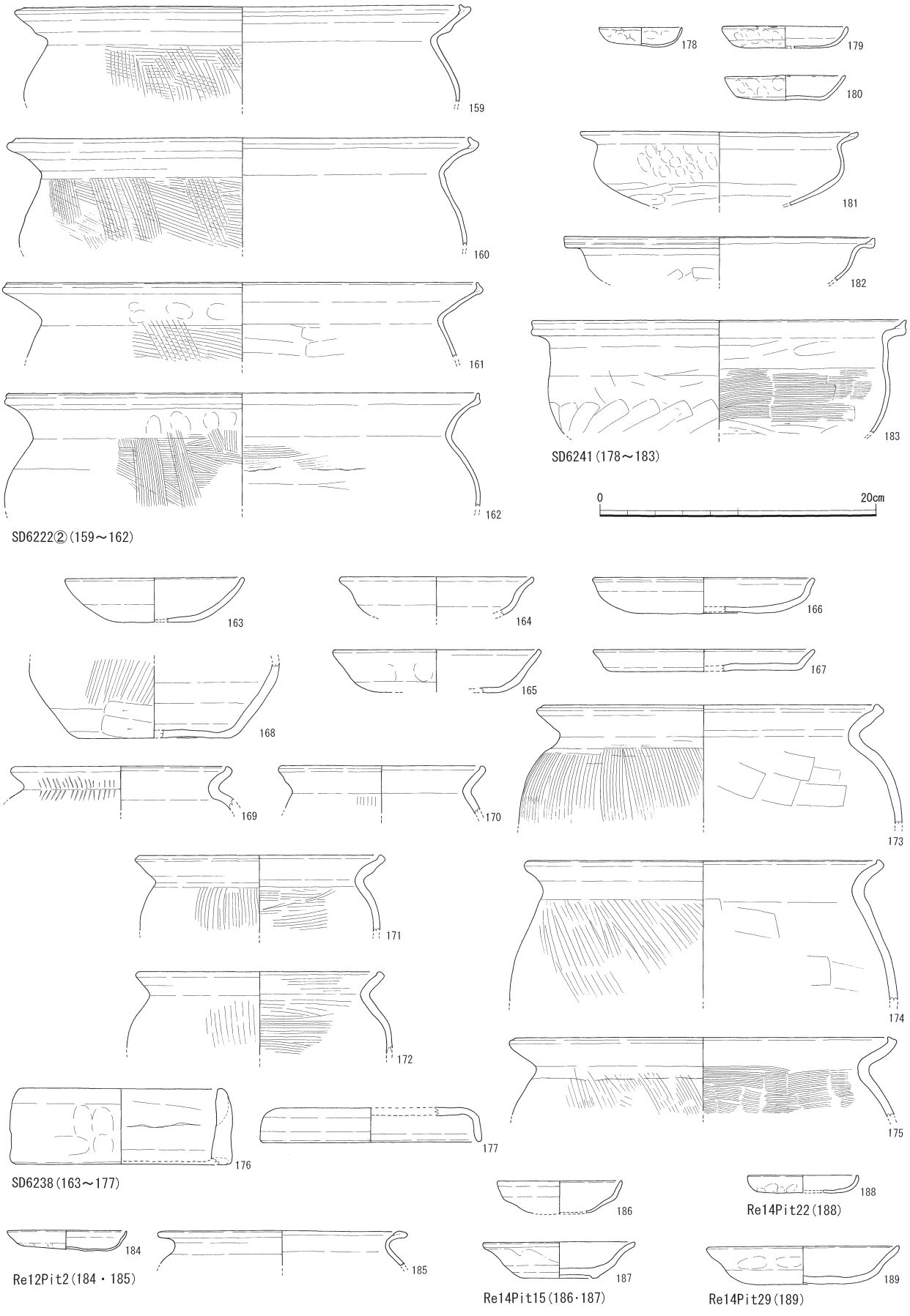
213～217は陶器である。

213・214は碗である。いずれも丸碗で、底部が厚く作られている。

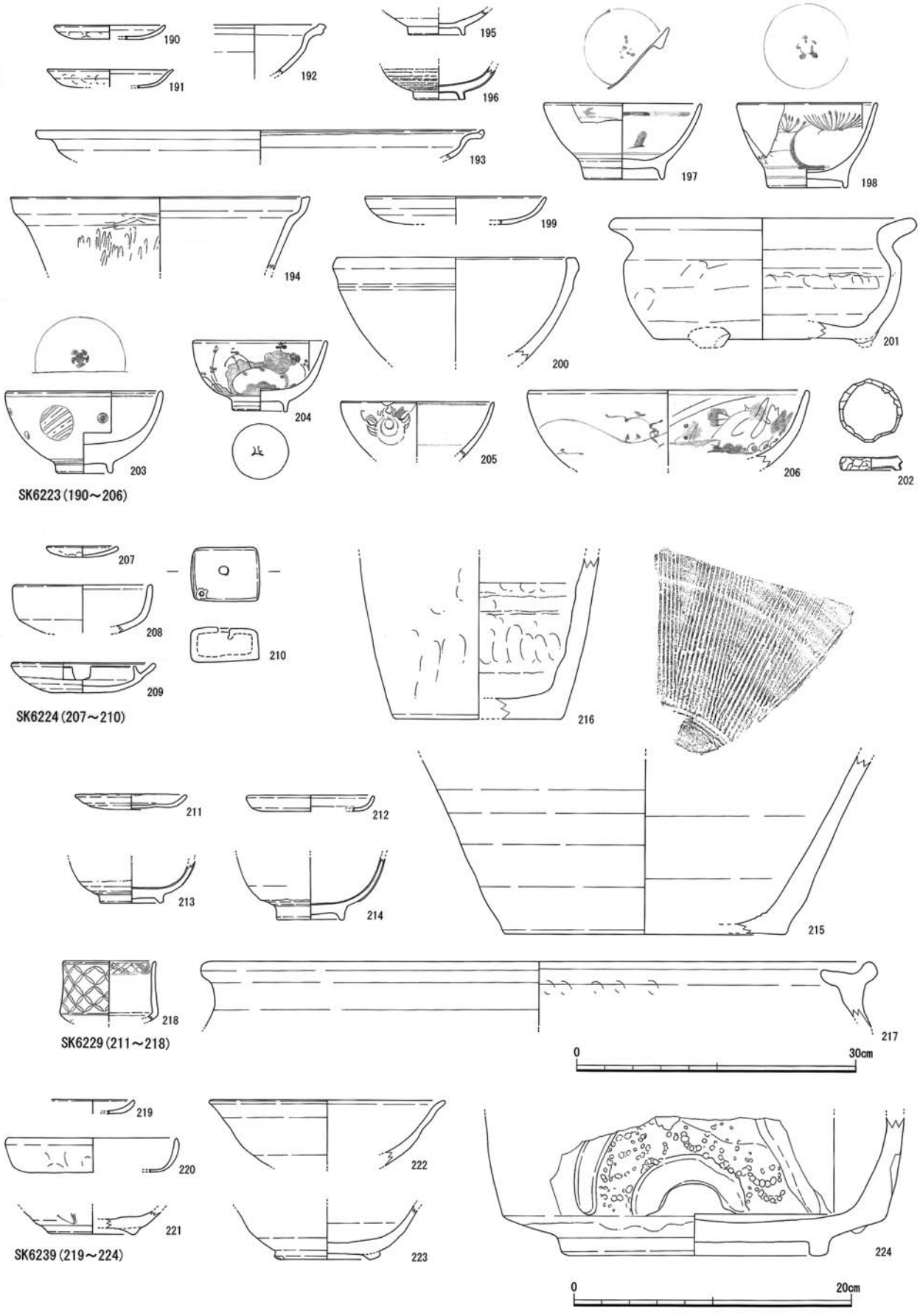
215は擂鉢である。擂目はかなり密に入れられている。瀬戸・美濃産と思われる。

216は壺である。217は甕である。素焼きで、常滑産のいわゆる赤ものである。口縁部は大きく内傾するが、内側の屈曲は緩い。

218は磁器の染付筒形碗である。外面には七宝繋



第59図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図⑤(1/4)



第60図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図⑥(1/4、217は1/6)

文を描く。

ＳＫ6239（第60図219～224）　219・220は土師器小皿ないし皿である。220は中世に遡るもので、混入と思われる。

221～223は山茶椀で、221の外面には墨書と思われるものが一部遺存している。これらも混入したものと思われる。

224は陶器水甕である。底部外面に墨書と思われる痕跡が一部遺存している。

ＳＤ6212（第61図225～231）　225は弥生土器高杯の脚部である。外面に櫛描直線文を３段施し、その間に列点文を施す。

226～228は土師器杯である。226は口縁部が直線的に立ち上がるが、228は体部と口縁部との境がやや屈曲し、口縁部が大きく外反する。228の底部外面には墨書がある。

229・230は土師器甕である。小型のもので、口縁端部はやや内側に肥厚する。

231は軒丸瓦である。瓦当の破片で、中央に右回りの巴文、その周囲に珠文を配する。

ＳＤ6214（第61図232～235）　232～234は土師器杯ないしは皿である。234はやや大型で、体部から口縁部にかけて緩やかに外反する。

235は土師器甕である。口縁部は内側に若干肥厚し、口縁端部は面をなす。

ＳＤ6217（第61・62図236～268）　236は土師器の鍋もしくは鉢と思われる。

237は灰釉陶器の壺である。

238は土師器小皿である。かなり小型で浅い。

239は瓦質土器の鍋である。底部は平らで、底部と体部の境は明瞭に屈曲する。口縁部は段をなす。外面には煤が付着している。

240～259は陶器である。

240～242は碗である。241は瀬戸・美濃産の拳骨茶碗である。242は陶胎染付と思われ、見込に崩れた環状松竹梅文が描かれる。

243は皿で、見込に花文が摺絵によって描かれる。瀬戸・美濃産の摺絵皿である。

244は大皿である。口縁部は水平に外方へ引き出される。見込にはトチン痕が残る。

245・246は土瓶蓋である。246は青緑釉が施されており、同じく青緑釉が施された247の土瓶と組み合うものと思われる。247は土瓶である。外面上半部を中心に青緑釉が施されている。

248は行平鍋蓋である。外面に笹文状の文様が描かれる。249は行平鍋の把手で、中空である。

250～252は擂鉢である。250は口縁部の小片で、摺目は遺存していない。252は口縁部を丸く収めており、内面の口縁部直下に○内に「大」の文字を配した刻印を施している。

253・254は灯火具である。253は台付灯明受皿で、内面の突帯に半円形の切り込みを入れる。254はカンテラ形の秉燭である。注口状の部分に煤が付着している。把手部は欠損している。

255は火鉢である。内面に炭化物が厚く付着する。256は焜炉である。素焼きで、体部に楕円形の孔が開けられているが、大部分を欠損しており、全体の形態は不明である。

257は徳利である。外面に鉄釉で文字が書かれているが、一部しか遺存しておらず、書かれた文字は不明である。

258は壺と思われる。259は甕である。常滑産のいわゆる赤もので、口縁部がやや内傾する。

260～266は磁器である。

260は小杯で、文様等はない。

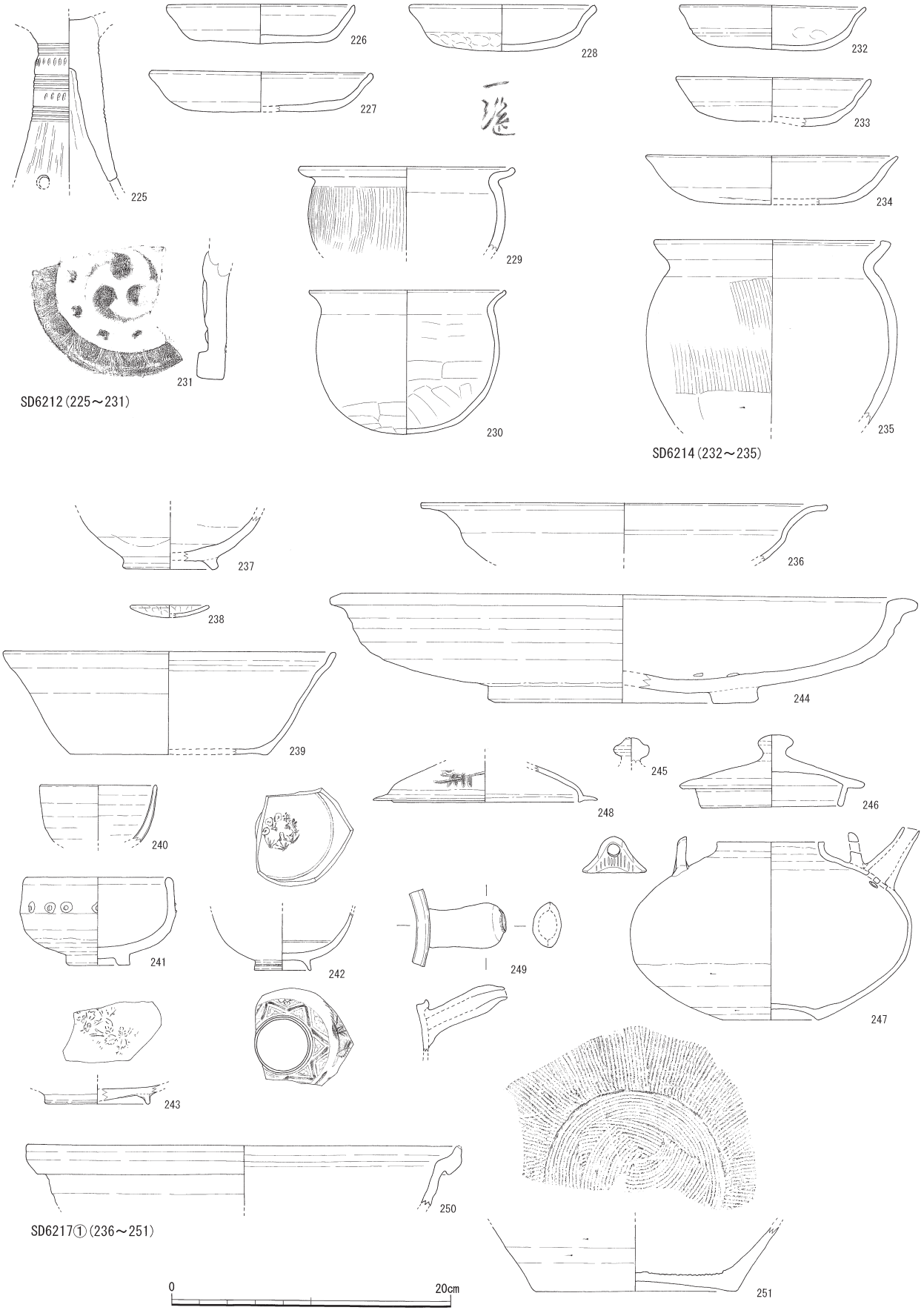
261～264は染付碗である。261は底部から体部にかけて緩やかに屈曲する。口縁部はわずかに外反する。264は見込にコンニャク印判による五弁花文が施される。

265は仏餉具の脚部である。

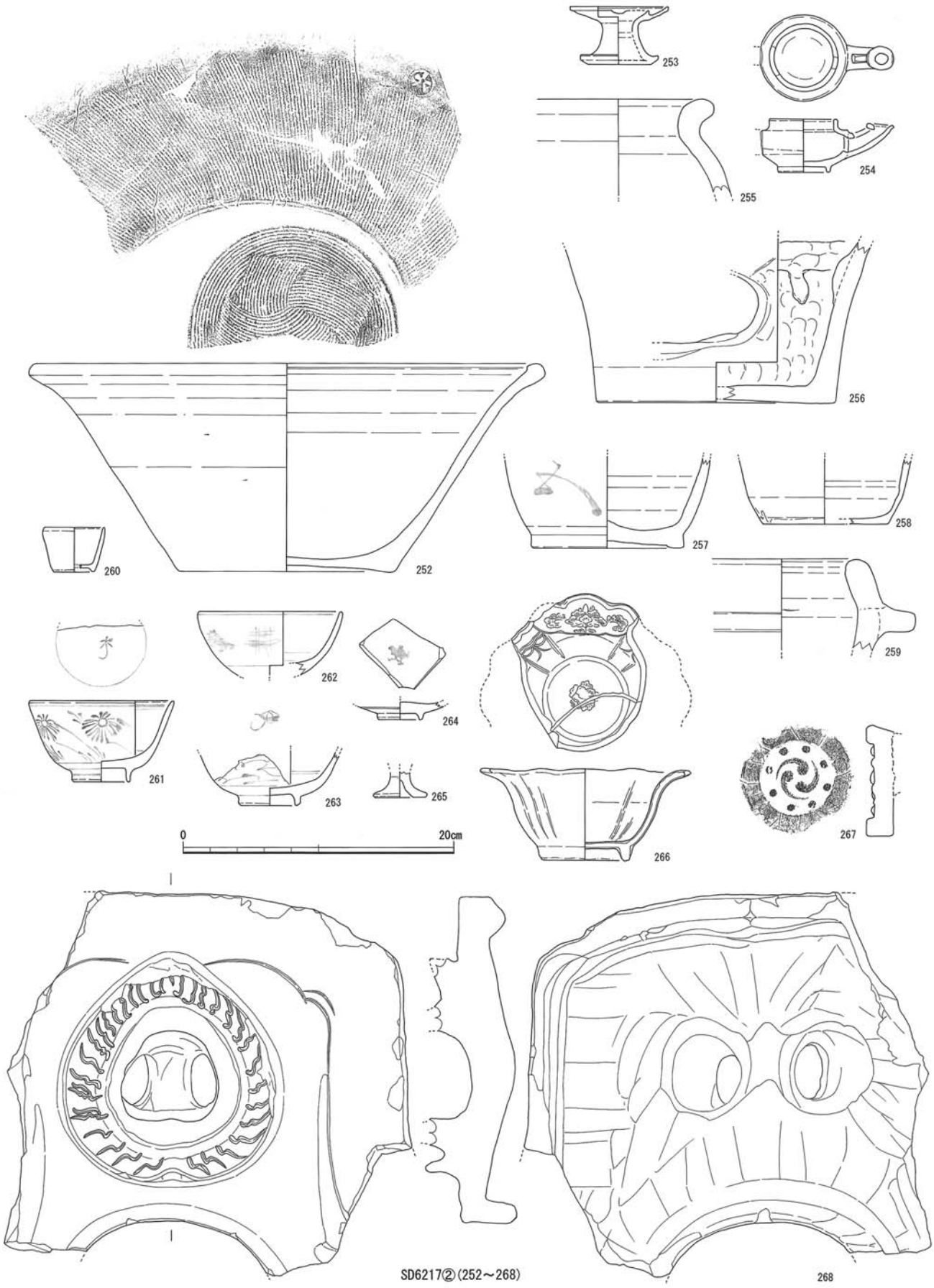
266は青磁輪花鉢である。口縁部は大きく外反する。型打ちで成形されたものと考えられる。使用時に割れた部分を、ガラス質の材料を用いて焼き継ぎを行い、修復している。

267は軒桟瓦である。丸瓦部分の瓦当のみが遺存している。瓦当の中央には右回りの巴文、その周囲に珠文を配する。

268は鬼瓦である。下面に逆Ｕ字形に刳り込みを入れている。表面には輪宝文があしらわれている。輪宝文の内部にも何らかの立体的な装飾が作り出されていたと思われるが、全て欠損しており、詳細は不明である。



第61図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図⑦(1/4)



第62図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図⑧(1/4)

第63図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図⑨(1/4)

ＳＤ6220（第63図269）　269は土師器小皿である。

ＳＤ6227（第63図270～287）　270・271は土師器小皿である。いずれもかなり小型だが、器壁は厚い。

272～281は陶器である。

272～274は蓋である。272は落とし蓋状のもので、上面中央部に小さなボタン状の摘まみが付く。汁次もしくは土瓶の蓋である可能性が高い。273は扁平な円形の蓋で、小孔が１箇所開けられている。土瓶の蓋と考えられる。274は環状摘まみがつく。

275は片口である。片口部の先端は欠損している。底部内面にピン痕が残る。

276は汁次である。円筒形の体部に注口が付く。注口と反対側には把手が付くが、欠損している。

277は灯明受皿である。かなり小型化したものである。内面の突帯は低く、半円形の切り込みを入れている。

278は七輪もしくは涼炉である。内部に作り付けられた漏斗形の部品の一部である。側面に方形の窓が開けられており、その少し上方には円孔が数箇所開けられている。目皿のような役割を果たしていたと考えられる。

279・280は徳利である。いずれも鉄釉で文字が書かれている。280には「米澤屋」、「新町山半」などの文字が書かれている。

281は断面が八角形の筒状のものである。外面には柿釉が厚く施されている。底部は焼成後に穿孔されている。花生等の可能性が考えられる。

282～287は磁器である。

282～285は染付丸碗である。282の文様は型紙摺である。282や284の呉須の青色は鮮やかで濃い。284の底部外面には変形字の銘款がみられる。

286は染付皿である。内面には花文とともに草花を描く。

287は染付鉢である。口縁部は強く屈曲して外方に開く。内面には楼閣山水、朝顔、鷺など多様な意匠の文様が描かれている。

ピット（第63図288・289）　289は土師器小皿である。288は磁器の染付皿で、見込にはコンニャク印判による五弁花文が施されている。底部外面には崩れた「大明年製」の銘款がみられる。

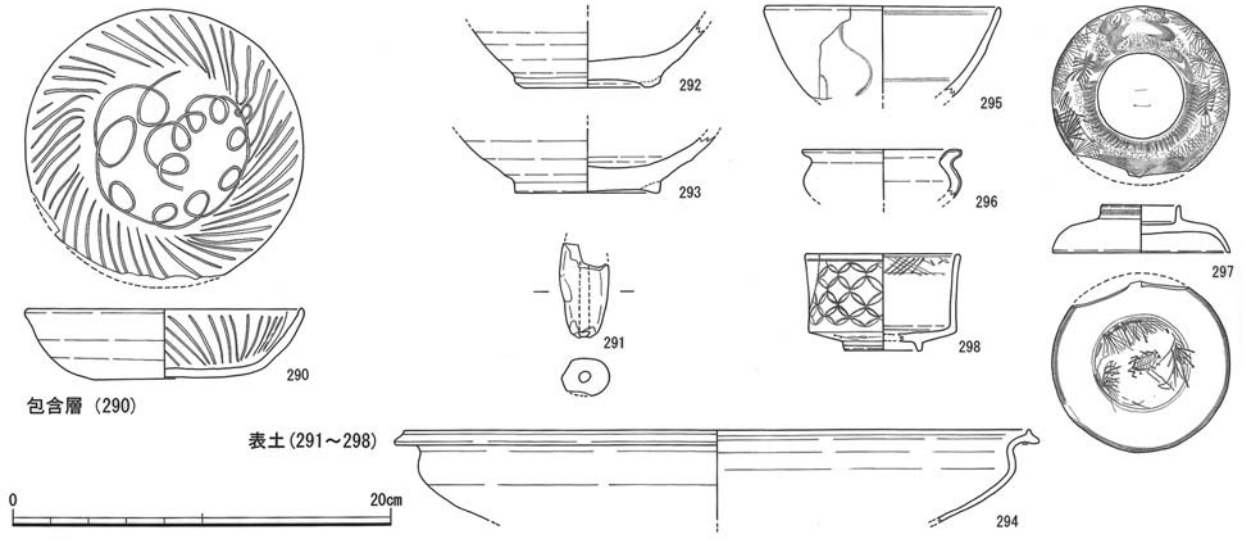
包含層（第64図290）　290は土師器杯である。内面には螺旋状の暗文が施されている。内面の口縁部直下には沈線状の凹みがみられる。

表土（第64図291～298）　291は管状土錘である。半分程度を欠損する。

292・293は山茶椀、294は土師器焙烙である。

295・296は陶器である。295は陶胎染付碗である。丸碗と思われるが、体部はやや直線的に外方へのびる。296は香炉と思われる。

297は磁器染付蓋で、呉須は濃く鮮やかな青色である。外面中央には角変形字の銘款がみられる。文様や呉須の色調、銘款はＳＤ6227出土の284と似て



第64図　６次３区出土土器・陶磁器等実測図⑩(1/4)

おり、組み合う可能性がある。298は筒形碗である。

（３）６次４区・７次５区

①平安時代～室町時代の遺構出土遺物

ＳＥ6081（第65図299～304）　299～302は土師器鍋である。299～301はいずれも口縁端部を内側へ折り返してナデ付けている。頸部の屈曲は緩い。301は体部外面上半をハケによって調整する。

303・304は山茶椀である。

ＳＥ6106（第65・66図305～324）　305～318は土師器である。

305～308は小皿ないし皿である。いずれも器壁は薄く、305は小型で浅い。306は口縁部がやや内湾する。308は底部外面に墨書がある。

309は茶釜である。大型のもので、口縁端部は外面に粘土を貼り付けて帯状に肥厚させる。

310～318は鍋である。311・313～315のように頸部が括れず半球状の器形を呈するものと、310・312・316～318のように頸部が括れるものがある。

319～322は陶器である。

319は天目茶碗である。320は断面がＹ字状をなす口縁部で、古瀬戸の直縁大皿または卸目付大皿と思われる。321は捏鉢の口縁部の小片である。322は素焼きで、火鉢と考えられる。

323は青磁碗である。見込には花文が施されている。底部外面の中央部付近にも釉が施されている。

324は白磁碗である。底部外面には墨書と思われる痕跡がみられる。高台畳付にはケズリが施されている。

ＳＥ6108（第66図325～327）　325は土師器小皿である。器壁は薄い。

326は土師器羽釜である。口縁部片で、大きく内湾している。327は土師器鍋である。

ＳＥ6116（第66図328～336）　328～331は土師器である。

328は羽釜で、口縁部は粘土を貼り付けて肥厚させる。体部外面はハケによって調整している。

329～331は鍋である。口縁端部は内側に折り返してナデ付けている。

332・333は山茶椀である。333の底部外面には「十」と推測される墨書がある。

334～336は陶器である。

334は口縁部が外方に折れ曲がるものであり、折縁深鉢と思われる。

335は捏鉢である。口縁部の小片であるが、内面に線刻と思われるものが認められる。

336は甕である。口縁部は受口状を呈する。

ＳＥ6132（第66図337～343）　337～340は土師器小皿である。いずれも小型で浅く、器壁も薄い。

341は瓦質土器で、火鉢であると思われる。口縁部は厚く作られており、上面は幅広の面をなす。外面はミガキによって調整される。

342は陶器の大皿であると思われる。口縁部は外方へ強く屈曲する。

343は青磁碗である。外面には細い蓮弁が陰刻されている。

ＳＥ6150（第66図344～355）　344～352は土師器小皿ないし皿である。344・345は小型で浅い。346～352は同様の形態のもので、体部から口縁部にかけて内湾する。

353・354は土師器鍋である。

355は青磁碗である。口縁部の小片である。外面には蓮弁が陰刻されている。

ＳＥ6153（第66図356～361）　356は土師器皿である。357は土師器羽釜の鍔部片である。上面に線刻とも思われるものが一部遺存している。

358～360は土師器鍋である。いずれも口縁部の小片である。

361は陶器捏鉢である。

ＳＥ6160（第67図362～367）　362は土師器皿である。363は土師器羽釜である。

364は山茶椀である。

365～367は陶器である。

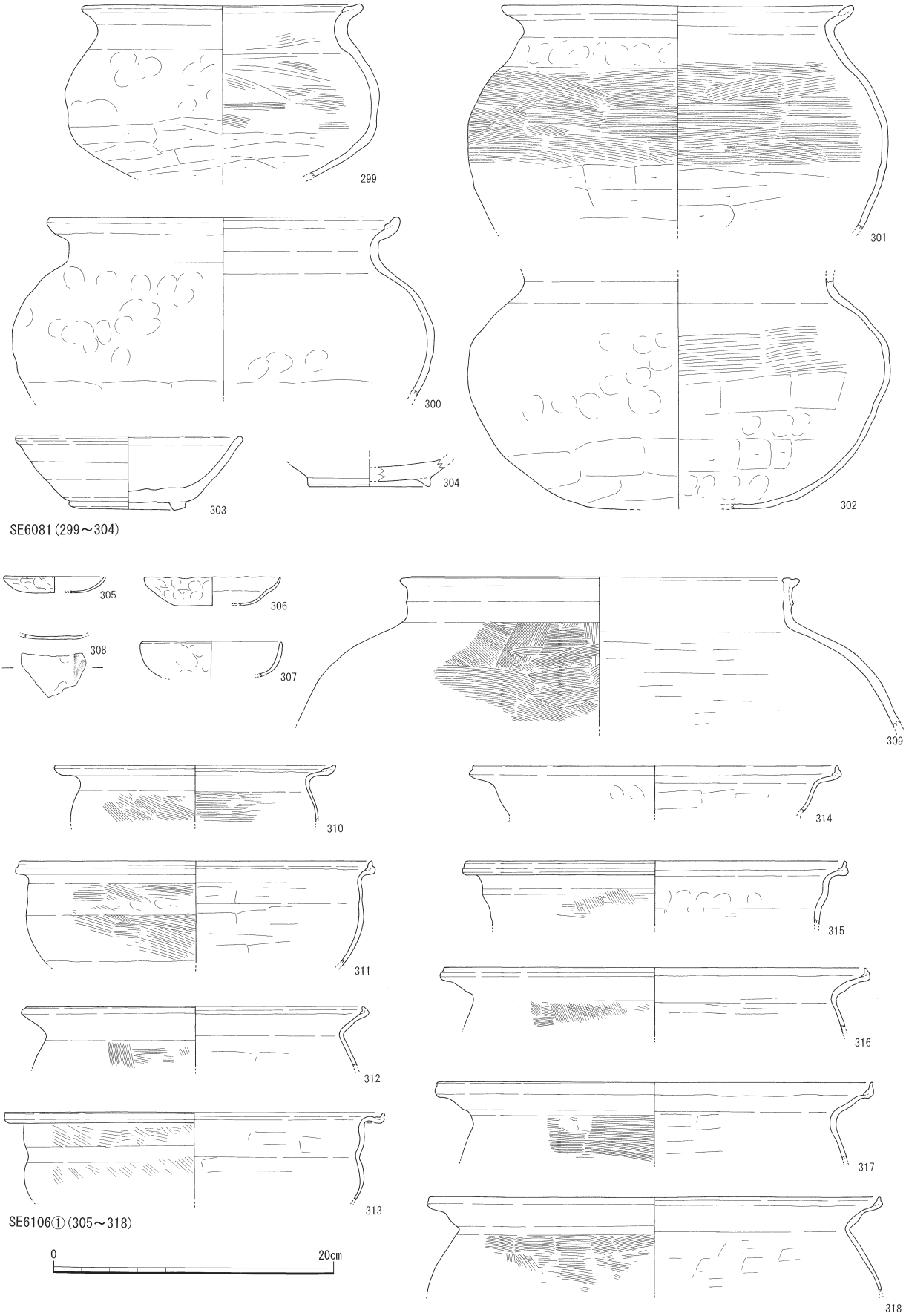
365は碗である。口縁端部は丸く収め、若干肥厚する。鉄釉が施されている。

366は鉢と思われる。素焼きのもので、口縁部は内側に屈曲する。片口が付く可能性も考えられる。

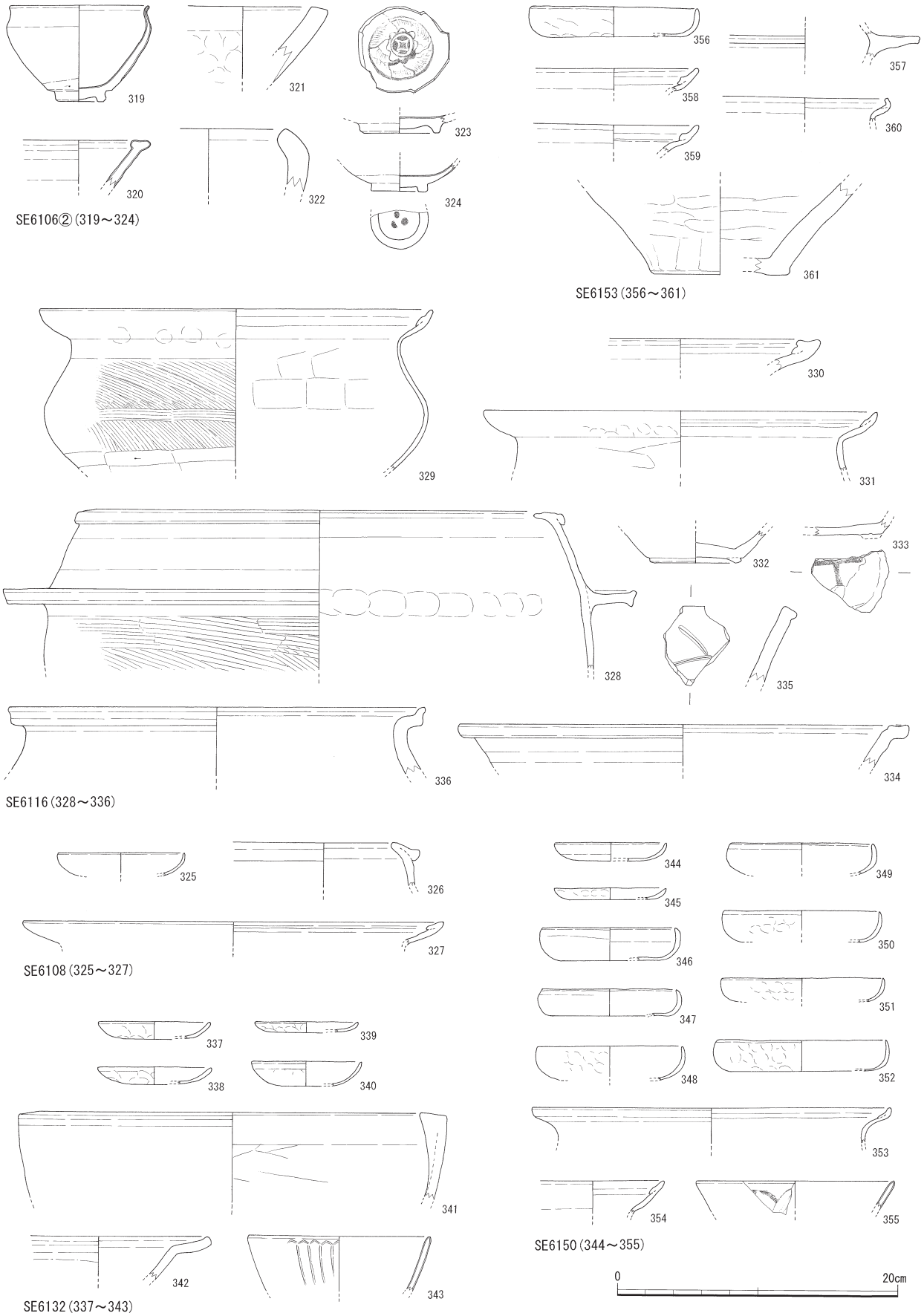
367は甕である。肩部に押印がある。常滑産と考えられる。

ＳＥ6161（第67図368～370）　368は土師器小皿、369は土師器鍋である。

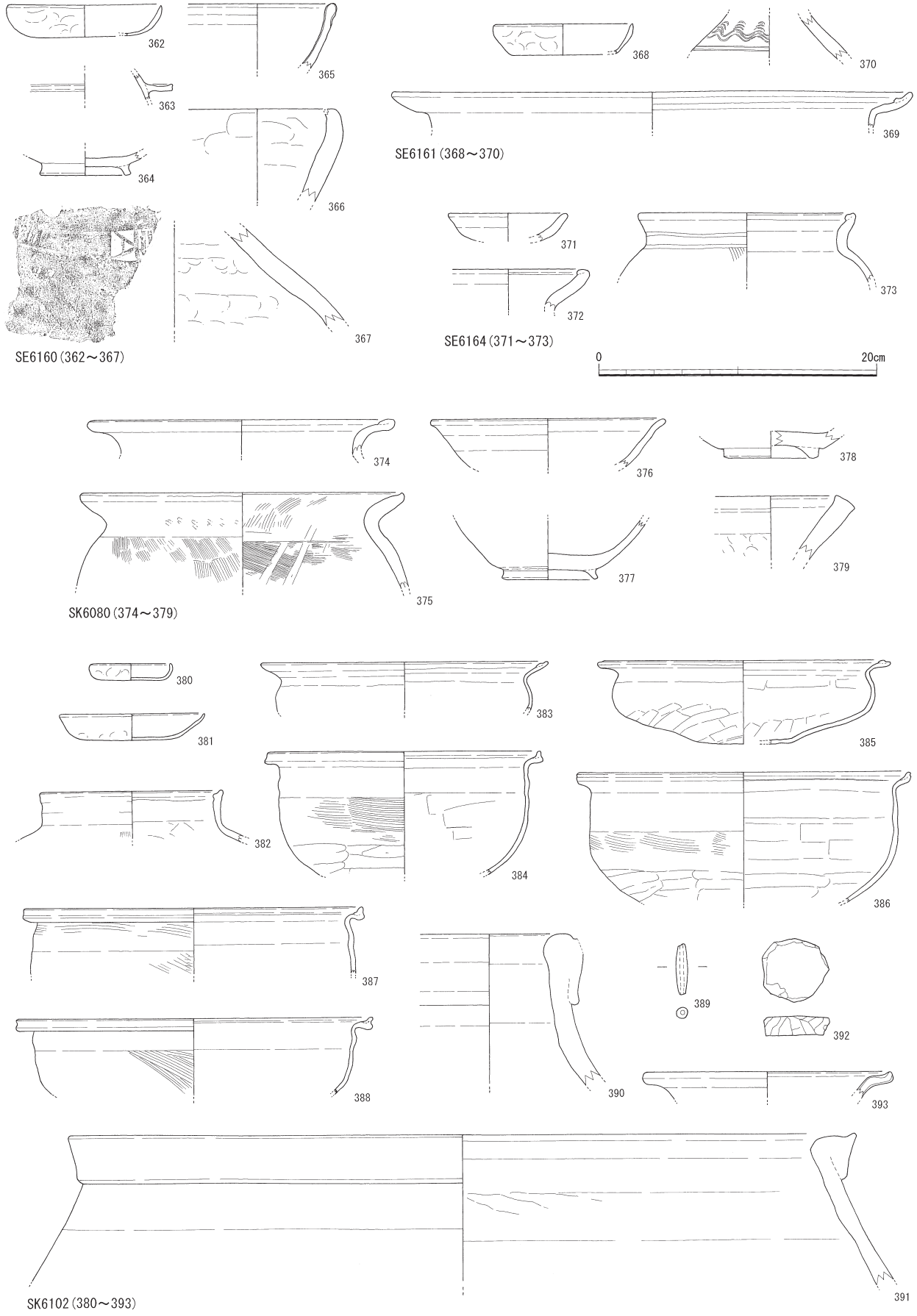
370は陶器の瓶であると思われる。肩部に櫛状工



第65図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図①(1/4)



第66図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図②(1/4)



第67図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図③(1/4)

具で波状文と直線文が施されている。

ＳＥ6164（第67図371～373）　371は土師器小皿である。小型で器壁が厚い。

372・373は土師器甕である。口縁端部は内側に折り返して肥厚させる。

ＳＫ6080（第67図374～379）　374は土師器鍋、375は土師器甕である。375は内外面ともハケで調整される。

376～378は山茶椀である。379は陶器捏鉢の口縁部片である。

ＳＫ6102（第67図380～393）　380～388は土師器である。

380・381は土師器小皿ないし皿である。380は小型で器壁が薄く、体部から口縁部にかけて内湾する。

382は茶釜である。383～388は鍋である。383・385は小型で浅く、頸部が括れる。その他は半球形の器形を呈するものである。

389は管状土錘である。ほぼ完形で、細身のものである。

390・391は陶器甕である。口縁部は外方へ折り返して帯状に肥厚させる。いずれも常滑産と考えられる。

392は陶器片を転用した加工円盤である。

393は青磁折縁皿である。口縁部が強く外方に屈曲し、やや上方に内湾する。釉は厚い。

ＳＫ6104（第68・69図394～435）　394～433は土師器である。

394～415は小皿ないし皿である。器壁が薄いものが大半であるが、395などはやや器壁が厚い。396・399のように体部から口縁部にかけて内湾するものや、411・415のように平らな底部からやや屈曲して体部が外方へ立ち上がるものなどがある。394や401など、口縁部の歪みが大きいものも目立つ。

416は茶釜蓋である。本来は上面中央に摘まみをもつと思われるが、欠損している。

417・418は羽釜である。いずれも大型で、口縁部は帯状に肥厚させている。口縁部の長さには個体差がある。

419～433は鍋である。419～422のように頸部が括れる小型で浅いものと、423～428のように頸部が括れる中～大型のもの、429～433のように頸部が括れない半球形の器形を呈するものの３種類がある。

434は陶器卸皿である。見込には格子状の卸目が刻まれており、口縁部付近には鉄釉が施されている。

435は小型の壺等の底部である。低い高台をもち、外面には鉄釉が施されている。把手が付いていたとみられる痕跡があることから、水滴や水注などの可能性がある。

ＳＫ6105（第69図436）　436は土師器鍋の口縁部片である。

ＳＫ6107（第69図437）　437は土師器皿の口縁部片である。

ＳＫ6112（第69図438）　438は土師器鍋の口縁部片である。

ＳＫ6113（第69図439・440）　439は土師器小皿である。かなり小型で、体部から口縁部にかけて若干内湾する。

440は土師器鍋の口縁部片である。

ＳＫ6114（第69図441）　441は土師器皿である。口縁端部外面にはヨコナデが施される。

ＳＫ6117（第69図442～457）　442～448は土師器である。

442～446は小皿である。442・443はかなり小型で、底部は丸みを帯びる。444～446は平らな底部から屈曲して体部が立ち上がるが、444は底部の歪みが大きい。

447は台付椀である。高台はハの字状に開く。

448は羽釜である。口縁端部内側は斜め上方に摘まみあげられている。鍔部の幅は狭い。

449は器壁が厚い、椀形の土器である。内面には付着物が認められる。取瓶とも考えられるが被熱はみられず、付着物も金属とは確認できなかった(1)。

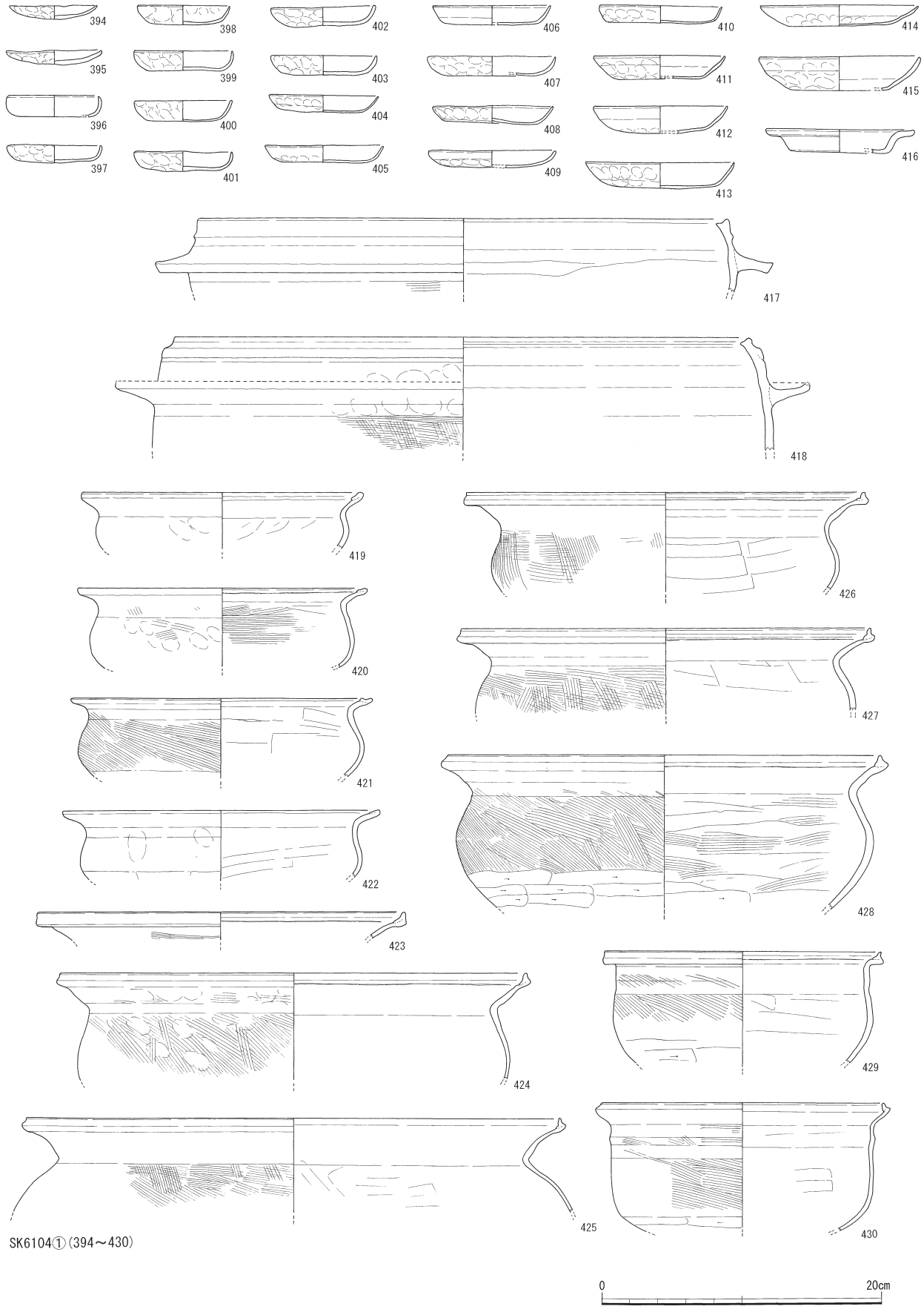
450～454は陶器である。

450は捏鉢である。451は壺で、完形のものである。常滑産と思われる。

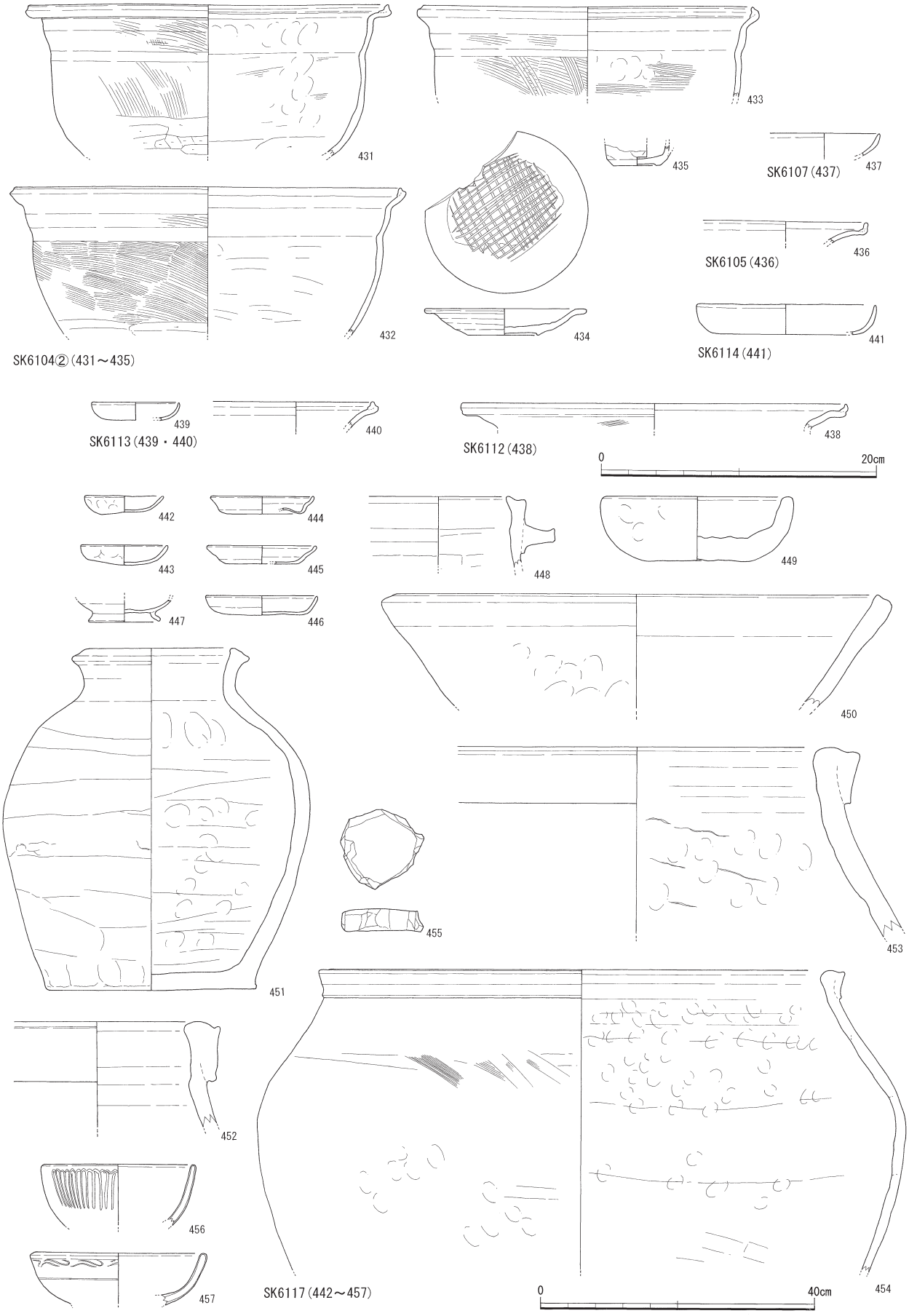
452～454は甕である。いずれも口縁部を外面に大きく折り返して肥厚させる。常滑産と思われる。453の内面には炭化物が付着している。454は大型品で、口径が76㎝程ある。

455は常滑産の甕の体部片を転用した加工円盤である。

456は青磁碗である。外面には細い蓮弁が陰刻さ



第68図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図④(1/4)



第69図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑤（1/4、454は1/8）

れている。

457は白磁碗である。

ＳＫ6118（第70図458）　458は土師器甕の口縁部片である。

ＳＫ6120（第70図459～462）　459・460は土師器小皿である。459は全体の歪みが大きい。

461は土師器鍋の口縁部の小片である。

462は山茶椀である。底部と体部の境は明瞭に屈曲し、口縁端部は面をなす。

ＳＫ6121（第70図463～466）　463・464は土師器鍋である。いずれも口縁部を大きく折り返して肥厚させる。

465・466は山茶椀である。466は底部と体部との境が明瞭に屈曲し、口縁端部は面をなす。

ＳＫ6123（第70図467）　467は管状土錘である。ほぼ完形で、細身のものである。

ＳＫ6129（第70図468～475）　468～471は土師器である。

468は小皿、469は茶釜である。

470・471は鍋である。口縁端部は上方へ摘まみあげられている。

472は山茶椀、473は陶器天目茶碗である。

474は陶器甕である。口縁部を外方へ大きく折り返して体部と圧着させ、肥厚させている。常滑産と思われる。

475は陶器甕の体部片を転用した加工円盤である。

ＳＫ6130（第70図476～481）　476は土師器小皿である。

477は土師器鍋である。小型のものである。

478は山茶椀である。

479・480は陶器鉢である。479は口縁部を外方へ屈曲させている。480は素焼きのもので、口縁部が内側へ屈曲する。ＳＥ6160出土の366と同様のものと思われ、片口が付く可能性もある。

481は陶器甕である。口縁部を外方へ大きく折り返して体部と圧着させ、肥厚させる。

ＳＫ6136（第70図482）　482は土師器鍋の口縁部片である。口縁端部は上方に摘まみあげられている。

ＳＫ6139（第70図483・484）　483は土師器小皿である。体部から口縁部にかけて内湾する。

484は土師器鍋である。器壁はかなり薄い。

ＳＫ6141（第70図485）　485は土師器鍋である。頸部は括れる。

ＳＫ6142（第70図486～493）　486～491は土師器である。

486・487は皿で、いずれも体部から口縁部にかけて内湾する。器壁は薄い。

488は羽釜の口縁部である。口縁端部は面をなす。

489～491は鍋である。いずれも口縁端部を内側へ大きく折り返して肥厚させる。

492は山茶椀である。口縁端部は面をなす。

493は山茶椀の底部を転用した加工円盤である。外面には煤が付着する。

ＳＫ6143（第70図494）　494は土師器小皿である。かなり小型で扁平である。

ＳＫ6145（第70図495・496）　495は土師器茶釜である。口縁部は直立し、口縁端部を外方へ摘まみ出す。

496は土師器鍋である。小型で浅いものと思われる。

ＳＫ6147（第70図497・498）　497は陶器天目茶碗の底部を転用した加工円盤である。

498は白磁皿である。明瞭な高台を作り出さないものと思われる。内面には圏線と、草花文と思われる陰刻文の一部が認められる。

ＳＫ6149（第70図499～501）　499は土師器小皿、500は土師器鍋である。

501は陶器甕の口縁部片である。口縁端部は上方に拡張されている。常滑産と思われる。

ＳＫ6151（第71図502～505）　502は土師器皿である。底部と体部との境は明瞭に屈曲する。

503・504は土師器鍋である。

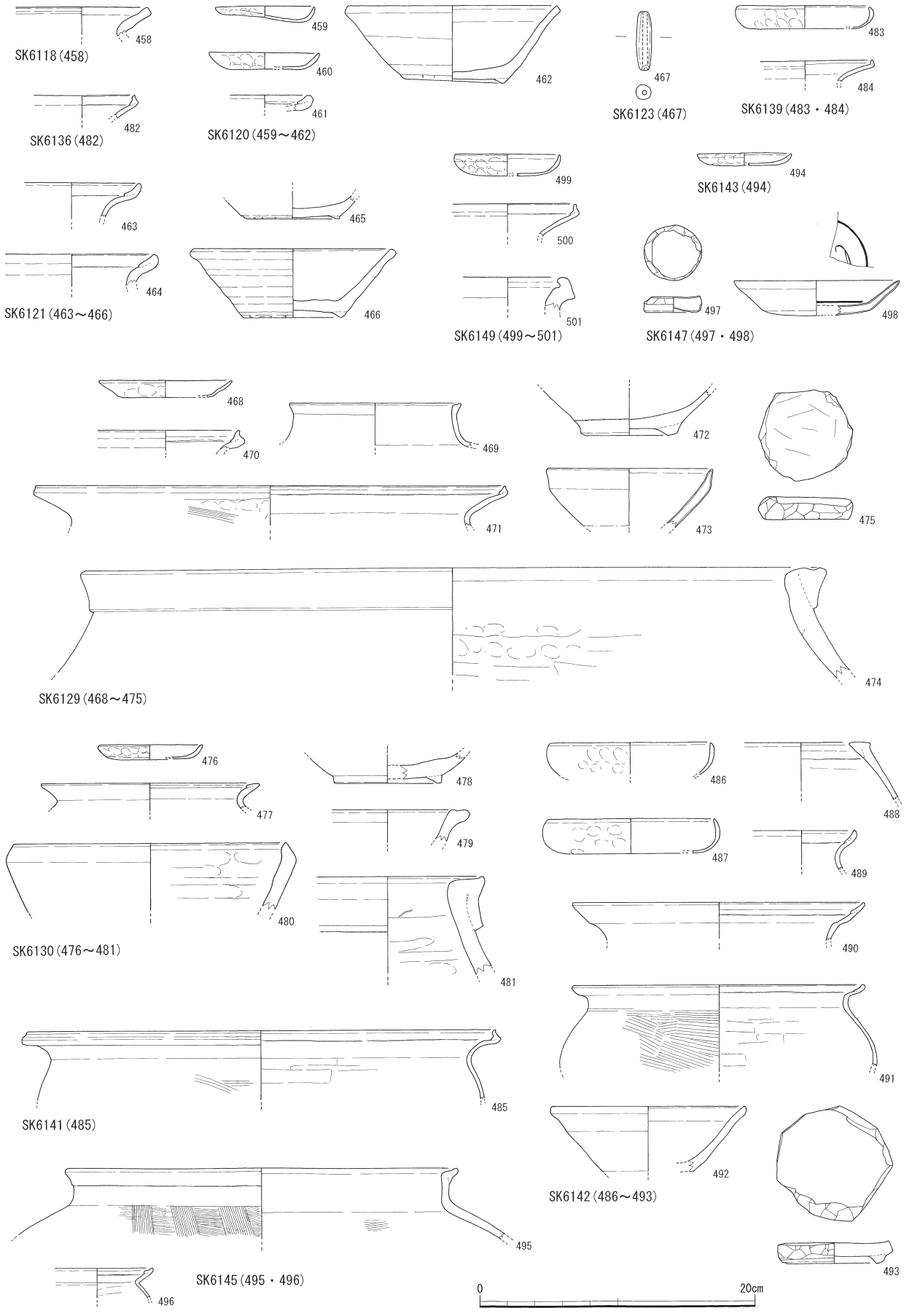
505は磁器染付皿である。見込には文様があるが一部しか遺存しない。口縁端部には口錆が施され、内面には輪花状の凹みがみられる。

ＳＫ6155（第71図506）　506は土師器皿である。

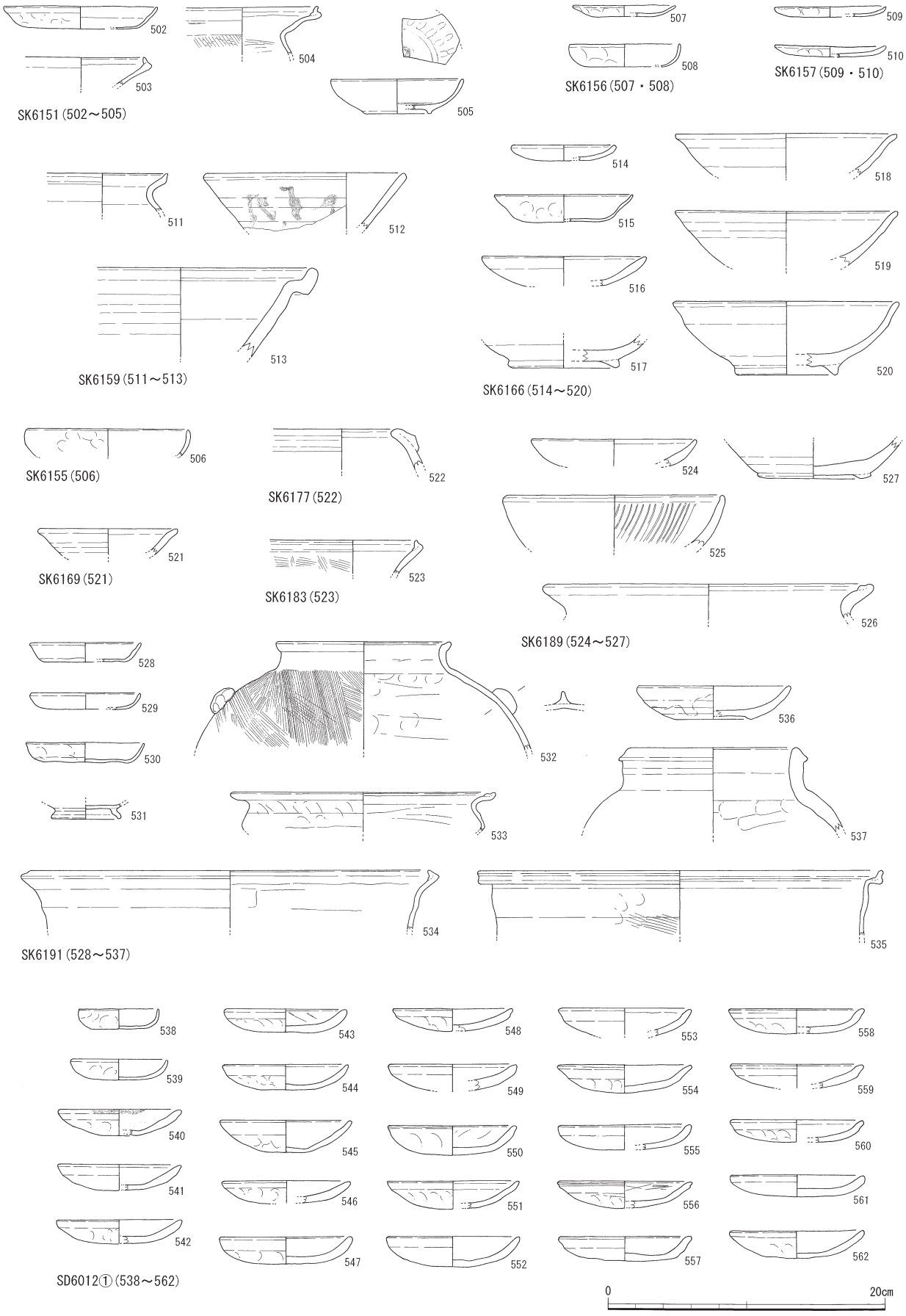
ＳＫ6156（第71図507・508）　507・508は土師器小皿である。508は体部から口縁部にかけて緩やかに内湾する。

ＳＫ6157（第71図509・510）　509・510は土師器小皿である。いずれも浅く扁平である。

ＳＫ6159（第71図511～513）　511は土師器鍋であ



第70図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑥(1/4)



第71図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑦(1/4)

る。口縁部は短く、端部は上方へ摘まみあげられている。

512は山茶椀である。外面には墨書とも考えられる痕跡が認められる。

513は陶器擂鉢である。口縁部は大きく屈曲し、段をなす。瀬戸・美濃産と思われる。

ＳＫ6166（第71図514～520）　514～516は土師器小皿ないし皿である。515は器壁が薄く、底部は平らである。516は器壁が厚い。

517～520は灰釉陶器ないし山茶椀である。518～520の口縁端部は若干外反し、丸く収められる。520は口縁部付近に灰釉が施されている。

ＳＫ6169（第71図521）　521は陶器の灯明皿と思われる。口縁端部は面をなし、内外面に鉄釉が施されている。

ＳＫ6177（第71図522）　522は土師器羽釜の口縁部片である。口縁端部を外側に折り返して肥厚させる。

ＳＫ6183（第71図523）　523は土師器鍋の口縁部片である。

ＳＫ6189（第71図524～527）　524は土師器皿、525は土師器杯である。525の内面には暗文が施されている。

526は土師器甕である。口縁端部を内側に折り返して肥厚させる。

527は山茶椀の底部片である。

ＳＫ6191（第71図528～537）　528～535は土師器である。

528～530は小皿である。529は体部から口縁部にかけて緩やかに内湾する。

531は台付椀である。高台はハの字状に開くが、高台成形時のナデにより、途中で屈曲している。

532は茶釜である。肩部には耳状の把手が２箇所に貼り付けられている。

533～535は鍋である。533は小型で浅く、534・535は半球形の器形を呈し、深い。

536・537は陶器である。

536は丸皿である。重ね焼きされており、内面にピン痕、底部外面に輪トチン痕が残る。

537は壺である。口縁端部は外傾する面をなす。常滑産と思われる。

ＳＤ6012（第71～78図538～900）　538～866は土師器である。

538～842は小皿、皿、杯、椀である。出土数は多く、各種の形態のものがある。

小皿には底部と体部との境が不明瞭で、浅いものが多い。なかでも、口縁部に強いナデを施し、口縁部外面が面をなすものや、若干外反しているものが目立つ。538・539のように体部から口縁部にかけて緩やかに内湾するものはごくわずかである。

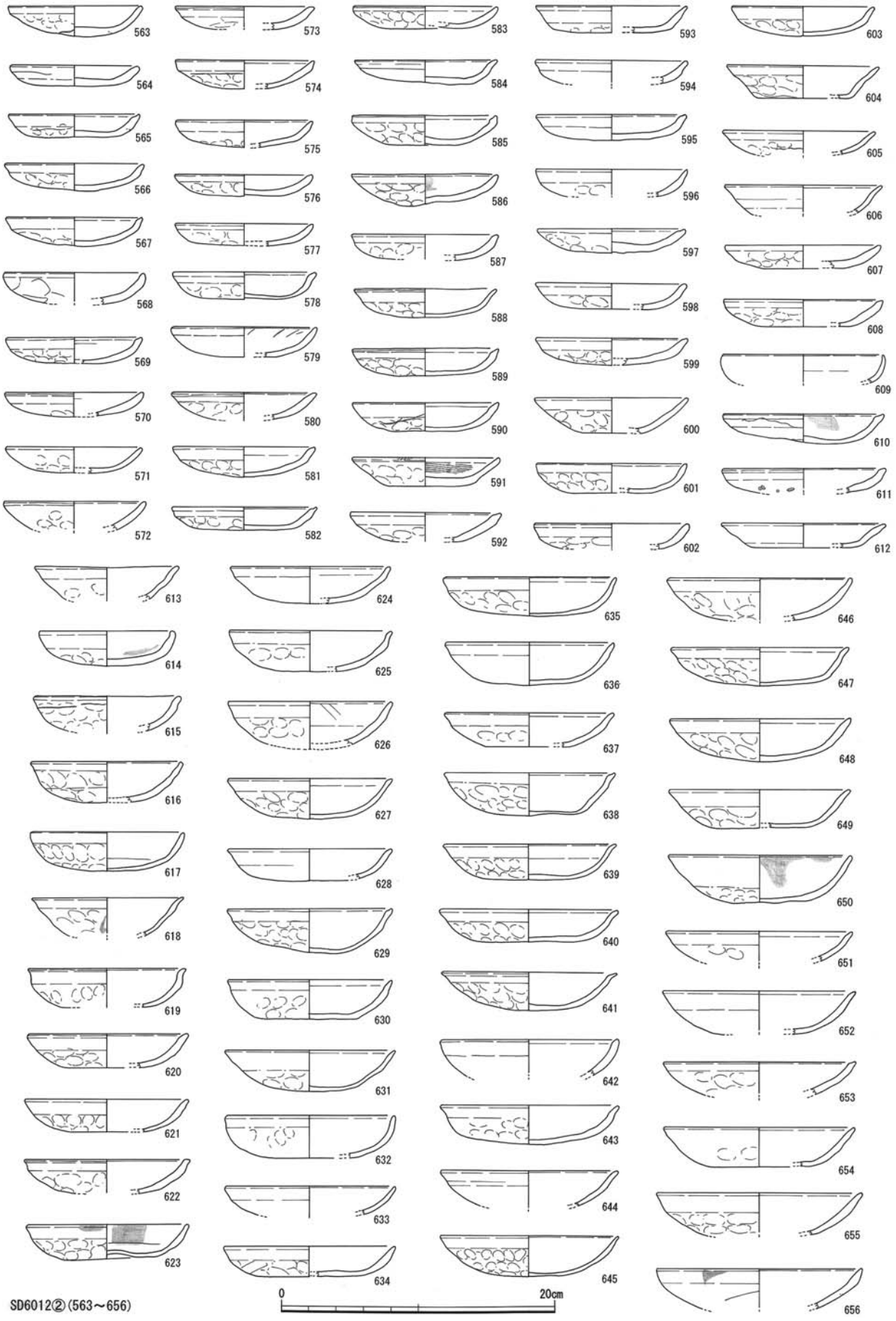
小型の皿にはやや深く杯に類するようなものもみられる。617・635・636・648のように小皿同様に底部と体部との境が不明瞭で丸底に近く、口縁部付近に強いヨコナデを施すものが目立つ。他の形態のものも、基本的に口縁部付近にはヨコナデを施す。また、いずれも体部外面下半に指オサエの痕跡が残る。610・623などは口縁部に煤が付着しており、灯明皿として使用されたものと思われる。

657～747も小型の杯ないしは皿であるが、口縁部付近のヨコナデの範囲が広く、底部と体部の境付近、あるいは体部中位から口縁部にかけて緩やかに外反する。690や725のように口縁端部が面をなすものも目立つ。

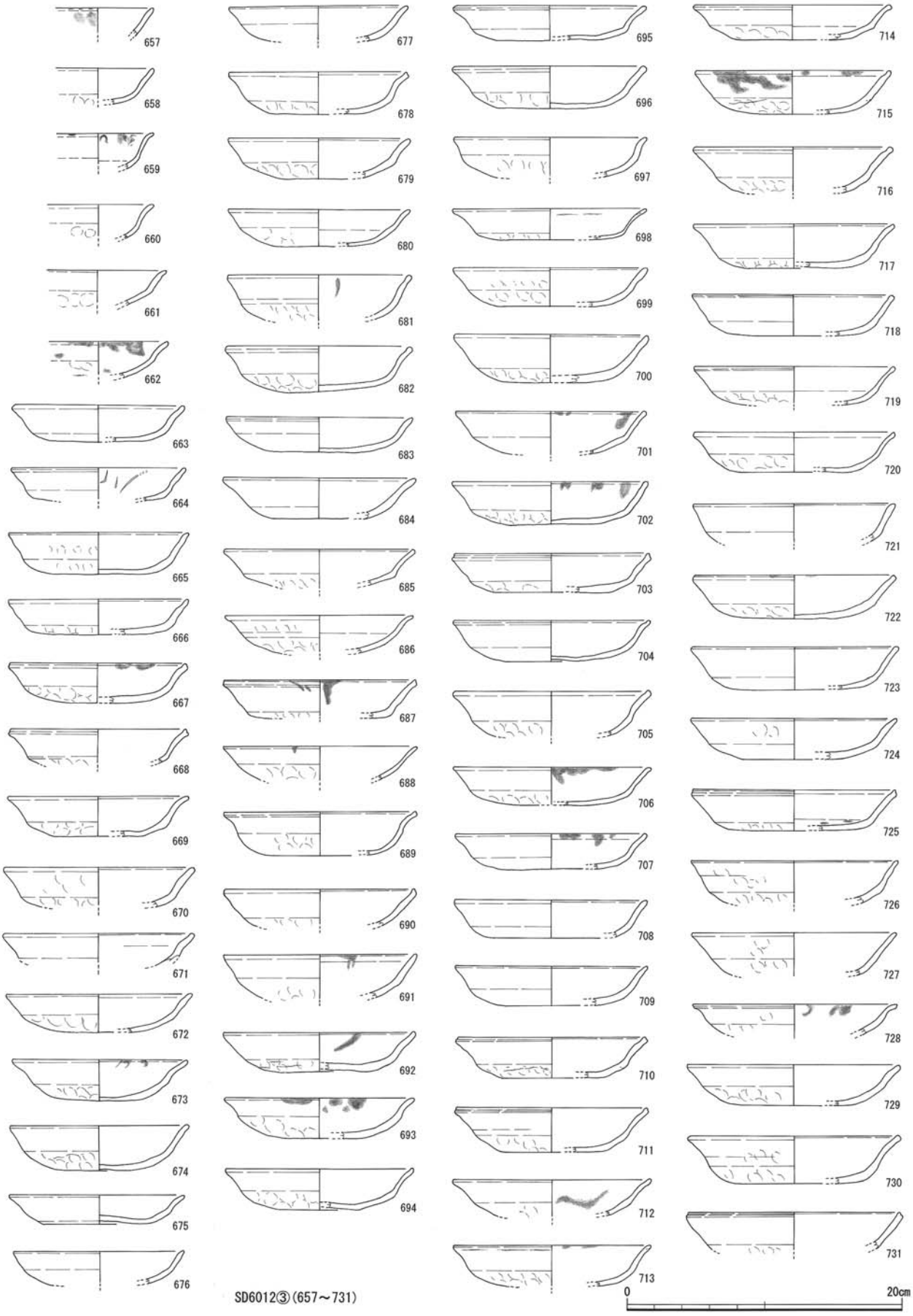
これら体部から口縁部にかけて外反するものには、659や687・701のように口縁部に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられるものも多い。また、線刻や墨書も多い。墨書には740・744の「一」、741・745の「中」といったものがあるほか、736は「少□寺」、742は「□□寺」と記されており、付近の寺院との関係を窺わせる[(2)]。

748～772は杯である。平らな底部から体部が明瞭に屈曲して立ち上がる。口縁端部は内側へ肥厚し、肥厚部直下に沈線状の凹みがみられるものもある。748・749は内面に暗文が施されている。750・758のように口縁部に煤が付着しており、灯明皿として使用されたと思われるものもある。墨書されたものもみられ、770は「橘」、771・772は「木」の文字が底部外面に記されている。

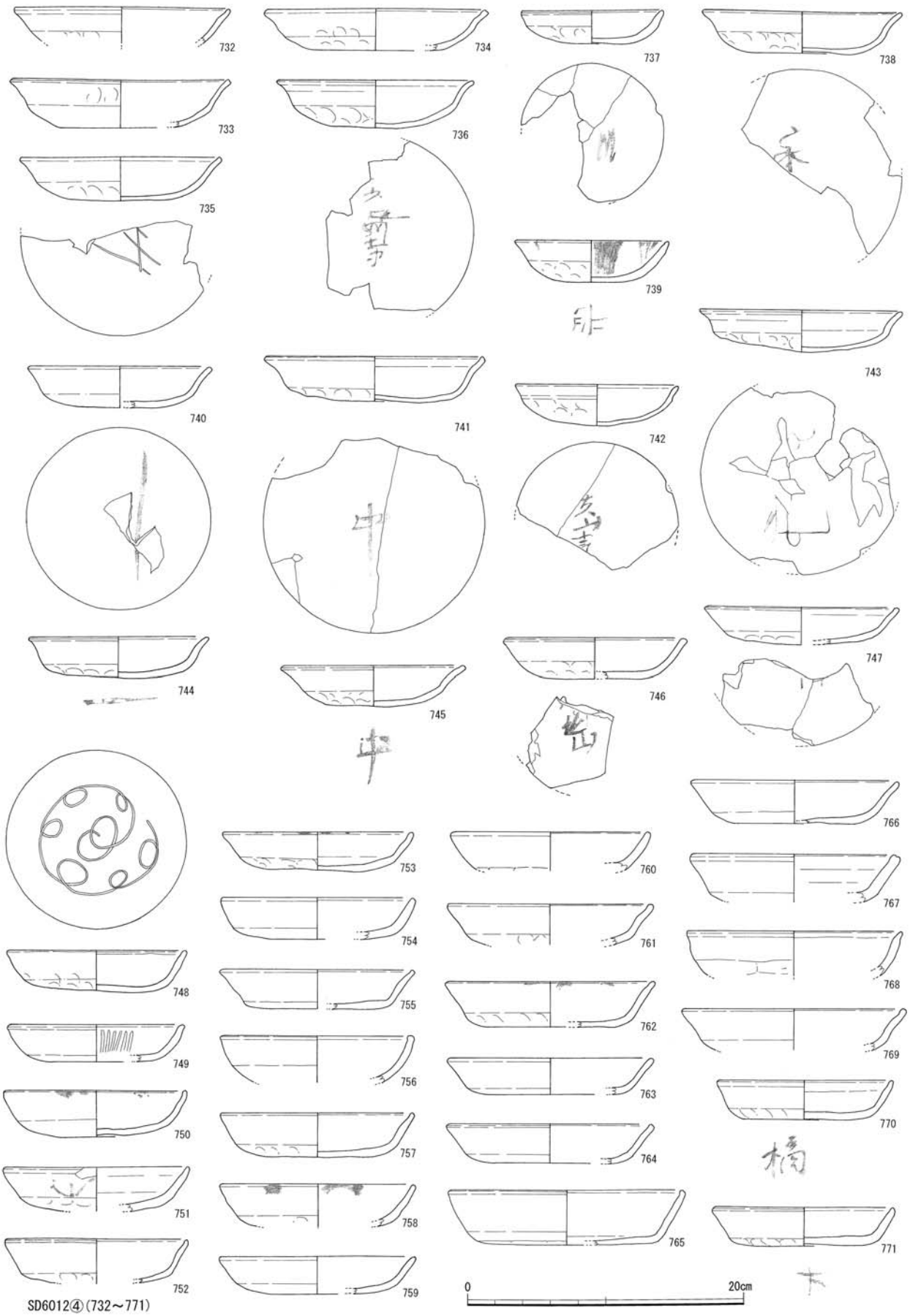
773～806は皿である。773～786はやや深めで体部から口縁部にかけて外反しており、小型の皿・杯と類似する形態である。788～794は浅く、底部と体部の境付近で屈曲し、口縁部にかけて強く外反する。796～800・803・804は平らな底部から体部が屈曲し



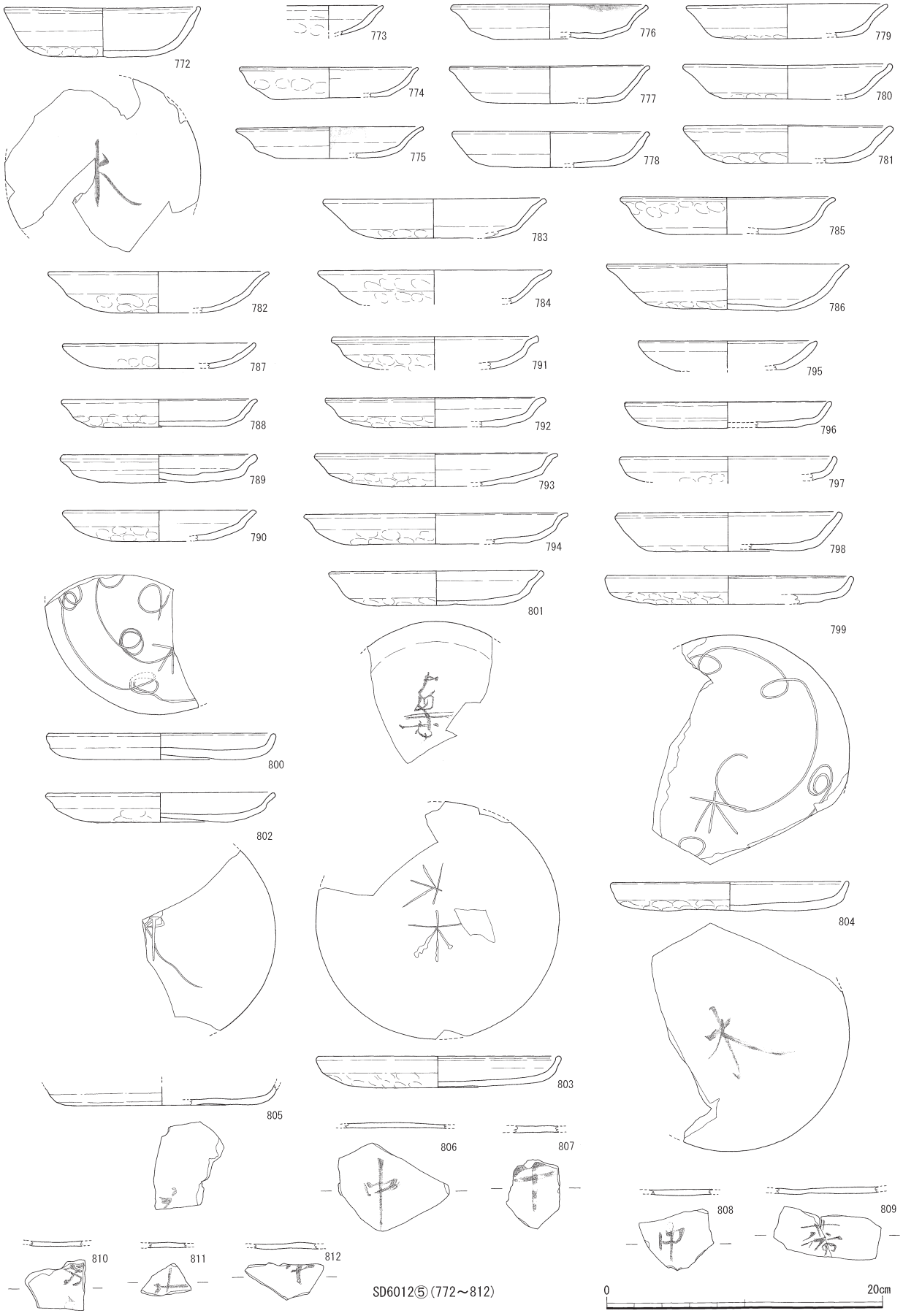
第72図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑧(1/4)



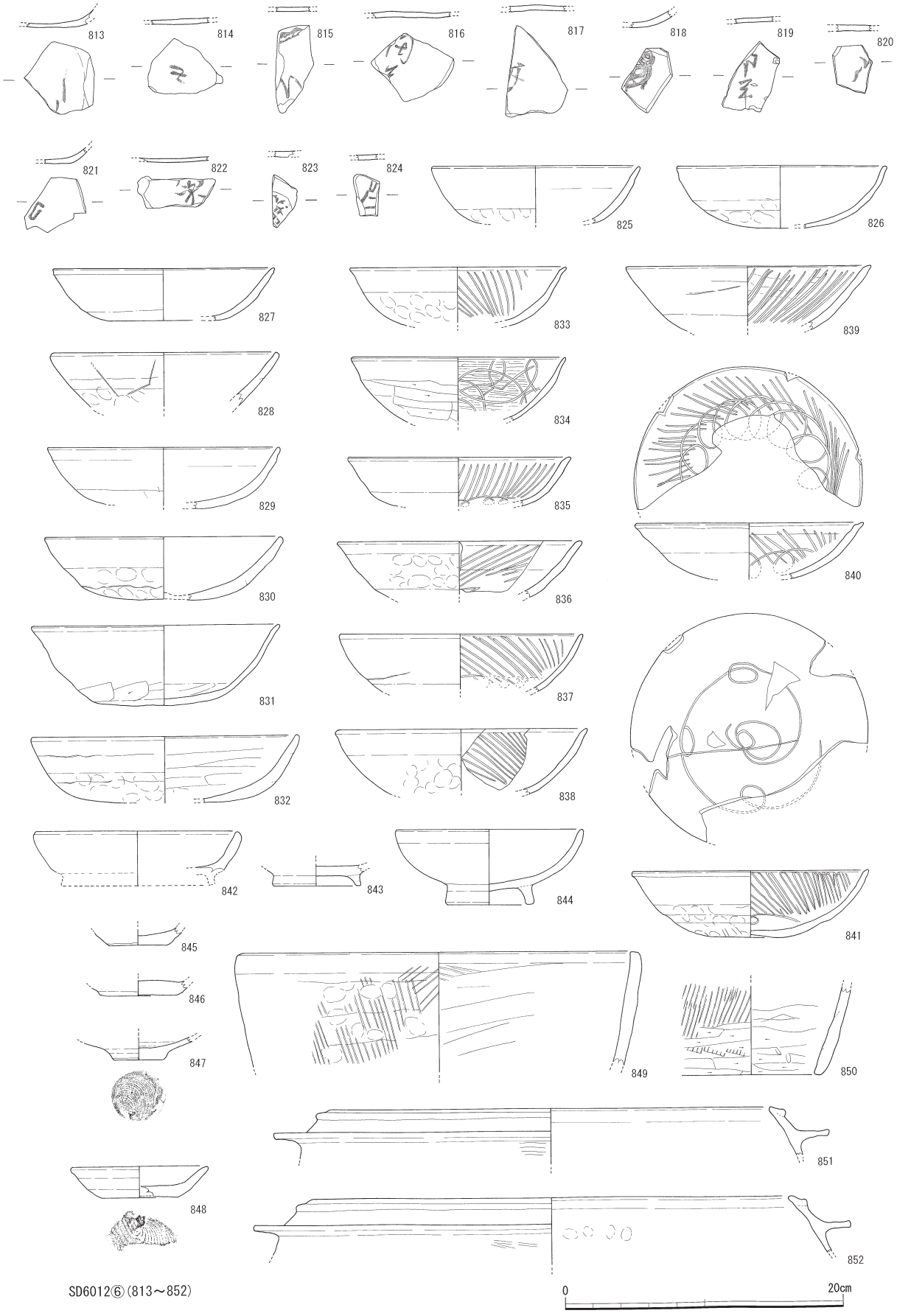
第73図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑨(1/4)



第74図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑩(1/4)



第75図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑪(1/4)



第76図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑫(1/4)

て短くまっすぐ立ち上がる。口縁端部が内側へ肥厚し、肥厚部直下に沈線状の凹みを持つものもある。800・804は内面に螺旋状の暗文を施す。線刻や墨書されたものが多くみられ、なかでも「木」や「中」と記されたものが目立つ。804は内面には線刻、外面には墨書で「木」と記す。なお、線刻は全て焼成後に行われている。

このほか、皿・杯類の底部には墨書が残るものが多い。807～824はいずれも底部の小片で、器種や器形が不明なものが多い。記された内容も判読できないものがほとんどであるが、807・808には「中」、819には「□平」といった文字が記されている。図を掲載した以外にも、墨書の一部が遺存する破片が複数出土している。

825～841は丸底に近く、やや深い椀形の器形を呈する。口縁部は肥厚せず、若干外反する。833～841の内面には暗文が施されている。暗文には左上がりと右上がりがあり、840や841は螺旋状の暗文も施している。外面は基本的にナデやオサエによって調整されているが、831や834は体部中位から底部にかけてケズリで調整している。

842は、形態からみて高台が付く杯と思われる。内面には螺旋状の暗文が一部遺存している。

843・844は台付椀である。844は半球形の器形の椀にハの字状に開く高台が付く。

845～848はロクロ土師器の小皿ないし椀で、底部外面に糸切痕が残る。

849・850は甑である。850は底部付近の破片で、内外面とも横方向のケズリによって整形・調整している。

851・852は羽釜で、よく似た形態のものである。口縁部は内傾し、口縁端部は外側へ折り返して肥厚させる。鍔の幅は比較的狭い。

853は茶釜である。口縁端部は外方へ折り返して肥厚させ、端面には強いナデによって凹みを設けている。

854～863は甕である。857・859などは口縁端部を内側に折り返して肥厚させる。858や863は口縁端部が面をなす。外面はタテハケによって調整されるが、862はハケがみられず、指オサエが顕著に残る。

864～866は鍋である。864は半球形の器形を呈するもの、865は頸部が括れる大型のもの、866は頸部が括れる小型で浅いものである。時期的には甕よりも後出するものである。

867・868は製塩土器である。志摩式製塩土器であり、外面は被熱している。

869は円筒形を呈すると思われる土製品である。小片のため径は不明であるが、遺存部分からみて直径18～23㎝ほどあると思われる。内側は砂粒をあまり含まない粘土で作られており、表面には丁寧なナデが施されている。上面も丁寧なナデが施され、面をなす。一方、外側には籾殻状の炭化物が固着しており、炭化物と粘土との境界は曖昧である。むしろ、炭化していない状態の籾殻の内側に粘土を貼り付けたものが、内側から被熱したことにより粘土は焼成され土製品となり、籾殻は炭化したように見受けられる。用途は不明であるが、鋳型の外枠等の可能性が考えられる。

870は管状土錘である。ほぼ完形である。

871～873は須恵器である。

871・872は蓋で、871は宝珠形の摘まみが付く。872は口縁端部が強く屈曲している。

873は壺である。低い輪高台が付く。

874～884は灰釉陶器の椀・皿ないし山皿・山茶椀である。874は口縁部に灰釉が施されている。876は三日月高台をもつ。877は灰釉陶器の皿と思われる。低い輪高台をもち、外面はケズリで調整される。底部外面には「仁平」の墨書がみられる。878は山皿で、ほぼ完形である。かなり浅い。高台畳付には籾殻圧痕がみられる。

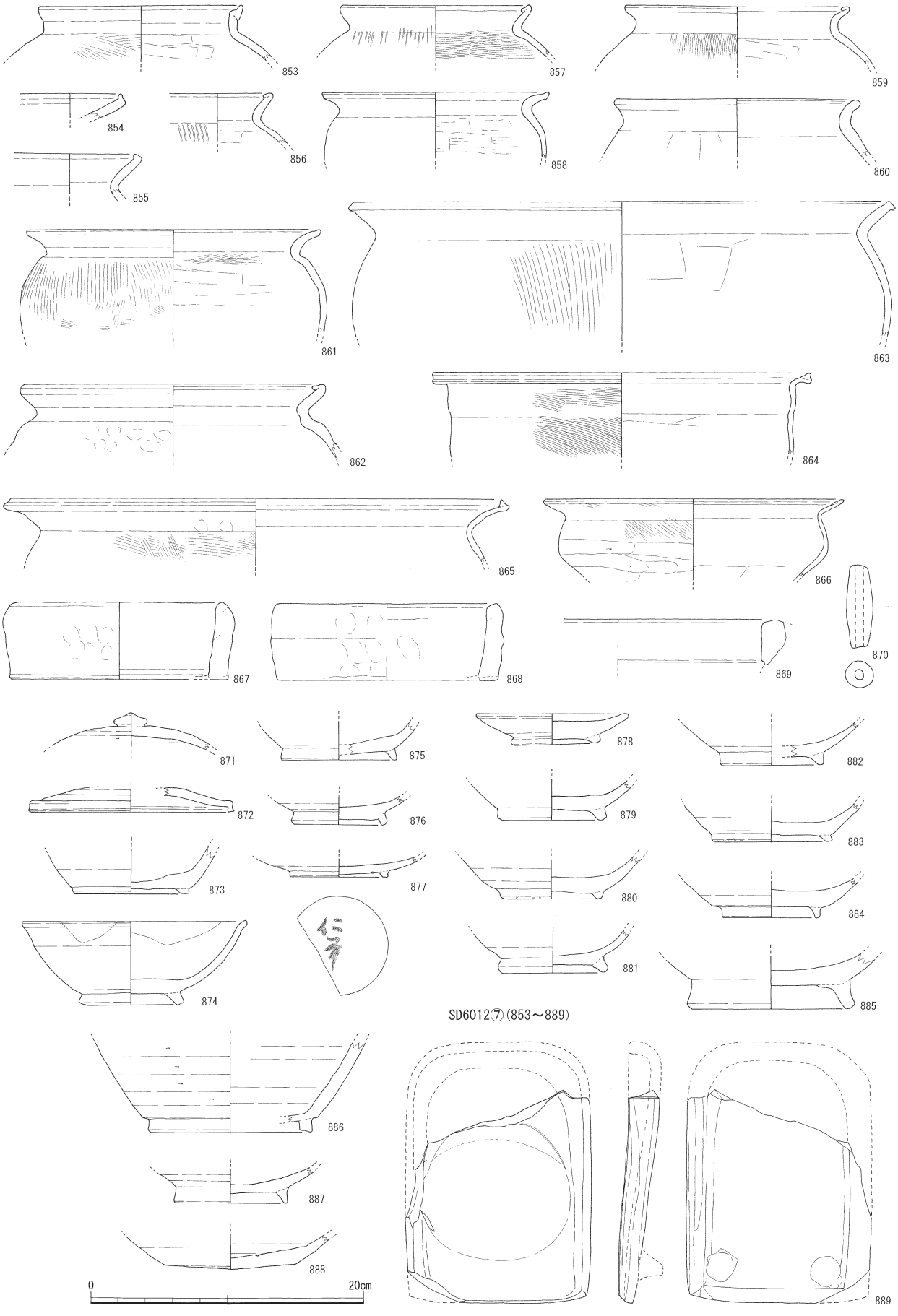
885は陶器片口鉢の底部片である。

886は灰釉陶器壺である。外面はケズリによって調整される。底部にはしっかりした輪高台が貼り付けられる。

889は灰釉陶器風字硯である。表面は摩耗し平滑になっている。側面はケズリによって整形している。裏面には自然釉が厚くかかっており、調整は不明である。もとは突起状の脚が２箇所に付いていたと考えられるが、両方とも欠損している。

887・888・890～898は陶器である。

887は輪禿皿で、内外面とも施釉されているが、見込の釉を輪状にはぎ取っている。



第77図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑬(1/4)

888は大皿の可能性がある底部片である。

890は擂鉢である。口縁部は屈曲して段をなす。近世の瀬戸・美濃産のものと思われる。

891・892は置き竈と思われる焼き締め陶器である。口縁部は内面へ折り返して肥厚させ、口縁端部をやや内傾させる。本来はＳＫ6076から出土した1285のように、口縁部から切り込む方形の窓が開けられていたと考えられるが、その部分は遺存していない。また、内面に明瞭な被熱や炭化物の付着はみられない。そのため、半胴甕などの可能性もある。

893は双耳壺である。肩部に２箇所、Ｕ字形の把手を貼り付けているが、片方は欠損している。外面には口縁部から体部中位あたりまで黄釉が施されている。また、底部には焼成後に穿孔がなされている。

894～898は甕ないし壺である。口縁部はいずれも外側に折り返して肥厚させている。常滑産と思われる。

899は陶器甕の体部片を転用した加工円盤である。

900は白磁壺である。削り出し高台を持つ。

ＳＤ6110（第78図901～906）　901～903は土師器である。

901は皿で、器壁はやや厚い。

902・903は鍋の口縁部片で、903は半球形の器形を呈するものと思われる。

904～905は陶器である。

904は捏鉢で、口縁端部は面をなす。外面には指オサエの痕跡が明瞭に残る。

905は甕である。口縁部を外側に折り返して肥厚させる。常滑産と思われる。

906は青磁で、亀を象った小型の合子の身部である。亀の腹部側を表現しており、本来は甲羅側を象った蓋と組み合っていたと考えられる。底面となる腹部や、内面には施釉されていない。

ＳＤ6122（第78図907～911）　907・908は土師器小皿ないし皿である。908は器壁が薄く、口縁部に強いヨコナデが施されている。

909～911は土師器鍋である。いずれも頸部が括れ、口縁端部は上方へ摘まみあげられる。

ＳＤ6126（第79～81図912～979）　912～958は土師器である。

912～925は小皿ないし皿である。913のように底部と体部との境が屈曲するものや、923のように体部から口縁部にかけて緩やかに内湾するものなどがみられる。924・925はやや深く、体部と口縁部の境で屈曲して口縁部がまっすぐ上方に立ち上がっており、台付椀である可能性もある。

926は台付椀の底部である。ハ字状に開く高台を持つ。

927は茶釜蓋である。上面中央に半円形の摘まみを貼り付けている。

928～932は茶釜である。928のような口径が10㎝未満のものや、932のような口径が30㎝を超えるものなど、大小のサイズがある。大型のものは、口縁端部を外方に屈曲または肥厚させている。928は完形近くまで復元できたもので、肩部に２箇所、耳状の把手を貼り付けている。

933は甕である。口縁端部を内側へ折り返して肥厚させる。

934は鍋ないし鉢である。頸部は括れず、浅い半球形の器形を呈する。

935～958は鍋である。935～942のような小型で浅く頸部が括れるものと、944～958のような半球形の器形を呈するものがほとんどを占めており、943のような大型で頸部が括れるものは少ない。半球形の器形を呈するものはいずれも口縁端部を上方に摘まみあげるが、小型で浅いものはいずれも口縁端部を内側に折り返してナデ付けて肥厚させている。なお、958は口縁部に片口が付けられている。

959は瓦質土器香炉である。外面にはスタンプ状のものを用いて菱形文を横位に連続して施文している。底部には３箇所に突起状の脚が付く。

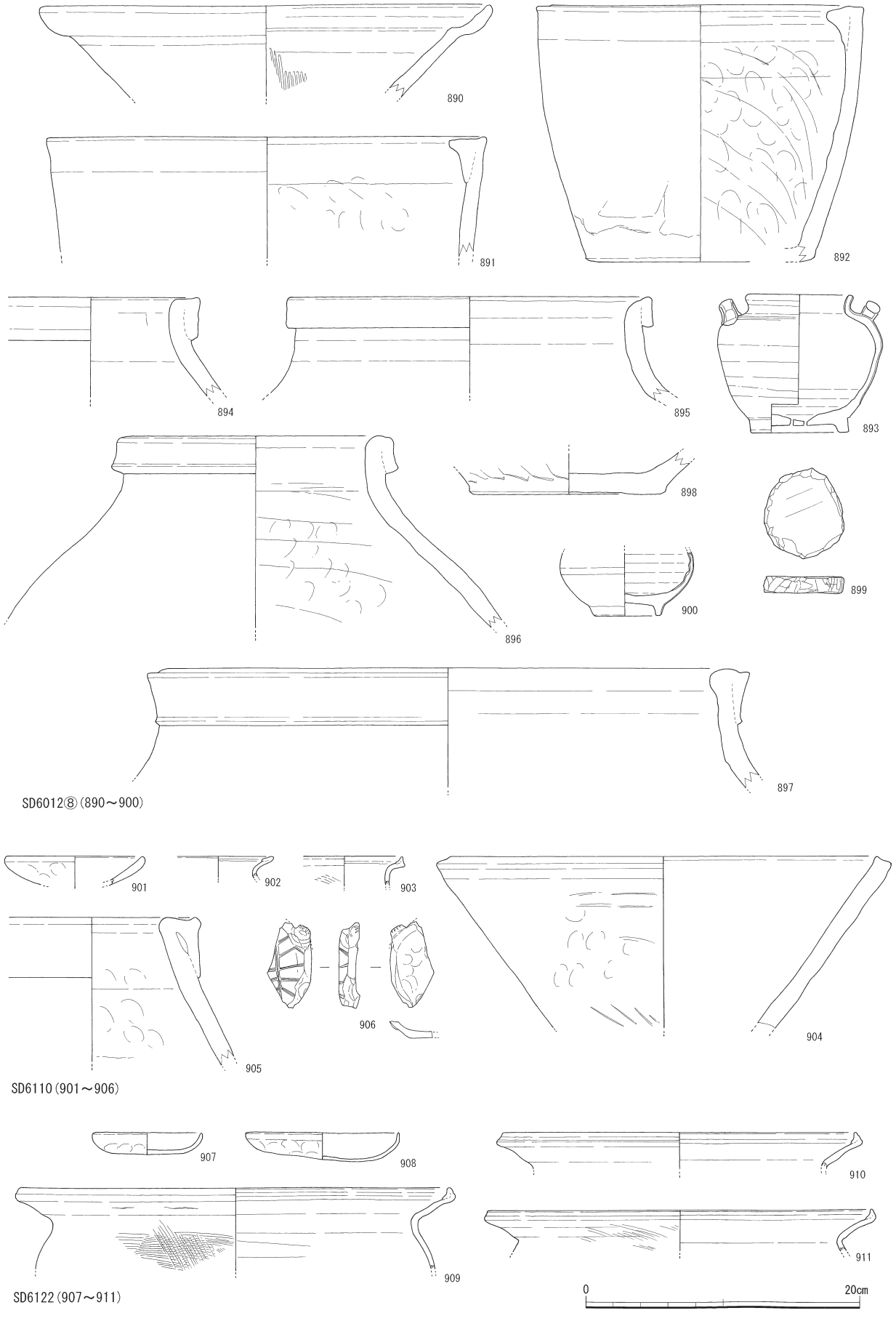
960は山茶椀の体部片である。墨書と思われるものが一部遺存している。

961～974は陶器である。

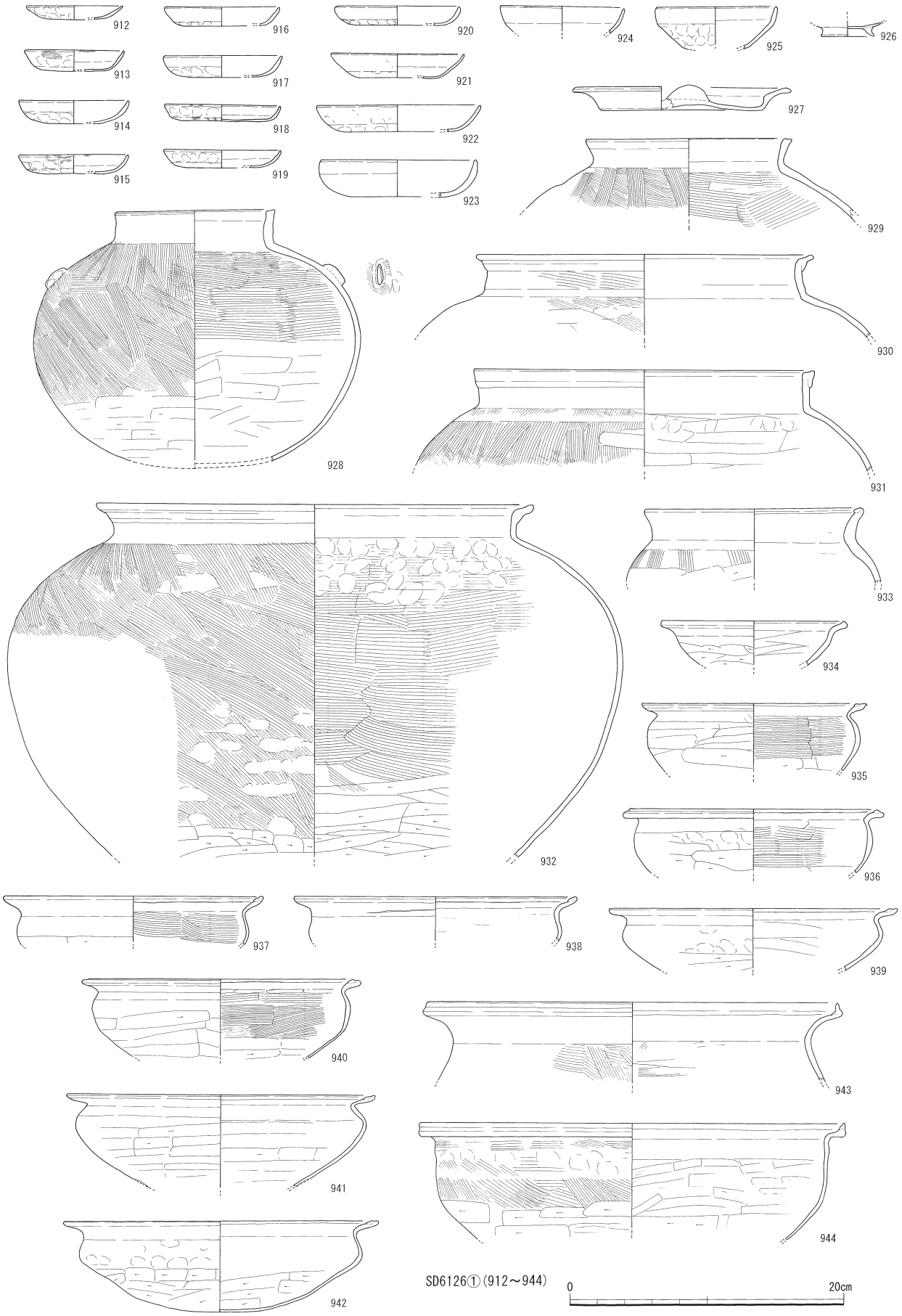
961は丸皿ないし端反皿、962は端反皿である。961は見込に印花文を持つ。962は口縁部付近を中心に灰釉が施されている。

963は鉢と思われる。口縁部は外方へ折り曲げられている。器面には黒化した部分があり、被熱している可能性がある。

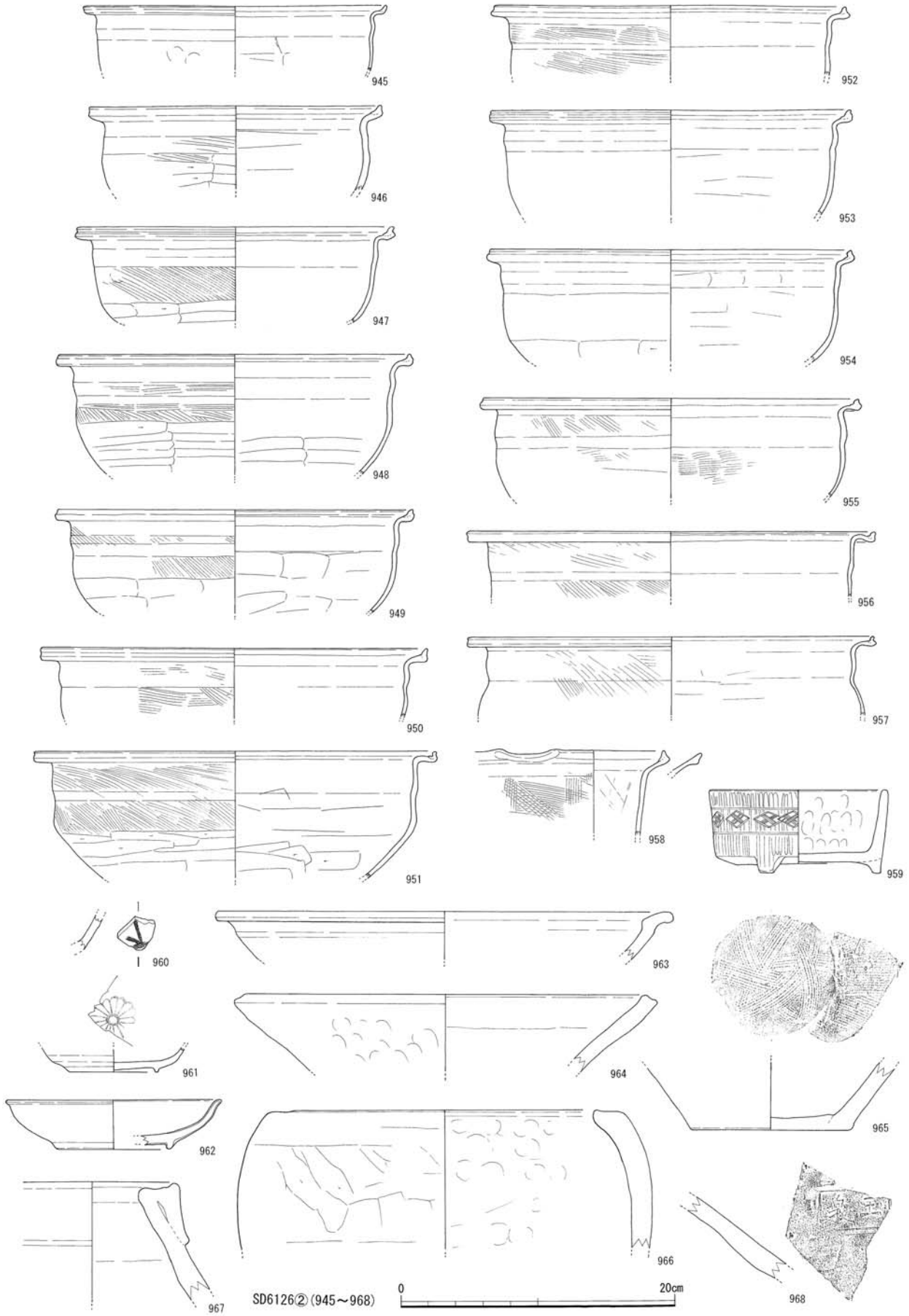
964は捏鉢である。内面は使用により摩耗している。965は擂鉢である。瀬戸・美濃産と思われる。



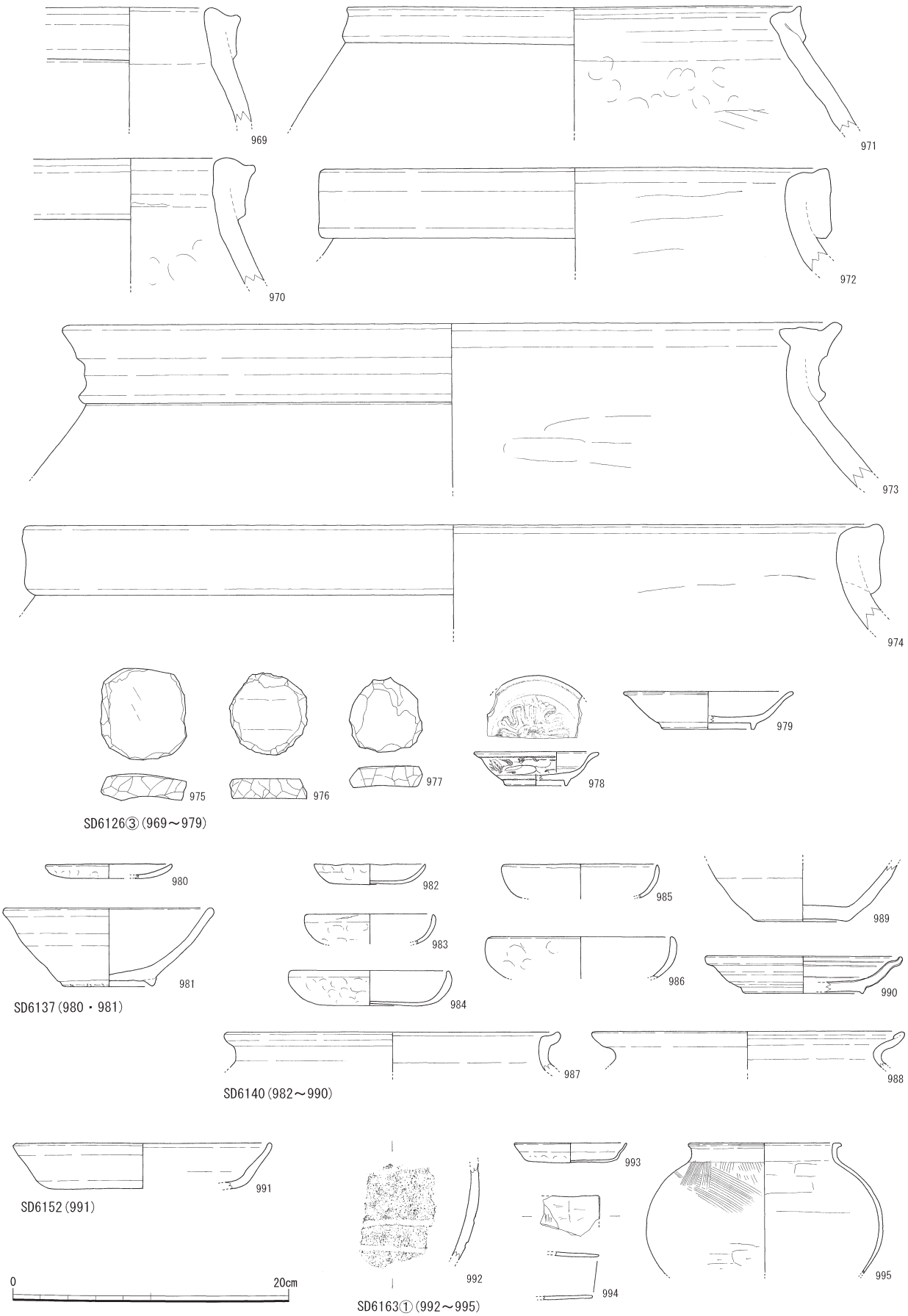
第78図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑭(1/4)



第79図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑮(1/4)



第80図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑯(1/4)



第81図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑰(1/4)

966は焼き締め陶器の火鉢である。内面は被熱し、煤状の炭化物が付着している。

967～974は陶器甕である。口縁部はいずれも大きく外方に折り返し、体部と圧着させて肥厚させている。973は口縁端部外側を上方へ引き出して口縁部を拡張している。968は肩部の破片で、「泉玉」の文字の押印が認められる。いずれも常滑産と思われる。

975～977は常滑産の甕の体部片を転用した加工円盤である。

978は磁器染付小皿である。口縁部はやや強く外反する。見込には花文、外面には唐草文が染め付けられている。舶載品で、中国の明代のものである。

979は白磁皿である。口縁部は緩やかに外反する。

ＳＤ6137（第81図980・981）　980は土師器小皿である。981は山茶椀で、口縁部は丸く収めている。

ＳＤ6140（第81図982～990）　982～988は土師器である。

982～986は小皿ないし皿である。体部から口縁部にかけて緩やかに内湾するものが主体である。

987は茶釜の口縁部片である。口縁端部を外方へ屈曲させている。988は鍋である。

989は山茶椀である。高台は付かないと思われる。

990は陶器折縁皿である。瀬戸・美濃産と思われる。

ＳＤ6152（第81図991）　991は土師器杯である。口縁端部はやや肥厚する。器壁の風化が著しく、調整や暗文の有無は不明である。

ＳＤ6163（第81・82図992～1003）　992は縄文土器深鉢である。２条の沈線が認められる。

993～1002は土師器である。

993は小皿である。底部と体部の境は明瞭に屈曲する。

994は十能の把手部分である。円筒状を呈する。995・996は茶釜である。いずれも小型のもので、996は体部中位に鍔が付く。

997～1001は鍋である。いずれも頸部が括れない、半球形の器形を呈するものである。

1002は平底の底部で、鍋もしくは鉢と思われる。底部と体部との境は明瞭に屈曲する。煮沸に用いられており、内面にコゲが付着する。

1003は管状土錘である。完形で、やや太身のものである。

ＳＤ6165（第82図1004・1005）　1004は土師器小皿である。1005は山茶椀で、口縁部には輪花がみられる。

ＳＤ6167（第82～84図1006～1133）　1006～1102は土師器である。

1006～1083は小皿ないし皿である。1006や1007のように非常に小型で器壁が薄く、体部から口縁部にかけて緩やかに内湾するものや、1045や1059のように底部と体部との境が明瞭に屈曲するものが目立つ。1081や1082はやや大型の皿で、器壁は厚く、口縁部は強いナデにより短く外反する。やや時期的に古く位置づけられよう。

1084・1085は台付椀である。1084は底部を欠損するが、深い半球形の器形を呈しており、高台を持つ可能性が高い。

1086は茶釜蓋である。ほぼ完形で、上面中央には半円形の摘まみが付く。

1087・1088は茶釜である。いずれも肩部に２箇所、耳状の把手を貼り付けている。1088は口縁端部を外方へ折り曲げている。

1089・1090は甕である。口縁端部を内側へ折り返して肥厚させる。

1091～1102は鍋である。1091～1095は半球形の器形を呈するものであるが、いずれも小型である。1096～1098は小型で浅く、頸部が括れるものである。1099～1102は大型で頸部が括れるものであるが、中には1100のように、かなり浅く焙烙に近い形態のものがみられる。

1103～1113は灰釉陶器ないし山茶椀である。1103・1106・1107などには口縁部付近に灰釉が施されている。1107・1108は口縁部に輪花がみられる。

1114～1130は陶器である。

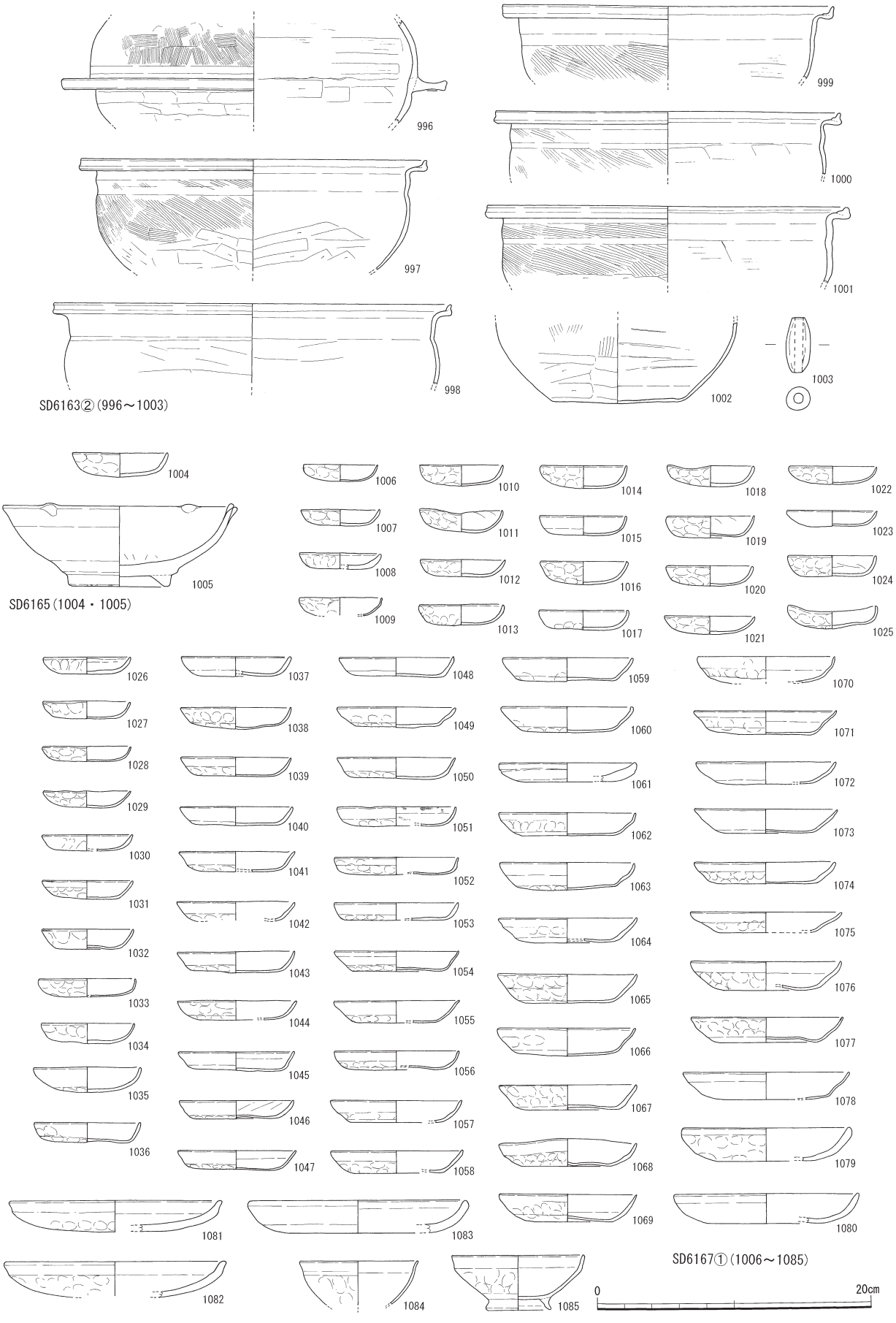
1114は丸碗である。薄手で、高台は比較的幅が狭い輪高台である。鉄釉が施されている。

1115は丸皿である。鉄釉が厚く施されている。

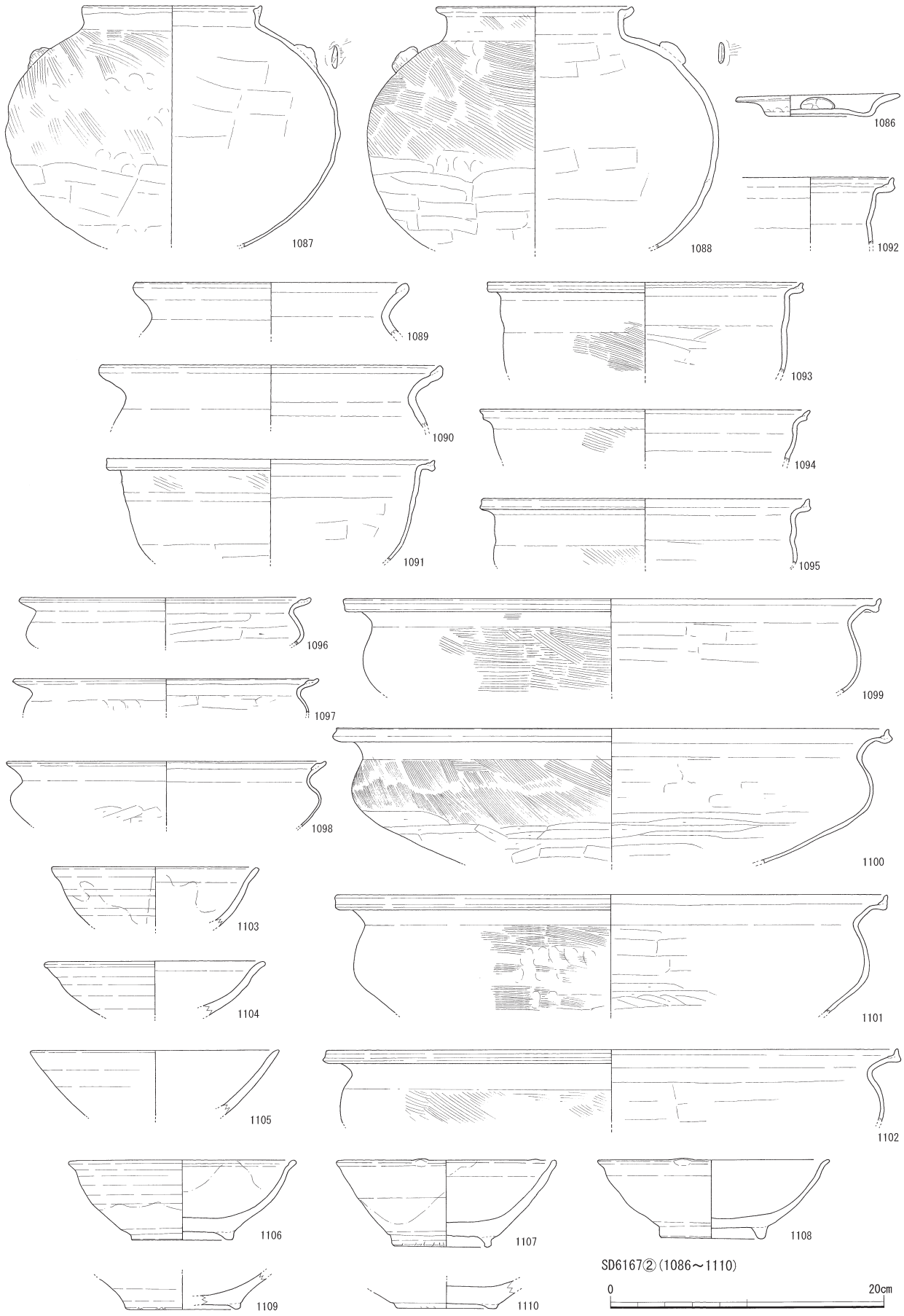
1116は稜皿である。口縁部は緩やかに外反する。瀬戸・美濃産と思われる。

1117は壺の底部で、水注や茶入等の可能性が考えられる。外面には鉄釉が施されている。

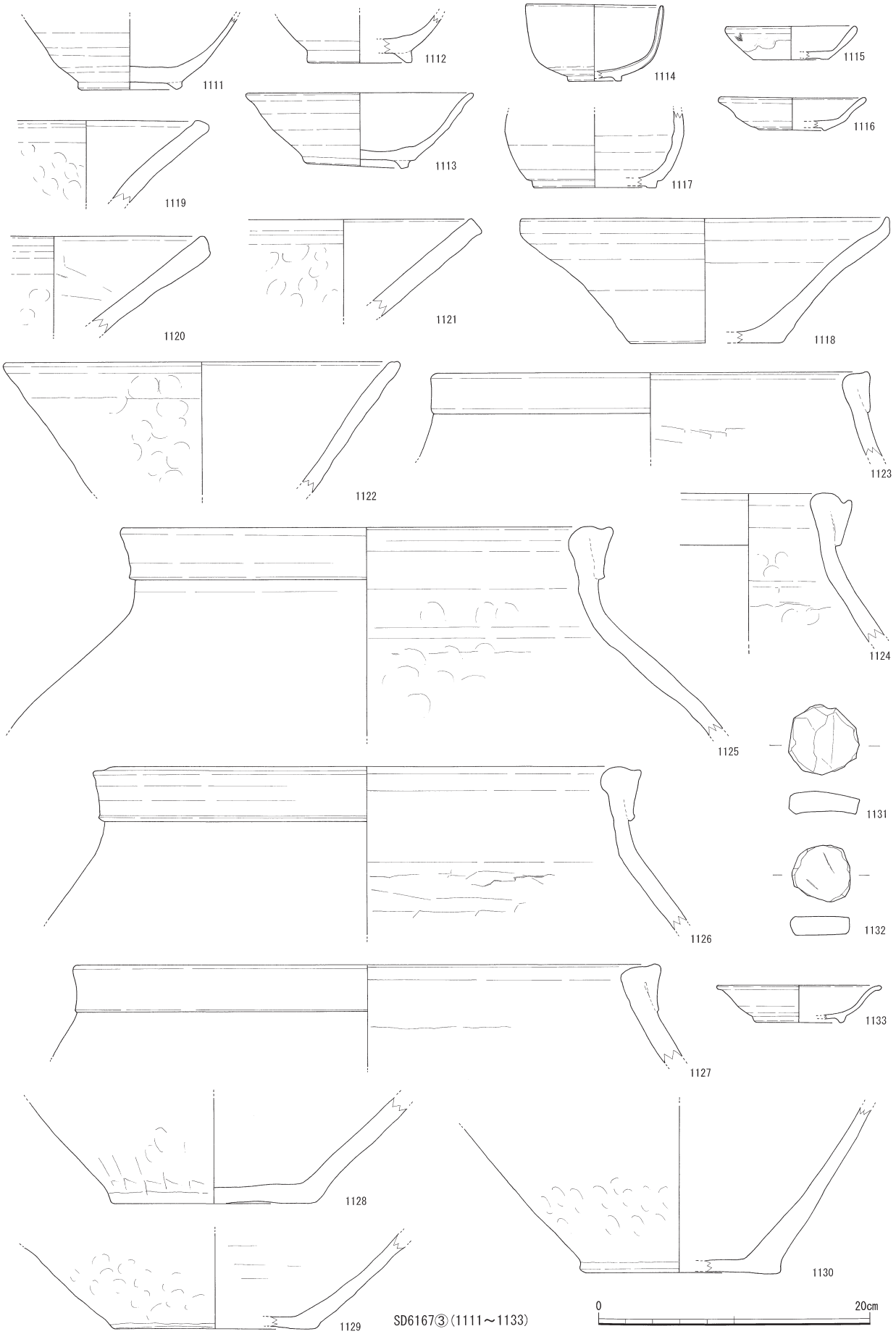
1118～1122は捏鉢である。1118は口縁端部をやや



第82図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑱(1/4)



第83図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑲(1/4)



第84図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図⑳(1/4)

上方にはね上げている。片口が付く可能性もある。1119～1121は口縁端部が面をなし、外面には指オサエの痕跡が明瞭に残る。1122は使用により内面が摩耗している。

1123～1130は甕である。口縁部はいずれも大きく外方に折り返して体部に圧着させ、肥厚させている。1129は捏鉢の底部である可能性もあるが、やや大型であるため、甕と判断した。

1131・1132は常滑産の甕の体部片を転用した加工円盤である。

1133は白磁皿である。ＳＤ6126から出土した979と同様の形態のもので、口縁部は緩やかに外反する。

ＳＤ6190（第85図1134～1154）　1134は縄文土器深鉢の口縁部片である。口縁部直下に区画文を配し、その内部に矢羽根状文を充填する。

1135～1148は土師器小皿ないし皿である。いずれも器壁は薄い。

1149・1150は土師器鍋である。小型で浅いもので、口縁端部は内側に折り返してナデ付けて肥厚させる。

1151は陶器天目茶碗である。口縁部は外反する。鉄釉が施されている。瀬戸・美濃産と思われる。

1152は碗と思われるが、底部のみしか遺存していないため、器形等は不明である。

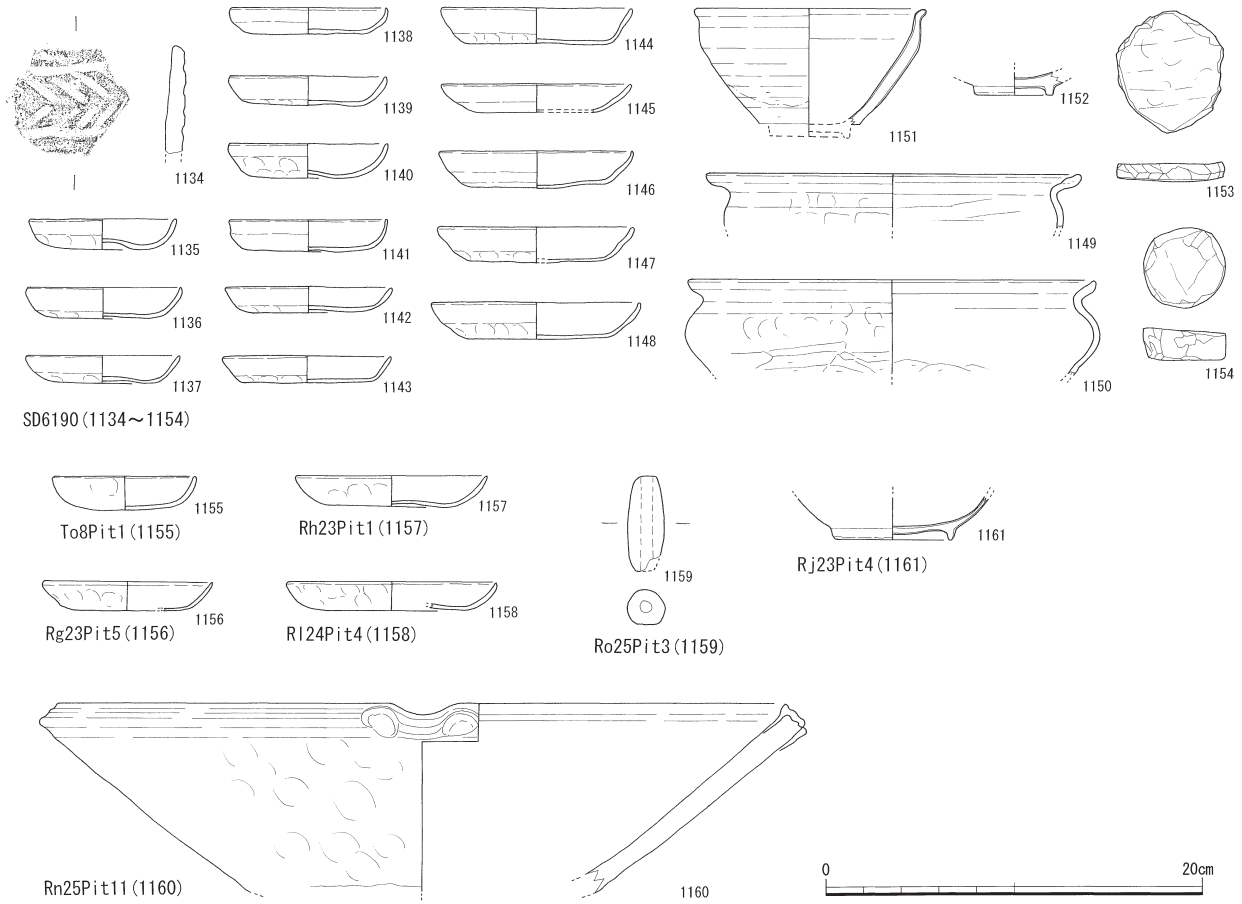
1153・1154は加工円盤である。1153は陶器の体部を転用している。1154は常滑産の甕を転用しており、打欠によって整形した後、側面を研磨している。

ピット（第85図1155～1161）　1155～1158は土師器小皿ないし皿である。

1159は管状土錘で、端部を欠損する。

1160は陶器捏鉢で、口縁部に片口が付けられている。常滑産と思われる。

1161は白磁碗である。削り出しの細い輪高台を持ち、高台畳付付近は露胎である。底部付近しか遺存しないが、体部がやや丸みを帯びるようであり、中国明代の舶載品と思われる。



第85図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉑(1/4)

②江戸時代の遺構出土遺物

ＳＥ6124（第86図1162～1164）　1162は井戸枠内から出土した、陶器丸碗である。鉄釉が施されている。

1163は陶器擂鉢である。口縁部を外面に折り返して肥厚させている。瀬戸・美濃産と思われる。

1164は陶器甕の体部片を転用した加工円盤である。

ＳＥ6144（第86・87図1165～1169）　1165・1166は土師器皿、1167は土師器鍋である。中世のもので、混入と思われる。

1168は陶器摺絵皿である。井戸枠内から出土している。見込に梅文と思われる摺絵が一部遺存している。また、内面には焼成時のピン痕が認められる。瀬戸・美濃産と思われる。

1169は陶器井戸枠である。焼き締め陶器で、大型の筒状のものである。口縁部は水平に拡張され、断面がＴ字形を呈する。こうした口縁部形態は常滑産のいわゆる赤ものの甕と類似しており、この井戸枠も常滑産と考えられる。

ＳＥ6171（第86図1170・1171）　1170は井戸枠内から出土した、陶器擂鉢の底部片である。瀬戸・美濃産と思われる。

1171は陶器火鉢と思われる。口縁部は内側へ屈曲する。

ＳＥ6184（第86・88図1172～1187）　1172～1175は土師器である。

1172～1174は小皿である。1172・1173はかなり小型で浅い半球形を呈する。1174は不整形で全体の歪みが大きい。

1175は焙烙である。口縁部は短く外方へ屈曲し、口縁端部は上方へ摘まみあげるように肥厚させる。

1176～1185は陶器である。陶器類の多くが井戸枠内から出土している。

1176は小碗、1177・1178は丸碗である。1178は底部外面に「田」の文字状の墨書がある。

1179は腰錆茶碗である。腰部は明瞭に屈曲し、外面には不明瞭な稜が認められる。やや器高が高い。瀬戸・美濃産と思われる。

1180は丸皿である。

1181は擂鉢である。口縁部は大きく外側へ折り返して体部と圧着させて肥厚させている。

1182は練鉢と思われる。口縁部は水平に拡張している。灰釉が施されている。

1183は火鉢である。焼き締め陶器で、体部から口縁部にかけて緩やかに内湾する。

1184は鬢盥である。細長い小判形の平面形を呈しており、外面には摺絵で藤と思われる文様が描かれている。

1185は井戸枠である。ＳＥ6144出土の1169とほぼ同じ形態で、内外面の調整にも共通性があり、やはり常滑産と思われる。外面上半部には「十石イク」と墨書されている。

1186・1187は磁器染付丸碗である。いずれも底部はかなり分厚い。1187の底部外面には不鮮明な銘款がみられる。判読は困難であるが、枠なしの渦福と思われる。

ＳＫ6076（第86・89～91図1188～1306）　1188は須恵器瑞である。体部片で、孔は遺存していない。

1189～1256は土師器である。

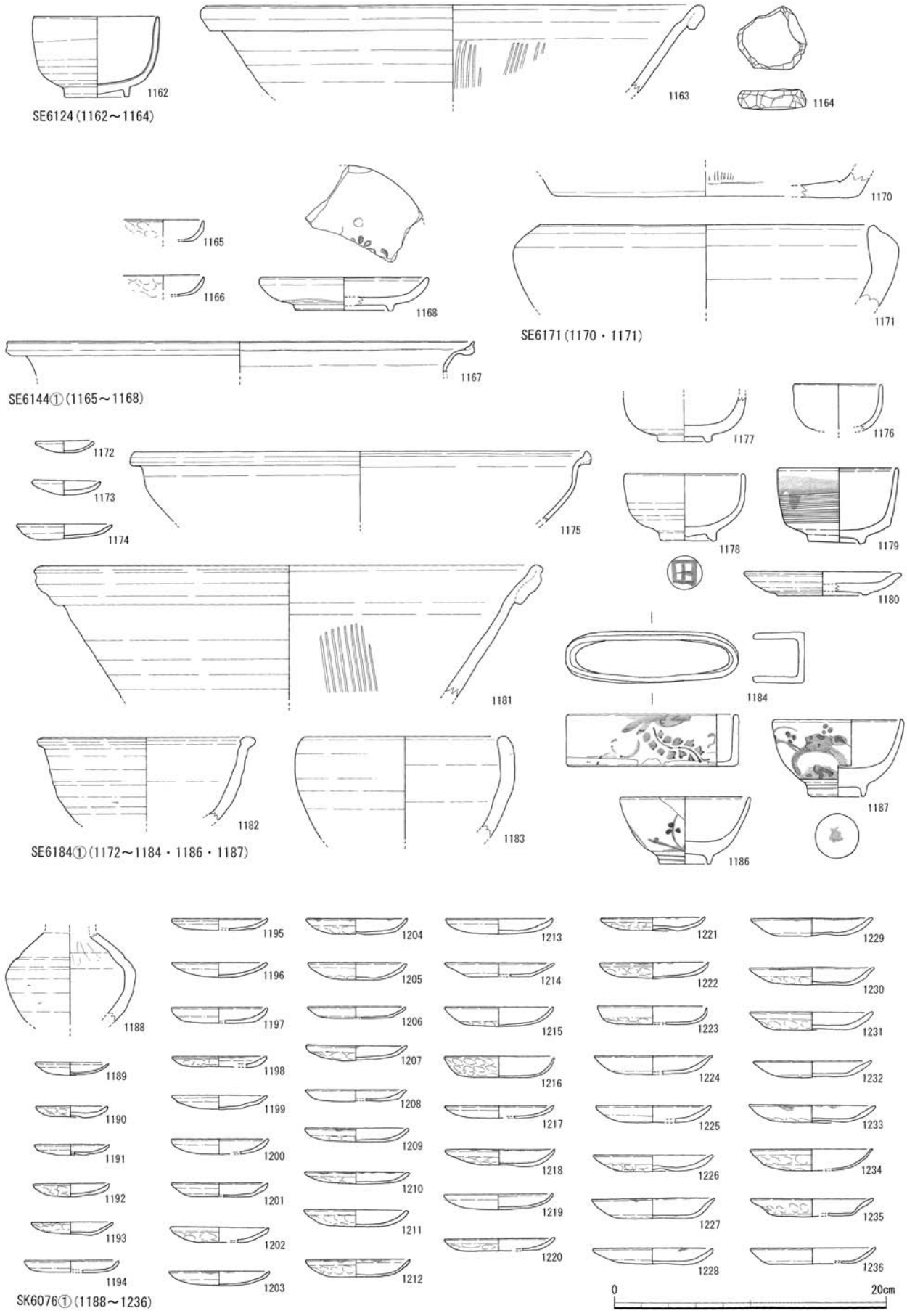
1189～1243は小皿ないし皿である。浅く扁平なものが多い。1189のようにかなり小型で浅い半球形を呈するものもある。1216はやや深く、底部から口縁部にかけて緩やかに内湾しており、中世に遡るもので、混入したと思われる。1243は口縁部が外方へ屈曲し、内面はハケで調整されている。1212や1233のように口縁部に煤が付着するものもあり、灯明皿として使用されたと考えられる。

1244・1245は茶釜である。いずれも口縁部はやや内傾し、口縁端部は外方へ屈曲する。また、体部はやや扁平で、体部中位には幅が狭い鍔を付けている。体部外面は鍔より上方がハケ、鍔より下方がケズリによって調整される。

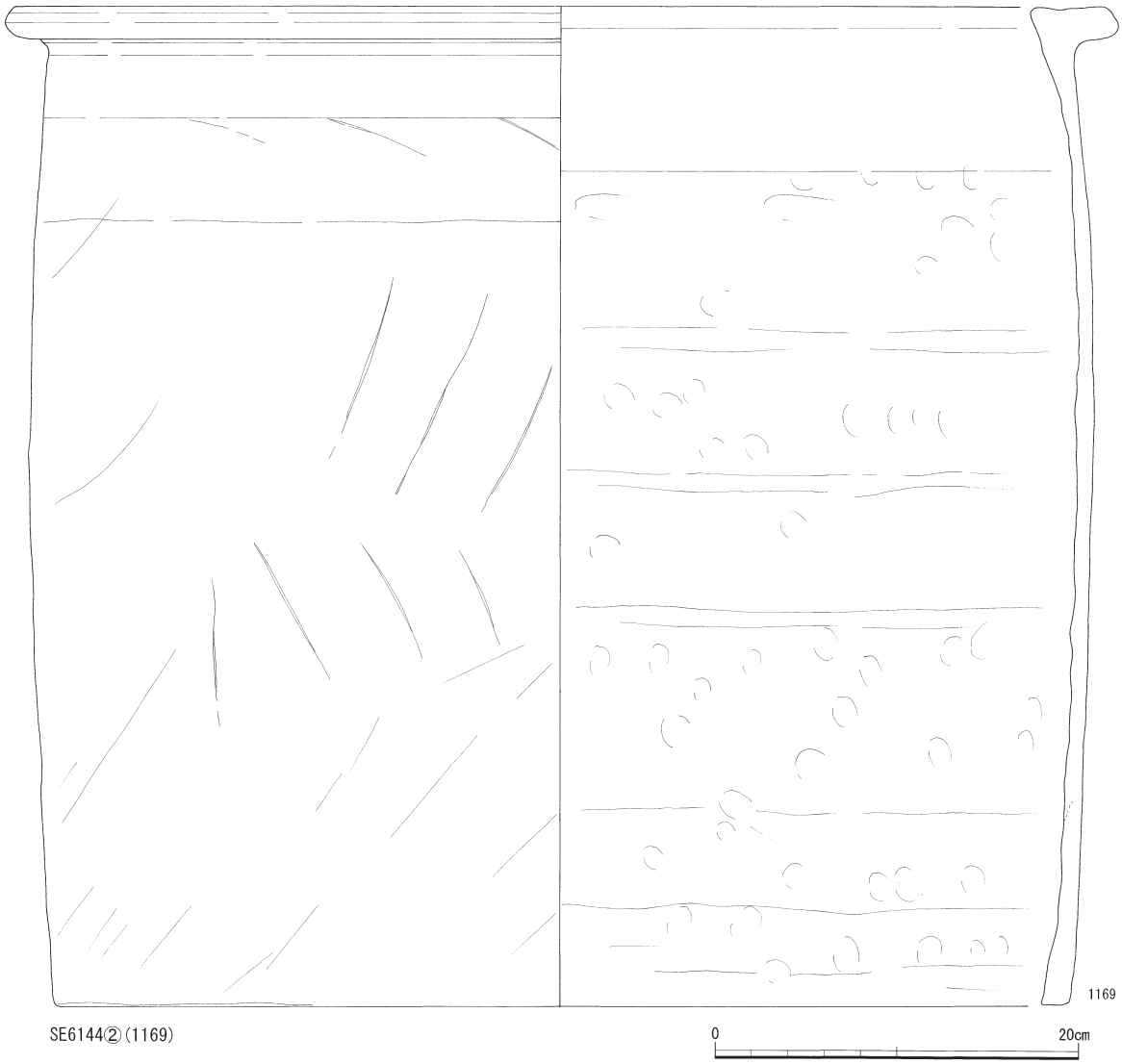
1246は中世の鍋の口縁部片と思われる。口縁端部は内側へ折り返して肥厚させる。

1247～1256は焙烙である。いずれも体部が浅い皿形を呈しており、口縁部は体部から上方に立ち上がった後に強く外方へ屈曲する。口縁端部は上方に摘まみあげられている。内外面ともにケズリで調整され、器壁は薄い。大きさは比較的揃っているが、1256などはやや大型に復元される。

1257・1258は土製品である。1257は人形で、着物や帯のような表現がみられる。胎土は精良で、白っ



第86図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉒(1/4)



第87図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉓(1/4)

ぽい色調を呈している。1258は太鼓のようなものを表現している。

1259～1294は陶器である。

1259は小型の碗、1260・1262～1264は丸碗である。1262はやや腰部の屈曲が強い。1263と1264はほぼ同じ形態である。

1261は腰錆茶碗である。腰が強く屈曲し、筒形碗のような形態をなす。

1265はいわゆる拳骨茶碗で、全体に漆黒の釉が施されているが、体部を部分的に強く凹ませ、その部分に長石釉を散らしている。

1266～1271は梅文皿である。見込に梅文をもつ。1267～1269は器形・文様ともに共通性が強いもので、いずれも底部外面に「田」字状の墨書がある。筆順や字形などからみて、文字ではなく、記号的なものである可能性が高い。

1272・1273は摺絵皿である。1272は見込に梅文をもつ。1273も花文をもつ。

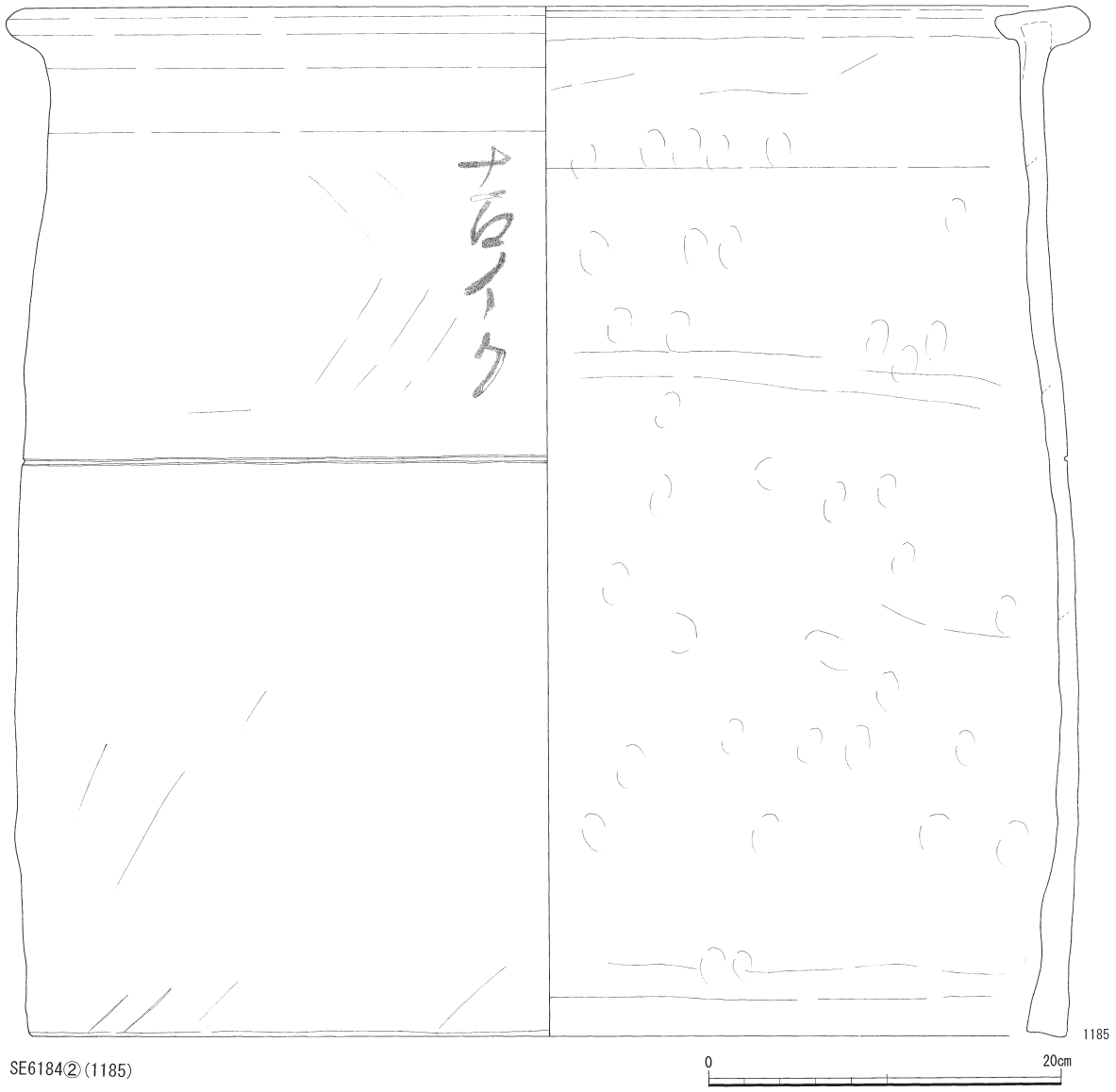
1274は輪花皿である。体部中位が屈曲し、稜をなす。

1275は輪禿皿である。口縁部は短く外方に屈曲し、口縁端部は面をなす。

1276・1277は全体の器形が不明であるが、鉢と思われる。1276の内面にはピン痕が認められる。1277は口縁部を輪花状にしている。

1278は練鉢と思われる。口縁部は丸く肥厚する。

1279～1281は擂鉢である。1279・1281は口縁部を受口状に屈曲させている。1280は口縁部を大きく外



第88図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉔(1/4)

側に折り返して肥厚させている。

1282～1284は灯火具である。1282・1284は灯明受皿、1283は秉燭である。1284は鉄釉が施されている。いずれも瀬戸・美濃産と思われる。

1285は竈である。焼き締め陶器で、口縁部から切り欠くように、大きな方形の窓が１箇所開けられている。内面には煤が付着している。また、底部外面には砂が付着している。

1286は口縁部内面に煤が付着しており、火鉢の口縁部片であると思われる。

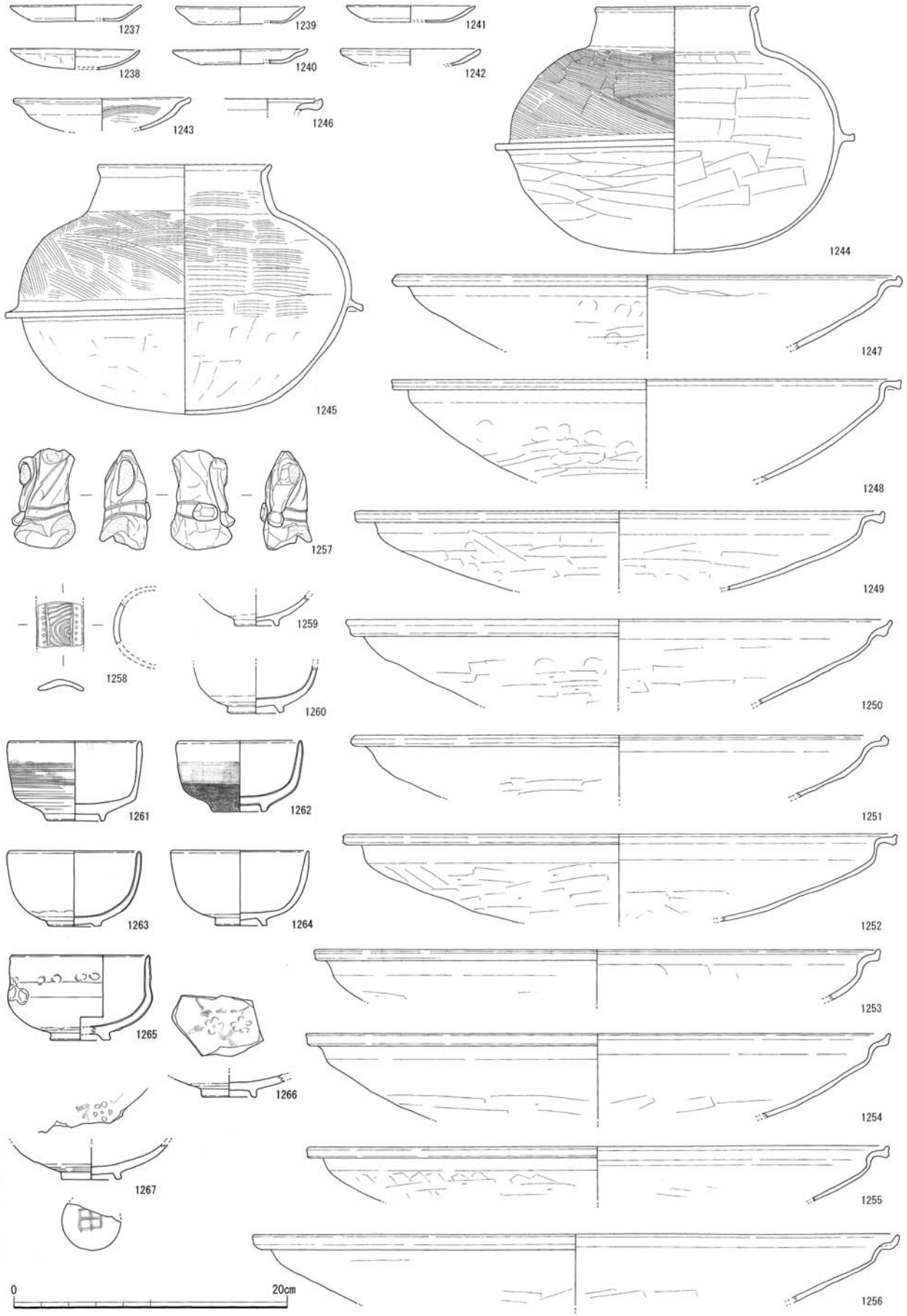
1287・1288は十能である。1288は把手部分で、中空の円筒状を呈し、外面は施釉されている。２箇所に小孔を開けている。

1289～1292は甕である。1289はやや小型のものである。1291は口縁部を外方に大きく折り返して肥厚させている。1292は常滑産の赤もので、口縁部は断面がＹ字形を呈する。

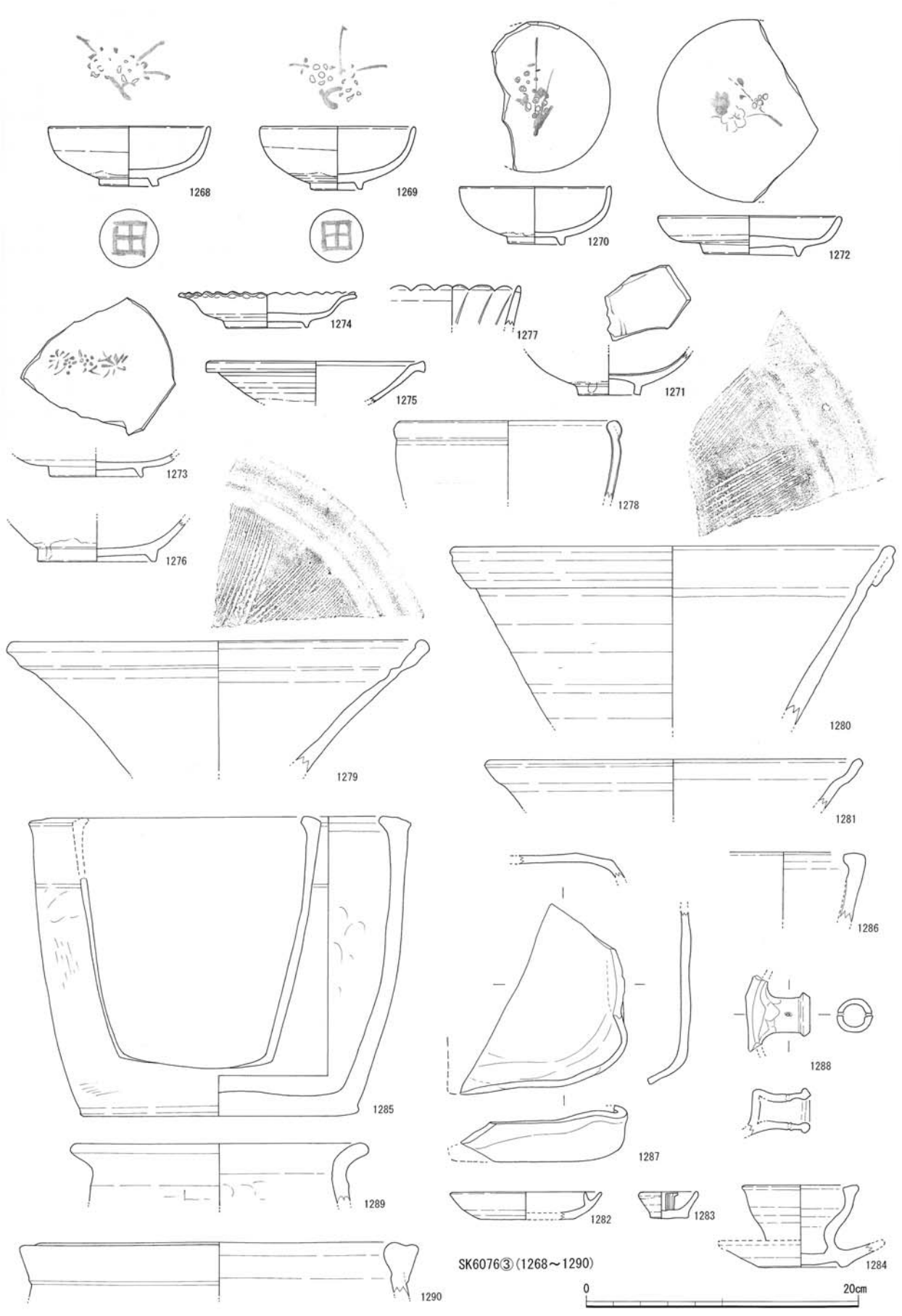
1293・1294は仏餉具である。大きく外反する低い脚をもつ。

1295～1306は磁器である。

1295～1302は丸碗である。1295や1297は外面に草花文と思われる文様が描かれている。1300は外面にコンニャク印判による桐文を配している。また、底部外面に渦福の銘款がみられる。1299や1301・1302も底部外面に文字状の銘款がみられる。1302は内外面に網目状文を描く。外面のみ二重線になる。多く



第89図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉕(1/4)



第90図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉖(1/4)

が肥前産と思われる。

1303は青磁碗である。口縁部の小片で、外面には細い線で蓮弁文が描かれている。

1304は皿である。外面には楓文が描かれている。高台を欠損しており、蓋である可能性もある。

1305・1306は瓶である。1305は底部付近しか遺存していないため、器形は不明である。高台はやや高い。1306は体部が円筒状を呈する。頸部は太い。外面に縦方向に太い沈線を連続して施す。青磁釉が施されている。花生等の可能性がある。

ＳＫ6078（第91図1307～1311）　1307は土師器焙烙である。体部はやや深い。

1308は陶器丸皿である。瀬戸・美濃産と思われる。

1309は陶器擂鉢である。擂目はやや間隔を開けて施されている。口縁部は受口状に大きく屈曲する。瀬戸・美濃産と思われる。

1310は陶器甕である。口縁部の破片で、断面がＹ字形を呈する。内面に煤が付着している。

1311は磁器染付皿である。

ＳＫ6079（第91図1312～1314）　1312は土師器鍋の口縁部片である。口縁端部を内側へ大きく折り返して肥厚させる。

1313は犬形土製品である。手びねりで作られていると思われ、中実である。耳や尾などが表現されており、尾は背側へ巻き上がっている。

1314は山茶椀の底部片である。

ＳＫ6103（第91図1315）　1315は陶器捏鉢である。口縁端部は面をなす。常滑産と思われる。

ＳＫ6115（第91・92図1316～1329）　1316・1317は土師器皿である。いずれも小片である。1317は口縁部に強いヨコナデを施している。

1318は土師器鍋である。口縁端部を折り返して肥厚させていると思われるが、しっかりとナデ付けられており接合痕は不明瞭である。

1319～1324は陶器である。

1319・1320は丸碗である。1320は上絵付けによって文様が施されている。京・信楽系のものと思われる。

1321は刷毛目茶碗である。1322は水注である。体部は円筒形を呈し、本来は把手が付いていたと思われる。灰釉が施されている。底部内面にはピン痕が残る。瀬戸・美濃産と思われる。

1323は擂鉢の底部付近の破片である。1324は半胴である。口縁部は肥厚し、口縁端部は面をなす。鉄釉が施されている。

1325～1329は磁器である。

1325は小碗で、外面には草文を描く。1326～1328は丸碗である。1327は内外面に花文と氷裂文を描いている。

1329は蓋である。逆Ｕ字形の摘まみを持つようであるが、欠損している。一度割れた後に漆継ぎで補修されたとみられ、破断面に漆と思われる暗褐色の物質が付着している。

ＳＫ6138（第92図1330～1335）　1330は土師器小皿である。かなり小型で、浅い半球形を呈する。

1331は土師器茶釜の口縁部片である。口縁部は内傾し、器壁は薄い。

1332～1335は陶器である。

1332は天目茶碗である。鉄釉が施されている。

1333は擂鉢である。口縁部は受口状に屈曲している。擂目はやや間隔が広い。瀬戸・美濃産と思われる。

1334は灯明皿である。口縁部に摘まみが付けられている。

1335は焼き締め陶器の火鉢である。鉢状の器形を呈し、口縁部は丸く収められる。内面及び外面に、線状の工具痕が残る。

ＳＫ6148（第92図1336）　1336は土師器小皿である。かなり小型で、やや深い半球形の器形を呈する。口縁部の歪みが大きい。

ＳＫ6162（第92図1337～1345）　1337は土師器焙烙である。

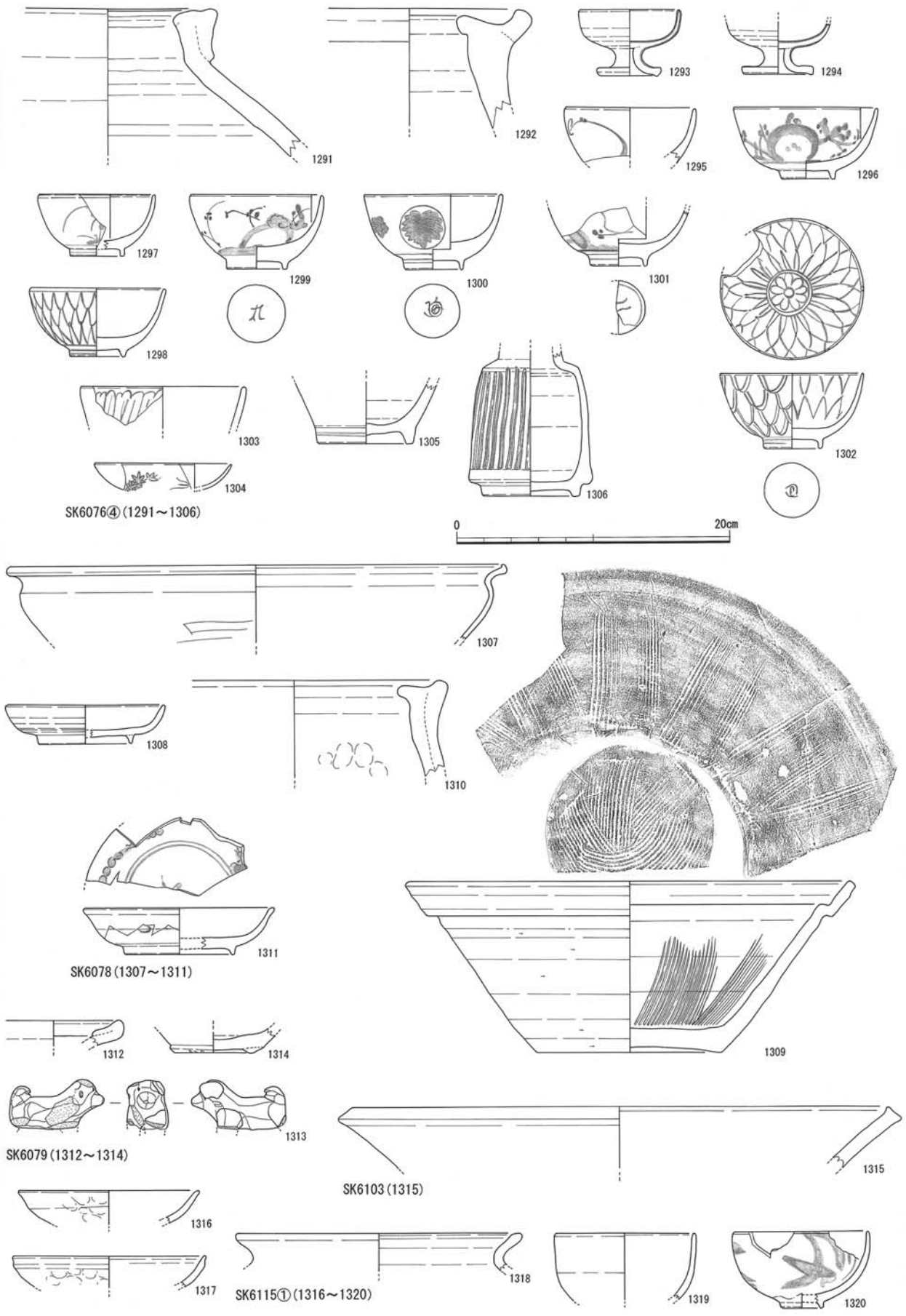
1338～1344は陶器である。

1338は小碗、1339は丸碗である。

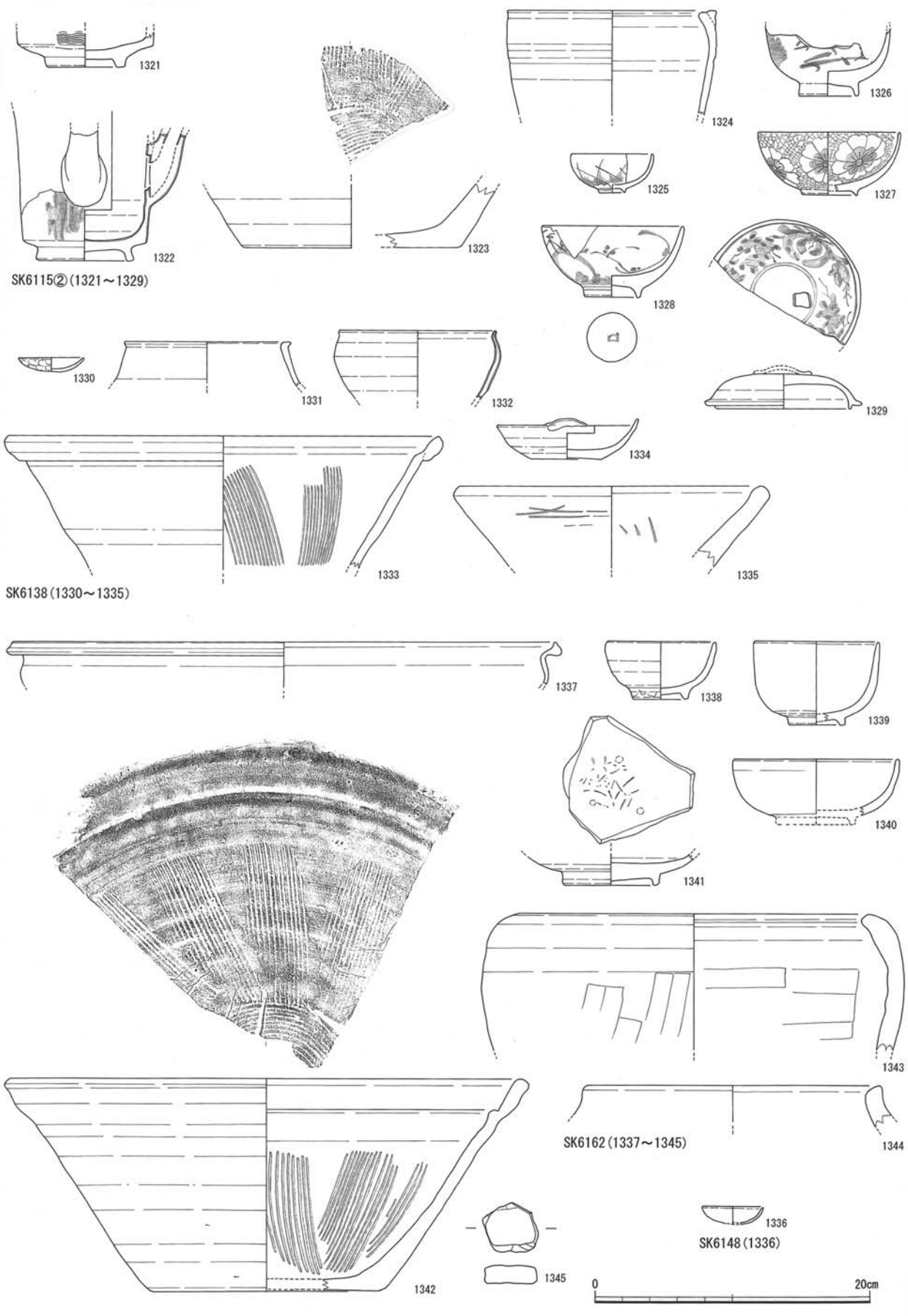
1340は皿と思われる。1341は摺絵皿で、見込に摺絵によって草花文が描かれている。また、内面にピン痕が残る。

1342は擂鉢である。ほぼ全形が分かる破片である。擂目はやや間隔を開けて施されている。口縁部は受口状に大きく屈曲する。瀬戸・美濃産と思われる。

1343は火鉢である。口縁部は内湾する。内面に煤が付着している。



第91図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉗(1/4)



第92図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉘(1/4)

1344は焼き締め陶器の口縁部である。甕と思われるが、小片のため、他の器種の可能性もある。

1345は陶器甕の体部片を転用した加工円盤である。

ＳＫ6170（第93図1346～1354）　1346～1348は土師器小皿である。1347は底部と体部との境が明瞭に屈曲する。

1349～1352は陶器である。

1349・1350は碗である。1350は鉄釉が厚く施されており、天目茶碗とも思われるが、高台脇に明瞭な段を作り出していないため、丸碗の可能性が高い。

1351は徳利である。低い高台を持ち、灰釉が施されている。瀬戸・美濃産と思われる。

1352は甕である。口縁部の破片で、断面はＹ字形を呈する。常滑産の赤ものである。

1353は磁器小碗、1354は磁器皿である。1354は底部外面に銘款を持つが、一部しか遺存していない。

ＳＫ6175（第93図1355～1357）　1355は土師器小皿である。小型で扁平である。

1356は陶器擂鉢である。口縁端部はやや受口状をなし、口縁端部を外方へ折り返して垂下させる。瀬戸・美濃産と思われる。

1357は磁器染付端反碗である。外面に折れ松葉文と思われる文様が描かれている。

ＳＫ6180（第93図1358～1379）　1358～1370は土師器である。

1358～1368は土師器小皿ないし皿である。1358は小型で半球形の器形を呈する。1365はかなり浅い。1368は底部と体部との境が明瞭に屈曲するもので、中世に遡るものであろう。

1369・1370は鍋である。1369は口縁端部を内側へ折り返してナデ付けて肥厚させるが、1370は口縁端部を上方へ摘まみあげている。いずれも中世に遡るものであるが、1369は1370よりも古く位置づけられる。

1371・1372は山茶椀である。

1373～1378は陶器である。

1373は丸碗と思われる。1374は底部のみしか遺存していないが、丸碗である可能性が考えられる。

1375は皿である。見込に印花文が施されている。

1376は底部付近の破片であるが、片口であると思われる。

1377は捏鉢である。口縁端部は面をなす。

1378は竈である。口縁端部は断面がＹ字形を呈する。口縁部から切り込むように大きな窓が開けられているが、一部しか遺存していない。内面に煤が付着している。

1379は陶器の鉢と思われるものを転用した加工円盤である。

ＳＫ6185（第93図1380～1395）　1380～1389は土師器である。

1380～1388は小皿である。いずれも扁平で浅く、器壁は薄い。1387と1388は他のものよりやや大きい。

1389は焙烙である。

1390は陶器丸碗、1391は陶器皿の口縁部片である。全形が不明であるが、灰釉が施されており、端反皿と思われる。

1392は高台付近の破片であり、器形等は不明であるが、大皿の可能性がある。灰釉が施され、内面には鉄絵が施されている。

1393・1394は磁器染付碗である。1393は丸碗で、外面に梅文と思われる文様が描かれている。瀬戸・美濃産の可能性がある。

1395は磁器の瓶と思われる。青磁釉が施されており、口縁部が受口状に屈曲する。花生などの可能性がある。

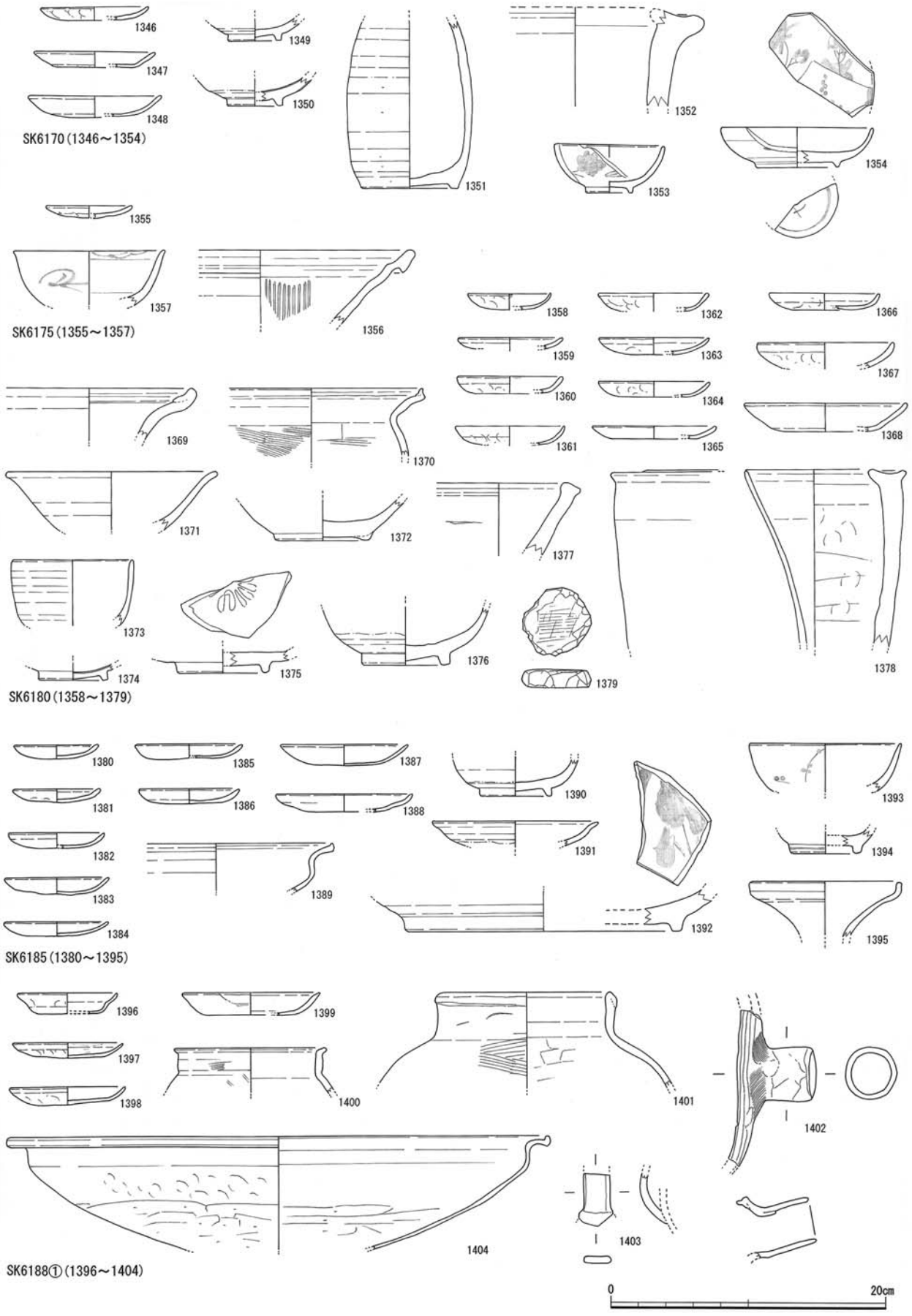
ＳＫ6188（第93・94図1396～1420）　1396～1407は土師器である。

1396～1399は小皿ないし皿である。1396は体部と口縁部の境で内側に屈曲している。中世のものと思われる。1399は口縁部の一部が意図的に打ち欠かれている。煤も付着しており、灯明皿として使われたと考えられる。

1400・1401は茶釜である。1400は小型でなで肩であるが、小片であり、口縁部がもう少し内傾し肩が張る器形となる可能性がある。1401は口縁端部を外側に折り返して肥厚させている。

1402は十能の把手である。中空の筒状を呈し、長さは短い。本体部分の口縁部が一部遺存しているが、口縁端部は焙烙と同様に摘まみ出されている。

1403は何らかの土師器に付属する把手の破片と思われる。Ｃ字形を呈する。



第93図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉙(1/4)

1404～1407は焙烙である。いずれも器壁は薄く、口縁端部を上方へ摘まみあげる。1405は小型であるが、外面調整や口縁端部の形態は他の焙烙と同様であり、内面には炭化物が付着する。

1408～1412は陶器である。

1408は小碗、1409は天目茶碗ないしは丸碗である。

1410は丸碗で、外面には上絵付けによって笹文が描かれている。瀬戸・美濃産あるいは京・信楽系のものと思われる。

1411は輪禿鉢である。見込に蛇の目状の釉剥ぎが認められる。口縁部は外方へ屈曲する。外面は二次的に被熱している可能性がある。

1412は片口鉢と思われる。片口部は欠損している。

1413・1414は加工円盤である。1413は陶器丸碗の底部、1414は陶器擂鉢の体部を転用している。

1415～1419は磁器である。

1415は染付丸碗で、外面に花唐草文を描く。底部外面には角渦福の銘款がみられる。

1416～1419は染付皿である。1416は内面に斜格子文を描く。1417～1419は見込に五弁花を配しており、1418はコンニャク印判を用いている。いずれも肥前産と思われる。

1420は軒桟瓦の丸瓦部分の瓦当である。中央に右回りの巴文を配している。

ＳＤ6077（第94図1421～1423）　1421は土師器焙烙の口縁部片である。

1422は白磁碗ないし皿である。口縁部の小片で、口縁端部は強く外反する。

1423は磁器染付筒形碗である。

ＳＤ6173（第94・95図1424～1444）　1424～1428は土師器小皿である。1424はかなり小型で浅く、扁平なものである。1426は口縁端部に強いヨコナデが施されている。

1429は瓦質土器両耳鍋である。ほぼ完形に復元できた。口縁部には２箇所に耳状の把手を付け、孔を開けている。底部には３箇所に突起状の脚が付く。外面には煤が顕著に付着し、内面にはコゲ状の炭化物が付着する。

1430～1441は陶器である。

1430は腰錆茶碗である。やや腰の屈曲が強く、器高は低い。

1431は皿の底部であると思われる。1432も皿で、口縁部は外反する。

1433は梅文皿である。底部の小片であるが、見込に梅文が一部遺存している。

1434は摺絵皿で、見込に摺絵による花のような文様が認められる。また、底部外面には文字の一部のような墨書がある。

1435は大皿である。

1436は鉢で、平面形が六角形を呈し、装飾性が高い。口縁部の各辺には輪花状の凹みが施される。また、外面には横方向の凹線が多数施されている。

1437は土瓶の底部と思われる。

1438は擂鉢である。口縁部は受口状に強く屈曲する。瀬戸・美濃産と思われる。

1439・1440は十能である。1439は把手で、上下に貫通する小孔が穿たれている。1440の内面には錆釉が施されている。1439と1440は同一個体である可能性もある。

1441は火鉢である。浅い鉢状を呈するもので、内面には煤が付着する。

1442・1443は磁器染付丸碗である。1443の底部外面には渦福の銘款がみられる。肥前産と思われる。

1444は磁器染付皿である。見込には蛇の目状の釉剥ぎがなされている。

ピット（第95図1445～1448）　1445は陶器甕の体部片を転用した加工円盤である。かなり分厚い破片を用いており、側面は研磨されている。

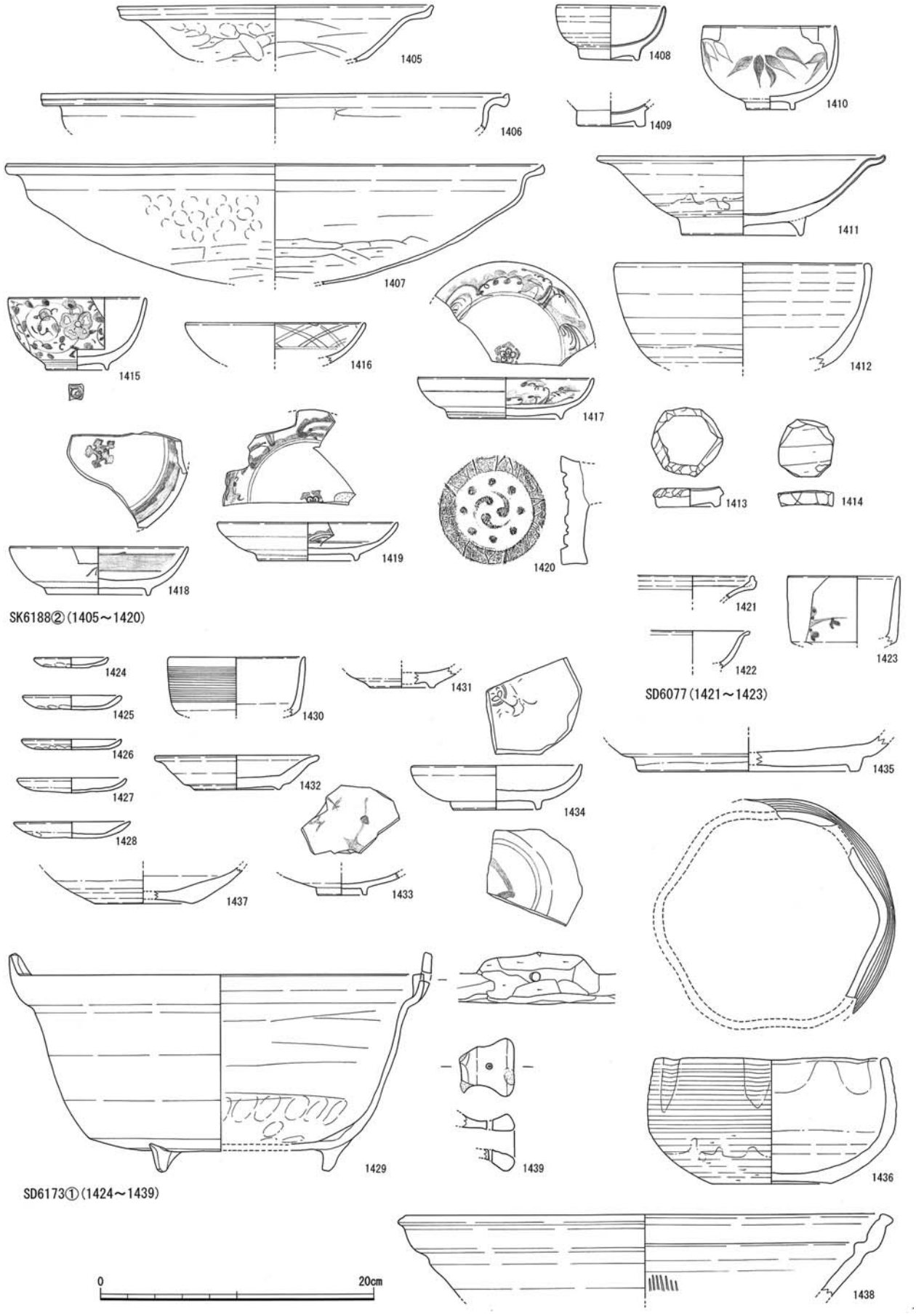
1446は土師器小皿である。やや深く、半球状の器形を呈する。

1447は陶器丸皿である。瀬戸・美濃産と思われる。

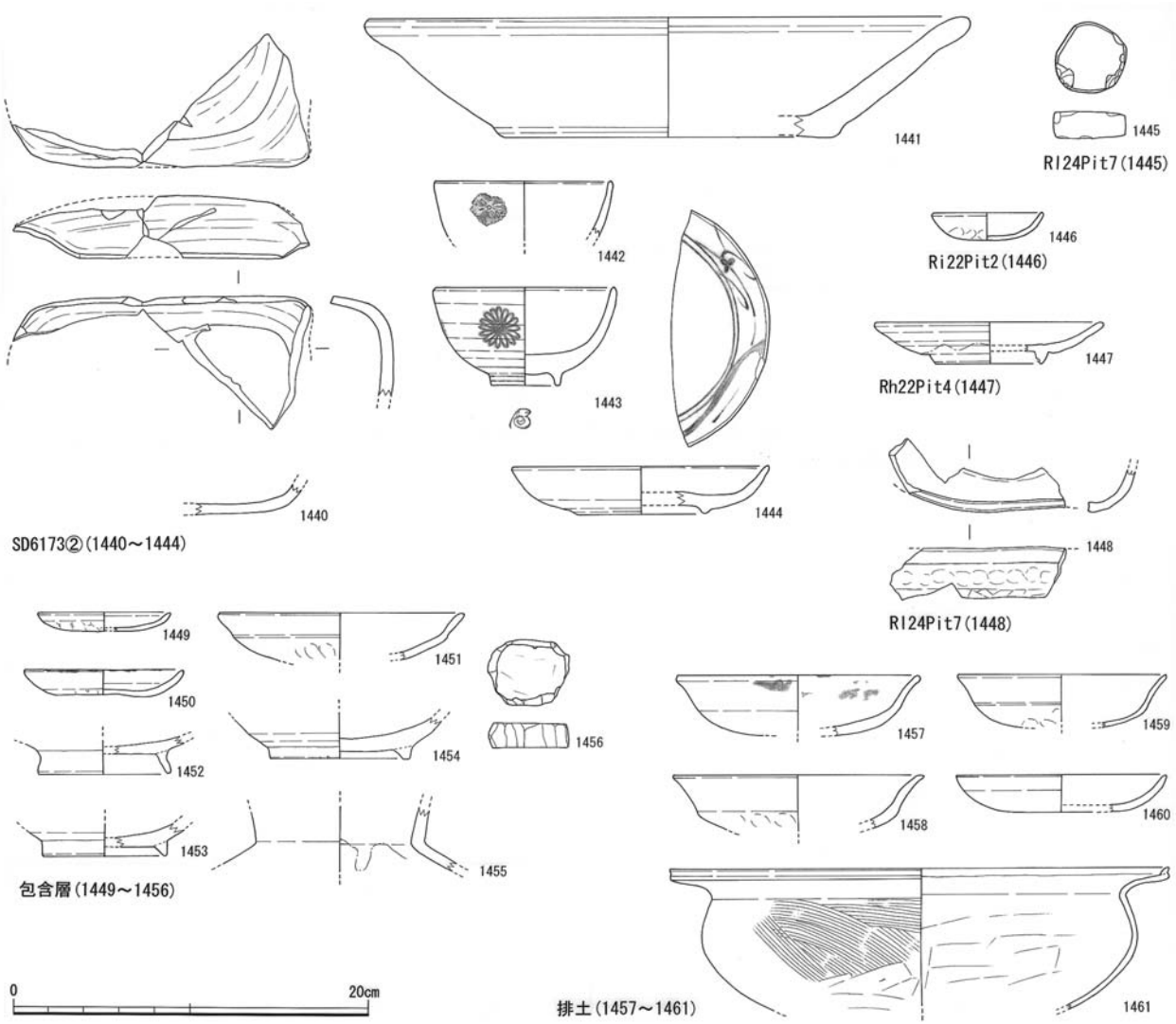
1448は土師器十能である。口縁端部は面をなす。外面には指オサエの痕跡が明瞭に残る。

包含層（第95図1449～1456）　1449～1451は土師器小皿ないし皿である。1450は口縁部に煤が付着する。1451は体部中位で屈曲し、口縁部が外反する。古代のものと思われる。

1452～1455は山茶椀ないし灰釉陶器である。1452は遺存している範囲では施釉は確認できないが、高い高台を持ち、灰釉陶器と思われる。1453は内面に灰釉が認められる。1455は灰釉陶器の長頸壺の頸部片で、外面に灰釉が施されており、内面にも釉が付



第94図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉚(1/4)



第95図　６次４区、７次５区出土土器・陶磁器等実測図㉛(1/4)

着している。

1456は陶器甕の体部片を転用した加工円盤である。

排土（第95図1457～1461）　1457～1460は土師器皿ないし杯である。1457・1458は体部中位で屈曲し、口縁部が外反する。1457は口縁部付近に煤状のものが付着している。

1461は土師器鍋である。体部はやや扁平で、口縁端部は上方に摘まみあげられる。

（４）６次５区・７次３区

①飛鳥～奈良時代の遺構出土遺物

ＳＫ6082（第96図1462・1463）　1462は土師器皿、1463は土師器甕である。

ＳＫ6098（第96図1464・1465）　1464・1465は土師器甕である。1464は頸部の屈曲が緩い。1465は口縁端部が面をなす。

ＳＫ6099（第96図1466・1467）　1466・1467は土師器甕である。1467は口縁端部が面をなす。

②平安時代～室町時代の遺構出土遺物

ＳＥ6083（第96図1468・1469）　1468は土師器椀の口縁部片と思われる。

1469は青磁碗である。底部は厚い。高台の内側は施釉されていない。

ＳＥ6085（第96図1470）　1470は土師器鍋である。半球形の器形を呈する。体部外面は上半はハケ、下半はケズリによって調整されており、器壁は薄い。

ＳＥ6091（第96図1471）　1471は土師器皿である。

底部外面はケズリによって調整され、口縁部には強いナデが施され、短く外反する。また、底部外面には墨書で「前」の文字が書かれている。

ＳＥ6092（第96図1472・1473）　1472は土師器茶釜である。全形が分かるもので、鍔は持たず、肩部に耳状の把手を２箇所に貼り付けている。

1473は土師器鍋である。口縁端部は上方に摘まみあげられる。

ＳＫ6090（第96図1474・1475）　1474は土師器鍋の口縁部片である。

1475は土師質の土製品の破片である。方形の枠状を呈するものと思われるが、用途等は不明である。外面はヨコミガキ、内面は工具ナデによって調整される。端部はケズリを施した後にナデによって調整されており、底部として図化したが、口縁部になる可能性もある。

ＳＫ6094（第96図1476）　1476は土師器鍋である。半球形の器形を呈する。

ＳＫ6100（第96図1477）　1477は土師器甕である。

ＳＫ7018（第96図1478）　1478は土師器小皿である。体部から口縁部にかけて内湾し、器壁は薄い。

ＳＫ7020（第96図1479）　1479は土師器皿である。

ＳＫ7022（第96図1480）　1480は土師器小皿である。

ＳＫ7023（第96・97図1481～1492）　1481～1490は土師器である。

1481・1482は皿である。1482は体部と口縁部の境で屈曲し、口縁部が外反する。口縁部外面には強いナデが施されている。

1483は羽釜である。口縁部は内側へ屈曲し、口縁端部は面をなす。鍔は分厚く、口縁部近くに貼り付けられている。

1484は茶釜である。口縁部はやや外方へ開く。

1485～1490は鍋である。1485・1486のように小型で浅いものと、1487～1490のように大型で頸部が括れるものがある。

1491は陶器天目茶碗である。口縁部は外反する。鉄釉が施されている。瀬戸・美濃産と思われる。

1492は甕の体部片を転用した加工円盤である。

ＳＤ6012（第97図1493～1504）　1493～1497は土師器小皿である。いずれも小型である。

1498～1500は土師器鍋である。1499・1500は小型で浅く、口縁端部は内側に折り返してナデ付けて肥厚させる。

1501は山茶椀の底部である。

1502～1504は陶器である。

1502は天目茶碗である。器壁は厚い。鉄釉が施されている。瀬戸・美濃産と思われる。

1503は壺の口縁部片である。口縁端部は外方に折り返して肥厚させる。

1504は甕である。常滑産と思われる。

ＳＤ6066（第97図1505～1519）　1505～1515は土師器である。

1505は小皿である。器壁は薄く、外面には指オサエの痕跡が明瞭に残る。

1506・1507は茶釜である。口縁端部は面をなす。

1508・1509は甕と思われる。1509は頸部が明瞭に屈曲し、内面はケズリ状の工具ナデによって調整している。

1510～1515は鍋である。1510・1511は半球形の器形を呈するものである。1512～1515は頸部が括れる。

1516・1517は山茶椀である。

1518は陶器天目茶碗、1519は陶器甕である。

ＳＤ6068（第97図1520）　1520は須恵器甑である。飛鳥時代のもので、混入と思われる。

ＳＤ6069（第97・98図1521～1539）　1521～1531は土師器である。

1521～1524は小皿、1525は台付椀である。

1526～1529は茶釜である。1526・1527は小型で、1526は口縁端部が面をなす。1528・1529は大型で、1528は口縁部がやや外傾し、口縁端部は外方へ屈曲する。体部は肩が張る。

1530・1531は鍋である。1531は半球形の器形を呈し、口縁端部は上方へ摘まみあげる。

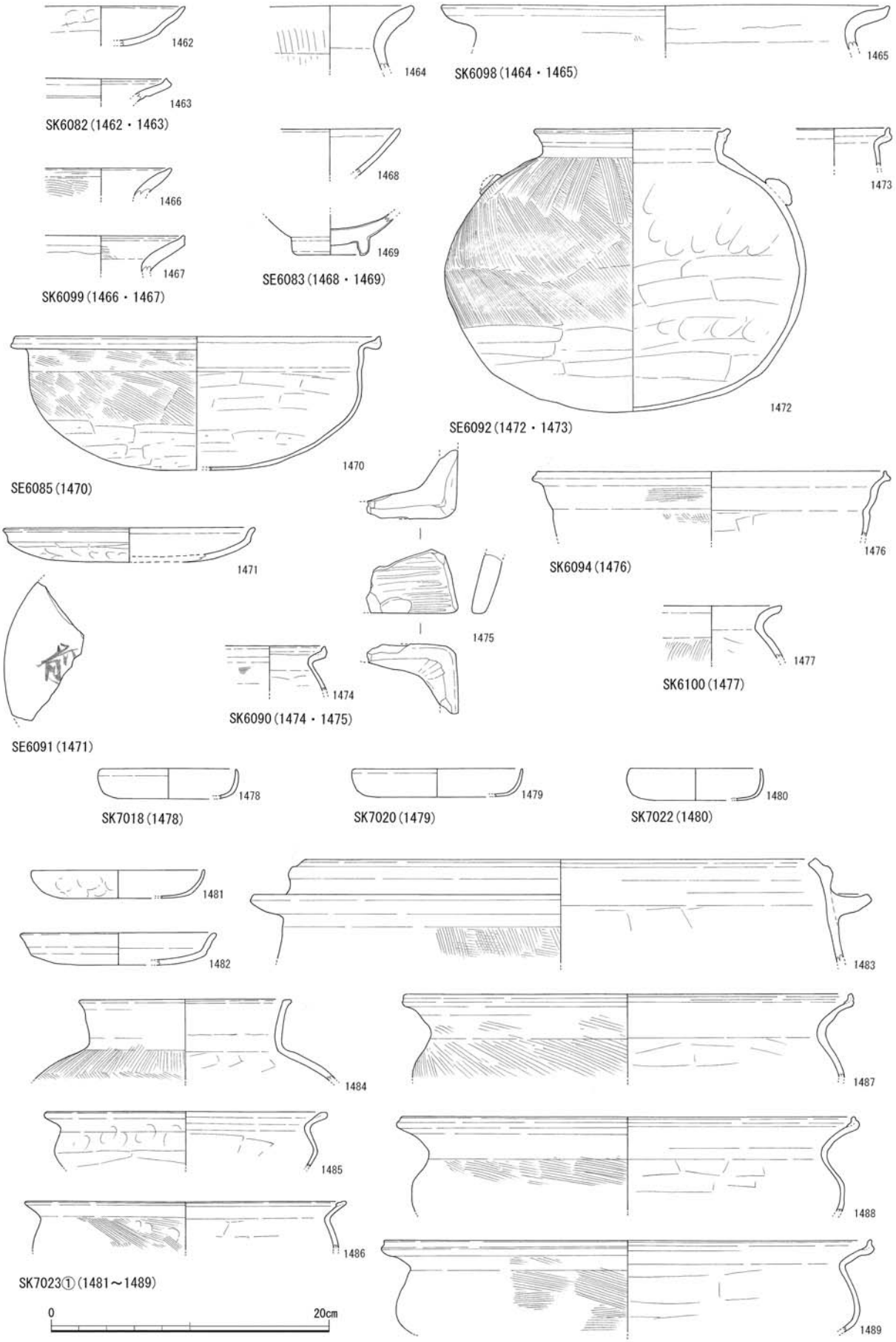
1532～1534は陶器である。

1532は捏鉢である。口縁部がやや肥厚し、口縁端部は面をなす。常滑産と思われる。

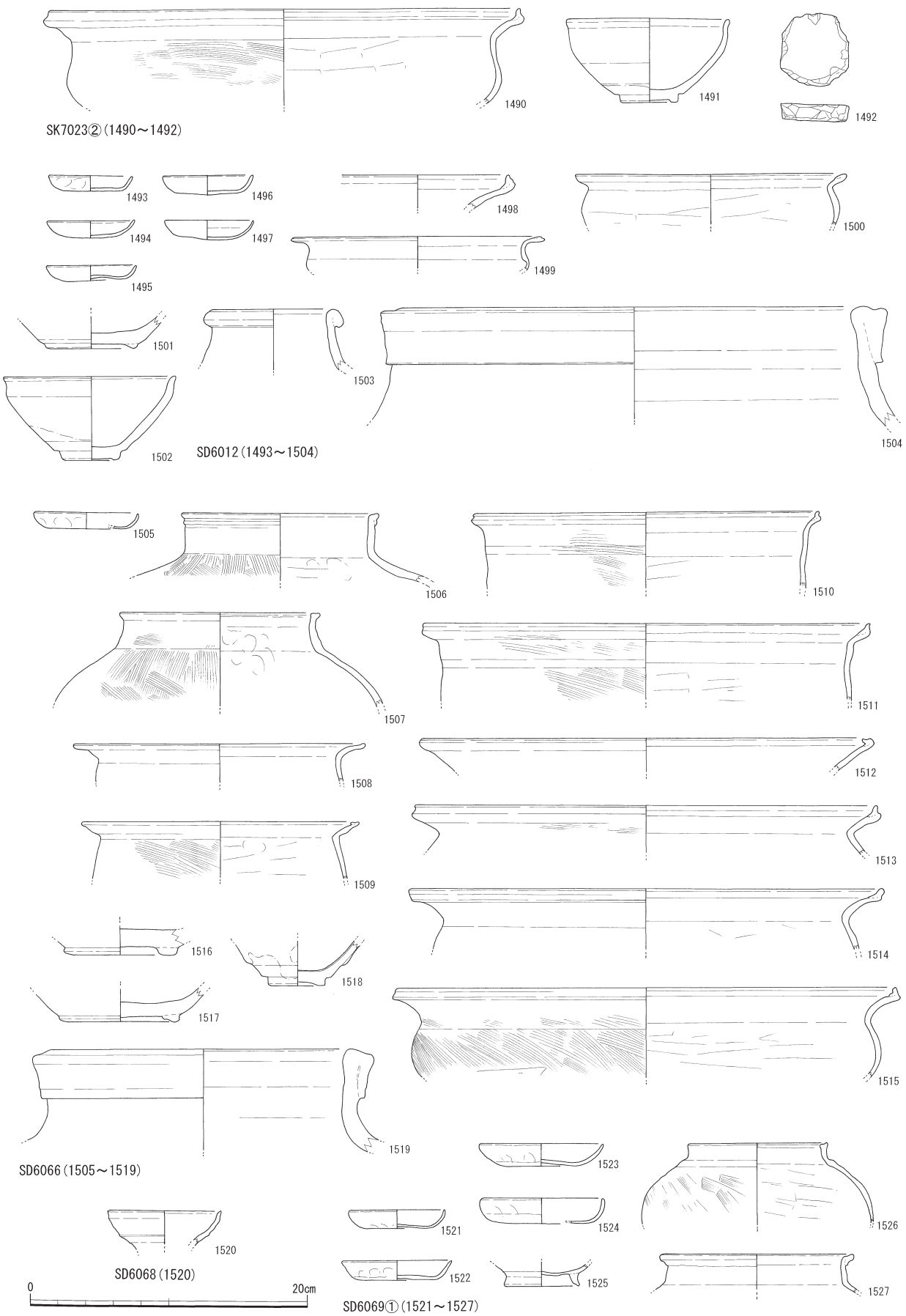
1533は壺の口縁部片と思われる。やや受口状をなす。灰釉が施されている。

1534は香炉の底部片と思われる。内外面に煤が付着している。

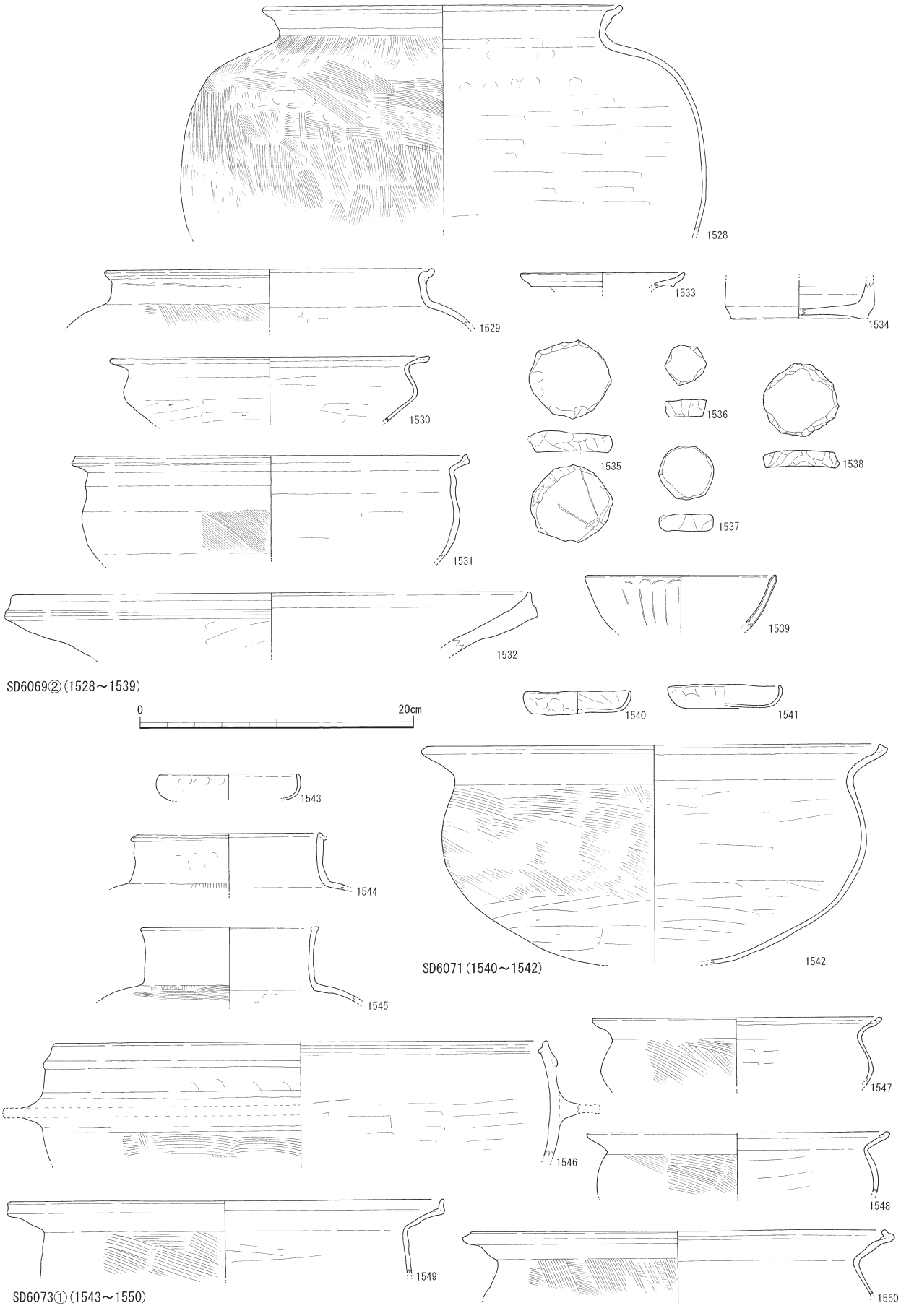
1535～1538は加工円盤である。いずれも甕の体部片を転用している。大きさにはばらつきがある。



第96図　６次５区、７次３区出土土器・陶磁器等実測図①(1/4)



第97図　６次５区、７次３区出土土器・陶磁器等実測図②(1/4)



第98図　６次５区、７次３区出土土器・陶磁器等実測図③(1/4)

1539は青磁碗である。外面には細い蓮弁文が線刻されている。

ＳＤ6071（第98図1540～1542）　1540・1541は土師器小皿である。いずれも体部から口縁部にかけてやや内湾する。1540の口縁部内面にはヘラ状の工具痕が連続して残されている。

1542は土師器鍋である。ほぼ全形が分かるもので、体部外面上半はハケ、下半はケズリによって調整されている。体部内面上半はハケにも見える工具ナデによって調整されている。

ＳＤ6073（第98・99図1543～1559）　1543～1554は土師器である。

1543は皿、1544・1545は茶釜である。1545は口縁部が長い。

1546は羽釜である。半球形の器形を呈するものと思われ、口縁部は帯状に肥厚する。

1547～1554は鍋である。1547・1548のように小型で浅いものと、1549～1554のように大型で頸部が括れるものがある。

1555～1557は山茶椀の底部片である。1556は内面が摩耗している。

1558は陶器捏鉢、1559は陶器擂鉢である。1559は擂目の間隔がかなり開いている。

ＳＤ6074（第99・100図1560～1581）　1560～1577は土師器である。

1560～1564は小皿ないし皿である。1560・1562・1564は底部と体部との境の屈曲が比較的明瞭で、体部と口縁部との境で外方に屈曲した後、口縁部が内湾する。

1565はロクロ土師器の台付椀である。高台は直立気味である。

1566は茶釜である。口縁部は強く内傾し、頸部の屈曲が不明瞭になっている。

1567は羽釜である。口縁部は内湾している。鍔は口縁部付近に貼り付けられており、幅が狭く、端部は面をなす。

1568～1577は鍋である。1568～1570は小型で浅く、頸部が括れるもので、外面は主にナデやケズリによって調整されている。1576はほぼ全形の分かるもので、半球形の器形を呈する。体部上半はハケによって調整されているが、頸部付近にはヨコナデが施され、ハケが消されている。

1578～1580は陶器である。

1578は天目茶碗である。鉄釉が施されている。口縁部はやや外反する。瀬戸・美濃産と思われる。

1579は古瀬戸の鉢や深皿などの底部と思われる。

1580は捏鉢である。口縁端部は面をなす。常滑産と思われる。

1581は須恵器甕の体部片を転用した加工円盤である。

ＳＤ6075（第100図1582～1590）　1582～1586は土師器である。

1582・1583は杯ないし皿である。いずれも口縁部に煤が付着しており、灯明皿として使用されたと思われる。

1584・1585は鍋、1586は焙烙である。

1587は山茶椀の底部片である。

1588～1590は陶器である。

1588は古瀬戸の卸目付大皿の可能性がある。口縁部断面がＹ字形を呈する。

1589は甕である。口縁部を大きく外側に折り返している。常滑産と思われる。

1590は瓶である。頸部外面にＣ字形の突起を設け、そこに陶製の輪をつり下げている。１箇所しか遺存していないが、元は対になるように２箇所に付けられていたものと思われる。体部には縦方向に櫛目状の文様が施されている。鉄釉が施されており、古瀬戸の花瓶の可能性が考えられる。

ＳＤ6084（第100図1591～1605）　1591～1602は土師器である。

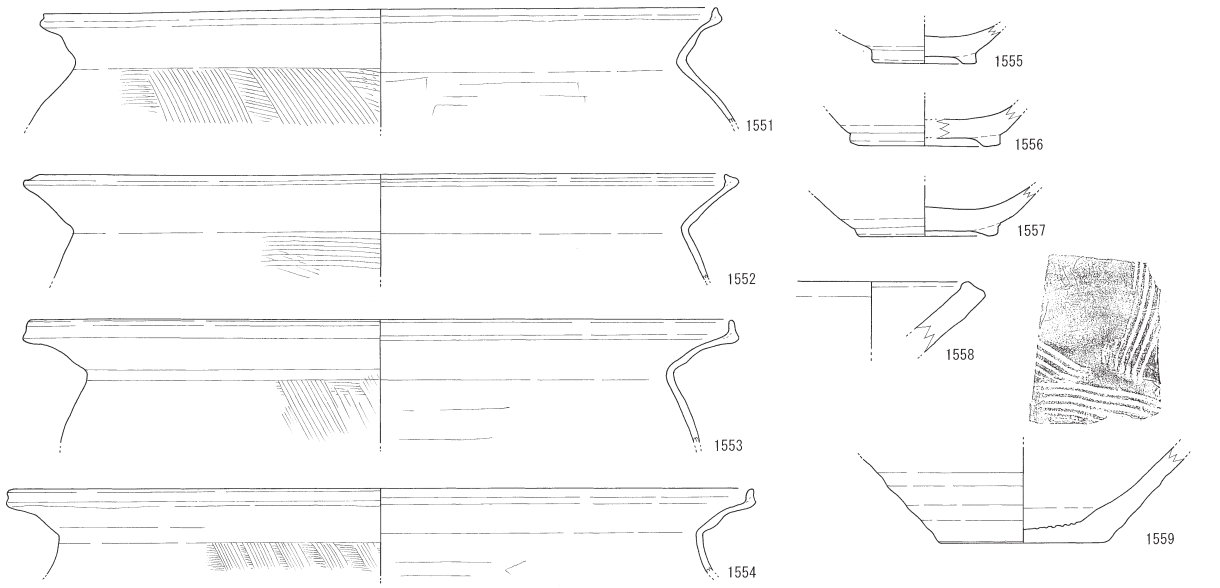
1591～1595は小皿である。1592は丸底で半球形の器形を呈する。1595は体部と口縁部との境で外方に屈曲した後、口縁部が内湾する形態のものである。

1596は茶釜である。口縁部は直立し、肩部には耳状の把手を貼り付けている。

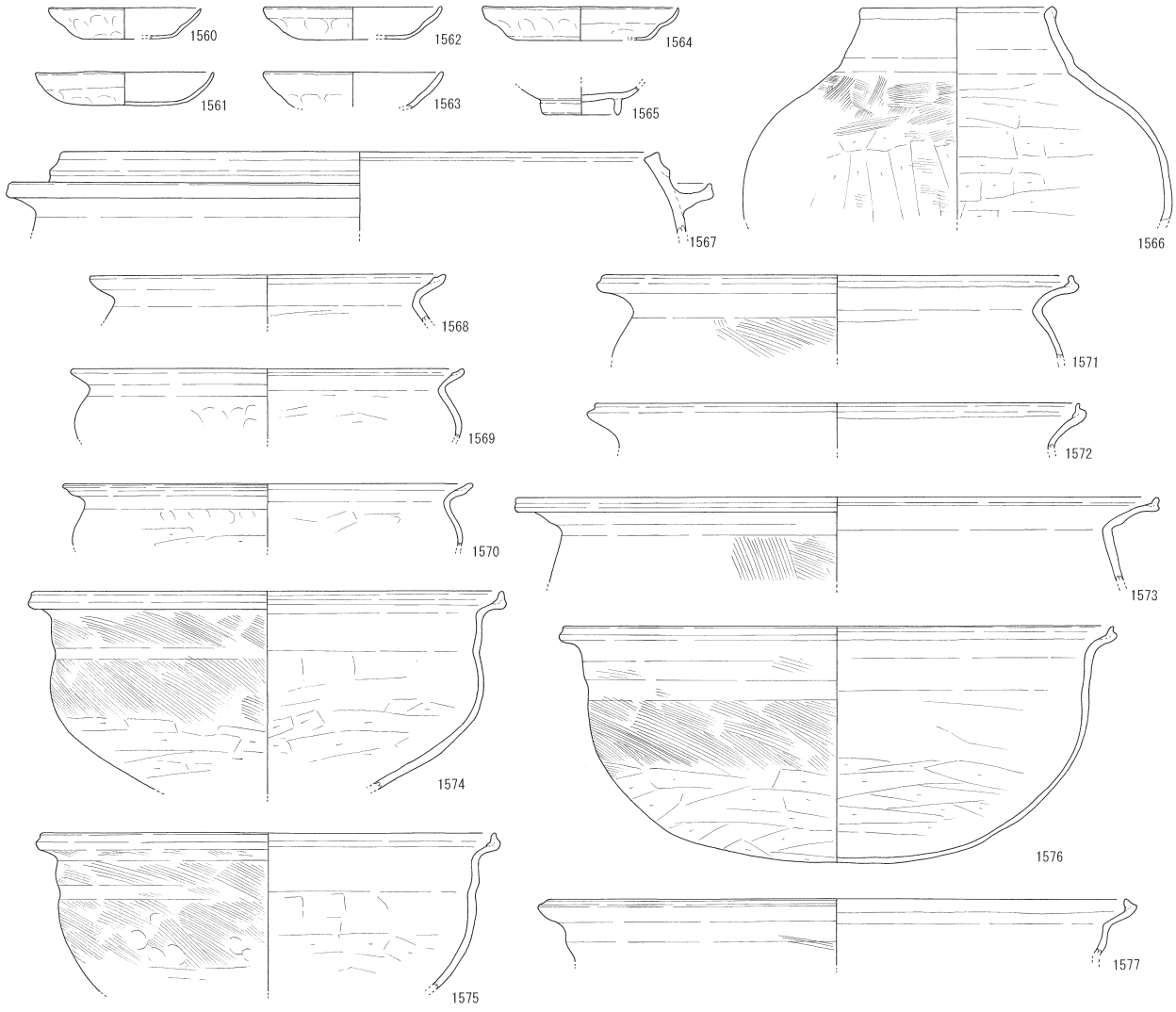
1597～1602は鍋である。いずれも頸部が括れるが、1597～1599は小型のもの、1600～1602は大型のもので、両者は口縁端部の形態に違いがある。

1603～1605は加工円盤である。1603・1604は甕の体部を転用したものである。1605は鉢の破片の転用と思われる。

ＳＤ6096（第100図1606～1608）　1606は土師器杯

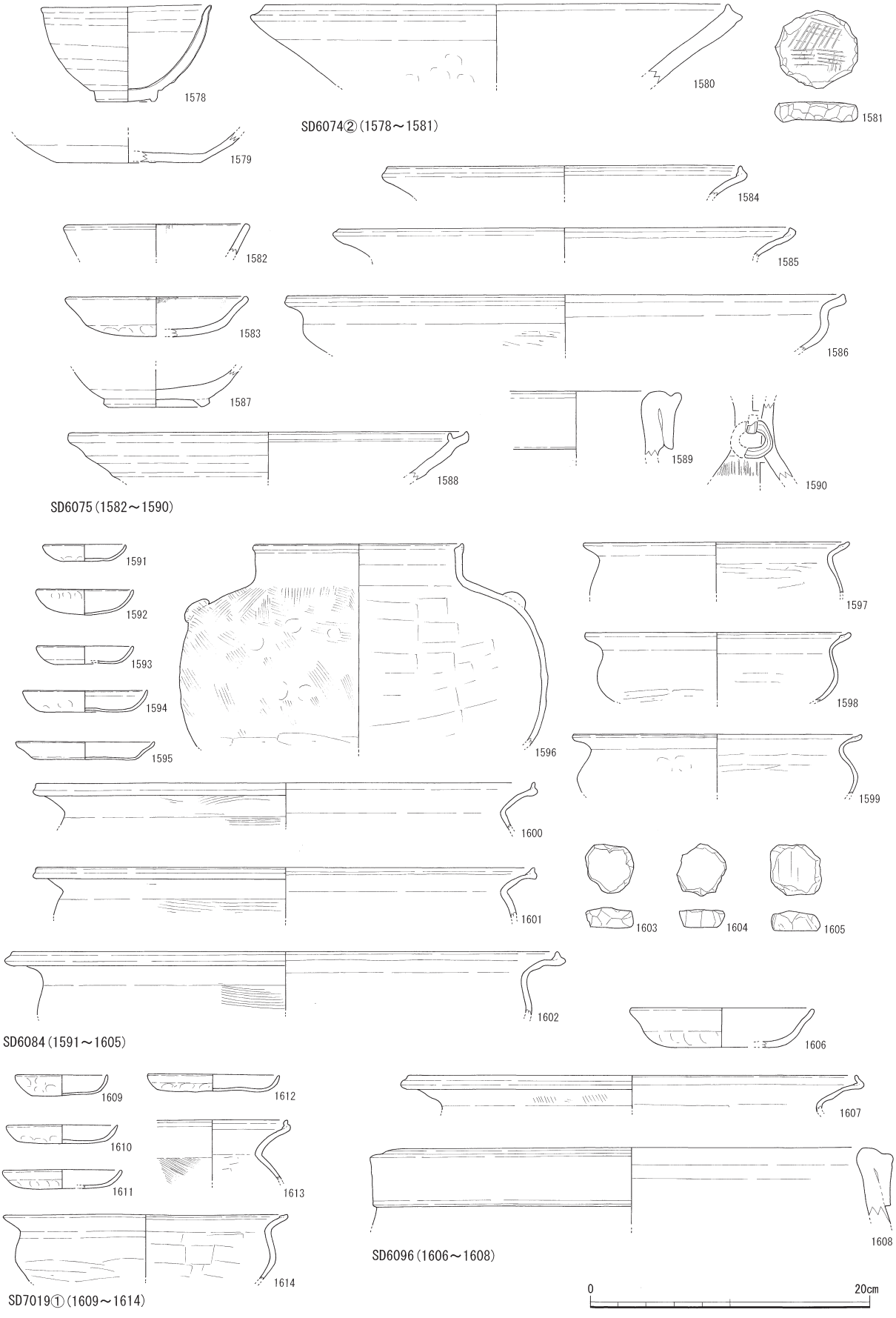


SD6073②(1551～1559)

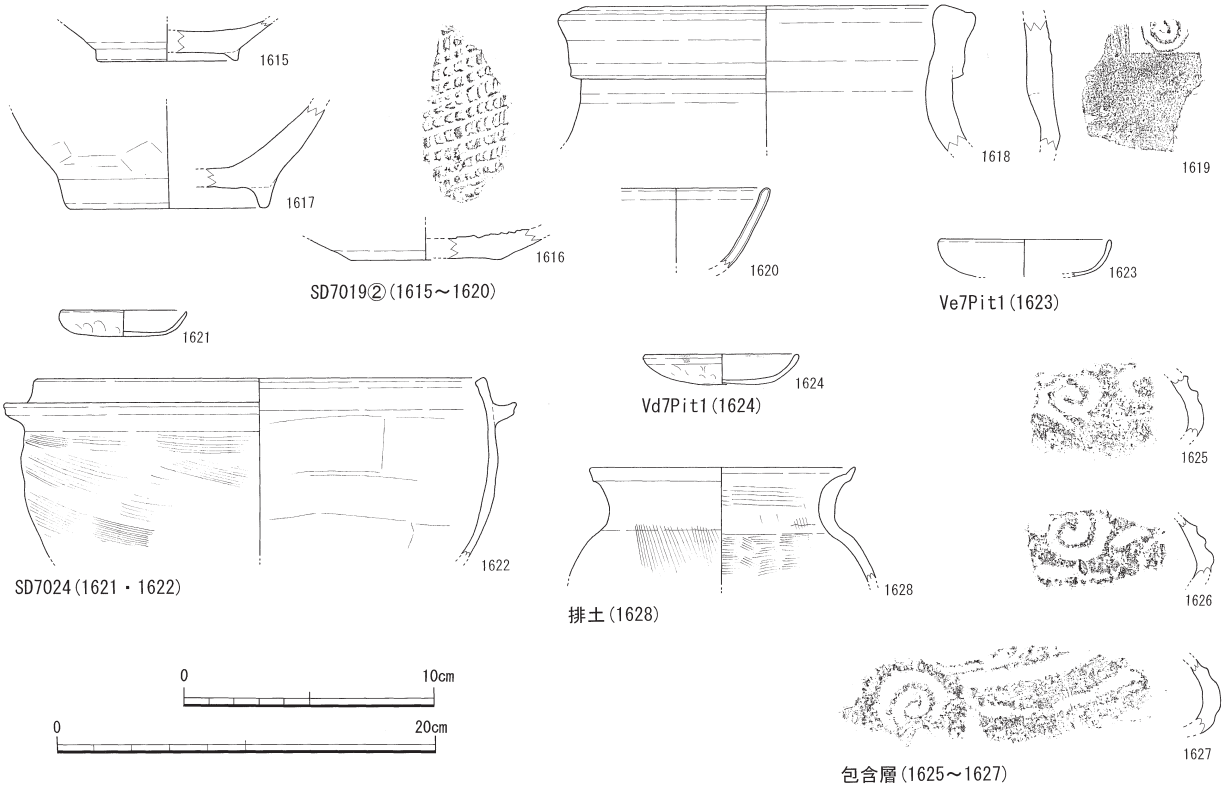


SD6074①(1560～1577)

第99図　６次５区、７次３区出土土器・陶磁器等実測図④(1/4)



第100図　６次５区、７次３区出土土器・陶磁器等実測図⑤(1/4)



第101図　６次５区、７次３区出土土器・陶磁器等実測図⑥(1/4、1625～1627は1/3)

である。口縁端部はやや肥厚する。

1607は土師器鍋の口縁部片、1608は陶器甕の口縁部片である。

ＳＤ7019（第100・101図1609～1620）　1609～1612は土師器小皿、1613・1614は土師器鍋である。

1615は山茶椀である。

1616～1619は陶器である。

1616は卸目皿、1617は片口鉢と思われる。いずれも底部付近の破片である。

1618・1619は甕である。1618は口縁部を外側に折り返して肥厚させる。1619は体部片で、押印文がみられる。いずれも常滑産と思われる。

1620は青磁碗の口縁部片である。口縁端部はわずかに玉縁状に肥厚する。文様は認められない。

ＳＤ7024（第101図1621・1622）　1621は土師器小皿である。

1622は土師器羽釜である。半球形の器形を呈する。体部から口縁部にかけて緩やかに内湾し、口縁端部は面をなす。鍔は口縁部付近に貼り付けられており、幅は狭い。

ピット（第101図1623・1624）　1623・1624は土師器小皿である。1624は口縁部付近を中心に内外面に煤が付着しており、灯明皿として使用されたと思われる。

包含層（第101図1625～1627）　1625～1627は縄文土器深鉢である。３点とも同一個体の破片である可能性が高い。口縁部付近の破片で、キャリパー形の器形を呈するものである。口縁部直下に渦巻文とそれをつなぐ多条の弧線からなる文様帯を持つものと思われる。

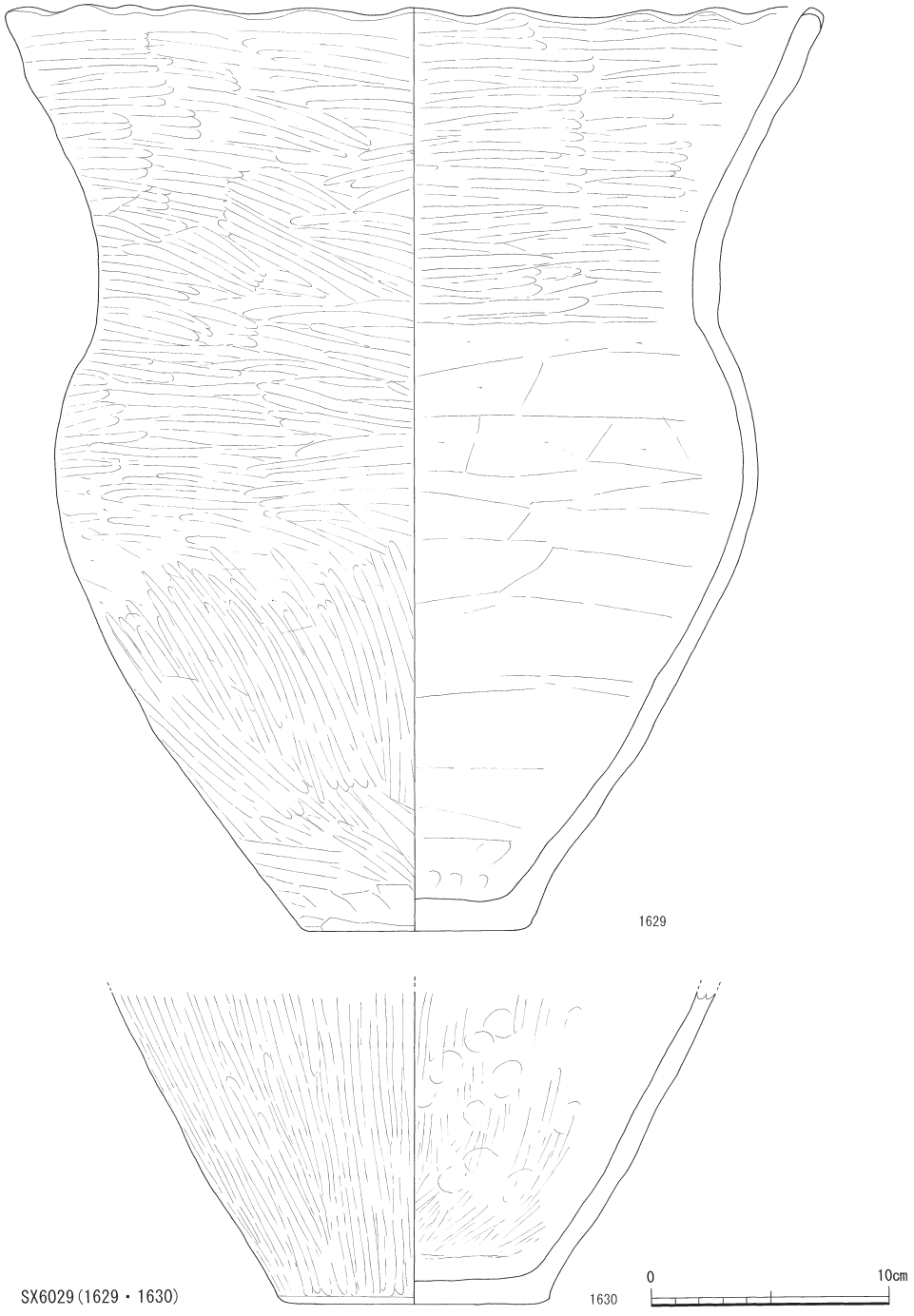
排土（第101図1628）　1628は土師器甕である。口縁部はやや直立気味に外反し、口縁端部は面をなし、やや上方へ摘まみ出される。内外面ともハケによって調整されている。

（４）６次６区上層・７次４区

①縄文時代の遺構出土遺物

ＳＸ6029（第102図1629・1630）　1629・1630は縄文土器深鉢である。いずれも無文である。

1629は遺存状況がよく、ほぼ全形が分かるものである。頸部が明瞭に括れ、口縁部が直線的に外方へ開く器形を呈する。口縁部は浅い波状口縁である。



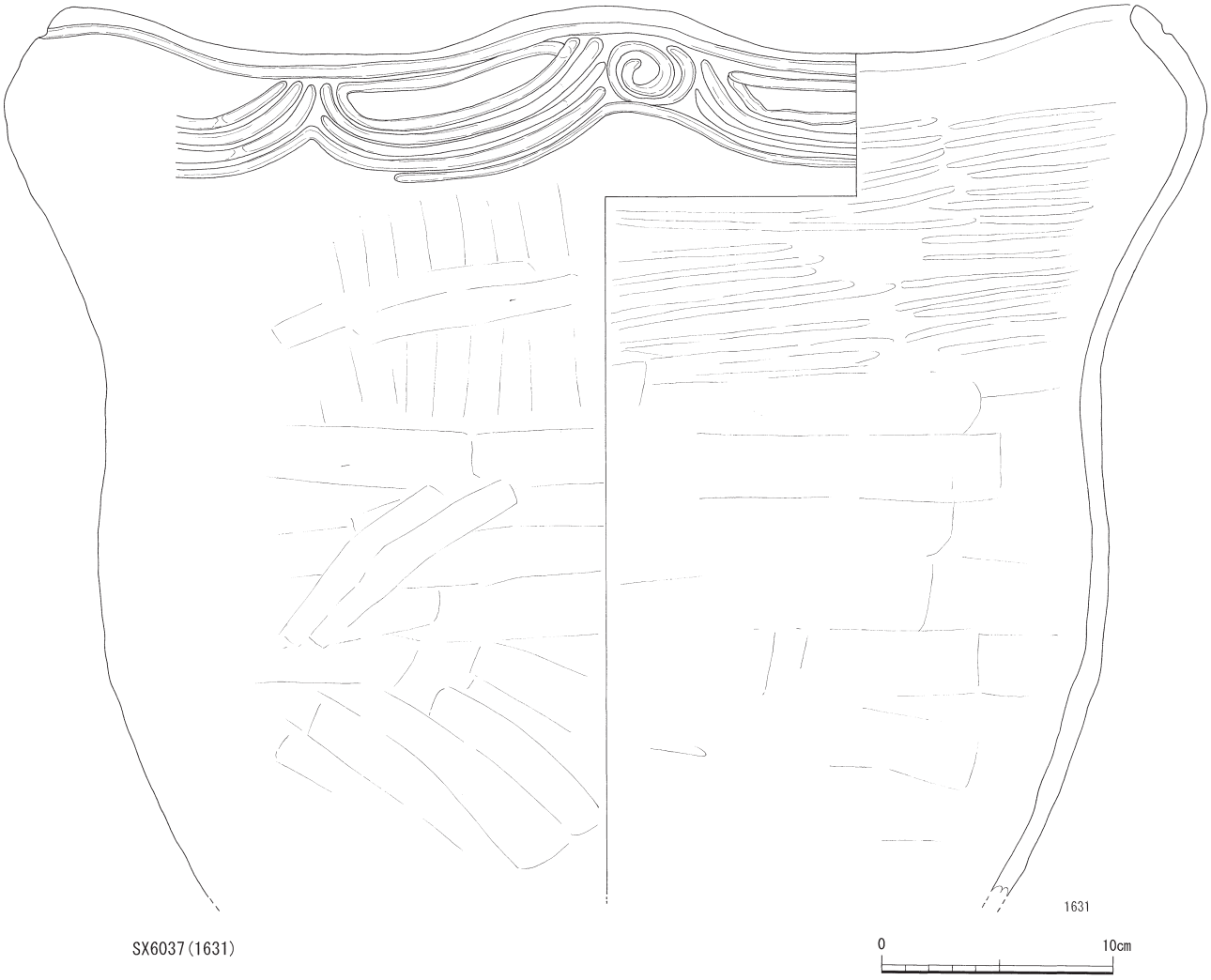
第102図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図①(1/3)

体部外面は、ケズリを施した後に幅広のミガキによって調整している。体部上半はヨコミガキ、体部下半はタテミガキである。内面は頸部より上をミガキ、頸部より下を工具ナデによって調整している。

1630は内外面ともミガキによって調整されており、特に外面は丁寧に調整される。内面には底部を中心に、炭化物が明瞭に付着する。

ＳＸ6037（第103図1631）　1631は縄文土器深鉢である。キャリパー形の器形を呈し、頸部はやや括れる。４単位の波状口縁である。頸部は無文で、口縁部付近のみに文様帯を持つ。

口縁部直下には１条の沈線を施し、その下には波頂部に配された渦巻文間をつなぐように、沈線による半月形の区画文及びそれに平行する２条の連弧文



第103図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図②(1/3)

を施している。その下方には口縁部と平行する連弧状の沈線を１条施すが、この沈線は渦巻文横から描き始められ、次の渦巻文の下を通過した後、その次の渦巻文に達するまでの間に終息するようである。

なお、沈線の切り合い関係から判断すると、まず区画文とそれに平行する連弧文を施文し、その後渦巻文と最下段の連弧状沈線、そして最後に口縁部直下の沈線を施している可能性が高い。渦巻文と最下段の連弧状沈線の先後関係は不明である。

外面はケズリによって調整されている。内面は頸部以下を工具ナデ、頸部から口縁部にかけては横方向のミガキ状のナデ、もしくはミガキによって調整している。

②平安時代～室町時代の遺構出土遺物

ＳＥ6001（第104図1632～1654）　1632～1642は土師器である。

1632～1637は小皿ないし皿である。1635・1636は口縁端部外面に強いナデを施している。また、1636は内外面に煤が付着している。1637は底部の小片であるが、墨書と思われるものが認められる。

1638～1642は甕ないし鍋である。1638はほぼ全形が分かるもので、体部は球形を呈する。外面はケズリによって調整されている。1641は口縁部が上方へ屈曲し、受口状を呈している。頸部の屈曲は緩やかである。1642は口縁端部を内側に大きく折り返してナデ付けて肥厚させている。外面には指オサエの痕跡が顕著に残る。

1643は志摩式製塩土器である。井戸枠内から出土したもので、小片である。

1644は山皿である。口縁部は直線的に外方へ開く。

1645～1652は山茶椀である。完形に近い、遺存状況の良いものが多い。1650は口縁部が外反する。1651は他のものより若干器高が低く、底部が厚い。

1653は陶器の鉢と思われる。山茶椀のような焼成のもので、口縁部付近にボタン状の突起を貼り付け、突起先端から内面まで貫通する小孔を焼成前に穿っている。破片のため、こうした突起が何箇所あったかは不明であるが、注口のようなものか、紐等を通すためのものと考えられる。

1654は青磁碗である。外面には鎬蓮弁文が陰刻されている。

ＳＥ6004（第104図1655～1659）　1655は土師器小皿である。

1656・1657は土師器鍋である。1656は小型であるが、頸部がほとんど括れない。

1658は土師器竈である。小型のもので、器壁は比較的薄い。前面に方形の窓を開けている。上面には中央に薄い蒲鉾形の摘まみを持つ蓋状のものが作り付けられている。この蓋状部分は成形時に竈部分と接着されており、取り外しはできない。竈部分の内面には被熱痕があり、また、蓋状部分の上面にはコゲが顕著に付着していることから、上面に何かを乗せて加熱するという用途に使用されたものと考えられる。蓋状部分に作り付けられた摘まみ状のものは、摘まみにしては大きいため、仕切りとして付けられていた可能性もある。

1659は陶器捏鉢の口縁部片である。

ＳＥ6005（第105・106図1660～1686）　1660～1671は土師器である。

1660は土師器皿である。口縁部付近に強いヨコナデが施されている。

1661～1671は甕である。全体に遺存状況がよく、1664・1665・1669・1671など全形が分かるものが複数ある。いずれも体部はやや扁平な球形を呈し、口縁端部は内側に折り返して肥厚させている。1665などは折り返した部分のナデ付けが弱い。中世的な鍋形になる直前の段階のものと思われる。外面には指オサエの痕跡が顕著に残るものが多いが、指オサエの上からハケや工具ナデによる調整がなされているものも認められる。

1672は志摩式製塩土器の口縁部片である。

1673～1685は山茶椀である。完形に近いものが多い。いずれも口縁部が外反する。底部と体部との境は緩やかに湾曲するものが多いが、1679のみはやや屈曲している。1676の底部外面には「僧十」と読める墨書がある。また、1680は底部外面に「保笑」と思われる墨書と、体部外面の高台脇に「×」の墨書がある。

1686は灰釉陶器長頸壺の頸部である。灰釉が施されている。

ＳＥ6009（第106図1687～1694）　1687～1690は土師器小皿である。1687～1689は非常に浅い。口縁端部外面には強いナデによる面を持つ。

1691～1693は土師器甕である。

1694は山茶椀で、口縁部はわずかに外反する。内面は使用により摩耗している。

ＳＥ6010（第106図1695～1701）　1695～1698は土師器小皿ないし皿である。1696は非常に浅く、器壁も厚い。1698は口縁の歪みが大きい。

1699は土師器甕である。口縁端部を内側に折り返して肥厚させる。

1700・1701は山茶椀である。

ＳＥ6013（第106図1702～1715）　1702は縄文土器深鉢である。沈線と刺突が施されている。

1703～1711は土師器小皿ないし皿である。1708～1711は体部から口縁部にかけて緩やかに内湾する。器壁は薄い。

1712・1713は土師器鍋である。口縁端部は内側に大きく折り返してナデ付けて肥厚させている。

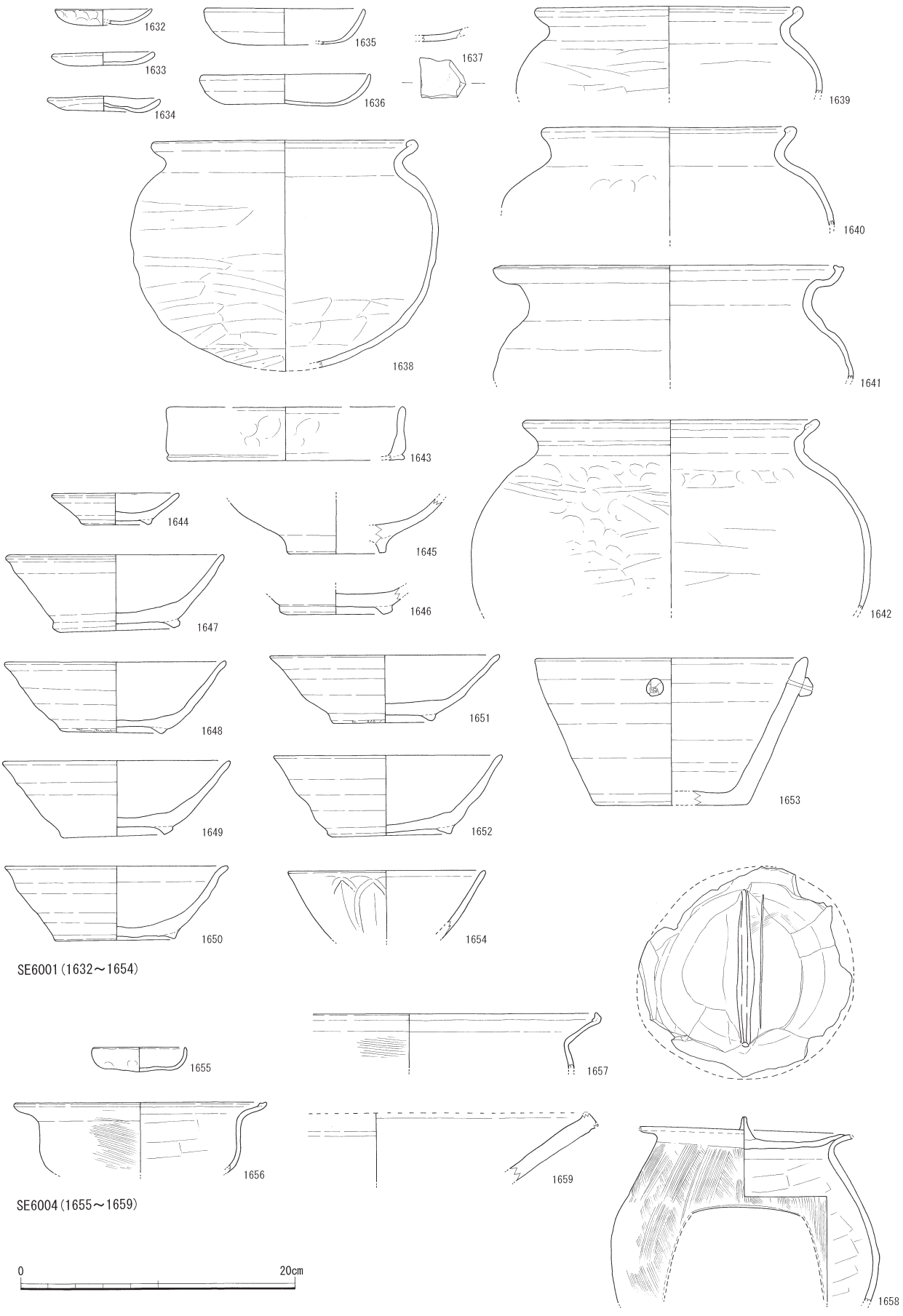
1714・1715は山茶椀である。1715は底部と体部との境が明瞭に屈曲する。底部外面には「よね」と読める墨書がある。

ＳＥ6198（第106図1716～1718）　1716は土師器小皿である。

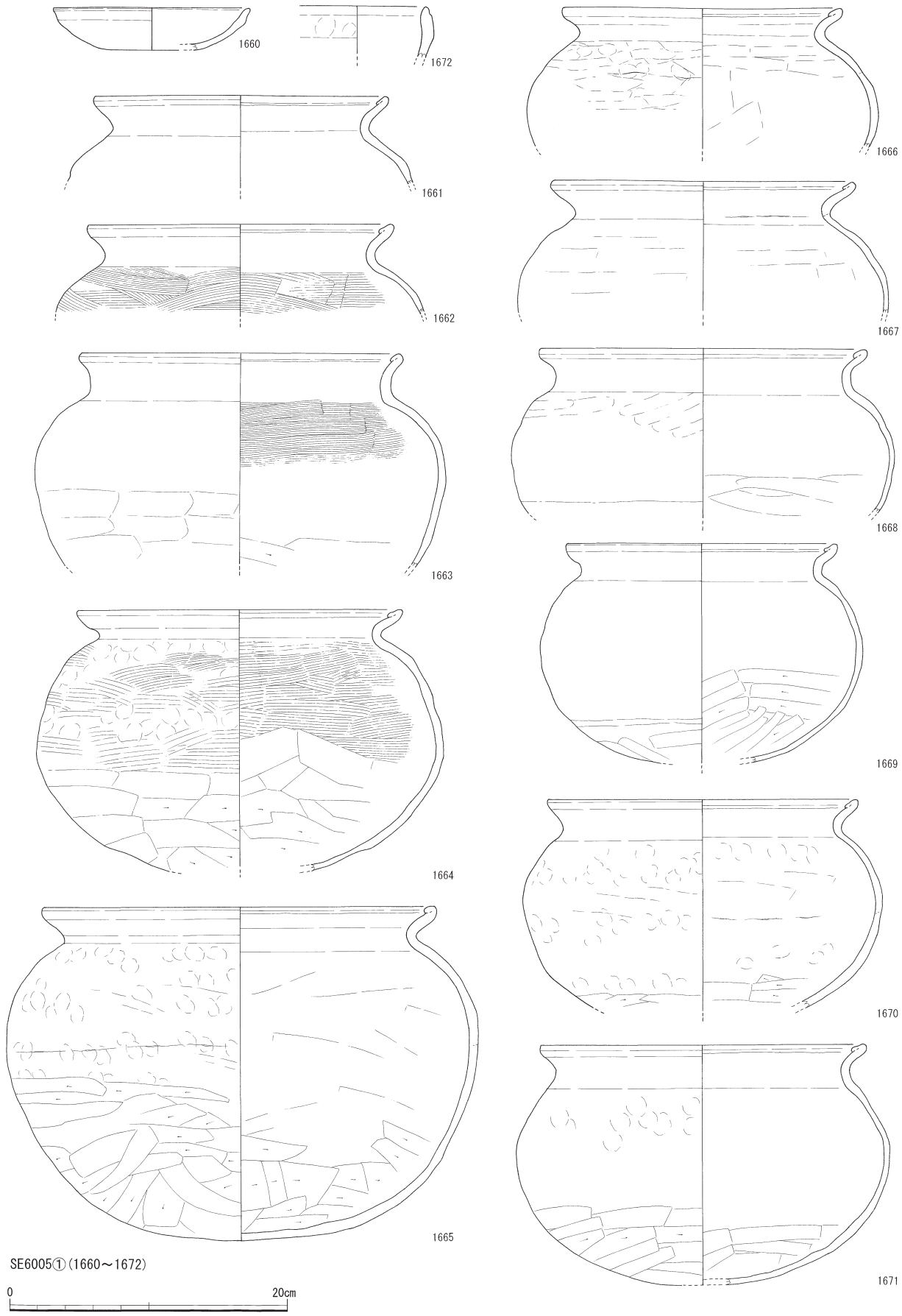
1717・1718は土師器鍋である。両者は大きさ、器形、調整、色調など非常に似通っているが、底部外面のケズリの範囲や体部中位の張り方などに若干の差異があり、別個体と思われる。

ＳＥ6199（第107図1719～1724）　1719～1724は山茶椀である。1719・1720は口縁部が外反する。1719～1721・1723は内面に炭化物が付着している。

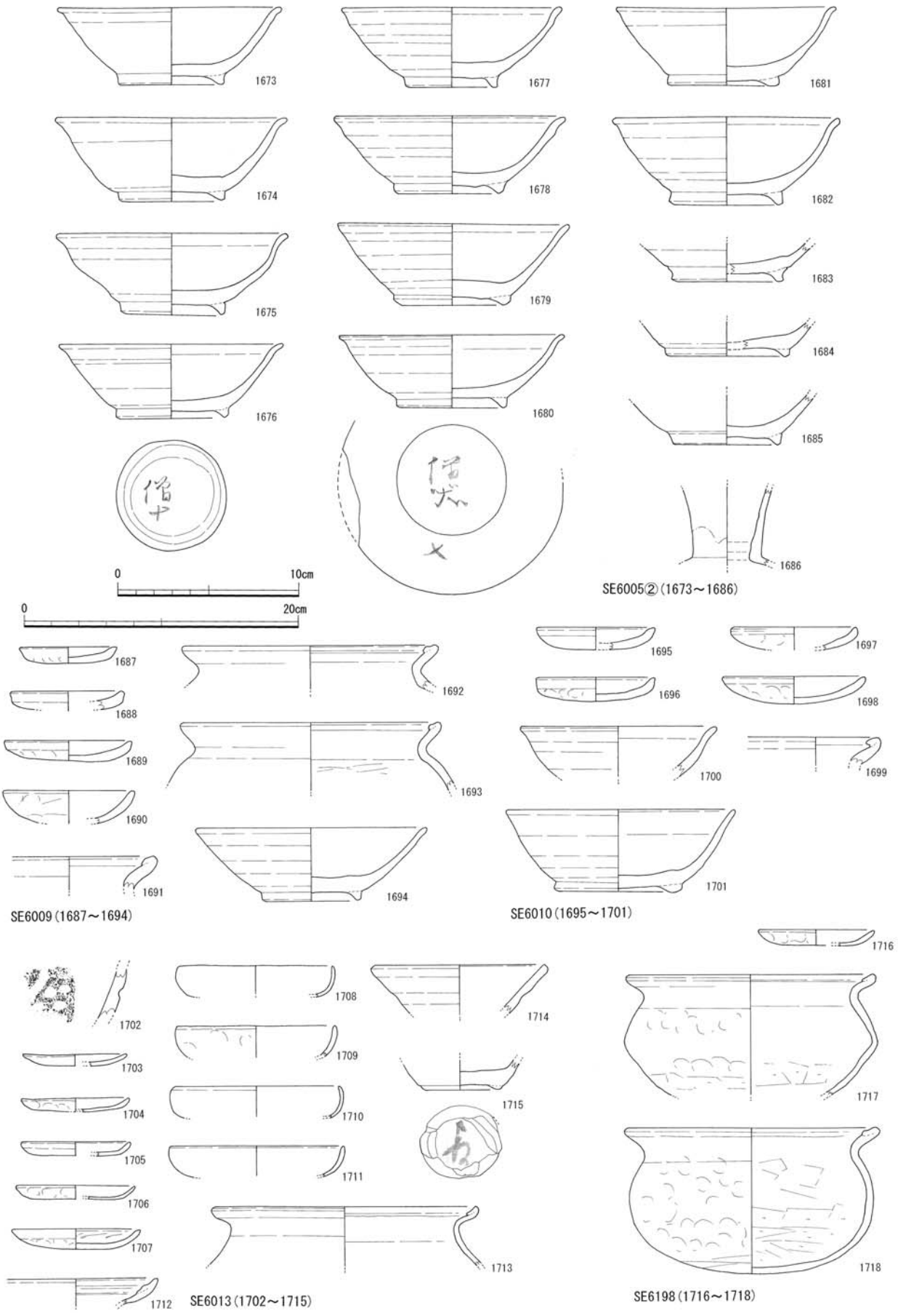
ＳＥ6202（第107図1725・1726）　1725は土師器皿、



第104図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図③(1/4)



第105図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図④(1/4)



第106図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑤(1/4、1702は1/3)

1726は山茶椀である。

ＳＥ6203（第107図1727）　1727は土師器甕である。小型のもので、口縁端部は面をなし、若干上方に摘まみあげられている。奈良時代に遡るものであろう。

ＳＥ6207（第107図1728・1729）　1728は土師器小皿である。

1729は青磁碗の底部である。高台内には施釉されていない。

ＳＫ6002（第107図1730～1735）　1730・1731は土師器皿である。1731は口縁部が外反するもので、1730より古く位置づけられる。

1732は土師器甕である。小型で、外面は粗いタテハケで調整されている。

1733～1735は山茶椀である。1734は底部と体部との境が明瞭に屈曲し、口縁部は直線的に外方へ開く。

ＳＫ6006（第107図1736～1740）　1736～1738は土師器鍋である。1738は口縁部が受口状を呈し、頸部の屈曲は緩い。

1739・1740は山茶椀である。底部と体部との境は明瞭に屈曲する。1739は口縁端部が面をなす。

ＳＫ6007（第107図1741～1750）　1741・1742は土師器皿である。1741は高杯の杯部の可能性もある。内面に暗文を施す。外面はケズリで調整されている。

1743～1745は甕である。いずれも口縁端部は面をなし、体部内外面は主にハケによって調整される。

1746・1747は志摩式製塩土器である。外面には指オサエの痕跡が残る。

1748・1749は須恵器杯蓋である。1748はやや高い宝珠摘まみを持つ。

1750は山茶椀の底部片である。

ＳＫ6025（第107図1751～1755）　1751～1754は山茶椀である。1751はやや小型で、高台は低平で粗雑である。1752は底部外面に「の」字状の墨書がある。

1755は陶器片口鉢の底部片と思われる。

ＳＫ6200（第108図1756～1769）　1756～1765は土師器小皿ないし皿である。

1766は土師器蓋である。茶釜の蓋の可能性があるが、やや大きい。上面中央に摘まみを付けている。摘まみ付近しか遺存しておらず、器形等は不明である。内外面に煤が付着している。

1767・1768は土師器鍋の口縁部片である。

1769は陶器広口壺である。口縁部は外反し、口縁端部は面をなす。

ＳＫ6204（第108図1770～1772）　1770は土師器小皿である。

1771は土師器茶釜蓋である。上面中央に半円形の摘まみを付けている。

1772は土師器甕である。口縁端部は面をなし、若干上方に摘まみあげられている。口縁部内面はハケによって調整され、その後ナデが施されている。

ＳＫ6205（第108図1773～1775）　1773～1775は土師器小皿ないし皿である。1775は口縁部付近で上方に屈曲し、外面にはヨコナデが施される。

ＳＫ6206（第108図1776・1777）　1776は土師器杯ないし皿である。外面に煤が付着する。

1777は土師器鍋の口縁部片である。

ＳＫ6208（第108図1778～1780）　1778は土師器鍋である。ほぼ全形が分かるものである。口縁部はやや受口状を呈し、頸部の屈曲は緩やかである。体部外面には指オサエの痕跡が顕著に残るが、下半部はケズリによって調整されている。

1779は山皿である。高台は持たず、底部外面には糸切痕が残る。

1780は山茶椀である。

ＳＫ6209（第108図1781）　1781は土師器小皿である。非常に浅い。

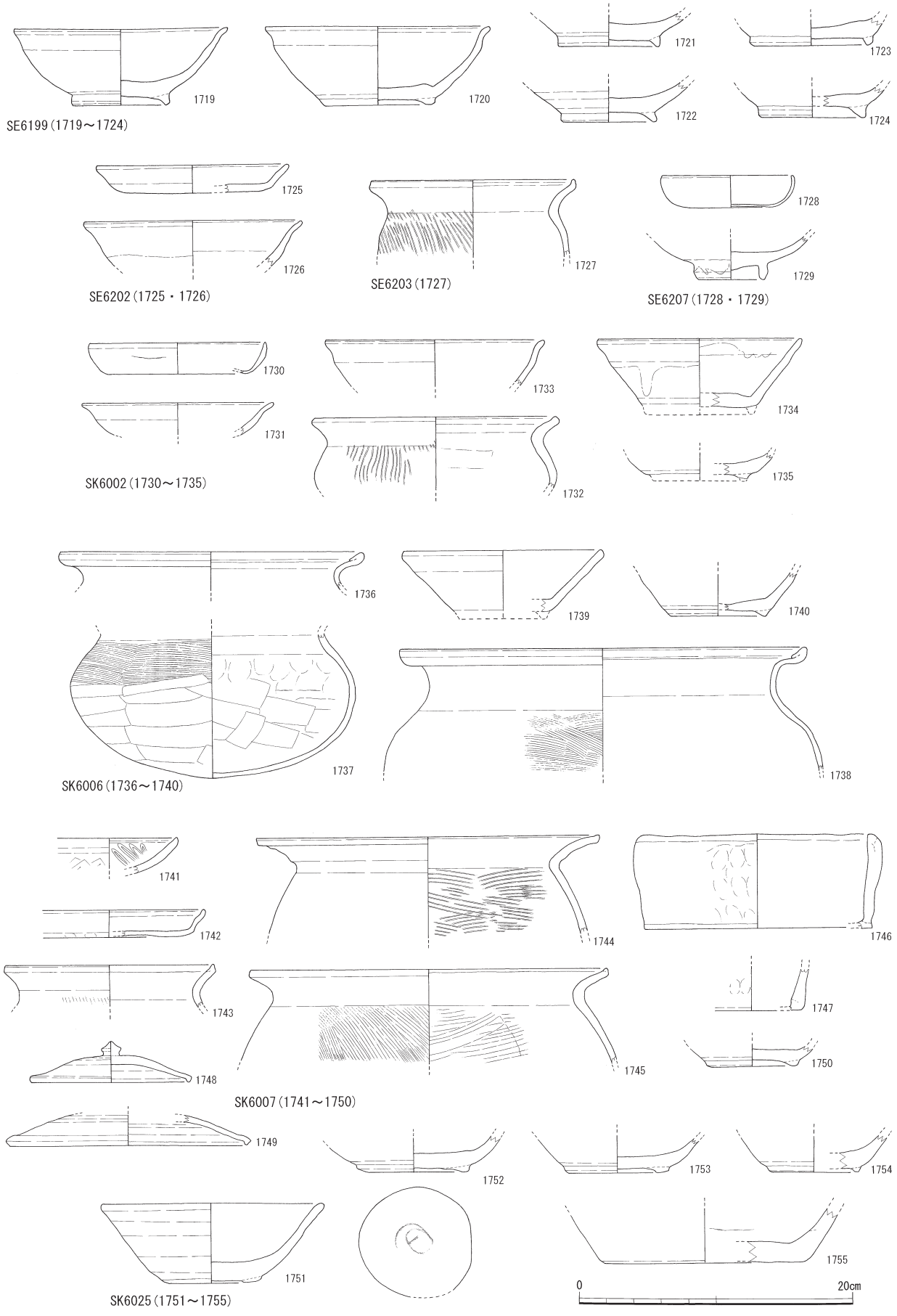
ＳＤ6008（第108・109図1782～1805）　1782～1798は土師器である。

1782～1787は杯ないし椀である。1782・1783は椀形に近い。やや粗雑なもので、1782の底部と体部との境付近には粘土接合痕が明瞭に残る。1785は底部と体部との境がやや明瞭に屈曲しており、口縁部内面には沈線状の凹みが認められる。

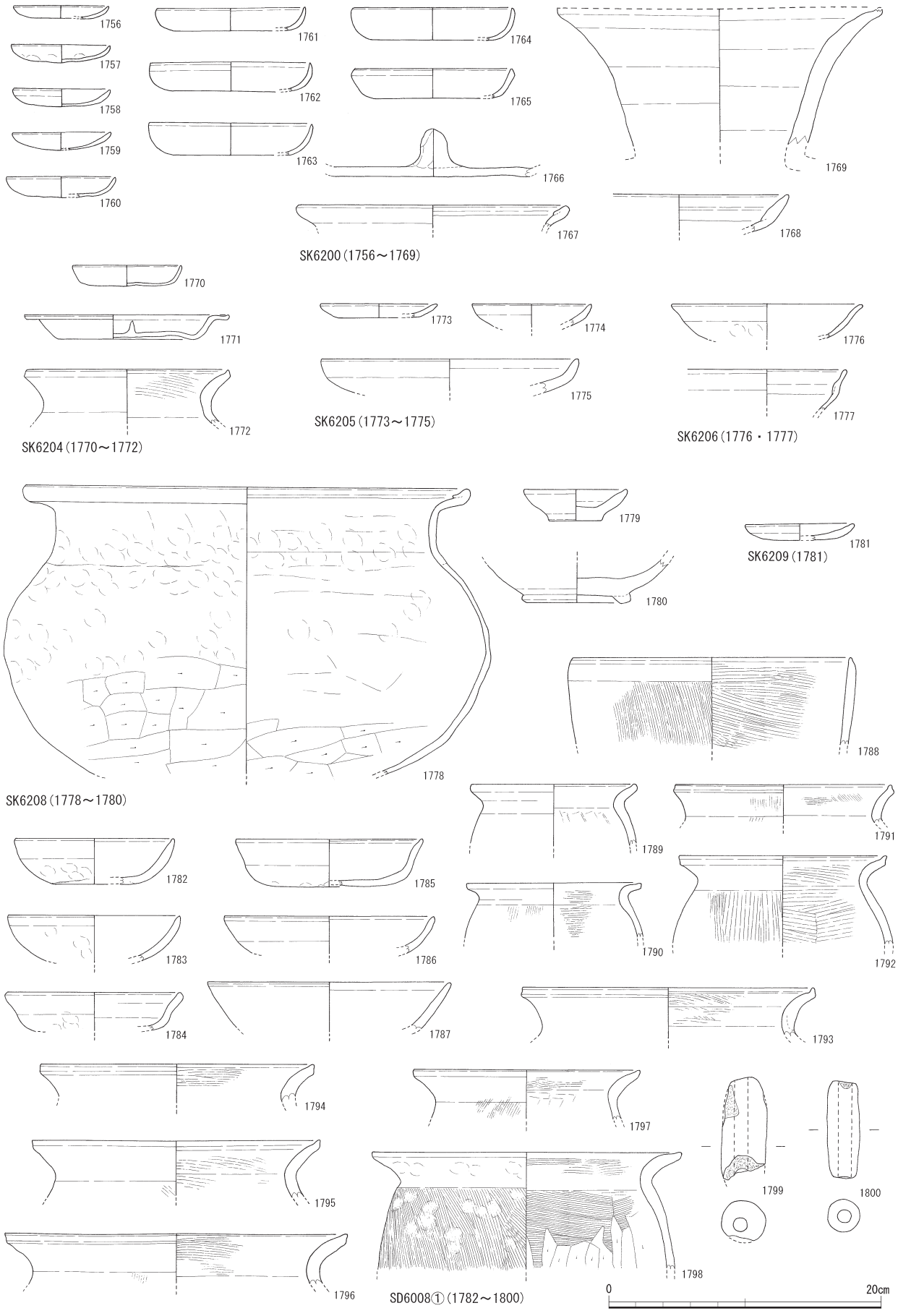
1788は甑の口縁部片である。内外面ともハケによって調整される。

1789～1798は甕である。いずれも口縁端部が面をなし、上方に摘まみあげられているものも目立つ。口縁部内面をハケで調整した後に、ヨコナデを施しているものが多い。1798は内面上半をハケで調整した後に、底部から頸部に向かってケズリを施している。

1799・1800は管状土錘である。1799はやや太身のもので、半分程度を欠損する。



第107図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑥(1/4)



第108図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑦(1/4)

1801～1803は須恵器杯身である。1801・1802は立ち上がりが矮小化している。1802は底部外面がヘラ切り無調整である。1803は立ち上がりがやや高く、口縁端部は不明瞭ながら段をなす。

1804は須恵器高杯の脚部片である。脚端部は面をなす。小片であり、透孔の有無は不明である。

1805は須恵器長頸壺である。体部はタタキによって成形されており、ナデによって消されているものの、一部にタタキ痕が残る。肩部の屈曲はシャープで、屈曲部に１条の沈線が巡らされている。

ＳＤ6012（第109図1806～1823）　1806～1819は土師器である。

1806～1808は杯ないし椀である。いずれも椀形に近く、やや粗雑なもので、指オサエの痕跡や粘土接合痕を明瞭に残している。

1809・1810は皿である。いずれも底部外面はケズリによって調整されている。1809の内面には暗文が施されている。

1811・1812は甑である。1811は口縁部付近で、口縁端部は外傾する面をなす。1812は底部片で、内面はケズリによって調整される。

1813～1817は甕である。1814のような小型のものと、1817のような大型のものがある。いずれも口縁端部が面をなし、やや上方へ摘まみあげられている。体部内外面は基本的にハケで調整されている。

1818は甕に比べて器高が低く、半球形の器形を呈するもので、鍋と思われる。体部内面は横方向の工具ナデによって調整されている。

1819は高杯の脚柱部である。外面にはハケが施されている。

1820～1823は須恵器である。

1820は杯である。高台を持つが、欠損している。

1821は高杯である。ほぼ完形であるが、杯部の歪みが非常に大きい。脚部に透孔はない。脚端部は面をなす。

1822は提瓶の口縁部と思われる。若干内湾し、口縁端部は丸く収められる。内面に何らかの物質が付着している。

1823は甕である。外面には平行タタキ、内面には同心円状の当て具痕が認められる。

ＳＤ6064（第109図1824）　1824は土師器甕ないし甑の把手である。上面はやや凹む。

ＳＤ6201（第109図1825～1828）　1825～1827は土師器杯ないし皿である。1825は口縁部に煤が付着し、灯明皿として使用されたと思われる。1826は風化が著しく、調整などは不明である。

1828は土師器甕である。内外面ともハケで調整されている。

ピット（第109図1829）　1829は須恵器杯蓋である。小型で、口縁端部は丸く収める。やや器高が高く、杯の可能性もある。

③江戸時代の遺構出土遺物

ＳＫ6014（第110図1830～1852）　1830～1836は土師器小皿ないし皿である。1830・1831などはかなり小型で丸底を呈する。1831・1834の口縁部には煤が付着する。

1837～1849は陶器である。

1837は小碗、1838は丸碗である。

1839～1841は摺絵皿である。いずれも見込に摺絵で花文等が施されている。1839の内面にはピン痕が残る。瀬戸・美濃産と思われる。

1842は木瓜形の型打皿である。二次的に被熱している。

1843は片口である。口縁部は内側に玉縁状に肥厚する。片口部はほぼ欠損している。

1844は擂鉢である。口縁部は受口状に屈曲する。擂目は幅広で、やや密に施される。

1845は甕である。焼き締め陶器で、口縁部断面がＹ字形を呈する。常滑産と思われる。

1846は仏餉具である。

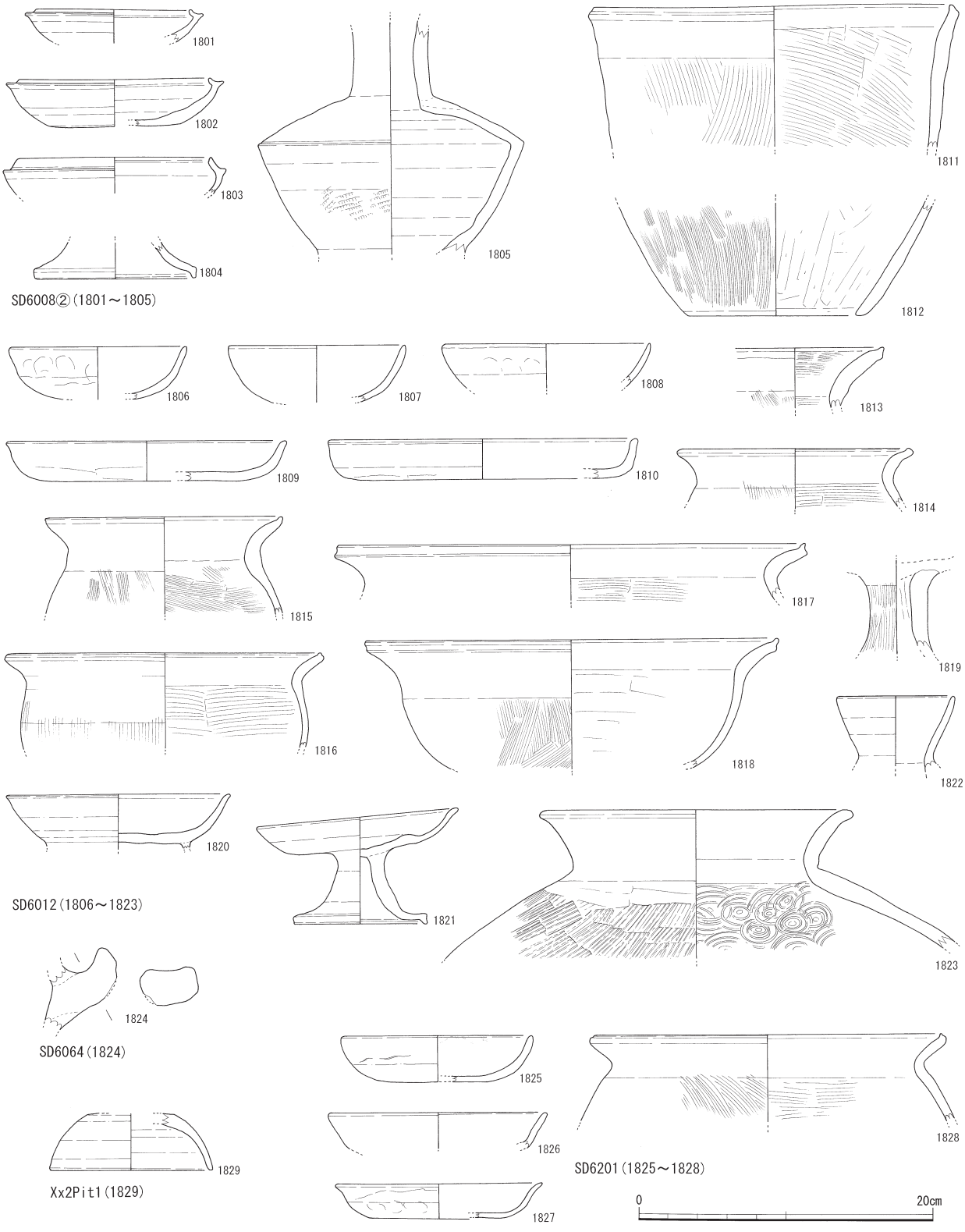
1847は鬢盥である。外面には摺絵で文様が施されている。

1848・1849は花瓶と思われる。同一個体の可能性が高い。頸部には渦巻状の文様を施した円板を２箇所に貼り付けている。口縁部には煤が付着しており、二次的に被熱した可能性がある。

1850～1852は磁器である。

1850は小杯である。無文である。釉に発泡した箇所が認められることから、二次的に被熱していると思われる。

1851は染付丸碗である。外面に紅葉文と思われる文様が描かれる。また、底部外面には銘款がある。



第109図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑧(1/4)

第110図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑨(1/4、1853は1/3)

一部しか遺存していないが、「大明年製」の可能性がある。肥前産と思われる。

1852は染付広東碗の底部片である。二次的に被熱している。

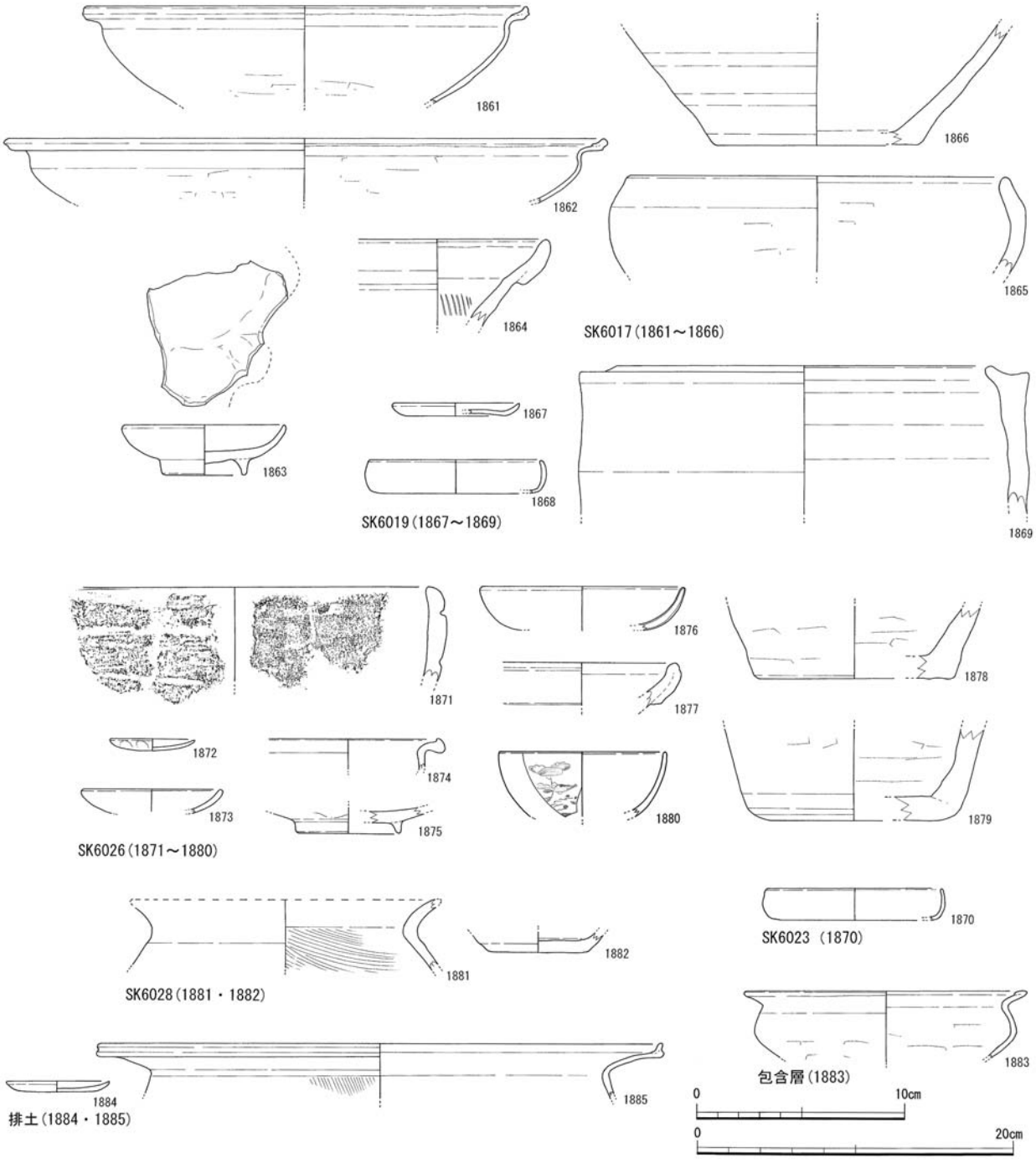
ＳＫ6016（第110図1853～1860）　1853は縄文土器である。口縁部片で器形は不明であるが、平口縁の無文浅鉢と思われる。内外面ともヨコミガキによって調整されている。

1854・1855は土師器小皿ないし皿である。1854はかなり小型で浅い。

1856～1860は陶器である。

1856は摺絵皿である。見込に紅葉文が摺絵によって施されている。二次的に被熱している。

1857は木瓜形の型打皿である。大きさ、器形、釉などＳＫ6014出土の1842と類似しており、元はセットをなしていた可能性がある。



第111図　６次６区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑩（1/4、1871は1/3）

1858は擂鉢である。口縁部は受口状に屈曲している。瀬戸・美濃産と思われる。

1859は火鉢である。焼き締め陶器で、外面はケズリによって調整される。常滑産の赤ものと思われる。

1860は壺である。口縁部は外方へ折り返され垂下する。

ＳＫ6017（第111図1861～1866）　1861・1862は土師器焙烙である。1862は口縁端部を内側に折り返して肥厚させている。

1863～1866は陶器である。

1863は木瓜形の型打皿である。口縁部がほとんど遺存していないため、器形は判然としないが、ＳＫ6014出土の1842やＳＫ6016出土の1857などと類似するものと思われる。

1864は擂鉢である。口縁部は外側へ折り返して肥厚させており、やや受口状を呈する。

1865は火鉢である。口縁部はやや内湾する。

1866は甕である。焼き締め陶器で、常滑産と思われる。

ＳＫ6019（第111図1867～1869）　1867・1868は土師器小皿ないし皿である。

1869は焼き締め陶器で、体部から口縁部にかけてまっすぐ立ち上がっており、無頸の砲弾形の器形を呈するものと思われる。常滑産の赤もので、口縁部断面がＹ字形を呈しており、小型の甕である可能性が高い。

ＳＫ6023（第111図1870）　1870は土師器皿である。口縁部の小片である。

ＳＫ6026（第111図1871～1880）　1871は縄文土器深鉢である。平口縁と思われる。口縁部直下には沈線を２条施し、沈線間には横方向の条線状の文様が施されている。

1872・1873は土師器小皿、1874は土師器焙烙の口縁部小片である。

1875～1879は陶器である。

1875・1876は皿で、いずれも灰釉が施されている。1875は見込にわずかに摺絵と思われる文様が遺存しており、摺絵皿の可能性が高い。

1877は擂鉢の口縁部小片である。

1878・1879は壺の底部と思われる。焼き締め陶器で、外面はケズリないし工具ナデで調整されている。

1880は磁器染付丸碗である。

ＳＫ6028（第111図1881・1882）　1881は土師器甕である。口縁端部は欠損する。

1882は山茶椀の底部片である。高台は持たない。

包含層（第111図1883）　1883は土師器鍋である。小型で浅い。

排土（第111図1884・1885）　1884は土師器小皿である。かなり浅く、口縁端部外面に強いヨコナデを施す。

1885は土師器鍋である。

（５）６次７区上層・７次４区

①縄文時代の遺構出土遺物

ＳＤ6049（第112図1886～1896）　1886～1896は縄文土器深鉢である。

1886は横方向の隆帯を貼り付け、その下に沈線で渦文を描く。不鮮明であるが、隆帯上には縄文が施されているようである。

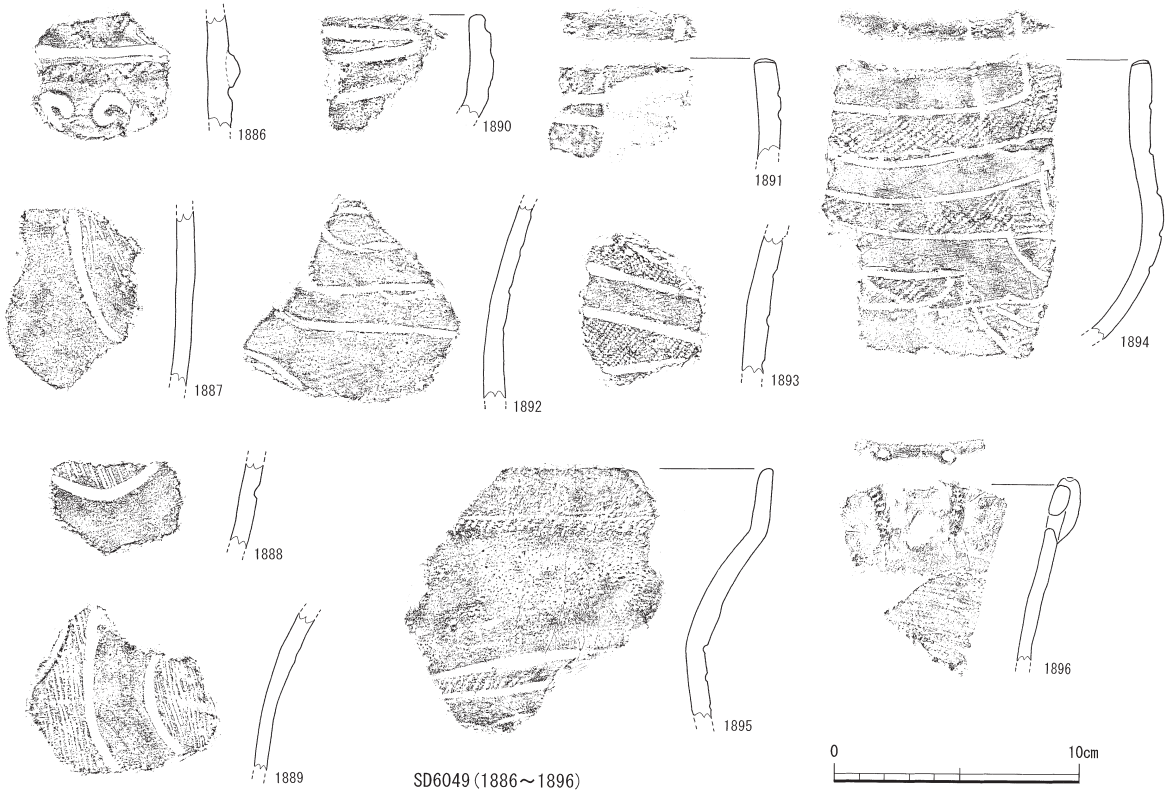
1887～1889は体部片で、やや太い沈線で縦方向に曲線的な区画を描き、その内部を条線で充填する。胎土・焼成等が類似しており、同一個体の可能性もある。1889からみて、頸部から口縁部にかけて外反する器形を呈するものと思われる。

1890・1891は口縁部片で、口縁部直下に沈線で横方向の文様を施す。1891は口縁端部にも沈線が及んでいる。

1892～1894はやや細めの沈線で区画した磨消縄文を施文している。文様はいずれも横方向に展開する。1894は平口縁で、浅鉢とも考えられる器形を呈し、３段程度の磨消縄文帯が認められる。Ｊ字状の文様をもつ可能性もある。最上段の磨消縄文帯は口縁部よりやや下に施されているが、部分的に口縁部・口縁端部まで及ぶ箇所がある。

1895は平口縁で、口縁部が屈曲して受口状を呈する。小片のため、口縁部はもう少し外方へ開く可能性もある。口縁部の屈曲部外面には、貝殻腹縁による連続刺突が施されている。頸部にも二条の沈線の間に、擬縄文として貝殻腹縁による連続刺突が施されている。

1896は平口縁であるが、口縁部外面に縦方向の棒状浮文が貼り付けられている。浮文の背部には刻目



第112図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図①(1/3)

を施しており、また上面に円形の刺突が施されている。図化したのは１破片のみで、これには２箇所の浮文が遺存しているが、他に２点の破片があり、いずれにも２箇所ずつ同様の浮文が遺存しているため、本来は口縁部を全周するように多数の浮文が貼り付けられていた可能性が高い。体部の内外面は条痕により調整されている。なお、図化した破片には浮文間に焼成後穿孔が認められるが、他の破片には認められない。

②平安時代～室町時代の遺構出土遺物

ＳＥ6035（第113図1897～1903）　1897～1901は土師器小皿ないし皿である。1898～1901は体部から口縁部にかけて緩やかに内湾する。

1902は山茶椀の底部片である。

1903は陶器片口鉢である。外面の底部付近は横方向のケズリによって調整されている。

ＳＥ6041（第113図1904～1909）　1904は縄文土器深鉢である。波状口縁で、波頂部は肥厚する。口縁部付近は無文となり、口縁部より若干下に二条の沈線による文様帯を配し、その内部に部分的に縦方向の条線を施す。

1905は土師器皿である。口縁部外面に強いヨコナデを施す。底部外面にはススが付着する。

1906は土師器甕の口縁部片である。

1907～1909は山茶椀である。1907は高台を欠損している。

ＳＥ6042（第113図1910～1915）　1910は土師器皿である。

1911・1912は土師器鍋の口縁部片である。やや受口状を呈する。

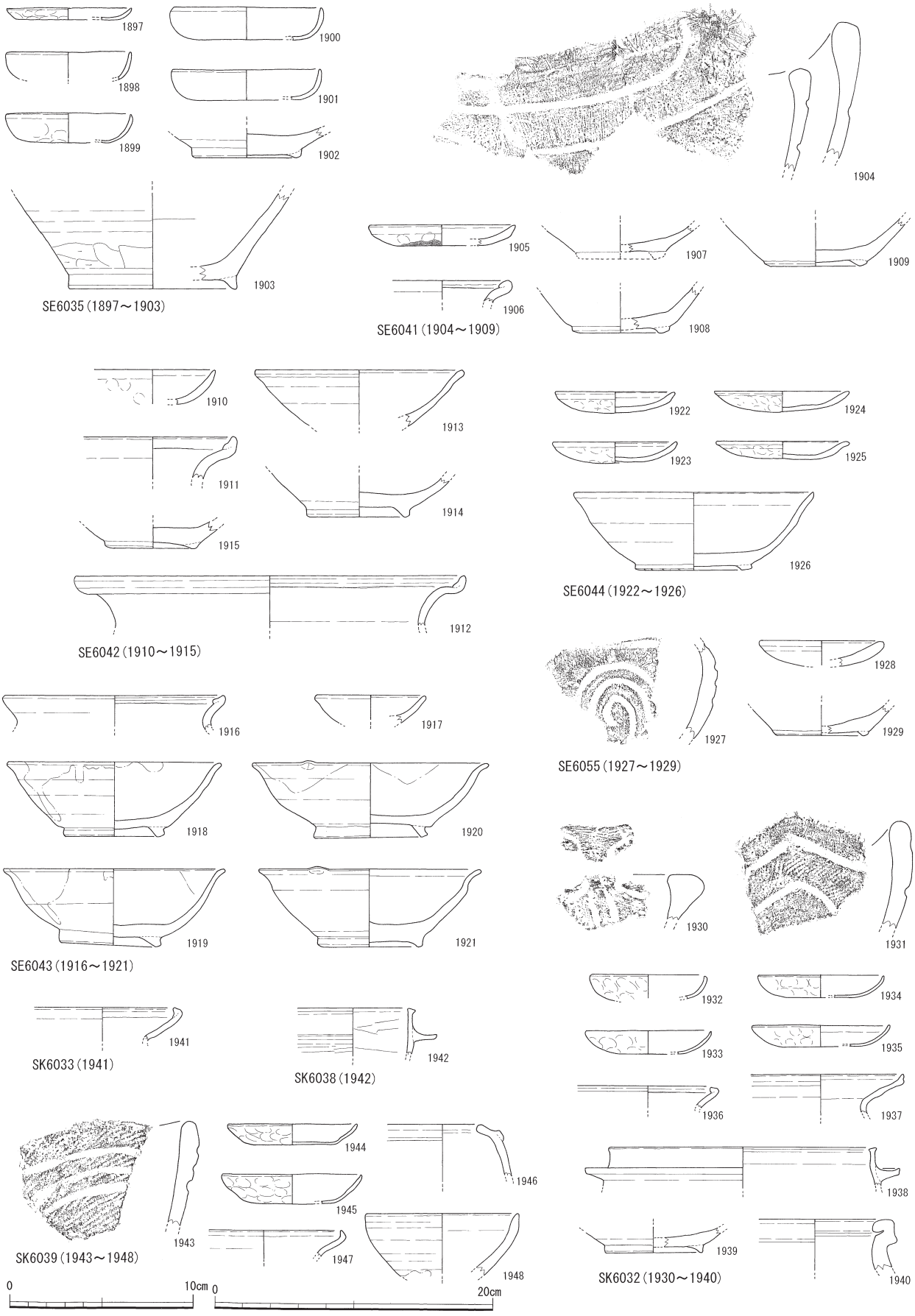
1913～1915は山茶椀である。1914は内面が使用により摩耗する。

ＳＥ6043（第113図1916～1921）　1916は土師器甕である。

1917は山皿である。

1918～1921は山茶椀である。いずれも口縁部は明瞭に外反し、口縁端部を丸く収める。1920・1921は口縁部に輪花がみられる。

ＳＥ6044（第113図1922～1926）　1922～1925は土師器小皿である。1925は口縁部がやや外反する。1924・



第113図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図②(1/4、1904・1927・1930・1931・1943は1/3)

1925は井戸枠内から出土している。

1926は山茶椀である。

ＳＥ6055（第113図1927～1929）　1927は縄文土器深鉢である。内湾しており、キャリパー形の器形を呈するものと思われる。沈線による渦巻文が施されている。

1928は土師器小皿である。器壁がかなり厚く、口縁端部は丸く収められている。

1929は山茶椀である。やや小型化したもので、高台も矮小化している。

ＳＫ6032（第113図1930～1940）　1930・1931は縄文土器深鉢である。いずれも波状口縁の波頂部の破片で、1930は口縁部直下に沈線による文様を施している。また、口縁端部を拡張して面を作り、その部分にも文様を施す。1931は口縁部直下に沈線で画した磨消縄文帯を巡らせる。

1932～1938は土師器である。

1932～1935は小皿、1936・1937は鍋である。

1938は羽釜である。小型で、口縁部はほぼ直立する。口縁端部は面をなす。

1939は山茶椀の底部片である。

1940は陶器甕である。口縁部は内側へコ字状に折り返され、肥厚している。

ＳＫ6033（第113図1941）　1941は土師器鍋の口縁部片である。口縁端部は上方に摘まみあげられている。

ＳＫ6038（第113図1942）　1942は土師器羽釜である。小型のものと思われる。口縁部はほぼ直立し、口縁端部は面をなす。鍔は口縁部付近に貼り付けられている。

ＳＫ6039（第113図1943～1948）　1943は縄文土器深鉢である。浅い波状口縁である。外面には全体に縄文が施されており、その上から３条の沈線が施されている。

1944～1947は土師器である。

1944・1945は小皿である。器壁は薄く、底部と体部との境が明瞭に屈曲する。外面には指オサエの痕跡が明瞭に残る。

1946は羽釜、1947は鍋の口縁部小片である。

1948は鉄釉が厚く施された陶器で、天目茶碗の可能性もあるが、口縁部が外反しないことから丸碗と思われる。

ＳＫ6040（第114図1949～1951）　1949～1951は土師器鍋である。いずれも口縁端部を上方に摘まみあげている。1950は口縁部がやや短い。

ＳＫ6119（第114図1952・1953）　1952は土師器小皿ないし皿の小片である。

1953は山茶椀の底部片である。

ＳＤ6012（第114～122図1954～2311）　1954～2180は土師器・黒色土器である。

1954～2005は小皿ないし杯・皿である。1963や1982のように、多くは体部と口縁部との境が屈曲し、口縁部が外反する。底部外面には指オサエの痕跡が明瞭に残る。1989・1991などは口縁部に煤が付着しており、灯明皿として使用されたものと思われる。1960・1961・1969などは形態が異なり、器壁がかなり薄い。1955・1958・1959などは器壁が薄く体部から口縁部にかけて内湾する。これらはやや新しいものである。1998～2005のように、線刻や墨書があるものも目立つ。1999は「買」、2001は「承平」、2002は「南（？）平」、2004は「長」の文字が判読できる。

2006～2031は杯ないし皿である。底部と体部との境の屈曲がやや明瞭で、2014・2023・2025のように口縁端部内面に沈線状の凹みがみられるものもある。底部外面には指オサエの痕跡が残るものがほとんどであるが、2021はケズリによって調整している。2025～2031のように線刻や墨書があるものも目立つ。2025は底部外面に「井」字状の線刻がある。2026の線刻は一部しか遺存しないが「木」の可能性がある。2028は「流」、2029は「林家」、2030・2031は「木」の文字が判読できる。

2032～2050は皿である。2032・2033のように、口縁部が強く外反するものと、2047・2048のように口縁部が短く直立するもの、2049・2050のように底部から口縁部にかけて緩やかに内湾するものがある。底部外面には指オサエの痕跡が明瞭に残るが、2050はケズリによって調整している。2049は内面に暗文が施されている。2049・2050は線刻がみられるが、一部しか遺存していない。

2051～2057は小型の杯ないし椀である。半球形の浅い椀形を呈し、口縁端部は丸く収める。外面に粘

土接合痕が残るものが多く、やや粗雑なものである。2054・2055は底部内面に３本の線からなる線刻がみられる。2056は底部外面に同じく３本の線と思われる墨書がある。2057は１本線の墨書がある。線刻や墨書は、他の器種に比べると単純なものが主体となっている。

2058～2068はやや大型の杯ないし椀である。粗雑なもので、体部外面には指オサエの痕跡が明瞭に残るものが多い。底部と体部との境で緩やかに屈曲するものもみられる。2059・2061・2065などは口縁部が外反する。

2069は蓋である。内外面に暗文が施されており、2070～2077のような杯ないし椀の蓋と思われる。摘まみは欠損している。

2070～2077は内面に暗文を施す杯ないし椀である。2070・2071のように小型で浅い椀形を呈するものや、2076・2077のように深いものがある。2071・2074・2076・2077など、螺旋状の暗文を施すものが目立つ。2073・2077などは外面に指オサエの痕跡を残すが、2074は外面下半をケズリによって調整している。

2078・2079は黒色土器椀である。内面のみが黒色化されている。いずれも外面は横方向のケズリによって調整している。内面はヨコミガキによって調整されており、その上から暗文が施されている。

2080～2082は杯や椀、皿などと思われる底部片で、線刻がみられるものである。2080は「木」の文字が線刻されている。

2083は皿の底部片であると思われるが、焼成後に５箇所に穿孔がなされている。小片のため、本来はさらに多くの孔があけられていたものと考えられる。また、墨書と思われる痕跡もみられる。用途は不明であるが、平城京跡で類例がみられ、甑の底として転用されたものと推定されているが(3)、2083は器壁が薄いことから、別の用途の可能性もある。

2084～2092は杯や椀、皿などの底部片で、墨書がみられるものである。いずれも小片で器種や墨書の内容は不明である。2088には焼成後穿孔の痕跡も残る。

2093は台付椀である。高台はやや高く、ハ字状に開く。

2094・2095はロクロ土師器の椀である。2095は底部外面に糸切痕が残る。

2096～2099は高杯である。2096は杯部で、内面に螺旋状の暗文を施す。外面はケズリによって調整される。2097～2099は脚部で、2097は外面にタテハケを施す。また、数箇所に直線文状にヨコハケを施している。2098は外面に指オサエの痕跡が明瞭に残る。2099は低脚のもので、高杯というより台付盤と呼ぶべきかもしれない。外面にはタテハケを施した後に、横方向に沈線を巡らせている。

2100・2101は甑である。2101は内外面をハケで調整するが、外面のハケは内面のハケに比べて粗い。また、口縁部付近は強いヨコナデによってハケが消されている。

2102は竈である。前面に設けられた逆Ｕ字形の焚き口部分の縁の破片で、やや庇状に反る。

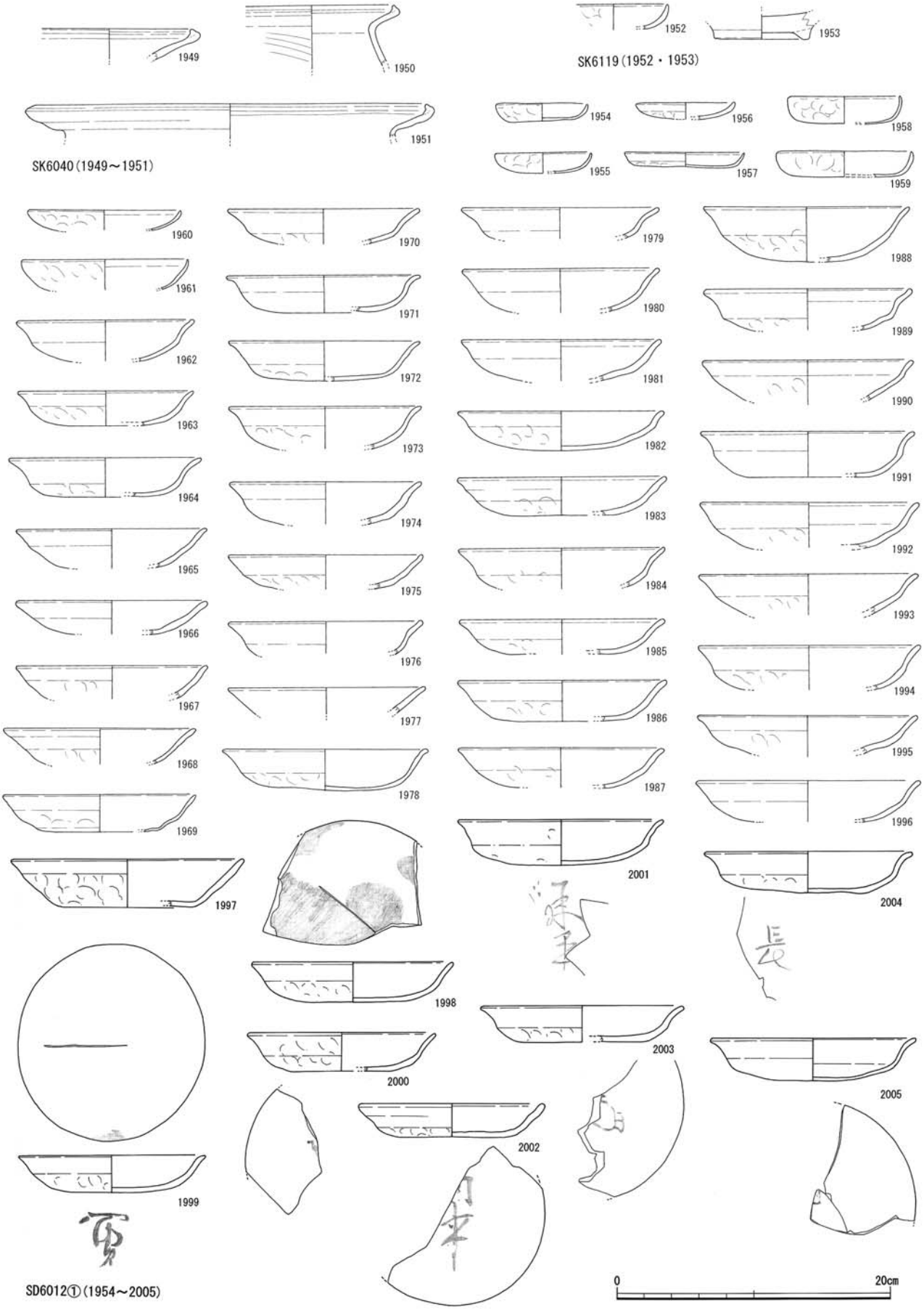
2103・2104は茶釜蓋である。上面中央に摘まみが付くと思われるが、いずれも欠損している。口縁端部はナデによって面をなす。

2105～2109は茶釜である。2109はほぼ全形が分かるもので、肩部に耳状の把手が２箇所貼り付けられている。体部はほぼ球形を呈し、内外面ともハケを施した後に、底部付近をケズリによって調整している。2108は口縁端部が内側へ摘まみ出されて肥厚し、肩部には流線文状のハケが、文様のように施されている。

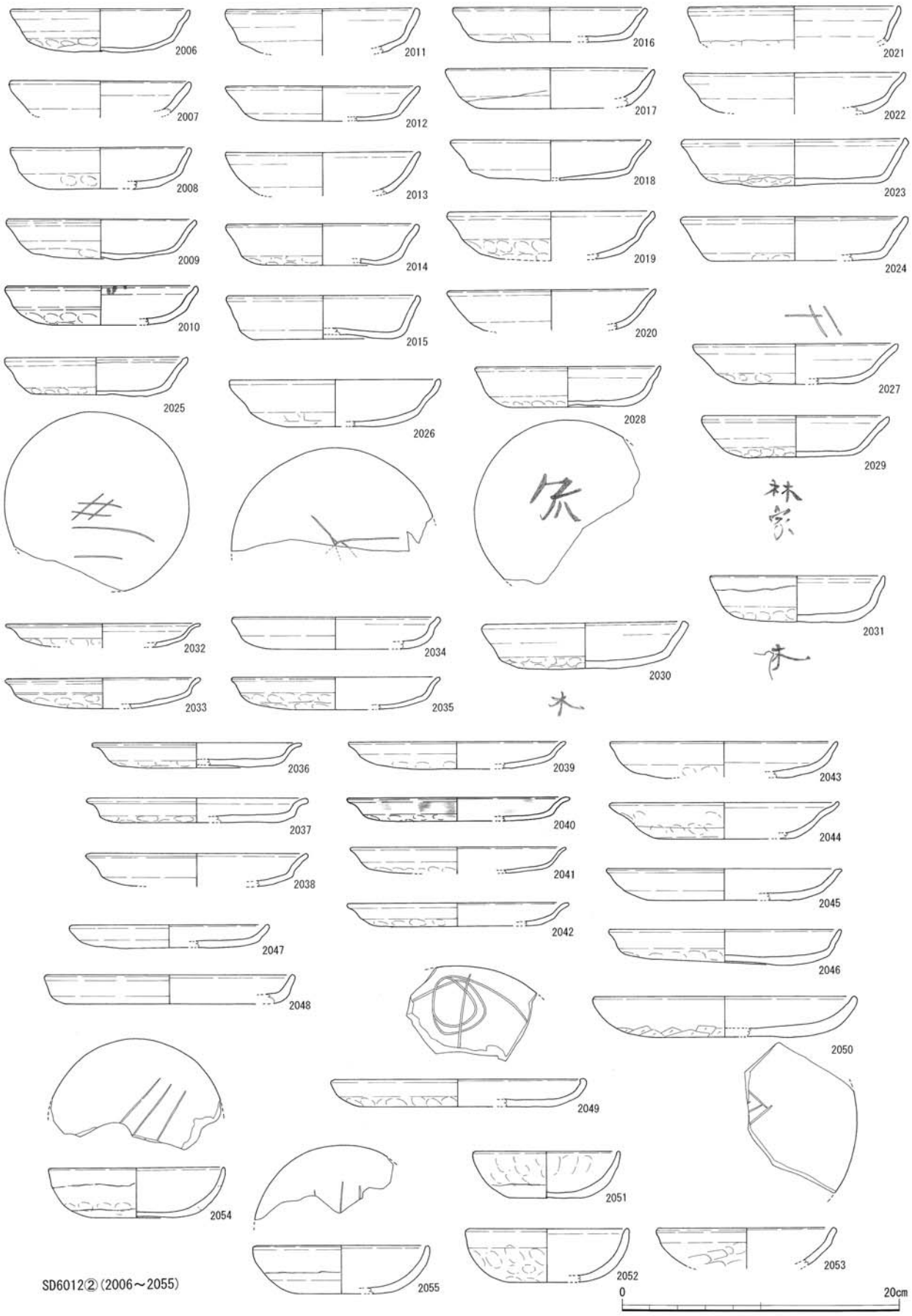
2110は羽釜である。体部から口縁部にかけて緩やかに内湾する。口縁端部は外方に折り返されて帯状に肥厚する。

2111～2118は鉢ないし鍋である。体部は甕よりも浅く、肩や胴が張らない。口縁端部はいずれも内傾する面をなし、やや上方に摘まみ出される。底部は2116や2117のように明瞭な平底になる。体部外面はタテハケを施した後に、下半を横方向のケズリによって調整する。2115以外は煤の付着が明瞭ではなく、鍋として煮沸に使われた痕跡は薄い。

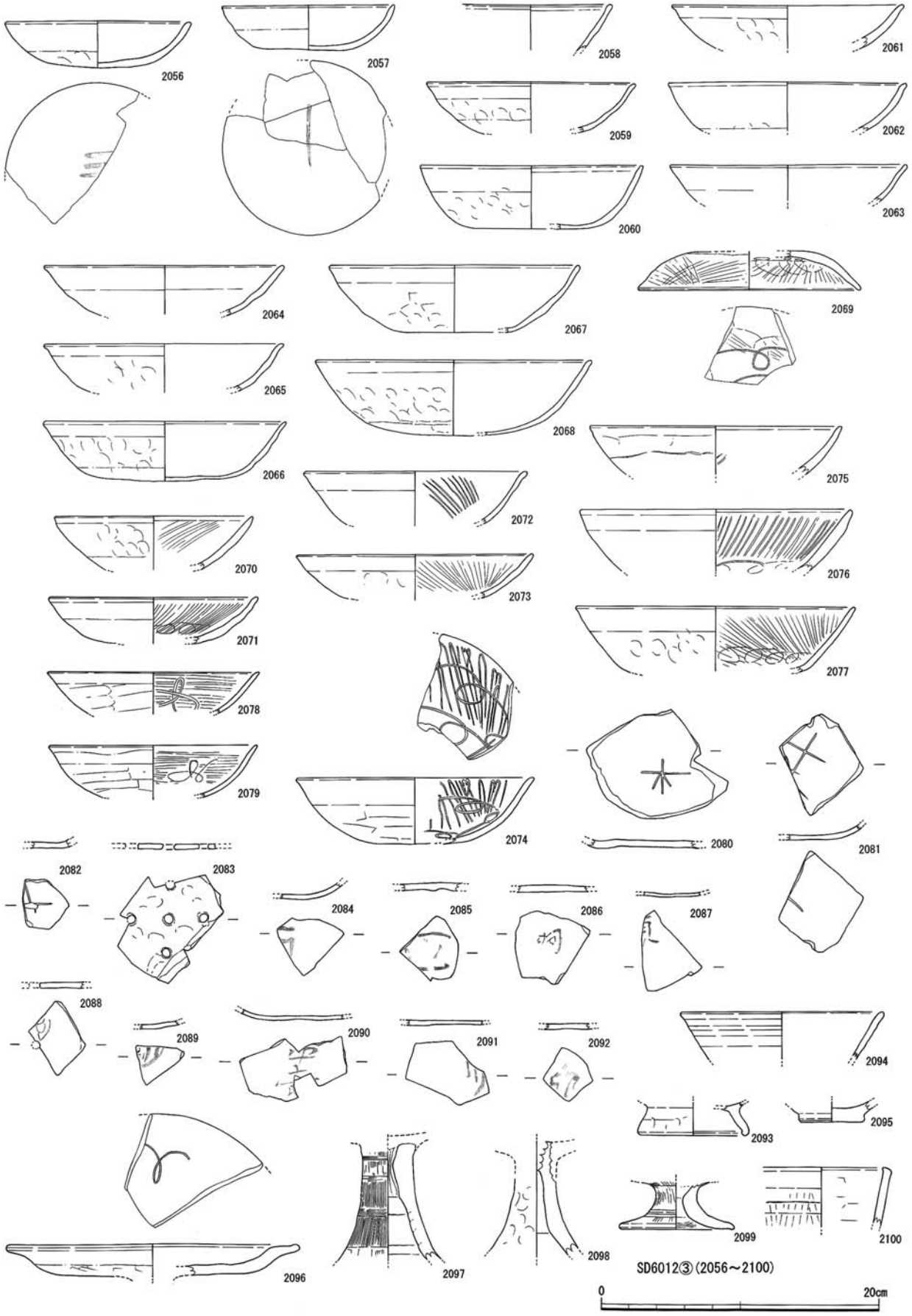
2119～2165は甕である。2119や2120のように口縁端部が内傾する面をなし、やや上方へ摘まみ出されるものが多いが、2143・2144のように内側へ折り返して肥厚させるものもみられる。体部外面には上半部を中心にタテハケが施される。底部まで残る個体



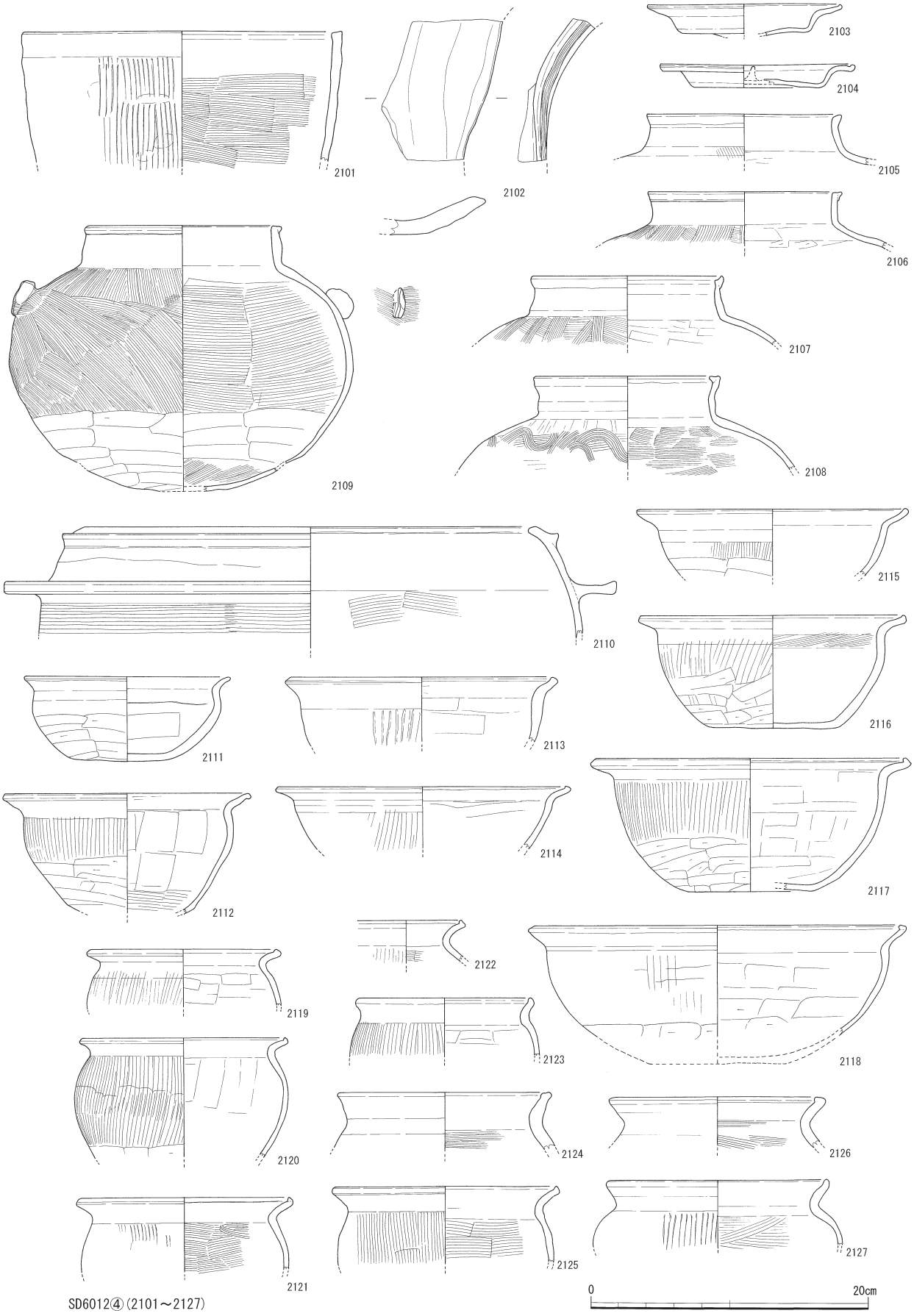
第114図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図③（1/4）



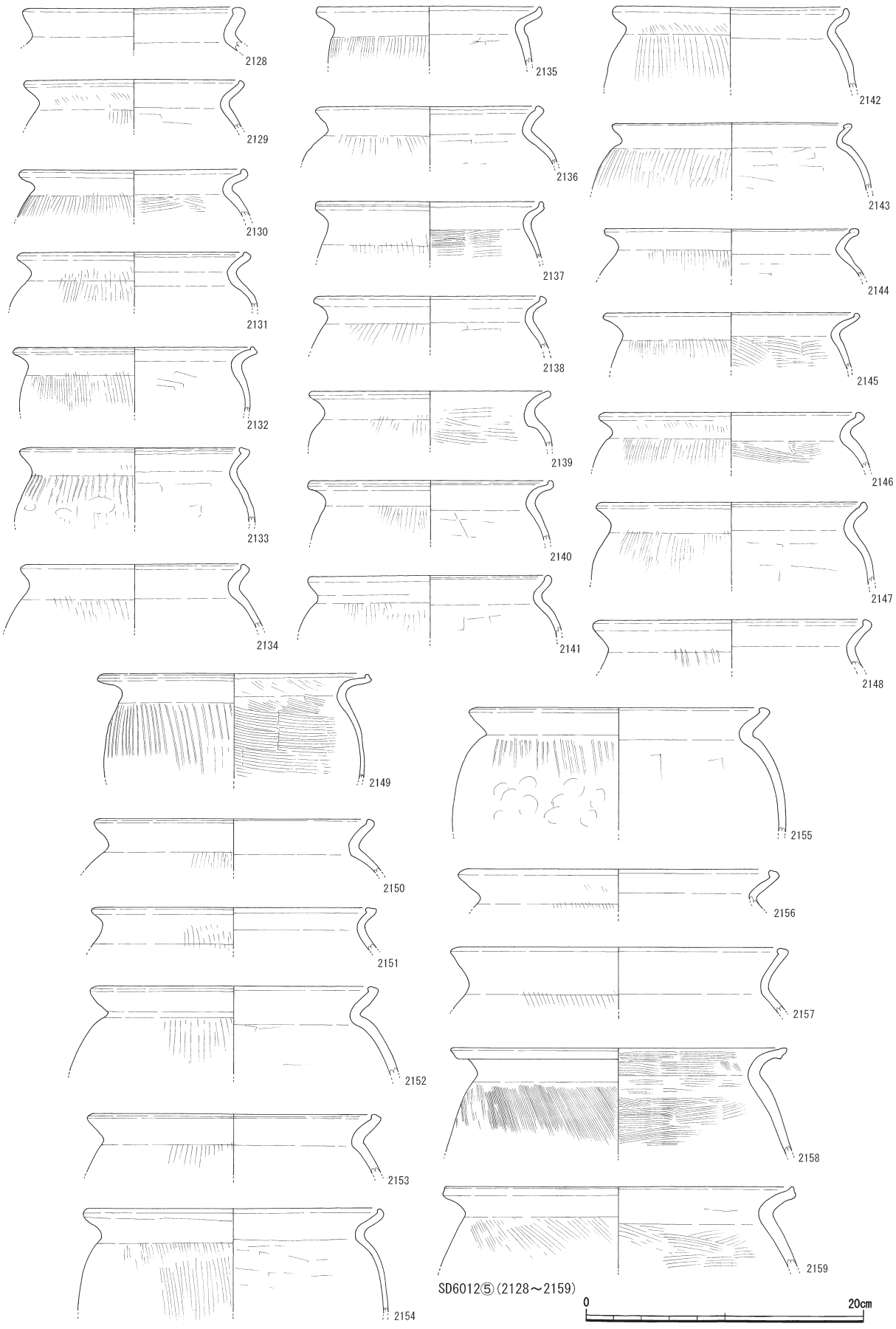
第115図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図④(1/4)



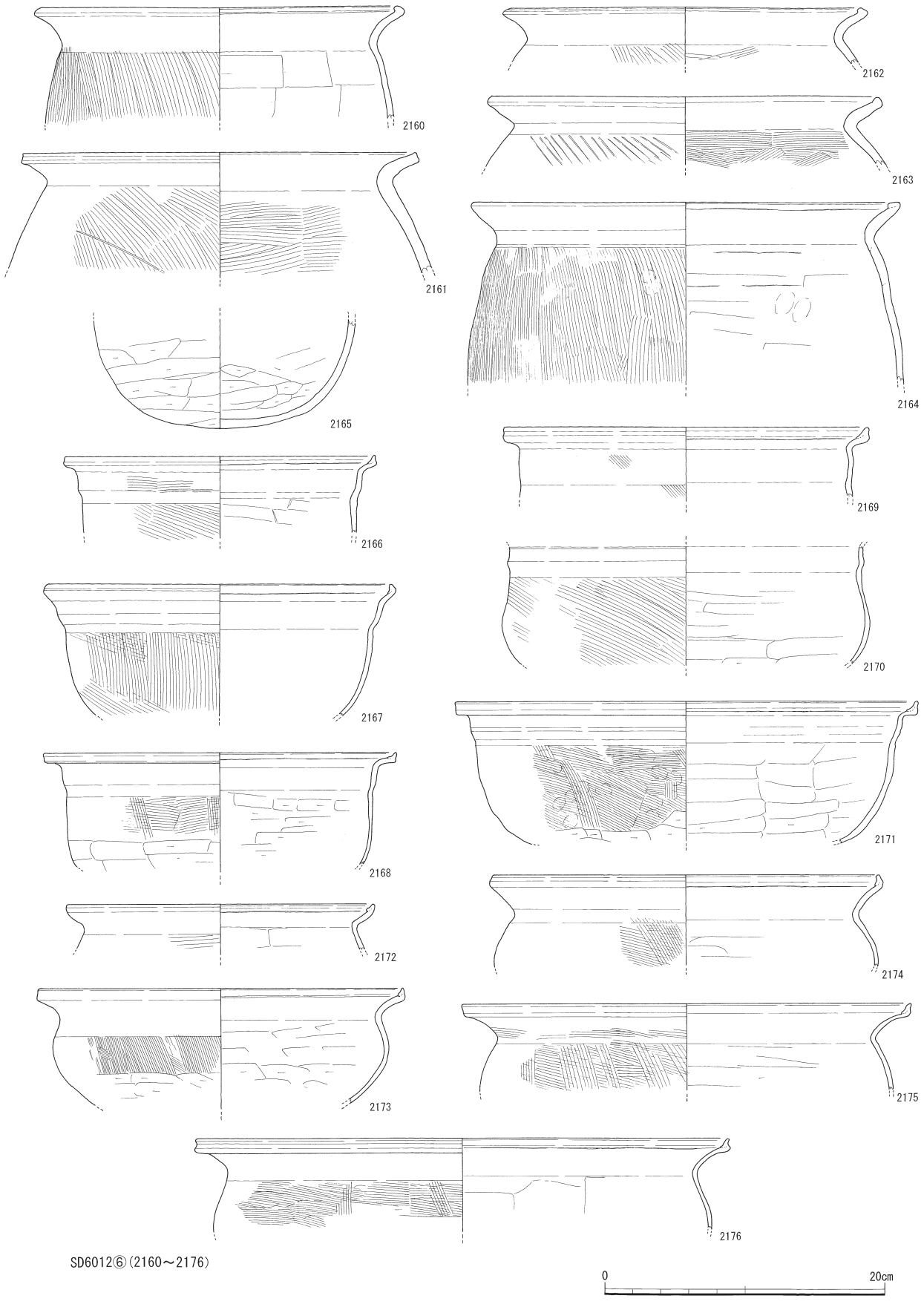
第116図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑤(1/4)



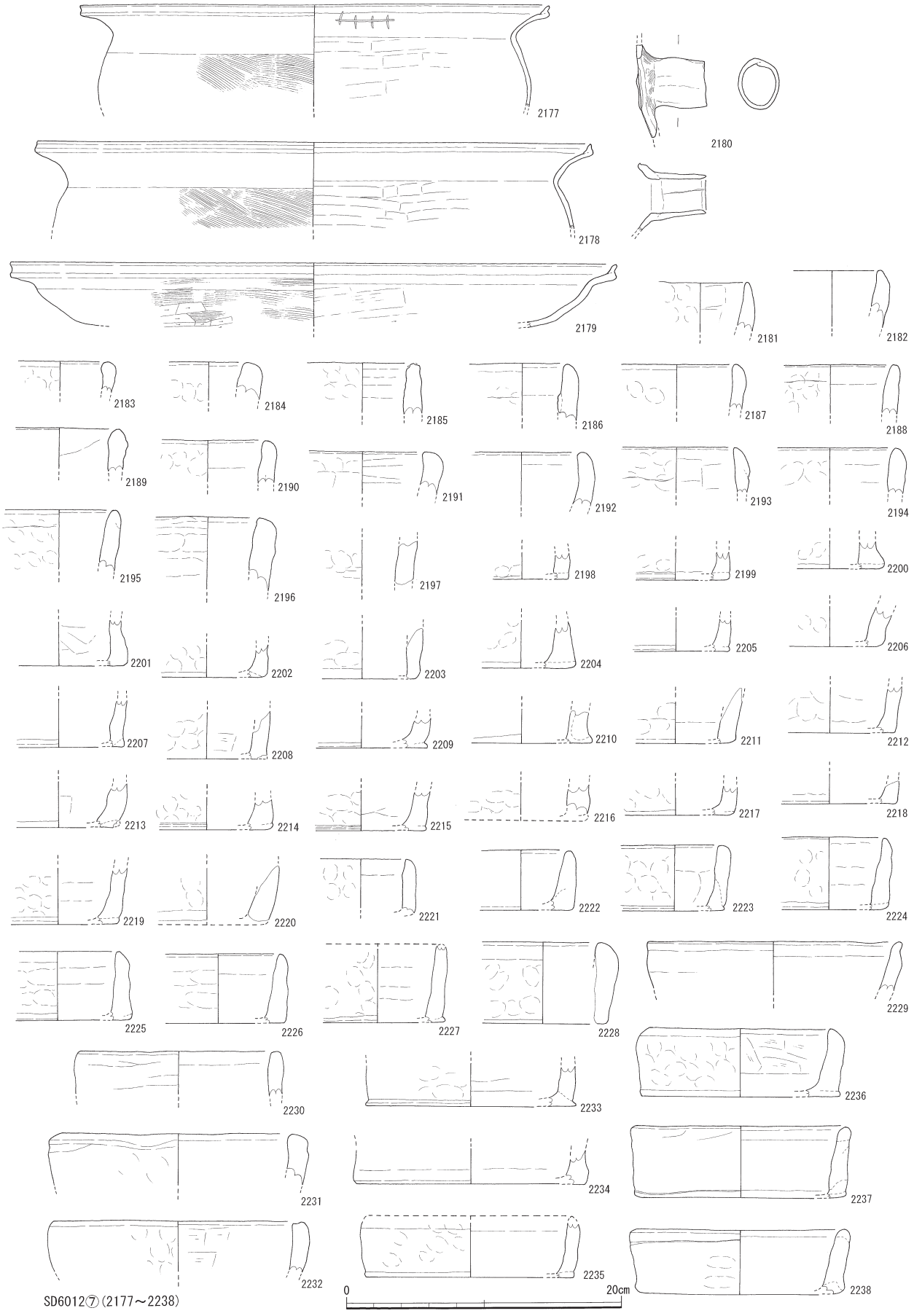
第117図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑥(1/4)



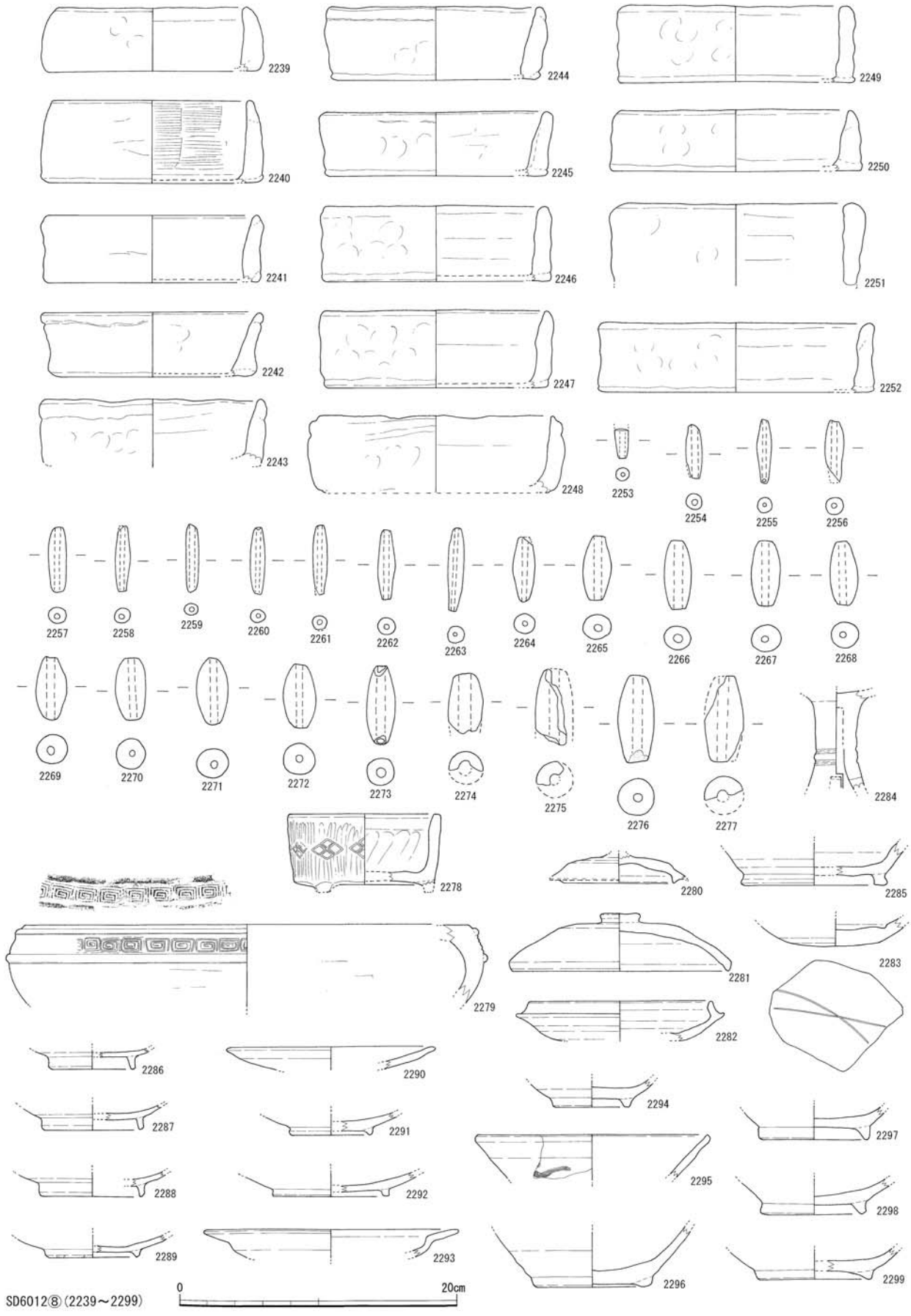
第118図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑦(1/4)



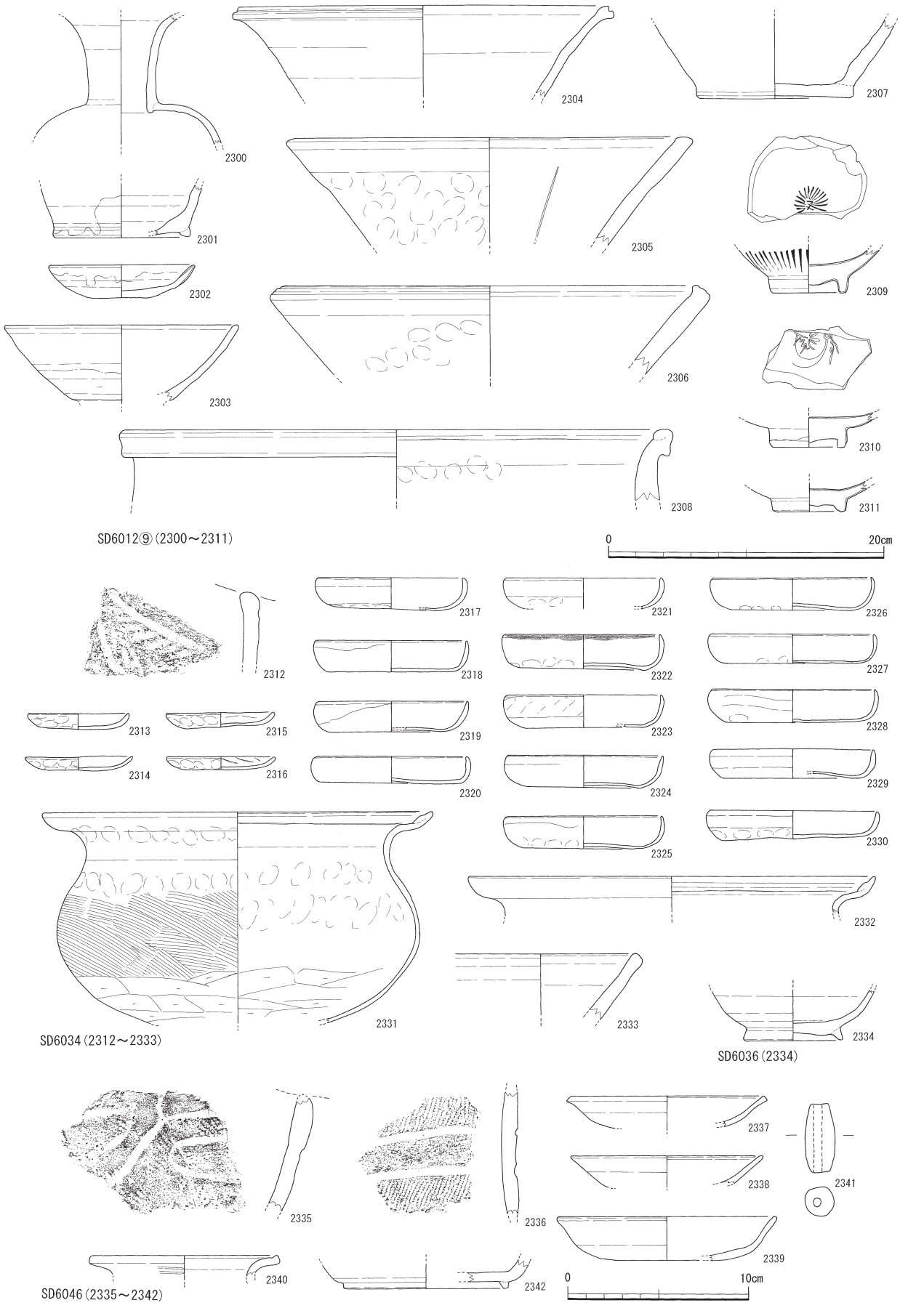
第119図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑧(1/4)



第120図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑨(1/4)



第121図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑩(1/4)



第122図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑪(1/4、2312・2335・2336は1/3)

はほとんどないが、2120や2165からみて、下半部は横方向のケズリによって調整されていたものと思われる。体部内面はヨコハケによって調整されるものと、工具ナデによって調整されるものがある。

2166～2178は鍋である。2166～2171は頸部が括れず半球形の器形を呈するもの、2172～2178は頸部が括れるものである。2172は口縁端部を内側に折り返して肥厚させているが、他のものは全て上方に摘まみあげている。2170は、本来は2166のような短く外方に屈折する口縁部を持っていたと思われるが、使用中に欠損したものと思われ、破断面の状況からみて、その後に口縁部を取り除いた状態で使用されていたようである。

2179は焙烙である。鍋に比べて体部が非常に浅くなる。器壁はやや厚く、外面にはハケが施されている。

2180は十能の把手である。中空で、粘土板を筒状にして成形されたようで、内面には接合痕が残る。

2181～2252は製塩土器である。全て志摩式製塩土器で、小片が多い。底部は非常に薄いため、全く遺存していない。作りは粗雑で、いずれも外面に指オサエの痕跡が明瞭に残る。内面は基本的にナデによって調整されているが、2181や2236のように工具ナデによって調整されたものや、2240のようにハケによって調整されているものもみられる。これら製塩土器には被熱によって器壁が赤変しているものも多くみられる。

2253～2277は管状土錘である。2253・2255のように細身のものや、2266・2276のように太身で棗形を呈するものがある。孔の直径にもばらつきがある。

2278・2279は瓦質土器である。2278は小型の香炉で、筒形の体部に突起状の脚が付く。脚は３箇所に付くと思われる。外面はタテミガキによって丁寧に調整され、中位に菱形文が横方向に連続して施される。2279は火鉢で、口縁部は内湾する。口縁端部は水平な面をなす。口縁部外面には雷文のスタンプ文が施されている。雷文の上下には突線を貼り付けている。体部は内外面とも工具ナデによって調整されている。

2280～2285は須恵器である。

2280・2281は杯蓋である。2280は摘まみを欠損する。2281はやや大きく、ボタン状の摘まみを付けている。

2282・2283は杯身である。2282の口縁端部は丸く収められている。2283は底部の破片で、外面に「×」の線刻がある。

2284は高杯の脚柱部である。中位に２条の凹線が巡らされており、下段には透孔が残る。透孔は２方向に開けられていた可能性が高い。

2285は壺である。底部の破片で、高台を持つ。

2286～2293・2300・2301は灰釉陶器である。

2286～2289は椀と思われるが、底部の破片であり、皿の可能性もある。2288は三日月高台を持つ。2289の高台は低い。

2290～2292は皿、2293は段皿である。2293の内面には灰釉が施されている。

2300・2301は長頸壺である。外面には灰釉が施されている。

2294は山皿、2295～2299は山茶椀である。2295は外面に墨書と思われるものが一部遺存する。

2302～2308は陶器である。

2302は縁釉小皿である。口縁部付近に釉が施されている。口縁部の一部には煤が付着しており、灯明皿として使用された可能性もある。

2303は平碗である。内面及び外面上半部に灰釉が施されている。瀬戸・美濃産と思われる。

2304は片口鉢と思われる。片口部は欠損している。口縁端部には沈線状の凹みが認められる。

2305・2306は捏鉢である。いずれも口縁端部は面をなすが、2305はやや面が不明瞭である。2305の内面には線刻と思われる沈線がある。

2307は壺、2308は甕である。2308は口縁端部を内側に折り曲げている。

2309～2311は青磁碗である。2309・2310は底部がかなり厚い。2309は外面に縦方向の連続した陰刻がみられる。密であることから、細い蓮弁の可能性が考えられる。見込には陰刻花文が施されており、施釉は高台内まで及んでいる。2310も見込に劃花文の一部と思われる文様がみられる。2311は見込に圏線が施されている。施釉は高台内には及んでいない。

ＳＤ6034（第122図2312～2333）　2312は縄文土器深鉢である。波状口縁で、口縁部直下に沈線による

半月形の区画文を配し、その内部を矢羽根状文で充填している。

2313～2332は土師器である。

2313～2330は小皿ないし皿である。小皿はいずれも浅いが、やや大きいものは体部から口縁部にかけて緩やかに内湾するものが主体である。

2331・2332は鍋である。口縁部は受口状になる。

2333は陶器片口鉢の口縁部片である。

ＳＤ6036（第122図2334）　2334は山茶椀である。体部はやや丸みを帯びる。

ＳＤ6046（第122図2335～2342）　2335・2336は縄文土器深鉢である。2335は波状口縁で、口縁端部は欠損する。沈線で区切られた磨消縄文が施されている。2336も磨消縄文が施文される。

2337～2339は土師器皿である。2337・2339は外面にススが付着している。

2340は土師器甕の口縁部の小片である。

2341は管状土錘である。やや太身で、完形である。

2342は須恵器杯である。低い高台を持つ。

ＳＤ6051（第123図2343）　2343は縄文土器深鉢である。頸部があまり括れない器形と思われる。平口縁で、口縁部を大きく折り返して幅広の帯状に肥厚させている。口縁部やや下には沈線で区画文を描き、内部を沈線による斜線で充填している。内外面ともミガキで調整されている。

ピット（第123図2344～2349）　2344・2345は縄文土器深鉢である。2344は大波状口縁の波頂部で、沈線で文様が施されている。側面も拡張して面を作り、沈線による文様を施す。2345は沈線と隆帯により施文される。

2346・2347は土師器甕である。口縁部を内側に折り返して肥厚させる。外面には指オサエの痕跡が顕著に残る。

2348は山茶椀、2349は磁器染付皿である。見込に花文が描かれている。明代の貿易陶磁と思われる。

包含層（第123図2350～2352）　2350は土師器皿、2351は土師器甕である。

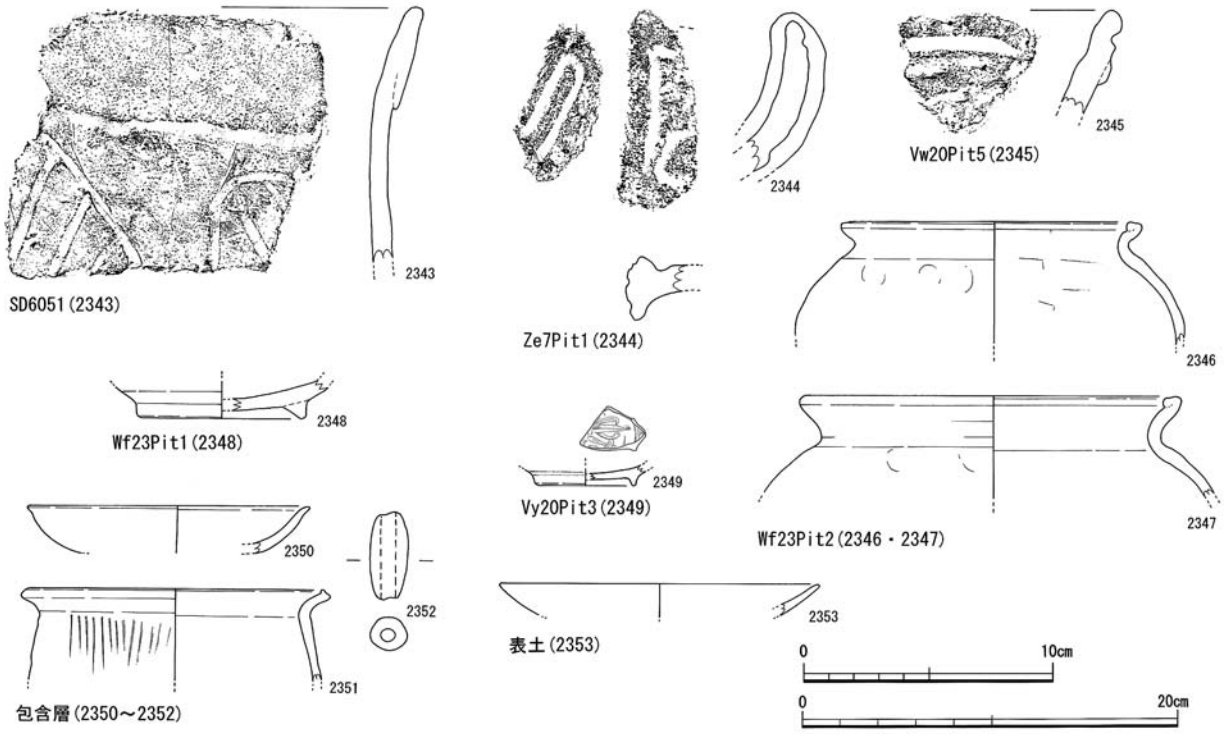
2352は管状土錘で、ほぼ完形である。

表土（第123図2353）　2353は土師器皿である。外面に墨書とみられる痕跡がわずかに遺存している。

（6）６次６区下層・７区下層

①縄文時代の遺構出土遺物

ＳＨ6197（第124～128図2354～2405）　2354～2405



第123図　６次７区上層、７次４区出土土器・陶磁器等実測図⑫(1/4、2343～2345は1/3)

は縄文土器である。

2354～2374は有文深鉢の口縁部もしくは口縁部付近の破片である。

2354～2363は口縁部直下に沈線や隆帯による楕円形や三日月形の区画文を配し、その中を刺突で充填したものである。区画文の下には連弧文が施される。ほとんどが波状口縁である。2355は全形が復元できるものである。緩やかなキャリパー形を呈し、口縁部は６単位の波状口縁となる。区画文間には双頭渦文を配し、頸部には多条連弧文を施している。体部は無文で、ケズリで調整した後にミガキを施している。2354・2356は波頂部に渦巻文の代わりに刺突で充填した円形の区画を配する。2357は渦巻文や円形区画文の代わりに円形の押圧を施している。また、2358・2359では区画文間が無文となっている。2360はやや文様が入り組んでおり、波頂部の円形文と区画文が合体して入り組み文状になっている可能性が考えられる。

2364・2365は口縁部直下に沈線による楕円形の区画文を配し、その中を矢羽根状文で充填する。区画文間には渦巻文を配している。

2366～2368は口縁部直下に沈線や隆帯による楕円形もしくは三日月形の区画文を配し、その中を縄文や条線で充填する。いずれも波状口縁である。2366は沈線による区画文の外側に隆帯を巡らせている。2367は体部まで遺存している。頸部は括れず体部から口縁部にかけて直線的に開くが、口縁部の文様帯と体部の文様帯の境界は隆帯によって区切る。体部は縦方向に太い沈線で区切り、沈線間に矢羽根状文を施している。

2369は口縁部付近で内側に屈曲する。大波状口縁になる可能性もある。

2370は口縁部直下に横方向の橋状把手を貼り付けている。把手上にも沈線が施され、把手の脇には刺突で充填した区画文と思われる文様が一部遺存している。なお、把手部分は包含層から出土したものが接合した。

2372は口縁部が肥厚し、口唇部に文様をもつものである。区画文の有無は不明であるが、波状口縁で、波頂部に渦巻文を施している。

2373・2374は頸部から口縁部にかけてが無文のものである。同一個体の可能性もある。平口縁で、頸部は緩やかに括れる。頸部には隆帯を巡らせ、隆帯上に刺突を加える。体部の文様は一部しか遺存しておらず、風化もあって不明瞭であるが、おそらく縦長の楕円形状の区画を沈線で描き、その中を櫛状工具による矢羽根状文で充填していると思われる。

2375～2383は口縁部直下に区画文を持つ深鉢の体部片と思われるものである。2375～2377は体部に矢羽根状文を施すものである。2376は地文が縄文で、矢羽根状文の他に縦位の沈線が配される。2385と文様構成が似る点があり、同一個体の可能性もある。2377は縦方向に幅広の深い沈線を施し、その上端に小さなトンネル状の把手を付けている。また、縦位に楕円形の区画文を配し、その中を矢羽根状文で充填する。

2378～2382は体部を沈線で縦位に区画する。2378は縦位に蛇行沈線を施している。2380は縄文や矢羽根状文がみられず、縦位の沈線のみで体部を施文していると思われる。2382は沈線間に縦位の隆帯を貼り付けている。

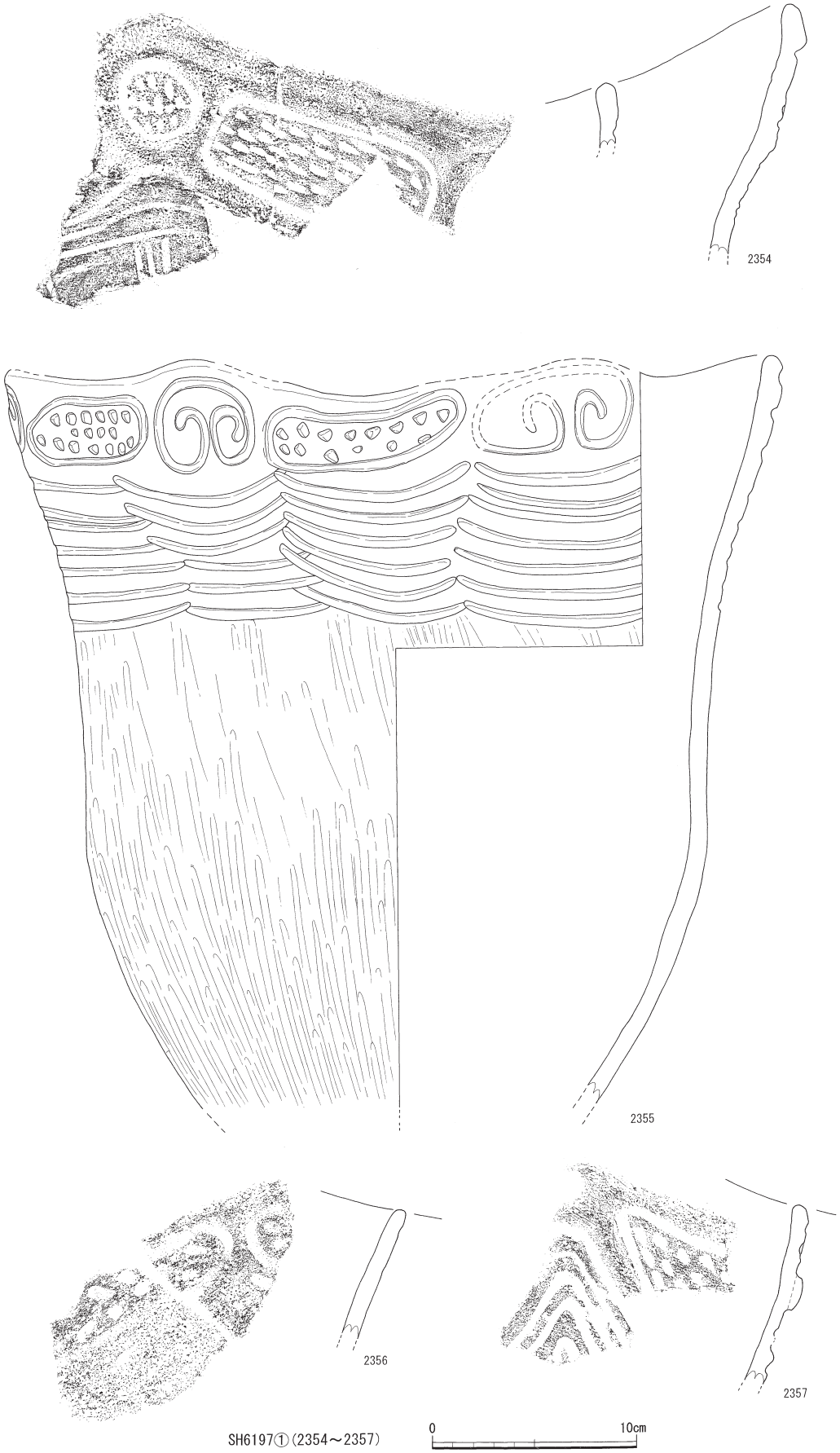
2383は横位の隆帯の下方に沈線による渦巻文を配する。小片であり、上下が逆の可能性もある。

2384は縄文のみが施された体部片である。

2385は口縁部から体部上半にかけての破片である。接合しないものの大きな破片が複数あるため、４片を図化した。４単位の波状口縁で、頸部が緩やかに括れ、口縁部は直線的に外方に開く形態と思われるが、口縁部片と体部片に接合するものがないため、体部の形態については復元に不安が残る。外面には、太い沈線で縦位に流れる入り組んだ文様を口縁部から体部にかけて描く。文様内は縄文で充填し、磨消縄文状にしている。また、頸部には数箇所に小さな橋状把手を貼り付け、その下方には縦位に２本の沈線を施し、その間を矢羽根状文で充填している。そのほか、口縁部直下には、一定間隔で円形の押圧を施している。

2386は口縁部付近の小片である。浅鉢の可能性もあるが、穿孔の周囲に竹管による刺突文が円形に巡らされる。

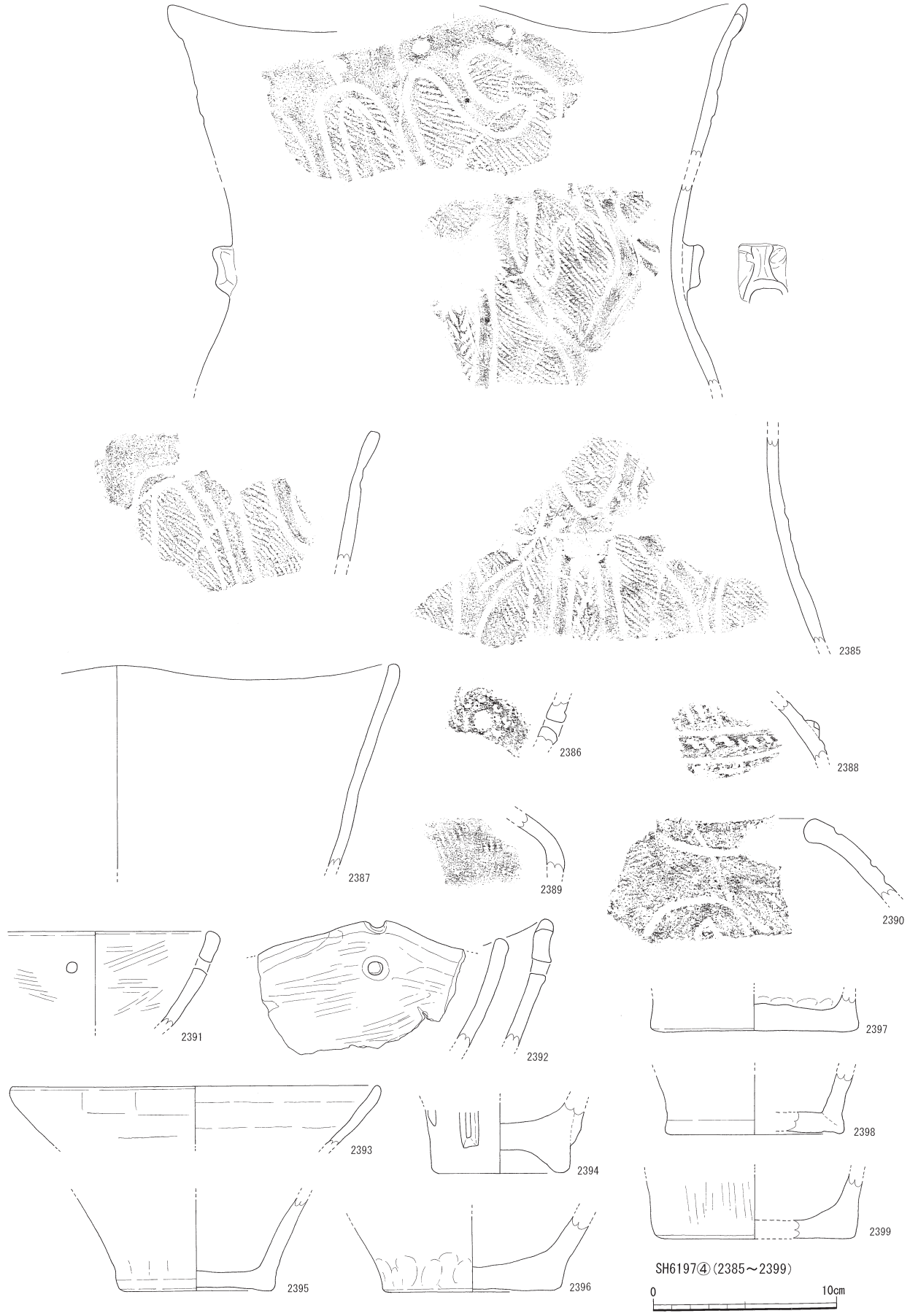
2387は無文の深鉢である。浅い波状口縁である。頸部は括れず、体部から口縁部にかけて直線的に開



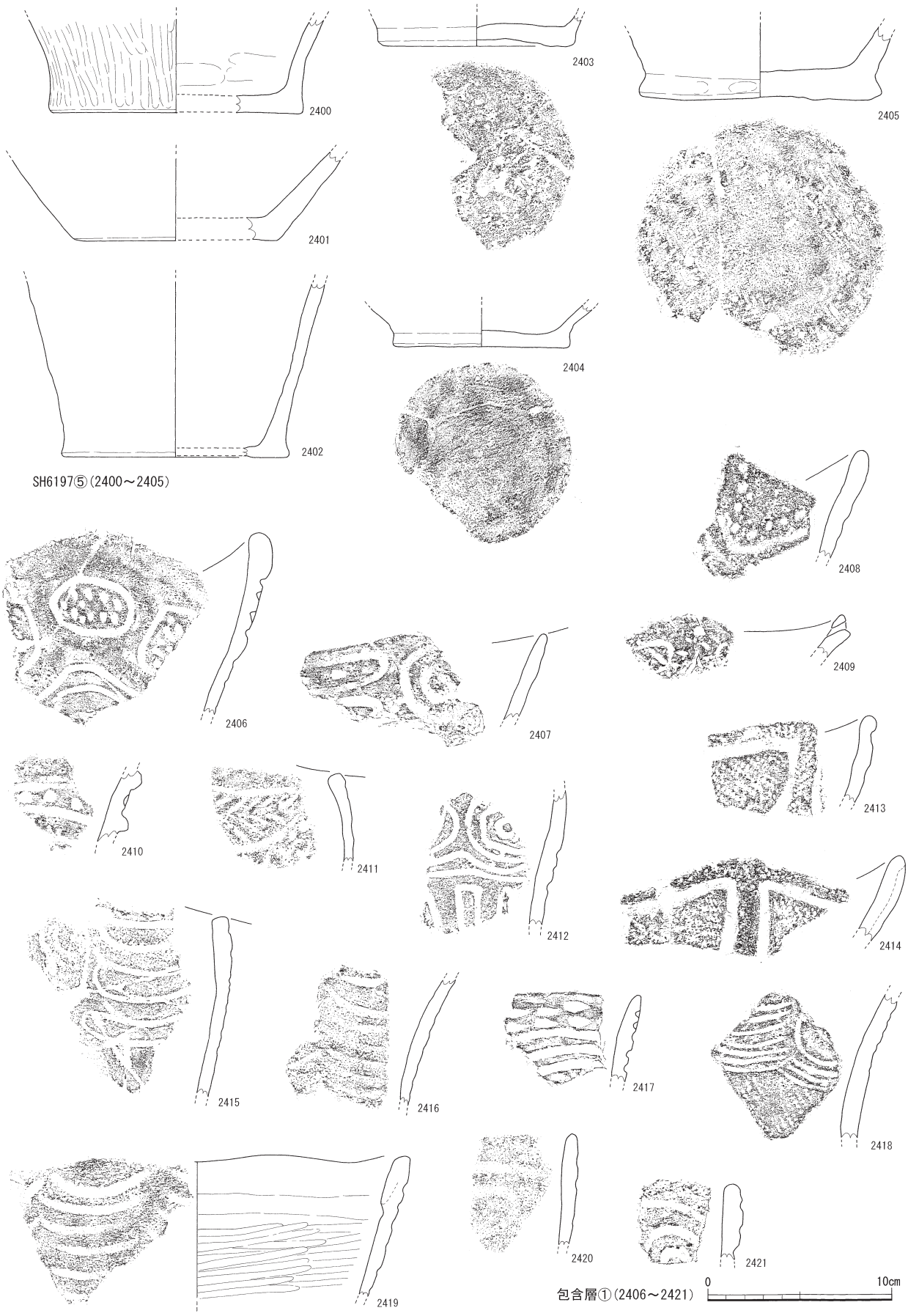
第124図　６次６区下層・７区下層出土土器・陶磁器等実測図①(1/3)

第125図　６次６区下層・７区下層出土土器・陶磁器等実測図②(1/3)

第126図　６次６区下層・７区下層出土土器・陶磁器等実測図③(1/3)



第127図　６次６区下層・７区下層出土土器・陶磁器等実測図④(1/3)



第128図　６次６区下層・７区下層出土土器・陶磁器等実測図⑤(1/3)

くものと思われる。

2388～2390は有文浅鉢である。2388は内傾するものと思われる。横位に隆帯を巡らせ、隆帯上には刺突を加える。2389は縄文のみが施されている。2390は内傾する口縁部片である。風化のため文様は不明瞭であるが、磨消縄文が施されているものと思われる。

2391～2393は無文浅鉢である。2391・2393は平口縁で、2391は口縁部直下に焼成後穿孔が施されている。2392は波状口縁で、内外面をミガキによって調整する。波頂部の口縁部直下には穿孔が施されており、波頂部の口縁端部にも穿孔状の凹みがみられる。

2394～2405は底部である。2394は上げ底状になり、外面には縦位の隆帯が貼り付けられている。2401は体部がかなり外方へ開くため、浅鉢の底部の可能性がある。2404は底部外面がミガキによって丁寧に調整されている。2405は底部外面に網代痕が認められる。2403も元は網代痕があった可能性があるが、風化により明確ではない。

包含層（第128～131図2406～2488）　2406～2488は縄文土器である。

2406～2425は有文深鉢の口縁部もしくは口縁部付近の破片である。

2406～2410は口縁部直下に沈線や隆帯による楕円形や三日月形の区画文を配し、その中を刺突で充填したものである。いずれも波状口縁である。2406は波頂部に渦巻文の代わりに刺突で充填した円形の区画を配しており、文様構成はＳH6197出土の2354に似る。同一個体の可能性もある。2407は波頂部に渦巻文を配している。2409は波頂部の口縁部直下に焼成前穿孔が認められる。2410は小片であるが、隆帯の間に沈線と刺突がみられ、口縁部直下の区画文の一部と推定される。

2411は口縁部直下に沈線による三日月形の区画文を配し、その中を矢羽根状文で充填する。波状口縁である。2412は区画文がごく一部しか遺存していないが、直線が一部遺存しているため、楕円形の区画文内を連続斜線で充填していた可能性がある。区画文間には渦巻文を配する。

2413・2414は口縁部直下に沈線による三日月形の区画文を配し、その中を縄文で充填する。区画の周囲には隆帯を巡らせている。口縁部の形態にも共通性があり、ＳH6197出土の2366も含めて同一個体の可能性が高い。

2415・2416は口縁部直下に沈線による区画文を配するが、区画文内は無文である。2415は緩やかな波状口縁である。2416は区画文内に刺突が施されている可能性もあるが、風化により確認できない。

2417～2419はいずれも小片で確実ではないが、遺存している文様からみて、口縁部直下に区画文をもたないと考えられるものである。2417は口縁部直下に刺突文を施し、その下に連弧文と考えられる多条沈線が配される。2418は沈線で円形文を描き、その中を刺突で充填しており、口縁部付近の破片と思われる。円形文の横に連弧文が配されており、区画文は確認できない。2419は浅い波状口縁で、口縁部直下に多条の連弧文が配されている。

2420～2422は口縁部の小片で、2420には沈線による区画文が一部遺存している。2422は同一個体の可能性が高い破片が２点ある。波状口縁で、波頂部に渦巻文を配しているが、その横に残る沈線が区画文となるかどうかは不明である。

2423・2424は縦方向の橋状把手である。2423は把手の横に沈線による区画文が配され、中には刺突が施されている。

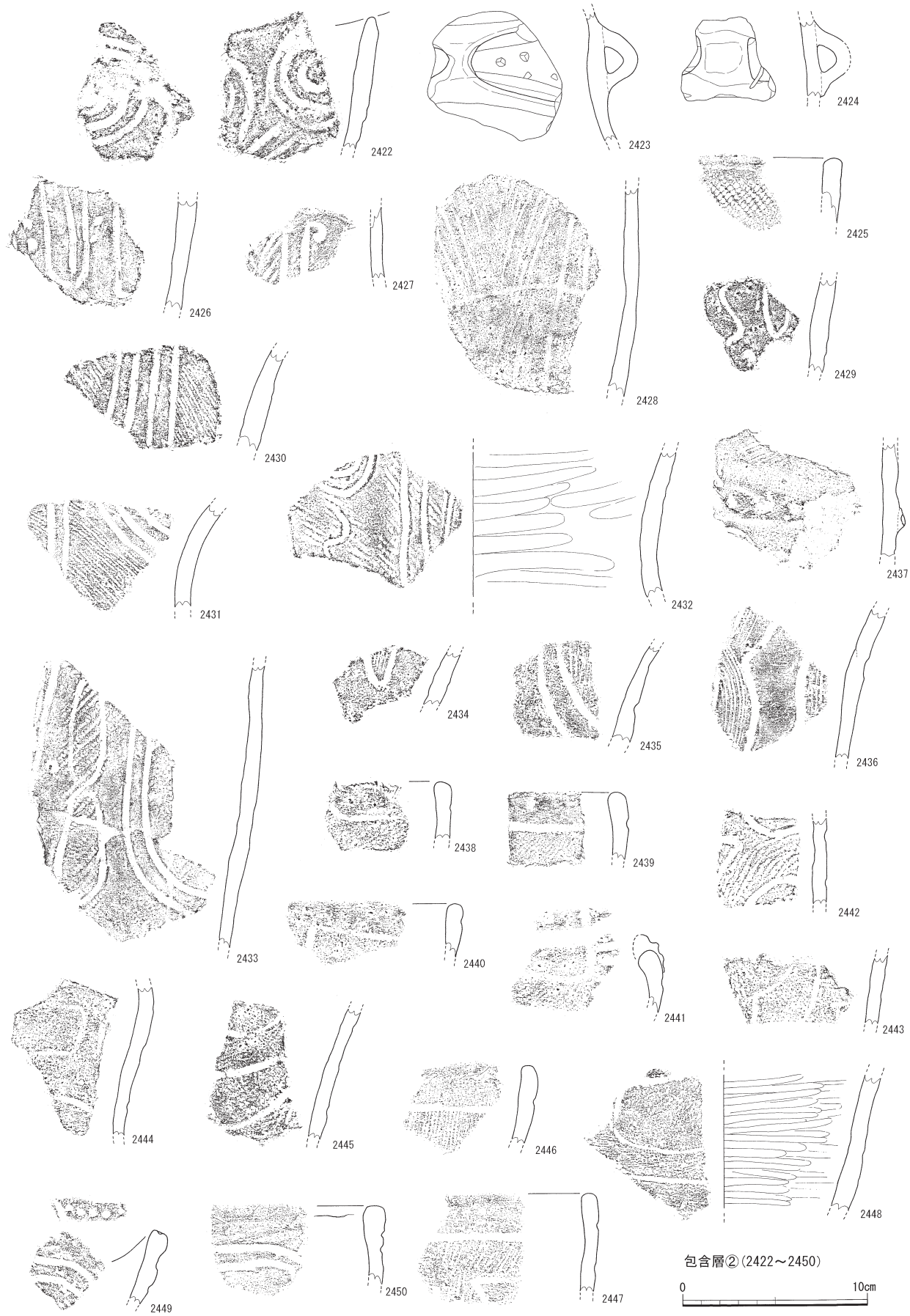
2425は口縁部の小片で、縄文のみが施されている。

2426～2437は口縁部直下に区画文を配する深鉢の体部片である。2426は縦位の沈線と刺突が施されている。2427・2428は縦位の沈線を施し、沈線間を矢羽根状文で充填する。2429は蛇行沈線が施される。

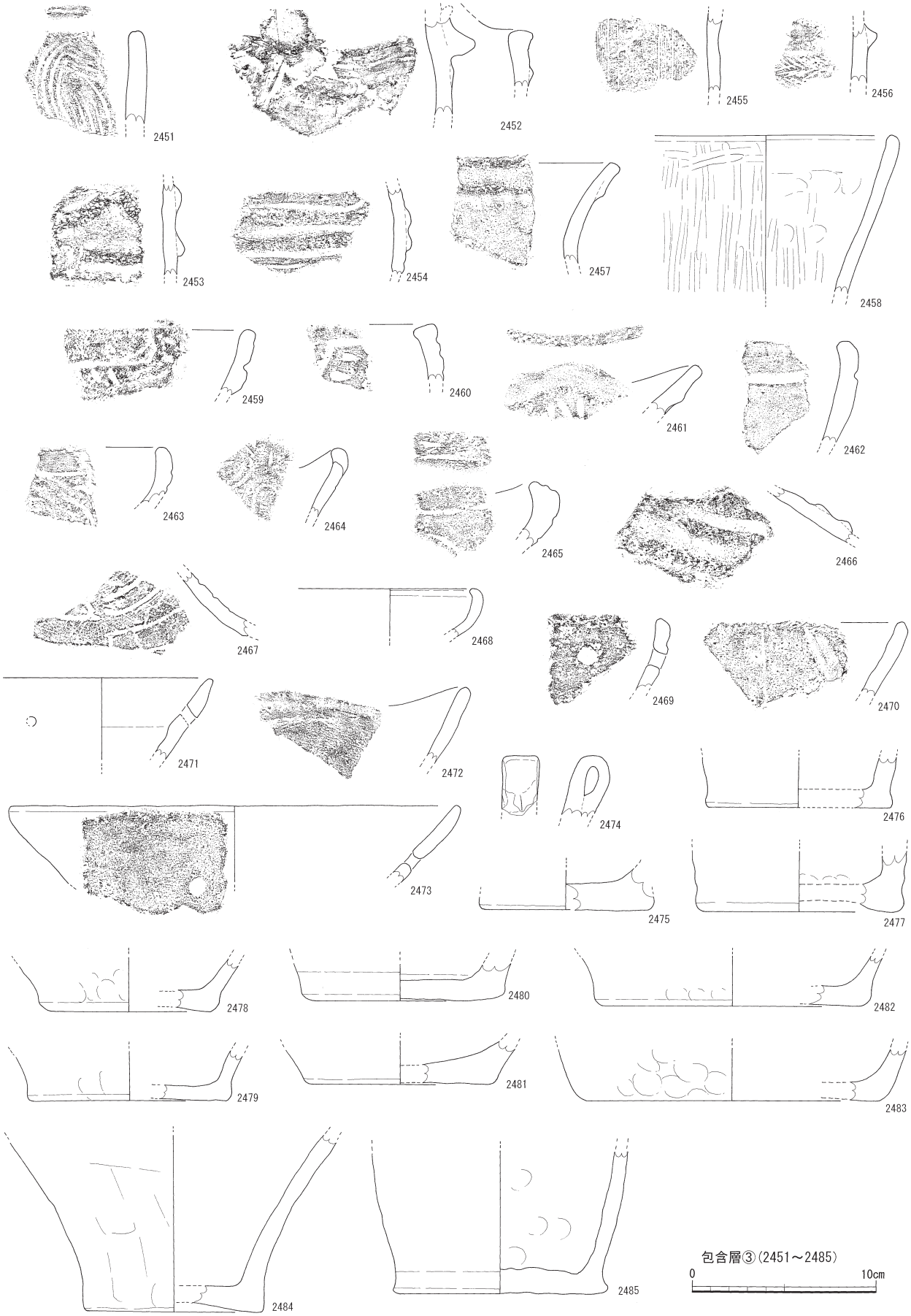
2430～2433は撚糸文や縄文を地文とし、その上に２本一組の沈線で縦位の直線もしくは曲線を描く。2432は他に渦巻文を配し、その下方に蛇行沈線を施す。2433は縦位に連続する縦長楕円形の区画を配し、その中を縄文で充填している。縄文が施されている箇所以外は、内外面ともミガキで丁寧に調整されている。

2434～2436は１・２本の沈線で曲線を描き、その中を櫛状工具による条線で充填するものである。2436は沈線のカーブに沿って条線が施されており、沈線の後に条線を施したと推測される。

2437は横方向に隆帯を貼り付け、隆帯上に刺突を



第129図　６次６区下層・７区下層出土土器・陶磁器等実測図⑥(1/3)



第130図　６次６区下層・７区下層出土土器・陶磁器等実測図⑦(1/3)

施している。隆帯の上方には剥離痕らしいものがみられ、把手が貼り付けられていた可能性がある。

2438～2448は磨消縄文もしくはそれに類する文様が施された深鉢の口縁部や体部片である。2442は入り組んだ文様を描いている。2441は口縁部片で、波状口縁になると思われる。口縁部には刻目をもつ棒状浮文が貼り付けられている。2444は磨消縄文と思われるが、風化のため縄文は観察できない。2446～2448は条線で磨消縄文状の文様としている。2446・2447は同一個体の可能性もある。波状口縁の可能性があるが、判然としない。

2449～2456はその他の有文深鉢の破片である。2449・2450は口縁部直下に２本一組の沈線がみられる。2449は波状口縁で、口唇部に刺突が施される。

2451は櫛状工具によって渦巻文状の文様が描かれた口縁部片である。口唇部には沈線が施されている。

2452は円形浮文を貼り付けた口縁部片である。口縁部直下には隆帯が貼り付けられている。小片のため、内傾するか外傾するか不明である。

2453・2454は隆帯を貼り付けたものである。2453は隆帯上に縄文を施している可能性があるが、風化のため不明瞭である。

2455は縦位に条線が施されている。2456は横位の隆帯の下方に細かな綾杉状文を施す。

2457・2458は無文深鉢である。2457は外反する口縁部で、平口縁である。口縁外面に粘土帯を貼り付けて肥厚させている。2458は口縁部が直線的に開く。外面はミガキによって丁寧に調整されている。

2459～2467は有文浅鉢である。2459～2461は刺突文が施されている。2460は口縁部が内傾する。2461は波状口縁で、大きく外方に開くようである。口唇部に縄文にも見える痕跡があるが、部分的であり、何らかの工具等があたった痕跡の可能性もある。

2462～2465は口縁部直下に沈線で文様が描かれている。2462の沈線は太い。深鉢の可能性もある。2464は波状口縁で、波頂部は口縁端部がやや肥厚する。2465は波状口縁で、口縁部が肥厚し、口唇部に文様を施す。

2466・2467は大きく内傾する口縁部の破片と思われる。2466は横位に隆帯を貼り付ける。2467は沈線で文様を描き、沈線間に格子状に条線を施している。

2468～2473は無文浅鉢である。2468は薄手の口縁部片で、強く内湾する。2469・2471・2473は口縁部直下に焼成後穿孔が施されている。いずれも平口縁と思われる。2472は波状口縁である。

2474は浅鉢に付く把手と思われる。断面方形に整えた粘土紐をU字形に折り曲げて作られている。

2475～2488は底部である。2478・2484は上げ底状になっている。2483は大型の底部で、外面には指オサエの痕跡が明瞭に残る。2486～2488は底部外面に網代痕が認められるが、2488は小片で不明瞭である。

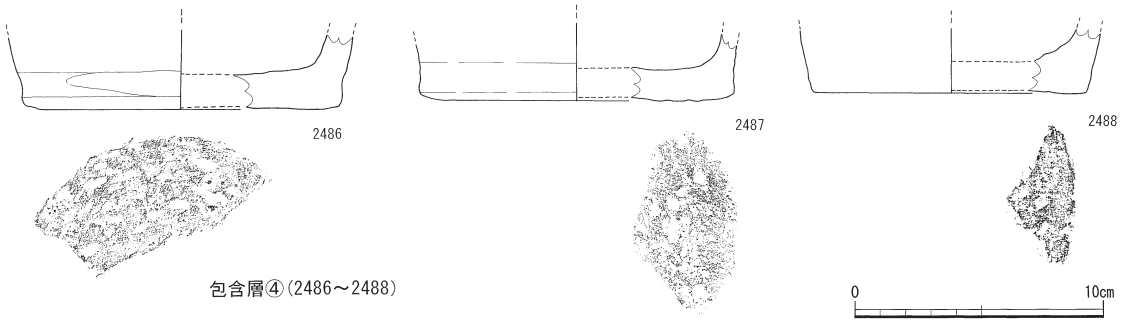
（7）６次８・９区・７次２区

①飛鳥・奈良時代の遺構出土遺物

ＳＫ6062（第132図2489）　2489は須恵器杯蓋である。小型のもので、口縁部と天井部との境には凹線が巡らされている。口縁端部は丸く収められている。

ＳＤ6056（第132図2490～2494）　2490は弥生土器高杯の脚部片である。円形の透孔が開けられており、外面には櫛描直線文が施されている。

2491～2493は土師器である。2491は杯である。2492は甕で、口縁端部は面をなす。2493は高杯の脚柱部



第131図　６次６区下層・７区下層出土土器・陶磁器等実測図⑧(1/3)

である。

2494は須恵器甕の体部片である。孔は遺存していない。肩部に櫛描列点文が施されている。

②平安時代～室町時代の遺構出土遺物

ＳＥ7014（第132図2495）　2495は陶器縁釉小皿である。口縁部付近に釉が施されている。底部には糸切痕が残り、高台は付かない。瀬戸・美濃産と思われる。

ＳＫ7010（第132図2496・2497）　2496・2497は土師器甕である。いずれも口縁部片である。

ＳＤ6059（第132図2498・2499）　2498は須恵器杯身である。立ち上がりはやや低く、口縁端部は丸く収められている。

2499は土師器甑ないし甕の把手である。

ＳＤ7012（第132図2500・2501）　2500は土師器鍋、2501は土師器甕の口縁部片である。

ピット（第132図2502・2503）　2502は弥生土器鉢である。内外面ともミガキで調整され、内面には水銀朱が付着している。外面に煤の付着は認められず、容器やパレットとしての使用が想定される。2503は須恵器杯蓋である。

包含層（第132図2504）　2504は山茶椀の底部片である。

（８）６次10区

①江戸時代の遺構出土遺物

ＳＤ6193（第133図2505～2513）　2505は土師器鍋である。

2506～2509は山茶椀である。

2510～2513は陶器である。

2510は碗で、鉄釉が施されている。

2511は捏鉢である。外面には指オサエの痕跡が明瞭に残る。内面は使用によって摩滅している。

2512・2513は擂鉢である。2512は口縁部で、受口状に屈曲する。2513は底部片で、摺目は密である。

ＳＤ6194（第133図2514～2516）　2514は土師器皿である。底部から口縁部にかけて緩やかに内湾する。口縁部は歪みが大きい。

2515は山茶椀の口縁部小片である。外面に墨書とみられる痕跡が残る。

2516は陶器小皿である。内外面に灰釉が施されているが、底部付近の外面は露胎となっている。

表土（第133図2517～2520）　2517～2520は陶器である。

2517・2518は天目茶碗である。いずれも鉄釉が施されている。

2519は皿の底部片である。

2520は火鉢である。焼き締め陶器で、底部外面に脚が３箇所に付くと思われる。底部内面には、線刻と思われるものが一部遺存する。

（９）６次11区

①平安時代～室町時代の遺構出土遺物

ＳＤ6244（第134図2521）　2521は土師器鍋の口縁部片である。

ＳＤ6246（第134図2522・2523）　2522は土師器鍋の口縁部片である。2523は土師器羽釜である。鍔部はやや幅広である。

ＳＤ6248（第134図2524）　2524は土師器鍋の口縁部片である。

ＳＤ6249（第134図2525～2527）　2525・2526は土師器皿である。2525はかなり浅いが、小片のため、もう少し深くなる可能性もある。

2527は土製の紡錘車である。土師質で、円錐台形を呈する。

ＳＤ6251（第134図2528）　2528は青磁碗である。口縁部の小片であるが、外面には鎬蓮弁文が一部遺存している。

ＳＤ6252（第134図2529～2531）　2529は土師器皿である。底部から口縁部にかけて緩やかに内湾する。

2530は土師器羽釜の鍔部付近の小片である。

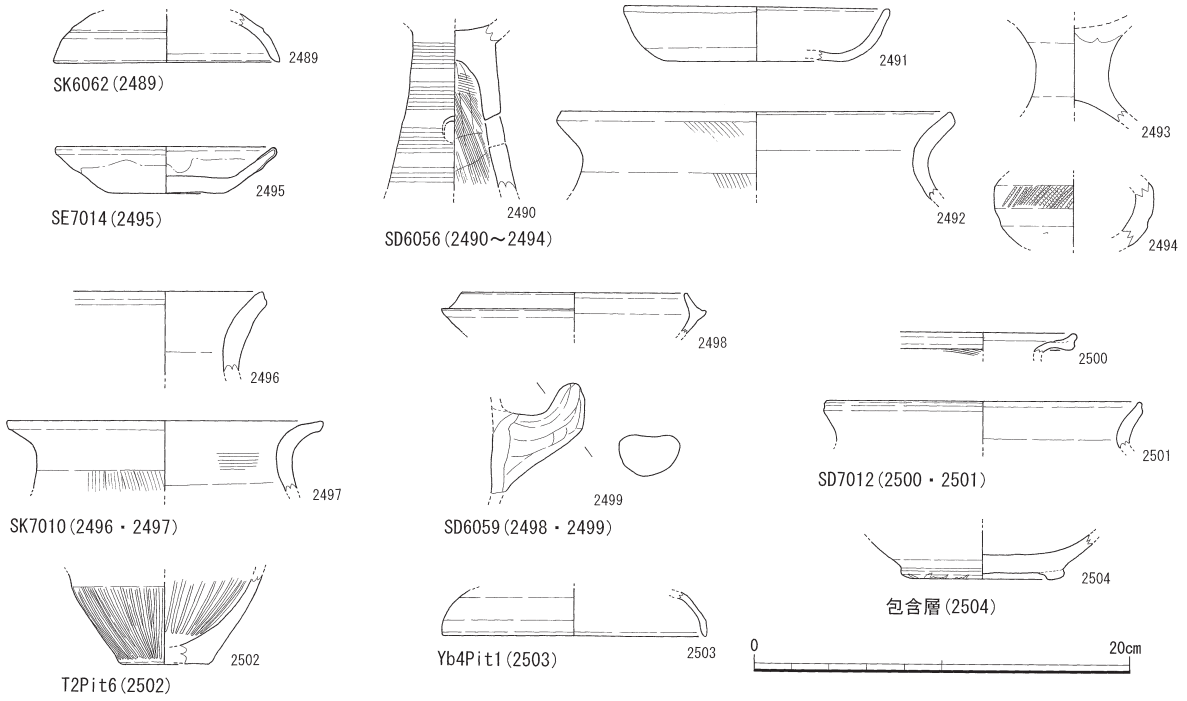
2531は山茶椀である。底部と体部との境は明瞭に屈曲し、体部から口縁部にかけて直線的に開く。高台は付かない。

ピット（第134図2532）　2532は土師器皿である。器壁は薄く、体部から口縁部にかけて緩やかに内湾する。

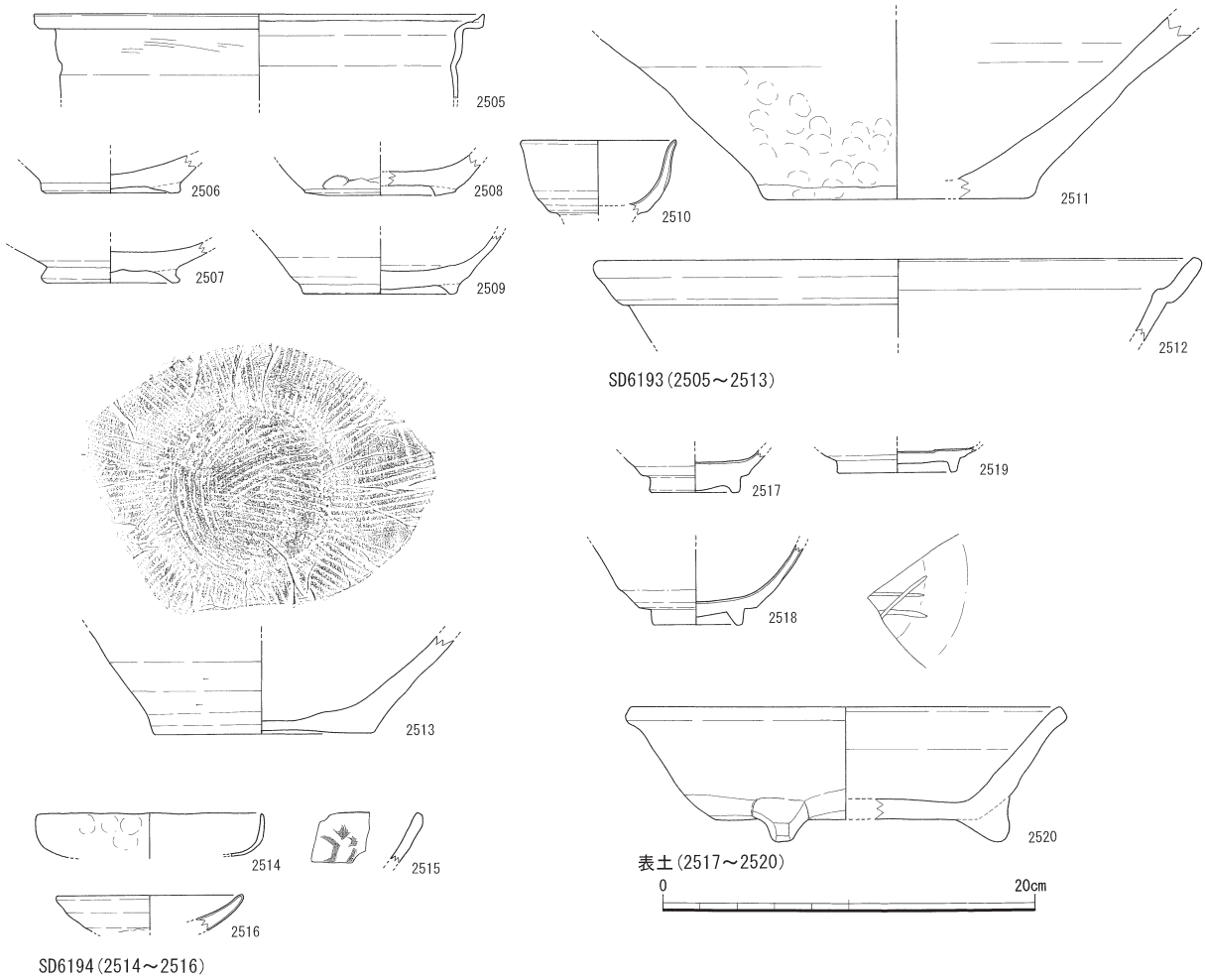
（10）７次１区

①飛鳥時代の遺構出土遺物

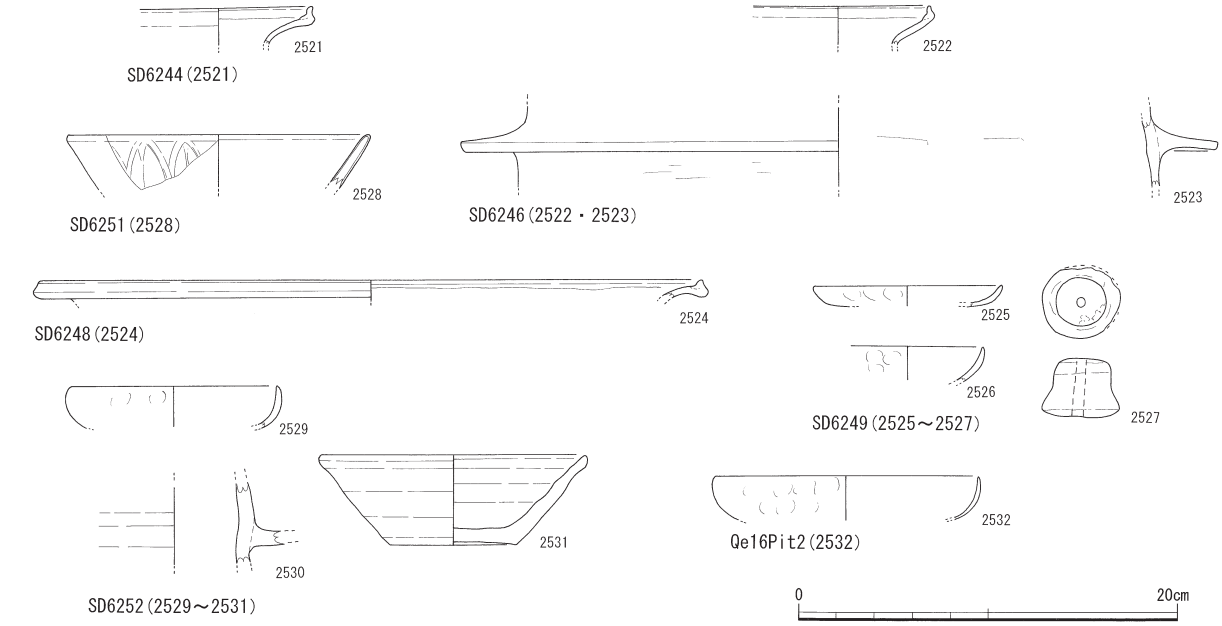
ＳＤ7004（第135図2533・2534）　2533は土師器甕である。口縁端部は面をなす。体部は内外面ともハ



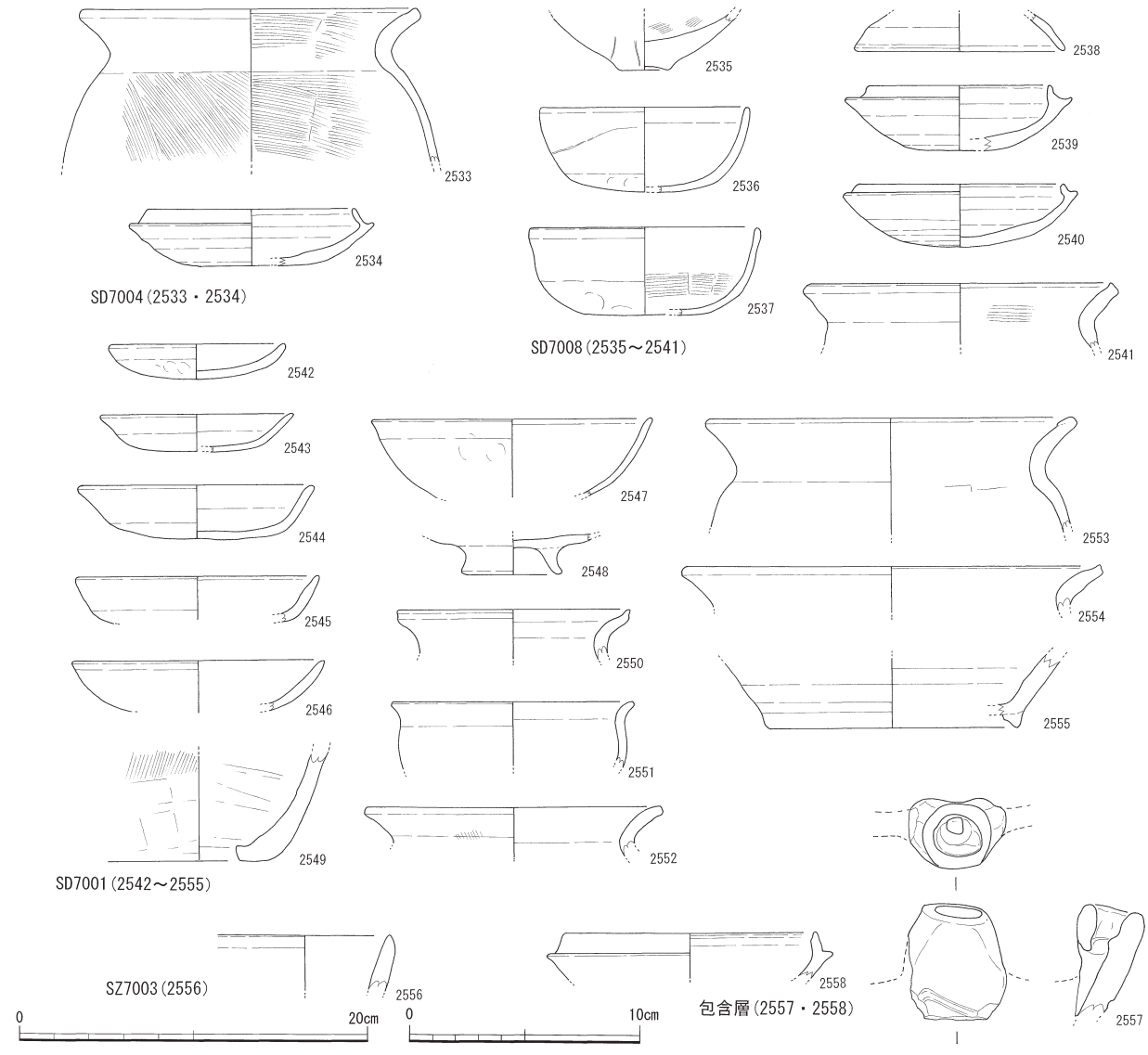
第132図　６次８・９区、７次２区出土土器・陶磁器等実測図(1/4)



第133図　６次10区出土土器・陶磁器等実測図(1/4)



第134図　６次11区出土土器・陶磁器等実測図(1/4)



第135図　７次１区出土土器・陶磁器等実測図(1/4、2557は1/3)

ケで調整される。

2534は須恵器杯身である。底部外面はヘラ切り後、ナデによって調整されている。

ＳＤ7008（第135図2535～2541）　2535は弥生土器壺の底部と思われる。内面はハケで調整されている。外面には線刻と思われるものが一部遺存している。

2536・2537は土師器椀である。半球形の深い器形を呈する。いずれもやや粗雑な作りで、2536は外面に粘土接合痕を残している。2537は底部外面に指オサエの痕跡が明瞭に残り、内面の底部付近をハケによって調整している。

2538～2540は須恵器である。2538は杯蓋で、小型である。2539・2540は杯身である。立ち上がりはかなり矮小化している。2359は底部外面をヘラ切り後ナデによって調整するが、2540はヘラケズリによって調整している。

2541は土師器甕の口縁部片である。

②平安時代～室町時代の遺構出土遺物

ＳＤ7001（第135図2542～2555）　2542～2554は土師器である。

2542～2546は小皿ないし皿である。2542はやや浅く、口縁部外面に強いヨコナデが施される。2545は底部と体部との境がやや明瞭に屈曲し、口縁部内面に凹線状の凹みがみられる。

2547は椀で、口縁部が短く外反する。外面には指オサエの痕跡が残る。

2548は台付皿ないし台付椀と思われる。やや高くハ字状に開く高台を貼り付けている。

2549は甑の底部片である。

2550～2554は甕である。2550・2552・2554は口縁端部が面をなすが、2553は口縁端部を内側に折り返して肥厚させている。また、2551は小型の甕で、口縁部が短く外反し、口縁端部は丸く収められている。

2555は須恵器壺の底部片である。底部と体部の境が明瞭に屈曲し、高台はその屈曲部付近に貼り付けられている。

ＳＺ7003（第135図2556）　2556は土師器甑の口縁部の小片と思われる。

包含層（第135図2557・2558）　2557は縄文土器の注口土器である。注口部の破片で、外面には文様の一部と思われる沈線が認められる。

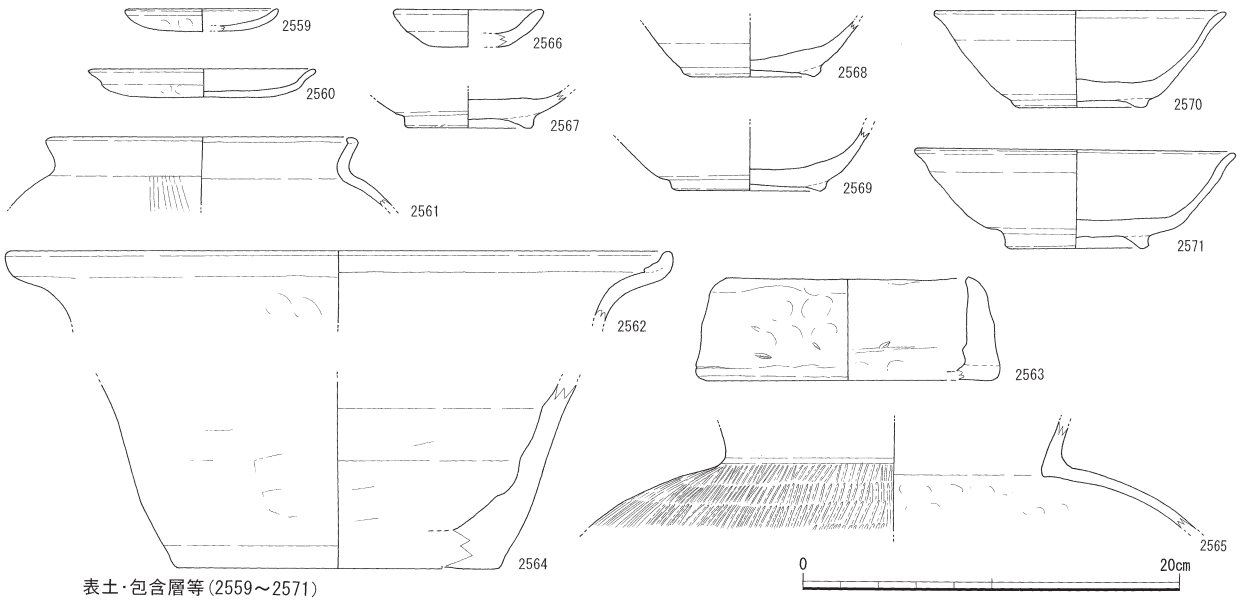
2558は須恵器杯身である。

（11）７次６区

表土・包含層等（第136図2559～2571）　2559～2562は土師器である。

2559は小皿である。2560は皿で、口縁部は短く外反する。

2561は甕で、口縁部は直立気味に立ち上がり、口縁端部は内側に肥厚する。



表土・包含層等（2559～2571）

第136図　７次６区出土土器・陶磁器等実測図（1/4）

2562は鍋で、口縁端部は内側に大きく折り返してナデ付けて肥厚させている。

2563は志摩式製塩土器である。内外面には指オサエの痕跡とともに、籾殻圧痕が明瞭に残る。

2564・2565は須恵器である。2564は大型の壺の底部で、陶器の可能性もある。内外面とも横方向の工具ナデで調整されている。2565は甕である。外面には平行タタキが施されている。

2566は山皿である。かなり小型化したもので、高台は付かない。

2567～2571は山茶椀である。2570・2571は口縁部がやや外反する。

2　石製品

（1）６次３区

ＳＫ6231（第137図2572）　2572は砂岩製の五輪塔水輪を転用した砥石である。水輪の側面２箇所に砥石としての使用面が作り出されており、使用面及びその周辺には、深い切り込み状の使用痕も多数残されている。

ＳＫ6229（第137図2573）　2573は石臼である。下臼で、摺目はない。芯棒孔が一部遺存している。

ＳＤ6217（第137図2574）　2574は砥石である。直方体を呈し、上下２面を使用している。砂岩と思われる。

ピット（第137図2575）　2575は石臼である。上臼で、下面に摺目が彫り込まれている。

（2）６次４区

ＳＤ6012（第138図2576）　2576は砥石である。大型のもので、置き砥と思われる。側面のほぼ全面を使用している。

ＳＤ6167（第138図2577）　2577は石臼である。上臼で、下面に７分画の摺目が彫り込まれている。側面には横打ち込み孔が残る。厚さが均一ではなく、使用によってかなり磨り減っているものと推定され、摺目も再生されている可能性がある。

ＳＥ6144（第138図2578）　2578は硯である。平面形は方形で、低い縁を持つ。薄手で、上面には使用に伴う擦痕が残る。

ＳＥ6184（第138図2579）　2579は砥石である。直方体を呈しており、側面を４面と小口面を１面の計５面を使用している。欠損しており、元はもう少し長いものであったと思われる。

ＳＫ6076（第138図2580）　2580は硯である。平面形は方形で、縁が付くがほとんどを欠損している。中央部には凹みがあるが、使用によりかなり摩滅しているようである。

ＳＫ6162（第138図2581）　2581は砥石である。直方体を呈しており、側面を４面使用している。また、小口面も使用した可能性がある。

ＳＫ6180（第138図2582）　2582は定角式の磨製石斧である。全面が丁寧に研磨されており、側面は明瞭な面をなし、横断面は隅丸方形を呈する。刃部は完全に欠損する。蛇紋岩製と思われる。

ピット（第138図2583・2584）　2583は砥石である。下面が大きく剥離し、扁平な直方体を呈する。上面が全体に使用されており、使用時に付いた鋭い傷が明瞭に残る。また、側面２面及び小口面には製作時に石材を切断した工具痕がみられる。目の細かい砂岩ないし粘板岩製で、京都産の砥石の可能性がある。

2584は碁石と思われる。黒石で、硬質で緻密な石材である。平面形は比較的整った円形を呈する。扁平である。

（3）６次５区

ＳＤ6074（第138図2585）　2585は碁石と思われる。黒石で、2584と似た石質である。平面形は楕円形を呈し、やや厚みがある。

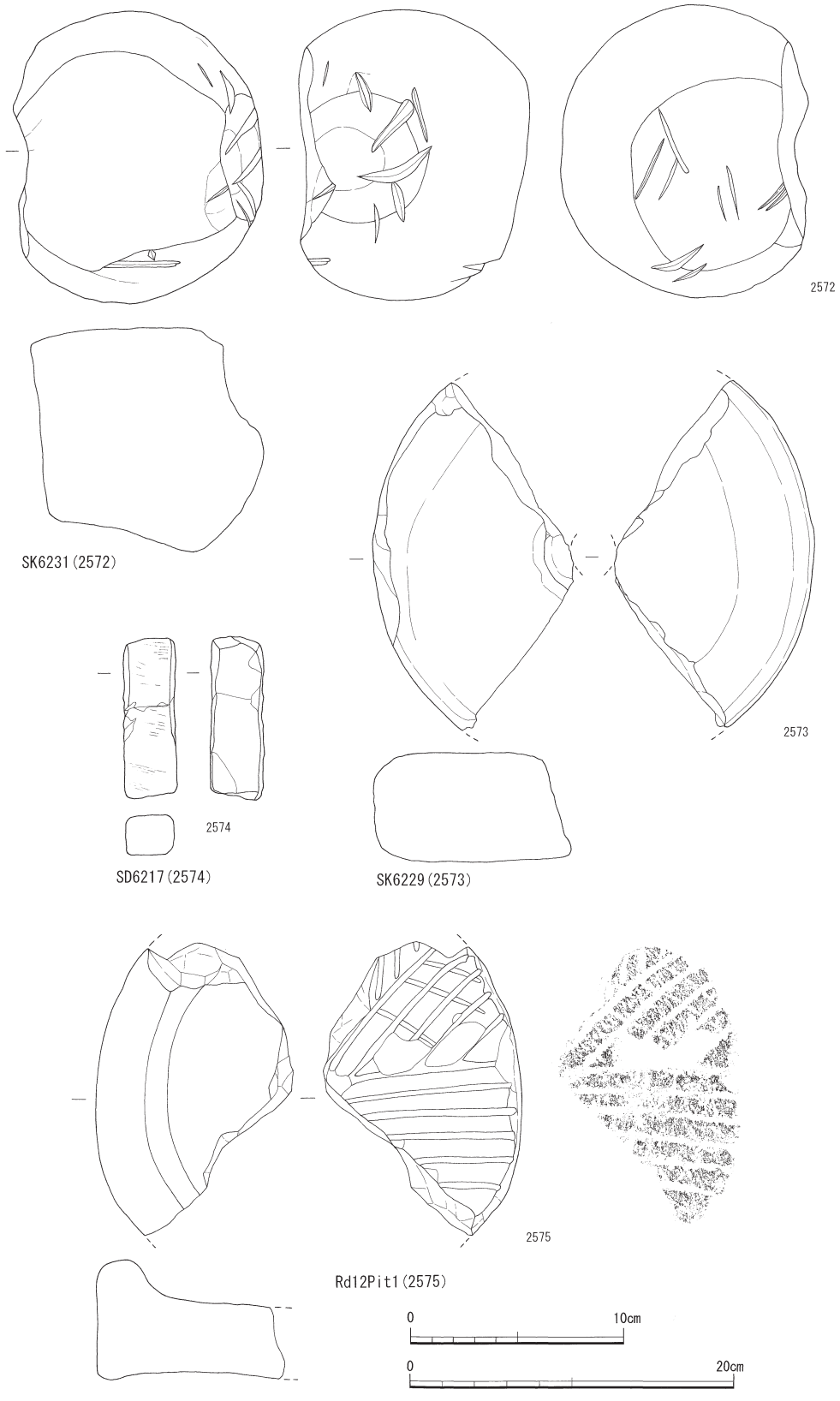
ＳＤ6084（第138図2586）　2586は碁石と思われる。黒石で、平面形は楕円形を呈し、扁平である。

（4）６次６区上層

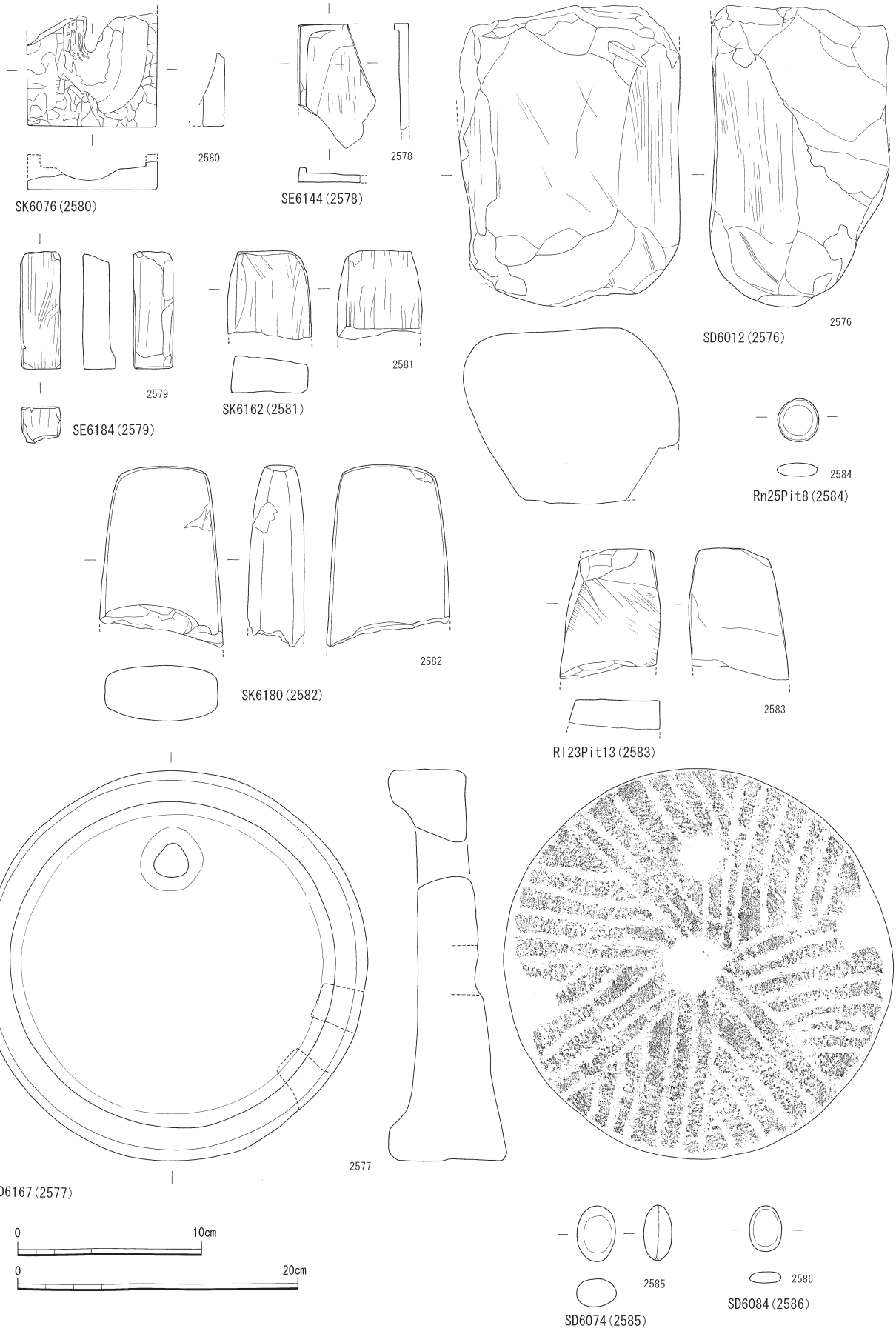
ＳＫ6014（第139図2587・2588）　2587は砥石である。扁平な直方体を呈し、一端を欠損する。側面の１面が使用されており、他の面及び小口面には加工時に石材を切断した工具痕が残る。

2588は石臼の小片である。摺目が残る。

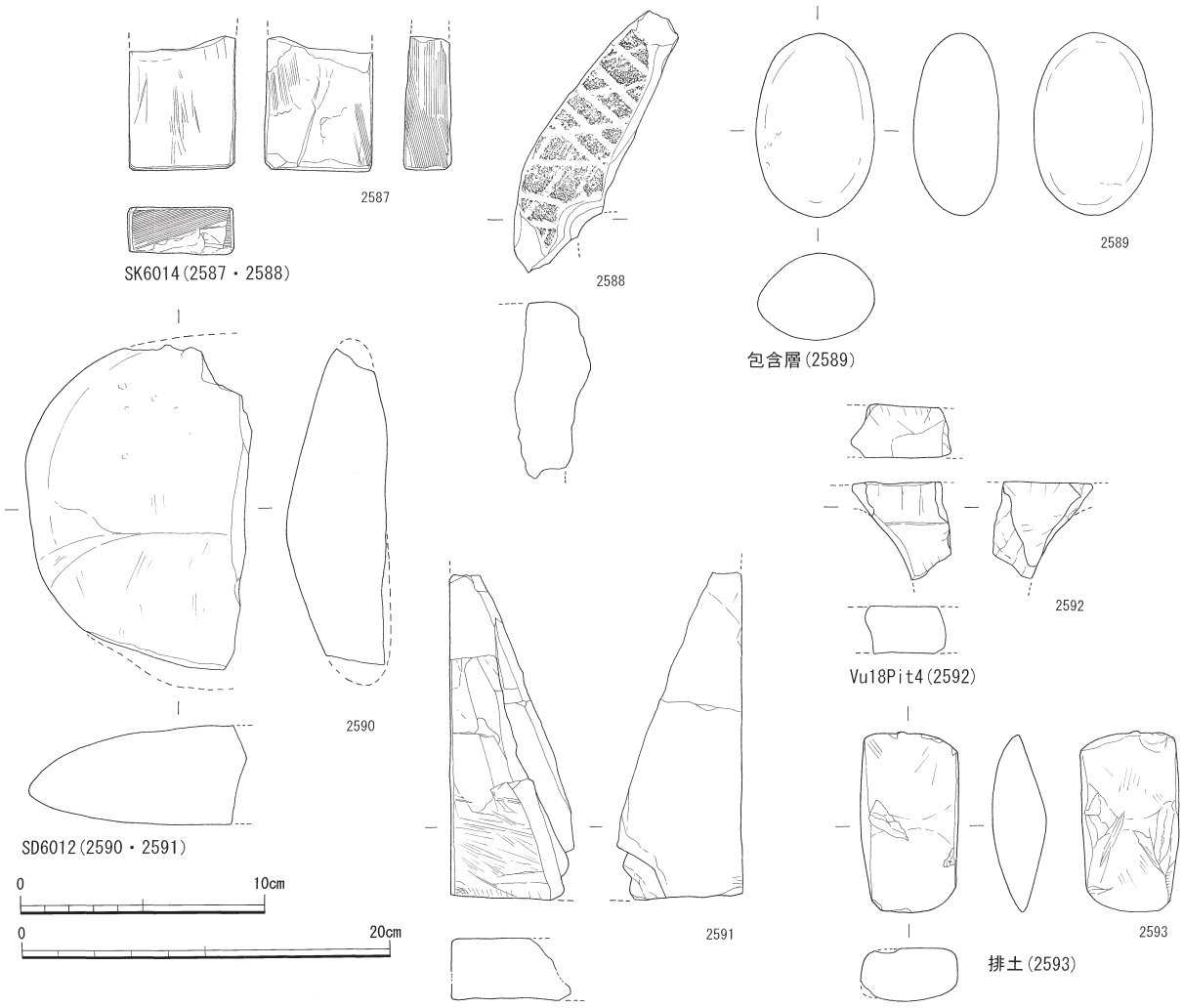
包含層（第139図2589）　2589は磨石の可能性がある。砂岩の円礫で、一部に摩耗したような痕跡もみられるが、明確ではない。



第137図　６次３区出土石製品実測図(1/4、2574は1/3)



第138図　６次４区・５区出土石製品実測図(1/3、2576・2577は1/4)



第139図　６次６区上層・７区上層出土石製品実測図(1/3、2588は1/4)

（５）６次７区上層

ＳＤ6012（第139図2590・2591）　2590は磨石である。扁平な円礫で、表面に摩耗や擦痕等の使用痕が認められる。

2591は砥石である。扁平な直方体を呈し、大きく欠損する。遺存している部分も上下２枚に剥離している。側面の１面が使用されており、他の側面１面及び小口面には加工時に石材を切断した工具痕が残る。目の細かい砂岩ないし粘板岩製で、京都産の可能性がある。

ピット（第139図2592）　2592は砥石の小片である。やや不整形な形状である。

排土（第139図2593）　2593は砥石である。中央から両端に向かって厚みが減じており、縦断面がレンズ形を呈する。全面が使用されていると思われるが、側面の一部には加工時に石材を切断した工具痕と思われる痕跡も残る。やや軟質の泥岩もしくは砂岩製である。

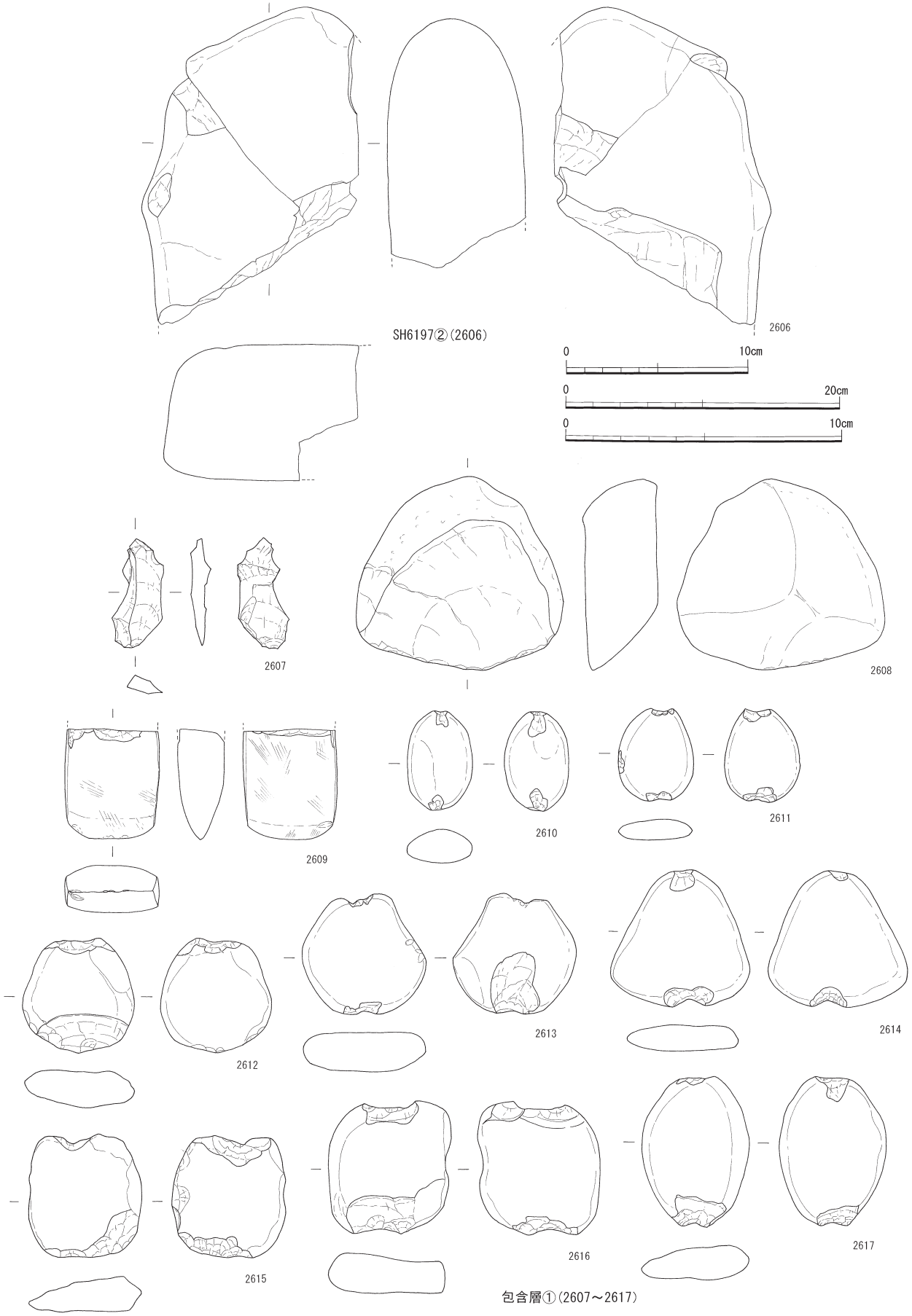
（６）６次６区下層・７区下層

ＳＨ6197（第140・141図2594～2606）　2594は礫器の可能性があるものである。砂岩の小型円礫の一端を打ち欠いて刃部としているが、鋭利さはない。敲石の可能性もある。

2595～2599は打欠石錘である。扁平な礫の両端に打欠により凹みを作り出しているが、2595・2597は片方の凹みが打欠ではなく、素材となった礫に元からある凹みを利用している。

2600～2603は磨石ないし敲石である。2600は使用

第140図　６次６区下層・７区下層出土石製品実測図①(1/3、2600～2603・2605は1/4)



第141図　６次６区下層・７区下層出土石製品実測図②(1/3、2606は1/4、2607は1/2)

痕がやや不明瞭であり、自然石の可能性もある。2601は花崗岩の円礫で、一端に使用痕がみられ、その付近に水銀朱が付着している。反対側の端部にも若干水銀朱が付着する。また、両面に敲打痕と思われる痕跡もみられるが、不明瞭である。2603は小片であるが、表面が摩滅しており、磨石の破片と思われる。

2604～2606は石皿ないし台石である。2604は大型の剥片状のものであるが、上面がやや凹み、部分的に摩滅しているようにも見受けられる。石皿の破片の可能性がある。2605は片面に擦痕がみられる。2606は大型の台石と思われる。上面は平坦になっているが、使用痕は明瞭には認められない。大きく欠損しており、遺存する部分も割れて２つの破片となっている。

包含層（第141・142図2607～2622）　2607はサヌカイトの剥片である。

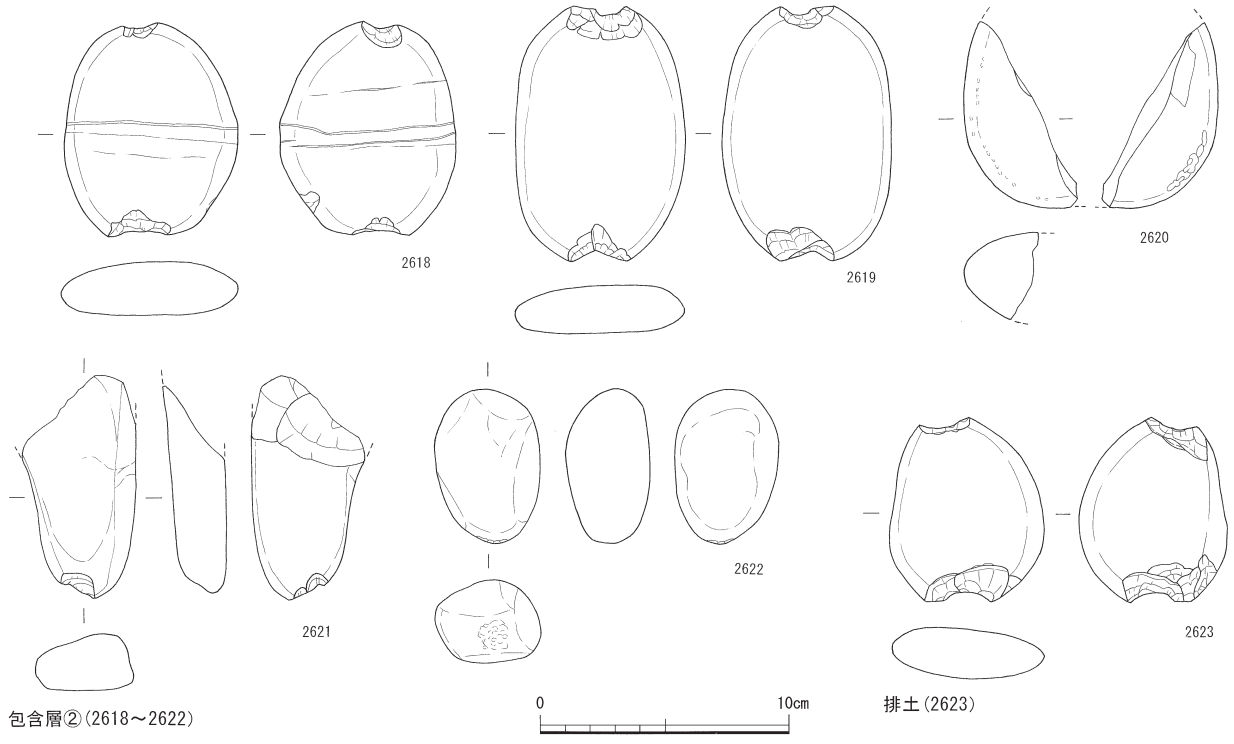
2608は礫器の可能性が考えられるものである。円礫を大きく打ち欠いて刃部を作り出しているようであるが、あまり鋭利ではない。刃部には細かな刃こぼれ状の剥離がみられる。表面には原石の表皮を残すが、一部に摩滅のような痕跡があり、元は磨石として使用されていた可能性がある。

2609は定角式の磨製石斧である。全面が丁寧に研磨されており、側面は明瞭な面をなし、横断面は隅丸方形を呈する。刃部は両刃で、若干の刃こぼれがみられる。

2610～2619は打欠石錘である。2610・2611のように小型のものや、2618・1619のようにやや大型のものがある。扁平な礫の両端に打欠により凹みを作り出しているが、2613は片方の凹みが打欠ではなく、素材となった礫に元からある凹みを利用している。2618は表面に線刻状のものがみられるが、素材の礫に貫入していた脈が風化した痕跡であり、人為的なものではない。

2620～2622は敲石である。2620は破片であるが、側縁に敲打痕が若干残る。2621は不整形な円礫で、一部を欠損する。一端に、敲打によるとも考えられる剥離がみられる。2622は砂岩の小型円礫で、一端に敲打痕が残る。

排土（第142図2623）　2623は打欠石錘である。扁平な円礫の両端に、打欠により凹みを作り出す。



第142図　６次６区下層・７区下層出土石製品実測図③(1/3)

3　木製品

（1）平安時代～室町時代（戦国期）

①井戸枠材

ＳＥ6004（第143・144図2624～2639）　結物井戸枠材はヒノキ製の板材16点からなり、その内板目材14点は木表を外向きに組んでいる(4)。板材は最大幅8.5～19.6cm、長さ70.0cm以上となる。外内面は全体的に粗い仕上がりで、打割製材後にチョウナやヤリガンナで成形したものである。側面は腐食により不明瞭であるが、全体は平滑である。小口は鋸による加工で、底部は平坦に成形する。2631には井戸枠の構造とは無関係の木釘穴が側面に見られる。

ＳＥ6081（第145図2640～2643）　井戸枠材の土居桁は三枚組接ぎの構造で、外内面は全体的に粗い仕上がりとなり、打割製材後ヤリガンナで成形している。小口は鋸と鑿による加工である。

ＳＥ6092（第148～154図2668～2700）　結物積み上げ井戸の板材で３段の結物が確認でき、最下段については調査の制約から取り上げができなかった。３段目結物（2668～2683）はスギ製の板材16点からなり、板材は最大幅4.6～18.2cm、長さ87.4cm程である。２段目結物（2684～2700）はスギ製の板材17点からなり、板材は最大幅6.1～16.8cm、長さ92.8cm程である。両段ともに板目材と柾目材が混在するが、板目材は全て木表が外向きとなる。打割製材と大鋸による挽割製材のものがあり、外内面はヤリガンナで成形している。側面は平滑であり、台鉋による加工とみられる。底部の形態は２・３段目で異なり、３段目は鋸で平坦に成形するが、２段目は鋸で切断後にヤリガンナで削り出し、杭先状に加工する。

ＳＥ6108（第155～157図2701～2714）　結物井戸枠材はコウヤマキ製の板材14点からなり、柾目材と板目材がある。板目材は木表が外向きと内向きのものが混在するが、外向きのものが優位となる。外内面は全体的に粗い仕上がりとなり、打割製材後にチョウナやヤリガンナで成形したものである。側面は平滑でありヤリガンナによる加工と考えられる。小口は鋸による加工で、底部は平坦に成形するものが多く、鈍く尖らした形態も観察できる。

ＳＥ6116（第145～147図2644～2667）　縦板組井戸枠の板材で縦板（2644～2661）と土居桁（2662～2667）からなり、スギ、コウヤマキ、ヒノキ、ヒノキ科の板材が混在する。縦板は最大幅5.6～34.6cm、長さ111.2cm以上であり、幅が大きく異なる特徴がある。2644・2661は主面の一方をヤリガンナで平滑に加工しており、床板の可能性がある。2645の側面には井戸の構造とは無関係のホゾ穴が施されたものである。2649の主面には半円形の窪みがあり、建築部材を転用したものであろう。2655は側面の一方が凸形、もう一方が凹形であり、壁板と考えられる。薄手の板材（2646～2468・2651・2652・2656・2657・2660）は全てコウヤマキ製であり、同一母材から製作されたものであろう。縦板は転用材を主とした構成であると考えられる。土居桁は角材状板材（2662～2664）と三枚接ぎの板材（2665～2667）からなる。角材状板材は全てコウヤマキ製で、同一母材から製作されたものであろう。

ＳＥ6164（第158～160図2715～2731）　横板組井戸枠材でスギ、ヒノキ製の横板と隅柱からなる。横板は打割製材後に主面をチョウナで成形したものである。側面はヤリガンナによる波状の工具痕が観察できる。小口は斧で粗く仕上げたものが多くを占める。2719の主面には井戸の構造と無関係のホゾ穴がある。2720は丸太を半裁したもので、樹皮や枝の伐採痕が残り、木裏側は打割後未成形である。側面の２箇所には鑿により仕口が設けられている。2731は小口の一端を削り出し杭状に仕上げたもので、地中に突き立て使用したことが想定される。また、主面には溝があり、板材をはめ込む構造であった可能性もある。2729も同様に小口の一端を斧状工具で削り出し杭状に加工する。

②曲物水溜

ＳＥ6001－Ａ・Ｂ（第161図2732・2733）　2732はＳＥ6001－Ａのスギ製曲物で、側板には３段のタガが巡り、側板とタガの隙間２箇所に縦板が見られる。タガ先端には面取りは見られない。内面には斜め方向のケビキが施される。2733はＳＥ6001－Ｂのヒノキ製水溜で、側板にはタガが見られない。内面には縦方向のケビキが施され、側板上部に６箇所、下部

に６箇所の木釘穴がある。

ＳＥ6044（第162図2737）　側板には２段のタガが巡り、内面には縦・斜め方向のケビキが施される。タガ先端には面取りは見られない。側板の１箇所に木釘穴がある。

ＳＥ6081（第162図2736）　側板にはタガが１段巡り、内面には縦方向のケビキが施される。タガ先端には面取りは見られない。タガと側板の隙間１箇所には縦板が見られる。底部の43箇所に木釘穴がある。

ＳＥ6144－Ｂ（第161図2735）　別作りしたヒノキ製の曲物を５箇所の綴皮により連結したものである。上・下段の側板には１段のタガが巡り、タガ先端に面取りは見られない。１段目のタガには12箇所に貫通しない木釘穴が施される。内面は縦方向のケビキが見られる。

ＳＥ6164（第161図2734）　スギ製の曲物で、側板にはタガが２段巡り、タガ先端には面取りは見られない。内面には縦方向のケビキがあり、木釘穴は側板底部に７箇所、タガに５箇所施される。

ＳＥ6202（第162図2738・2739）　2738は上段、2739は下段となる。2738は側板にタガが１段巡り、タガの先端は面取りされていない。内面は縦方向のケビキが施される。タガと側板の隙間２箇所には縦板が見られる。底部の６箇所には貫通する木釘穴が施される。2739は側板にタガが２段巡り、タガの先端は面取りされていない。内面は縦方向のケビキが施される。タガと側板の隙間２箇所には縦板が見られる。タガの13箇所には貫通しない木釘穴が施される。

③その他製品

ＳＥ6001（第163図2744）　曲物底板はスギ製のもので、側面には木釘穴が施される。

ＳＥ6002（第163図2745）　漆椀はトチノキ製の横木取り柾目材で、総黒漆塗りで外内面に朱漆絵がある。

ＳＥ6005（第163図2741）　曲物底板はスギ製のもので、長さ16.7㎝、幅15.5㎝となる。穿孔は観察できないことから、側板に底板をはめ込むものと考えられる。器面は平滑に成形されるが、明瞭な工具痕は観察できなかった。

ＳＥ6035（第164図2760）　棒状製品は柄杓などの柄であろう。芯持ち材を刀子状工具で成形している。

ＳＥ6081（第163図2742）　曲物底板はスギ製のものである。外内面・側面はやや粗い成形で、ヤリガンナの加工痕が顕著に見られる。

ＳＥ6083（第164図2770）　漆椀はクリ製の横木取り柾目材で、総黒漆塗りで体部外面には朱漆絵が見られるが、残存状況が悪く構図は不明である。

ＳＥ6092（第165・166図2790～2796）　楔は先端を斧状工具で粗く削り成形しており、結物のタガを締めるものである。楔の形態は厚みに対して、幅が広いものが目立つ。

ＳＥ6144－Ｂ（第166図2797～2800）　楔（2797）は割材の先端を斧状工具で粗く削り成形したものである。曲物底板（2798）はヒノキ製で主面の３箇所に穿孔があり、１箇所に焼けた痕跡が見られる。曲物底板（2799・2800）には刃物痕が観察でき、まな板に転用したものとみられる。

ＳＥ6150（第163図2746～2754）　紡錘車（2746）はアカガシ亜属製で、径6.3㎝、厚さ1.0㎝、穿孔0.5㎝のものである。器面は平滑であるが明瞭な工具痕は観察できない。楔（2747～2754）は先端を斧状工具で粗く削り成形しており、結物のタガを締めるものである。

ＳＥ6153（第164図2761～2764）　楔は先端を斧状工具で粗く削り成形しており、結物のタガを締めるものである。長さ16.5～18.2㎝、幅2.1～2.8㎝と全体に大きさや形状が似通っている。

ＳＥ6161（第164図2765・2766）　楔は板状形態の材の先端を斧状工具で粗く削り成形しており、結物のタガを締めるものである。

ＳＥ6164（第163図2743）　棒状製品は刀子状工具で器面を粗く成形する。

ＳＥ6203（第164図2755～2759）　曲物底板が５点出土しており、2755はヒノキ製で主面に黒色の塗膜痕が観察できる。2757と2758には主面中央の１箇所に穿孔がある。2759は２枚以上の底板を木釘で接ぐものである。底板の側面にも木釘穴があることから、底板と側板の接合も木釘を用いたと考えられる。

ＳＥ6207（第164・165図2767・2768・2771～2789）

付木（2767）は割材を用いており、器面全体が粗い仕上がりのものである。先端の炭化は表面のみで、芯は生木の状況が観察できることから、表面に着火

剤が塗布されていた可能性がある。漆椀（2768）はブナ属製の横木取り柾目材で、外面は黒漆塗り、内面は朱漆塗りである。漆絵は確認できない。楔（2771～2789）が19点出土しており、先端を斧状工具で粗く削り成形しており、結物のタガを締めるものである。全体に同じ製作技法で近い形状となるが、長さ11.6～19.7㎝、幅1.9～3.9㎝と大きさにばらつきが見られる。

ＳＫ6039（第167図2803～2807）　曲物底板は2803がスギ製で側板にはめ込むもの、2804がヒノキ製で綴皮留めのものである。棒状製品（2805）は全体を刀子状工具で平滑に成形しており、柄杓などの柄と考えられる。漆椀（2806）はミズキ属製の横木取り柾目材で、体部外面は朱漆塗り、底部外面が黒漆塗り、内面が朱漆塗りである。曲物容器（2807）はヒノキ製のもので、直径8.6㎝、高さ7.3㎝、側板にはタガが１段巡る。底板には木釘穴や綴皮が確認できないため、側板に底板をはめ込むものと考えられる。

ＳＫ6117（第167図2808・2809）　漆椀はともにケヤキ製のものである。2808は横木取り柾目材で、体部外面は朱漆塗り、底部外面は黒漆塗り、内面は朱漆塗りとなる。体部外面には黒漆絵が見られる。2809は横木取り柾目材で、体部外面は黒漆塗りで底部外面には朱漆絵があり、内面は朱漆塗となる。火を受けて、部分的に炭化している。

ＳＫ6142（第167図2810・2811）　板状製品（2810）は小口の一端を剣先状に成形したもので、全体が平滑である。木球（2811）はマツ属製芯持ち材を刀子状工具で加工したもので、細かい節が多く見られる。

ＳＫ6154（第166図2801・2802）　竪杵（2801）はエノキ属製で搗き部のみ残存し、器面はヤリガンナで加工される。棒状製品（2802）はマツ属複維管束亜属製のもので、斧状工具により先端を削り出している。

ＳＫ6166（第164図2769）　漆椀はカエデ属製の横木取り柾目材で体部外面は朱漆塗り、底部外面は黒漆塗り、内面は朱漆塗となる。

ＳＤ6012（第167～169図2812～2861）　斎串（2812～2848・2856）が37点出土しており、板材の両端が圭頭状を呈するもの（2812）が１点あるが、この他は板材の上端が圭頭状で、下端が剣先状を呈するものである[(5)]。スギ製が多くを占めており、この他にコウヤマキ、ヒノキ、ヒノキ科のものがある。木札（2849）は全体が平滑に成形されており、小口の一端が剣先状を呈する。墨書は確認できない。羽子板状製品（2850）は器面全体を平滑に成形している。不明品（2851）はスギ製のもので、器面全体を平滑に仕上げており、小口と側面の一方が半円形を呈する。形代の可能性がある。不明品（2852）は全体的に腐食しており調整は不明瞭であるが、１箇所に穿孔が見られる。付木（2853）は割材の先端を削り出したものである。柄杓の柄（2854）は先端を荒く削り出しており、器面全体は平滑に成形されている。棒状製品（2855）も柄杓などの柄と考えられる。曲物底板には、側面に木釘穴を施すもの（2859）、木釘穴を施さないもの（2858・2860）、主面中央に穿孔を施すもの（2857）が見られる。結物蓋（2861）はスギ製で木栓用の穿孔がある。

ＳＤ6084（第170図2862）　折敷底板はヒノキ製で、１箇所に切り込み状の窪みが見られる。主面には刃物痕があり、まな板に転用したものと考えられる。

ＳＤ6126（第170図2864～2867）　漆椀（2864）はムクロジ製の横木取り柾目材で、総黒漆塗りで体部外面に線状の朱漆絵があるものの不明瞭である。不明品（2865）は４箇所に木釘穴があり、その内２箇所で木釘が残存する。折敷底板（2866）はヒノキ製の綴皮留めのもので、主面の縁に沿って３箇所に穿孔が施される。曲物底板（2867）は２枚以上のスギ製の底板を木釘で留めるものである。

ＳＤ6167（第170～172図2868～2887）　曲物容器（2868）はヒノキ属製で、直径11.5㎝、高さ4.9㎝となり、側板と底板を２箇所の木釘で留めている。底板にはヤリガンナの工具痕が顕著に残る。篦（2869）は全体が平滑に成形され、縦断面は中央から両端に向け薄くなる形状である。棒状製品（2870）は刀子状工具で平滑に成形している。板状製品（2871）は半円形の溝と直線状の溝が１箇所ずつ確認できる。不明品（2872）は全体に刀子状工具による加工痕が見られ、把手状部位は鋸と鑿で加工される。漆椀（2873～2879）は、全て横木取り柾目材である。2873は総黒漆塗りで、内面に朱漆絵がある。2874は外面が黒漆塗りで朱漆絵があり、内面朱漆塗りであ

る。2875は総朱漆塗りで外面に黒漆絵がある。2876は総黒漆塗りで内面に朱漆絵がある。2877は総黒漆塗りで外内面に朱漆絵が見られる。底部外面には「上」の朱書きがある。2878は総黒漆塗りで、外内面に朱漆絵がある。2879は総黒漆塗りで内面に朱漆絵がある。不明品（2880）は形態が曲物底板に類するものの、主面には穿孔６箇所と木釘穴が複数ある。上面は木釘穴10箇所が円形に並び、下面は木釘穴11箇所が不規則に施される。折敷底板（2881～2883）は、2881が綴皮留めのもので、穿孔に綴皮を通した状態が確認できる。2882は６箇所の穿孔があり、１箇所に綴皮が残存する。2883は木釘留めのもので、側面に木釘が見られる。折敷３点とも主面の一方に刃物痕があり、まな板に転用されたものであろう。不明品（2884）は芯持ち材を加工したもので、上部はやや山なりを呈し、下部は下駄の歯状に凹凸となる。下部には鉄釘で板材を留める構造が観察できる。上部の１箇所にも鉄釘があり、複数の板材を組み合わせた製品と考えられる。連歯下駄（2885）はモクレン属製の連歯下駄で、右足用である。犂（2886）は芯持ち材を加工したもので、犂身から犂先の一部が残存する。全体を平滑に成形したもので、ホゾ穴が４箇所あり、そのうちホゾ穴Ｃ・Ｅには部材が残る。犂は複数の部材からなり、ホゾ穴Ａは犂柱、ホゾ穴Ｃはツク、ホゾ穴Ｄは犂轅、ホゾ穴Ｅは把手が付くとみられる[(6)]。犂身はマツ属製、ホゾＣ部材はヒノキ属製、ホゾＥ部材はツバキ属製である。板材（2887）は長さ64.7㎝、幅6.0㎝、厚さ0.3㎝の割材で板葺き材と考えられる。

ＳＤ6190（第170図2863）　折敷底板は綴皮留めのもので、主面の縁に沿って５箇所に穿孔が見られる。主面の一方には刃物痕があり、まな板に転用したものと考えられる。

（２）江戸時代

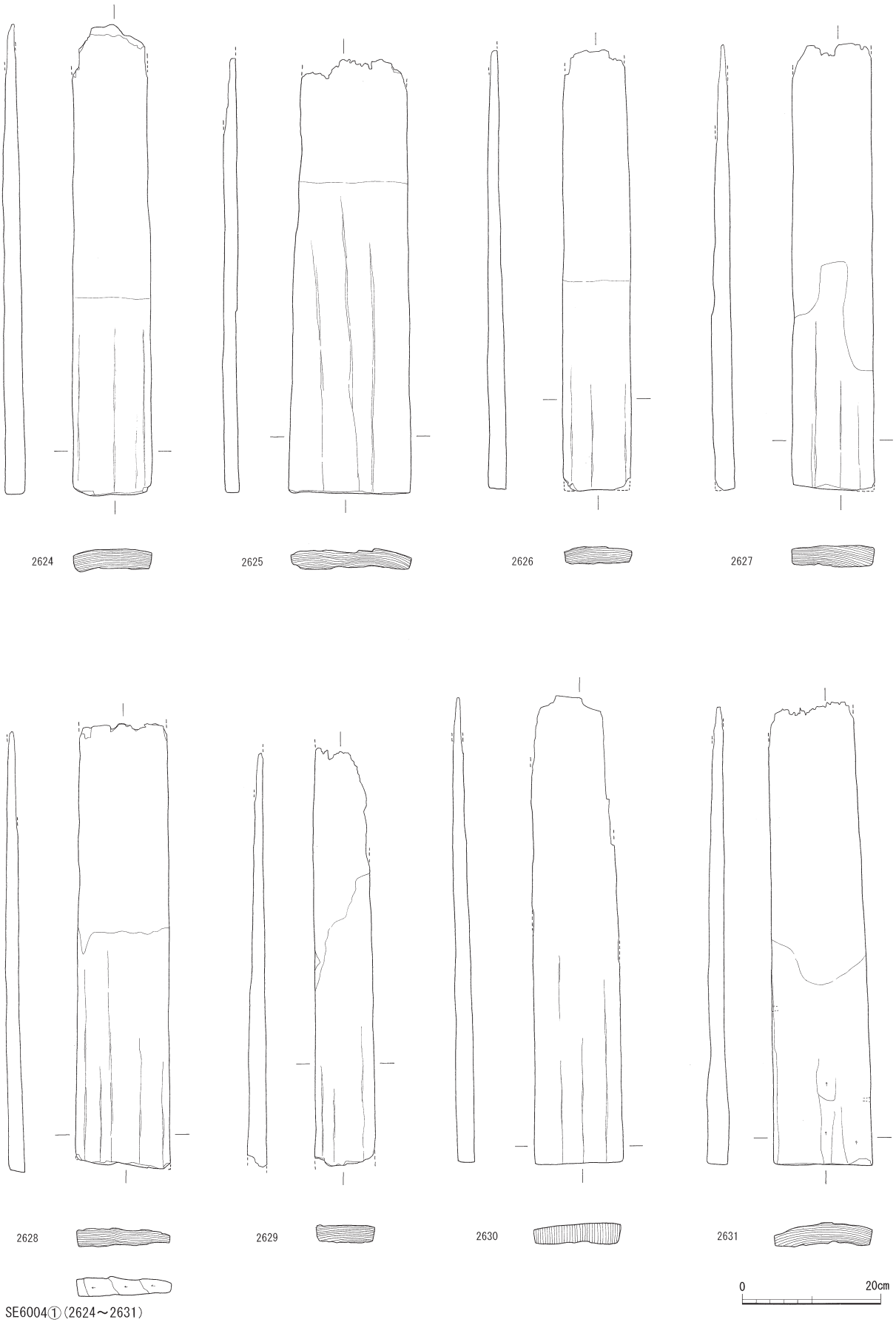
①井戸枠材

ＳＥ6124（第173～177図2888～2926）　結物積み上げ井戸の板材で２段の結物が確認された。２段目の結物（2888～2908）は板材21点からなり、最大幅6.5～15.5㎝、長さ88.4㎝以上であり、節のある板材が多くを占める。最下段の結物（2909～2926）は板材18点からなり、最大幅6.6～13.3㎝、長さ63.8㎝程であり、２段目よりも短い結物となる。板材の両側面には木釘穴があり、板材を連結するための補助材と考えられる。木取りについては、最下段は板目材と柾目材が混在するが、２段目は柾目材が中心となる。両段ともに大鋸による挽割製材と考えられ、外内面はチョウナやヤリガンナで成形し、側面は平滑で台鉋による加工と考えられる。小口は鋸で平坦に仕上げている。

ＳＥ6144－Ａ（第177～179図2927～2939）　陶製井戸枠・結物組井戸で、陶製井戸枠１段と結物１段が確認された。結物は板材13点からなり、その内６点がスギ製であり、節がある材を含む。形態が特徴的で主面は逆台形となり、横断面がアーチ状を呈する。板材は板目材が中心となり、最大幅は7.8～16.9㎝、長さ62.0㎝程である。大鋸による挽割製材で外内面はヤリガンナで成形され、側面は台鉋で加工する。小口は鋸で平坦に成形する。

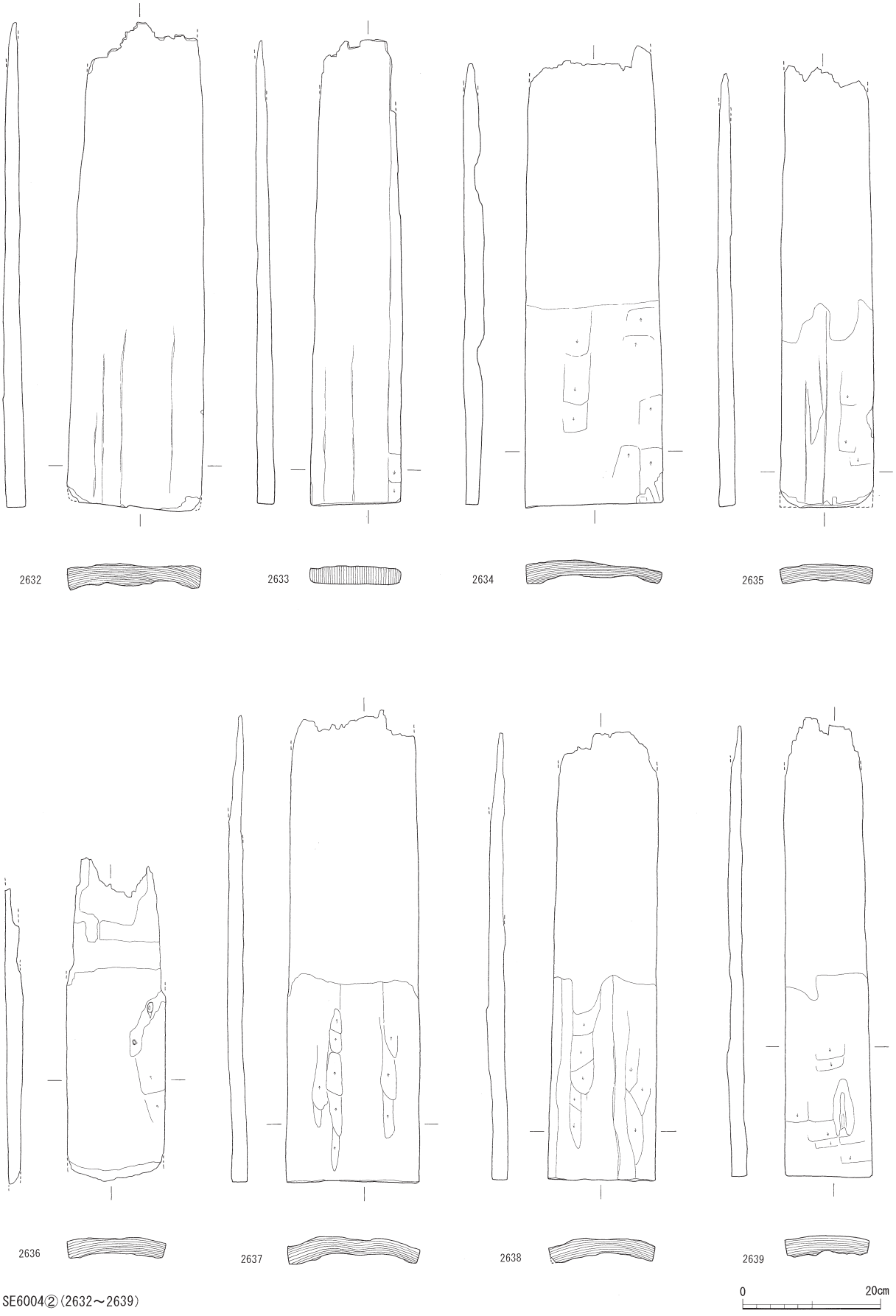
ＳＥ6171（第180～188図2940～2981）　結物積み上げ井戸の板材で３段の結物が確認でき、最下段については調査の制約から取り上げできなかった。３段目結物（2940～2961）は板材22点からなり、最大幅8.6～17.0㎝、長さ74.5㎝以上となる。２段目結物（2962～2981）は板材20点からなり、最大幅8.5～16.3㎝、長さ114.0㎝程である。木取りは両段ともに板目材と柾目材が混在しており、節がある材が多く確認できる。大鋸による挽割製材後に外内面をヤリガンナで仕上げる。側面は台鉋、底部は主面の内側をヤリガンナで削り出し杭状に加工する。２段目板材の側面には、刃物状工具を節の周囲に打ち当てた痕跡が観察できる。節のある固い部位を打撃により切除したうえで、側面を台鉋で仕上げたものと考えられる。

ＳＥ6184（第189～193図2982～3019）　結物積み上げ井戸の板材で３段の結物が確認されたが、３段目の結物は残存状況が悪いため図化できなかった。２段目結物（2982～2998）は板材17点からなり、その内９点がヒノキ製である。板材は最大幅5.5～15.3㎝、長さ70.4㎝以上となる。最下段結物（2999～3019）は板材21点からなり、その内13点がヒノキ製であった。板材は最大幅5.0～16.0㎝、長さ83.3㎝



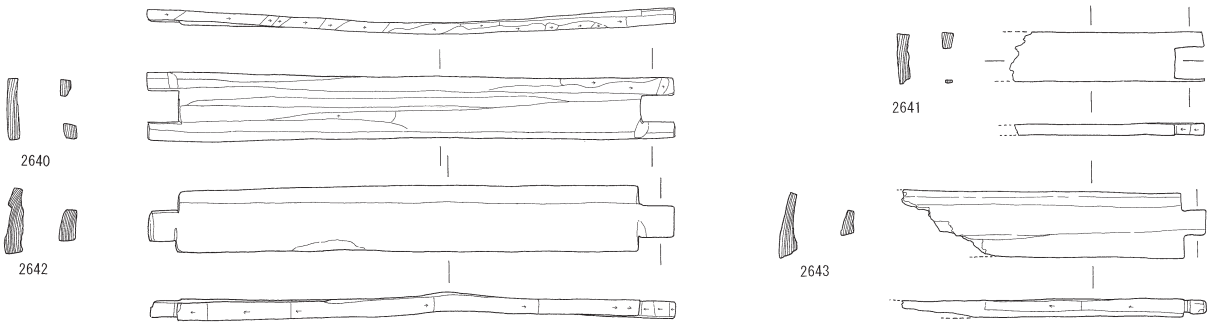
SE6004①(2624～2631)

第143図　木製品　井戸枠材実測図①(1/8)

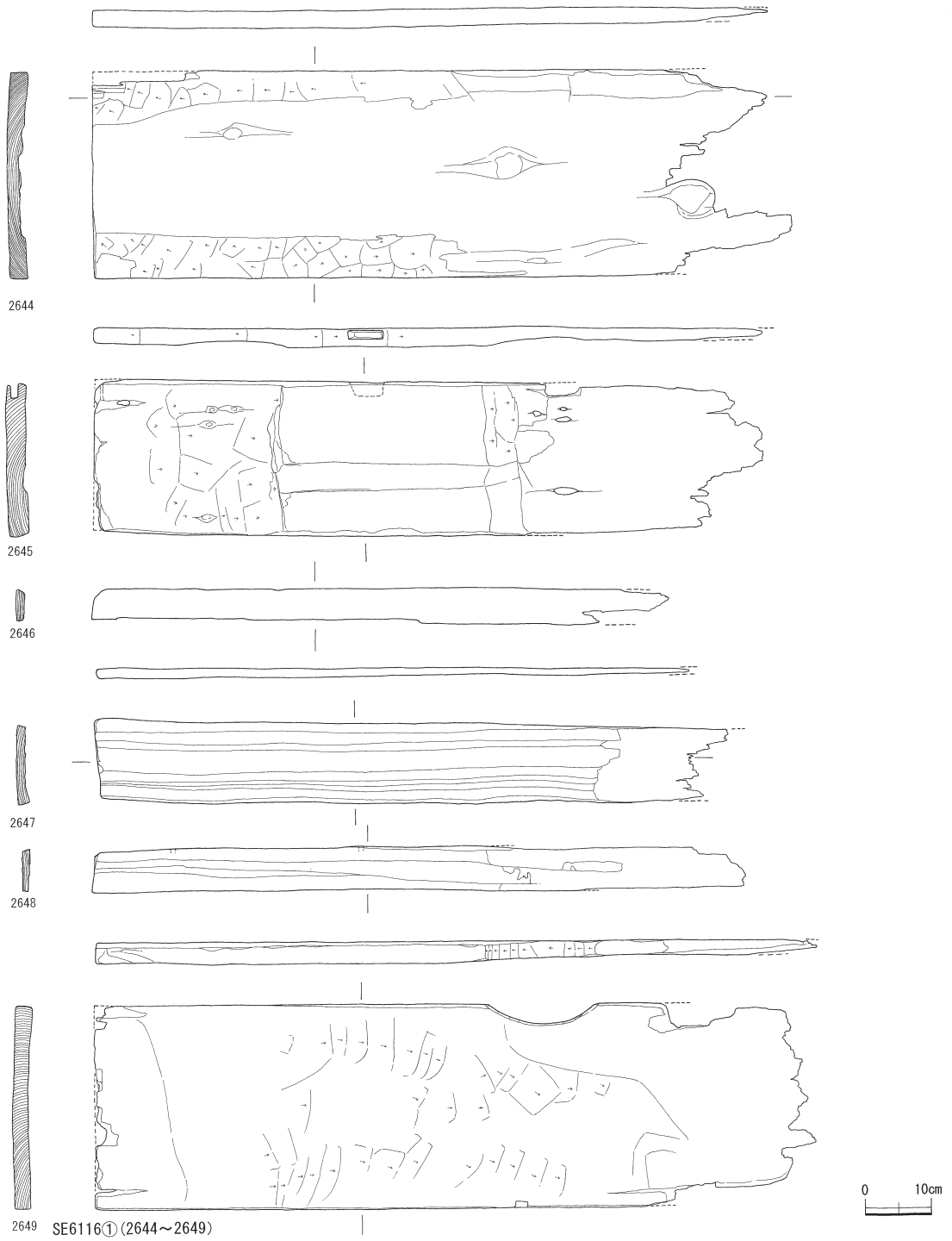


SE6004②(2632～2639)

第144図　木製品　井戸枠材実測図②(1/8)



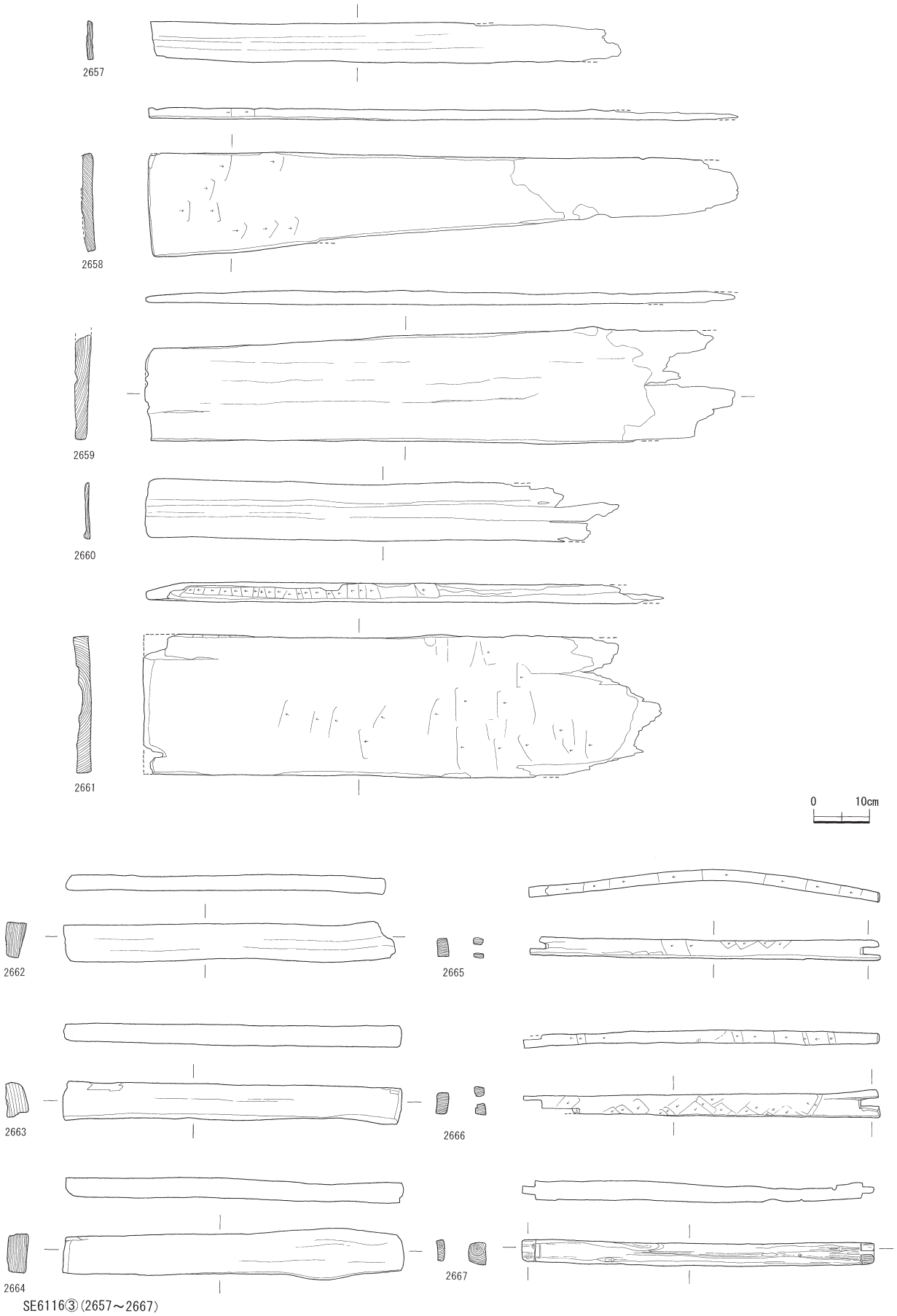
SE6081(2640～2643)



SE6116①(2644～2649)

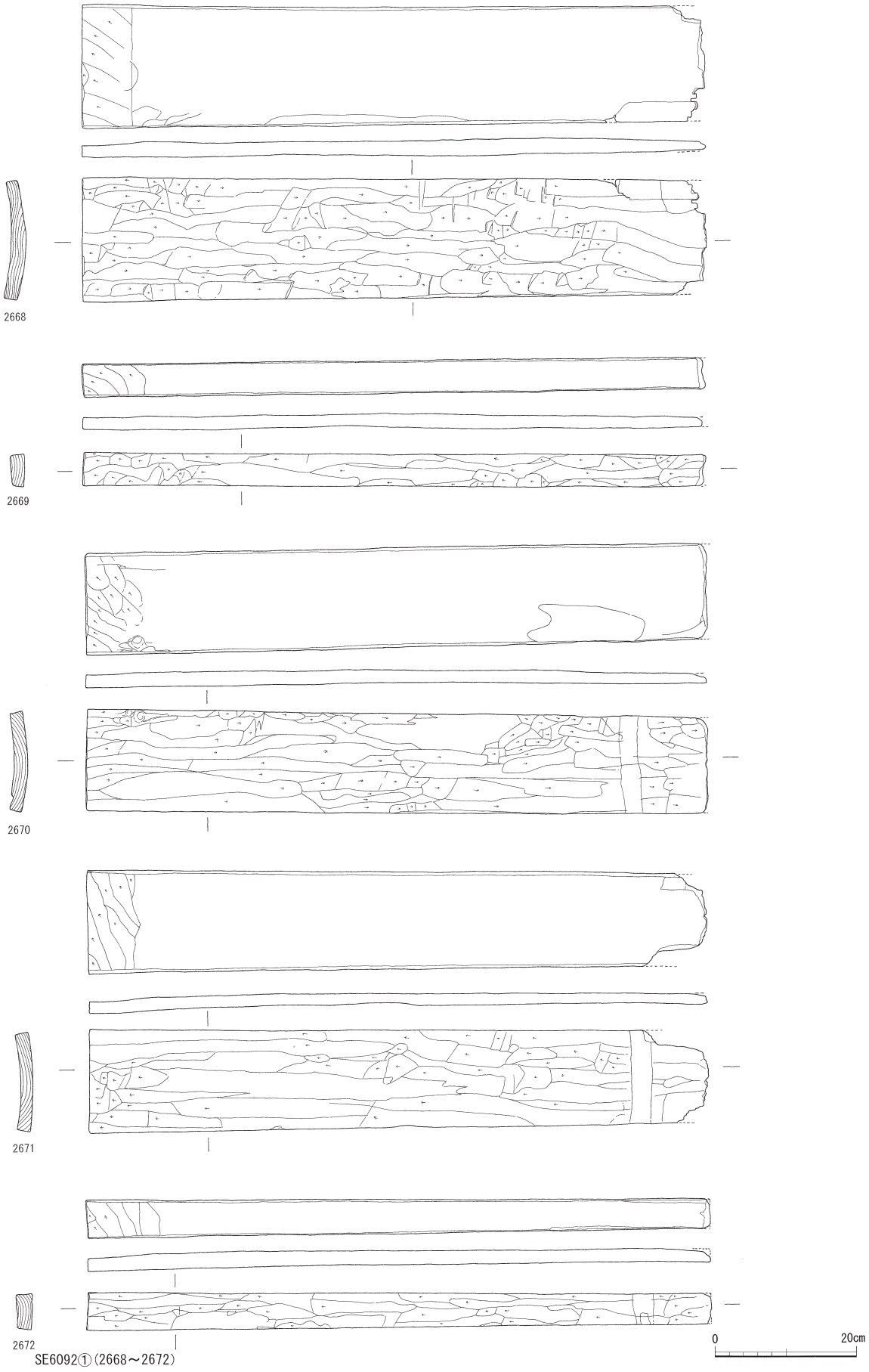
第145図　木製品　井戸枠材実測図③(1/10)

第146図　木製品　井戸枠材実測図④(1/10)

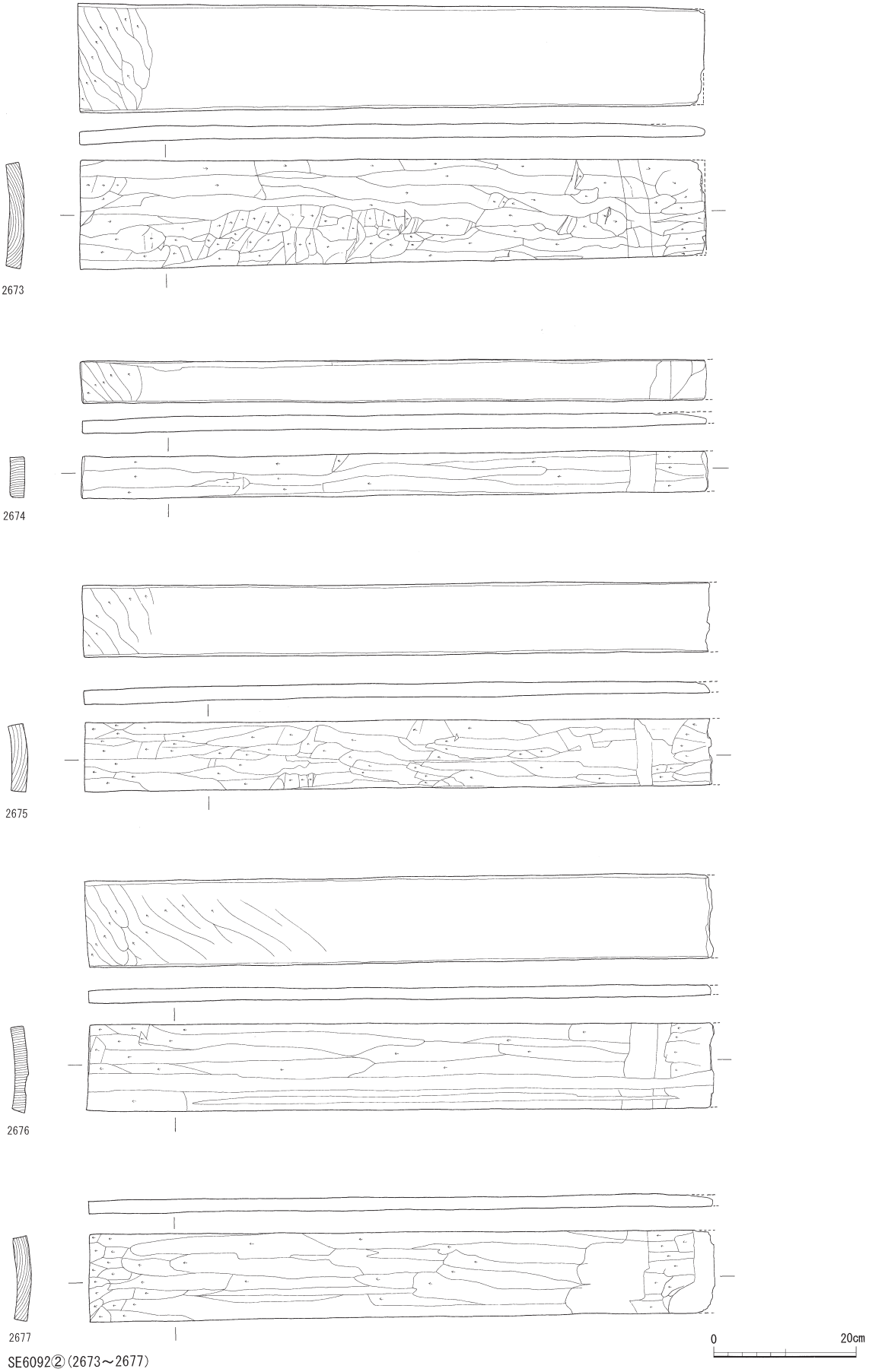


SE6116③(2657～2667)

第147図　木製品　井戸枠材実測図⑤(1/10)



第148図　木製品　井戸枠材実測図⑥(1/8)

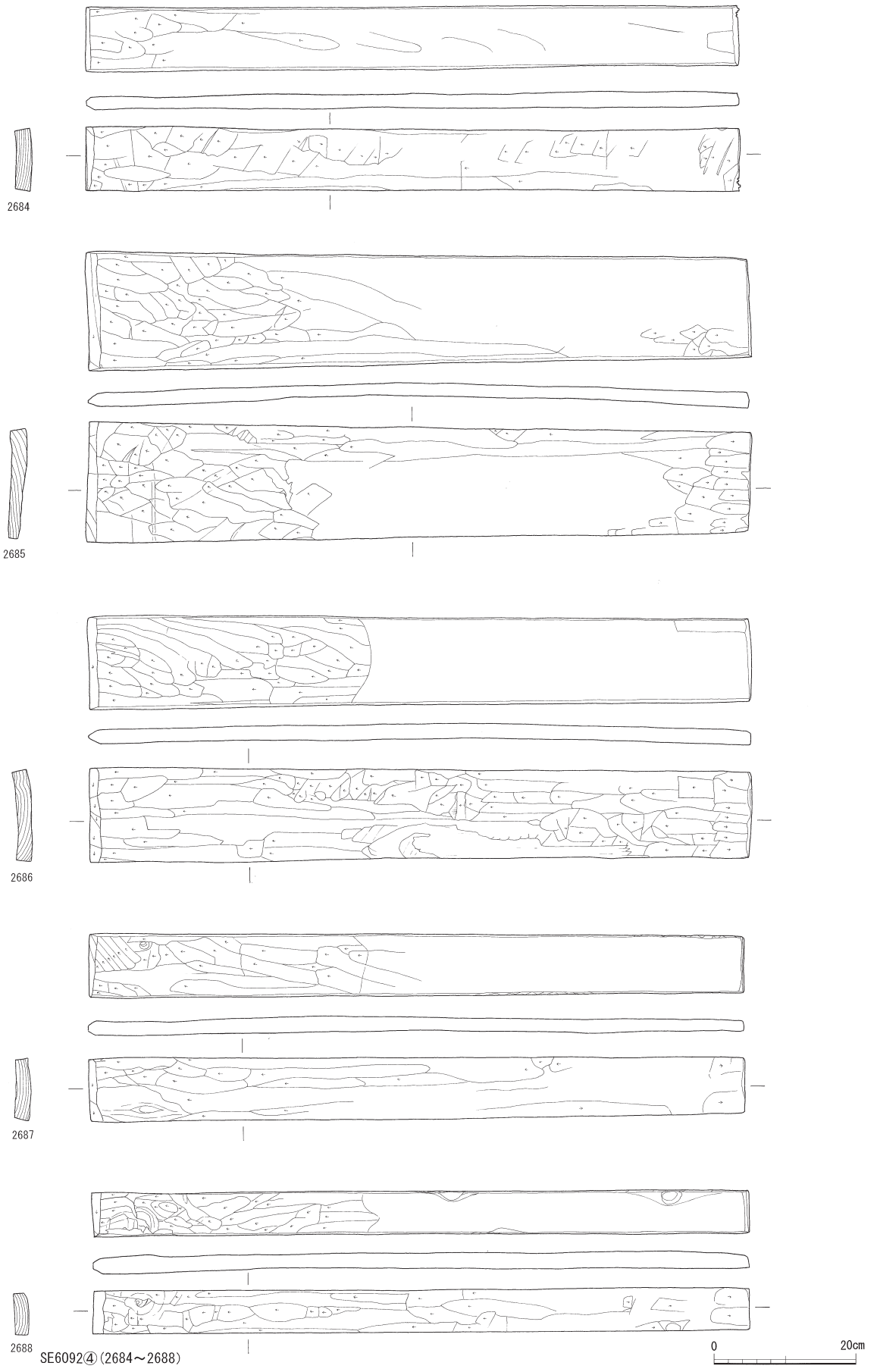


SE6092②(2673～2677)

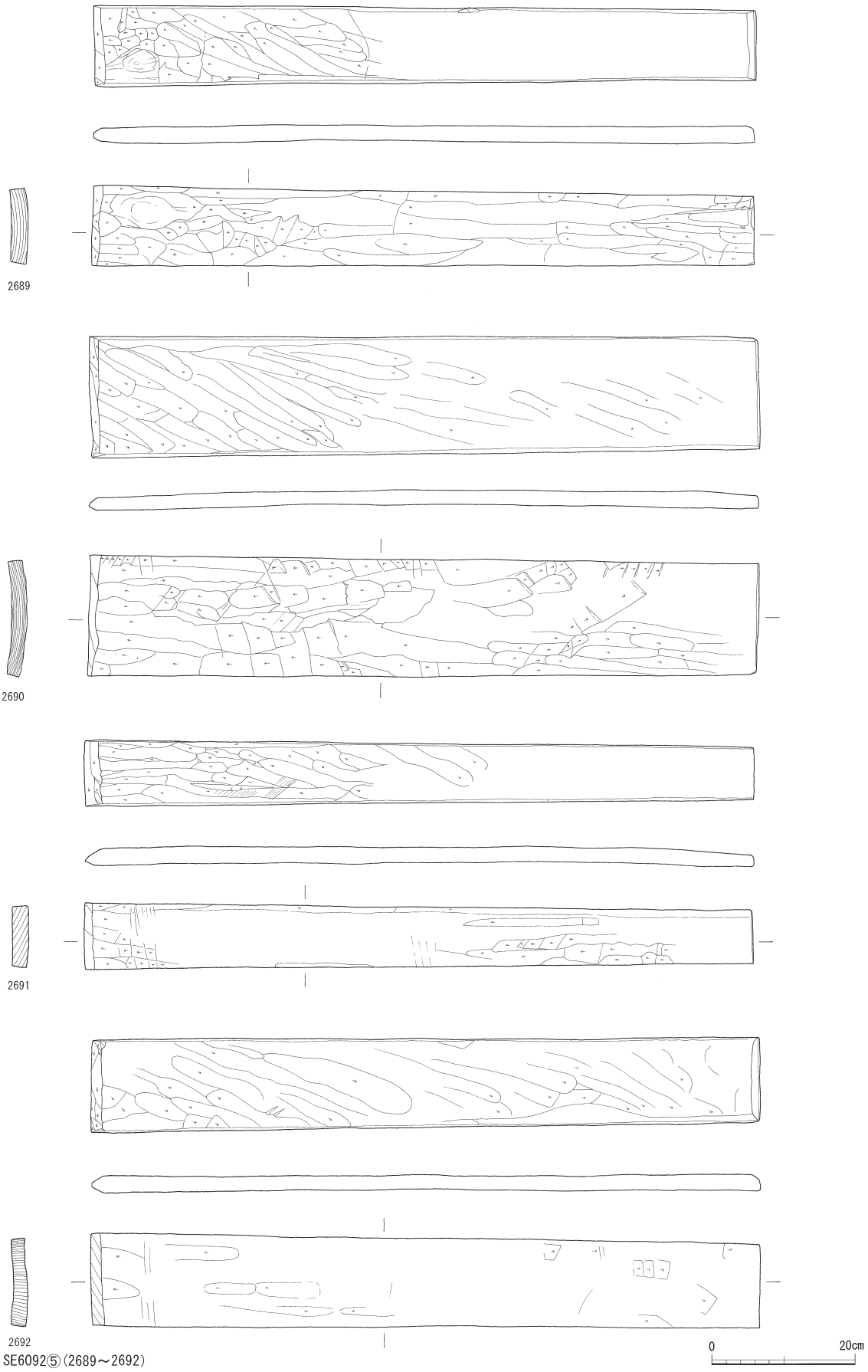
第149図　木製品　井戸枠材実測図⑦(1/8)

SE6092③(2678～2683)

第150図　木製品　井戸枠材実測図⑧(1/8)

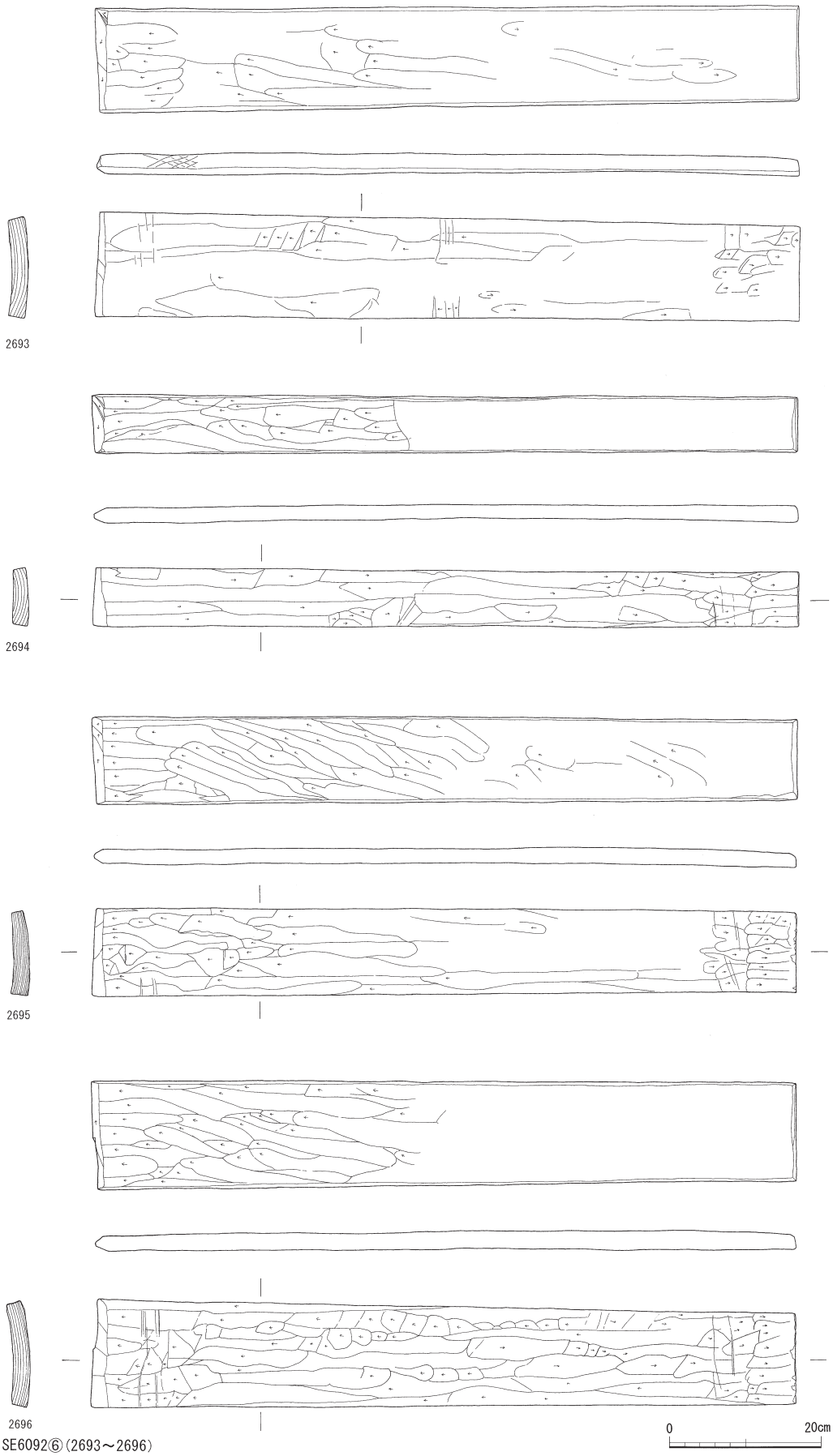


第151図　木製品　井戸枠材実測図⑨(1/8)



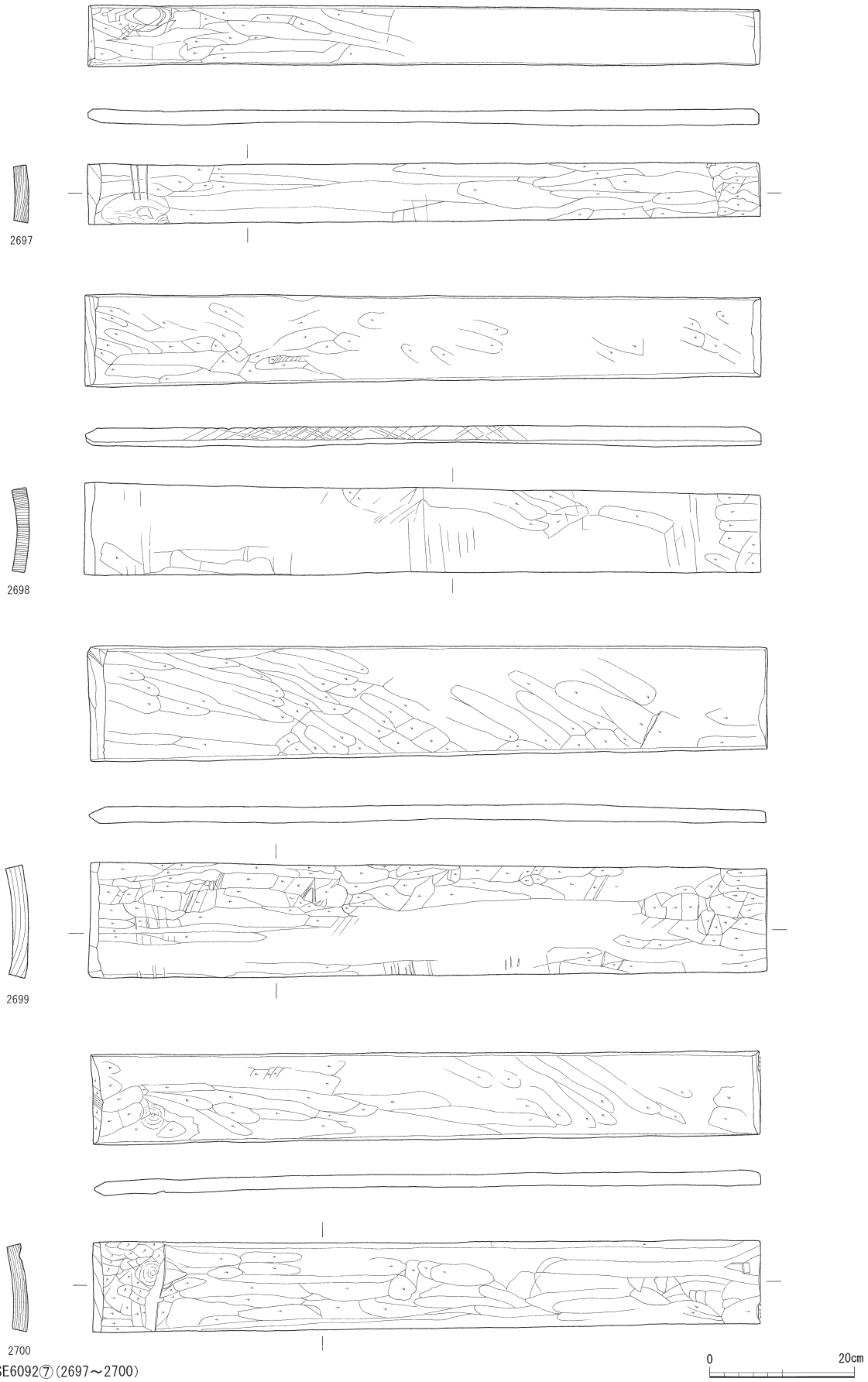
SE6092⑤(2689～2692)

第152図　木製品　井戸枠材実測図⑩(1/8)



SE6092⑥(2693～2696)

第153図　木製品　井戸枠材実測図⑪(1/8)



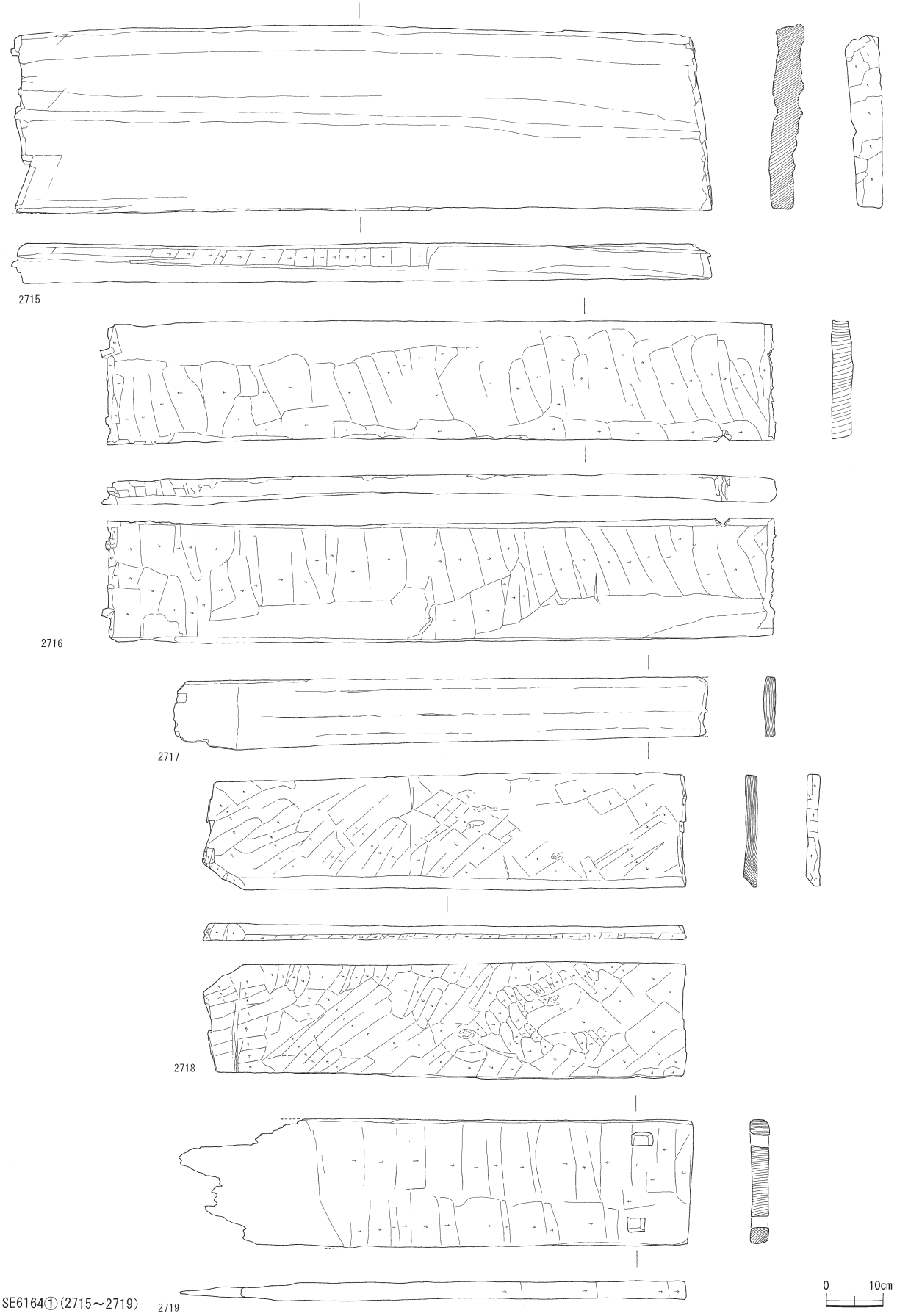
SE6092⑦(2697～2700)

第154図　木製品　井戸枠材実測図⑫(1/8)

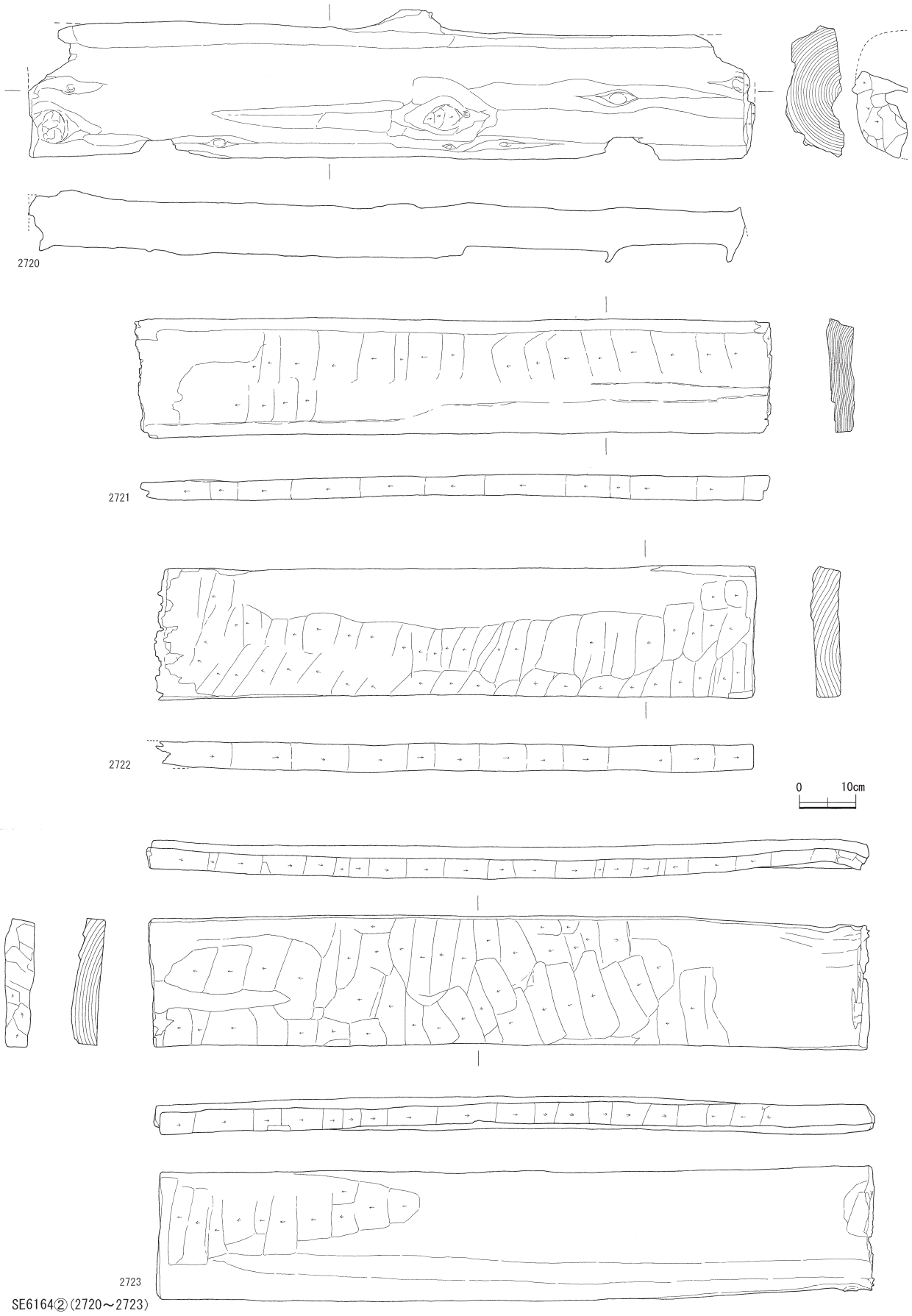
第155図　木製品　井戸枠材実測図⑬(1/8)

第156図　木製品　井戸枠材実測図⑭(1/8)

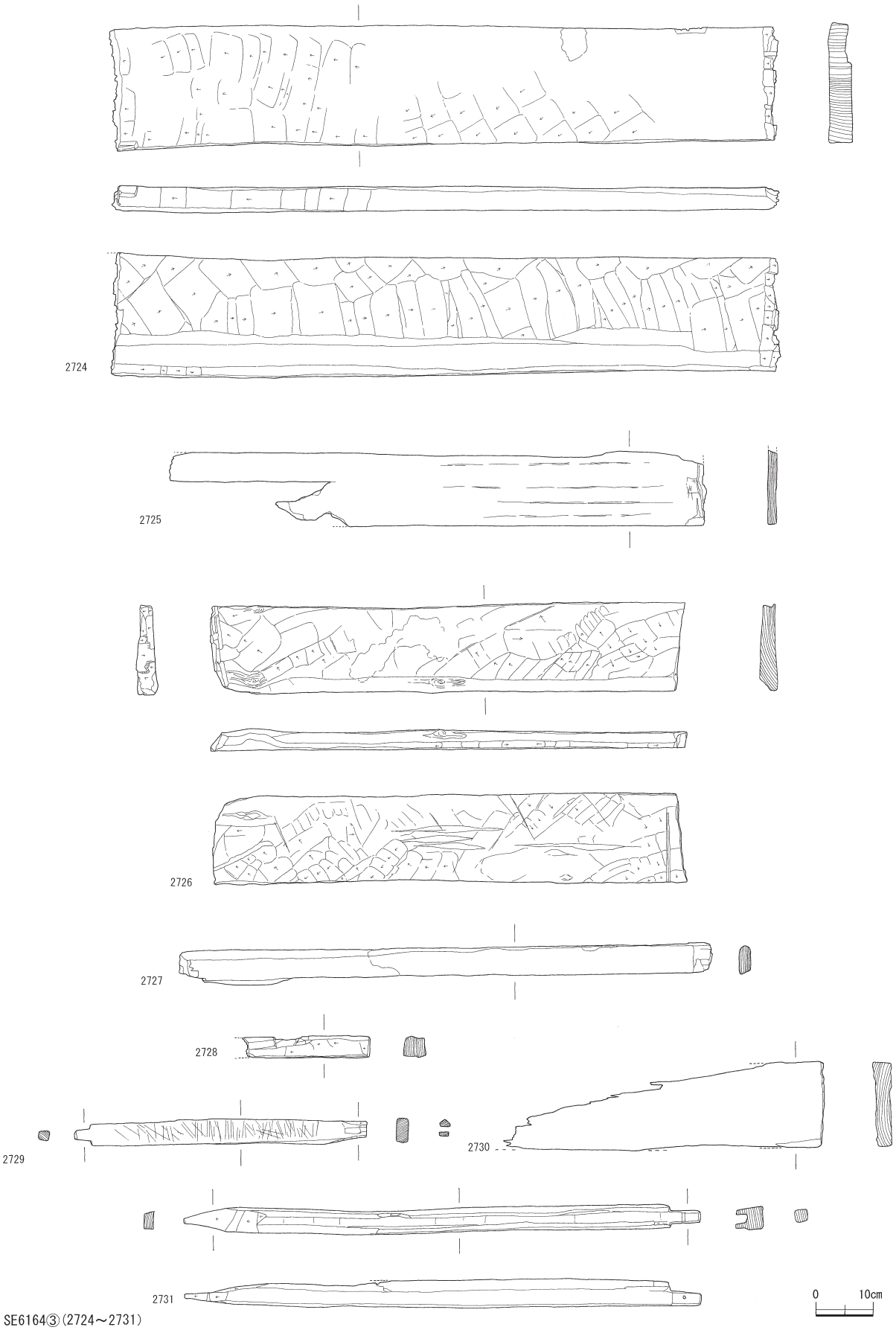
第157図　木製品　井戸枠材実測図⑮(1/8)



第158図　木製品　井戸枠材実測図⑯(1/10)

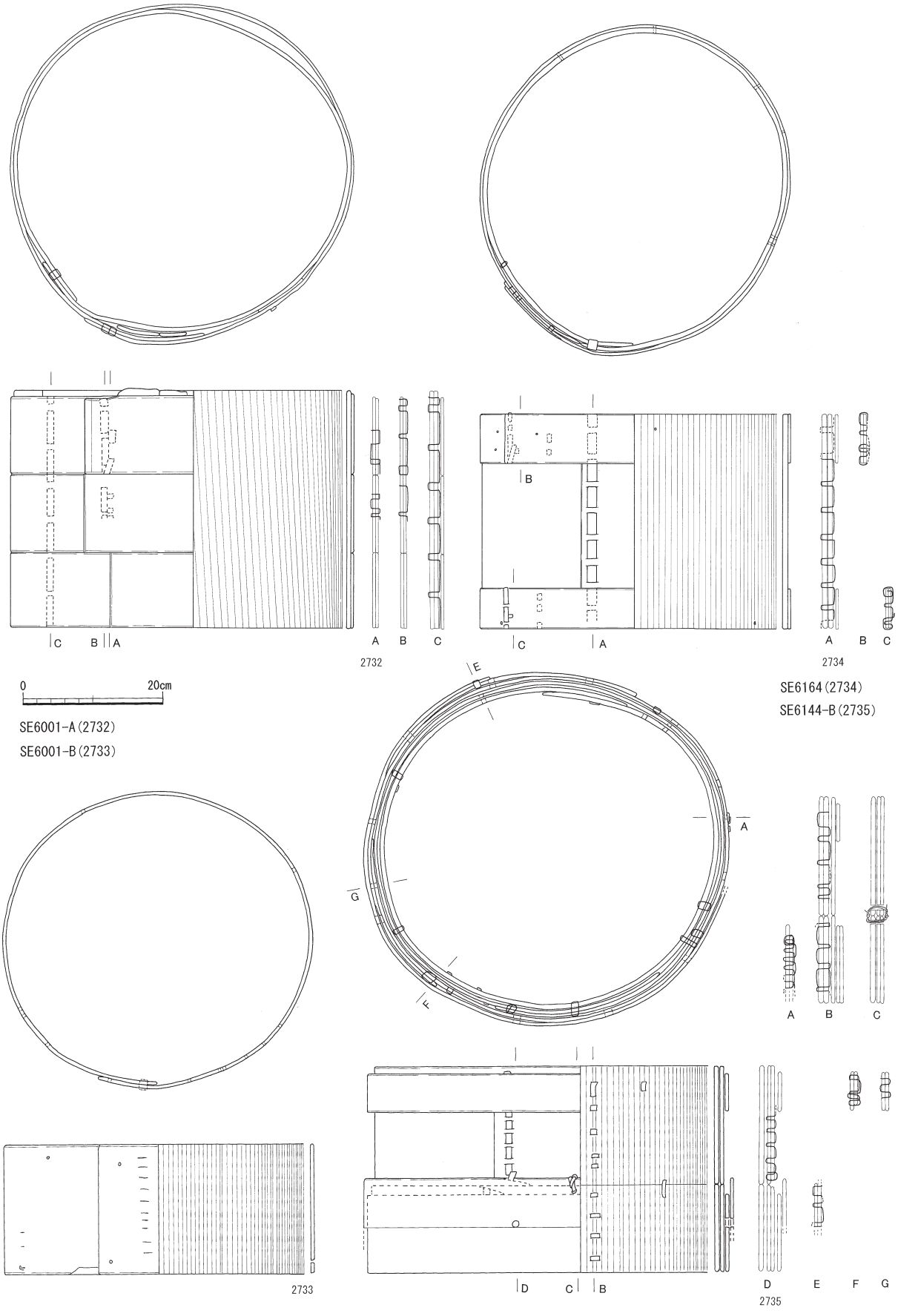


第159図　木製品　井戸枠材実測図⑰(1/10)

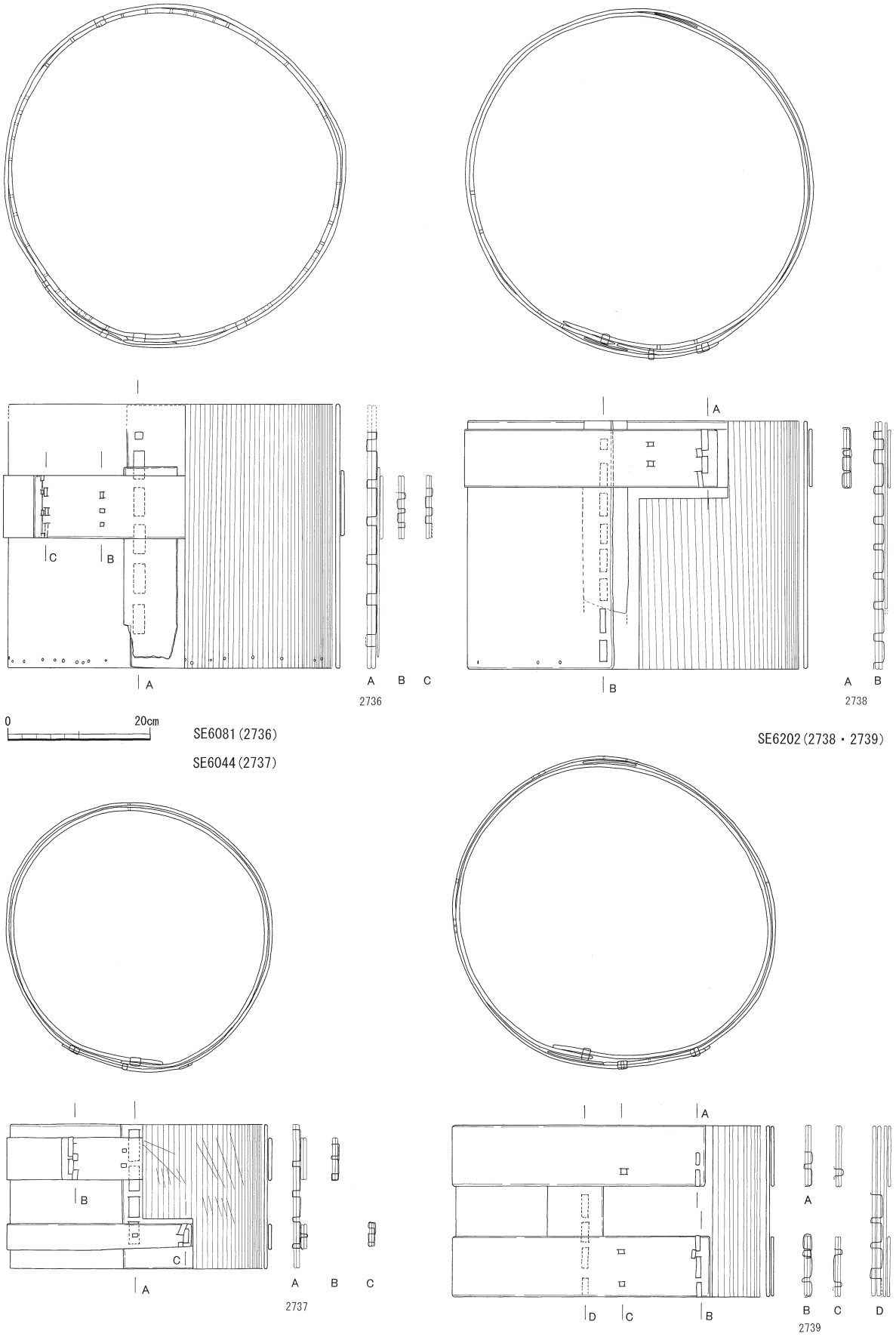


SE6164③(2724～2731)

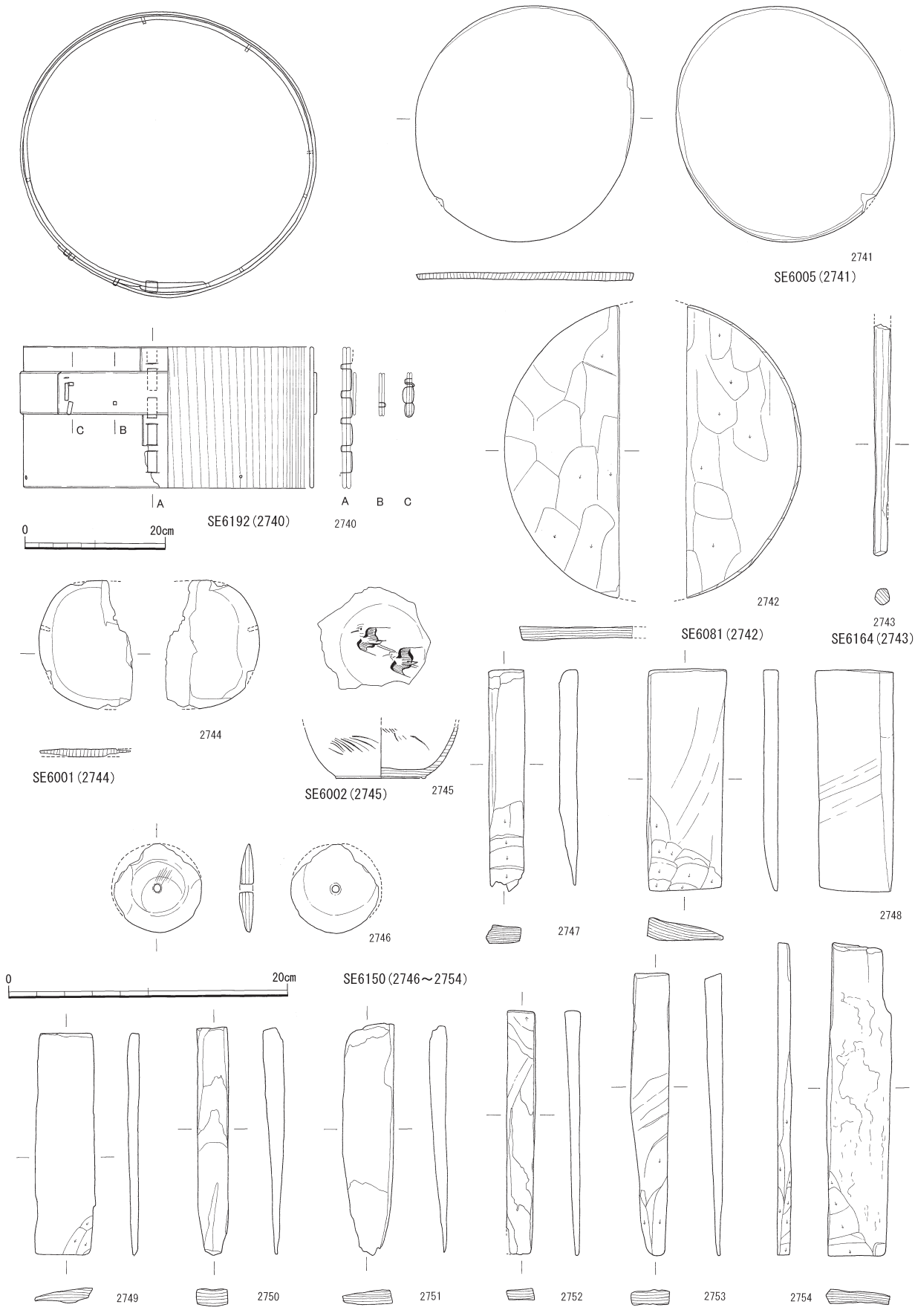
第160図　木製品　井戸枠材実測図⑱(1/10)



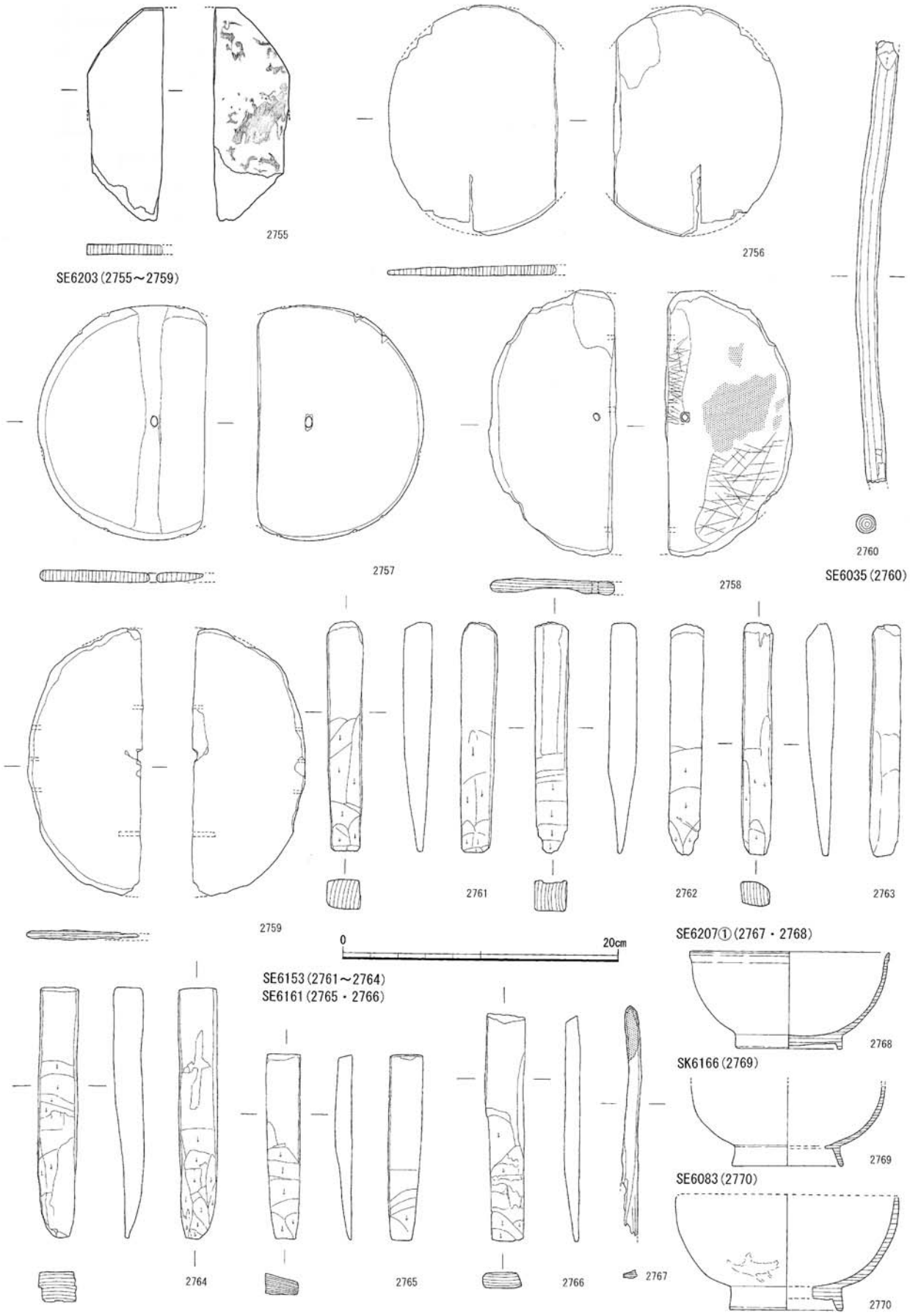
第161図　木製品　曲物水溜実測図①(1/8)



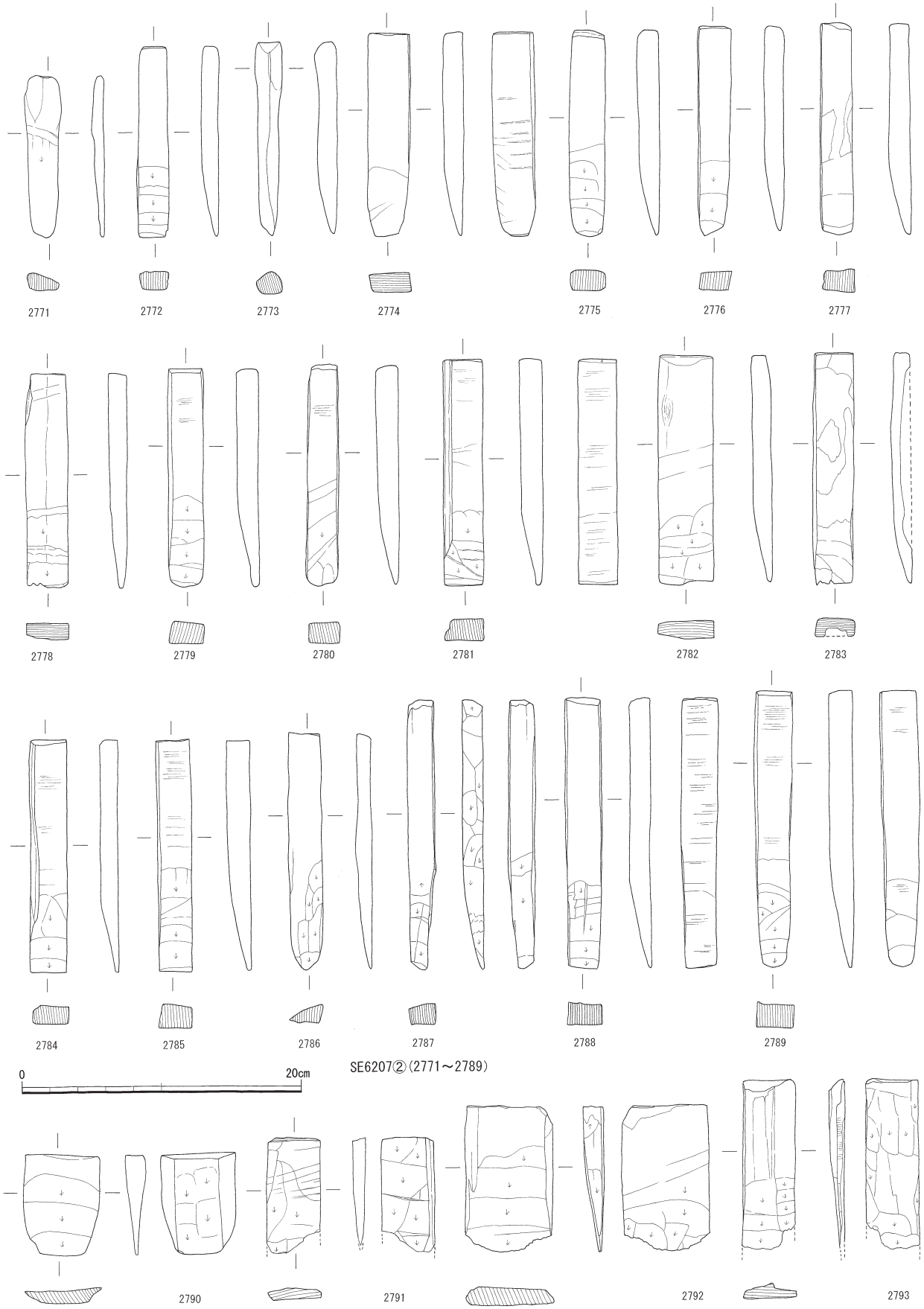
第162図　木製品　曲物水溜実測図②(1/8)



第163図　木製品　小型品等実測図①(1/4、2740は1/8)



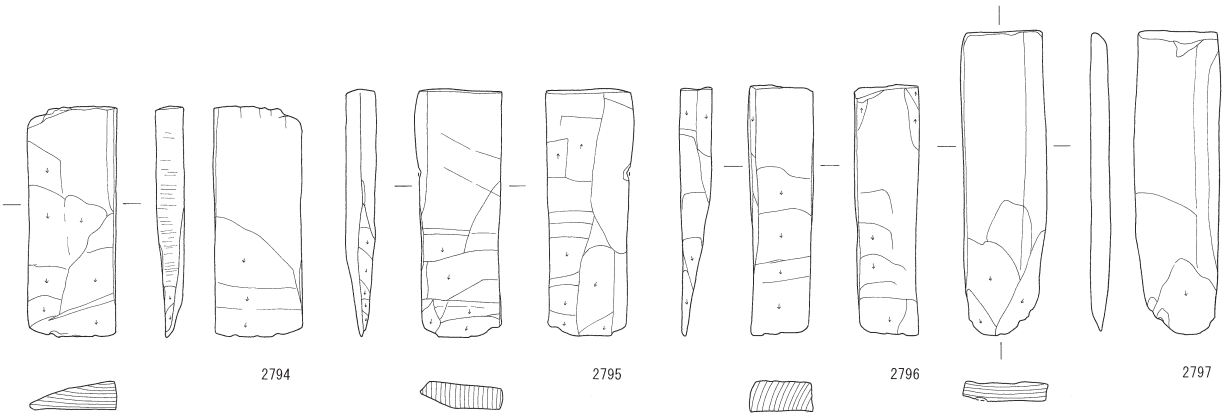
第164図　木製品　小型品等実測図②(1/4)



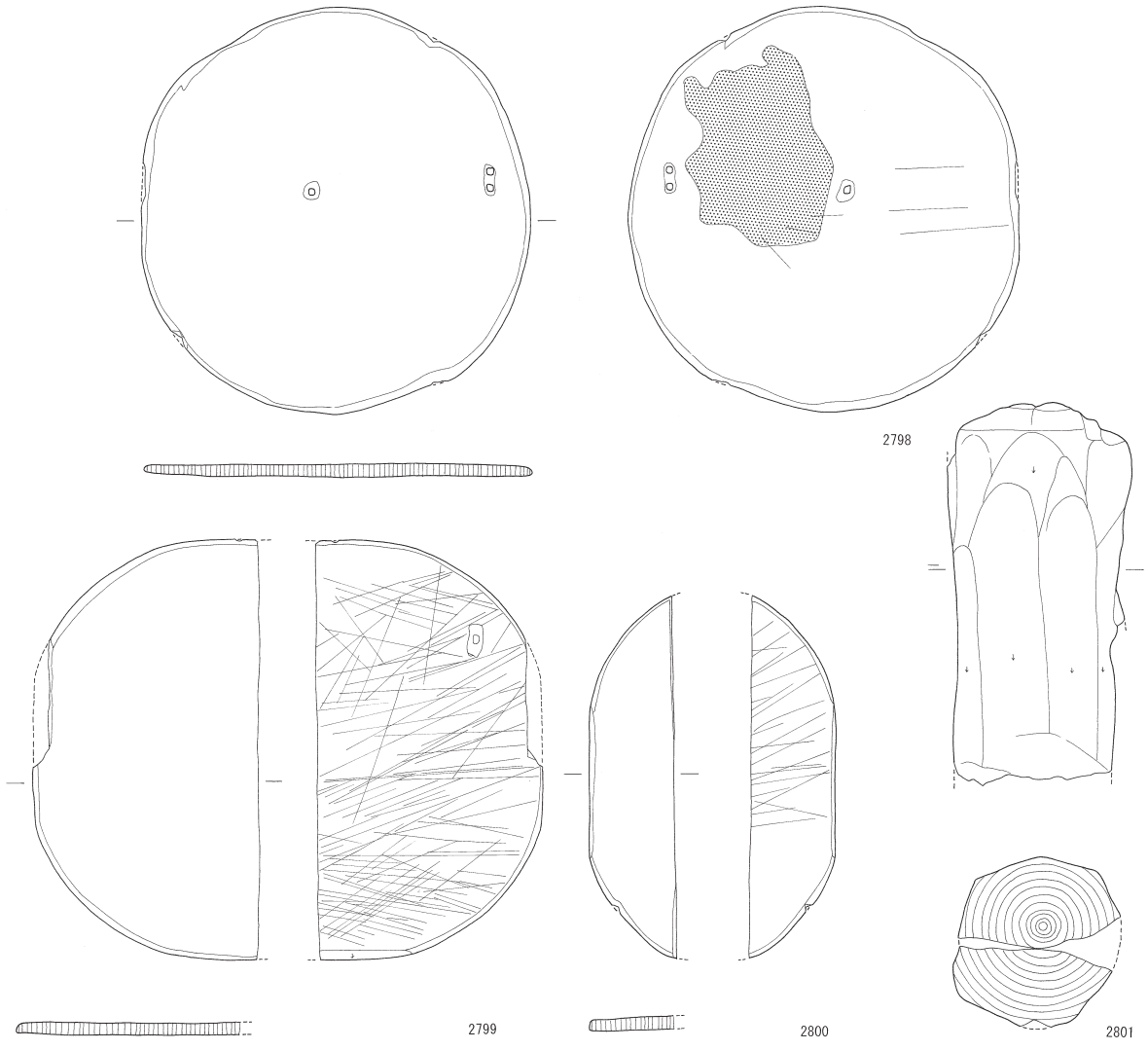
SE6207②（2771～2789）

SE6092①（2790～2793）

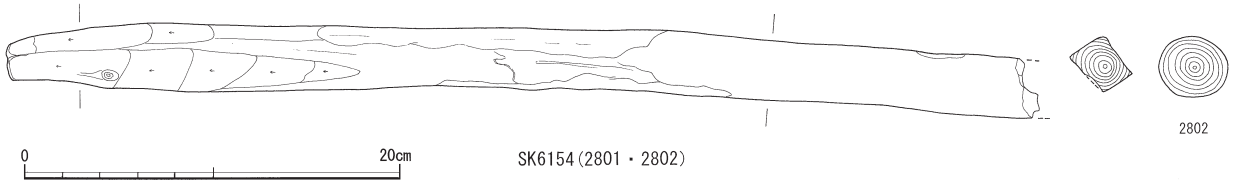
第165図　木製品　小型品等実測図③(1/4)



SE6092②（2794～2796）

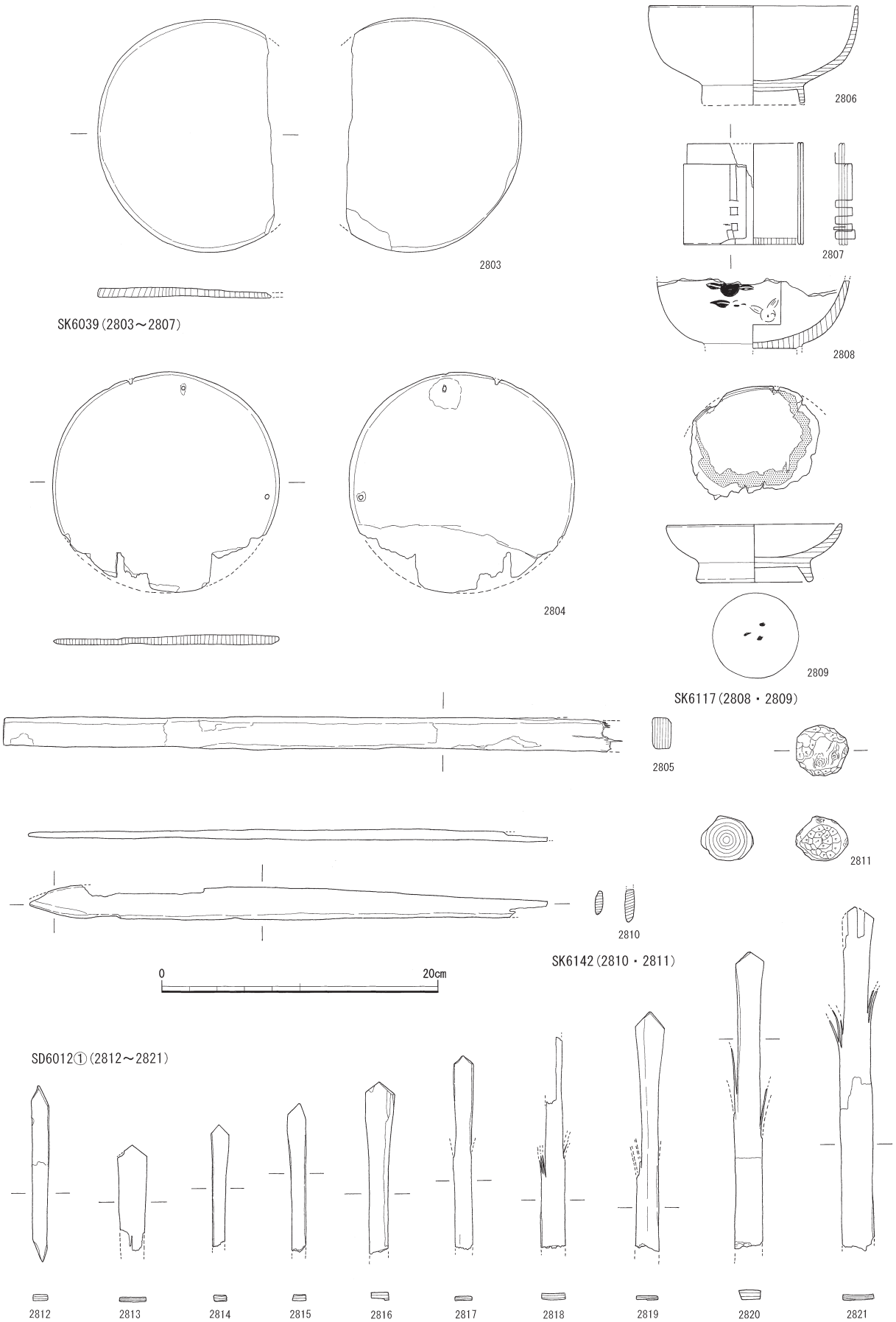


SE6144-B（2797～2800）

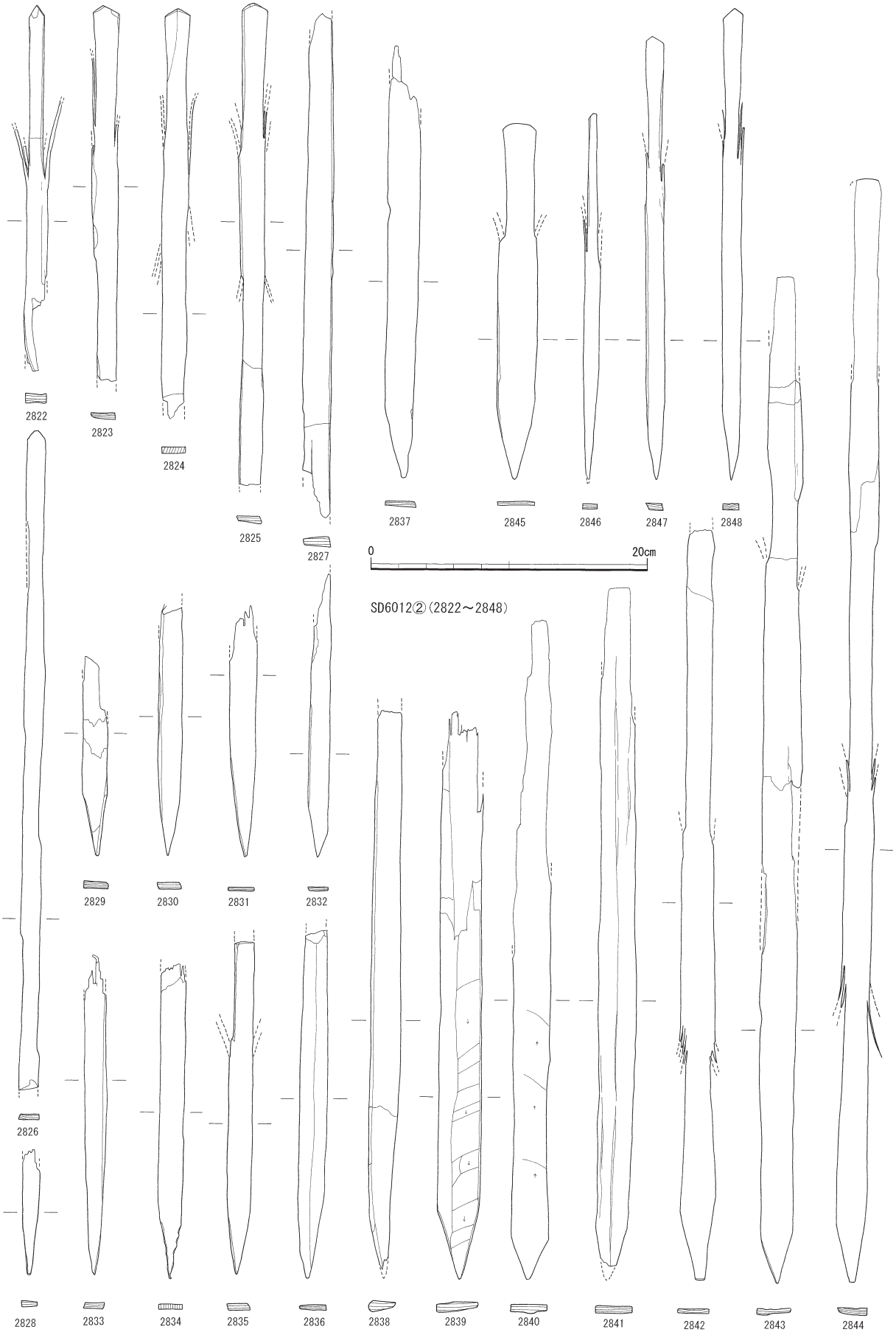


SK6154（2801・2802）

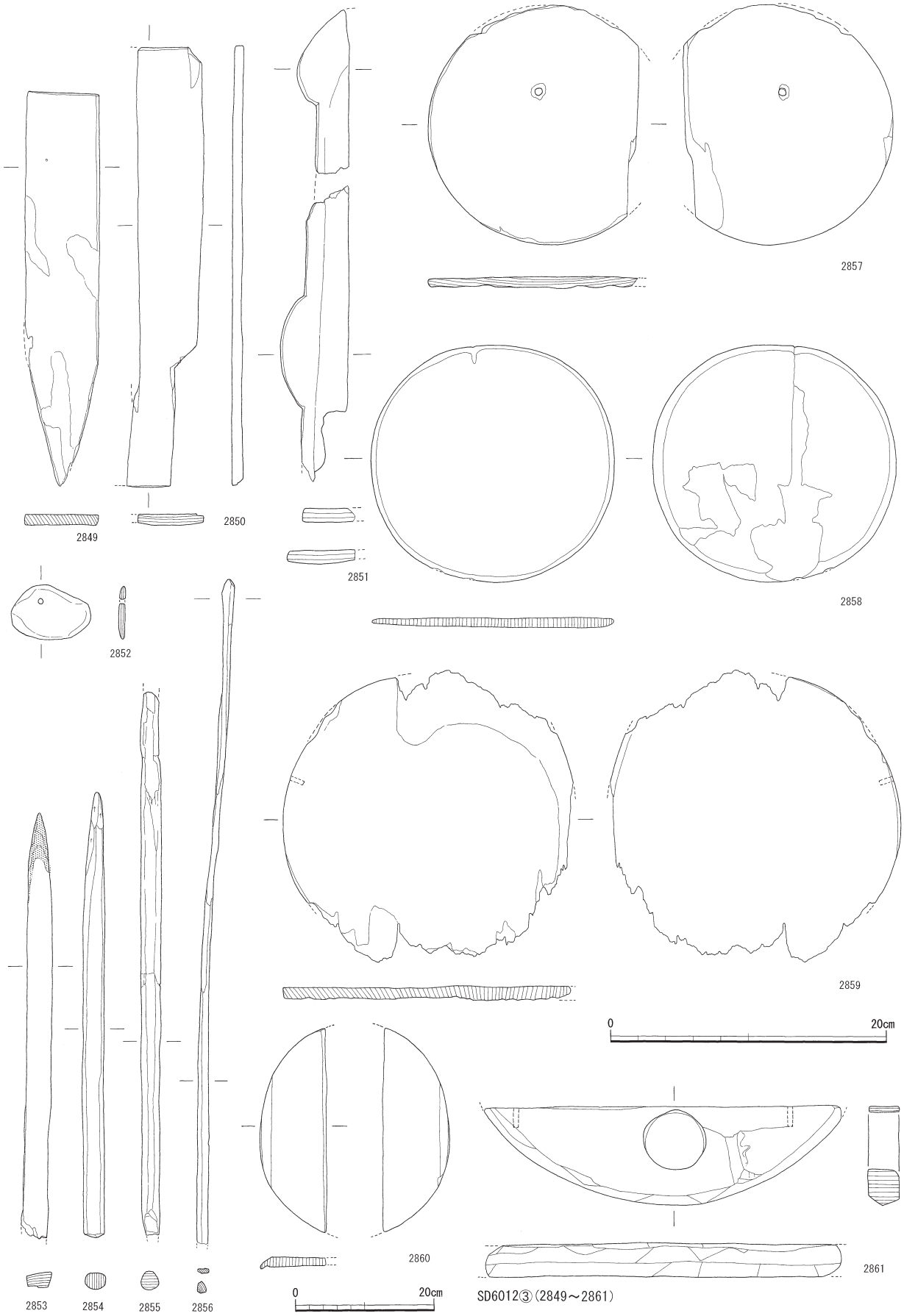
第166図　木製品　小型品等実測図④（1/4）



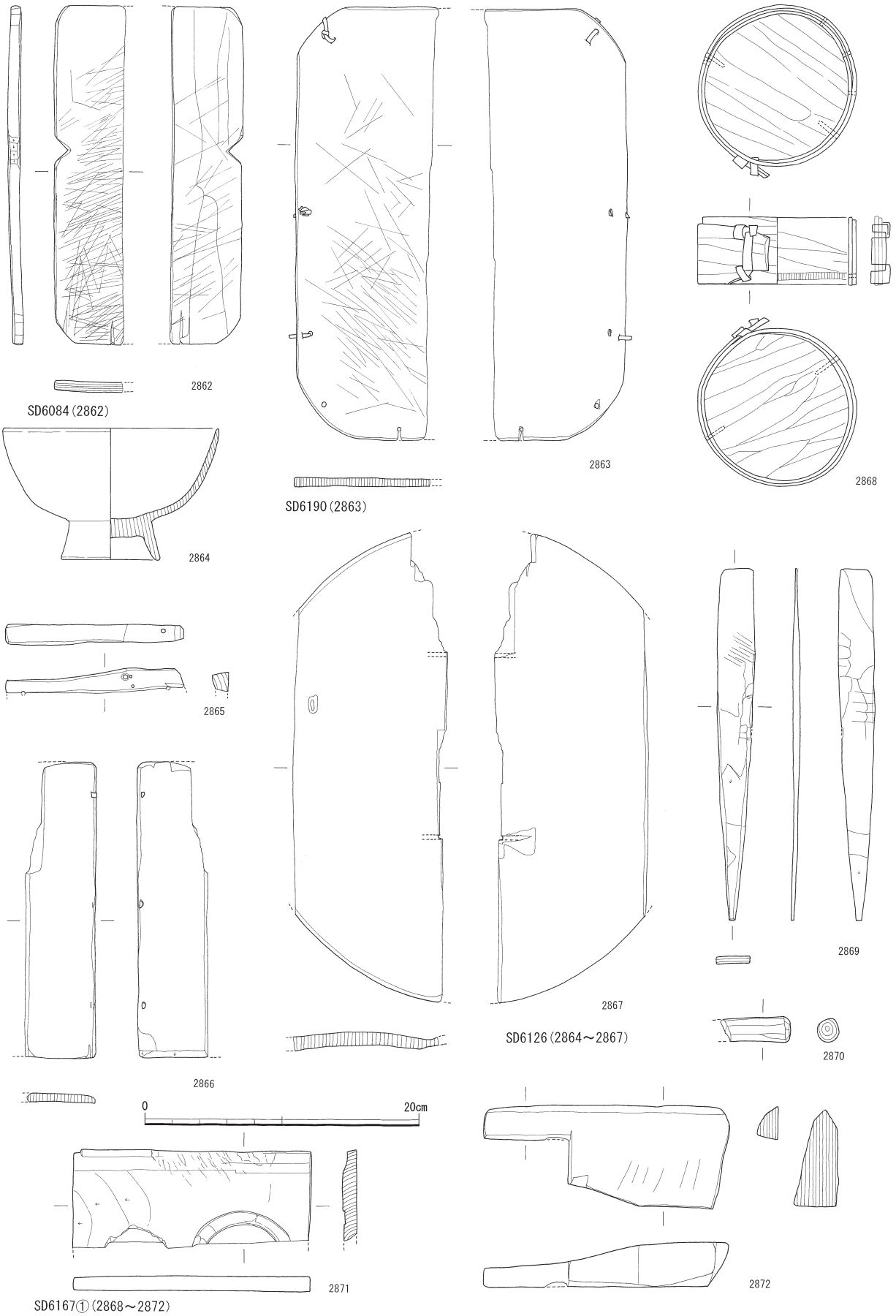
第167図　木製品　小型品等実測図⑤（1/4）



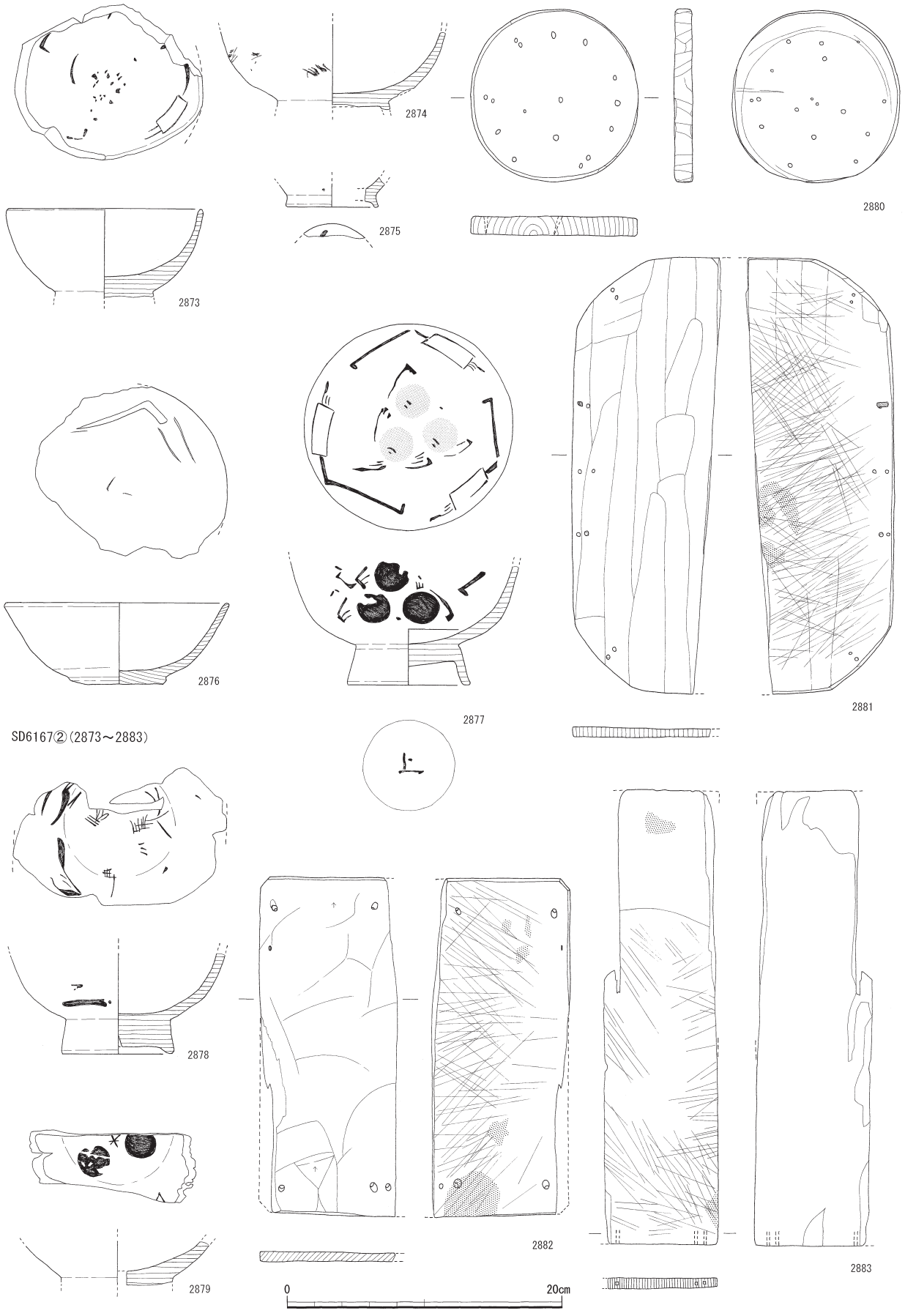
第168図　木製品　小型品等実測図⑥(1/4)



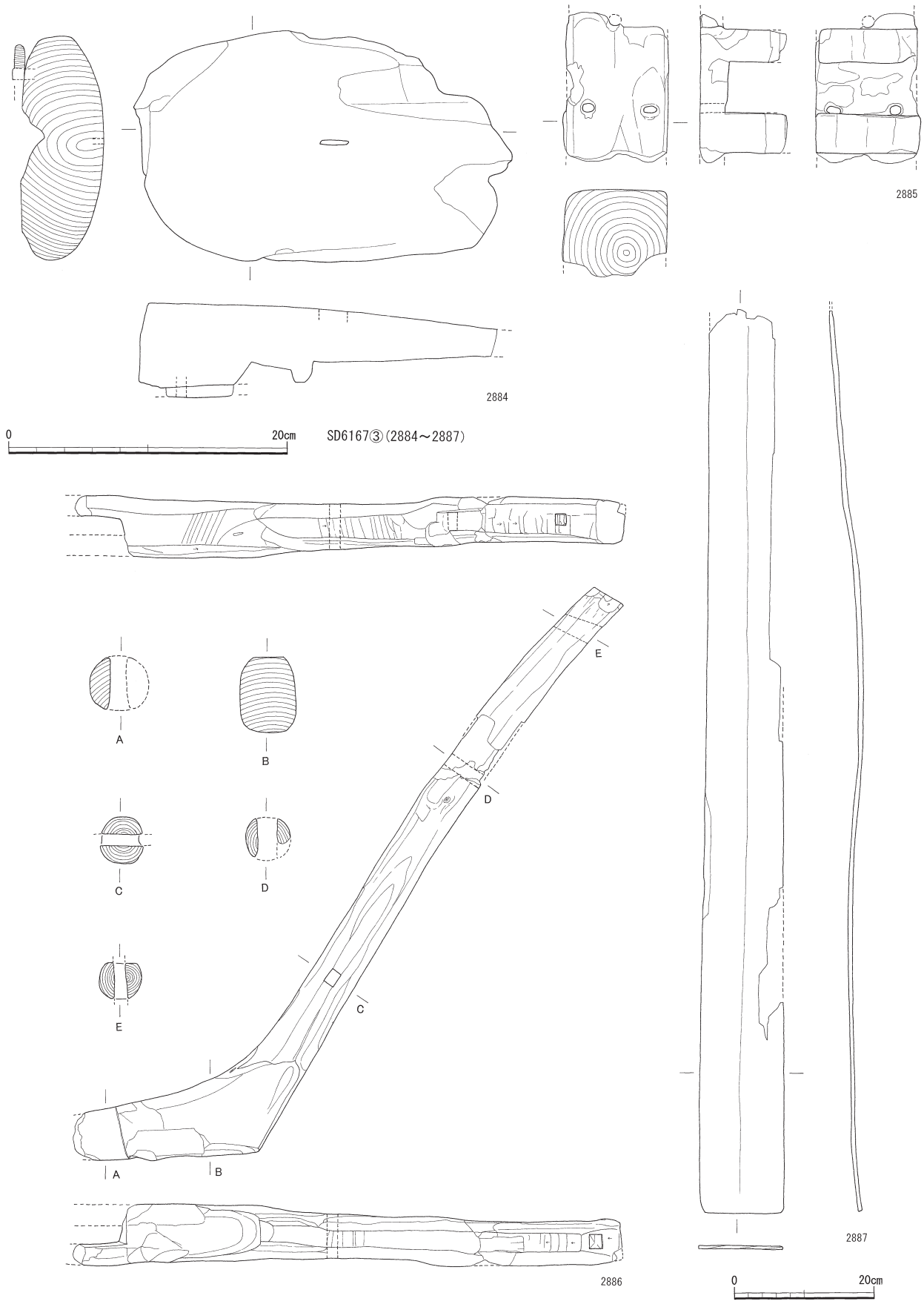
第169図　木製品　小型品等実測図⑦(1/4、2856は1/8)



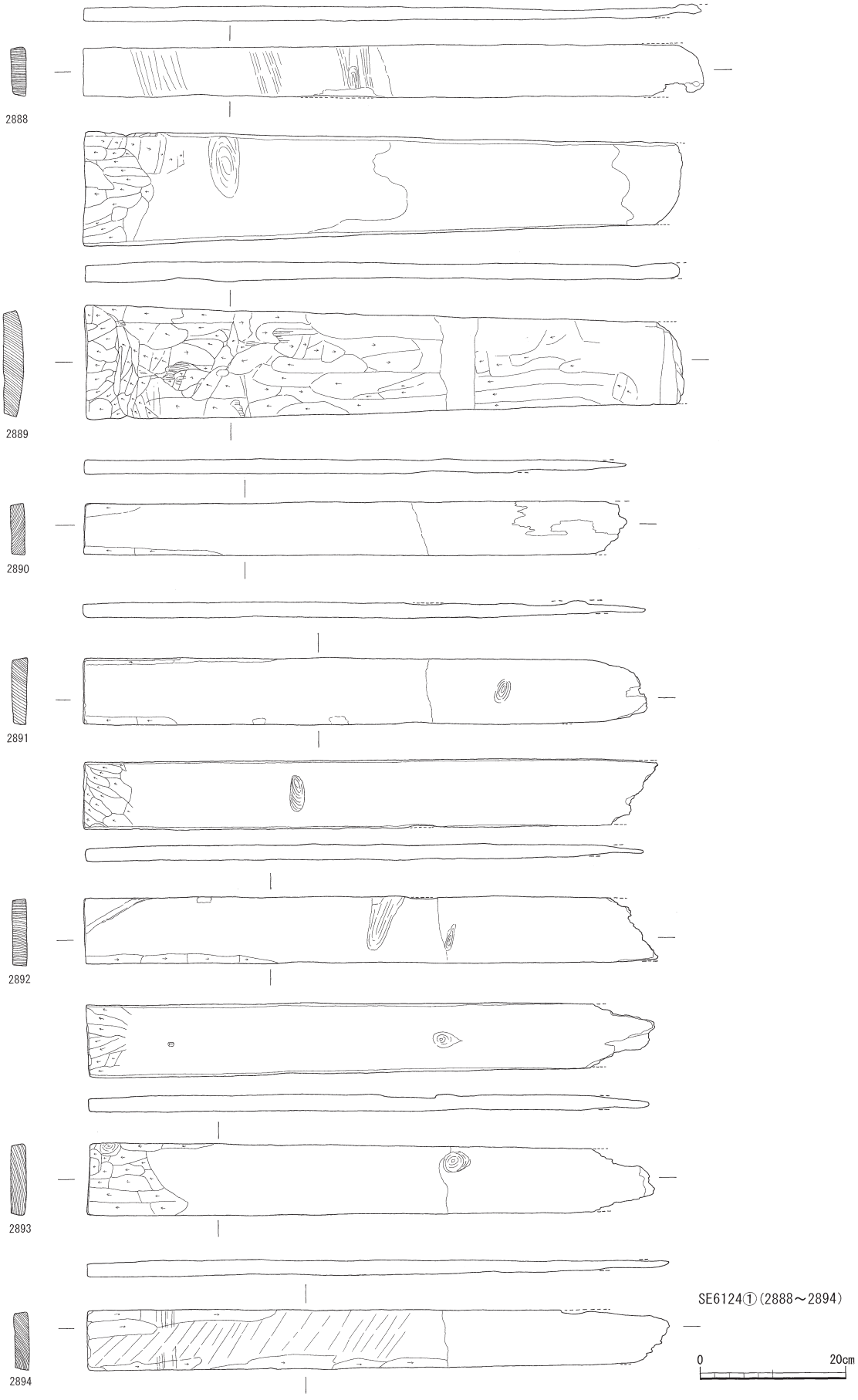
第170図　木製品　小型品等実測図⑧(1/4)



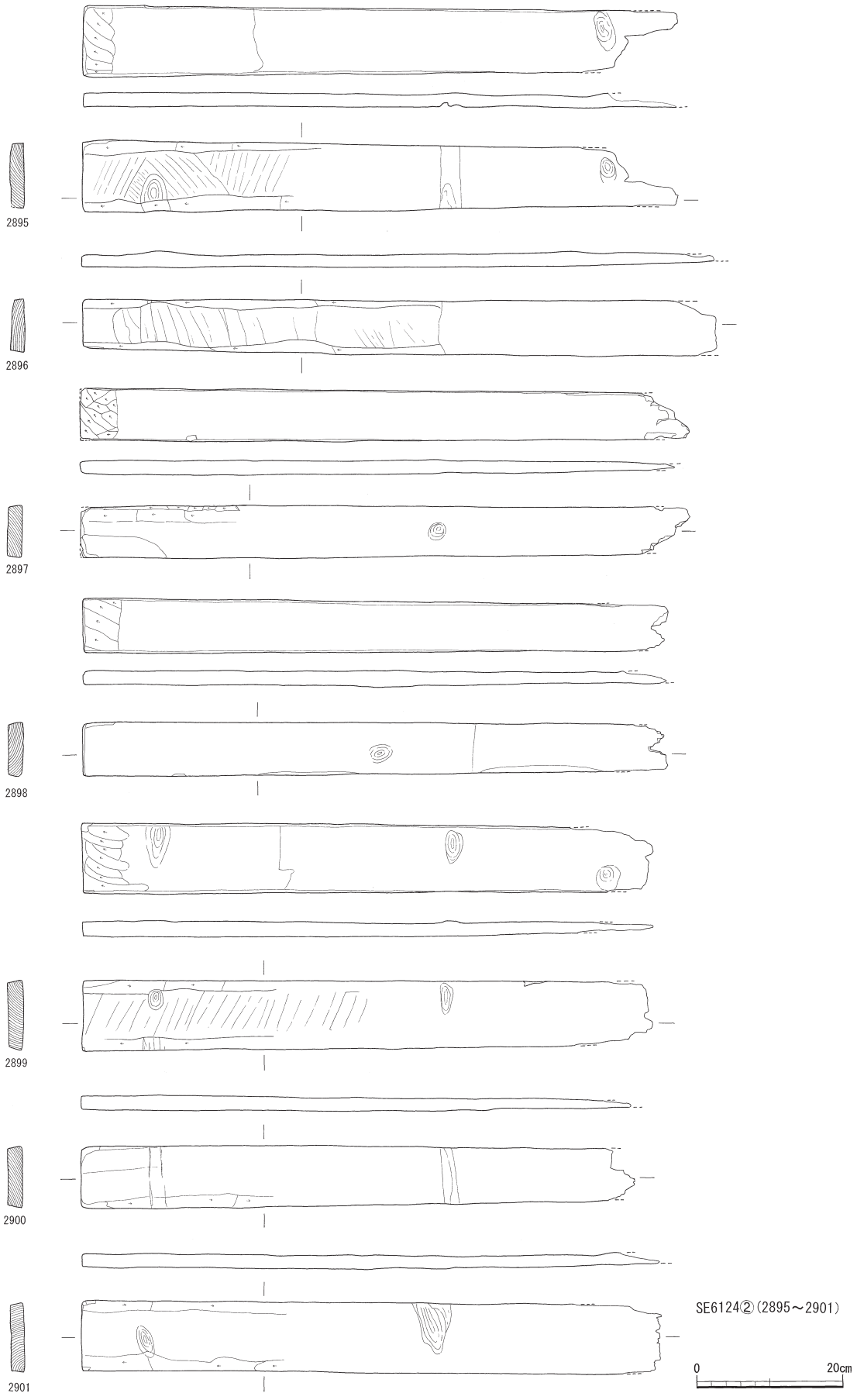
第171図　木製品　小型品等実測図⑨(1/4)



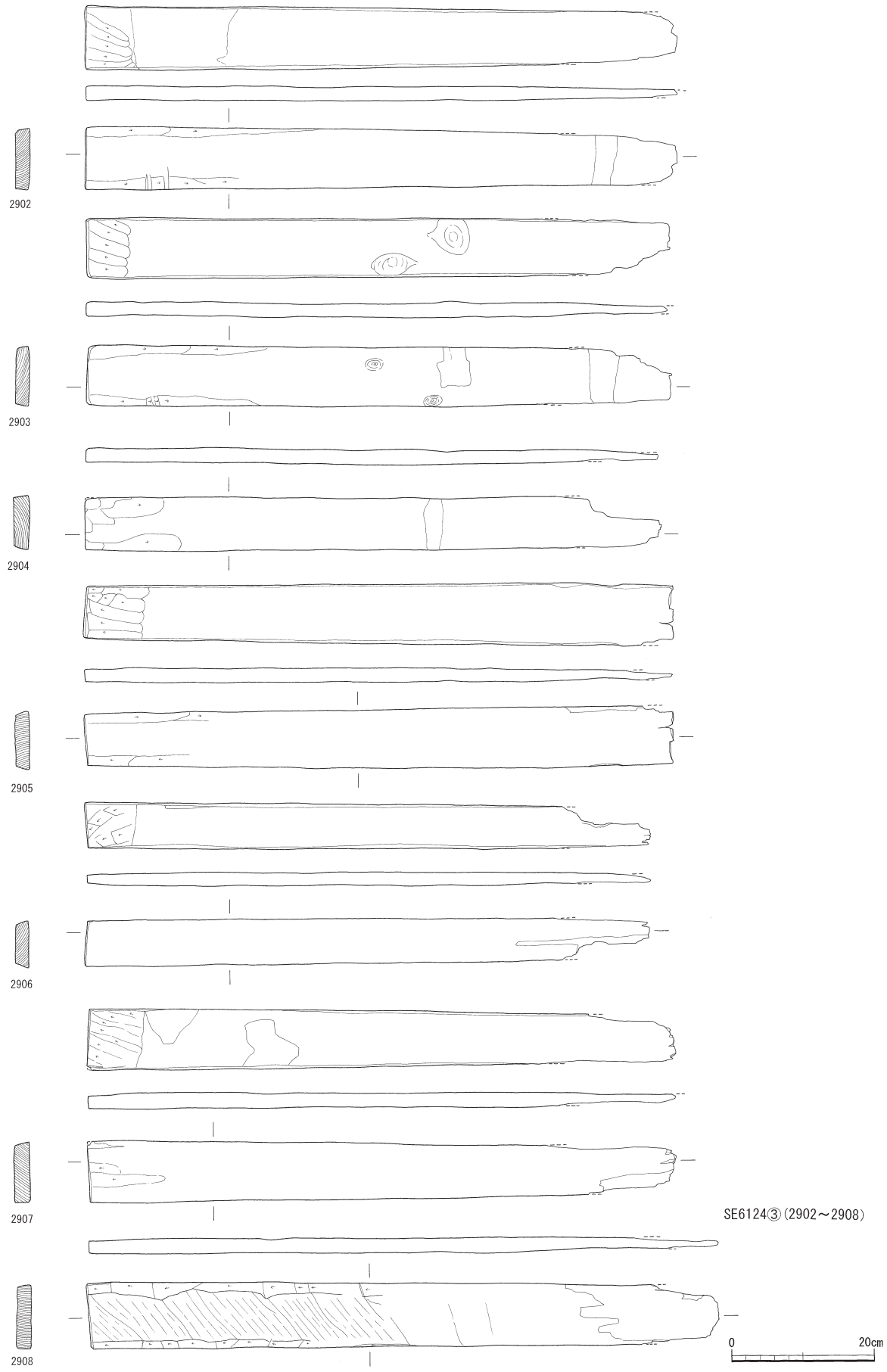
第172図　木製品　小型品等実測図⑩(1/4、2886は1/8)



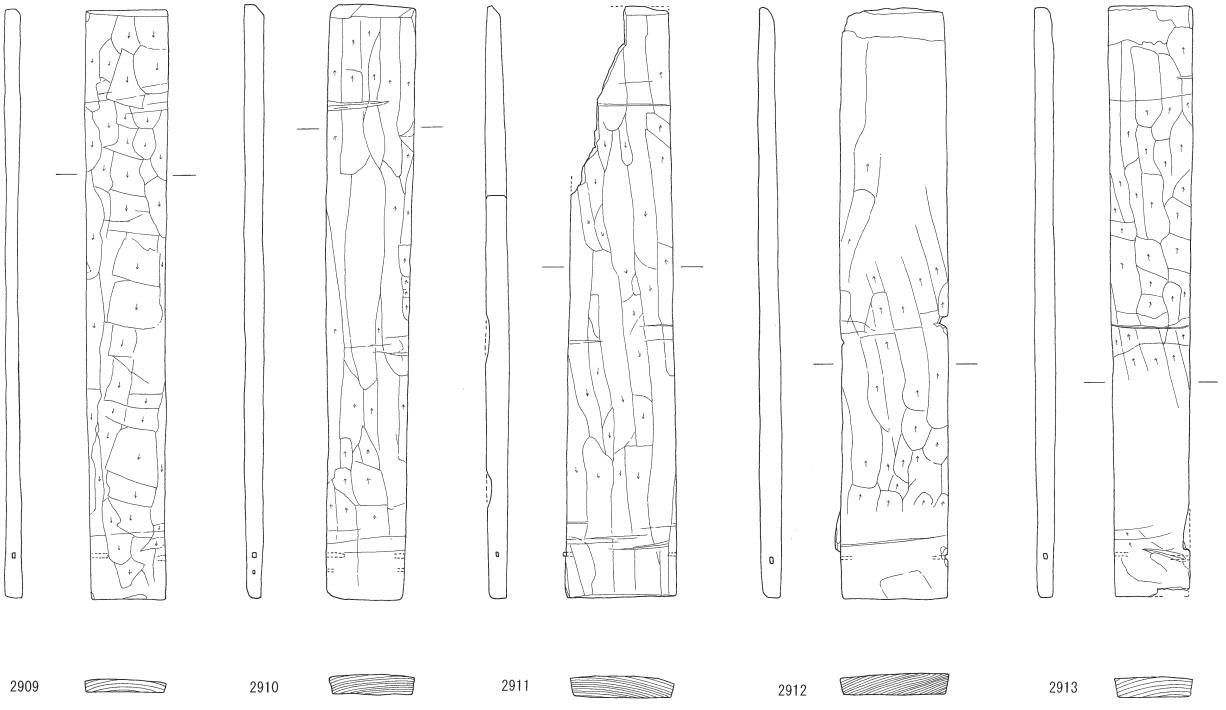
第173図　木製品　井戸枠材実測図⑲(1/8)

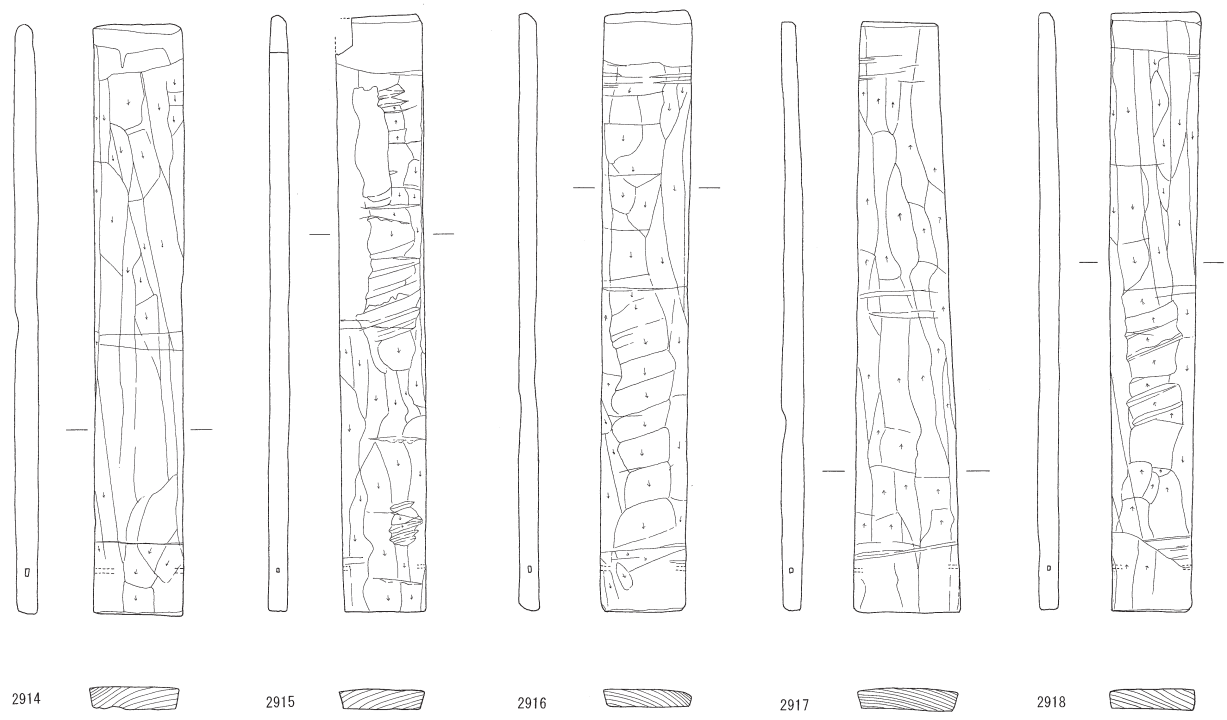


第174図　木製品　井戸枠材実測図⑳(1/8)

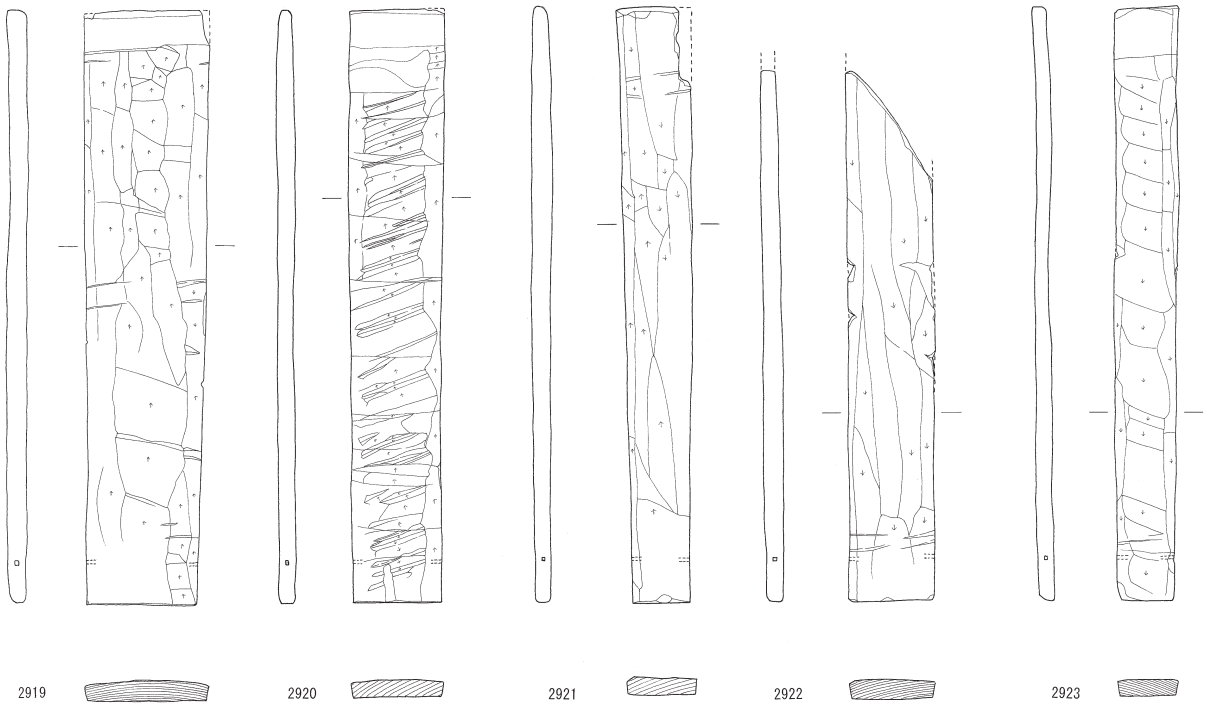


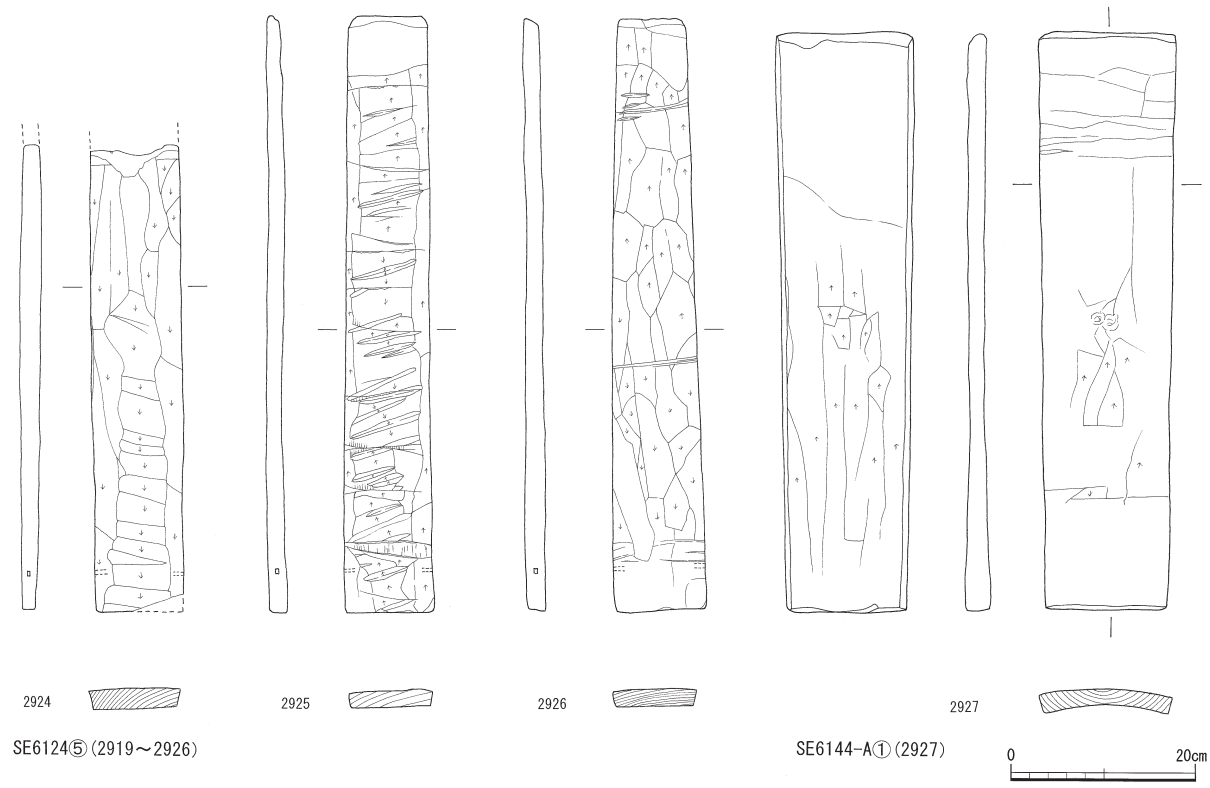
第175図　木製品　井戸枠材実測図㉑(1/8)



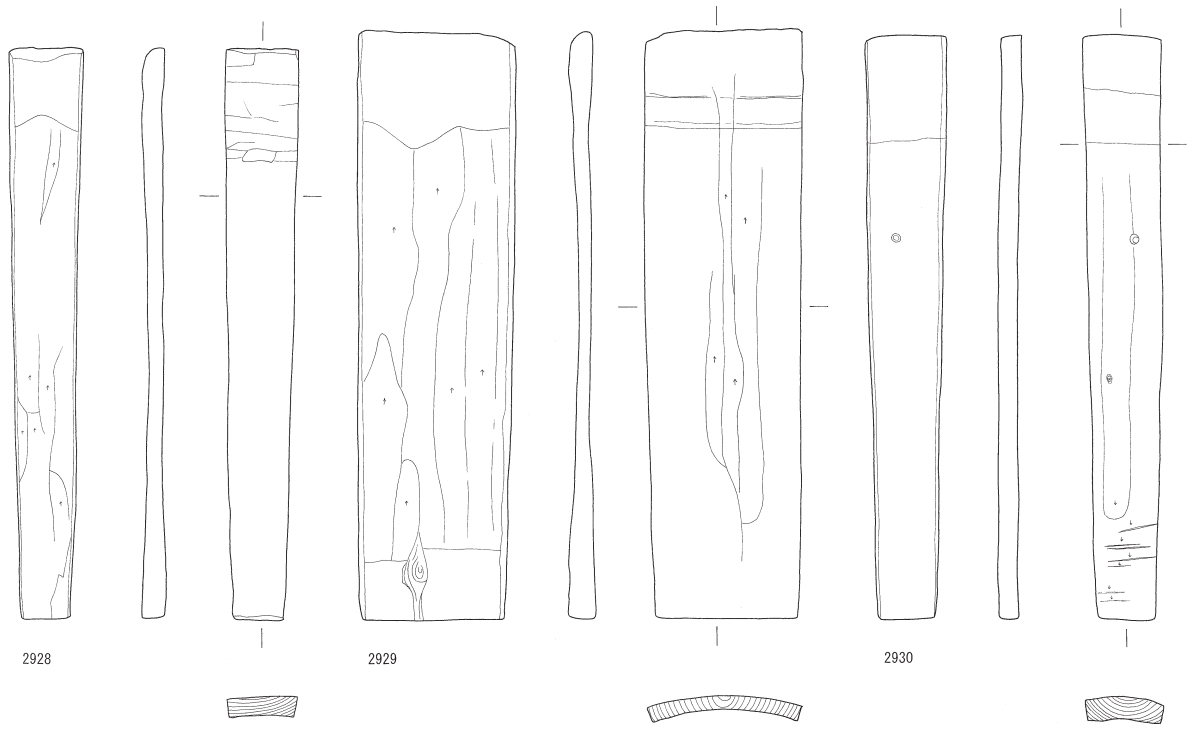


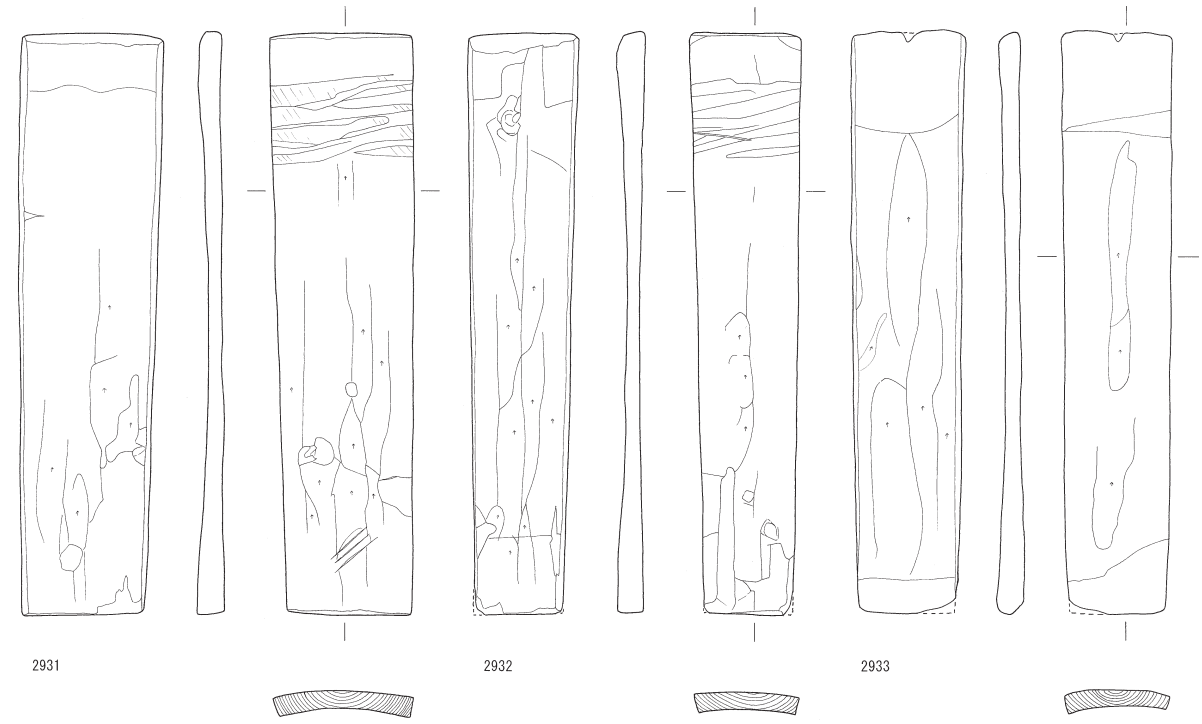
第176図　木製品　井戸枠材実測図㉒(1/8)





第177図　木製品　井戸枠材実測図㉓(1/8)

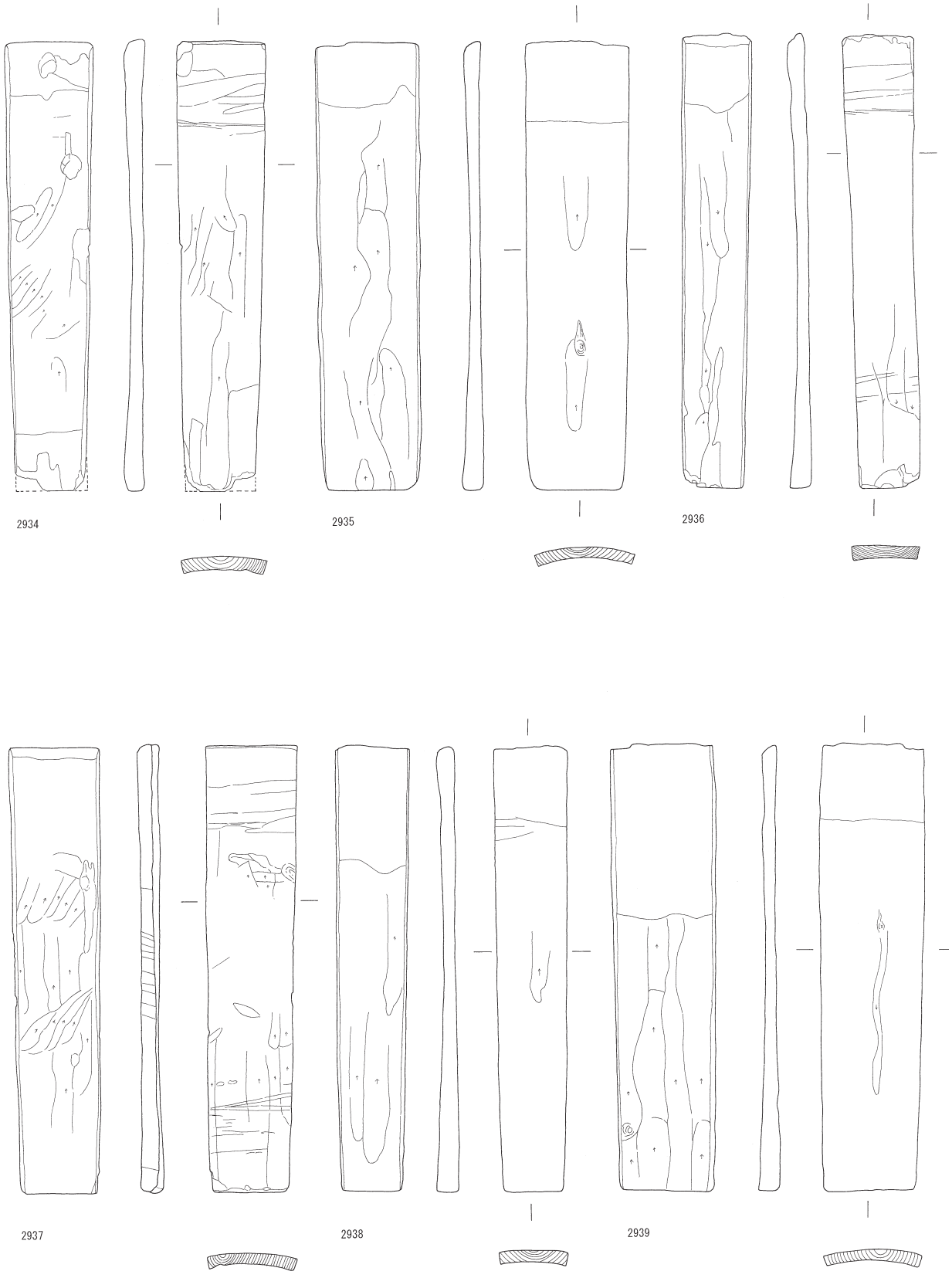




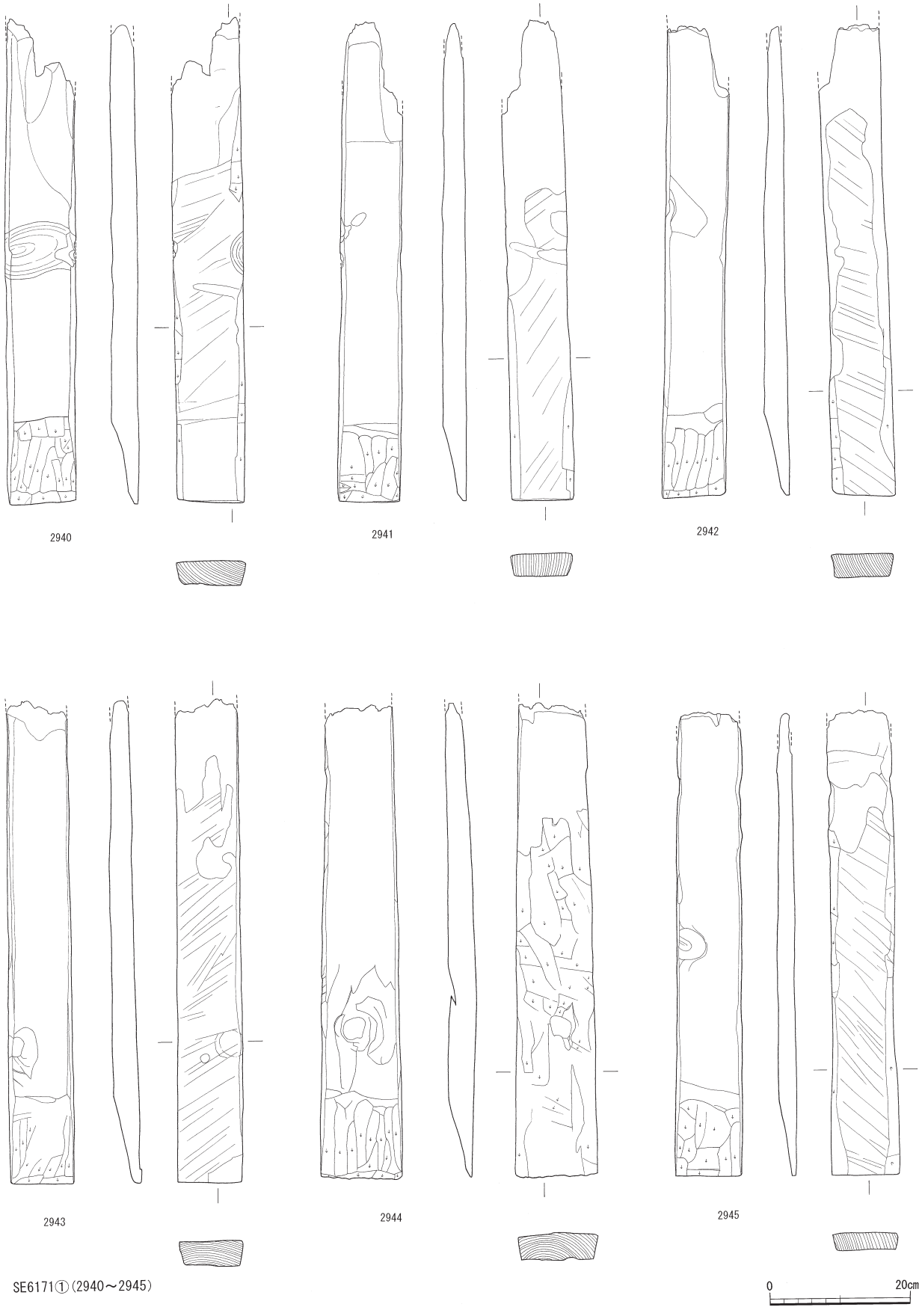
SE6144-A②(2928～2933)

0 20cm

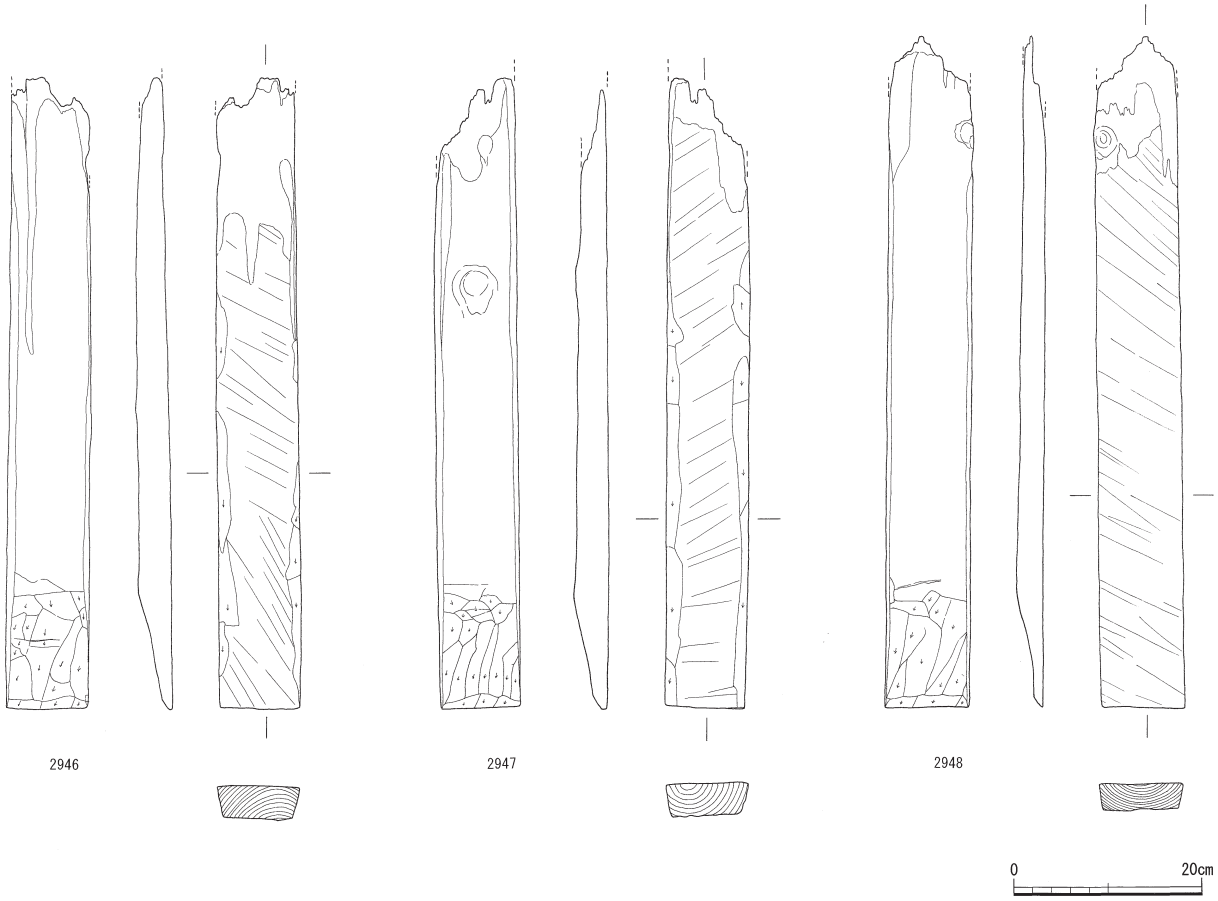
第178図　木製品　井戸枠材実測図㉔(1/8)

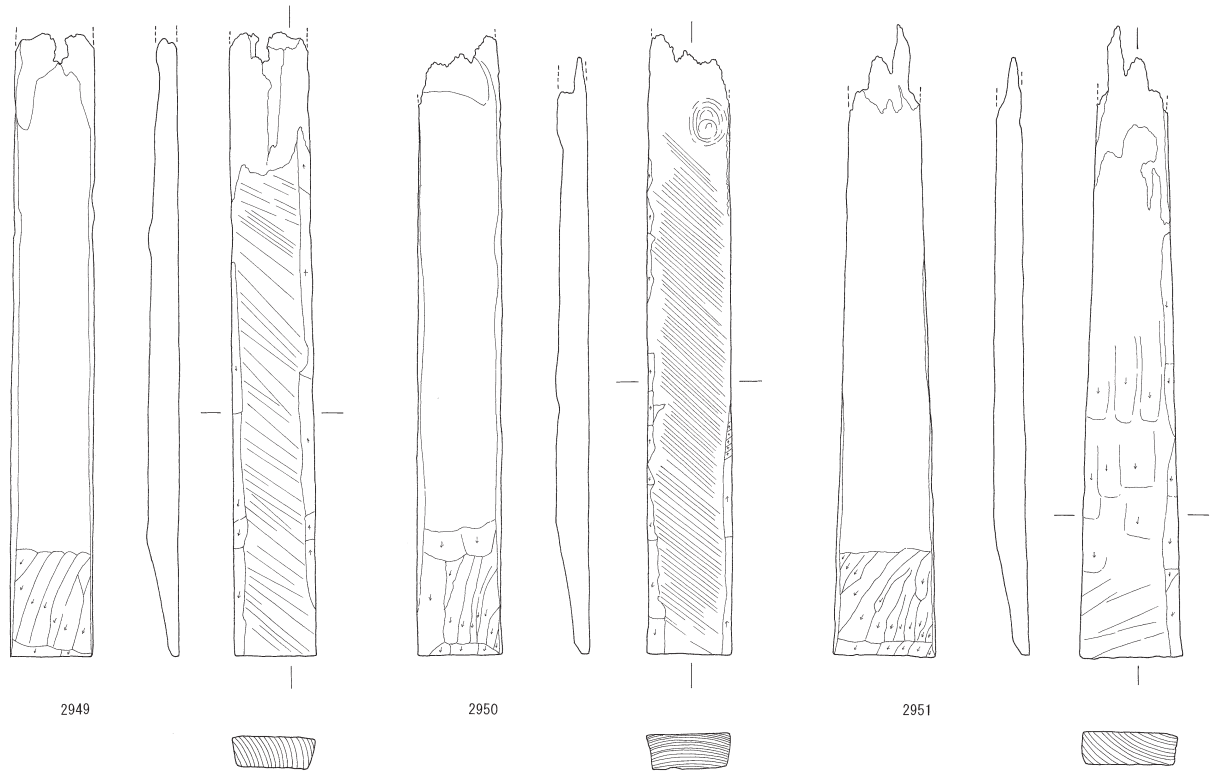


第179図　木製品　井戸枠材実測図㉕(1/8)



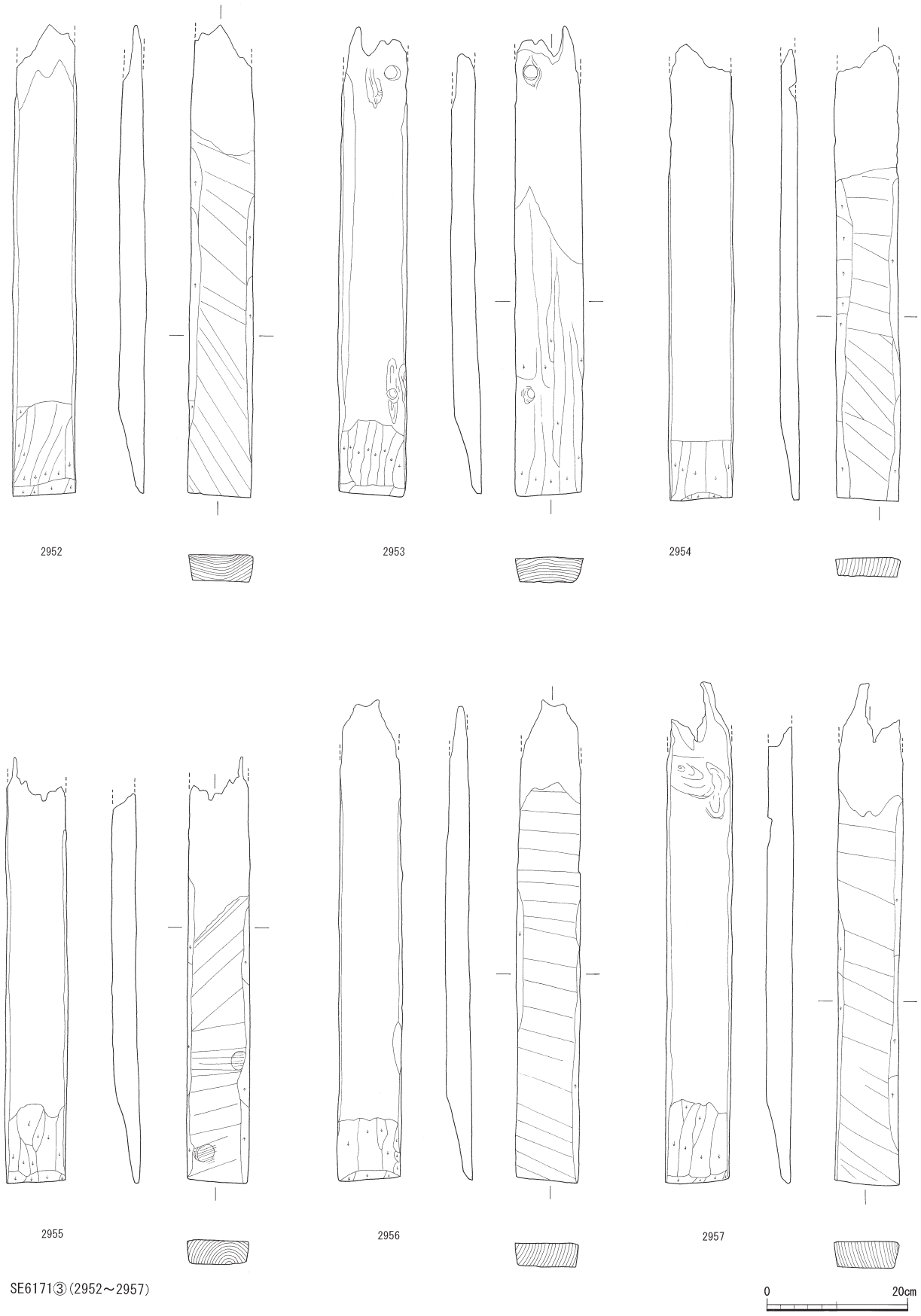
第180図　木製品　井戸枠材実測図㉖(1/8)



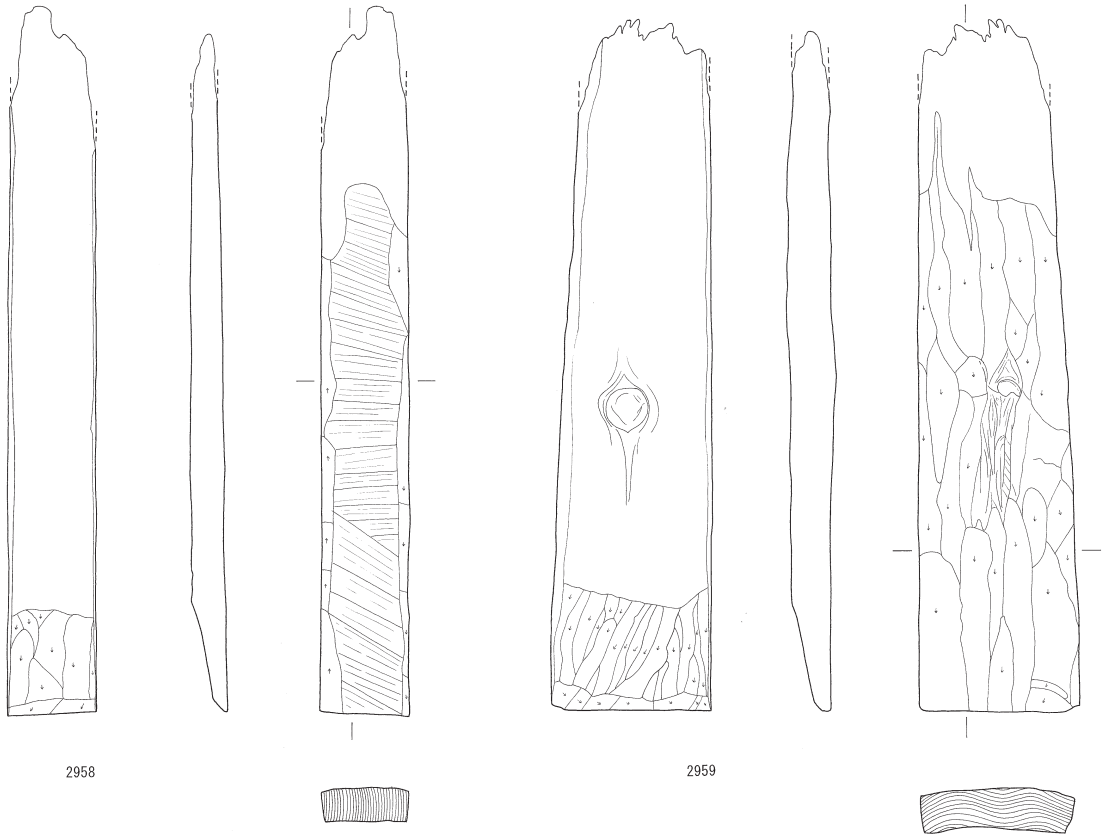


SE6171②(2946～2951)

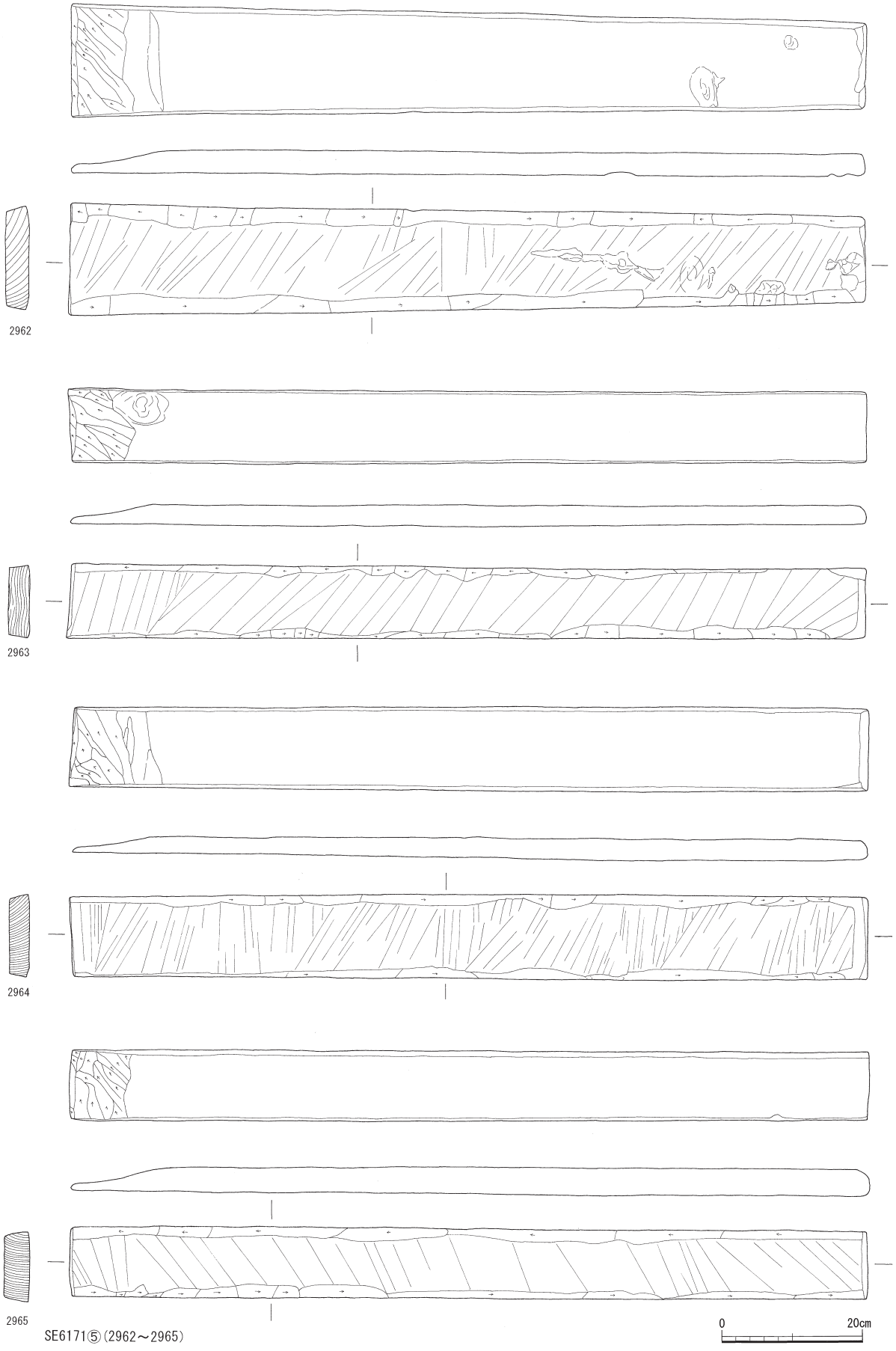
第181図　木製品　井戸枠材実測図㉗(1/8)



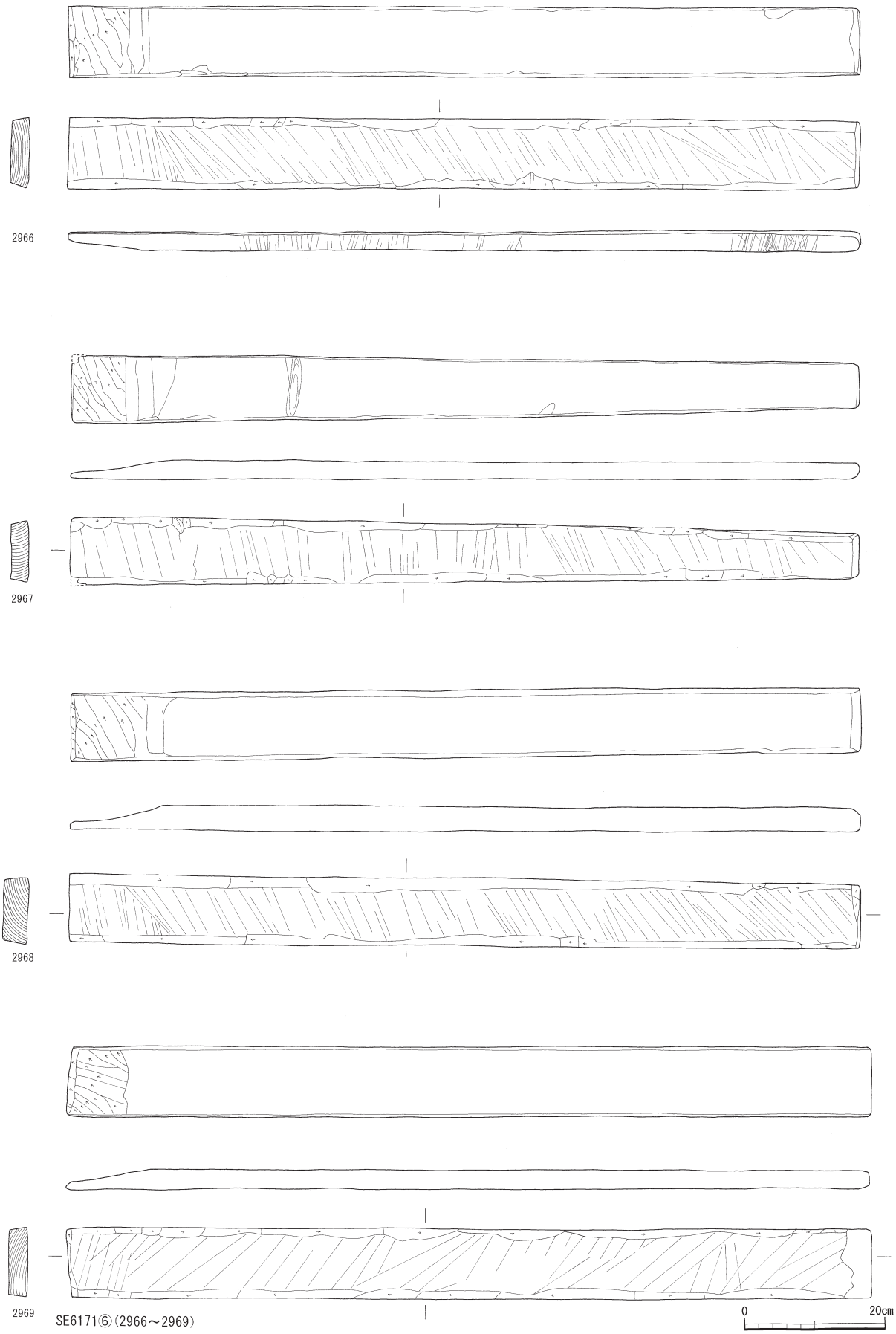
第182図　木製品　井戸枠材実測図㉘(1/8)



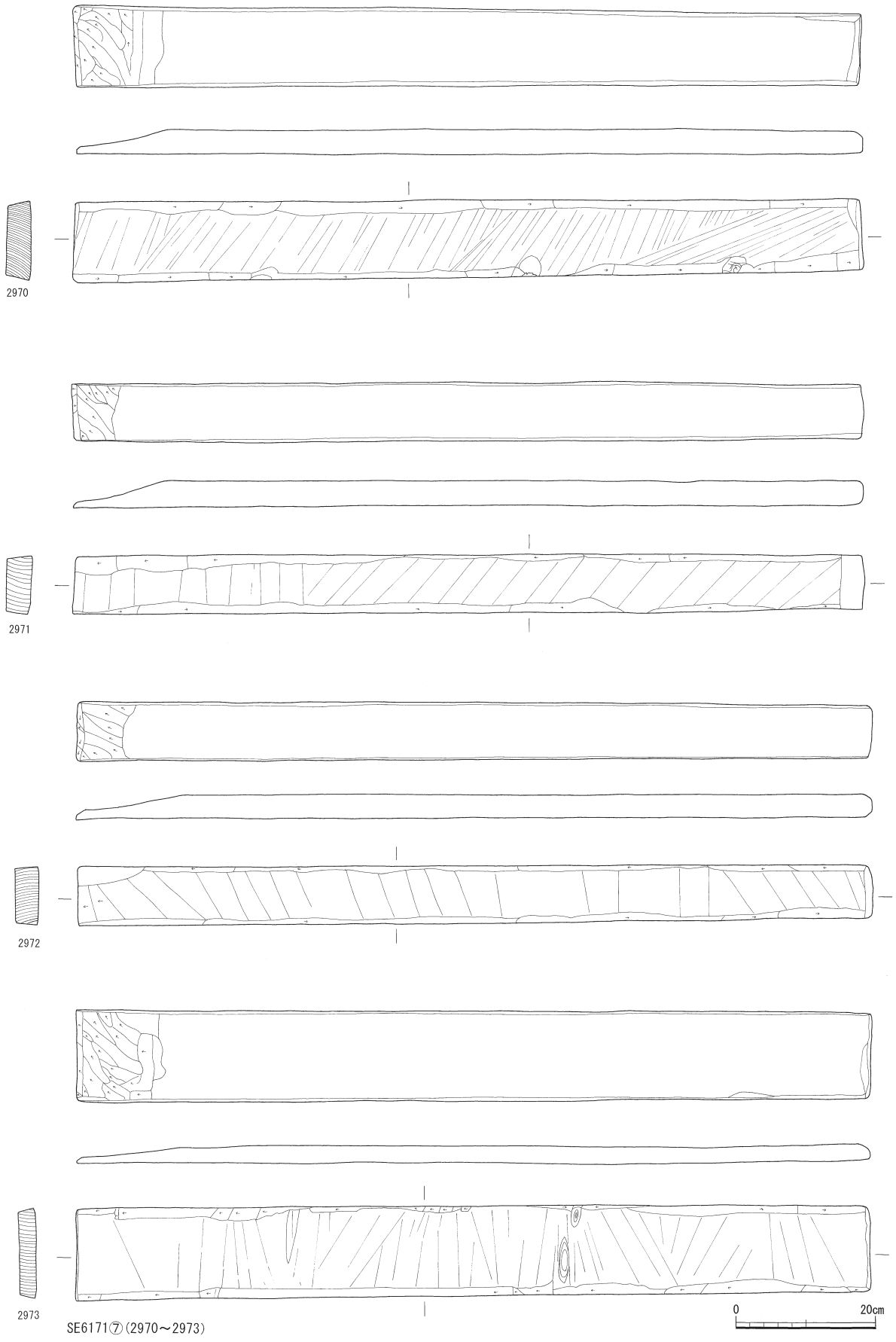
第183図　木製品　井戸枠材実測図㉙(1/8)



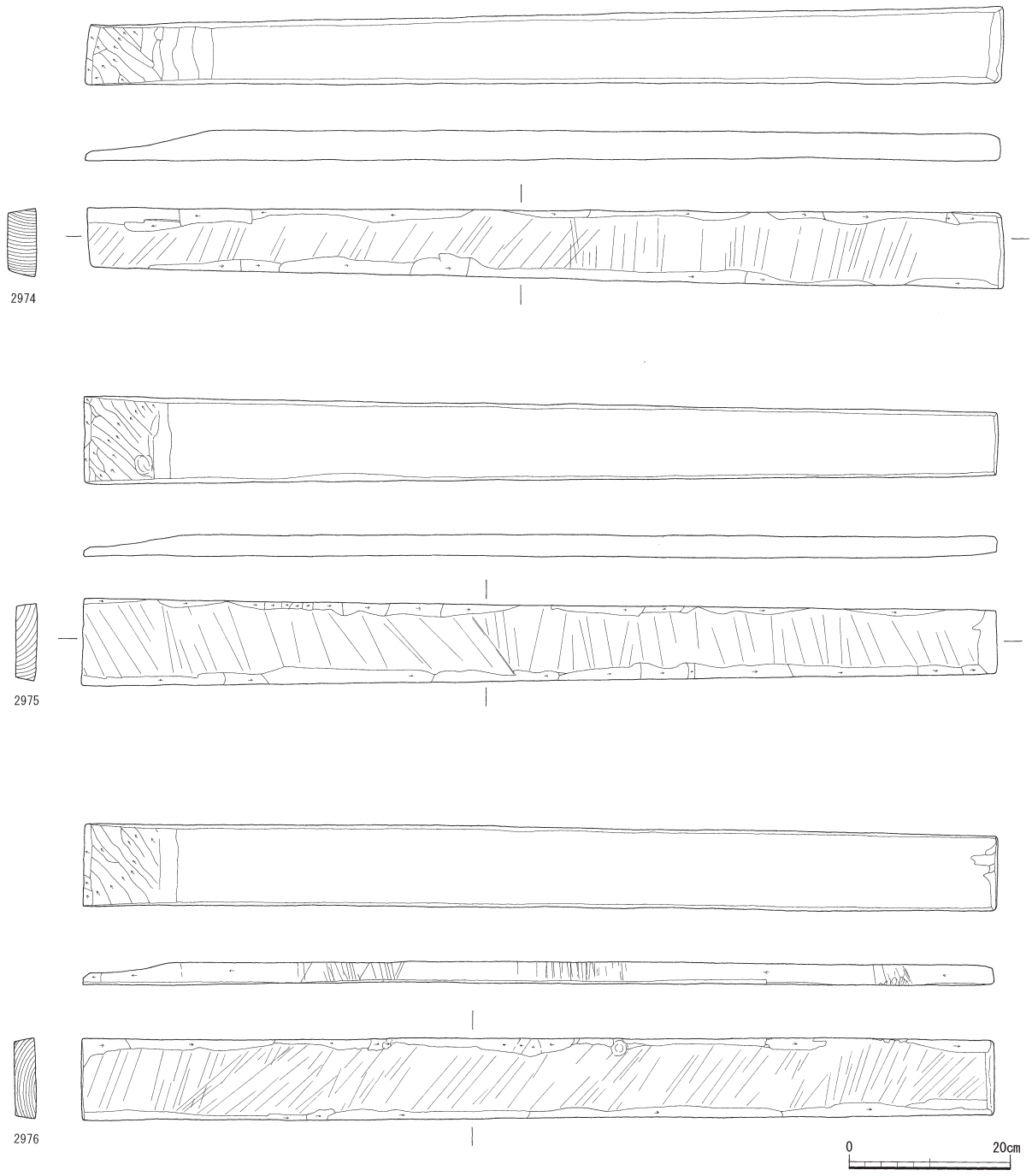
第184図　木製品　井戸枠材実測図㉚(1/8)



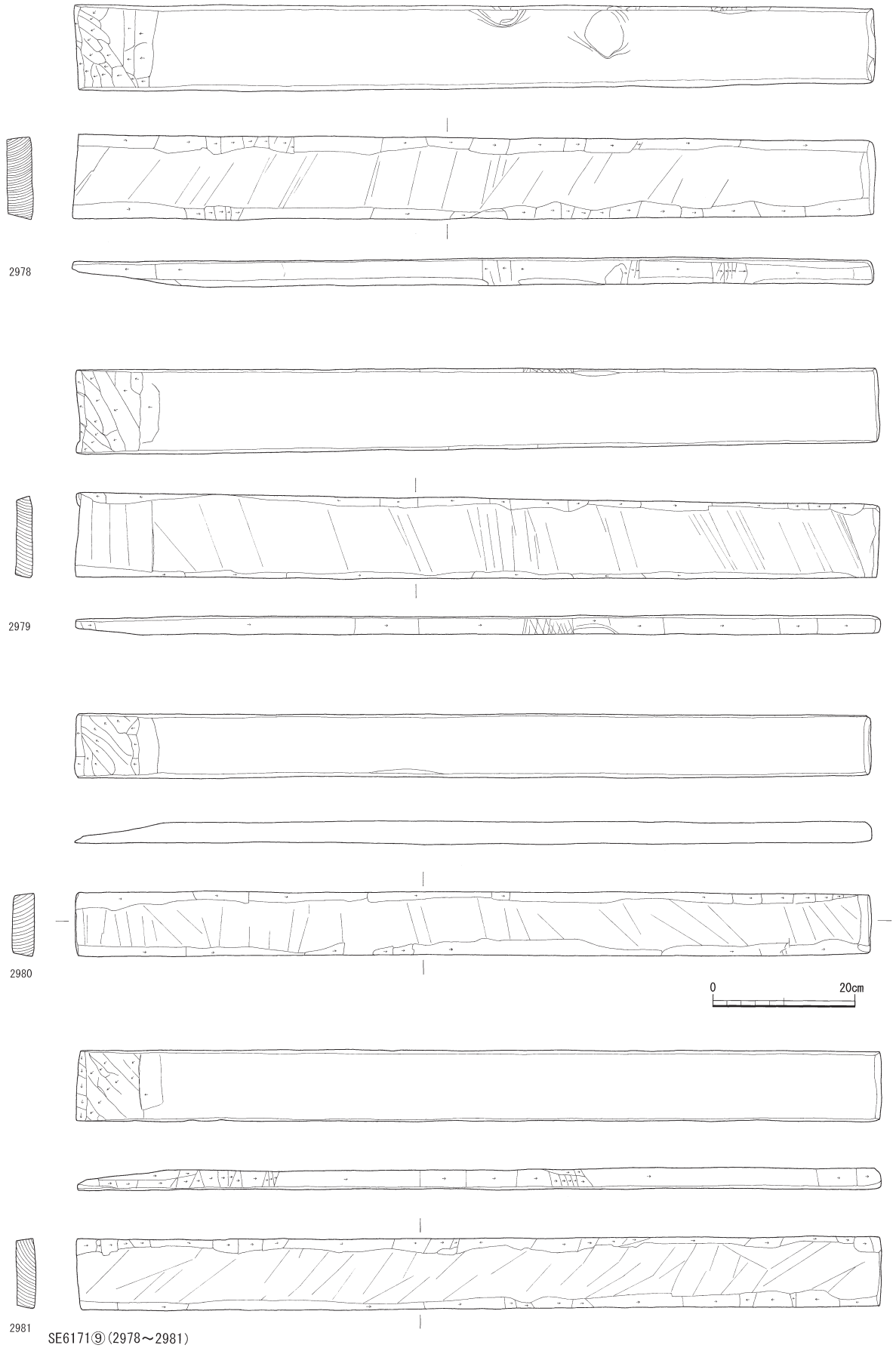
第185図　木製品　井戸枠材実測図㉛(1/8)



第186図　木製品　井戸枠材実測図㉜(1/8)

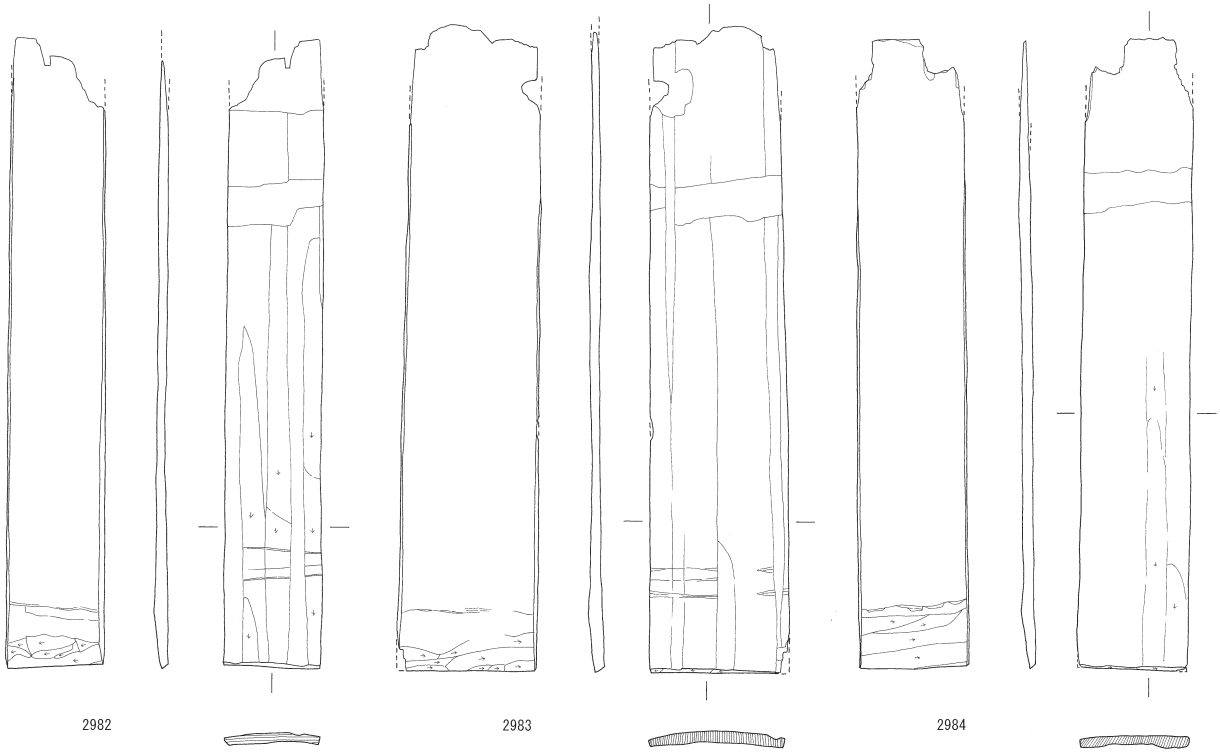


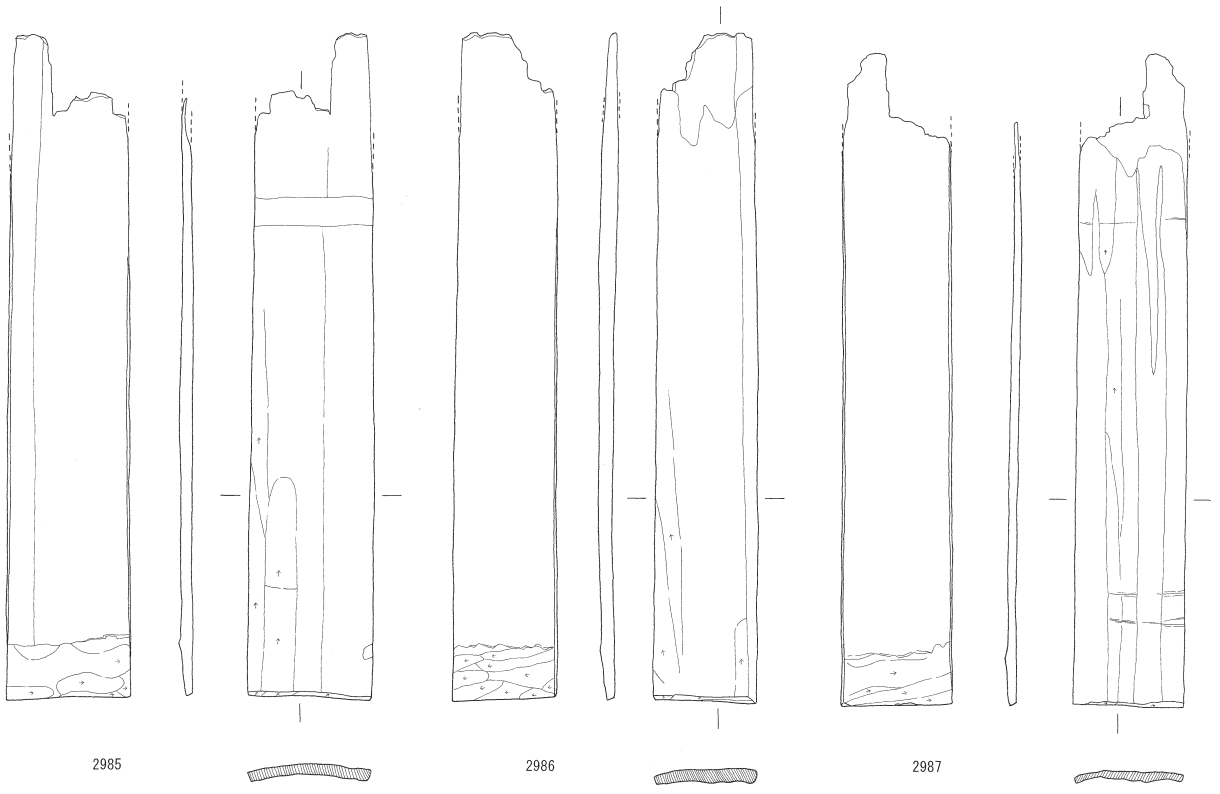
第187図　木製品　井戸枠材実測図㉝(1/8)



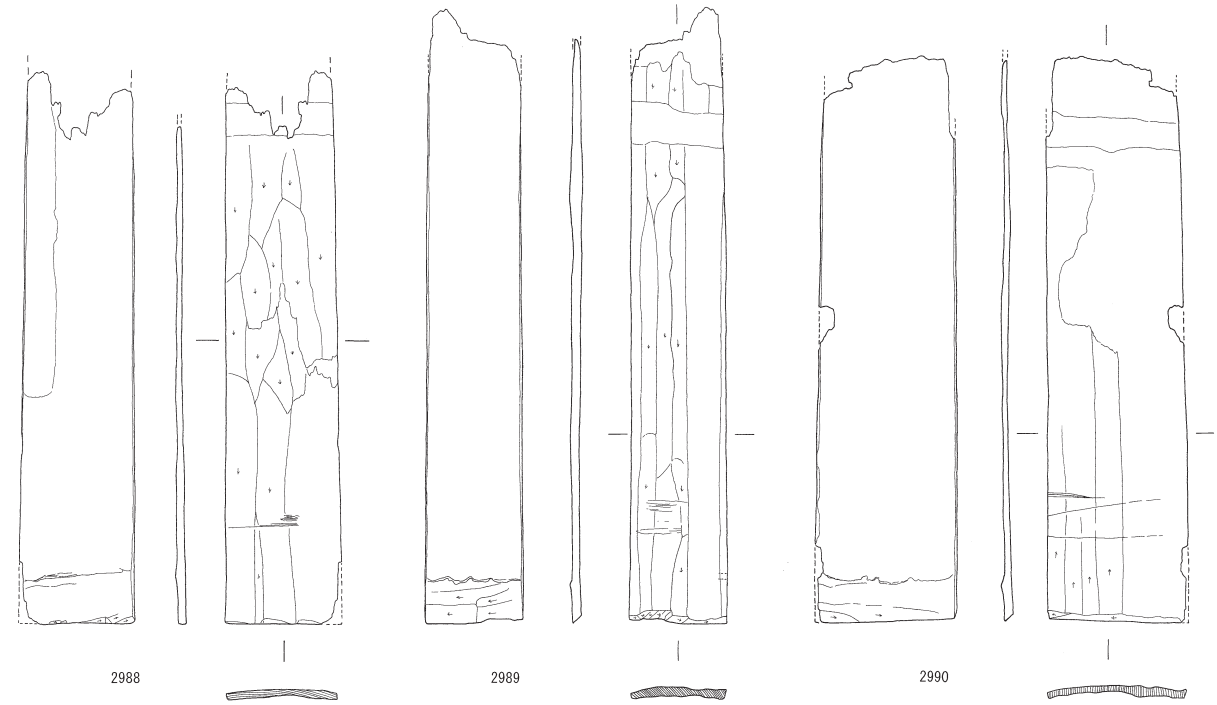
SE6171⑨(2978～2981)

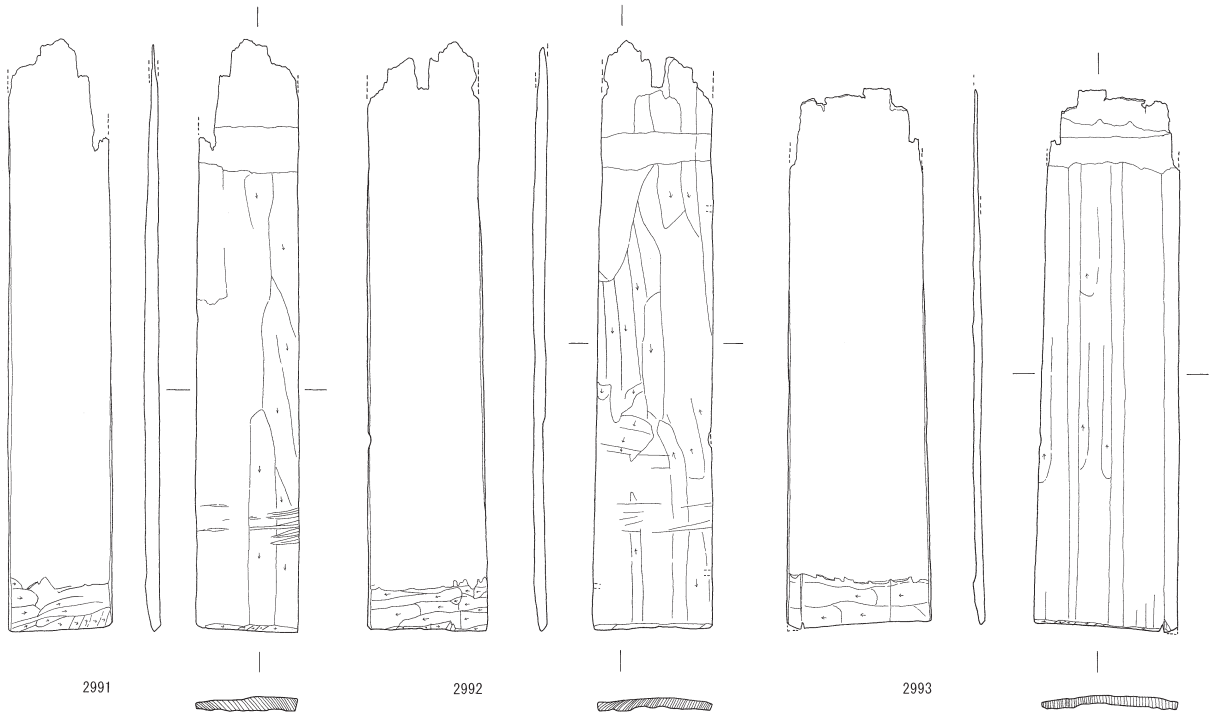
第188図　木製品　井戸枠材実測図㉞(1/8)



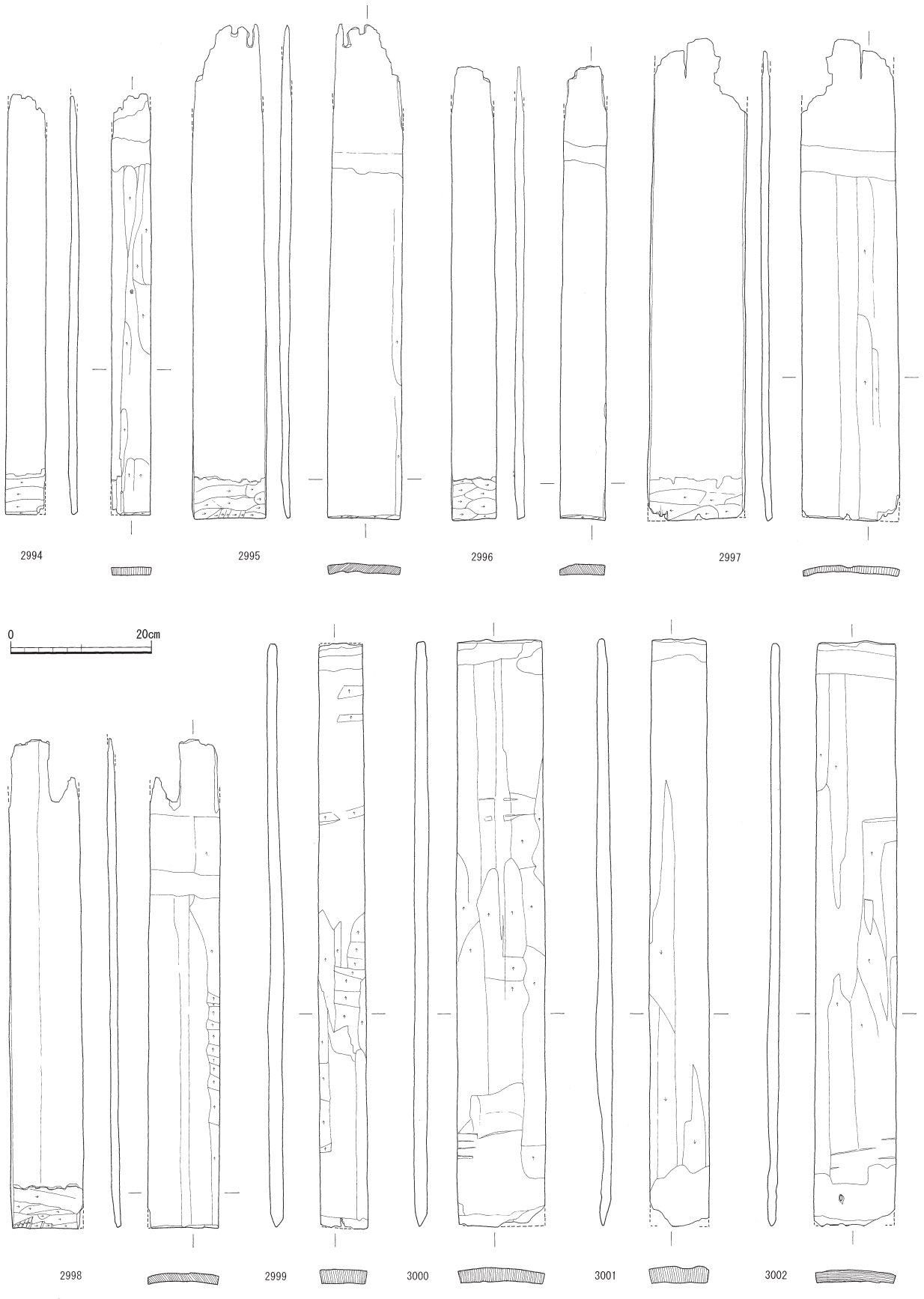


第189図　木製品　井戸枠材実測図㉟(1/8)



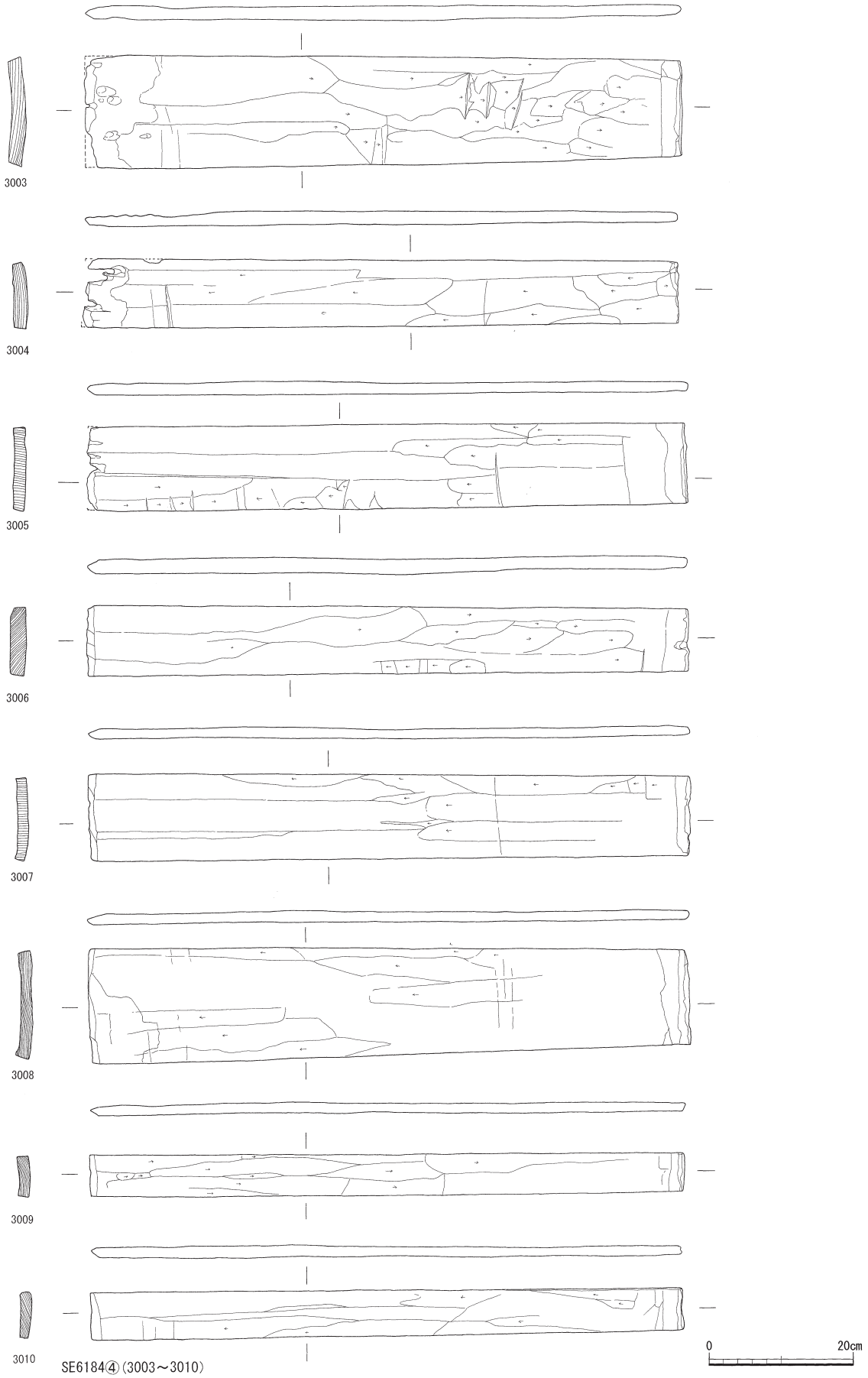


第190図　木製品　井戸枠材実測図㊱(1/8)

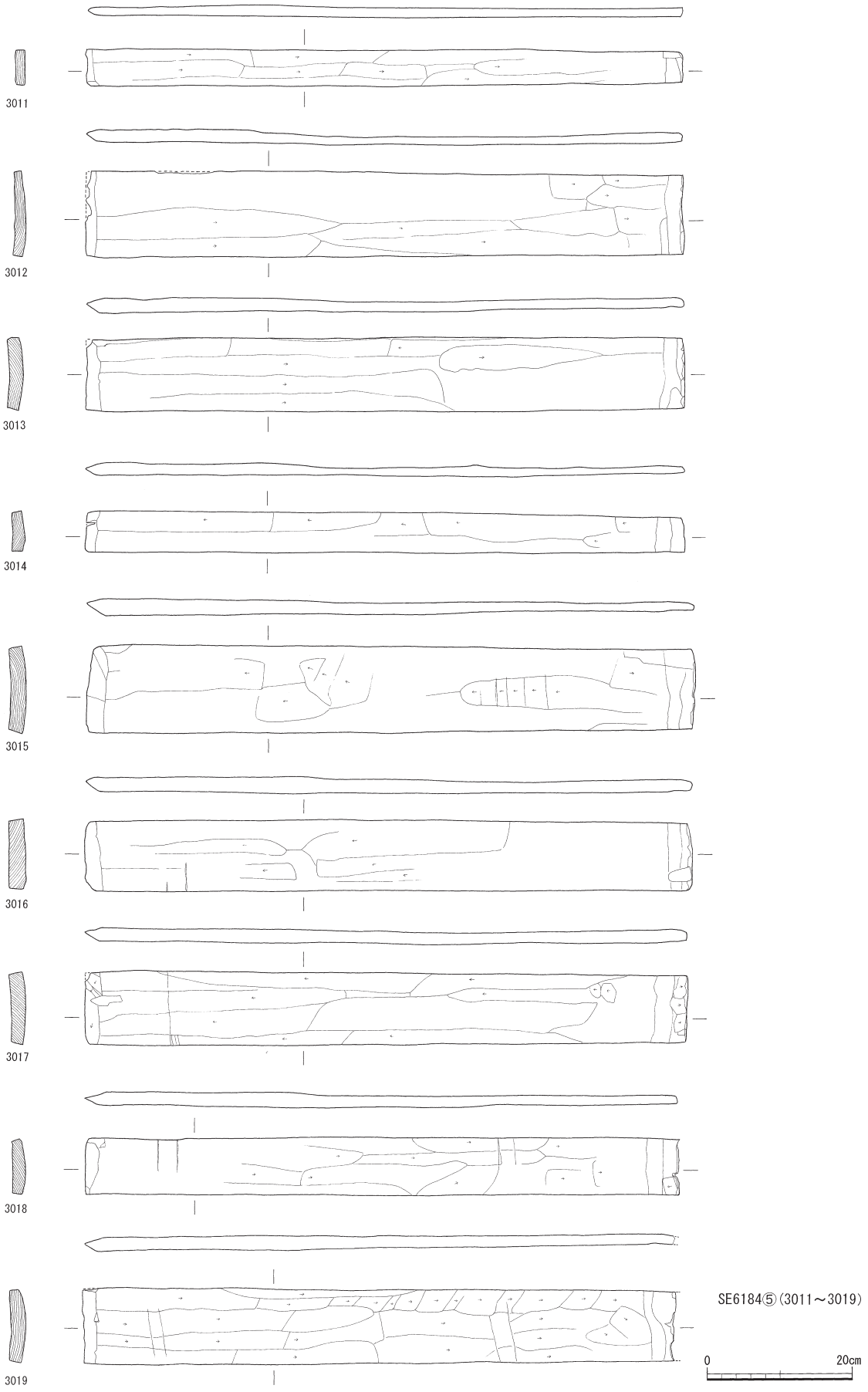


SE6184③(2994～3002)

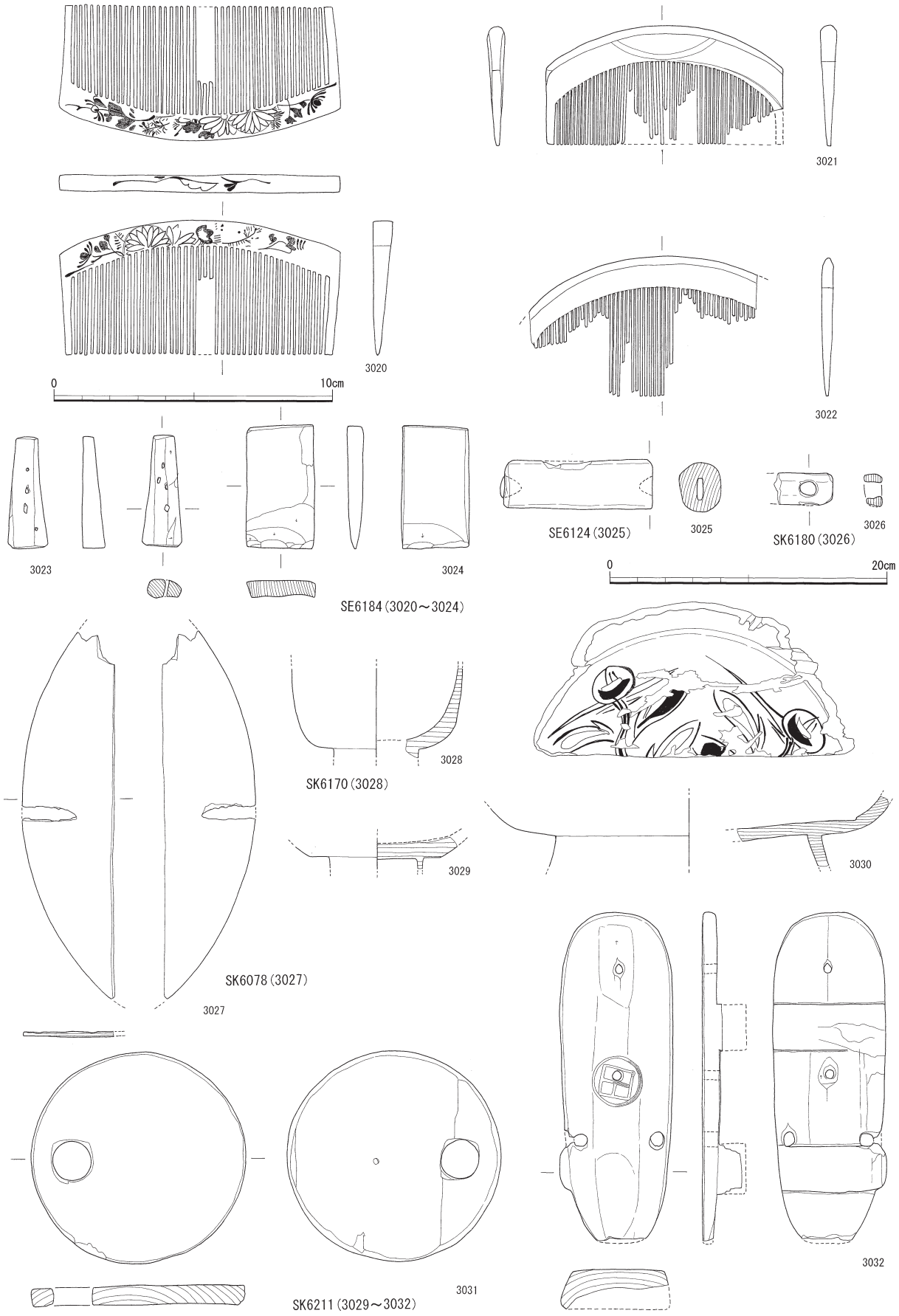
第191図　木製品　井戸枠材実測図㊲(1/8)



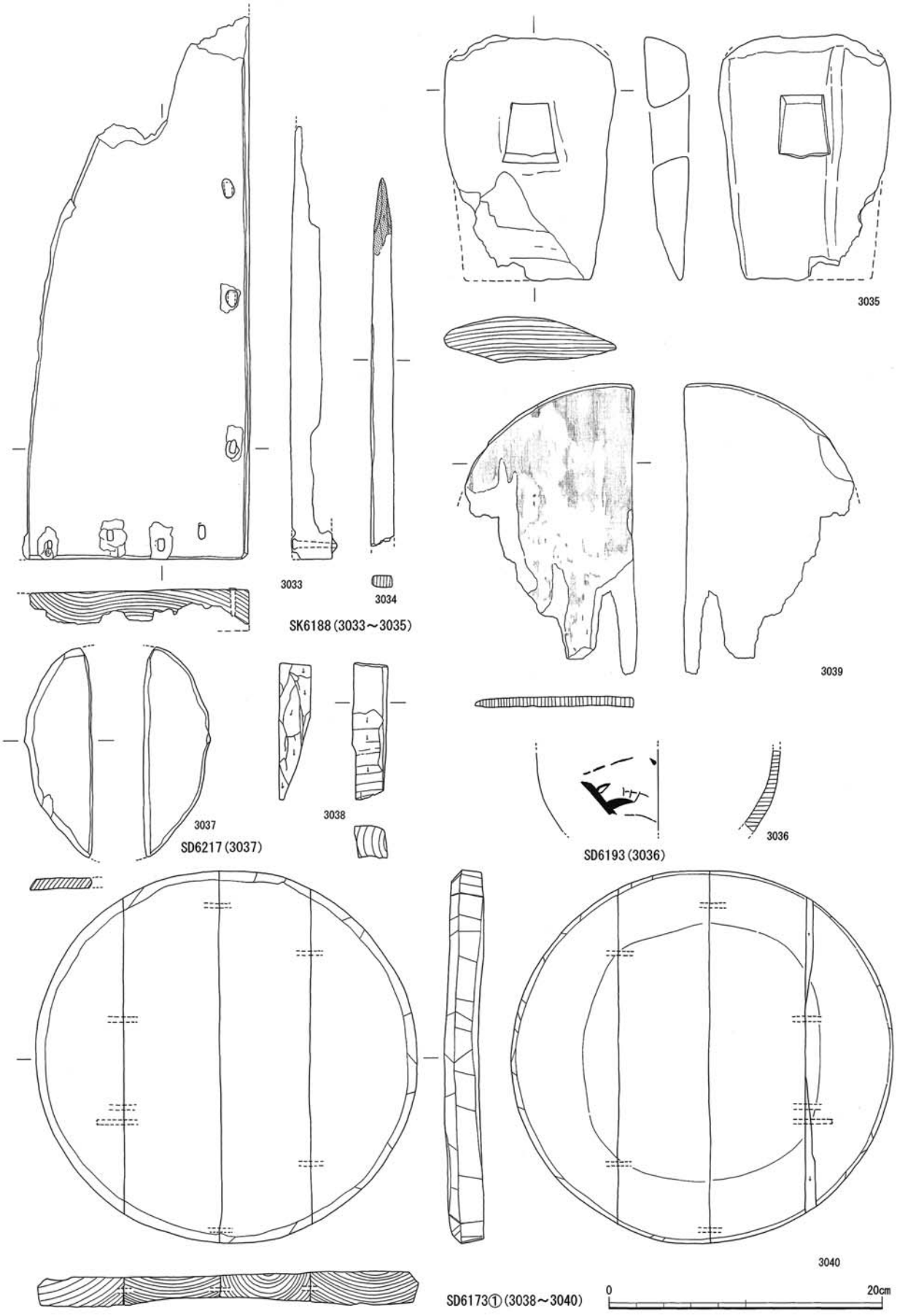
第192図　木製品　井戸枠材実測図㊳(1/8)



第193図　木製品　井戸枠材実測図㊴(1/8)



第194図　木製品　小型品等実測図⑪（1/4、3020～3022は1/2）



第195図　木製品　小型品等実測図⑫ (1/4)

程である。木取りは２段目結物では柾目材が優位となり板目材は２点のみであるが、最下段は板目材と柾目材が同程度混在する。両段ともに大鋸による挽割製材後に外内面をヤリガンナで仕上げている。側面は台鉋、底部は両主面をヤリガンナで削り出し杭状に加工している。

②曲物水溜

ＳＥ6192（第163図2740）　側板にタガが１段巡り、タガの先端は面取りされていない。内面は縦方向のケビキがあり、底部の７箇所には貫通する木釘穴が施される。

③その他製品

ＳＥ6124（第194図3025）　把手状製品はクリ製で、両小口には鉄製品の一部が残存している。鉄製品は貫通しておらず、深さ２㎝程まで打ちこまれた状況である。

ＳＥ6184（第194図3020～3024）　横櫛（3020～3022）は漆塗りのもので、井戸枠内出土資料である。3020は総黒漆塗りで、歯部には金箔、棟部には螺鈿が施される。3021はサカキ製で歯部が黒漆塗り、棟部が朱漆塗りで漆絵が見られる。3022はイスノキ製で総黒漆塗りのものである。不明品（3023）は主面を刀子状工具で平滑に成形したもので、小穴４箇所の内３箇所は貫通する。楔（3024）は板状楔で先端を粗く削り出している。

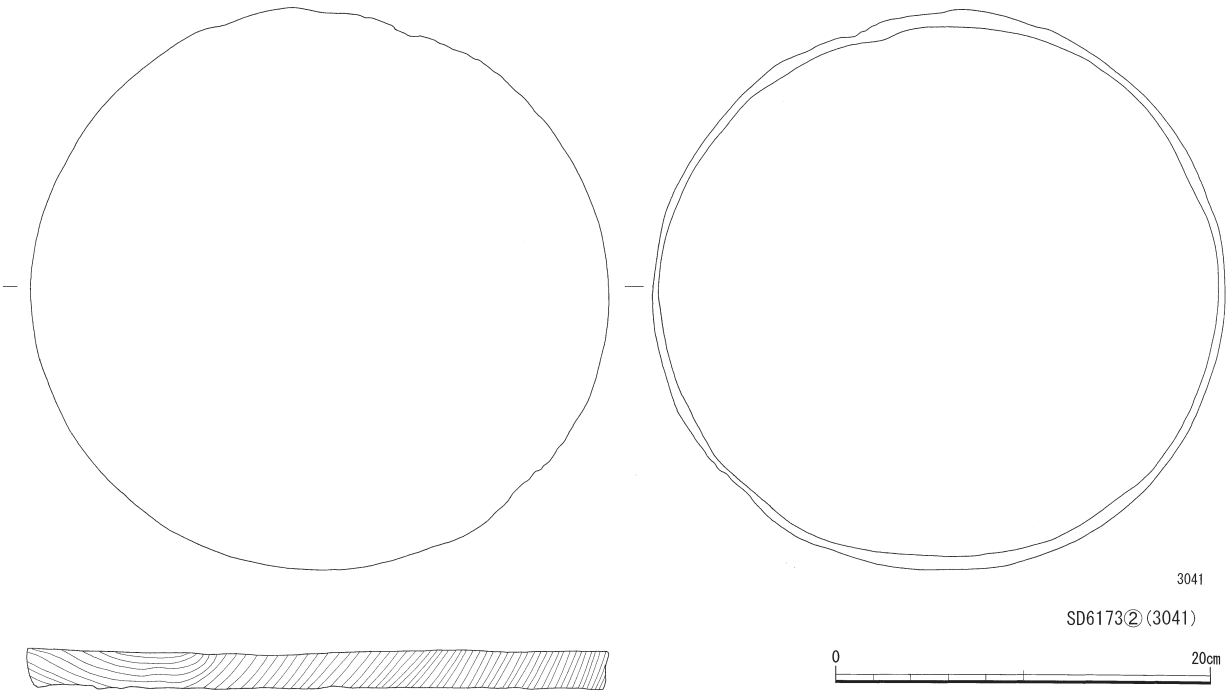
ＳＫ6078（第194図3027）　曲物底板はモミ属製で大型曲物の底板と考えられ、木釘穴は確認できない。

ＳＫ6170（第194図3028）　漆椀はトチノキ製の横木取り柾目材で体部外面は黒漆塗り、内面は朱漆塗となる。

ＳＫ6180（第194図3026）　棒状製品は先端部のみ残存し、１箇所に穿孔が施されたものである。

ＳＫ6188（第195図3033～3035）　床板（3033）とみられる板材で、主面の端に沿って７箇所の鉄釘が確認できる。上面は平滑に仕上げられているが、下面は腐食が著しく調整不明である。付木（3034）は割材の先端を粗く削り出しており、この範囲が焼けている。平鍬（3035）はアカガシ亜属製のもので、全体的に腐食しているが器面は平滑に成形されており、ヤリガンナによる加工と考えられる。柄孔は鑿による加工で、着柄角度は71°である。

ＳＫ6211（第194図3029～3032）　漆椀（3029）はトチノキ製の横木取り柾目材で外面は黒漆塗り、内面は腐食のため不明である。漆盤（3030）はクリ製の横木取り柾目材で、外面は朱漆塗りだが残存状況が悪い。体部内面は黒漆塗り、見込み部は朱漆塗り



第196図　木製品　小型品等実測図⑬(1/4)

で、漆絵が黒漆と黄漆で描かれる。結物蓋板（3031）はヒノキ製の板目材で、木栓用の穴が見られる。連歯下駄（3032）はスギ製のもので長さ23.5㎝以上、幅8.1㎝である。台の中央には「○に田」の焼き印があり、調査区に近接する朝田寺との関連が考えられる。朝田寺の瓦や破風には同様な文様があり、所有物には同様の文様を記したものがあるという(7)。

ＳＤ6173（第195・196図3038～3041）　楔（3038）は打割材の先端を削り出したもの。曲物底板は3039がヒノキ科のもので主面に黒色の塗膜痕が観察できる。3040はスギ製のもので底板４点を木釘で留めており、主面の一方は中央がやや凹む。3041は板目材１点からなるもの。

ＳＤ6193（第195図3036）　漆椀はハイノキ属製の横木取り柾目材のもので、黒漆塗りで外面には朱漆による漆絵が見られる。

ＳＤ6217（第195図3037）　曲物底板はヒノキ製の柾目材のもので全体を平滑に成形するが、腐食のため調整は不明瞭である。

４　金属製品

（１）６次３区

ＳＫ6242（第197図3042～3053）　3042～3053は銅銭である。土坑内からまとまって出土した。3042は開元通宝、3043は咸平元宝、3044～3046は熙寧元宝、3047は景祐元宝、3048は天豊通宝、3049・3050は皇宋通宝、3051は至道元宝、3052は天元通宝である。3053は表面の遺存状況が悪く、文字が不鮮明であるが、熙寧元宝の可能性がある。開元通宝を除けば、いずれも北宋銭である(8)。

ＳＤ6222（第197図3054）　3054は鉄製品である。細長い撥形を呈し、一端は細くなっている。断面形は長方形を呈する。

ピット（第197図3055）　3055は銅銭である。半分程度を欠損するが、残存している文字から元祐通宝と思われる。

（２）６次４区

ＳＫ6102（第197図3056）　3056は銅銭である。元符通宝である。背面に文字等はない。

ＳＫ6104（第197図3057～3059）　3057～3059は銅銭である。3057が景祐元宝、3058が皇宋通宝、3059が大中通宝である。いずれも背面に文字等はない。3059の大中通宝は明銭で、縁の輪の幅がかなり狭い。

ＳＫ6143（第197図3060）　3060は銅製品である。中空の筒形で、一端はすぼまっている。Ｕ字形に曲がり、断面形は不整な楕円形を呈しているが、変形したものか、こうした形状の製品かは不明である。

ＳＤ6012（写真図版101）　図化していないが、鍛冶炉の炉壁と考えられる破片が２点出土している。

１点は、長さ７㎝、幅６㎝、厚さ2.5㎝程の破片で、スサを混ぜた粘土が灰色に焼け固まったものである。片側の面に、主成分が鉄で若干銅を含む金属滓が、面的に付着している。金属滓の直下では、粘土も高温で発泡している様子がみられる。金属滓が付着した面は、やや内湾している。

もう１点は、長さ５㎝、幅3.5㎝、厚さ1.5㎝程の破片で、基本的な特徴や、付着する金属滓の成分は、大きい方の破片とほぼ同じである。

ＳＤ6126（第197図3061）　3061は鉄製品の刀子である。両関で、刀身は細身である。切先は欠損している。装具等は遺存しておらず、目釘孔も現状では確認できない。

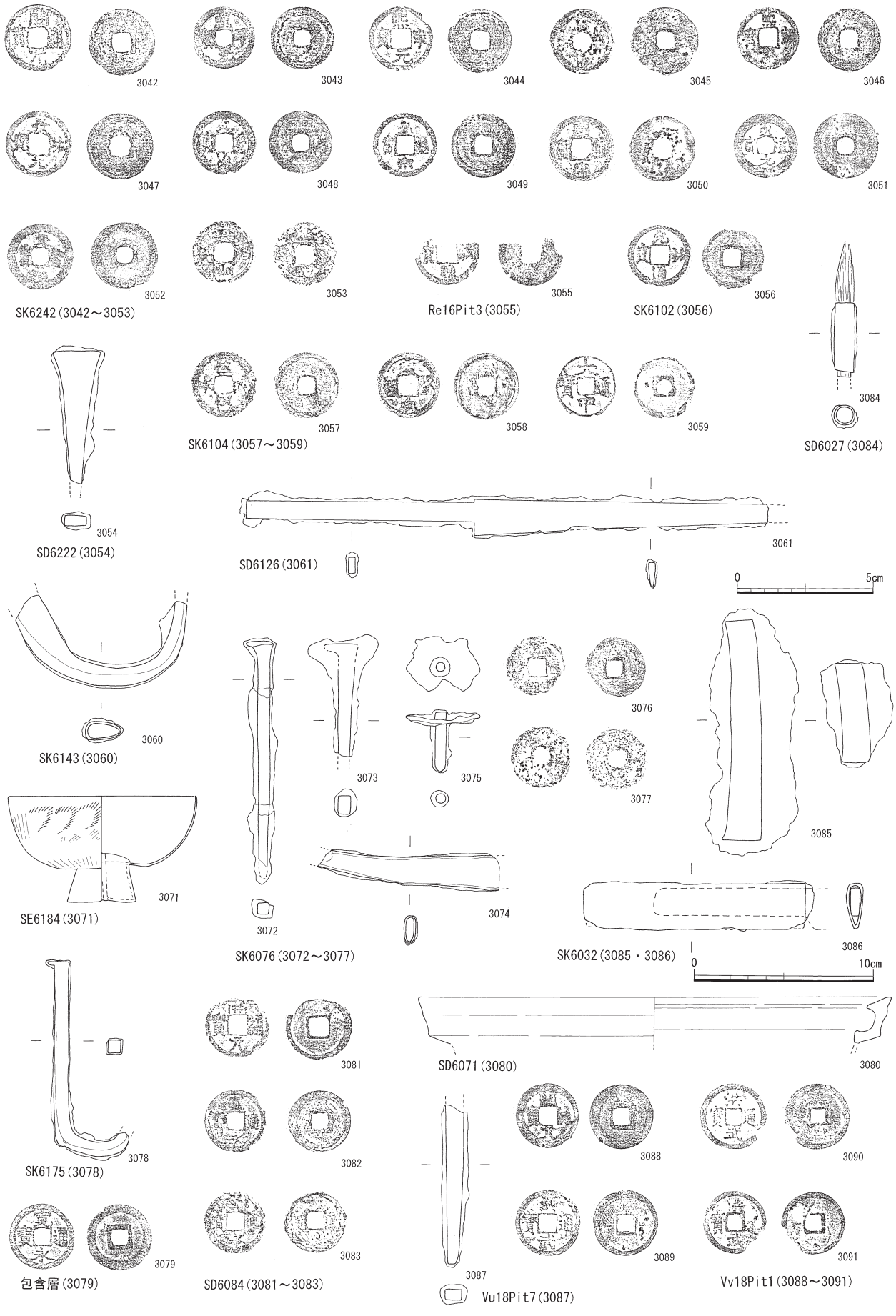
ＳＤ6167（第198図3062～3070）　3062～3070は鉄製品の鏨と思われる。ほぼ同じ形態・大きさのものである。大型であることや、頭部に平坦面を持ち、先端部が扁平になることから鏨と判断したが、釘の可能性もある。出土時は3062～3064の３個体と、3065～3069の５個体が、それぞれ束ねられたような状況で錆着していたが、保存処理の過程で個体ごとに分離した(9)。

3070はそれらの束とは別に出土したものであるが、3062～3069に似た形態である。元は他の個体と一緒に束となっていた可能性も考えられる。

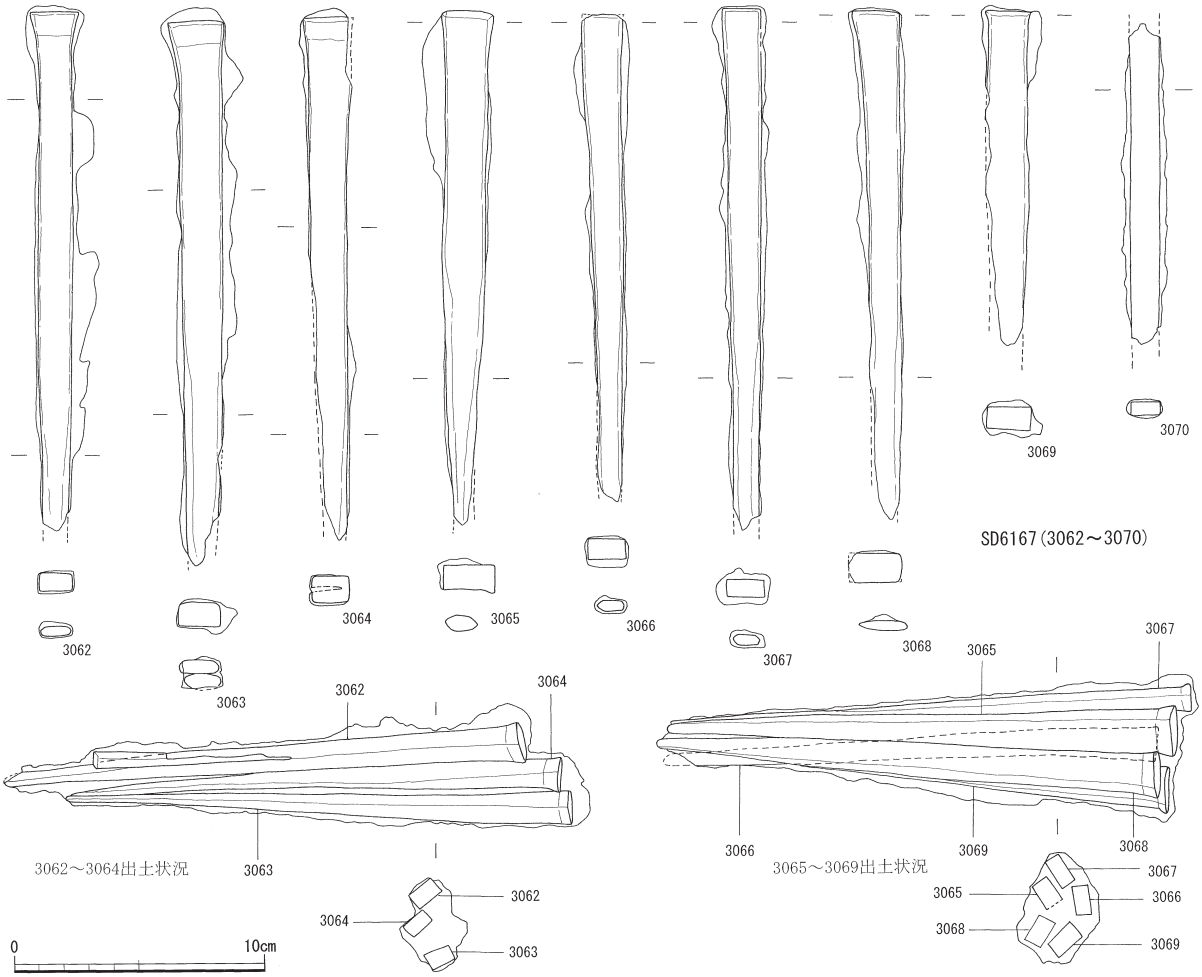
ＳＥ6184（第197図3071）　3071は真鍮製の台付小鋺である(10)。外面には毛彫りで波状の文様が表現されている。仏餉具と考えられる。

ＳＫ6076（第197図3072～3077）　3072・3073は鉄製品の釘である。いずれも頭部を屈曲させて釘頭としている。3073は断面形が長方形を呈する。

3074・3075は銅製品である。3074は煙管の吸口で



第197図　金属製品実測図①(1/2、3080は1/3)



第198図　金属製品実測図②(1/3)

ある。扁平につぶれるなど大きく変形しており、原形をとどめていない。3075は飾り鋲のようなものと思われる。

3076・3077は銅銭である。3076は寛永通宝で、背面に文様がない一文銭である。3077は表面の遺存状況が悪く、銭種を特定できない。

ＳＫ6175（第197図3078）　3078は鉄製品の釘である。頭部は小さく屈曲する。大きく曲がってＪ字状に変形しており、また、先端部は欠損している。断面形は正方形に近い。

包含層（第197図3079）　3079は銅銭である。寛永通宝で、背面に文様がない一文銭である。

（３）６次５区

ＳＤ6071（第197図3080）　3080は鉄製品の鍋である。口縁部の破片で、受口状に屈曲している。表面に気泡の痕跡が多数残ることから、鋳造品と考えられる。

ＳＤ6084（第197図3081～3083）　3081～3083は銅銭である。3081は開元通宝である。縁の輪を一部欠損している。3082・3083は寛永通宝で、いずれも背面に文様がない一文銭である。

（４）６次６区

ＳＤ6027（第197図3084）　3084は銅製の筆軸金具である。筆の軸先に銅板を巻き付けて前軸状にしたもので、有機質の穂と、竹製と思われる軸の一部も遺存してる。

（５）６次７区

ＳＫ6032（第197図3085・3086）　3085は鉄製品である。錆が著しく、形状には不明な点も多いが、厚い板状を呈しており、わずかに湾曲するものと思われる。用途等は不明であるが、五徳の脚の破片であ

る可能性が考えられる。

3086は銅製の刀子柄である。内部には鉄製刀子の茎が遺存してる。薄い銅板を二つに折り曲げて刀子の茎を挟み込むようにして作られており、棟部には銅板の合わせ目が確認できる。表面には文様や目釘は認められない。

ピット（第197図3087～3091）　3087は鉄製品の釘である。半分程度に折損している。断面形は長方形を呈する。

3088～3091は銅銭である。同じピットからまとまって出土した。3088は完形の開元通宝である。3089～3091は洪武通宝である。3090・3091は若干欠損しているが、ほぼ完形である。いずれも背面は無文である。

註

（1）449・2502・2601・3071及び、ＳＤ6012出土の炉壁金属滓については、三重県総合博物館で蛍光Ｘ線分析を行った。449の内面の付着物は鉄分を多く含むが、土器本体に比べて著しく鉄分の含有量が多い状況は認められなかった。なお、2502と2601については付着する赤色顔料に水銀が含有されていることが判明したため、水銀朱と判断した。

（2）第５次調査でも「盛法寺」と記された山茶椀ないし灰釉陶器の底部が出土している。ただし、736・742は「盛法寺」とは別の寺院名を記しているとみられる。

（3）奈良国立文化財研究所『平城宮発掘調査報告ＸＩ』1982年

（4）木取りについては実測時の観察による。なお、第13表記載の木取りは試料採取時の受託者の観察によるもので、多少の相違がある。

（5）奈良国立文化財研究所『木器集成図録』近畿古代編1984年
前者がＢ型式、後者がＣ型式に該当する。

（6）犂の構造は滋賀県中畑遺跡の資料を参考とした。滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会『中畑遺跡Ⅱ』2005年

（7）朝田寺住職榎本義譲氏のご教示による。聞き取りによれば、同じ文様の焼きごてが所蔵されているという。また、本調査出土の陶磁器には、底部外面に同様の墨書が施されたものがある。

（8）兵庫県埋蔵銭調査会『日本出土銭総覧　1996年版』1996年

（9）保存処理に際して、紐等で束ねたり、袋に入れた痕跡がないか確認したが、そうした痕跡は認められなかったため、分離することにした。

(10) 三重県総合博物館での蛍光Ｘ線分析により、銅に亜鉛が20%近く含まれた合金で作られていることが判明した。

第４表　遺物観察表（土器・陶磁器等）

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1	38505	陶器	山茶椀	T1	Pk7	SK6211	—	—	6.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕、墨書	灰白5Y7/1	8/12	
2	38504	陶器	小碗	T1	Pk7	SK6211	8.8	4.8	2.9	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ？、墨書	胎：灰白N8/ 釉：明オリーブ灰2.5Y7/1	1/12	墨書「田」
3	00605	陶器	小碗	T1	Pk7	SK6211	9.0	—	—	内：ロクロナデ？ 外：ロクロナデ？	灰白10Y7/1	5/12	灰釉
4	00702	陶器	腰錆茶碗	T1	Pk7	SK6211	8.6	5.1	4.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、カキメ	釉：灰白7.5Y8/1、黒N2/	5/12	瀬戸美濃産
5	00606	陶器	染付広東碗	T1	Pk7	SK6211	—	—	5.5	内：ロクロナデ？、五弁花文 外：ロクロケズリ、ロクロナデ？	灰白7.5Y8/1	12/12	瀬戸美濃産
6	00603	陶器	両耳鍋	T1	Pk7	SK6211	16.0	—	—	内：ロクロナデ？ 外：ロクロナデ？	暗褐色3/3	2/12	鉄釉
7	00604	陶器	灯明皿	T1	Pk7	SK6211	9.9	2.0	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ケズリ	灰白5Y7/2	1/12	灰釉
8	00703	陶器	秉燭	T1	Pk7	SK6211	6.2	2.8	4.2	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ、ナデ	オリーブ黄5Y6/3	5/12	灰釉
9	00704	陶器	徳利	T1	Pk7	SK6211	2.1	14.2	4.9	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	明褐7.5YR5/6	12/12	瀬戸美濃産、錆釉
10	00501	陶器	甕	T1	Pk7	SK6211	66.0	—	—	内：指オサエ、ナデ 外：ロクロナデ	内：灰褐7.5YR4/2 外：黄灰2.5Y6/1、浅黄2.5Y7/4	1/12	常滑産
11	00607	磁器	皿	T1	Pk7	SK6211	15.1	4.6	8.9	内：ロクロナデ？、扇文？、岩草文、五弁花文 外：笹文？	灰白5GY8/1	10/12	肥前産、畳付砂付着
12	00701	磁器	油壺？	T1	Pk7	SK6211	—	—	4.2	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	内：灰白2.5Y8/2 外：灰白5GY8/1	12/12	
13	00401	瓦	軒丸瓦	T1	Pk7	SK6211	径14.9	—	厚2.0	内：ナデ、指オサエ 外：ケズリ、ナデ、巴文	内：灰N5/ 外：灰白2.5Y7/1	12/12	
14	00402	瓦	軒丸瓦	T1	Pk7	SK6211	径16.9	—	厚2.4	内：ナデ 外：ケズリ、ナデ、巴文	灰N4/	12/12	
15	00301	瓦	軒丸瓦	T1	Pk7	SK6211	径17.0	—	厚2.6	内：ナデ、コビキ痕、布目 外：ケズリ、ナデ、巴文	暗灰N3/、灰白5Y7/1	12/12	刻印「長」？
16	00602	土師器	焙烙	T1	Pk11	包含層	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	小片	外面煤付着
17	00601	陶器	山茶椀	T1	—	包含層	—	—	7.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	6/12	
18	12401	土師器	茶釜	T3	Re12	SK6228	11.1	—	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ハケ、ヨコナデ	橙5YR6/8	12/12	外面煤付着
19	01110	ロクロ土師器	椀	T3	Re11	SK6230	—	—	6.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	浅黄橙10YR8/4	3/12	
20	01003	土師器	鍋	T3	Rf10	SK6231	—	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい褐7.5YR5/3	小片	外面煤付着
21	01002	土師器	鍋	T3	Rf10	SK6231	—	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ、指オサエ	にぶい褐7.5YR5/3	小片	外面煤付着
22	01001	陶器	捏鉢	T3	Rf10	SK6231	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：橙2.5YR6/8 外：橙5YR7/6	小片	
23	01108	土師器	皿	T3	Rd15	SK6232	—	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	小片	
24	01109	土師器	皿	T3	Rd15	SK6232	—	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白2.5Y8/2	小片	
25	01107	陶器	山茶椀	T3	Rd15	SK6232	—	—	6.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	3/12	
26	01106	陶器	山茶椀	T3	Rd15	SK6232	—	—	7.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	8/12	内面摩耗、内面炭化物付着
27	01103	土師器	皿	T3	Rd15	SK6233	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	小片	外面煤付着
28	01102	土師器	鍋	T3	Rd15	SK6233	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白2.5Y8/2	小片	
29	01104	陶器	山茶椀	T3	Rd15	SK6233	14.7	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白5Y7/1	1/12	
30	01105	陶器	山茶椀	T3	Rd15	SK6233	—	—	9.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	3/12	内面摩耗
31	01101	土師器	小皿	T3	Rd14	SK6234	6.2	1.25	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白2.5Y8/2	9/12	口縁歪み大きい
32	01011	土師器	皿	T3	Rd14	SK6234	—	—	—	内：指オサエ 外：指オサエ	にぶい橙7.5YR7/4	小片	口縁歪み大きい、内面煤付着？
33	01005	土師器	小皿	T3	Rd14	SK6234	8.4	1.25	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	4/12	
34	01004	土師器	小皿	T3	Rd14	SK6234	9.8	1.85	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい褐5YR7/4	3/12	
35	01009	土師器	小皿	T3	Rd14	SK6234	9.0	—	—	内：指オサエ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	4/12	口縁歪み大きい
36	01010	土師器	小皿	T3	Rd14	SK6234	8.6	2.8	—	内：指オサエ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	内：黒褐2.5Y3/1 外：にぶい橙7.5YR7/4	3/12	口縁歪み大きい
37	01008	ロクロ土師器	椀	T3	Rd14	SK6234	—	—	6.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y8/2	9/12	
38	01007	土師器	羽釜	T3	Rd14	SK6234	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	小片	
39	01006	土師器	鍋	T3	Rd14	SK6234	23.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
40	01204	土師器	甕	T3	Re16	SK6235	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：浅黄橙7.5YR8/3 外：橙5YR7/6	小片	
41	01207	土師器	鍋	T3	Re16	SK6235	24.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/3	2/12	外面煤付着
42	01202	陶器	山皿	T3	Re16	SK6235	8.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	内：灰白2.5Y7/1 外：灰白10YR7/1	2/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
43	01201	陶器	山茶椀	T3	Re16	SK6235	15.4	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白10YR7/1	1/12	
44	01208	陶器	山茶椀	T3	Re16	SK6235	16.1	4.5	6.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰N6/1	4/12	
45	01301	陶器	山茶椀	T3	Re16	SK6235	—	—	7.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白10YR7/1	12/12	
46	01205	陶器	山茶椀	T3	Re16	SK6235	—	—	7.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白10YR7/1	5/12	内面摩耗
47	01206	陶器	山茶椀	T3	Re16	SK6235	—	—	6.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白10YR7/1	4/12	内面摩耗
48	01203	磁器	青磁碗	T3	Re16	SK6235	—	—	6.3	内：ロクロナデ、陰刻劃花文 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y7/1 釉：暗オリーブ5Y4/3	5/12	
49	01302	土師器	鍋	T3	Re15	SK6236	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：灰白10YR8/2 外：灰白10YR8/3	小片	
50	13204	土師器	皿	T3	Rd15	SK6237	11.2	2.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/1	6/12	
51	01303	土師器	鍋	T3	Rd15	SK6237	22.6	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：黒2.5Y2/1	1/12	外面煤付着
52	01304	陶器	山茶椀	T3	Rd15	SK6237	—	—	6.3	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2/5Y8/1	2/12	内面摩耗
53	01306	陶器	山茶椀	T3	Rd15	SK6237	—	—	7.1	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	内：灰N4/ 外：黄灰2.5Y6/1	12/12	内面炭化物付着
54	01305	陶器	片口鉢	T3	Rd15	SK6237	—	—	12.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2/5Y7/1	1/12	
55	12704	土師器	小皿	T3	Re16	SK6240	6.4	1.05	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	4/12	
56	12703	土師器	小皿	T3	Re16	SK6240	8.0	1.35	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ	内：灰白10YR7/1 外：にぶい橙7.5YR7/3	2/12	
57	12702	土師器	皿	T3	Re16	SK6240	12.0	1.6	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白7.5YR8/2	2/12	
58	12404	土師器	椀	T3	Re16	SK6240	8.7	4.4	3.8	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	4/12	
59	12603	土師器	茶釜	T3	Re16	SK6240	12.0	—	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	4/12	
60	12405	土師器	鍋	T3	Re16	SK6240	18.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	外面煤付着
61	12701	土師器	鍋	T3	Re16	SK6240	19.4	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：浅黄橙7.5YR8/4 外：にぶい橙2.5YR6/4	1/12	
62	12403	土師器	鍋	T3	Re16	SK6240	34.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	外面煤付着
63	12602	土師器	鍋	T3	Re16	SK6240	39.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：浅黄2.5Y7/3 外：黒N1.5/	2/12	外面煤付着
64	12601	土師器	鍋	T3	Re16	SK6240	29.0	—	—	内：ケズリ、ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：灰黄褐10YR6/2 外：にぶい黄褐10YR4/3	2/12	外面煤付着
65	12501	土師器	鍋	T3	Re16	SK6240	30.4	—	—	内：ケズリ、ハケ、ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	6/12	外面煤付着
66	12402	土師器	鍋	T3	Re16	SK6240	24.6	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	
67	12706	土製品	土錘	T3	Re16	SK6240	長6.0	幅3.4	厚3.0	工具ナデ、ケズリ	にぶい橙7.5YR6/4	ほぼ完形	
68	12502	陶器	擂鉢	T3	Re16	SK6240	—	—	8.6	内：ロクロナデ、擂目 外：ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：暗赤灰10R4/1、灰赤10R5/2	3/12	
69	12604	磁器	青磁稜花皿	T3	Re16	SK6240	12.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白7.5Y8/1 釉：オリーブ灰10Y6/2	2/12	口縁端部連続押圧
70	12705	土師器	小皿	T3	Re19	SK6242	7.4	1.35	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	6/12	内面煤付着
71	13202	土師器	鍋	T3	Re19	SK6242	19.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	3/12	外面煤付着
72	13302	土師器	鍋	T3	Re19	SK6242	28.0	—	—	内：工具ナデ？、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/2 外：褐灰10YR4/1	1/12	外面煤付着
73	13203	土師器	鍋	T3	Re19	SK6242	28.0	—	—	内：工具ナデ？、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい橙7.5YR7/3 外：黒N2/	1/12	外面煤付着
74	13301	土師器	茶釜	T3	Re19	SK6243	9.8	—	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：灰黄褐10YR6/2	1/12	外面煤付着
75	13303	土師器	鍋	T3	Re19	SK6243	40.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、指オサエ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR4/1 外：褐灰10YR4/1	2/12	外面煤付着
76	13304	陶器	山茶椀	T3	Re19	SK6243	—	—	7.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	3/12	内面摩耗
77	13201	陶器	甕	T3	Re19	SK6243	—	—	11.4	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	褐灰10YR5/1	4/12	常滑産
78	13102	陶器	加工円盤	T3	Re19	SK6243	長4.6	幅4.3	厚1.2	打欠	灰赤10R5/2	完形	重さ38.17g、甕転用
79	03007	土師器	台付甕	T3	—	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：ハケ	にぶい橙7.5YR7/3	脚台片	
80	03001	須恵器	長頸壺	T3	—	SD6012	10.6	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	12/12	
81	03301	土師器	小皿	T3	—	SD6012	7.8	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
82	03302	土師器	皿	T3	—	SD6012	10.3	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
83	03303	土師器	皿	T3	—	SD6012	11.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	橙5YR7/6	2/12	
84	03304	土師器	皿	T3	—	SD6012	11.2	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	2/12	
85	04205	土師器	蓋	T3	—	SD6012	13.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	2/12	上面煤付着
86	03604	土師器	茶釜	T3	—	SD6012	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	小片	
87	03603	土師器	茶釜	T3	—	SD6012	13.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
88	04202	土師器	茶釜	T3	—	SD6012	12.9	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	3/12	
89	04206	土師器	茶釜	T3	—	SD6012	12.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ハケ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	3/12	
90	03601	土師器	茶釜	T3	—	SD6012	12.4	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、指オサエ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	3/12	
91	03605	土師器	茶釜	T3	—	SD6012	—	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	小片	
92	04201	土師器	茶釜	T3	—	SD6012	12.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/4	1/12	
93	03602	土師器	茶釜	T3	—	SD6012	15.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3/12	
94	03501	土師器	茶釜	T3	—	SD6012	14.0	—	—	内：工具ナデ、ナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	5/12	流線文状ハケ
95	03503	土師器	羽釜	T3	Rd16	SD6012	—	—	—	内：不明 外：ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	小片	
96	04204	土師器	羽釜	T3	—	SD6012	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	小片	
97	03101	土師器	羽釜	T3	Rd16	SD6012	32.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	2/12	外面煤付着
98	03402	土師器	羽釜	T3	—	SD6012	34.4	—	—	内：指オサエ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰黄2.5Y6/2	1/12	外面煤付着
99	03305	土師器	甕	T3	—	SD6012	25.5	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/3 外：橙2.5YR6/6	1/12	
100	03306	土師器	甕	T3	—	SD6012	18.8	—	—	内：ハケ、ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：褐灰5YR5/1 外：にぶい黄橙10YR7/2	3/12	外面煤付着
101	03401	土師器	甕	T3	—	SD6012	22.8	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	外面煤付着
102	03103	土師器	甕	T3	Rd16	SD6012	15.4	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白7.5YR8/2	2/12	
103	04203	土師器	鍋	T3	—	SD6012	19.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ？、ハケ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	
104	03803	土師器	鍋	T3	—	SD6012	20.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	外面煤付着
105	04104	土師器	鍋	T3	—	SD6012	21.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙10YR6/3	1/12	外面煤付着、内面コゲ付着
106	03903	土師器	鍋	T3	—	SD6012	23.9	—	—	内：指オサエ、ナデ、ケズリ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	外面煤付着
107	03701	土師器	鍋	T3	—	SD6012	24.9	—	—	内：ハケ？、工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	外面煤付着
108	04004	土師器	鍋	T3	—	SD6012	27.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	外面煤付着
109	04101	土師器	鍋	T3	—	SD6012	29.6	—	—	内：ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	外面煤付着
110	04103	土師器	鍋	T3	—	SD6012	24.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	外面煤付着
111	03802	土師器	鍋	T3	—	SD6012	25.5	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/5	1/12	外面煤付着
112	03702	土師器	鍋	T3	—	SD6012	27.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい橙5YR6/4	2/12	外面煤付着
113	04102	土師器	鍋	T3	—	SD6012	27.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ハケ、ヨコナデ	灰黄褐10YR6/2	1/12	
114	03801	土師器	鍋	T3	—	SD6012	26.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	外面煤付着
115	03703	土師器	鍋	T3	—	SD6012	30.0	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/1、灰白10YR7/1	1/12	外面煤付着
116	04003	土師器	鍋	T3	—	SD6012	30.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	外面煤付着
117	04005	土師器	鍋	T3	—	SD6012	31.4	—	—	内：ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	外面煤付着
118	03902	土師器	鍋	T3	—	SD6012	32.2	—	—	内：指オサエ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	外面煤付着
119	04002	土師器	鍋	T3	—	SD6012	34.5	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	外面煤付着
120	03901	土師器	鍋	T3	—	SD6012	35.2	—	—	内：ケズリ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい橙7.5YR7/4 外：にぶい黄橙10YR7/4	2/12	外面煤付着？
121	04001	土師器	鍋	T3	—	SD6012	37.3	—	—	内：ケズリ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	1/12	外面煤付着
122	02803	土師器	十能	T3	—	SD6012	—	—	—	内：工具ナデ、ナデ 外：ハケ、指オサエ、ナデ	内：灰白7.5YR8/2 外：明褐灰7.5YR7/2	把手	
123	03403	陶器	山茶椀	T3	—	SD6012	—	—	6.9	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	内：浅黄橙10YR8/3 外：にぶい橙5YR7/4	2/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
124	02902	陶器	山茶椀	T3	—	SD6012	—	—	6.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白5Y7/1、灰白2.5Y7/1	12/12	内面摩耗
125	03003	陶器	山茶椀	T3	—	SD6012	—	—	7.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白5Y7/1	12/12	
126	02904	陶器	碗？	T3	Rd16	SD6012	—	—	5.4	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ？	胎：灰白2.5Y8/2 釉：灰白7.5Y7/2	6/12	底部外面トチン痕
127	02903	陶器	丸皿	T3	—	SD6012	10.6	2.5	5.9	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ？、ロクロナデ？	胎：灰白2.5Y8/1 釉：灰オリーブ7.5Y6/2	6/12	
128	02905	陶器	稜皿	T3	—	SD6012	11.6	3.0	7.5	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ	胎：灰白5Y7/1 釉：灰白7.5Y7/2	1/12	内面ピン痕
129	03006	陶器	輪禿皿？	T3	Rd16	SD6012	11.5	2.6	5.8	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白10YR8/2 釉：灰褐5Y5/2､灰褐5Y4/2	4/12	瀬戸美濃産、見込釉剥ぎ、丸皿？
130	02901	陶器	鉄絵皿	T3	—	SD6012	12.2	2.8	6.7	内：ロクロナデ、蘭竹文 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰黄2.5Y7/2 釉：灰白2.5Y8/1	5/12	瀬戸美濃産
131	03502	陶器	鉢？	T3	Rd16	SD6012	—	7.5	11.0	内：ロクロナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙2.5YR6/3	1/12	外面煤付着
132	03307	陶器	鉢	T3	—	SD6012	16.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y7/1 釉：にぶい橙5YR6/4、黒褐10YR3/1	1/12	鉄釉、碗？
133	03005	陶器	捏鉢	T3	—	SD6012	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：灰赤2.5YR4/2 外：にぶい赤褐2.5YR5/4	小片	常滑産
134	03004	陶器	捏鉢	T3	—	SD6012	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰5Y5/1、灰褐7.5YR5/2	小片	常滑産
135	03102	陶器	火鉢	T3	Rd16	SD6012	23.0	6.2	14.5	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR6/4	2/12	外面煤付着
136	03002	陶器	壺	T3	—	SD6012	—	—	12.7	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、工具ナデ	胎：灰N6/ 釉：灰赤2.5YR4/2	4/12	常滑産
137	03201	陶器	甕	T3	—	SD6012	52.0	—	—	内：指オサエ、ロクロナデ 外：ロクロナデ	にぶい橙7.5YR6/3、にぶい赤褐5Y5/3	1/12	常滑産
138	02804	陶器	加工円盤	T3	Rd15	SD6012	長5.0	幅5.0	厚1.3	打欠	内：にぶい赤褐5YR5/3 外：灰褐5YR4/2	完形	甕転用
139	02805	磁器	青磁碗	T3	—	SD6012	16.0	—	—	内：ロクロナデ、陰刻文 外：ロクロナデ、陰刻蓮弁文	胎：灰白N7/ 釉：オリーブ灰2.5GY6/1	1/12	
140	01501	土師器	鍋	T3	R13	SD6213	21.8	—	—	内：ナデ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/4	1/12	外面煤付着
141	01502	陶器	鍋？	T3	R13	SD6213	—	—	13.0	内：ロクロナデ 外：ヘラケズリ、ロクロナデ、糸切痕	胎：淡黄2.5Y8/3 釉：灰白2.5Y7/1	3/12	
142	01601	陶器	加工円盤	T3	Rm5	SD6213	長4.6	幅4.6	厚1.5	打欠	内：緑黒10G2/1 外：褐灰7.5YR4/1	完形	重さ29.37g､天目茶碗転用
143	01905	土師器	小皿	T3	R11	SD6216	8.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	2/12	
144	01906	土師器	鍋	T3	R11	SD6216	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/2 外：灰N4/	小片	外面煤付着
145	10804	土師器	小皿	T3	Rh10	SD6222	7.6	1.8	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	10/12	口縁部煤付着
146	10805	土師器	小皿	T3	Rh10	SD6222	8.0	1.85	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	10/12	
147	10803	土師器	小皿	T3	Rh10	SD6222	8.0	1.7	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	2/12	口縁歪み大きい
148	10802	土師器	茶釜	T3	Rh10	SD6222	14.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：褐灰10YR5/1 外：にぶい橙10YR7/2	2/12	
149	10801	土師器	鍋	T3	Rg10	SD6222	20.0	—	—	内：ハケ？、工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	褐灰10YR4/1	4/12	外面煤付着
150	10901	土師器	鍋	T3	Rh10	SD6222	21.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/3 外：にぶい黄橙10YR7/4	2/12	外面煤付着
151	10902	土師器	鍋	T3	Rh10	SD6222	22.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、指オサエ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/2	3/12	
152	10903	土師器	鍋	T3	Rh10	SD6222	23.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	2/12	外面煤付着
153	10904	土師器	鍋	T3	Rh10	SD6222	23.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	内：浅黄橙7.5YR8/4 外：浅黄橙10YR8/3	3/12	外面煤付着、内面コゲ付着
154	10701	土師器	鍋	T3	Rg10	SD6222	27.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：灰白10YR8/2 外：灰黄褐10YR5/2	2/12	外面煤付着、内面コゲ付着
155	10702	土師器	鍋	T3	Rg10	SD6222	28.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、指オサエ、ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/3 外：にぶい黄橙10YR6/3	2/12	外面煤付着
156	11001	土師器	鍋	T3	Rh10	SD6222	30.4	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	外面煤付着
157	11101	土師器	鍋	T3	Rh10	SD6222	30.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：にぶい黄橙10YR7/2	4/12	外面煤付着、内面コゲ付着
158	10601	土師器	鍋	T3	Rg10	SD6222	32.0	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：橙7.5YR7/6 外：にぶい褐7.5YR5/3	3/12	外面煤付着
159	11002	土師器	鍋	T3	Rh10	SD6222	33.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	外面煤付着
160	11003	土師器	鍋	T3	Rh10	SD6222	32.5	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：灰白2.5Y8/2 外：灰黄褐10YR5/2	2/12	外面煤付着

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
161	10703	土師器	鍋	T3	Rg10	SD6222	34.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、指オサエ、ヨコナデ	内：灰黄褐10YR5/2 外：褐灰10YR4/1	2/12	外面煤付着
162	10602	土師器	鍋	T3	Rg10	SD6222	34.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、指オサエ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	12/12	
163	11204	土師器	杯	T3	Re14	SD6238	12.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	4/12	
164	11202	土師器	杯	T3	Re16	SD6238	13.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	内：橙5YR7/6 外：にぶい橙5YR7/4	2/12	
165	11201	土師器	杯	T3	Re16	SD6238	14.6	3.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、指オサエ、ヨコナデ	橙5YR7/6	1/12	
166	11203	土師器	皿	T3	Re16	SD6238	15.6	2.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	1/12	
167	11205	土師器	皿	T3	Re16	SD6238	15.6	1.6	13.9	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：浅黄橙7.5YR8/4 外：橙5YR7/6	5/12	
168	11206	土師器	鉢	T3	Re15	SD6238	—	—	10.8	内：ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ	浅黄橙7.5YR8/6	3/12	
169	11302	土師器	甕	T3	Re16	SD6238	15.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	
170	11301	土師器	甕	T3	Re16	SD6238	14.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：灰黄褐10YR6/2 外：にぶい橙5YR7/4	1/12	内面コゲ付着
171	11305	土師器	甕	T3	Re16	SD6238	17.3	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	3/12	
172	11304	土師器	甕	T3	Re16	SD6238	17.3	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：にぶい黄橙10YR7/4	2/12	外面煤付着
173	11401	土師器	甕	T3	Re16	SD6238	23.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	橙5YR7/6	4/12	外面煤付着
174	11303	土師器	甕	T3	Re16	SD6238	24.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	
175	11402	土師器	甕	T3	Re15	SD6238	26.8	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
176	11207	土師器	製塩土器	T3	Re16	SD6238	14.2	5.5	15.4	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/8	2/12	
177	11208	灰釉陶器	蓋	T3	Re16	SD6238	15.6	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ？、ロクロナデ	灰白10YR7/1	1/12	
178	12307	土師器	小皿	T3	Re18	SD6241	6.0	1.4	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	2/12	
179	12306	土師器	小皿	T3	Re18	SD6241	9.0	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白5Y7/1	5/12	口縁部煤付着
180	12305	土師器	小皿	T3	Re18	SD6241	8.8	2.25	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白5Y7/1	7/12	口縁部煤付着
181	12302	土師器	鍋	T3	Re18	SD6241	20.0	—	—	内：ケズリ、ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白2.5Y7/2	2/12	
182	12303	土師器	鍋	T3	Re18	SD6241	22.4	—	—	内：ハケ？ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙2.5Y7/3	2/12	
183	12301	土師器	鍋	T3	Re18	SD6241	27.0	—	—	内：ケズリ？、ハケ、工具ナデ？、ヨコナデ 外：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙5YR7/4 外：にぶい赤褐5YR5/3	4/12	外面煤付着
184	45601	土師器	小皿	T3	Re12	Pit2	8.6	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	7/12	
185	45708	土師器	鍋	T3	Re12	Pit2	17.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	1/12	
186	45703	土師器	小皿	T3	Re14	Pit15	8.9	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	3/12	
187	45801	陶器	稜皿	T3	Re14	Pit15	10.8	2.6	4.8	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	褐7.5YR4/3	5/12	瀬戸美濃産、鉄釉
188	45701	土師器	小皿	T3	Re14	Pit22	7.8	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	3/12	
189	45707	土師器	杯	T3	Re14	Pit29	13.6	2.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい褐7.5YR5/3	1/12	内外面煤付着
190	12308	土師器	小皿	T3	Ri11	SK6223	8.0	1.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR6/4	3/12	
191	12004	土師器	小皿	T3	Ri11	SK6223	9.0	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	内：褐灰10YR6/1 外：にぶい黄橙10YR7/2	2/12	
192	12304	土師器	焙烙	T3	Ri11	SK6223	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	黒褐10YR3/1	小片	外面煤付着
193	12105	土師器	焙烙	T3	Ri11	SK6223	34.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	内：褐灰7.5YR5/1 外：褐灰5YR4/1	1/12	口縁歪み大きい
194	12103	瓦質土器	鍋	T3	Ri11	SK6223	21.2	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ミガキ	黒N2/	1/12	外面煤付着
195	12005	陶器	碗	T3	Ri11	SK6223	—	—	3.8	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ	胎：灰白5Y7/1 釉：灰オリーブ5Y6/2	12/12	灰釉
196	12309	陶器	鎧茶碗	T3	Ri11	SK6223	—	—	3.1	内：ロクロナデ？ 外：ロクロナデ、刺突文	胎：灰白2.5Y8/2 釉：浅黄5Y7/3	10/12	瀬戸美濃産
197	12202	陶器	染付広東碗	T3	Ri11	SK6223	11.2	5.5	5.5	内：ロクロナデ？、五弁花文 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白10Y8/1 釉：灰白10Y7/1	2/12	瀬戸美濃産
198	12205	陶器	染付広東碗	T3	Ri11	SK6223	10.0	6.1	5.4	内：ロクロナデ、五弁花文 外：ロクロナデ、松文	胎：灰白5Y8/2 釉：灰白5Y7/1	3/12	瀬戸美濃産
199	12104	陶器	皿	T3	Ri11	SK6223	13.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白7.5Y7/1	1/12	
200	12101	陶器	片口	T3	Ri11	SK6223	17.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白5Y7/1 釉：暗オリーブ5Y4/4	2/12	瀬戸美濃産
201	12002	陶器	火鉢	T3	Ri11	SK6223	21.0	8.8	15.6	内：指オサエ、ロクロナデ 外：ナデ、指オサエ、ロクロナデ	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：にぶい褐7.5YR6/3	4/12	常滑産、内面煤付着

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
202	12003	陶器	加工円盤	T3	Ri11	SK6223	長 4.5	幅 4.4	厚 1.0	打欠	胎：にぶい橙 10YR7/3 釉：黒N1.5/、赤褐 2.5YR4/1	完形	重さ22.39g、天目茶碗転用
203	12203	磁器	染付丸碗	T3	Ri11	SK6223	11.1	5.9	3.8	内：ロクロナデ？、五弁花文 外：ロクロナデ？、丸文	胎：灰白N8/ 釉：オリーブ灰 2.5GY7/1	4/12	肥前産
204	12204	磁器	染付丸碗	T3	Ri11	SK6223	9.6	5.1	3.6	内：ロクロナデ？ 外：ロクロナデ？、岩文、草花文	胎：灰白10Y8/1 釉：灰白10Y7/1	6/12	
205	12102	陶器	染付丸碗	T3	Ri11	SK6223	11.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、宝珠文	灰白5Y7/1	3/12	
206	12201	磁器	染付皿	T3	Ri11	SK6223	20.0	—	—	内：ロクロナデ、草花文 外：ロクロナデ、唐草文	灰白2.5GY8/1	3/12	
207	00802	土師器	小皿	T3	Re10	SK6224	4.9	0.8		内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/8	12/12	
208	00804	陶器	碗	T3	Re10	SK6224	9.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白5Y8/1 釉：灰白5Y8/2	2/12	灰釉
209	00805	陶器	灯明受皿	T3	Re10	SK6224	10.5	2.2	4.6	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白7.5Y7/1 釉：にぶい赤褐 2.5YR4/3	12/12	瀬戸美濃産、錆釉
210	00803	陶器	水滴	T3	Re10	SK6224	長 4.7	2.5	幅 3.7	内：ナデ？ 外：ケズリ、ナデ	胎：灰白2.5Y7/1 釉：灰白5Y7/2、にぶい黄橙10YR6/3	12/12	灰釉
211	13004	土師器	小皿	T3	Re12	SK6229	8.0	1.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	8/12	口縁部煤付着
212	13005	土師器	小皿	T3	Re12	SK6229	9.0	1.15	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	2/12	
213	13003	陶器	丸碗	T3	Re12	SK6229	—	—	4.5	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ？	胎：灰白2.5Y8/2 釉：暗褐7.5YR3/4	9/12	
214	13002	陶器	丸碗	T3	Re12	SK6229	—	—	4.6	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ？	胎：灰白7.5Y7/1 釉：黒N2/	11/12	鉄釉
215	12901	陶器	擂鉢	T3	Re12	SK6229	—	—	20.0	内：ロクロナデ、擂目 外：ロクロケズリ	灰褐7.5YR4/2	1/12	瀬戸美濃産
216	12902	陶器	壺	T3	Re12	SK6229	—	—	12.0	内：指オサエ、ナデ、工具ナデ 外：工具ナデ	内：にぶい褐 7.5YR5/3 外：にぶい褐 7.5YR6/3	2/12	常滑産
217	12801	陶器	甕	T3	Re12	SK6229	70.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	内：褐灰7.5YR6/1 外：灰白Y7/1	1/12	常滑産
218	13001	磁器	染付筒形碗	T3	Re12	SK6229	6.6	—	—	内：ロクロナデ？、四方襷文 外：ロクロナデ？、七宝繋文	灰白5GY8/1	3/12	
219	01402	土師器	小皿	T3	Re18	SK6239	—	—	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	内：浅黄橙7.5YR8/3 外：浅黄橙10YR8/3	小片	
220	01401	土師器	皿	T3	Re18	SK6239	12.0	2.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：灰白2.5Y8/1 外：灰白10YR8/2	2/12	
221	01403	陶器	山茶椀	T3	Re18	SK6239	—	—	6.1	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、墨書	内：黒褐7.5YR3/2 外：褐灰10YR6/1	4/12	
222	01308	陶器	山茶椀	T3	Re17	SK6239	16.5	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1/12	
223	01307	陶器	山茶椀	T3	Re18	SK6239	—	—	6.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	明紫灰5YP7/1	12/12	内外面炭化物付着
224	13101	陶器	水甕	T3	Re17	SK6239	—	—	17.8	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、墨書	胎：灰白2.5Y8/1 釉：浅黄5Y7/3	4/12	内面トチン痕
225	01602	弥生土器	高杯	T3	R15	SD6212	—	—	—	内：シボリ痕 外：ミガキ、櫛描直線文、列点文	浅黄橙10YR8/4	頸部 12/12	透孔３方向
226	01604	土師器	杯	T3	R13	SD6212	13.5	2.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	12/12	
227	01504	土師器	杯	T3	R12	SD6212	15.4	2.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
228	36901	土師器	杯	T3	R112	SD6212	13.0	3.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい橙5YR7/4	6/12	墨書「一□」
229	01505	土師器	甕	T3	R13	SD6212	15.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	
230	02906	土師器	甕	T3	R14	SD6212	13.8	10.2	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ？、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR5/3	3/12	
231	01903	瓦	軒丸瓦	T3	R16	SD6212	—	—	厚 2.0	内：工具ナデ 外：ケズリ、巴文	灰N4/	5/12	
232	01603	土師器	杯	T3	Rm7	SD6214	13.0	3.1	—	内：指オサエ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	橙5YR7/8	11/12	
233	01605	土師器	杯	T3	Rm7	SD6214	13.7	3.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	7/12	
234	01506	土師器	杯	T3	Rm8	SD6214	17.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	1/12	
235	01503	土師器	甕	T3	Rm7	SD6214	16.0	—	—	内：ナデ？、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	9/12	
236	02203	土師器	鍋？	T3	Rm9	SD6217	28.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰黄褐10YR4/2	1/12	外面煤付着、鉢？
237	02204	陶器	壺	T3	Rj9	SD6217	—	—	6.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	淡黄2.5Y8/3	3/12	
238	01904	土師器	小皿	T3	R19	SD6217	5.6	0.9	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：浅黄橙7.5YR8/3 外：にぶい橙 2.5YR6/4	2/12	
239	01902	瓦質土器	鍋	T3	R19	SD6217	23.4	7.3	14.0	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	暗灰N3/	1/12	外面煤付着
240	02101	陶器	丸碗	T3	Rm9	SD6217	8.2	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：　黒7.5YR2/1	3/12	鉄釉
241	02004	陶器	拳骨茶碗	T3	Rm9	SD6217	10.0	6.3	4.6	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2	12/12	瀬戸美濃産、鉄釉、長石釉

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
242	01803	陶器	染付丸碗	T3	R19	SD6217	—	—	4.0	内：ロクロナデ、松竹梅文 外：ロクロナデ、花文、樹木文？	灰白7.5Y8/1	12/12	
243	02102	陶器	摺絵皿	T3	Rm9	SD6217	—	—	7.3	内：ロクロナデ、花文 外：ロクロナデ？	胎：灰白2.5Y8/1 釉：オリーブ灰10Y6/2	3/12	瀬戸美濃産、灰釉
244	02001	陶器	大皿	T3	Rj9	SD6217	39.8	7.7	16.5	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白5Y8/1 釉：浅黄5Y7/4	4/12	瀬戸美濃産、内面トチン痕
245	02303	陶器	蓋	T3	Rm9	SD6217	—	—	—	内：不明 外：ロクロナデ	灰白2.5G8/1	摘まみ	
246	01702	陶器	蓋	T3	Rj9	SD6217	10.2	5.2	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：浅黄2.5Y7/3	4/12	青緑釉
247	01701	陶器	土瓶	T3	R19	SD6217	7.6	12.7	6.8	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：淡黄2.5Y8/3、淡黄2.5Y8/3	7/12	青緑釉
248	01805	陶器	行平鍋蓋	T3	Rm9	SD6217	16.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、笹文	釉：淡黄2.5Y8/3	1/12	
249	02305	陶器	行平鍋	T3	Rm9	SD6217	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	浅黄5Y7/3	把手	
250	02202	陶器	擂鉢	T3	Rm9	SD6217	30.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	灰褐5YR4/2	1/12	
251	02002	陶器	擂鉢	T3	Rm9	SD6217	—	—	14.2	内：ロクロナデ、擂目 外：ロクロケズリ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：にぶい赤褐5YR4/3	9/12	瀬戸美濃産、内面炭化物付着
252	02501	陶器	擂鉢	T3	Rk9	SD6217	37.0	15.4	15.6	内：ロクロナデ、擂目 外：ケズリ、ロクロケズリ、ロクロナデ	にぶい赤褐2.5Y5/3	4/12	瀬戸美濃産、刻印「大」
253	02304	陶器	台付灯明受皿	T3	Rm9	SD6217	7.1	4.3	4.6	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	5/12	
254	01703	陶器	秉燭	T3	R19	SD6217	5.0	3.9	3.8	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ？	灰白2.5Y8/1	9/12	注口端部煤付着
255	02003	陶器	火鉢	T3	Rm9	SD6217	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	内：灰5Y4/1 外：橙5YR7/6	小片	内面炭化物付着
256	02602	陶器	焜炉	T3	Rk9	SD6217	—	—	17.2	内：指オサエ、ナデ 外：工具ナデ	内：灰褐5YR6/2 外：にぶい橙2.5YR6/4	5/12	
257	02603	陶器	徳利	T3	Rk9	SD6217	—	—	11.0	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ、文字	釉：浅黄5Y7/4、灰白7.5Y7/1	11/12	瀬戸美濃産
258	02601	陶器	壺？	T3	Rk9	SD6217	—	—	9.2	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ？	胎：灰白2.5Y8/2 釉：黄褐2.5Y5/3、にぶい黄2.5YR6/4	3/12	
259	01901	陶器	甕	T3	R19	SD6217	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ	淡赤橙2.5YR7/4	小片	常滑産
260	02604	磁器	小杯	T3	Rk9	SD6217	4.4	3.3	3.0	内：ロクロナデ？ 外：ロクロナデ？	灰白10Y8/1	1/12	
261	01801	磁器	染付端反碗	T3	R19	SD6217	10.6	6.0	4.2	内：ロクロナデ、蝶文？ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ、花文	灰白10Y8/1	4/12	瀬戸美濃産
262	02301	磁器	染付丸碗	T3	Rm9	SD6217	10.4	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、格子文、葉文？	明緑灰7.5GY8/1	4/12	肥前産
263	01802	磁器	染付丸碗	T3	R19	SD6217	—	—	4.5	内：ロクロナデ、昆虫文？ 外：ロクロナデ、草花文？	灰白7.5Y8/1	12/12	瀬戸美濃産
264	01804	磁器	染付碗	T3	Rm9	SD6217	—	—	3.4	内：ロクロナデ、五弁花文 外：ロクロケズリ	灰白7.5Y7/1	2/12	
265	02302	磁器	仏餉具	T3	Rm9	SD6217	—	—	3.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白N8/	12/12	上絵付
266	02103	磁器	青磁輪花鉢	T3	Rm9	SD6217	14.4	6.8	5.9	内：陰刻花文 外：ロクロケズリ	胎：灰白N8/	3/12	型打ち成形？、焼き継ぎ
267	02306	瓦	軒桟瓦	T3	Rm9	SD6217	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、巴文	暗灰N3/	瓦当半欠	
268	02401	瓦	鬼瓦	T3	Rm9	SD6217	—	—	—	内：ケズリ、ナデ、指オサエ 外：指オサエ、ナデ、ケズリ、宝珠文	灰N5/	一部欠	
269	00801	土師器	小皿	T3	Rj10	SD6220	6.2	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	4/12	
270	11802	土師器	小皿	T3	Rd13	SD6227	7.0	1.3	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR7/6	3/12	
271	11801	土師器	小皿	T3	Rd13	SD6227	7.0	1.2	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/8	11/12	口縁部煤付着
272	11804	陶器	蓋	T3	Rd13	SD6227	6.1	1.4	3.8	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y7/1 釉：褐7.5YR4/4	12/12	汁次蓋？
273	11806	陶器	蓋	T3	Rd13	SD6227	6.6	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：淡黄2.5Y8/3 釉：浅黄2.5Y7/4	12/12	孔あり、土瓶蓋？
274	11602	陶器	蓋	T3	Rd12	SD6227	13.8	3.4	3.8	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：浅黄2.5Y7/3	2/12	
275	12001	陶器	片口	T3	Rd13	SD6227	19.1	11.0	8.6	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ？	胎：にぶい黄橙10YR7/4 釉：褐10YR4/4	10/12	内面ピン痕
276	11902	陶器	汁次	T3	Rd12	SD6227	8.2	8.6	6.7	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	内：にぶい褐7.5YR5/4 外：暗褐7.5YR3/3	3/12	内面目痕
277	11803	陶器	灯明受皿	T3	Rd13	SD6227	8.1	1.3	3.4	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	内：浅黄2.5Y7/3 外：灰白2.5Y7/1	7/12	
278	11603	陶器	七輪？	T3	Rd13	SD6227	11.4	—	—	内：ヨコナデ 外：工具ナデ、ケズリ	灰黄褐10YR5/2	8/12	涼炉？
279	11601	陶器	徳利	T3	Rd12	SD6227	3.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、文字	内：灰白5Y7/1 外：灰白5Y7/2	12/12	
280	11501	陶器	徳利	T3	Rd12	SD6227	—	—	10.2	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ、文字	灰白7.5Y7/1	12/12	
281	11903	陶器	花生？	T3	Rd13	SD6227	—	—	6.5	内：ナデ 外：ケズリ、糸切痕	胎：灰白5Y8/2 釉：にぶい赤褐5YR4/3	12/12	断面八角形、柿釉、底部穿孔？

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
282	11702	磁器	染付丸碗	T3	Rd12	SD6227	13.0	6.0	4.4	内：ロクロナデ、瓔珞文、松竹梅文 外：ロクロナデ、松文	灰白N8/	8/12	型紙摺
283	11805	陶器	染付丸碗	T3	Rd12	SD6227	10.8	5.2	3.8	内：ロクロナデ、岩波文 外：ロクロケズリ、ロクロナデ、木賊文？	灰白5Y8/1	5/12	
284	11901	磁器	染付丸碗	T3	Rd12	SD6227	10.3	5.3	3.8	内：ロクロナデ？、草文 外：ロクロナデ？、笹文、波文、角変形字	灰白2.5GY8/1	11/12	
285	11808	磁器	染付丸碗	T3	Rd12	SD6227	10.6	5.4	3.7	内：ロクロナデ？、四方襷文、松竹梅文 外：ロクロナデ？、花文	灰白N8/	11/12	
286	11807	磁器	染付皿	T3	Rd12	SD6227	10.7	2.3	5.8	内：ロクロナデ？、花文、雷文 外：ロクロケズリ、ロクロナデ？	灰白10Y8/1	9/12	
287	11701	磁器	染付鉢	T3	Rd12	SD6227	20.6	6.4	10.0	内：ロクロナデ？、楼閣山水文、梅文、鷺文、笹文、柳文、朝顔文、斜格子文、青海波文、松竹梅文、ほか 外：ロクロナデ？、亀甲繋文	灰白N8/	5/12	
288	45804	磁器	染付皿	T3	Rd12	Pit5	12.4	3.3	7.0	内：ロクロナデ？、東屋文、斜格子文、五弁花文 外：ロクロナデ？、唐草文、大明年製	灰白2.5GY8/1	7/12	肥前産
289	45702	土師器	小皿	T3	Rd15	Pit5	6.3	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/4	3/12	
290	02801	土師器	杯	T3	Re21	包含層	14.8	3.7	—	内：ナデ、ヨコナデ、暗文 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/4	9/12	
291	02802	土製品	土錘	T3	—	表土掘削	—	幅2.65	厚2.0	ナデ	灰白10YR8/2	半欠	重さ20.92g
292	02704	陶器	山茶椀	T3	—	表土掘削	—	—	7.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	5/12	内面摩耗
293	02705	陶器	山茶椀	T3	—	表土掘削	—	—	7.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y8/1	5/12	内面摩耗
294	02201	土師器	焙烙	T3	—	表土掘削	33.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ヨコナデ	橙7.5YR7/6	1/12	外面煤付着
295	02703	陶器	染付碗	T3	—	表土掘削	12.2	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白5Y8/2	1/12	
296	02205	陶器	香炉	T3	—	表土掘削	8.2	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	釉：明オリーブ灰5GY7/1	2/12	
297	02701	磁器	染付蓋	T3	—	表土掘削	9.4	2.5	4.1	内：ロクロナデ？、芦文 外：ロクロナデ？、波文、芦文、角変形字	灰白N8/	9/12	
298	02702	磁器	染付筒形碗	T3	—	表土掘削	8.2	5.1	4.2	内：ロクロナデ？、四方襷文 外：ロクロナデ？、七宝繋文	灰白N8/	2/12	肥前産？
299	16501	土師器	鍋	T4	Tn21	SE6081	19.6	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、工具ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	4/12	
300	16301	土師器	鍋	T4	Tn21	SE6081	25.2	—	—	内：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y6/2	12/12	外面煤付着
301	16401	土師器	鍋	T4	Tn22	SE6081	24.8	—	—	内：ケズリ、ハケ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/3	12/12	外面煤付着
302	16201	土師器	鍋	T4	Tn21	SE6081	—	—	体部径30.0	内：指オサエ、ナデ、ケズリ、工具ナデ、ハケ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ケズリ、ヨコナデ	灰黄2.5Y6/2	体部7/12	外面煤付着
303	16402	陶器	山茶椀	T4	Tn22	SE6081	16.0	5.3	6.6	内：ナデ、ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	9/12	内外面煤付着
304	16403	陶器	山茶椀	T4	Tn22	SE6081	—	—	8.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	3/12	
305	17404	土師器	小皿	T4	To16	SE6106	7.2	1.2	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙7.5YR7/3	2/12	外面煤付着
306	17406	土師器	小皿	T4	To16	SE6106	9.6	2.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	4/12	外面煤付着？
307	17405	土師器	皿	T4	To16	SE6106	10.0	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/1	1/12	外面煤付着
308	17403	土師器	皿	T4	To16	SE6106	—	—	—	内：ケズリ、ナデ 外：ケズリ？、ナデ、墨書	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：にぶい橙7.5YR7/4	小片	
309	17701	土師器	茶釜	T4	To16	SE6106	27.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい橙7.5YR7/3 外：灰白2.5Y8/2	1/12	
310	17503	土師器	鍋	T4	To16	SE6106	19.8	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：浅黄10YR8/3 外：にぶい黄橙10YR7/2	1/12	外面煤付着
311	17502	土師器	鍋	T4	To16	SE6106	25.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ？、ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/2 外：灰黄褐10YR6/2	2/12	外面煤付着
312	17504	土師器	鍋	T4	To16	SE6106	24.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい橙7.5YR7/4 外：にぶい橙10YR6/3	2/12	外面煤付着
313	17702	土師器	鍋	T4	To16	SE6106	27.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	内：褐灰7.5Y4/1 外：黒N2/	2/12	外面煤付着
314	17603	土師器	鍋	T4	To16	SE6106	26.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：にぶい橙7.5YR7/3 外：灰褐5YR4/2	2/12	外面煤付着
315	17703	土師器	鍋	T4	To16	SE6106	27.0	—	—	内：工具ナデ、指オサエ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：褐灰10YR4/1 外：黒2.5Y2/1	2/12	外面煤付着
316	17602	土師器	鍋	T4	To16	SE6106	30.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	2/12	外面煤付着
317	17604	土師器	鍋	T4	To16	SE6106	31.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：褐10YR6/2 外：灰褐5YR4/3	1/12	外面煤付着

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
318	17601	土師器	鍋	T4	To16	SE6106	32.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	1/12	外面煤付着
319	17407	陶器	天目茶碗	T4	To16	SE6106	9.8	—	3.0	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白5Y8/1 釉：黒10YR2/1	2/12	瀬戸美濃産
320	17506	陶器	直縁大皿	T4	To16	SE6106	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白5Y7/1 釉：灰オリーブ5Y5/3	小片	灰釉、卸目付大皿？
321	17402	陶器	捏鉢	T4	To16	SE6106	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ？	内：橙2.5YR7/6 外：にぶい橙2.5YR6/3	小片	常滑産
322	17401	陶器	火鉢	T4	To16	SE6106	—	—	—	内：指オサエ、ナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	橙2.5Y6/6	小片	常滑産
323	17505	磁器	青磁碗	T4	To16	SE6106	—	—	5.0	内：ロクロナデ？、陰刻花文 外：ロクロケズリ	胎：灰白5Y8/1 釉：オリーブ灰2.5GY6/1	12/12	
324	17501	磁器	白磁碗	T4	To16	SE6106	—	—	4.0	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ、墨書？	灰白10Y8/1	6/12	
325	07401	土師器	小皿	T4	To14	SE6108	8.7	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	2/12	
326	07405	土師器	羽釜	T4	To14	SE6108	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰白5Y8/1	小片	
327	07404	土師器	鍋	T4	To14	SE6108	29.6	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：灰白2.5Y8/1 外：にぶい黄橙10YR6/3	1/12	外面煤付着
328	16702	土師器	羽釜	T4	To7	SE6116	31.9	—	—	内：指オサエ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/2	2/12	
329	16701	土師器	鍋	T4	To7	SE6116	27.7	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	内：灰白10YR8/2 外：灰白10YR8/2	1/12	
330	16603	土師器	鍋	T4	To7	SE6116 井戸枠内	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：褐灰10YR4/1 外：灰黄褐10YR5/1	小片	外面煤付着
331	05002	土師器	鍋	T4	To7	SE6116	27.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	浅黄橙10YR8/3	1/12	外面煤付着
332	16601	陶器	山茶椀	T4	To7	SE6116 井戸枠内	—	—	5.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	内：灰褐7.5YR5/2、褐灰10YR4/1 外：灰褐7.5YR5/2	12/12	
333	16605	陶器	山茶椀	T4	To7	SE6116 井戸枠内	—	—	—	内：ナデ、ロクロナデ 外：糸切痕、墨書	黄灰2.5Y6/1	小片	墨書「十」？
334	16604	陶器	折縁深鉢	T4	To7	SE6116	31.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：浅黄2.5Y7/3	2/12	
335	16602	陶器	捏鉢	T4	To7	SE6116 井戸枠内	—	—	—	内：ロクロナデ、線刻 外：ロクロナデ	内：紫灰5P5/1 外：灰N6/	小片	
336	05003	陶器	甕	T4	To7	SE6116	29.4	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	にぶい橙7.5YR5/3	1/12	常滑産
337	06803	土師器	小皿	T4	Ro25	SE6132	7.9	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白7.5YR8/2	2/12	
338	06802	土師器	小皿	T4	Ro25	SE6132	8.0	1.2	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	2/12	
339	06804	土師器	小皿	T4	Ro25	SE6132	7.2	0.7	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	橙5YR6/6	2/12	
340	06801	土師器	小皿	T4	Ro25	SE6132	7.7	1.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	橙5YR7/6	2/12	
341	06805	瓦質土器	火鉢	T4	Ro25	SE6132	26.9	—	—	内：ヨコナデ、工具ナデ 外：ヨコナデ、ミガキ	黒褐10YR3/1	1/12	
342	06806	陶器	大皿	T4	Ro25	SE6132	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰黄褐10YR6/2 釉：暗灰黄2.5Y5/2、灰白5Y7/1	小片	
343	06807	磁器	青磁碗	T4	Ro25	SE6132	12.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、陰刻蓮弁文	胎：灰白N8/ 釉：オリーブ灰5GY6/1	1/12	
344	17906	土師器	小皿	T4	Rh24	SE6150 井戸枠内	7.8	1.3	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白5Y8/1	4/12	
345	17006	土師器	小皿	T4	Rh24	SE6150	8.0	1.35	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	3/12	口縁歪み大きい
346	17903	土師器	小皿	T4	Rh24	SE6150 井戸枠内	9.4	2.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	2/12	
347	17904	土師器	皿	T4	Rh24	SE6150 井戸枠内	10.2	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/2	2/12	
348	17003	土師器	皿	T4	Rh24	SE6150 井戸枠内	10.4	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄褐10YR6/2	2/12	
349	17905	土師器	皿	T4	Rh24	SE6150 井戸枠内	10.0	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	淡黄2.5Y8/3	5/12	口縁歪み大きい
350	17005	土師器	皿	T4	Rh24	SE6150 井戸枠内	11.0	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ？	内：灰白2.5Y8/2 外：灰黄2.5Y7/2	2/12	
351	17004	土師器	皿	T4	Rh24	SE6150 井戸枠内	11.4	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
352	17007	土師器	皿	T4	Rh24	SE6150	12.0	2.2	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白5Y7/1	2/12	
353	17901	土師器	鍋	T4	Rh24	SE6150 井戸枠内	25.4	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	外面煤付着
354	17009	土師器	鍋	T4	Rh24	SE6150	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：灰白2.5Y8/2 外：褐灰10YR4/1	小片	外面煤付着
355	17008	磁器	青磁碗	T4	Rh24	SE6150	14.0	—	—	内：ロクロナデ？ 外：ロクロナデ、陰刻蓮弁文	胎：灰白10Y8/1 釉：オリーブ灰10Y5/2	1/12	
356	06904	土師器	皿	T4	Ri23	SE6153	11.7	2.1	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	3/12	
357	06905	土師器	羽釜	T4	Ri23	SE6153	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	小片	鍔上面線刻？

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
358	06903	土師器	鍋	T4	Ri23	SE6153	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰白10YR8/2	小片	外面煤付着
359	06902	土師器	鍋	T4	Ri23	SE6153	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	小片	外面煤付着
360	06901	土師器	鍋	T4	Ri23	SE6153	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	小片	外面煤付着
361	06906	陶器	捏鉢	T4	Ri23	SE6153	—	—	9.5	内：ナデ 外：ナデ、工具ナデ	褐灰7.5Y4/1、灰褐7.5Y4/2	2/12	常滑産
362	06907	土師器	皿	T4	Rn25	SE6160	11.0	2.3	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	灰白2.5Y8/1	1/12	
363	06908	土師器	羽釜	T4	Rn25	SE6160	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	小片	
364	07004	陶器	山茶椀	T4	Rn25	SE6160	—	—	6.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白N7/	6/12	
365	07003	陶器	碗	T4	Rn25	SE6160	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白5Y8/1	小片	鉄釉
366	07002	陶器	鉢？	T4	Rn25	SE6160	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ、指オサエ 外：ナデ、ヨコナデ	内：にぶい赤褐5YR5/3 外：灰褐5YR5/2	小片	常滑産
367	07001	陶器	甕	T4	Rn25	SE6160	—	—	—	内：ロクロナデ、工具ナデ 外：ロクロナデ、工具ナデ、押印文	内：褐灰5YR6/1 外：灰褐5YR5/2	小片	常滑産
368	07005	土師器	小皿	T4	Ri24	SE6161	9.8	2.2	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	1/12	
369	07101	土師器	鍋	T4	Ri24	SE6161	37.2	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	外面煤付着
370	07102	陶器	瓶？	T4	Ri24	SE6161	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、波状文	胎：灰白10YR8/1 釉：オリーブ褐2.5Y4/3	3/12	
371	07107	土師器	小皿	T4	Tn1	SE6164	8.4	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	1/12	
372	07106	土師器	甕	T4	Tn1	SE6164	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰白2.5Y8/1	小片	外面煤付着
373	07105	土師器	甕	T4	Tn1	SE6164 井戸枠内	13.3	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	灰白5Y8/1	1/12	外面煤付着
374	04805	土師器	鍋	T4	Tl23	SK6080	21.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/4	1/12	外面煤付着
375	04501	土師器	甕	T4	Tk23	SK6080	23.0	—	—	内：ヨコナデ、ハケ、ケズリ 外：ヨコナデ、ハケ	浅黄橙10YR8/5	2/12	
376	04803	陶器	山茶椀	T4	Tl23	SK6080	16.5	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白10YR7/1	1/12	
377	04804	陶器	山茶椀	T4	Tl23	SK6080	—	—	6.3	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	5/12	
378	04802	陶器	山茶椀	T4	Tl23	SK6080	—	—	6.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	3/12	内面摩耗
379	04506	陶器	捏鉢	T4	Tk23	SK6080	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	内：淡赤橙2.5YR7/4 外：にぶい橙2.5Y6/4	小片	常滑産
380	38704	土師器	小皿	T4	To16	SK6102	5.6	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/4	2/12	
381	38801	土師器	皿	T4	To18	SK6102	10.4	1.9	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	9/12	
382	38805	土師器	茶釜	T4	To17	SK6102	12.9	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	褐灰7.5YR5/1	2/12	
383	38803	土師器	鍋	T4	To18	SK6102	20.5	—	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	
384	38702	土師器	鍋	T4	To16	SK6102	19.4	—	—	内：ナデ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	外面煤付着
385	38802	土師器	鍋	T4	To17	SK6102	20.0	—	—	内：工具ナデ、ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	3/12	外面煤付着
386	38701	土師器	鍋	T4	To17	SK6102	23.5	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
387	38703	土師器	鍋	T4	To16	SK6102	24.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	
388	04607	土師器	鍋	T4	To17	SK6102	25.4	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ナデ、ハケ	内：にぶい橙7.5YR7/4 外：黒N1.5/	3/12	外面煤付着
389	38706	土製品	土錘	T4	To18	SK6102	長3.7	幅0.8	厚0.8	ナデ？	橙2.5YR6/8	完形	
390	38806	陶器	甕	T4	Tp16	SK6102	—	—	—	内：工具ナデ、ロクロナデ 外：工具ナデ、ロクロナデ	褐灰7.5YR6/1	小片	
391	04701	陶器	甕	T4	To17	SK6102	56.4	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ケズリ	内：にぶい赤褐5YR5/4 外：褐灰10YR6/1	1/12	常滑産
392	38705	陶器	加工円盤	T4	To17	SK6102	長4.8	幅4.1	厚1.4	打欠	表：にぶい黄2.5Y6/3 裏：褐灰7.5YR4/1	完形	
393	38804	磁器	青磁折縁皿	T4	To17	SK6102	17.6	—	—	内：ロクロナデ？ 外：ロクロナデ？	釉：明オリーブ灰2.5GY7/1、オリーブ灰2.5GY6/1	1/12	
394	15907	土師器	小皿	T4	To12	SK6104 南西	6.2	1.0	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	浅黄橙10YR8/3	6/12	口縁歪み大きい
395	16003	土師器	小皿	T4	To12	SK6104 南西	6.8	1.0	—	内：ナデ 外：指オサエ	浅黄橙10YR8/3	4/12	口縁歪み大きい
396	04806	土師器	小皿	T4	Tn12	SK6104	6.4	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	2/12	
397	15505	土師器	小皿	T4	To12	SK6104 北西	6.5	1.2	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ	浅黄橙10YR8/3	6/12	
398	15404	土師器	小皿	T4	Tp12	SK6104	6.6	1.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	5/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
399	15504	土師器	小皿	T4	To12	SK6104 北西	7.0	1.5	—	内：ナデ 外：指オサエ	浅黄橙10YR8/3	9/12	
400	15904	土師器	小皿	T4	To12	SK6104 南西	7.0	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	4/12	
401	16004	土師器	小皿	T4	To12	SK6104	7.2	1.5	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	浅黄橙10YR8/3	12/12	口縁歪み大きい
402	16005	土師器	小皿	T4	To12	SK6104	7.4	1.5	—	内：ナデ 外：指オサエ	灰白10YR8/2	5/12	
403	16002	土師器	小皿	T4	To12	SK6104 南西	7.6	0.9	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ	にぶい黄橙10YR7/3	4/12	
404	15804	土師器	小皿	T4	To12	SK6104	7.8	1.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙5YR7/4 外：浅黄橙7.5YR8/3	11/12	
405	15905	土師器	小皿	T4	To12	SK6104 南西	8.4	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	9/12	
406	15403	土師器	小皿	T4	Tp12	SK6104	8.4	1.4	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	2/12	
407	15506	土師器	小皿	T4	To12	SK6104 北西	9.2	1.4	—	内：ナデ 外：指オサエ	にぶい黄橙10YR7/2	4/12	
408	15902	土師器	小皿	T4	To12	SK6104	8.6	1.35	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	4/12	
409	15507	土師器	小皿	T4	To12	SK6104 北西	8.9	1.2	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	3/12	
410	15903	土師器	小皿	T4	Tp12	SK6104	8.6	2.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	7/12	
411	16103	土師器	小皿	T4	To12	SK6104	9.4	1.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2、褐灰10YR5/1	3/12	
412	15501	土師器	小皿	T4	To12	SK6104 南東	9.4	1.9	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	3/12	
413	15803	土師器	皿	T4	Tp12	SK6104	10.6	1.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：灰白5Y7/1 外：灰白10YR8/2	6/12	口縁部煤付着
414	15906	土師器	皿	T4	To12	SK6104 南西	11.2	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	3/12	口縁歪み大きい
415	16104	土師器	皿	T4	To12	SK6104	11.4	2.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	3/12	
416	15502	土師器	蓋	T4	To12	SK6104 南東	10.4	1.6	7.0	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	3/12	
417	15302	土師器	羽釜	T4	To12	SK6104 北西	38.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：褐灰10YR5/1 外：にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
418	16001	土師器	羽釜	T4	To12	SK6104 南西	40.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ハケ、指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/3	2/12	
419	15503	土師器	鍋	T4	To12	SK6104 南東	20.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	外面煤付着
420	15508	土師器	鍋	T4	To12	SK6104 北西	20.4	—	—	内：ナデ、ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	外面煤付着
421	15602	土師器	鍋	T4	To12	SK6104 北西	21.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ？、ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3/12	外面煤付着
422	15201	土師器	鍋	T4	To12	SK6104	22.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	5/12	外面煤付着
423	04704	土師器	鍋	T4	Tn12	SK6104	26.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：黒10YR2/1	1/12	外面煤付着
424	16102	土師器	鍋	T4	To12	SK6104	33.2	—	—	内：工具ナデ？、ヨコナデ 外：ハケ、指オサエ、ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/3 外：浅黄橙7.5YR8/3	2/12	外面煤付着
425	15901	土師器	鍋	T4	To13	SK6104	38.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/3	2/12	外面煤付着
426	15301	土師器	鍋	T4	To12	SK6104 北西	28.8	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰黄褐10YR6/2	1/12	外面煤付着、内面コゲ付着
427	16101	土師器	鍋	T4	To12	SK6104	29.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/3	3/12	外面煤付着
428	15702	土師器	鍋	T4	To12	SK6104 北西	30.6	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	にぶい褐7.5YR6/3		外面煤付着
429	16006	土師器	鍋	T4	To12	SK6104	19.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、工具ナデ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	口縁歪み大きい
430	15802	土師器	鍋	T4	Tn・o12	SK6104	20.0	—	—	内：工具ナデ？、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/2 外：にぶい黄橙10YR7/3	2/12	外面煤付着
431	15701	土師器	鍋	T4	To12	SK6104 北西	26.0	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、指オサエ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR5/3	1/12	外面煤付着
432	15801	土師器	鍋	T4	To13	SK6104	28.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：黒2.5Y2/1	4/12	
433	15601	土師器	鍋	T4	To12	SK6104 北西	23.8	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	2/12	外面煤付着
434	04801	陶器	卸皿	T4	To12	SK6104	11.6	1.9	5.4	内：ロクロナデ、卸目 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	胎：灰黄褐10YR6/2 釉：褐7.5YR4/4	9/12	鉄釉
435	15805	陶器	水滴？	T4	To12	SK6104	—	—	3.4	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ	胎：灰白2.5Y7/1 釉：褐7.5YR4/3	12/12	
436	04702	土師器	鍋	T4	Tn15	SK6105	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	小片	外面煤付着
437	04604	土師器	皿	T4	Tp15	SK6107	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ	内：にぶい橙7.5YR7/4 外：にぶい黄橙10YR7/4	1/12	
438	04606	土師器	鍋	T4	To9	SK6112	27.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ハケ、指オサエ	浅黄橙7.5YR8/4	1/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
439	04603	土師器	小皿	T4	To9	SK6113	6.3	—	1.3	内：ナデ 外：ナデ	にぶい橙7.5YR7/3	2/12	
440	04601	土師器	鍋	T4	To9	SK6113	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：灰黄褐10YR6/2 外：灰黄褐10YR4/2	小片	
441	05001	土師器	皿	T4	Tn10	SK6114	12.8	2.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、指オサエ	浅黄橙10YR8/3	1/12	
442	04902	土師器	小皿	T4	To13	SK6117	5.7	1.4	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	浅黄橙7.5YR8/4	6/12	
443	15401	土師器	小皿	T4	Tp13	SK6117	6.4	1.5	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	11/12	
444	15406	土師器	小皿	T4	To12	SK6117 北東	9.6	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	4/12	
445	15402	土師器	小皿	T4	Tp13	SK6117	8.0	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	3/12	
446	15407	土師器	小皿	T4	Tp13	SK6117	8.2	1.5	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	9/12	
447	15405	土師器	台付椀	T4	To12	SK6117 北東	—	—	5.2	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	12/12	
448	05504	土師器	羽釜	T4	To12	SK6117	—	—	—	内：ヨコナデ、工具ナデ 外：ヨコナデ	にぶい橙5YR6/4	小片	
449	15203	土製品	取瓶？	T4	Tp13	SK6117 南東	14.0	4.6	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	7/12	底部内面付着物
450	15303	陶器	捏鉢	T4	Tp13	SK6117 南東	37.0	—	—	内：工具ナデ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、工具ナデ、ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/4 外：にぶい橙5YR7/4	1/12	常滑産
451	15001	陶器	壺	T4	Tn12	SK6117	10.5	24.9	15.0	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、工具ナデ、ヨコナデ	にぶい赤褐5YR5/3	12/12	常滑産
452	15202	陶器	甕	T4	Tp13	SK6117 南東	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	内：にぶい橙 2.5YR6/4 外：灰褐5YR5/2	小片	常滑産、口縁部煤付着
453	04901	陶器	甕	T4	To12・13	SK6117	—	—	—	内：ナデ、ロクロナデ、指オサエ 外：ロクロナデ	灰褐5YR6/2,5/2	小片	常滑産、内面炭化物付着
454	15101	陶器	甕	T4	Tn13	SK6117	76.0	—	—	内：工具ナデ、指オサエ、ヨコナデ 外：工具ナデ、指オサエ、ロクロナデ、ヨコナデ	内：にぶい赤褐 5YR5/3 外：灰褐7.5YR4/2	3/12	常滑産
455	04905	陶器	加工円盤	T4	To12・13	SK6117	—	—	—	打欠	胎：灰N4/ 釉：赤灰2.5YR4/1	完形	重さ6.6g、常滑産甕転用
456	04904	磁器	青磁碗	T4	To12・13	SK6117	10.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、陰刻蓮弁文	胎：灰白N8/ 釉：オリーブ灰 5GY6/1、灰白 2.5Y8/1	2/12	
457	04903	磁器	白磁碗	T4	To13	SK6117	12.3	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、雷文？	胎：灰白N8/ 釉：明オリーブ灰 2.5GY7/1	2/12	
458	07402	土師器	甕	T4	To5・6	SK6118	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	小片	
459	09003	土師器	小皿	T4	Tn・o5・6	SK6120	7.2	1.7	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	8/12	
460	05405	土師器	小皿	T4	To5	SK6120	8.0	1.2	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	2/12	
461	09104	土師器	鍋	T4	Tn・o5・6	SK6120	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	小片	外面煤付着
462	05401	陶器	山茶椀	T4	To5	SK6120	15.2	5.3	7.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y8/1	9/12	内外面炭化物付着
463	05502	土師器	鍋	T4	Tn5	SK6121	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	小片	
464	09102	土師器	鍋	T4	Tn5	SK6121	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	暗灰N3/	小片	外面煤付着
465	09008	陶器	山茶椀	T4	Tn5	SK6121	—	—	6.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰5Y6/1	6/12	
466	08801	陶器	山茶椀	T4	Tn5	SK6121	14.5	5.0	7.0	内：ナデ、ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	3/12	
467	05407	土製品	土錘	T4	To3	SK6123	長 4.4	幅 1.1	—	ナデ	灰白2.5Y7/1	完形	重さ5.39g
468	06703	土師器	小皿	T4	To16	SK6129	9.6	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	浅黄橙7.5YR8/3	1/12	
469	06701	土師器	茶釜	T4	To16	SK6129	12.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：灰白10YR8/2 外：淡橙5YR8/4	1/12	
470	06702	土師器	鍋	T4	To16	SK6129	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰褐7.5YR5/2	小片	外面煤付着
471	16901	土師器	鍋	T4	To16	SK6129	34.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、指オサエ、ヨコナデ	内：浅黄橙7.5YR8/3 外： 灰褐7.5YR6/2	1/12	
472	16803	陶器	山茶椀	T4	To16	SK6129	—	—	5.8	内：ロクロナデ 外：ナデ、ロクロナデ	灰白5Y8/1	5/12	内面摩耗、内面炭化物付着
473	16802	陶器	天目茶碗	T4	To16	SK6129	12.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：灰褐7.5YR4/2、 黒2.5Y2/1	1/12	瀬戸美濃産、鉄釉
474	16801	陶器	甕	T4	To16	SK6129	54.0	—	—	内：指オサエ、工具ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ？、ヨコナデ	内：にぶい赤褐 5YR5/4 外：灰褐7.5YR6/2	1/12	常滑産
475	16903	陶器	加工円盤	T4	To16	SK6129	長 6.85	幅 6.6	厚 1.7	打欠	内：褐灰5YR4/1 外：橙5YR7/6	完形	重さ83.96g、常滑産甕転用
476	06704	土師器	小皿	T4	To10	SK6130	7.4	1.1	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	2/12	
477	06707	土師器	鍋	T4	To10	SK6130	15.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	1/12	
478	06709	陶器	山茶椀	T4	To10	SK6130	—	—	7.7	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白N7/	4/12	外面煤付着、内面摩耗

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
479	06708	陶器	鉢	T4	To10	SK6130	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰5Y6/1	小片	
480	06705	陶器	鉢	T4	To10	SK6130	19.6	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	にぶい赤褐5YR4/3	1/12	常滑産
481	06706	陶器	甕	T4	To10	SK6130	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	にぶい赤褐5YR5/4、褐灰5YR5/1	小片	常滑産
482	05503	土師器	鍋	T4	Ro22	SK6136	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：にぶい橙7.5YR7/3 外：黒7.5YR2/1	小片	外面煤付着
483	05406	土師器	小皿	T4	Rl23	SK6139	9.6	1.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	内：灰黄褐10YR4/2 外：にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
484	05501	土師器	鍋	T4	Rl23	SK6139	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	小片	外面煤付着
485	05304	土師器	鍋	T4	Tn1	SK6141	34.0	—	—	内：ヨコナデ、工具ナデ 外：ヨコナデ、ハケ	内：にぶい黄橙10YR7/4 外：にぶい黄橙10YR6/4	3/12	外面煤付着
486	05607	土師器	皿	T4	Rj23	SK6142	11.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白2.5Y8/1	1/12	
487	05606	土師器	皿	T4	Rj23	SK6142	12.0	2.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	2/12	口縁部煤付着
488	05602	土師器	羽釜	T4	Rj23	SK6142	—	—	—	内：ヨコナデ、工具ナデ 外：ヨコナデ、工具ナデ	淡黄2.5Y8/3	小片	
489	05604	土師器	鍋	T4	Rj23	SK6142	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：灰白2.5Y8/1 外：黒10YR2/1	小片	内外面煤付着
490	05605	土師器	鍋	T4	Rj23	SK6142	21.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：灰白2.5Y8/2 外：黒褐7.5YR3/1	1/12	外面煤付着
491	05601	土師器	鍋	T4	Rj23	SK6142	21.0	—	—	内：ヨコナデ、工具ナデ 外：ヨコナデ、ハケ	灰白2.5Y8/1	2/12	外面煤付着
492	05603	陶器	山茶椀	T4	Rj23	SK6142	14.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	3/12	
493	05707	陶器	加工円盤	T4	Rj23	SK6142	長8.5	幅8.4	厚1.6	打欠、研磨	灰白5Y7/1	完形	重さ95.14g、山茶椀転用、外面煤付着
494	05702	土師器	小皿	T4	Ri24	SK6143	6.8	0.9	—	内：ナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	2/12	
495	05701	土師器	茶釜	T4	Rh23	SK6145	28.0	—	—	内：ヨコナデ、ハケ 外：ヨコナデ、ハケ	にぶい橙5YR7/4	1/12	
496	05703	土師器	鍋	T4	Rh23	SK6145	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	小片	
497	05704	陶器	加工円盤	T4	Ri24	SK6147	長4.0	幅4.2	厚1.0	打欠	胎：灰白5Y8/1 釉：黒N2/、黒褐10YR3/1	完形	重さ25.35g、天目茶碗転用
498	05706	磁器	白磁皿	T4	Ri24	SK6147	12.0	2.5	—	内：ロクロナデ、圏線、陰刻草花文 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	灰白2.5GY8/1	1/12	
499	05806	土師器	小皿	T4	Re･f22	SK6149	7.6	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	4/12	
500	05801	土師器	鍋	T4	Re･f22	SK6149	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：灰黄褐10YR5/2	小片	外面煤付着
501	05804	陶器	甕	T4	Re･f22	SK6149	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰N6/ 釉：黒褐10YR3/2	小片	常滑産
502	05808	土師器	皿	T4	Rf24	SK6151	11.0	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、ハケ	灰白7.5YR8/2	2/12	
503	05803	土師器	鍋	T4	Rf24	SK6151	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	小片	
504	05802	土師器	鍋	T4	Rf24	SK6151	—	—	—	内：ヨコナデ、ハケ 外：ヨコナデ、ハケ	内：にぶい橙7.5YR7/4 外：にぶい黄橙10YR7/3	小片	
505	05805	磁器	染付皿	T4	Rf24	SK6151	9.6	2.5	4.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白7.5Y8/1 釉：灰白2.5GY8/1	1/12	貿易陶磁
506	05807	土師器	皿	T4	Ro24	SK6155	12.0	—	—	内：ナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
507	05901	土師器	小皿	T4	Ro25	SK6156	7.2	0.8	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	にぶい黄橙10YR7/3	4/12	
508	05902	土師器	小皿	T4	Ro25	SK6156	8.0	1.6	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	浅黄橙7.5YR8/3	3/12	
509	05903	土師器	小皿	T4	Rn23	SK6157	8.0	0.7	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	浅黄橙7.5YR8/3	3/12	
510	05904	土師器	小皿	T4	Rn23	SK6157	8.0	0.8	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
511	05908	土師器	鍋	T4	Rn25	SK6159	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4、灰褐7.5YR4/2	小片	外面煤付着
512	05905	陶器	山茶椀	T4	Rn25	SK6159	14.2	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	3/12	外面墨書？
513	05906	陶器	播鉢	T4	Rn25	SK6159	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：灰褐5YR4/2	小片	瀬戸美濃産、鉄釉
514	07206	土師器	小皿	T4	To21	SK6166	7.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	2/12	
515	07305	土師器	皿	T4	Tn22	SK6166	10.0	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白2.5Y8/1	2/12	
516	07210	土師器	皿	T4	To21	SK6166	11.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	
517	07201	陶器	山茶椀	T4	To21	SK6166	—	—	7.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	4/12	
518	07204	陶器	山茶椀	T4	To21	SK6166	15.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白5Y8/1	1/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
519	07203	陶器	山茶椀	T4	To21	SK6166	15.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白5Y7/1	2/12	
520	07202	陶器	山茶椀	T4	To21	SK6166	16.0	5.3	7.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	1/12	
521	05909	陶器	灯明皿	T4	Tq23	SK6169	9.9	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白10YR8/2 釉：黒褐5YR2/2	1/12	鉄釉
522	06403	土師器	羽釜	T4	Vr3	SK6177	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰白10YR8/1	小片	内面コゲ付着
523	06606	土師器	鍋	T4	Vr3	SK6183	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙10YR7/2	小片	
524	07209	土師器	皿	T4	Tn22	SK6189	11.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	1/12	
525	07304	土師器	杯	T4	Tn22	SK6189	15.6	—	—	内：ヨコナデ、ミガキ、暗文 外：ヨコナデ	黄橙7.5YR7/8	1/12	
526	04703	土師器	甕	T4	Tn21	SK6189	23.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	内面コゲ付着
527	04602	陶器	山茶椀	T4	Tn21	SK6189	—	—	8.1	内：ナデ、ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	内：褐灰10YR5/1 外：灰白10YR7/1	3/12	内面炭化物付着
528	07208	土師器	小皿	T4	Tq21	SK6191	7.9	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	3/12	
529	07207	土師器	小皿	T4	Tq21	SK6191	7.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	2/12	
530	17304	土師器	小皿	T4	Tt21	SK6191	8.4	1.5	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい黄橙10YR7/2、 にぶい橙7.5YR7/3	3/12	
531	17305	土師器	台付椀	T4	Tt21	SK6191	—	—	4.9	内：ナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	12/12	
532	17301	土師器	茶釜	T4	Tt21	SK6191	12.4	—	—	内：工具ナデ、指オサエ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4、 灰褐7.5YR4/2	4/12	外面煤付着
533	17303	土師器	鍋	T4	Tt21	SK6191	19.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、指オサエ、ヨコナデ	にぶい褐7.5YR6/3	3/12	内面コゲ付着
534	07301	土師器	鍋	T4	Tq21	SK6191	28.6	—	—	内：ヨコナデ、工具ナデ 外：ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	外面煤付着
535	17302	土師器	鍋	T4	Tt21	SK6191	29.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰黄褐10YR6/2	1/12	
536	17205	陶器	丸皿	T4	Tt21	SK6191	10.8	2.4	5.3	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/1 釉：褐7.5YR4/3、 暗赤褐5YR3/4	5/12	瀬戸美濃産、底部内面ピン痕
537	17306	陶器	壺	T4	Tt21	SK6191	12.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	灰褐7.5YR4/2、灰白N7/	2/12	常滑産
538	29806	土師器	小皿	T4	排土	SD6012	5.6	1.4	—	内：ナデ 外：指オサエ	浅黄橙10YR8/3	2/12	
539	26104	土師器	小皿	T4	Vl1～3・ Vm1～4	SD6012	6.8	1.5	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	3/12	
540	26408	土師器	小皿	T4	Vl1～3・ Vm1～4	SD6012	8.6	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	3/12	内外面煤付着
541	28507	土師器	小皿	T4	Tk24	SD6012	8.8	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	
542	29805	土師器	小皿	T4	排土	SD6012	9.0	1.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	2/12	
543	25007	土師器	小皿	T4	Vl1	SD6012	4.6	2.2	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	5/12	
544	29206	土師器	小皿	T4	Tk23～ 25	SD6012	9.0	1.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	6/12	
545	26906	土師器	小皿	T4	Vm3	SD6012	9.3	2.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	2/12	
546	26402	土師器	小皿	T4	Vl1～3・ Vm1～4	SD6012	9.2	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	4/12	
547	28503	土師器	小皿	T4	Tk24	SD6012	9.4	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
548	26504	土師器	小皿	T4	Vl1～3・ Vm1～4	SD6012	8.4	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	浅黄2.5Y7/3、黄灰2.5Y5/1	3/12	
549	28105	土師器	小皿	T4	Tk24	SD6012	9.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白7.5YR8/2	1/12	
550	26403	土師器	小皿	T4	Vl1～3・ Vm1～4	SD6012	9.0	2.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白N8/	1/12	
551	25203	土師器	小皿	T4	Vl1	SD6012	9.3	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：オサエ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	3/12	
552	27505	土師器	小皿	T4	Vl2	SD6012	9.4	2.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	4/12	
553	28901	土師器	小皿	T4	Tk24	SD6012	9.3	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：黒2.5Y2/1 外：にぶい黄橙10YR6/3	4/12	
554	25101	土師器	小皿	T4	Vl1	SD6012	9.4	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/2	5/12	
555	27801	土師器	小皿	T4	Vl2	SD6012	9.4	1.8	—	内：ナデ、ヨコナデ？ 外：ナデ？、ヨコナデ？	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	
556	25201	土師器	小皿	T4	Vl1	SD6012	9.4	1.9	—	内：工具ナデ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	3/12	
557	26009	土師器	小皿	T4	Vl1～3・ Vm1～4	SD6012	9.4	1.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/2	10/12	
558	25205	土師器	小皿	T4	Vl1	SD6012	9.6	1.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	
559	29405	土師器	小皿	T4	Tk25	SD6012	9.3	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰白10YR8/1	3/12	
560	27705	土師器	小皿	T4	Vl2	SD6012	9.4	1.6	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
561	26808	土師器	小皿	T4	Vm3	SD6012	9.6	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	4/12	
562	26502	土師器	小皿	T4	Vl1～3・Vm1～4	SD6012	9.6	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	3/12	
563	24806	土師器	小皿	T4	V11	SD6012	9.7	2.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	10/12	
564	26001	土師器	小皿	T4	Vl1～3・Vm1～4	SD6012	9.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/4	3/12	
565	29205	土師器	小皿	T4	Tk25	SD6012	9.6	1.7	—	内：工具ナデ？、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/2	2/12	
566	24808	土師器	皿	T4	V11	SD6012	10.0	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	8/12	
567	27207	土師器	皿	T4	V12	SD6012	10.0	2.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白5Y8/1	11/12	
568	26510	土師器	皿	T4	Vl1～3・Vm1～4	SD6012	10.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
569	27205	土師器	皿	T4	V12	SD6012	10.0	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	4/12	
570	25406	土師器	皿	T4	V11	SD6012	10.0	1.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
571	25501	土師器	皿	T4	V11	SD6012	10.0	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：褐灰7.5YR4/1 外：灰黄2.5Y7/2	2/12	
572	28606	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	10.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白7.5Y8/2	1/12	
573	28101	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	10.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
574	25401	土師器	皿	T4	V11	SD6012	10.0	2.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	黄灰2.5Y5/1	3/12	
575	25503	土師器	皿	T4	V11	SD6012	10.0	2.0	—	内：ナデ？、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	
576	26509	土師器	皿	T4	Vl1～3・Vm1～4	SD6012	10.0	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	2/12	
577	25505	土師器	皿	T4	V11	SD6012	10.0	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：淡黄2.5Y8/3	2/12	
578	25001	土師器	皿	T4	V11	SD6012	10.2	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	7/12	
579	25006	土師器	皿	T4	V11	SD6012	10.6	2.2	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	5/12	
580	25103	土師器	皿	T4	V11	SD6012	10.4		—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/2	5/12	
581	26703	土師器	皿	T4	Vm3	SD6012	10.2	2.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/2	5/12	
582	25106	土師器	皿	T4	V11	SD6012	10.5	1.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	3/12	
583	27803	土師器	皿	T4	V12	SD6012	10.4	1.2	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄褐10YR6/2	2/12	
584	26010	土師器	皿	T4	Vl1～3・Vm1～4	SD6012	10.2	1.8	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	12/12	
585	25104	土師器	皿	T4	V11	SD6012	10.4	2.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	5/12	
586	29403	土師器	皿	T4	Tk25	SD6012	10.6	2.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/4	6/12	口縁部煤付着
587	25202	土師器	皿	T4	V11	SD6012	10.6	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	4/12	
588	27206	土師器	皿	T4	V12	SD6012	10.4	2.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/4	3/12	
589	25102	土師器	皿	T4	V11	SD6012	10.6	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	4/12	
590	29103	土師器	皿	T4	Tk25	SD6012	10.6	2.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	12/12	
591	25002	土師器	皿	T4	V11	SD6012	10.8	2.2	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ、指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/4	2/12	口縁部煤付着
592	28103	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	11.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰白10YR8/2、浅黄橙7.5YR8/4	4/12	
593	26905	土師器	皿	T4	Vm3	SD6012	10.8	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	2/12	
594	29502	土師器	皿	T4	Tk25	SD6012	11.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/1	3/12	
595	26008	土師器	皿	T4	Vl1～3・Vm1～4	SD6012	10.8	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/2	4/12	
596	25407	土師器	皿	T4	V11	SD6012	11.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
597	25008	土師器	皿	T4	V11	SD6012	10.7	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白2.5Y7/2	3/12	
598	29804	土師器	皿	T4	排土	SD6012	10.8	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	3/12	
599	25107	土師器	皿	T4	V11	SD6012	11.0	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	3/12	
600	26503	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	11.0	2.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	3/12	
601	27707	土師器	皿	T4	V12	SD6012	10.8	2.2	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	
602	25204	土師器	皿	T4	V11	SD6012	11.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	2/12	
603	24807	土師器	皿	T4	V11	SD6012	10.2	2.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	7/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
604	26508	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	11.0	2.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	2/12	
605	28102	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	11.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	4/12	
606	25603	土師器	皿	T4	V12	SD6012	11.4	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	2/12	
607	28504	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	11.2	1.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
608	25108	土師器	皿	T4	V11	SD6012	11.6	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	3/12	
609	27010	土師器	皿	T4	Vm4	SD6012	11.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	1/12	
610	24805	土師器	皿	T4	V11	SD6012	11.6	2.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	10/12	口縁部煤付着
611	26405	土師器	皿	T4	V11～3・Vm1～4	SD6012	11.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/2	1/12	
612	28201	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	11.8	1.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
613	28106	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	10.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	
614	26807	土師器	小皿	T4	Vm3	SD6012	9.8	2.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	6/12	内面煤付着
615	28104	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	10.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	
616	25703	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	10.8	3.05	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	黒10YR1.7/1	4/12	
617	26202	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	11.0	2.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	7/12	
618	37803	土師器	皿	T4	—	SD6012	10.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
619	26002	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	11.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	4/12	
620	26507	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	11.6	2.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	3/12	
621	26505	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	11.8	2.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰白7.5YR8/2	3/12	
622	28605	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	12.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/3 外：にぶい橙5YR7/4	3/12	
623	26804	土師器	皿	T4	Vm3	SD6012	11.8	2.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/1	10/12	口縁部煤付着
624	26003	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	11.6	2.8	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	2/12	
625	26004	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	11.7	3.0	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	3/12	
626	26901	土師器	皿	T4	Vm3	SD6012	11.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
627	25803	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	12.0	3.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	4/12	
628	26904	土師器	皿	T4	Vm3	SD6012	12.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
629	26205	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	12.0	3.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	11/12	
630	26103	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	11.8	2.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	6/12	
631	25606	土師器	皿	T4	V12	SD6012	12.3	3.05	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	4/12	
632	26005	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	12.0	3.1	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/3 外：にぶい黄橙10YR7/2	3/12	
633	25604	土師器	皿	T4	V12	SD6012	12.2	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/1	1/12	
634	26506	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	11.4	2.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	
635	26301	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	12.4	2.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	10/12	
636	26101	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	12.4	2.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	4/12	
637	26007	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	12.0	2.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	2/12	
638	26302	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	12.3	3.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	10/12	
639	26203	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	12.4	2.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	4/12	
640	26204	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	12.8	2.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	5/12	
641	25607	土師器	皿	T4	V12	SD6012	12.6	2.85	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：灰白10YR8/2 外：灰白10YR7/1	10/12	
642	26406	土師器	皿	T4	V11～3・Vm1～4	SD6012	12.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	2/12	
643	26102	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	12.8	2.9	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/2	12/12	
644	26902	土師器	皿	T4	Vm3	SD6012	13.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰白7.5YR8/1	1/12	
645	26603	土師器	皿	T4	Vm3	SD6012	13.0	3.0	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/4 外：灰白10YR8/2	1/12	
646	25003	土師器	皿	T4	V11	SD6012	13.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄褐10YR6/2	5/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
647	26303	土師器	杯	T4	V11・2	SD6012	12.8	2.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	8/12	
648	29402	土師器	皿	T4	Tk25	SD6012	13.0	3.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	6/12	
649	26806	土師器	杯	T4	Vm3	SD6012	13.0	2.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰白7.5YR8/2	4/12	
650	28305	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	13.2	3.6	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	内：橙7.5YR6/6 外：にぶい黄橙10YR7/2	8/12	口縁部煤付着
651	29408	土師器	皿	T4	Tk25	SD6012	13.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/2 外：にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
652	28005	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	14.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	1/12	
653	29406	土師器	皿	T4	Tk25	SD6012	13.8	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄褐10YR4/2	4/12	
654	27007	土師器	杯	T4	Vm3	SD6012	13.8	2.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
655	28004	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	14.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	3/12	
656	25502	土師器	皿	T4	V11	SD6012	15.0	—	—	内：ナデ？、ヨコナデ 外：ナデ？、ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/3 外：にぶい黄橙10YR7/3	1/12	口縁部煤付着
657	25306	土師器	杯	T4	V11	SD6012	—	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	小片	口縁部煤付着
658	25307	土師器	杯	T4	V11	SD6012	—	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	小片	
659	25308	土師器	杯	T4	V11	SD6012	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	小片	口縁部煤付着
660	25402	土師器	杯	T4	V11	SD6012	—	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	小片	
661	25304	土師器	杯	T4	V11	SD6012	—	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	小片	
662	25506	土師器	杯	T4	V11	SD6012	—	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	小片	口縁部煤付着
663	37204	土師器	杯	T4	Tk25	SD6012	12.1	2.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい橙7.5YR6/4	1/12	
664	28806	土師器	杯	T4	Tk23	SD6012	12.3	—	—	内：ナデ、ヨコナデ、線刻？ 外：指オサエ、ヨコナデ	橙5YR7/6	2/12	
665	28302	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	12.8	3.0	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	2/12	
666	27703	土師器	杯	T4	V12	SD6012	12.8	2.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
667	28502	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	12.6	2.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	3/12	口縁部煤付着
668	27701	土師器	杯	T4	V12	SD6012	12.6	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	2/12	
669	25105	土師器	杯	T4	V11	SD6012	12.8	2.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
670	28506	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	13.8	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3/12	
671	29501	土師器	杯	T4	Tk25	SD6012	13.4	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	黒褐2.5Y3/1	2/12	
672	28802	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	13.1	2.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR6/6、黒褐2.5Y3/1	3/12	
673	29202	土師器	杯	T4	Tk25	SD6012	12.6	3.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
674	27203	土師器	杯	T4	V12	SD6012	12.6	3.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	2/12	
675	25705	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	12.5	2.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/3 外：浅黄橙7.5YR8/4	2/12	
676	36304	土師器	杯	T4	V12	SD6012	12.3	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	内：灰白10YR8/1 外：にぶい黄橙10YR7/2	2/12	
677	28904	土師器	杯	T4	T124	SD6012	12.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	2/12	
678	37301	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	12.7	3.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	内：明赤褐5YR5/6 外：にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
679	27402	土師器	杯	T4	V12	SD6012	13.0	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	3/12	
680	26803	土師器	杯	T4	Vm3	SD6012	13.0	2.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
681	29204	土師器	杯	T4	Tk25	SD6012	13.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ、墨書？ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
682	27302	土師器	杯	T4	V12	SD6012	13.2	3.35	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
683	26407	土師器	杯	T4	V11～3・Vm1～4	SD6012	13.4	2.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、線刻	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
684	27009	土師器	杯	T4	Vm3	SD6012	13.8	3.0	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
685	29308	土師器	杯	T4	Tk25	SD6012	13.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	1/12	
686	28603	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	12.5	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/4	2/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
687	29302	土師器	杯	T4	Tk25	SD6012	14.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙 7.5YR6/4 外：灰黄2.5Y6/2	2/12	口縁部煤付着
688	25404	土師器	杯	T4	V11	SD6012	13.9	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	口縁部煤付着
689	27806	土師器	杯	T4	V12	SD6012	13.8	3.2	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	
690	27807	土師器	杯	T4	V12	SD6012	13.6	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：灰N4/	2/12	
691	25004	土師器	杯	T4	V11	SD6012	14.0	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	3/12	口縁部煤付着
692	28501	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	13.6	2.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	6/12	口縁部煤付着
693	26404	土師器	杯	T4	Vl1～3・ Vm1～4	SD6012	13.4	3.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、工具ナデ？、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	口縁部煤付着
694	28003	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	13.4	3.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	4/12	内面煤付着
695	28205	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	13.6	2.5	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	7/12	
696	27301	土師器	杯	T4	V12	SD6012	13.5	3.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	5/12	
697	29309	土師器	杯	T4	Tk25	SD6012	13.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：橙7.5YR7/6 外：灰白10YR8/2	1/12	
698	25408	土師器	皿	T4	V11	SD6012	13.8	2.3	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
699	28601	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	13.7	2.8	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	1/12	
700	27208	土師器	杯	T4	V12	SD6012	13.8	3.5	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3/12	
701	25704	土師器	杯	T4	V11	SD6012	13.5	3.1	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	4/12	口縁部煤付着
702	28001	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	13.9	3.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4、 にぶい橙7.5YR6/4	8/12	口縁部煤付着
703	27308	土師器	杯	T4	V12	SD6012	14.0	2.9	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR6/6	3/12	
704	27303	土師器	杯	T4	V12	SD6012	14.1	3.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	7/12	
705	27202	土師器	杯	T4	V12	SD6012	14.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：にぶい橙 7.5YR7/3	3/12	
706	27503	土師器	杯	T4	V12	SD6012	14.0	2.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3/12	口縁部煤付着
707	28202	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	13.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	
708	28204	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	13.8	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	1/12	
709	28304	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	13.8	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：橙7.5YR6/6	2/12	
710	27704	土師器	杯	T4	V12	SD6012	13.4	3.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	1/12	
711	27204	土師器	杯	T4	V12	SD6012	13.6	3.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	4/12	
712	27802	土師器	杯	T4	V12	SD6012	14.0	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	褐灰10YR6/1	2/12	内面煤付着
713	25301	土師器	杯	T4	V11	SD6012	24.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	口縁部煤付着
714	29306	土師器	杯	T4	Tk25	SD6012	14.0	2.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙 7.5YR7/3 外：灰黄褐10YR6/2	2/12	
715	29203	土師器	杯	T4	Tk25	SD6012	14.0	3.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	2/12	口縁部煤付着
716	27805	土師器	杯	T4	V12	SD6012	14.0	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	2/12	
717	29207	土師器	杯	T4	Tk25	SD6012	14.4	3.25	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：灰黄2.5Y7/2	3/12	
718	27305	土師器	杯	T4	V12	SD6012	14.4	3.0	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	4/12	
719	25302	土師器	杯	T4	V11	SD6012	14.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	1/12	
720	37403	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	14.4	2.95	—	内：ナデ、ヨコナデ、線刻 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙 7.5YR7/3 外：灰黄2.5Y7/2	2/12	
721	28607	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	14.6	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ？、ナデ？、ヨコナデ	橙5YR7/6	1/12	
722	24802	土師器	杯	T4	V11	SD6012	14.4	3.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白7.5YR8/2	5/12	口縁部煤付着
723	28301	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	14.5	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR7/6	2/12	
724	28203	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	14.8	3.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
725	29307	土師器	杯	T4	Tk25	SD6012	14.6	3.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	1/12	内面煤付着
726	28505	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	15.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	橙5YR7/6	1/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
727	29407	土師器	杯	T4	Tk25	SD6012	12.6	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
728	29503	土師器	皿	T4	Tk25	SD6012	16.6	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	口縁部煤付着
729	27602	土師器	杯	T4	V12	SD6012	15.4	3.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	
730	27102	土師器	杯	T4	V12	SD6012	15.0	3.5	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：暗灰N3/ 外：にぶい黄橙10YR7/2	3/12	内面煤付着
731	25305	土師器	杯	T4	V11	SD6012	15.2	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：にぶい黄橙10YR6/3	3/12	
732	29104	土師器	杯	T4	Tk25	SD6012	15.5	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
733	28208	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	15.5	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	8/12	
734	29301	土師器	杯	T4	Tk25	SD6012	15.6	3.05	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙7.5YR7/3 外：灰N5/	2/12	
735	29102	土師器	杯	T4	Tk25	SD6012	14.4	3.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、線刻	にぶい橙7.5YR7/4	5/12	
736	37703	土師器	杯	T4	—	SD6012	14.0	3.5	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい橙7.5YR7/4	4/12	墨書「少□寺」
737	37402	土師器	杯	T4	Vm3	SD6012	10.1	2.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	灰黄2.5Y7/2	8/12	
738	37802	土師器	杯	T4	T125	SD6012	14.2	3.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	内：にぶい黄橙10YR5/3 外：にぶい黄橙10YR7/2	4/12	墨書「家」？
739	37902	土師器	杯	T4	Vm3	SD6012	11.0	3.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	灰黄褐10YR6/2	9/12	内面煤付着
740	37203	土師器	杯	T4	V12	SD6012	13.0	3.0	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	内：にぶい橙7.5YR7/4 外：にぶい黄橙10YR7/6	5/12	墨書「一」
741	37801	土師器	杯	T4	—	SD6012	15.7	3.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	橙5YR7/6	7/12	墨書「中」
742	37901	土師器	杯	T4	—	SD6012	11.6	3.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい黄橙10YR7/2	5/12	墨書「□□寺」
743	37704	土師器	杯	T4	V12	SD6012	14.4	3.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい黄橙10YR7/3	6/12	内面煤付着
744	37603	土師器	杯	T4	V12	SD6012	12.8	3.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい橙5YR6/4	6/12	墨書「一」
745	37702	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	13.0	2.9	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ、墨書	にぶい橙7.5YR7/4	6/12	墨書「中」
746	38003	土師器	杯	T4	V12	SD6012	12.6	2.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	内：にぶい橙7.5YR7/3 外：灰白2.5Y7/1	1/12	墨書「□□山」
747	37401	土師器	杯	T4	V12	SD6012	13.6	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい橙5YR6/4	2/12	
748	26602	土師器	杯	T4	Vm3	SD6012	13.0	3.0	—	内：ナデ、ヨコナデ、暗文 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙5YR7/4 外：にぶい橙5YR6/4	11/12	
749	25701	土師器	杯	T4	V11・2	SD6012	12.5	2.7	—	内：ヨコナデ、暗文 外：ヨコナデ	にぶい褐7.5YR6/3	2/12	
750	27304	土師器	杯	T4	V12	SD6012	13.0	3.4	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	5/12	口縁部煤付着
751	27601	土師器	杯	T4	V12	SD6012	13.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	4/12	
752	27702	土師器	杯	T4	V12	SD6012	13.0	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	2/12	
753	26701	土師器	杯	T4	Vm3	SD6012	13.6	3.4	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、工具ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	12/12	口縁部煤付着
754	27401	土師器	杯	T4	V12	SD6012	13.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	内：橙7.5YR6/6 外：にぶい黄褐10YR5/3	2/12	外面煤付着？
755	27201	土師器	杯	T4	V12	SD6012	13.6	2.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	4/12	
756	26805	土師器	杯	T4	Vm3	SD6012	13.4	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	3/12	
757	27006	土師器	杯	T4	Vm3	SD6012	13.8	3.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	内面煤付着
758	27706	土師器	杯	T4	V12	SD6012	13.8	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	口縁部煤付着
759	28006	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	14.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	3/12	外面被熱？
760	25405	土師器	杯	T4	V11	SD6012	14.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ケズリ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
761	28701	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	14.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
762	24804	土師器	杯	T4	V11	SD6012	14.8	3.3	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	3/12	口縁部煤付着
763	28604	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	14.6	2.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	1/12	
764	28804	土師器	杯	T4	Tk24	SD6012	14.6	2.9	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	黒2.5Y2/1	1/12	
765	29201	土師器	杯	T4	Tk23～25	SD6012	16.5	4.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	内：灰黄褐10YR5/2 外：にぶい黄橙10YR7/2	3/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
766	25605	土師器	杯	T4	V12	SD6012	14.8	3.15	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい橙5YR6/4	2/12	内外面煤付着
767	26511	陶器	杯	T4	V11・2	SD6012	14.4	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい褐7.5YR5/3	2/12	
768	25702	土師器	杯	T4	V11・2	SD6012	15.4	—	—	内：ヨコナデ 外：ケズリ、ヨコナデ	内：にぶい橙7.5YR6/4、にぶい黄橙10YR7/2 外：黒褐2.5Y3/1	1/12	
769	27708	土師器	杯	T4	V12	SD6012	15.6	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ？、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
770	37201	土師器	杯	T4	Vm3	SD6012	12.5	2.9	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、工具ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい褐7.5YR6/3	11/12	墨書「橘」
771	37602	土師器	杯	T4	Vm3	SD6012	13.0	2.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ、墨書	にぶい橙7.5YR6/4	12/12	墨書「木」
772	37701	土師器	杯	T4	V12	SD6012	14.0	3.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい橙5YR7/3、にぶい橙2.5YR6/4	4/12	墨書「木」
773	25403	土師器	皿	T4	V11	SD6012	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	小片	
774	26006	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	12.8	2.2	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	3/12	
775	25005	土師器	皿	T4	V11	SD6012	13.4	2.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	口縁部煤付着
776	27307	土師器	皿	T4	V12	SD6012	14.0	2.5	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	口縁部煤付着
777	28206	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	14.4	2.7	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙7.5YR7/4 外：にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
778	28207	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	14.0	2.6	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	7/12	
779	28602	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	14.2	2.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/3	1/12	
780	29303	土師器	皿	T4	Tk25	SD6012	14.7	3.0	—	内：ナデ？、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	1/12	
781	28002	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	14.8	2.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4、灰黄褐10YR5/2、灰5Y4/1	3/12	
782	29404	土師器	皿	T4	Tk25	SD6012	15.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/4	2/12	
783	29208	土師器	皿	T4	Tk25	SD6012	15.8	2.85	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙7.5YR7/3 外：にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
784	28702	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	16.8	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
785	28007	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	15.3	2.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR7/1	2/12	
786	24801	土師器	皿	T4	V11	SD6012	17.4	3.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	7/12	
787	27008	土師器	皿	T4	Vm3	SD6012	14.0	1.8	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/1	1/12	
788	27804	土師器	皿	T4	V12	SD6012	14.0	2.05	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	2/12	
789	27306	土師器	皿	T4	V12	SD6012	14.0	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	内面煤付着
790	27808	土師器	皿	T4	V12	SD6012	13.5	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄褐10YR5/2	1/12	
791	27504	土師器	皿	T4	V12	SD6012	14.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	4/12	
792	28608	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	15.7	2.1	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰褐7.5YR5/2	1/12	内外面煤付着
793	27901	土師器	皿	T4	V12	SD6012	17.2	2.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	3/12	
794	28508	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	18.8	2.2	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	1/12	
795	26907	土師器	皿	T4	Vm3	SD6012	12.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
796	28303	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	14.7	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	2/12	
797	26903	土師器	皿	T4	Vm3	SD6012	15.4	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	1/12	
798	27603	土師器	皿	T4	V12	SD6012	17.0	2.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
799	26702	土師器	皿	T4	Vm3	SD6012	17.6	2.1	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
800	37202	土師器	皿	T4	V11・2	SD6012	16.3	2.9	—	内：ヨコナデ、暗文、線刻 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR7/6	3/12	
801	38001	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	15.2	2.55	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	内：にぶい褐7.5YR5/4 外：橙5YR6/6	3/12	
802	37304	土師器	皿	T4	V12	SD6012	16.3	2.15	—	内：工具ナデ？、ヨコナデ 外：指オサエ、工具ナデ？、ヨコナデ、墨書、線刻	にぶい橙5YR7/4	3/12	墨書「中」
803	26601	土師器	皿	T4	Vm3	SD6012	17.4	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ、暗文、線刻 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：黒褐10YR3/1 外：灰褐7.5YR5/2	9/12	線刻「木」？、内面煤付着
804	37601	土師器	皿	T4	—	SD6012	17.0	2.2	—	内：ヨコナデ、暗文、線刻 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい黄橙10YR7/3	4/12	墨書「木」、線刻「木」

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
805	37110	土師器	皿	T4	Tk25	SD6012	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
806	37306	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、墨書	にぶい黄橙10YR7/3	小片	墨書「中」
807	37106	土師器	杯？	T4	V12	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、墨書	内：にぶい橙5YR6/4 外：にぶい橙7.5YR7/4	小片	墨書「中」
808	37903	土師器	杯？	T4	Tk24	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、墨書	橙7.5YR7/6	小片	墨書「中」
809	37804	土師器	皿	T4	Tk24	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、墨書	にぶい橙7.5YR7/3	小片	
810	37503	土師器	杯？	T4	V12	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、墨書	にぶい黄橙10YR6/3	小片	
811	37307	土師器	杯？	T4	Tk24	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、墨書	にぶい黄橙10YR7/2	小片	墨書「中」？
812	37506	土師器	杯？	T4	V12	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、墨書	にぶい橙5YR7/4	小片	墨書「中」？
813	37502	土師器	杯？	T4	V12	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、墨書	内：にぶい橙5YR6/4 外：にぶい黄橙10YR7/2	小片	
814	37303	土師器	杯？	T4	Tk24	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、墨書	にぶい橙7.5YR7/4	小片	
815	37501	土師器	杯？	T4	T125	SD6012	—	—	—	内：ナデ？ 外：ナデ？、墨書	にぶい黄橙10YR7/3	小片	
816	37305	土師器	皿？	T4	Tk24	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、墨書	にぶい黄橙10YR6/3	小片	
817	37904	土師器	杯？	T4	Tk24	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、墨書	にぶい黄橙10YR7/3	小片	墨書「中」？
818	37105	土師器	杯	T4	Tk25	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、墨書	内：にぶい橙7.5YR6/4 外：にぶい橙5YR6/4	小片	
819	37107	土師器	杯？	T4	Tk24	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、墨書	内：にぶい黄橙10YR7/2 外：にぶい橙5YR7/4	小片	墨書「口平」
820	37405	土師器	杯？	T4	V11	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、墨書	にぶい橙7.5YR7/4	小片	
821	37406	土師器	皿？	T4	V11	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、墨書	にぶい橙7.5YR7/4	小片	
822	37505	土師器	皿	T4	V12	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、墨書	灰白10YR7/1	小片	墨書「安」？
823	37109	土師器	杯？	T4	Tk25	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、墨書	にぶい黄橙10YR6/3	小片	
824	37407	土師器	杯？	T4	Vm3	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、墨書	にぶい黄橙10YR7/3	小片	
825	27104	土師器	杯	T4	V12	SD6012	14.8	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3/12	
826	27103	土師器	椀	T4	V12	SD6012	15.0	4.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
827	25602	土師器	椀	T4	V12	SD6012	15.8	3.8	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙5YR6/4 外：橙7.5YR7/6	1/12	
828	25504	土師器	椀	T4	V11	SD6012	16.0	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、線刻	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：浅黄橙10YR8/3	2/12	
829	27105	土師器	椀	T4	V12	SD6012	16.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	9/12	
830	24803	土師器	椀	T4	V11	SD6012	17.0	4.5	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/4	2/12	
831	25608	土師器	椀	T4	V11・2	SD6012	17.6	5.8	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ケズリ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/4	5/12	
832	27502	土師器	椀	T4	V12	SD6012	18.8	4.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
833	28008	土師器	椀	T4	Tk24	SD6012	15.4	—	—	内：ヨコナデ、暗文 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
834	28805	土師器	椀	T4	Tk24	SD6012	15.3	—	—	内：ヨコナデ、ミガキ、暗文 外：ケズリ、ヨコナデ	内：黒10YR1.7/1 外：にぶい黄褐10YR5/3	1/12	
835	28803	土師器	椀	T4	Tk24	SD6012	15.8	—	—	内：ヨコナデ、暗文 外：ナデ、ヨコナデ	褐灰10YR4/1、にぶい橙7.5YR6/4	2/12	
836	28704	土師器	椀	T4	Tk24	SD6012	17.2	—	—	内：ヨコナデ、暗文 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	2/12	
837	28801	土師器	椀	T4	Tk24	SD6012	17.4	—	—	内：ヨコナデ、暗文 外：ナデ、ヨコナデ	内：橙5YR6/6 外：橙7.5YR6/6	2/12	
838	28703	土師器	椀	T4	Tk24	SD6012	17.8	—	—	内：ヨコナデ、暗文 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙5YR6/4	1/12	
839	28902	土師器	椀	T4	Tk24	SD6012	17.6	—	—	内：ミガキ、暗文 外：ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR7/6	4/12	
840	28401	土師器	椀	T4	Tk24	SD6012	16.2	—	—	内：ヨコナデ、暗文 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	7/12	内面煤付着
841	27101	土師器	椀	T4	V12	SD6012	16.8	4.8	—	内：ナデ、ヨコナデ、暗文 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR7/6	5/12	
842	26908	土師器	杯	T4	Vm3	SD6012	14.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ、暗文 外：ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	2/12	
843	27902	ロクロ土師器	台付椀	T4	V12	SD6012	—	—	6.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	5/12	
844	25802	土師器	台付椀	T4	V12	SD6012	13.2	5.4	6.0	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
845	27005	ロクロ土師器	小皿？	T4	Vm3	SD6012	—	—	4.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白10YR8/2	7/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
846	29304	ロクロ土師器	椀？	T4	Tk25	SD6012	—	—	5.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	7/12	
847	24904	ロクロ土師器	椀？	T4	V11	SD6012	—	—	3.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	にぶい黄橙10YR7/2	12/12	
848	25804	ロクロ土師器	小皿	T4	V11～3・Vm1～4	SD6012	9.8	2.2	5.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	橙5YR7/6	5/12	
849	26801	土師器	甑	T4	Vm3	SD6012	27.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
850	27607	土師器	甑	T4	V12	SD6012	—	—	—	内：ケズリ、工具ナデ 外：ケズリ、ハケ	にぶい黄橙10YR7/2	小片	
851	29603	土師器	羽釜	T4	Re23	SD6012	31.4	—	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
852	29601	土師器	羽釜	T4	Re22	SD6012	34.0	—	—	内：指オサエ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
853	27003	土師器	茶釜	T4	Vo4	SD6012	14.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
854	25303	土師器	甕	T4	V11	SD6012	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	小片	
855	26802	土師器	甕	T4	Vm3	SD6012	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	小片	
856	24902	土師器	甕	T4	V11	SD6012	—	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	小片	
857	29701	土師器	甕	T4	Re23	SD6012	13.4	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	2/12	
858	26106	土師器	甕	T4	V11・2	SD6012	16.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	4/12	外面煤付着
859	26401	土師器	甕	T4	V11～3・Vm1～4	SD6012	16.4	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	外面煤付着
860	25903	土師器	甕	T4	V11～3・Vm1～4	SD6012	17.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	5/12	
861	27002	土師器	甕	T4	Vn・o4	SD6012	21.6	—	—	内：ナデ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：にぶい黄橙10YR7/2	1/12	外面煤付着
862	27001	土師器	甕	T4	Vm4	SD6012	21.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	外面煤付着
863	27501	土師器	甕	T4	V12	SD6012	39.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰黄褐10YR4/2	1/12	外面煤付着、内面コゲ付着
864	29803	土師器	鍋	T4	排土	SD6012	27.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：褐灰7.5YR4/1 外：淡橙5YR8/4	2/12	
865	29602	土師器	鍋	T4	Re23	SD6012	35.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/4	1/12	外面煤付着
866	29604	土師器	鍋	T4	Re23	SD6012	21.6	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
867	27903	土師器	製塩土器	T4	V12	SD6012	15.0	5.65	15.6	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	橙2.5YR6/6	1/12	
868	24903	土師器	製塩土器	T4	V11	SD6012	16.0	5.6	15.8	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	内：橙2.5YR6/6 外：にぶい橙5YR6/4	1/12	
869	28903	土製品	鋳型？	T4	Tk24	SD6012	23.0	—	—	ナデ	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：黄灰2.5Y4/1、黒褐2.5Y3/1	1/12	外面炭化物付着
870	26105	土製品	土錘	T4	V11・2	SD6012	長6.0	幅2.0	厚2.0	ナデ	灰黄2.5Y7/2	完形	重さ17.95g
871	29706	須恵器	蓋	T4	Re23	SD6012	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	灰5Y6/1	摘まみ11/12	
872	24901	須恵器	蓋	T4	V11	SD6012	14.4	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	灰N6/	2/12	
873	25904	須恵器	壺	T4	—	SD6012	—	—	8.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	4/12	
874	29001	灰釉陶器	椀	T4	Tk24	SD6012	16.4	6.1	6.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白2.5Y7/1 釉：灰白7.5Y7/2	4/12	輪花
875	27606	灰釉陶器	椀	T4	V12	SD6012	—	—	8.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	内：灰白2.5Y7/1 外：黄灰2.5Y5/1	5/12	内面摩耗
876	25905	灰釉陶器	椀	T4	—	SD6012	—	—	6.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白N8/	6/12	内面磨耗
877	38002	灰釉陶器	皿？	T4	V12	SD6012	—	—	7.0	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ	灰白5Y7/1	5/12	墨書「仁平」？
878	29802	陶器	山皿	T4	—	SD6012	11.0	2.3	5.7	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白5Y7/1	9/12	
879	29002	陶器	山茶椀	T4	Tk24	SD6012	—	—	7.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白10YR8/1	12/12	内面炭化物付着
880	29305	陶器	山茶椀	T4	Tk25	SD6012	—	—	6.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	内：灰白5Y7/1 外：灰白N5/	6/12	内面炭化物付着
881	28907	陶器	山茶椀	T4	Tk24	SD6012	—	—	7.1	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	12/12	
882	28905	陶器	山茶椀	T4	Tk24	SD6012	—	—	7.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	4/12	
883	27004	陶器	山茶椀	T4	Vm3	SD6012	—	—	8.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	12/12	
884	29702	陶器	山茶椀	T4	Re23	SD6012	—	—	6.7	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y8/1	3/12	
885	28906	陶器	片口鉢	T4	Tk24	SD6012	—	—	12.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1/12	内面炭化物付着
886	27605	灰釉陶器	壺	T4	V12	SD6012	—	—	11.6	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ	灰N5/、灰白N8/	2/12	
887	29703	陶器	輪禿皿	T4	Re23	SD6012	—	—	8.1	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ	灰白2.5Y8/2	12/12	瀬戸美濃産

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
888	29705	陶器	大皿？	T4	Re23	SD6012	—	—	9.6	内：ロクロナデ？ 外：ケズリ、ロクロナデ	灰白2.5Y8/2	7/12	
889	36801	灰釉陶器	風字硯	T4	—	SD6012	—	幅 13.5	厚 2.2	内：ナデ、ケズリ 外：ナデ、ケズリ	灰白N7/	半欠	
890	27604	陶器	擂鉢	T4	V12	SD6012	32.4	—	—	内：ロクロナデ、擂目 外：ロクロナデ	胎：灰白10YR8/2 釉：灰赤2.5Y4/2	1/12	瀬戸美濃産
891	29101	陶器	竈	T4	Tk25	SD6012	31.4	—	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙2.5YR6/6	1/12	
892	25801	陶器	竈	T4	V12	SD6012	21.4	18.6	16.6	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙 7.5YR6/4、にぶい褐 7.5YR5/3 外：褐灰10YR5/1	6/12	
893	26201	陶器	双耳壺	T4	V12・3	SD6012	7.1	10.1	7.0	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：明黄褐2.5Y6/6	12/12	瀬戸美濃産、底部焼成後穿孔
894	25902	陶器	甕	T4	Vll～3・Vm1～4	SD6012	—	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	灰白5Y7/1、褐灰10YR4/1	小片	常滑産
895	29704	陶器	甕	T4	Re23	SD6012	26.0	—	—	内：ロクロナデ、ヨコナデ 外：ロクロナデ、ヨコナデ	灰5Y6/1	1/12	
896	29801	陶器	壺	T4	Tk23～25	SD6012	18.2	—	—	内：指オサエ、工具ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	にぶい赤褐5YR4/3	3/12	
897	25901	陶器	甕	T4	Vll～3・Vm1～4	SD6012	40.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	胎：灰白N8/ 釉：灰赤10R4/2	2/12	常滑産
898	29401	陶器	甕	T4	Tk24	SD6012	—	—	13.6	内：ナデ 外：工具ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	12/12	
899	28807	陶器	加工円盤	T4	Tk24	SD6012	長 6.6	幅 5.8	厚 1.2	打欠	胎：橙5YR6/6 釉：灰褐5YR5/2	完形	重さ56.25g、常滑産甕転用
900	25601	磁器	白磁壺	T4	V12	SD6012	—	—	4.8	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ	胎：灰白2.5Y7/1 釉：灰白10Y7/1	12/12	
901	19406	土師器	皿	T4	Tp10	SD6110	10.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ？ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ？	浅黄橙7.5YR8/3	2/12	
902	19404	土師器	鍋	T4	Tp10	SD6110	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：黒N2/	小片	外面煤付着
903	19403	土師器	鍋	T4	Tp10	SD6110	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	小片	
904	19301	陶器	捏鉢	T4	Tp10	SD6110	31.2	—	—	内：工具ナデ 外：指オサエ、工具ナデ、ヨコナデ	にぶい橙2.5YR6/4	1/12	常滑産
905	19302	陶器	甕	T4	Tp10	SD6110	—	—	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	内：にぶい赤褐5YR 5/3 外：灰褐7.5YR6/2	小片	常滑産
906	19401	磁器	合子	T4	Tp9	SD6110	—	—	—	内：指オサエ、ナデ 外：ナデ	胎：灰白N8/ 釉：オリーブ灰 2GY6/1	半欠	身部、亀形
907	19104	土師器	小皿	T4	To3	SD6122	7.8	1.5	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
908	19202	土師器	皿	T4	To3	SD6122	11.0	2.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	6/12	
909	19201	土師器	鍋	T4	To3	SD6122	31.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	外面煤付着、内面コゲ付着
910	19106	土師器	鍋	T4	To3	SD6122	25.6	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	1/12	外面煤付着
911	19105	土師器	鍋	T4	To3	SD6122	28.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外、ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	2/12	外面煤付着
912	20806	土師器	小皿	T4	Tn1	SD6126	3.6	1.0	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	明褐7.5YR5/6	2/12	
913	21805	土師器	小皿	T4	Tn1	SD6126	7.2	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	2/12	口縁部煤付着？
914	22005	土師器	小皿	T4	Tn1	SD6126	7.8	1.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙5YR6/4、にぶい橙5YR7/4	3/12	
915	21803	土師器	小皿	T4	Tn1	SD6126	8.0	1.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3/12	外面煤付着
916	22004	土師器	小皿	T4	Tn1	SD6126	8.3	1.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	4/12	
917	21504	土師器	皿	T4	Tn1	SD6126	10.6	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
918	20805	土師器	小皿	T4	Tn1	SD6126	8.4	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	5/12	外面煤付着
919	21804	土師器	小皿	T4	Tn1	SD6126	8.6	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3/12	
920	22006	土師器	小皿	T4	Tn1	SD6126	9.0	1.4	—	内：ナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	2/12	
921	21102	土師器	小皿	T4	Tn1	SD6126	9.7	1.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
922	22103	土師器	皿	T4	Tn1	SD6126	12.0	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：明褐灰7.5YR7/2 外：灰黄2.5Y7/2	1/12	
923	22003	土師器	皿	T4	Tn1	SD6126	11.2	2.7	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR7/1	2/12	
924	21806	土師器	小皿	T4	Tn1	SD6126	9.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	灰白5Y7/1、灰N4/	3/12	口縁部煤付着？
925	21505	土師器	小皿？	T4	Tn1	SD6126	8.7	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	5/12	台付椀？
926	21101	土師器	台付椀	T4	Tn1	SD6126	—	—	3.8	内：ナデ 外：ナデ	内：灰白5Y7/1 外：灰白2.5Y7/1	10/12	
927	21802	土師器	蓋	T4	Tn1	SD6126	15.0	—	11.6	内：ナデ、工具ナデ？ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
928	21001	土師器	茶釜	T4	Tn1	SD6126	6.5	—	—	内：ケズリ、ハケ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/2 外：浅黄橙10YR8/4	11/12	外面煤付着

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
929	21103	土師器	茶釜	T4	Tn1	SD6126	14.8	—	—	内：ハケ、ナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
930	21502	土師器	茶釜	T4	Tn1	SD6126	24.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ？、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	外面煤付着
931	22002	土師器	茶釜	T4	Tn1	SD6126	24.6	—	—	内：工具ナデ、指オサエ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	
932	21401	土師器	茶釜	T4	Tn1	SD6126	31.4	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、指オサエ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ハケ、ヨコナデ	内：にぶい橙7.5YR7/3 外：灰黄褐10YR6/2	5/12	
933	21204	土師器	甕	T4	Tn1	SD6126	15.5	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	外面煤付着
934	22202	土師器	鍋？	T4	To1	SD6126	13.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	鉢？
935	21106	土師器	鍋	T4	Tn1	SD6126	16.4	—	—	内：ケズリ、ハケ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	内：黒5Y2/1 外：黒N1.5/	1/12	外面煤付着
936	22102	土師器	鍋	T4	Tn1	SD6126	18.0	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	2/12	外面煤付着
937	22304	土師器	鍋	T4	To1	SD6126	18.6	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ？、ヨコナデ	内：黒褐10YR3/1 外：にぶい橙7.5YR7/3	2/12	外面煤付着
938	21104	土師器	鍋	T4	Tn1	SD6126	20.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	内：黄灰2.5Y4/1 外：黒2.5Y2/1	2/12	外面煤付着
939	22204	土師器	鍋	T4	To2	SD6126	20.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	外面煤付着
940	21301	土師器	鍋	T4	Tn1	SD6126	19.2	—	—	内：ケズリ、ハケ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	内：橙2.5YR6/6、黒褐5YR3/1 外：にぶい褐7.5YR6/3、黒褐7.5YR3/1	4/12	
941	21901	土師器	鍋	T4	Tn1	SD6126	22.4	—	—	内：ケズリ、ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR5/3 外：にぶい橙5YR7/4	5/12	外面煤付着
942	22502	土師器	鍋	T4	To1	SD6126	23.0	6.6	—	内：ケズリ、ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	外面煤付着
943	20902	土師器	鍋	T4	Tn1	SD6126	30.0	—	—	内：工具ナデ？、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/2 外：灰黄褐10YR5/2	2/12	外面煤付着
944	22401	土師器	鍋	T4	Tn2	SD6126	31.0	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	7/12	
945	22402	土師器	鍋	T4	Tn2	SD6126	21.7	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/4	2/12	外面煤付着
946	22203	土師器	鍋	T4	To1	SD6126	21.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ハケ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	1/12	外面煤付着
947	21201	土師器	鍋	T4	Tn1	SD6126	22.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/2、橙2.5YR6/6 外：にぶい黄橙10YR7/3	3/12	
948	21203	土師器	鍋	T4	Tn1	SD6126	25.4	—	—	内：ケズリ、ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	内：灰黄褐10YR4/2 外：黒10YR1.7/1	4/12	外面煤付着、内面コゲ付着
949	21105	土師器	鍋	T4	Tn1	SD6126	25.6	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ヨコナデ	内：黒褐10YR3/1 外：黒10YR1.7/1	3/12	外面煤付着
950	22303	土師器	鍋	T4	Tn2	SD6126	28.0	—	—	内：ハケ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	1/12	
951	22001	土師器	鍋	T4	Tn1	SD6126	29.0	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	褐灰10YR4/1、にぶい黄橙10YR7/3	2/12	外面煤付着
952	21501	土師器	鍋	T4	Tn1	SD6126	25.3	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	外面煤付着
953	21503	土師器	鍋	T4	Tn1	SD6126	25.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ？、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	3/12	外面煤付着
954	21602	土師器	鍋	T4	Tn1	SD6126	26.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ？、ヨコナデ	にぶい黄褐10YR6/4	2/12	外面煤付着
955	21902	土師器	鍋	T4	Tn1	SD6126	27.0	—	—	内：工具ナデ？、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	内：黒褐10YR3/1 外：暗灰N3/	2/12	外面煤付着
956	21202	土師器	鍋	T4	Tn1	SD6126	29.3	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：黒褐10YR3/2 外：黒10YR7/1	2/12	外面煤付着
957	20903	土師器	鍋	T4	Tn1	SD6126	29.4	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	褐灰10YR4/1	1/12	外面煤付着
958	21002	土師器	片口鍋	T4	Tn1	SD6126	—	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	小片	外面煤付着
959	22501	瓦質土器	香炉	T4	Tn2	SD6126	12.8	6.0	12.1	内：指オサエ、ヨコナデ 外：ケズリ、ヨコナデ、ミガキ、菱形文	暗灰N3/	8/12	
960	37104	陶器	山茶椀	T4	Tn1	SD6126	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、墨書	灰白2.5Y7/1	小片	
961	22105	陶器	丸皿？	T4	Tn1	SD6126	—	—	6.5	内：ロクロナデ、菊文 外：ロクロケズリ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：オリーブ黄5Y6/3	4/12	瀬戸美濃産、灰釉
962	20803	陶器	端反皿	T4	Tn1	SD6126	15.6	3.6	8.2	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白5Y8/1 釉：灰白10Y7/2	4/12	瀬戸美濃産、灰釉
963	22101	陶器	鉢？	T4	Tn1	SD6126	32.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	被熱？
964	22403	陶器	捏鉢	T4	To1	SD6126	29.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい赤褐2.5YR5/3 外：橙5YR6/6	2/12	常滑産、内面摩耗
965	21302	陶器	擂鉢	T4	Tn1	SD6126	—	—	11.3	内：ロクロナデ、擂目 外：ロクロケズリ	胎：浅黄橙10YR8/4 釉：黒褐10YR3/1	2/12	瀬戸美濃産
966	20901	陶器	火鉢	T4	Tn1	SD6126	22.0	—	—	内：指オサエ、ナデ 外：ケズリ、工具ナデ、ナデ	内：黄灰2.5Y5/1 外：浅黄橙10YR8/4	4/12	内面煤付着

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
967	22302	陶器	甕	T4	Tn2	SD6126	—	—	—	内：工具ナデ、ロクロナデ 外：工具ナデ、ロクロナデ	内：にぶい褐 7.5YR5/3 外：灰黄褐10YR6/2	小片	常滑産
968	22205	陶器	甕	T4	To2	SD6126	—	—	—	内：指オサエ、ナデ 外：ナデ、押印文	内：灰褐7.5YR5/2 外：灰褐5YR4/2	小片	常滑産、押印「泉玉」？
969	21801	陶器	甕	T4	Tn1	SD6126	—	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	内：褐灰10YR4/1 外：褐灰7.5YR4/1	小片	常滑産
970	22301	陶器	甕	T4	Tn2	SD6126	—	—	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	赤灰2.5Y4/1	小片	常滑産
971	21601	陶器	甕	T4	Tn1	SD6126	32.6	—	—	内：指オサエ、ロクロナデ、ヨコナデ 外：ロクロナデ、ヨコナデ	褐灰10YR5/1、黒褐10YR3/2	2/12	常滑産
972	22104	陶器	甕	T4	Tn1	SD6126	66.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	褐灰10YR4/1、灰黄褐10YR4/2	1/12	常滑産
973	21701	陶器	甕	T4	Tn1	SD6126	55.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	赤灰2.5YR4/1	1/12	常滑産
974	21303	陶器	甕	T4	Tn1	SD6126	60.8	—	—	内：ナデ、ロクロナデ 外：ヨコナデ	内：黒褐10YR3/2 外：にぶい黄橙10YR7/2	1/12	常滑産
975	20804	陶器	加工円盤	T4	Tn1	SD6126	長6.4	幅6.2	厚1.9	打欠	褐灰7.5YR5/1	完形	重さ89.22g、常滑産甕転用
976	22201	陶器	加工円盤	T4	To1	SD6126	長5.8	幅5.5	厚1.4	打欠	にぶい橙2.5YR6/4	完形	重さ55.8g、常滑産甕転用
977	21807	陶器	加工円盤	T4	Tn1	SD6126	長5.3	幅5.2	厚1.5	打欠	内：黄灰2.5Y6/1 外：にぶい赤褐5YR5/3	完形	重さ42.7g、常滑産甕転用
978	20801	磁器	染付小皿	T4	Tn1	SD6126	8.8	2.4	4.2	内：ロクロナデ？、花文 外：ロクロケズリ、ロクロナデ、唐草文	胎：灰白N8/ 釉：灰白7.5GY8/1	3/12	貿易陶磁
979	20802	磁器	白磁皿	T4	Tn1	SD6126	12.0	2.7	6.6	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ？	灰白5Y7/1	1/12	
980	19204	土師器	小皿	T4	Rn22	SD6137	9.0	1.0	—	内：工具ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	5/12	
981	19203	陶器	山茶椀	T4	Rn22	SD6137	14.8	5.6	6.3	内：ナデ、ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	2/12	
982	19502	土師器	小皿	T4	Rn25	SD6140	8.0	1.45	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白5Y8/1	5/12	
983	19503	土師器	小皿	T4	Rm24	SD6140	9.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ？ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ？	灰白5Y8/2	2/12	口縁歪み大きい
984	19504	土師器	皿	T4	Rn25	SD6140	11.4	2.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/1	12/12	
985	19501	土師器	皿	T4	Rn25	SD6140	11.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	灰白5Y8/1	5/12	口縁歪み大きい
986	19702	土師器	皿	T4	Tn1	SD6140	13.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ？、指オサエ、ナデ	浅黄橙10YR8/3	2/12	
987	19701	土師器	茶釜	T4	Tn1	SD6140	23.8	—	—	内：ナデ？、ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
988	19603	土師器	鍋	T4	Rm23	SD6140	22.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/3	1/12	外面煤付着
989	19604	陶器	山茶椀	T4	Rm23	SD6140	—	—	6.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	7/12	
990	19703	陶器	折縁皿	T4	Tn1	SD6140	14.0	2.65	8.4	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白N7/ 釉：灰白10YR7/1	1/12	瀬戸美濃産
991	19207	土師器	杯	T4	Rf22	SD6152	18.4	3.3	—	内：ヨコナデ 外：ケズリ、ヨコナデ	橙5YR7/6	2/12	
992	19804	縄文土器	深鉢	T4	To20	SD6163	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、沈線	内：褐灰10YR6/1 外：褐灰10YR4/1	小片	
993	20002	土師器	小皿	T4	To20	SD6163	8.2	1.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	10/12	
994	19805	土師器	十能	T4	To21	SD6163	—	—	—	内：指オサエ、ナデ 外：ナデ	内：にぶい黄橙10YR7/2 外：黄灰2.5Y6/1	把手小片	
995	19902	土師器	茶釜	T4	To21	SD6163	10.0	—	—	内：ケズリ？、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	内：にぶい橙7.5YR7/3 外：灰褐7.5YR6/2	3/12	外面煤付着
996	20001	土師器	茶釜	T4	To20	SD6163	—	—	鍔径28.0	内：工具ナデ 外：ケズリ、指オサエ、ハケ	内：灰白10YR8/2 外：にぶい橙10YR7/2	2/12	外面煤付着
997	19901	土師器	鍋	T4	To20	SD6163	25.0	—	—	内：ケズリ？、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	6/12	外面煤付着
998	19601	土師器	鍋	T4	To20	SD6163	28.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ？、工具ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	4/12	外面煤付着
999	19803	土師器	鍋	T4	To20	SD6163	24.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/2 外：灰黄褐10YR6/2	3/12	
1000	19802	土師器	鍋	T4	To20	SD6163	25.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	外面煤付着
1001	19602	土師器	鍋	T4	To21	SD6163	26.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	4/12	外面煤付着
1002	19801	土師器	鍋？	T4	To21	SD6163	—	—	9.2	内：ナデ、工具ナデ 外：ケズリ、ハケ	灰褐10YR6/1	12/12	平底、内面コゲ付着
1003	19903	土製品	土錘	T4	To20	SD6163	長1.7	幅1.8	厚1.7	ナデ？	橙2.5YR6/6	完形	重さ10.46g
1004	19206	土師器	小皿	T4	Tp21	SD6165	6.8	1.8	—	内：ナデ 外：指オサエ	灰白10YR8/2	4/12	
1005	19205	陶器	山茶椀	T4	To21	SD6165	16.8	6.0	6.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y8/1	2/12	輪花、内面摩耗
1006	22907	土師器	小皿	T4	Tm23	SD6167	5.4	1.2	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1007	24409	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	5.6	1.7	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙5YR7/4	5/12	
1008	22606	土師器	小皿	T4	Tl23	SD6167	5.8	1.1	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	3/12	内外面煤付着
1009	22906	土師器	小皿	T4	Tm23	SD6167	6.0	—	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰褐7.5YR6/2	4/12	外面煤付着？
1010	24208	土師器	小皿	T4	Tn22	SD6167	6.0	1.5	—	内：ナデ 外：指オサエ	明褐灰7.5Y7/2	3/12	
1011	24107	土師器	小皿	T4	Tn22	SD6167	6.4	1.6	—	内：ナデ 外：指オサエ	黄灰2.5Y5/1	12/12	口縁歪み大きい
1012	24211	土師器	小皿	T4	Tn22	SD6167	6.0	1.2	—	内：ナデ 外：指オサエ	灰黄2.5Y7/2	3/12	
1013	24108	土師器	小皿	T4	Tn22	SD6167	6.1	1.6	—	内：ナデ 外：指オサエ	にぶい橙7.5YR7/3	12/12	
1014	24109	土師器	小皿	T4	Tn22	SD6167	6.7	1.7	—	内：ナデ 外：指オサエ	内：にぶい橙7.5YR7/3 外：灰白2.5Y7/1	12/12	内面煤付着
1015	22605	土師器	小皿	T4	Tl23	SD6167	6.1	1.4	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：淡橙5YR8/3 外：浅黄橙7.5YR8/4	3/12	
1016	23501	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	6.2	1.7	—	内：ナデ 外：指オサエ	浅黄橙10YR8/3	8/12	
1017	24702	土師器	小皿	T4	To22	SD6167	6.6	1.4	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	10/12	
1018	24105	土師器	小皿	T4	Tn22	SD6167	6.2	1.5	—	内：ナデ 外：指オサエ	灰白10YR8/2	7/12	口縁歪み大きい
1019	24106	土師器	小皿	T4	Tn22	SD6167	6.4	1.6	—	内：ナデ 外：指オサエ	浅黄橙10YR8/3	12/12	
1020	24210	土師器	小皿	T4	Tn22	SD6167	6.2	1.5	—	内：ナデ 外：指オサエ	灰白10YR8/2	6/12	
1021	23104	土師器	小皿	T4	Tm23	SD6167	6.4	1.3	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	8/12	
1022	24006	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	6.4	1.3	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3/12	
1023	23305	土師器	小皿	T4	Tm23	SD6167	6.5	1.2	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰褐7.5YR5/2	10/12	
1024	24207	土師器	小皿	T4	Tn22	SD6167	6.3	1.5	—	内：ナデ 外：指オサエ	灰白10YR8/2	5/12	
1025	23404	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	6.5	1.7	—	内：ナデ 外：指オサエ	浅黄橙10YR8/3	11/12	口縁歪み大きい
1026	24701	土師器	小皿	T4	Ts21	SD6167	6.4	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	5/12	
1027	24008	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	6.4	1.3	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	浅黄橙10YR8/3	3/12	口縁歪み大きい
1028	24003	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	6.4	1.1	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙5YR7/4	5/12	
1029	24007	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	6.4	1.2	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	7/12	外面煤付着？
1030	22607	土師器	小皿	T4	Tl23	SD6167	6.4	1.2	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	浅黄橙10YR8/3	5/12	
1031	23208	土師器	小皿	T4	Tm23	SD6167	6.5	1.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	12/12	口縁部煤付着
1032	23302	土師器	小皿	T4	Tm23	SD6167	6.5	1.5	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	12/12	口縁部煤付着
1033	24604	土師器	小皿	T4	To22	SD6167	7.0	1.3	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：にぶい橙5YR7/3、にぶい黄橙10YR7/3	3/12	
1034	23602	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	6.6	1.5	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白2.5Y8/2	12/12	
1035	24402	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	7.7	1.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄褐10YR5/2、灰黄褐10YR4/2	6/12	内面煤付着
1036	23405	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	7.7	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	12/12	
1037	23306	土師器	小皿	T4	Tm23	SD6167	7.9	1.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：浅黄橙7.5YR8/4 外：にぶい橙7.5YR7/4	4/12	
1038	23905	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	8.0	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	12/12	
1039	22905	土師器	小皿	T4	Tm23	SD6167	8.0	1.4		内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	4/12	
1040	24110	土師器	小皿	T4	Tn22	SD6167	8.2	1.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	7/12	
1041	24209	土師器	小皿	T4	Tn22	SD6167	8.3	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい褐7.5YR6/3	3/12	内外面煤付着
1042	24206	土師器	小皿	T4	Tn22	SD6167	8.4	1.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰黄褐10YR6/2	4/12	
1043	24203	土師器	小皿	T4	Tn22	SD6167	8.4	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰白7.5YR8/2	11/12	
1044	24001	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	8.6	1.4	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰黄2.5Y7/2	2/12	
1045	23304	土師器	小皿	T4	Tm23	SD6167	8.4	1.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：灰白10YR8/2 外：にぶい橙7.5YR7/4	6/12	
1046	24201	土師器	小皿	T4	Tn22	SD6167	8.2	1.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	12/12	
1047	23904	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	8.6	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	9/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1048	24705	土師器	小皿	T4	To22	SD6167	8.4	1.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	8/12	内面煤付着
1049	24404	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	4.6	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	3/12	
1050	23903	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	8.6	1.6	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	暗灰N3/	6/12	
1051	24005	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	8.6	1.4	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白2.5Y7/1	3/12	口縁部・内面煤付着
1052	24605	土師器	小皿	T4	To22	SD6167	9.0	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	2/12	
1053	24408	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	9.0	1.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
1054	24602	土師器	小皿	T4	To22	SD6167	9.0	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	6/12	口縁部煤付着
1055	24406	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	9.2	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	1/12	
1056	24204	土師器	小皿	T4	Tn22	SD6167	9.0	1.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	5/12	
1057	24405	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	9.4	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	5/12	
1058	24403	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	9.4	1.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	4/12	
1059	24401	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	9.4	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	11/12	外面煤付着
1060	24202	土師器	小皿	T4	Tn22	SD6167	9.6	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰白2.5Y7/1、にぶい黄橙10YR7/3	5/12	
1061	22705	土師器	小皿	T4	T123	SD6167	9.7	1.4	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
1062	23906	土師器	皿	T4	Tn23	SD6167	10.0	1.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	3/12	
1063	23406	土師器	小皿	T4	Tn23	SD6167	9.7	2.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	9/12	
1064	24703	土師器	皿	T4	To22	SD6167	10.0	1.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
1065	23408	土師器	皿	T4	Tn23	SD6167	10.0	2.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	10/12	
1066	23206	土師器	皿	T4	Tm23	SD6167	10.0	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	10/12	
1067	23502	土師器	皿	T4	Tn23	SD6167	10.0	1.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	12/12	内面煤付着
1068	23403	土師器	皿	T4	Tn23	SD6167	10.0	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	8/12	口縁歪み大きい
1069	22904	土師器	小皿	T4	Tm23	SD6167	9.9	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	12/12	
1070	24002	土師器	皿	T4	Tn23	SD6167	10.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：浅黄橙7.5YR8/3 外：にぶい黄橙10YR9/3	3/12	
1071	23301	土師器	皿	T4	Tm23	SD6167	10.4	1.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	6/12	
1072	24407	土師器	皿	T4	Tn23	SD6167	10.0	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	4/12	
1073	23207	土師器	皿	T4	Tm23	SD6167	10.3	1.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	5/12	
1074	23402	土師器	皿	T4	Tn23	SD6167	10.2	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	11/12	
1075	24704	土師器	皿	T4	To22	SD6167	11.0	1.5	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	3/12	
1076	24104	土師器	皿	T4	Tn22	SD6167	10.8	2.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	3/12	
1077	24603	土師器	皿	T4	To22	SD6167	11.0	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：灰5Y4/1 外：黄灰2.5Y6/1	2/12	
1078	23303	土師器	皿	T4	Tm23	SD6167	12.0	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
1079	23106	土師器	皿	T4	Tm23	SD6167	12.0	2.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	3/12	
1080	23105	土師器	皿	T4	Tm23	SD6167	13.3	2.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	3/12	
1081	23205	土師器	皿	T4	Tm23	SD6167	15.4	2.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	3/12	
1082	22903	土師器	皿	T4	T123	SD6167	15.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	9/12	
1083	22706	土師器	皿	T4	T123	SD6167	15.4	2.4	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	1/12	
1084	24004	土師器	台付椀	T4	Tn23	SD6167	8.6	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	4/12	
1085	23407	土師器	台付椀	T4	Tn23	SD6167	9.5	4.0	4.6	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	8/12	
1086	23401	土師器	蓋	T4	Tn23	SD6167	11.7	1.7	7.6	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	12/12	外面煤付着
1087	23701	土師器	茶釜	T4	Tn23	SD6167	13.0	—	—	内：指オサエ、ナデ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	10/12	外面煤付着
1088	23601	土師器	茶釜	T4	Tn23	SD6167	14.2	—	—	内：工具ナデ、ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	12/12	外面煤付着
1089	22704	土師器	甕	T4	T123	SD6167	19.5	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
1090	22703	土師器	甕	T4	T123	SD6167	24.6	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/2	1/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1091	22603	土師器	鍋	T4	T123	SD6167	23.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ハケ、ヨコナデ	橙5YR7/6	2/12	外面煤付着
1092	24601	土師器	鍋	T4	To22	SD6167	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ？、ヨコナデ	内：黄灰2.5Y5/1 外：暗灰N3/	小片	外面煤付着
1093	24102	土師器	鍋	T4	Tn22	SD6167	22.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい褐7.5YR6/3	1/12	外面煤付着
1094	22604	土師器	甕	T4	T123	SD6167	23.6	—	—	内：ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
1095	23202	土師器	鍋	T4	Tm23	SD6167	23.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	5/12	
1096	23204	土師器	鍋	T4	Tm23	SD6167	20.9	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	内：灰黄褐10YR5/2 外：黒N2/	1/12	外面煤付着
1097	23803	土師器	鍋	T4	Tn23	SD6167	22.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
1098	22803	土師器	鍋	T4	Tm23	SD6167	23.2	—	—	内：工具ナデ？、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ？、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
1099	23802	土師器	鍋	T4	Tn23	SD6167	39.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	黒2.5Y2/1	2/12	外面煤付着、内面コゲ付着
1100	22801	土師器	鍋	T4	T123	SD6167	40.0	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	内：にぶい橙7.5YR7/3 外：にぶい黄橙10YR7/3	5/12	内面コゲ付着？
1101	23901	土師器	鍋	T4	Tn23	SD6167	40.0	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ？、指オサエ、ハケ、ヨコナデ	内：黒褐10YR3/1 外：黒N2/	1/12	外面煤付着、内面コゲ付着
1102	22601	土師器	鍋	T4	T123	SD6167	41.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/3 外：にぶい黄橙10YR7/3	1/12	外面煤付着
1103	23102	陶器	山茶椀	T4	Tm23	SD6167	14.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白N7/	2/12	施釉
1104	23103	陶器	山茶椀	T4	Tm23	SD6167	15.6	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	2/12	
1105	23004	陶器	山茶椀	T4	Tm23	SD6167	17.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白7.5Y7/1	2/12	内外面炭化物付着
1106	23005	陶器	山茶椀	T4	Tm23	SD6167	16.0	5.8	7.3	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白N7/	3/12	内外面炭化物付着、施釉
1107	22701	陶器	山茶椀	T4	T123	SD6167	15.6	6.3	6.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	12/12	輪花、施釉
1108	23201	陶器	山茶椀	T4	Tm23	SD6167	16.5	5.7	7.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	6/12	輪花
1109	23006	陶器	山茶椀	T4	Tm23	SD6167	—	—	7.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ナデ	灰黄2.5Y7/2	4/12	内面炭化物付着
1110	22902	陶器	山茶椀	T4	T123	SD6167	—	—	7.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ナデ	内：灰白N7/ 外：灰白2.5Y7/1	9/12	
1111	23002	陶器	山茶椀	T4	Tm23	SD6167	—	—	7.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白N7/	12/12	内面・断面炭化物付着
1112	23107	陶器	山茶椀	T4	Tm23	SD6167	7.6	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白N7/	4/12	二次被熱
1113	23001	陶器	山茶椀	T4	Tm23	SD6167	16.4	5.5	7.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ナデ	灰白5Y8/1	11/12	
1114	23902	陶器	丸碗	T4	Tn23	SD6167	10.0	5.6	3.8	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白10Y8/1 釉：褐7.5YR4/3	2/12	鉄釉
1115	24103	陶器	丸皿	T4	Tn22	SD6167	9.4	2.4	5.5	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白10YR8/2 釉：にぶい赤褐5YR4/3	4/12	瀬戸美濃産、鉄釉
1116	24706	陶器	稜皿	T4	Tr21	SD6167	11.0	2.4	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	褐7.5YR4/3	2/12	瀬戸美濃産、鉄釉
1117	23603	陶器	水注？	T4	Tn23	SD6167	—	—	9.0	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y7/1 釉：黒褐2.5Y3/2	2/12	瀬戸美濃産、鉄釉、茶入？
1118	22702	陶器	捏鉢？	T4	T123	SD6167	26.8	9.1	11.0	内：ロクロナデ 外：工具ナデ、ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	4/12	片口鉢？
1119	24303	陶器	捏鉢	T4	Tn23	SD6167	—	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい褐2.5YR6/4	小片	常滑産
1120	24302	陶器	捏鉢	T4	Tn23	SD6167	—	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/3	小片	常滑産
1121	24101	陶器	捏鉢	T4	Tn22	SD6167	—	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙2.5YR6/4	2/12	口縁歪み大きい
1122	23003	陶器	捏鉢	T4	Tm23	SD6167	28.4	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4、灰褐5YR4/2	2/12	常滑産、内面摩耗
1123	23101	陶器	甕	T4	Tm23	SD6167	31.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰褐5YR5/2、灰褐5YR4/2	3/12	常滑産
1124	22901	陶器	甕	T4	T123	SD6167	—	—	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	灰赤2.5Y4/2	小片	常滑産
1125	24301	陶器	甕	T4	Tn23	SD6167	35.6	—	—	内：指オサエ、工具ナデ、ロクロナデ 外：工具ナデ、ロクロナデ	褐灰5YR5/1、にぶい赤褐5YR5/3	2/12	常滑産
1126	23503	陶器	甕	T4	Tn23	SD6167	37.5	—	—	内：ナデ、ロクロナデ 外：工具ナデ、ロクロナデ	胎：褐灰10YR4/1 釉：にぶい赤褐5YR4/3	1/12	常滑産
1127	23801	陶器	甕	T4	Tn23	SD6167	42.0	—	—	内：ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙2.5YR6/4 外：灰褐7.5YR6/2	1/12	常滑産
1128	24502	陶器	甕	T4	To22	SD6167	—	—	14.5	内：ナデ 外：指オサエ、工具ナデ	灰黄褐10YR6/2	12/12	常滑産
1129	22802	陶器	甕？	T4	Tm23	SD6167	—	—	14.5	内：工具ナデ 外：指オサエ、ナデ	内：灰褐5YR6/2 外：にぶい褐7.5YR6/3	3/12	常滑産

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1130	24501	陶器	甕	T4	To22	SD6167	—	—	14.2	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	内：黄灰2.5Y6/1 外：灰白N8/	8/12	渥美産
1131	24304	陶器	加工円盤	T4	Tn23	SD6167	長 5.2	幅 5.0	厚 1.7	打欠	灰褐5YR5/2	完形	重さ45.0g、常滑産甕転用
1132	24707	陶器	加工円盤	T4	To22	SD6167	長 4.2	幅 4.1	厚 1.4	打欠	灰褐5YR4/2	完形	重さ33.0g、常滑産甕転用
1133	24410	磁器	白磁皿	T4	Tn23	SD6167	12.0	2.7	6.2	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	灰白N8/	1/12	
1134	20709	縄文土器	深鉢	T4	Vp4	SD6190	—	—	—	内：工具ナデ 外：区画文、矢羽根状文	内：にぶい黄橙10YR7/2 外：にぶい黄橙10YR5/3	小片	
1135	20605	土師器	小皿	T4	Vq3	SD6190	7.8	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	10/12	
1136	20701	土師器	小皿	T4	Vp4	SD6190	8.1	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	11/12	
1137	20602	土師器	小皿	T4	Vq3	SD6190	8.0	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	9/12	
1138	20306	土師器	小皿	T4	Vr1	SD6190	8.2	1.4	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	4/12	
1139	20702	土師器	小皿	T4	Vp4	SD6190	8.2	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	10/12	
1140	20604	土師器	小皿	T4	Vq3	SD6190	8.2	1.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	11/12	
1141	20304	土師器	小皿	T4	Vr1	SD6190	8.1	1.7	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	5/12	
1142	20603	土師器	小皿	T4	Vq3	SD6190	8.7	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	7/12	
1143	20606	土師器	小皿	T4	Vq3	SD6190	8.8	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	4/12	
1144	20704	土師器	皿	T4	Vp4	SD6190	10.0	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	4/12	
1145	20303	土師器	小皿	T4	Vr1	SD6190	9.9	1.5	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	3/12	
1146	20305	土師器	皿	T4	Vr1	SD6190	10.1	2.0	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	9/12	
1147	20703	土師器	皿	T4	Vp4	SD6190	10.2	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	4/12	
1148	20705	土師器	皿	T4	Vp4	SD6190	10.8	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/1	3/12	
1149	20608	土師器	鍋	T4	Vp4	SD6190	19.3	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/4	4/12	
1150	20607	土師器	鍋	T4	Vp4	SD6190	21.2	—	—	内：ケズリ、ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：褐灰10YR6/1、褐灰10YR4/1 外：にぶい黄橙10YR7/3	2/12	外面煤付着
1151	20601	陶器	天目茶碗	T4	Vq3	SD6190	12.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：浅黄橙10YR8/3 釉：褐7.5YR6/3、黒7.5YR2/1	5/12	瀬戸美濃産、鉄釉
1152	20708	陶器	碗	T4	Vp4	SD6190	—	—	4.0	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：黒褐7.5YR3/1、灰白2.5GY8/1	12/12	灰釉
1153	20706	陶器	加工円盤	T4	Vp4	SD6190	長 6.5	幅 5.8	厚 1.0	打欠	にぶい橙7.5YR7/4	完形	重さ35.0g、陶器転用
1154	20707	陶器	加工円盤	T4	Vp4	SD6190	長 4.3	幅 4.3	厚 1.7	打欠、研磨	表：にぶい褐7.5YR5/3 裏：褐灰10YR5/1	完形	重さ37.3g、常滑産甕転用
1155	45706	土師器	小皿	T4	To8	Pit1	7.4	1.8	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	8/12	
1156	45503	土師器	小皿	T4	Rg23	Pit5	8.9	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	
1157	45705	土師器	皿	T4	Rh23	Pit1	10.1	1.7	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	7/12	
1158	45504	土師器	皿	T4	Rl24	Pit4	11.0	1.5	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	
1159	45902	土製品	土錘	T4	Ro25	Pit3	長 5.1	幅 1.95	厚 1.95	ナデ？	灰白10YR8/2	一部欠	重さ14.6g
1160	45401	陶器	捏鉢	T4	Rn25	Pit11	38.2	—	—	内：ロクロナデ？ 外：指オサエ、ヨコナデ？	内：橙5YR6/6 外：にぶい赤褐5YR5/3	2/12	
1161	45502	磁器	白磁碗	T4	Rj23	Pit4	—	—	6.0	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ	灰白10Y8/1	4/12	
1162	07406	陶器	丸碗	T4	To4	SE6124 井戸枠内	9.1	5.8	5.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	胎：灰白5Y8/1 釉：褐7.5YR4/4	12/12	鉄釉
1163	07501	陶器	擂鉢	T4	To4	SE6124	36.0	—	—	内：ヨコナデ、擂目 外：ヨコナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：褐7.5YR4/3、暗褐7.5YR3/3	1/12	瀬戸美濃産
1164	07403	陶器	加工円盤	T4	To4	SE6124	長 4.6	幅 5.0	厚 1.5	打欠	にぶい褐7.5YR6/3	完形	重さ37.0g、常滑産甕転用
1165	17001	土師器	皿	T4	Ri23	SE6144	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白2.5Y8/2	小片	
1166	17002	土師器	皿	T4	Ri23	SE6144 井戸枠内	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	小片	
1167	16902	土師器	鍋	T4	Ri23	SE6144	34.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	外面煤付着
1168	16905	陶器	摺絵皿	T4	Ri23	SE6144-A 井戸枠内	12.0	2.4	7.2	内：ロクロナデ、梅文？ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：灰白2.5Y8/2	2/12	瀬戸美濃産

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1169	18901	陶器	井戸枠	T4	Ri23	SE6144-A	61.2	54.8	55.6	内：指オサエ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR 7/4 外：浅黄橙7.5YR8/6	12/12	常滑産？
1170	07303	陶器	擂鉢	T4	Tq25	SE6171 井戸枠内	—	—	21.6	内：ロクロナデ、擂目 外：ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：灰褐7.5YR42	1/12	瀬戸美濃産
1171	07302	陶器	火鉢	T4	Tq25	SE6171	24.2	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	橙7.5YR7/6	1/12	常滑産
1172	18204	土師器	小皿	T4	Vp3	SE6184 井戸枠内	4.1	0.8	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	橙5YR8/6	7/12	
1173	18205	土師器	小皿	T4	Vp3	SE6184 井戸枠内	4.9	1.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	7/12	
1174	18302	土師器	小皿	T4	Vp3	SE6184 井戸枠内	6.8	1.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	12/12	口縁歪み大きい
1175	18304	土師器	焙烙	T4	Vp3	SE6184 井戸枠内	33.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4、 褐灰10YR4/1	1/12	外面煤付着
1176	18107	陶器	小碗	T4	Vp3	SE6184 井戸枠内	6.4	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ	胎：褐灰10YR6/1 釉：灰オリーブ5Y 6/2	5/12	灰釉
1177	18103	陶器	丸碗	T4	Vp3・4	SE6184 井戸枠内	—	—	3.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：白7.5Y8/1 釉：にぶい赤褐5YR 4/4	6/12	
1178	18101	陶器	丸碗	T4	Vp3	SE6184 井戸枠内	8.6	4.9	3.2	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：にぶい褐7.5YR 5/3	12/12	瀬戸美濃産、鉄釉
1179	18104	陶器	腰錆茶碗	T4	Vp3	SE6184 井戸枠内	8.7	5.6	3.0	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ、カキメ	胎：灰白10YR8/1 釉：灰白5Y8/2、極暗赤褐5YR2/3	9/12	瀬戸美濃産
1180	18106	陶器	丸皿	T4	Vp3	SE6184 井戸枠内	11.0	17.5	6.5	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/1 釉：灰白2.5Y7/1	1/12	瀬戸美濃産
1181	18201	陶器	擂鉢	T4	Vp3	SE6184 井戸枠内	35.8	—	—	内：ロクロナデ、擂目 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：にぶい黄橙10YR 7/2 釉：暗褐7.5Y3/3	1/12	瀬戸美濃産
1182	18202	陶器	練鉢？	T4	Vp3	SE6184 井戸枠内	15.2	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白5Y8/1 釉：灰白5Y8/2	2/12	灰釉
1183	18105	陶器	火鉢	T4	Vp3・4	SE6184 井戸枠内	14.6	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR 7/4 外：橙2.5YR6/6	12/12	常滑産
1184	18301	陶器	鬢盥	T4	Vp3	SE6184 井戸枠内	12.6	3.8	12.2	内：ナデ 外：ケズリ、ナデ、藤文	胎：灰白2.5Y8/2 釉：灰白5Y8/2	12/12	瀬戸美濃産、摺絵
1185	19001	陶器	井戸枠	T4	Vp3	SE6184	60.6	57.5	58.2	内：ケズリ、指オサエ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙5YR6/4 外：橙5YR7/6	12/12	
1186	18203	磁器	染付丸碗	T4	Vp3	SE6184 井戸枠内	9.4	4.9	3.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、草花文	胎：灰白7.5Y8/1 釉：灰白5GY8/1	5/12	肥前産
1187	18102	磁器	染付丸碗	T4	Vp3	SE6184 井戸枠内	9.3	5.6	3.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、梅文？、渦福？	胎：灰白N8/ 釉：灰白2.5GY8/1	9/12	肥前産
1188	04504	須恵器	瞭	T4	Tp21・22	SK6076	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	内：灰白2.5Y8/2 外：黄灰2.5Y6/1	肩部4/12	孔遺存しない
1189	13915	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	5.3	1.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	10/12	
1190	32802	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	5.0	0.9	—	内：ナデ 外：指オサエ	にぶい橙7.5YR7/4	12/12	
1191	13914	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	5.4	0.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	6/12	
1192	32803	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	5.5	1.0	—	内：ナデ 外：指オサエ	にぶい橙7.5YR	7/12	
1193	32607	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	5.9	0.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	7/12	口縁歪み大きい
1194	14008	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	6.8	0.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	3/12	
1195	14007	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	6.8	0.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	明赤褐5YR5/6	3/12	
1196	13906	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	6.9	1.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙5YR6/4 外：褐灰7.5YR4/1	3/12	口縁部煤付着
1197	14006	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	7.0	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	4/12	
1198	04503	土師器	小皿	T4	Tp21・22	SK6076	6.9	1.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	口縁部煤付着
1199	13905	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	6.9	1.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR6/6	4/12	
1200	14001	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	7.0	1.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR6/6	6/12	
1201	32608	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	7.0	1.05	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	明赤褐5YR5/6	4/12	
1202	32804	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	7.2	1.1	—	内：ナデ 外：指オサエ	橙5YR6/6	4/12	
1203	13916	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	7.4	1.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	6/12	口縁部煤付着
1204	32602	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	7.2	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	12/12	口縁部煤付着
1205	14003	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	7.2	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	橙5YR6/6	4/12	
1206	32704	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	7.2	1.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	7/12	
1207	32801	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	7.2	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	12/12	口縁部煤付着
1208	13908	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	7.2	0.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	内：橙5YR6/8 外：橙5YR6/6	4/12	
1209	32603	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	7.6	1.05	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	11/12	口縁部煤付着、口縁歪み大きい

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1210	32710	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	7.6	0.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	7/12	口縁部煤付着
1211	32606	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	7.6	1.25	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	4/12	
1212	32708	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	7.6	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	4/12	口縁部煤付着
1213	13904	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	7.8	1.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR6/6	4/12	
1214	14004	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	8.0	1.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	明赤褐5YR5/6	2/12	
1215	32609	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	8.0	1.45	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	4/12	
1216	32703	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	8.0	1.6	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	浅黄橙10YR8/3	4/12	
1217	13912	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	7.9	1.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR6/6	2/12	
1218	32604	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	8.0	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	11/12	口縁部煤付着
1219	13909	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	7.9	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	3/12	
1220	14005	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	8.0	1.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	橙7.5YR7/6	3/12	
1221	32805	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	7.6	0.95	—	内：ナデ 外：指オサエ	橙5YR6/6	4/12	口縁部煤付着
1222	32709	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	8.0	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	3/12	口縁部煤付着
1223	32707	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	8.0	1.35	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/1	3/12	
1224	13913	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	8.5	1.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	4/12	
1225	13907	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	8.2	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	2/12	
1226	32702	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	8.8	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/3 外：にぶい黄橙10YR7/3	12/12	
1227	32701	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	8.8	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：浅黄橙7.5YR8/3 外：にぶい黄橙10YR7/3	12/12	口縁部煤付着
1228	13902	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	8.7	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	12/12	内面煤付着
1229	32610	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	8.8	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	11/12	口縁部煤付着
1230	32605	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	9.0	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	12/12	口縁部煤付着
1231	32806	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	9.0	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	5/12	
1232	13903	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	8.6	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	5/12	
1233	32601	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	9.2	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	10/12	口縁部煤付着
1234	32711	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	9.0	1.55	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR6/4	4/12	
1235	32612	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	9.0	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	3/12	
1236	14002	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	9.0	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	内：橙7.5YR7/6 外：橙7.5YR6/6	3/12	
1237	13910	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	9.5	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR6/4	2/12	
1238	32706	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	9.4	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR6/4	4/12	口縁部煤付着
1239	32705	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	9.4	1.25	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR6/4	3/12	
1240	13911	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	9.8	1.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	2/12	
1241	32712	土師器	小皿	T4	Tp22	SK6076	9.4	1.25	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	5/12	
1242	32611	土師器	皿	T4	Tp22	SK6076	10.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR6/4	2/12	
1243	13901	土師器	皿	T4	Tp22	SK6076	12.7	2.5	—	内：ヨコナデ、ハケ、ナデ 外：ヨコナデ、ナデ	橙5YR6/6	4/12	
1244	13401	土師器	茶釜	T4	Tp22	SK6076	11.6	18.0	—	内：ナデ、ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ 外：ナデ、ケズリ、ヨコナデ、ハケ	橙5YR6/6	11/12	外面煤付着
1245	13601	土師器	茶釜	T4	Tp22	SK6076	12.5	18.2	—	内：ヨコナデ、工具ナデ、ケズリ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ、ハケ	にぶい橙5YR6/4	10/12	外面煤付着
1246	04406	土師器	鍋	T4	Tp21・22	SK6076	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい赤褐5YR5/4	小片	外面煤付着
1247	32903	土師器	焙烙	T4	Tp22	SK6076	36.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	1/12	外面煤付着、内面コゲ付着
1248	32901	土師器	焙烙	T4	Tp22	SK6076	36.8	—	—	内：ナデ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、指オサエ、ヨコナデ	橙5YR7/6	2/12	外面煤付着
1249	14602	土師器	焙烙	T4	Tp22	SK6076	38.0	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ヨコナデ	内：にぶい赤褐5YR5/3 外：褐灰5YR4/1	2/12	外面煤付着
1250	14603	土師器	焙烙	T4	Tp22	SK6076	39.6	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、工具ナデ、指オサエ、ヨコナデ	内：灰褐7.5YR6/2 外：黒褐2.5Y3/1	4/12	外面煤付着

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1251	14501	土師器	焙烙	T4	Tp22	SK6076	38.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙 7.5YR6/4、 灰褐7.5YR5/2 外：黒褐10YR3/1	2/12	外面煤付着
1252	13701	土師器	焙烙	T4	Tp22	SK6076	40.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ、ケズリ 外：ナデ、ヨコナデ、ケズリ	内：灰褐5YR5/2 外：黒褐7.5YR3/1	3/12	外面煤付着
1253	32902	土師器	焙烙	T4	Tp22	SK6076	40.7	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	1/12	外面煤付着
1254	14401	土師器	焙烙	T4	Tp22	SK6076	42.3	—	—	内：ハケ、ナデ、ケズリ 外：ナデ、ヨコナデ、ケズリ	内：にぶい橙 7.5YR6/4、灰黄褐 10YR5/2 外：褐灰7.5YR4/1	3/12	外面煤付着
1255	14601	土師器	焙烙	T4	Tp22	SK6076	42.0	—	—	内：工具ナデ？、指オサエ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/2 外：黒褐2.5Y3/1	2/12	外面煤付着
1256	14402	土師器	焙烙	T4	Tp22	SK6076	46.9	—	—	内：ケズリ、ナデ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	内：灰褐7.5YR6/2 外：褐灰7.5YR4/1、 にぶい橙5YR6/4	3/12	外面煤付着
1257	38605	土製品	玩具	T4	Tp22	SK6076	—	—	厚3.0	ナデ、線刻	にぶい橙7.5YR7/4	一部欠	人形
1258	33006	土製品	玩具	T4	Tp22	SK6076	—	—	—	内：ナデ 外：線刻	にぶい橙7.5YR6/4	小片	太鼓形？
1259	14306	陶器	碗	T4	Tp22	SK6076	—	—	3.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：灰白7.5Y7/1	12/12	
1260	14305	陶器	丸碗	T4	Tp22	SK6076	—	—	5.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/1 釉：暗褐7.5YR3/4	6/12	
1261	14205	陶器	腰錆茶碗	T4	Tp22	SK6076	9.6	5.8	4.1	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、カキメ	胎：灰白7.5Y8/2 釉：暗オリーブ褐 2.5Y3/3	8/12	瀬戸美濃産
1262	14705	陶器	丸碗	T4	Tp22	SK6076	9.0	5.2	3.9	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	釉：灰白5Y7/2、 灰オリーブ5Y5/3、 黒褐10YR2/2	1/12	鉄釉
1263	14706	陶器	丸碗	T4	Tp22	SK6076	9.6	5.5	3.7	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：にぶい赤褐 5YR4/3	2/12	
1264	14703	陶器	丸碗	T4	Tp22	SK6076	10.0	5.5	3.7	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白5Y8/1 釉：灰白5Y8/2	7/12	灰釉
1265	14704	陶器	拳骨茶碗	T4	Tp22	SK6076	10.0	6.2	4.3	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：黒10YR2/1	3/12	瀬戸美濃産、鉄釉
1266	14303	陶器	梅文皿	T4	Tp22	SK6076	—	—	3.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	胎：灰白2.5Y8/1 釉：灰白10Y7/2、 浅黄5Y7/3	6/12	瀬戸美濃産
1267	38503	陶器	梅文皿	T4	Tp22	SK6076	—	—	4.2	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ、墨書	胎：灰白2.5Y8/1 釉：浅黄5Y7/3	7/12	瀬戸美濃産、墨書「田」
1268	38501	陶器	梅文皿	T4	Tp22	SK6076	11.8	4.4	4.4	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ、墨書	胎：灰白2.5Y8/1 釉：淡黄5Y8/3	10/12	瀬戸美濃産、墨書「田」
1269	38502	陶器	梅文皿	T4	Tp22	SK6076	11.2	4.7	3.8	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ、墨書	胎：灰白2.5Y8/1 釉：淡黄5Y8/3	7/12	瀬戸美濃産、墨書「田」
1270	14203	陶器	梅文皿	T4	Tp22	SK6076	11.0	4.3	3.9	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	浅黄5Y8/3	6/12	瀬戸美濃産
1271	14304	陶器	梅文皿？	T4	Tp22	SK6076	—	—	4.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白2.5Y7/1 釉：浅黄2.5Y7/3	3/12	灰釉
1272	14201	陶器	摺絵皿	T4	Tp22	SK6076	13.3	2.8	7.0	内：ロクロナデ、梅文 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	灰白5Y8/2	2/12	瀬戸美濃産
1273	14702	陶器	摺絵皿	T4	Tp22	SK6076	—	—	6.8	内：ロクロナデ、梅文 外：ロクロナデ	灰白5Y8/1	12/12	瀬戸美濃産
1274	14202	陶器	輪花皿	T4	Tp22	SK6076	12.7	2.6	2.6	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ	灰白5Y8/2	7/12	瀬戸美濃産
1275	32807	陶器	輪禿皿	T4	Tp22	SK6076	15.6	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/1 釉：灰白5Y7/2	3/12	瀬戸美濃産、灰釉
1276	14804	陶器	鉢？	T4	Tp22	SK6076	—	—	8.3	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：にぶい黄 2.5Y6/4	12/12	底部内面ピン痕
1277	14904	陶器	鉢？	T4	Tp22	SK6076	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	釉：灰褐7.5YR4/2、 浅黄橙7.5YR8/6	小片	
1278	14803	陶器	練鉢？	T4	Tp22	SK6076	15.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白5Y8/2	1/12	
1279	13801	陶器	擂鉢	T4	Tp22	SK6076	30.0	—	—	内：ロクロナデ、擂目 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	灰褐5YR5/2	2/12	瀬戸美濃産
1280	13702	陶器	擂鉢	T4	Tp22	SK6076	32.0	—	—	内：ロクロナデ、擂目 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	灰褐7.5YR4/2	2/12	瀬戸美濃産
1281	14901	陶器	擂鉢	T4	Tp22	SK6076	27.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/1 釉：にぶい赤褐5YR 5/4	1/12	瀬戸美濃産
1282	14707	陶器	灯明受皿	T4	Tp22	SK6076	11.0	2.0	6.8	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：浅黄橙10YR8/3 釉：赤灰10R5/1	3/12	口縁部煤付着
1283	33003	陶器	秉燭	T4	Tp22	SK6076	4.0	2.0	3.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	胎：灰白2.5Y8/2 釉：灰黄2.5Y7/2	12/12	瀬戸美濃産、灰釉
1284	32808	陶器	灯明受皿	T4	Tp22	SK6076	8.2	6.0	5.5	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白5Y8/1 釉：灰褐7.5Y4/2、 黒7.5YR2/1	2/12	瀬戸美濃産、鉄釉
1285	13501	陶器	竈	T4	Tp22	SK6076	23.6	21.9	19.7	内：ナデ、ロクロナデ、工具ナデ、指オサエ 外：ロクロナデ、工具ナデ、指オサエ	灰白2.5Y7/1	6/12	常滑産、底部外面離れ砂
1286	14905	陶器	火鉢？	T4	Tp22	SK6076	—	—	—	内：不明 外：不明	内：灰褐7.5YR4/2 外：浅黄橙7.5YR8/6	小片	口縁部煤付着、風化著しい
1287	14801	陶器	十能	T4	Tp22	SK6076	—	—	—	内：ロクロナデ、ナデ 外：ロクロケズリ、ナデ	灰赤2.5YR4/2	4/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1288	33005	陶器	十能	T4	Tp22	SK6076	—	—	—	内：ナデ 外：ロクロナデ、ナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：にぶい褐 7.5YR5/3	把手	
1289	14802	陶器	甕	T4	Tp22	SK6076	21.0	—	—	内：指オサエ、ナデ、ロクロナデ 外：工具ナデ、ロクロナデ	内：褐灰5YR5/1 外：灰褐5YR6/2	2/12	常滑産？
1290	04502	陶器	甕	T4	Tp21・22	SK6076	25.4	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰褐5YR4/2	2/12	常滑産
1291	13802	陶器	甕	T4	Tp22	SK6076	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	内：にぶい赤褐 7.5R4/3 外：灰褐7.5R4/2	小片	常滑産
1292	13803	陶器	甕	T4	Tp22	SK6076	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	にぶい橙5YR6/4	小片	常滑産
1293	33001	陶器	仏餉具	T4	Tp22	SK6076	7.2	4.7	4.2	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ？、ロクロナデ	胎：灰白N8/ 釉：灰白7.5Y7/1	3/12	瀬戸美濃産
1294	33002	陶器	仏餉具	T4	Tp22	SK6076	—	—	5.0	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ？、ロクロナデ	胎：灰白N8/ 釉：灰白10Y7/1	10/12	瀬戸美濃産、灰釉
1295	14302	磁器	染付丸碗	T4	Tp22	SK6076	9.4	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、草花文	明オリーブ灰 2.5GY7/1	4/12	肥前産
1296	14104	磁器	染付丸碗	T4	Tp22	SK6076	10.4	5.3	3.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、梅文	灰白7.5Y7/1	6/12	
1297	14701	磁器	染付丸碗	T4	Tp22	SK6076	8.2	4.5	3.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、草花文？	胎：灰白7.5Y7/1 釉：明オリーブ灰 2.5GY7/1	5/12	肥前産
1298	14301	磁器	染付丸碗	T4	Tp22	SK6076	9.8	5.0	3.9	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、網目文	灰白2.5GY8/1	8/12	肥前産
1299	14102	磁器	染付丸碗	T4	Tp22	SK6076	9.6	5.4	4.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、草花文	灰白2.5GY8/1	7/12	肥前産
1300	14105	磁器	染付丸碗	T4	Tp22	SK6076	10.0	5.5	4.1	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、桐文	明オリーブ灰 2.5GY7/1	10/12	肥前産
1301	14103	磁器	染付丸碗	T4	Tp22	SK6076	—	—	4.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5GY8/1	3/12	
1302	14101	磁器	染付丸碗	T4	Tp22	SK6076	10.4	5.5	4.1	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、網目文	灰白10Y8/1	10/12	肥前産
1303	14307	磁器	青磁碗	T4	Tp22	SK6076	12.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、陰刻蓮弁文	胎：灰白7.5Y8/1 釉：オリーブ黄 7.5Y6/3	2/12	
1304	14204	磁器	皿	T4	Tp22	SK6076	10.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、楓文	灰白10Y8/1	2/12	蓋の可能性あり
1305	14902	磁器	瓶	T4	Tp22	SK6076	—	—	6.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：にぶい橙 7.5YR7/3 釉：灰褐10YR7/1	11/12	
1306	14903	磁器	瓶	T4	Tp22	SK6076	—	—	7.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、沈線	胎：灰白N8/ 釉：明オリーブ灰 2.5GY7/1	12/12	青磁釉
1307	17202	土師器	焙烙	T4	To22	SK6078	35.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ？、ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR6/6	1/12	内面コゲ付着
1308	17204	陶器	丸皿	T4	To22	SK6078	11.4	2.8	6.8	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：　浅黄2.5Y7/3	2/12	瀬戸美濃産
1309	17101	陶器	擂鉢	T4	To22	SK6078	32.0	12.5	13.6	内：ロクロナデ、擂目 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：浅黄2.5Y7/3 釉：灰褐5YR4/2	4/12	瀬戸産
1310	17201	陶器	甕	T4	To22	SK6078	30.0	—	—	内：指オサエ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	橙5YR7/6	小片	常滑産、内面煤付着
1311	17203	磁器	染付皿	T4	To22	SK6078	13.7	3.4	7.8	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白7.5Y8/1 釉：暗緑灰7.5GY8/1	1/12	肥前産？
1312	04505	土師器	鍋	T4	Tm24	SK6079	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：浅黄橙7.5YR8/3 外：浅黄2.5Y8/3	小片	
1313	38604	土製品	玩具	T4	Tm24	SK6079	長 6.8	—	幅 3.0	ナデ	灰白10YR8/2	一部欠	犬形
1314	04407	陶器	山茶椀	T4	Tm24	SK6079	—	—	5.4	内：ナデ、ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y8/1	12/12	
1315	07502	陶器	捏鉢	T4	To・p15	SK6103	38.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：橙5YR7/6 外：橙2.5YR6/6	1/12	常滑産
1316	05006	土師器	皿	T4	V13	SK6115	13.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白2.5Y8/2	1/12	
1317	05005	土師器	皿	T4	V13	SK6115	14.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	1/12	
1318	05004	土師器	鍋	T4	V13	SK6115	20.4	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	外面煤付着
1319	05102	陶器	丸碗	T4	V13	SK6115	10.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/1 釉：灰白5Y7/2	2/12	瀬戸美濃産、灰釉
1320	05205	陶器	丸碗	T4	V13	SK6115	9.8	5.6	2.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白5Y8/1	3/12	京・信楽系？、灰釉、上絵付
1321	05103	陶器	刷毛目茶碗	T4	V13	SK6115	—	—	5.7	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	胎：にぶい橙5YR6/3 釉：褐灰5YR5/1、 褐灰5YR4/1	6/12	肥前産？
1322	04605	陶器	水注	T4	V13	SK6115	—	—	7.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：灰白5Y7/2、 暗オリーブ5Y4/4	11/12	瀬戸美濃産、内面ピン痕、灰釉
1323	05104	陶器	擂鉢	T4	V13	SK6115	—	—	15.2	内：ロクロナデ、擂目 外：ロクロナデ、糸切痕	胎：灰白10YR8/2 釉：褐灰7.5YR3/1	1/12	瀬戸美濃産
1324	05101	陶器	半胴	T4	V13	SK6115	15.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰5Y5/1 釉：灰褐5YR4/2	2/12	瀬戸美濃産、鉄釉
1325	05203	磁器	染付小碗	T4	V13	SK6115	5.8	2.8	1.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、草文	胎：灰白N8/	3/12	肥前産
1326	05202	磁器	染付丸碗	T4	V13	SK6115	—	—	4.3	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白N8/	12/12	肥前産
1327	05204	磁器	染付丸碗	T4	V13	SK6115	10.1	4.5	3.9	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、氷裂文、花文	胎：灰白N8/	8/12	肥前産？

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1328	05105	磁器	染付丸碗	T4	V13	SK6115	10.2	5.2	4.1	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、草花文	胎：灰白N8/	3/12	肥前産
1329	05201	磁器	染付蓋	T4	V13	SK6115	9.6	2.5	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、草花文	胎：灰白N8/	6/12	肥前産、漆継ぎ痕
1330	05404	土師器	小皿	T4	Ro24	SK6138	4.8	1.0	—	内：ナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	にぶい橙7.5YR7/4	3/12	口縁部煤付着
1331	05403	土師器	茶釜	T4	Ro24	SK6138	11.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰白5Y8/2	2/12	
1332	05402	陶器	天目茶碗	T4	Ro24	SK6138	11.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	胎：灰白5Y7/1 釉：黒褐10YR3/1	1/12	瀬戸美濃産、鉄釉
1333	05301	陶器	擂鉢	T4	Ro24	SK6138	31.0	—	—	内：ロクロナデ、擂目 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	暗褐7.5YR5/3	2/12	瀬戸美濃産
1334	05303	陶器	灯明皿	T4	Ro24	SK6138	10.0	—	5.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	胎：灰白2.5Y7/1 釉：黄褐2.5Y5/4	4/12	瀬戸美濃産
1335	05302	陶器	火鉢	T4	Ro24	SK6138	22.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	内：にぶい橙 2.5Y6/3 外：黄灰2.5Y6/1	2/12	常滑産、内外面線刻状工具痕
1336	05705	土師器	小皿	T4	Rk23	SK6148	4.4	—	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	浅黄橙7.5YR8/3	2/12	口縁歪み大きい
1337	17902	土師器	焙烙	T4	Tm22・23	SK6162	39.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR6/4	1/12	外面煤付着、内面コゲ付着
1338	18006	陶器	小碗	T4	Tm22・23	SK6162	8.0	4.1	4.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	オリーブ褐2.5Y4/3	3/12	鉄釉
1339	07104	陶器	丸碗	T4	Tm22・23	SK6162	9.0	6.0	4.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	胎：灰白2.5Y8/1 釉：にぶい赤褐 5YR4/3	1/12	鉄釉
1340	18003	陶器	皿	T4	Tm22・23	SK6162	12.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ？、ロクロナデ	灰白5Y8/2	1/12	灰釉
1341	18002	陶器	摺絵皿	T4	Tm22・23	SK6162	—	—	14.0	内：ロクロナデ？、草花文？ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：灰白5Y8/2	11/12	瀬戸美濃産、底部内面ピン痕
1342	17801	陶器	擂鉢	T4	Tm22・23	SK6162	37.8	15.4	16.6	内：ロクロナデ、擂目 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	にぶい赤褐5YR5/4	3/12	瀬戸美濃産
1343	18001	陶器	火鉢	T4	Tm22・23	SK6162	30.4	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	内：褐灰10YR4/1 外：灰黄褐10YR6/2	1/12	内面煤付着
1344	07103	陶器	甕？	T4	Tm22・23	SK6162	20.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：灰褐7.5Y5/2、 にぶい橙2.5YR6/4 外：褐灰7.5YR4/1	1/12	
1345	18004	陶器	加工円盤	T4	Tm22・23	SK6162	長 4.0	幅 3.7	厚 1.4	打欠	内：橙2.5Y7/6 外：浅黄橙7.5YR8/3	完形	重さ20.73g、常滑産甕転用
1346	06006	土師器	小皿	T4	Tq23	SK6170	6.8	1.0	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	橙5YR6/6	3/12	
1347	06007	土師器	小皿	T4	Tq23	SK6170	8.7	1.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	にぶい褐7.5YR6/3	2/12	
1348	06008	土師器	小皿	T4	Tq23	SK6170	9.6	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	浅黄橙7.5YR8/4	5/12	
1349	06003	陶器	碗	T4	Tq23	SK6170	—	—	3.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	灰白2.5Y8/1	12/12	灰釉
1350	06005	陶器	丸碗？	T4	Tq23	SK6170	—	—	4.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	胎：灰白N8/ 釉：褐7.5YR4/3	5/12	瀬戸美濃産、鉄釉
1351	06001	陶器	徳利	T4	Tq23	SK6170	—	—	6.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	灰白5Y8/1	3/12	瀬戸美濃産、灰釉
1352	05907	陶器	甕	T4	Tq23	SK6170	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	にぶい赤褐2.5YR5/3、 にぶい橙5YR7/4	小片	常滑産
1353	06002	磁器	染付小碗	T4	Tq23	SK6170	7.9	3.5	3.3	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、草花文？	灰白N7/	1/12	
1354	06004	磁器	染付皿	T4	Tq23	SK6170	10.8	2.9	6.0	内：ロクロナデ、草花文 外：ロクロナデ	灰白5Y8/1	1/12	
1355	06101	土師器	小皿	T4	Vr2	SK6175	6.2	0.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	にぶい黄橙10YR6/3	3/12	
1356	06102	陶器	擂鉢	T4	Vr2	SK6175	—	—	—	内：ロクロナデ、擂目 外：ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：灰赤2.5Y4/2	小片	瀬戸美濃産
1357	06103	磁器	染付端反碗	T4	Vr2	SK6175	10.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、折松葉文？	灰白N8/	3/12	肥前産？
1358	06305	土師器	小皿	T4	Vp3	SK6180	6.0	1.2	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	口縁部煤付着
1359	06303	土師器	小皿	T4	Vp3	SK6180	7.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	にぶい橙5YR7/4	2/12	
1360	06304	土師器	小皿	T4	Vp3	SK6180	7.5	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	口縁部煤付着
1361	06205	土師器	小皿	T4	Vp3	SK6180	7.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	にぶい橙7.5YR7/3	2/12	
1362	06206	土師器	小皿	T4	Vq3	SK6180	7.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、指オサエ	にぶい橙7.5YR6/4	2/12	口縁歪み大きい
1363	06302	土師器	小皿	T4	Vp3	SK6180	8.0	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	にぶい橙7.5YR6/4	1/12	
1364	19405	土師器	小皿	T4	Vp3	SK6180	8.0	1.1	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	2/12	
1365	06301	土師器	小皿	T4	Vp3	SK6180	8.8	0.9	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、指オサエ	浅黄橙7.5YR8/3	2/12	
1366	19407	土師器	小皿	T4	Vp3	SK6180	8.0	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	4/12	外面煤付着？
1367	06306	土師器	小皿	T4	Vp3	SK6180	9.7	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
1368	06307	土師器	皿	T4	Vq3	SK6180	11.8	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	1/12	
1369	06207	土師器	鍋	T4	Vq3	SK6180	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰黄褐10YR6/2	小片	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1370	06208	土師器	鍋	T4	Vq3	SK6180	—	—	—	内：ヨコナデ、工具ナデ 外：ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙10YR7/2	小片	外面煤付着
1371	06204	陶器	山茶椀	T4	Vq3	SK6180	15.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白N8/	1/12	
1372	06309	陶器	山茶椀	T4	Vq3	SK6180	—	—	6.7	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白N8/	12/12	内面摩耗
1373	06308	陶器	丸碗	T4	Vq3	SK6180	8.6	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/1 釉：灰白5Y7/2	1/12	瀬戸美濃産、灰釉
1374	06203	陶器	碗	T4	Vq3	SK6180	—	—	5.0	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ	胎：灰白N8/ 釉：オリーブ灰10Y6/2	12/12	瀬戸美濃産、灰釉
1375	06202	陶器	皿	T4	Vq3	SK6180	—	—	6.4	内：ロクロナデ、印花文 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	灰白5Y7/1	5/12	瀬戸美濃産、灰釉
1376	06201	陶器	片口	T4	Vq3	SK6180	—	—	6.1	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	胎：灰白10YR8/2 釉：淡黄2.5Y8/3	5/12	瀬戸美濃産、灰釉
1377	19303	陶器	捏鉢	T4	Vp3	SK6180	—	—	—	内：ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	内：褐灰5YR5/1 外：にぶい橙5YR6/3	小片	常滑産
1378	06401	陶器	竈	T4	Vp3	SK6180	16.2	—	—	内：ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ 外：ヨコナデ、工具ナデ	にぶい橙2.5YR6/4	2/12	常滑産、内面煤付着
1379	19402	陶器	加工円盤	T4	Vp3	SK6180	長4.9	幅4.9	厚1.3	打欠	内：褐灰7.5YR6/4 外：にぶい橙2.5YR6/3	完形	重さ34.6g、鉢転用？
1380	06506	土師器	小皿	T4	Vp4	SK6185	6.0	1.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	10/12	外面煤付着
1381	06507	土師器	小皿	T4	Vp4	SK6185	6.2	1.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	橙5YR7/6	8/12	内面煤付着
1382	06504	土師器	小皿	T4	Vp4	SK6185	6.9	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	2/12	
1383	06505	土師器	小皿	T4	Vp4	SK6185	7.5	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	橙7.5YR7/6	6/12	
1384	06501	土師器	小皿	T4	Vp4	SK6185	7.4	1.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	6/12	
1385	06508	土師器	小皿	T4	Vp4	SK6185	7.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	9/12	
1386	06509	土師器	小皿	T4	Vp4	SK6185	7.2	1.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	10/12	
1387	06502	土師器	小皿	T4	Vp4	SK6185	9.2	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	6/12	
1388	06503	土師器	小皿	T4	Vp4	SK6185	9.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	橙5YR6/6	2/12	外面煤付着
1389	06604	土師器	焙烙	T4	Vp4	SK6185	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	小片	外面煤付着
1390	06511	陶器	丸碗	T4	Vp4	SK6185	—	—	5.1	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白7.5GY8/2	4/12	灰釉
1391	06603	陶器	端反皿	T4	Vp4	SK6185	12.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	灰白5Y7/2	1/12	瀬戸美濃産、灰釉
1392	06605	陶器	大皿？	T4	Vp4	SK6185	—	—	19.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白7.5Y8/1	1/12	灰釉
1393	06510	磁器	染付丸碗	T4	Vp4	SK6185	10.9	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、梅文？	灰白5GY8/1	1/12	瀬戸美濃産？
1394	06602	磁器	染付碗	T4	Vp4	SK6185	—	—	5.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5GY8/1	3/12	肥前産
1395	06601	磁器	瓶	T4	Vp4	SK6185	10.6	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5GY8/1	3/12	青磁釉
1396	18705	土師器	小皿	T4	Tn22	SK6188	7.2	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3/12	口縁歪み大きい
1397	18605	土師器	小皿	T4	Tn22	SK6188	8.0	1.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	12/12	口縁部・内面煤付着
1398	18801	土師器	小皿	T4	Tn22	SK6188	8.4	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい褐7.5YR5/4	6/12	口縁部煤付着
1399	18604	土師器	皿	T4	Tn22	SK6188	10.0	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	口縁一部打欠、口縁部煤付着
1400	18704	土師器	茶釜	T4	Tn22	SK6188	10.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ？、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
1401	18403	土師器	茶釜	T4	Tn22	SK6188	12.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ハケ、ヨコナデ	にぶい褐7.5YR5/3	8/12	
1402	18803	土師器	十能	T4	Tn22	SK6188	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ハケ、指オサエ、ナデ	にぶい黄橙10YR7/3、 にぶい黄橙10YR6/3	把手	
1403	18606	土師器	把手	T4	Tn22	SK6188	—	—	—	ナデ	橙5YR6/6	半欠	
1404	18402	土師器	焙烙	T4	Tn22	SK6188	39.0	—	—	内：ケズリ、ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ	黒褐2.5Y3/1	6/12	
1405	18802	土師器	焙烙	T4	Tn22	SK6188	22.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/3	1/12	内面コゲ付着
1406	18706	土師器	焙烙	T4	Tn22	SK6188	33.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい褐7.5YR5/4	2/12	内面コゲ付着
1407	18401	土師器	焙烙	T4	Tn22	SK6188	39.0	—	—	内：ケズリ、ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、指オサエ、ヨコナデ	黒褐7.5YR3/1	2/12	
1408	18601	陶器	小碗	T4	Tn22	SK6188	7.8	4.0	4.0	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：にぶい黄2.5Y6/4	8/12	灰釉
1409	18603	陶器	天目茶碗？	T4	Tn22	SK6188	—	—	4.5	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ	胎：黒2.5Y2/1 釉：灰白2.5Y8/2	7/12	瀬戸美濃産、鉄釉
1410	18501	陶器	丸碗	T4	Tn22	SK6188	9.6	6.3	3.4	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ、笹文？	灰白2.5Y8/2	2/12	上絵付
1411	18701	陶器	輪禿鉢	T4	Tn22	SK6188	20.7	5.8	8.5	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：淡黄2.5Y8/3 釉：灰白7.5Y7/1	2/12	瀬戸美濃産、二次被熱？

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1412	18702	陶器	片口鉢	T4	Tn22	SK6188	18.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：浅黄2.5Y7/4	2/12	瀬戸美濃産
1413	18804	陶器	加工円盤	T4	Tn22	SK6188	長 5.2	幅 5.0	厚 1.1	打欠	胎：にぶい橙 7.5YR7/4 釉：にぶい赤褐 5YR4/3	完形	重さ34.4g、丸碗転用
1414	18602	陶器	加工円盤	T4	Tn22	SK6188	長 4.2	幅 4.0	厚 1.1	打欠	褐7.5YR4/3	完形	重さ23.83g、瀬戸美濃産擂鉢転用
1415	18703	磁器	染付丸碗	T4	Tn22	SK6188	10.0	5.3	5.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、花唐草文、角渦福	灰白N8/	3/12	肥前産
1416	18504	磁器	染付皿	T4	Tn22	SK6188	13.0	—	—	内：ロクロナデ、斜格子文 外：ロクロナデ	灰白10Y8/1	2/12	肥前産
1417	18805	磁器	染付皿	T4	Tn22	SK6188	12.8	3.0	8.2	内：ロクロナデ、雪輪文？、五弁花文 外：ロクロナデ？	灰白N8/	4/12	肥前産
1418	18503	磁器	染付皿	T4	Tn22	SK6188	11.8	3.5	7.0	内：ロクロナデ？、五弁花文 外：ロクロケズリ、ロクロナデ？	灰白5GY8/1	2/12	肥前産
1419	18502	磁器	染付皿	T4	Tn22	SK6188	12.8	2.8	7.0	内：ロクロナデ？、五弁花文 外：ロクロケズリ、ロクロナデ？	明緑灰7.5GY8/1	1/12	肥前産
1420	18607	瓦	軒桟瓦	T4	Tn22	SK6188	径 7.8	—	厚 1.9	瓦当面：珠文、巴文 瓦当裏面：ナデ	暗灰N3/	瓦当	
1421	19103	土師器	焙烙	T4	Tk25	SD6077	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	小片	外面煤付着
1422	19101	磁器	白磁碗	T4	Tk25	SD6077	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白N8/	小片	
1423	19102	磁器	染付筒形碗	T4	Tk25	SD6077	8.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、梅文	灰白2.5Y8/1	1/12	瀬戸美濃産
1424	20104	土師器	小皿	T4	Vr1	SD6173	5.4	0.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ	内：橙5YR7/6 外：にぶい橙5YR7/3	9/12	
1425	20102	土師器	小皿	T4	Vr1	SD6173	7.0	1.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	5/12	
1426	20103	土師器	小皿	T4	Vr1	SD6173	7.1	0.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙5YR6/4	3/12	
1427	20302	土師器	小皿	T4	Vr1	SD6173	7.8	1.1	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	2/12	
1428	20301	土師器	小皿	T4	Vr1	SD6173	8.2	1.2	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR6/4	4/12	
1429	20101	瓦質土器	両耳鍋	T4	Vr1	SD6173	29.4	16.0	19.0	内：指オサエ、ナデ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ヨコナデ	黄灰2.5Y6/1	11/12	外面煤付着、内面コゲ付着
1430	20402	陶器	腰錆茶碗	T4	Tq24	SD6173	9.7	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ？、ロクロナデ、カキメ	胎：灰白7.5Y7/1 釉：暗褐10YR3/4	1/12	瀬戸美濃産
1431	20310	陶器	皿	T4	Vr1	SD6173	—	—	4.6	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ	灰白10YR8/2	3/12	灰釉
1432	20307	陶器	皿	T4	Vr1	SD6173	11.8	2.5	6.2	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	浅黄5Y7/3	2/12	灰釉
1433	20403	陶器	梅文皿	T4	Tq24	SD6173	—	—	3.4	内：ロクロナデ？、梅文 外：ロクロケズリ	胎：灰白2.5Y8/1 釉：灰白5Y8/2	12/12	瀬戸美濃産、灰釉
1434	20503	陶器	摺絵皿	T4	Vr1	SD6173	12.2	3.2	6.2	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ？、墨書	淡黄5Y8/3	1/12	瀬戸美濃産、灰釉
1435	20308	陶器	大皿	T4	Vr1	SD6173	—	—	15.8	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	灰白5Y8/2	1/12	瀬戸美濃産、灰釉
1436	20202	陶器	鉢	T4	Vr1	SD6173	16.8	9.2	8.5	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ、凹線	胎：灰白2.5Y8/2 釉：にぶい黄橙 10YR6/4、浅黄5Y7/3	4/12	輪花、菓子鉢？
1437	20309	陶器	土瓶	T4	Vr1	SD6173	—	—	7.2	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ	内：灰白5Y8/1 外：灰白5Y7/1	5/12	瀬戸美濃産、鉄釉
1438	20502	陶器	擂鉢	T4	Tq24	SD6173	34.4	—	—	内：ロクロナデ、擂目 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	褐7.5YR4/3	1/12	瀬戸美濃産
1439	20404	陶器	十能	T4	Vr1	SD6173	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	褐7.5YR4/4	把手	錆釉
1440	20406	陶器	十能	T4	Tq24	SD6173	—	—	—	内：ナデ 外：ケズリ、ナデ	にぶい褐7.5YR5/4	小片	錆釉
1441	20501	陶器	火鉢	T4	Vr1	SD6173	32.6	6.7	18.6	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	1/12	常滑産、内面煤付着
1442	20401	磁器	染付丸碗	T4	Tq24	SD6173	9.6	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ、桐文？	灰白5GY8/1	2/12	肥前産
1443	20201	磁器	染付丸碗	T4	Vr1	SD6173	10.0	5.5	3.8	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ、菊文、渦福	胎：灰白N8/ 釉：5GY8/1	12/12	肥前産
1444	20405	磁器	染付皿	T4	Tq24	SD6173	14.2	2.7	7.0	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	明緑灰7.5Y3/1	4/12	肥前産、蛇の目釉剥ぎ
1445	45403	陶器	加工円盤	T4	Rl24	Pit7	長 4.0	幅 4.0	厚 1.5	打欠、研磨	橙5YR6/6	完形	重さ28.63g、常滑産甕転用
1446	45704	土師器	小皿	T4	Ri22	Pit2	6.2	1.5	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	11/12	
1447	45802	陶器	丸皿	T4	Rh22	Pit4	12.8	2.3	6.2	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ	灰白5Y7/2	1/12	瀬戸美濃産
1448	45603	土師器	十能	T4	Rl24	Pit7	—	—	—	内：工具ナデ、ケズリ 外：工具ナデ、ケズリ	にぶい橙7.5YR7/4	小片	
1449	04306	土師器	小皿	T4	Vo4	包含層	7.4	1.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	橙5YR6/6	4/12	
1450	04301	土師器	小皿	T4	Tp22	包含層	8.8	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	内：にぶい橙5YR7/4 外：橙5YR7/6	11/12	口縁部に煤付着
1451	04308	土師器	皿	T4	Vk1	包含層	13.5	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
1452	04307	灰釉陶器	椀	T4	Vk1	包含層	—	—	7.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ケズリ	灰白5Y7/1	1/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1453	04302	灰釉陶器	椀	T4	Tp14	包含層	—	—	6.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	3/12	内面摩耗
1454	04303	陶器	山茶椀	T4	T124	包含層	—	—	7.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	6/12	内面摩耗
1455	04305	灰釉陶器	長頸壺	T4	Tp21	包含層	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	内：灰白5Y8/1 外：灰オリーブ7.5Y6/2	頸部2/12	
1456	04304	陶器	加工円盤	T4	Tp20	包含層	長3.6	幅4.5	厚1.4	打欠	内：灰褐7.5Y4/2 外：灰黄2.5Y6/2	完形	重さ29.69g、常滑産甕転用
1457	04402	土師器	杯	T4	—	排土	13.2	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ナデ、指オサエ	内：橙5YR7/6 外：橙5YR6/6	2/12	部分的に煤付着？
1458	04404	土師器	杯	T4	—	排土	13.4	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ナデ、指オサエ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
1459	04405	土師器	杯	T4	—	排土	11.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ナデ、指オサエ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
1460	04403	土師器	皿	T4	—	排土	12.0	2.1	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ナデ、指オサエ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
1461	04401	土師器	鍋	T4	—	排土	28.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ、ハケ、ケズリ	内：灰黄褐10YR6/2 外：褐灰7.5YR4/1	2/12	外面煤付着
1462	07802	土師器	皿	T5	Vd8	SK6082	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、指オサエ、ナデ	内：にぶい橙5YR7/4 外：橙5YR7/6	小片	
1463	07805	土師器	甕	T5	Vc8	SK6082	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：浅黄橙7.5YR8/4 外：橙5YR7/6	小片	
1464	07803	土師器	甕	T5	Ve1	SK6098	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ、ハケ	内：灰白2.5Y8/2 外：灰白10YR8/2	小片	
1465	07703	土師器	甕	T5	Ve1	SK6098	30.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、ハケ	にぶい橙7.5YR7/3	1/12	外面煤付着
1466	07806	土師器	甕	T5	Ve1	SK6099	—	—	—	内：ハケ 外：ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	小片	
1467	07804	土師器	甕	T5	Ve1	SK6099	—	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：灰白10YR8/1 外：浅黄橙10YR8/3	小片	
1468	30005	土師器	椀	T5	Vc8	SE6083	—	—	—	内：ナデ？ 外：ナデ？	橙5YR6/6	小片	
1469	30002	磁器	青磁碗	T5	Vc8	SE6083	—	—	4.8	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ	胎：灰白N7/ 釉：オリーブ灰10Y5/2	5/12	
1470	30001	土師器	鍋	T5	Vd4	SE6085	26.0	9.5	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	内：にぶい橙7.5YR6/4 外：灰N4/	8/12	
1471	36902	土師器	皿	T5	Ve5	SE6091	17.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ケズリ？、ヨコナデ、墨書	橙5YR7/6	2/12	墨書「前」？
1472	33101	土師器	茶釜	T5	Vg1	SE6092 井戸枠内	13.7	20.2	—	内：ナデ、ケズリ、ヨコナデ 外：ナデ、ケズリ、ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	12/12	外面煤付着、内面コゲ付着
1473	30006	土師器	鍋	T5	Vg1	SE6092	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：灰黄褐10YR5/2 外：暗灰N3/	小片	外面煤付着
1474	07704	土師器	鍋	T5	Vg1	SK6090	—	—	—	内：ヨコナデ、工具ナデ 外：ヨコナデ、ハケ、工具ナデ？	にぶい橙7.5YR6/4	小片	
1475	07801	土製品	不明	T5	Vg1	SK6090	—	—	—	内：ミガキ 外：工具ナデ、ケズリ、ナデ	内：浅黄橙10YR8/3 外：橙5YR6/6	小片	土師質
1476	07702	土師器	鍋	T5	Vh1	SK6094	24.8	—	—	内：ヨコナデ、工具ナデ 外：ヨコナデ、工具ナデ、ハケ	内：灰黄褐10YR5/2 外：にぶい黄橙10YR7/3	1/12	外面煤付着
1477	07705	土師器	甕	T5	Vf1	SK6100	—	—	—	内：ヨコナデ、工具ナデ 外：ヨコナデ、ハケ	内：浅黄橙10YR8/3 外：橙7.5YR6/6	小片	
1478	00206	土師器	小皿	7-T3	Uy8	SK7018	9.6	2.2	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	3/12	
1479	00104	土師器	皿	7-T3	Ux7	SK7020	12.2	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
1480	00207	土師器	小皿	7-T3	Vb8	SK7022	9.2	2.3	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白5Y8/1	1/12	
1481	00303	土師器	皿	7-T3	Ux2・3	SK7023	12.3	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
1482	00209	土師器	皿	7-T3	Ux2・3	SK7023	13.6	2.4	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ	内：橙7.5YR7/6 外：橙5YR6/8	2/12	
1483	00501	土師器	羽釜	7-T3	Ux2・3	SK7023	36.4	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
1484	00602	土師器	茶釜	7-T3	Ux2・3	SK7023	15.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	1/12	
1485	00502	土師器	鍋	7-T3	Ux2・3	SK7023	20.1	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	4/12	外面煤付着
1486	00503	土師器	鍋	7-T3	Ux2・3	SK7023	27.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ハケ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	2/12	
1487	00401	土師器	鍋	7-T3	Ux2・3	SK7023	31.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	3/12	外面煤付着
1488	00402	土師器	鍋	7-T3	Ux2・3	SK7023	32.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	3/12	外面煤付着
1489	00601	土師器	鍋	7-T3	Ux2・3	SK7023	34.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白7.5YR8/2	2/12	外面煤付着
1490	00403	土師器	鍋	7-T3	Ux2・3	SK7023	33.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白5YR8/1	1/12	外面煤付着
1491	00301	陶器	天目茶碗	7-T3	Ux2・3	SK7023	11.6	6.0	4.0	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	釉：黒褐7.5YR3/1、にぶい赤褐2.5YR3/2	2/12	瀬戸美濃産、鉄釉
1492	00302	陶器	加工円盤	7-T3	Ux2・3	SK7023	長5.3	幅5.0	厚1.4	打欠	橙7.5YR6/6	完形	重さ37.62g、常滑産甕転用
1493	31006	土師器	小皿	T5	Ti24	SD6072 (SD6012)	6.0	1.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/3 外：灰白10YR8/2	5/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1494	31003	土師器	小皿	T5	Ti25	SD6072(SD6012)	6.2	1.25	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	11/12	
1495	31008	土師器	小皿	T5	Ti25	SD6072(SD6012)	6.5	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	6/12	
1496	31005	土師器	小皿	T5	Ti24	SD6072(SD6012)	6.4	1.4	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	淡橙5YR8/4	10/12	
1497	31004	土師器	小皿	T5	Ti25	SD6072(SD6012)	6.3	1.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	5/12	
1498	31103	土師器	鍋	T5	Ti25	SD6072(SD6012)	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰白10YR8/2	小片	
1499	31104	土師器	鍋	T5	Ti25	SD6072(SD6012)	17.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3、 浅黄橙7.5YR8/4	2/12	
1500	31007	土師器	鍋	T5	Ti25	SD6072(SD6012)	19.4	—	—	内：工具ナデ、ハケ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	内：灰白10YR8/2 外：黒10YR1.7/1	1/12	
1501	31101	陶器	山茶椀	T5	Ti25	SD6012	—	—	6.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	6/12	
1502	31002	陶器	天目茶碗	T5	Ti24	SD6072(SD6012)	12.3	6.0	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	釉：にぶい赤褐2.5YR4/4、褐7.5YR4/4、黒7.5YR2/1	3/12	瀬戸美濃産、鉄釉
1503	31102	陶器	壺	T5	Ti25	SD6072(SD6012)	8.4	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	内：褐灰7.5YR5/1 外：黄灰2.5Y5/1	2/12	常滑産
1504	31001	陶器	甕	T5	Ti25	SD6072(SD6012)	33.4	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	褐灰7.5YR4/1	1/12	
1505	30101	土師器	小皿	T5	Vf7	SD6066	7.4	1.1	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	浅黄橙10YR8/3	3/12	口縁歪み大きい
1506	30301	土師器	茶釜	T5	Ve8	SD6066	14.0	—	—	内：指オサエ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2、 にぶい黄橙10YR7/3	3/12	外面煤付着
1507	30204	土師器	茶釜	T5	Ve8	SD6066	14.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	
1508	30304	土師器	甕	T5	Vc9	SD6066	20.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	外面煤付着
1509	30102	土師器	甕	T5	Vf7	SD6066	19.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	1/12	外面煤付着
1510	30105	土師器	鍋	T5	Vd8	SD6066	24.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	外面煤付着、内面コゲ付着
1511	30103	土師器	鍋	T5	Vg7	SD6066	32.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	1/12	外面煤付着
1512	30202	土師器	鍋	T5	Ve8	SD6066	32.2	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
1513	30203	土師器	鍋	T5	Vd8	SD6066	33.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	1/12	外面煤付着
1514	30303	土師器	鍋	T5	Vf8	SD6066	34.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	外面煤付着
1515	30201	土師器	鍋	T5	Ve8	SD6066	36.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	外面煤付着
1516	30104	陶器	山茶椀	T5	Vc8	SD6066	—	—	8.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白N8/	9/12	
1517	30106	陶器	山茶椀	T5	Ve8	SD6066	—	—	7.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	11/12	内面摩耗
1518	30305	陶器	天目茶碗	T5	Vd9	SD6066	—	—	4.0	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：灰褐5Y4/2	12/12	瀬戸美濃産
1519	30302	陶器	甕	T5	Ve8	SD6066	21.0	—	—	内：工具ナデ、ロクロナデ 外：工具ナデ、ロクロナデ	内：灰赤10R4/2 外：灰白5Y7/1	1/12	常滑産
1520	32506	須恵器	腺	T5	Ve1	SD6068	8.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	内：灰白N8/ 外：灰N6/1	1/12	
1521	30705	土師器	小皿	T5	Th25	SD6069	6.8		—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	淡橙5YR8/4	3/12	
1522	30703	土師器	小皿	T5	Th25	SD6069	7.9	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	
1523	30704	土師器	小皿	T5	Th25	SD6069	8.8	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	5/12	
1524	30702	土師器	小皿	T5	Th25	SD6069	8.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR8/3	3/12	
1525	30706	土師器	台付椀	T5	Tg25	SD6069	—	—	5.4	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	11/12	
1526	30502	土師器	茶釜	T5	Tg25	SD6069	10.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ？、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	7/12	外面煤付着
1527	30604	土師器	茶釜	T5	Th24	SD6069	13.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3/12	外面煤付着
1528	30401	土師器	茶釜	T5	Tg25	SD6069	26.0	—	—	内：工具ナデ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：橙7.5YR7/6 外：浅黄橙7.5YR8/4	4/12	
1529	30501	土師器	茶釜	T5	Tg25	SD6069	23.7	—	—	内：工具ナデ？、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	3/12	
1530	30603	土師器	鍋	T5	Th25	SD6069	23.2	—	—	内：ケズリ、ヨコナデ 外：ケズリ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	8/12	
1531	30601	土師器	鍋	T5	Tg25	SD6069	28.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	外面煤付着
1532	30602	陶器	捏鉢	T5	Tg25	SD6069	37.6	—	—	内：ロクロケズリ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/4	1/12	常滑産
1533	30708	陶器	壺？	T5	Th25	SD6069	11.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	内：灰白7.5Y7/2 外：灰白2.5Y8/2	1/12	灰釉
1534	30701	陶器	香炉	T5	Tg25	SD6069	—	—	10.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	浅黄橙7.5YR8/3	5/12	内外面煤付着
1535	30804	陶器	加工円盤	T5	Th24	SD6069	長6.1	幅5.7	厚1.6	打欠	橙2.5YR6/6	完形	重さ48.47g、常滑産甕転用

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1536	30801	陶器	加工円盤	T5	Th25	SD6069	長 3.1	幅 2.9	厚 1.2	打欠	表：にぶい橙5YR7/3 裏：にぶい橙5YR6/3	完形	重さ11.06g、常滑産甕転用
1537	30803	陶器	加工円盤	T5	Tg25	SD6069	長 4.0	幅 3.9	厚 1.25	打欠	表：にぶい橙5YR7/3 裏：にぶい橙5YR6/3	完形	重さ22.19g、常滑産甕転用
1538	30802	陶器	加工円盤	T5	Th25	SD6069	長 5.5	幅 5.3	厚 1.3	打欠	浅黄橙10YR8/4	完形	重さ37.74g、常滑産甕転用
1539	30707	磁器	青磁碗	T5	Th24	SD6069	13.7	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、陰刻蓮弁文	オリーブ灰2.5GY6/1	1/12	
1540	30903	土師器	小皿	T5	Ti25	SD6071	7.6	1.8	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	6/12	口縁歪み大きい
1541	30902	土師器	小皿	T5	Ti25	SD6071	8.3	1.8	—	内：ナデ 外：指オサエ	灰白10YR8/2	12/12	口縁歪み大きい
1542	30901	土師器	鍋	T5	Vi1	SD6071	33.0	—	—	内：ナデ、ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ケズリ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/3、 にぶい黄褐10YR5/3	8/12	外面煤付着
1543	31407	土師器	皿	T5	Vi1	SD6073	10.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
1544	31304	土師器	茶釜	T5	Vi1	SD6073	13.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	
1545	31402	土師器	茶釜	T5	Vi1	SD6073	13.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
1546	31302	土師器	羽釜	T5	Vi1	SD6073	36.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄2.5Y7/3	1/12	
1547	31303	土師器	鍋	T5	Vi1	SD6073	21.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	2/12	内面コゲ付着
1548	31105	土師器	鍋	T5	Vi1	SD6073	21.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：黄灰2.5Y6/1 外：にぶい黄橙10YR6/4	1/12	外面煤付着
1549	31202	土師器	鍋	T5	Vi1	SD6073	31.8	—	—	内：工具ナデ、ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/3 外：褐灰10YR4/2	1/12	外面煤付着
1550	31106	土師器	鍋	T5	Vi1	SD6073	30.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	外面煤付着
1551	31301	土師器	鍋	T5	Vi1	SD6073	35.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/2	1/12	
1552	31203	土師器	鍋	T5	Vi1	SD6073	36.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR6/3 外：黒褐10YR3/1	1/12	
1553	31201	土師器	鍋	T5	Vi1	SD6073	37.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
1554	31204	土師器	鍋	T5	Vi1	SD6073	39.2	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：灰白10YR8/2 外：黒褐10YR3/1	1/12	外面煤付着
1555	31404	陶器	山茶椀	T5	Vi1	SD6073	—	—	5.3	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰黄2.5Y7/2	2/12	
1556	31406	陶器	山茶椀	T5	Vi1	SD6073	—	—	6.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白5Y7/1	2/12	内面摩耗
1557	31405	陶器	山茶椀	T5	Vi1	SD6073	—	—	7.1	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	9/12	
1558	31403	陶器	捏鉢	T5	Vi1	SD6073	—	—	—	内：ナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	にぶい赤褐5YR5/4	小片	常滑産
1559	31401	陶器	擂鉢	T5	Vi1	SD6073	—	—	8.4	内：ロクロナデ、擂目 外：ロクロナデ、糸切痕	灰褐7.5YR4/2	3/12	
1560	31905	土師器	小皿	T5	Ve2	SD6074	8.5	1.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	3/12	
1561	31904	土師器	皿	T5	Ve2	SD6074	10.0	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ	浅黄橙10YR8/3	2/12	
1562	31807	土師器	皿	T5	Ve2	SD6074	10.0	1.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	3/12	
1563	31806	土師器	皿	T5	Ve2	SD6074	10.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	3/12	
1564	31504	土師器	皿	T5	Ve1	SD6074	11.0	1.8	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄褐10YR6/2	4/12	
1565	31805	ロクロ土師器	台付椀	T5	Ve2	SD6074	—	—	4.0	内：ナデ 外：ロクロナデ	にぶい橙7.5YR7/3	4/12	
1566	31602	土師器	茶釜	T5	Ve1	SD6074	10.6	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	8/12	
1567	31901	土師器	羽釜	T5	Ve2	SD6074	32.4	—	—	内：ヨコナデ、線刻？ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	外面煤付着
1568	31903	土師器	鍋	T5	Ve2	SD6074	19.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	外面煤付着
1569	31803	土師器	鍋	T5	Ve2	SD6074	21.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
1570	31804	土師器	鍋	T5	Ve2	SD6074	22.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	1/12	
1571	31802	土師器	鍋	T5	Ve2	SD6074	26.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	外面煤付着
1572	31501	土師器	鍋	T5	Ve1	SD6074	27.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	橙5YR7/6	1/12	外面煤付着
1573	31801	土師器	鍋	T5	Ve2	SD6074	35.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/3	1/12	外面煤付着
1574	31701	土師器	鍋	T5	Ve2	SD6074	26.2	—	—	内：ナデ、ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	5/12	外面煤付着
1575	31702	土師器	鍋	T5	Ve2	SD6074	25.4	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	4/12	外面煤付着
1576	31601	土師器	鍋	T5	Ve2	SD6074	30.6	13.2	—	内：工具ナデ、ケズリ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/4	6/12	外面煤付着
1577	31502	土師器	鍋	T5	Ve1	SD6074	32.4	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/3 外：灰黄褐10YR5/2	1/12	内面コゲ付着

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1578	31703	陶器	天目茶碗	T5	Ve1	SD6074	12.0	4.2	6.8	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2	6/12	瀬戸美濃産、鉄釉
1579	31503	陶器	鉢？	T5	Ve1	SD6074	—	—	10.4	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ	灰白5Y8/1	2/12	古瀬戸？
1580	31902	陶器	捏鉢	T5	Ve2	SD6074	33.0	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	1/12	常滑産
1581	31505	須恵器	加工円盤	T5	Ve1	SD6074	長5.9	幅5.6	厚1.4	打欠	内：灰白N8/ 外：灰白N7/	完形	重さ52.80g、須恵器甕転用
1582	32005	土師器	杯	T5	Ti25	SD6075	12.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	口縁部煤付着
1583	32004	土師器	杯	T5	Ti25	SD6075	12.6	3.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4、 にぶい橙7.5YR7/3	3/12	口縁部煤付着
1584	32003	土師器	鍋	T5	Ti25	SD6075	25.2	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/3	1/12	外面煤付着
1585	32002	土師器	鍋	T5	Ti25	SD6075	32.2	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	外面煤付着
1586	32001	土師器	焙烙	T5	Ti25	SD6075	38.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR8/3	1/12	外面煤付着
1587	32006	陶器	山茶椀	T5	Ti25	SD6075	—	—	6.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白N8/	6/12	内面摩耗
1588	32101	陶器	卸目付大皿？	T5	Ti25	SD6075	28.2	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：淡黄2.5Y8/3 釉：灰褐5Y4/2	1/12	瀬戸美濃産
1589	32102	陶器	甕	T5	Ti25	SD6075	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰5Y4/1 釉：灰褐7.5Y4/2	小片	常滑産
1590	32103	陶器	花瓶？	T5	Ti25	SD6075	—	—	—	内：ロクロナデ？ 外：ロクロナデ	胎：灰白2.5Y7/1	12/12	古瀬戸？、鉄釉
1591	32205	土師器	小皿	T5	Vf7	SD6084	5.8	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	4/12	
1592	32203	土師器	小皿	T5	Vf6	SD6084	6.8	1.75	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	6/12	
1593	32201	土師器	小皿	T5	Vf6	SD6084	6.9	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	2/12	
1594	32204	土師器	小皿	T5	Vf6	SD6084	8.8	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	3/12	
1595	32202	土師器	小皿	T5	Vf6	SD6084	9.8	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	5/12	
1596	32401	土師器	茶釜	T5	Vf6	SD6084	14.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	7/12	外面煤付着、内面コゲ付着
1597	32208	土師器	鍋	T5	Vf6	SD6084	18.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	1/12	
1598	32207	土師器	鍋	T5	Vf6	SD6084	18.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	2/12	
1599	32206	土師器	鍋	T5	Vf6	SD6084	20.4	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	
1600	32303	土師器	鍋	T5	Vf6	SD6084	35.5	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	外面煤付着
1601	32302	土師器	鍋	T5	Vf7	SD6084	35.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	外面煤付着
1602	32301	土師器	鍋	T5	Vf6	SD6084	38.9	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	外面煤付着
1603	32306	陶器	加工円盤	T5	Vf6	SD6084	長3.5	幅3.4	厚1.5	打欠	にぶい赤褐5YR5/4	完形	重さ17.00g、常滑産甕転用
1604	32304	陶器	加工円盤	T5	Vf6	SD6084	長3.7	幅3.5	厚1.3	打欠	橙5YR7/6	完形	重さ16.83g、常滑産甕転用
1605	32305	陶器	加工円盤	T5	Vf6	SD6084	長3.7	幅3.5	厚1.4	打欠	にぶい橙5YR6/4	完形	重さ20.77g、常滑産鉢転用
1606	32504	土師器	杯	T5	Vi1	SD6096	13.0	2.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ？、指オサエ、ヨコナデ	褐灰10YR4/1	2/12	
1607	32502	土師器	鍋	T5	Vi1	SD6096	32.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
1608	32501	陶器	甕	T5	Vi1	SD6096	33.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	黄灰2.5Y4/1	3/12	常滑産
1609	01202	土師器	小皿	7-T3	—	SD7019	6.6	1.5	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	8/12	
1610	01203	土師器	小皿	7-T3	—	SD7019	8.0	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
1611	01201	土師器	小皿	7-T3	—	SD7019	8.5	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	3/12	
1612	01204	土師器	小皿	7-T3	—	SD7019	9.3	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	5/12	
1613	01209	土師器	鍋	7-T3	—	SD7019	—	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	小片	外面煤付着、内面コゲ付着
1614	01003	土師器	鍋	7-T3	—	SD7019	20.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/4	3/12	外面煤付着
1615	01207	陶器	山茶椀	7-T3	—	SD7019	—	—	7.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白N8/	4/12	
1616	01208	陶器	卸目皿	7-T3	—	SD7019	—	—	8.0	内：卸目 外：ロクロナデ、糸切痕	胎：灰白2.5Y8/1 釉：灰白5Y7/2、 にぶい黄橙10YR5/4	4/12	瀬戸美濃産
1617	01205	陶器	片口鉢	7-T3	—	SD7019	—	—	10.4	内：ロクロナデ 外：ケズリ、ロクロナデ	灰N6/	4/12	
1618	01206	陶器	甕	7-T3	—	SD7019	18.2	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰N6/ 釉：灰赤2.5YR5/2、 灰赤2.5YR4/2	1/12	常滑産
1619	01105	陶器	甕	7-T3	—	SD7019	—	—	—	内：工具ナデ 外：ナデ、押印文	灰赤10R5/2	小片	常滑産

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1620	01007	磁器	青磁碗	7-T3	—	SD7019	—	—	—	内：ロクロナデ？ 外：ロクロナデ？	胎：にぶい橙 7.5YR7/3 釉：灰白7.5Y7/2	小片	
1621	01004	土師器	小皿	7-T3	Uw4	SD7024	6.6	1.4	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	浅黄橙10YR8/4	10/12	
1622	01101	土師器	羽釜	7-T3	Uw4	SD7024	23.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	外面煤付着
1623	30004	土師器	小皿	T5	Ve7	pit1	9.0	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	内：灰白2.5Y8/2 外：灰白2.5Y8/1	2/12	
1624	30003	土師器	小皿	T5	Vd7	pit1	8.0	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	黄灰2.5Y4/1	7/12	内外面煤付着
1625	00201	縄文土器	深鉢	7-T3	—	包含層	—	—	—	内：不明 外：渦巻文	橙7.5YR6/6	小片	1626・1627と同一個体か
1626	00202	縄文土器	深鉢	7-T3	—	包含層	—	—	—	内：ヨコナデ 外：渦巻文	内：にぶい橙 7.5YR7/3 外：にぶい黄橙 10YR6/4	小片	1625・1627と同一個体か
1627	00203	縄文土器	深鉢	7-T3	—	包含層	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、渦巻文、弧文	内：にぶい黄橙 10YR6/3 外：にぶい黄橙 7.5YR6/4	小片	1625・1626と同一個体か
1628	07701	土師器	甕	T5	—	排土	14.0	—	—	内：ヨコナデ、ハケ 外：ヨコナデ、ハケ	内：灰黄褐10YR5/2 外：淡赤橙2.5YR7/4	2/12	
1629	46001	縄文土器	深鉢	T6	Vo15	SX6029	33.8	38.3	9.0	内：ナデ、ケズリ、工具ナデ 外：ケズリ、ミガキ、工具ナデ	にぶい黄橙10YR6/4、 にぶい橙7.5YR6/4	2/12	波状口縁
1630	47901	縄文土器	深鉢	T6	Vo15	SX6029	—	—	10.0	内：指オサエ、ミガキ 外：ミガキ	にぶい黄橙10YR7/4	5/12	内面炭化物付着
1631	46101	縄文土器	深鉢	T6	Vp15	SX6037	44.6	—	—	内：工具ナデ、ナデ 外：ケズリ、ナデ、渦巻文、弧文	にぶい橙7.5YR6/4	3/12	波状口縁
1632	33406	土師器	小皿	T6	Vg14	SE6001 井戸枠内	7.0	1.2	—	内：ナデ 外：指オサエ	灰白10YR8/2	4/12	
1633	33203	土師器	小皿	T6	Vg14	SE6001	7.2	1.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	3/12	
1634	33404	土師器	小皿	T6	Vg14	SE6001	8.0	1.1	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	10/12	
1635	33303	土師器	皿	T6	Vg14	SE6001	11.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/2 外：灰白10YR8/2	2/12	口縁歪み大きい
1636	33302	土師器	皿	T6	Vg14	SE6001	12.3	2.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	10/12	内外面煤付着
1637	33403	土師器	皿？	T6	Vg14	SE6001	—	—	—	内：ナデ、ミガキ？ 外：指オサエ、ナデ、墨書	橙5YR7/6	小片	
1638	33201	土師器	甕	T6	Vg14	SE6001	18.5	16.7	—	内：ナデ、ケズリ、ヨコナデ 外：ナデ、ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：にぶい黄橙 10YR6/3	6/12	外面煤付着、内面コゲ付着
1639	33402	土師器	甕	T6	Vg14	SE6001	19.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/3、 浅黄橙7.5YR8/4	4/12	外面煤付着
1640	33202	土師器	甕	T6	Vg14	SE6001	18.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	10/12	
1641	33301	土師器	鍋	T6	Vg14	SE6001	24.3	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、指オサエ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	11/12	
1642	33401	土師器	鍋	T6	Vg14	SE6001	21.0	—	—	内：工具ナデ、指オサエ、ヨコナデ 外：ケズリ、工具ナデ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	外面煤付着、内面コゲ付着
1643	33405	土師器	製塩土器	T6	Vg14	SE6001 井戸枠内	—	3.9	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	明赤褐5YR5/6	小片	
1644	33502	陶器	山皿	T6	Vg14	SE6001	9.0	2.3	4.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白N8/	5/12	口縁部煤付着
1645	33504	陶器	山茶椀	T6	Vg14	SE6001	—	—	7.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	3/12	
1646	33503	陶器	山茶椀	T6	Vg14	SE6001	—	—	7.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	6/12	内面摩耗
1647	00106	陶器	山茶椀	T6	Vg14	SE6001	15.4	5.5	8.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	12/12	
1648	00102	陶器	山茶椀	T6	Vg14	SE6001 取上げNo.2	15.9	5.2	7.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白N7/	6/12	内面摩耗
1649	00103	陶器	山茶椀	T6	Vg14	SE6001 取上げNo.3	16.4	5.6	7.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白N7/	6/12	内面摩耗
1650	00104	陶器	山茶椀	T6	Vg14	SE6001 取上げNo.8	16.4	5.4	8.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白N7/	12/12	
1651	00105	陶器	山茶椀	T6	Vg14	SE6001 取上げNo.9	16.5	4.9	7.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	9/12	
1652	00101	陶器	山茶椀	T6	Vg14	SE6001 取上げNo.1	16.7	5.9	8.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白N7/	11/12	
1653	33501	陶器	鉢	T6	Vg14	SE6001	19.6	10.7	11.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5YR8/1	1/12	注口？
1654	33505	磁器	青磁碗	T6	Vg14	SE6001	14.2	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、陰刻蓮弁文	胎：灰白N7/ 釉：オリーブ灰 2.5GY5/1	2/12	
1655	33603	土師器	小皿	T6	Vi14	SE6004 井戸枠内	6.6	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/2	9/12	
1656	33605	土師器	鍋	T6	Vi14	SE6004 井戸枠内	18.1	—	—	内：工具ナデ、ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	外面煤付着
1657	33701	土師器	鍋	T6	Vi13	SE6004	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	小片	
1658	33601	土師器	竈	T6	Vi14	SE6004 井戸枠内	15.2	—	—	内：工具ナデ、指オサエ、ナデ 外：ハケ、ヨコナデ、線刻	明褐灰7.5YR7/2	8/12	内面被熱、上面コゲ付着

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1659	33702	陶器	捏鉢	T6	Vi13	SE6004	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰褐7.5Y6/2 釉：灰赤7.5R4/2	小片	
1660	34005	土師器	皿	T6	Vj14	SE6005	13.9	3.0	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：褐灰10YR4/1 外：灰黄褐10YR5/2	2/12	
1661	34001	土師器	甕	T6	Vj14	SE6005 取上げNo.10	20.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	内：灰黄褐10YR6/2 外：にぶい黄褐 10YR5/3	2/12	内面コゲ付着
1662	34101	土師器	甕	T6	Vj14	SE6005	21.9	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：明褐7.5YR5/6 外：黒褐2.5Y3/1	1/12	
1663	33901	土師器	甕	T6	Vj14	SE6005	22.8	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ハケ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：灰黄褐10YR4/2、 にぶい黄橙10YR6/3 外：にぶい黄橙 10YR7/3	9/12	外面煤付着
1664	34301	土師器	甕	T6	Vj14	SE6005	23.0	—	—	内：ケズリ、ハケ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	外面煤付着、内面コゲ付着
1665	34501	土師器	甕	T6	Vj14	SE6005	28.0	24.0	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ケズリ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	7/12	外面煤付着、内面コゲ付着
1666	34401	土師器	甕	T6	Vj14	SE6005	19.6	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	6/12	外面煤付着
1667	34102	土師器	甕	T6	Vj14	SE6005	21.4	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/2 外：灰黄褐10YR5/2、 橙7.5YR6/8	1/12	
1668	34201	土師器	甕	T6	Vj14	SE6005	23.2	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR6/3 外：灰黄褐10YR6/2、 淡橙5YR8/3	3/12	外面煤付着、内面コゲ付着
1669	34002	土師器	甕	T6	Vj14	SE6005	19.1	—	—	内：ケズリ、ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR6/3、褐灰 10YR4/1 外：にぶい褐 7.5YR6/3	1/12	外面煤付着
1670	34601	土師器	甕	T6	Vj14	SE6005 取上げNo.7	22.0	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/3	11/12	外面煤付着、内面コゲ付着
1671	33801	土師器	甕	T6	Vj14	SE6005	23.0	17.2	—	内：ナデ、ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ケズリ、ハケ、ヨコナデ	灰黄褐10YR6/2	4/12	外面煤付着
1672	34004	土師器	製塩土器	T6	Vj14	SE6005	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、指オサエ、ヨコナデ	橙7.5YR7/6	小片	
1673	00202	陶器	山茶椀	T6	Vj14	SE6005	16.1	5.6	7.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	11/12	内面摩耗
1674	00203	陶器	山茶椀	T6	Vj14	SE6005	16.6	6.1	7.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	10/12	内面摩耗
1675	00205	陶器	山茶椀	T6	Vj14	SE6005 取上げNo.3	16.7	5.9	6.9	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	5/12	内面摩耗
1676	38602	陶器	山茶椀	T6	Vj14	SE6005	16.2	5.4	7.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕、墨書	灰白2.5Y7/1	3/12	墨書「僧十」？
1677	34404	陶器	山茶椀	T6	Vj14	SE6005	15.7	5.8	6.3	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	褐灰10YR6/1	1/12	内面炭化物付着、内面摩耗
1678	34403	陶器	山茶椀	T6	Vj14	SE6005	17.0	5.6	7.3	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白10YR7/1	2/12	内面炭化物付着
1679	34402	陶器	山茶椀	T6	Vj14	SE6005	16.6	5.9	7.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	にぶい黄2.5Y6/3	6/12	
1680	38601	陶器	山茶椀	T6	Vj14	SE6005	16.2	5.2	7.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕、墨書	灰白2.5Y7/1	10/12	墨書「保笑」？
1681	00204	陶器	山茶椀	T6	Vj14	SE6005 取上げNo.6	16.0	5.7	7.3	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白10YR7/1	7/12	内面摩耗
1682	00201	陶器	山茶椀	T6	Vj14	SE6005 取上げNo.1	16.2	6.4	7.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	12/12	内面摩耗
1683	34105	陶器	山茶椀	T6	Vj14	SE6005	—	—	8.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白10YR7/1	6/12	
1684	34003	陶器	山茶椀	T6	Vj14	SE6005	—	—	8.3	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	内：赤灰7.5R6/1 外：灰白10YR7/1	5/12	
1685	34104	陶器	山茶椀	T6	Vj14	SE6005	—	—	7.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y8/1	12/12	内面摩耗
1686	34103	灰釉陶器	長頸壺	T6	Vj14	SE6005	—	—	頸部径5.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白2.5Y7/1 釉：灰黄2.5Y7/2	頸部3/12	
1687	07907	土師器	小皿	T6	Vm13・14	SE6009	7.0	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ、指オサエ	にぶい橙5YR7/4	2/12	
1688	34701	土師器	小皿	T6	Vm13	SE6009	8.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	4/12	
1689	07905	土師器	小皿	T6	Vm13・14	SE6009	9.1	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	浅黄橙10YR8/3、 にぶい橙7.5YR6/4	7/12	
1690	07906	土師器	小皿	T6	Vm13・14	SE6009	9.4	—	—	内：ヨコナデ、工具ナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白10YR8/1	5/12	
1691	07904	土師器	甕	T6	Vm13・14	SE6009	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい褐7.5YR6/3	小片	内外面煤付着
1692	07902	土師器	甕	T6	Vm13・14	SE6009	18.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
1693	07903	土師器	甕	T6	Vm13・14	SE6009	18.6	—	—	内：ヨコナデ、工具ナデ 外：ヨコナデ、工具ナデ	灰白10YR8/2	1/12	
1694	07901	陶器	山茶椀	T6	Vm13・14	SE6009	16.6	5.3	6.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白N7/	5/12	内面摩耗
1695	08004	土師器	小皿	T6	Vm・n13	SE6010	8.5	1.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	内：淡橙5YR8/4 外：にぶい黄橙 10YR7/3	3/12	
1696	08001	土師器	小皿	T6	Vm・n13	SE6010	8.5	1.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ、指オサエ	浅黄橙10YR8/4	12/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1697	08003	土師器	小皿	T6	Vm・n13	SE6010	8.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	2/12	
1698	08002	土師器	皿	T6	Vm・n13	SE6010	10.3	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	3/12	口縁歪み大きい
1699	34702	土師器	甕	T6	Vm・n13	SE6010	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰白10YR8/2	小片	
1700	34703	陶器	山茶椀	T6	Vm・n13	SE6010	14.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1/12	
1701	07908	陶器	山茶椀	T6	Vm・n13	SE6010 取上げNo.1	16.6	6.0	8.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	黄灰2.5Y6/1	5/12	内面摩耗
1702	34708	縄文土器	深鉢	T6	Vn13	SE6013	—	—	—	内：ナデ 外：沈線、刺突	内：にぶい褐7.5YR6/4 外：にぶい赤褐5YR5/4	小片	
1703	08008	土師器	小皿	T6	Vn13・14	SE6013	7.4	0.9	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	4/12	口縁歪み大きい
1704	34705	土師器	小皿	T6	Vn13・14	SE6013	7.8	1.0	—	内：ナデ 外：指オサエ	浅黄橙10YR8/3	3/12	
1705	08303	土師器	小皿	T6	Vn13・14	SE6013 井戸枠内	7.8	1.0	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	2/12	
1706	08007	土師器	小皿	T6	Vn13・14	SE6013	8.5	1.0	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	3/12	
1707	08006	土師器	小皿	T6	Vn13・14	SE6013	9.3	2.0	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ、指オサエ	浅黄橙10YR8/3	9/12	
1708	34706	土師器	皿	T6	Vn13・14	SE6013	11.2	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	
1709	34704	土師器	皿	T6	Vn13・14	SE6013	11.4	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白2.5Y8/2	2/12	
1710	08309	土師器	皿	T6	Vn13・14	SE6013	12.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	2/12	
1711	08311	土師器	皿	T6	Vn13・14	SE6013	12.5	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	1/12	
1712	34707	土師器	鍋	T6	Vn13・14	SE6013	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	小片	
1713	08009	土師器	鍋	T6	Vn13・14	SE6013	19.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	3/12	
1714	08005	陶器	山茶椀	T6	Vn13・14	SE6013	12.4	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白10YR7/1	1/12	
1715	38507	陶器	山茶椀	T6	Vn13・14	SE6013	—	—	5.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、墨書	灰白10YR7/1	4/12	墨書「よね」
1716	34802	土師器	小皿	T6	Vf12	SE6198	8.3	1.1	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	2/12	
1717	34803	土師器	鍋	T6	Vf12	SE6198	17,7	—	—	内：ケズリ、ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄2.5Y7/3	4/12	外面煤付着、内面コゲ付着
1718	34804	土師器	鍋	T6	Vf12	SE6198	18.1	10.6	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄2.5Y8/3	5/12	外面煤付着、内面コゲ付着
1719	35002	陶器	山茶椀	T6	Ve12	SE6199	15.3	5.6	6.3	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白10YR7/1	1/12	内外面炭化物付着、内面摩耗
1720	35001	陶器	山茶椀	T6	Ve12	SE6199	16.4	5.7	7.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1/12	内面炭化物付着、内面摩耗
1721	35005	陶器	山茶椀	T6	Ve12	SE6199	—	—	7.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	12/12	内外面炭化物付着
1722	35004	陶器	山茶椀	T6	Ve12	SE6199	—	—	6.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	11/12	
1723	35003	陶器	山茶椀	T6	Ve12	SE6199	—	—	8.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	12/12	内面炭化物付着
1724	34907	陶器	山茶椀	T6	Ve12	SE6199	—	—	7.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	5/12	
1725	34902	土師器	皿	T6	Vf14	SE6202	14.0	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	1/12	
1726	34906	陶器	山茶椀	T6	Vf14	SE6202	16.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	浅黄2.5Y7/3	1/12	
1727	34901	土師器	甕	T6	Vd14	SE6203	15.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/6	1/12	
1728	35206	土師器	小皿	T6	Vd15	SE6207	9.4	2.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	2/12	
1729	07205	磁器	青磁碗	T6	Vd15	SE6207	—	—	4.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰N6/ 釉：オリーブ灰2.5GY6/1	6/12	
1730	33602	土師器	皿	T6	Vh15	SK6002	12.6	2.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/2	1/12	
1731	33604	土師器	皿	T6	Vh14	SK6002	13.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
1732	33703	土師器	甕	T6	Vh14	SK6002	17.4	—	—	内：工具ナデ、ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：浅黄橙7.5YR8/3 外：にぶい橙5YR7/4	1/12	内面コゲ付着
1733	33705	陶器	山茶椀	T6	Vh14	SK6002	15.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1/12	
1734	33704	陶器	山茶椀	T6	Vh14	SK6002	14.6	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白5Y7/1	3/12	
1735	33706	陶器	山茶椀	T6	Vh15	SK6002	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	小片	
1736	35201	土師器	鍋	T6	Vj・k13	SK6006	21.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：褐灰10YR4/1 外：黒10YR2/1	2/12	外面煤付着
1737	35203	土師器	鍋	T6	Vj・k13	SK6006	—	—	体部径20.7	内：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ハケ、ヨコナデ	内：灰黄褐10YR5/2、黒10YR1.7/1 外：灰黄褐10YR6/2、黒10YR1.7/1	頸部4/12	外面煤付着

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1738	35301	土師器	鍋	T6	Vj・k13	SK6006	29.2	—	—	内：工具ナデ、ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	外面煤付着
1739	35202	陶器	山茶椀	T6	Vj・k13	SK6006	14.2	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1/12	
1740	35204	陶器	山茶椀	T6	Vj・k13	SK6006	—	—	6.8	内：ナデ、ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1/12	
1741	35504	土師器	皿？	T6	Vl14	SK6007	—	—	—	内：ヨコナデ、ミガキ、暗文 外：ケズリ？、ヨコナデ	内：にぶい赤褐5YR5/3 外：明赤褐5YR5/6	小片	高杯？
1742	35503	土師器	皿	T6	Vl14	SK6007	—	—	—	内：ナデ？、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	小片	
1743	35506	土師器	甕	T6	Vk・l14	SK6007	15.0	—	—	内：ナデ？、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	
1744	35401	土師器	甕	T6	Vl14	SK6007	24.8	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ？、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	
1745	35402	土師器	甕	T6	Vl14	SK6007	25.8	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	
1746	35501	土師器	製塩土器	T6	Vl14	SK6007	16.0	6.8	16.6	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	橙5YR7/6	1/12	
1747	35502	土師器	製塩土器	T6	Vk・l14	SK6007	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	内：黄灰2.5Y6/1 外：にぶい橙2.5YR6/3	小片	
1748	35404	須恵器	杯蓋	T6	Vl14	SK6007	11.4	3.0	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	灰N6/	2/12	宝珠摘まみ
1749	35403	須恵器	杯蓋	T6	Vl14	SK6007	17.2	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	灰N6/	2/12	
1750	35505	陶器	山茶椀	T6	Vk・l14	SK6007	—	—	6.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白5Y7/1	3/12	
1751	08101	陶器	山茶椀	T6	Vp16	SK6025	15.8	5.8	6.3	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y8/1	2/12	
1752	38603	陶器	山茶椀	T6	Vp16	SK6025	—	—	6.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕、墨書	灰白2.5Y7/1	12/12	
1753	08102	陶器	山茶椀	T6	Vp16	SK6025	—	—	7.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	12/12	
1754	34709	陶器	山茶椀	T6	Vp16	SK6025	—	—	6.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1/12	
1755	08103	陶器	片口鉢？	T6	Vp16	SK6025	—	—	14.4	内：ロクロナデ 外：ナデ、ロクロナデ、指オサエ	灰白2.5Y8/1	2/12	
1756	08310	土師器	小皿	T6	Vd13	SK6200	6.8	0.9	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	1/12	
1757	08402	土師器	小皿	T6	Vd13	SK6200	7.2	1.5	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	内：灰白2.5Y8/2 外：にぶい黄橙10YR7/4	11/12	
1758	08307	土師器	小皿	T6	Vd13	SK6200	7.0	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	3/12	
1759	08312	土師器	小皿	T6	Vd13	SK6200	7.0	1.3	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	4/12	
1760	08401	土師器	小皿	T6	Vd13	SK6200	7.8	1.5	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白2.5Y8/2	2/12	
1761	34903	土師器	皿	T6	Vd13	SK6200	11.0	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白2.5Y8/2	1/12	
1762	34904	土師器	皿	T6	Vd13	SK6200	12.0	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白2.5Y8/2	1/12	
1763	08308	土師器	皿	T6	Vd13	SK6200	11.8	2.3	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	1/12	
1764	08305	土師器	皿	T6	Vd13	SK6200	11.6	2.3	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	内：浅黄橙7.5YR8/3 外：灰白10YR8/2	2/12	
1765	08306	土師器	皿	T6	Vd13	SK6200	11.4	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	1/12	
1766	08501	土師器	蓋	T6	Vd13	SK6200	—	—	—	内：ナデ、指オサエ 外：ナデ、指オサエ	灰黄褐10YR6/2	半欠	内外面煤付着
1767	08405	土師器	鍋	T6	Vd13	SK6200	19.6	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	内外面煤付着
1768	08406	土師器	鍋	T6	Vd13	SK6200	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：灰白10YR8/2 外：灰白2.5Y8/1	小片	
1769	35006	陶器	広口壺	T6	Vd13	SK6200	23.4	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白5Y7/1	1/12	
1770	08304	土師器	小皿	T6	Vc14	SK6204	7.8	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ、指オサエ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	浅黄橙10YR8/3	2/12	
1771	08407	土師器	蓋	T6	Vc14	SK6204	14.8	2.3	9.6	内：ナデ、ヨコナデ、指オサエ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	浅黄橙10YR8/3	4/12	
1772	08404	土師器	甕	T6	Vc14	SK6204	14.6	—	—	内：ナデ、ハケ 外：ヨコナデ、ハケ	橙5YR7/6	1/12	
1773	08302	土師器	小皿	T6	Vf15	SK6205	8.4	1.0	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	浅黄橙7.5YR8/6	2/12	
1774	35303	土師器	小皿	T6	Vf15	SK6205	8.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR7/6	1/12	
1775	35205	土師器	皿	T6	Vf・g15	SK6205	18.4	—	—	内：ヨコナデ 外：ケズリ？、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	1/12	
1776	35302	土師器	杯	T6	Va16	SK6206	13.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：褐灰10YR4/1 外：にぶい褐7.5YR6/3	2/12	外面煤付着、皿？
1777	35207	土師器	鍋	T6	Va16	SK6206	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/3 外：黒10YR1.7/1	小片	外面煤付着
1778	35101	土師器	鍋	T6	Vc12	SK6208	32.2	—	—	内：ケズリ、ナデ、指オサエ、ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	5/12	外面煤付着、内面コゲ付着
1779	08403	陶器	山皿	T6	Vc12	SK6208	7.4	2.3	4.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	1/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1780	35102	陶器	山茶椀	T6	Vc12	SK6208	—	—	7.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	小片	内面摩耗
1781	08301	土師器	小皿	T6	Vg15	SK6209	7.8	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	3/12	
1782	35605	土師器	杯	T6	Vl15	SD6008	11.4	3.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	2/12	
1783	35603	土師器	杯	T6	Vk13	SD6008	12.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
1784	35601	土師器	杯	T6	Vk14	SD6008	12.4	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	1/12	
1785	35604	土師器	杯	T6	Vk13	SD6008	13.5	3.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、線刻？	橙5YR7/6	2/12	
1786	35606	土師器	杯	T6	Vl15	SD6008	15.2	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR7/6	2/12	
1787	35602	土師器	杯	T6	Vk13	SD6008	17.8	—	—	内：ヨコナデ、ミガキ？ 外：ヨコナデ	橙5YR7/6	1/12	
1788	35803	土師器	甑	T6	Vl15	SD6008	20.2	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：灰白7.5YR8/2	1/12	
1789	35607	土師器	甕	T6	Vk13	SD6008	12.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	4/12	内面コゲ付着
1790	35706	土師器	甕	T6	Vl15	SD6008	12.6	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
1791	35704	土師器	甕	T6	Vl15	SD6008	15.6	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	1/12	
1792	35705	土師器	甕	T6	Vl15	SD6008	15.0	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	2/12	
1793	35608	土師器	甕	T6	Vk13	SD6008	21.2	—	—	内：ナデ、ハケ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
1794	35702	土師器	甕	T6	Vk14	SD6008	19.8	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
1795	35802	土師器	甕	T6	Vl15	SD6008	20.8	—	—	内：ナデ、ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	2/12	
1796	35801	土師器	甕	T6	Vl15	SD6008	24.8	—	—	内：ナデ、ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	
1797	35701	土師器	甕	T6	Vk13	SD6008	16.3	—	—	内：工具ナデ、ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
1798	35703	土師器	甕	T6	Vl15	SD6008	22.4	—	—	内：ハケ、ケズリ、ヨコナデ 外：指オサエ、ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3/12	
1799	35805	土製品	土錘	T6	Vk13	SD6008	—	幅3.2	—	ナデ	灰白10YR8/2	半欠	重さ55.0g
1800	35804	土製品	土錘	T6	Vk13	SD6008	長6.0	幅2.4	厚2.3	ナデ	にぶい橙7.5YR7/3	完形	重さ：38.0g
1801	35904	須恵器	杯身	T6	Vl15	SD6008	10.3	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰N4/	1/12	
1802	35901	須恵器	杯身	T6	Vk14	SD6008	12.9	3.2	—	内：ロクロナデ 外：ヘラ切り、ナデ、ロクロナデ	灰N4/	3/12	
1803	35902	須恵器	杯身	T6	Vl15	SD6008	13.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰N6/、灰N5/	2/12	
1804	35903	須恵器	高杯	T6	Vl15	SD6008	—	—	10.7	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰N6/	2/12	
1805	35905	須恵器	長頸壺	T6	Vk13	SD6008	—	—	頸部径5.6	内：ロクロナデ 外：タタキ、ロクロナデ	灰白N8/	頸部4/12	
1806	36107	土師器	杯	T6	Vr17	SD6012	11.8	—	—	内：ヨコナデ？ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ？	内：褐灰10YR6/1 外：にぶい黄 2.5Y6/3	2/12	
1807	36103	土師器	椀	T6	Vr17	SD6012	11.8	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR6/3 外：にぶい黄橙 10YR7/3	2/12	
1808	36106	土師器	椀	T6	Vr17	SD6012	13.8	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙 7.5YR6/4 外：浅黄橙10YR8/3	1/12	
1809	36302	土師器	皿	T6	Vq・r15	SD6012	18.8	2.7	—	内：ナデ、ヨコナデ、暗文 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	2/12	
1810	36303	土師器	皿	T6	Vr18	SD6012	20.8	2.7	—	内：ヨコナデ 外：ケズリ、ヨコナデ	橙7.5YR7/6	2/12	
1811	36201	土師器	甑	T6	Vq15	SD6012	24.0	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	3/12	
1812	36003	土師器	甑	T6	Vr17	SD6012	—	—	11.8	内：ケズリ 外：ハケ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
1813	36105	土師器	甕	T6	Vr17	SD6012	—	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	淡黄2.5Y8/3	小片	
1814	36204	土師器	甕	T6	Vr17	SD6012	15.4	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
1815	36102	土師器	甕	T6	Vr17	SD6012	16.0	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：灰黄2.5Y7/2 外：灰白2.5Y7/1	頸部3/12	
1816	36202	土師器	甕	T6	Vq16	SD6012	21.0	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/1	3/12	
1817	36203	土師器	甕	T6	Vr17	SD6012	31.6	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	外面煤付着
1818	36101	土師器	鍋	T6	Vq16	SD6012	27.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：灰黄褐10YR6/2	1/12	
1819	36305	土師器	高杯	T6	Vq15	SD6012	—	—	—	内：ナデ、シボリ痕 外：ハケ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/8	脚柱部12/12	
1820	36301	須恵器	杯	T6	—	SD6012	15.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ヘラ切り、ロクロケズリ、ロクロナデ	灰N6/	10/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1821	36002	須恵器	高杯	T6	Vr17	SD6012	13.6	7.2	9.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰N4/	9/12	口縁歪み大きい
1822	36104	須恵器	提瓶	T6	Vr17	SD6012	7.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	内：灰白N7/ 外：灰N4/	1/12	内面付着物あり
1823	36001	須恵器	甕	T6	Vq16	SD6012	20.0	—	—	内：当て具痕、ロクロナデ 外：タテキ、ナデ、ロクロナデ	灰N5/	3/12	
1824	36401	土師器	甕？	T6	Xx2・3	SD6064	—	—	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	把手	甑？
1825	36406	土師器	杯	T6	Vd13	SD6201	12.6	3.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	口縁部煤付着
1826	36402	土師器	杯	T6	Vc14	SD6201	14.6	—	—	内：不明 外：不明	橙5YR6/6	2/12	
1827	36405	土師器	皿	T6	Vd13	SD6201	13.8	2.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	3/12	
1828	36403	土師器	甕	T6	Vd13	SD6201	23.3	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	1/12	
1829	36407	須恵器	杯蓋	T6	Xx2	Pit1	10.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ケズリ、ロクロケズリ、ロクロナデ	灰N6/	2/12	杯？
1830	39105	土師器	小皿	T6	Vn16	SK6014	5.3	1.1	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰黄褐10YR6/2	10/12	
1831	39106	土師器	小皿	T6	Vn16	SK6014	5.6	1.1	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	内：灰5Y4/1 外：黄灰2.5Y5/7	3/12	口縁部煤付着
1832	39107	土師器	小皿	T6	Vn16	SK6014	5.6	0.9	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰黄褐10YR5/2	4/12	口縁部煤付着？
1833	39104	土師器	小皿	T6	Vn16	SK6014	7.0	1.25	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙5YR7/4 外：にぶい褐 7.5YR6/3	9/12	
1834	39103	土師器	小皿	T6	Vn15	SK6014	8.9	2.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	4/12	口縁部煤付着
1835	39002	土師器	小皿	T6	Vn16	SK6014	9.0	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	5/12	
1836	39003	土師器	皿	T6	Vn15	SK6014	11.8	1.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	2/12	
1837	38903	陶器	小碗	T6	Vn15	SK6014	—	—	3.2	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、糸切痕	灰N6/	12/12	
1838	39203	陶器	丸碗	T6	Vn16	SK6014	9.1	6.3	4.0	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/1 釉：にぶい赤褐 5YR4/3	3/12	瀬戸美濃産、鉄釉
1839	38901	陶器	摺絵皿	T6	Vn15	SK6014	13.2	3.0	6.8	内：ロクロナデ、花文？ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白5Y7/1 釉：灰白5Y7/2	3/12	瀬戸美濃産、内面ピン痕
1840	38904	陶器	摺絵皿	T6	Vn15	SK6014	11.8	3.1	6.8	内：ロクロナデ、花文 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰5Y6/1 釉：灰白5Y7/1	5/12	瀬戸美濃産
1841	38902	陶器	摺絵皿	T6	Vn16	SK6014	12.3	3.15	7.0	内：ロクロナデ、花文？ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰5Y6/1 釉：灰白5Y7/1	2/12	瀬戸美濃産
1842	39101	陶器	型打皿	T6	Vn15	SK6014	13.9	3.2	5.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：明青灰5PB7/1 釉：灰オリーブ 7.5Y6/2	8/12	瀬戸美濃産、灰釉、二次被熱
1843	39102	陶器	片口	T6	Vn15	SK6014	16.0	—	—	内：ロクロナデ？ 外：ロクロナデ？	釉：明黄褐2.5Y6/6	2/12	瀬戸美濃産、黄釉
1844	39301	陶器	擂鉢	T6	Vn15	SK6014	43.3	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ、擂目 外：ロクロケズリ、ロクロナデ、ヨコナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：暗赤褐5YR3/3	2/12	瀬戸美濃産、錆釉
1845	39201	陶器	甕	T6	Vn16	SK6014	40.4	—	—	内：工具ナデ、指オサエ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	内：橙5YR7/6 外：浅黄橙10YR8/4、 にぶい橙2.5YR6/4	2/12	常滑産
1846	39204	陶器	仏餉具	T6	Vn16	SK6014	—	—	4.2	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/1 釉：灰白5Y7/2	7/12	瀬戸美濃産、灰釉
1847	39001	陶器	鬢盥	T6	Vn16	SK6014	長径 13.5	3.7	短径 3.5	内：不明 外：ケズリ	胎：灰白5Y7/1 釉：灰白5Y7/2	6/12	瀬戸美濃産、灰釉、摺絵
1848	39004	陶器	花瓶	T6	Vn16	SK6014	13.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白N7/ 釉：灰白10Y7/1	4/12	1849と同一個体か、口縁部煤付着
1849	39005	陶器	花瓶	T6	Vn15	SK6014	—	—	11.8	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白5Y7/1 釉：褐灰7.5YR4/1、 明オリーブ灰 2.5GY7/1	6/12	1848と同一個体か
1850	39302	磁器	小杯	T6	Vn15	SK6014	7.1	5.5	4.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白N8/ 釉：灰白5Y8/1	3/12	肥前産、二次被熱
1851	39202	磁器	染付丸碗	T6	Vn16	SK6014	—	—	4.1	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、紅葉文？	灰白N8/	6/12	肥前産
1852	39303	磁器	染付広東碗	T6	Vn16	SK6014	—	—	6.7	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白N8/ 釉：灰白N8/	6/12	肥前産、二次被熱
1853	47801	縄文土器	浅鉢？	T6	Vp15	SK6016	—	—	—	内：ミガキ 外：ミガキ	灰黄褐10YR6/2、 灰黄褐10YR5/2	小片	
1854	36605	土師器	小皿	T6	Vp15	SK6016	5.6	1.3	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：暗灰N3/	5/12	内外面煤付着
1855	36604	土師器	小皿	T6	Vp15	SK6016	9.7	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	2/12	口縁部煤付着
1856	36502	陶器	摺絵皿	T6	Vp15	SK6016	12.8	2.9	7.6	内：ロクロナデ？、紅葉文 外：ロクロケズリ	胎：灰白N7/ 釉：灰白7.5Y7/2	6/12	瀬戸美濃産、灰釉、二次被熱
1857	36501	陶器	型打皿	T6	Vp15	SK6016	13.4	2.85	5.6	内：ヨコナデ 外：ロクロケズリ、ヨコナデ	胎：5Y7/1 釉：灰白7.5Y7/1	6/12	瀬戸美濃産、灰釉
1858	36701	陶器	擂鉢	T6	Vp15	SK6016	33.0	—	—	内：ロクロナデ、擂目 外：工具ナデ、ロクロナデ	内：褐灰7.5YR4/1 外：褐灰7.5YR4/4	1/12	瀬戸美濃産
1859	36602	陶器	火鉢	T6	Vp15	SK6016	13.0	13.6	9.8	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、工具ナデ？、ヨコナデ	褐灰5YR4/1	1/12	
1860	36601	陶器	壺	T6	Vp15	SK6016	12.0	—	—	内：ロクロナデ 外：工具ナデ、ロクロナデ	内：灰N6/ 外：褐灰5YR4/1	6/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1861	36703	土師器	焙烙	T6	Vp16	SK6017	27.8	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ヨコナデ	明褐7.5YR5/6	1/12	外面煤付着
1862	36702	土師器	焙烙	T6	Vp16	SK6017	37.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/4	2/12	外面煤付着
1863	36503	陶器	型打皿	T6	Vp16	SK6017	10.2	3.2	5.0	内：不明 外：ロクロナデ、ロクロケズリ？	胎：灰白N8/ 釉：灰白2.5GY8/1	1/12	瀬戸美濃産
1864	36603	陶器	擂鉢	T6	Vp16	SK6017	—	—	—	内：工具ナデ、ロクロナデ、擂目 外：工具ナデ、ロクロナデ	灰褐7.5YR4/2	小片	
1865	36606	陶器	火鉢	T6	Vp16	SK6017	24.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、工具ナデ、ヨコナデ	内：灰白2.5Y7/1 外：黄灰2.5Y6/1	1/12	
1866	36504	陶器	甕	T6	Vp16	SK6017	—	—	12.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰N5/	2/12	常滑産
1867	08605	土師器	小皿	T6	Vq17	SK6019	8.0	0.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	浅黄橙7.5YR8/3	1/12	
1868	08604	土師器	皿	T6	Vq17	SK6019	10.8	2.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
1869	08601	陶器	甕	T6	Vq17	SK6019	23.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	内：褐灰10YR6/1 外：橙5YR7/6	1/12	常滑産
1870	08603	土師器	皿	T6	Vp16	SK6023	11.0	2.0	—	内：ナデ 外：ナデ	灰白10YR8/2	1/12	
1871	08203	縄文土器	深鉢	T6	Vq15	SK6026	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、条線、沈線	にぶい褐7.5YR6/3	小片	平口縁
1872	08106	土師器	小皿	T6	Vq15	SK6026	5.4	0.8	—	内：ナデ、指オサエ 外：指オサエ	橙7.5YR7/6、褐灰7.5YR	7/12	
1873	08107	土師器	小皿	T6	Vp14・15	SK6026	8.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	暗灰N3/、灰黄褐10YR4/2	2/12	
1874	08104	土師器	焙烙	T6	Vq14	SK6026	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	橙5YR7/6、浅黄橙10YR8/3	小片	
1875	08202	陶器	摺絵皿	T6	Vp14・15	SK6026	—	—	6.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	灰白N7/	2/12	灰釉
1876	08201	陶器	皿	T6	Vp14・15	SK6026	12.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白5Y7/1	2/12	灰釉
1877	34710	陶器	擂鉢	T6	Vq14	SK6026	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白10YR8/2 釉：にぶい赤褐5YR4/3	小片	瀬戸美濃産
1878	34801	陶器	壺	T6	Vq14	SK6026	—	—	12.0	内：工具ナデ 外：ケズリ？、ナデ	灰白N7/、灰N5/	1/12	渥美産？
1879	08105	陶器	壺	T6	Vq15	SK6026	—	—	10.8	内：ナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR6/4	3/12	常滑産
1880	08108	磁器	染付丸碗	T6	Vq15	SK6026	10.4	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、松竹梅文？	灰白N8/	2/12	肥前産
1881	08602	土師器	甕	T6	Vp14・15	SK6028	—	—	—	内：ヨコナデ、ハケ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
1882	08606	陶器	山茶椀	T6	Vp14・15	SK6028	—	—	6.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	6/12	
1883	08702	土師器	鍋	T6	Ve5	包含層	17.8	—	—	内：ヨコナデ、工具ナデ 外：ナデ、ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
1884	08607	土師器	小皿	T6	—	排土	6.6	0.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：にぶい黄橙10YR7/2	3/12	
1885	08701	土師器	鍋	T6	—	排土	35.5	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ、ハケ	内：にぶい黄橙10YR6/3 外：黒褐10YR3/1	1/12	外面煤付着
1886	48005	縄文土器	深鉢	T7	Zf3	SD6049	—	—	—	内：ナデ、ミガキ 外：渦巻文、沈線、隆帯、縄文	内：にぶい橙5YR6/4 外：灰白2.5Y7/1	小片	
1887	48004	縄文土器	深鉢	T7	Ze3	SD6049	—	—	—	内：不明 外：ミガキ、沈線、条線	灰黄褐10YR6/2、灰黄褐10YR5/2	小片	
1888	48003	縄文土器	深鉢？	T7	Zf3	SD6049	—	—	—	内：不明 外：ミガキ、沈線、条線	灰褐7.5YR4/2	小片	
1889	47904	縄文土器	深鉢	T7	Zf3	SD6049	—	—	—	内：ミガキ？ 外：ミガキ、沈線、条線	内：灰白2.5Y8/1 外：にぶい黄橙10YR7/2	小片	
1890	48002	縄文土器	深鉢	T7	Ze3	SD6049	—	—	—	内：ナデ、ミガキ 外：ナデ？、沈線	灰白2.5Y7/1	小片	平口縁？
1891	47905	縄文土器	深鉢？	T7	Zf3	SD6049	—	—	—	内：ナデ？ 外：沈線	内：にぶい黄橙10YR7/2 外：黄灰2.5Y5/1	小片	平口縁
1892	48001	縄文土器	深鉢	T7	Zf3	SD6049	—	—	—	内：不明 外：ミガキ、磨消縄文	灰褐7.5YR6/2、灰褐7.5YR5/2	小片	
1893	47903	縄文土器	深鉢	T7	Ze3	SD6049	—	—	—	内：不明 外：ミガキ、磨消縄文	内：灰褐7.5YR4/2 外：灰黄褐10YR5/2	小片	
1894	47902	縄文土器	深鉢？	T7	Ze4	SD6049	—	—	—	内：ナデ？ 外：ミガキ、磨消縄文	にぶい黄橙10YR7/2	小片	平口縁
1895	47501	縄文土器	深鉢	T7	Ze3	SD6049	—	—	—	内：ミガキ 外：ミガキ？、沈線、刺突	内：にぶい黄褐10YR4/3 外：黒褐7.5YR3/1	小片	平口縁、貝殻腹縁による刺突
1896	47502	縄文土器	深鉢	T7	Zf3	SD6049	—	—	—	内：条痕 外：条痕、棒状浮文、刺突	内：にぶい橙7.5YR6/4 外：灰褐7.5YR5/2	小片	平口縁、焼成後穿孔
1897	09305	土師器	小皿	T7	Vv18	SE6035	8.9	0.9	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	灰白2.5Y8/2	3/12	
1898	08806	土師器	小皿	T7	Vv18	SE6035	8.7	—	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	2/12	
1899	08803	土師器	小皿	T7	Vv18	SE6035	9.0	2.1	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	2/12	
1900	08804	土師器	皿	T7	Vv18	SE6035	10.6	2.3	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	灰白10YR8/1	3/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1901	08805	土師器	皿	T7	Vv18	SE6035	10.6	2.2	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	灰白10YR8/1	1/12	
1902	09304	陶器	山茶椀	T7	Vv18	SE6035	—	—	7.3	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白7.5Y8/1	12/12	内面摩耗
1903	09303	陶器	片口鉢	T7	Vv18	SE6035	—	—	12.0	内：ロクロナデ、工具ナデ 外：ロクロナデ、ケズリ	灰N6/	2/12	
1904	09501	縄文土器	深鉢	T7	Wf24	SE6041	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、条線、沈線	内：にぶい黄褐10YR4/3 外：にぶい黄褐10YR5/3	小片	波状口縁
1905	09405	土師器	皿	T7	Wf24	SE6041	10.4	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	内：黒褐10YR3/2 外：灰白2.5Y7/1	2/12	外面煤付着
1906	09404	土師器	甕	T7	Wf24	SE6041	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR6/3 外：黒褐10YR3/1	小片	外面煤付着
1907	09402	陶器	山茶椀	T7	Wf24	SE6041	—	—	6.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白7.5Y7/1	3/12	
1908	09401	陶器	山茶椀	T7	Wf24	SE6041	—	—	5.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	3/12	
1909	09403	陶器	山茶椀	T7	Wf24	SE6041	—	—	6.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	内：灰白7.5Y7/1 外：灰白N7/	6/12	
1910	09002	土師器	皿	T7	Wf23	SE6042	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	内：浅黄橙7.5YR8/3 外：にぶい橙7.5YR7/4	小片	
1911	09103	土師器	鍋	T7	Wf23	SE6042	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	小片	外面煤付着
1912	09101	土師器	鍋	T7	Wf23	SE6042	28.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	外面煤付着
1913	09005	陶器	山茶椀	T7	Wf23	SE6042	14.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白N8/	2/12	
1914	08907	陶器	山茶椀	T7	Wf23	SE6042	—	—	6.7	内：ナデ、ロクロナデ 外：ナデ、ロクロナデ、糸切痕	灰5Y6/1	9/12	内面摩耗
1915	09006	陶器	山茶椀	T7	Wf23	SE6042	—	—	5.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白7.5Y7/1	2/12	
1916	09707	土師器	甕	T7	Zf1	SE6043	15.6	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	橙5YR7/6	1/12	内面コゲ付着
1917	09604	陶器	山皿	T7	Zf1	SE6043	7.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白5YR7/1	3/12	
1918	09601	陶器	山茶椀	T7	Zf1	SE6043	15.2	5.3	6.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y8/1	6/12	
1919	09503	陶器	山茶椀	T7	Zf1	SE6043	15.7	5.6	6.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y8/1	11/12	
1920	09603	陶器	山茶椀	T7	Zf1	SE6043	16.8	5.4	7.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y8/1	2/12	輪花
1921	09602	陶器	山茶椀	T7	Zf1	SE6043	15.8	5.1	6.9	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y8/1	6/12	輪花
1922	09407	土師器	小皿	T7	Zf1	SE6044	8.4	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	橙5YR7/6	10/12	
1923	09406	土師器	小皿	T7	Zf1	SE6044	9.0	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
1924	09408	土師器	小皿	T7	Zf1	SE6044 井戸枠内	9.7	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白5Y7/1	10/12	
1925	09409	土師器	小皿	T7	Zf1	SE6044 井戸枠内	9.4	1.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白5Y7/1	11/12	
1926	09505	陶器	山茶椀	T7	Zf1	SE6044	17.2	5.6	7.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	1/12	
1927	09502	縄文土器	深鉢	T7	Zb5	SE6055	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、渦巻文	内：にぶい黄褐2.5Y6/3 外：暗灰黄2.5Y5/2	小片	
1928	09001	土師器	小皿	T7	Zb5	SE6055	8.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	2/12	
1929	09504	陶器	山茶椀	T7	Zb5	SE6055	—	—	6.0	内：ナデ、ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y8/1	3/12	
1930	09302	縄文土器	深鉢	T7	Vw19	SK6032	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ、指オサエ、沈線	にぶい黄橙10YR7/2	小片	波状口縁
1931	09301	縄文土器	深鉢	T7	Vw19	SK6032	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、縄文、沈線	にぶい黄橙10YR6/3、にぶい橙7.5YR7/4	小片	波状口縁
1932	09202	土師器	小皿	T7	Vw19	SK6032	8.0	—	—	内：ナデ、 外：ナデ、指オサエ、ナデ	浅黄橙10YR8/3	3/12	
1933	09201	土師器	小皿	T7	Vw19	SK6032	9.0	1.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	1/12	
1934	09203	土師器	小皿	T7	Vw19	SK6032	9.0	1.6	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	灰白2.5Y8/2	2/12	
1935	09204	土師器	小皿	T7	Vw19	SK6032	9.8	1.6	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	1/12	口縁部煤付着
1936	09207	土師器	鍋	T7	Vw19	SK6032	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰白10YR8/2	小片	外面煤付着
1937	09206	土師器	鍋	T7	Vw19	SK6032	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	小片	外面煤付着
1938	09205	土師器	羽釜	T7	Vw19	SK6032	19.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	外面煤付着
1939	09209	陶器	山茶椀	T7	Vw19	SK6032	—	—	6.9	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	3/12	
1940	09208	陶器	甕	T7	Vw19	SK6032	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰5Y6/1 釉：赤灰2.5Y4/2	小片	常滑産
1941	08802	土師器	鍋	T7	Vw19	SK6033	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	小片	外面煤付着

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1942	08807	土師器	羽釜	T7	Vw19	SK6038	—	—	—	内：ヨコナデ、工具ナデ 外：ナデ、ヨコナデ、ハケ	灰白10YR8/2	小片	外面煤付着
1943	08901	縄文土器	深鉢	T7	Vv19	SK6039	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、縄文、沈線	にぶい黄橙10YR7/2、 灰黄褐10YR5/2、 黒褐10YR3/1	小片	波状口縁
1944	08808	土師器	小皿	T7	Vv19	SK6039	9.2	1.5	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	灰白2.5Y8/1	4/12	
1945	08809	土師器	小皿	T7	Vv19	SK6039	9.9	2.1	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	浅黄橙7.5YR8/4	2/12	
1946	08810	土師器	羽釜	T7	Vv19	SK6039	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	小片	
1947	08902	土師器	鍋	T7	Vv19	SK6039	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	小片	外面煤付着
1948	08903	陶器	丸碗	T7	Vv19	SK6039	10.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	胎：灰白10YR8/1 釉：黒10YR2/1	1/12	瀬戸美濃産、鉄釉
1949	08906	土師器	鍋	T7	Vv19	SK6040	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	小片	外面煤付着
1950	08905	土師器	鍋	T7	Vv19	SK6040	—	—	—	内：ヨコナデ、工具ナデ 外：ヨコナデ、ハケ	浅黄橙10YR8/3	小片	外面煤付着
1951	08904	土師器	鍋	T7	Vv19	SK6040	28.6	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	外面煤付着
1952	09004	土師器	皿	T7	Vv18	SK6119	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	灰白10YR8/2	小片	
1953	09007	陶器	山茶椀	T7	Vv18	SK6119	—	—	6.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	3/12	
1954	41706	土師器	小皿	T7	Vs16	SD6012	6.5	1.4	—	内：ナデ 外：指オサエ	灰白7.5YR8/2	6/12	
1955	45505	土師器	小皿	T7	Vs18	SD6012	7.0	1.45	—	内：ナデ 外：指オサエ	にぶい橙7.5YR7/4	3/12	
1956	43405	土師器	小皿	T7	Vu18	SD6012	7.1	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	橙5YR6/6	3/12	
1957	40204	土師器	小皿	T7	Vt17	SD6012	8.6	1.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	7/12	
1958	45506	土師器	小皿	T7	Vt17	SD6012	8.0	2.0	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	3/12	外面煤付着
1959	42706	土師器	小皿	T7	Vs17	SD6012	9.8	1.9	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	浅黄橙10YR8/3	2/12	
1960	41603	土師器	皿	T7	Vs17	SD6012	11.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：灰白2.5Y8/2	2/12	
1961	41602	土師器	皿	T7	Vs17	SD6012	12.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/1	2/12	
1962	40706	土師器	杯	T7	Vt16	SD6012	12.6	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3、橙 2.5YR7/6	3/12	
1963	45507	土師器	杯	T7	Vs18	SD6012	12.8	2.5	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
1964	44905	土師器	杯	T7	Vt18	SD6012	13.9	2.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
1965	40805	土師器	杯	T7	Vt16	SD6012	13.4	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：浅黄橙7.5YR8/4 外：浅黄橙10YR8/3、 浅黄橙7.5YR8/4	8/12	
1966	43408	土師器	杯	T7	Vu19	SD6012	13.7	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
1967	42604	土師器	杯	T7	Vs16	SD6012	13.8	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	1/12	
1968	40005	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	13.8	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	3/12	
1969	40003	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	13.9	2.7	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	1/12	
1970	44904	土師器	杯	T7	Vt18	SD6012	13.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
1971	40308	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	13.8	2.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	
1972	36904	土師器	杯	T7	Vt16	SD6012	13.8	2.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	2/12	
1973	41406	土師器	杯	T7	Vs17	SD6012	14.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙5YR6/4 外：橙5YR6/6	1/12	
1974	40804	土師器	杯	T7	Vt16	SD6012	13.7	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	内：浅黄橙7.5YR8/4 外：にぶい橙 7.5YR7/4	1/12	
1975	41601	土師器	杯	T7	Vs17	SD6012	14.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	2/12	
1976	40802	土師器	杯	T7	Vt16	SD6012	13.8	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	
1977	40801	土師器	杯？	T7	Vt16	SD6012	14.1	—	—	内：ヨコナデ 外：ケズリ、ヨコナデ	灰黄褐10YR6/2	2/12	内外面煤付着、皿？
1978	40001	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	14.4	3.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄2.5Y7/3	7/12	
1979	44206	土師器	杯	T7	Vu18	SD6012	14.0	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
1980	40705	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	14.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	1/12	
1981	42002	土師器	杯	T7	Vs16	SD6012	14.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：灰黄褐10YR6/2	1/12	
1982	40106	土師器	皿	T7	Vt17	SD6012	14.8	2.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	12/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
1983	43303	土師器	杯	T7	Vu17	SD6012	15.1	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR6/6	2/12	
1984	43304	土師器	杯	T7	Vu18	SD6012	14.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR7/6	2/12	
1985	40306	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	14.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
1986	41504	土師器	杯	T7	Vs17	SD6012	15.0	3.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
1987	40403	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	14.7	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	3/12	
1988	45509	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	14.8	4.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：橙7.5YR7/6 外：にぶい橙 7.5YR6/4	2/12	
1989	41502	土師器	杯	T7	Vs17	SD6012	15.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	4/12	口縁部煤付着
1990	40402	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	15.1	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
1991	42001	土師器	杯	T7	Vs16	SD6012	15.2	3.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	口縁部煤付着
1992	40406	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	15.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	1/12	
1993	40408	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	15.6	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR7/6	1/12	
1994	41505	土師器	杯	T7	Vs17	SD6012	16.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	黄灰2.5Y4/1	2/12	口縁部煤付着
1995	40307	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	15.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
1996	40702	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	16.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	1/12	
1997	41904	土師器	杯	T7	Vs17	SD6012	16.9	3.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3/12	
1998	43002	土師器	杯	T7	Vu17	SD6012	14.6	2.9	—	内：ナデ、ヨコナデ、線刻 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：にぶい橙 7.5YR7/4	2/12	
1999	38301	土師器	杯	T7	Vs17	SD6012	13.4	2.7	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	内：浅黄橙 10YR7.5YR7/4 外：にぶい橙 7.5YR8/3	12/12	墨書「買」
2000	37001	土師器	杯	T7	Vs17	SD6012	13.5	2.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
2001	38303	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	14.8	3.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい黄橙10YR7/3	12/12	墨書「承平」
2002	38105	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	13.2	2.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ、墨書	にぶい橙7.5YR7/4	5/12	墨書「南平」？
2003	38202	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	14.6	2.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	内：浅黄橙10YR8/3 外：にぶい橙 7.5YR7/4	3/12	
2004	38201	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	15.0	3.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい橙7.5YR7/4	6/12	墨書「長」
2005	37508	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	14.8	3.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	
2006	43302	土師器	杯	T7	Vu19	SD6012	12.9	3.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	明褐7.5YR5/6	3/12	
2007	41405	土師器	杯	T7	Vs16・17	SD6012	13.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	3/12	
2008	43603	土師器	杯	T7	Vu19	SD6012	13.0	3.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	橙5YR6/6	12/12	
2009	41003	土師器	杯	T7	Vt16	SD6012	13.4	2.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：灰白2.5Y8/2 外：にぶい橙 7.5YR7/4	6/12	
2010	43206	土師器	杯	T7	Vu19	SD6012	13.8	2.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	1/12	口縁部煤付着
2011	44606	土師器	杯	T7	Vt18	SD6012	13.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	橙2.5Y6/6	2/12	
2012	44607	土師器	杯	T7	Vt18	SD6012	13.8	2.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	2/12	
2013	40305	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	13.8	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	1/12	
2014	41403	土師器	杯	T7	Vs16・17	SD6012	13.7	2.95	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/2 外：橙7.5YR7/6	4/12	
2015	42005	土師器	杯	T7	Za5	SD6012	13.8	3.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙2.5YR6/8	1/12	
2016	43207	土師器	杯	T7	Vu18	SD6012	13.6	2.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/8	1/12	
2017	43802	土師器	杯	T7	Vu19	SD6012	14.9	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	外面煤付着
2018	40707	土師器	杯	T7	Vt16	SD6012	14.0	3.0	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
2019	43301	土師器	杯	T7	Vu18	SD6012	14.6	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
2020	42004	土師器	杯	T7	Yv5	SD6012	14.8	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	1/12	
2021	43605	土師器	杯	T7	Vu18	SD6012	15.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ケズリ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	3/12	
2022	40405	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	15.7	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
2023	43602	土師器	杯	T7	Vu18	SD6012	16.0	3.45	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：橙7.5YR6/6 外：にぶい黄橙10YR7/3	9/12	内外面煤付着
2024	44801	土師器	杯	T7	Vt19	SD6012	16.0	3.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄褐10YR6/2	2/12	
2025	38401	土師器	杯	T7	Vs16	SD6012	12.9	3.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、線刻	にぶい黄橙10YR7/2	9/12	線刻「井」
2026	41401	土師器	杯	T7	Vs16・17	SD6012	15.0	3.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、線刻	にぶい黄橙10YR7/4	5/12	線刻「木」？
2027	42006	土師器	杯	T7	Yy5	SD6012	14.5	2.9	—	内：ナデ、ヨコナデ、線刻 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	3/12	
2028	38403	土師器	杯	T7	Vs16	SD6012	13.2	2.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい橙5YR7/4	5/12	墨書「流」
2029	38102	土師器	杯	T7	Vs17	SD6012	13.4	3.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	浅黄橙7.5YR8/6	12/12	墨書「林家」
2030	38101	土師器	杯	T7	Vt16・17	SD6012	14.3	3.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい橙7.5YR7/3	10/12	墨書「木」
2031	38402	土師器	杯	T7	Vt16	SD6012	12.4	3.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい黄橙10YR7/2	12/12	墨書「木」
2032	41907	土師器	皿	T7	Vs17	SD6012	13.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	2/12	外面煤付着
2033	41503	土師器	皿	T7	Vs17	SD6012	13.9	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/2	2/12	
2034	09702	土師器	皿	T7	Ze・f12	SD6012	14.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	灰黄褐10YR6/2	1/12	
2035	41404	土師器	皿	T7	Vs17	SD6012	14.7	2.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	3/12	
2036	41507	土師器	皿	T7	Vs17	SD6012	15.0	1.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：灰黄褐10YR5/2 外：灰黄褐10YR6/2	2/12	内外面煤付着
2037	41906	土師器	皿	T7	Vs17	SD6012	15.6	1.8	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	灰褐7.5YR5/2、褐灰7.5YR4/1	1/12	
2038	40404	土師器	皿	T7	Vt17	SD6012	15.6	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	内面煤付着
2039	40407	土師器	皿	T7	Vt17	SD6012	15.6	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：浅黄橙7.5YR8/3 外：浅黄橙7.5YR8/4	1/12	
2040	44902	土師器	皿	T7	Vt18	SD6012	15.7	1.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	内外面煤付着
2041	40002	土師器	皿	T7	Vt17	SD6012	15.3	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	5/12	
2042	44903	土師器	皿	T7	Vt18	SD6012	15.8	1.7	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
2043	40401	土師器	皿	T7	Vt17	SD6012	16.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/3	1/12	外面煤付着
2044	45508	土師器	皿	T7	Vs18	SD6012	16.4	2.6	—	内：ヨコナデ 外：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	2/12	
2045	40708	土師器	皿	T7	Vt16	SD6012	16.8	2.3	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
2046	41004	土師器	皿	T7	Vs16	SD6012	16.6	2.6	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、工具ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	8/12	外面煤付着
2047	44106	土師器	皿	T7	Vu17	SD6012	14.2	1.65	—	内：ヨコナデ 外：ナデ？、ヨコナデ	橙5YR6/8	1/12	
2048	44005	土師器	皿	T7	Vu19	SD6012	17.6	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
2049	41804	土師器	皿	T7	Vs16	SD6012	17.8	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ、暗文、線刻 外：指オサエ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	2/12	
2050	38106	土師器	皿	T7	Yx5	SD6012	18.6	3.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ケズリ、ヨコナデ、線刻	内：灰白7.5YR8/2 外：にぶい褐7.5YR6/3	2/12	
2051	42805	土師器	杯	T7	—	SD6012	10.4	3.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	
2052	42606	土師器	杯	T7	Vs16	SD6012	11.4	3.9	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：褐灰5YR4/1 外：明褐灰7.5YR4/1	5/12	
2053	42605	土師器	杯	T7	Vs16	SD6012	12.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/3	2/12	
2054	43001	土師器	杯	T7	—	SD6012	12.6	3.6	—	内：ナデ、ヨコナデ、線刻 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/4	5/12	
2055	42802	土師器	杯	T7	—	SD6012	12.4	3.5	—	内：ナデ、ヨコナデ、線刻 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	3/12	
2056	36903	土師器	杯	T7	Vu17	SD6012	13.2	3.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい橙5YR7/4	4/12	
2057	38302	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	12.3	3.2	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ、墨書	にぶい黄橙10YR7/3	6/12	墨書「一」
2058	44207	土師器	杯	T7	Vu18	SD6012	—	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	小片	
2059	39906	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	14.9	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	
2060	41506	土師器	杯	T7	Vs17	SD6012	15.9	4.55	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	2/12	
2061	42603	土師器	杯	T7	Vs16	SD6012	16.5	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4、にぶい橙7.5YR6/4	1/12	
2062	41705	土師器	杯	T7	Vs16	SD6012	16.8	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/3	2/12	
2063	40304	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	14.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	橙5YR7/8	1/12	
2064	40701	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	17.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR7/6	2/12	
2065	41905	土師器	杯	T7	Vs17	SD6012	17.1	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	橙5YR7/6	1/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
2066	39904	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	17.4	3.3	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：にぶい黄橙 10YR7/2	6/12	
2067	43305	土師器	杯	T7	Vu18	SD6012	17.8	—	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ケズリ？、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
2068	44501	土師器	椀	T7	Vt18	SD6012	19.6	5.4	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	4/12	
2069	42804	土師器	蓋	T7	—	SD6012	15.9	—	—	内：ヨコナデ？、暗文 外：ケズリ、ナデ？、ヨコナデ、暗文	橙2.5YR6/6	1/12	
2070	43407	土師器	椀	T7	Vu19	SD6012	14.2	—	—	内：ヨコナデ、暗文？ 外：指オサエ、ヨコナデ	橙5YR6/6	1/12	
2071	42003	土師器	椀	T7	Vs16	SD6012	14.8	—	—	内：ヨコナデ、暗文 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	1/12	
2072	44205	土師器	椀	T7	Vu18	SD6012	15.6	—	—	内：ヨコナデ、暗文 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：浅黄2.5Y7/3 外：橙5YR6/6	1/12	
2073	43803	土師器	椀	T7	Vu18	SD6012	16.9	—	—	内：ヨコナデ、暗文 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
2074	44901	土師器	椀	T7	Vt18	SD6012	17.0	4.7	—	内：ヨコナデ、暗文 外：ケズリ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
2075	43208	土師器	椀	T7	Vu18	SD6012	18.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ、暗文 外：ヨコナデ	橙5YR6/6	2/12	
2076	42803	土師器	椀	T7	—	SD6012	19.2	—	—	内：ヨコナデ、暗文 外：ヨコナデ	橙5YR6/6	1/12	
2077	42602	土師器	杯	T7	Vs16	SD6012	20.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ、暗文 外：指オサエ、ヨコナデ	橙5YR7/6	2/12	
2078	40703	黒色土器	椀	T7	Vt17	SD6012	15.0	—	—	内：ヨコナデ、ミガキ、暗文 外：ケズリ、ヨコナデ	内：黒5Y2/1 外：橙5YR7/6、 にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
2079	44602	黒色土器	椀	T7	Vt18	SD6012	14.8	—	—	内：ミガキ、ヨコナデ、暗文 外：ケズリ、ヨコナデ	内：黒N2/ 外：にぶい橙5YR7/4	4/12	
2080	38203	土師器	皿？	T7	Vs16	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、線刻	にぶい褐7.5YR6/3	小片	線刻「木」
2081	37003	土師器	杯	T7	Vt17	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、線刻	にぶい黄橙10YR7/3	小片	
2082	37004	土師器	杯？	T7	Vt17	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、線刻	にぶい黄橙10YR7/3	小片	
2083	41501	土師器	皿？	T7	Vs17	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、墨書	灰白10YR8/2	小片	多孔
2084	36908	土師器	杯	T7	Vs17	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、墨書	にぶい橙7.5YR7/3	小片	
2085	37103	土師器	杯？	T7	Vu19	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、墨書	内：にぶい黄橙 10YR7/3、橙5YR6/6 外：橙5YR6/6	小片	
2086	38104	土師器	杯？	T7	Vs16	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、墨書	にぶい橙7.5YR7/4	小片	
2087	36905	土師器	杯？	T7	Vt16	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、墨書	にぶい黄橙10YR7/3	小片	
2088	37002	土師器	皿？	T7	Vs17	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、墨書	浅黄橙7.5YR8/3	小片	穿孔
2089	38103	土師器	杯？	T7	Vt17	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、墨書	にぶい黄橙10YR7/3	小片	
2090	38204	土師器	皿？	T7	Vs18	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、墨書	浅黄橙10YR8/3	小片	
2091	36907	土師器	皿？	T7	Vs17	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、墨書	にぶい橙7.5YR7/4、 灰白7.5YR8/2	小片	
2092	36906	土師器	皿？	T7	Vt16	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、墨書	にぶい黄橙10YR5/3	小片	
2093	42707	土師器	台付椀	T7	Vs17	SD6012	—	—	7.8	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	3/12	
2094	42801	ロクロ土師器	椀	T7	Vs18	SD6012	14.4	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白10YR8/2	2/12	
2095	44204	ロクロ土師器	椀	T7	Vu17	SD6012	—	—	4.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白10YR8/2	12/12	
2096	43801	土師器	高杯	T7	Vu19	SD6012	20.6	—	—	内：ヨコナデ、暗文 外：工具ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
2097	42904	土師器	高杯	T7	—	SD6012	—	—	脚部径3.6	内：シボリ痕 外：ハケ、直線文	橙5YR7/6	脚部12/12	
2098	42702	土師器	高杯	T7	Vs16	SD6012	—	—	—	内：ナデ、シボリ痕 外：指オサエ、ナデ	灰黄褐10YR6/2	脚柱部12/12	
2099	42806	土師器	高杯	T7	—	SD6012	—	—	7.8	内：ハケ、ナデ 外：ハケ、ヨコナデ、沈線	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	
2100	44906	土師器	甑	T7	Vt18	SD6012	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	小片	
2101	40201	土師器	甑	T7	Vt17	SD6012	22.8	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	外面煤付着
2102	43804	土師器	竈	T7	Vu17	SD6012	—	—	—	内：ハケ、ナデ 外：ハケ、ナデ？	にぶい橙5YR7/4	小片	
2103	40704	土師器	蓋	T7	Vt17	SD6012	13.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/4 外：にぶい橙 7.5YR6/4、褐灰 10YR5/1	3/12	
2104	42102	土師器	蓋	T7	Vs16	SD6012	13.8	1.6	9.0	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	3/12	
2105	42903	土師器	茶釜	T7	Vs16	SD6012	14.0	—	—	内：工具ナデ？、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰黄褐10YR6/2	3/12	外面煤付着

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
2106	44502	土師器	茶釜	T7	Vt17	SD6012	14.0	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	6/12	
2107	43004	土師器	茶釜	T7	Vs17	SD6012	13.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/2	4/12	外面煤付着
2108	43103	土師器	茶釜	T7	Vs17	SD6012	13.2	—	—	内：工具ナデ、ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ、ハケ	浅黄橙10YR8/3	2/12	流線文状ハケ
2109	42501	土師器	茶釜	T7	Vs18	SD6012	13.5	19.1	—	内：ハケ、工具ナデ、ケズリ、ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	内：橙5YR6/6 外：にぶい黄橙10YR7/3	12/12	外面煤付着
2110	42302	土師器	羽釜	T7	Vs16	SD6012	32.4	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、指オサエ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	2/12	外面煤付着
2111	42403	土師器	鉢	T7	Vs16	SD6012	14.6	6.2	—	内：ナデ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ？、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
2112	43601	土師器	鉢	T7	Vu18	SD6012	17.4	—	—	内：ハケ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	橙5YR7/6	8/12	
2113	42101	土師器	鉢	T7	Yx5	SD6012	18.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
2114	44605	土師器	鉢	T7	Vt18	SD6012	20.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	2/12	
2115	42402	土師器	鉢	T7	Yy5	SD6012	19.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	にぶい橙5YR6/4	6/12	外面煤付着
2116	40101	土師器	鉢	T7	Vt17	SD6012	18.7	8.4	9.0	内：指オサエ、ナデ、工具ナデ、ハケ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/4	4/12	
2117	42901	土師器	鉢	T7	Vs16	SD6012	22.0	9.6	9.0	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	5/12	
2118	45003	土師器	鉢	T7	Vt18	SD6012	26.4	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/1	2/12	
2119	40205	土師器	甕	T7	Vt17	SD6012	13.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：橙5YR6/6	2/12	
2120	41103	土師器	甕	T7	Vt16	SD6012	14.6	—	—	内：ケズリ？、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：褐灰7.5YR6/1	9/12	外面煤付着、内面コゲ付着
2121	45501	土師器	甕	T7	Vs18	SD6012	15.0	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：暗灰N3/ 外：にぶい橙10YR7/2	2/12	
2122	40007	土師器	甕	T7	Vt17	SD6012	—	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/2 外：にぶい橙7.5YR7/3	小片	内面コゲ付着
2123	43402	土師器	甕	T7	Vu17	SD6012	12.3	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/3	3/12	外面煤付着
2124	41203	土師器	甕	T7	Vt16	SD6012	15.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
2125	44301	土師器	甕	T7	Vu19	SD6012	16.0	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	
2126	44201	土師器	甕	T7	Vu17	SD6012	14.4	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3、橙5YR7/6	1/12	
2127	40203	土師器	甕	T7	Vt17	SD6012	15.6	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	2/12	内面コゲ付着
2128	41202	土師器	甕	T7	Vt16	SD6012	15.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：褐灰10YR4/1 外：にぶい黄橙10YR7/2	2/12	
2129	43409	土師器	甕	T7	Vu19	SD6012	15.4	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	
2130	41902	土師器	甕	T7	Vs17	SD6012	15.8	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	3/12	
2131	42601	土師器	甕	T7	Vs16	SD6012	16.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	内面コゲ付着
2132	43201	土師器	甕	T7	Vu18	SD6012	17.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：灰白10YR8/2 外：灰黄褐10YR5/2	2/12	外面煤付着
2133	40301	土師器	甕	T7	Vt17	SD6012	15.2	—	—	内：工具ナデ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	3/12	
2134	41701	土師器	甕	T7	Vs16	SD6012	15.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/3、灰白7.5YR8/2	3/12	
2135	43606	土師器	甕	T7	Vu19	SD6012	15.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/1	4/12	外面煤付着
2136	42007	土師器	甕	T7	Vs16	SD6012	15.7	—	—	内：工具ナデ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	内面コゲ付着
2137	44907	土師器	甕	T7	Vt18	SD6012	16.0	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：灰黄2.5Y6/2 外：にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
2138	43404	土師器	甕	T7	Vu18	SD6012	16.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	2/12	
2139	44802	土師器	甕	T7	Vt19	SD6012	17.0	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	
2140	41901	土師器	甕	T7	Vs17	SD6012	17.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	4/12	内面コゲ付着
2141	44603	土師器	甕	T7	Vt18	SD6012	17.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/1	2/12	内面コゲ付着
2142	41201	土師器	甕	T7	Vt16	SD6012	16.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	橙5YR6/6、浅黄橙7.5YR8/3	2/12	
2143	45002	土師器	甕	T7	Vt18	SD6012	16.4	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	5/12	
2144	40006	土師器	甕	T7	Vt17	SD6012	18.0	—	—	内：工具ナデ？、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	1/12	
2145	43306	土師器	甕	T7	Vu19	SD6012	18.0	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：灰白2.5Y8/1 外：淡赤橙2.5YR7/3	2/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
2146	44604	土師器	甕	T7	Vt18	SD6012	18.2	—	—	内：工具ナデ、ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：灰黄褐10YR6/2 外：明褐灰7.5YR7/2	1/12	
2147	42008	土師器	甕	T7	Vs16	SD6012	19.0	—	—	内：工具ナデ、ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：灰黄褐10YR6/2 外：浅黄橙10YR8/3	2/12	外面煤付着
2148	41903	土師器	甕	T7	Vs17	SD6012	19.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/3	1/12	外面煤付着
2149	43701	土師器	甕	T7	Vu18	SD6012	19.0	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄2.5Y7/3	3/12	外面煤付着
2150	43401	土師器	甕	T7	Vu17	SD6012	19.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい橙5YR7/4	1/12	内面コゲ付着
2151	42705	土師器	甕	T7	Vs17	SD6012	19.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	1/12	
2152	41304	土師器	甕	T7	Vs18	SD6012	19.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：灰黄褐10YR4/2 外：にぶい橙 7.5YR7/4	2/12	外面煤付着
2153	41305	土師器	甕	T7	Vs18	SD6012	20.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/3	4/12	外面煤付着
2154	43702	土師器	甕	T7	Vu17	SD6012	21.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR5/3 外：灰赤2.5YR6/2	3/12	
2155	45302	土師器	甕	T7	Vt18	SD6012	20.4	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	外面煤付着
2156	40202	土師器	甕	T7	Vt17	SD6012	22.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	外面煤付着
2157	40803	土師器	甕	T7	Vt17	SD6012	23.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい橙 7.5YR7/3 外：にぶい褐 7.5YR5/3	1/12	
2158	42902	土師器	甕	T7	Yy5	SD6012	23.8	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	4/12	
2159	41102	土師器	甕	T7	Vt16	SD6012	24.9	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	3/12	
2160	44402	土師器	甕	T7	Vt18	SD6012	25.3	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/4	5/12	外面煤付着
2161	40103	土師器	甕	T7	Vt17	SD6012	27.9	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ、線刻	にぶい黄橙10YR7/2	1/12	
2162	41703	土師器	甕	T7	Vs16	SD6012	24.9	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	
2163	40102	土師器	甕	T7	Vt17	SD6012	27.7	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	2/12	外面煤付着
2164	44401	土師器	甕	T7	Vt18	SD6012	30.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	淡黄2.5Y8/3	5/12	外面煤付着
2165	40104	土師器	甕	T7	Vt17	SD6012	—	—	—	内：ケズリ、ナデ 外：ケズリ、ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	体部3/12	内面コゲ付着
2166	43003	土師器	鍋	T7	Vs17	SD6012	22.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰黄褐10YR5/2	3/12	外面煤付着
2167	42401	土師器	鍋	T7	Vs16	SD6012	24.3	—	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	内：灰白10YR8/2 外：褐灰10YR5/1	2/12	外面煤付着
2168	43102	土師器	鍋	T7	Vs17	SD6012	25.0	—	—	内：ケズリ？、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：灰褐7.5YR4/2	2/12	外面煤付着
2169	41303	土師器	鍋	T7	Vs18	SD6012	25.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/2	2/12	外面煤付着
2170	45402	土師器	鍋	T7	Vt17	SD6012	25.0	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白2.5Y8/1	3/12	口縁部欠損後そのまま使用
2171	45301	土師器	鍋	T7	Vt17	SD6012	32.6	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、指オサエ、ハケ	灰白7.5YR8/2	3/12	外面煤付着、内面コゲ付着
2172	41702	土師器	鍋	T7	Vs16	SD6012	21.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	2/12	
2173	41005	土師器	鍋	T7	Vs17	SD6012	26.0	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	内：灰黄2.5Y7/2 外：灰白10YR7/1	2/12	外面煤付着
2174	40502	土師器	鍋	T7	Vt17	SD6012	27.2	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白7.5YR8/2	1/12	外面煤付着
2175	45201	土師器	鍋	T7	Vt17	SD6012	31.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	3/12	
2176	45202	土師器	鍋	T7	Vt17	SD6012	37.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ？、ハケ、ヨコナデ	内：灰白7.5YR8/2 外：灰黄褐10YR6/2	4/12	外面煤付着
2177	43101	土師器	鍋	T7	Vs17	SD6012	34.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ、線刻 外：ハケ、ヨコナデ	灰白2.5Y7/1	2/12	外面煤付着、内面コゲ付着
2178	41101	土師器	鍋	T7	Vs17	SD6012	40.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：灰黄褐10YR6/2 外：暗灰N3/	2/12	外面煤付着
2179	40501	土師器	焙烙	T7	Vt17	SD6012	43.8	—	—	内：ケズリ、工具ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	外面煤付着
2180	45602	土師器	十能	T7	Vt17	SD6012	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、工具ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	把手	
2181	45606	土師器	製塩土器	T7	Vs18	SD6012	—	—	—	内：工具ナデ？ 外：指オサエ、ナデ	明赤褐2.5YR5/6	小片	
2182	44306	土師器	製塩土器	T7	Vt19	SD6012	—	—	—	内：不明 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/6	小片	
2183	44704	土師器	製塩土器	T7	Vt18	SD6012	—	—	—	内：不明 外：不明	内：にぶい橙 7.5YR7/3 外：にぶい橙 2.5YR6/4	小片	
2184	42807	土師器	製塩土器	T7	Vs18	SD6012	—	—	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙2.5YR6/4	小片	
2185	45004	土師器	製塩土器	T7	Vt18	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ	にぶい橙5YR6/4	小片	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
2186	45005	土師器	製塩土器	T7	Vt18	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	小片	
2187	43909	土師器	製塩土器	T7	Vu19	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	橙5YR7/6	小片	
2188	43506	土師器	製塩土器	T7	Vu19	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ	橙5YR6/6、橙5YR7/6	小片	
2189	43908	土師器	製塩土器	T7	Vu18	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	浅黄橙7.5YR8/6	小片	
2190	43505	土師器	製塩土器	T7	Vu19	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ	橙5YR6/6	小片	
2191	44705	土師器	製塩土器	T7	Vt18	SD6012	—	—	—	内：工具ナデ 外：指オサエ、ナデ	内：灰黄褐10YR6/2 外：褐灰10YR6/1	小片	
2192	44307	土師器	製塩土器	T7	Vt19	SD6012	—	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	小片	
2193	40603	土師器	製塩土器	T7	Vt17	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙2.5YR6/4	小片	
2194	41205	土師器	製塩土器	T7	Vt16	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：灰白10YR8/2	小片	
2195	45101	土師器	製塩土器	T7	Vt18	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	橙5YR6/6	小片	
2196	42701	土師器	製塩土器	T7	Vs16	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	淡赤橙2.5YR7/4	小片	
2197	40605	土師器	製塩土器	T7	Vt17	SD6012	—	—	—	内：不明 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙5YR6/4	小片	
2198	43307	土師器	製塩土器	T7	Vu17	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ	明赤褐2.5Y5/6	小片	
2199	45605	土師器	製塩土器	T7	Vs18	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	橙5YR7/8	小片	
2200	43202	土師器	製塩土器	T7	Vu17	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ	橙5YR7/6	小片	
2201	43509	土師器	製塩土器	T7	Vu19	SD6012	—	—	—	内：工具ナデ 外：不明	橙5YR6/6	小片	
2202	41308	土師器	製塩土器	T7	Vs19	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	橙7.5YR6/6	小片	
2203	40606	土師器	製塩土器	T7	Vt17	SD6012	—	—	—	内：不明 外：指オサエ、ナデ	明赤褐5YR5/6	小片	
2204	41606	土師器	製塩土器	T7	Vs17	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	内：にぶい黄橙 10YR6/4 外：明赤褐5YR5/6	小片	
2205	41803	土師器	製塩土器	T7	Vs16	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	小片	
2206	41604	土師器	製塩土器	T7	Vs17	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ	内：灰黄2.5Y7/2 外：にぶい橙5YR7/4	小片	
2207	43906	土師器	製塩土器	T7	Vu19	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ	橙5YR6/6	小片	
2208	43511	土師器	製塩土器	T7	Vu19	SD6012	—	—	—	内：工具ナデ 外：指オサエ、ナデ	橙2.5YR7/6	小片	
2209	43905	土師器	製塩土器	T7	Vu19	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ	赤橙10R6/6	小片	
2210	40607	土師器	製塩土器	T7	Vt17	SD6012	—	—	—	内：不明 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙5YR6/4	小片	
2211	41207	土師器	製塩土器	T7	Vt16	SD6012	—	—	—	内：不明 外：指オサエ？	橙5YR6/6	小片	
2212	43510	土師器	製塩土器	T7	Vu19	SD6012	—	—	—	内：工具ナデ 外：指オサエ、ナデ	橙5YR7/6	小片	
2213	43907	土師器	製塩土器	T7	Vu18	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ	浅黄橙7.5YR8/4	小片	
2214	43507	土師器	製塩土器	T7	Vu19	SD6012	—	—	—	内：不明 外：指オサエ、ナデ	橙5YR6/6	小片	
2215	43508	土師器	製塩土器	T7	Vu19	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ	内：浅黄橙10YR8/4 外：にぶい橙5YR6/4	小片	
2216	41302	土師器	製塩土器	T7	Vs17	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	内：橙7.5YR6/6 外：黄灰2.5Y5/1	小片	
2217	41307	土師器	製塩土器	T7	Vs19	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	内：灰白7.5YR8/2 外：にぶい橙5YR6/4	小片	
2218	40604	土師器	製塩土器	T7	Vt17	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	橙5YR6/6	小片	
2219	41208	土師器	製塩土器	T7	Vs17	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	内：にぶい黄橙 10YR7/2 外：にぶい橙5YR6/4	小片	
2220	40602	土師器	製塩土器	T7	Vt17	SD6012	—	—	—	内：不明 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙2.5YR6/4	小片	
2221	41605	土師器	製塩土器	T7	Vs17	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	小片	
2222	41802	土師器	製塩土器	T7	Vs16	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：不明	にぶい橙5YR6/4	小片	
2223	41801	土師器	製塩土器	T7	Vs16	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ	にぶい橙7.5YR6/4	小片	
2224	45604	土師器	製塩土器	T7	Vs18	SD6012	—	5.2	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	小片	
2225	41206	土師器	製塩土器	T7	Vt16	SD6012	—	5.0	—	内：ナデ 外：指オサエ	橙5YR6/6	小片	
2226	44601	土師器	製塩土器	T7	Vt17	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	明赤褐5YR5/8	小片	
2227	41301	土師器	製塩土器	T7	Vs17	SD6012	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	内：にぶい赤褐 5YR5/4 外：灰褐7.5YR5/2	小片	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
2228	42607	土師器	製塩土器	T7	Vs16	SD6012	—	5.9	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙2.5YR6/4	小片	
2229	44305	土師器	製塩土器	T7	Vt19	SD6012	18.2	—	—	内：ナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR7/6	1/12	
2230	44304	土師器	製塩土器	T7	Vt19	SD6012	14.2	—	—	内：工具ナデ、ナデ 外：ナデ？	内：橙5YR6/6 外：にぶい黄褐10YR5/3	1/12	
2231	44302	土師器	製塩土器	T7	Vu18	SD6012	16.6	—	—	内：工具ナデ 外：指オサエ、ヨコナデ	内：橙5YR6/6 外：にぶい赤橙10R6/3	1/12	
2232	43406	土師器	製塩土器	T7	Vu18	SD6012	18.0	—	—	内：工具ナデ 外：指オサエ、ナデ	橙7.5YR6/6	1/12	
2233	43504	土師器	製塩土器	T7	Vu19	SD6012	—	—	15.2	内：工具ナデ 外：指オサエ、ナデ	橙5YR6/6	1/12	
2234	44303	土師器	製塩土器	T7	Vu17	SD6012	—	—	15.2	内：ナデ 外：指オサエ	内：橙5YR7/6 外：にぶい橙5YR7/3	1/12	
2235	43901	土師器	製塩土器	T7	Vu18	SD6012	—	—	15.0	内：ナデ 外：指オサエ	内：浅黄橙10YR8/3 外：にぶい赤褐5YR5/4	2/12	
2236	43501	土師器	製塩土器	T7	Vu19	SD6012	13.0	4.9	14.3	内：ナデ、工具ナデ 外：指オサエ	にぶい橙7.5YR6/4	3/12	
2237	42105	土師器	製塩土器	T7	Vs17	SD6012	15.2	5.2	14.0	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	1/12	
2238	43902	土師器	製塩土器	T7	Vu19	SD6012	15.0	4.7	13.4	内：ナデ 外：指オサエ	内：浅黄橙10YR8/4 外：橙5YR6/6	1/12	
2239	43903	土師器	製塩土器	T7	Vu19	SD6012	13.4	4.6	15.0	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	橙7.5YR7/6	1/12	
2240	42103	土師器	製塩土器	T7	Yx5	SD6012	14.0	5.9	14.8	内：ナデ、ハケ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	1/12	
2241	42106	土師器	製塩土器	T7	Vs17	SD6012	15.0	4.8	15.2	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	橙7.5YR6/6	1/12	
2242	42104	土師器	製塩土器	T7	Vs17	SD6012	15.5	4.7	13.7	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
2243	43502	土師器	製塩土器	T7	Vu19	SD6012	15.6	—	—	内：ナデ 外：指オサエ	橙5YR6/6	1/12	
2244	43904	土師器	製塩土器	T7	Vu19	SD6012	15.1	5.2	14.2	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：橙7.5YR7/6 外：橙2.5YR6/6	1/12	
2245	44702	土師器	製塩土器	T7	Vt18	SD6012	15.8	4.6	15.6	内：工具ナデ 外：指オサエ	橙5YR6/6、橙5YR7/6	1/12	
2246	40601	土師器	製塩土器	T7	Vt17	SD6012	15.4	6.4	15.8	内：ナデ 外：指オサエ	にぶい橙5YR7/4	2/12	
2247	41204	土師器	製塩土器	T7	Vt16	SD6012	15.8	5.5	15.4	内：ナデ 外：指オサエ	内：にぶい橙7.5YR7/4 外：にぶい赤褐5YR5/3、にぶい黄橙10YR6/3	3/12	
2248	43503	土師器	製塩土器	T7	Vu19	SD6012	16.7	5.5	15.9	内：工具ナデ 外：指オサエ	橙5YR6/6	1/12	
2249	39902	土師器	製塩土器	T7	Vt17	SD6012	15.6	5.5	16.8	内：指オサエ 外：指オサエ	内：黄灰2.5Y8/1 外：灰白2.5Y8/1	2/12	
2250	39903	土師器	製塩土器	T7	Vt17	SD6012	16.4	4.4	17.8	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	2/12	
2251	44703	土師器	製塩土器	T7	Vt18	SD6012	16.0	—	—	内：工具ナデ 外：指オサエ、ナデ	内：浅黄橙10YR8/4 外：にぶい橙2.5YR6/4	4/12	
2252	39901	土師器	製塩土器	T7	Vt17	SD6012	18.8	5.0	18.8	内：ナデ 外：指オサエ	内：橙7.5YR7/6 外：にぶい黄橙10YR6/3	3/12	
2253	40901	土製品	土錘	T7	Vt16	SD6012	—	—	—	ナデ	灰白2.5Y8/2	半欠	重さ2.06g
2254	40903	土製品	土錘	T7	Vt16	SD6012	長3.9	幅1.2	厚1.1	ナデ	灰白2.5Y8/2、黒褐2.5Y3/1	一部欠	重さ4.46g
2255	43205	土製品	土錘	T7	Vu18	SD6012	長4.6	幅1.1	厚1.1	ナデ	浅黄橙10YR8/3	完形	重さ4.54g
2256	44002	土製品	土錘	T7	Vu19	SD6012	—	幅1.4	厚1.2	指オサエ、ナデ	灰白2.5Y7/1	一部欠	
2257	40506	土製品	土錘	T7	Vt17	SD6012	長4.7	幅1.3	厚1.3	ナデ	灰白10YR8/2	完形	重さ7.36g
2258	40507	土製品	土錘	T7	Vt17	SD6012	長4.7	幅1.1	厚1.1	ナデ	浅黄橙10YR8/3	完形	重さ4.57g
2259	40107	土製品	土錘	T7	Vt17	SD6012	長4.9	幅0.9	厚0.9	ナデ？	にぶい橙5YR7/4	完形	重さ3.0ｇ
2260	43403	土製品	土錘	T7	Vu17	SD6012	長4.8	幅1.1	厚1.0	ナデ？	にぶい黄橙10YR7/3	完形	
2261	44707	土製品	土錘	T7	Vt18	SD6012	長5.0	幅1.0	厚1.0	ナデ	浅黄橙10YR8/3	一部欠	
2262	44706	土製品	土錘	T7	Vt18	SD6012	長5.0	幅1.3	厚1.2	ナデ	灰褐7.5YR3/2	完形	
2263	43910	土製品	土錘	T7	Vu18	SD6012	長6.0	幅1.2	厚1.2	指オサエ、ナデ	灰白10YR7/1	完形	
2264	44003	土製品	土錘	T7	Vu19	SD6012	長4.7	幅1.6	厚1.4	指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	一部欠	
2265	43204	土製品	土錘	T7	Vu18	SD6012	長4.6	幅2.0	厚1.8	ナデ	灰黄2.5Y6/2	完形	重さ15.93g
2266	44203	土製品	土錘	T7	Vu17	SD6012	長4.9	幅1.95	厚1.7	ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	完形	
2267	40504	土製品	土錘	T7	Vt17	SD6012	長4.7	幅2.0	厚2.0	ナデ	黄灰2.5Y4/1	完形	重さ18.44g

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
2268	44202	土製品	土錘	T7	Vu19	SD6012	長 4.1	幅 2.0	厚 1.85	ナデ	灰黄褐10YR5/2	完形	
2269	44001	土製品	土錘	T7	Vu19	SD6012	長 4.5	幅 2.4	厚 2.1	指オサエ、ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	完形	
2270	40902	土製品	土錘	T7	Vt16	SD6012	長 4.4	幅 2.15	厚 2.15	ナデ	灰黄2.5Y7/2、黄灰2.5Y5/1	完形	重さ21.16g
2271	44709	土製品	土錘	T7	Vt18	SD6012	長 4.8	幅 2.3	厚 2.1	ナデ	褐灰7.5YR5/1	完形	
2272	40503	土製品	土錘	T7	Vt17	SD6012	長 4.6	幅 2.4	厚 2.2	ナデ	黒褐7.5YR3/1	完形	重さ21.32g
2273	43203	土製品	土錘	T7	Vt17	SD6012	長 5.65	幅 2.0	厚 1.9	ナデ	灰黄2.5Y7/2	一部欠	重さ19.56g
2274	42204	土製品	土錘	T7	Vs17	SD6012	—	幅 2.5	—	ナデ？	黄灰2.5Y6/1	半欠	
2275	44708	土製品	土錘	T7	Vt18	SD6012	—	—	—	ナデ	褐灰7.5YR6/1	小片	
2276	40505	土製品	土錘	T7	Vt17	SD6012	長 6.3	幅 2.7	厚 2.6	ナデ	灰黄褐10YR6/2、褐灰10YR5/1	一部欠	重さ39.48g
2277	41806	土製品	土錘	T7	Vs17	SD6012	長 6.1	幅 2.8	—	ナデ？	にぶい黄橙10YR7/2	半欠	
2278	40303	瓦質土器	香炉	T7	Vt17	SD6012	10.8	—	—	内：指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ミガキ、ヨコナデ、菱形文	暗灰N3/、橙5YR6/6	2/12	
2279	45001	瓦質土器	火鉢	T7	Vt17	SD6012	32.0	—	—	内：工具ナデ 外：工具ナデ、雷文	灰N4/	1/12	
2280	42704	須恵器	蓋	T7	Vs16	SD6012	8.3	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	灰N6/	2/12	
2281	42703	須恵器	蓋	T7	Vs16	SD6012	15.4	4.2	—	内：ナデ、ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	灰N6/	6/12	
2282	45102	須恵器	杯身	T7	Vt17	SD6012	13.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	灰N5/	1/12	
2283	43805	須恵器	杯身	T7	Vu17	SD6012	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、線刻	灰白2.5Y7/1	底部12/12	線刻「×」
2284	41805	須恵器	高杯	T7	Vs16	SD6012	—	—	脚部径3.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、凹線	灰5Y6/1	脚部12/12	透孔
2285	44102	須恵器	壺	T7	Vu18	SD6012	—	—	9.8	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	内：灰白2.5Y7/1 外：灰5Y5/1	5/12	
2286	44004	灰釉陶器	椀？	T7	Vu19	SD6012	—	—	6.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y8/1	2/12	
2287	41306	灰釉陶器	椀	T7	Vs19	SD6012	—	—	7.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	2/12	
2288	44105	灰釉陶器	椀	T7	Vu17	SD6012	—	—	7.0	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ？	灰白2.5Y7/1	2/12	
2289	44701	灰釉陶器	椀	T7	Vt18	SD6012	—	—	6.4	内：ナデ、ロクロナデ 外：ケズリ	灰N6/	3/12	
2290	40302	灰釉陶器	皿	T7	Vt17	SD6012	14.4	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	内：灰白10Y7/1 外：灰白2.5Y8/1	2/12	
2291	44104	灰釉陶器	皿	T7	Vu17	SD6012	—	—	5.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	3/12	
2292	37006	灰釉陶器	皿	T7	Vs19	SD6012	—	—	8.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白N7/	2/12	転用硯、底部外面墨付着
2293	40904	灰釉陶器	段皿	T7	Vt16	SD6012	17.9	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白10YR7/1 釉：灰オリーブ7.5Y6/2	1/12	
2294	45105	陶器	山皿	T7	Vt17	SD6012	—	—	5.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	6/12	
2295	37005	陶器	山茶椀	T7	Vt17	SD6012	16.5	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、墨書	胎：灰白5Y7/1 釉：灰7.5Y6/1	1/12	
2296	42201	陶器	山茶椀	T7	Vs17	SD6012	—	—	7.9	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	6/12	内面炭化物付着
2297	42202	陶器	山茶椀	T7	Vs16	SD6012	—	—	7.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	12/12	
2298	45103	陶器	山茶椀	T7	Vt17	SD6012	—	—	6.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白5Y7/1	5/12	
2299	45104	陶器	山茶椀	T7	Vt17	SD6012	—	—	8.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	3/12	
2300	40105	灰釉陶器	長頸壺	T7	Vt17	SD6012	5.0	—	頸部径5.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白N8/	頸部12/12	
2301	44103	灰釉陶器	長頸壺	T7	Vu17	SD6012	—	—	9.6	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ	胎：灰白2.5Y7/1 釉：暗オリーブ5Y4/3	3/12	
2302	43604	陶器	縁釉小皿	T7	Vu18	SD6012	10.4	2.5	4.0	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	5/12	口縁部煤付着、瀬戸美濃産？
2303	42203	陶器	平碗	T7	Vs17	SD6012	16.8	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：灰白2.5Y8/1	1/12	瀬戸美濃産
2304	44101	陶器	片口鉢	T7	Vu18	SD6012	26.6	—	—	内：ロクロナデ、ヨコナデ 外：ロクロナデ、ヨコナデ	灰N5/	1/12	
2305	42301	陶器	捏鉢	T7	Vs18	SD6012	27.9	—	—	内：ナデ、ヨコナデ、線刻 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：黄灰2.5Y6/1 外：にぶい赤褐2.5YR5/4	3/12	常滑産
2306	41001	陶器	捏鉢	T7	Vs17	SD6012	29.9	—	—	内：工具ナデ、ロクロナデ 外：指オサエ、ナデ、ロクロナデ	内：にぶい赤褐5YR5/4 外：褐灰5YR4/1	1/12	常滑産
2307	41002	陶器	壺	T7	Vs17	SD6012	—	—	11.0	内：ナデ 外：ナデ	内：灰5Y5/1 外：灰褐7.5YR4/2	4/12	常滑産
2308	41704	陶器	甕	T7	Vs16	SD6012	39.1	—	—	内：工具ナデ、ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白N7/	1/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
2309	41402	磁器	青磁碗	T7	Vs16・17	SD6012	—	—	5.8	内：ロクロナデ、花文 外：ケズリ、陰刻蓮弁文	胎：灰N5/ 釉：オリーブ灰10Y6/2	6/12	
2310	42708	磁器	青磁碗	T7	Vs17	SD6012	—	—	5.2	内：ロクロナデ、陰刻花文 外：ロクロケズリ	胎：灰白N7/ 釉：灰オリーブ7.5Y5/2	1/12	
2311	42107	磁器	青磁碗	T7	Vs17	SD6012	—	—	4.8	内：ロクロナデ、圏線 外：ロクロケズリ？	胎：灰白5Y8/1 釉：灰白5GY8/1	6/12	
2312	47802	縄文土器	深鉢	T7	Vx21	SD6034	—	—	—	内：不明 外：沈線、矢羽根状文	灰褐7.5YR4/2、 にぶい橙7.5YR6/4	小片	波状口縁
2313	39805	土師器	小皿	T7	Vx20	SD6034	7.3	1.2	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	4/12	
2314	39705	土師器	小皿	T7	Vx21	SD6034	7.7	1.0	—	内：ナデ 外：指オサエ	灰白10YR8/1	6/12	
2315	39704	土師器	小皿	T7	Vx21	SD6034	7.8	1.2	—	内：ナデ 外：指オサエ	灰白10YR8/2	9/12	
2316	39703	土師器	小皿	T7	Vx21	SD6034	7.8	1.0	—	内：ナデ 外：指オサエ	灰白10YR8/1	12/12	
2317	39804	土師器	皿	T7	Vx20	SD6034	10.6	2.5	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	9/12	
2318	39606	土師器	皿	T7	Vx21	SD6034	11.0	2.3	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白2.5Y8/2	2/12	
2319	39609	土師器	皿	T7	Vx21	SD6034	11.0	2.2	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白2.5Y8/2	6/12	
2320	39608	土師器	皿	T7	Vy21	SD6034	11.0	2.0	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白2.5Y8/2	9/12	
2321	39802	土師器	皿	T7	Vy21	SD6034	11.2	2.5	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	6/12	
2322	39603	土師器	皿	T7	Vx21	SD6034	11.5	2.6	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	12/12	口縁部煤付着
2323	39706	土師器	皿	T7	Vy21	SD6034	11.3	2.4	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/1	3/12	
2324	39601	土師器	皿	T7	Vx21	SD6034	11.2	2.4	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	12/12	
2325	39602	土師器	皿	T7	Vx21	SD6034	11.3	2.4	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	12/12	
2326	39607	土師器	皿	T7	Vx21	SD6034	11.4	2.5	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	浅黄橙10YR8/3	3/12	
2327	39605	土師器	皿	T7	Vy21	SD6034	11.8	2.1	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白2.5Y8/2	4/12	
2328	39604	土師器	皿	T7	Vx21	SD6034	11.8	2.4	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白2.5Y8/2	7/12	
2329	39801	土師器	皿	T7	Vy21	SD6034	11.8	2.1	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	4/12	
2330	39803	土師器	皿	T7	Vx20	SD6034	12.1	2.2	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	6/12	
2331	39701	土師器	鍋	T7	Vy21	SD6034	28.0	—	—	内：ケズリ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ 外：ケズリ、ハケ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR5/3	7/12	
2332	39702	土師器	鍋	T7	Vx21	SD6034	29.4	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰白10YR8/2	3/12	
2333	39806	陶器	片口鉢	T7	Vx20	SD6034	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白N7/	小片	
2334	09605	陶器	山茶椀	T7	Vv19	SD6036	—	—	6.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5YR7/1	6/12	
2335	47805	縄文土器	深鉢	T7	Zf6	SD6046	—	—	—	内：不明 外：ミガキ、磨消縄文	にぶい黄褐10YR4/3	小片	
2336	09803	縄文土器	深鉢	T7	Zg5	SD6046	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、沈線、磨消縄文	にぶい黄褐10YR5/3	小片	
2337	09705	土師器	皿	T7	Zg5	SD6046	14.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	内：浅黄橙7.5YR8/4 外：橙7.5YR7/6	1/12	外面煤付着
2338	09703	土師器	皿	T7	Zg5	SD6046	13.9	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ	淡橙5YR8/4	1/12	
2339	09701	土師器	皿	T7	Ze・f6	SD6046	15.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR7/8	2/12	外面煤付着
2340	09706	土師器	甕	T7	Zg5	SD6046	13.4	—	—	内：ナデ 外：ナデ、ヨコナデ、ハケ	内：浅黄橙10YR8/3 外：橙5YR7/6	1/12	
2341	09802	土製品	土錘	T7	Zg5	SD6046	長5.0	幅2.1	厚2.1	ナデ	灰白2.5Y8/2	完形	重さ23.26g
2342	09606	須恵器	杯	T7	Zg5	SD6046	—	—	11.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ？	灰白10Y7/1	2/12	
2343	47806	縄文土器	深鉢	T7	Ze8	SD6051	—	—	—	内：ミガキ 外：ミガキ、沈線	内：褐灰10YR6/1 外：褐灰10YR4/1	小片	平口縁
2344	47803	縄文土器	深鉢	T7	Ze7	Pit1	—	—	—	内：不明 外：区画文、矢羽根状文	にぶい赤褐5YR5/4	小片	波状口縁
2345	47804	縄文土器	深鉢？	T7	Vw20	Pit5	—	—	—	内：不明 外：沈線、隆帯	内：にぶい橙7.5YR6/4 外：黒褐10YR3/1	小片	
2346	39502	土師器	甕	T7	Wf23	Pit2	14.8	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	2/12	
2347	39501	土師器	甕	T7	Wf23	Pit2	20.0	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	2/12	
2348	39503	陶器	山茶椀	T7	Wf23	Pit1	—	—	8.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	3/12	内面摩耗
2349	39505	磁器	染付皿	T7	Vy20	Pit3	—	—	5.2	内：ロクロナデ？、花文 外：ロクロケズリ	灰白2.5GY8/1	2/12	貿易陶磁
2350	09704	土師器	皿	T7	Zf5	包含層	14.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：灰白10YR8/2 外：灰白7.5YR8/2	1/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
2351	09607	土師器	甕	T7	Vw18	包含層	15.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、ハケ	灰白10YR8/2	1/12	外面煤付着、内面コゲ付着
2352	09801	土製品	土錘	T7	Zg2	包含層	長 4.7	幅 2.0	厚 1.8	ナデ	灰白2.5Y8/2	完形	重さ15.37g
2353	09708	土師器	皿	T7	—	表土	16.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、墨書	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
2354	46301	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、区画文、沈線、刺突	にぶい黄橙10YR6/4	小片	遺物群No.5
2355	47401	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	36.6	—	—	内：指オサエ、ナデ 外：ケズリ、ミガキ、連弧文、渦巻文、区画文、刺突	橙5YR6/6	4/12	遺物群No.28、波状口縁
2356	47202	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、区画文、刺突、連弧文	灰黄褐10YR6/2	小片	遺物群No.8、波状口縁
2357	47201	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、区画文、刺突、連弧文	内：褐灰10YR4/1 外：灰黄褐10YR4/2	小片	遺物群No.8、波状口縁
2358	47601	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ、指オサエ 外：ナデ、区画文、刺突、連弧文、沈線	橙7.5YR6/6	小片	遺物群No.10、波状口縁
2359	47103	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、区画文、刺突、連弧文、隆帯	にぶい黄橙10YR6/3	小片	遺物群No.8、波状口縁
2360	46302	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、沈線、刺突	にぶい橙7.5YR6/4	小片	遺物群No.24
2361	47603	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ、指オサエ 外：区画文、刺突、連弧文	にぶい黄橙10YR6/4	小片	
2362	46806	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：指オサエ、ナデ 外：ナデ、沈線、刺突、隆帯	褐7.5YR4/4	小片	遺物群No.6
2363	47204	縄文土器	深鉢？	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ？ 外：ナデ？、沈線、刺突	内：灰黄2.5Y6/2 外：にぶい黄橙10YR6/3	小片	遺物群No.8
2364	46602	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、渦巻文、区画文、矢羽根状文	内：にぶい黄橙10YR7/2 外：にぶい褐7.5YR6/3	小片	遺物群No.10、波状口縁
2365	46601	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、渦巻文、区画文、矢羽根状文	内：にぶい橙7.5YR6/4 外：黒褐10YR3/1	小片	遺物群No.11
2366	46701	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ？ 外：区画文、縄文、隆帯	内：にぶい黄橙10YR7/2 外：灰黄褐10YR4/2	小片	遺物群No.13、波状口縁
2367	46702	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：区画文、縄文、隆帯、沈線、矢羽根状文	にぶい黄褐10YR5/3	小片	遺物群No.13、波状口縁、複数破片あり
2368	47101	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、渦巻文、区画文、条線、連弧文、沈線	にぶい褐7.5YR5/3	小片	遺物群No.8、波状口縁
2369	46403	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、沈線、刺突、隆帯	褐灰10YR6/1	小片	遺物群No.24
2370	46506	縄文土器	深鉢？	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、縄文、隆帯	にぶい赤褐5YR5/4	小片	遺物群No.10、波状口縁、橋状把手
2371	46604	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、渦巻文	にぶい黄橙10YR7/2、にぶい橙7.5YR7/4	小片	波状口縁
2372	47303	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、渦巻文、刺突、沈線	内：にぶい赤褐5YR5/4 外：褐灰7.5YR4/1	小片	遺物群No.26、波状口縁
2373	47301	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	30.0	—	—	内：工具ナデ 外：ナデ、区画文、矢羽根状文、隆帯、刺突	橙5YR6/6	3/12	遺物群No.8、平口縁、2374と同一個体？
2374	47701	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：工具ナデ？ 外：区画文？、矢羽根状文？、隆帯、刺突	にぶい橙7.5YR7/4	小片	遺物群No.10、2373と同一個体？
2375	47304	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：矢羽根状文、沈線、隆帯	内：黒褐10YR3/1 外：にぶい黄橙10YR6/3	小片	遺物群No.31
2376	46901	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ、指オサエ 外：ナデ？、縄文、沈線、矢羽根状文	内：暗灰N3/ 外：橙5YR6/6	小片	遺物群No.24
2377	47102	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、区画文、矢羽根状文、隆帯、沈線	褐灰10YR4/1	小片	遺物群No.26、橋状把手
2378	47205	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、縄文、沈線	にぶい黄橙10YR6/3	小片	遺物群No.8
2379	46606	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：不明 外：不明、沈線	内：灰黄褐10YR5/2 外：にぶい黄橙10YR6/4	小片	
2380	46903	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ、指オサエ 外：ナデ、沈線	にぶい褐7.5YR6/3	小片	遺物群No.12
2381	46902	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ、指オサエ 外：ナデ、沈線	内：にぶい黄橙10YR6/4 外：にぶい褐7.5YR5/4	小片	遺物群No.6
2382	47203	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：沈線、隆帯	橙5YR6/6	小片	遺物群No.26
2383	46805	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：渦巻文、隆帯、刺突	内：褐灰10YR4/1 外：にぶい褐7.5YR5/4	小片	遺物群No.30
2384	46904	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ、指オサエ 外：縄文	内：灰褐7.5YR6/2 外：にぶい黄橙10YR7/2	小片	遺物群No.28

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
2385	47001	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	31.0	—	—	内：ナデ 外：ナデ、磨消縄文、矢羽根状文	にぶい褐7.5YR5/3	1/12	遺物群No.24、波状口縁、橋状把手、破片多数
2386	46605	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：不明 外：竹管文	内：にぶい黄橙10YR7/2 外：にぶい黄褐10YR5/3	小片	穿孔
2387	46801	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：不明 外：不明	橙5YR6/6	小片	遺物群No.21、波状口縁
2388	46804	縄文土器	浅鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：沈線、隆帯、刺突	灰黄褐10YR5/2	小片	遺物群No.24
2389	46803	縄文土器	浅鉢？	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、縄文	内：暗灰N3/ 外：橙5YR6/6	小片	遺物群No.32
2390	46603	縄文土器	浅鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ？ 外：磨消縄文	内：にぶい黄橙10YR6/3 外：にぶい褐7.5YR5/4	小片	遺物群No.20
2391	47604	縄文土器	浅鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ミガキ 外：指オサエ、ナデ、ミガキ	灰黄2.5Y7/2	小片	遺物群No.32、穿孔
2392	46505	縄文土器	浅鉢	T7	—	SH6197	—	—	—	内：ナデ、ミガキ 外：ナデ、ミガキ	灰黄褐10YR4/2	小片	遺物群No.11、穿孔、波状口縁
2393	46802	縄文土器	浅鉢	T7	—	SH6197	19.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：工具ナデ？	内：褐灰7.5YR4/1 外：橙5YR6/6	1/12	平口縁、取り上げNo.8
2394	46502	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	7.0	内：指オサエ、ナデ 外：ナデ、隆帯	内：褐灰7.5YR4/1 外：にぶい橙7.5YR6/4	1/12	遺物群No.6
2395	47302	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	7.7	内：ナデ 外：ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	10/12	遺物群No.26
2396	46501	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	9.1	内：不明 外：指オサエ？	にぶい橙7.5YR7/4	8/12	遺物群No.10
2397	46203	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	10.6	内：指オサエ、ナデ 外：ナデ、網代痕	にぶい褐7.5YR5/4	4/12	遺物群No.4
2398	47602	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	9.0	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	3/12	遺物群No.10
2399	46503	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	10.0	内：工具ナデ 外：ミガキ	内：黄灰2.5Y5/1 外：橙5YR6/6	2/12	遺物群No.30
2400	46504	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	13.2	内：ナデ 外：ナデ、ミガキ	にぶい黄橙10YR6/3	5/12	遺物群No.32
2401	46204	縄文土器	深鉢？	T7	—	SH6197	—	—	10.8	内：ナデ、ミガキ？ 外：ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	3/12	遺物群No.2、浅鉢？
2402	46401	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	12.0	内：ナデ 外：ナデ	明赤褐5YR5/6	5/12	遺物群No.3
2403	46402	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	9.8	内：ナデ 外：ナデ	橙5YR6/6	6/12	遺物群No.5
2404	46202	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	9.4	内：指オサエ、ナデ 外：ナデ、網代痕	にぶい橙5YR6/4	9/12	遺物群No.3
2405	46201	縄文土器	深鉢	T7	—	SH6197	—	—	13.0	内：指オサエ、ナデ 外：ナデ、網代痕	にぶい橙5YR6/4	10/12	遺物群No.1
2406	49205	縄文土器	深鉢	T7	Vy21	包含層	—	—	—	内：不明 外：区画文、刺突、沈線	内：にぶい橙7.5YR6/4 外：褐5YR4/3	小片	波状口縁
2407	49204	縄文土器	深鉢	T7	Vy21	包含層	—	—	—	内：不明 外：ナデ、渦巻文、区画文、刺突	内：灰黄褐10YR5/2 外：橙2.5YR6/6	小片	波状口縁
2408	48203	縄文土器	深鉢	T7	Vw19	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：沈線、刺突	にぶい黄褐10YR5/3	小片	波状口縁
2409	48904	縄文土器	深鉢？	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：指オサエ、ナデ 外：ナデ、区画文、刺突	にぶい黄橙10YR7/3	小片	波状口縁、穿孔
2410	48407	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：沈線、刺突、隆帯	明赤褐5YR5/6	小片	
2411	48606	縄文土器	深鉢	T7	Vw19	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、区画文、矢羽根状文	にぶい褐7.5YR6/3	小片	波状口縁
2412	48803	縄文土器	深鉢	T7	Vy20	包含層	—	—	—	内：ナデ、ミガキ 外：ナデ、渦巻文、区画文？、沈線	内：灰白10YR8/2 外：にぶい黄褐10YR5/3	小片	
2413	48103	縄文土器	深鉢	T7	Vw19	包含層	—	—	—	内：不明 外：区画文、縄文、隆帯	にぶい黄褐10YR5/3	小片	波状口縁
2414	48204	縄文土器	深鉢	T7	Vx20	包含層	—	—	—	内：ナデ、ミガキ 外：区画文、縄文、隆帯	灰黄褐10YR5/2	小片	波状口縁
2415	48903	縄文土器	深鉢	T7	Vy20	包含層	—	—	—	内：ナデ、ミガキ 外：ナデ、区画文、沈線	にぶい黄橙10YR7/3	小片	波状口縁、内面コゲ付着
2416	48805	縄文土器	深鉢	T7	Vy20	包含層	—	—	—	内：工具ナデ 外：ナデ、区画文？、刺突、連弧文	内：淡黄2.5Y8/3 外：にぶい黄橙10YR6/3	小片	
2417	49203	縄文土器	深鉢	T7	Vy21	包含層	—	—	—	内：ミガキ？ 外：連弧文？、刺突	黒褐10YR3/1、黒褐10YR3/2	小片	
2418	48302	縄文土器	深鉢	T7	Vx20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：縄文、連弧文、刺突？	にぶい黄橙10YR6/4	小片	
2419	48703	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ミガキ、ヨコナデ 外：ナデ、連弧文	明褐7.5YR5/8	小片	波状口縁
2420	48406	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、区画文、沈線	橙5YR6/6	小片	
2421	49103	縄文土器	深鉢	T7	Vx19	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：渦巻文？	にぶい橙7.5YR7/3	小片	波状口縁？
2422	48301	縄文土器	深鉢	T7	Vw19	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：渦巻文、連弧文？	にぶい橙5YR7/3	小片	波状口縁
2423	48404	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ミガキ？ 外：ナデ、沈線、刺突	内：明赤褐5YR5/6 外：にぶい橙7.5YR6/4	小片	橋状把手

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
2424	48405	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ	浅黄橙10YR8/3、灰N4/	小片	橋状把手
2425	48508	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、縄文	灰褐7.5YR5/2	小片	
2426	47504	縄文土器	深鉢	T7	—	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、沈線、刺突	内：にぶい黄橙10YR6/3 外：にぶい黄橙10YR7/4	小片	
2427	48603	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、矢羽根状文、沈線	内：灰褐7.5YR4/2 外：にぶい褐7.5YR6/3	小片	
2428	49301	縄文土器	深鉢	T7	Vx21	包含層	—	—	—	内：指オサエ、ナデ 外：矢羽根状文、沈線	内：浅黄橙7.5YR8/3 外：にぶい黄橙10YR6/3	小片	
2429	48105	縄文土器	深鉢	T7	Vx19	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：沈線	にぶい赤褐5YR4/4	小片	
2430	48106	縄文土器	深鉢	T7	Vy19	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：撚糸文、沈線	にぶい黄褐10YR5/3	小片	
2431	48604	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：撚糸文、沈線	内：褐灰10YR4/1 外：灰褐7.5YR4/2	小片	
2432	48701	縄文土器	深鉢	T7	Vx21	包含層	—	—	—	内：ミガキ 外：縄文、渦巻文、沈線	内：褐灰10YR5/1 外：にぶい黄褐10YR5/4	小片	
2433	48901	縄文土器	深鉢	T7	Wc23	包含層	—	—	—	内：ミガキ 外：ナデ、ミガキ、縄文、沈線	にぶい赤褐5YR5/4	小片	
2434	48303	縄文土器	深鉢	T7	Vw19	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ？、沈線、条線	にぶい黄橙10YR6/3	小片	
2435	48706	縄文土器	深鉢	T7	Wa22	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ？、沈線、条線	内：にぶい黄橙10YR6/4 外：にぶい褐7.5YR5/4	小片	
2436	48605	縄文土器	深鉢	T7	Wb21	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：沈線、条線	にぶい橙7.5YR7/4	小片	
2437	49104	縄文土器	深鉢	T7	Vv14	包含層	—	—	—	内：不明 外：ナデ、沈線、隆帯、刺突	褐7.5YR4/3	小片	把手剥離？
2438	47503	縄文土器	深鉢	T7	Vy19	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：磨消縄文？	にぶい黄橙10YR7/4	小片	
2439	49105	縄文土器	深鉢	T7	Vw19	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ミガキ、磨消縄文	内：にぶい橙7.5YR5/4 外：にぶい黄褐10YR5/4	小片	平口縁
2440	48507	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、磨消縄文？	にぶい褐7.5YR5/4	小片	
2441	48506	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、磨消縄文、棒状浮文	灰白10YR8/2、にぶい黄橙10YR7/3	小片	
2442	48804	縄文土器	深鉢	T7	Wb22	包含層	—	—	—	内：ナデ、ミガキ 外：ナデ、磨消縄文	にぶい黄褐10YR5/3	小片	内面コゲ付着？
2443	48802	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：磨消縄文	にぶい黄橙10YR6/3	小片	
2444	49101	縄文土器	深鉢	T7	Vx19	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ミガキ？、沈線	にぶい黄褐10YR6/3	小片	
2445	48705	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：磨消縄文？	にぶい黄褐10YR5/3	小片	
2446	48502	縄文土器	深鉢	T7	Vx21	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、沈線、条線	にぶい褐7.5YR5/4	小片	
2447	48501	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、沈線、条線	内：橙5YR6/6 外：にぶい褐7.5YR5/4	小片	
2448	48702	縄文土器	深鉢	T7	Wa22	包含層	—	—	—	内：ミガキ 外：ミガキ、沈線、条線	にぶい黄褐10YR6/3	小片	
2449	48104	縄文土器	深鉢	T7	Vx20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：沈線、刺突	にぶい褐7.5YR5/3	小片	波状口縁
2450	48505	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、沈線	にぶい赤褐5YR4/3	小片	
2451	49206	縄文土器	深鉢	T7	Vy22	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：渦巻文？	にぶい黄褐10YR5/3	小片	
2452	49305	縄文土器	深鉢	T7	Vx21	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、沈線、隆帯、円形浮文	褐7.5YR4/3	小片	波状口縁
2453	48307	縄文土器	深鉢	T7	Vw19	包含層	—	—	—	内：ナデ？ 外：隆帯、縄文？	灰黄褐10YR5/2	小片	
2454	48704	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：沈線、隆帯	にぶい黄褐10YR6/4	小片	内面コゲ付着
2455	48607	縄文土器	深鉢	T7	Vw19	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、条線	橙7.5YR6/6	小片	
2456	48608	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：渦巻文、矢羽根状文、沈線、隆帯	橙5YR6/6	小片	破片複数
2457	49106	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ミガキ 外：ミガキ	橙5YR6/6	小片	平口縁
2458	49304	縄文土器	深鉢	T7	Vx21	包含層	—	—	—	内：指オサエ、ミガキ 外：ミガキ	灰黄褐10YR4/2	小片	平口縁
2459	48902	縄文土器	浅鉢？	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：沈線、刺突	にぶい黄橙10YR6/3	小片	平口縁？
2460	48602	縄文土器	浅鉢	T7	Vy20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、沈線、刺突	褐灰7.5YR5/1、にぶい黄橙10YR7/3	小片	波状口縁
2461	48503	縄文土器	浅鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、刺突、隆帯？	にぶい褐7.5YR5/4	小片	波状口縁
2462	49107	縄文土器	浅鉢？	T7	Wc23	包含層	—	—	—	内：不明 外：ミガキ、沈線	にぶい黄橙10YR6/3	小片	波状口縁？

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
2463	49303	縄文土器	浅鉢？	T7	Vx21	包含層	—	—	—	内：ミガキ 外：ミガキ？、沈線	内：黒2.5Y2/1 外：灰黄褐10YR5/2	小片	平口縁、深鉢？
2464	48504	縄文土器	浅鉢	T7	Vw19	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、沈線、刺突	暗灰N3/、にぶい黄橙10YR7/3	小片	波状口縁
2465	48205	縄文土器	浅鉢	T7	Vx19	包含層	—	—	—	内：不明 外：沈線	にぶい褐7.5YR5/4	小片	波状口縁
2466	48306	縄文土器	浅鉢	T7	Vw19	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：沈線、隆帯	にぶい褐7.5YR6/3	小片	
2467	48801	縄文土器	浅鉢	T7	Vx21	包含層	—	—	—	内：ナデ、ミガキ？ 外：ナデ、ミガキ、沈線、条線	黄褐2.5Y5/4	小片	
2468	48403	縄文土器	浅鉢	T7	Vw21	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、沈線？	内：にぶい赤褐5YR4/4 外：明赤褐5YR5/6	小片	
2469	48202	縄文土器	浅鉢	T7	Vw19	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ミガキ？	赤褐5YR4/6	小片	平口縁？、穿孔
2470	49102	縄文土器	浅鉢	T7	Vx19	包含層	—	—	—	内：ナデ、ミガキ 外：ナデ、ミガキ	にぶい橙7.5YR6/4	小片	平口縁
2471	48806	縄文土器	浅鉢	T7	Vx21	包含層	—	—	—	内：ミガキ？ 外：不明	内：明赤褐5YR5/6 外：にぶい黄褐10YR5/4	小片	平口縁、穿孔
2472	48601	縄文土器	浅鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ	明赤褐5YR5/6	小片	波状口縁
2473	48201	縄文土器	浅鉢	T7	Vx20	包含層	24.0	—	—	内：ナデ 外：ナデ	橙5YR6/6	2/12	平口縁、穿孔
2474	49003	縄文土器	浅鉢	T7	Vy20	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ	にぶい黄橙10YR6/4	小片	把手
2475	48206	縄文土器	深鉢	T7	Vw19	包含層	—	—	4.5	内：ナデ 外：ナデ	褐灰10YR4/1	2/12	
2476	48102	縄文土器	深鉢	T7	Vw19	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、網代痕？	橙5YR6/6	2/12	
2477	48207	縄文土器	深鉢	T7	Vw19	包含層	—	—	8.6	内：指オサエ、ナデ 外：ナデ	にぶい赤褐5YR5/4	3/12	
2478	49202	縄文土器	深鉢	T7	Vy21	包含層	—	—	9.8	内：不明 外：ナデ	内：にぶい黄橙10YR6/4 外：にぶい褐7.5YR5/4	2/12	
2479	48402	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	10.4	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	内：灰N4/ 外：橙5YR6/6	1/12	
2480	49001	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	8.4	内：指オサエ、ナデ 外：ナデ、網代痕？	橙7.5YR6/6	7/12	
2481	48304	縄文土器	深鉢？	T7	Vw19	包含層	—	—	9.6	内：不明 外：ナデ	にぶい黄橙10YR6/3	2/12	
2482	48401	縄文土器	深鉢	T7	Vw20	包含層	—	—	14.0	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	にぶい橙7.5YR6/4	3/12	
2483	49201	縄文土器	深鉢	T7	Wa21	包含層	—	—	15.8	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰黄褐10YR4/2	2/12	
2484	48101	縄文土器	深鉢	T7	Vx19	包含層	—	—	9.6	内：指オサエ、ナデ 外：工具ナデ	にぶい橙5YR6/4	11/12	
2485	49002	縄文土器	深鉢	T7	Vw21	包含層	—	—	10.3	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	橙7.5YR6/6	11/12	
2486	49302	縄文土器	深鉢	T7	Vx21	包含層	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ、網代痕	にぶい黄褐10YR5/3	小片	
2487	49004	縄文土器	深鉢	T7	Wa22	包含層	—	—	9.8	内：指オサエ、ナデ 外：ナデ、網代痕	灰黄2.5Y7/2	2/12	
2488	48305	縄文土器	深鉢	T7	Vx20	包含層	—	—	10.8	内：不明 外：ナデ、網代痕	にぶい橙7.5YR6/4	2/12	
2489	09907	須恵器	杯蓋	T9	Yb4	SK6062	11.7	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白N7/	1/12	
2490	10001	弥生土器	高杯	T9	Yf5	SD6056	—	—	—	内面：ハケ 外面：ミガキ、直線文	灰白10YR8/2	小片	透孔あり
2491	09902	土師器	杯	T9	Yf5	SD6056	13.7	2.8	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ヘラケズリ？	橙7.5YR7/6	3/12	
2492	09901	土師器	甕	T9	Yf5	SD6056	20.4	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ、ハケ	内：浅黄橙10YR8/3 外：灰白10YR8/2	1/12	
2493	09906	土師器	高杯	T9	Yg5	SD6056	—	—	—	内：ナデ？ 外：ナデ	浅黄橙10YR8/3	脚柱部12/12	脚柱部のみ
2494	09905	須恵器	瑞	T9	Yf5	SD6056	—	—	体部径8.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、櫛描列点文	灰白N7/	体部2/12	孔遺存しない
2495	00208	陶器	縁釉小皿	7-T2	Yq5	SE7014	11.5	2.4	5.9	内：ナデ、ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	胎：灰白2.5Y8/1 釉：灰オリーブ5Y5/3	5/12	
2496	00102	土師器	甕	7-T2	—	SK7010	—	—	—	内：ナデ？、ヨコナデ 外：ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	小片	
2497	00105	土師器	甕	7-T2	—	SK7010	16.4	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/3 外：にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
2498	09903	須恵器	杯身	T9	Yc4	SD6059	11.7	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰N5/	1/12	
2499	09908	土師器	甕？	T9	Ya～d5	SD6059	—	—	—	内：ハケ、ナデ 外：ナデ	灰白10YR8/2	把手	甑？
2500	00205	土師器	鍋	7-T2	—	SD7012	—	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	小片	
2501	00204	土師器	甕	7-T2	—	SD7012	16.6	—	—	内：ナデ？、ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR6/3	2/12	
2502	00101	弥生土器	鉢	7-T2	Yr5	Pit6	—	—	4.4	内：ミガキ 外：ハケ、ミガキ、ナデ	内：橙5YR6/6 外：明赤褐5YR5/6	4/12	内面水銀朱付着
2503	09904	須恵器	杯蓋	T9	Yb4	Pit1	13.9	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
2504	00107	陶器	山茶椀	7-T2	—	包含層	—	—	8.5	内：ロクロナデ 外：ナデ	灰黄2.5Y7/2	4/12	
2505	10203	土師器	鍋	T10	Zy7	SD6193	24.0	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ハケ？、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/2 外：黒N2/	1/12	外面煤付着
2506	10105	陶器	山茶椀	T10	Zj6	SD6193	—	—	7.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	内：灰白7.5Y7/1 外：灰白N8/	3/12	
2507	10102	陶器	山茶椀	T10	Z16	SD6193	—	—	7.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	内：灰5Y6/1 外：灰白5Y7/1	6/12	内面炭化物付着、内面摩耗
2508	10104	陶器	山茶椀	T10	Zj6	SD6193	—	—	8.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白5Y7/1	5/12	
2509	10103	陶器	山茶椀	T10	Zj6	SD6193	—	—	8.0	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	内：灰5Y6/1 外：灰白N7/	7/12	内面炭化物付着、内面摩耗
2510	10304	陶器	碗	T10	Zy7	SD6193	8.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：淡黄2.5Y8/3 釉：褐7.5YR4/3	1/12	鉄釉
2511	10201	陶器	捏鉢	T10	Zy7	SD6193	—	—	14.0	内：工具ナデ？ 外：指オサエ、ナデ	にぶい橙5YR6/4	4/12	内面被熱
2512	10202	陶器	擂鉢	T10	Zy7	SD6193	32.0	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	胎：灰白2.5Y8/2 釉：暗褐7.5YR3/3	1/12	瀬戸美濃産
2513	10101	陶器	擂鉢	T10	Zy7	SD6193	—	—	11.8	内：ロクロナデ、擂目 外：ロクロケズリ、糸切痕	胎：灰白2.5Y8/2 釉：黒褐7.5YR3/2	2/12	瀬戸美濃産
2514	10307	土師器	皿	T10	Wh20・21	SD6194	12.0	—	—	内：指オサエ、ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白2.5Y8/2	2/12	口縁歪み大きい
2515	38506	陶器	山茶椀	T10	Wh20・21	SD6194	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、墨書	灰白N8/	小片	
2516	10305	陶器	小皿	T10	Wh20・21	SD6194	10.0	—	—	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ	釉：灰黄2.5Y7/2	1/12	
2517	10302	陶器	天目茶碗	T10	—	表土	—	—	4.7	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ？	胎：灰黄褐10YR6/2 釉：黒N2/	10/12	鉄釉
2518	10303	陶器	天目茶碗	T10	—	表土	—	—	4.8	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ	胎：灰黄2.5Y6/2 釉：黒N2/	11/12	鉄釉
2519	10306	陶器	皿	T10	—	表土	—	—	6.2	内：ロクロナデ？ 外：ロクロケズリ	胎：灰白5Y8/1 釉：オリーブ黄7.5Y6/3	12/12	
2520	10301	陶器	火鉢	T10	Zs7	表土	22.8	7.2	14.0	内：ロクロナデ、線刻 外：ナデ、ロクロナデ	内：にぶい赤褐2.5YR5/3 外：褐灰10YR4/1	1/12	外面被熱？
2521	10403	土師器	鍋	T11	Qe1	SD6244	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：浅黄橙7.5YR8/3 外：灰褐7.5YR5/2	小片	外面煤付着
2522	10402	土師器	鍋	T11	Qi1	SD6246	—	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：灰黄褐10YR5/2 外：黒N1.5/	小片	外面煤付着
2523	10401	土師器	羽釜	T11	Qi1	SD6246	—	—	—	内：工具ナデ 外：工具ナデ？	にぶい黄橙10YR7/3	鍔部2/12	外面煤付着
2524	10404	土師器	鍋	T11	Qe8	SD6248	35.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：浅黄橙10YR6/3 外：にぶい黄橙10YR6/3	2/12	口縁歪み大きい、外面煤付着
2525	10405	土師器	皿	T11	Qe11	SD6249	10.0	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	1/12	
2526	10406	土師器	皿	T11	Qe12	SD6249	—	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	小片	
2527	10503	土製品	紡錘車	T11	Qe12	SD6249	—	3.1	4.1	工具ナデ	明黄褐2.5Y7/6	一部欠	重さ44.92g
2528	10502	磁器	青磁碗	T11	Qe25	SD6251	16.0	—	—	内：ロクロナデ？ 外：ロクロナデ、陰刻蓮弁文	胎：灰白10YR8/1 釉：オリーブ灰5GY6/1	2/12	
2529	10505	土師器	皿	T11	Re15	SD6252	11.0	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	2/12	
2530	10504	土師器	羽釜	T11	Re15	SD6252	—	—	—	内：ナデ 外：ヨコナデ？	内：黄灰2.5Y6/1 外：灰白2.5Y8/2	小片	
2531	10501	陶器	山茶椀	T11	Re15	SD6252	14.0	4.7	6.8	内：ナデ、ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	5/12	
2532	10506	土師器	皿	T11	Qe16	Pit2	14.0	—	—	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	灰白10YR8/2	2/12	
2533	01001	土師器	甕	7-T1	Wb18	SD7004南	19.0	—	—	内：ハケ 外：ハケ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/4	1/12	
2534	01102	須恵器	杯身	7-T1	—	SD7004	11.8	3.2	—	内：ロクロナデ 外：ナデ、ロクロナデ、ヘラ切り	灰白5Y7/2	3/12	
2535	01006	弥生土器	壺	7-T1	—	SD7008	—	—	2.8	内：ハケ 外：ナデ、線刻	内：浅黄橙10YR8/3 外：にぶい橙5YR7/3	6/12	
2536	01002	土師器	椀	7-T1	—	SD7008	11.7	4.8	—	内：ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄褐10YR5/2	10/12	
2537	00703	土師器	椀	7-T1	—	SD7008	12.8	4.9	—	内：ナデ、ハケ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	1/12	
2538	01104	須恵器	杯蓋	7-T1	—	SD7008	11.6	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰5Y6/1	2/12	
2539	01103	須恵器	杯身	7-T1	—	SD7008	10.3	—	—	内：ロクロナデ 外：ナデ、ロクロナデ、ヘラ切り	灰白7.5Y7/1	5/12	
2540	00701	須恵器	杯身	7-T1	Vy17	SD7008	11.7	3.6	—	内：ナデ、ロクロナデ 外：ロクロケズリ、ロクロナデ、ヘラ切り	灰10Y5/1	12/12	
2541	01005	土師器	甕	7-T1	—	SD7008	17.2	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	1/12	
2542	00805	土師器	小皿	7-T1	Vy17	SD7001西上層	9.7	2.0	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：にぶい黄橙10YR7/2 外：にぶい橙7.5YR7/4	12/12	
2543	00802	土師器	皿	7-T1	Vy18・19	SD7001東上層	10.8	2.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整・文様等	色調	残存率	備考
2544	00704	土師器	皿	7-T1	Vy17	SD7001 西上層	13.0	3.1	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/4 外：浅黄橙10YR8/3	5/12	
2545	00804	土師器	皿	7-T1	Vy17	SD7001 西上層	13.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	橙5YR6/6	1/12	
2546	00707	土師器	皿	7-T1	Vy18・19	SD7001 東上層	14.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙10YR8/4	2/12	
2547	00806	土師器	椀	7-T1	—	SD7001	15.8	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	内：灰白10YR8/2 外：にぶい黄橙 10YR7/3	1/12	
2548	00803	土師器	台付皿？	7-T1	Vy17	SD7001 西上層	—	—	5.3	内：ナデ 外：ナデ	灰白10YR8/2	12/12	台付椀？
2549	00901	土師器	甑	7-T1	Vy18・19	SD7001 東上層	—	—	—	内：ナデ？、工具ナデ？ 外：ナデ、工具ナデ、ハケ	にぶい橙7.5YR7/4	小片	
2550	00801	土師器	甕	7-T1	Vy18・19	SD7001 東上層	13.2	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/4	2/12	
2551	00902	土師器	甕	7-T1	Vy17	SD7001 西上層	13.6	—	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	1/12	
2552	00706	土師器	甕	7-T1	Vy18・19	SD7001 東上層	16.8	—	—	内：ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	にぶい橙7.5YR7/4	1/12	
2553	00705	土師器	甕	7-T1	Vy18・19	SD7001 東上層	20.6	—	—	内：工具ナデ、ヨコナデ 外：ハケ？、ヨコナデ	内：浅黄橙10YR8/4 外：浅黄橙10YR8/3	1/12	
2554	00807	土師器	甕	7-T1	Vy17	SD7001 西上層	23.7	—	—	内：ナデ？、ヨコナデ 外：ヨコナデ	内：橙7.5YR7/6 外：浅黄橙10YR8/4	1/12	
2555	00702	須恵器	壺	7-T1	Vy18・19	SD7001 東上層	—	—	14.1	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、ロクロケズリ	内：にぶい黄橙 10YR7/2 外：灰白N7/	1/12	
2556	00103	土師器	甑	7-T1	—	SZ7003	—	—	—	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、工具ナデ	浅黄橙10YR8/4	小片	
2557	00108	縄文土器	注口土器	7-T1	—	包含層	—	—	—	内：不明 外：指オサエ、ナデ	明黄褐10YR7/6	注口部	
2558	00106	須恵器	杯身	7-T1	—	包含層	14.3	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	1/12	
2559	01305	土師器	小皿	7-T6	—	—	7.8	1.2	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	3/12	
2560	01309	土師器	皿	7-T6	—	—	11.8	1.5	—	内：ナデ、ヨコナデ 外：指オサエ、ナデ、ヨコナデ	浅黄橙7.5YR8/4	1/12	
2561	01308	土師器	甕	7-T6	—	—	15.6	—	—	内：ナデ？、ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	淡黄2.5Y8/3	2/12	外面煤付着
2562	01404	土師器	鍋	7-T6	—	—	35.0	—	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	灰白10YR8/2	1/12	外面煤付着？
2563	01403	土師器	製塩土器	7-T6	—	—	12.6	5.4	15.0	内：ナデ 外：指オサエ、ナデ	内：橙5YR6/6 外：灰褐7.5YR5/2	1/12	底面植物繊維痕
2564	01402	須恵器	壺？	7-T6	—	—	—	—	17.0	内：工具ナデ 外：工具ナデ	内：灰白5Y7/1 外：黄灰2.5Y6/1	2/12	
2565	01401	須恵器	甕	7-T6	—	—	—	—	頸部径 18.0	内：当て具痕、指オサエ、ロクロナデ 外：タタキ、ロクロナデ	灰5Y5/1	頸部 3/12	
2566	01304	陶器	山皿	7-T6	—	—	7.9	2.0	3.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	2/12	
2567	01306	陶器	山茶椀	7-T6	—	—	—	—	6.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	8/12	
2568	01307	陶器	山茶椀	7-T6	—	—	—	—	6.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白5Y7/1	3/12	
2569	01303	陶器	山茶椀	7-T6	—	—	—	—	7.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白2.5Y7/1	12/12	
2570	01302	陶器	山茶椀	7-T6	—	—	15.5	5.1	6.6	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、糸切痕	灰白2.5Y7/1	1/12	内面摩耗
2571	01301	陶器	山茶椀	7-T6	—	—	16.9	5.2	6.9	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	灰白5Y7/1	1/12	

第５表　遺物観察表（石製品）

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	加工・使用痕等	残存率	備考
2572	00901	石製品	砥石（五輪塔）	T3	Rf10	SK6231	17.9	15.3	14.3	敲打、研磨	完形	砂岩、水輪転用
2573	00806	石製品	石臼	T3	Re12	SK6229	—	—	6.7	研磨	4/12	深成岩
2574	02206	石製品	砥石	T3	Rm9	SD6217	7.5	2.3	1.8	研磨	完形	砂岩
2575	45901	石製品	石臼	T3	Rd12	Pit1	—	—	4.2	摺目	小片	
2576	29901	石製品	砥石	T4	排土	SD6012	21.3	16.7	12.9	研磨	一部欠	重さ6.36kg
2577	07601	石製品	石臼	T4	—	SD6167 No.1	27.8	27.8	8.4	摺目	完形	花崗岩、引手横打ち込み式
2578	16904	石製品	硯	T4	Ri23	SE6144-A 甕内部	—	—	0.8	研磨	破片	
2579	18303	石製品	砥石	T4	Vp3	SE6184 枠内	6.2	2.1	1.5	研磨	一部欠	重さ35.13g、５面使用
2580	33004	石製品	硯	T4	Tp22	SK6076	—	6.9	—	研磨	半欠	
2581	18005	石製品	砥石	T4	Tm22・23	SK6162	4.7	4.5	2.0	研磨	半欠	重さ69.94g、砂岩
2582	06402	石製品	磨製石斧	T4	Vq3	SK6180	9.7	6.6	3.0	研磨	半欠	定角式
2583	45803	石製品	砥石	T4	Rl23	Pit13	—	5.0	1.5	擦切痕、研磨	半欠	砂岩、京都産？
2584	45903	石製品	碁石	T4	Rn25	Pit8	2.3	2.3	0.7	研磨？	完形	重さ5.35g、黒石
2585	31906	石製品	碁石？	T5	Ve2	SD6074	3.0	2.1	1.5	研磨？	完形	重さ13.02g、やや不整形、黒石
2586	32307	石製品	碁石？	T5	Vf6	SD6084	2.5	1.8	0.65	研磨？	完形	重さ4.25g、黒石
2587	39304	石製品	砥石	T6	Vn15	SK6014	—	4.3	1.6	研磨、擦切痕	半欠	
2588	39402	石製品	石臼	T6	Vn15	SK6014	—	—	—	摺目	小片	
2589	50401	石製品	磨石？	T6	—	包含層	7.4	4.7	3.5	摩滅？	完形	重さ185.7g、砂岩
2590	41104	石製品	磨石	T7	Vs16・17	SD6012	—	—	4.0	擦痕	半欠	重さ610g、砂岩？
2591	42205	石製品	砥石	T7	Vs16	SD6012	—	—	2.5	研磨、擦切痕	半欠	重さ143.34g、砂岩、京都産？
2592	39504	石製品	砥石	T7	Vu18	Pit4	—	—	1.9	研磨	小片	
2593	50702	石製品	砥石	T7	—	排土	7.3	3.9	2.2	研磨、擦痕、擦切痕？	ほぼ完形	重さ78.2g、泥岩
2594	50604	石製品	礫器？	T7	—	SH6197	8.2	7.0	2.8	摩滅、剥離	完形	重さ193.6g、磨石再加工か、砂岩
2595	50404	石製品	打欠石錘？	T7	—	SH6197	5.4	6.3	1.3	打欠	完形	重さ60.6g、結晶片岩
2596	50504	石製品	打欠石錘	T7	—	SH6197	7.8	5.6	2.2	打欠	完形	重さ118.9g、砂岩
2597	50601	石製品	打欠石錘	T7	—	SH6197	7.8	7.0	2.2	打欠	完形	重さ226.2g、花崗岩？
2598	50402	石製品	打欠石錘	T7	—	SH6197	7.1	6.0	2.2	打欠	ほぼ完形	重さ144g、砂岩
2599	50403	石製品	打欠石錘	T7	—	SH6197	7.4	6.7	2.4	打欠	完形	重さ173g、砂岩
2600	49701	石製品	敲石？	T7	—	SH6197	11.4	10.7	8.1	敲打痕？	完形	重さ1375g、花崗岩
2601	49901	石製品	磨石	T7	—	SH6197	12.5	9.4	6.1	擦痕、敲打痕	完形	重さ1000g、花崗岩、水銀朱付着
2602	50602	石製品	磨石	T7	—	SH6197	9.0	7.8	3.3	摩滅、擦痕？	完形	重さ333.2g、砂岩
2603	50802	石製品	磨石	T7	—	SH6197	—	—	—	摩滅	小片	重さ33.9g、砂岩
2604	49601	石製品	石皿？	T7	—	SH6197	—	—	—	摩滅？	破片	緑色片岩
2605	49401	石製品	石皿	T7	—	SH6197	—	14.0	3.6	摩滅、擦痕	半欠	重さ960g、アプライト？
2606	49801	石製品	台石？	T7	—	SH6197	—	—	10.0		破片	重さ4400g、砂岩
2607	49902	石製品	剥片	T7	Vu14	包含層	3.95	1.9	0.65	剥離	完形	重さ4.06g、サヌカイト
2608	50301	石製品	礫器？	T7	Vx21	包含層	10.3	11.2	5.1	剥離	完形	重さ595g、砂岩
2609	50701	石製品	磨製石斧	T7	Vw20	包含層	—	5.0	2.5	研磨	半欠	重さ130.9g、定角式、凝灰岩？
2610	50002	石製品	打欠石錘	T7	Vw19	包含層	5.3	3.5	1.8	打欠	完形	重さ47.9g、砂岩
2611	50001	石製品	打欠石錘	T7	Vw19	包含層	5.0	4.05	1.1	打欠	完形	重さ35.2g、ホルンフェルス？
2612	50202	石製品	打欠石錘	T7	Vw20	包含層	6.2	6.0	2.3	打欠	完形	重さ102.4g、花崗岩？
2613	50104	石製品	打欠石錘	T7	Vv14	包含層	6.5	6.7	2.1	打欠	完形	重さ137.5g、砂岩
2614	50102	石製品	打欠石錘	T7	Vw19	包含層	7.3	7.5	1.4	打欠	完形	重さ111.1g、砂岩
2615	50101	石製品	打欠石錘	T7	Vw19	包含層	6.6	6.1	2.0	打欠	完形	重さ106.8g、花崗岩？
2616	50005	石製品	打欠石錘	T7	Vw19	包含層	7.2	6.6	2.2	打欠	完形	重さ146.1g、結晶片岩
2617	50004	石製品	打欠石錘	T7	Vw19	包含層	8.1	5.8	2.2	打欠	完形	重さ134.4g、緑色片岩
2618	50502	石製品	打欠石錘	T7	Vw19	包含層	8.4	6.9	2.1	打欠	完形	重さ184.1g、花崗岩
2619	50501	石製品	打欠石錘	T7	Vw19	包含層	10.0	6.5	2.0	打欠	完形	重さ212g、砂岩
2620	50302	石製品	敲石	T7	Wb23	包含層	—	—	3.65	敲打痕	小片	重さ94.6g、砂岩
2621	50203	石製品	敲石？	T7	Vy20	包含層	—	4.4	2.6	敲打痕？	半欠	重さ111.6g、砂岩
2622	50704	石製品	敲石	T7	Vy20	包含層	6.1	4.1	3.3	敲打痕	完形	重さ119.8g、砂岩
2623	50103	石製品	打欠石錘	T7	—	排土	7.3	6.0	2.0	打欠	完形	重さ122.6g、砂岩

第６表　遺物観察表（木製品）

報告No.	実測番号	器種	調査区	グリッド	出土遺構	取上No.	長（cm）	幅（cm）	厚さ・高さ（cm）	加工痕・観察所見	木取り	樹種	備考
2624	29-2	井戸枠（結物）	T6	Vi14	SE6004	16	67.1	11.4	2.9	外面　打割 内面　打割 側面　器面平滑 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	全体腐食
2625	29-1	井戸枠（結物）	T6	Vi14	SE6004	15	62.0	17.4	2.7	外面　打割 内面　打割 側面　器面平滑 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	全体腐食
2626	28-2	井戸枠（結物）	T6	Vi14	SE6004	14	63.0	9.8	2.3	外面　打割後チョウナ？ 内面　打割後チョウナ？ 側面　器面平滑 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	全体腐食
2627	28-1	井戸枠（結物）	T6	Vi14	SE6004	13	63.5	11.7	3.0	外面　打割 内面　打割後チョウナ？ 側面　器面平滑 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	全体腐食
2628	27-2	井戸枠（結物）	T6	Vi14	SE6004	12	63.4	13.6	2.7	外面　打割 内面　打割 側面　器面平滑 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	全体腐食
2629	27-1	井戸枠（結物）	T6	Vi14	SE6004	11	58.9	8.5	2.7	外面　打割 内面　打割後チョウナ？ 側面　器面平滑 小口　鋸？	板目 木表外向	ヒノキ	全体腐食
2630	26-2	井戸枠（結物）	T6	Vi14	SE6004	10	66.5	12.7	3.0	外面　打割 内面　打割 側面　器面平滑 小口　鋸	柾目	ヒノキ	全体腐食
2631	26-1	井戸枠（結物）	T6	Vi14	SE6004	9	66.0	14.2	3.2	外面　打割後チョウナ 内面　打割後チョウナ？ 側面　器面平滑、木釘穴 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	井戸構造と無関係の木釘穴2、全体腐食
2632	25-2	井戸枠（結物）	T6	Vi14	SE6004	8	70.0	19.3	2.7	外面　打割 内面　打割 側面　器面平滑 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	全体腐食
2633	25-1	井戸枠（結物）	T6	Vi14	SE6004	7	66.4	13.0	2.6	外面　打割後チョウナ 内面　打割後チョウナ？ 側面　器面平滑 小口　鋸	柾目	ヒノキ	全体腐食
2634	24-2	井戸枠（結物）	T6	Vi14	SE6004	6	65.5	19.6	3.0	外面　打割後チョウナ 内面　打割？ 側面　器面平滑 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	全体腐食
2635	24-1	井戸枠（結物）	T6	Vi14	SE6004	5	63.0	13.5	2.5	外面　打割後チョウナ 内面　打割？ 側面　器面平滑 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	全体腐食
2636	23-2	井戸枠（結物）	T6	Vi14	SE6004	4	45.0	14.2	2.6	外面　打割後チョウナ 内面　打割？ 側面　器面平滑 小口　鋸？	板目 木表外向	ヒノキ	全体腐食
2637	23-1	井戸枠（結物）	T6	Vi14	SE6004	3	67.4	19.2	2.4	外面　打割後ヤリガンナ 内面　打割？ 側面　器面平滑 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	全体腐食
2638	22-2	井戸枠（結物）	T6	Vi14	SE6004	2	64.0	15.5	2.5	外面　打割後チョウナ 内面　打割後チョウナ？ 側面　器面平滑 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	全体腐食
2639	22-1	井戸枠（結物）	T6	Vi14	SE6004	1	65.5	12.6	2.7	外面　打割後チョウナ 内面　打割後チョウナ 側面　腐食のため不明 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	全体腐食
2640	50-2	井戸枠材（土居桁）	T4	Tn21・22	SE6081	2	69.8	9.3	1.5	外面　打割後ヤリガンナ 内面　打割 側面　ヤリガンナ 小口　鋸、鑿	板目	—	三枚組接ぎ
2641	50-4	井戸枠材（土居桁）	T4	Tn21・22	SE6081	4	25.8	6.5	1.5	外面　打割 内面　打割 側面　打割 小口　鋸、鑿	板目	—	三枚組接ぎ
2642	50-3	井戸枠材（土居桁）	T4	Tn21・22	SE6081	3	69.3	8.8	2.5	外面　打割 内面　打割 側面　打割後ヤリガンナ 小口　鋸、鑿	板目	—	三枚組接ぎ
2643	50-1	井戸枠材（土居桁）	T4	Tn21・22	SE6081	1	40.0	8.5	2.5	外面　打割 内面　打割 側面　打割後ヤリガンナ 小口　鋸、鑿	板目	—	三枚組接ぎ

報告No.	実測番号	器種	調査区	グリッド	出土遺構	取上No.	長(cm)	幅(cm)	厚さ・高さ(cm)	加工痕・観察所見	木取り	樹種	備考
2644	81-1	井戸枠材(縦板)	T4	To7	SE6116	19	108.0	31.8	2.7	外面　ヤリガンナか 内面　チョウナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	板目	ヒノキ	建築部材転用(床板?)、節あり
2645	92-1	井戸枠材(縦板)	T4	To7	SE6116	18	102.5	24.0	3.0	外面　チョウナ 内面　ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ、鑿、ホゾ穴 小口　鋸	板目	ヒノキ	転用材、節あり、ホゾ穴1
2646	90-1	井戸枠材(縦板)	T4	To7	SE6116	15	89.0	5.6	1.3	外面　打割 内面　打割 側面　打割 小口　鋸	板目	コウヤマキ	建築部材転用（板葺材？）
2647	90-2	井戸枠材(縦板)	T4	To7	SE6116	16	98.0	12.4	1.8	外面　打割 内面　打割 側面　打割 小口　鋸	板目	コウヤマキ	建築部材転用（板葺材？）
2648	92-2	井戸枠材(縦板)	T4	To7	SE6116	17	100.3	6.7	1.3	外面　打割 内面　打割 側面　打割、ヤリガンナ、ホゾ穴 小口　鋸	板目	コウヤマキ	転用材、井戸構造と無関係の木釘穴2
2649	82-1	井戸枠材(縦板)	T4	To7	SE6116	14	111.2	31.5	2.6	外面　チョウナ、ヤリガンナ？ 内面　チョウナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	柾目	ヒノキ属	建築部材転用、主面に半円形の窪み
2650	91-1	井戸枠材(縦板)	T4	To7	SE6116	13	101.0	23.5	2.0	外面　ヤリガンナ？ 内面　チョウナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	板目	ヒノキ	建築部材転用（床板?）
2651	87-2	井戸枠材(縦板)	T4	To7	SE6116	12	101.0	6.5	2.4	外面　打割 内面　打割 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	板目	コウヤマキ	節あり
2652	86-4	井戸枠材(縦板)	T4	To7	SE6116	11	93.5	7.7	1.6	外面　打割 内面　打割 側面　ヤリガンナ？ 小口　鋸	板目	コウヤマキ	建築部材転用（板葺材？）
2653	88-2	井戸枠材(縦板)	T4	To7	SE6116	10	104.7	13.5	2.9	外面　チョウナ 内面　チョウナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	柾目	ヒノキ	転用材、節あり
2654	89-1	井戸枠材(縦板)	T4	To7	SE6116	9	110.0	17.0	2.8	外面　チョウナ 内面　チョウナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	柾目	ヒノキ	転用材
2655	84-1	井戸枠材(縦板)	T4	To7	SE6116	8	107.0	34.6	3.5	外面　ヤリガンナ？ 内面　チョウナ？ 側面　ヤリガンナ、鑿 小口　鋸	柾目	ヒノキ属	建築部材転用（壁板）
2656	86-3	井戸枠材(縦板)	T4	To7	SE6116	7	96.6	7.2	1.6	外面　打割 内面　打割 側面　ヤリガンナ？ 小口　鋸	板目	コウヤマキ	建築部材転用（板葺材？）
2657	86-2	井戸枠材(縦板)	T4	To7	SE6116	6	84.6	7.3	1.0	外面　打割 内面　打割 側面　ヤリガンナ？ 小口　鋸	板目	コウヤマキ	建築部材転用（板葺材？）
2658	88-1	井戸枠材(縦板)	T4	To7	SE6116	4	107.0	18.8	2.0	外面　チョウナ 内面　腐食 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	柾目	ヒノキ	
2659	87-1	井戸枠材(縦板)	T4	To7	SE6116	3	107.0	21.0	2.8	外面　打割、チョウナ？ 内面　打割 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	柾目	ヒノキ	
2660	86-1	井戸枠材(縦板)	T4	To7	SE6116	2・5	85.3	10.7	1.2	外面　打割 内面　打割 側面　ヤリガンナ？ 小口　鋸	板目	コウヤマキ	建築部材転用（板葺材？）
2661	85-1	井戸枠材(縦板)	T4	To7	SE6116	1	94.0	25.5	2.8	外面　チョウナ 内面　打割、チョウナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	板目	スギ	建築部材転用（床板?）
2662	90-3	井戸枠材(土居桁)	T4	To7	SE6116	20	59.5	6.7	3.4	外面　打割 内面　打割 側面　打割 小口　鋸、斧	板目	コウヤマキ	
2663	90-4	井戸枠材(土居桁)	T4	To7	SE6116	21	61.3	7.1	4.5	外面　打割 内面　打割 側面　打割 小口　鋸	板目	コウヤマキ	

報告No.	実測番号	器種	調査区	グリッド	出土遺構	取上No.	長(cm)	幅(cm)	厚さ・高さ(cm)	加工痕・観察所見	木取り	樹種	備考
2664	93-1	井戸枠材(土居桁)	T4	To7	SE6116	22	61.7	9.3	3.7	外面　打割 内面　打割 側面　打割 小口　鋸	板目	コウヤマキ	
2665	93-2	井戸枠材(土居桁)	T4	To7	SE6116	23	63.5	3.6	2.3	外面　ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸、鑿	角材	ヒノキ	三枚組接ぎ
2666	94-2	井戸枠材(土居桁)	T4	To7	SE6116	25	64.4	3.9	2.3	外面　ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸、鑿	角材	ヒノキ	三枚組接ぎ
2667	94-1	井戸枠材(土居桁)	T4	To7	SE6116	24	63.9	4.2	3.5	外面　ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸、鑿	角材	コウヤマキ	三枚組接ぎ
2668	78-1	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	13	87.1	17.5	2.3	外面　打割、ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	スギ	
2669	78-2	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	12-2	87.2	4.6	2.0	外面　ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	スギ	
2670	77-2	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	12-1	87.0	14.3	2.0	外面　ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	スギ	節あり
2671	77-1	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	11	86.8	14.5	1.8	外面　ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	スギ	
2672	76-2	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	10-2	87.4	5.3	2.2	外面　打割、ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	スギ	
2673	76-1	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	10-1	87.0	15.2	2.2	外面　ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	スギ	
2674	75-3	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	9-2	87.2	5.8	2.2	外面　大鋸？、ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	スギ	
2675	75-2	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	9-1	87.3	10.0	2.2	外面　打割、ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	スギ	
2676	74-2	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	8	87.3	12.2	1.9	外面　大鋸？、ヤリガンナ 内面　大鋸？、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	スギ	
2677	75-1	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	7	87.1	12.2	2.2	外面　打割、ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	スギ	
2678	74-1	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	6	87.0	16.7	2.0	外面　打割、ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	スギ	
2679	73-2	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	5	82.6	18.2	2.0	外面　打割、ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	スギ	
2680	73-1	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	4	86.7	10.2	2.0	外面　打割、ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	スギ	
2681	72-3	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	3	86.9	10.2	2.0	外面　大鋸？、ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	スギ	
2682	72-2	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	2	87.2	10.0	2.0	外面　打割、ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	スギ	
2683	72-1	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	1	86.5	16.5	2.5	外面　チョウナ、ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	スギ	

報告No.	実測番号	器種	調査区	グリッド	出土遺構	取上No.	長(cm)	幅(cm)	厚さ・高さ(cm)	加工痕・観察所見	木取り	樹種	備考
2684	71-2	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	下17	91.2	8.9	2.1	外面　ヤリガンナ 内面　打割、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	スギ	
2685	71-1	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	下16	92.3	16.8	2.3	外面　ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸、ヤリガンナ	柾目	スギ	
2686	70-2	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	下15	92.3	13.3	2.3	外面　打割、ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸、ヤリガンナ	板目 木表外向	スギ	
2687	70-1	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	下14	91.5	9.0	2.1	外面　ヤリガンナ 内面　打割、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸、ヤリガンナ	板目 木表外向	スギ	節あり
2688	69-2	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	下13	91.7	6.1	2.5	外面　ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸、ヤリガンナ	板目 木表外向	スギ	節あり
2689	69-1	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	下12	91.5	11.3	2.4	外面　打割、ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸、ヤリガンナ	板目 木表外向	スギ	節あり
2690	68-2	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	下11	92.3	16.8	2.1	外面　チョウナ、ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸、ヤリガンナ	板目 木表外向	スギ	
2691	68-1	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	下10	92.4	9.2	2.4	外面　ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸、ヤリガンナ	柾目	スギ	
2692	67-2	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	下9	92.5	13.0	2.3	外面　大鋸？、ヤリガンナ 内面　大鋸？、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸、ヤリガンナ	柾目	スギ	
2693	67-1	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	下8	91.6	13.7	2.2	外面　ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋、刃物打痕 小口　鋸、ヤリガンナ	板目 木表外向	スギ	節あり
2694	66-2	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	下7	91.8	7.6	2.0	外面　打割、ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	スギ	
2695	66-1	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	下6	91.9	11.5	2.2	外面　打割、ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	スギ	
2696	65-2	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	下5	92.0	14.3	1.5	外面　ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸、ヤリガンナ	板目 木表外向	スギ	
2697	65-1	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	下4	91.9	8.2	2.0	外面　打割、ヤリガンナ 内面　ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸、ヤリガンナ	板目 木表外向	スギ	節あり
2698	64-2	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	下3	92.3	12.6	2.0	外面　大鋸？、ヤリガンナ 内面　大鋸？、ヤリガンナ 側面　台鉋、刃物打痕 小口　鋸、ヤリガンナ	柾目	スギ	節あり
2699	64-1	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	下2	92.8	15.8	2.2	外面　打割、ヤリガンナ 内面　打割、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸、ヤリガンナ	板目 木表外向	スギ	
2700	45-1	井戸枠(結物)	T5	Vg1・2	SE6092	下1	91.4	12.0	2.0	外面　打割、ヤリガンナ 内面　打割、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸、ヤリガンナ	板目 木表外向	スギ	節あり
2701	95-3	井戸枠(結物)	T4	To14	SE6108	14	157.0	10.0	2.6	外面　打割、ヤリガンナ 内面　打割、ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	柾目	コウヤマキ	
2702	138-1	井戸枠(結物)	T4	To14	SE6108	13	167.0	8.8	3.0	外面　打割、チョウナ 内面　打割、ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	板目 木表外向	コウヤマキ	
2703	95-1	井戸枠(結物)	T4	To14	SE6108	12	173.5	12.0	3.8	外面　打割、チョウナ 内面　打割、ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	板目 木表内向	コウヤマキ	

報告No.	実測番号	器種	調査区	グリッド	出土遺構	取上No.	長(cm)	幅(cm)	厚さ・高さ(cm)	加工痕・観察所見	木取り	樹種	備考
2704	141-2	井戸枠(結物)	T4	To14	SE6108	11	163.4	15.5	4.0	外面　打割 内面　打割、ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	板目 木表外向	コウヤマキ	外面腐食
2705	138-3	井戸枠(結物)	T4	To14	SE6108	10	163.9	12.7	3.6	外面　打割、チョウナ 内面　打割、ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	板目 木表外向	コウヤマキ	
2706	138-2	井戸枠(結物)	T4	To14	SE6108	9	162.2	15.0	2.8	外面　打割、チョウナ 内面　打割、ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	柾目	コウヤマキ	節あり
2707	141-1	井戸枠(結物)	T4	To14	SE6108	8	162.0	13.0	4.0	外面　打割 内面　打割、ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	板目 木表外向	コウヤマキ	外面腐食
2708	140-3	井戸枠(結物)	T4	To14	SE6108	7	162.5	15.3	4.0	外面　打割、チョウナ 内面　打割、ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	柾目	コウヤマキ	
2709	95-2	井戸枠(結物)	T4	To14	SE6108	6	158.0	14.6	3.8	外面　打割、チョウナ 内面　打割、ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	板目 木表外向	コウヤマキ	
2710	140-2	井戸枠(結物)	T4	To14	SE6108	5	164.2	13.2	4.0	外面　打割、チョウナ 内面　打割、ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	板目 木表外向	コウヤマキ	
2711	140-1	井戸枠(結物)	T4	To14	SE6108	4	165.6	13.6	4.0	外面　打割、チョウナ 内面　打割、ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	板目 木表内向	コウヤマキ	
2712	139-3	井戸枠(結物)	T4	To14	SE6108	3	158.5	10.2	2.3	外面　打割、ヤリガンナ 内面　打割、ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	柾目	コウヤマキ	
2713	139-2	井戸枠(結物)	T4	To14	SE6108	2	157.5	9.0	2.6	外面　打割、ヤリガンナ 内面　打割、ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	板目 木表外向	コウヤマキ	節あり
2714	139-1	井戸枠(結物)	T4	To14	SE6108	1	164.0	9.1	2.6	外面　打割、ヤリガンナ 内面　打割、ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	板目 木表外向	コウヤマキ	
2715	81-1	井戸枠(横板)	T4	Tn1	SE6164	2	126.5	33.5	6.0	外面　打割 内面　打割 側面　打割、チョウナ 小口　斧	柾目	スギ	
2716	30-2	井戸枠(横板)	T4	Tn1	SE6164	3	121.0	21.5	4.5	外面　チョウナ 内面　チョウナ 側面　ヤリガンナ 小口　斧	柾目	スギ	
2717	31-2	井戸枠(横板)	T4	Tn1	SE6164	12	95.6	12.2	2.0	外面　打割、ヤリガンナ 内面　打割 側面　ヤリガンナ 小口　斧	板目	スギ	
2718	80-1	井戸枠(横板)	T4	Tn1	SE6164	13	87.0	21.0	2.8	外面　打割、チョウナ 内面　打割、チョウナ 側面　チョウナ、ヤリガンナ 小口　斧	板目	ヒノキ	節あり
2719	30-1	井戸枠(横板)	T4	Tn1	SE6164	1	92.5	22.7	3.5	外面　チョウナ、鑿、ホゾ穴 内面　チョウナ、鑿、ホゾ穴 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	柾目	スギ	転用材、井戸構造と無関係のホゾ穴2
2720	35-1	井戸枠(横板)	T4	Tn1	SE6164	4	129.6	26.5	9.5	外面　斧、鑿 内面　打割 側面　— 小口　斧	半割	スギ	丸木を半裁して利用、節あり、外面樹皮残る、相欠
2721	32-1	井戸枠(横板)	T4	Tn1	SE6164	5	114.8	20.5	5.0	外面　打割、チョウナ 内面　打割、チョウナ 側面　ヤリガンナ 小口　斧	板目	スギ	
2722	33-1	井戸枠(横板)	T4	Tn1	SE6164	6	108.5	23.8	5.0	外面　打割、チョウナ 内面　打割、ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	板目	スギ	
2723	79-1	井戸枠(横板)	T4	Tn1	SE6164	7	129.5	23.5	5.5	外面　打割、チョウナ 内面　打割、チョウナ 側面　チョウナ 小口　斧	板目	スギ	

報告No.	実測番号	器種	調査区	グリッド	出土遺構	取上No.	長(cm)	幅(cm)	厚さ・高さ(cm)	加工痕・観察所見	木取り	樹種	備考
2724	31-1	井戸枠(横板)	T4	Tn1	SE6164	8	118.0	21.9	4.5	外面　チョウナ 内面　チョウナ 側面　ヤリガンナ 小口　斧	柾目	スギ	
2725	32-2	井戸枠(横板)	T4	Tn1	SE6164	14	95.3	13.2	1.7	外面　打割 内面　打割 側面　ヤリガンナ 小口　斧	板目	スギ	
2726	20-2	井戸枠(横板)	T4	Tn1	SE6164	15	84.4	16.0	3.8	外面　打割、チョウナ 内面　打割、チョウナ 側面　ヤリガンナ 小口　斧	板目	ヒノキ	節あり
2727	33-2	井戸枠(横板)	T4	Tn1	SE6164	14の後	95.3	5.5	2.0	外面　打割 内面　打割 側面　ヤリガンナ 小口　斧	角材	—	
2728	33-3	井戸枠(横板)	T4	Tn1	SE6164	6の下	23.0	3.9	3.9	外面　打割 内面　打割 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	角材	スギ	
2729	32-3	井戸枠(隅柱？)	T4	Tn1	SE6164	10	52.5	4.4	2.2	外面　ヤリガンナ、刃物打痕 内面　ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸、鑿	柾目	ヒノキ	転用材
2730	34-2	井戸枠(横板)	T4	Tn1	SE6164	11	57.0	15.3	3.5	外面　腐食 内面　腐食 側面　腐食、ヤリガンナ？ 小口　鋸	板目	スギ	
2731	34-1	井戸枠(隅柱？)	T4	Tn1	SE6164	9	92.5	4.5	5.0	外面　ヤリガンナ、斧 内面　ヤリガンナ、斧 側面　ヤリガンナ、鑿 小口　鋸、鑿	角材	スギ	転用材？、溝・穿孔あり
2732	002-1	曲物水溜	T6	Vg14	SE6001-A	1	48.2	48.2	厚0.6 高33.9	タガ３段、内面縦方向ケビキ	板目	スギ	
2733	009-1	曲物水溜	T6	Vg14	SE6001-B		44.3	42.5	厚0.6 高18.5	側板のみ、上・底部に木釘穴、 縦方向ケビキ	板目	ヒノキ	木釘穴12
2734	005-1	曲物水溜	T4	Tn1	SE6164		46.8	42.8	厚0.7 高30.7	タガ２段、上部・底部木釘穴、 内面縦方向ケビキ	板目	スギ	木釘穴12
2735	008-1	曲物水溜	T4	Ri23	SE6144-B		58.3	50.3	厚0.7 高29.5	上・下段曲物タガ１段 内面縦方向ケビキ	柾目	上段：ヒノキ 下段：ヒノキ	2つの曲物を綴皮で連結、木釘穴12
2736	001-1	曲物水溜	T4	Tn21	SE6081	18	46.6	46.6	厚0.6 高37.0	タガ１段、縦板１枚、底部木釘穴、 内面縦方向ケビキ	柾目	スギ	木釘穴43
2737	004-1	曲物水溜	T7	Zf1	SE6044	15	36.1	36.1	厚0.5 高20.3	タガ２段、縦・斜め方向ケビキ	柾目	スギ	木釘穴1
2738	003-1	曲物水溜	T6	Vf14	SE6202	2	47.5	47.5	厚0.5 高34.8	タガ１段、縦板１枚、底部木釘穴、 内面縦方向ケビキ	柾目	スギ	木釘穴6
2739	006-1	曲物水溜	T6	Vf14	SE6202	1	43.9	41.0	厚0.5 高24.1	タガ２段、縦板２枚、 内面縦方向ケビキ	板目	スギ	木釘穴13
2740	007-1	曲物水溜	T4	Vo4	SE6192		42.1	39.5	厚0.7 高20.2	タガ１段、底部木釘穴、 内面縦方向ケビキ	板目	スギ	木釘穴7
2741	408-2	曲物底板	T6	Vj14	SE6005		16.7	15.5	0.6	木釘穴なし	柾目	スギ	
2742	415-2	曲物底板	T4	Tn21	SE6081		20.9	8.1	1.0	主面・側面ヤリガンナ	板目	スギ	
2743	439-1	棒状製品(柄部)	T4	Tn1	SE6164		16.5	1.2	1.1	全体刀子状工具	割材	—	
2744	408-1	曲物底板	T6	Vg14	SE6001		9.2	6.5	0.5	側面に木釘穴	柾目	スギ	SE6001-A・Bのどちらか不明、木釘穴1
2745	452-1	漆器(椀)	T6	Vg15	SE6002		10.9	—	厚0.7 高3.5	外内面黒漆、体部外面に赤漆絵、 見込部に赤漆で鳥描く	横木取り	トチノキ	
2746	434-3	紡錘車	T4	Rh24	SE6150 井戸枠内		6.3	—	1.0	穿孔0.5cm、全体平滑	板目	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	
2747	463-1	楔	T4	Rh24	SE6150 井戸枠内		15.7	2.6	1.3	片面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2748	461-2	楔	T4	Rh24	SE6150 井戸枠内		15.8	5.7	1.6	片面先端ケズリ、裏面ケズリ、 小口鋸	割材	—	
2749	462-2	楔	T4	Rh24	SE6150 井戸枠内		15.8	4.3	1.0	片面先端ケズリ、側面ケズリ、 小口鋸	割材	—	
2750	463-3	楔	T4	Rh24	SE6150 井戸枠内		16.2	2.2	1.5	片面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2751	462-3	楔	T4	Rh24	SE6150 井戸枠内		16.5	3.7	1.3	片面先端ケズリ	割材	—	
2752	463-4	楔	T4	Rh24	SE6150 井戸枠内		17.4	2.0	1.1	片面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2753	463-2	楔	T4	Rh24	SE6150 井戸枠内		20.1	2.7	1.2	片面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2754	462-1	楔	T4	Rh24	SE6150 井戸枠内		22.3	4.6	1.0	片面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2755	423-2	曲物底板	T6	Vc・d14	SE6203		15.3	5.4	0.7	主面に黒色塗膜	柾目	ヒノキ	塗膜痕（柿渋？）

報告No.	実測番号	器種	調査区	グリッド	出土遺構	取上No.	長(cm)	幅(cm)	厚さ・高さ(cm)	加工痕・観察所見	木取り	樹種	備考
2756	425-2	曲物底板	T6	Vo14	SE6203		16.6	12.2	0.7	木釘穴なし	柾目	ヒノキ	
2757	425-1	曲物底板	T6	Vo14	SE6203		17.0	12.0	0.8	主面中央に穿孔	柾目	ヒノキ	穿孔1
2758	426-1	曲物底板	T6	Vo14	SE6203		19.1	9.2	1.0	主面中央に穿孔、まな板に転用？	板目	スギ	転用材、焼け、木釘穴3、穿孔1
2759	426-2	曲物底板	T6	Vo14	SE6203		19.2	8.1	0.7	木釘で底板・側板を接ぐ	板目	ヒノキ科	木釘穴5
2760	434-1	棒状製品(柄部？)	T7	Vj18	SE6035		32.0	2.9	1.4	全体刀子状工具	芯持ち材	—	
2761	465-2	楔	T4	Ri23	SE6153井戸枠内		16.5	2.6	2.1	両面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2762	464-2	楔	T4	Ri23	SE6153井戸枠内		16.6	2.4	2.2	両面先端ケズリ、小口鋸？	割材	—	
2763	465-1	楔	T4	Ri23	SE6153井戸枠内		16.7	2.1	2.1	両面先端ケズリ、小口鋸？	割材	—	
2764	464-1	楔	T4	Ri23	SE6153井戸枠内		18.2	2.8	2.2	両面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2765	466-2	楔	T4	Ri24	SE6161		13.4	2.6	1.5	両面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2766	466-1	楔	T4	Ri24	SE6161		16.4	2.8	1.1	両面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2767	439-2	付木	T6	Vd15	SE6207		16.5	1.4	0.9	先端焼け、焼けは表面までで芯は生木	割材	—	焼け
2768	452-3	漆器(椀)	T6	Vd15	SE6207		14.5	—	厚0.7 高7.0	外面黒漆、内面赤漆	横木取り	ブナ属	
2769	452-2	漆器(椀)	T4	To22	SK6166		14.0	—	厚0.4 高5.8	体部外面赤漆、底部外面黒漆、内面赤漆	横木取り	カエデ属	
2770	453-1	漆器(椀)	T5	Vc8	SE6083		16.0	—	厚0.5 高8.2	外内面黒漆、外面赤漆絵	横木取り	クリ	
2771	472-4	楔	T6	Vd15	SE6207		11.6	2.7	1.4	片面先端ケズリ？	割材	—	全体腐食
2772	472-1	楔	T6	Vd15	SE6207		13.6	2.3	1.3	片面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2773	469-3	楔	T6	Vd15	SE6207		13.9	2.0	1.6	片面先端ケズリ？	割材	—	全体腐食
2774	470-2	楔	T6	Vd15	SE6207		14.5	3.1	1.4	両面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2775	467-3	楔	T6	Vd15	SE6207		14.6	2.7	1.6	片面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2776	470-1	楔	T6	Vd15	SE6207		14.9	2.5	1.4	片面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2777	471-3	楔	T6	Vd15	SE6207		15.0	2.4	1.6	片面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2778	472-2	楔	T6	Vd15	SE6207		15.2	3.5	1.3	片面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2779	469-1	楔	T6	Vd15	SE6207		15.5	2.6	1.6	片面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2780	469-2	楔	T6	Vd15	SE6207		15.8	2.3	1.1	片面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2781	471-1	楔	T6	Vd15	SE6207		16.1	2.8	1.6	片面先端ケズリ、裏面ケズリ、小口鋸	割材	—	
2782	470-3	楔	T6	Vd15	SE6207		16.3	3.9	1.4	片面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2783	472-3	楔	T6	Vd15	SE6207		16.4	3.0	1.4	片面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2784	468-2	楔	T6	Vd15	SE6207		16.5	2.7	1.3	片面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2785	468-3	楔	T6	Vd15	SE6207		16.5	2.5	1.7	片面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2786	467-2	楔	T6	Vd15	SE6207		16.9	2.4	1.3	片面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2787	471-2	楔	T6	Vd15	SE6207		19.1	1.9	1.5	片面先端ケズリ、側面ケズリ、小口鋸	割材	—	
2788	467-1	楔	T6	Vd15	SE6207		19.2	2.6	1.6	片面先端ケズリ、裏面ケズリ、小口鋸	割材	—	
2789	468-1	楔	T6	Vd15	SE6207		19.7	2.8	1.8	両面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2790	458-2	楔	T5	Vg1	SE6092		7.2	5.4	1.5	両面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2791	460-1	楔	T5	Vg1	SE6092		8.3	4.0	0.9	両面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2792	459-1	楔	T5	Vg1	SE6092		10.4	6.2	1.5	両面先端ケズリ、小口鋸？	割材	—	
2793	460-2	楔	T5	Vg1	SE6092		12.1	3.9	1.1	両面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2794	459-2	楔	T5	Vg1	SE6092		12.3	4.7	1.5	両面先端ケズリ、小口鋸？	割材	—	
2795	458-1	楔	T5	Vg1	SE6092		13.1	4.7	1.6	両面先端ケズリ、小口鋸？	割材	—	
2796	460-3	楔	T5	Vg1	SE6092		13.3	3.5	1.7	両面先端ケズリ、小口鋸？	割材	—	

報告No.	実測番号	器種	調査区	グリッド	出土遺構	取上No.	長(cm)	幅(cm)	厚さ・高さ(cm)	加工痕・観察所見	木取り	樹種	備考
2797	461-1	楔	T4	Ri23	SE6144-B		16.1	4.6	1.1	両面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	
2798	421-1	曲物底板	T4	Ri23	SE6144-B 井戸枠内		22.0	21.2	0.7	主面に穿孔	柾目	ヒノキ	焼け
2799	422-1	曲物底板	T4	Ri23	SE6144-B		22.8	12.2	0.7	主面に刃物痕、まな板に転用？	柾目	スギ	転用材
2800	420-1	曲物底板	T4	Ri23	SE6144-B 井戸枠内		19.6	4.6	0.7	主面に刃物痕、まな板に転用？	柾目	ヒノキ	転用材
2801	440-1	竪杵（搗き部）	T4	Rg23	SK6154 最下層		20.8	10.0	9.3	全体ヤリガンナ	芯持ち材	エノキ属	
2802	441-1	棒状製品（柄部）	T4	Rg23	SK6154 最下層		54.5	3.7	3.6	斧状工具で杭状に削り出す	芯持ち材	マツ属複維管束亜属	
2803	413-1	曲物底板	T7	Vv19	SK6039		16.7	12.4	0.7	木釘穴なし	柾目	スギ	
2804	414-1	曲物底板	T7	Vv19	SK6039		16.1	15.7	0.7	主面に穿孔あり	柾目	ヒノキ	
2805	442-1	棒状製品（柄部）	T7	Vv19	SK6039		43.5	2.2	1.4	全体ヤリガンナ	割材	—	
2806	455-1	漆器(椀)	T7	Vv19	SK6039		15.0	—	厚0.6 高7.4	体部外面赤漆、底部外面黒漆、内面赤漆	横木取り	ミズキ属	
2807	443-1	曲物側板･底板	T7	Vv19	SK6039		8.6	8.6	厚0.5 高7.3	側板は綴皮留め	側：柾目 底：柾目	側板：ヒノキ 底板：ヒノキ	
2808	404-2	漆器(椀)	T4	To12	SK6117		13.8	—	厚0.8 高4.9	体部外面赤漆、底部外面黒漆、内面赤漆、体部外面に漆絵	横木取り	ケヤキ	
2809	404-1	漆器(椀)	T4	To12	SK6117 南東側		12.4	7.5	厚0.7 高4.1	外面黒漆、内面赤漆、底部外面に漆絵	横木取り	ケヤキ	内面一部焼け
2810	20-1	板状製品	T4	Rj23	SK6142	2	74.6	4.7	1.7	板の先端を削り出し尖らす、全体が平滑	柾目	—	
2811	439-5	木球	T4	Rj23	SK6142	1	3.6	3.7	3.2	上・下部を粗く削る、樹皮残る、節が多い	芯持ち材	マツ科マツ属［二葉松類］	節・樹皮あり
2812	449-2	斎串	T7	Vs17	SD6012		12.7	1.2	0.4	上端・下端は剣先形	板目	スギ	
2813	451-2	斎串	T7	Vu18	SD6012		7.5	2.1	0.3	上端は圭頭形	板目	スギ	
2814	450-3	斎串	T7	Vu19	SD6012		8.7	1.3	0.4	上端は圭頭形	板目	スギ	
2815	451-1	斎串	T7	Vt19	SD6012		10.6	1.4	0.6	上端は圭頭形	板目	スギ	
2816	448-4	斎串	T7	Vt17	SD6012		12.3	2.0	0.6	上端は圭頭形	板目	スギ	
2817	448-1	斎串	T7	Vu18	SD6012		13.8	1.4	0.4	上端は圭頭形、切込み２箇所	板目	スギ	
2818	450-2	斎串	T7	Vt19	SD6012		15.1	1.8	0.5	上端は不明、切込み２箇所	板目	スギ	
2819	447-2	斎串	T7	Vt19	SD6012		17.2	2.7	0.3	上端は圭頭形、切込み２箇所	板目	スギ	
2820	449-1	斎串	T7	Vt17	SD6012		21.3	2.1	0.6	上端は圭頭形、切込み２箇所	板目	スギ	
2821	451-3	斎串	T7	Vt19	SD6012		24.6	2.4	0.4	上端は圭頭形？、切込み２箇所	板目	スギ	
2822	446-3	斎串	T7	Vu19	SD6012		26.2	1.7	0.8	上端は圭頭形、切込み２箇所	板目	スギ	
2823	446-5	斎串	T7	Vt19	SD6012		26.9	2.0	0.5	上端は圭頭形、切込み２箇所	板目	スギ	
2824	448-3	斎串	T7	Vt17	SD6012		29.4	1.9	0.6	上端は圭頭形、切込み４箇所	柾目	ヒノキ	
2825	447-4	斎串	T7	Vt19	SD6012		34.5	2.1	0.7	上端は圭頭形、切込み４箇所	板目	スギ	
2826	444-1	斎串	T7	Vt17	SD6012		47.3	1.5	0.4	上端は圭頭形	板目	コウヤマキ	
2827	450-4	斎串	T7	Vs16	SD6012		36.1	2.1	0.7	上・下端は欠損	板目	ヒノキ	
2828	451-4	斎串	T7	Vt18	SD6012		8.9	1.2	0.5	下端は剣先形	板目	ヒノキ	
2829	449-3	斎串	T7	Vs17	SD6012		14.2	1.8	0.5	下端は剣先形	板目	スギ	
2830	445-2	斎串	T7	Vt19	SD6012		17.4	1.8	0.6	下端は剣先形	板目	スギ	
2831	446-2	斎串	T7	Vv18	SD6012		18.0	1.9	0.2	下端は剣先形	板目	ヒノキ	
2832	445-4	斎串	T7	Vt18	SD6012		20.3	1.6	0.2	下端は剣先形	板目	ヒノキ科	
2833	447-1	斎串	T7	Vt19	SD6012		22.5	1.7	0.4	下端は剣先形	板目	ヒノキ	
2834	450-1	斎串	T4	V11	SD6012 下層		22.5	1.9	0.4	下端は剣先形	板目	スギ	
2835	446-4	斎串	T7	Vt19	SD6012		23.8	1.8	0.5	下端は剣先形、切込み２箇所	板目	スギ	
2836	445-3	斎串	T7	Vs16･17	SD6012		24.9	2.1	0.4	下端は剣先形	板目	スギ	
2837	447-3	斎串	T7	Vu18	SD6012		30.8	2.4	0.4	下端は剣先形	板目	ヒノキ	

報告No.	実測番号	器種	調査区	グリッド	出土遺構	取上No.	長(cm)	幅(cm)	厚さ・高さ(cm)	加工痕・観察所見	木取り	樹種	備考
2838	444-2	斎串	T7	Vt17	SD6012		40.0	2.2	0.8	下端は剣先形	板目	スギ	
2839	444-3	斎串	T4	Vo4	SD6012下層		40.6	3.1	0.7	下端は剣先形、主面は刀子状工具	板目	ヒノキ	
2840	402-4	斎串	T4	Vo4	SD6012下層		47.2	2.6	0.8	下端は剣先形、主面刀子状工具	板目	—	
2841	402-5	斎串	T7	Vs17	SD6012		48.6	2.7	0.5	下端は剣先形	板目	—	
2842	402-1	斎串	T7	Vu19	SD6012		53.7	2.5	0.4	下端は剣先状、切り込み4箇所	板目	スギ	
2843	446-1	斎串	T4	Vo4	SD6012下層		72.2	2.9	0.5	下端は剣先形、切り込み2箇所	板目	ヒノキ科	
2844	402-2	斎串	T7	Vu19	SD6012		79.0	2.1	0.6	下端は剣先状、切り込み4箇所	板目	スギ	
2845	401-3	斎串	T4	Vl1～2	SD6012		25.5	2.9	0.3	上端は圭頭形、下端は剣先形、切り込み2箇所	板目	ヒノキ科ヒノキ属	
2846	448-2	斎串	T7	Vt17	SD6012		26.2	1.1	0.4	上端は圭頭形、下端は剣先形、切り込み2箇所	板目	スギ	
2847	401-1	斎串	T7	Vt18	SD6012		31.8	1.3	0.5	上端は圭頭形、下端は剣先形、切り込み2箇所	板目	スギ	
2848	401-2	斎串	T7	Vu19	SD6012		33.8	1.5	0.5	上端は圭頭形、下端は剣先形、切り込み2箇所	板目	スギ	
2849	445-1	木札	T4	—	SD6012		28.4	5.3	0.8	下端は剣先形、全体刀子状工具	柾目	—	墨書なし
2850	432-1	羽子板状製品	T4	Vm3	SD6012		31.2	5.5	0.8	全体刀子状工具	板目	スギ	
2851	433-1	不明品(形代?)	T4	Vm3	SD6012		34.0	5.0	1.1	全体ヤリガンナ	板目	スギ	
2852	432-2	不明品	T4	Vl1・2	SD6012		4.0	5.7	0.4	穿孔あり	板目	—	全体腐食、穿孔1
2853	431-1	付木	T7	Vt17	SD6012		30.5	1.9	1.2	先端焼け、焼けは表面までで芯は生木	割材	—	焼け
2854	431-2	柄杓(柄部)	T4	Vl1	SD6012		32.0	1.6	1.2	先端を杭状に削る、全体刀子状工具	割材	スギ	
2855	431-3	棒状製品(柄部?)	T7	Vs17	SD6012		39.0	1.5	1.3	全体刀子状工具	割材	—	
2856	402-3	斎串？	T7	Vu19	SD6012		96.2	1.7	1.8	上端は圭頭形、刀子状工具で成形	割材	ヒノキ	
2857	411-1	曲物底板	T7	Vs16・17	SD6012		17.3	15.0	0.8	主面に穿孔あり	板目	ヒノキ	穿孔1
2858	409-1	曲物底板	T7	Vs16	SD6012		17.5	17.0	0.8	木釘穴なし	柾目	ヒノキ	
2859	410-1	曲物底板	T7	Vs18	SD6012		20.5	18.7	1.0	側面に木釘穴あり	柾目	スギ	全体腐食、木釘穴1
2860	412-2	曲物底板	T4	Vl1・2	SD6012		14.6	4.8	0.7	木釘穴なし	柾目	ヒノキ	
2861	412-1	蓋板	T4	Vl1	SD6012		25.6	7.0	2.3	主面に栓用穿孔、木釘で側板・底板を接ぐ	柾目	スギ	木釘穴2、栓用穿孔1
2862	413-2	折敷底板	T5	Vf7	SD6084		24.5	5.0	0.8	主面に刃物痕、まな板に転用？	板目	ヒノキ	転用材
2863	428-1	折敷底板	T4	Vp4	SD6190		31.3	9.8	0.7	主面に穿孔、綴皮残る、刃物痕、まな板に転用?	柾目	スギ	転用材、綴皮留め5、穿孔8
2864	453-2	漆器(椀)	T4	Tn1	SD6126		15.6	—	厚0.5高7.2	黒漆塗り	横木取り	ムクロジ	外面腐食
2865	417-2	不明品	T4	To22	SD6126		12.9	1.7	1.2	穿孔、木釘あり	割材	—	木釘穴2、穿孔2
2866	417-1	折敷底板	T4	To22	SD6126		21.5	5.0	0.7	主面の穿孔に綴皮残る	柾目	ヒノキ	綴皮留め3
2867	416-1	曲物底板	T4	Tn1	SD6126		34.0	11.0	1.0	木釘で側板・底板を接ぐ	柾目	スギ	木釘穴2
2868	407-1	曲物側板･底板	T4	Tn2	SD6167第13層		11.5	11.5	厚0.6高4.9	側板は綴皮で留める、木釘で側板・底板留める	側：柾目底：柾目	ヒノキ科ヒノキ属	木釘穴2
2869	435-1	箆	T4	Tl23	SD6167		25.4	2.7	0.6	全体刀子状工具	板目	ヒノキ	
2870	435-3	棒状製品(柄部？)	T4	Tp22	SD6167		5.0	1.9	1.6	全体刀子状工具	芯持ち材	—	
2871	435-2	板状製品	T4	Tp22	SD6167		5.0	1.9	1.6	主面に半円形溝と不整形穴、全体ヤリガンナ	柾目	ヒノキ	
2872	436-1	不明品	T4	Tn22	SD6167		17.8	7.5	3.2	主面刀子状工具、側面は鋸・鑿	板目	—	
2873	457-2	漆器(椀)	T4	Tn23	SD6167第10層		14.1	11.0	厚1.5高6.3	外内面黒漆、内面赤漆絵	横木取り	カツラ	
2874	456-3	漆器(椀)	T4	To22	SD6167第10層		16.2	—	厚1.0高5.6	外面黒漆に赤漆絵、内面赤漆	横木取り	クリ	
2875	456-2	漆器(椀)	T4	Tm23	SD6167		7.4	—	厚0.7高1.6	外面体～底部黒漆に赤漆絵、内面赤漆	横木取り	ハイノキ属	
2876	405-2	漆器(椀)	T4	Tn23	SD6167第10層		16.3	—	厚1.1高5.9	外内面黒漆、内面赤漆絵	横木取り	ブナ属	
2877	405-1	漆器(椀)	T4	Tn23	SD6167第13層		16.4	—	厚0.6高8.7	外内面黒漆に赤漆絵外面底部に漆絵「上」	横木取り	トチノキ	

報告No.	実測番号	器種	調査区	グリッド	出土遺構	取上No.	長(cm)	幅(cm)	厚さ・高さ(cm)	加工痕・観察所見	木取り	樹種	備考
2878	457-1	漆器(椀)	T4	Tn23	SD6167		15.5	9.7	厚0.7 高7.1	外内面黒漆に赤漆絵	横木取り	トチノキ	
2879	456-1	漆器(椀)	T4	Tn23	SD6167		13.2	5.0	厚1.2 高3.0	外内面黒漆、内面赤漆絵	横木取り	クリ	
2880	420-2	曲物底板？	T4	Tn23	SD6167		12.5	12.0	1.4	主面は鋸、両面に木釘と穿孔	芯持ち材	マツ属 複維管束亜属	木釘10、穿孔表6、 穿孔裏7
2881	418-2	折敷底板	T4	Tn22	SD6167		31.5	10.2	0.7	主面に穿孔、綴皮留め、 刃物痕、まな板に転用？	柾目	ヒノキ	転用材、焼け、綴皮留め5
2882	418-1	折敷底板	T4	Tm23	SD6167		24.3	9.8	0.7	主面に穿孔、綴皮残る、 刃物痕、まな板に転用？	柾目	ヒノキ科	転用材、焼け、木釘穴4、綴皮留め1
2883	419-1	折敷底板	T4	T123	SD6167		32.8	8.4	0.8	側面に木釘残る、主面に刃物痕、 まな板に転用？	柾目	ヒノキ	転用材、焼け、 木釘穴4
2884	154-2	不明品	T4	Tn23	SD6167		27.0	16.5	6.5	鉄釘で板材を留める	芯持ち材	—	鉄釘2
2885	436-2	連歯下駄	T4	Tp22	SD6167		10.7	7.5	6.2	右足用	芯持ち材	モクレン科 モクレン属	穿孔3
2886	21-1	挽	T4	Tn23	SD6167 第10層		82.2	78.8	8.8	ホゾ穴の２箇所に残材、 柄部から床部が残存	芯持ち材	挽身：マツ科マツ属［二葉松類］、 ホゾC：ヒノキ科、 ホゾE：ツバキ科ツバキ属	ホゾ穴C・Eに残材、 ホゾ穴4
2887	154-1	板材	T4	Tp22	SD6167		64.7	6.0	0.3	両面打割、側面・小口ヤリガンナ？	板目	—	板葺材？
2888	57-3	井戸枠 (結物)	T4	To4・5	SE6124	21	84.9	7.3	2.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2889	57-2	井戸枠 (結物)	T4	To4・5	SE6124	20	82.1	15.5	2.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2890	57-1	井戸枠 (結物)	T4	To4・5	SE6124	19	74.2	7.5	2.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2891	56-3	井戸枠 (結物)	T4	To4・5	SE6124	18	77.2	9.1	2.1	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2892	56-2	井戸枠 (結物)	T4	To4・5	SE6124	17	78.4	9.2	2.1	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2893	56-1	井戸枠 (結物)	T4	To4・5	SE6124	16	77.7	9.9	2.1	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2894	55-3	井戸枠 (結物)	T4	To4・5	SE6124	15	80.0	8.3	2.2	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2895	55-2	井戸枠 (結物)	T4	To4・5	SE6124	14	81.3	9.8	2.1	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2896	55-1	井戸枠 (結物)	T4	To4・5	SE6124	13	86.5	7.5	2.2	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2897	54-3	井戸枠 (結物)	T4	To4・5	SE6124	12	83.2	7.2	2.1	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2898	54-2	井戸枠 (結物)	T4	To4・5	SE6124	11	79.8	7.5	2.2	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2899	53-3	井戸枠 (結物)	T4	To4・5	SE6124	10	78.0	9.5	2.1	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2900	53-2	井戸枠 (結物)	T4	To4・5	SE6124	9	75.6	8.5	2.2	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2901	53-1	井戸枠 (結物)	T4	To4・5	SE6124	8	79.4	9.5	2.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2902	52-3	井戸枠 (結物)	T4	To4・5	SE6124	7	83.0	8.8	2.1	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	

報告No.	実測番号	器種	調査区	グリッド	出土遺構	取上No.	長(cm)	幅(cm)	厚さ・高さ(cm)	加工痕・観察所見	木取り	樹種	備考
2903	52-2	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	6	82.0	8.5	2.3	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2904	52-1	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	5	80.5	7.5	2.3	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2905	54-1	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	4	82.4	8.4	2.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2906	51-3	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	3	79.0	6.5	2.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2907	51-2	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	2	82.6	8.6	2.2	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2908	51-1	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	1	88.4	9.4	2.2	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2909	58-1	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	下1	62.5	8.7	1.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	—	木釘穴2
2910	58-2	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	下2	63.0	9.2	2.2	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	—	木釘穴4
2911	58-3	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	下3	62.9	11.8	2.6	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	—	木釘穴2
2912	59-1	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	下4	62.8	11.4	2.3	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	木釘穴2
2913	59-2	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	下5	62.5	8.9	2.2	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	—	木釘穴2
2914	59-3	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	下6	62.5	9.5	2.5	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	木釘穴2
2915	60-1	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	下7	63.5	9.2	2.2	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	木釘穴2
2916	60-2	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	下8	63.8	9.5	2.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	木釘穴2
2917	60-3	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	下9	62.6	11.2	2.4	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	木釘穴2
2918	61-1	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	下10	63.5	9.6	2.3	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	木釘穴2
2919	61-2	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	下11	63.0	13.3	2.4	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	—	木釘穴2
2920	61-3	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	下12	62.9	10.0	2.0	外面　大鋸、ヤリガンナ、チョウナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	木釘穴2
2921	62-1	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	下13	63.0	7.5	2.3	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	木釘穴2
2922	62-2	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	下14	56.3	9.1	2.1	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	木釘穴2

報告No.	実測番号	器種	調査区	グリッド	出土遺構	取上No.	長(cm)	幅(cm)	厚さ・高さ(cm)	加工痕・観察所見	木取り	樹種	備考
2923	62-3	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	下15	63.0	6.6	1.9	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	木釘穴2
2924	63-1	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	下16	49.5	9.7	2.2	外面　大鋸、ヤリガンナ、チョウナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	木釘穴2
2925	63-2	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	下17	63.3	9.5	2.0	外面　大鋸、ヤリガンナ、チョウナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	木釘穴2
2926	63-3	井戸枠(結物)	T4	To4・5	SE6124	下18	63.0	10.0	2.2	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	木釘穴2
2927	153-1	井戸枠(結物)	T4	Rh・i23・24	SE6144-A	13	61.3	14.6	2.7	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表内向	—	節あり
2928	152-1	井戸枠(結物)	T4	Rh・i23・24	SE6144-A	12	60.7	7.8	2.5	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表内向	スギ	
2929	151-1	井戸枠(結物)	T4	Rh・i23・24	SE6144-A	11	61.6	16.9	2.9	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表内向	—	節あり
2930	155-1	井戸枠(結物)	T4	Rh・i23・24	SE6144-A	10	62.3	8.6	2.5	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表内向	—	節あり
2931	150-1	井戸枠(結物)	T4	Rh・i23・24	SE6144-A	9	61.7	15.0	3.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表内向	スギ	節あり
2932	149-1	井戸枠(結物)	T4	Rh・i23・24	SE6144-A	8	61.9	11.8	3.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表内向	—	節あり
2933	148-1	井戸枠(結物)	T4	Rh・i23・24	SE6144-A	7	61.8	12.0	3.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表内向	スギ	
2934	147-1	井戸枠(結物)	T4	Rh・i23・24	SE6144-A	6	62.0	12.2	2.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表内向	—	節あり
2935	146-1	井戸枠(結物)	T4	Rh・i23・24	SE6144-A	5	61.5	14.3	2.9	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表内向	スギ	節あり
2936	145-1	井戸枠(結物)	T4	Rh・i23・24	SE6144-A	4	61.4	9.5	2.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	—	
2937	144-1	井戸枠(結物)	T4	Rh・i23・24	SE6144-A	3	61.4	9.5	2.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表内向	スギ	節あり
2938	143-1	井戸枠(結物)	T4	Rh・i23・24	SE6144-A	2	61.2	10.2	3.1	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表内向	—	
2939	142-1	井戸枠(結物)	T4	Rh・i23・24	SE6144-A	1	61.5	14.0	2.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表内向	スギ	節あり
2940	99-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	1	69.0	10.1	3.7	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2941	100-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	2	68.0	8.8	3.3	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2942	101-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	3	67.0	9.0	3.3	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり

報告No.	実測番号	器種	調査区	グリッド	出土遺構	取上No.	長(cm)	幅(cm)	厚さ・高さ(cm)	加工痕・観察所見	木取り	樹種	備考
2943	102-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	4	68.5	9.0	3.6	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	—	節あり
2944	103-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	5	67.4	11.5	4.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	—	節あり
2945	104-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	6	66.0	9.5	2.6	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2946	105-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	7	67.0	8.6	3.5	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	—	
2947	106-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	8	66.8	8.7	3.5	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表内向	—	節あり
2948	107-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	9	71.2	9.0	2.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表内向	—	節あり
2949	108-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	10	65.8	8.7	3.4	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2950	109-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	11	65.4	9.0	3.6	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	—	節あり
2951	110-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	12	73.9	10.0	3.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2952	111-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	13	66.4	9.3	3.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表内向	—	
2953	112-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	14	66.3	9.4	3.5	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	—	節あり
2954	113-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	15	64.4	9.0	2.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2955	114-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	16	60.0	9.2	4.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	—	節あり
2956	115-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	17	68.1	8.9	4.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2957	116-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	18	70.8	9.5	3.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2958	117-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	19	74.5	9.7	3.9	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2959	118-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	20	73.3	17.0	5.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	—	節あり
2960	119-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	21	66.8	9.0	3.7	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	—	
2961	120-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	22	66.8	9.2	2.9	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2962	125-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下20	113.0	16.3	3.4	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり

報告No.	実測番号	器種	調査区	グリッド	出土遺構	取上No.	長(cm)	幅(cm)	厚さ・高さ(cm)	加工痕・観察所見	木取り	樹種	備考
2963	137-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下19	113.1	10.6	3.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表内向	—	節あり
2964	131-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下18	113.7	11.1	2.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2965	136-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下17	113.7	10.2	3.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2966	130-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下16	113.3	10.3	2.5	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋、刃物打痕 小口　鋸	板目 木表外向	—	節あり
2967	129-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下15	112.6	9.7	2.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2968	128-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下14	113.3	9.6	3.7	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2969	135-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下13	113.4	10.2	2.9	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表内向	—	
2970	126-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下12	113.0	11.5	3.5	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2971	134-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下11	113.2	8.5	3.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2972	133-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下10	113.7	8.6	3.6	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2973	123-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下9	114.0	13.0	2.5	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2974	122-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下8	113.8	9.4	3.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2975	124-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下7	113.5	10.1	2.6	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	節あり
2976	127-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下6	113.5	10.1	2.6	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋、刃物打痕 小口　鋸	板目 木表内向	—	節あり
2977	132-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下5	113.3	8.5	3.7	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2978	98-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下4	112.5	12.0	3.6	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	柾目	—	節あり
2979	97-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下3	112.9	12.0	2.3	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋、刃物打痕 小口　鋸	柾目	—	節あり
2980	121-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下2	113.0	9.0	3.1	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2981	96-1	井戸枠(結物)	T4	Tq・r24・25	SE6171	下1	113.4	10.0	2.7	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　ヤリガンナ 小口　鋸	柾目	—	
2982	44-1	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	17	66.5	10.3	1.5	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	

報告No.	実測番号	器種	調査区	グリッド	出土遺構	取上No.	長(cm)	幅(cm)	厚さ・高さ(cm)	加工痕・観察所見	木取り	樹種	備考
2983	43-1	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	16	68.5	14.8	1.6	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2984	42-3	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	15	66.6	11.6	1.4	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	ヒノキ	
2985	42-2	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	14	70.4	13.1	1.4	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2986	42-1	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	13	70.4	11.0	1.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	ヒノキ	
2987	41-3	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	12	69.2	11.8	1.4	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2988	41-2	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	11	58.8	12.3	1.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	
2989	41-1	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	10	65.1	10.3	1.3	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2990	40-1	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	9	60.0	15.0	1.5	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	ヒノキ	
2991	37-3	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	8	62.6	10.8	1.5	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2992	37-2	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	7	62.4	12.7	1.4	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	ヒノキ	
2993	39-1	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	6	56.6	15.3	1.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2994	38-2	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	5	59.5	5.5	1.3	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	ヒノキ	
2995	38-1	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	4	69.8	10.4	1.7	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2996	36-2	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	3	63.8	6.5	1.4	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	ヒノキ	
2997	37-1	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	2	68.0	13.8	1.2	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
2998	36-1	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	1	68.8	10.1	1.2	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　腐食 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	ヒノキ	
2999	45-3	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下21	82.0	6.7	2.1	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	ヒノキ	
3000	49-4	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下20	82.7	12.5	2.1	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
3001	49-3	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下19	82.9	8.4	2.4	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	ヒノキ	
3002	49-2	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下18	82.5	11.5	1.6	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	—	

報告No.	実測番号	器種	調査区	グリッド	出土遺構	取上No.	長(cm)	幅(cm)	厚さ・高さ(cm)	加工痕・観察所見	木取り	樹種	備考
3003	49-1	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下17	82.5	15.5	2.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	節あり
3004	48-4	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下16	82.3	9.6	1.9	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	—	
3005	48-3	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下15	82.8	11.6	1.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	ヒノキ	
3006	48-2	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下14	83.0	9.8	2.2	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
3007	48-1	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下13	83.2	12.0	1.5	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	ヒノキ	
3008	47-4	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下12	83.2	16.0	1.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	—	
3009	47-3	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下11	82.4	5.7	1.6	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	
3010	47-2	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下10	82.2	6.5	1.6	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
3011	47-1	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下9	81.8	5.0	1.7	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	
3012	46-4	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下8	82.0	11.8	1.6	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	—	
3013	46-3	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下7	82.0	10.0	2.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	ヒノキ	
3014	46-2	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下6	82.0	5.5	1.8	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
3015	46-1	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下5	83.3	12.3	2.3	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	
3016	44-4	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下4	83.2	9.7	2.4	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
3017	44-3	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下3	82.5	10.3	2.2	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	ヒノキ	
3018	44-2	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下2	81.4	8.0	2.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	柾目	—	
3019	45-2	井戸枠(結物)	T4	Vp3・4	SE6184	下1	81.3	10.5	2.0	外面　大鋸、ヤリガンナ 内面　大鋸、ヤリガンナ 側面　台鉋 小口　鋸	板目 木表外向	ヒノキ	
3020	406-1	横櫛	T4	Vp3	SE6184 井戸枠内 第10層		10.1	4.8	0.7	黒漆塗り、背部に蒔絵あり、 表裏歯部には金箔	横木取り	—	歯数45
3021	406-2	横櫛	T4	Vp3	SE6184 井戸枠内 第10層		9.5	4.3	0.6	背部赤漆塗りに濃い赤漆絵、 歯部黒漆塗り	横木取り	サカキ	歯数51
3022	406-3	横櫛	T4	Vp3	SE6184 井戸枠内 第10層		8.2	5.0	0.4	背部・歯部黒漆塗り	横木取り	イスノキ	歯数52
3023	439-3	不明品	T4	Vp3	SE6184 井戸枠内		8.0	2.9	1.6	５箇所に穿孔、器面は粗い、 一部は刀子状工具	割材	—	穿孔5
3024	466-3	楔	T4	Vp3	SE6184 井戸枠内		8.9	4.9	1.2	両面先端ケズリ、小口鋸	割材	—	

報告No.	実測番号	器種	調査区	グリッド	出土遺構	取上No.	長(cm)	幅(cm)	厚さ・高さ(cm)	加工痕・観察所見	木取り	樹種	備考
3025	434-2	把手状製品	T4	To4・5	SE6124 井戸枠内		10.6	3.6	3.1	全体刀子状工具、両木口には鉄製品の茎が残る	板目	クリ	
3026	439-4	棒状製品(柄部)	T4	Vp3	SK6180		4.2	2.3	1.3	穿孔	割材	—	全体腐食、穿孔1
3027	415-1	曲物底板	T4	To22	SK6078		26.3	6.7	0.4	木釘穴なし	板目	モミ属	
3028	454-1	漆器(椀)	T4	Tq23	SK6170		12.2	—	厚1.0 高6.5	外面黒漆、内面赤漆	横木取り	トチノキ	
3029	455-2	漆器(椀)	T1	Pk7	SK6211		6.7	—	厚1.1 高1.5	外面黒漆	横木取り	トチノキ	内面腐食
3030	403-1	漆器(盤)	T1	Pk7	SK6211		23.9	11.0	厚0.8 高5.0	外面赤漆、内面黒漆のち赤漆、見込部に漆絵	横木取り	クリ	
3031	427-1	蓋板	T1	Pk7	SK6211		15.2	15.0	1.4	主面に栓用穿孔	板目	ヒノキ	栓用穿孔1
3032	438-1	連歯下駄	T1	Pk7	SK6211		23.5	8.1	2.9	中央に「○に田」の焼印	板目	スギ	朝田寺関連、穿孔4
3033	429-1	床板	T4	Tn22	SK6188		39.3	16.3	2.9	主面に鉄釘	板目	—	鉄釘7
3034	437-2	付木	T4	Tn22	SK6188		26.7	2.7	0.9	先端杭状に削る、焼けは表面までで芯は生木	割材	—	焼け
3035	437-1	平鍬	T4	Tn22	SK6188		17.9	12.4	3.2	柄孔は鑿	板目	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	着柄角度71°、全体腐食
3036	454-2	漆器(椀)	T10	Zi6	SD6193		16.0	—	厚1.0 高5.8	外内面黒漆、外面赤漆絵	横木取り	ハイノキ属	
3037	427-2	曲物底板	T3	Rk9	SD6217		15.2	4.8	0.8	木釘穴なし	柾目	ヒノキ	
3038	473-1	楔	T4	Vr1	SD6173		9.9	2.5	2.3	片面先端・側面ケズリ、小口鋸	割材	—	
3039	423-1	曲物底板	T4	Vr1	SD6173		21.0	12.0	0.7	主面に黒色塗膜	柾目	ヒノキ科	塗膜痕（柿渋？）
3040	424-1	曲物底板	T4	Vr1	SD6173		27.5	27.0	2.5	底板４点を木釘で接ぐ、側面ヤリガンナ	全て板目	スギ	木釘7
3041	430-1	曲物底板	T4	Tq24	SD6173		30.5	29.7	2.0	木釘穴なし	板目	スギ	

第７表　遺物観察表（金属製品）

報告No.	実測番号	種別	器種	調査区	グリッド	出土遺構	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	残存率	備考
3042	00402	銅製品	銭貨(開元通宝)	T3	Re19	SK6242	2.5	2.5	0.1	完形	
3043	00312	銅製品	銭貨(咸平元宝)	T3	Re19	SK6242	2.4	2.4	0.13	完形	
3044	00310	銅製品	銭貨(熙寧元宝)	T3	Re18	SK6242	2.4	2.4	0.12	完形	
3045	00315	銅製品	銭貨(熙寧元宝)	T3	Re19	SK6242	2.5	2.5	0.1	完形	
3046	00317	銅製品	銭貨(熙寧元宝)	T3	Re19	SK6242	2.4	2.4	0.1	完形	
3047	00314	銅製品	銭貨(景祐元宝)	T3	Re19	SK6242	2.5	2.5	0.1	完形	
3048	00318	銅製品	銭貨(元豊通宝)	T3	Re19	SK6242	2.4	2.4	0.12	完形	
3049	00311	銅製品	銭貨(皇宋通宝)	T3	Re18	SK6242	2.5	2.4	0.13	完形	
3050	00316	銅製品	銭貨(皇宋通宝)	T3	Re19	SK6242	2.5	2.5	0.1	完形	
3051	00313	銅製品	銭貨(至道元宝)	T3	Re19	SK6242	2.5	2.4	0.1	完形	
3052	00401	銅製品	銭貨(天元通宝)	T3	Re19	SK6242	2.5	2.5	0.12	完形	
3053	00403	銅製品	銭貨	T3	Re19	SK6242	2.4	2.4	0.1	完形	銭種不明、熙寧元宝？
3054	00502	鉄製品	不明	T3	Rh10	SD6222	4.9	1.8	0.4	一部欠	
3055	00404	銅製品	銭貨(元祐通宝)	T3	Re16	Pit3	2.4	—	0.13	半欠	
3056	00306	銅製品	銭貨(元符通宝)	T4	To17	SK6102	2.4	2.3	0.13	完形	
3057	00308	銅製品	銭貨(景祐元宝)	T4	To12	SK6104	2.5	2.4	0.1	完形	
3058	00309	銅製品	銭貨(皇宋通宝)	T4	To12	SK6104	2.5	2.5	0.12	完形	
3059	00307	銅製品	銭貨(大中通宝)	T4	To12	SK6104	2.2	2.1	0.2	完形	
3060	00506	銅製品	不明	T4	Ri24	SK6143	6.3	1.3	0.7	一部欠	中空、変形
3061	00505	鉄製品	刀子	T4	Tn1	SD6126	19.2	1.3	0.3	一部欠	
3062	00107	鉄製品	鏨	T4	Tm23	SD6167	20.4	1.4	0.7	一部欠	釘の可能性あり、３本錆着のうちの１本
3063	00105	鉄製品	鏨	T4	Tm23	SD6167	21.3	1.7	1.0	一部欠	釘の可能性あり、３本錆着のうちの１本
3064	00106	鉄製品	鏨	T4	Tm23	SD6167	20.5	1.7	1.0	一部欠	釘の可能性あり、３本錆着のうちの１本
3065	00111	鉄製品	鏨	T4	Tm23	SD6167	20.2	2.0	1.0	一部欠	釘の可能性あり、５本錆着のうちの１本
3066	00109	鉄製品	鏨	T4	Tm23	SD6167	19.2	1.4	0.8	一部欠	釘の可能性あり、５本錆着のうちの１本
3067	00110	鉄製品	鏨	T4	Tm23	SD6167	20.5	1.5	0.7	一部欠	釘の可能性あり、５本錆着のうちの１本
3068	00112	鉄製品	鏨	T4	Tm23	SD6167	20.0	2.0	1.1	一部欠	釘の可能性あり、５本錆着のうちの１本
3069	00113	鉄製品	鏨	T4	Tm23	SD6167	13.2	1.7	0.9	一部欠	釘の可能性あり、５本錆着のうちの１本
3070	00104	鉄製品	鏨	T4	Tm23	SD6167	12.6	1.8	0.5	半欠	数本錆着したものの一部か、釘の可能性あり
3071	00504	真鍮製品	台付小鉢	T4	Vp3	SE6184枠内	口径7.0	器高3.9	底径2.5	完形	毛彫り文様
3072	00501	鉄製品	釘	T4	—	SK6076	8.8	0.4	0.4	一部欠	
3073	00509	鉄製品	釘	T4	Tp22	SK6076	4.3	0.7	0.5	半欠	
3074	00507	銅製品	煙管吸口	T4	Tp22	SK6076	6.8	1.3	0.5	一部欠	変形
3075	00510	銅製品	不明	T4	Tp21・22	SK6076	2.3	2.9	0.7	一部欠	
3076	00302	銅製品	銭貨(寛永通宝)	T4	Tp22	SK6076	2.4	2.2	0.1	一部欠	
3077	00301	銅製品	銭貨	T4	Tp22	SK6076	2.3	2.3	0.15	完形	銭種不明
3078	00508	鉄製品	釘	T4	Vr2	SK6175	7.4	0.5	0.5	一部欠	
3079	00405	銅製品	銭貨(寛永通宝)	T4	Rv2	包含層	2.5	2.5	0.1	完形	
3080	00203	鉄製品	鍋	T5	Ti25	SD6071	口径26.0	—	—	口縁2/12	
3081	00304	銅製品	銭貨(開元通宝)	T5	Vf7	SD6084	2.5	2.3	0.12	一部欠	
3082	00303	銅製品	銭貨(寛永通宝)	T5	Vf7	SD6084	2.4	2.3	0.12	完形	
3083	00305	銅製品	銭貨(寛永通宝)	T5	Vf7	SD6084	2.4	2.3	0.1	完形	
3084	00201	銅製品	筆先	T6	Vq15	SD6027	2.6	0.8	0.8	完形	穂先遺存
3085	00101	鉄製品	五徳？	T7	Vw19	SK6032	9.1	3.9	2.7	破片	
3086	00202	銅製品	刀子柄	T7	Vw19	SK6032	8.5	1.3	0.4	完形	鉄製刀子茎一部遺存
3087	00503	鉄製品	釘	T7	Vu18	Pit7	6.0	0.7	0.4	半欠	
3088	00409	銅製品	銭貨(開元通宝)	T7	Vv18	Pit1	2.4	2.4	0.1	完形	
3089	00406	銅製品	銭貨(洪武通宝)	T7	Vv18	Pit1	2.5	2.5	0.13	完形	
3090	00407	銅製品	銭貨(洪武通宝)	T7	Vv18	Pit1	2.5	2.5	0.15	一部欠	
3091	00408	銅製品	銭貨(洪武通宝)	T7	Vv18	Pit1	2.4	2.4	0.15	一部欠	

Ⅴ　自然科学分析

1　分析の種類と対象

（1）獣骨同定

室町時代のＳＤ6126出土獣骨から動物種や骨格部位、年齢等を同定し、遺跡の周辺環境及び人間活動との関連性を探った。

（2）鉄滓分析

飛鳥時代の溝及び鎌倉時代の井戸から出土した鉄滓の鉄成分分析を実施し、金属生産の具体像を明らかにすることで、遺跡全体の金属生産実態を検討した。

（3）樹種同定及び漆膜分析

樹種同定は同一母材と見られる井戸枠材、小型製品を中心に同定を実施した。樹種同定は３社実施したが、ここでは分析数が多くを占めるパレオ・ラボ、文化財科学研究センターの報告を掲載した。なお、文化財科学研究センターの漆製品保存処理等の報告について、紙面の都合で保存処理にかかる本文と写真を割愛している。

樹種同定の委託先と内容は以下の通りである。

①株式会社　吉田生物研究所

「三重県堀町遺跡６次出土木製品の樹種調査結果」他２件

保存処理を実施した井戸枠材２点、曲物４点、農耕具２点、下駄２点、斎串５点、紡錘具１点、遊戯具１点の合計17点。第８表に樹種同定結果を示した。

②株式会社　パレオ・ラボ

「堀町遺跡（第６次）出土木製品の樹種同定」

井戸枠材や小型の木製品など合計142点。

③一般社団法人　文化財科学研究センター

「堀町遺跡第６次における樹種同定」

斎串や曲物底板、漆椀など合計80点。

「平成28年度高度水利機能確保基盤整備事業（朝見上地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査（堀町遺跡第６次）にかかる出土漆製品保存処理等業務委託」

保存処理を実施した漆製品（横櫛・椀・盤）合計６点。

2　堀町遺跡（第６次）から出土したウシ

中村　賢太郎（パレオ・ラボ）

（1）はじめに

堀町遺跡は松阪市朝田町に所在し、櫛田川流域の平野に立地する。堀町遺跡の第６次発掘調査で検出

第８表　保存処理に伴う樹種同定結果一覧

報告№	実測№	遺構	器種	樹種
2649	82-1	SE6116	井戸枠材	ヒノキ科ヒノキ属
2655	84-1	SE6116	井戸枠材	ヒノキ科ヒノキ属
2736	1-1	SE6081	曲物	スギ科スギ属スギ
2737	4-1	SE6044	曲物	スギ科スギ属スギ
2738	3-1	SE6202	曲物	スギ科スギ属スギ
2746	434-3	SE6150	紡錘車	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
2811	439-5	SK6142	木球	マツ科マツ属［二葉松類］
2842	402-1	SD6012	斎串	スギ科スギ属スギ
2845	401-3	SD6012	斎串	ヒノキ科ヒノキ属
2847	401-1	SD6012	斎串	スギ科スギ属スギ
2848	401-2	SD6012	斎串	スギ科スギ属スギ
2856	402-3	SD6012	斎串	スギ科スギ属スギ
2885	436-2	SD6167	連歯下駄	モクレン科モクレン属
2886	21-1	SD6167	1　犂（本体）	マツ科マツ属［二葉松類］
			2　犂（ホゾ内の木）	ヒノキ科ヒノキ属
			3　犂（ホゾ内の木）	ツバキ科ツバキ属
2948	107-1	SE6171	小型曲物	モクレン科モクレン属
3032	438-1	SK6211	連歯下駄	スギ科スギ属スギ
3035	437-1	SK6188	平鍬	ブナ科コナラ属アカガシ亜属

第９表　堀町遺跡（第６次）から出土したウシ

分析試料No.	遺構・層位	地区	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	計測値	備考
1	SD6126（最下層）	T4、Tn2	ウシ	橈骨・尺骨	左	ほぼ完存	1	橈骨最大長(GL):247mm、橈骨近位端幅(Bp):71.6mm、橈骨骨幹最小幅(SD):33.6mm、橈骨遠位端幅(Bd):>58.5mm	ビビアナイト析出
2	SD6126（最下層）	T4、Tn2	ウシ	大腿骨	右	近位端～骨幹遠位部	1	最大長(GL):＞208mm、骨幹最小幅(SD):32.0mm	ビビアナイト析出

第199図　堀町遺跡（第６次）出土のウシ

された戦国期の区画溝から、獣骨が出土した。ここでは、獣骨の同定結果と観察所見を報告する。

（２）試料と方法

試料は、戦国期の区画溝と考えられている溝ＳＤ6126の最下層から出土した獣骨２点である。骨は互いにやや離れた位置から出土した。

同定は肉眼で現生標本との比較および図録との比較により行った。骨の観察時に切創や病変の有無に注意した。サイズ計測はノギスおよび方眼紙上で行った。

（３）結果と考察（第９表、第199図）

２点の骨はいずれもウシ（Bos taurus）であった。分析試料No.１は左の橈骨および尺骨、No.２は右の大腿骨であった。交連していなかったため、別個体の可能性がある。

分析試料No.１は、橈骨最大長から推定される体高がおよそ105cmである。切創は観察されず、解体を経たものか不明である。ほぼ完存であり、風化・劣化の程度は分析試料No.２より低い。

分析試料No.２も、切創が観察されず、解体を経たものか不明である。両骨端は破断し、表面の風化・劣化の程度は分析試料No.１よりも高い。

参考文献

松井章（2008）動物考古学．京都大学学術出版会，p.312.

３　堀町遺跡（第５・６次）出土鉄滓の分析調査

鈴木瑞穂（日鉄住金テクノロジー（株）八幡事業所・TACセンター）

Ⅰ　いきさつ

堀町遺跡は三重県松阪市朝田町に所在する。第５次調査地区の古代の溝跡（ＳＤ5095）からは、古代（飛鳥時代）の鍛冶関連遺物が複数出土した。また第６次調査地区でも鎌倉時代の井戸跡（ＳＥ6202）から鉄滓が出土している。このため当遺跡内での鉄器生産の実態を検討する目的から調査を実施する運びとなった。

Ⅱ　調査方法

（１）供試材

第10表に示す。出土鉄滓４点を調査した。

（２）調査項目

①肉眼観察

分析調査する遺物の調査前の観察所見を記載した。

②マクロ組織

顕微鏡埋込み試料の断面を、低倍率で撮影したものを指す。広範囲で組織の分布状態、形状、大きさなどが観察できる利点がある。

③顕微鏡組織

鉱滓の鉱物組成や金属部の組織観察、非金属介在物の調査などを目的とする。

試料観察面を設定・切り出し後、試験片は樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の＃150、＃240、＃320、＃600、＃1000、及びダイヤモンド粒子の３μmと１μmで鏡面研磨した。また観察には金属反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して写真撮影を行った。

④ビッカース断面硬度

ビッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて硬さの測定を行い、文献硬度値に照らして、鉱滓中の結晶の判定を行った。試験は鏡面研磨した試料に136°の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除した商を硬度値とした。試料は顕微鏡用を併用し、荷重は50gfで測定した。

⑤EPMA（Electron Probe Micro Analyzer）調査

日本電子㈱製JXA-8800RL（波長分散型５チャンネル）にて含有元素の定性・定量分析を実施した。定量分析は試料電流2.0×10^{-8}アンペア、ビーム径３μm、補正法はZAFに従った。

試料面（顕微鏡試料併用）に真空中で電子線を照射し、発生する特性Ｘ線を分光後に画像化し定性的な結果を得る。更に標準試料とＸ線強度との対比から元素定量値をコンピューター処理してデータ解析を行う方法である。

反射電子像（COMP）は、調査面の組成の違いを明度で表示するものである。重い元素で構成される個所ほど明るく、軽い元素で構成される個所ほど暗い色調で示される。これを利用して、各相の組成の違いを確認後、定量分析を実施した。

また元素の分布状態を把握するため、反射電子像に加え、特性Ｘ線像の撮影も適宜行った。

⑥化学組成分析

出土遺物の性状を調査するため、構成成分の定量分析を実施した。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第１鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）、硫黄（S）：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法。

二酸化硅素（SiO_2）、酸化アルミニウム（Al_2O_3）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化カリウム（K_2O）、酸化ナトリウム（Na_2O）、酸化マンガン（MnO）、二酸化チタン（TiO_2）、酸化クロム（Cr_2O_3）、五酸化燐（P_2O_5）、バナジウム（V）、銅（Cu）、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）法：誘導結合プラズマ発光分光分析。

Ⅲ　調査結果

（１）ＳＤ5095出土鉄滓　HOR－1：椀形鍛冶滓

①肉眼観察

薄手の椀形鍛冶滓（25.2ｇ）の破片である。下面は全面淡褐色の鍛冶炉床土で、最大５㎜程の厚さがある。粘土中には微細な斜長石などの砂粒が混和されている。上面側は黒色ガラス質滓とやや風化の進んだ灰褐色の鍛冶滓とが確認される。着磁性はほとんどなく、金属探知器の反応もない。

②マクロ組織

第200図①に示す。写真左上の明灰色部は鍛冶滓である。これに対して、右上の暗灰色部はガラス質滓（炉材粘土の溶融物）、下側の黒灰色部は鍛冶炉床土である。

③顕微鏡組織

第200図②③に示す。②は鍛冶滓部分の拡大である。白色樹枝状結晶ウスタイト（Wustite：FeO）、淡灰色柱状結晶ファヤライト（Fayalite：$2FeO\cdot SiO_2$）が晶出する。③はガラス質滓部分の拡大である。内部には熱影響を受けた砂粒（石英・長石粒）や、非常に微細な金属鉄（明白色粒）が確認される。

④ビッカース断面硬度

第200図②の淡灰色柱状結晶の硬度を測定した。硬度値は659Hv、681Hvであった。ファヤライトの文献硬度値[1]600～700Hvの範囲内であり、ファヤライトと推定される。

⑤EPMA調査

第200図④に滓部の反射電子像（COMP）を示す。白色樹枝状結晶は特性Ｘ線像では鉄（Fe）、酸素（O）に強い反応がある。定量分析値は99.1%FeO（分析点１）であった。ウスタイト（Wustite：FeO）と推定される。微細暗灰色結晶は特性Ｘ線像では鉄（Fe）、アルミニウム（Al）、酸素（O）に強い反応がある。定量分析値は66.0%FeO－29.3%Al_2O_3－3.5%TiO_2（分析点２）であった。マグネタイト（Magnetite：$FeO\cdot Fe_2O_3$）とヘルシナイト（Hercynite：$FeO\cdot Al_2O_3$）を主な端成分とする固溶体と推定される。さらにチタニア（TiO_2）を少量固溶する。淡灰色柱状結晶は特性Ｘ線像では、鉄（Fe）、珪素（Si）、酸素（O）に反応がある。定量分析値は67.4%FeO－1.4%CaO－1.4%MgO－32.2%SiO_2（分析点３）であった。ファヤライト（Fayalite:$2FeO\cdot SiO_2$）で、少量ライム（CaO）、マグネシア（MgO）を固溶する。素地部分の定量分析値は41.7%SiO_2－20.1%Al_2O_3－11.2%CaO－5.8%K_2O－3.1%Na_2O－19.9%FeO（分析点４）であった。非晶質珪酸塩である。

⑥化学組成分析

第11表に示す。全鉄分（Total Fe）の割合は7.46％と低い。このうち金属鉄（Metallic Fe）は0.08％、酸化第１鉄（FeO）が4.13%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）5.91%の割合であった。造滓成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）は82.47%と高値で、塩基性成分（CaO＋MgO）の割合は7.28%であった。主に製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO）は0.67%、バナジウム（V）が＜0.01%と低値であった。また酸化マンガン（MnO）は0.13%、銅（Cu）は0.01%と低値である。

当鉄滓は主に粘土溶融物（SiO_2主成分）からなり、製鉄原料起源の脈石成分（TiO_2、V、MnO）は、低減傾向が顕著であった。以上の特徴から、鍛錬鍛冶滓に分類される。

（２）ＳＤ5095出土鉄滓　HOR－２：椀形鍛冶滓

①肉眼観察

ごく薄手の椀形鍛冶滓（18.8ｇ）の破片である。上面は比較的滑らかな流動状の黒色ガラス質滓である。部分的に茶褐色の錆化鉄が薄く付着するが、着磁性はほとんどなく、金属探知器の反応もない。下面側には部分的に淡褐色の鍛冶炉床土が付着する。

②マクロ組織

第201図①に示す。写真上側の暗灰色部はガラス質滓（炉材粘土の溶融物）、下側の黒灰色部は鍛冶炉床土である。

③顕微鏡組織

第201図②③に示す。②は上面表層部の拡大である。灰褐色多角形結晶マグネタイト（Magnetite：$FeO\cdot Fe_2O_3$）が晶出する。③はガラス質滓部分の拡大である。内部には熱影響を受けた砂粒（石英・長石粒）や、非常に微細な金属鉄（明白色粒）が確認される。

④ビッカース断面硬度

第201図②の灰褐色多角形結晶の硬度を測定した。硬度値は642Hvであった。マグネタイトの文献硬度値500～600Hvと比較するとやや硬質で、アルミナ（Al_2O_3）などを少量固溶していると考えられる。

⑤EPMA調査

第201図④に滓部（第201図②の拡大）の反射電子像（COMP）を示す。灰褐色多角形結晶の定量分析値は87.2%FeO－3.5%Al_2O_3－1.8%MgO（分析点５）であった。微細暗灰色結晶はマグネタイト(Magnetite：$FeO\cdot Fe_2O_3$）で、少量のアルミナ（Al_2O_3）、マグネシア（MgO）を固溶する。また淡灰色微結晶の定量分析値は48.6% SiO_2－10.1%Al_2O_3－17.1%CaO－2.6%MgO－1.5%K_2O－14.0%FeO（分析点６）であった。また素地の定量分析値は58.2%SiO_2－16.4%Al_2O_3－7.2%CaO－5.2%K_2O－2.6%Na_2O－9.6%FeO（分析点７）であった。非晶質珪酸塩である。

もう１視野、ガラス質滓部分の調査を実施した。第201図⑤に反射電子像（COMP）を示す。微細明白色粒の定量分析値は91.5%Fe－1.9%P（分析点８）であった。金属鉄（Metallic Fe）である。ガラス質滓中の砂粒の定量分析値は102.7%SiO_2（分析点９）、103.2%SiO_2（分析点10）であった。石英（Quartz:SiO_2）に同定される。滓中の灰褐色微結晶の定量分析値は31.2%FeO－55.4%Al_2O_3－4.4%MgO（分析点11）であった。ヘルシナイト（Hercynite:$FeO\cdot Al_2O_3$）に近い組成で、マグネシア（MgO）を固溶する。素地部分の定量分析値は56.9%SiO_2－16.4%Al_2O_3－3.7%CaO－1.2%MgO－3.6%K_2O－2.3%Na_2O－14.9%FeO（分析点12）であった。非晶質珪酸塩で

ある。

⑥化学組成分析

第11表に示す。全鉄分（Total Fe）の割合は9.41％と低い。このうち金属鉄（Metallic Fe）は0.17％、酸化第１鉄（FeO）が5.32％、酸化第２鉄（Fe_2O_3）7.30％の割合であった。造滓成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）は77.55％と高値で、塩基性成分（CaO＋MgO）の割合は4.29％であった。主に製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO）は0.64％、バナジウム（V）が0.01％と低値であった。また酸化マンガン（MnO）も0.10％と低値で、銅（Cu）は0.02％であった。

当鉄滓も椀形鍛冶滓（HOR－1）と同じく、主に粘土溶融物（SiO_2主成分）からなり、製鉄原料起源の脈石成分（TiO_2、V、MnO）は、低減傾向が著しい。鍛錬鍛冶滓に分類される。

（３）ＳＤ5095出土鉄滓　HOR－3：椀形鍛冶滓

①肉眼観察

やや薄手の椀形鍛冶滓（27.0ｇ）の破片と推測される。滓の地の色調は灰褐色で、表面は風化が進んでいる。また弱い着磁性があるが、まとまった鉄部はみられない。

②マクロ組織

第202図①に示す。素地部分は鍛冶滓である。下面寄りに不定形小形の錆化鉄部が観察される。

③顕微鏡組織

第202図②③に示す。②は鍛冶滓部分の拡大である。白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。また③は表面に付着した鍛造剥片[(2)]の拡大である。

④ビッカース断面硬度

第202図②の白色樹枝状結晶の硬度を測定した。硬度値は463Hvであった。ウスタイトの文献硬度450～500Hvの範囲内であり、ウスタイトと推定される。また淡灰色柱状結晶の硬度値は688Hvであった。ファヤライトの文献硬度値600～700Hvの範囲内で、ファヤライトと推定される。

⑤EPMA調査

第202図④に滓部の反射電子像（COMP）を示す。白色粒状結晶は特性Ｘ線像では鉄（Fe）、酸素（O）に強い反応がある。定量分析値は98.4％FeO－1.1％Al_2O_3（分析点13）であった。ウスタイト（Wustite：FeO）と推定される。微細暗灰色結晶は特性Ｘ線像では鉄（Fe）、アルミニウム（Al）、酸素（O）に強い反応がある。定量分析値は61.8％FeO－33.2％Al_2O_3（分析点14）であった。マグネタイト（Magnetite：FeO･Fe_2O_3）とヘルシナイト（Hercynite：FeO･Al_2O_3）を主な端成分とする固溶体である。淡灰色柱状結晶は特性Ｘ線像では、鉄（Fe）、珪素（Si）、酸素（O）に反応がある。定量分析値は66.6％FeO－4.2％MgO－32.5％SiO_2（分析点15）であった。ファヤライト（Fayalite:2FeO･SiO_2）で、少量マグネシア（MgO）を固溶する。素地部分の定量分析値は44.1％SiO_2－20.7％Al_2O_3－8.7％CaO－7.3％K_2O－3.1％Na_2O－18.5％FeO（分析点16）であった。非晶質珪酸塩である。

⑥化学組成分析

第11表に示す。全鉄分（Total Fe）は46.43％であった。このうち金属鉄（Metallic Fe）は0.04％、酸化第１鉄（FeO）が40.53％、酸化第２鉄（Fe_2O_3）21.07％の割合である。造滓成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）は27.52％で、塩基性成分（CaO＋MgO）の割合は1.79％と低い。主に製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は0.31％、バナジウム（V）が＜0.01％と低値であった。また酸化マンガン（MnO）も0.08％と低値である。銅（Cu）は0.02％であった。

当鉄滓は主に鉄酸化物と粘土溶融物（SiO_2主成分）からなり、製鉄原料起源の脈石成分（TiO_2、V、MnO）は、低減傾向が顕著であった。鍛錬鍛冶滓に分類される。

（４）ＳＥ6202出土鉄滓　HOR－4：椀形鍛冶滓

①肉眼観察

椀形鍛冶滓（79.0ｇ）の破片である。滓の地の色調は灰褐色で、表面は風化が進んでいる。弱い着磁性があるが、まとまった鉄部はみられない。表面や破面の気孔は少なく、比較的重量感のある滓である。

②マクロ組織

第203図①に示す。写真左上の薄板上の暗黒色部は、滓に付着した土器の小破片である。これに対して下側の明灰色部は鍛冶滓である。

③顕微鏡組織

第203図②③に示す。②は微細な錆化鉄粒の拡大である。微かに亜共析組織（C＜0.77％）痕跡が残

第10表　供試材の履歴と調査項目

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	計測値		調査項目									備考
					大きさ(mm)	重量(g)	メタル度	マクロ組織	顕微鏡組織	ﾋﾞｯｶｰｽ断面硬度	X線回折	EPMA	化学分析	耐火度	ｶﾛﾘｰ	
HOR-1	堀町（第５次）	SD5095	椀形鍛冶滓	飛鳥時代	59.0×42.8×18.7	25.2	なし	○	○	○		○	○			
HOR-2			椀形鍛冶滓		57.1×43.6×16.3	18.8	なし	○	○	○		○	○			
HOR-3			椀形鍛冶滓		43.7×30.5×23.1	27.0	なし	○	○	○		○	○			
HOR-4	堀町（第６次）	SE6202	椀形鍛冶滓	鎌倉時代	65.7×42.3×26.3	79.0	なし	○	○	○		○	○			

第11表　供試材の化学組成

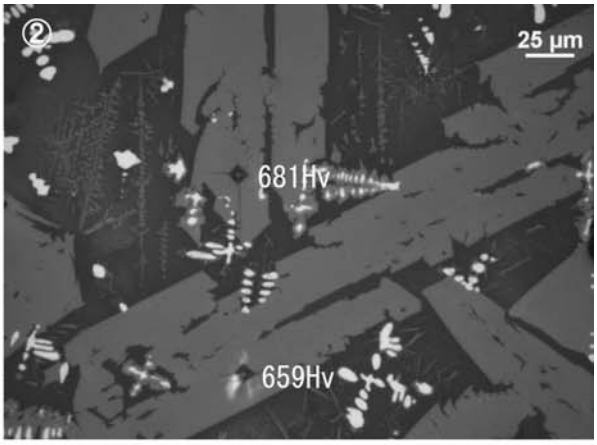
符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	全鉄分(Total Fe)	金属鉄(Metallic Fe)	酸化第１鉄(FeO)	酸化第２鉄(Fe_2O_3)	二酸化珪素(SiO_2)	酸化ｱﾙﾐﾆｳﾑ(Al_2O_3)	酸化ｶﾙｼｳﾑ(CaO)	酸化ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ(MgO)	酸化ｶﾘｳﾑ(K_2O)	酸化ﾅﾄﾘｳﾑ(Na_2O)	酸化ﾏﾝｶﾞﾝ(MnO)	二酸化ﾁﾀﾝ(TiO_2)	酸化ｸﾛﾑ(Cr_2O_3)	硫黄(S)	五酸化燐(P_2O_5)	炭素(C)	ﾊﾞﾅｼﾞｳﾑ(V)	銅(Cu)	二酸化ジルコニウム(ZrO_2)	造滓成分	造滓成分／Total Fe	TiO_2／Total Fe	注
HOR-1	堀町（第５次）	SD5095	椀形鍛冶滓	飛鳥時代	7.46	0.08	4.13	5.91	55.39	14.83	4.79	2.49	3.21	1.76	0.13	0.67	0.05	0.036	0.73	0.37	<0.01	0.01	0.02	82.47	11.055	0.090	
HOR-2			椀形鍛冶滓		9.41	0.17	5.32	7.30	54.07	14.05	2.36	1.93	3.30	1.84	0.10	0.64	0.05	0.024	0.48	0.63	0.01	0.02	0.03	77.55	8.241	0.068	
HOR-3			椀形鍛冶滓		46.43	0.04	40.53	21.07	18.59	6.52	0.72	1.07	0.62	0..37	0.08	0.31	0.03	0.054	0.44	0.54	<0.01	0.02	0.01	27.52	0.593	0.007	
HOR-4	堀町（第６次）	SE6202	椀形鍛冶滓	鎌倉時代	45.67	0.07	48.68	11.03	21.92	6.02	2.87	1.40	2.12	0.81	0.13	0.28	0.02	0.018	0.62	0.15	<0.01	0.03	0.01	35.14	0.769	0.006	

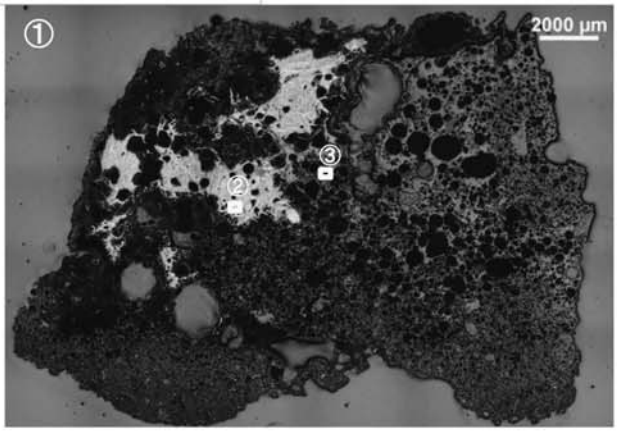
第12表　出土遺物の調査結果のまとめ

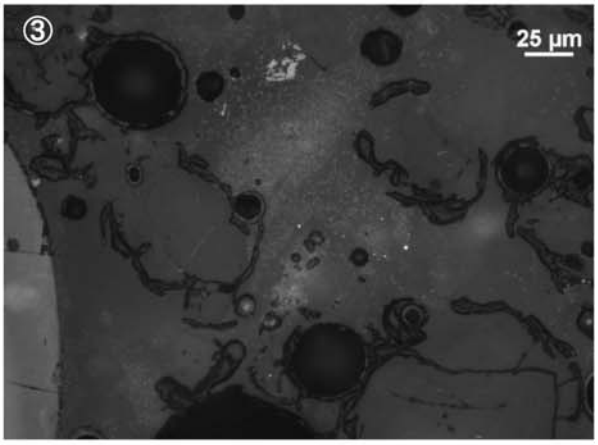
符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	顕微鏡組織	化学組成（%）								所見
						Total Fe	Fe_2O_3	塩基性成分	TiO_2	V	MnO	造滓成分	Cu	
HOR-1	堀町（第５次）	SD5095	椀形鍛冶滓	飛鳥時代	滓部:W+F、ｶﾞﾗｽ質滓、鍛冶炉床土	7.46	5.91	7.28	0.67	<0.01	0.13	82.47	0.01	鍛錬鍛冶滓〔炉材粘土（の溶融物）主体〕
HOR-2			椀形鍛冶滓		滓部:M+F、ｶﾞﾗｽ質滓（石英混在）、鍛冶炉床土	9.41	7.30	4.29	0.64	0.01	0.10	77.55	0.02	鍛錬鍛冶滓〔炉材粘土（の溶融物）主体〕
HOR-3			椀形鍛冶滓		滓部:W+微細H+F、鍛造剥片付着	46.43	21.07	1.79	0.31	<0.01	0.08	27.52	0.02	鍛錬鍛冶滓
HOR-4	堀町（第６次）	SE6202	椀形鍛冶滓	鎌倉時代	滓部:W+微細H+F、土器小破片付着	45.67	11.03	4.27	0.28	<0.01	0.13	35.14	0.03	鍛錬鍛冶滓

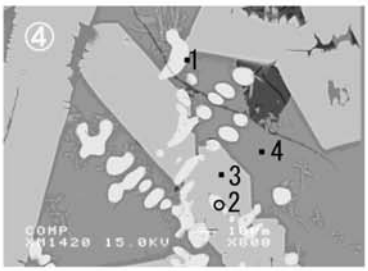
W:Wustite（FeO）、M:Magnetite（$FeO \cdot Fe_2O_3$）、H:Hercynite（$FeO \cdot Al_2O_3$）、F:Fayalite（$2FeO \cdot SiO_2$）

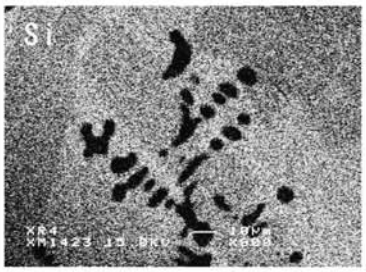
HOR-1
椀形鍛冶滓
①ﾏｸﾛ組織、左上:鍛冶滓、右上ｶﾞﾗｽ質滓、下側:炉床粘土
②鍛冶滓拡大、硬度:659Hv、681Hv（50gf）ﾌｧﾔﾗｲﾄ、微小ｳｽﾀｲﾄ
③ｶﾞﾗｽ質滓拡大、石英・長石類混在、微小金属鉄粒

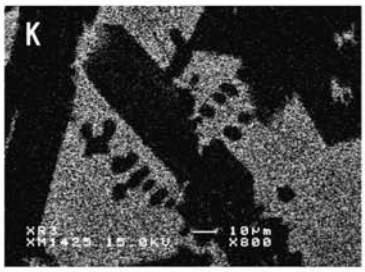


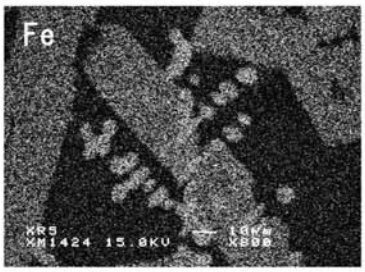


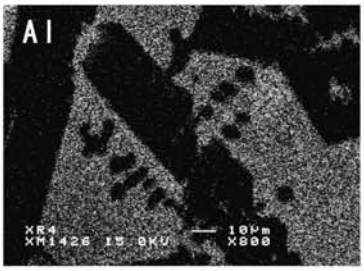


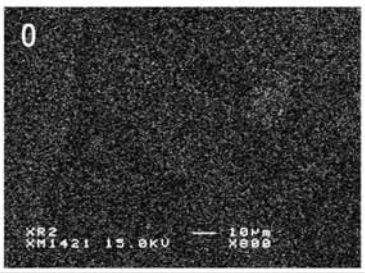


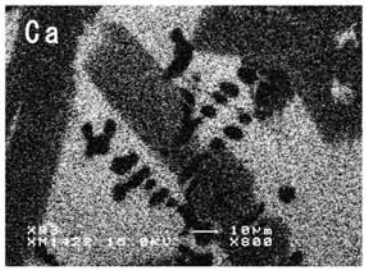












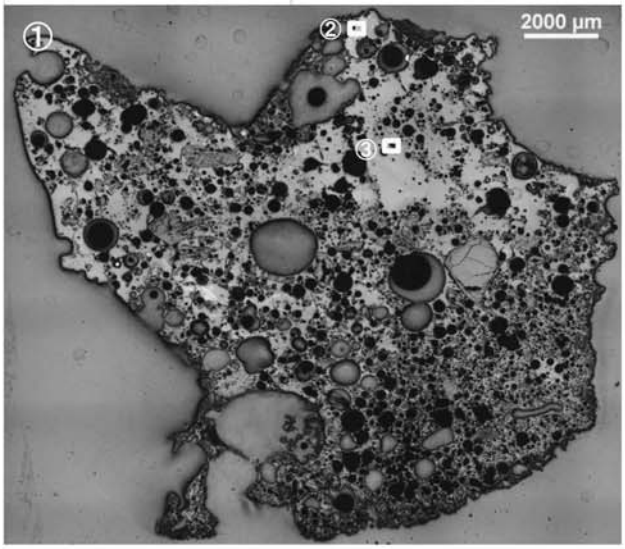
滓部の反射電子像（COMP）および特性X線像

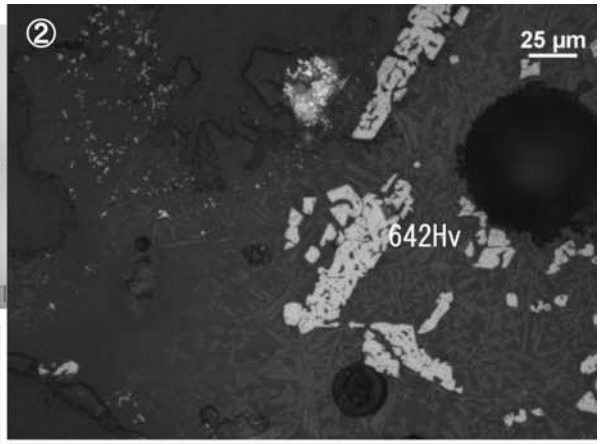
定量分析値

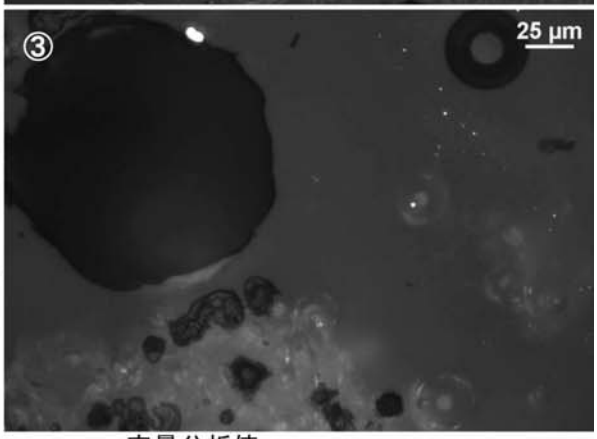
Element	1	2	3	4
Na_2O	–	0.045	0.097	3.071
MgO	–	0.061	1.406	0.063
Al_2O_3	0.666	29.316	0.201	20.142
SiO_2	0.507	0.607	32.215	41.668
P_2O_5	0.040	–	0.032	0.536
S	0.014	–	–	0.065
K_2O	0.041	–	0.009	5.792
CaO	0.095	0.053	1.413	11.172
TiO_2	0.942	3.519	0.016	0.274
Cr_2O_3	0.043	0.148	0.012	–
MnO	0.020	0.038	0.233	0.044
FeO	99.077	66.013	67.432	19.920
CuO	–	–	0.071	0.041
V_2O_3	0.056	0.189	0.007	0.001
As_2O_5	0.015	–	–	–
Total	101.516	99.989	103.144	102.789

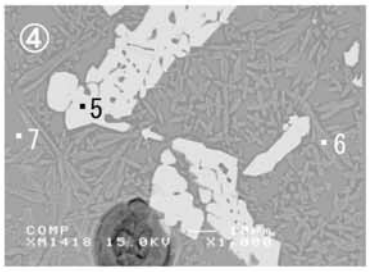
第200図　椀形鍛冶滓の顕微鏡組織・EPMA調査結果１

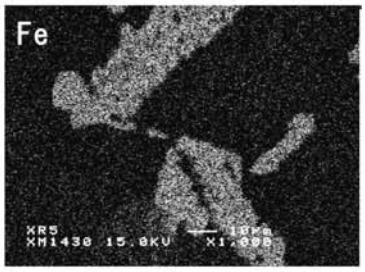
HOR-2
椀形鍛冶滓
①ﾏｸﾛ組織、上側:ｶﾞﾗｽ質滓、下側:炉床粘土
②硬度:642Hv（50gf）、ﾏｸﾞﾈﾀｲﾄ、ﾌｧﾔﾗｲﾄ
③ｶﾞﾗｽ質滓、石英混在、微小金属鉄粒

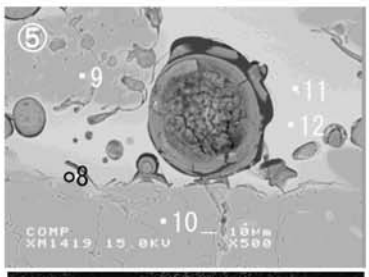


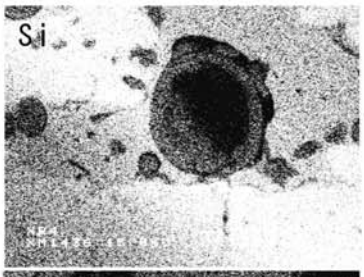


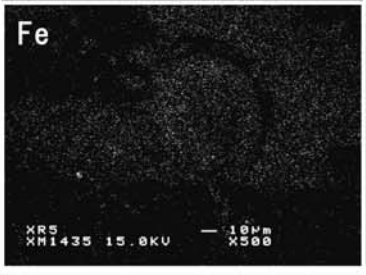


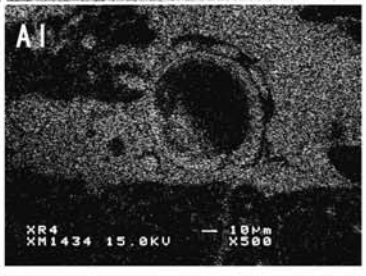










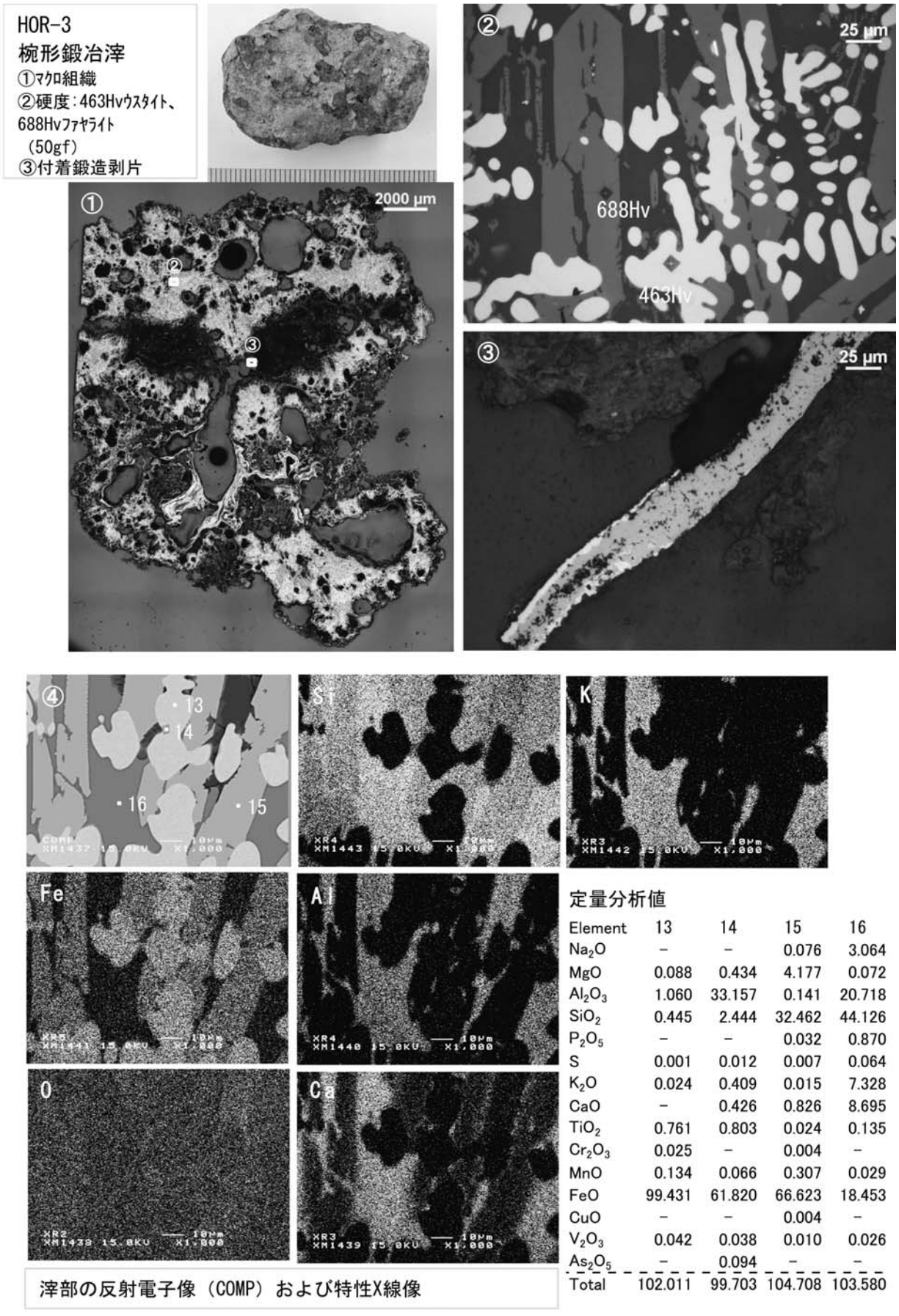


滓部の反射電子像（COMP）および特性X線像

定量分析値

Element	5	6	7		
Na_2O	0.164	0.909	2.633		
MgO	1.811	2.626	0.273		
Al_2O_3	3.537	10.113	16.391		
SiO_2	0.197	48.605	58.231		
P_2O_5	–	0.621	1.013		
S	–	–	0.003		
K_2O	0.038	1.548	5.212	Element	8
CaO	0.080	17.139	7.164	O	0.255
TiO_2	0.475	0.543	0.386	P	1.902
Cr_2O_3	0.040	–	–	S	0.005
MnO	0.638	0.343	0.459	Fe	91.517
FeO	87.247	13.952	9.560	Si	0.469
CuO	0.033	–	0.067	Cu	0.570
V_2O_3	0.017	–	–	Al	0.078
As_2O_5	0.056	–	–	K	0.090
Total	94.333	96.399	101.392	Total	94.886
Element	9	10	11	12	
Na_2O	–	0.022	0.122	2.295	
MgO	0.014	0.018	4.395	1.161	
Al_2O_3	0.033	0.024	55.413	16.398	
SiO_2	102.713	103.219	2.064	56.895	
P_2O_5	–	–	0.066	0.272	
S	0.016	–	–	0.014	
K_2O	0.007	–	0.246	3.645	
CaO	0.015	0.009	0.107	3.679	
TiO_2	–	–	0.272	0.756	
Cr_2O_3	0.075	0.010	0.712	–	
MnO	–	0.026	0.236	0.239	
FeO	0.272	0.167	31.240	14.883	
CuO	0.013	–	0.026	0.001	
V_2O_3	–	0.008	0.128	0.034	
As_2O_5	–	0.018	0.160	0.015	
Total	103.158	103.521	95.187	100.287	

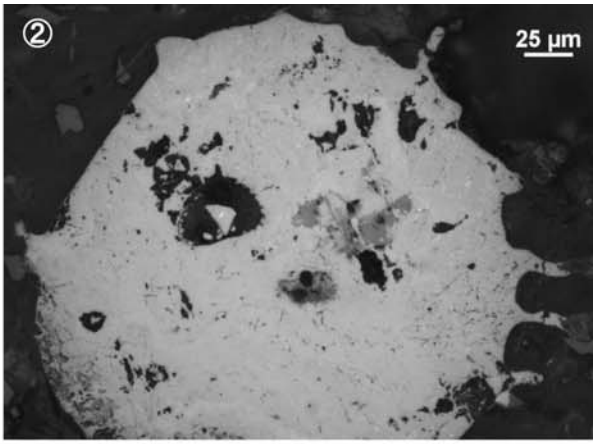
第201図　椀形鍛冶滓の顕微鏡組織・EPMA調査結果２

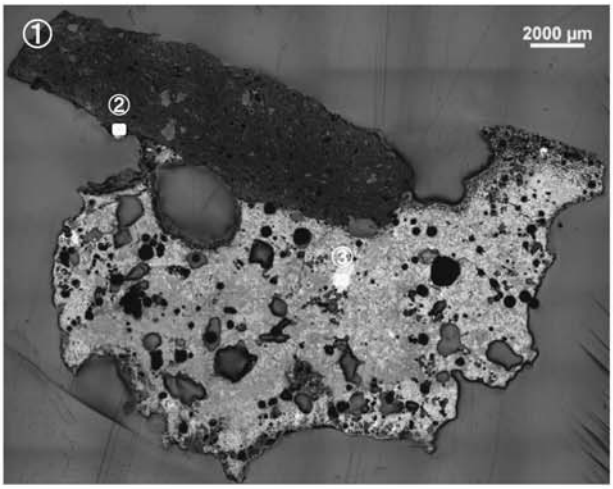


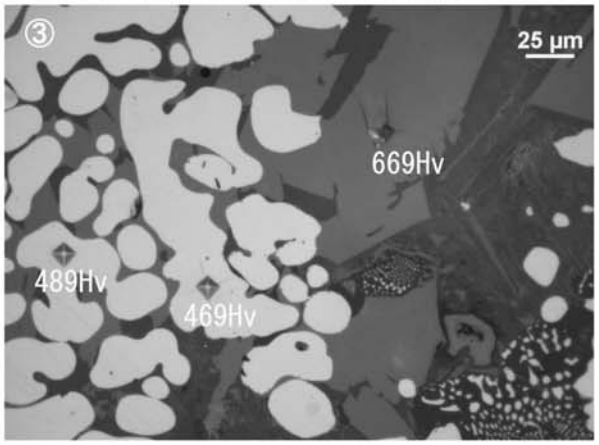
Element	13	14	15	16
Na_2O	–	–	0.076	3.064
MgO	0.088	0.434	4.177	0.072
Al_2O_3	1.060	33.157	0.141	20.718
SiO_2	0.445	2.444	32.462	44.126
P_2O_5	–	–	0.032	0.870
S	0.001	0.012	0.007	0.064
K_2O	0.024	0.409	0.015	7.328
CaO	–	0.426	0.826	8.695
TiO_2	0.761	0.803	0.024	0.135
Cr_2O_3	0.025	–	0.004	–
MnO	0.134	0.066	0.307	0.029
FeO	99.431	61.820	66.623	18.453
CuO	–	–	0.004	–
V_2O_3	0.042	0.038	0.010	0.026
As_2O_5	–	0.094	–	–
Total	102.011	99.703	104.708	103.580

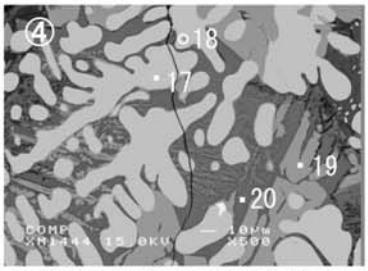
第202図　椀形鍛冶滓の顕微鏡組織・EPMA調査結果３

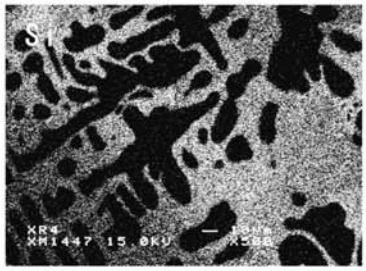
HOR-4
椀形鍛冶滓
①ﾏｸﾛ組織、上側黒色部：土器破片
②中央：錆化鉄粒（亜共析組織痕跡）
③硬度：469Hv、489Hvｳｽﾀｲﾄ、669Hvﾌｧﾔﾗｲﾄ（50gf）

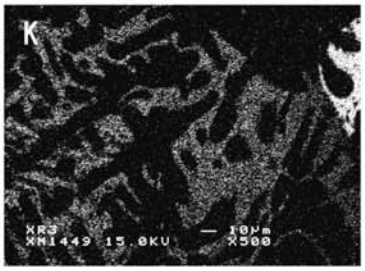


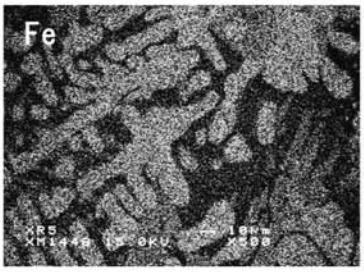


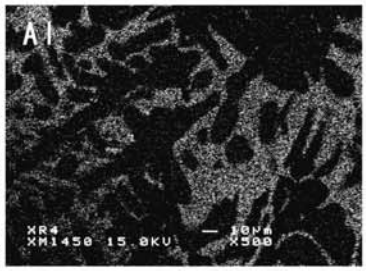


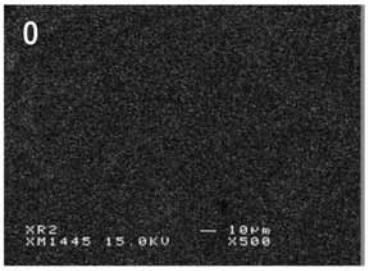


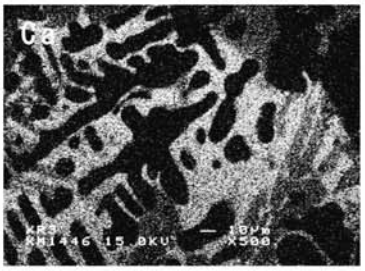












滓部の反射電子像（COMP）および特性X線像

定量分析値

Element	17	18	19	20
Na_2O	–	–	0.044	2.871
MgO	0.400	0.933	2.981	0.206
Al_2O_3	0.959	41.050	0.194	20.240
SiO_2	0.324	0.480	31.755	39.450
P_2O_5	0.056	–	0.005	0.775
S	0.002	0.012	–	0.093
K_2O	0.027	0.025	–	3.705
CaO	0.009	0.022	2.637	13.212
TiO_2	0.741	2.308	0.042	0.293
Cr_2O_3	0.072	0.041	–	–
MnO	0.101	0.059	0.377	0.081
FeO	100.132	56.254	64.659	19.890
CuO	0.033	–	–	–
V_2O_3	0.001	0.055	–	0.017
As_2O_5	–	–	0.007	–
Total	102.857	101.239	102.701	100.833

第203図　椀形鍛冶滓の顕微鏡組織・EPMA調査結果４

存する。③は鍛冶滓部分の拡大である。白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。

④ビッカース断面硬度

第203図③の白色樹枝状結晶の硬度を測定した。硬度値は469Hv、489Hvであった。ウスタイトの文献硬度450～500Hvの範囲内であり、ウスタイトと推定される。また淡灰色柱状結晶の硬度値は669Hvであった。ファヤライトの文献硬度値600～700Hvの範囲内で、ファヤライトと推定される。

⑤EPMA調査

第203図④に滓部の反射電子像（COMP）を示す。白色粒状結晶は特性Ｘ線像では鉄（Fe）、酸素（O）に強い反応がある。定量分析値は100.1%FeO（分析点17）であった。ウスタイト（Wustite：FeO）と推定される。微細暗灰色結晶は特性Ｘ線像では鉄（Fe）、アルミニウム（Al）、酸素（O）に強い反応がある。定量分析値は56.3%FeO－41.1%Al_2O_3－2.3%TiO_2（分析点18）であった。ヘルシナイト（Hercynite:$FeO{\cdot}Al_2O_3$）で、少量チタニア（TiO_2）を固溶する。淡灰色柱状結晶は特性Ｘ線像では、鉄（Fe）、珪素（Si）、酸素（O）に反応がある。定量分析値は64.7%FeO－2.6%CaO－3.0%MgO－31.8%SiO_2（分析点19）であった。ファヤライト（Fayalite:$2FeO{\cdot}SiO_2$）で、少量ライム（CaO）、マグネシア（MgO）を固溶する。素地部分の定量分析値は39.5%SiO_2－20.2%Al_2O_3－13.2%CaO－3.7%K_2O－2.9%Na_2O－19.9%FeO（分析点20）であった。非晶質珪酸塩である。

⑥化学組成分析

第11表に示す。全鉄分（Total Fe）は45.67%であった。このうち金属鉄（Metallic Fe）は0.07%、酸化第１鉄（FeO）が48.68%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）11.03%の割合である。造滓成分（SiO_2＋Al_2O_3＋CaO＋MgO＋K_2O＋Na_2O）は35.14%で、塩基性成分（CaO＋MgO）の割合は4.27%であった。主に製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は0.28%、バナジウム（V）が＜0.01%と低値であった。また酸化マンガン（MnO）も0.13%と低めである。銅（Cu）は0.03%であった。

当鉄滓も椀形鍛冶滓（HOR－3）と同様、主に鉄酸化物と粘土溶融物（SiO_2主成分）からなり、製鉄原料起源の脈石成分（TiO_2、V、MnO）は、低減傾向が顕著であった。鍛錬鍛冶滓に分類される。

Ⅳ　まとめ

堀町遺跡第５・６次調査地区から出土した鉄滓４点は、いずれも製鉄原料起源の脈石成分（TiO_2、V、MnO）の低減傾向が著しく、鍛錬鍛冶滓に分類される。椀形鍛冶滓（HOR－3）には、鉄素材を熱間で鍛打加工した時に生じる微細な鍛造剥片も付着している。これらは遺跡内で鉄素材を熱間で鍛打加工して、鍛造鉄器が作られたことを示す遺物群といえる。

註

（１）日刊工業新聞社『焼結鉱組織写真および識別法』1968 ウスタイトは450～500Hv、マグネタイトは500～600Hv、ファイヤライトは600～700Hvの範囲が提示されている。〔またマグネタイトにアルミナ（Al_2O_3）が加わり、ウルボスピネルとヘルシナイトを主な端成分とする固溶体となると硬度値は上昇する。ヘルシナイトでは1000Hvを越える値を示す。〕

（２）鍛造剥片とは鉄素材を大気中で加熱、鍛打したとき、表面酸化膜が剥離、飛散したものを指す。俗に鉄肌（金肌）やスケールとも呼ばれる。鍛造剥片の酸化膜相は、ヘマタイト（Hematite：Fe_2O_3）、マグネタイト（Magnetite：Fe_3O_4）、ウスタイト（Wustite：FeO）の３層から構成される。

４　堀町遺跡（第６次）出土木製品の樹種同定

黒沼保子・小林克也（パレオ・ラボ）

（１）はじめに

櫛田川と松阪市内の間に広がる平野に位置する堀町遺跡は、縄文時代から江戸時代の集落跡である。ここでは、古代～近世の井戸跡や溝から出土した木製品142点について樹種同定を行った。

（２）試料と方法

試料は、平安時代末～鎌倉時代の井戸ＳＥ6001とＳＥ6164、ＳＥ6202、室町時代の井戸ＳＥ6116、戦国期の井戸ＳＥ6004、ＳＥ6092、ＳＥ6108、ＳＥ

6144-Ｂ、江戸時代の井戸ＳＥ6144-Ａ、ＳＥ6184、ＳＥ6192から出土した井戸材と、平安～室町時代の溝ＳＤ6012、戦国期の溝ＳＤ6167と土坑ＳＫ6039、ＳＫ6154、江戸時代の井戸ＳＥ6124から出土した木製品、合計142点である。試料は、切片採取前に木取りの確認を行なった。なお、切片採取は黒沼と小林、報告書作成は黒沼が行った。

これらの試料から、剃刀を用いて３断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察および同定、写真撮影を行った。

（３）結果

樹種同定の結果、針葉樹はコウヤマキとヒノキ、スギの３分類群、広葉樹はエノキ属とクリの２分類群、合計５分類群が確認された。

結果の一覧を第13表に示す。全体では、スギが59点で最も多く、ヒノキが55点、コウヤマキが26点、エノキ属とクリが各１点であった。

①コウヤマキ　*Sciadopitys verticillata*（Thunb.）Siebold et Zucc.　コウヤマキ科（第204図1a-1c）

仮道管と放射組織からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。分野壁孔はやや小型の窓状となる。

コウヤマキは、福島県以南の温帯から暖帯上部に生育する常緑針葉高木である。材は耐朽性および耐湿性が強く、強靱である。

②ヒノキ　*Chamaecyparis obtusa*（Siebold et Zucc.）Endl.　ヒノキ科（第204図2a-2c）

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、１分野に２個存在する。

ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で割裂性は大きく、耐朽性および耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

③スギ　*Cryptomeria japonica*（L.f.）D.Don　ヒノキ科（第204図3a-3c）

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急である。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔は大型のスギ型で、１分野に通常２個並ぶ。

スギは暖帯から温帯下部に生育する常緑高木である。材は比較的軽軟で、切削加工は容易であり、割裂性は大きい。

④エノキ属　*Celtis*　アサ科（第204図5a-5c）

大型の道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では径を減じた薄壁の小道管が集団をなして接線から斜めに配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状～翼状となる。道管の穿孔は単一である。小道管の内壁にらせん肥厚がみられる。放射組織は３～８列幅の異性で鞘細胞がある。接線断面において放射組織と軸方向柔組織が層界状に配列する。

エノキ属は熱帯分布から温帯する落葉性の小高木から高木で、エゾエノキやエノキなど４種がある。材は比較的硬いが、強度や耐朽性は低く、狂いが出やすい。

⑤クリ　*Castanea crenata* Siebold et Zucc.　ブナ科（第204図4a-4c）

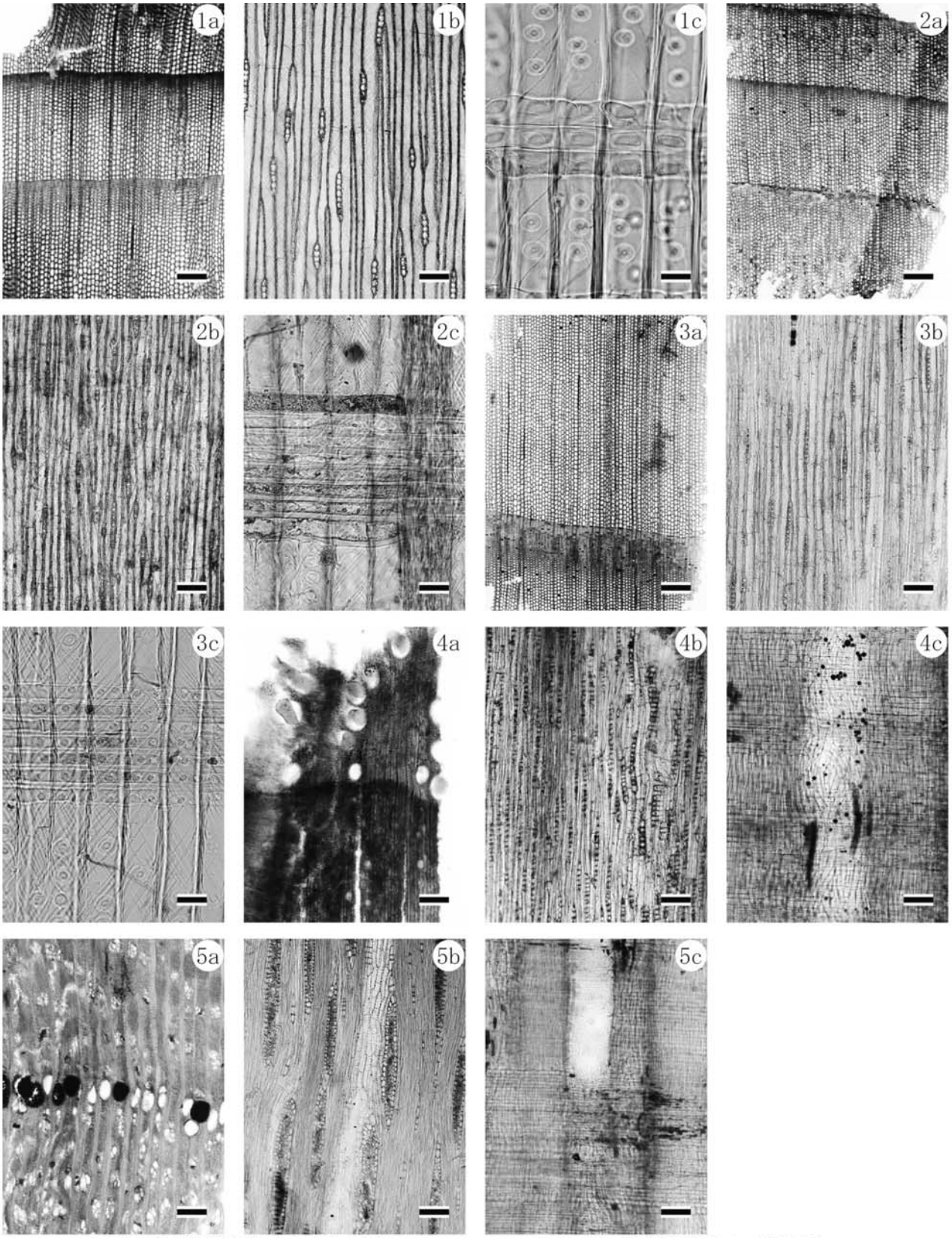
大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

（４）考察

木製品の樹種同定結果を第14表に示す。平安～室町時代の羽子板状製品と柄杓（柄部）はスギであった。戦国期の板状製品と篦、曲物側板、底板は、いずれもヒノキ、竪杵（搗き部）はエノキ属であった。江戸時代の刃物（柄）はクリであった。竪杵や刃物の柄など強度を要する木製品には、重硬な広葉樹のクリやエノキ属が使用され、その他の木製品はスギやヒノキなど加工容易な針葉樹が利用されたと考えられる。

井戸材の樹種同定結果を第15表に示す。平安時代末～鎌倉時代の井戸では、ＳＥ6001-Ａの水溜（曲物）はスギ、ＳＥ6001-Ｂの水溜（曲物）はヒノキ、ＳＥ6164の水溜（曲物）はスギ、枠材の横板および



1a-1c．コウヤマキ（実測番号86-3　SE6116）　2a-2c．ヒノキ（実測番号80-1　SE6164）

3a-3c．スギ（実測番号73-1　SE6092）　4a-4c．クリ（実測番号434-2　SE6124）

5a-5c．エノキ属（実測番号440-1　SK6154）

a：横断面（スケール=250 μm）　b：接線断面（スケール=100 μm）　c：放射断面（スケール=1-3：25 μm・4、5：100 μm）

第204図　堀町遺跡（第６次）出土木材光学顕微鏡写真

第13表　樹種同定結果一覧

No.	実測番号	器種（部材）	調査区	遺構・層位	取上No.	時代	樹種	木取り
1	22-1	井戸枠材（結物）	6	SE6004	1	戦国期	ヒノキ	板目
2	22-2	井戸枠材（結物）	6	SE6004	2	戦国期	ヒノキ	板目
3	23-1	井戸枠材（結物）	6	SE6004	3	戦国期	ヒノキ	板目
4	23-2	井戸枠材（結物）	6	SE6004	4	戦国期	ヒノキ	板目
5	24-1	井戸枠材（結物）	6	SE6004	5	戦国期	ヒノキ	板目
6	24-2	井戸枠材（結物）	6	SE6004	6	戦国期	ヒノキ	板目
7	25-1	井戸枠材（結物）	6	SE6004	7	戦国期	ヒノキ	柾目
8	25-2	井戸枠材（結物）	6	SE6004	8	戦国期	ヒノキ	板目
9	26-1	井戸枠材（結物）	6	SE6004	9	戦国期	ヒノキ	板目
10	26-2	井戸枠材（結物）	6	SE6004	10	戦国期	ヒノキ	柾目
11	27-1	井戸枠材（結物）	6	SE6004	11	戦国期	ヒノキ	板目
12	27-2	井戸枠材（結物）	6	SE6004	12	戦国期	ヒノキ	板目
13	28-1	井戸枠材（結物）	6	SE6004	13	戦国期	ヒノキ	板目
14	28-2	井戸枠材（結物）	6	SE6004	14	戦国期	ヒノキ	板目
15	29-1	井戸枠材（結物）	6	SE6004	15	戦国期	ヒノキ	板目
16	29-2	井戸枠材（結物）	6	SE6004	16	戦国期	ヒノキ	板目
17	72-1	井戸枠材（結物）	5	SE6092	1	戦国期	スギ	板目
18	72-2	井戸枠材（結物）	5	SE6092	2	戦国期	スギ	板目
19	72-3	井戸枠材（結物）	5	SE6092	3	戦国期	スギ	柾目
20	73-1	井戸枠材（結物）	5	SE6092	4	戦国期	スギ	板目
21	73-2	井戸枠材（結物）	5	SE6092	5	戦国期	スギ	板目
22	74-1	井戸枠材（結物）	5	SE6092	6	戦国期	スギ	板目
23	75-1	井戸枠材（結物）	5	SE6092	7	戦国期	スギ	板目
24	74-2	井戸枠材（結物）	5	SE6092	8	戦国期	スギ	柾目
25	75-2	井戸枠材（結物）	5	SE6092	9-1	戦国期	スギ	板目
26	75-3	井戸枠材（結物）	5	SE6092	9-2	戦国期	スギ	柾目
27	76-1	井戸枠材（結物）	5	SE6092	10-1	戦国期	スギ	板目
28	76-2	井戸枠材（結物）	5	SE6092	10-2	戦国期	スギ	板目
29	77-1	井戸枠材（結物）	5	SE6092	11	戦国期	スギ	板目
30	77-2	井戸枠材（結物）	5	SE6092	12-1	戦国期	スギ	板目
31	78-2	井戸枠材（結物）	5	SE6092	12-2	戦国期	スギ	板目
32	78-1	井戸枠材（結物）	5	SE6092	13	戦国期	スギ	板目
33	45-1	井戸枠材（結物）	5	SE6092	下1	戦国期	スギ	板目
34	64-1	井戸枠材（結物）	5	SE6092	下2	戦国期	スギ	板目
35	64-2	井戸枠材（結物）	5	SE6092	下3	戦国期	スギ	柾目
36	65-1	井戸枠材（結物）	5	SE6092	下4	戦国期	スギ	板目
37	65-2	井戸枠材（結物）	5	SE6092	下5	戦国期	スギ	板目
38	66-1	井戸枠材（結物）	5	SE6092	下6	戦国期	スギ	板目
39	66-2	井戸枠材（結物）	5	SE6092	下7	戦国期	スギ	板目
40	67-1	井戸枠材（結物）	5	SE6092	下8	戦国期	スギ	板目
41	67-2	井戸枠材（結物）	5	SE6092	下9	戦国期	スギ	柾目
42	68-1	井戸枠材（結物）	5	SE6092	下10	戦国期	スギ	板目
43	68-2	井戸枠材（結物）	5	SE6092	下11	戦国期	スギ	板目
44	69-1	井戸枠材（結物）	5	SE6092	下12	戦国期	スギ	板目
45	69-2	井戸枠材（結物）	5	SE6092	下13	戦国期	スギ	板目
46	70-1	井戸枠材（結物）	5	SE6092	下14	戦国期	スギ	板目
47	70-2	井戸枠材（結物）	5	SE6092	下15	戦国期	スギ	板目
48	71-1	井戸枠材（結物）	5	SE6092	下16	戦国期	スギ	板目
49	71-2	井戸枠材（結物）	5	SE6092	下17	戦国期	スギ	板目
50	139-1	井戸枠材（結物）	4	SE6108	1	戦国期	コウヤマキ	板目
51	139-2	井戸枠材（結物）	4	SE6108	2	戦国期	コウヤマキ	板目
52	139-3	井戸枠材（結物）	4	SE6108	3	戦国期	コウヤマキ	板目
53	140-1	井戸枠材（結物）	4	SE6108	4	戦国期	コウヤマキ	板目
54	140-2	井戸枠材（結物）	4	SE6108	5	戦国期	コウヤマキ	板目
55	95-2	井戸枠材（結物）	4	SE6108	6	戦国期	コウヤマキ	板目
56	140-3	井戸枠材（結物）	4	SE6108	7	戦国期	コウヤマキ	板目
57	141-1	井戸枠材（結物）	4	SE6108	8	戦国期	コウヤマキ	板目
58	138-2	井戸枠材（結物）	4	SE6108	9	戦国期	コウヤマキ	板目
59	138-3	井戸枠材（結物）	4	SE6108	10	戦国期	コウヤマキ	板目
60	141-2	井戸枠材（結物）	4	SE6108	11	戦国期	コウヤマキ	板目
61	95-1	井戸枠材（結物）	4	SE6108	12	戦国期	コウヤマキ	板目
62	138-1	井戸枠材（結物）	4	SE6108	13	戦国期	コウヤマキ	板目
63	95-3	井戸枠材（結物）	4	SE6108	14	戦国期	コウヤマキ	板目
64	85-1	井戸枠材（縦板）	4	SE6116	1	室町時代	スギ	追柾目
65	86-1	井戸枠材（縦板）	4	SE6116	2・5	室町時代	コウヤマキ	板目
66	87-1	井戸枠材（縦板）	4	SE6116	3	室町時代	ヒノキ	板目
67	88-1	井戸枠材（縦板）	4	SE6116	4	室町時代	ヒノキ	追柾目
68	86-2	井戸枠材（縦板）	4	SE6116	6	室町時代	コウヤマキ	板目
69	86-3	井戸枠材（縦板）	4	SE6116	7	室町時代	コウヤマキ	板目
70	89-1	井戸枠材（縦板）	4	SE6116	9	室町時代	ヒノキ	柾目
71	88-2	井戸枠材（縦板）	4	SE6116	10	室町時代	ヒノキ	板目
72	86-4	井戸枠材（縦板）	4	SE6116	11	室町時代	コウヤマキ	板目

No.	実測番号	器種（部材）	調査区	遺構・層位	取上No.	時代	樹種	木取り
73	87-2	井戸枠材（縦板）	4	SE6116	12	室町時代	コウヤマキ	板目
74	91-1	井戸枠材（縦板）	4	SE6116	13	室町時代	ヒノキ	板目
75	90-1	井戸枠材（縦板）	4	SE6116	15	室町時代	コウヤマキ	板目
76	90-2	井戸枠材（縦板）	4	SE6116	16	室町時代	コウヤマキ	板目
77	92-2	井戸枠材（縦板）	4	SE6116	17	室町時代	コウヤマキ	板目
78	92-1	井戸枠材（縦板）	4	SE6116	18	室町時代	ヒノキ	板目
79	83-1	井戸枠材（縦板）	4	SE6116	19	室町時代	ヒノキ	板目
80	90-3	井戸枠材（縦板か）	4	SE6116	20	室町時代	コウヤマキ	板目
81	90-4	井戸枠材（縦板か）	4	SE6116	21	室町時代	コウヤマキ	板目
82	93-1	井戸枠材（縦板か）	4	SE6116	22	室町時代	コウヤマキ	板目
83	93-2	井戸枠材（土居桁）	4	SE6116	23	室町時代	ヒノキ	角材
84	94-1	井戸枠材（土居桁）	4	SE6116	24	室町時代	コウヤマキ	角材（芯持）
85	94-2	井戸枠材（土居桁）	4	SE6116	25	室町時代	ヒノキ	角材
86	142-1	井戸枠材（結物）	4	SE6144-A	1	江戸時代	スギ	柾目
87	144-1	井戸枠材（結物）	4	SE6144-A	3	江戸時代	スギ	柾目
88	146-1	井戸枠材（結物）	4	SE6144-A	5	江戸時代	スギ	柾目
89	148-1	井戸枠材（結物）	4	SE6144-A	7	江戸時代	スギ	柾目
90	150-1	井戸枠材（結物）	4	SE6144-A	9	江戸時代	スギ	柾目
91	152-1	井戸枠材（結物）	4	SE6144-A	12	江戸時代	スギ	板目
92	30-1	井戸枠材（横板）	4	SE6164	1	平安時代末～鎌倉時代	スギ	柾目
93	81-1	井戸枠材（横板）	4	SE6164	2	平安時代末～鎌倉時代	スギ	追柾目
94	30-2	井戸枠材（横板）	4	SE6164	3	平安時代末～鎌倉時代	スギ	柾目
95	35-1	井戸枠材（横板）	4	SE6164	4	平安時代末～鎌倉時代	スギ	半割
96	32-1	井戸枠材（横板）	4	SE6164	5	平安時代末～鎌倉時代	スギ	板目
97	33-1	井戸枠材（横板）	4	SE6164	6	平安時代末～鎌倉時代	スギ	板目
98	33-3	井戸枠材（横板）	4	SE6164	6の下	平安時代末～鎌倉時代	スギ	角材
99	79-1	井戸枠材（横板）	4	SE6164	7	平安時代末～鎌倉時代	スギ	板目
100	31-1	井戸枠材（横板）	4	SE6164	8	平安時代末～鎌倉時代	スギ	柾目
101	34-1	井戸枠材（隅柱）	4	SE6164	9	平安時代末～鎌倉時代	スギ	角材
102	32-3	井戸枠材（隅柱）	4	SE6164	10	平安時代末～鎌倉時代	ヒノキ	柾目
103	34-2	井戸枠材（横板）	4	SE6164	11	平安時代末～鎌倉時代	スギ	板目
104	31-2	井戸枠材（横板）	4	SE6164	12	平安時代末～鎌倉時代	スギ	板目
105	80-1	井戸枠材（横板）	4	SE6164	13	平安時代末～鎌倉時代	ヒノキ	板目
106	32-2	井戸枠材（横板）	4	SE6164	14	平安時代末～鎌倉時代	スギ	板目
107	20-2	井戸枠材（横板）	4	SE6164	15	平安時代末～鎌倉時代	ヒノキ	板目
108	36-1	井戸枠材（結物）	4	SE6184	1	江戸時代	ヒノキ	柾目
109	36-2	井戸枠材（結物）	4	SE6184	3	江戸時代	ヒノキ	柾目
110	38-2	井戸枠材（結物）	4	SE6184	5	江戸時代	ヒノキ	柾目
111	37-2	井戸枠材（結物）	4	SE6184	7	江戸時代	ヒノキ	柾目
112	40-1	井戸枠材（結物）	4	SE6184	9	江戸時代	ヒノキ	柾目
113	41-2	井戸枠材（結物）	4	SE6184	11	江戸時代	ヒノキ	板目
114	42-1	井戸枠材（結物）	4	SE6184	13	江戸時代	ヒノキ	柾目
115	42-3	井戸枠材（結物）	4	SE6184	15	江戸時代	ヒノキ	柾目
116	44-1	井戸枠材（結物）	4	SE6184	17	江戸時代	ヒノキ	板目
117	45-2	井戸枠材（結物）	4	SE6184	下1	江戸時代	ヒノキ	板目
118	44-3	井戸枠材（結物）	4	SE6184	下3	江戸時代	ヒノキ	追柾目
119	46-1	井戸枠材（結物）	4	SE6184	下5	江戸時代	ヒノキ	板目
120	46-3	井戸枠材（結物）	4	SE6184	下7	江戸時代	ヒノキ	追柾目
121	47-1	井戸枠材（結物）	4	SE6184	下9	江戸時代	ヒノキ	板目
122	47-3	井戸枠材（結物）	4	SE6184	下11	江戸時代	ヒノキ	板目
123	48-1	井戸枠材（結物）	4	SE6184	下13	江戸時代	ヒノキ	柾目
124	48-3	井戸枠材（結物）	4	SE6184	下15	江戸時代	ヒノキ	柾目
125	49-1	井戸枠材（結物）	4	SE6184	下17	江戸時代	ヒノキ	板目
126	49-3	井戸枠材（結物）	4	SE6184	下19	江戸時代	ヒノキ	柾目
127	45-3	井戸枠材（結物）	4	SE6184	下21	江戸時代	ヒノキ	柾目
128	2-1	井戸水溜（曲物）	6	SE6001-A		平安時代末～鎌倉時代	スギ	板目
129	9-1	井戸水溜（曲物）	6	SE6001-B		平安時代末～鎌倉時代	ヒノキ	板目
130	8-1	井戸水溜（曲物）	4	SE6144-B		戦国期	ヒノキ	柾目
131	8-1	井戸水溜（曲物）	4	SE6144-B		戦国期	ヒノキ	柾目
132	5-1	井戸水溜（曲物）	4	SE6164		平安時代末～鎌倉時代	スギ	板目
133	7-1	井戸水溜（曲物）	4	SE6192		江戸時代	スギ	板目
134	6-1	井戸水溜（曲物）	6	SE6202		平安時代末～鎌倉時代	スギ	板目
135	432-1	羽子板状製品	4	SD6012		平安～室町	スギ	板目
136	431-2	柄杓（柄部）	4	SD6012		平安～室町	スギ	芯去削出
137	435-2	板状製品	4	SD6167		戦国期	ヒノキ	柾目
138	435-1	篦	4	SD6167		戦国期	ヒノキ	板目
139	434-2	刃物(柄)	4	SE6124	枠内	江戸時代	クリ	芯去削出
140	443-1	曲物 側板	7	SK6039		戦国期	ヒノキ	柾目
141	443-1	曲物 底板	7	SK6039		戦国期	ヒノキ	柾目
142	440-1	竪杵（搗き部）か	4	SK6154	最下層	戦国期	エノキ属	芯持丸木

隅柱はスギが多いが、ヒノキも確認された。ＳＥ6202の水溜（曲物）はスギであった。室町時代の井戸ＳＥ6116の枠材（縦板・土居桁）はコウヤマキとヒノキが多く、スギもみられた。戦国期の井戸では、ＳＥ6004の枠材（結物）はヒノキ、ＳＥ6092の枠材（結物）はスギ、ＳＥ6144-Ｂの枠材（結物）はヒノキ、ＳＥ6108の枠材（結物）はコウヤマキであった。江戸時代の井戸では、ＳＥ6144-Ａの枠材（結物）はスギ、ＳＥ6184の枠材（結物）はヒノキ、ＳＥ6192の水溜（曲物）はスギであった。

堀町遺跡の第５次調査やそれ以前に行われた樹種同定では、井戸材は平安～鎌倉時代はスギを多用し、平安時代末期以降はスギ以外の針葉樹も用いられる傾向が確認されている（黒沼・小林，2016：伊東・山田編，2012）。今回の分析でも、平安時代末～鎌倉時代の遺構ではスギを多用しており、傾向は一致する。そして、平安時代末期以降では室町時代～戦国期になるとコウヤマキが多く利用され、戦国期と江戸時代ではスギとヒノキが利用されている。堀町遺跡の以前の樹種同定でも、室町時代ではコウヤマキ、スギ、ヒノキが利用されており、傾向は一致する。また戦国期以降の井戸構築材では、今回の同定によって堀町遺跡では結物の井戸構築材に特定の樹種のみを選択利用する傾向がみられた。

参考・引用文献

平井信二（1996）木の大百科．394p，朝倉書店．

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学－出土木製品用材データベース－．449p，海青社．

黒沼保子・小林克也（2016）樹種同定．三重県埋蔵文化財センター編「堀町遺跡（第５次）発掘調査報告書」：179-183，三重県埋蔵文化財センター．

第14表　木製品の樹種同定結果

時期	平安～室町		戦国期					江戸時代	
遺構	SD6012		SD6167		SK6039		SK6154	SE6124	
樹種／器種	羽子板状製品	柄杓（柄部）	板状製品	箆	曲物 側板	曲物 底板	竪杵（搗き部）か	刃物(柄)	計
ヒノキ			1	1	1	1			4
スギ	1	1							2
エノキ属							1		1
クリ								1	1
総計	1	1	1	1	1	1	1	1	8

第15表　井戸材の樹種同定結果

時期	平安時代末～鎌倉時代							室町時代		
遺構	SE6001-A	SE6001-B	SE6164				SE6202	SE6116		
器種	水溜	水溜	水溜	枠材			水溜	枠材		
樹種	曲物	曲物	曲物	横板	横板？	隅柱？	曲物	縦板	縦板か	土居桁
コウヤマキ								8	3	1
ヒノキ		1		2		1		7		2
スギ	1		1	10	1	2	1	1		
総計	1	1	1	12	1	3	1	16	3	3

時期	戦国期				江戸時代			
遺構	SE6004	SE6092	SE6108	SE6144-B	SE6144-A	SE6184	SE6192	
器種	枠材	枠材	枠材	水溜	枠材	枠材	水溜	
樹種	結物	結物	結物	曲物	結物	結物	曲物	計
コウヤマキ			14					26
ヒノキ	16			2		20		51
スギ		33			6		1	57
総計	16	33	14	2	6	20	1	134

５　堀町遺跡第６次における樹種同定

渡邊英明（一般社団法人　文化財科学研究センター）

（１）はじめに

本報告では、堀町遺跡第６次より出土した木製品に対して、木材組織の特徴から樹種同定を行う。木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、木材構造の特徴から概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であるが、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

（２）試料

試料は、平安時代から江戸時代の斎串、漆器（椀）、曲物底板、折敷底板などの№１～80の木製品計80点である。試料の詳細は第16表に示す。

（３）方法

方法は、試料からカミソリを用いて新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡（Nikon OPTIPHOT-2）によって40～1000倍で観察した。同定は、木材構造の特徴および現生標本との対比によって行った。

（４）結果

第16表に結果を、第17表に時代における樹種と器種の相関を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった木材構造の特徴を記す。

①モミ属　*Abies*　マツ科（第205図№１）

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は比較的緩やかである。放射柔細胞の分野壁孔は小型のスギ型で１分野に１～４個存在する。放射柔細胞の壁が厚く、数珠状末端壁が見られる。放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の特徴からモミ属に同定される。日本に自生するモミ属は５種であり、モミ以外は亜寒帯種であるため、本試料は温帯性のモミであると考えられる。モミ属は常緑高木で高さ45m、径1.5mに達し、材は保存性が低く軽軟であるが、現在では多用される。

②マツ属複維管束亜属　*Pinus* subgen. *Diploxylon*　マツ科（第205図№２）

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管、垂直・水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は急である。放射柔細胞の分野壁孔は窓状であり、放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の特徴からマツ属複維管束亜属に同定される。マツ属複維管束亜属にはクロマツとアカマツがあり、いずれも北海道南部、本州、四国、九州に分布する常緑高木である。材はいずれも水湿によく耐え、広く用いられる。

③スギ　*Cryptomeria japonica* D.Don　スギ科（第205図№３・４）

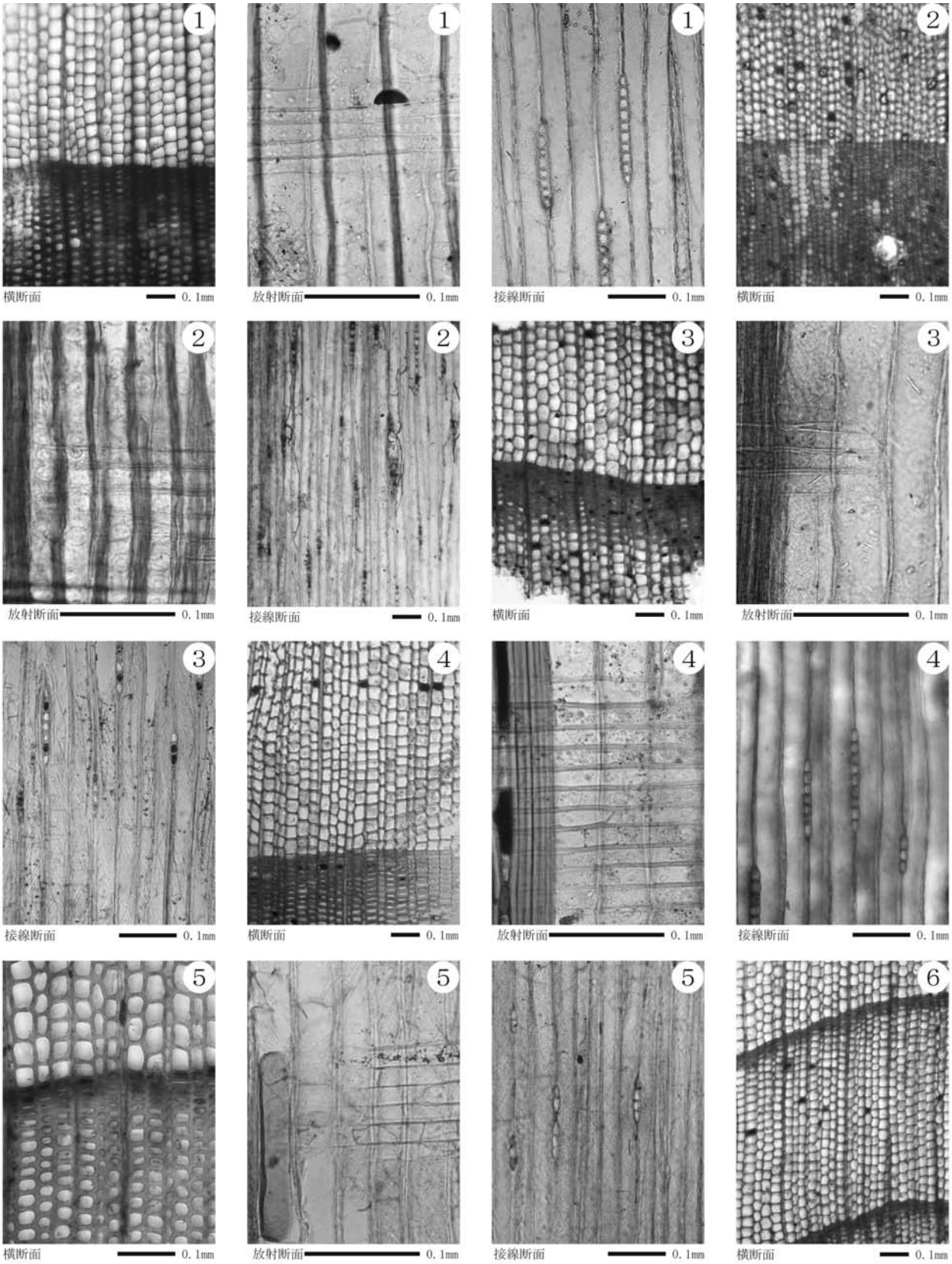
仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、１分野に２個存在するものがほとんどである。放射組織は単列の同性放射組織型で、１～14細胞高である。

以上の特徴からスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する日本特産の常緑高木で、高さ40m、径２mに達する。材は軽軟であるが強靭で、広く用いられる。

④コウヤマキ　*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.　コウヤマキ科（第205図№５）

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は極めて狭い。放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射組織は単列の同性放射組織型で、１～15細胞高である。

以上の特徴からコウヤマキと同定される。コウヤマキは福島県以南の本州、四国、九州に分布する日本特産の常緑高木で、通常高さ30m、径0.8mに達する。材は木理通直かつ肌目緻密なうえ強靭であり、耐朽性・耐湿性も高い。特に耐水湿材として用いら



1．モミ属(実測番号415-1　SK6078)

2．マツ属複維管束亜属（実測番号420-2　SD6167）

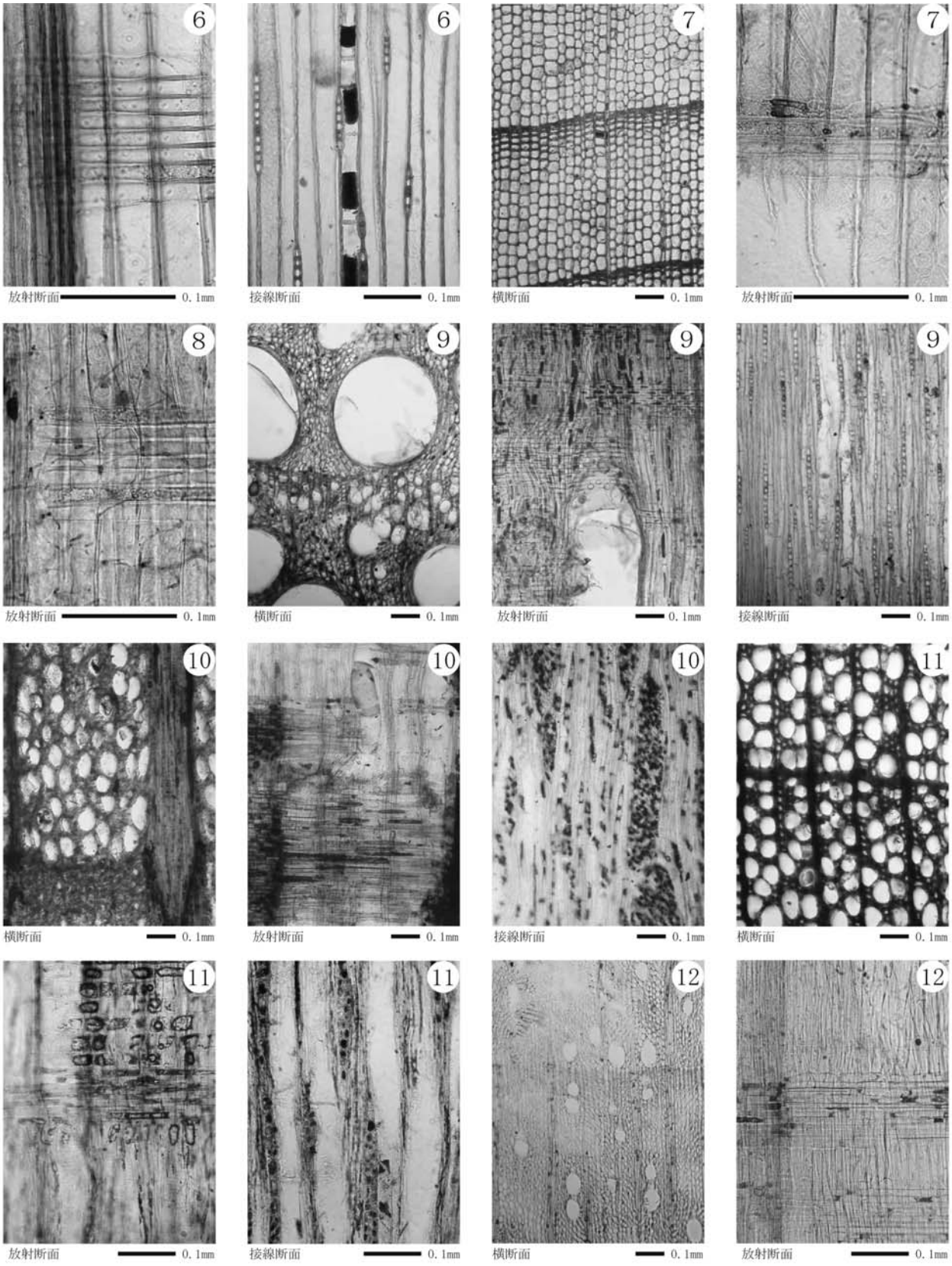
3．スギ（実測番号444-2　SD6012）

4．スギ（実測番号415-2　SE6081）

5．コウヤマキ（実測番号444-1　SD6012）

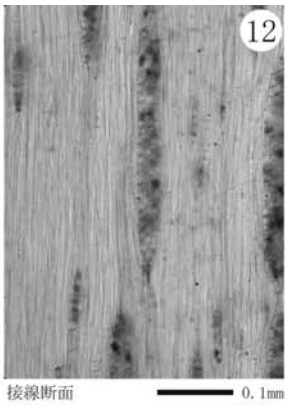
6．ヒノキ（実測番号421-1　SE6144-B）

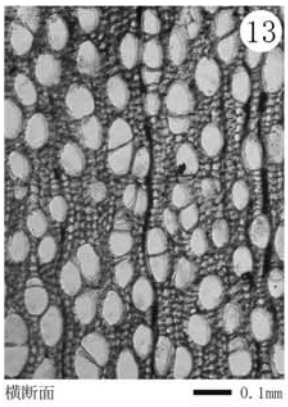
第205図　堀町遺跡第６次の木材１

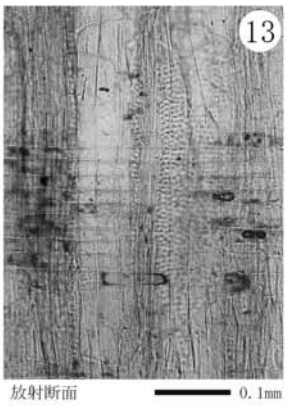


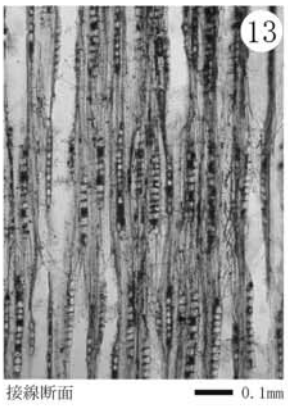
6．ヒノキ（実測番号421-1　SE6144-B）
7．ヒノキ（実測番号411-1　SD6012）
8．ヒノキ科（実測番号446-1　SD6012）
9．クリ（実測番号456-3　SD6167）
10．ブナ属（実測番号452-3　SE6207）
11．カツラ（実測番号457-2　SD6167）
12．カエデ属（実測番号452-2　SK6166）

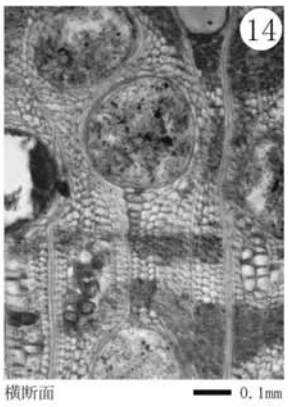
第206図　堀町遺跡第６次の木材２

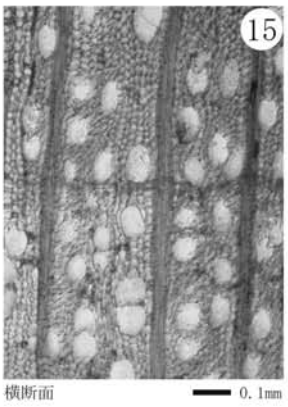


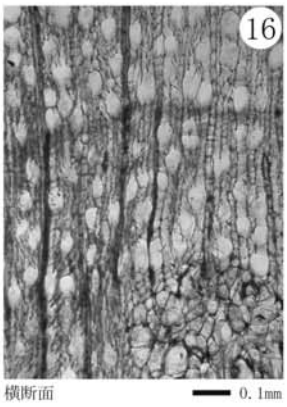












12. カエデ属（実測番号452-2　SK6166）

13. トチノキ（実測番号457-1　SD6167）

14. ムクロジ（実測番号453-2　SD6126）

15. ミズキ属（実測番号455-1　SK6039）

16. ハイノキ属（実測番号454-2　SD6193）

第207図　堀町遺跡第６次の木材３

れる。

⑤ヒノキ　*Chamaecyparis obtusa* Endl.　ヒノキ科（第205・206図№.６・７）

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅は極めて狭い。放射柔細胞の分野壁孔はヒノキ型で１分野に２個存在する。放射組織は単列の同性放射組織型で、１～15細胞高である。

以上の特徴からヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。材は木理通直かつ肌目緻密なうえ強靭であり、耐朽性・耐湿性も高い良材であり、建築などに広く用いられる。

⑥ヒノキ科　Cupressaceae（第206図№.８）

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅は極めて狭い。放射柔細胞の分野壁孔は腐朽のため不明瞭であり観察できない。放射組織は単列の同性放射組織型で、１～15細胞高である。

以上の特徴からヒノキ科に同定される。ヒノキ科にはヒノキ、サワラ、アスナロ属などが含まれ、本州、四国、九州、屋久島に分布する。大木になるものが多く通常高さ３～40m、径１mに達する。材は概して木理通直かつ肌目緻密なうえ強靭であり、耐朽性・耐湿性も高い良材であり、建築など広く用いられる。

⑦クリ　*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.　ブナ科（第206図№.９）

年輪のはじめに大型の道管が数列配列する環孔材である。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少し、晩材部では小道管が火炎状に配列する。道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる単列の同性放射組織型である。

以上の特徴からクリに同定される。クリは北海道西南部、本州、四国、九州に分布する落葉高木で、通常高さ20m、径0.4mぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径２mに達する。耐朽性・保存性が高く、水湿によく耐える材で、現在では建築、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、ほだ木など広く用いられる。

⑧ブナ属　*Fagus*　ブナ科（第206図№.10）

小型でやや角張った道管が単独あるいは２～３個複合して密に散在する散孔材である。早材から晩材にかけて、道管の径は緩やかに減少する。道管の穿孔は単穿孔および階段穿孔である。放射組織はほとんど平伏細胞からなるが、ときに上下端のみ方形細胞が見られる。放射組織はほぼ同性放射組織型で、単列のもの、２～数列のもの、大型の広放射組織のものがある。

以上の特徴からブナ属に同定される。ブナ属にはブナ、イヌブナがあり、北海道南部、本州、四国、九州に分布する落葉の高木である。通常高さ20～25m、径0.6～0.7mぐらいであるが、大きいものは高さ35m、径1.5m以上に達する。材は堅硬かつ肌目が緻密であるが保存性は低い。容器などに用いられる。

⑨カツラ　*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.　カツラ科（第206図№.11）

小型で薄壁の角張った道管が単独ないし２～３個複合してかなり密に散在する散孔材である。道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は20～40本ほどである。道管内にチロースが多数存在する。放射組織は異性放射組織型で２細胞幅である。

以上の特徴からカツラに同定される。カツラは北海道、本州、四国、九州に分布する落葉高木で、通常高さ15～20m、径0.5～0.6mであるが、大きいものは高さ35m、径２mに達する。材は軽軟で靭性があり加工しやすく、建築材、容器などに用いられる。

⑩カエデ属　*Acer*　カエデ科（第206・207図№.12）

小型で丸い道管が主に放射方向に２～３個複合して散在する散孔材である。木繊維の壁厚の違いにより、木口面において不規則な模様が見られる。道管の穿孔は単穿孔であり、内壁には微細ならせん肥厚が存在する。放射組織は平伏細胞からなる同性放射組織型で１～６細胞幅である。

以上の特徴からカエデ属に同定される。カエデ属にはイタヤカエデ、ウリハダカエデ、ハウチワカエデ、テツカエデ、ウリカエデ、チドリノキなどがあるが、放射組織の特徴からウリカエデ、チドリノキ以外のいずれかである。カエデ属は北海道、本州、四国、九州に分布する落葉の高木または小高木で、

大きいものは高さ20m、径１mに達する。材は耐朽性・保存性が中庸で、建築、家具、器具、楽器、合板、彫刻、薪炭など広く用いられる。

⑪トチノキ　*Aesculus turbinata* Blume　トチノキ科（第207図№13）

小型でやや角張った道管が単独ないし放射方向に２～数個複合して密に散在する散孔材である。道管の穿孔は単穿孔で、道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。道管放射組織間壁孔は小型で密に分布する。放射組織はすべて平伏細胞からなる単列の同性放射組織型で、層階状に規則正しく配列する。

以上の特徴からトチノキに同定される。トチノキは北海道、本州、四国、九州に分布する落葉高木で、通常高さ15～20m、径0.5～0.6mに達する。材は耐朽性・保存性が低いが、軟らかく緻密であり、容器などに用いられる。

⑫ムクロジ　*Sapindus mukorossi* Gaertn.　ムクロジ科（第207図№14）

大型でやや厚壁の道管が単独ときに２個複合して年輪のはじめに１～２列疎に配列する環孔材である。晩材部では小型で薄壁の角張った道管が数個主に放射方向に複合して散在する。軸方向柔細胞は早材部では周囲状、晩材部では数列幅で帯状となって接線方向に配列する。道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にらせん肥厚が存在する。放射組織はすべて平伏細胞からなる同性放射組織型で１～３細胞幅である。

以上の特徴からムクロジに同定される。ムクロジは本州（茨城県、新潟県以南）、四国、九州、沖縄に分布する落葉高木で、高さ25m、径１mに達する。材はやや軽軟で脆弱な材で、器具、家具などに用いられる。

⑬ミズキ属　*Cornus*　ミズキ科（第207図№15）

小型で丸い道管がほぼ単独で散在する散孔材である。早材から晩材にかけて道管の径は緩やかに減少する。道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は20～35本ぐらいである。放射組織は異性放射組織型で、直立細胞からなる単列のものと、２～５細胞幅ぐらいで紡錘形を呈する多列のものからなる。

以上の特徴からミズキ属に同定される。ミズキ属には、ミズキ、クマノミズキなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する落葉の高木または低木である。材は建築、器具、彫刻、旋作、薪炭などに用いられる。

⑭ハイノキ属　*Symplocos*　ハイノキ科（第207図№16）

小型で角張った道管が単独あるいは２～４個不規則に複合して散在する散孔材である。道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は20～50本ぐらいである。道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は異性放射組織型で、１～４細胞幅である。ピスフレックが存在する。

以上の特徴からハイノキ属に同定される。ハイノキ属にはハイノキ、クロバイ、サワフタギ、クロキなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する常緑または落葉性の高木または低木である。材はやや重硬で、器具、薪炭材などに用いられる。

（５）所見

同定の結果、堀町遺跡第６次より出土した木製品は、スギ33点、ヒノキ23点、ヒノキ科５点、トチノキ４点、クリ３点、ブナ属２点、ハイノキ属２点、マツ属複維管束亜属２点、モミ属１点、コウヤマキ１点、カツラ１点、カエデ属１点、ムクロジ１点、ミズキ属１点であった。

最も多く同定されたスギは斎串、曲物底板、形代に使われている。スギは木理通直で加工工作が容易なうえ、大きな材がとれる良材であり、建築材はもとより板材や小さな器具類に至るまで幅広く用いられる。次に多いヒノキやヒノキ科は斎串（斎串かを含む）、曲物底板、折敷底板に使われている。ヒノキやヒノキ科は木理通直で大きな材が取れる良材で、特に保存性が高い材であり、律令期以降、東海地方では様々な用途があり、多く使われる。なお、三重県では六大Ａ遺跡（弥生時代後半から室町時代）から、スギやヒノキの曲物底板、形代などが出土している。マツ属複維管束亜属は曲物底板、棒状製品に使われている。マツ属複維管束亜属は針葉樹の中では重硬な材で、水湿にもよく耐え腐りにくく、土木材や建築材などに適している。モミ属は曲物底板に使われている。モミ属は耐朽性・保存性は低いが、

第16表　堀町遺跡第６次における樹種同定結果

No.	実測番号	器種(部材)	調査区	遺構	層位	時代	結果（学名／和名）	
1	450-1	斎串	4	SD6012	第12層	平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
2	444-3	斎串	4	SD6012	調査区東壁第10層	平安前期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
3	446-1	斎串	4	SD6012	調査区東壁第10層	平安前期	Cupressaceae	ヒノキ科
4	450-4	斎串か	7	SD6012		平安前期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
5	445-3	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
6	449-2	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
7	449-3	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
8	444-1	斎串	7	SD6012		平安前期	*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.	コウヤマキ
9	444-2	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
10	448-2	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
11	448-3	斎串	7	SD6012		平安前期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
12	448-4	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
13	449-1	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
14	445-4	斎串	7	SD6012		平安前期	Cupressaceae	ヒノキ科
15	445-2	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
16	450-2	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
17	446-4	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
18	446-5	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
19	447-1	斎串	7	SD6012		平安前期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
20	447-2	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
21	451-1	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
22	447-4	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
23	451-3	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
24	447-3	斎串	7	SD6012		平安前期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
25	451-2	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
26	448-1	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
27	450-3	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
28	446-3	斎串	7	SD6012		平安前期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
29	446-2	斎串	7	SD6012		平安前期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
30	402-3	斎串	7	SD6012		平安前期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
31	451-4	斎串	7	SD6012		平安前期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
32	453-2	漆器(椀)	4	SD6126		戦国期	*Sapindus mukorossi* Gaertn.	ムクロジ
33	457-2	漆器(椀)	4	SD6167	灰粘土層	戦国期	*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.	カツラ
34	456-1	漆器(椀)	4	SD6167		戦国期	*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.	クリ
35	405-2	漆器(椀)	4	SD6167	灰色粘土層	戦国期	*Fagus*	ブナ属
36	456-3	漆器(椀)	4	SD6167	灰色粘土層	戦国期	*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.	クリ
37	456-2	漆器(椀)	4	SD6167		戦国期	*Symplocos*	ハイノキ属
38	457-1	漆器(椀)	4	SD6167		戦国期	*Aesculus turbinata* Blume	トチノキ
39	454-2	漆器(椀)	10	SD6193		江戸	*Symplocos*	ハイノキ属
40	452-1	漆器(椀)	6	SK6002		鎌倉	*Aesculus turbinata* Blume	トチノキ
41	453-1	漆器(椀)	5	SE6083		戦国期	*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.	クリ
42	452-2	漆器(椀)	4	SK6166		戦国期	*Acer*	カエデ属
43	452-3	漆器(椀)	6	SE6207		戦国期	*Fagus*	ブナ属
44	455-1	漆器(椀)	7	SK6039		戦国期	*Cornus*	ミズキ属
45	454-1	漆器(椀)	4	SK6170		江戸	*Aesculus turbinata* Blume	トチノキ
46	455-2	漆器(椀)	1	SK6211		江戸	*Aesculus turbinata* Blume	トチノキ
47	409-1	曲物底板	7	SD6012		平安～室町	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
48	410-1	曲物底板	7	SD6012		平安～室町	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
49	411-1	曲物底板	7	SD6012		平安～室町	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
50	412-1	曲物底板	4	SD6012		平安～室町	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
51	412-2	曲物底板	4	SD6012		平安～室町	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
52	413-2	折敷底板	5	SD6084		戦国期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
53	416-1	曲物底板	4	SD6126		戦国期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
54	417-1	折敷底板	4	SD6126		戦国期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
55	418-1	折敷底板	4	SD6167		戦国期	Cupressaceae	ヒノキ科
56	418-2	折敷底板	4	SD6167		戦国期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
57	420-2	曲物底板	4	SD6167		戦国期	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属
58	419-1	折敷底板	4	SD6167		戦国期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
59	424-1	曲物底板	4	SD6173		江戸	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
60	423-1	曲物底板	4	SD6173		江戸	Cupressaceae	ヒノキ科
61	430-1	曲物底板	4	SD6173		江戸	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
62	428-1	曲物底板	4	SD6190		戦国期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
63	427-2	曲物底板	3	SD6217		江戸	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
64	408-1	曲物底板	6	SE6001		鎌倉	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
65	408-2	曲物底板	6	SE6005		平安時代末	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
66	415-1	曲物底板	4	SK6078		江戸	*Abies*	モミ属
67	415-2	曲物底板	4	SE6081		平安時代末	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
68	421-1	曲物底板	4	SE6144-B	枠内	戦国期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
69	422-1	曲物底板	4	SE6144-B		戦国期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
70	420-1	曲物底板	4	SE6144-B		戦国期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
71	425-1	曲物底板	6	SE6203		鎌倉	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
72	425-2	曲物底板	6	SE6203		鎌倉	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
73	426-1	曲物底板	6	SE6203		鎌倉	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
74	426-2	曲物底板	6	SE6203		鎌倉	Cupressaceae	ヒノキ科
75	423-2	曲物底板	6	SE6203		鎌倉	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
76	413-1	曲物底板	7	SK6039		戦国期	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
77	414-1	曲物底板	7	SK6039		戦国期	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
78	427-1	曲物底板	1	SK6211		江戸	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
79	433-1	形代か	4	SD6012		平安～室町	*Cryptomeria japonica* D.Don	スギ
80	441-1	棒状製品	4	SK6154	最下層	戦国期	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属

第17表　堀町遺跡第６次における時代における樹種と器種の相関

		針葉樹						広葉樹								
		モミ属	マツ属複維管束亜属	スギ	コウヤマキ	ヒノキ	ヒノキ科	クリ	ブナ属	カツラ	カエデ属	トチノキ	ムクロジ	ミズキ属	ハイノキ属	
平安時代前期	斎串			20	1	8	2									31
平安時代末	曲物底板			2												2
平安時代から室町時代	曲物底板			2		3										5
	形代か			1												1
鎌倉時代	曲物底板			2		3	1									6
	漆器（椀）											1				1
戦国期	棒状製品		1													1
	曲物底板		1	4		3										8
	折敷底板					4	1									5
	漆器（椀）							3	2	1	1	1	1	1	1	11
江戸時代	曲物底板	1		2		2	1									6
	漆器（椀）											2			1	3
		1	2	33	1	23	5	3	2	1	1	4	1	1	2	80

軽軟で加工が容易な材であり、現在では様々な用途があり、多く使われる。コウヤマキは斎串に使われている。コウヤマキは耐湿性に優れ、加工がしやすい材であり、棺材、建築材、器具材などに用いられる。クリ、ブナ属、カツラ、カエデ属、トチノキ、ムクロジ、ミズキ属、ハイノキ属の広葉樹はいずれも漆器（椀）に使われている。クリは重硬で保存性が極めて高い材であり、ブナ属、カツラ、カエデ属、トチノキ、ムクロジ、ミズキ属、ハイノキ属はいずれも緻密な材である。また、ブナ属、カエデ属、ハイノキ属はやや重硬な材で、カツラ、トチノキ、ムクロジ、ミズキ属は概してやや軽軟な材である。東海地方において、クリ、ブナ属、カツラ、トチノキは中世以降、椀や皿などの挽物容器によく利用されるが、カエデ属、ムクロジ、ミズキ属、ハイノキ属の椀の出土例は少ない。なお、東海地方では愛知県の清洲城下町遺跡（戦国時代から江戸時代）からミズキ属、カエデ属の椀が出土し、静岡県の瀬名遺跡（中近世）からムクロジの椀が出土している。ハイノキ属の椀は福岡県の下月隈Ｃ遺跡（鎌倉時代から大正時代）において出土例が見られる。

時代別に見ると、平安時代前期では斎串のみの同定であり、スギが20点と最も多く、次いでヒノキ８点、ヒノキ科２点、コウヤマキ１点であった。スギ、ヒノキは一般的に斎串によく利用されており、東海地方ではヒノキの利用が多い傾向にあるが、本遺跡ではスギの利用の方が多い。またコウヤマキが斎串に利用される事例が東海地方では少ない。これには１つの遺跡からまとまった数の斎串を同定した例が少ないことから、遺跡の傾向と多様性が表れたと考えられる。平安時代末では曲物底板２点のみの同定でいずれもスギであり、平安時代から室町時代では曲物底板がヒノキ３点、スギ２点、形代はスギであり、いずれも一般的な利用傾向である。鎌倉時代では曲物底板がヒノキ３点、スギ２点、ヒノキ科１点、漆器（椀）はトチノキであった。曲物底板がスギやヒノキであることは変わらない。また、漆器（椀）には挽物や刳物の椀によく利用されるトチノキが同定されている。戦国期では棒状製品がマツ属複維管束亜属１点、曲物底板がスギ４点、ヒノキ３点、マツ属複維管束亜属１点であり、折敷底板がヒノキ４点、ヒノキ科１点であり、漆器（椀）がクリ３点、ブナ属２点、カツラ１点、カエデ属１点、トチノキ１点、ムクロジ１点、ミズキ属１点、ハイノキ属１点であった。棒状製品と曲物底板の樹種にマツ属複維管束亜属が見られるようになり、折敷底板にはヒノキなどのヒノキ科があるが、これらはよく見られる用材である。そして漆器（椀）の樹種がいずれも椀によく用いられる樹種で、同定数が増えたことから多様性が見られるようになる。江戸時代では曲物底板がヒノキ２点、スギ２点、ヒノキ科１点、モミ属１点であり、漆器（椀）はトチノキ２点、ハイノ

キ属１点であった。曲物底板にヒノキ科の他にモミ属が見られるようになる。漆器（椀）の樹種は戦国期と同じである。

以上から、本遺跡から出土した斎串、曲物底板、折敷底板などの板状の木製品には、いずれの時代も概して木理通直で加工工作が容易な針葉樹が利用されており、特にスギやヒノキが多用され、戦国期からはマツ属複維管束亜属が見られ、江戸時代ではモミ属が見られる。漆器（椀）にはトチノキ、クリ、ブナ属などの広葉樹が利用されるが、概して緻密な材でいずれの時代も多く利用されている。なお、刳物・挽物の用材には、形を整えやすく加工が容易であり狂いや割れが少ないことから、広葉樹材の中でも比較的硬いものが選定されることが多く本遺跡でも同様の傾向である。本遺跡で同定された樹種はいずれも温帯に分布し、当時の遺跡周辺か周辺地域からか流通によってもたらされたと考えられる。

参考文献

伊東隆夫・山田昌久（2012）木の考古学．出土木製品用材データベース．海青社，449p.

金原正明（2002・2003）樹種同定．一般国道23号中勢道路（８工区）建設事業に伴う六大Ａ遺跡発掘調査報告（木製品編），三重県埋蔵文化財調査報告115-16・17，三重県埋蔵文化財センター，p. 18-22.

北野信彦（1995）清須城下町出土漆器資料の製作技法．清洲城下町遺跡Ⅴ，愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第54集，（財）愛知県埋蔵文化財センター，p. 124-139.

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p. 20-48.

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p. 49-100.

島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，296p.

パリノ・サーヴェイ（2006）第７次調査出土材の樹種．下月隈Ｃ遺跡Ⅵ　福岡空港周辺整備工事に伴う下月隈Ｃ遺跡第７次発掘調査報告　本文編，福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第881集，福岡市教育委員会，p. 257-268.

山内　文・西尾多加二（1994）遺構別出土遺物一覧．瀬名遺跡Ⅲ（遺物編Ⅰ），静清バイパス（瀬名地区）埋蔵文化財調査報告書３　本文編，静岡県埋蔵文化財調査研究所，p. 47～77.

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成－用材から見た人間・植物関係史．植生史研究特別第１号．植生史研究会，242p.

６　堀町遺跡第６次調査にかかる出土漆製品保存処理等

金原裕美子・田中友貴恵・渡邊英明

（一般社団法人　文化財科学研究センター）

Ⅰ　樹種同定

（１）はじめに

本報告では、堀町遺跡第６次より出土した木製品に対して、木材組織の特徴から樹種同定を行う。木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、木材構造の特徴から概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であるが、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

（２）方法

方法は、試料からカミソリを用いて新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。同定は、木材構造の特徴および現生標本との対比によって行った。

（３）結果

第18表に結果を示し、同定された分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった木材構造の特徴を記す。

①クリ　*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.　ブナ科（第209図№６）

年輪のはじめに大型の道管が数列配列する環孔材である。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少し、晩材部では小道管が火炎状に配列する。道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる単列の同性放射組織型である。

以上の特徴からクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する落葉高木で、通常高さ20m、径0.4mぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径２mに達する。耐朽性・保存性が高く、水湿によく耐える材で、現在では建築、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、ほだ木など広く用いられる。

②ケヤキ　*Zelkova serrata* Makino　ニレ科（第208・209図№３・４）

年輪のはじめに大型の道管が１～２列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形および接線状ないし斜線状に配列する。道管の穿孔は単穿孔で小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は異性放射組織型で、上下の縁辺部の方形細胞の中には大きく膨らんでいるものがある。幅は１～７細胞幅である。

以上の特徴からケヤキに同定される。ケヤキは本州、四国、九州に分布する落葉高木で、通常高さ20～25m、径0.6～0.7mぐらいであるが、大きいものは高さ50m、径３mに達する。材は強靭で従曲性に富み、建築、家具、器具、船、土木などに用いられる。

③イスノキ　*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.　マンサク科（第208図№２）

小型でやや角張った道管がほぼ単独に散在する散孔材である。軸方向柔細胞が接線方向に向かって黒い線状に並んで見られ、ほぼ一定の間隔で規則的に配列する。道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は比較的少なく15前後のものが多い。放射組織は異性放射組織型で、ほとんどが１～２細胞幅であるが、まれに３細胞幅のものも存在する。

以上の特徴からイスノキに同定される。イスノキは関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する常緑高木で、高さ20m、径１mに達する。耐朽性・保存性が高い材で、建築、器具、楽器、ろくろ細工、櫛、薪炭などに用いられる。

④トチノキ　*Aesculus turbinata* Blume　トチノキ科（第209図№５）

小型でやや角張った道管が単独ないし放射方向に２～数個複合して密に散在する散孔材である。道管の穿孔は単穿孔で、道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。道管放射組織間壁孔は小型で密に分布する。放射組織はすべて平伏細胞からなる単列の同性放射組織型で、層階状に規則正しく配列する。

以上の特徴からトチノキに同定される。トチノキは北海道、本州、四国、九州に分布する落葉高木で、通常高さ15～20m、径0.5～0.6mに達する。材は耐朽性・保存性が低いが軟らかく緻密であり、容器などに用いられる。

⑤サカキ　*Cleyera japonica* Thunb.　ツバキ科（第208図№１）

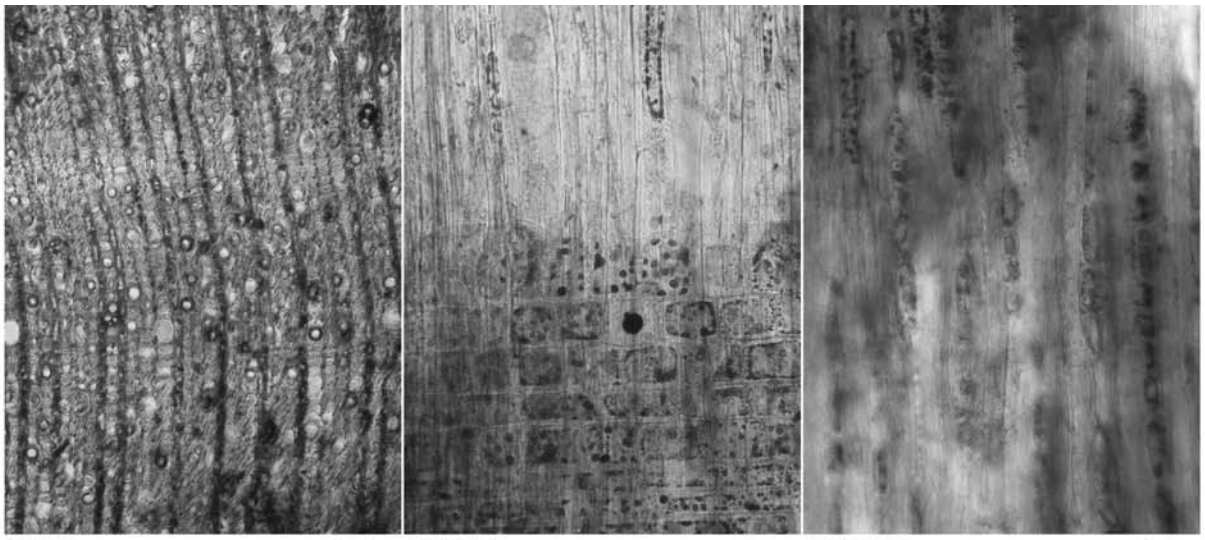
小型の道管が単独ないし２個複合して密に散在する散孔材である。道管の穿孔が階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は多く60を越えるものも観察される。放射組織は平伏細胞、方形細胞、直立細胞からなる単列の異性放射組織型である。

以上の特徴からサカキに同定される。サカキは関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する常緑高木で、通常高さ８～10m、径0.2～0.3mである。材は重硬かつ強靭で、建築、器具などに用いられる。

（４）所見

同定の結果、堀町遺跡第６次より出土した木製品は、ケヤキ２点、クリ１点、イスノキ１点、トチノキ１点、サカキ１点であった。器種別に見ると、横櫛はイスノキ１点、サカキ１点、椀はケヤキ２点、トチノキ１点、盤はクリ１点であった。

イスノキ、サカキは横櫛に使われている。イスノキ、サカキはいずれも概して重硬かつ緻密な材であり、特にイスノキは耐朽性・保存性が極めて高く表面上の仕上げが良好で、細工や器具類に適している。西南日本において、イスノキは古墳時代末期以降、横櫛としてよく用いられ、三重県では杉垣内遺跡（古墳時代末期から平安時代初期）などからイスノキの横櫛が出土している。対してサカキは横櫛としてはあまり利用されないが、出土例としては大阪府の梶原南遺跡（古墳時代末期から平安時代初期）などの例がある。ケヤキ、トチノキは椀に使われている。ケヤキは概して重硬かつ強靭で従曲性に富み、耐朽性・保存性が高く水湿にもよく耐える材であり、トチノキは耐朽性・保存性が極めて低いが、軽軟で切削・加工が容易な材である。ケヤキやトチノキは

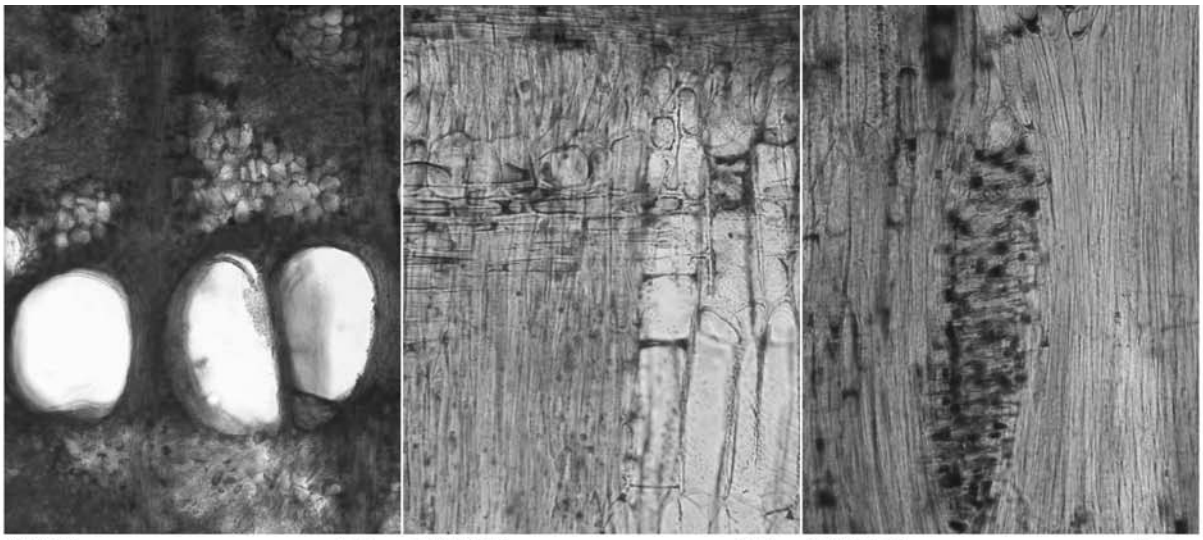


1．サカキ　処理No.2 横櫛（実測番号406-2）

2．イスノキ　処理No.3 横櫛（実測番号406-3）

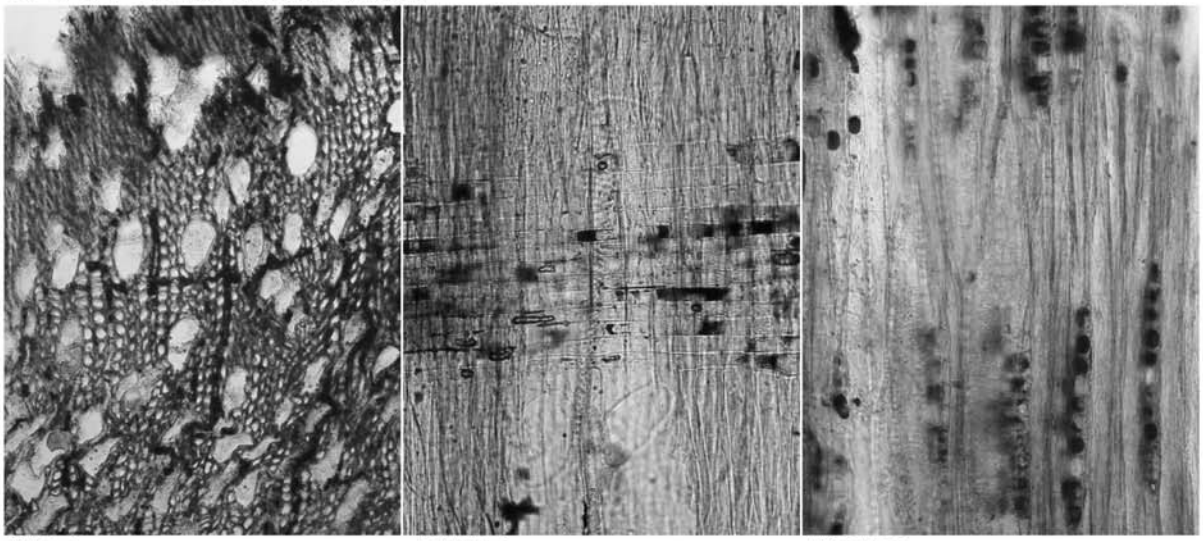
3．ケヤキ　処理No.4 椀（実測番号404-1）

第208図　堀町遺跡第６次の木材（漆製品）１



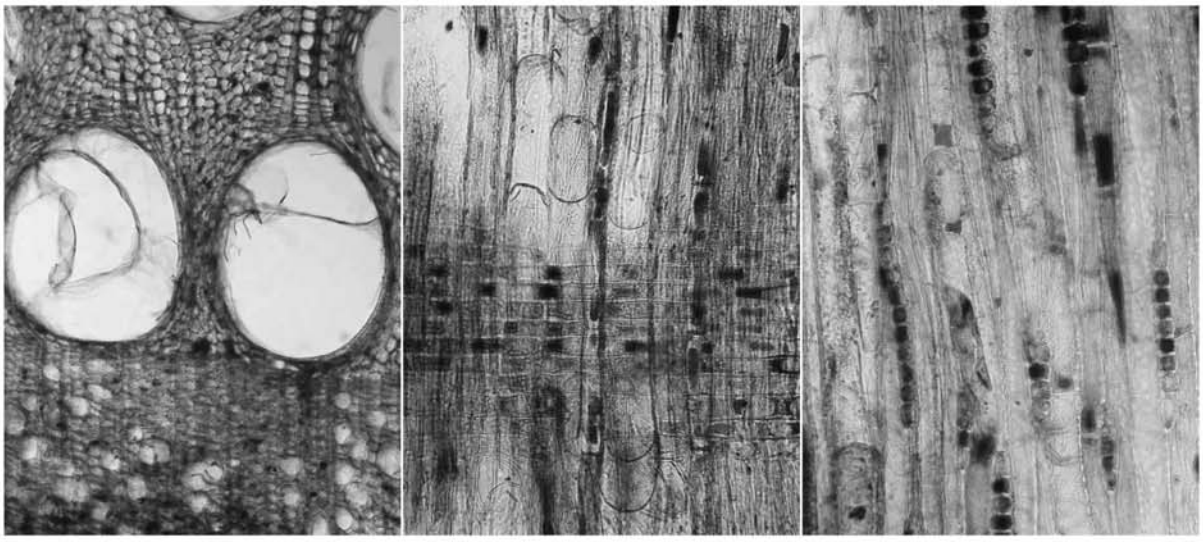
横断面 0.1mm 放射断面 0.1mm 接線断面 0.1mm

4．ケヤキ　処理No.5 椀（実測番号404-2）



横断面 0.1mm 放射断面 0.1mm 接線断面 0.1mm

5．トチノキ　処理No.6 椀（実測番号405-1）



横断面 0.1mm 放射断面 0.1mm 接線断面 0.1mm

6．クリ　処理No.7 盤（実測番号403-1）

第209図　堀町遺跡第６次の木材（漆製品）２

中世以降、全国的に椀などの漆器によく用いられ、東海地方では愛知県の清洲城下町遺跡（戦国時代から江戸時代初期）などからケヤキやトチノキの漆器椀が出土している。クリは盤に使われている。クリは重硬で保存性が極めて高い材で、建築材、土木材などに適している。また、容器類としても用いられ、東海地方では中世以降、椀や皿などの挽物容器によく利用される。

以上から、堀町遺跡第６次より出土した横櫛には概して重硬かつ緻密なイスノキやサカキが使われている。また、椀や盤の容器類には重硬で耐朽性・保存性が高く水湿にもよく耐えるケヤキやクリのほか、軽軟で切削・加工が容易なトチノキが使われている。本遺跡で同定された樹種はいずれも温帯や温帯下部の暖温帯に分布するものばかりであり、当時の遺跡周辺地域からか流通によってもたらされたと考えられる。

Ⅱ　漆膜分析

（１）はじめに

堀町遺跡第６次出土漆器製品の漆膜について、断面の顕微鏡観察を行い、製作工程の考察を行う。

（２）試料

分析試料は、遺跡より出土した横櫛２点、椀３点、盤１点、計６点である。漆器椀から木胎も含め２㎜角程の破片を採取した。なお、これらは樹種同定に用いられた漆器製品と同一試料である。試料詳細は以下の第18表に示す。

（３）方法

断面観察　高透明エポキシ樹脂（ボンドＥセット：コニシ株式会社）を使用して試料を包埋し、カミソリで薄片を作製し、厚さ数μｍになるまで耐水性紙やすり（＃80、＃240、＃800、＃1500、＃4000）で研磨する。完成した試料を光学顕微鏡および落射顕微鏡で観察した。

（４）結果

①処理№２　横櫛（第210図　ＳＥ6184　遺物№3021）

横櫛は全体に赤色で、濃い赤色で模様が施されている。試料の採取は模様部から行っている。下位より下地層、赤色漆層Ⅰ、赤色漆層Ⅱの３層が観察された。下地層は層厚12～37μｍで、細かい多角形の炭粉粒子が見られる。なお、炭粉の空隙には漆が観察される。赤色漆層Ⅰは層厚30μｍ～44μｍで、赤色粒子が観察されその径は１μｍ以下である。赤色漆層Ⅱは層厚約３μｍで、赤色粒子が観察されその径は１μｍ以下である。

②処理№３　横櫛（第210図　ＳＥ6184　遺物№3022）

横櫛は全体に茶色である。下位より下地層、漆層の２層が観察された。下地層は層厚３～27μｍで、炭粉粒子が確認されるが非常に細かいため形状は確認されない。なお、炭粉の空隙および周囲には漆が観察される。漆層は層厚22～34μｍで、微量に粒子が観察される

③処理№４　椀（第210図　ＳＫ6117　遺物№2809）

椀は外面が黒色で底部に赤色で模様があり、内面は赤色である。漆膜断面の顕微鏡観察を漆器椀の外面と内面の両方で行った。

外面　下位より下地層、漆層Ⅰ、漆層Ⅱ、漆層Ⅲの４層が観察された。下地層は層厚６～15μｍで、約２μｍ×６μｍの棒状と粗い多角形の炭粉粒子が見られる。なお、炭粉の空隙には漆が観察される。漆層Ⅰは層厚１～４μｍで、粒子は確認されないが他の漆層より色が濃い。漆層Ⅱは層厚３～９μｍで粒子

第18表　堀町遺跡第６次における漆製品樹種同定結果

処理№	遺物№	実測№	出土遺物	結果（学名／和名）	
1	3020	406-1	横櫛	樹種同定未実施	
2	3021	406-2	横櫛	*Cleyera japonica* Thunb.	サカキ
3	3022	406-3	横櫛	*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.	イスノキ
4	2809	404-1	椀	*Zelkova serrata* Makino	ケヤキ
5	2808	404-2	椀	*Zelkova serrata* Makino	ケヤキ
6	2877	405-1	椀	*Aesculus turbinata* Blume	トチノキ
7	3030	403-1	盤	*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.	クリ

のない透明な漆層である。漆層Ⅲは約３μmで鉱物粒子が微量に観察される。

内面　下位より下地層、漆層Ⅰ、漆層Ⅱ、赤色漆層の４層が観察できた。下地層は層厚22～34μmで粗い多角形の炭粉粒子が見られる。なお、炭粉の空隙には漆が観察される。漆層Ⅰは層厚２～９μmで、炭粉が混じる。漆層Ⅱは層厚３～５μmで粒子のない透明な漆層である。赤色漆層は23～31μmで赤色鉱物が観察されその径は１μm以下である。

④処理№５　椀（第210図　ＳＫ6117　遺物№2808）

椀は外面が赤色で底部が黒色を呈し、側面の赤色部には黒色で模様が施されている。内面は赤色であり黒色の付着物が観察される。

外面底部黒色部　下位より下地層、漆層Ⅰ、漆層Ⅱ、漆層Ⅲ、漆層Ⅳの５層が観察された。下地層は層厚73～41μmで、漆液が多く微量の鉱物粒子が観察された。漆層Ⅰは層厚11～27μmで、粒子のない透明な漆層であるが炭粉粒子が混じる。漆層Ⅱは層厚９～10μmで透明な漆層であるが、表面に近い面が不定形な形をしており、一部炭粉粒子が混じる。漆層Ⅲは層厚７～12μmで全体的に暗色を示す漆層である。漆層Ⅳは層厚約６μmであり、粒子のない透明な漆層である。

外面側面赤色部　下位より下地層、漆層、赤色漆層の３層が観察された。下地層は層厚６～25μmで、漆液が多く微量の鉱物粒子が観察される。漆層は層厚５～８μmで、粒子のない透明な漆層である。赤色漆層は層厚10～16μmで、赤色粒子が観察されその径は１μm以下である。

内面　下位より下地層、漆層Ⅰ、赤色漆層、漆層Ⅱの４層が観察できた。下地層は層厚５～129μm漆液が多く微量の鉱物粒子が観察される。漆層Ⅰは層厚11～16μmで、粒子のない透明な漆層である。赤色漆層は層厚約19μmで赤色粒子が観察されその径は１μm以下である。漆層Ⅱは層厚約９μmで粒子のない透明な漆層である。

⑤処理№６　椀（第210・211図　ＳＤ6167　遺物№2877）

椀は全体的に黒色で、外面、内面ともに赤色で模様が施されている。試料採取は模様部で行った。

外面　下位より下地層、漆層Ⅰ、漆層Ⅱ、赤色漆層の４層が観察された。下地層は層厚13～39μmで、粗く多角形の炭粉粒子が観察された。なお、炭粉の空隙には漆が観察されない。漆層Ⅰは層厚約６μmで、やや炭粉が混じる。漆層Ⅱは層厚７～14μmで微量に鉱物粒子が観察される。赤色漆層は層厚10～11μmで赤色粒子が観察され、その径は１μm以下である。

内面　下位より下地層、漆層Ⅰ、漆層Ⅱ、赤色漆層の４層が観察された。下地層は層厚45～69μmで、粗く多角形の炭粉粒子が観察された。なお、炭粉の空隙には漆が観察されない。漆層Ⅰは層厚４～９μmで、やや炭粉が混じる。漆層Ⅱは層厚９～15μmでごく微量に鉱物粒子が観察される。赤色漆層は層厚約25μmで赤色粒子が観察され、その径は１μm以下である。

⑥処理№７　盤（第211図　ＳＫ6121　遺物№3030）

盤は外面がすべて赤色であり、内面は底部が赤色で黒色と黄土色で模様が描かれており、内面側部が黒色である。内面では模様部と側部で試料採取を行った。

外面　下位より下地層、漆層Ⅰ、赤色漆層、漆層Ⅱの４層が観察された。下地層は層厚13～24μmで、細長い棒状の粒子や粗い多角形の炭粉粒子が観察された。なお、炭粉の空隙には漆が観察される。漆層Ⅰは層厚６～18μmで、炭粉が混じる。赤色漆層は層厚９～17μmで赤色粒子が観察され、その径は１μm以下であり、また径４μmで橙色の大型の鉱物粒子が観察される。漆層Ⅱは層厚２～４μmで極めて薄い。

内面側部　下位より下地層、漆層Ⅰ、漆層Ⅱ、漆層Ⅲ、漆層Ⅳの５層が観察された。下地層は層厚４～93μmで、粗く多角形の比較的大きい炭粉粒子が観察された。なお、炭粉の空隙には漆が観察される。漆層Ⅰは層厚約10μmで、やや炭粉が混じる。漆層Ⅱは黒色を呈しており、粒子が観察できないほど細かいと考えられる。漆層Ⅲは層厚５～18μmで１μm以下の鉱物粒子が観察される。漆層Ⅳは層厚約13μmで漆層Ⅲ同様に１μm以下の鉱物粒子が観察され、漆層Ⅲと比べると暗い色を呈している。

内面黒色部　下位より下地層、漆層、赤色漆層、黒色漆層の４層が観察された。下地層は層厚11～27μmで、粗く多角形の炭粉粒子が観察された。なお、炭

粉の空隙には漆が観察される。漆層は層厚２～８μmで、やや炭粉が混じる。赤色漆層は層厚30～34μmで赤色粒子が観察されその径は１μm以下である。黒色漆層は層厚16～17μmであり、黒色粒子が観察され、その径は１μm以下であるが赤色粒子と比較すると小さい。

内面黄土部（葉内部）　下位より下地層、赤色漆層、漆層の３層が観察された。下地層は層厚29～38μmで、粗く多角形の炭粉粒子が観察された。なお、炭粉の空隙には漆が観察される。赤色漆層は層厚34～39μmで赤色粒子が観察されその径は１μm以下である。漆層は層厚17～19μmであり、７μm×10μmの大型の粒子が観察され、落射顕微鏡下で観察するとそれらは金色の光沢を持つ鉱物粒子であった（第211図葉内部漆層）。

内面黄土部（輪郭部）　下位より下地層、漆層Ⅰ、赤色漆層、漆層Ⅱの４層が観察された。下地層は層厚33～45μmで、粗く多角形の炭粉粒子が観察された。なお、炭粉の空隙には漆が観察される。漆層Ⅰは層厚約７μmで、やや炭粉が混じる。赤色漆層は層厚約29μmで赤色粒子が観察されその径は１μm以下である。漆層Ⅱは層厚16～22μmであり、わずかに鉱物粒子が観察され落射顕微鏡下では漆のみであると黒色に観察されるが、漆層Ⅱではわずかに黄色く見える（第211図葉輪郭部漆層Ⅱ）。黒色粒子が観察され、その径は１μm以下であるが赤色粒子と比較すると小さい。

（５）考察

①堀町遺跡（第６次）における漆製品の塗膜分析の結果、横櫛では下地層が炭粉下地であり漆層は１層でその上に模様が描かれている。椀や盤では下地層が炭粉下地と鉱物由来の下地であり、漆層は赤色漆層や黒色漆層を合わせて２層から４層まで観察できた。

②塗膜の下地では横櫛２点、椀２点、盤１点では炭粉が利用されているが、処理№.５の椀では漆に鉱物粒子を利用して下地塗りを行っていた可能性がある。なお、炭粉を下地に用いる場合下地結合剤として、主に炭粉漆下地と炭粉渋下地が利用される。炭粉に漆液を混ぜる炭粉漆下地は古くは縄文時代から用いられており平安時代中頃まで主流とされる技法である。一方で平安時代後期から工程を大幅に省略し安価な漆器を製作する中で、炭粉に柿渋を混ぜた炭粉渋下地が登場し、以降主に見られる下地とされる（四柳2002）。本遺跡ではほとんどのものが炭粉漆下地であったが、処理№.６椀では炭粉粒子の空隙に漆が観察されず、炭粉渋下地である可能性が高い。処理№.５の椀では観察される鉱物粒子が比較的少ない。下地に鉱物粒子として珪藻土からなる地の粉や砥の粉を利用した可能性がある。地の粉と砥の粉では粒子の大きさが異なり、地の粉よりも砥の粉の方が細かい鉱物粒子であることが多い。そのため、本試料に利用された下地は砥の粉に漆液を混ぜた砥の粉漆下地の可能性がある。

③下地層の次にほとんどの試料では薄い漆層があり、下地塗りの仕上げに塗られた透き漆と考えられる。なおこの段階もしくは２度目の漆層を塗布した段階で表面の凹凸を緩やかにするために表面を削るもしくは研磨することで整えていると考えられ、処理№.７盤の内面底部では同じ底部の試料であるにもかかわらず、下地層の上に漆層が観察されない部分も見られた。

④色彩に関しては、赤色の表現はすべて赤色漆層で赤色粒子が観察され径は１μm以下であり、光学顕微鏡下で赤色に観察されるため、水銀朱（辰砂などを砕いた顔料）に展色剤として漆を混ぜた朱漆を利用していることがわかる。漆製作の中で黒色の表現は３種類あり、漆そのものの色合いで黒色漆とするものの他に、炭粉を混ぜた黒色漆、鉄粉を混ぜ酸化させることで黒色にし布で漉して鉄粉を回収した黒色漆があり、炭粉や鉄粉を添加することで漆黒になるとされている。

処理№.５椀外面黒色部は漆層に鉱物粒子が観察されておらず、漆を重ねて塗ることで黒色を表現していると考えられる。処理№.４椀外面、処理№.６椀、処理№.７盤内面側部では漆にわずかに鉱物粒子が観察された。鉄成分を漆に添加して漆黒色にした漆を利用したと考えられる。なお、処理№.７盤内面黒色部では漆に混ぜた炭粉もしくは鉄粉を回収せずにそのまま利用したと考えられる。処理№.７盤内面の模様部では花や葉の表現に黄土色が２色使われており、

肉眼では輪郭部の方が暗い黄土色をしている。どちらからも漆層に鉱物粒子が観察されたが、葉内部ではその粒子が大きく落射顕微鏡下では金粉のようなものが観察され、輪郭部では漆層Ⅱが明らかに他の漆層とは異なり暗黄色をしていた。おそらく輪郭部では葉内部の漆に混ぜられた鉱物と同様の鉱物がより細かくすりつぶされて漆に少量混ぜられ作られた顔料と考えられ、粒子が細かいほど明度が増す朱漆と異なり、粒度が粗い方が金粉の光の反射が強く明るく見えると考えられる。利用されている鉱物は金粉の可能性があり、金を粉末状にして漆に混ぜて溶かした金泥で模様を施したと考えられる。処理№.３の横櫛では、朱漆でも黒色漆でもない茶色をしており、漆層に鉱物粒子がわずかに確認されることから、茶色に由来する鉱物を混ぜ布などで漉して茶色の漆を作製し櫛に塗布したと考えられる。

⑤処理№.７盤では、外面と内面底部に朱漆が見られるが、外面の方が混ざっている水銀朱が均一ではなくまた別の橙色の大型鉱物粒子が見られ純度が落ち、外面と内面底部では朱漆の質が異なっている。

（６）まとめ

本遺跡では、横櫛では木胎を作製したのち炭粉に漆を混ぜた炭粉漆下地で下地塗りを行い、水銀朱に漆を混ぜた朱漆や茶色の漆を塗布しており、その上に模様を描いている。椀では、炭粉漆下地、炭粉渋下地、砥の粉漆下地などで下地塗りを行い、漆を１層塗布した後乾かし表面の凹凸を削るもしくは研磨している。処理№.５椀外面赤色部では朱漆を塗布するのみであるが、他の漆製品は２度以上漆や朱漆を塗布して仕上げている。なお、黒色漆の表現は処理№.５では漆を重ね塗りすることで、処理№.４椀外面、処理№.６椀、処理№.７盤内面側部では漆に酸化させた鉄成分を添加して作った漆黒漆を利用して、処理№.７盤内面黒色部では漆に混ぜた炭粉もしくは鉄粉を回収せずにそのまま利用して行っている。中世以降、下地結合剤に柿渋を用い、漆の塗りが１・２回と少なくすることで安価で作業工程を簡略化させた漆器製品が多いが、本遺跡では１つの試料を除き下地結合剤には漆液を用い、またほとんどの漆器で漆の塗りの工程が簡略化されておらず、高級な漆器製品であったと言える。

処理№.７盤では、木胎に炭粉漆下地で下地塗りをしたのち外面と内面底部に朱漆を塗っているが、外面の方が朱漆の質が落ちる。内面底部に花と葉の模様を施すが、漆に鉄粉もしくは炭粉を混ぜた黒漆、漆に金粉を溶かした金泥を利用している。なお、金泥は粒子に違いを持たせることで明るいものと暗いものの２種類を利用している。内面側部の黒色は模様部とは異なり、鉄成分を添加し布などで漉して作製した黒漆を２層塗布している。

参考文献

伊東隆夫・山田昌久（2012）木の考古学．出土木製品用材データベース．海青社，449p.

岡田文男（1995）古代出土漆器の研究－顕微鏡で探る材質と技法－．京都書院，191p.

北野信彦（1995）清須城下町出土漆器資料の製作技法．清洲城下町遺跡Ⅴ，愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第54集，（財）愛知県埋蔵文化財センター，p. 124-139.

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p. 20-48.

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p. 49-100.

島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，296p.

徳丸始朗（1988）第Ⅳ章自然科学分析１　梶原南遺跡の花粉分析および出土木材の樹種．梶原南遺跡発掘調査報告書，梶原遺跡調査会，p. 28-33.

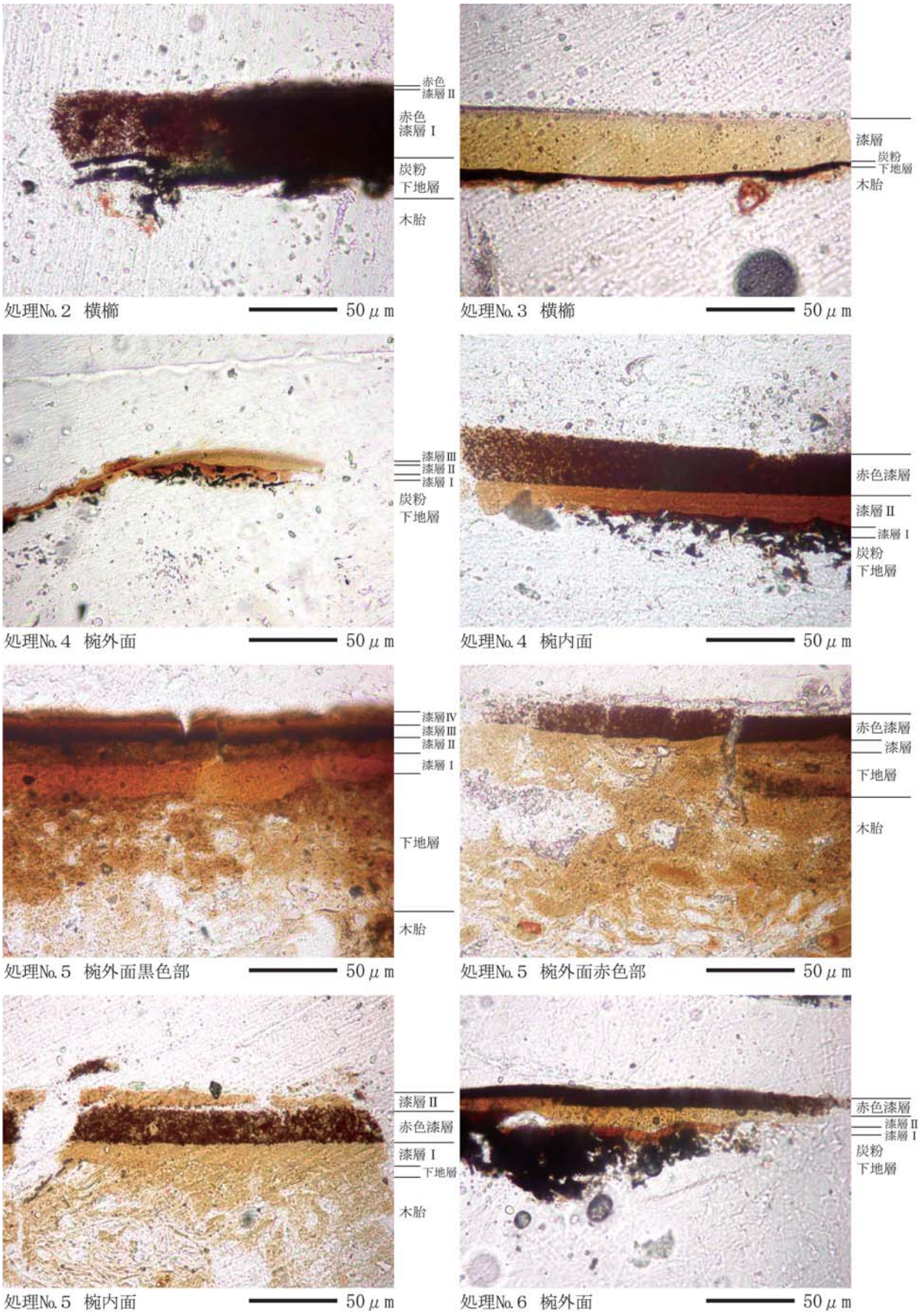
堀場義平・木谷康司（1995）三重県内における遺跡出土木材について．三重大学教育学部研究紀要第46巻（自然科学），三重大学教育学部，p. 93-107.

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成－用材から見た人間・植物関係史．植生史研究特別第１号．植生史研究会，242p.

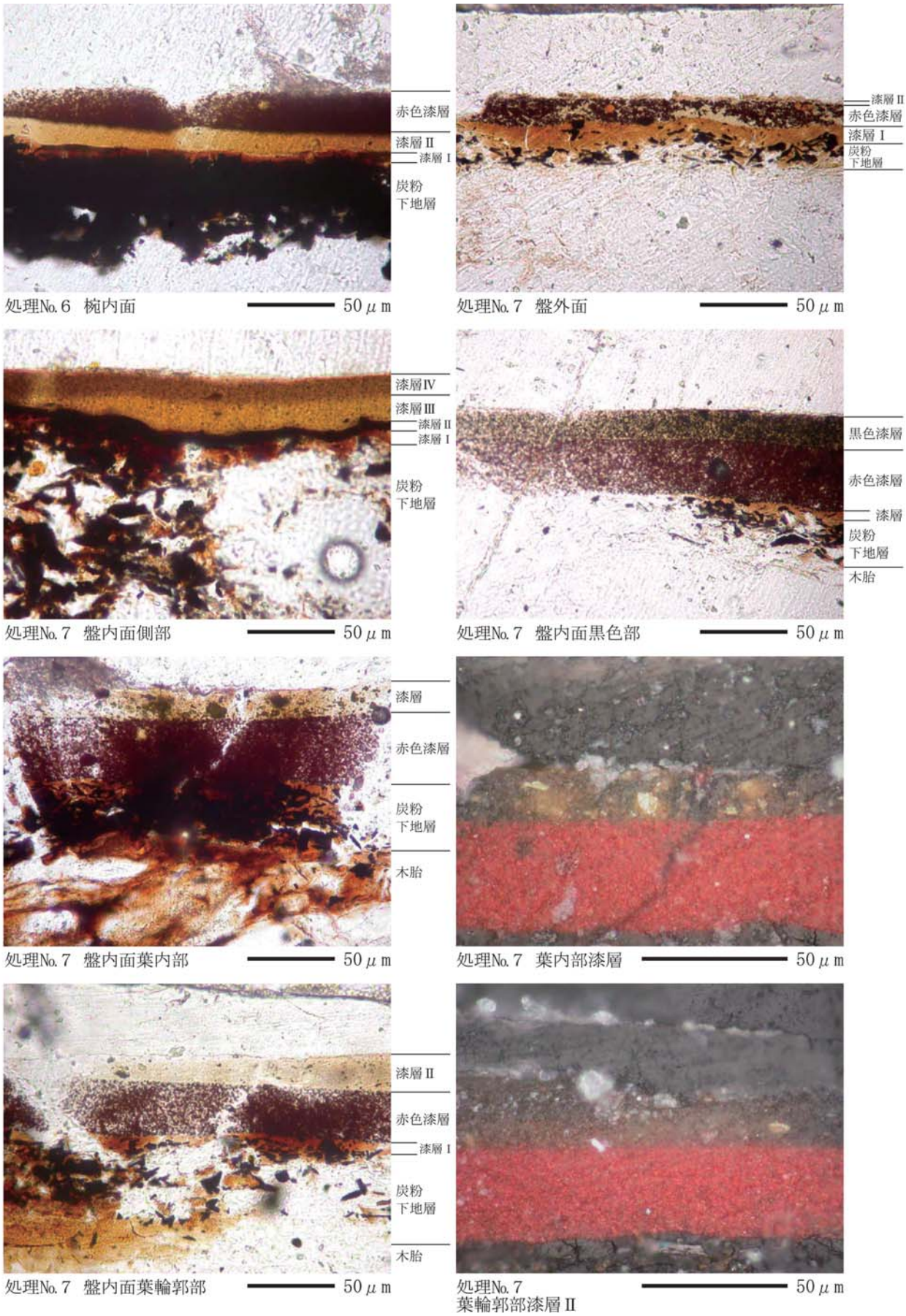
四柳嘉章（2002）漆の技術と文化－出土漆の世界－．あらたな世界へ いくつもの日本Ⅱ，岩波書店，p. 249-267.

四柳嘉章（2006）漆Ⅰ，ものと人間の文化史131-Ⅰ．法政大学，252p.

四柳嘉章（2006）漆Ⅱ，ものと人間の文化史131-Ⅱ．法政大学，435p.



第210図　堀町遺跡（第６次）の漆膜分析写真１



第211図　堀町遺跡（第６次）の漆膜分析写真２

Ⅵ　総　　括

1　各時代の様相

本調査では、縄文時代中期末～江戸時代の多岐にわたる遺構が確認され、遺構の変遷や土地利用の状況が明らかとなった（第212図）。１～５次調査の結果も踏まえて、各時代の様相を整理する(1)。なお、第212図では遺跡西側の一部を示すことができないため、５次調査報告（第122図）を参照願いたい。

（１）縄文時代

遺跡の東側に位置する６次６・７区を中心に土器と石器がまとまって出土した。遺構には６次６区上層の埋設土器ＳＸ6029・6037や６次７区下層の落ち込みＳＨ6197と遺物群がある。出土資料の分析は、Ⅵ章２節で述べることとする。

Ⅲ章１節で堀町遺跡の埋没地形について触れたが、６次６・７区は縄文時代中期末の段階で、沖積低地でも微高地上に位置したと推定できる。伊勢湾西岸域の沖積低地における縄文時代の活動は、朝見遺跡（５～７次）の調査で明らかになりつつある(2)。今後の報告では、周辺遺跡を含めた遺構や遺物の広がりを整理し、地形環境の復元をもって、歴史的な評価をしたい。

（２）弥生～飛鳥時代

本調査では、弥生～古墳時代の明確な遺構は確認できなかった。１～５次調査の結果から、遺跡の西側に位置する国道42号バイパス交差点付近が集落の中心域と判断できる。

飛鳥時代は、遺跡の東側に位置する６次９区で掘立柱建物ＳＢ6195や柱列ＳＡ6196、７次１区で溝群があり、一帯には７世紀前半～中頃の集落が広がる。この他に１～５次調査では、遺跡の北西側で集落の存在が判明した。特に、５次６－１区ＳＤ5095は７世紀中頃～後半の土師器や須恵器とともに、鞴羽口や鍛造剥片の付着する椀形鉄滓が出土しており、集落における鉄器生産の存在が推定された(3)。

（３）奈良～平安時代後期

本調査では、奈良時代の遺構は６次９区ＳＤ6056のみである。平安時代の遺構は小規模の溝や土坑が６次３～６・９区、７次１区で確認できるものの密度は薄く、集落の縁辺部に位置すると推測できる。５次６－３区では、平安時代前期の大型掘立柱建物があり、集落が周囲に展開するとみられる。

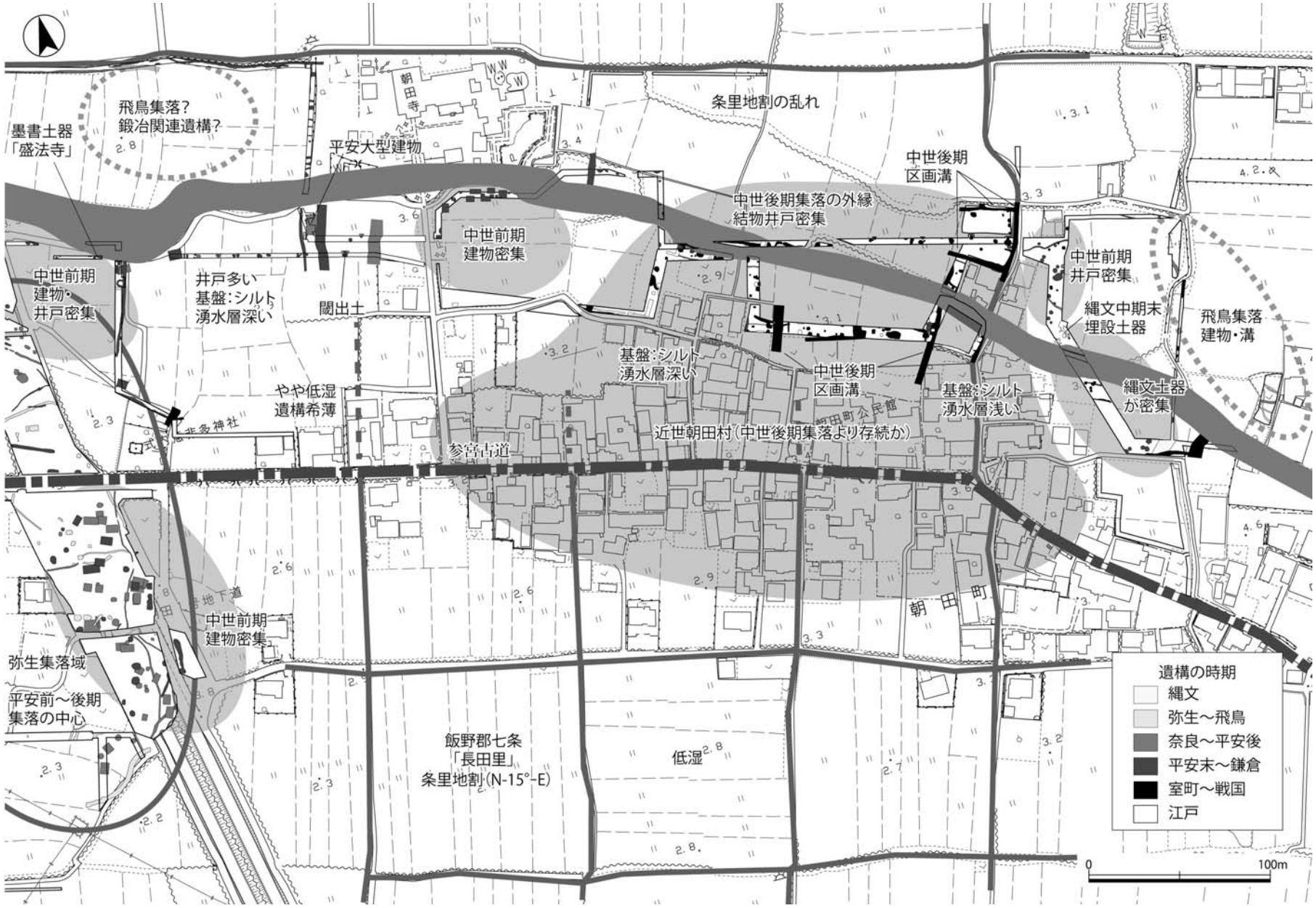
特筆すべきものに、堀町遺跡を東西に横断する自然流路ＳＤ6012（２次調査ＳＲ210、５次調査ＳＲ5080と同一遺構、以下ではＳＤ6012に統一する）が挙げられる。平安時代前期～後期の遺物が多く出土しており、その特徴を下記に整理する。

ＳＤ6012の変遷と水辺の祭祀　５次調査では埋没時期と水辺の祭祀の関係性に言及しており、本調査においても同様の見解を得られた。下層は９世紀を主体した吉祥句の墨書土器や刻書土器、斎串といった木製祭祀具が多く、水辺の祭祀の存在が明らかである。中層は平安時代中・後期で、前期と比べ遺物量が減少する。上層は平安時代末期～鎌倉時代の土師器や山茶椀が多くあり、室町時代～戦国期の遺物も含まれる。この時期は、水辺の祭祀に伴う明確な資料は見受けられない。

最終的な埋没時期は中世Ⅳ期（15世紀後半～16世紀）と指摘されたが、これについては本調査成果を踏まえて若干の整理が必要となった。詳細は後述するが、出土遺物の状況、地割や区画溝に相当する大溝の存在から、規模を縮小しながらも16世紀中頃まで機能したと想定される。

また、５次調査において、流路の流水環境は平安時代前期までは流水が激しい流路であったが、中世にかけて流れが淀んでいく状況が明らかとなった。こうした過程で水の制御が容易となり、中世には井堰や条里地割に即した溝の出現に象徴されるように、幹線水路の機能を強めていくと指摘する。本調査における遺構の変遷も同様の整理ができる。

特徴的な遺物と遺跡の性格　平安時代前期を中心として墨書土器・刻書土器があり、特に「少□寺」



第212図　堀町遺跡概略図（1/3,000）

（736）や「□□寺」（742）から、近隣に寺院が存在したことや、当地がその影響下にあることが考えられる。この他にも「林家」（2029）は機関名を示す可能性がある[4]。灰釉陶器の風字硯（889）、多量の灯明皿や斎串といった特殊な遺物があり、地域の核となる集落が近隣に存在する見方が強まったと言えよう。

朝見遺跡では、平安時代の動向が堀町遺跡と共通する。平安時代前期には多量の緑釉陶器や越州窯系青磁などの奢侈品、石製銙帯があり、実務官人の存在が推定される。さらに、鍛冶関連遺物や製塩土器も多く、物流や手工業生産の拠点として機能が想定される。堀町遺跡における当該期の墨書土器や祭祀遺物などは、こうした地域開発拠点の影響下でもたらされたと考えたい。

平安時代中期以降は、上記のような特殊な遺物は確認できないものの、館に相当する大型の掘立柱建物が広く分布する。平安時代後期は集落の様相を掴めていないが、水辺の鏡祭祀や条里施工が進展しており、耕地開発拠点として機能が想定される。

（４）平安時代末期～鎌倉時代

本調査ではこの時期から遺構が増加し、分布状況は６次６・７区を中心に広がり、特に井戸や大型土坑が多くを占める。井戸は17基あるが、周辺で建物跡が確認できないことから耕作用と考えられる。また、大型土坑は井戸と同規模であるものの、湧水が確認できず土坑と位置づけたが、湧水を必要としない溜井の可能性もある。

こうした状況を考慮すると、６次６区北側や６次７区南側の狭い範囲で、井戸の造り替えの単位が見出せる。６次７区中央は遺構密度が薄い空閑地であり、ここを耕作地の中心範囲と仮定すれば、その縁辺部に井戸を設置する土地利用の状況が想定できる。

井戸の構造が明らかなものは限定され、ＳＥ6164は板材を抜き取られているが、横板組井戸ないし縦板・横板組井戸と判断できる。この他は、土居桁や水溜施設の曲物のみ確認できた。５次調査や中坪遺跡では、この時期から結物井戸が出現し、水溜施設に曲物を用いている。

（５）室町時代～戦国期

本調査において、最も遺構が確認されており、なかでも６次４・５区と７次３区が多くを占める。これらの調査区では、土地利用に大きな変化があり、地割や区画溝に相当する大溝が出現する。大規模なものには、南北方向のＳＤ6066（幅2.41m・深さ0.8m）やＳＤ6126（幅6.1m・深さ1.2m）、ＳＤ6167（幅3.0m・深さ1.33m）、東西方向のＳＤ6074（幅2.4m・深さ0.8m）やＳＤ7019（幅1.97m・深さ0.8m）がある。特にＳＤ6167は自然流路ＳＤ6012に接続する水路であり、この他の南北方向の大溝も同じ構造が想定できる。

ＳＤ6012では本調査全域にわたり、上層で戦国期（中世Ⅳｂ～Ⅳｃ期）の土師器が多く認められる。その一方で、５次調査７－８・９区ではＳＤ6012の埋没後に中世Ⅳ期の溝などが掘削されている。

こうした状況から、ＳＤ6012は平安時代には幅20m程ある流水の激しい流路であったが、中世以降は水流が淀む過程で流路幅が縮小していき、５次調査７－８・９区のように堆積が早い箇所は室町～戦国期の段階で一部陸化していたと推定できる。ただし、ＳＤ6012は戦国期（中世Ⅳｂ～Ⅳｃ期）までは水路としての機能を保っており、この期間における流路幅は、周辺の大溝と同規模の２～６m程であったと推測する。ＳＤ6012は中世Ⅳｃ期以降の遺物は限定されることから、この時期を境として完全に埋没し、水路としての機能を失ったと判断できる。

ところで、朝田寺はＳＤ6012が境内を通過することから、現地での成立時期が問題となる。朝田寺の建立、移転はⅡ章で詳細を記したが、元亀年間（1570～1572年）に寺域を現地に移した見解がある。埋没時期の中世Ⅳｃ期は、16世紀中頃から17世紀初頭の年代観であることから、移転時期の記述とも矛盾しない見方ができよう。

この他には、耕作に関連する遺物として、ＳＤ6126やＳＤ6167の牛骨や犂が挙げられる。一帯では牛馬の畜力を利用した耕作が推定でき、積極的な耕作地の整備や畜力の導入がわかる。

井戸は17基あり、依然として数多く掘削される。井戸構造が明らかなものには、縦板組井戸（ＳＥ6116）、

結物１段井戸（ＳＥ6108）、結物積み上げ井戸（ＳＥ6092）が挙げられる。水溜施設については、縦板組井戸は曲物、結物井戸は水溜施設を伴わないが、中坪遺跡では結物井戸に曲物が伴う事例がある。水溜施設の曲物のみ確認できる井戸が多くを占め、これらは縦板井戸と結物井戸のどちらに伴うものか定かではない。

（６）江戸時代

６次３・４・６・10区の内、現集落の近隣で多くの遺構が確認できる。建物跡は明らかではないが、６次３区中央と４区西側で江戸時代のピットが密集しており、建物の存在が推定できる。中世後期には伊勢道に沿って集落が展開していたが、江戸時代の段階で、さらに北側まで集落域が広まったことが考えられる。

また、室町時代～戦国期には地割・区画溝に相当する大溝が存在したが、江戸時代にはこうした水利関連の遺構は確認できない。戦国期に自然流路ＳＤ6012が埋没したことで、特に耕作地の水利に影響を及ぼしたと推定できる。地形環境の変化が、結果的に居住域や耕作地の再編に影響したのであろう。

井戸は５基あり、結物積み上げ井戸（ＳＥ6124・6171）と陶製井戸枠・結物組井戸（ＳＥ6144－Ａ・6184）がある。結物に使用される板材は、節が多いものが目立ち、大鋸や台鉋も多用される。

出土遺物では、「○に田」印が陶器（２・1178・1267～1269）や下駄（3032）に見られ、朝田寺関連遺物と位置づけられる。朝田寺は「○に田」印を寺の印としており、本堂の屋根瓦や破風、寺が所有する絵馬や袈裟、焼きごてに同様の構図を確認できる[(5)]。古い資料では、「盂蘭盆経説相図」（万暦19年・1591年、朝田寺蔵）にも見られるという。堀町遺跡の資料は、朝田寺隣接地（６次１区）のＳＫ6211、朝田寺から300m程離れた地点（６次４区）のＳＥ6184とＳＫ6076で出土したものがある。これらは朝田寺の所有品のほかに、朝田寺から近隣地域や檀家へ贈られたものを含むと推定できる。

（７）遺構変遷からみた諸課題

朝見上地区の地形分類図（第３図）や空中写真（写真図版１）では、自然流路ＳＤ6012やその前身となる旧河道の痕跡が朝見遺跡や中坪遺跡へと広がる状況がわかる。特に古代～中世では、この旧河道が水利の幹線的役割を果たし、一帯に広がる条里地割との関連性が強いと考えられる。

朝見上地区における条里施工の時期は、朝見遺跡の調査で明らかとなり、坪境溝の掘削時期や花粉分析の結果から平安時代後期に始まると判明した。堀町遺跡では、５次調査において12世紀末以降に条里方向の溝が開削されることが明らかとなり、朝見遺跡の一帯よりも条里施工の時期が遅れる。これは堀町遺跡では砂礫の表出する基盤層といった微高地が広がり、起伏に富んだ地形であることが、その要因と指摘される。

また、自然流路ＳＤ6012周辺は条里地割が貫徹されておらず、乱れた地割となる。基盤層の状況を考慮すると、ＳＤ6012の前身となる旧河道ないし谷地形が長期間存在したことが推測された。

今後の課題として、こうした旧河道や谷地形といった地形環境の変化と遺跡の関連性を朝見上地区全体で捉える必要がある。そうした中で、平安時代後期に始まる条里施工や中世後期の地割・区画溝の形成といった耕作地の展開、その拠点である集落の形成過程を復元することが重要な論点となる。

２　縄文土器の分類

堀町遺跡６次調査においては、７区下層を中心として、多くの縄文土器が出土した。第Ⅳ章では個別の報告にとどまったため、ここではまとまった数量が得られた深鉢を中心に分類を行うことで、堀町遺跡６・７次調査で出土した縄文土器の全体像について整理しておきたい。

（１）有文深鉢

施文の様相や口縁部形態等からⅠ～Ⅳ群に大きく分け、文様構成や口縁部付近の形態等によってさらに３段階に細分した。

なお、全体が判明する資料が少ないため、Ⅰ群については口縁部付近の破片と体部の破片を別々に分類している。

Ⅰ群　比較的太い沈線や隆帯で文様を描く。基本的

に波状口縁で、口縁部付近は横方向、頸部以下は縦方向の文様構成となる。地文には縄文、撚糸文が施されるか、無文となる。

〔口縁部付近〕

A：口縁部直下に沈線による区画文を配する。

a：区画文内の充填等に刺突文を用いる。

1：区画文間に渦巻文等の主文様を配する。(2354・2355・2406等)

主文様には渦巻文のほか、刺突で充填した円形区画文や双頭渦巻文を主文様とするものがある。

2：区画文間に主文様を配しない。(2356・2357・2358等)

3：区画文と渦巻文状の主文様が一体化したとみられる変形区画文を配する。(2360)

b：区画文内の充填等に矢羽根状文やそれに類する文様を用いる。

1：矢羽根状文を用いる。(2312・2364・2365等)

区画文が楕円形を呈するものと、三日月形を呈するものがある。また、口縁部が若干肥厚するものもみられる。

2：斜線文を用いる。(2343)

口縁部が幅広に肥厚し、平口縁となる。

c：区画文内の充填等に縄文や条線等を用いる。(2366・2367・2368・2413等)

区画文間に渦巻文等の主文様を配するものと、配しないものがある。後者には口縁部と体部の境を隆帯で区画するものもみられる。

d：区画文内を無文とする。(1631・1890・2415等)

区画文が楕円形のもののほか、三日月形を呈すると思われるものもある。前者はキャリパー形の器形を呈し、体部はケズリ・ミガキで調整され無文となる。

e：口縁部直下に区画文の代わりに連弧文を配する。(2417・2418等)

連弧文間に主文様となる渦巻文を持つものと持たないものがある。また、口縁部直下に刺突文を施すものがみられる。

f：口縁部付近に把手を貼り付け、把手付近に区画文を配する。(2370・2423等)

区画文内は刺突文や矢羽根状文などで充填される。

B：口縁部が大波状口縁となる。(2344)

波頂部が凹形をなす。波頂部の側面を肥厚させ、文様帯とする。

C：口唇部を肥厚させ、文様帯とする。(2372)

D：口縁部から頸部にかけてが無文で、頸部に隆帯を巡らせ口縁部と体部を区分する。(2373等)

平口縁でキャリパー形にならない。体部は縦方向の円形区画文内にを矢羽根状文で充填する。

E：縄文のみを施文する。(2425)

〔体部〕

α：比較的太い沈線や隆帯で文様を描く。基本的に縦方向の文様構成をとり、地文には縄文、撚糸文が施されるか、無文となる。口縁部Aの体部と思われる。

a：刺突文を多用する。(2383・2426)

b：矢羽根状文を多用する。(2375・2376・2377等)

縦位の沈線・隆帯間を矢羽根状文で充填するものや、矢羽根状文を充填した円形区画文を縦に連続して配するものがある。体部に把手状の突起を持つものもみられる。

c：1～3本単位の沈線で縦方向の直線・曲線を描く。

1：撚糸文や縄文を地文として沈線間の地文を磨り消すか、あるいは沈線間を縄文で充填する。(2430・2432等)

縦位の多条沈線で区画し、その間に渦巻文とそこから垂下する蛇行状文を配するものや、小型円形区画文を縦位につなげて配するもの、2本単位の沈線で縦方向に流れる曲線的な文様を描くものなどバリエーションがある。

2：地は無文で、2～3本組の縦方向の沈線で区画する。(2380・2381等)

3：1本の曲線で区画文を描く。区画文内を条線で充填する。(1887・1889・2434等)

β：縄文のみを施文する。(2384)

Ⅱ群　磨消縄文や、それに類する施文により文様を描く。

Ａ：磨消縄文を主たる文様とする。

ａ：文様帯が縦位に流れる。(2385)

波状口縁で、頸部が括れる器形を呈する。頸部に把手状の突起を持つ。

ｂ：文様帯が横位に流れる。(1892・2443・2445等)

浅い波状口縁か平口縁となる。Ｊ字状の文様を描くものが含まれる可能性がある。

Ｂ：条線等を用いて磨消縄文状の文様を描く。(2447・2448等)

Ⅲ群　平口縁で、口縁部が受口状に屈曲する。やや細めの沈線や貝殻腹縁による連続刺突文等で施文する。(1895)

Ⅳ群　平口縁で、口縁部に棒状浮文を貼り付ける。内外面とも条痕で調整する。(1896)

（２）無文深鉢

Ⅰ群　頸部が括れ、口縁部が直線的に開く器形を呈する。浅い波状口縁となる。外面をミガキで調整する。(1629)

Ⅱ群　体部から口縁部にかけて直線的に開く器形を呈する。浅い波状口縁か平口縁となる。外面をミガキで調整する。(2387・2457等)

（３）各群の位置付け

有文深鉢Ⅰ群　有文深鉢Ⅰ群は、縄文時代中期末を中心とする土器群であると思われる(6)。全体的に、北白川Ｃ式および、当該期の東海地方西部の取組式や島崎Ⅲ式、山の神式等との関係で捉えられる要素がかなりみられる。

Ａｂ２は2343の１個体のみが該当するが、平口縁である点や口縁部を幅広に肥厚させる点など器形に特色がある。色調も黒色を呈しており、他の個体とはかなり雰囲気が異なる。東海地方の山の神式などの影響を受けていると考えられる。

また、ＳＸ6037から出土した1631はＡｄに属するが、キャリパー形の器形や文様に咲畑式の系譜を看取できる。やや古く位置付けることが可能かもしれない。

Ｂの大波状口縁になるものは少ない。６次７区上層のピットから出土した2344のほかには、2369が異なるタイプの大波状口縁となる可能性がある。北白川Ｃ式の深鉢Ｃに相当すると考えられる。

Ｄは、美濃地域で見られる曽利式に系譜を持つと考えられる深鉢との共通性が指摘されているものである(7)。

αｃ３の土器に施されている文様は、磨消縄文に似たものである。1887・1889など複数の破片が有文深鉢Ⅱ群と共にＳＤ6049から出土していることから、後期初頭～前葉に下る可能性もあるが、入り組んだ文様ではなく、縦方向の区画文状の文様が想定されることや、沈線の幅が比較的広いことなどから、Ⅰ群の中に位置付けた。

有文深鉢Ⅰ群は、特に６次７区下層のＳＨ6197やその周辺から、量的にまとまって出土している。これらの土器は、中期末の中でも時期がある程度限られる可能性もあろう。

有文深鉢Ⅱ群　有文深鉢Ⅱ群は、縄文時代中期末～後期前葉の土器群であると思われる。

Ａａに属するものは少なく、明確なものは2385のみである。2385は他の磨消縄文を持つ土器と比べると文様構成などがややイレギュラーで、磨消縄文状の文様を持つものの、中津式やその関連資料としては理解が困難なものである。ＳＨ6197から出土しており、共伴する土器は有文深鉢Ⅰ群が主体となることから、中津式以前の中期末に位置付けておくのが妥当であろう。関東地方以東の地域との関連性を考える必要もあるかもしれない。

ＡｂやＢは後期初頭～前葉の土器群であり、中津式の要素がみられる。主に６次７区のＳＤ6049から出土しており、７区下層の土器とは時期差が認められる。

有文深鉢Ⅲ・Ⅳ群　有文深鉢Ⅲ・Ⅳ群は、縄文時代後期中葉～後葉の土器群であると思われる。

Ⅳ群の棒状浮文や条痕調整などにみられるように、東海地方的な要素が濃いとみられる。蜆塚Ⅲ式などとの関係が窺われる。

無文深鉢Ⅰ群　無文深鉢Ⅰ群に属するものは、1629のみである。器形等からは時期的な位置づけが困難であるが、中期後半～後期前葉のものとみて問題な

いだろう。口縁部がやや長くのびている点などを考慮すれば、中期後半に属する可能性がやや高いと思われる。

無文深鉢Ⅱ群　無文深鉢Ⅱ群も、Ⅰ群と同じく中期後半～後期前葉に位置付けられる。

水平口縁の2458は、器形や外面調整などからみて、どちらかといえば後期初頭～前葉に下る可能性が考えられる。

3　「承平」墨書土器の評価

今回の調査でＳＤ6012から出土した平安時代の土師器杯（2001）の中に、底部外面に「承平」の文字が墨書されたものが存在する。

この墨書については、承平年間（931～938年）の元号を示している可能性も考えられる。そうであるならば、古代の紀年銘の土器・陶器資料がほとんどなく、土器編年に有効な暦年代を与えることが困難であった伊勢地域において、きわめて重要な資料となりうる。そのため、この資料について若干の考察を行っておく。

土器編年上の位置づけ　まず、これまでの伊勢地域における土器編年からみると、2001は口径や、底部と口縁部との境が比較的明瞭に屈曲し、口縁部が外反し口縁端部を丸く収めるといった形態的特徴からみて、斎宮編年Ⅱ期第３段階に位置づけられるが、Ⅱ期４段階まで下る可能性も残されている。

平安京における土器編年や、共伴する緑釉陶器・灰釉陶器の編年との対比から、斎宮編年Ⅱ期第３段階は850～900年、Ⅱ期第４段階は900～950年の暦年代が与えられている。承平年間の暦年代と比べてみると、斎宮編年Ⅱ期第３段階とした場合は若干古くなるものの、近しい時期にあるといえよう。

吉祥句等の可能性　一方、大きな問題となるのは、「承平」とだけ書かれているため、これが元号を示すものとして疑問が残る点である。

また、堀町遺跡では2001以外にも平安時代の墨書土器が多く出土しているが、その中には、「南平」（819）や「仁平」（877）のように、二文字からなり、二文字目に「平」の字を配するものが散見されることも問題である（第19表）。「仁平」については1151～1153年に用いられた元号であるが、墨書されているのは９～10世紀代の灰釉陶器で時期的な開きがあるため、これが元号とは考えにくく[8]、元号以外の意味があったものと推定される。

そのため、何らかの文字と「平」の文字を組み合わせて吉祥句的な用い方をするようなことがあり、その一文字目に偶然「承」が選ばれただけという可能性も排除できない。

紀年銘墨書土器の様相　上記のような疑問点について考えていくために、まず、平安時代の墨書土器における年号の墨書例をみてみたい[9]。

当該期の墨書土器で、確実に年号が記されているものは少ない。そして、多くは年号の他に月日や寺名、人名等がともに記されており、年号のみを記したものはわずかに過ぎない。

さらに、2001のように元号のみを記したと推測される事例については、なかなか確実なものが見いだしがたい。

こうしたことからみると、平安時代において土器に元号のみを墨書することは、ほとんどなかったと考えられる。

「承」・「平」の用例　一方、「承」と「平」という二文字を組み合わせた墨書は、管見の限り全国的にみても出土例がない。

そもそも、「承」の文字自体が、あまり土器に墨書される文字ではなかったようである。「承」の文字が墨書された事例としては、「承」一文字を記したものはほとんどなく、「延承」のように二文字からなる意味を持った単語ともとれる事例がごく少数あるほか、短文を記した墨書の中に、承和という年号の一部や、「承る」といった意味でわずかに現れる程度である。

また、漢字二文字の組み合わせで、「平」という文字を二文字目に配する墨書も出土例が少ない。「平」一文字のみを記したものや、「平平」と二文字連ねたものは全国各地で出土しているが、他の漢字との組み合わせとなると、極端に数を減らす。

したがって、元号以外で「承平」という文字が墨書されるケースはきわめて僅少であったと推測できよう。

集落内祭祀の可能性　ただし、「平」に注目した場合、漢字二文字の組み合わせで二文字目に「平」を

第19表　堀町遺跡出土平安時代墨書土器

文字	種別	器種	報告No.	時期	遺構	調査次数	調査区	地区	備考
中朔万	土師器	皿	701	平安中期～後期	ＳＢ35	第１次		G13	氏名の可能性あり
内面：下□上田 外面：上	土師器	杯	1633	平安前期	ＳＲ210	第２次		J26	
中	土師器	杯	1634	平安前期	ＳＲ210	第２次		J26	
十	土師器	皿	1767	平安前期	ＳＲ210	第２次		F19	
年	土師器	杯	1775	平安前期	ＳＲ210	第２次		I24	
宮（中？）	土師器	杯	1776	平安前期	ＳＲ210	第２次		J20・24	
秋木	土師器	杯	1781	平安前期	ＳＲ210	第２次		J26	
律	土師器	杯	1782	平安前期	ＳＲ210	第２次		I24	
林	土師器	杯	1796	平安前期	ＳＲ210	第２次		H24	
年□	土師器	杯	1801	平安前期～後期	ＳＲ210	第２次		J29	
宮（中？）	土師器	杯	1802	平安前期	ＳＲ210	第２次		K27・30、L29	
□□らる	土師器	杯	1803	平安前期	ＳＲ210	第２次		K27	
律	土師器	杯	1806	平安前期	ＳＲ210	第２次		H20	
千千（竹？）	土師器	杯	1807	平安前期	ＳＲ210	第２次		F17	
千千（竹？）	土師器	杯	1810	平安前期	ＳＲ210	第２次		I21	
上	山茶椀	椀	893	平安末期～鎌倉	ＳＫ341	第３次		M73	初期山茶椀
大吉	土師器	皿	936	平安前期	ＳＥ353	第３次		N87	
南	土師器	杯	812	平安前期	ＳＤ5019	第５次	1-2	Ｉｔ１１	
盛法寺	灰釉陶器	椀	915	平安後期～末期	ＳＤ5132	第５次	5-3	Bc25	初期山茶椀？
今林	土師器	皿	1013	平安前期	ＳＤ5279	第５次	7-9-1	Rc14	
戌亥	土師器	杯	1121	平安前期	ＳＤ5298	第５次	7-8-2	—	
継（経？）	土師器	皿	1241	平安前期	ＳＲ5080	第５次	7-8	—	
一□	土師器	杯	228	平安前期	ＳＤ6212	第６次	T3	P112	
少□寺	土師器	杯	736	平安前期	ＳＤ6012	第６次	T4	—	
家？	土師器	杯	738	平安前期	ＳＤ6012	第６次	T4	T125	
一	土師器	杯	740	平安前期	ＳＤ6012	第６次	T4	Lv2	
中	土師器	杯	741	平安前期	ＳＤ6012	第６次	T4	—	
□□寺	土師器	杯	742	平安前期～中期	ＳＤ6012	第６次	T4	—	
一	土師器	杯	744	平安前期	ＳＤ6012	第６次	T4	Lv2	
中	土師器	杯	745	平安前期	ＳＤ6012	第６次	T4	Tk24	
□□山	土師器	杯	746	平安前期	ＳＤ6012	第６次	T4	V12	
橘	土師器	杯	770	平安前期	ＳＤ6012	第６次	T4	Vm3	
木	土師器	杯	771	平安前期	ＳＤ6012	第６次	T4	Vm3	
木	土師器	杯	772	平安前期	ＳＤ6012	第６次	T4	Lv2	
中	土師器	皿	802	平安前期～中期	ＳＤ6012	第６次	T4	V12	
木	土師器	皿	804	平安前期	ＳＤ6012	第６次	T4	—	内面に線刻「木」
中	土師器	皿	806	平安前期～中期	ＳＤ6012	第６次	T4	Tk24	
中	土師器	杯？	807	平安前期～中期	ＳＤ6012	第６次	T4	V12	
中	土師器	杯？	808	平安前期～中期	ＳＤ6012	第６次	T4	Tk24	
中？	土師器	杯？	811	平安前期～中期	ＳＤ6012	第６次	T4	Tk24	
中？	土師器	杯？	812	平安前期～中期	ＳＤ6012	第６次	T4	V12	
中？	土師器	杯？	817	平安前期～中期	ＳＤ6012	第６次	T4	Tk24	
□（南？）平	土師器	杯？	819	平安前期～中期	ＳＤ6012	第６次	T4	Tk24	
安？	土師器	皿	822	平安前期～中期	ＳＤ6012	第６次	T4	V12	
仁平	灰釉陶器	皿？	877	平安前期～中期	ＳＤ6012	第６次	T4	V12	
前？	土師器	皿	1471	平安前期～中期	ＳＥ6091	第６次	T5	Ve5	
買	土師器	杯	1999	平安前期～中期	ＳＤ6012	第６次	T7	Vs17	
承平	土師器	杯	2001	平安前期～中期	ＳＤ6012	第６次	T7	Vt17	
南平	土師器	杯	2002	平安前期	ＳＤ6012	第６次	T7	Vt17	
長	土師器	杯	2004	平安前期～中期	ＳＤ6012	第６次	T7	Vt17	
流	土師器	杯	2028	平安前期	ＳＤ6012	第６次	T7	Vs16	
林家	土師器	杯	2029	平安前期	ＳＤ6012	第６次	T7	Vs17	
木	土師器	杯	2030	平安前期	ＳＤ6012	第６次	T7	Vt16・17	
木	土師器	杯	2031	平安前期	ＳＤ6012	第６次	T7	Vt16	
一	土師器	杯	2057	平安前期～中期	ＳＤ6012	第６次	T7	Vt17	

※文字を墨書したもので、部分的にでも判読できるものに限って掲載した。　※判読できない文字は「□」で示した。
※「報告No.」は報告書掲載時の遺物番号。

配する墨書土器が、全国的に少ない中で伊勢地域の特定の遺跡から複数個体出土していることには注意が必要である。四日市市上野遺跡では「實平」と墨書された灰釉陶器椀・皿が４点以上出土しているほか[10]、明和町斎宮跡でも「年平」と墨書された土師器杯など２点が出土している[11]。

漢字一文字や二文字からなる墨書については、その文字が持つ意味が不明な場合が多い。しかしながら、墨書土器は集落全体、もしくは集落内の特定の限られた集団あるいは空間における祭祀・儀礼行為

に伴って使用されたものと考えられており、それぞれの限定された集団・空間の中で共通する祭儀方式の中でのみ通用するものであったとも推測されている[12]。そして、伊勢地域の奈良時代～平安時代の墨書土器にもそうした性格があった可能性が指摘されている[13]。

堀町遺跡でも、「中」や「木」と記した墨書土器はＳＤ6012に集中していることを鑑みれば、特定の文字を墨書する行為が集落内祭祀の一部で行われていた可能性がある。二文字目に「平」を配する墨書土器も、ＳＤ6012に限って４点が出土している。「平」と組み合わされる文字が様々である点には問題もあるが、何らかの文字と「平」を組み合わせた墨書も、そうした祭祀に伴うものとも考えられるかもしれない。

「承平」墨書土器の評価　以上をまとめると、2001に墨書された「承平」の文字は、今のところ元号を記したものとするよりは、堀町遺跡における集落内祭祀等に伴う土器への墨書行為の特色を反映したものである蓋然性が高い。

ただし、依然として元号を記した可能性も残されており、伊勢地域の土器編年を暦年代による時間軸と重ね合わせる上で、考慮すべき材料の一つとして、重要な意味を持つ資料と考えられる。

註

（1）朝見上地区における発掘調査成果は、下記の発掘調査報告書による。

①三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第１・２次）発掘調査報告』2014年

②三重県埋蔵文化財センター『堀町遺跡』2000年

③三重県埋蔵文化財センター『堀町遺跡（第５次）発掘調査報告』2016年

④三重県埋蔵文化財センター『中坪遺跡（第１次）発掘調査報告』2017年

（2）報告書未刊行の近年の発掘調査成果は、各年度の現地説明会資料及び次の文献による。

三重県埋蔵文化財センター『水と大地といにしえの人びと～松阪市朝見地区の発掘調査から～』2015年

（3）鉄滓分析の結果は、Ⅴ章３節の分析結果による。

（4）墨書の判読や解釈は、斎宮歴史博物館の榎村寛之氏にご教示いただいた。

（5）朝田寺の所有品に「○に田」印が見られることは、朝田寺住職の榎本義譲氏からご教示いただいた。

（6）伊勢湾西岸地域におけるⅠ群に相当する土器群については、近年、石田由紀子氏による分類が示されている。本報告でもこれを参照したが、破片資料が主体であるため、口縁部付近の文様構成等を主たる分類基準とした。ただし、本報告の分類のⅠ群Ａｆは石田分類４類、Ｂは石田分類５類、Ｄは石田分類３類に対応している。

石田由紀子「三重県内の中期末土器について」『三重県における縄文時代中期末』東海縄文研究会第13回研究会　2017年

（7）註６前掲。

（8）ＳＤ6012からは12世紀代の遺物も出土しているため、後世に古い灰釉陶器の破片に墨書したと考えることもできよう。ただし、伊勢地域の12世紀代の山茶椀等への墨書は漢字一文字や記号等が主体のため、その可能性は低い。

（9）全国の墨書土器の事例については、明治大学古代学研究所によってWeb上で公開されているデータベースを参照した。2010年段階のもので、全都道府県を網羅してはいないが、おおよその傾向は把握できると判断した。

(10) 四日市市遺跡調査会『上野遺跡２』1992年

(11) 三重県斎宮跡調査事務所『史跡斎宮跡－発掘調査概報－』三重県斎宮跡調査事務所年報1980　1981年

(12) 高島英之「墨書土器村落祭祀論序説」『日本考古学』第９号　日本考古学協会　2000年

(13) 前野謙一「西肥留遺跡の『仁』墨書土器」『研究紀要』第19-1号　三重県埋蔵文化財センター　2010年

写　真　図　版

朝見上地区遠景（三重県農林水産部提供）

調査地周辺航空写真（2006年三重県共有デジタル地図、上が北、矢印先が遺跡）

６次１・２区調査前風景（北西から）

６次３・４区調査前風景（北西から）

６次６・７区調査前風景（北西から）

６次11区調査前風景（北西から）

６次１区調査区全景（北西から）

６次１区調査区全景（南西から）

６次２区調査区全景（北西から）

６次３区調査区全景（北西から）

６次３区調査区全景（北東から）

６次３区調査区全景（北西から）

６次４区調査区西側全景（北西から）

６次４区調査区西側全景（南西から）

６次４区調査区中央全景（北西から）

６次４区調査区中央全景（南東から）

６次４区調査区東側全景（南西から）

６次４区調査区東側全景（北東から）

６次４区調査区東側全景（北東から）

６次４区調査区東側全景（北西から）

６次４区調査区東側全景（北東から）

６次４区調査区東側全景（北西から）

ＳＫ6211（南から）

ＳＫ6231（西から）

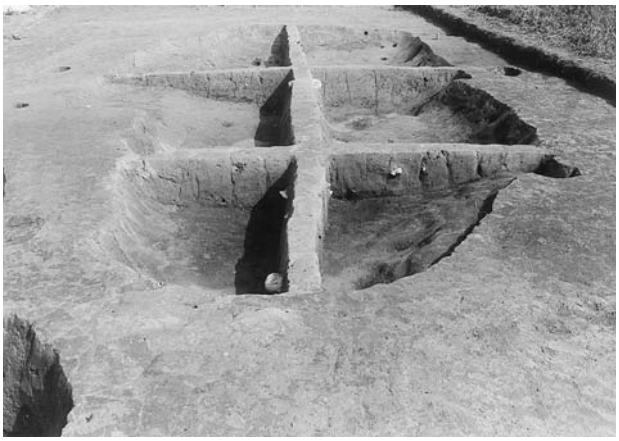
ＳＫ6232（北から）

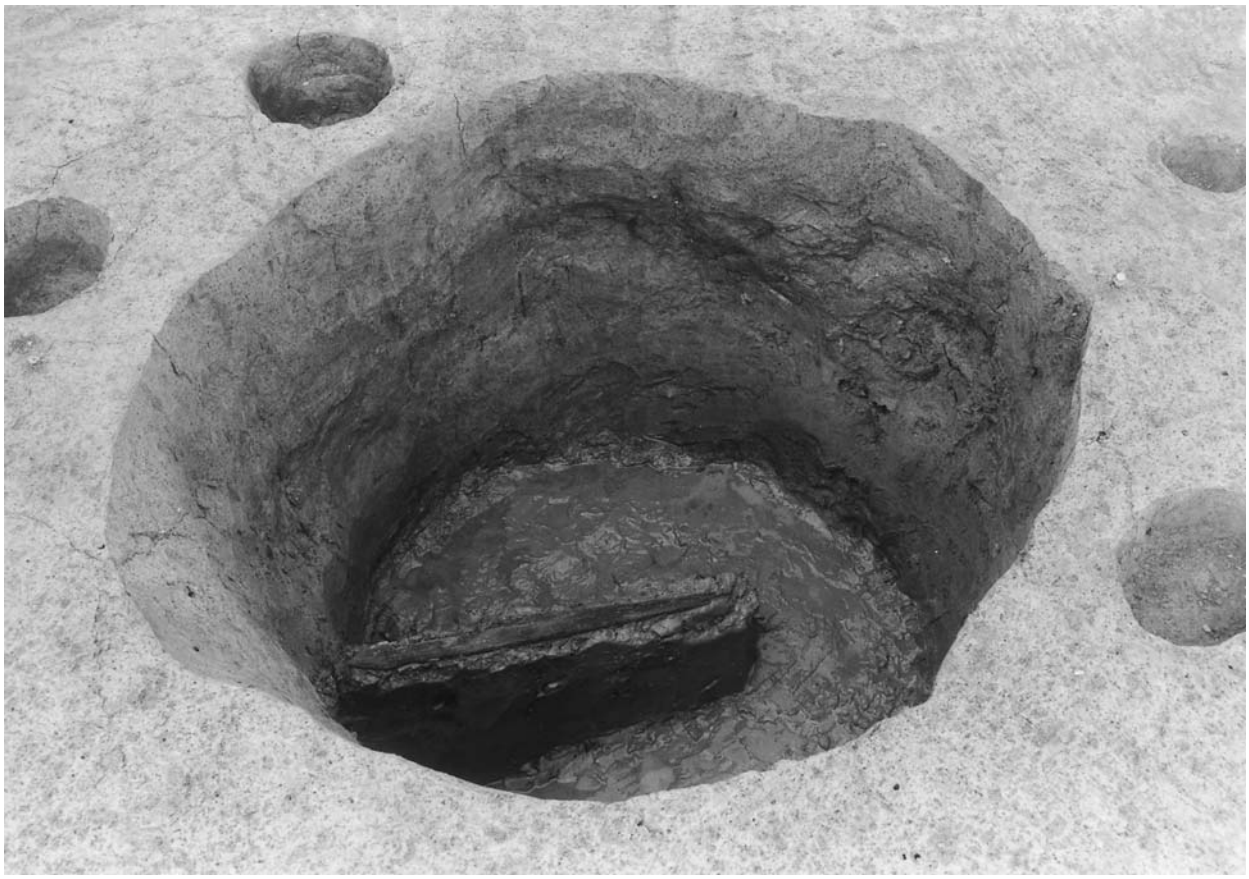
ＳＫ6235（北から）

ＳＫ6236（北から）

ＳＫ6243（北から）

ＳＫ6076（北から）


ＳＫ6102（北西から）



ＳＫ6142木製品出土状況（南から）

ＳＥ6081土居桁・曲物出土状況（北西から）

ＳＥ6164井戸枠出土状況（東から）

ＳＥ6164井戸枠出土状況（南から）

ＳＥ6164上部井戸枠取り上げ後状況（南から）

ＳＥ6164曲物出土状況（東から）

ＳＥ6116井戸枠出土状況（北から）

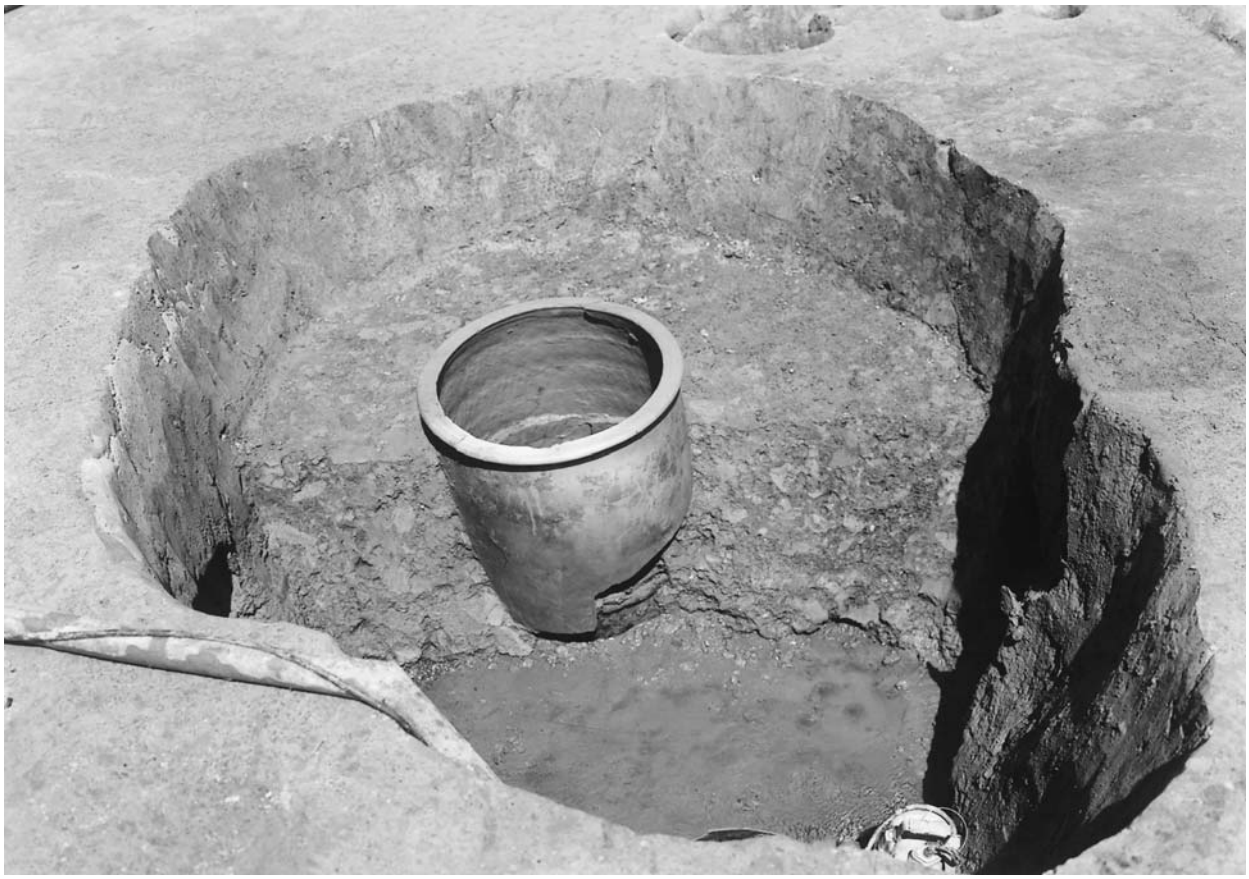
ＳＥ6108井戸枠出土状況（北東から）

ＳＥ6124井戸枠出土状況（北から）

ＳＥ6171井戸枠出土状況（北東から）

ＳＥ6184上部井戸枠出土状況（南東から）

ＳＥ6184下部井戸枠出土状況（南東から）



ＳＥ6144-Ａ井戸枠出土状況（南西から）

ＳＥ6144-Ａ・Ｂ井戸枠出土状況（西から）

ＳＥ6106完掘状況（北東から）

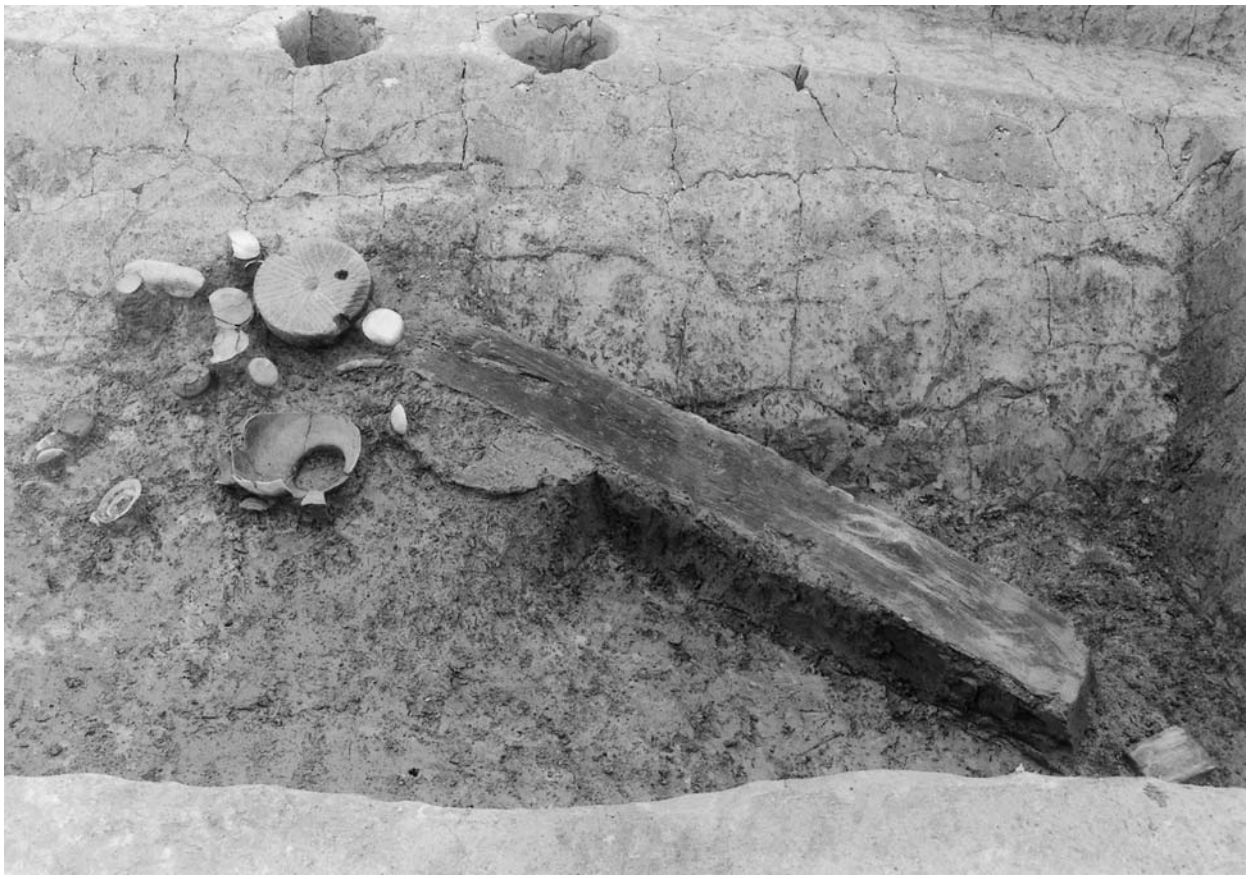
ＳＥ6150曲物出土状況（北東から）

ＳＥ6160曲物出土状況（北から）

ＳＥ6192曲物出土状況（東から）

ＳＫ6117土器出土状況（南西から）

ＳＫ6117土器出土状況（北東から）



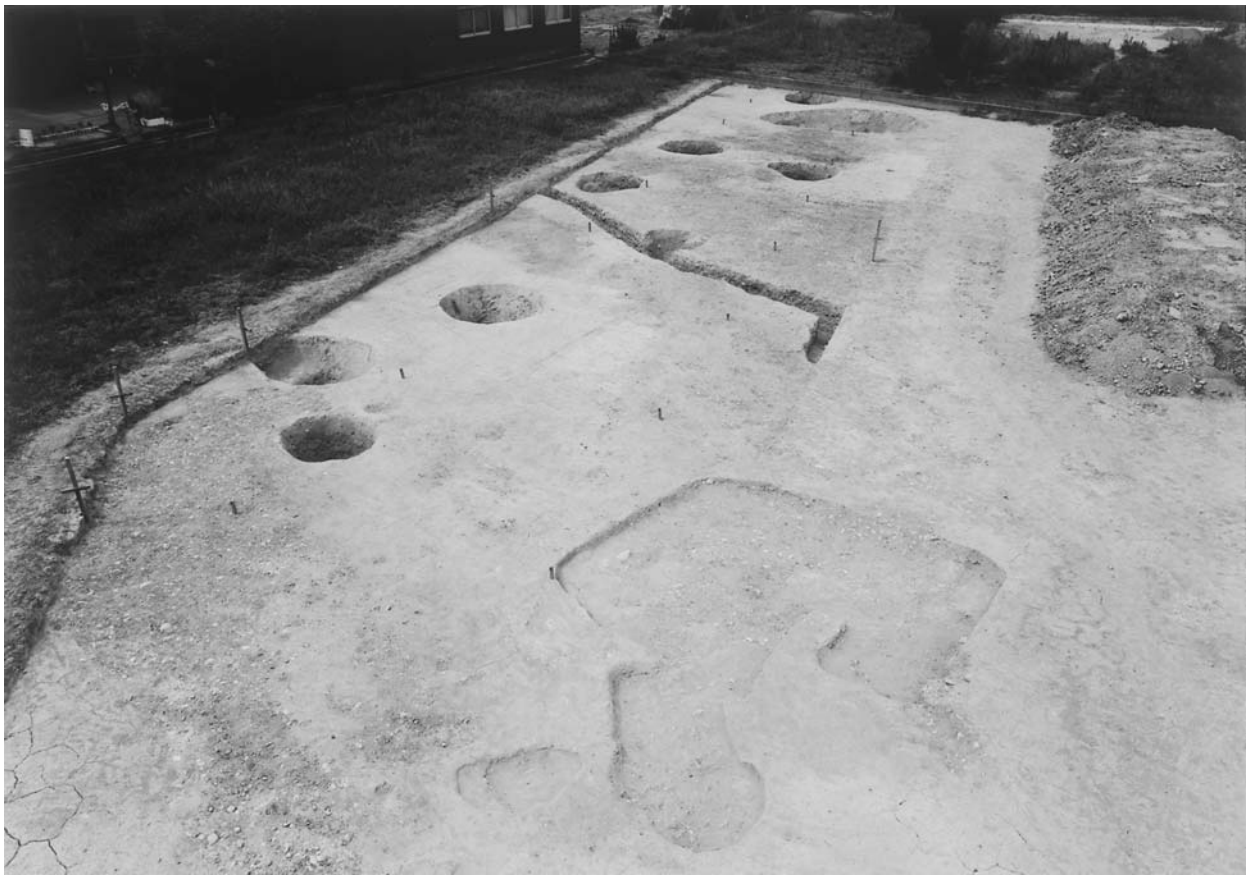
ＳＤ6167遺物出土状況（北西から）

ＳＤ6167遺物出土状況（北東から）

６次５区調査区全景（北東から）

６次５区調査区全景（北西から）

６次６区調査区中央全景（北東から）



６次６区調査区中央全景（南から）

６次６区調査区中央全景（南東から）

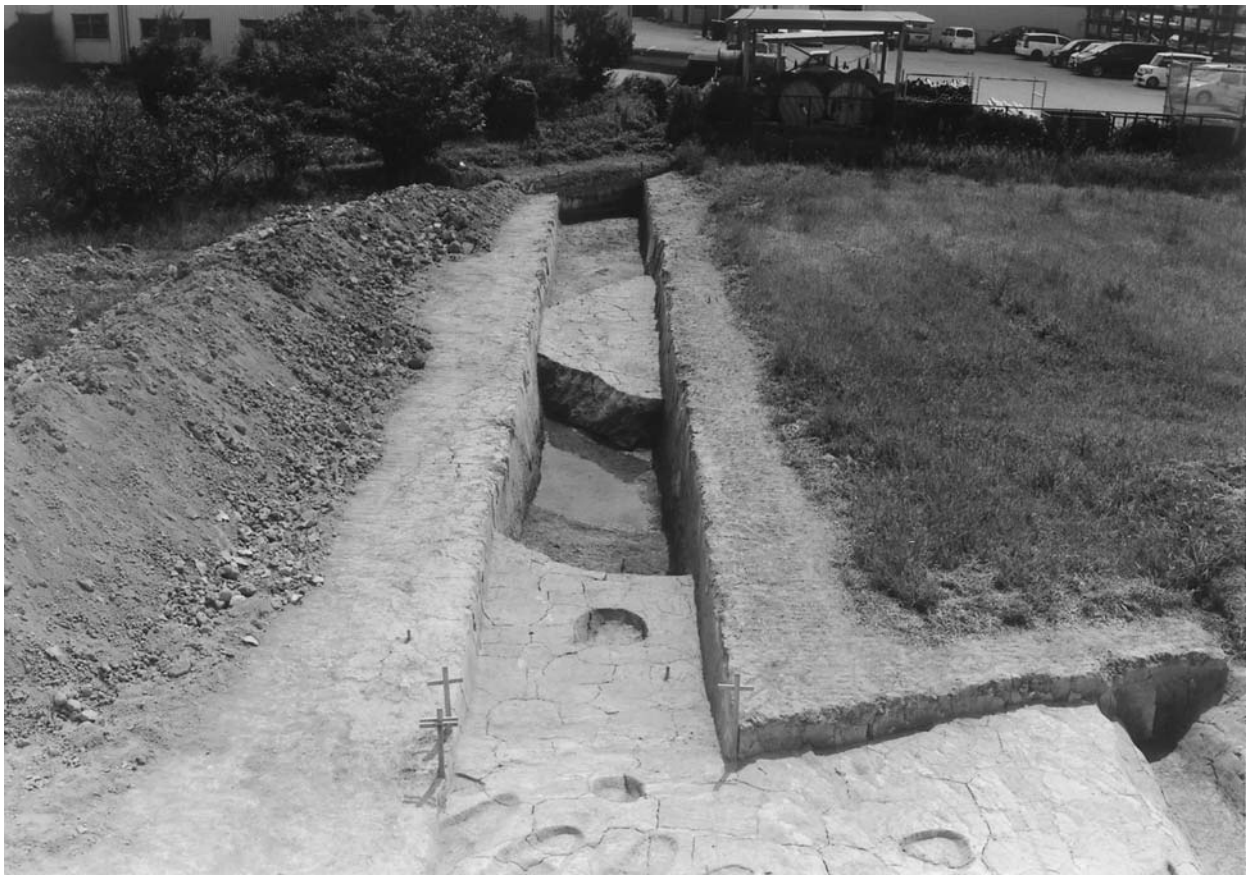
６次６区調査区北側全景（南東から）

６次６区調査区北側全景（南西から）

６次７区調査区全景（南東から）

６次７区調査区全景（北西から）

６次７区調査区全景（北西から）



６次７区調査区全景（北西から）

６次７区調査区全景（南西から）

ＳＥ6092井戸枠出土状況（南西から）

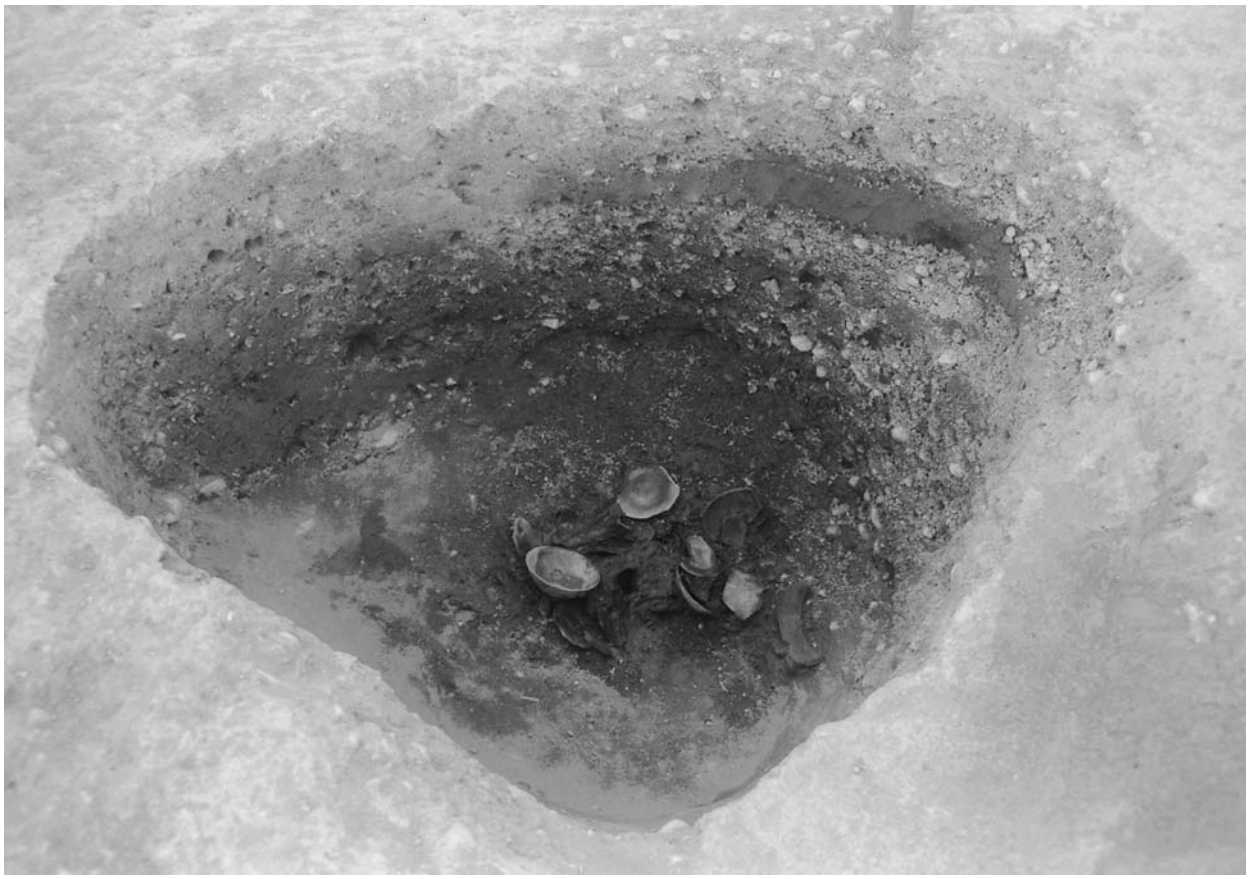
ＳＸ6037土器出土状況（南西から）

ＳＸ6029土器出土状況（東から）

ＳＸ6029土器出土状況（北から）

ＳＥ6001-Ａ・Ｂ曲物出土状況（北西から）

ＳＥ6001土器出土状況（南東から）



ＳＥ6005土器出土状況（南から）

ＳＥ6005土器出土詳細状況（南から）

ＳＥ6005（南から）

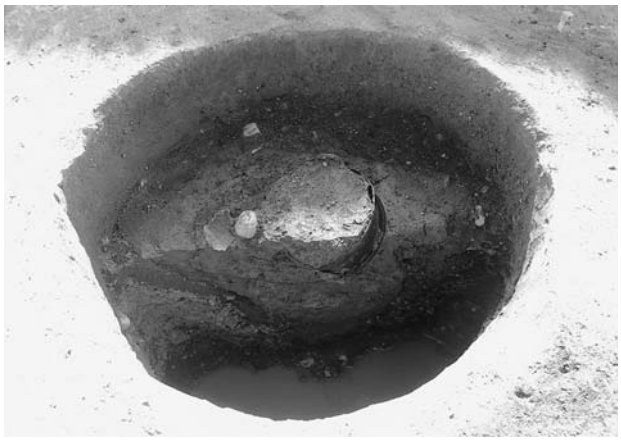
ＳＥ6009（南西から）

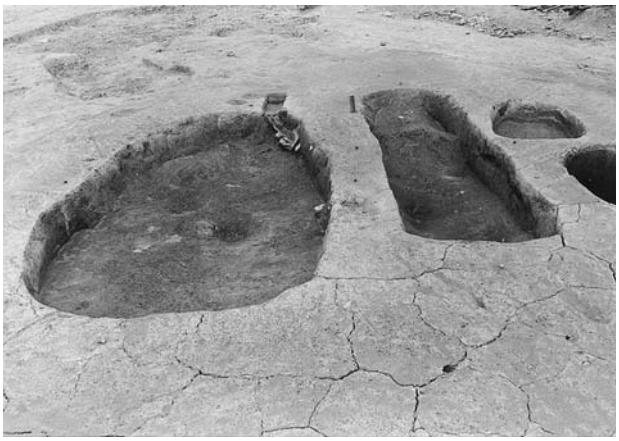
ＳＥ6013（南西から）

ＳＥ6198（北から）

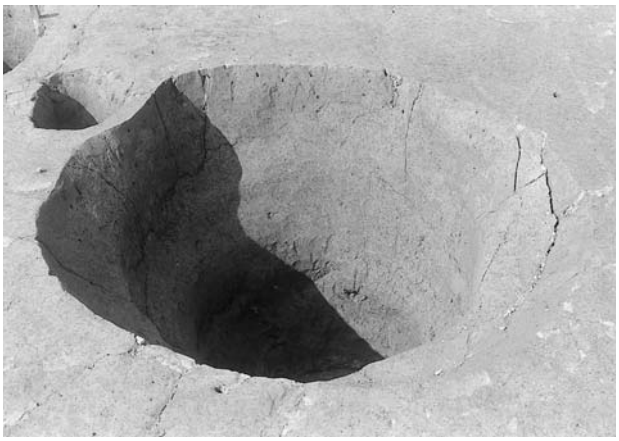
ＳＥ6199（北から）

ＳＥ6202（北から）


ＳＫ6208（北東から）


ＳＫ6016・6017（南西から）

ＳＥ6035（南西から）


ＳＥ6041（南西から）

ＳＥ6042（東から）

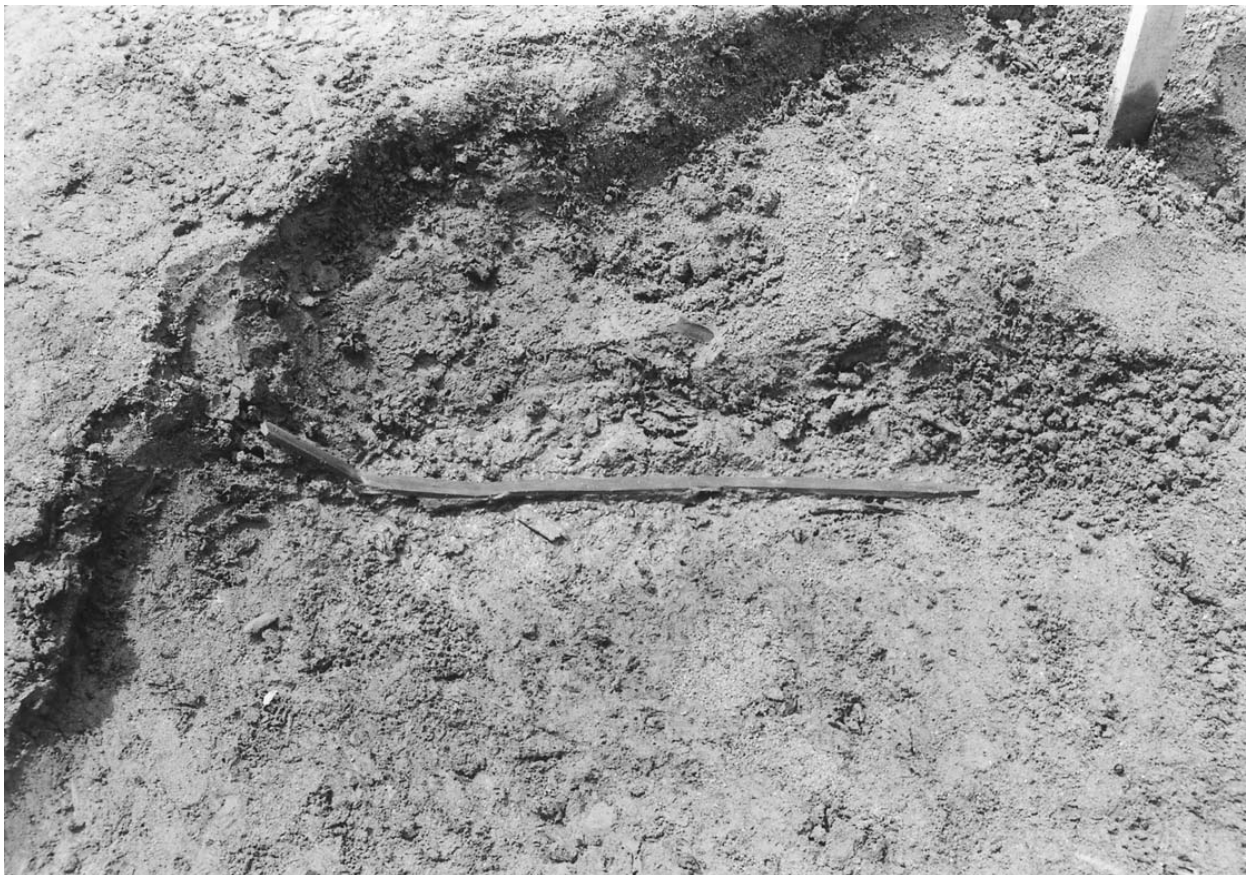
ＳＥ6043（東から）

ＳＥ6044（南から）

ＳＫ6032（南から）

ＳＫ6033（南から）

ＳＫ6039（南から）



ＳＤ6012斎串出土状況（東から）

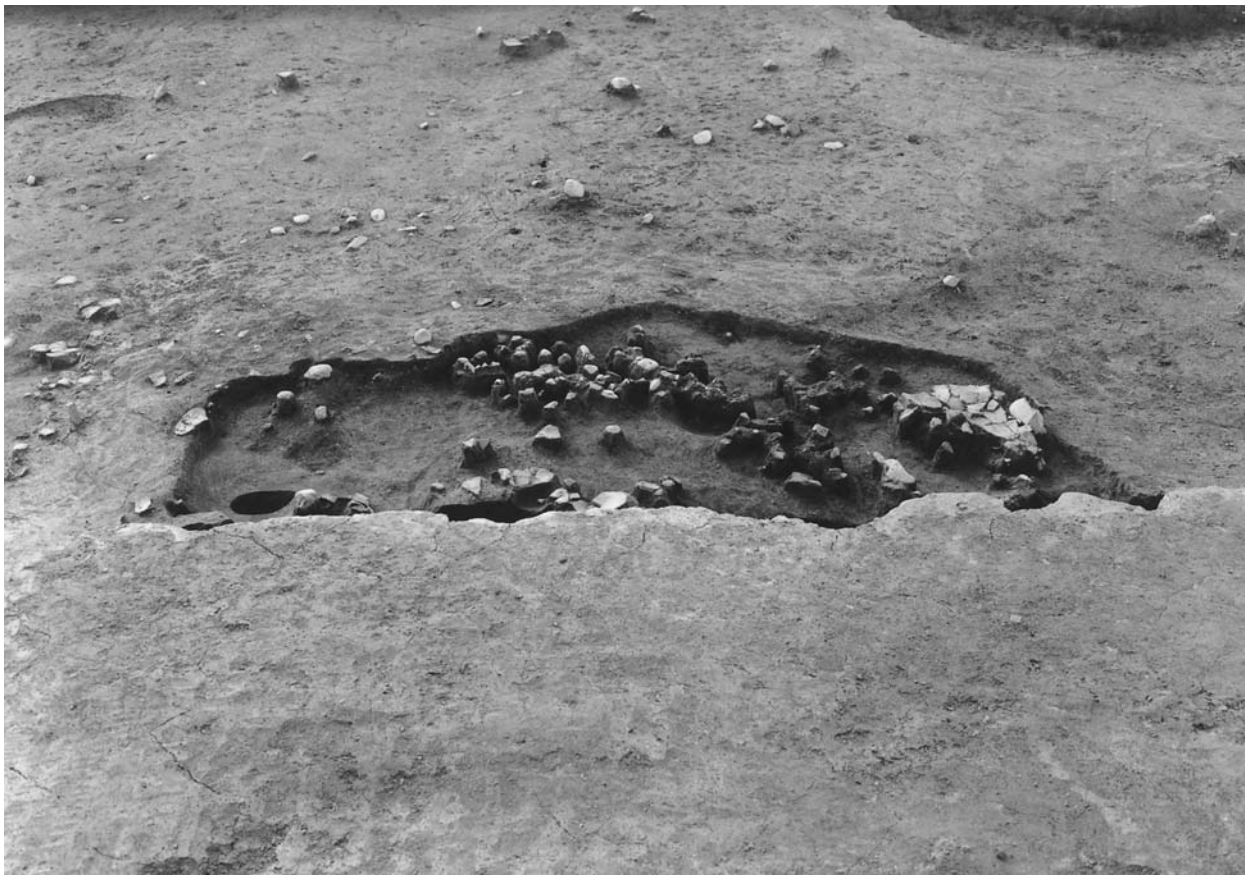
ＳＤ6034土器出土状況（北東から）

６次７区下層調査区全景（北西から）

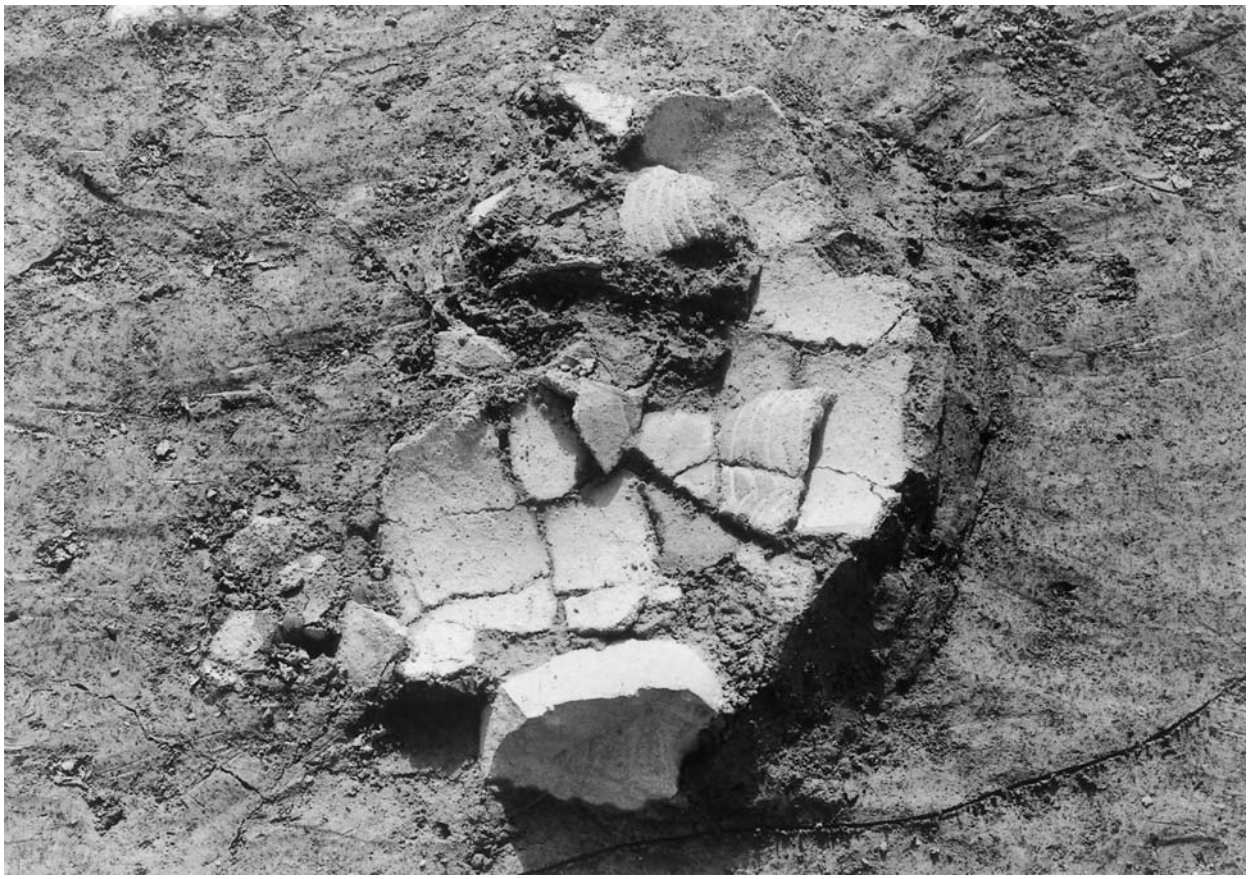
６次６区下層調査区全景（北西から）

６次７区下層調査区全景（南東から）

ＳＨ6197土器･石器出土状況（北西から）



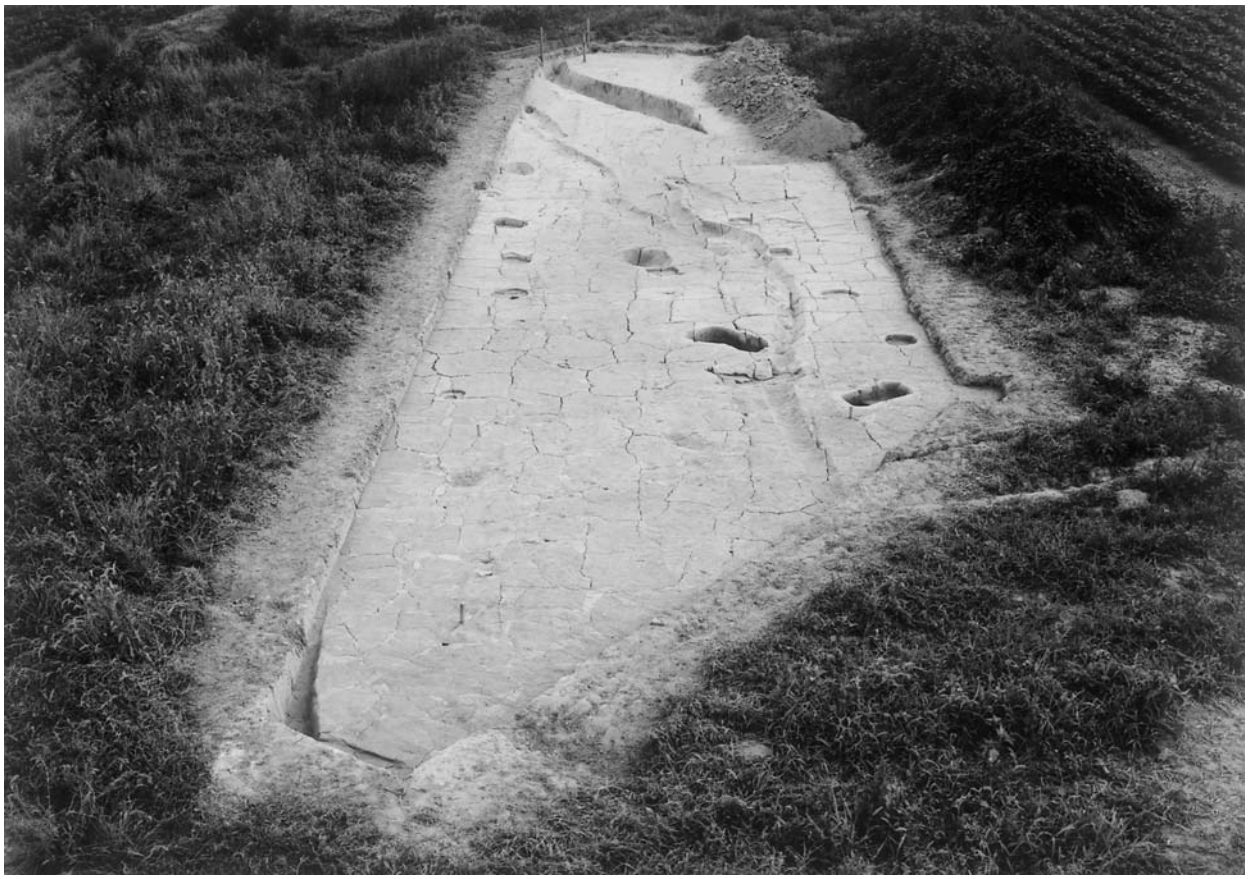
ＳＨ6197土器･石器出土状況（北東から）



ＳＨ6197土器出土状況（北から）

ＳＨ6197石器出土状況（北から）

６次８区調査区全景（南西から）



６次９区調査区全景（北東から）

６次10区調査区全景（北東から）

６次10区調査区全景（北東から）

６次10区調査区全景（北東から）

６次10区調査区全景（北東から）

６次11区調査区全景（北東から）

６次11区調査区全景（北西から）

６次11区調査区全景（南東から）

６次12区調査区全景（南西から）

７次１区調査区全景（南西から）

７次１区調査区全景（北東から）

７次２区調査区全景（北東から）

７次２区調査区全景（南西から）

７次３区調査区全景（南東から）

７次３区調査区全景（北西から）

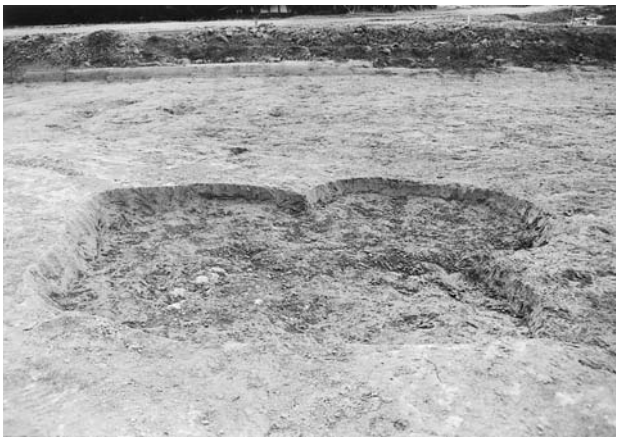
ＳＤ7001完掘状況（北西から）

ＳＥ7014半裁状況（南東から）

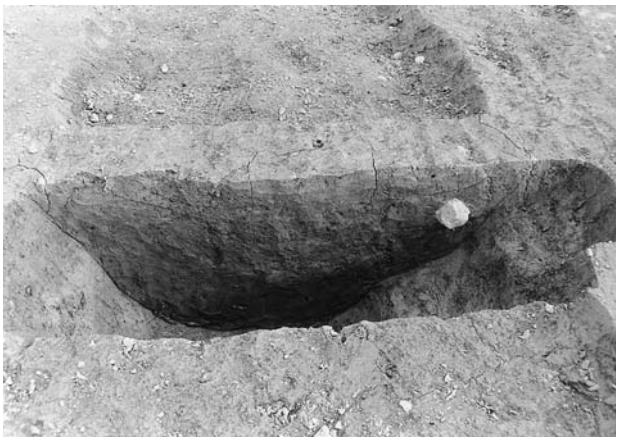
ＳＫ7010完掘状況（南西から）

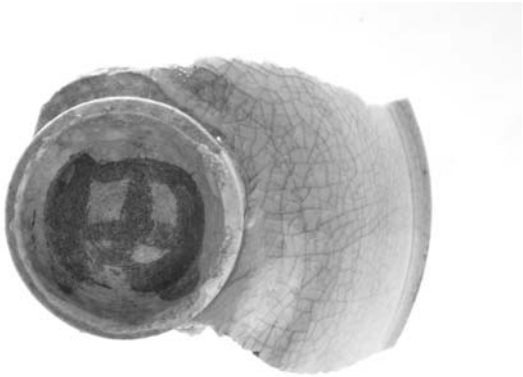
ＳＫ7015完掘状況（南西から）

ＳＫ7018掘削状況（北東から）


ＳＫ7023掘削状況（北から）

ＳＤ7019掘削状況（南東から）


ＳＤ7019土層断面状況（南東から）



2

9

11

209

210

228

232

266

279

280

290

434

451

557

584

590

614

623

629

630

638

643

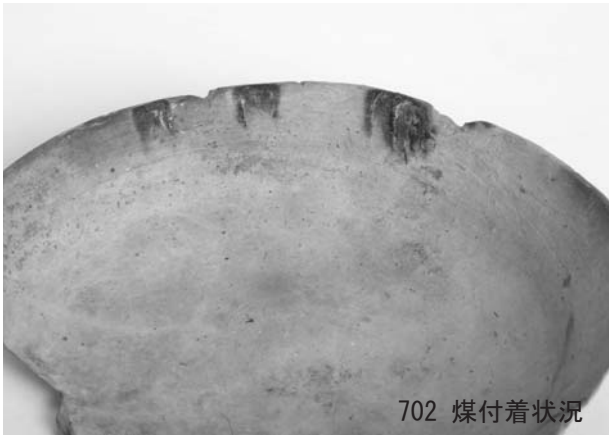
645

647

650

696

702



702 煤付着状況

735

735 線刻

736

738

739

739 内面

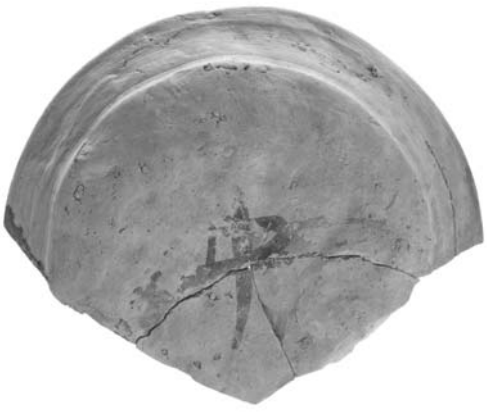
740

741

742

743

744



745

746

748

750

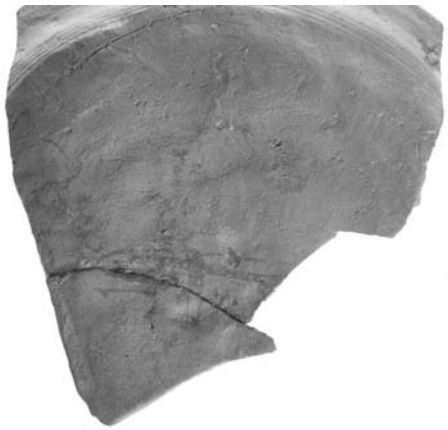
753

770

771

772

800



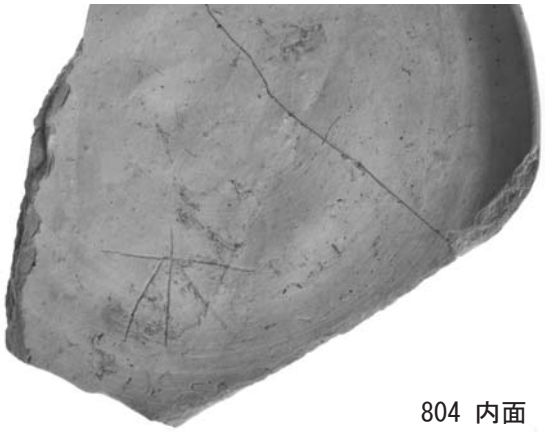
801

802

803

806

804



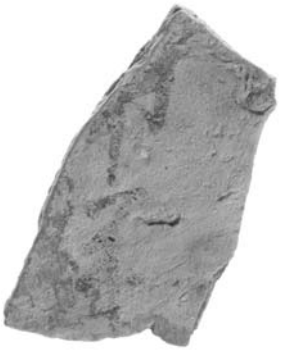
804 内面

807

809

816

817



819

840

841

841 内面

869

869 外面

878

889

893

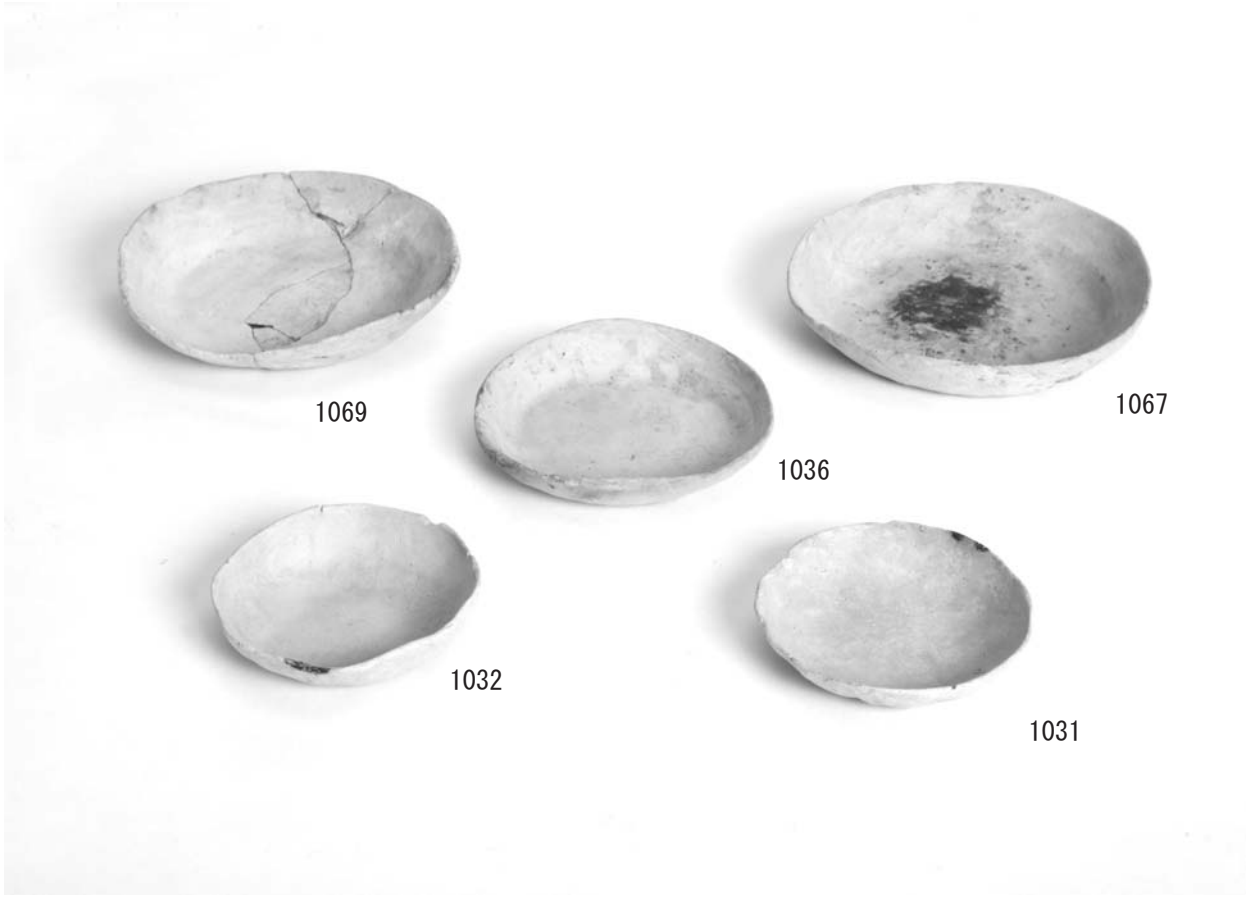
906

959

962

978

978 外面



1069

1067

1036

1032

1031

984

1085

1107

1113

1162

1178

1179

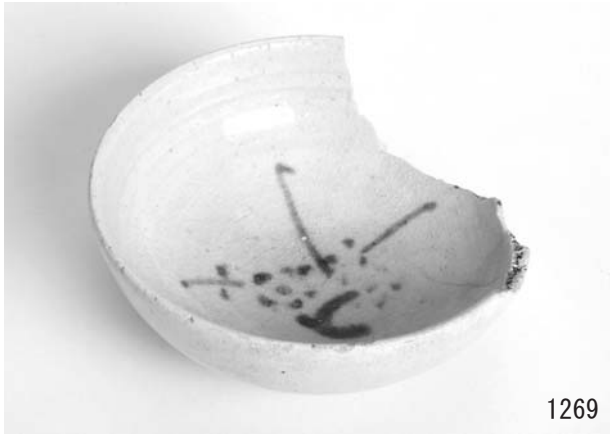
1184

1187

1257

1261

1268



1269

1269 墨書

1274

1285

1429

1313

1436

1443

1471

1472

1576

1578

1630

1647

1629

1631

1650

1651

1652

1658

1673

1674

1676

1676 墨書

1680

1680 墨書

1682

1715

1718

1752

1771

1820

1821

1823

1886

1888

1887

1889

1894

1891

1893

1895

1896

1904

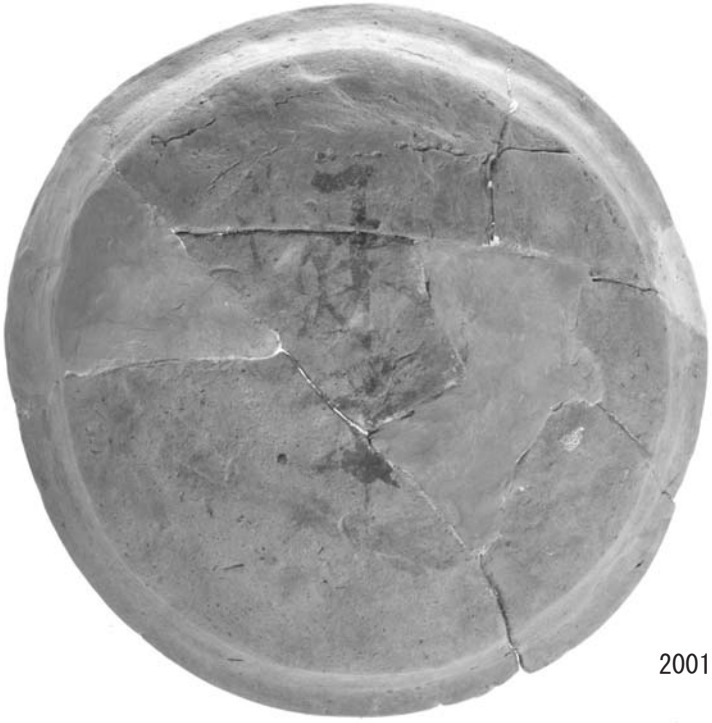
1919

1927

1982

1998

1999

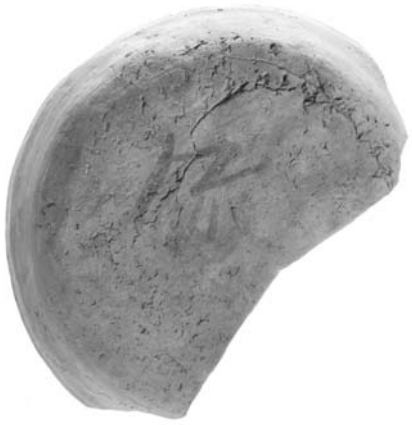


2001

2002

2004

2026



2028

2029

2030

2031

2046

2050

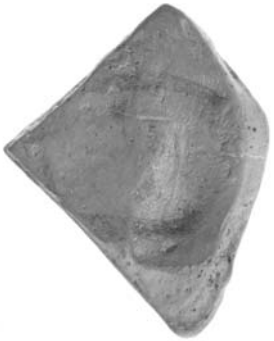
2054

2056

2057

2080

2083



2085

2087

2109

2116

2300

2322

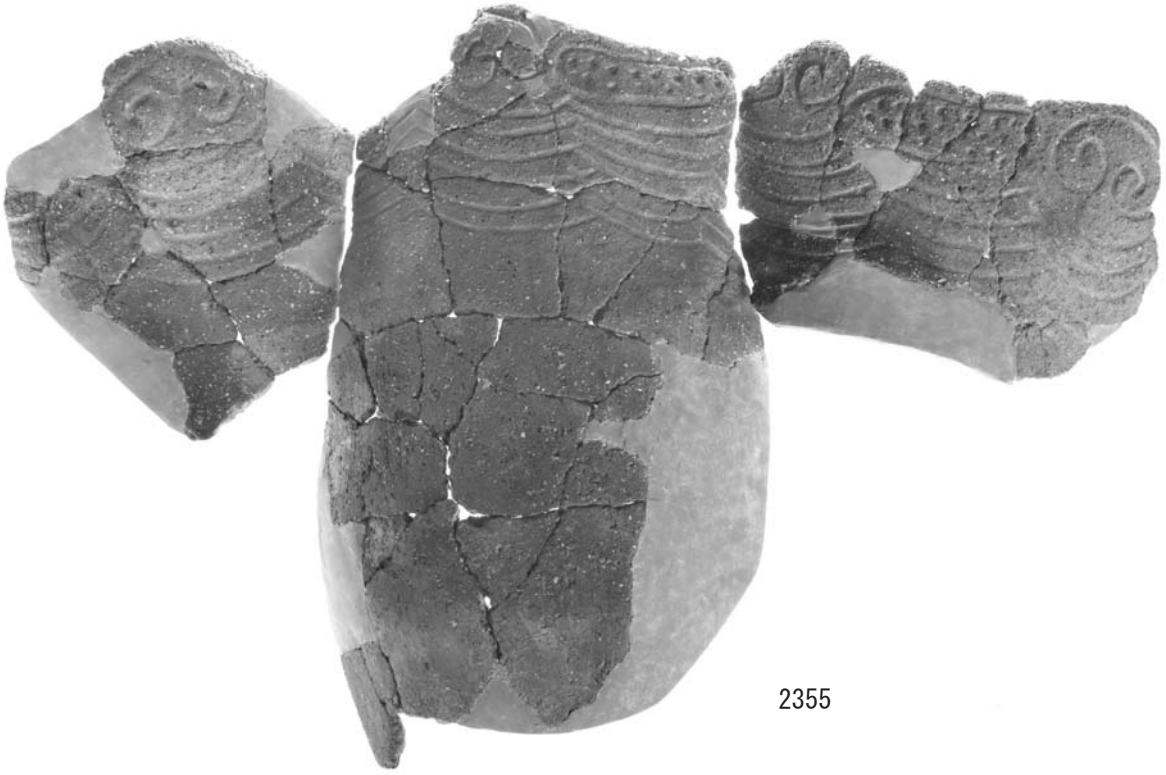
2324

2325

2343

2354

2356



2355

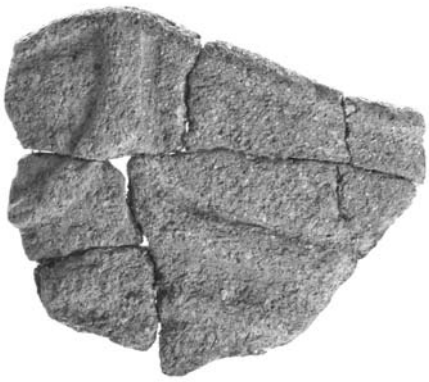
2359　2357

2358

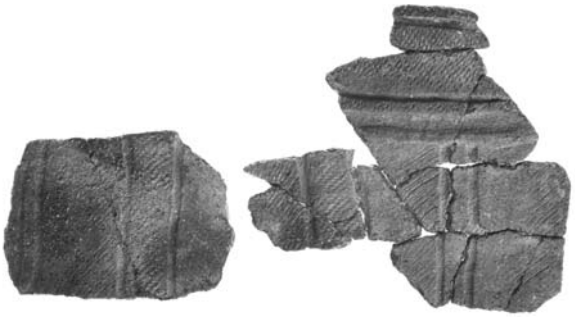
2360

2365

2364



2366

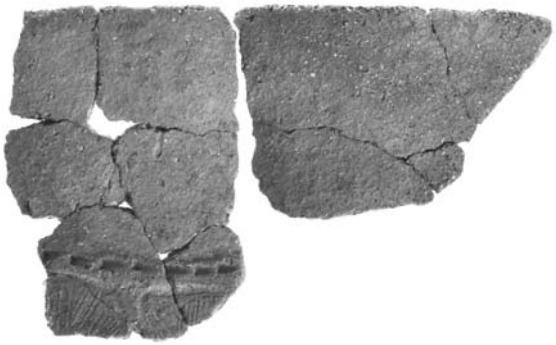


2367

2368

2370

2372



2373

2377

2375

2376

2380

2384

2390

2392

2385

2405

2406

2407

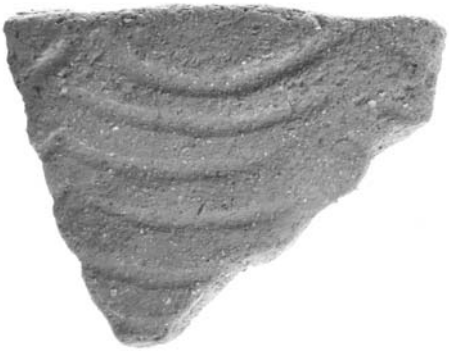
2412

2411

2413

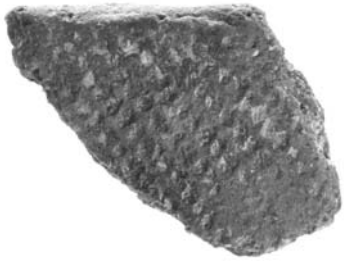
2414

2415



2419

2423



2425

2428

2429

2432

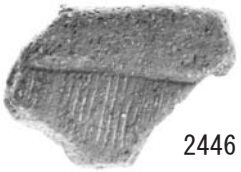
2436

2433

2441

2444

2440

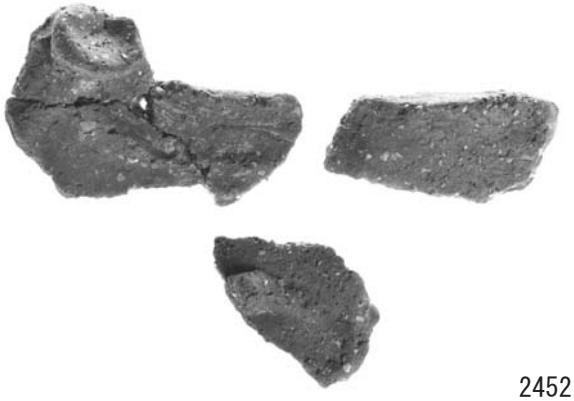


2446

2447

2448

2451



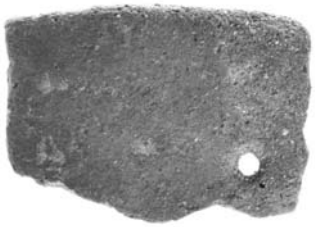
2452

2456

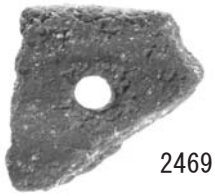
2458

2457

2467



2473



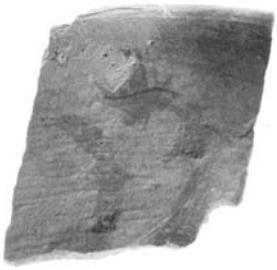
2469

2484

2485

2486

2502



2515

2527

2536

2539

2540

2542

2557

2570

2571

2572

2573

2575

2578

2577 上面

2577 下面

2580

2583

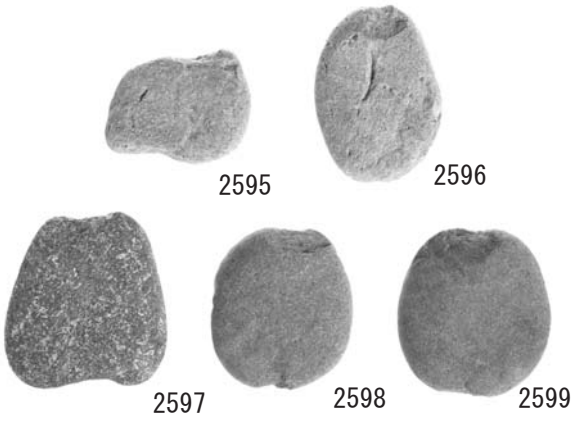
2584　2585　2586

2587

2590

2591

2593



2595　2596　2597　2598　2599

2601

2602

2604

2605

2606

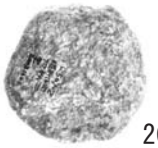
2607

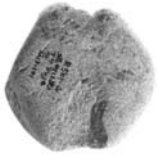
2608

2609

2610

2611


2612


2613

2614

2615

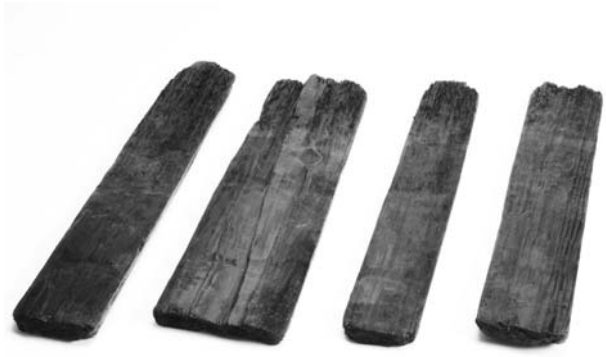
2616

2623

2617

2618

2619



2624　2625　2626　2627

2625 底部外面

2625 底部内面

2643　2641

2640

2642

2640 小口

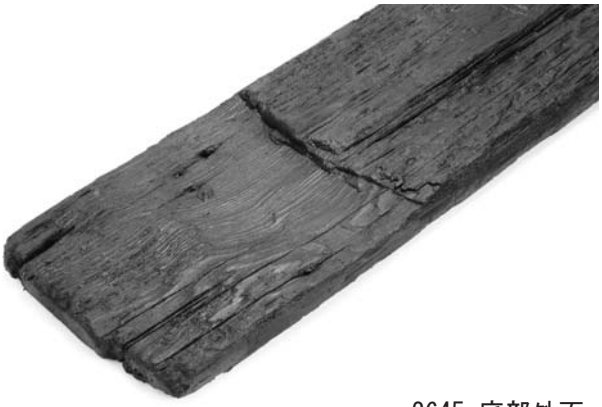
2644

2642 小口

2649 外面

2649 内面

2649 側面



2645 底部外面

2650 底部外面

2650 底部内面

2655 外面

2655 内面

2655 側面

2655 側面

2665 小口

2667 小口

2683 底部外面

2683 底部内面

2700 底部外面

2700 底部内面

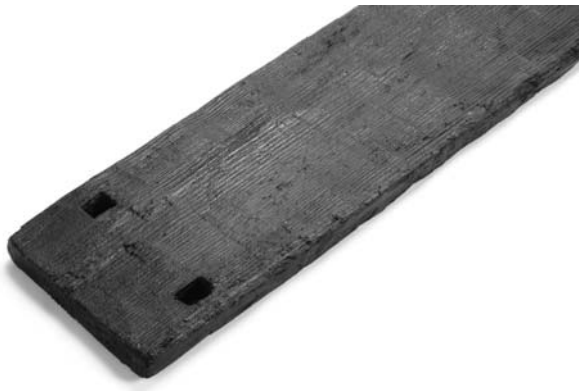
2702 底部外面

2702 底部内面

2715

2715 左側小口

2716 左側小口



2719 外面

2720

2720 左側小口

2720 右側小口

2722 左側小口

2731

2729

2732

2733

2734

2735

2736

2737

2738

2739

2740

2745

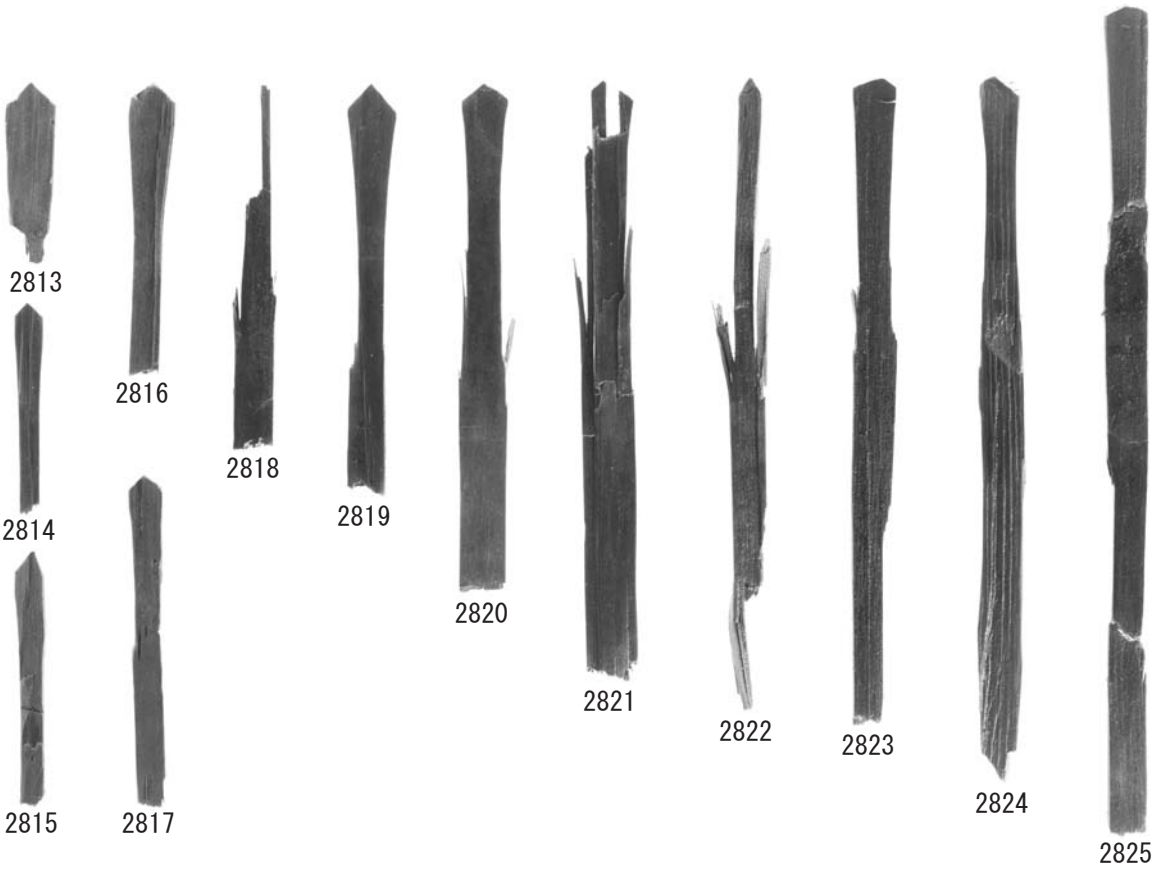
2746

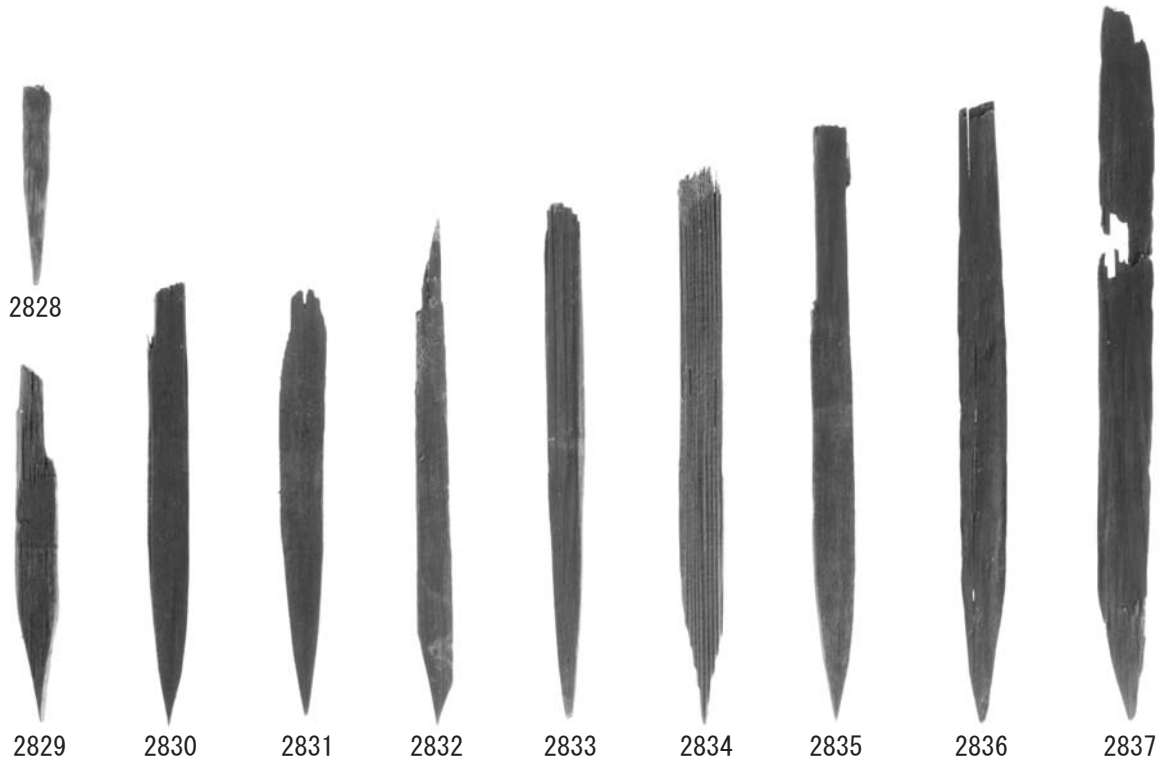
2801

2802

2810

2811


2813
2814
2815
2816
2817
2818
2819
2820
2821
2822
2823
2824
2825


2828
2829
2830
2831
2832
2833
2834
2835
2836
2837

2826　2838　2839　2840　2841　2843

2812　2845　2846　2848　2847

2849

2850

2851

2854

2855

2853

2861

2862

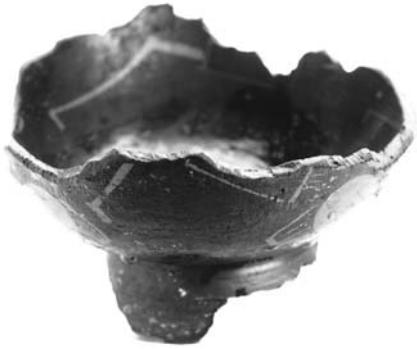
2863

2868

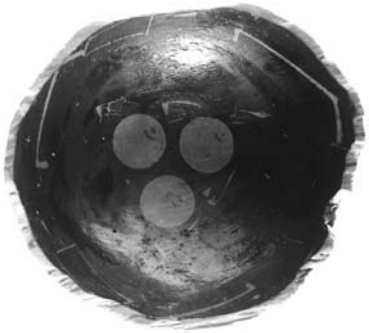
2869

2871

2872



2877



2877 内面

2880 上面

2880 下面

2881

2885

2886

2886 犂床

2886 犂身

2908 底部外面

2908 底部内面

2925 底部外面

2925 底部内面

2929 底部外面

2929 底部内面

2942 底部外面

2942 底部内面

2962 上部外面

2962 上部内面

2962 底部外面

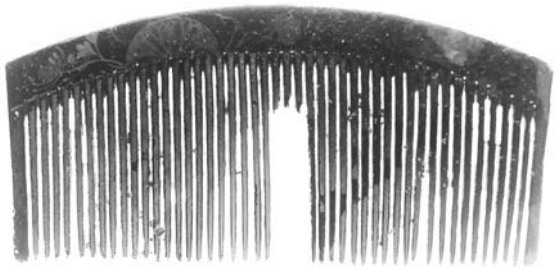
2962 底部内面

2998 底部外面

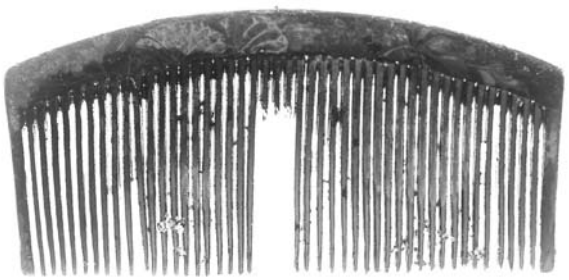
2998 底部内面

3019 底部外面

3019 底部内面

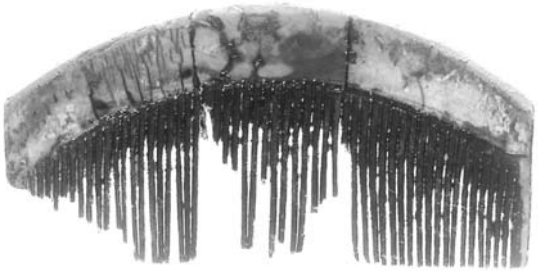


3020

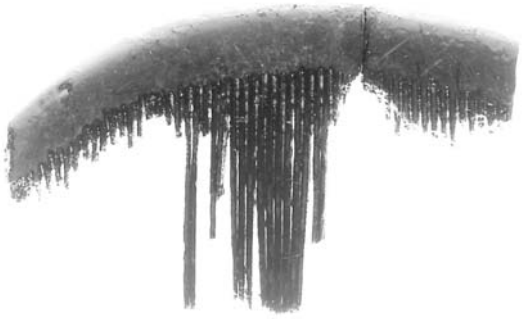


3020

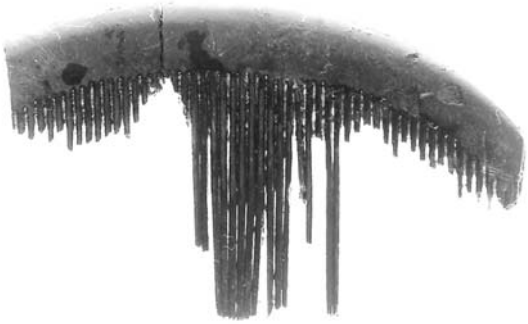
3021



3021

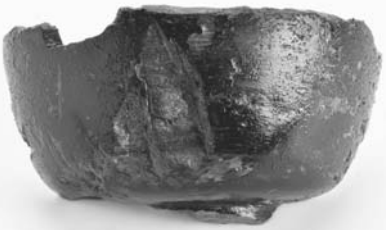


3022

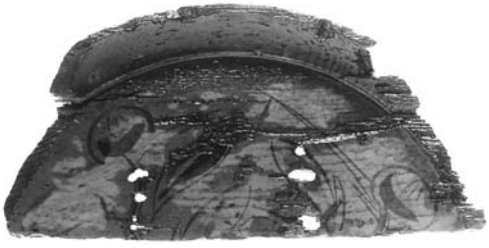


3022

3025



3028



3030

3031

3032

3032 台部

3033

3035

3036

3039

3040

3041

3042

3043

3044

3045

3046

3047

3048

3049

3050

3051

3052

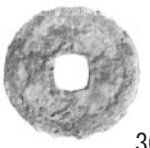
3053

3054

3087

3055

3056


3057

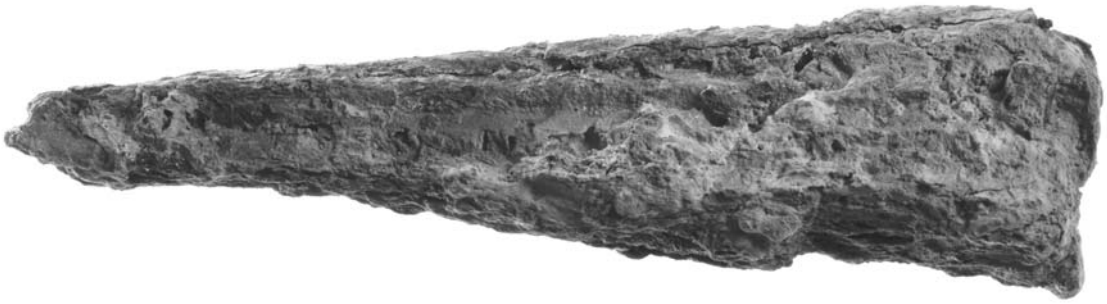
3058

3059

3060

3061

3062～3064（分離前）



3065～3069（分離前）

3078

3072

3073

3076

3077

3080

3081

3082

3083

3084

3085

3086

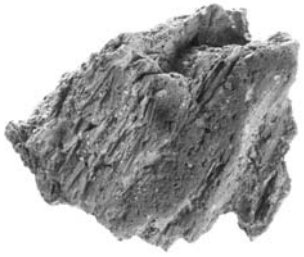
3088

3090

3089

3091

炉壁内面



炉壁外面

報 告 書 抄 録

ふ り が な	ほりまちいせき（だい６・７じ）はっくつちょうさほうこく
書　　名	堀町遺跡（第６・７次）発掘調査報告
副 書 名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	三重県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	３７８
編 著 者 名	石井智大、小原雄也
編 集 機 関	三重県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒515－0325　三重県多気郡明和町竹川503　TEL 0596（52）1732
発 行 年 月 日	2018(平成30)年３月16日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ほりまちいせき 堀町遺跡	まつさかしあさだちょう 松阪市朝田町	204	a 646	34度 34分 16秒	136度 33分 58秒	20130510 ～ 20140212 （第６次）	5,463㎡	平成25年度高度水利機能確保基盤整備事業（朝見上地区）
						20140917 ～ 20150120 （第７次）	720㎡	平成26年度経営体育成基盤整備事業（朝見上地区）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
堀町遺跡	集落跡	縄文～江戸	掘立柱建物・井戸・土坑・溝・自然流路	土器・陶磁器・石製品・金属製品・木製品	

要約

堀町遺跡は櫛田川左岸の低地に位置する。今回の調査では、縄文時代から近世の遺構・遺物が確認された。

第６次調査６・７区の下層では縄文時代中期末の遺物が集中的に確認され、竪穴建物の可能性もある落ち込みも検出された。第６次調査４区では縄文時代後期の土器も出土している。縄文時代に、低地の微高地上において活発な人間活動が行われていたことが判明したことは、今回の調査成果として特筆される。

飛鳥時代や奈良時代の遺構は希薄であるが、第５次調査と同様に、平安時代から室町時代にかけての井戸や溝などが多数検出され、多くの遺物が出土した。特に、平安時代の墨書土器が多く出土したことは、遺跡の性格を考える上で注目される。

また、今回の調査区は、現在の朝田集落の北縁部にあたり、朝田集落の前身である近世朝田村に関わると思われる近世の遺構・遺物も多く確認できた。二次的に被熱した陶磁器類が多く投棄された土坑もあり、江戸時代後期に集落内で火災が発生したことが窺われる。

三重県埋蔵文化財調査報告３７８

堀町遺跡（第６・７次）発掘調査報告

2018（平成30）年３月
編集・発行　三重県埋蔵文化財センター
印刷　共立印刷株式会社